埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第278集

熊　谷　市

北島遺跡Ⅴ

熊谷スポーツ文化公園建設事業関係
埋蔵文化財発掘調査報告書
－Ⅰ－
〈第１分冊〉

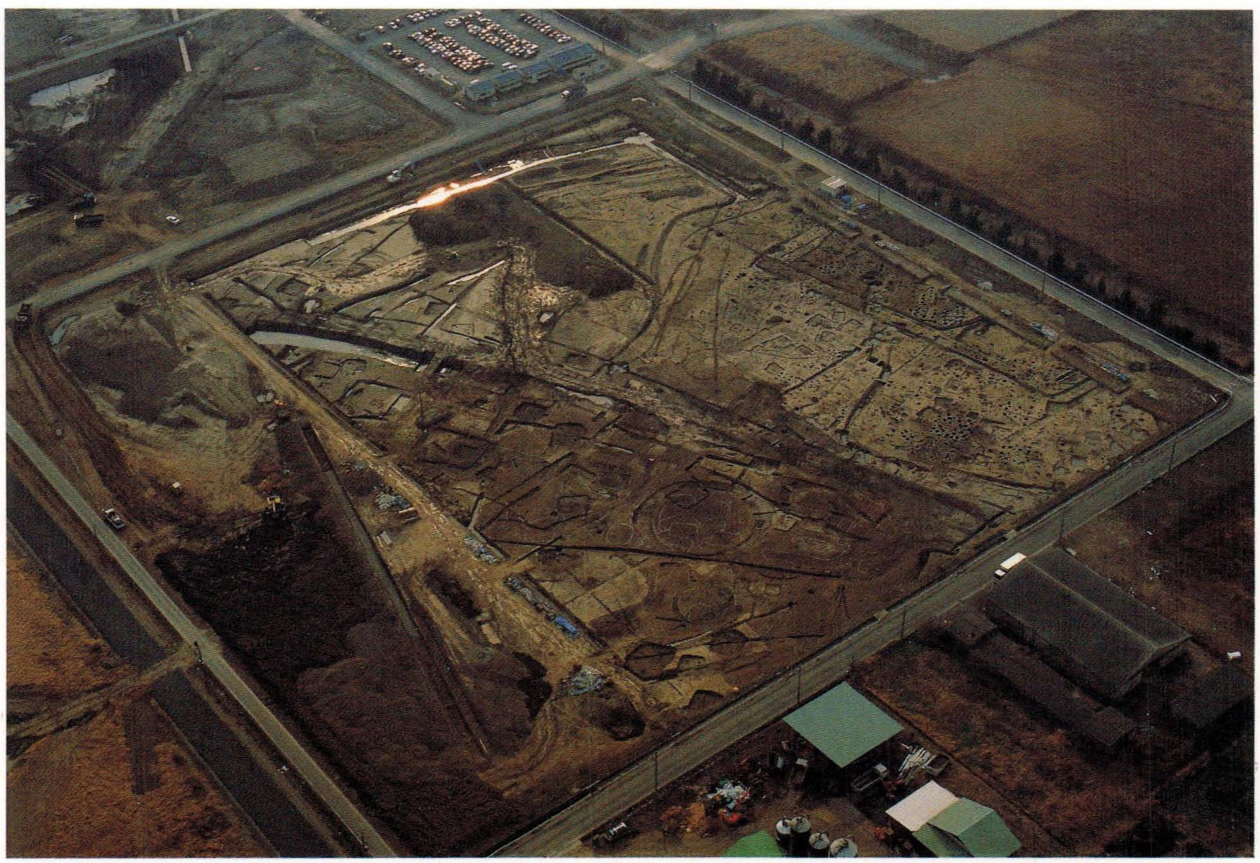
２００２

埼　　玉　　県
財団法人　埼玉県埋蔵文化財調査事業団

北島遺跡第19地点空中写真

北島遺跡第17・19地点空中写真

北島遺跡遠景



北島遺跡第19地点　北から

北島遺跡第19号地点　南から

灰釉陶器

緑釉陶器

第342図　6　灰釉陶器　皿

第471図　5　灰釉陶器　皿

第577図　7　灰釉陶器　皿

第577図　8　灰釉陶器　皿

第577図　10　灰釉陶器　皿

第684図　28　灰釉陶器　皿

第684図　30　灰釉陶器　皿

第692図　25　灰釉陶器　皿

第694図　1　灰釉陶器　皿

第708図　7　灰釉陶器　皿

第708図　11　灰釉陶器　皿

第713図　9　灰釉陶器　皿

性格不明遺構　灰釉陶器　皿

I－16C　灰釉陶器　皿

N－14　灰釉陶器　皿

N－15a　灰釉陶器　皿

N－16d　灰釉陶器　皿

表採　灰釉陶器　耳皿

第577図　1　灰釉陶器　塊

第577図　2　灰釉陶器　塊

第577図　5　灰釉陶器　埦

第593図　11　灰釉陶器　埦

第679図　4　灰釉陶器　埦

第684図　25　灰釉陶器　埦

第684図　26　灰釉陶器　埦

第684図　27　灰釉陶器　埦

第692図　22　灰釉陶器　埦

第713図　4　灰釉陶器　埦

第723図 5　灰釉陶器　埦

第726図　28　灰釉陶器　埦

第728図　18　灰釉陶器　埦

第779図　13　灰釉陶器　埦

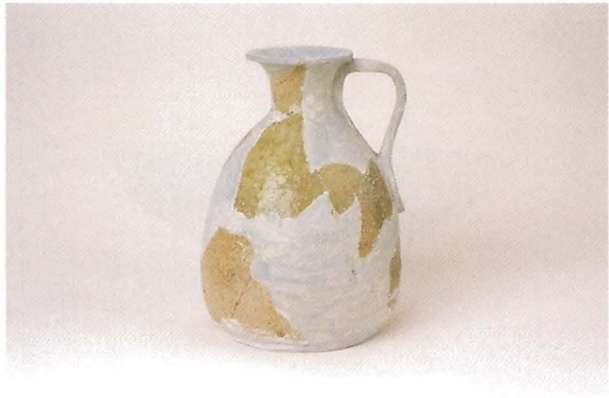
H－18d　灰釉陶器　埦

L－15d　灰釉陶器　埦

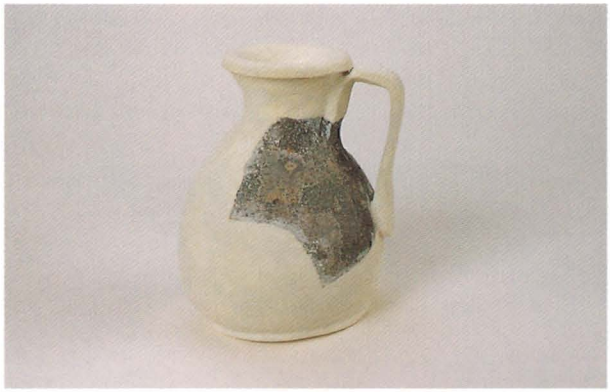
M－14a　灰釉陶器　埦

M－15　灰釉陶器　埦

O－15d　灰釉陶器　埦



第331図　1　灰釉陶器　手付瓶



第686図　11　灰釉陶器　手付瓶

第697図　14　灰釉陶器　手付瓶

第579図　3　灰釉陶器　長頸瓶

第723図　8　緑釉陶器　稜埦「篁」

第350図　8　緑釉陶器　皿

第351図　4　緑釉陶器　稜埦

第577図　20　緑釉陶器　稜埦

第685図　12　緑釉陶器　皿

第694図　7　緑釉陶器　稜皿

第720図　2　緑釉陶器　皿

M－14　緑釉陶器　稜埦

N－15　緑釉陶器　稜埦

第344図　22　緑釉陶器　稜埦

第351図　19　緑釉陶器　埦

第694図　11　緑釉陶器　稜埦

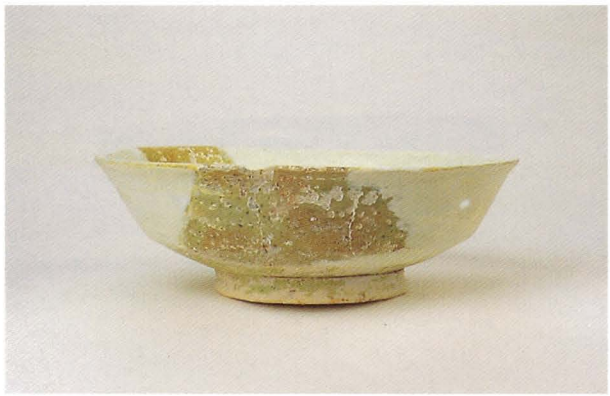
第685図　7　緑釉陶器　埦

第685図　9　緑釉陶器　稜埦

第685図　10　緑釉陶器　稜埦

第718図　37　緑釉陶器　稜埦

集石遺構　緑釉陶器　稜埦



第577図　19　緑釉陶器　稜埦

N－15　緑釉陶器　稜埦

第670図　12　緑釉陶器　手付瓶

第686図　10　緑釉陶器　手付瓶

緑釉陶器　陶片 1 外面

緑釉陶器　陶片 1 内面

緑釉陶器　陶片 2 外面

緑釉陶器　陶片 2 内面

緑釉陶器　陶片 3 外面

緑釉陶器　陶片 3 内面

緑釉陶器　陶片 4 外面

緑釉陶器　陶片 4 内面

緑釉陶器　陶片 5 外面

緑釉陶器　陶片 5 内面

緑釉陶器　陶片 6 外面

緑釉陶器　陶片 6 内面

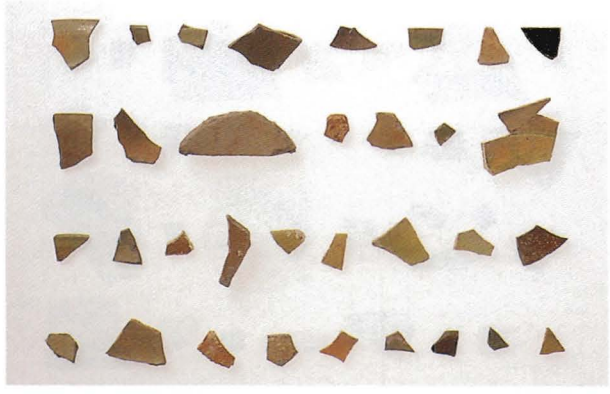
緑釉陶器　陶片 7 外面

緑釉陶器　陶片 7 内面

緑釉陶器　陶片 8 外面

緑釉陶器　陶片 8 内面

緑釉陶器　陶片 9 外面



緑釉陶器　陶片 9 内面

緑釉陶器　陶片10外面

緑釉陶器　陶片10内面

緑釉陶器　陶片11外面

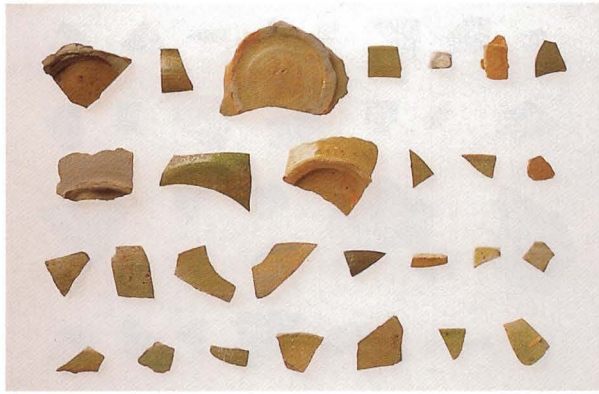
緑釉陶器　陶片11内面

緑釉陶器　陶片12外面

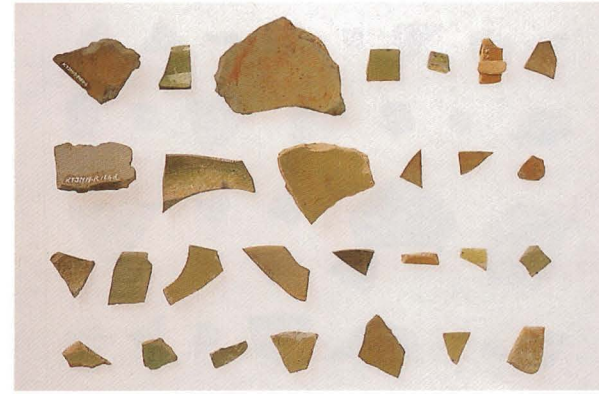
緑釉陶器　陶片12内面

緑釉陶器　陶片13外面

緑釉陶器　陶片13内面



緑釉陶器　陶片14外面



緑釉陶器　陶片14内面

第21号井戸跡出土土器

掘建柱建物３　26

発刊に寄せて

21世紀を迎えて、国際社会は新しい世界秩序への動き、地球的な規模での環境問題の顕在化、経済のグローバル化など今までにない新たなうねりが始まっています。

本県においても本格的な高齢社会の到来、厳しい国際競争下における産業構造の転換など大きな変化が起こりつつあります。

このような状況を踏まえ、本県では、変化に的確に対応し、県民一人ひとりが真の豊かさを実感できる「豊かな彩の国づくり」を実現するために、「環境優先」「生活重視」「埼玉の新しいくにづくり」を基本理念として、新しい時代にふさわしい、県民生活に密着した県政の運営に努めております。

こうした中で、現在「埼玉県長期ビジョン」においては、2010年を目標に県営公園の面積を平成７年度の倍増を指標の一つにかかげ、県民の皆様に親しみをもたれる緑豊かな公園の整備を積極的に推進しているところであります。

このたび、本県では、平成16年に第59回国民体育大会秋季大会「彩の国まごころ国体」が開催されることとなり、そのメイン会場として、熊谷スポーツ文化公園が活用されることとなりました。

この熊谷スポーツ文化公園は、全国レベルの公式試合が開催できるラグビー場を中心に、ソフトボール場、また、昭和63年に開催された「さいたま博覧会」を記念して「記念の森」等を整備し、平成３年４月にオープンしたところであります。今後は、国体のメイン会場地としての整備を進めるとともに、隣接する福祉施設「彩華園」と一体となった公園として、県民のスポーツ・文化・レクリエーションの拠点となるよう整備を進めてまいります。

熊谷市は、鎌倉時代に熊谷次郎直実を生んだ歴史と文化の街であります。このため、遺跡が市内各地に数多く存在しております。このことから、公共工事等に伴う発掘調査も数多く行われているところであります。

今回、この公園整備工事に先立って行われた発掘調査においては、弥生時代から奈良及び平安時代にいたる数多くの竪穴住居跡や土器等が発見されました。

この報告書は、その発掘調査の一部をまとめたものであります。今後、県民のみなさまの教育及び文化の向上のために、本書をご利用していただければ幸いであります。

平成14年３月

埼玉県知事　土屋義彦

序

「とどけ　この夢　この歓声」のスローガンを掲げた彩の国まごころ国体が、間近に迫ってまいりました。二順目となる第59回国民体育大会秋季大会は、熊谷市にある熊谷スポーツ文化公園をメイン会場として、開催される運びとなりました。

昭和63年に開催された「さいたま博覧会」以来、県北の拠点的都市公園として熊谷スポーツ文化公園は、整備が進められてまいりました。ところが、公園内の各施設の地中には、先人たちが残した貴重な文化財が豊富に眠っており、北島遺跡と名づけられています。

北島遺跡では、公園の整備工事に伴い今までに11次にわたる発掘調査が行われ、縄文時代から近世にいたるまで、多くの竪穴住居跡や土壙のほか、土器や石器などの貴重な遺物が発見されました。それらの成果は、すでに4冊の報告書として刊行されています。

このたびは、屋内体育館や陸上競技場、調節池などの建設に先立ち、関係機関が慎重に協議を重ねた結果、埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課の調整により、やむを得ず現状での保存が困難となる範囲について、埼玉県県土整備部の委託を受けて当事業団が、埋蔵文化財の記録保存のための発掘調査を行いました。

その結果、県内で最大級の弥生時代の集落をはじめとして、たくさんの埴輪をめぐらした古墳、古代豪族の家の跡、そして武蔵武士として活躍した熊谷次郎直実の頃の村の跡が明らかとなりました。この弥生時代から中世までのおびただしい情報は、埼玉県の歴史をより深く理解する上で大きな意味をもつものと思われます。

今回の報告では、奈良時代から平安時代にかけての村や豪族の家の跡について、県民の皆さまに貴重な資料を提供することができました。今後、学校教育の「総合的学習の時間」や公民館活動などの生涯学習の場において、発掘調査の成果を広く活用していただければ幸いです。

なお本書の刊行にあたり、発掘調査に関する諸調整に御尽力いただきました埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課をはじめ、県土整備部都市整備公園課、埼玉県北部公園建設事務所、熊谷市教育委員会ならびに地元関係各位に対し深く感謝申し上げます。

平成14年3月

財団法人　埼玉県埋蔵文化財調査事業団
理事長　中野健一

例言

1．本書は、埼玉県熊谷市に所在する北島遺跡の発掘調査報告書（第Ⅰ巻第１編）である。

本編では、北島遺跡第19地点の古代から近世にかけての主な遺構・遺物について記述した。

遺物包含層・遺物集中区・坑樋・水田・道路跡などの遺構や、木製品・骨・貝などの遺物、及び遺物写真図版は、第２編に掲載することとした。

なお今後の刊行計画は、以下の通りである。

第Ⅱ巻　北島遺跡第19地点　弥生時代編
第Ⅲ巻　北島遺跡第19地点　古墳時代前期編
第Ⅳ巻　北島遺跡第19地点・田谷遺跡　古墳編
第Ⅴ巻　北島遺跡17・18・20・21地点　水田編
第Ⅵ巻　北島遺跡17・21地点・田谷遺跡　集落編及び立会調査報告

また北島遺跡は、これまでに以下の報告書を当事業団から刊行している。

北島遺跡	事業団報告書第81集
北島遺跡Ⅱ	事業団報告書第88集
北島遺跡Ⅲ	事業団報告書第103集
北島遺跡Ⅳ	事業団報告書第195集

2．遺跡のコード番号と、各年度の発掘調査届に記した代表地番、およびこれに対する埼玉県教育長の指示通知は、以下のとおりである。

平成11年度
北島遺跡　第12次（59-058）
熊谷市大字上川上町田364他
平成11年４月16日付　教文第２－５号

平成12年度
北島遺跡　第15次（No.59-058）
熊谷市大字上川上323，192他
平成12年５月２日付　教文第２－３号

3．発掘調査は、熊谷市スポーツ文化公園建設事業に伴う記録保存のための事前調査であり、埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課が調整し、埼玉県北部公園事務所の委託を受け、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が実施した。

4．発掘調査事業は、第Ⅰ章－３に示す組織により実施した。このうち、本書にかかる第19地点の発掘事業については、平成11年４月１日から平成12年３月31日までを今井　宏、利根川章彦、若松良一、富田和夫、細田　勝、鈴木孝之、黒坂禎二、石井伸明、村田章人、吉田　稔、田中広明、福田聖、岩田明広、渡辺清志が担当し、平成12年４月１日から12月28日までを、小野美代子、赤熊浩一、宮井英一、鈴木孝之、大谷　徹、山本　靖、君島勝秀、福田　聖が担当した。

5．遺跡の基準点測量と航空写真は、株式会社シン技術コンサルに委託した。

6．掲載した遺構写真は各調査担当者が、遺物写真は大屋道則が撮影した。

7．出土品の整理および図版の作成は、兵ゆり子の協力を得て田中が行った。

8．本書の執筆は、第Ⅰ章－１を埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課が、その他を田中が行った。

9．本書の編集は、田中が行った。

10．本書にかかる諸資料は、平成14年度以降、埼玉県立埋蔵文化財センターが管理・保管する。

11．発掘調査から本書の刊行まで、下記の方々に御教示、御協力を賜った。記して謝意を表します。

浅野晴樹・井上尚明・金子正之・権田宜行・寺社下博・鈴木敏昭・高畑知功・鳥羽政之・白田正子・松田　哲・松村恵司・山崎　武・山中敏史・吉野　健（敬省略）

例 則

本書における挿図等の指示は、以下のとおりである。

1．全体図および遺構挿図

①ＸとＹで示した数値は、国家標準直角座標第IX系に基づく各座標値であり、方位を表わす矢印は全て座標北を示す。

第IX系の座標原点は北緯36度00分00秒、東経139度50分00秒で、原点座標値はＸ＝0.000ｍ、Ｙ＝0.000ｍである。（第１図参照）

②グリッドは上記の座標に基づき、10ｍ×10ｍの方眼を設定した。各グリッドの呼称は北西隅の杭を用い、北から南へアルファベット、西から東へ算用数字で表示している。

③遺構の表記記号は次のとおりである。

Ｐ…ピット　SA…柵列跡　SB…掘立柱建物跡
SD…溝跡　SE…井戸跡　SJ…住居跡
SK…土壙　SS…古墳　　SX…性格不明遺構

④挿図の縮尺は原則として次のとおりである。例外的なものについては、個別にスケールを示した。

遺構全測図・溝跡…１／200
住居跡・掘立柱建物跡・柵列跡・井戸跡・土壙・性格不明遺構・溝跡断面・ピット…１／80

⑤カマド付き住居跡の主軸は、カマドの付設された壁と直交する軸線とし、規模は主軸長×これと直交する軸長とした。また、主軸方向は、座標北を基点とし、これの東西に偏する角度を示した。

⑥土層図中のレベル数値は、すべて標高（単位ｍ）を表わす。

⑦土層図の説明文に用いた色調表示は、『新版標準土色帖』1997年版（農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色標監修）を基に通用表記とした。

⑧遺構一覧の時期は、掲載遺物の時期（覆土中遺物の時期）で表現した。

2．遺物挿図

①挿図の縮尺は原則として１／４とした。例外は、個別にスケールを示した。

②土器実測図の網かけは、緑釉（30％）・赤色塗彩（40％）・黒色処理（20％）・灰釉（10％）の範囲を示す。

③土器実測図の断面は、須恵器（還元・硬質）（100％）・灰釉陶器（30％）・緑釉陶器（50％）で表現した。

3．遺物観察表

①口径・器高・底径の計測値の単位はmmである。（　）を付した数値は、口径・底径については推定値、器高については残存高を示す。

②胎土は、本文中に記した基準に基づき、推定産地を記した。

③色調は、『新版標準土色帖』に基づき、通常表記を行った。

④残存率は５％刻みで表示した。あくまで目安としての大まかな目測である。

目 次

〈第 1 分冊〉

口絵
序
例言
例則
目次
Ⅰ　発掘調査の概要 …… 1
　1．発掘調査に至る経過 …… 1
　2．発掘調査・報告書作成の経過 …… 2
　3．発掘調査・整理・報告書刊行の組織 …… 4
Ⅱ　遺跡の立地と環境 …… 5
Ⅲ　遺跡の概要 …… 12
Ⅳ　遺構と遺物 …… 19
　1．竪穴住居跡 …… 59
　2．掘立柱建物跡 ……267
　3．井 戸 跡 ……351

〈第 2 分冊〉

　4．土　　壙 ……415
　5．溝　　跡 ……557
　6．小　　穴 ……739
　7．地 鎮 跡 ……806
Ⅴ　結　　語 ……807
写真図版

挿図目次

〈第 1 分冊〉

第 1 図　埼玉県の地形区分…… 5
第 2 図　北島遺跡周辺遺跡分布図…… 6
第 3 図　荒川扇状地と古代の遺跡(上)、利根川の東遷事業(下)…… 9
第 4 図　北島遺跡17・19地点周辺の条里型地割 … 13
第 5 図　北島遺跡のこれまでの調査区…… 15
第 6 図　北島遺跡第19地点全体図…… 17
第 7 図　北島遺跡第19地点グリッド網図…… 18
第 8 図　遺構全体図の区割図…… 19
第 9 図　遺構全体図(1)…… 23
第 10 図　遺構全体図(2)…… 24
第 11 図　遺構全体図(3)…… 25
第 12 図　遺構全体図(4)…… 26
第 13 図　遺構全体図(5)…… 27
第 14 図　遺構全体図(6)…… 28
第 15 図　遺構全体図(7)…… 29
第 16 図　遺構全体図(8)…… 30
第 17 図　遺構全体図(9)…… 31
第 18 図　遺構全体図(10)…… 32
第 19 図　遺構全体図(11)…… 33
第 20 図　遺構全体図(12)…… 34
第 21 図　遺構全体図(13)…… 35
第 22 図　遺構全体図(14)…… 36
第 23 図　遺構全体図(15)…… 37
第 24 図　遺構全体図(16)…… 38
第 25 図　遺構全体図(17)…… 39
第 26 図　遺構全体図(18)…… 40
第 27 図　遺構全体図(19)…… 41
第 28 図　遺構全体図(20)…… 42
第 29 図　遺構全体図(21)…… 43

第 30 図　遺構全体図(22)…… 44
第 31 図　遺構全体図(23)…… 45
第 32 図　遺構全体図(24)…… 46
第 33 図　遺構全体図(25)…… 47
第 34 図　遺構全体図(26)…… 48
第 35 図　遺構全体図(27)…… 49
第 36 図　遺構全体図(28)…… 50
第 37 図　遺構全体図(29)…… 51
第 38 図　遺構全体図(30)…… 52
第 39 図　遺構全体図(31)…… 53
第 40 図　遺構全体図(32)…… 54
第 41 図　遺構全体図(33)…… 55
第 42 図　遺構全体図(34)…… 56
第 43 図　遺構全体図(35)…… 57
第 44 図　遺構全体図(36)…… 58
第 45 図　竪穴住居跡全体図…… 59
第 46 図　竪穴住居跡・カマド模式図…… 60
第 47 図　竪穴住居跡全体図区割図…… 61
第 48 図　竪穴住居跡全体図(1)…… 62
第 49 図　竪穴住居跡全体図(2)…… 63
第 50 図　竪穴住居跡全体図(3)…… 64
第 51 図　竪穴住居跡全体図(4)…… 65
第 52 図　竪穴住居跡全体図(5)…… 66
第 53 図　竪穴住居跡全体図(6)…… 67
第 54 図　竪穴住居跡全体図(7)…… 68
第 55 図　竪穴住居跡全体図(8)…… 69
第 56 図　竪穴住居跡全体図(9)…… 70
第 57 図　竪穴住居跡全体図(10)…… 71
第 58 図　竪穴住居跡全体図(11)…… 72
第 59 図　竪穴住居跡全体図(12)…… 73
第 60 図　竪穴住居跡全体図(13)…… 74
第 61 図　竪穴住居跡全体図(14)…… 75
第 62 図　竪穴住居跡全体図(15)…… 76
第 63 図　竪穴住居跡全体図(16)…… 77
第 64 図　竪穴住居跡全体図(17)…… 78
第 65 図　第 3 号住居跡遺物出土位置…… 84
第 66 図　第 3 号住居跡覆土中遺物データ…… 84
第 67 図　第 6 号住居跡遺物出土位置…… 84
第 68 図　竪穴住居跡(1)…… 85
第 69 図　第 6 号住居跡覆土中遺物データ…… 86
第 70 図　第 7 号住居跡覆土中遺物データ…… 86
第 71 図　第 8 号住居跡覆土中遺物データ…… 86
第 72 図　第10号住居跡覆土中遺物データ…… 86
第 73 図　第10号住居跡遺物出土位置…… 86
第 74 図　竪穴住居跡(2)…… 87
第 75 図　第11号住居跡覆土中遺物データ…… 88
第 76 図　第12号住居跡覆土中遺物データ…… 88
第 77 図　第14号住居跡覆土中遺物データ…… 88
第 78 図　第15号住居跡覆土中遺物データ…… 88
第 79 図　第15号住居跡遺物出土位置…… 88
第 80 図　竪穴住居跡(3)…… 89
第 81 図　第16号住居跡覆土中遺物データ…… 90
第 82 図　第17号住居跡覆土中遺物データ…… 90
第 83 図　第18号住居跡覆土中遺物データ…… 90
第 84 図　第18号住居跡遺物出土位置…… 90
第 85 図　竪穴住居跡(4)…… 91
第 86 図　第19号住居跡覆土中遺物データ…… 92
第 87 図　第20号住居跡覆土中遺物データ…… 92
第 88 図　第21号住居跡覆土中遺物データ…… 92
第 89 図　第21号住居跡遺物出土位置…… 92
第 90 図　竪穴住居跡(5)…… 93
第 91 図　第22号住居跡覆土中遺物データ…… 94
第 92 図　第23号住居跡覆土中遺物データ…… 94
第 93 図　第23号住居跡遺物出土位置…… 94
第 94 図　第24号住居跡覆土中遺物データ…… 94
第 95 図　第25号住居跡覆土中遺物データ…… 94
第 96 図　竪穴住居跡(6)…… 95
第 97 図　第26号住居跡覆土中遺物データ…… 96
第 98 図　第26号住居跡遺物出土位置…… 96
第 99 図　第27号住居跡覆土中遺物データ…… 96
第100図　第27号住居跡遺物出土位置…… 96
第101図　第28号住居跡覆土中遺物データ…… 96
第102図　竪穴住居跡(7)…… 97
第103図　第28号住居跡遺物出土位置…… 98

第104図　第30号住居跡覆土中遺物データ…… 98
第105図　第31号住居跡覆土中遺物データ…… 98
第106図　第32号住居跡覆土中遺物データ…… 98
第107図　竪穴住居跡(8)…… 99
第108図　第34号住居跡覆土中遺物データ……100
第109図　第35号住居跡覆土中遺物データ……100
第110図　第36号住居跡覆土中遺物データ……100
第111図　第36号住居跡遺物出土位置……100
第112図　第37号住居跡覆土中遺物データ……101
第113図　第37号住居跡遺物出土位置……101
第114図　第38号住居跡覆土中遺物データ……101
第115図　第39号住居跡覆土中遺物データ……101
第116図　第40号住居跡覆土中遺物データ……102
第117図　第40号住居跡遺物出土位置……102
第118図　第41号住居跡覆土中遺物データ……102
第119図　第42号住居跡覆土中遺物データ……102
第120図　第42号住居跡遺物出土位置……102
第121図　竪穴住居跡(9)……103
第122図　第43号住居跡覆土中遺物データ……104
第123図　第43号住居跡遺物出土位置……104
第124図　竪穴住居跡(10)……105
第125図　第44号住居跡覆土中遺物データ……106
第126図　第44号住居跡遺物出土位置……106
第127図　第45号住居跡覆土中遺物データ……106
第128図　竪穴住居跡(11)……107
第129図　第47号住居跡覆土中遺物データ……108
第130図　第47号住居跡遺物出土位置……108
第131図　第48号住居跡覆土中遺物データ……108
第132図　第49号住居跡覆土中遺物データ……108
第133図　第49号住居跡遺物出土位置……108
第134図　竪穴住居跡(12)……109
第135図　第50号住居跡覆土中遺物データ……110
第136図　第52号住居跡覆土中遺物データ……110
第137図　第53号住居跡覆土中遺物データ……110
第138図　第53号住居跡遺物出土位置……110
第139図　竪穴住居跡(13)……111
第140図　第54号住居跡覆土中遺物データ……112
第141図　第54号住居跡遺物出土位置……112
第142図　第55号住居跡覆土中遺物データ……112
第143図　第56号住居跡覆土中遺物データ……112
第144図　第57号住居跡覆土中遺物データ……112
第145図　第58号住居跡覆土中遺物データ……113
第146図　第58号住居跡遺物出土位置……113
第147図　第59号住居跡覆土中遺物データ……113
第148図　第59号住居跡遺物出土位置……114
第149図　第60号住居跡覆土中遺物データ……114
第150図　第61号住居跡覆土中遺物データ……114
第151図　第61号住居跡遺物出土位置……114
第152図　竪穴住居跡(14)……115
第153図　第62号住居跡覆土中遺物データ……116
第154図　第62号住居跡遺物出土位置……116
第155図　第63号住居跡覆土中遺物データ……116
第156図　第63号住居跡遺物出土位置……116
第157図　第64号住居跡覆土中遺物データ……116
第158図　竪穴住居跡(15)……117
第159図　第65号住居跡覆土中遺物データ……118
第160図　第65号住居跡遺物出土位置……118
第161図　第66号住居跡覆土中遺物データ……118
第162図　第66号住居跡遺物出土位置……118
第163図　第67号住居跡覆土中遺物データ……119
第164図　第67号住居跡遺物出土位置……119
第165図　第68号住居跡覆土中遺物データ……119
第166図　第69号住居跡覆土中遺物データ……119
第167図　第70号住居跡覆土中遺物データ……120
第168図　第71号住居跡遺物出土位置……120
第169図　第71号住居跡覆土中遺物データ……120
第170図　第72号住居跡覆土中遺物データ……120
第171図　竪穴住居跡(16)……121
第172図　第73号住居跡覆土中遺物データ……122
第173図　第73号住居跡遺物出土位置……122
第174図　第74号住居跡覆土中遺物データ……122
第175図　第74号住居跡遺物出土位置……122
第176図　第75号住居跡覆土中遺物データ……122
第177図　竪穴住居跡(17)……123

第178図　第76号住居跡覆土中遺物データ……124
第179図　第76号住居跡遺物出土位置……124
第180図　第77号住居跡覆土中遺物データ……124
第181図　第77号住居跡遺物出土位置……124
第182図　第82号住居跡覆土中遺物データ……125
第183図　第82号住居跡遺物出土位置……125
第184図　第86号住居跡遺物出土位置……126
第185図　第86号住居跡覆土中遺物データ……126
第186図　竪穴住居跡(18)……127
第187図　第87号住居跡覆土中遺物データ……128
第188図　第88号住居跡覆土中遺物データ……128
第189図　第89号住居跡覆土中遺物データ……128
第190図　第89号住居跡遺物出土位置……128
第191図　竪穴住居跡(19)……129
第192図　第90号住居跡遺物出土位置……130
第193図　第90号住居跡覆土中遺物データ……130
第194図　竪穴住居跡(20)……131
第195図　第94号住居跡覆土中遺物データ……132
第196図　第96号住居跡覆土中遺物データ……132
第197図　第97号住居跡覆土中遺物データ……132
第198図　竪穴住居跡(21)……133
第199図　第98号住居跡覆土中遺物データ……134
第200図　第99号住居跡遺物出土位置……134
第201図　第99号住居跡覆土中遺物データ……134
第202図　第100号住居跡覆土中遺物データ……134
第203図　竪穴住居跡(22)……135
第204図　第101号住居跡覆土中遺物データ……136
第205図　第102号住居跡遺物出土位置……136
第206図　第102号住居跡覆土中遺物データ……136
第207図　第103号住居跡覆土中遺物データ……136
第208図　竪穴住居跡(23)……137
第209図　第104号住居跡覆土中遺物データ……138
第210図　第105号住居跡覆土中遺物データ……138
第211図　第106号住居跡覆土中遺物データ……138
第212図　第107号住居跡覆土中遺物データ……139
第213図　第108号住居跡覆土中遺物データ……139
第214図　第109号住居跡遺物出土位置……139
第215図　第109号住居跡覆土中遺物データ……140
第216図　第110号住居跡覆土中遺物データ……140
第217図　第111号住居跡覆土中遺物データ……140
第218図　第111号住居跡遺物出土位置……140
第219図　竪穴住居跡(24)……141
第220図　第112号住居跡覆土中遺物データ……142
第221図　第113号住居跡覆土中遺物データ……142
第222図　第114号住居跡覆土中遺物データ……142
第223図　第114号住居跡遺物出土位置……142
第224図　竪穴住居跡(25)……143
第225図　第115号住居跡覆土中遺物データ……144
第226図　第116号住居跡遺物出土位置……144
第227図　第116号住居跡覆土中遺物データ……144
第228図　第117号住居跡遺物出土位置……144
第229図　竪穴住居跡(26)……145
第230図　第118号住居跡覆土中遺物データ……146
第231図　第119号住居跡覆土中遺物データ……146
第232図　第120号住居跡覆土中遺物データ……146
第233図　第120号住居跡遺物出土位置……146
第234図　第121号住居跡覆土中遺物データ……147
第235図　第124号住居跡覆土中遺物データ……147
第236図　第125号住居跡覆土中遺物データ……148
第237図　第126号住居跡覆土中遺物データ……148
第238図　第127号住居跡覆土中遺物データ……148
第239図　第127号住居跡遺物出土位置……148
第240図　竪穴住居跡(27)……149
第241図　第129号住居跡覆土中遺物データ……150
第242図　第130号住居跡覆土中遺物データ……150
第243図　第131号住居跡覆土中遺物データ……150
第244図　竪穴住居跡(28)……151
第245図　第132号住居跡覆土中遺物データ……152
第246図　第132号住居跡遺物出土位置……152
第247図　第134号住居跡遺物出土位置……152
第248図　竪穴住居跡(29)……153
第249図　第135号住居跡覆土中遺物データ……154
第250図　第136号住居跡覆土中遺物データ……154
第251図　第138号住居跡覆土中遺物データ……154

第252図　竪穴住居跡(30)……155
第253図　第141号住居跡覆土中遺物データ ……156
第254図　第141号住居跡遺物出土位置 ……156
第255図　第142号住居跡覆土中遺物データ ……156
第256図　第142号住居跡遺物出土位置 ……156
第257図　竪穴住居跡(31)……157
第258図　第143号住居跡遺物出土位置 ……158
第259図　第144号住居跡覆土中遺物データ ……158
第260図　第145号住居跡遺物出土位置 ……158
第261図　竪穴住居跡(32)……159
第262図　第145号住居跡覆土中遺物データ ……160
第263図　第146号住居跡覆土中遺物データ ……160
第264図　第147号住居跡覆土中遺物データ ……160
第265図　第148号住居跡覆土中遺物データ ……160
第266図　第149号住居跡覆土中遺物データ ……161
第267図　第149号住居跡遺物出土位置 ……161
第268図　第150号住居跡覆土中遺物データ ……161
第269図　第151号住居跡遺物出土位置 ……162
第270図　第151号住居跡覆土中遺物データ ……162
第271図　第152号住居跡覆土中遺物データ ……162
第272図　竪穴住居跡(33)……163
第273図　第153号住居跡覆土中遺物データ ……164
第274図　第153号住居跡遺物出土位置 ……164
第275図　第155号住居跡覆土中遺物データ ……164
第276図　第155号住居跡遺物出土位置 ……164
第277図　竪穴住居跡(34)……165
第278図　第156号住居跡覆土中遺物データ ……166
第279図　第157号住居跡覆土中遺物データ ……166
第280図　第157号住居跡遺物出土位置 ……166
第281図　第158号住居跡覆土中遺物データ ……166
第282図　第158号住居跡遺物出土位置 ……167
第283図　第159号住居跡遺物出土位置 ……167
第284図　第159号住居跡覆土中遺物データ ……167
第285図　第161号住居跡覆土中遺物データ ……167
第286図　第162号住居跡覆土中遺物データ ……168
第287図　第163号住居跡覆土中遺物データ ……168
第288図　第164号住居跡覆土中遺物データ ……168
第289図　竪穴住居跡(35)……169
第290図　第164号住居跡遺物出土位置 ……170
第291図　第166号住居跡覆土中遺物データ ……170
第292図　第167号住居跡覆土中遺物データ ……170
第293図　第167号住居跡遺物出土位置 ……170
第294図　竪穴住居跡(36)……171
第295図　第168号住居跡覆土中遺物データ ……172
第296図　第170号住居跡覆土中遺物データ ……172
第297図　第172号住居跡覆土中遺物データ ……172
第298図　竪穴住居跡(37)……173
第299図　第172号住居跡遺物出土位置 ……174
第300図　第174号住居跡覆土中遺物データ ……174
第301図　第175号住居跡覆土中遺物データ ……174
第302図　竪穴住居跡(38)……175
第303図　第177号住居跡覆土中遺物データ ……176
第304図　第178号住居跡覆土中遺物データ ……176
第305図　第178号住居跡遺物出土位置 ……176
第306図　第179号住居跡覆土中遺物データ ……177
第307図　第181号住居跡覆土中遺物データ ……177
第308図　第181号住居跡遺物出土位置 ……177
第309図　第183号住居跡覆土中遺物データ ……178
第310図　第183号住居跡遺物出土位置 ……178
第311図　第184号住居跡覆土中遺物データ ……178
第312図　竪穴住居跡(39)……179
第313図　第184号住居跡遺物出土位置 ……180
第314図　第185号住居跡覆土中遺物データ ……180
第315図　第185号住居跡遺物出土位置 ……180
第316図　第186号住居跡覆土中遺物データ ……180
第317図　第186号住居跡遺物出土位置 ……180
第318図　竪穴住居跡(40)……181
第319図　第187号住居跡覆土中遺物データ ……182
第320図　第188号住居跡覆土中遺物データ ……182
第321図　第188号住居跡遺物出土位置 ……182
第322図　第189号住居跡覆土中遺物データ ……182
第323図　第190号住居跡覆土中遺物データ ……182
第324図　竪穴住居跡出土遺物(1)……185
第325図　竪穴住居跡出土遺物(2)……187

第326図　竪穴住居跡出土遺物(3)……189
第327図　竪穴住居跡出土遺物(4)……191
第328図　竪穴住居跡出土遺物(5)……193
第329図　竪穴住居跡出土遺物(6)……197
第330図　竪穴住居跡出土遺物(7)……199
第331図　竪穴住居跡出土遺物(8)……201
第332図　竪穴住居跡出土遺物(9)……203
第333図　竪穴住居跡出土遺物(10)……205
第334図　竪穴住居跡出土遺物(11)……207
第335図　竪穴住居跡出土遺物(12)……209
第336図　竪穴住居跡出土遺物(13)……211
第337図　竪穴住居跡出土遺物(14)……213
第338図　竪穴住居跡出土遺物(15)……215
第339図　竪穴住居跡出土遺物(16)……217
第340図　竪穴住居跡出土遺物(17)……219
第341図　竪穴住居跡出土遺物(18)……221
第342図　竪穴住居跡出土遺物(19)……223
第343図　竪穴住居跡出土遺物(20)……225
第344図　竪穴住居跡出土遺物(21)……227
第345図　竪穴住居跡出土遺物(22)……231
第346図　竪穴住居跡出土遺物(23)……233
第347図　竪穴住居跡出土遺物(24)……235
第348図　竪穴住居跡出土遺物(25)……237
第349図　竪穴住居跡出土遺物(26)……239
第350図　竪穴住居跡出土遺物(27)……241
第351図　竪穴住居跡出土遺物(28)……243
第352図　竪穴住居跡出土遺物(29)……245
第353図　竪穴住居跡出土遺物(30)……247
第354図　掘立柱建物跡全体図……267
第355図　掘立柱建物跡全体区割図……268
第356図　掘立柱建物跡全体図(1)……269
第357図　掘立柱建物跡全体図(2)……270
第358図　掘立柱建物跡全体図(3)……271
第359図　掘立柱建物跡全体図(4)……272
第360図　掘立柱建物跡全体図(5)……273
第361図　掘立柱建物跡全体図(6)……274
第362図　掘立柱建物跡全体図(7)……275
第363図　掘立柱建物跡全体図(8)……276
第364図　掘立柱建物跡全体図(9)……277
第365図　掘立柱建物跡全体図(10)……278
第366図　掘立柱建物跡全体図(11)……279
第367図　掘立柱建物跡全体図(12)……280
第368図　掘立柱建物跡全体図(13)……281
第369図　掘立柱建物跡(1)……285
第370図　掘立柱建物跡(2)……286
第371図　掘立柱建物跡(3)……287
第372図　掘立柱建物跡(4)……288
第373図　掘立柱建物跡(5)……289
第374図　掘立柱建物跡(6)……290
第375図　掘立柱建物跡(7)……291
第376図　掘立柱建物跡(8)……291
第377図　掘立柱建物跡(9)……293
第378図　掘立柱建物跡(10)……294
第379図　掘立柱建物跡(11)……295
第380図　掘立柱建物跡(12)……296
第381図　掘立柱建物跡(13)……297
第382図　掘立柱建物跡(14)……298
第383図　掘立柱建物跡(15)……299
第384図　掘立柱建物跡(16)……300
第385図　掘立柱建物跡(17)……301
第386図　掘立柱建物跡(18)……302
第387図　掘立柱建物跡(19)……303
第388図　掘立柱建物跡(20)……304
第389図　掘立柱建物跡(21)……305
第390図　掘立柱建物跡(22)……306
第391図　掘立柱建物跡(23)……307
第392図　掘立柱建物跡(24)……308
第393図　掘立柱建物跡(25)……309
第394図　掘立柱建物跡(26)……310
第395図　掘立柱建物跡(27)……311
第396図　掘立柱建物跡(28)……312
第397図　掘立柱建物跡(29)……313
第398図　掘立柱建物跡(30)……314
第399図　掘立柱建物跡(31)……315

第400図　掘立柱建物跡(32)……316
第401図　掘立柱建物跡(33)……317
第402図　掘立柱建物跡(34)……318
第403図　掘立柱建物跡(35)……319
第404図　掘立柱建物跡(36)……320
第405図　掘立柱建物跡(37)……320
第406図　掘立柱建物跡(38)……321
第407図　掘立柱建物跡(39)……323
第408図　掘立柱建物跡(40)……324
第409図　掘立柱建物跡(41)……325
第410図　掘立柱建物跡(42)……326
第411図　掘立柱建物跡(43)……327
第412図　掘立柱建物跡(44)……328
第413図　掘立柱建物跡(45)……329
第414図　掘立柱建物跡(46)……330
第415図　掘立柱建物跡(47)……331
第416図　掘立柱建物跡(48)……332
第417図　掘立柱建物跡(49)……333
第418図　掘立柱建物跡(50)……334
第419図　掘立柱建物跡(51)……335
第420図　掘立柱建物跡(52)……336
第421図　掘立柱建物跡(53)……337
第422図　掘立柱建物跡出土遺物(1)……339
第423図　掘立柱建物跡出土遺物(2)……341
第424図　掘立柱建物跡出土遺物(3)……343
第425図　掘立柱建物跡出土遺物(4)……345
第426図　掘立柱建物跡出土遺物(5)……346
第427図　井戸跡全体図……351
第428図　井戸跡全体区割図……352
第429図　井戸跡全体図(1)……353
第430図　井戸跡全体図(2)……354
第431図　井戸跡全体図(3)……355
第432図　井戸跡全体図(4)……356
第433図　井戸跡全体図(5)……357
第434図　井戸跡全体図(6)……358
第435図　井戸跡全体図(7)……359
第436図　井戸跡全体図(8)……360
第437図　井戸跡全体図(9)……361
第438図　井戸跡全体図(10)……362
第439図　井戸跡全体図(11)……363
第440図　井戸跡全体図(12)……364
第441図　井戸跡全体図(13)……365
第442図　井戸跡全体図(14)……366
第443図　井戸跡全体図(15)……367
第444図　井戸跡全体図(16)……368
第445図　井戸跡全体図(17)……369
第446図　井戸跡(1)……373
第447図　第12号井戸跡覆土中遺物データ……374
第448図　第16号井戸跡覆土中遺物データ……374
第449図　井戸跡(2)……375
第450図　第21号井戸跡覆土中遺物データ……376
第451図　第25号井戸跡覆土中遺物データ……376
第452図　井戸跡(3)……377
第453図　第42号井戸跡覆土中遺物データ……379
第454図　井戸跡(4)……381
第455図　第55号井戸跡覆土中遺物データ……382
第456図　井戸跡(5)……383
第457図　井戸跡(6)……385
第458図　第79号井戸跡覆土中遺物データ……386
第459図　井戸跡(7)……387
第460図　第85号井戸跡覆土中遺物データ……388
第461図　井戸跡(8)……389
第462図　井戸跡(9)……390
第463図　井戸跡出土遺物(1)……393
第464図　井戸跡出土遺物(2)……394
第465図　井戸跡出土遺物(3)……395
第466図　井戸跡出土遺物(4)……397
第467図　井戸跡出土遺物(5)……399
第468図　井戸跡出土遺物(6)……401
第469図　井戸跡出土遺物(7)……403
第470図　井戸跡出土遺物(8)……405
第471図　井戸跡出土遺物(9)……407
第472図　土壙全体図……415
第473図　円形土壙の大きさ……416

第474図　楕円形土壙の大きさ……416
第475図　長楕円形土壙の大きさ……416
第476図　方形土壙の大きさ……417
第477図　長方形土壙の大きさ……417
第478図　土壙全体区割図……417
第479図　土壙全体図(1)……418
第480図　土壙全体図(2)……419
第481図　土壙全体図(3)……420
第482図　土壙全体図(4)……421
第483図　土壙全体図(5)……422
第484図　土壙全体図(6)……423
第485図　土壙全体図(7)……424
第486図　土壙全体図(8)……425
第487図　土壙全体図(9)……426
第488図　土壙全体図(10)……427
第489図　土壙全体図(11)……428
第490図　土壙全体図(12)……429
第491図　土壙全体図(13)……430
第492図　土壙全体図(14)……431
第493図　土壙全体図(15)……432
第494図　土壙全体図(16)……433
第495図　土壙全体図(17)……434
第496図　土壙全体図(18)……435
第497図　土壙全体図(19)……436
第498図　土壙全体図(20)……437
第499図　土壙全体図(21)……438
第500図　土壙全体図(22)……439
第501図　土壙全体図(23)……440
第502図　土壙全体図(24)……441
第503図　土壙全体図(25)……442
第504図　土壙全体図(26)……443
第505図　土壙全体図(27)……444
第506図　土壙全体図(28)……445
第507図　土壙全体図(29)……446
第508図　土壙全体図(30)……447
第509図　土壙全体図(31)……448
第510図　不整形土壙の大きさ……459
第511図　第56号土壙遺物出土位置……459
第512図　第75号土壙遺物出土位置……459
第513図　第83号土壙覆土中遺物データ……459
第514図　第91号土壙遺物出土位置……459
第515図　第118号土壙遺物出土位置 ……460
第516図　第123号土壙覆土中遺物データ ……460
第517図　第144号土壙遺物出土位置 ……460
第518図　第144号土壙覆土中遺物データ ……460
第519図　第147号土壙覆土中遺物データ ……460
第520図　第149号土壙覆土中遺物データ ……460
第521図　第160号土壙覆土中遺物データ ……461
第522図　第181号土壙遺物出土位置 ……461
第523図　第184号土壙遺物出土位置 ……461
第524図　第184号土壙覆土中遺物データ ……461
第525図　第189号土壙覆土中遺物データ ……462
第526図　第200号土壙覆土中遺物データ ……462
第527図　第221号土壙覆土中遺物データ ……462
第528図　第223号土壙覆土中遺物データ ……462
第529図　第234号土壙覆土中遺物データ ……463
第530図　第236号土壙覆土中遺物データ ……463
第531図　第240号土壙覆土中遺物データ ……463
第532図　第249号土壙遺物出土位置 ……463
第533図　第279号土壙覆土中遺物データ ……464
第534図　第279号土壙遺物出土位置 ……464
第535図　第285号土壙覆土中遺物データ ……464
第536図　第299号土壙覆土中遺物データ ……464
第537図　第299号土壙遺物出土位置 ……464
第538図　第369号土壙遺物出土位置 ……464
第539図　土壙(1)……465
第540図　土壙(2)……466
第541図　土壙(3)……467
第542図　土壙(4)……468
第543図　土壙(5)……469
第544図　土壙(6)……470
第545図　土壙(7)……471
第546図　土壙(8)……472
第547図　土壙(9)……473

第548図　土壙(10)……474
第549図　土壙(11)……475
第550図　土壙(12)……476
第551図　土壙(13)……477
第552図　土壙(14)……478
第553図　土壙(15)……479
第554図　土壙(16)……480
第555図　土壙(17)……481
第556図　土壙(18)……482
第557図　土壙(19)……483
第558図　土壙(20)……484
第559図　土壙(21)……485
第560図　土壙(22)……486
第561図　土壙(23)……487
第562図　土壙(24)……488
第563図　土壙(25)……489
第564図　土壙(26)……490
第565図　土壙(27)……491
第566図　土壙(28)……492
第567図　土壙(29)……493
第568図　土壙(30)……494
第569図　土壙出土遺物(1)……495
第570図　土壙出土遺物(2)……497
第571図　土壙出土遺物(3)……501
第572図　土壙出土遺物(4)……503
第573図　土壙出土遺物(5)……505
第574図　土壙出土遺物(6)……507
第575図　土壙出土遺物(7)……508
第576図　土壙出土遺物(8)……509
第577図　土壙出土遺物(9)……510
第578図　土壙出土遺物(10)……511
第579図　土壙出土遺物(11)……512
第580図　土壙出土遺物(12)……513
第581図　土壙出土遺物(13)……515
第582図　土壙出土遺物(14)……517
第583図　土壙出土遺物(15)……519
第584図　土壙出土遺物(16)……521
第585図　土壙出土遺物(17)……522
第586図　土壙出土遺物(18)……523
第587図　土壙出土遺物(19)……525
第588図　土壙出土遺物(20)……527
第589図　土壙出土遺物(21)……528
第590図　土壙出土遺物(22)……529
第591図　土壙出土遺物(23)……531
第592図　土壙出土遺物(24)……533
第593図　土壙出土遺物(25)……537
第594図　土壙出土遺物(26)……539
第595図　土壙出土遺物(27)……541
第596図　溝跡全体図……557
第597図　溝跡全体区割図……559
第598図　溝跡全体図(1)……560
第599図　溝跡全体図(2)……562
第600図　溝跡(2)土層断面図……563
第601図　溝跡全体図(3)……564
第602図　溝跡(3)土層断面図……565
第603図　溝跡全体図(4)……566
第604図　溝跡(4)土層断面図……567
第605図　溝跡全体図(5)……568
第606図　溝跡(5)土層断面図……569
第607図　溝跡全体図(6)……570
第608図　溝跡(6)土層断面図……571
第609図　溝跡全体図(7)……572
第610図　溝跡(7)土層断面図……573
第611図　溝跡全体図(8)……574
第612図　溝跡(8)土層断面図……575
第613図　溝跡全体図(9)……576
第614図　溝跡(9)土層断面図……577
第615図　溝跡全体図(10)……578
第616図　溝跡(10)土層断面図……579
第617図　溝跡全体図(11)……580
第618図　溝跡(11)土層断面図……581
第619図　溝跡全体図(12)……582
第620図　溝跡(12)土層断面図……583
第621図　溝跡全体図(13)……584

第622図　溝跡(13)土層断面図……585
第623図　溝跡全体図(14)……586
第624図　溝跡(14)土層断面図……587
第625図　溝跡全体図(15)……588
第626図　溝跡(15)土層断面図……589
第627図　溝跡全体図(16)……590
第628図　溝跡(16)土層断面図……591
第629図　溝跡全体図(17)……592
第630図　溝跡(17)土層断面図……593
第631図　溝跡全体図(18)……594
第632図　溝跡(18)土層断面図……595
第633図　溝跡全体図(19)……596
第634図　溝跡(19)土層断面図……597
第635図　溝跡全体図(20)……598
第636図　溝跡(20)土層断面図……599
第637図　溝跡全体図(21)……600
第638図　溝跡(21)土層断面図……601
第639図　溝跡全体図(22)……602
第640図　溝跡(22)土層断面図……603
第641図　溝跡全体図(23)……604
第642図　溝跡(23)土層断面図……605
第643図　溝跡全体図(24)……606
第644図　溝跡(24)土層断面図……607
第645図　溝跡全体図(25)……608
第646図　溝跡全体図(26)……610
第647図　溝跡(25)土層断面図……611
第648図　溝跡(26)土層断面図……611
第649図　溝跡全体図(27)……612
第650図　溝跡(27)土層断面図……613
第651図　溝跡全体図(28)……614
第652図　溝跡(28)土層断面図……615
第653図　溝跡全体図(29)……616
第654図　溝跡(29)土層断面図……617
第655図　溝跡全体図(30)……618
第656図　溝跡全体図(31)……619
第657図　溝跡全体図(32)……620
第658図　溝跡(32)土層断面図……621
第659図　溝跡全体図(33)……622
第660図　溝跡全体図(34)……623
第661図　溝跡全体図(35)……624
第662図　溝跡(34)土層断面図……625
第663図　溝跡(35)土層断面図……625
第664図　溝跡全体図(36)……626
第665図　溝跡全体図(37)……628
第666図　溝跡全体図(38)……630
第667図　溝跡(38)土層断面図……630
第668図　溝跡出土遺物(1)……631
第669図　溝跡出土遺物(2)……633
第670図　第25号溝跡覆土中遺物データ……634
第671図　溝跡出土遺物(3)……635
第672図　溝跡出土遺物(4)……637
第673図　溝跡出土遺物(5)……639
第674図　溝跡出土遺物(6)……640
第675図　溝跡出土遺物(7)……641
第676図　第37号溝跡覆土中遺物データ……642
第677図　溝跡出土遺物(8)……643
第678図　溝跡出土遺物(9)……645
第679図　溝跡出土遺物(10)……647
第680図　溝跡出土遺物(11)……649
第681図　溝跡出土遺物(12)……651
第682図　溝跡出土遺物(13)……652
第683図　溝跡出土遺物(14)……653
第684図　第87号溝跡覆土中遺物データ……654
第685図　溝跡出土遺物(15)……655
第686図　溝跡出土遺物(16)……656
第687図　溝跡出土遺物(17)……657
第688図　溝跡出土遺物(18)……658
第689図　溝跡出土遺物(19)……659
第690図　溝跡出土遺物(20)……661
第691図　溝跡出土遺物(21)……663
第692図　第90号溝跡覆土中遺物データ……664
第693図　溝跡出土遺物(22)……665
第694図　第95号溝跡覆土中遺物データ……666
第695図　第117号溝跡覆土中遺物データ　……666

第696図　溝跡出土遺物(23)……667
第697図　溝跡出土遺物(24)……668
第698図　溝跡出土遺物(25)……669
第699図　第125号溝跡覆土中遺物データ……670
第700図　溝跡出土遺物(26)……671
第701図　溝跡出土遺物(27)……673
第702図　第151号溝跡覆土中遺物データ……674
第703図　第152号溝跡覆土中遺物データ……674
第704図　溝跡出土遺物(28)……677
第705図　溝跡出土遺物(29)……679
第706図　第199号溝跡覆土中遺物データ……680
第707図　溝跡出土遺物(30)……681
第708図　溝跡出土遺物(31)……682
第709図　溝跡出土遺物(32)……683
第710図　溝跡出土遺物(33)……685
第711図　第206号溝跡覆土中遺物データ……686
第712図　溝跡出土遺物(34)……687
第713図　第225-1号溝跡覆土中遺物データ……688
第714図　第225-2号溝跡覆土中遺物データ……688
第715図　溝跡出土遺物(35)……689
第716図　第233号溝跡覆土中遺物データ……690
第717図　溝跡出土遺物(36)……691
第718図　第234号溝跡覆土中遺物データ……692
第719図　溝跡出土遺物(37)……693
第720図　第239号溝跡覆土中遺物データ……694
第721図　溝跡出土遺物(38)……695
第722図　溝跡出土遺物(39)……699
第723図　第316号溝跡覆土中遺物データ……700
第724図　第318号溝跡覆土中遺物データ……700
第725図　溝跡出土遺物(40)……701
第726図　溝跡出土遺物(41)……703
第727図　溝跡出土遺物(42)……705
第728図　第325号溝跡覆土中遺物データ……706
第729図　溝跡出土遺物(43)……707
第730図　溝跡出土遺物(44)……709
第731図　道路跡出土遺物……710
第732図　小穴全体図……739
第733図　小穴全体図区割図……740
第734図　小穴全体図(1)……741
第735図　小穴全体図(2)……742
第736図　小穴全体図(3)……743
第737図　小穴全体図(4)……744
第738図　小穴全体図(5)……745
第739図　小穴全体図(6)……746
第740図　小穴全体図(7)……747
第741図　小穴全体図(8)……748
第742図　小穴全体図(9)……749
第743図　小穴全体図(10)……750
第744図　小穴全体図(11)……751
第745図　小穴全体図(12)……752
第746図　小穴全体図(13)……753
第747図　小穴全体図(14)……754
第748図　小穴全体図(15)……755
第749図　小穴全体図(16)……756
第750図　小穴全体図(17)……757
第751図　小穴全体図(18)……758
第752図　小穴全体図(19)……759
第753図　小穴全体図(20)……760
第754図　小穴全体図(21)……761
第755図　小穴全体図(22)……762
第756図　小穴全体図(23)……763
第757図　小穴全体図(24)……764
第758図　小穴全体図(25)……765
第759図　小穴全体図(26)……766
第760図　小穴全体図(27)……767
第761図　小穴全体図(28)……768
第762図　小穴全体図(29)……769
第763図　小穴全体図(30)……770
第764図　小穴全体図(31)……771
第765図　小穴全体図(32)……772
第766図　小穴全体図(33)……773
第767図　小穴全体図(34)……774
第768図　小穴全体図(35)……775
第769図　小穴出土遺物(1)……777

第770図　小穴出土遺物(2)……779
第771図　小穴出土遺物(3)……781
第772図　小穴出土遺物(4)……783
第773図　小穴出土遺物(5)……785
第774図　小穴出土遺物(6)……787
第775図　小穴出土遺物(7)……791
第776図　小穴出土遺物(8)……793
第777図　小穴出土遺物(9)……795
第778図　小穴出土遺物(10)……797
第779図　小穴出土遺物(11)……798
第780図　地鎮跡及び出土遺物……806
第781図　これまでの調査区全体図……807
第782図　埼玉県東部の７世紀前半の集落……808
第783図　７世紀前半の北島遺跡19地点……809
第784図　埼玉県東部の７世紀後半の集落……810
第785図　７世紀後半の北島遺跡19地点……811
第786図　埼玉県東部の８世紀前半の集落……812
第787図　８世紀前半の北島遺跡19地点……813
第788図　埼玉県東部の８世紀後半の集落……814
第789図　８世紀後半の北島遺跡19地点……815
第790図　埼玉県東部の９世紀前半の集落……816
第791図　９世紀前半の北島遺跡19地点……817
第792図　埼玉県東部の９世紀後半の集落……818
第793図　９世紀後半の北島遺跡19地点……819
第794図　埼玉県東部の10世紀前半の集落……820
第795図　10世紀前半の北島遺跡19地点……821
第796図　埼玉県東部の10世紀後半の集落……822
第797図　10世紀後半の北島遺跡19地点……823
第798図　埼玉県東部の11世紀の集落……824
第799図　11世紀の北島遺跡19地点……825

図版目次

図版１　西半全景
図版１　南部全景
図版１　中央部全景
図版１　中央部全景
図版１　西半全景
図版１　南半全景
図版１　東半全景
図版１　東北部全景
図版２　南部全景
図版２　南部全景
図版２　全景
図版２　調査区北側溝群全景
図版２　第２号住居跡
図版２　第２号住居跡
図版２　第３号住居跡
図版２　第３号住居跡
図版３　第４号住居跡
図版３　第４号住居跡
図版３　第５号住居跡
図版３　第５号住居跡
図版３　第６号住居跡
図版３　第６号住居跡
図版３　第８号住居跡
図版３　第11号住居跡
図版４　第９・11号住居跡
図版４　第11号住居跡
図版４　第15号住居跡
図版４　第16号住居跡
図版４　第17号住居跡
図版４　第18号住居跡
図版４　第19号住居跡
図版４　第20号住居跡
図版５　第21号住居跡
図版５　第21号住居跡
図版５　第22号住居跡
図版５　第23号住居跡

図版 5　第23号住居跡
図版 5　第24号住居跡
図版 5　第25号住居跡
図版 5　第26号住居跡
図版 6　第26号住居跡
図版 6　第27号住居跡
図版 6　第27・28住居跡
図版 6　第27・28住居跡
図版 6　第27・28住居跡
図版 6　第27・28住居跡
図版 6　第31号住居跡
図版 6　第32号住居跡
図版 7　第32号住居跡
図版 7　第34号住居跡
図版 7　第34号住居跡
図版 7　第35号住居跡
図版 7　第36号住居跡
図版 7　第36号住居跡
図版 7　第36号住居跡
図版 7　第36号住居跡
図版 8　第37号住居跡
図版 8　第38号住居跡
図版 8　第38号住居跡
図版 8　第38号住居跡
図版 8　第40号住居跡
図版 8　第40号住居跡
図版 8　第41号住居跡
図版 8　第42・43号住居跡
図版 9　第42・43号住居跡
図版 9　第42号住居跡
図版 9　第42号住居跡
図版 9　第43号住居跡
図版 9　第43号住居跡
図版 9　第44号住居跡
図版 9　第44号住居跡
図版 9　第46号住居跡
図版10　第46号住居跡
図版10　第47号住居跡
図版10　第47号住居跡
図版10　第49号住居跡
図版10　第49号住居跡
図版10　第49号住居跡
図版10　第50号住居跡
図版10　第51号住居跡
図版11　第52号住居跡
図版11　第53号住居跡
図版11　第54号住居跡
図版11　第56号住居跡
図版11　第56号住居跡
図版11　第57・58・59号住居跡
図版11　第58号住居跡
図版11　第57・58・59号住居跡
図版12　第57・58・59号住居跡
図版12　第57・58・59号住居跡
図版12　第57・58・59号住居跡
図版12　第61号住居跡
図版12　第63号住居跡
図版12　第63号住居跡
図版12　第64号住居跡
図版12　第64号住居跡
図版13　第65号住居跡
図版13　第65号住居跡
図版13　第66号住居跡
図版13　第66号住居跡
図版13　第66号住居跡
図版13　第67号住居跡
図版13　第67号住居跡
図版13　第69号住居跡
図版14　第70号住居跡
図版14　第72号住居跡
図版14　第72号住居跡
図版14　第73号住居跡
図版14　第73号住居跡
図版14　第74号住居跡

図版14　第74号住居跡
図版14　第75号住居跡
図版15　第76号住居跡
図版15　第76号住居跡
図版15　第77号住居跡
図版15　第82号住居跡
図版15　第82号住居跡
図版15　第86号住居跡
図版15　第86号住居跡
図版15　第86号住居跡
図版16　第88号住居跡
図版16　第89号住居跡
図版16　第89号住居跡
図版16　第90号住居跡
図版16　第91号住居跡
図版16　第99号住居跡
図版16　第99号住居跡
図版16　第100号住居跡
図版17　第100号住居跡
図版17　第102号住居跡
図版17　第103号住居跡
図版17　第104号住居跡
図版17　第105号住居跡
図版17　第105号住居跡
図版17　第106号住居跡
図版17　第107号住居跡
図版18　第108号住居跡
図版18　第109号住居跡
図版18　第109号住居跡
図版18　第110号住居跡
図版18　第110号住居跡
図版18　第113号住居跡
図版18　第113号住居跡
図版18　第114号住居跡
図版19　第115号住居跡
図版19　第115号住居跡
図版19　第116号住居跡
図版19　第116号住居跡
図版19　第118号住居跡
図版19　第118号住居跡
図版19　第119号住居跡
図版19　第111・121号住居跡
図版20　第121号住居跡
図版20　第127号住居跡
図版20　第127号住居跡
図版20　第129号住居跡
図版20　第130号住居跡
図版20　第130号住居跡
図版20　第130号住居跡
図版20　第131号住居跡
図版21　第131・133号住居跡
図版21　第131号住居跡
図版21　第131号住居跡
図版21　第131号住居跡
図版21　第134号住居跡
図版21　第134号住居跡
図版21　第135号住居跡
図版21　第135号住居跡
図版22　第136号住居跡
図版22　第136号住居跡
図版22　第141号住居跡
図版22　第142号住居跡
図版22　第142号住居跡
図版22　第142号住居跡
図版22　第142号住居跡
図版22　第143号住居跡・第46号井戸跡
図版23　第143号住居跡・第46号井戸跡
図版23　第144号住居跡
図版23　第145号住居跡
図版23　第146号住居跡
図版23　第147号住居跡
図版23　第151号住居跡
図版23　第153号住居跡
図版23　第155号住居跡

図版24　第156号住居跡
図版24　第157号住居跡
図版24　第158号住居跡
図版24　第159号住居跡　第234号土壙
図版24　第159号住居跡　第234号土壙
図版24　第161号住居跡
図版24　第161号住居跡
図版24　第161号住居跡
図版25　第164号住居跡
図版25　第170・172号住居跡
図版25　第174号住居跡
図版25　第174号住居跡
図版25　第178号住居跡
図版25　第178号住居跡
図版25　第179号住居跡
図版25　第181・182号住居跡
図版26　第181号住居跡
図版26　第183・184号住居跡
図版26　第184号住居跡
図版26　第186号住居跡
図版26　第186号住居跡
図版26　第186号住居跡
図版26　第186号住居跡
図版26　第191号住居跡
図版27　第192号住居跡
図版27　掘立柱建物群全景
図版27　第１・５号掘立柱建物跡
図版27　第１号掘立柱建物跡
図版27　第１号掘立柱建物跡
図版27　第２号掘立柱建物跡
図版27　第３号掘立柱建物跡
図版27　第４号掘立柱建物跡
図版28　第４号掘立柱建物跡
図版28　第５号掘立柱建物跡
図版28　第５号掘立柱建物跡
図版28　第６・７・８号掘立柱建物跡
図版28　第９号掘立柱建物跡
図版28　第11号掘立柱建物跡
図版28　第11号掘立柱建物跡
図版28　第13号掘立柱建物跡
図版29　第14号掘立柱建物跡
図版29　第15・16号掘立柱建物跡
図版29　第17号掘立柱建物跡
図版29　第17号掘立柱建物跡
図版29　第21号掘立柱建物跡
図版29　第21号掘立柱建物跡付近
図版29　第21号掘立柱建物跡付近
図版29　第22号掘立柱建物跡付近
図版30　第22号掘立柱建物跡
図版30　第23号掘立柱建物跡
図版30　第22号掘立柱建物跡
図版30　第24号掘立柱建物跡
図版30　第25号掘立柱建物跡
図版30　第20・22号掘立柱建物跡
図版30　第20号掘立柱建物跡
図版30　第26号掘立柱建物跡
図版31　第27号掘立柱建物跡
図版31　第29・30号掘立柱建物跡
図版31　第30号掘立柱建物跡
図版31　第31・32号掘立柱建物跡
図版31　第33号掘立柱建物跡
図版31　第35号掘立柱建物跡
図版31　第36号掘立柱建物跡
図版31　第36号掘立柱建物跡
図版32　第38号掘立柱建物跡
図版32　第39号掘立柱建物跡付近
図版32　第41・42号掘立柱建物跡
図版32　第43号掘立柱建物跡
図版32　第43号掘立柱建物跡
図版32　第44号掘立柱建物跡
図版32　第46号掘立柱建物跡付近
図版32　第46号掘立柱建物跡付近
図版33　第46号掘立柱建物跡付近
図版33　第47号掘立柱建物跡

図版33　第48号掘立柱建物跡
図版33　第50号掘立柱建物跡
図版33　第51号掘立柱建物跡
図版33　第51号掘立柱建物跡
図版33　第51号掘立柱建物跡
図版33　第51号掘立柱建物跡
図版34　第52号掘立柱建物跡
図版34　第52号掘立柱建物跡
図版34　第54号掘立柱建物跡
図版34　第55号掘立柱建物跡
図版34　第56号掘立柱建物跡
図版34　第60号掘立柱建物跡
図版34　第63・64号掘立柱建物跡
図版34　第66号掘立柱建物跡
図版35　第67号掘立柱建物跡
図版35　第69号掘立柱建物跡
図版35　第70号掘立柱建物跡
図版35　第72号掘立柱建物跡
図版35　第75号掘立柱建物跡
図版35　第78号掘立柱建物跡
図版35　第１号井戸跡
図版35　第３号井戸跡
図版36　第４号井戸跡
図版36　第４号井戸跡
図版36　第７号井戸跡
図版36　第８号井戸跡
図版36　第11号井戸跡
図版36　第11号井戸跡
図版36　第12号井戸跡
図版36　第12号井戸跡
図版37　第12号井戸跡
図版37　第18号井戸跡
図版37　第18号井戸跡
図版37　第18号井戸跡
図版37　第20号井戸跡
図版37　第20号井戸跡
図版37　第21号井戸跡
図版37　第21号井戸跡
図版38　第21号井戸跡
図版38　第21号井戸跡
図版38　第21号井戸跡
図版38　第21号井戸跡
図版38　第21号井戸跡
図版38　第21号井戸跡
図版38　第21号井戸跡
図版38　第21号井戸跡
図版39　第22号井戸跡
図版39　第24号井戸跡
図版39　第24号井戸跡
図版39　第25号井戸跡
図版39　第25号井戸跡
図版39　第25号井戸跡
図版39　第31号井戸跡
図版39　第32号井戸跡
図版40　第34・35号井戸跡
図版40　第37号井戸跡
図版40　第39号井戸跡
図版40　第40号井戸跡
図版40　第40号井戸跡
図版40　第41号井戸跡
図版40　第41号井戸跡
図版40　第42号井戸跡
図版41　第42号井戸跡
図版41　第42号井戸跡
図版41　第42号井戸跡
図版41　第42号井戸跡
図版41　第42号井戸跡
図版41　第42号井戸跡
図版41　第42号井戸跡
図版42　第42号井戸跡
図版42　第42号井戸跡
図版42　第42号井戸跡
図版42　第42号井戸跡

図版42　第42号井戸跡
図版42　第42号井戸跡
図版42　第43号井戸跡
図版42　第43号井戸跡
図版43　第45号井戸跡
図版43　第46号井戸跡
図版43　第47号井戸跡
図版43　第48号井戸跡
図版43　第50・52号井戸跡
図版43　第51号井戸跡
図版43　第51号井戸跡
図版43　第51号井戸跡
図版44　第51号井戸跡
図版44　第51号井戸跡
図版44　第51号井戸跡
図版44　第51号井戸跡
図版44　第54号井戸跡
図版44　第55号井戸跡
図版44　第57号井戸跡
図版44　第58号井戸跡
図版45　第59号井戸跡
図版45　第61号井戸跡
図版45　第62号井戸跡
図版45　第62号井戸跡
図版45　第62号井戸跡
図版45　第65号井戸跡
図版45　第69号井戸跡
図版45　第69号井戸跡
図版46　第71号井戸跡
図版46　第71号井戸跡
図版46　第72号井戸跡
図版46　第73号井戸跡
図版46　第74号井戸跡
図版46　第75号井戸跡
図版46　第78号井戸跡
図版46　第78号井戸跡
図版47　第79号井戸跡
図版47　第79号井戸跡
図版47　第79号井戸跡
図版47　第80号井戸跡
図版47　第80号井戸跡
図版47　第82号井戸跡
図版47　第82号井戸跡
図版48　第85号井戸跡
図版48　第85号井戸跡
図版48　第85号井戸跡
図版48　第85号井戸跡
図版48　第85号井戸跡
図版48　第85号井戸跡
図版48　第85号井戸跡
図版48　第85号井戸跡
図版49　第89号井戸跡
図版49　第75号土壙
図版49　第83号土壙
図版49　第160号土壙
図版49　第160号土壙
図版49　第160号土壙
図版49　第160号土壙
図版49　第160号土壙
図版50　第160号土壙
図版50　第160号土壙
図版50　第200号土壙
図版50　第210号土壙
図版50　第304号土壙
図版50　地鎮跡
図版50　地鎮跡
図版50　地鎮跡
図版51　地鎮跡
図版51　地鎮跡
図版51　第37号溝
図版51　第37号溝
図版51　第178号溝
図版51　第199号溝（飛鳥時代区画溝）

図版51　第199号溝（飛鳥時代区画溝）
図版51　第199号溝（飛鳥時代区画溝）
図版52　第199号溝（飛鳥時代区画溝）
図版52　第199号溝（飛鳥時代区画溝）
図版52　第199号溝（飛鳥時代区画溝）
図版52　第199号溝（飛鳥時代区画溝）
図版52　第199号溝（飛鳥時代区画溝）
図版52　第239号溝
図版52　第239号溝
図版52　第239号溝
図版53　第87号溝（平安時代区画溝）
図版53　第87号溝（平安時代区画溝）
図版53　第87号溝（平安時代区画溝）
図版53　第87号溝（平安時代区画溝）
図版53　第87号溝（平安時代区画溝）
図版53　第87号溝（平安時代区画溝）
図版54　第87号溝（平安時代区画溝）
図版54　第87号溝（平安時代区画溝）
図版54　第87号溝（平安時代区画溝）
図版54　第87号溝（平安時代区画溝）
図版54　道路跡
図版54　道路跡
図版54　道路跡
図版54　道路跡

Ⅰ　発掘調査の概要

1．発掘調査に至る経過

埼玉県は、「環境優先・生活重視」、「埼玉の新しいくにづくり」を基本理念として、豊かな彩の国づくりを推進するため、種々の施策を講じている。各種大型のスポーツ大会の開催やスポーツ施設の整備を進めてきたのは、本県におけるスポーツの振興を図り、時代を担う人づくりを目標とした施策である。

2004年に開催される第59回国民体育大会、第40回全国身体障害者スポーツ大会に向け、そのメイン会場となる熊谷スポーツ文化公園の拡張整備事業も、その一環として計画されたものである。

熊谷スポーツ文化公園の拡張整備事業に先立ち、公園課長から平成９年７月18日付け公園第277号で、埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて、文化財保護課長あて照会があった。それに対して文化財保護課は、平成９年12月２日～５日に遺跡範囲確認のための試掘調査を実施し、その結果、埋蔵文化財の所在が明確になったことから、平成９年12月22日付け教文第1254号で、概ね次のような回答をした。

１　埋蔵文化財の所在

名　称	種　別	時　代	所在地
天神遺跡(59-101)	集落跡・古墳・墓	弥生・古墳・奈良・平安・中世・近世	熊谷市大字上川上
北島遺跡(59-058)	集落跡・墓	弥生・古墳・奈良・平安・中世	熊谷市大字今井
田谷遺跡(59-071)	集落跡	古墳・奈良・平安	熊谷市上中条
天神東遺跡(59-078)	集落跡	古墳・奈良・平安・近世	熊谷市大字上川上

２　取扱い

上記の埋蔵文化財包蔵地は現状保存することが望ましいが、事業計画上やむを得ず現状変更する場合は、事前に文化財保護法第57条の３の規定に基づき発掘通知を提出し、記録保存のための発掘調査を実施してください。なお、発掘調査の実施については当課と別途協議してください。

さらに、公園外周道路については、平成11年９月２日付け公園第355号で照会があり、平成11年９月16・17日に遺跡範囲確認調査を行い、平成11年９月22日付け教文第622号で次のとおり回答した。

１　埋蔵文化財の所在

名　称	種　別	時　代	所在地
赤城遺跡(59-100)	集落跡	古墳・奈良・平安	熊谷市大字今井
北島遺跡(59-058)	集落跡・墓	弥生・古墳・奈良・平安・室町	熊谷市大字上中条
田谷遺跡(59-071)	集落跡	古墳・奈良・平安	熊谷市上中条

２　取扱い（省略）

文化財保護課は、公園課や北部公園建設事務所と協議を重ねて工事と埋蔵文化財保護との調整を図り、できるだけ盛土による現状保存の措置を講じた。しかし、工事の計画変更が不可能であるメイン陸上競技場、調節池、屋内運動場、外周道路などについては、止むを得ず記録保存の発掘調査を実施することとし、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団に発掘調査を依頼した。

調査は平成10年７月～平成12年12月まで２年５ヶ月にわたって行われた。財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団から文化財保護法57条第１項にもとづき、埼玉県教育委員会教育長あてに埋蔵文化財発掘調査届が、また埼玉県知事から57条の３にもとづく発掘通知が提出された。それに対する指示通知は以下のとおりである。

発掘調査届：平成10年７月27日付け教文第２－77号
平成10年10月５日付け教文第２－120号
平成11年１月21日付け教文第２－178号
平成11年４月16日付け教文第２－５号
平成12年１月24日付け教文第２－129号
平成12年１月24日付け教文第２－130号
平成12年１月24日付け教文第２－131号
平成12年４月19日付け教文第２－３号
発掘通知：平成10年７月28日付け教文第３－278号
平成10年７月28日付け教文第３－279号

（文化財保護課）

2．発掘調査・報告書作成の経過

発掘調査

北島遺跡19地点の発掘調査は、第12次調査を平成11年４月８日から平成12年３月24日、および第15次調査を平成12年４月８日から平成12年12月28日まで行った。

調査面積は、第12次調査36,000㎡、第15次調査37,050㎡の計73,050㎡である。発掘調査の経過は、以下のとおりである。

平成11年４月　調査区の南側に仮設事務所を設置した。調査区周囲に囲柵を行い、安全対策を施した後、調査区の内側幅10ｍを内周に沿って、重機で表土を掘削した。これは、増水時に備え、周囲に深堀の側溝を切って、湧水に備えようとしたためである。ところが、深さ20㎝ほど掘削を行ったところで、調査区西側から江戸時代の坑樋跡や平安時代の緑釉陶器をはじめとする大量の遺物が出土し始め、急遽本格的な調査に取りかかった。

５月　調査区の西端部の坑樋を完掘し、また西南隅に古墳時代前期の河川跡を調査した。調査区内周に引き続き、調査区内も表土掘削を開始する。

６・７月　飛鳥時代から平安時代の大量の遺物を包む10から20㎝の堆積層が、調査区西側10,000㎡に亘って広がっていることを確認した。これをスコップによって掘削し、小グリット毎に取り上げた。調査区南側の遺構を調査した。

８・９月　調査区西側に二重の区画溝で囲まれた施設を確認した。遺跡の性格に官衙や寺院、あるいは豪族の居宅の可能性をもって調査を進める。

10月　調査区西側の調査を引き続き進め、竪穴式住居跡や掘立柱建物跡・土壙などを調査した。二重の区画には、東側に門が取り付くことが判明した。

11月　比較的良質な緑釉陶器大埦や「篁」と書かれた緑釉陶片等の出土を報道機関に発表。併せて現地説明会を開催した。調査区中央に飛鳥時代の遺物が大量に出土した。

12月　調査区東側の古墳群を調査した。人物・馬などの形象埴輪を巡らした埴輪列を確認した。調査区西側では、７世紀代の掘立柱建物跡群を調査した。

平成12年１月　調査区東側の古墳群の下層に、古墳時代前期の遺構の存在を確認したために、遺構確認面まで重機で掘削し、竪穴式住居跡・方形周溝墓を調査した。また調査区中央を南北に走る低地を掘削し、大形の溝であることを確認した。

２月　調査区西側も飛鳥時代の下層に古墳時代前期の遺構群が存在することが確認されたため、重機で遺構確認面まで掘削し、併行して竪穴式住居跡や土壙などの調査にはいる。

３月　調査区北側の低地部で、河川と大溝に取り付く堰跡発見。また調査区西側で確認された古墳時代前期の大溝が、クランク状に巡り、いわゆる豪族居館と判明した。また調査区東側の古墳時代前期集落の下層に、弥生時代の集落跡が存在することが確認されたため、直ちに遺構確認面まで堆積層を掘削した。

４月　機械設備やスロープや擁壁が取り付く部分が、新たに調査区として加わり、この部分を重機で表土掘削した。また調査区西側のいわゆる豪族居館の下層にも弥生時代の集落が広がることが判明したため、直ちに遺構確認面まで重機によって掘削し、遺構を確認した。

５月　昨年度確認した古墳時代前期の堰跡が、弥生時代まで遡ることが判明し、弥生時代の遺構群との関係も明らかとなる。またスロープ部分でも飛鳥時代から平安時代にかけての豊富な遺物の出土がみられ、遺構の重複も激しく、調査に困難を極める。

６・７月　弥生時代の堰跡について新聞発表を行う。北側調査区では、古墳と方形周溝墓を調査した後、古墳時代前期の遺構確認面まで掘削を行い、畠跡を調査した。

８月　スロープ部調査区の古代の遺構について調査終了後、古墳時代前期の遺構確認面まで重機に

よって掘削を行い、遺構を調査する。昨年度確認した豪族居館の一角が現れ、全体を知ることができた。

9月　北側調査区の下層を掘削し、弥生時代の確認面を探り、遺構を調査した。また現道として残っていた部分の表土掘削を行い、堰跡の続きを確認した。

10・11月　スロープ部調査区でも古墳時代前期の遺構の調査終了後、弥生時代の遺構確認面まで掘削を行い、調査を行う。また現道部についても古墳時代前期の遺構調査終了後、弥生時代の調査を行う。

12月　弥生時代の遺構を全て調査し、12月末に遺物伴出・写真・図面類の伴出を行い、機材を撤収し、仮設事務所を撤去した。

整理・報告書刊行

整理報告事業は、平成12年度から開始し、平成14年3月現在、継続中である。平成12年度は、整理事業の基礎作業を行い、平成13年度に第19地点の古代と弥生時代の遺構・遺物についてあつかった。

詳しくは例言に記したのでここでは、本報告書にかかる整理事業のみについて記す。

平成12年4月　遺物の洗浄・注記・実測、遺構図面の整理を開始する。

5月　注記の済んだ遺物から実測遺物を抽出し、併せて遺構出土の覆土中遺物について種別・器種・産地等についての分類を行う。

6月　実測可能個体について遺物の接合を開始する。北島遺跡で調査中の遺物も搬入されてきて、遺物の洗浄が開始される。

7月　遺構図の整理が、住居跡を終了し、土壙にはいる。遺物の接合を継続する。

8月　平成12年度調査分の実測個体の抽出を終了し、順次実測にはいる。

9月　土壙の遺構図整理が終了し、井戸、溝の遺構図整理にはいる。

10月　竪穴住居跡の遺構図をレイアウトする。遺物の実測を引き続き進める。

11月　レイアウトの済んだ遺構図から順次トレースにかかる。

12月　遺物の実測を進める。住居跡のトレースをさらに進める。発掘調査が終わり、すべての遺構図・遺物が搬入される。

平成13年1月　年末に搬入された土器を洗浄し、追加分の遺構図面の整理を行う。

2月　土層註記を入力する。遺物の実測は継続中。

3月　竪穴住居跡のトレースを終了する。

4月　全体図の編集に取りかかる。遺物の実測を継続する。

5月　土壙のトレースにかかる。全体図の編集を終わり、トレースにかかる。

6月　土壙のトレースを終わり、溝のトレースにかかる。土層註記を貼り込んでいく。

7月　遺物の実測作業を終了し、順次トレースにかかる。

8月　全体図のトレース、個別遺構のトレース、遺物実測図のトレースを継続して進める。

9月　遺物の仮版組と遺物の記述を併行して行う。個別遺構のトレースを終了し、文字・数字の貼り込みを行う。

10月　遺物実測図のトレースを継続する。全体図のトレースを終了する。

11月　遺構写真の整理を行う。遺物実測図のトレースを継続する。遺構本文を執筆する。

12月　周辺遺跡図の作成、調査区図の作成を行う。遺物のトレースを終了し、仮版に併せてレイアウト。

平成14年1月　すべての図面の浄書・レイアウトを終了し、割付と台割を作成する。

2月　石膏入れの必要な遺物について石膏を入れ補強する。版下・原稿を入稿し、初校を行う。

3月　引き続き石膏入れを行い、写真撮影を行わない遺物について収納作業を行う。校正を経て報告書の納品となる。

3．発掘調査・整理・報告書刊行の組織

主体者　財団法人　埼玉県埋蔵文化財調査事業団

(1)　**発掘調査**（平成11～12年度）

理　事　長（平成11）	荒井　桂
理　事　長（平成12）	中野健一
副理事長	飯塚誠一郎
常務理事兼管理部長	広木　卓
管理部	
副　部　長　兼経理課長（平成11）	関野栄一
副　部　長　（平成12）	関野栄一
主　　席（経理担当）（平成12）	江田和美
主　　任	福田昭美
主　　任	腰塚雄二
主　　任	菊池　久
庶務課長	金子　隆
主　　席（庶務担当）（平成12）	阿部正浩
主　　任	長滝美智子
主　　査	田中裕二
主　　席（施設担当）（平成12）	野中廣幸
調査部	
調査部長（平成11）	増田逸朗
調査部長（平成12）	高橋一夫
調査部副部長（平成11）	水村孝行
調査部副部長（平成12）	石岡憲雄
主席調査員（平成11）	今井　宏
主席調査員	小野美代子
統括調査員（平成11）	利根川章彦
統括調査員（平成11）	若松良一
統括調査員（平成11）	細田　勝
統括調査員（平成12）	宮井英一
統括調査員（平成12）	赤熊浩一
統括調査員	鈴木孝之
統括調査員（平成11）	石井伸明
主任調査員（平成11）	黒坂禎二
主任調査員	吉田　稔
主任調査員（平成12）	大谷　徹
主任調査員（平成11）	村田章人
主任調査員（平成11）	田中広明
主任調査員（平成12）	君島勝秀
主任調査員（平成12）	山本　靖
主任調査員	福田　聖
主任調査員（平成11）	岩田明広
主任調査員（平成11）	渡辺清志

(2)　**発掘・整理作業**（平成12・13年度）

理　事　長	中野健一
副理事長	飯塚誠一郎
常務理事兼管理部長	広木　卓
管理部	
副　部　長（平成12）	関野栄一
主　　席（経理担当）（平成12）	江田和美
主　　任	福田昭美
主　　任	腰塚雄二
主　　任	菊池　久
主　　席（庶務担当）（平成12）	阿部正浩
主　　任	長滝美智子
主　　席（施設担当）（平成12）	野中廣幸
調査部	
調査部長	高橋一夫
調査部副部長（平成12）	石岡憲雄
（平成13）	坂野和信
主席調査員	礒崎　一
主任調査員（平成13）	吉田　稔
主任調査員	田中広明

II　遺跡の立地と環境

北島遺跡は、埼玉県熊谷市大字上川上323他に位置する。熊谷市は、新幹線・高崎線・秩父鉄道のターミナル駅があり、また県内の基幹道路である17号国道も通り、県北の政治経済を支える中核的都市である。

この17号国道の北には、県内有数の穀倉地帯が広がり、商品作物の栽培や、養豚・乳牛などの畜産も盛んである。近年では、都市化の波が広がり、分譲住宅が急速に進出してきた。

このような環境の中、埼玉県は、JR高崎線熊谷駅より北に2.5kmほどに県北部のスポーツ・文化の中核的公園施設を誘致し、昭和60年以降、その整備を進めてきた。

北島遺跡は、この熊谷スポーツ文化公園の周辺に広がる県内最大規模の遺跡である。南北1km、東西1.5kmに及ぶ遺跡の全面には、弥生時代から近世に至るさまざまな遺構・遺物が埋蔵されている。

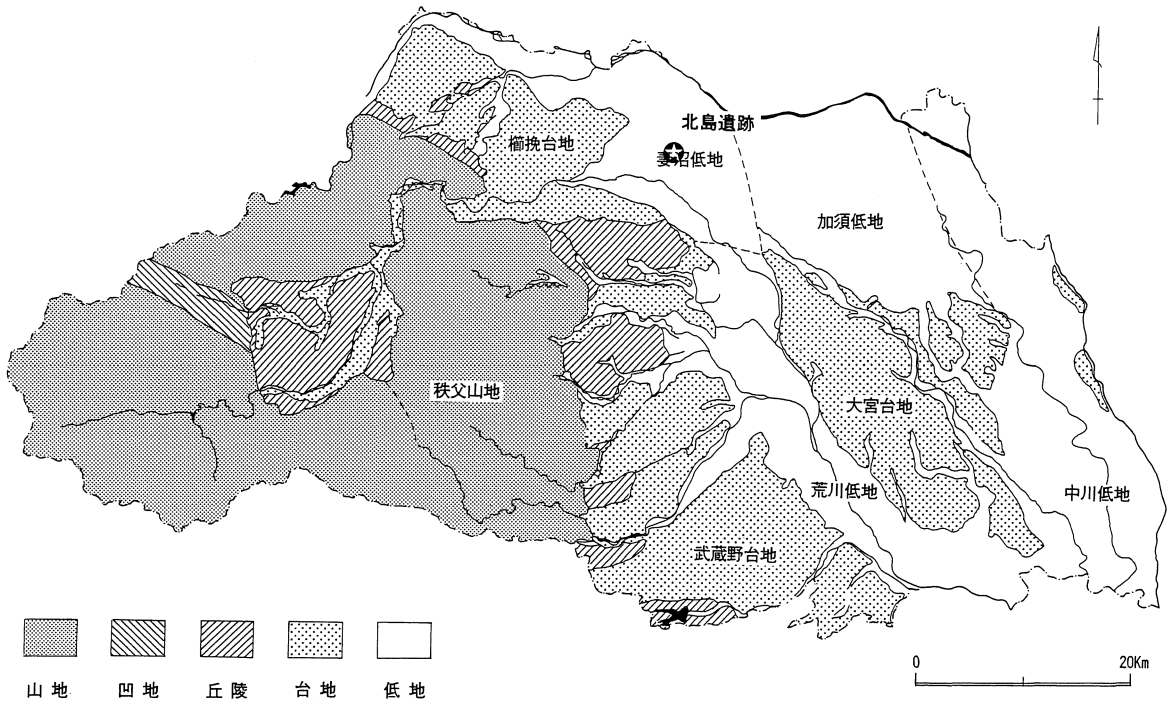
北島遺跡を含む熊谷市の大部分は、秩父山地に源をもつ荒川が形成した扇状地に立地している。この荒川がもたらした肥沃な土砂は、東西に長く伸びる自然堤防を形成し、その一つに北島遺跡は営まれた。また扇状地の扇端部には、豊富な湧水点があり、水田耕作に適した小河川の源ともなっている。

このように北島遺跡周辺は、水田経営の好適地でありながらも、荒川や利根川といった大河の度重なる洪水の危険にさらされ続けた地域であった。

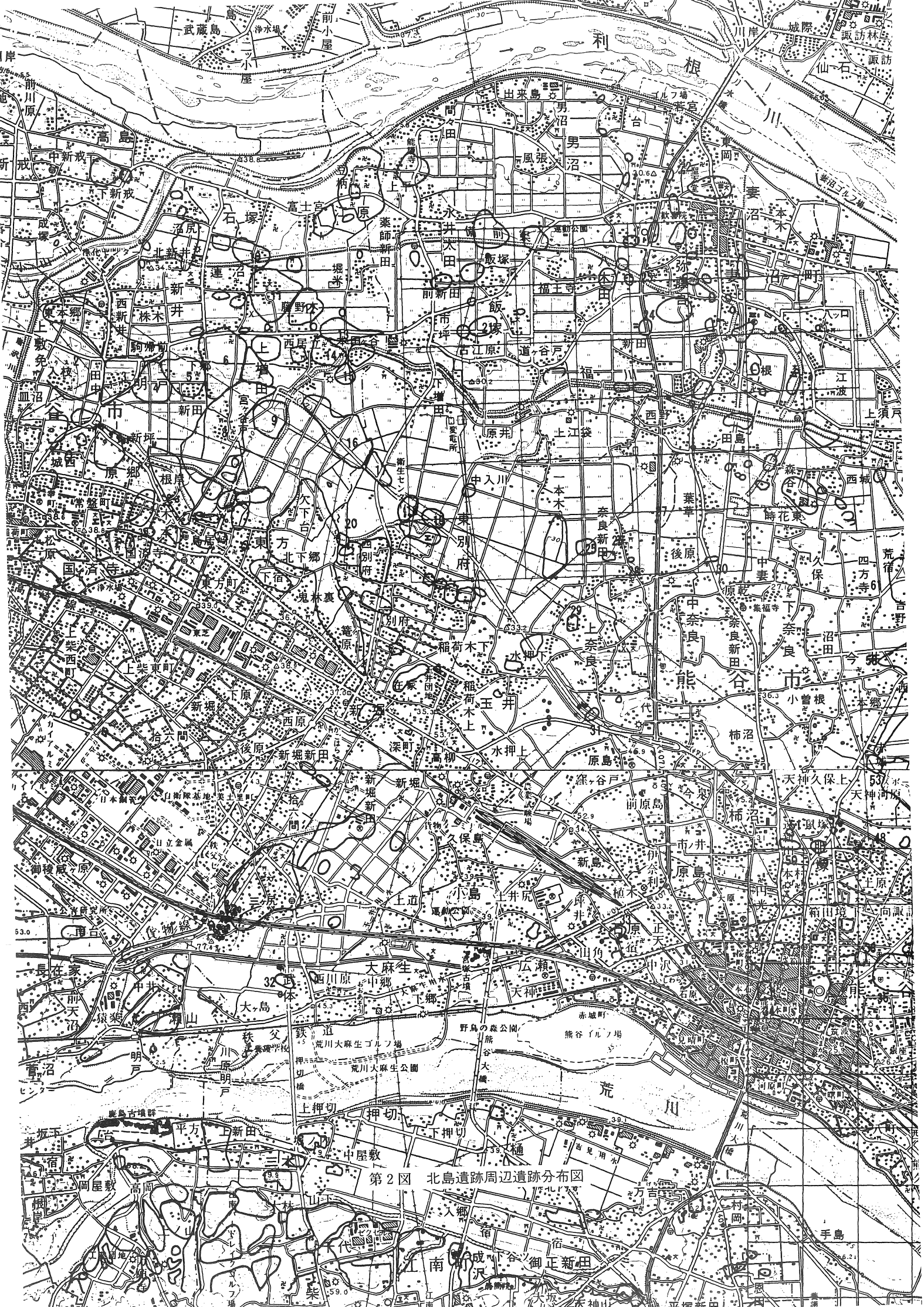
そのため現在では平坦な北島遺跡周辺もかつては、沼沢地や三日月湖、あるいは湿地の広がる起伏に富んだ地形であったと考えられる。

北島遺跡は、これまで調査原因の異なる15次21地点に及ぶ発掘調査を㈶埼玉県埋蔵文化財調査事業団が行い、4冊の発掘調査報告書にまとめている。

今回、報告する調査地点は、これまでの調査地点の東に広がる北島遺跡第19地点である。なお本巻では、古代以降の遺構・遺物について扱うため、周辺遺跡の概要についても古代に限ることとする。



第1図　埼玉県の地形区分



第２図　北島遺跡周辺遺跡分布図

館林市
千代田町
赤岩
五反田
前天神原
後天神原
中天神原
野辺町
上三林町
明和村
工業団地造成中
上中森
下中森
大輪
上五箇
荒宿
下宿
上宿
葛和田
向野
日向
熊野
天袋
北河原中野
南河原村
南河原
北島遺跡
行田市
下中条
須加
下須戸
荒木
羽生市
上新郷
下新郷
秩父鉄道
行田バイパス
東北自動車道
武蔵大橋
酒巻
斎条
和田
谷郷
長野
小針
佐谷田
南砂原
太井
特田
上分
久下
中河原
小敷田
皿尾
上池守
下池守
下川上
本屋敷
北反戸
中江袋
馬見塚
大塚
西新井
向新田
宮下
広田
新田
諏訪宮
曲目
横塚
小須賀
別所
大佐
赤城
片原
下埼
高土
富士山
白山
新田
勝呂
小敷
小玉
中村
大竹
寺浦
八反田
天王前
六本木
天堀内
本郷
小針
皇川
二家
鷹匠
青柳
開拓
近藤
古家
三軒家
大谷原
江原
狸塚
高原
昭和
水立
坪谷
篠塚
陣屋
馬場
東谷
本郷
吉田
新堀
福島
八丁
十軒
鞍掛
赤堀
大日
中島
原前
番場
流通センター
古海
木野
クライナー浄水場
舞木
桧内
鍋谷
赤崎
新谷田川
根加用水
瀬戸井
養護学校
入谷
矢島
須賀
大輪
小須賀
別所
老人ホーム
横塚
税場
桑崎
秋
羽生市
荒木
八王子
斎条
北反戸
小島
下新田
上新郷
上岩瀬
下須戸
天堀内
五反田
下新郷
八反田
寺前
本郷
小針
皇川
二家
片原
赤城
下埼
高土
富士山
白山
新田
勝呂
小敷
小玉
中村
大竹
寺浦
天王前
六本木

まず整った地方行政制度の確立する以前の６・７世紀、北島遺跡周辺の自然堤防上には、急速に集落が形成された。この段階の集落は、100軒をこえる規模で確認され、集落内の竪穴住居跡には、際だった格差が見られない。また複数の集落に隣接して古墳群が営まれた場合が多い。この地域では、未だに６・７世紀代のいわゆる豪族居宅にかかる遺跡の解明が進んでいないが、早晩、この問題も解決することであろう。

次に地域別に概要を記しておきたい。まず櫛挽台地の突端では、南から熊谷市三ヶ尻天王遺跡、樋の上遺跡、東方遺跡、籠原裏遺跡、在家遺跡、西別府祭祀遺跡などの遺跡がみられる。この地域は、県内屈指の遺跡の密集地帯にあたり、ここから深谷市・岡部町・本庄市・上里町へと続く。なかでも西別府祭祀遺跡は、櫛挽台地の湧水点に営まれ、滑石製模造品を出土した水源祭祀の遺跡である。

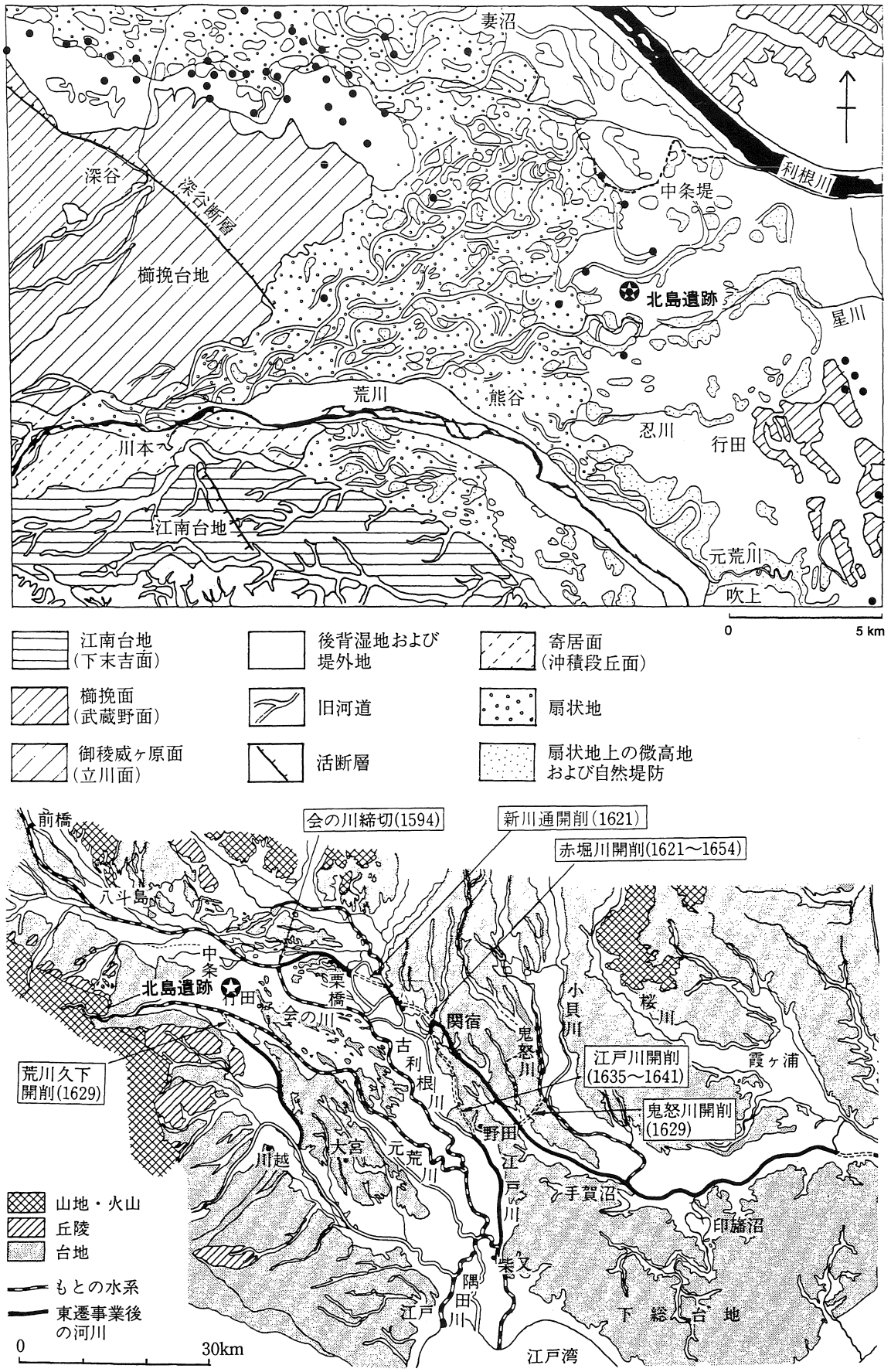
次に妻沼低地の遺跡である。妻沼低地の福川流域では、深谷市上敷免遺跡・上敷免北遺跡・本郷前東遺跡・新屋敷東遺跡・宮ヶ谷戸遺跡・東川端遺跡・清水上遺跡・前遺跡・居立遺跡・城北遺跡・砂田遺跡・柳町遺跡・ウツギ遺跡・妻沼町飯塚南遺跡・弥藤吾新田遺跡・熊谷市土用ヶ谷戸遺跡・一本木遺跡・中耕地遺跡・西通遺跡・東通遺跡・奈良東耕地遺跡などがみられる。これらの遺跡では、100軒を超える竪穴住居跡が、細長い自然堤防上に累々と築かれていた。

妻沼低地でも旧荒川の流路を境として、ここに報告する北島遺跡周辺は、荒川の形成した熊谷扇状地の扇端部、しかも東西に伸びた自然堤防上に営まれた遺跡が多い。熊谷市光屋敷遺跡・中条遺跡群・天神遺跡・中島遺跡・肥塚中島遺跡・出口上遺跡・前中西遺跡・平戸遺跡・諏訪木遺跡・小敷田遺跡・天神東遺跡・行田市池守遺跡などである。

扇状地の先端からさらに離れ、行田市埼玉古墳群周辺では、周囲にやや大きな湖沼や河川・湿地をひかえた景観となる。行田市馬場裏遺跡・林遺跡・神明遺跡・小針遺跡・陣場遺跡・小針北遺跡・原遺跡・高畑遺跡・武良内遺跡、分布図からは外れるが、築道下遺跡などがみられる。これらの遺跡は、比較的大きな河川に沿って展開していることから河川交通との関連が強く唱えられている。しかしこれらの集

遺跡名一覧

1 上敷免北遺跡	19 関下遺跡	37 諏訪木遺跡	55 大塚古墳	73 馬場裏遺跡
2 上敷免遺跡	20 湯殿神社祭祀遺跡	38 箱田氏館跡	56 中島遺跡	74 林遺跡
3 本郷前東遺跡	21 飯塚南遺跡	39 藤之宮遺跡	57 鎧塚古墳	75 神明遺跡
4 新屋敷東遺跡	22 観音堂瓦窯跡	40 成田氏館跡	58 女塚古墳	76 認三郎館跡
5 新田裏遺跡	23 七の丸遺跡	41 池上遺跡	59 中条古墳群	77 小針北遺跡
6 明戸東遺跡	24 弥籐吾新田遺跡	42 古宮遺跡	60 中条氏館跡	78 小針遺跡
7 原遺跡	25 中耕地遺跡	43 上河原遺跡	61 光屋敷遺跡	79 鎌田氏館跡
8 宮ヶ谷戸遺跡	26 西通遺跡	44 熊谷市No.59遺跡	62 権現山遺跡	80 さきたま古墳群
9 東川端遺跡	27 横塚山遺跡	45 天神東遺跡	63 中条条里遺跡	81 愛宕通遺跡
10 ウツギ内遺跡	28 東通遺跡	46 東沢遺跡	64 池守遺跡	82 旧盛徳寺遺跡
11 砂田遺跡	29 上用ヶ谷戸遺跡	47 北島遺跡	65 小敷田遺跡	83 百塚通遺跡
12 柳町遺跡	30 奈良東耕地遺跡	48 河上氏館跡	66 皿尾城跡	84 原遺跡
13 城北遺跡	31 下河原上遺跡	49 出口上遺跡	67 市田氏館跡	85 陣場遺跡
14 居立遺跡	32 社裏遺跡	50 出口下遺跡	68 久下氏館跡	86 武良内遺跡
15 前遺跡	33 天神前遺跡	51 肥塚中島遺跡	69 真観寺古墳	87 高畑遺跡
16 清水上遺跡	34 熊谷氏館跡	52 肥塚古墳群	70 白鳥田遺跡	88 忍城遺跡
17 根絡遺跡	35 前中西遺跡	53 天神遺跡	71 麻績氏館跡	89 行田氏館跡
18 横間栗遺跡	36 平戸遺跡	54 田谷遺跡	72 鞘戸耕地館跡	



第3図　荒川扇状地と古代の遺跡（上）、利根川の東遷事業（下）

落が、河川が形成した肥沃なバックマーシュを耕地として利用したことも、第一義的に考えておく必要があろう。

7世紀後半のある段階から、北島遺跡周辺も国郡制に先行する国評制に編成されたと考えられる。奈良県明日香村日高山瓦窯は、藤原京の建設に伴って操業を停止した瓦窯である。この瓦窯から出土した「前玉評　大里評」の刻書が見られる文字瓦は、少なくとも天武・持統朝段階には、前玉評と大里評が、存在していたことを示す直接的な資料である。

また藤原京から出土した「横見評」の木簡は、「日本書紀」安閑天皇条に登場する「横淳屯倉」から系譜を引き、立評された評と確認できる資料である。この二者は、北島遺跡周辺が、少なくとも7世紀末には、地方行政単位の一つとして、評に編成されていたことを示す。

一方、7世紀後半に規模を極端に縮小したり、消滅した遺跡や、8世紀に続く集落が新たに登場した遺跡もある。再び、地域別に概観することとする。まず櫛挽台地の突端では、南から熊谷市三ヶ尻天王遺跡が、終焉を迎え、樋の上遺跡・在家遺跡・下辻遺跡・上辻遺跡などが、新たに登場し、東方遺跡では、集落の継続が見られる。なかでも東方遺跡は、大形の掘立柱建物跡が確認され、隣接する西別府廃寺とともに評の中枢的建物群が営まれていた可能性が高く、また西別府祭祀遺跡とも隣接し、古墳時代から古代へかけての祭祀の継続性を伺うことができる。

福川流域の妻沼低地では、深谷市本郷前東遺跡・新屋敷東遺跡・前遺跡・居立遺跡・城北遺跡・砂田遺跡・柳町遺跡などが姿を消し、新たに東川端遺跡・清水上遺跡などが登場し、上敷免遺跡・上敷免北遺跡・宮ヶ谷戸遺跡・ウツギ遺跡・妻沼町飯塚南遺跡・弥藤吾新田遺跡・熊谷市土用ヶ谷戸遺跡・一本木遺跡・中耕地遺跡・西通遺跡・東通遺跡・奈良東耕地遺跡などで継続的な集落の営みが見られる。ことに東川端遺跡では、方形の区画溝、新屋敷東遺跡では、大形の倉庫群が確認された。

妻沼低地でも熊谷扇状地の扇端部では、熊谷市光屋敷遺跡・中条遺跡群・行田市池守遺跡などが姿を消し、天神遺跡・中島遺跡・肥塚中島遺跡・出口上遺跡・前中西遺跡・平戸遺跡・諏訪木遺跡・小敷田遺跡・天神東遺跡、そして北島遺跡などが継続的に営まれている。ことに木簡を出土した小敷田遺跡や古代の祭祀具の出土した諏訪木遺跡、そして多数の掘立柱建物跡群の確認された北島遺跡は、評の中心的施設が置かれた可能性が高い。

行田市埼玉古墳群周辺では、行田市・神明遺跡・陣場遺跡・小針北遺跡・高畑遺跡・武良内遺跡などが姿を消し、新たに馬場裏遺跡・林遺跡・小針遺跡・原遺跡などが登場する。築道下遺跡は、集落を継続するが、7世紀後半以降は、さきたま古墳群周辺よりも、北島遺跡周辺の遺跡群に優位性を伺うことができる。

北島遺跡周辺の優位性は、武蔵国を南北に縦断した東山道武蔵路を背景としても考えられよう。詳しくは第2編に譲るが、奈良県二条大路木簡にある「策譚郡宅□駅」の策譚郡を埼玉郡とするならば、埼玉郡の最西端部が、東山道武蔵路にかかっていた可能性は高く、宅□駅を北島遺跡周辺に設定することもあながち無理ではないだろう。

さらに8世紀になると妻沼低地では、別府条里・妻沼条里・中条条里・池守条里・池上条里・大里条里など武蔵国最大の条里地帯が形成される。北島遺跡でも今回の調査でその一端が確認されている。なお条里遺構にかかり、九条家本『延喜式』紙背文書の「大里郡坪付け」の文書史料が残り、郡域を考える上で有効な材料となっている。

これまで郡域にかかり、『延喜式』や『和名類聚抄』などが参考とされ、残存地名からの推定が行われてきた。その集大成でもある『地理志料』、これに基づいた『新編埼玉県史』通史編によると、北島遺跡周辺は、埼玉郡に含まれていたこととなる。

7世紀後半に再編成され、スタートを切った各集

落は、9世紀後半、再び新たな編成期を迎えることとなる。まず櫛挽台地の突端では、樋の上遺跡、在家遺跡・下辻遺跡・上辻遺跡などが、終焉を迎え、原遺跡のみ集落の継続が見られる。おそらく評家から郡家へと展開した原遺跡は、播羅郡の中枢施設として機能を保ち続けるが、郡内に荒廃田が広がり、冷然院の後院勅旨田として百二十三町が賜られる（承和元年）こととなった。

この荒廃田の広がった妻沼低地では、前遺跡・居立遺跡・城北遺跡・砂田遺跡・柳町遺跡などが姿を消し、上敷免遺跡・上敷免北遺跡・宮ヶ谷戸遺跡などで掘立柱建物跡群を伴った新たな集落が再編されている。冷然院への賜田と前後し、奈良神の官社への上昇が記録として残る（嘉祥二年・三年）ことも忘れてはならない。ここで注目すべきは、耕作地を新たに開拓するのではなく、これまでの耕地の中に広がった荒廃田を復興する形で集落が登場したことである。

熊谷扇状地の扇端部でも新たな動きが見られる。熊谷市天神遺跡・中島遺跡・肥塚中島遺跡・出口上遺跡・前中西遺跡・平戸遺跡・諏訪木遺跡・小敷田遺跡・天神東遺跡などが姿を消し、そして北島遺跡・諏訪木遺跡などが継続的に営まれ、また新たに池上遺跡で掘立柱建物跡群などが確認されている。

行田市埼玉古墳群周辺では、行田市築道下遺跡は、姿を消し、新たに馬場裏遺跡・林遺跡・小針遺跡・原遺跡などが登場する。さきたま古墳群周辺では、大形の掘立柱建物跡群は見られなくなり、竪穴住居跡のみからなる集落へと変貌する。

ところで武蔵国の主要幹線であった東山道武蔵路は、宝亀二（772）年の武蔵国東海道編入によって路程の変更が行われた。しかし武蔵路は、交通路としての機能が、全く消去されてしまったわけではなく、おそらく宝亀二年以降も地域の幹線道として、命脈を保っていたことであろう。

また弘仁九（818）年と元慶二（878）年には、「強震」以上の強い地震が埼玉県北部を襲ったことが、記録に見られる。妻沼低地の各遺跡では、この地震にかかる噴砂現象を確認することができる。

古代の果敢な開発も10世紀後半以降、大きな陰りが訪れる。樋の上遺跡や諏訪木遺跡、居立遺跡・北島遺跡などで古代集落の終焉を迎えると、以後、中世の幕開けまで、考古学資料は霧の中に入り込む。

中世以降の北島遺跡や周辺の歴史的な環境については、本巻第二編に記す。

III　遺跡の概要

北島遺跡は、これまでに16地点（62,380㎡）について、各種の開発行為に伴う発掘調査が行われてきた。以下、地点別に発掘調査の概要について記す。

なおその前に北島遺跡の範囲について記しておきたい。北島遺跡は、熊谷市上川上の熊谷スポーツ文化公園の大半を占める。熊谷スポーツ文化公園は、広大な敷地をもつ都市公園でその公園内には、北島遺跡の他に東には、天神東遺跡や田谷遺跡、西には、天神遺跡などが含まれている。

今回の公園整備計画には、このうち天神東遺跡や田谷遺跡も含まれることから、記録保存の対照となる地点について発掘調査を行った。

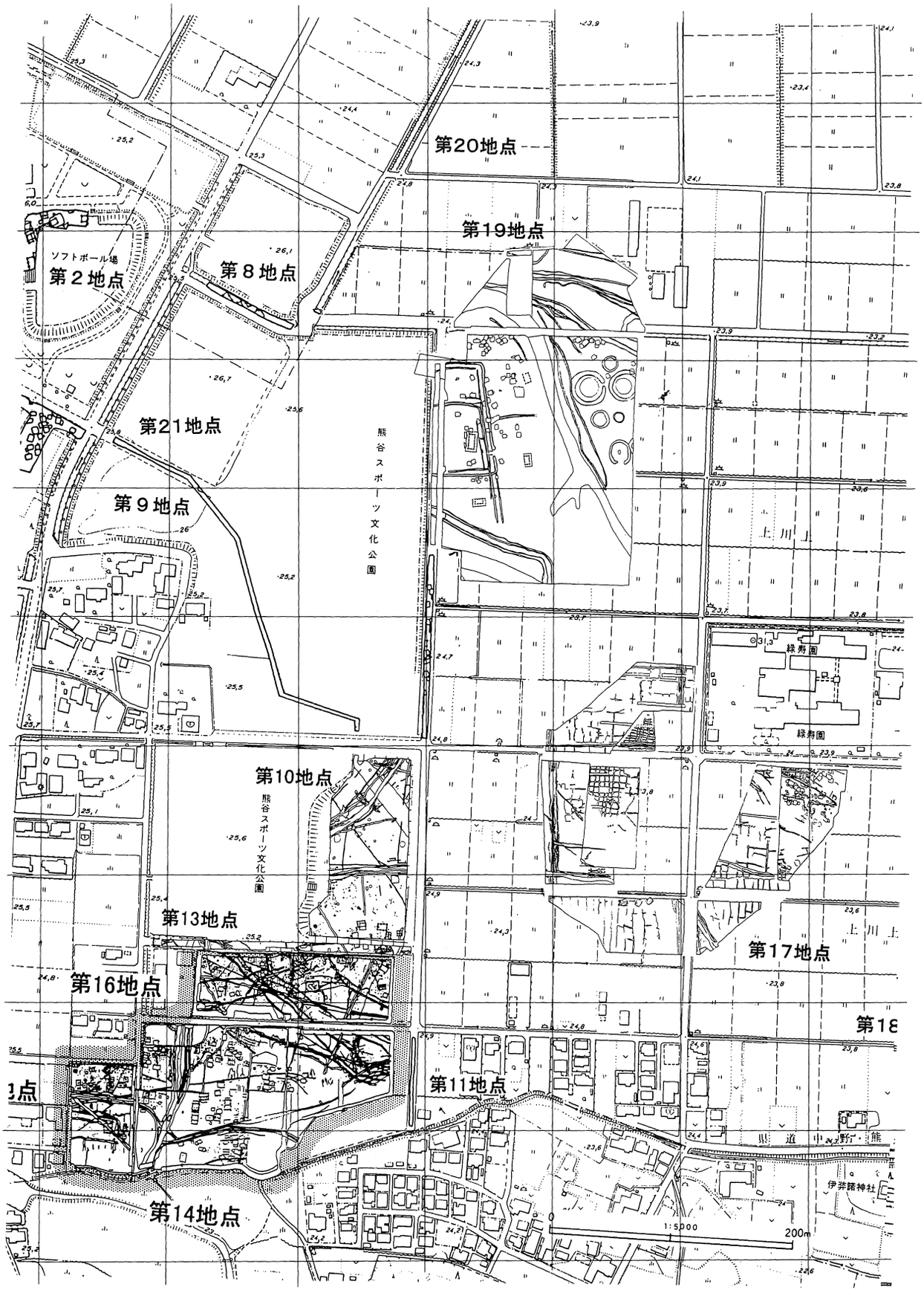
第1地点　遺跡西方に弧状に湾曲した調査区である。遺構の大半は、調査区の西半分に偏っており、東半分は、溝跡群と浅間山Ｂ軽石層によって覆われた平安時代の水田であった。集落は、竪穴住居跡と数棟の掘立柱建物跡からなる。溝の一部には、溜池状の施設を確認できる。ラグビー場の建設に伴う発掘調査であった。

第2地点　遺跡の中央よりにＬ字形に設定した調査区である。狭い調査区ながら大形の掘立柱建物跡群や大形の竪穴住居跡を検出することができた。北島遺跡の西半の中心的建物群である。ソフトボール場の建設に伴う発掘調査であった。

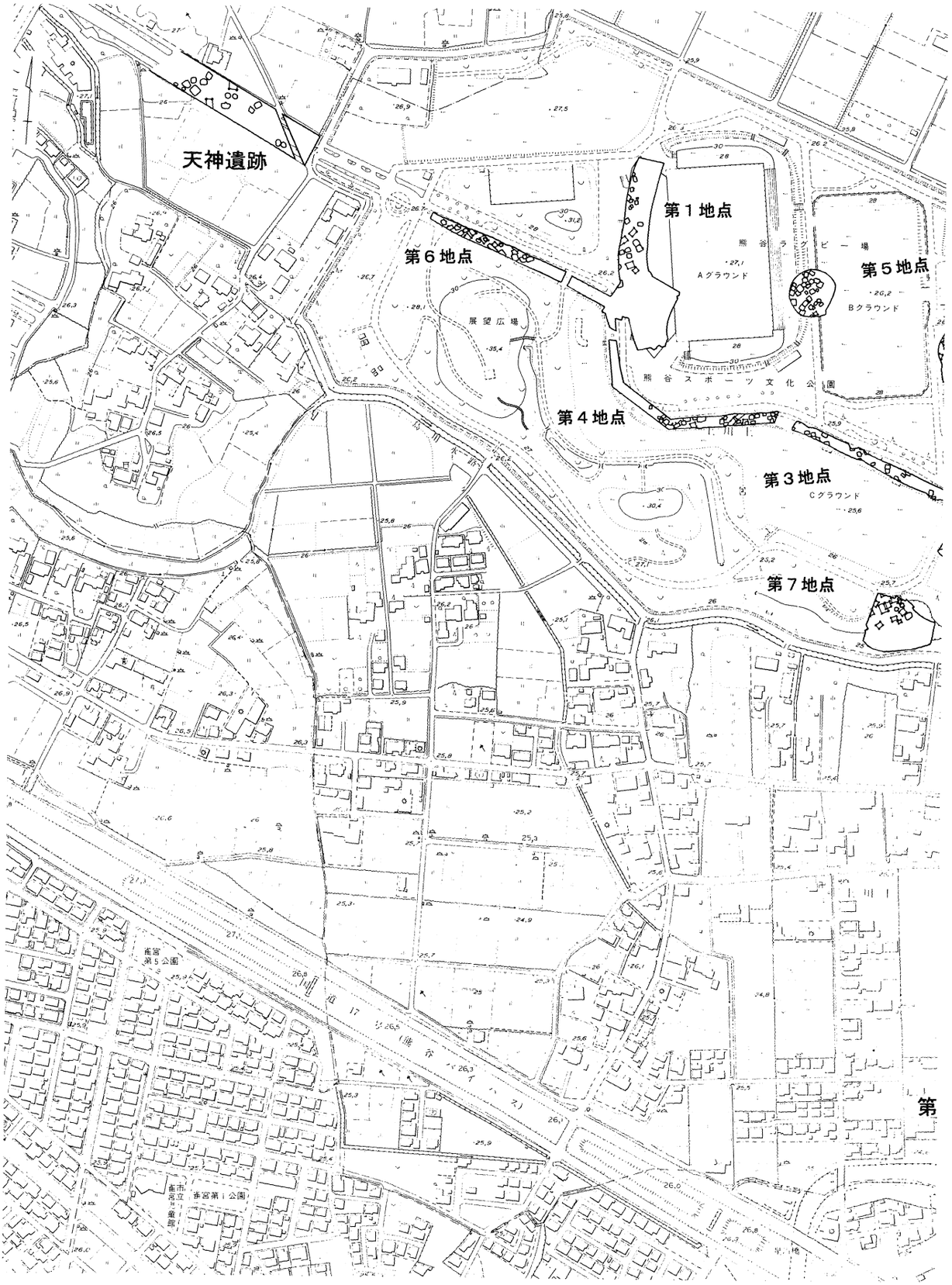
第3地点　第2地点の南に東西に長く設定した調査区である。満遍なく竪穴住居跡の展開を見ることができるが、とくに東側に多く見られる。溝の中には、中世の溝や水田にかかる溝も見ることができる。

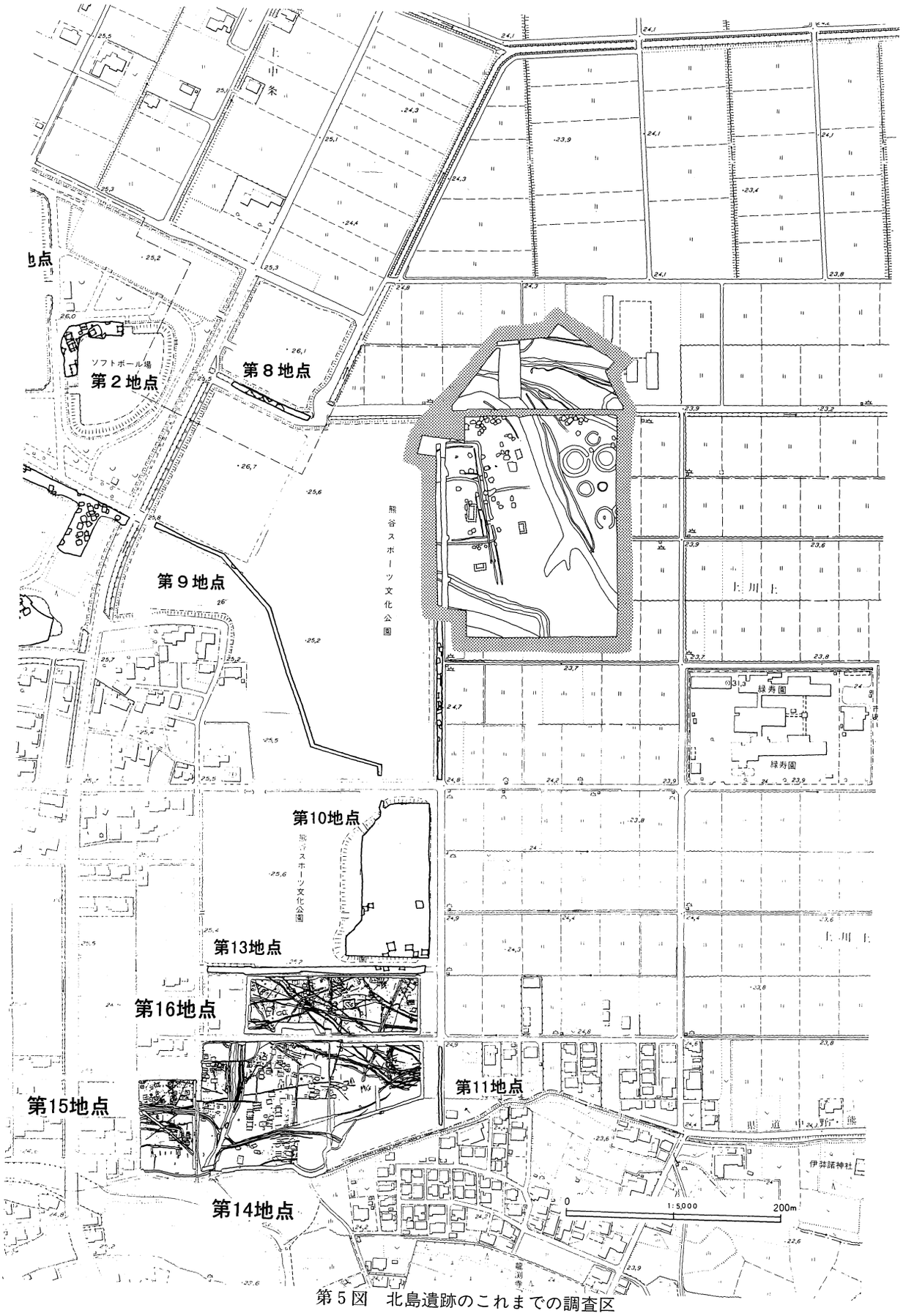
地点名	面　積	竪　穴 住居跡	掘　立 柱建物跡	井戸跡	土　壙	溝	柵　列	道路跡	水田跡	そ の 他	文　献
	㎡	軒	棟	井	基	条	列	条			
第1地点	5,800	21	9	5	24	13			○		i
第2地点	1,300	9	13	2	13	24					i
第3地点	2,900	54	1	9	34	65					i
第4地点	1,800	45	7	3	17	17					i
第5地点	1,600	37	2	2	0	25					i
第6地点	1,000	29	6	5	38	0				墓壙（1）	i
第7地点	2,200	4	15	1	18	20					i
第8地点	300	3	2	0	4	2					i
第9地点	900	4	1	1	7	35					ii
第10地点	10,000	2	8	0	15	35				火葬墓（2）	ii
第11地点	150	0	0	0	7	15					ii
第12地点	1,250	21	2	2	114	30					iii
第13地点	1,400	0	3	1	19	31					iii
第14地点	19,100	72	43	15	78	102	4				iv
第15地点	4,200	34	9	0	28	29		1			iv
第16地点	8,480	11	15	20	48	119	2				iv
第19地点	10,000	192	77	95	497	442		2	○	地鎮跡（1）	v

文献
i　『北島遺跡』　1989　㈶埼玉県埋蔵文化財調査事業団　第81集
ii　『北島遺跡(II)』　1989　㈶埼玉県埋蔵文化財調査事業団　第88集
iii　『北島遺跡(III)』　1991　㈶埼玉県埋蔵文化財調査事業団　第103集
iv　『北島遺跡(IV)』　1998　㈶埼玉県埋蔵文化財調査事業団　第195集
v　『北島遺跡(V)』　2002　㈶埼玉県埋蔵文化財調査事業団　第260集



第４図　北島遺跡17・19地点周辺の条里型地割


天神遺跡
第１地点
第５地点
第６地点
第４地点
第３地点
第７地点
展望広場
熊谷スポーツ文化公園
Aグラウンド
Bグラウンド
Cグラウンド
熊谷ラグビー場
第



第５図　北島遺跡のこれまでの調査区

公園内道路の建設に伴う発掘調査であった。

第４地点　第３地点の西に連続したクランク状の調査区である。調査区の西半は、第１地点から続く浅間山Ｂ軽石層によって覆われた平安時代の水田であった。東半は、第３地点から続く竪穴住居跡群で掘立柱建物跡も数棟確認することができた。公園内道路の建設に伴う発掘調査であった。

第５地点　第１地点と第２地点に挟まれたところに円形に設定された調査区である。比較的集中した竪穴住居跡群を検出した。調査区北寄りには、二条の平行した溝も確認できた。さいたま博覧会シンボルタワーの建設に伴う発掘調査であった。

第６地点　北島遺跡の西端部に設定した東西に長い調査区である。調査区全体にわたって、竪穴住居跡をやや疎らに検出した。第６地点の西側は、古代の水田地帯となるようである。公園内道路の建設に伴う発掘調査であった。

第７地点　遺跡の中央付近に台形状に設定した調査区である。調査区の南半は、なだらかに傾斜し旧流路へと続く。旧流路は、現在、久保島用水として東に流れる農業用水路となっている。この流路跡に向かって、食器を中心とした大量の遺物が廃棄されていた。また調査区の北半には、小規模な竪穴住居跡と小穴群を検出した。公園内の調節池の建設に伴う発掘調査であった。

第８地点　第２地点の東側に設定した東西に長い調査区である。遺構は、掘立柱建物跡群と竪穴住居跡、及び小穴群を検出した。遺構群は、比較的疎らな配置であった。用水路建設に伴う発掘調査であった。

第９地点　第３地点の東につながる細長い調査区である。多数の溝跡群を検出した。竪穴住居跡や掘立柱建物跡に復元できる遺構は少なかった。用水路建設に伴う発掘調査であった。

第10地点　第９地点に接続する長方形状の調査区である。大形の溝跡群と、条里地割にかかる大形の溝を確認した。遺跡の南部には、掘立柱建物跡群を検出した。公園内の調節池の建設に伴う発掘調査であった。

第11地点　第10地点からつながる細長い調査区である。溝跡群や土壙を検出した。用水路建設に伴う発掘調査であった。

第12地点　今回報告する第19地点の西に隣接した調査区である。竪穴住居跡や土壙群を検出したが、古代の遺構は、僅かしか確認されていない。しかし第19地点で検出した古代の区画溝や古墳時代前期の区画溝など掘削深度の深い遺構は、確認できた。用水路建設に伴う発掘調査であった。

第13地点　第10地点の南側、東西に細長い調査区である。掘立柱建物跡と複数の溝跡群を検出した。用水路建設に伴う発掘調査であった。

第14地点　これまでの調査区の最南端部で台形の調査区である。溝跡群や掘立柱建物跡・竪穴住居跡を多数検出した。調査区の西よりに大形の河川跡も確認している。上之調節池建設に伴う発掘調査であった。

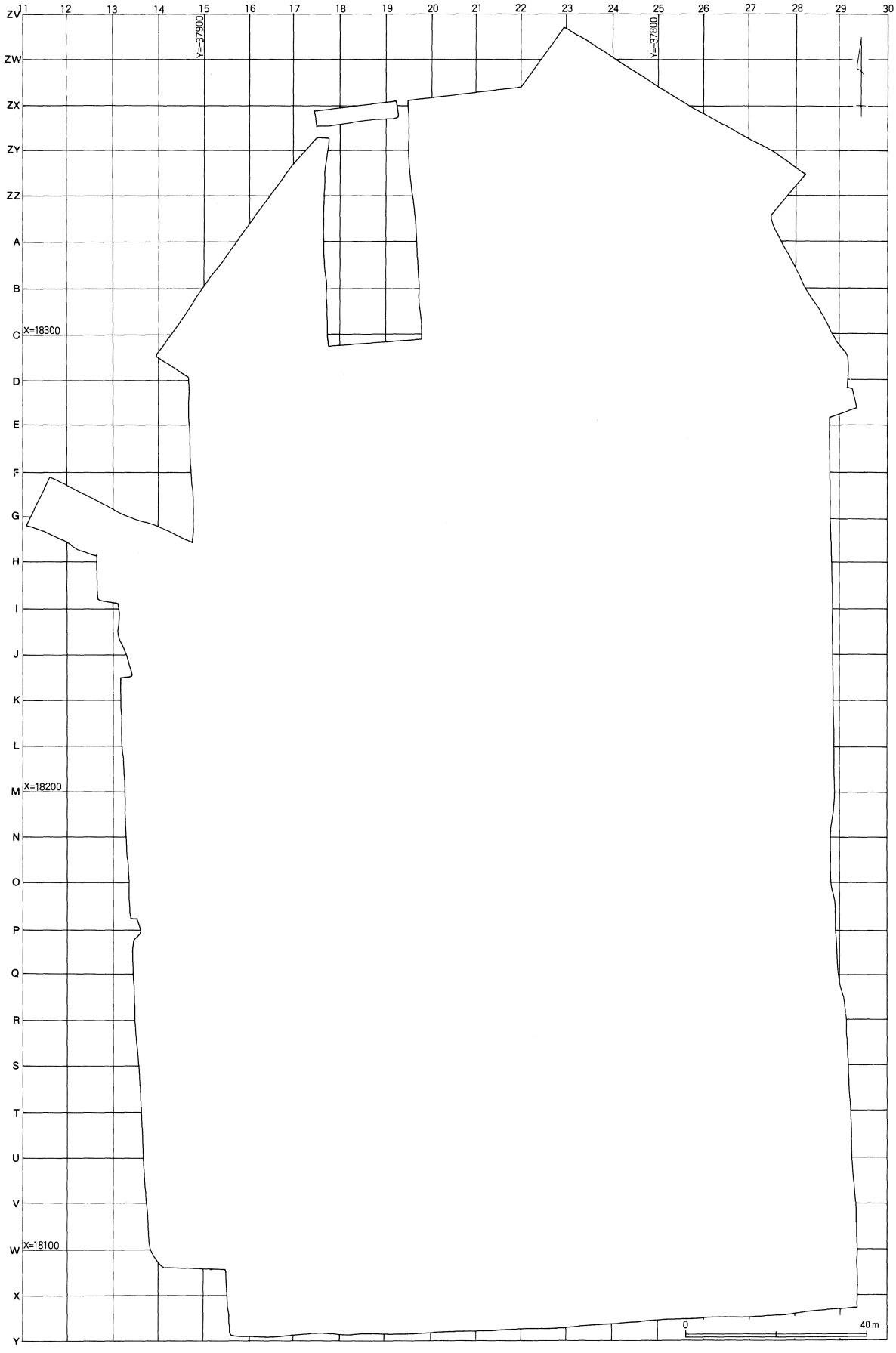
第15地点　第14地点の西隣で長方形の調査区である。南半は、掘立柱建物跡を迂回する道路跡と、竪穴住居跡群、北半は、やや疎らな竪穴住居跡群を検出した。また第14地点に続く大形の溝も検出した。上之調節池建設に伴う発掘調査であった。

第16地点　第14地点の北に隣接した長方形の調査区で、多数の溝跡群を検出した。また小規模な掘立柱建物跡や竪穴住居跡も検出した。上之調節池建設に伴う発掘調査であった。

以上、これまでの北島遺跡の調査をまとめると、竪穴住居跡346軒、掘立柱建物跡136軒、井戸66井、土壙464基、溝跡562条に及ぶ。低地の遺跡にふさわしく、溝跡の多い遺跡である。また竪穴住居跡に対する掘立柱建物跡の比率も高い遺跡である。

なお、第19地点の調査の概要については、次項で述べることとする。また第４図では、第17地点で確認した平安時代の条里地割に基づいて、周辺部に補助線を施した。

第6図　北島遺跡第19地点全体図



第７図　北島遺跡第19地点グリッド網図

IV　遺構と遺物

北島遺跡第19地点では、弥生時代から近世までの遺構・遺物を検出した。なかでも今回報告する古代から近世の遺構・遺物は、竪穴住居跡192軒、掘立柱建物跡78棟、井戸跡95井、土壙497基、溝跡442条、道路跡２条、地鎮跡１基、集石遺構１カ所、土器集積遺構１カ所であった。

第19地点は、屋内体育館にかかる調査であったため、体育館本体と擁壁・機械設備の設置される地点について調査を行った。そのため調査区は、長方形の本体の北側に円形の調査区を接合した形態となった。

今回報告するのは、竪穴住居跡・掘立柱建物跡・井戸跡・土壙・溝跡・道路跡・小穴・地鎮跡についてである。ただし道路跡の詳細は、第２編で再論する。なお集石遺構、土器集積遺構、確認面直上層出土遺物、中世・近世遺物、井戸枠・坑樋・木製品、人骨・獣骨、植物性遺物、墨書土器、灰釉陶器、緑釉陶器、土錘、砥石、木簡、銅鏡、道路跡・水田跡などについては、次年度以降の報告に譲りたい。

遺構は、調査区の西側、円形に集中していた。東側には、古墳時代後期の古墳群、北側には、溝跡群、南側には、道路跡と溝跡群が広がっていた。中央には、南北に走る低地帯が、調査区全体を二分していた。

この低地帯は、弥生時代中期に灌漑用水路が築かれ、古墳時代後期まで維持されてきたが、７世紀後半以降は、小川となり、12世紀には、水田となっていた。調査区中央やや南には、低地帯が広がるが、２カ所手の平状に窪む箇所がある。この窪みの落ち際に集石遺構を検出した。

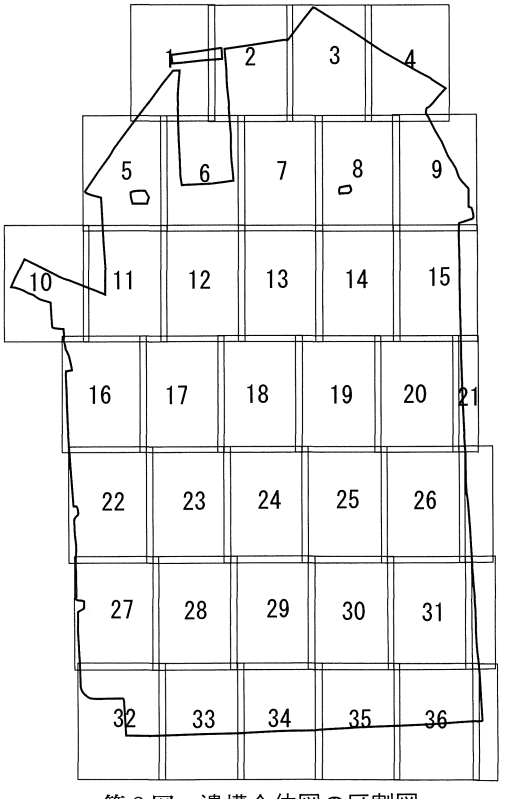
この低地帯は、旧河川とも考えられ、北から南へ向かって進み、17地点の北西隅をかすめた。調査区の南西の隅にも河川跡を確認した。この河川跡に沿ってＬ字状に屈曲する道路跡が走っていた。この道路跡は、幅６ｍあり、第17地点の水田跡の大畦畔に続いていく。

また第19地点の北西隅をかすめた河川跡は、第７地点の南西で検出した河川跡から続き、第20地点を南北に横切る。西から北東へ向かった河川跡で、現在の久保島用水路と共通した走行の流路といえよう。

竪穴住居跡は、調査区西側一帯と、東側の古墳群の隙間に集中的に構築された。また掘立柱建物群は、調査区西側のみに検出した。竪穴住居跡・掘立柱建物跡とも７世紀前半から11世紀に及ぶ。

井戸跡は、調査区全体に亘っているが、とくに調査区西側に多い。中でも中世の井戸が多い。北島遺跡では、地表下80cm前後に常時透水層があり、掘削深度がそれ以上の場合、有機質の木製品が残存している場合が多い。井戸跡からは、木組みや竹編みの井戸枠、あるいは、曲げ物が納められた場合がしばしばみられた。

第19地点では、区画溝、灌漑用水路、耕作痕跡など様々な目的別の溝が掘削されたが、とくに調査区西側で検出した区画溝は、奈良時代の建物群や平安時代の建物群を区画していた。



第８図　遺構全体図の区割図

平安時代の区画溝は、二重の溝でやや歪んだ方形となる。東には二カ所の開口部を確認でき、北側は、冠木門か棟木門、南側は、四脚門を検出した。

出土した遺物には、古代から近世にかけての土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、黒色土器、土師質土器などの窯業製品があった。窯業製品には、坏・椀・皿・鉢などの食器、壺・甕・長頸瓶などの貯蔵具、甕・甑などの煮沸具、硯・水滴などの文房具、花瓶・仏鉢を模倣した土器などが出土した。

また刀子や鉄鏃などの鉄製品、秤の錘となる石製の権、砥石、鞴の羽口、石製・土製の紡錘車なども出土しており、これらについて本報告書に掲載した。

なお、本報告書では、掲載した遺物の計測値、色調、残存率等については、各章（遺構の種類別）ごとに一覧表の形で掲載したのでそちらを参照していただきたい。

住居跡	
番号	グリッド
1	Z・Y24・25
2	B26
3	B27
4	C26
5	C26・27
6	E16
7	D・E16
8	D・E17
9	D・E17・18
10	D18
11	D・E18
12	D・E18・19
13	D18・19
14	D19
15	D・E23
16	D・E23
17	D・E23・24
18	D・E24
19	D24
20	E24
21	D・E24
22	D24・E25
23	D・E24・25
24	D・E25
25	D・E25・26
26	E14・15
27	E・F14・15
28	E15
29	E15
30	E15・16
31	E15
32	E15
33	E15・16
34	E15・16
35	E・F15
36	E15・16
37	E16・17
38	E16
39	E・F16
40	E・F16
41	E・F16・17
42	E17・18
43	E17
44	E17・18
45	E17
46	E17・18
47	E17・18
48	E18
49	E・F18
50	E・F18
51	E23・24
52	E24・25
53	E25
54	E25
55	F14
56	F15
57	F15・16
58	F15・16
59	F15・16
60	F16
61	F16
62	F16
63	F16
64	F16
65	F16・17
66	F・G17
67	F・G17・18
68	F18
69	F18
70	F18
71	F18
72	F18・19
73	F・G19
74	F24・25
75	F25
76	F28
77	F・G28
78	G13
79	G13
80	G14
81	G14・15
82	G14・15
83	G15
84	G15
85	G15
86	G15
87	G16
88	G・H17・18
89	G18
90	G・H18
91	G26
92	H13
93	H13
94	H13
95	H13・14
96	H13
97	H13・14・I 14
98	H13・I 13・14
99	H14
100	H15
101	H15・16
102	H16
103	H・I 16・17
104	H・I 17
105	H17・18
106	H17・18・I 18
107	H18
108	H18
109	H18・I 17・18
110	H18
111	H・I 18・19
112	I 13
113	I 13・14・I・J15
114	I・J 14
115	I 15・J 15
116	I・J 16
117	I 16・17
118	I 17
119	I 17
120	I 17
121	I 18・19
122	J 13
123	J 14
124	J 16
125	J 16
126	J 16
127	J 17
128	J・K18
129	K14
130	K・L14
131	K15
132	K15
133	K15
134	K・L15
135	K・L16
136	K16・17
137	K19
138	K・L20
139	K・L20
140	L20
141	L15
142	L15
143	L・M15
144	L16・17
145	L17
146	L17・18
147	L・M17
148	L17・18
149	L18
150	L18
151	L・M18
152	L18
153	L18
154	L18・19
155	L19
156	L19
157	L・M19
158	M・N15
159	M15
160	M16
161	M17
162	M・N17・18
163	L・M18
164	M18
165	M19
166	M19
167	M19
168	M・N19
169	M・N19
170	N19・20
171	M・N19・20
172	M・N19・20
173	M20
174	N13
175	N16
176	N・O17・18
177	N・O18
178	N・O18
179	N18
180	O13・14
181	O13・14
182	O13・14
183	O15
184	O15・16
185	O16
186	P15・16
187	P16
188	P・Q16
189	P16
190	P16・17
191	Q17・18
192	Q・R17・18

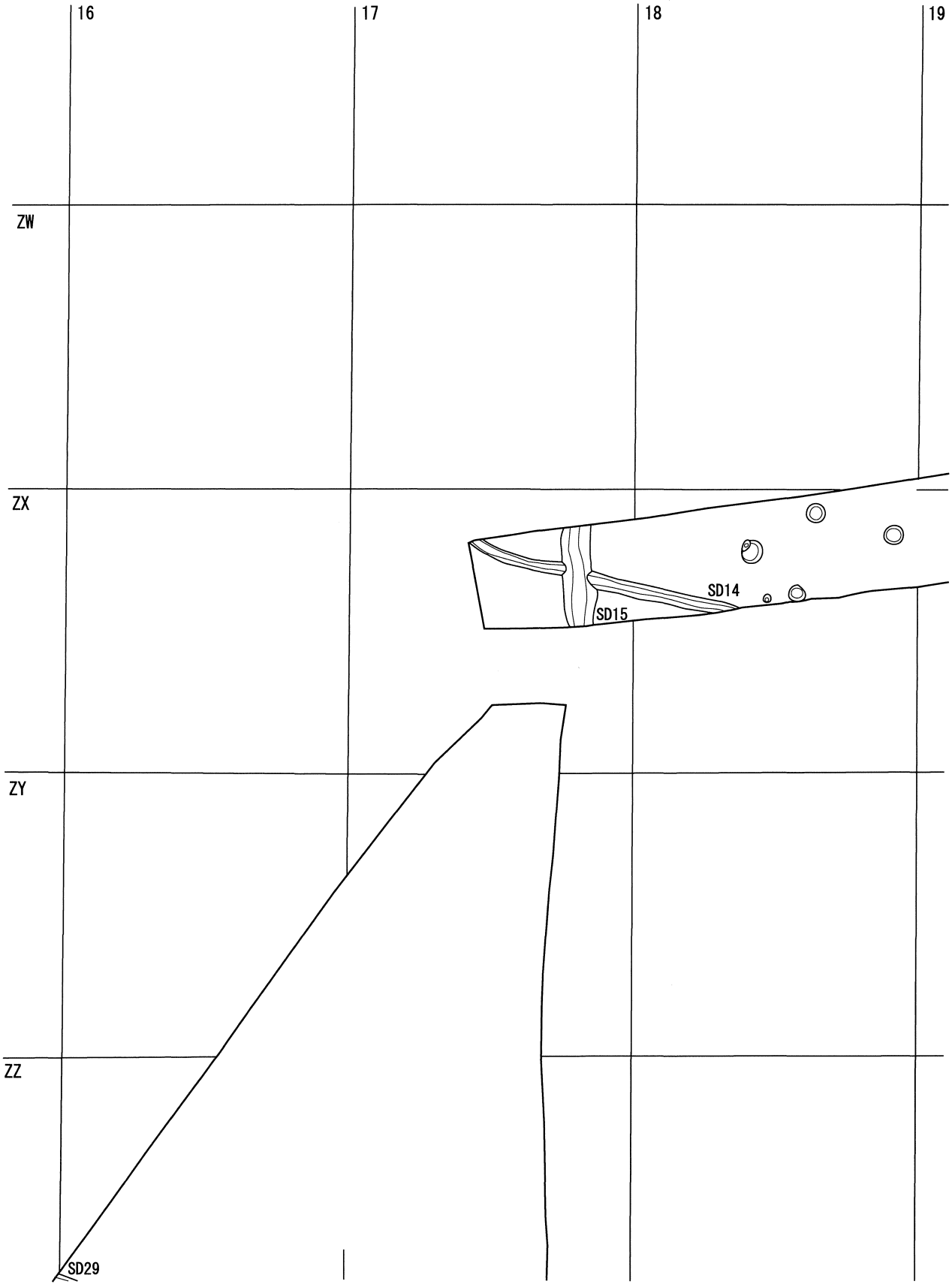
掘立柱建物跡	
番号	グリッド
1	F17・18
2	F・G18
3	G11
4	G16・17・H16
5	F・G17・18
6	G18・H18・19
7	G・H18・19
8	G・H18・19
9	G19
10	G19
11	G19・H19・20
12	H12・13
13	H15・16
14	H15・16
15	H16
16	H16
17	I・J 13・14
18	I 16
19	J・K13・14
20	J・K14・15
21	K14・L13・14
22	J・K15
23	J・K15
24	J・K15
25	K・L15
26	L15・16
27	L15・16
28	K・L18
29	K19・20
30	K20
31	L・M17・18
32	L・M17・18
33	L20
34	K・L15
35	M・N13
36	L・M・N15・16
37	M・N17
38	M・N20
39	M・N21
40	M・N21
41	M14・N13・14
42	M14・N13・14
43	N14・15
44	N14・15
45	N・O13・14
46	N・O14・15
47	P・Q14・15
48	N・O13・14
49	N15・16
50	N16
51	N17
52	N・O20
53	N・O20
54	P・Q14・15
55	O・P14・15
56	O・P17・18
57	O・P18
58	P13・14・Q13
59	P15
60	P14・15
61	P・Q15
62	P17・18
63	P13・Q13・14
64	Q13・14
65	Q・R16
66	R16
67	R16
68	R16・17
69	R・S17・18
70	Q20・R20・21
71	R15・S15・16
72	S17・18
73	S・T18
74	U15・16
75	U・V15・16
76	U・V16・17
77	U・V16
78	T19

井戸跡	
番号	グリッド
1	ZW22
2	ZY・ZZ22・23
3	A27
4	E18
5	E24
6	E25
7	E26
8	F28
9	F26
10	F27
11	H17
12	H20
13	H25
14	H25
15	H26
16	I・J 21
17	I 26
18	I 26
20	I 27
21	I・J 13
22	J 13・14
23	J 13・14
24	J 20
25	J 21
26	J 25
27	J 25
28	J 25
29	J 25
30	K25
31	J 27
32	J 27
33	J 27
34	K13
35	K13
36	K13
37	K14
38	L13
39	L14
40	L15
41	L26
42	M・N15・16
43	M15・16
44	N15
45	M17
46	M17
47	M17
48	M18
49	M18
50	M18・19
51	N18
52	M19
53	M19
54	N14
55	N15
56	N15
57	N16
58	N16
59	N16
60	O16
61	O13
62	O・P13・14
63	O14
64	O15
65	O15
66	O16・17
67	O16
68	O16
69	O16
70	O16
71	O17
72	O17
73	O17・18
74	O18
75	O18
76	O18
77	P13
78	P14
79	P16・17
80	P17
81	P17
82	Q13・14
83	Q13
84	Q13
85	Q15
86	Q15・16
87	Q17
88	Q18
89	Q22
90	R17
91	S14
92	S14
93	S15
94	T17
95	W23

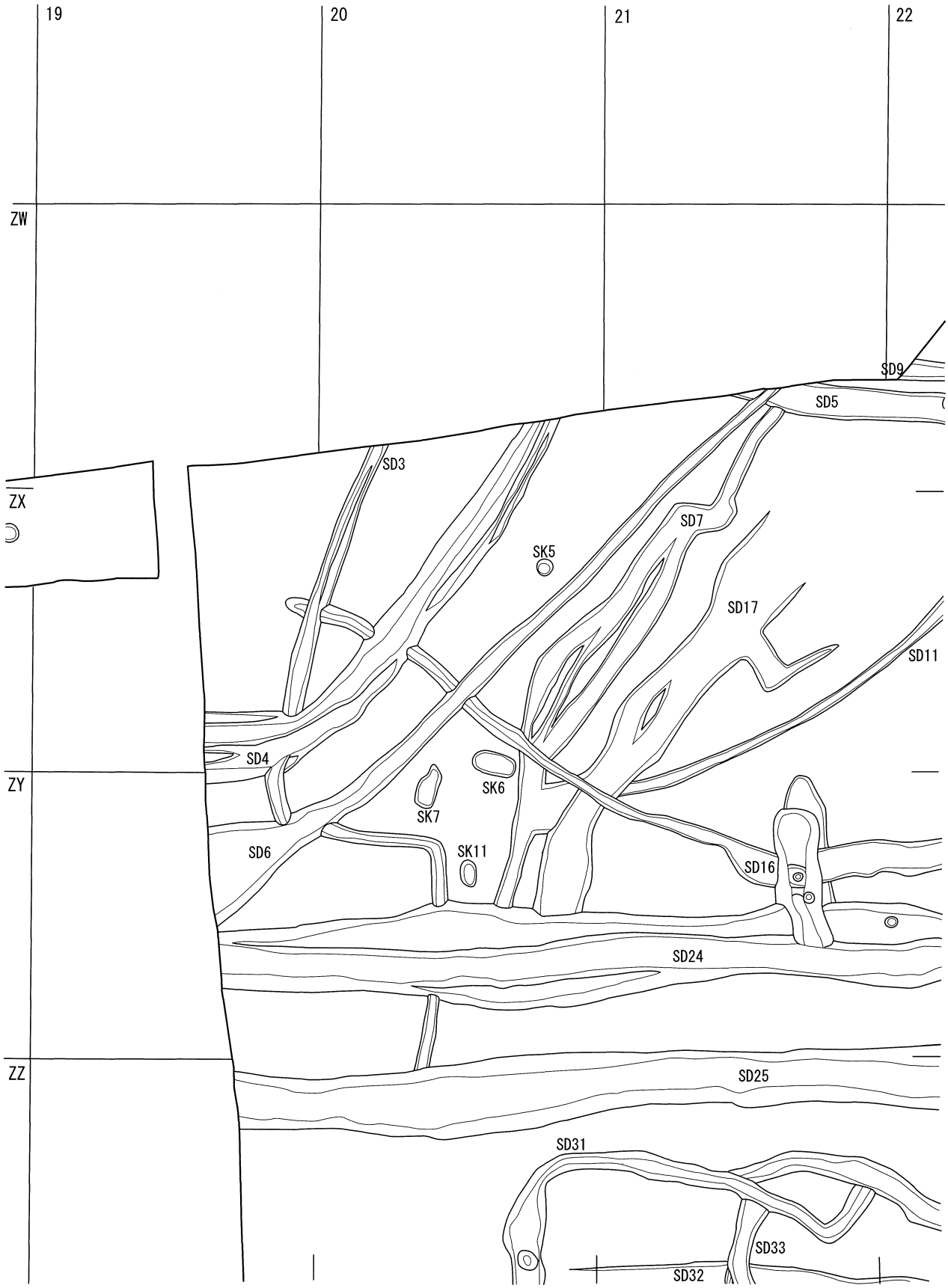
土壌	
番号	グリッド
1	ZV・ZW23
2	ZW24
3	ZW24
4	ZW25
5	ZX20
6	ZY20
7	ZX・ZY20
8	ZX24
9	ZX25
10	ZX25
11	ZY20
12	ZY23
13	ZY26
14	ZZ25
15	A24
16	A・B24
17	B・C23
18	B25
19	C17
20	C20
21	C21
22	C22
23	C22
24	C23
25	C23
26	C23
27	C23
28	D・E18
29	D19
30	D23
31	D24
32	E・F14・15
33	E15
34	F15
35	E16
36	E16
37	E16
38	E17
39	E18・19
40	E18・19
41	E18
42	E19
43	E19
44	E24
45	E24
46	E24
47	E24
48	E24
49	E24
50	E25
51	E25・26
52	F・G12・13
53	F14
54	F14・15
55	F15
56	F16
57	F17
58	F・G17
59	F18
60	F19
61	G12
62	G12
63	G12
64	G・H13
65	G14
66	G15
67	G15
68	G・H17
69	G・H17
70	G・H17
71	G18
72	G18
73	G18
74	G18
75	G20
76	G20
77	G・H20
78	H13
79	H13・14
80	H13
81	H14
82	H14
83	H14
84	H14
85	H15
86	H15
87	H15
88	H16・17
89	H17
90	H17
91	H16・17
92	H17
93	H・I 17
94	H18
95	H18
96	H18
97	H19
98	H19
99	H・I 19
100	H・I 19
101	H19・20
102	H20
103	H20
104	H20
105	H20・21
106	H25
107	I 13
108	I 13
109	I 13
110	I 13
111	I 13
112	I 13
113	I 13
114	I 13
115	I 13
116	I・J 13
117	I 14
118	I 14
119	I 14
120	I 14
121	I 14
122	I 15
123	I 14・15
124	I 15
125	I 14・15
126	I・J 15
127	I・J 15
128	I 17
129	J 17・I・J 17
130	I 18
131	I 18
132	I 18
133	I 18
134	I 19
135	I 19
136	I 19
137	I 19
138	I 19
139	I 19
140	I 19
141	I 19
142	I 19・20
143	I・J 19
144	I 20
145	I 20
146	I 20
147	I 20
148	I 20
149	I 19・20・J 20
150	I 20
151	I 20
152	I 20
153	I 21
154	I 20・21
155	J 13
156	J 13
157	J・K13・14
158	J 14
159	J 13・14
160	J 14・15・16
161	J 15
162	J 16
163	J 16
164	J 16
165	J 17
166	J 17
167	J 18・19
168	J 18
169	J 18
170	J 18
171	J 18・19
172	J・K18・19
173	J 19
174	J 19
175	J 19
176	J 20
177	J 20
178	J 20
179	J 20
180	J 20
181	J 20
182	J 21
183	J 21
184	J 21
185	J・K21
186	J 23
187	K23
188	J 25
189	K13
190	K・L13・14
191	K14
192	K15
193	K15
194	K15
195	K15
196	K15
197	K15
198	K15
199	K16
200	K・L17
201	K18
202	K18
203	K19
204	K19
205	K20
206	K21
207	K21
208	K22
209	K・L22
210	K25
211	L13・14
212	L13・14
213	L13
214	L13
215	L13
216	L・M13
217	L14
218	L14
219	L14
220	L14
221	L14
222	L14
223	L14・M14・15
224	L15
225	L15
226	L15
227	L15
228	L15
229	L15
230	L15
231	L15
232	L15
233	L15
234	L・M15
235	L・M15
236	L・M15・16
237	L16
238	L16
239	L16
240	L・M16
241	L・M16
242	L16
243	L17
244	L・M17
245	L18
246	L・M18
247	L19
248	L19
249	L19
250	L20
251	L21
252	L・M23
253	M13
254	M13
255	M13
256	M13・14
257	M13
258	M13
259	M13・14
260	M14
261	M14
262	M14
263	M14
264	M14
265	M14
266	M14
267	M14
268	M14
269	M14・15
270	M14
271	M14
272	M14
273	M14
274	M14
275	M14・15
276	M14・15
277	M14
278	M15
279	M14・15
280	M15
281	M15
282	M15
283	M15
284	M15
285	M15
286	M15
287	M・N15
288	M17
289	M18
290	M18
291	M18
292	M・N22
293	M23
294	M・N23
295	M・N24
296	M24
297	M24
298	N14
299	N14
300-1	N14
301-2	N14
302-3	N14
303-4	N14
304	N15
305	N15
306	N15
307	N15
308	N15
309	N15
310	N15
311	N15・16
312	N・O15
313	N・O15
314	N15・16
315	N16
316	N・O17
317	N18

318	N19	429	S15	10	Z X22	29	F27	44	I 21	61	E20	87	M17	129	K17
319	N20	430	S15	10	Z X23	29	F28	44	I 21	62	D19	87	N17	129	J 18
320	N20	431	S15	10	Z Y22	30	Z Z15	44	J 22	62	E19	88	G13	129	J 19
321	N20	432	S・T15	10	Z Y23	30	Z Z16	44	J 23	62	E20	89	G13	130	J 18
322	N23	433	S16	10	Z Y24	30	A15	44	K22	62	F20	90	G12	131	J 18
323	N23	434	S16	10	Z Y25	30	A16	44	K23	62	G20	90	G13	131	J 19
324	N23	435	S16	11	Z W22	30	A17	44	L22	63	D22	90	G14	132	J 18
325	N・O23	436	S16	11	Z X22	31	Z Z20	44	L23	63	E22	90	G15	132	J 19
326	O13	437	S16	11	Z X21	31	Z Z21	44	M23	64	D22	90	H12	133	J 18
327	O13	438	S・T16	11	Z Y21	31	Z Z22	44	M24	64	D23	90	H13	133	J 19
328	O13	439	S・T16・17	12	Z W24	31	Z Z23	44	N23	64	E22	91	G15	133	K18
329	O14	440	S17	12	Z X24	31	Z Z24	44	N24	65	D24	91	H15	133	K17
330	O15	441	S17	12	Z Y24	31	Z Z25	44	N25	65	E24	91	I 15	134	J 18
331	O15	442	S17	12	Z Z23	31	A25	44	O24	66	D24	91	I 16	134	K18
332	O15	443	S17	12	Z Z24	31	A26	44	O25	66	D25	91	J 16	135	J 19
333	O15	444	S17	12	A23	31	A27	44	O26	66	E24	91	K16	135	K19
334	O16	445	S18	12	A24	31	A28	44	P25	66	E23	91	L16	136	J 19
335	O16	446	S19・20	13	Z W24	31	Z Z21	44	P26	66	F23	91	M16	137	J 19
336	O16	447	S19・20	13	Z X24	32-1	Z Z20	44	Q26	66	F22	91	M17	137	J 20
337	O16	448	S・T20	14	Z X17	32-1	Z Z21	44	Q27	67	E15	91	N16	137	K19
338	O16	449	S・T21	14	Z X18	32-1	Z Z22	44	R26	67	E16	91	N17	138	J 20
339	O・P16	450	S22	15	Z X17	32-1	Z Z23	44	R27	67	E17	91	O17	139	J 20
340	O・P16	451	T13・14	16	Z X19	32-1	A20	44	R28	67	E18	92	G17	140	J 21
341	O・P16	452	T14	16	Z X20	32-1	A21	44	S27	68	E16	92	G18	141	J 19
342	O17	453	T・U14	16	Z Y20	32-1	A22	44	S28	69	E17	93	G18	141	J 20
343	O17	454	T15	16	Z Y21	32-1	A23	44	T27	70	E18	94	G19	142	J 21
344	O18	455	T15・16	16	Z Y22	32-1	B27	44	T28	70	E19	95	G19	143	J 21
345	O18	456	T15・16	16	Z Y22	32-1	B28	44	T29	70	F19	96	G19	143	K21
346	O18	457	T15・16	16	Z X22	32-1	Z Z24	44	U28	70	F20	97	G19	144	J 21
347	O18	458	T16	16	Z X23	32-1	Z Z25	44	U29	70	G19	97	G20	144	K21
348	O18	459	T U16	16	Z Y23	32-1	A24	44	V29	70	G20	98	G19	145	J 21
349	O18・19	460	T19	17	Z X21	32-1	A25	45	B16	71	E18	99	G19	145	K21
350	O19	461	T19	17	Z X20	32-1	A26	45	C16	71	E19	100	G19	146	J 21
351	O20	462	T20	17	Z Y20	32-1	A27	45	C17	72	E19	101	G19	147	J 24
352	O20	463	U・V14	17	Z Y21	32-2	A24	46	B19	73	E19	102	G19	147	K23
353	O・P20	464	U15	18	Z X26	32-2	A25	46	B20	74	E18	102	H19	147	K24
354	O23	465	U15	18	Z X25	32-2	A26	46	C20	74	E19	103	G19	148	J 24
355	O・P25	466	U15	18	Z Y25	33	Z Z21	47	B20	74	F19	103	H19	148	J 25
356	O26	467	U15	18	Z Y24	33	A21	47	C20	74	G19	104	G20	148	J 26
357	O26	468	U15・16・V15	19	Z X26	33	A22	47	C21	74	G20	105	G20	148	J 27
358	P13	469	U16	19	Z Y26	34	Z Z24	47	D20	74	H20	106	G20	148	K23
359	P13	470	U16	19	Z Y25	34	Z Z25	47	D21	75	E21	106	H20	148	K24
360	P13	471	U16・17	20	Z Y25	34	Z Z26	47	E21	75	E22	106	H21	149	J 25
361	P・Q13	472	U16	20	Z Y26	35	A16	47	E22	75	F22	107	H19	149	J 26
362	P13	473	U22	21	Z X26	36	A17	47	F23	75	G22	108	H19	150	J 28
363	P・Q13	474	U26	21	Z Y26	36	A18	47	G22	75	H22	109	H19	150	K28
364	P14	475	U27・28	22	Z X26	36	A19	47	G23	75	I 22	110	H20	151	K13
365	P14	476	V15・16	22	Z Y26	36	B19	47	H23	75	I 23	111	H20	151	K14
366	P14	477	V17	22	Z Y25	36	B19	47	I 23	75	J 23	112	H20	151	K15
367	P14	478	V17	23	Z X26	36	B20	47	J 23	75	K23	113	H20	151	L15
368	P14	479	V17・18	23	Z Y27	36	B21	47	J 24	75	K24	114	H20	151	L16
369	P14	480	V18	23	Z Y26	36	C21	47	K24	75	L24	115	H20	151	M16
370	P・Q14・15	481	V・W18	23	Z Z26	36	C22	47	K25	75	M24	115	H21	151	N16
371	P15	482	V23	23	A26	36	D22	47	L24	75	M25	115	I 20	151	O16
372	P15	483	V23	23	A25	36	E22	47	L25	75	N25	115	H20	151	O17
373	P・Q15	484	V・W23	23	B26	37	A19	47	M25	75	N26	115	I 20	151	P16
374	P・Q15	485	W20	23	B25	37	A20	47	N26	75	O26	116	H22	151	P17
375	P16	486	W20	23	C24	37	A21	47	O26	75	O27	116	I 22	151	Q17
376	P16	487	W20	23	C25	37	A22	47	P26	75	O28	116	J 22	152	K14
377	P16	488	W21・22	23	Z Y26	37	B21	48	B22	75	P28	116	J 23	152	K15
378	O・P17	489	W22	24	Z Y19	37	B23	48	C22	75	P29	116	K23	153	K17
379	O・P17	490	W23	24	Z Y20	37	C23	48	C21	76	E22	116	K24	153	K18
380	P19	491	W23・24	24	Z Y21	37	C24	49	C16	76	E23	116	L23	153	K19
381	T19	492	W23	24	Z Y22	37	C25	49	C17	77	E22	116	L24	153	K20
382	P24	493	W・X23	24	Z Y23	37	D24	49	D17	77	E23	116	M24	154	J 18
383	P24	494	X20	24	Z Y24	37	D25	50	C16	78	E24	116	N24	155	K18
384	P24・25	495	X21	24	Z Y25	37	D26	50	C17	78	E25	116	N25	155	K19
385	P24	496	X21	24	Z Y26	37	D27	51	C17	78	E26	116	O25	155	L19
386	P24	497	X27	24	Z Z26	37	E27	52	C17	78	E27	116	O26	155	L20
387	P・Q24	溝跡		24	Z Z27	37	E28	52	D17	78	F26	116	P26	156	K18
388	P・Q24	番号	グリッド	25	Z Y20	37	D26	53	C17	78	F27	116	P27	156	L18
389	P・Q24	1	Z V22	25	Z Y21	37	D27	53	C18	78	F28	117	I 18	157	K19
390	P・Q24	1	Z W22	25	Z Y22	37	E26	54	C17	79	F18	117	J 18	157	L19
391	P・Q24	1	Z W23	25	Z Y23	37	E28	54	C18	79	G18	117	K18	157	L20
392	P25	1	Z W24	25	Z Z19	37	F28	54	D17	80	F19	118	I 18	157	M20
393	P25・26	1	Z X24	25	Z Z20	38	A19	54	D18	81	E25	119	I 18	158	K19
394	P25	1	Z X25	25	Z Z21	38	A20	55	C19	81	E26	120	I 19	159	K19
395	P・Q25	2	Z V23	25	Z Z22	38	B19	55	D19	81	E27	121	I 19	160	K20
396	Q13	2	Z W23	25	Z Z23	38	B20	55	D20	81	F25	121	J 19	160	K21
397	Q13	3	Z W20	25	Z Z24	39	A22	55	E20	81	F26	122	I 19	160	L20
398	Q13	3	Z X20	25	Z Z25	39	A23	55	F20	81	G25	122	J 19	160	L21
399	Q13	3	Z X19	25	Z Z26	39	B23	55	G20	82	E26	122	J 20	161	K21
400	Q14	3	Z Y19	25	A26	40	A25	55	G21	82	F25	122	K19	161	L21
401	Q14・15	3	Z Y20	25	A27	40	A26	55	H21	82	F26	123	I 26	161	M21
402	Q14	4	Z W20	25	A28	40	B25	55	I 21	82	F27	123	I 27	162	K21
403	Q14	4	Z X20	26	Z Y24	41	A25	55	J 21	82	F28	124	J 28	162	L21
404	Q14	4	Z X19	26	Z Y24	41	B25	55	J 22	83	F25	124	K28	163	K22
405	Q14・15	4	Z Y19	26	Z Y25	41	B26	55	K 2	83	F26	124	I 27	163	L21
406	Q15	5	Z W21	26	Z Y26	42	A27	55	L22	83	F27	124	J 27	163	L22
407	Q16	5	Z W22	26	Z Y27	42	B27	55	M22	83	G25	125	J 13	163	M20
408	Q17	5	Z W23	26	Z Y27	43	A27	55	M23	84	F27	125	J 14	163	M21
409	Q・R17	5	Z W24	27	Z Y27	43	B27	55	N22	84	F28	125	J 15	163	N19
410	Q18	5	Z X24	28	Z Y27	44	B14	55	N23	84	G28	125	J 16	163	N20
411	Q18	5	Z X25	29	Z Z15	44	B15	55	O23	84	H28	125	K15	163	O18
412	Q18	5	Z X26	29	Z Z16	44	B16	55	P23	84	I 28	125	K16	163	O19
413	Q20・21	6	Z W21	29	A16	44	B17	55	P24	84	J 28	125	L16	163	P17
414	Q21	6	Z X21	29	Z Z17	44	C17	55	Q24	84	K28	125	M16	163	P18
415	Q24	6	Z X20	29	A17	44	C18	55	R24	85	F28	125	N16	163	Q16
416	Q24	6	Z Y20	29	Z Z18	44	C19	55	S24	86	F28	125	N17	163	Q17
417	Q24	6	Z Y19	29	A18	44	C20	55	S25	87	G12	125	O17	163	R15
418	Q24・25	7	Z W21	29	A19	44	D19	55	Y25	87	G13	125	P17	163	S14
419	Q25	7	Z X21	29	A19	44	D20	56	C22	87	G14	125	Q17	163	S15
420	R13・14	7	Z X20	29	A20	44	E19	56	D22	87	G15	126	J 13	163	T14
421	R17	7	Z Y20	29	B20	44	E20	56	D23	87	G16	126	K13	163	U14
422	R23	8	Z W22	29	C22	44	F20	56	E23	87	H16	127	J 14	164	K24
423	R・S23	9	Z W22	29	C23	44	F21	57	D17	87	I 16	128	J 16	165	K25
424	R24	9	Z W23	29	C24	44	G20	57	D18	87	J 16	128	J 17	165	L25
425	R25・26	9	Z W23	29	D24	44	G21	58	D18	87	K16	128	J 18	166	L24
426	R26	9	Z W24	29	D25	44	H20	59	D18	87	K17	128	J 19	166	L25
427	S14	9	Z W25	29	E26	44	H21	60	D19	87	L16	129	J 17	166	L26
428	S14・15	10	Z W22	29	E27	44	H22	61	D19	87	L17	129	J 18	166	K26

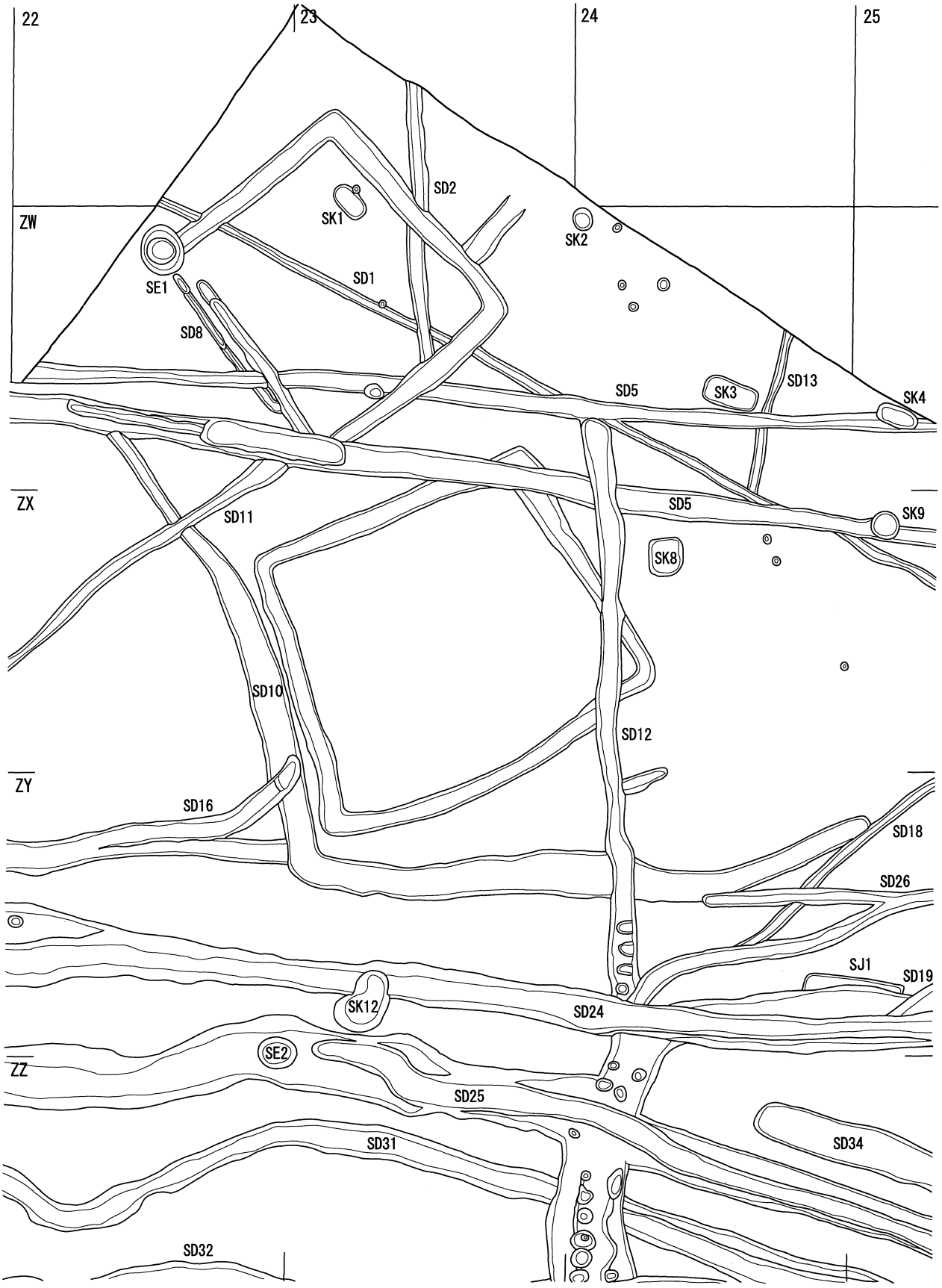
166	K27	200	M28	226	Q18	268	P15	305	R16	324	U23	344	U17	393	V19
166	K28	200	M29	226	Q18	268	Q15	306	R16	324	U24	344	V17	394	V19
167	K28	200	N22	226	R16	269	P16	306	S16	324	V22	344	V18	395	V19
168	K28	200	N23	226	R17	269	Q16	307-1	R16	324	V23	345	U14	396	V19
169	K28	200	N24	226	S15	270	P16	307-1	R17	324	W22	345	U15	397	V19
169	L25	200	N25	226	S16	270	P17	307-2	R16	324	W23	346	U16	397	V20
169	L26	200	N26	226	T13	271	P17	307-2	R17	324	X22	346	V15	397	W20
169	L27	200	N27	226	T14	271	Q17	307-2	S15	325	T13	346	V16	397	W21
169	L28	200	N28	227	N22	272	P16	307-2	S16	325	T14	346	V17	398	V20
170	L14	200	N29	228	N22	272	P17	308	R17	325	T15	346	V16	398	V21
171	L14	200	O20	228	N23	273	P17	308	S16	325	U16	346	V17	398	W21
172	L14	200	O21	229	N24	274	Q17	308	S17	325	U17	347	U17	398	W22
173	L14	200	O22	229	O24	275	P17	308	T16	325	U18	348	U17	399	V20
174	L15	200	O23	229	O25	275	Q17	308	T16	325	V18	349	U17	400	V20
174	L16	200	P20	229	O26	275	R17	308	U16	325	V19	350	U17	400	V21
175	L16	200	P21	229	P25	275	R18	309	R17	325	V20	351	U17	400	V20
176	L18	200	Q19	229	P26	275	S18	309	R18	325	V21	352	U17	401	V21
177	L19	200	Q20	230	N25	276	P16	310	R17	325	V22	353	U17	402	V21
178	L19	200	R13	230	O25	276	P17	311	R18	325	W22	354	U17	403	V22
178	L20	200	R14	231	N26	277	P17	312	R19	326	T13	355	U17	403	V23
178	M19	200	R15	231	N27	277	P18	313	R19	326	T14	356	U17	403	W23
178	M20	200	R16	231	O26	277	Q18	313	R20	326	T15	357	U17	403	W24
179	L19	200	R17	231	O27	277	R18	314	R24	326	U15	358	U17	403	W25
179	L20	200	R18	232	O14	277	S18	314	R25	327	T14	359	U17	403	X25
180	L21	200	R19	233	O15	277	T18	314	R26	327	T15	360	U17	403	X26
180	M21	200	S16	233	O16	278	P17	314	S23	327	U15	361	U17	403	X27
181	L25	200	S17	233	P13	278	P18	314	S24	327	U16	362	U17	404	V22
182	L23	200	S18	233	P14	279	P18	314	S25	327	V16	363	U17	404	V23
182	M23	201	N16	233	P15	279	Q18	315	R28	327	V17	364	U17	404	W22
182	N23	201	O16	234	O15	280	P18	315	R29	327	V18	365	U18	405	V27
182	N24	202	N16	234	P15	280	P19	315	S26	327	V18	366	U19	405	V28
182	O23	202	O16	234	P16	280	P20	315	S27	327	V19	366	V19	405	V29
182	O24	203	N16	234	Q16	280	P20	315	S28	327	W19	367	U19	405	W27
182	P24	204	N16	235	O15	280	P21	315	S29	327	W20	368	U19	406	V28
182	P23	205	N16	235	O16	280	Q20	315	T24	327	W21	369	U19	406	V29
182	Q23	205	O17	235	O17	280	Q21	315	T25	328	T15	369	V19	406	W28
182	Q22	205	O18	235	P15	280	Q22	315	T26	328	U15	370	U19	406	X27
182	R22	205	P18	236	O15	281	P19	315	T27	329	T17	370	V19	406	X28
182	S22	206	N17	236	O16	281	P20	315	U22	329	T18	371	U19	407	W21
182	S23	206	O17	237	O15	281	Q18	315	U23	329	T19	371	V19	407	W22
183	M13	206	P17	237	O16	281	Q19	315	V21	329	U19	372	U19	407	X21
183	M14	206	P13	237	P16	281	Q17	315	V22	329	U20	372	V19	407	X22
183	N14	206	P14	237	Q16	281	Q18	315	W20	330	T16	373	U19	408	W22
183	N15	206	P15	237	Q17	281	Q19	315	W21	330	T17	373	V19	408	X22
183	O15	206	P16	238	O15	282	P20	315	X20	331	T17	374	U19	408	X23
183	P15	207	N18	238	P14	282	P21	315	X21	331	T18	374	V19	409	W23
183	P16	208	N18	238	P15	283	P21	316	S13	331	U18	375	U19	409	X23
183	Q16	209	N18	238	Q13	283	P22	316	S14	331	U19	375	V19	410	W23
183	Q16	210	N18	238	Q14	284	P21	316	S15	331	U20	376	U19	410	X23
183	Q17	210	N19	239	P15	284	Q21	316	T14	332	T18	376	V19	411	W23
183	R17	211	N18	240	P15	284	Q22	316	T15	333	T18	377	U19	411	W24
183	R17	211	N19	241	O16	284	R22	316	T16	334	T20	377	V19	411	X24
183	R18	212	N18	242	O16	285	P22	316	T17	334	T21	378	U19	411	X25
183	R18	212	N19	243	O16	285	Q21	316	U17	334	U20	378	V19	411	X26
183	S18	213	N18	244	O16	285	Q22	316	U18	334	U21	379	U20	412	W23
183	S19	213	N19	244	O17	285	R20	316	U19	335	T21	379	V20	412	W24
183	T19	214	N18	245	O17	285	R21	316	U20	335	T22	380	U20	412	X24
183	T20	214	O18	246	O17	285	S20	316	U21	335	U20	380	V20	413	W23
183	U20	215	N19	247	O17	286	P24	316	V20	335	U21	381	U20	413	W24
183	U21	216	N19	247	O18	286	Q24	316	V21	336	T22	381	V20	413	X23
184	M13	217	N19	248	O18	286	Q25	316	V22	336	T23	382	U20	413	X24
184	M14	217	O17	249	O18	286	R25	316	V23	336	T24	382	V20	414	W23
184	N14	217	O18	249	O19	286	R26	316	W22	336	U20	383	U20	414	X23
185	M14	217	O19	249	P18	286	S25	317	S14	336	U21	383	V20	415	W23
186	M15	218	N19	249	P19	286	S26	318	S14	336	U22	383	V20	415	W24
186	N15	218	N20	250	O18	286	T26	318	S15	336	V21	383	W20	415	W25
187	M16	218	O19	251	O18	286	Y27	318	S16	337	T22	384	U21	416	W27
187	N15	219	N20	251	P18	286	T27	319-1	S14	337	U22	384	U22	417	W27
187	N16	219	N21	252	O18	286	U27	319-1	S15	337	U23	384	V21	417	W28
187	O15	220	N20	252	P18	286	U28	319-1	S16	337	V22	385	U21	417	X28
187	P14	220	O20	253	O19	286	V28	319-1	T16	337	V23	385	V21	417	X29
187	P15	221	N20	254	O19	286	V29	319-1	T17	338	T23	385	V22	418	X15
187	Q14	221	N21	254	O20	287	Q13	319-2	S15	338	U23	385	V23	418	X16
187	R14	221	O19	255	O19	288	Q15	319-2	S16	339	T23	386	U22	419	T15
187	R14	221	O20	255	O20	289	Q15	320	S17	339	T24	386	U23	420	T15
188	M16	221	P18	256	O21	290	Q16	320	S18	339	U23	386	V22	421	U18
189	M16	221	P19	257	O21	291	Q18	320	S19	339	V23	386	V23	422	U18
190	M17	221	Q16	257	O22	292	Q18	321	S22	340	T24	386	V24	423	V13
191	M19	221	Q17	257	O23	293	Q18	321	S23	340	T25	386	V25	423	V14
192	M19	221	Q18	257	P20	293	Q19	321	S24	340	U23	386	W25	423	V15
192	N18	222	N21	257	P21	293	R19	321	S25	340	U24	386	W26	423	V16
192	N19	223	N21	257	Q19	293	S19	321	S26	340	U25	386	W27	423	V17
193	M19	223	O21	257	Q20	293	S17	321	T20	341	T27	386	W28	423	W13
193	N19	224	N21	257	R19	293	S18	321	T21	341	T28	386	W29	423	W14
194	M20	224	O20	257	R20	293	S19	321	T22	342	T29	386	X28	423	W15
194	M21	224	O21	258	O22	294	Q20	321	T23	342	U26	386	X29	423	W16
195	M20	225	N21	258	O23	294	R20	321	T24	342	U27	387	U28	423	W17
195	N21	225	O20	258	O24	295	Q25	321	T25	342	U28	387	U29	423	W18
196	M21	225	O21	259	O25	295	Q26	321	T26	342	U29	387	V26	423	W19
197	M21	225	P19	259	O26	296	Q26	321	U20	342	V22	387	V27	423	W20
197	N21	225	P20	260	O25	296	R24	321	U21	342	V24	387	V28	423	X19
198	M21	225	Q19	260	O26	296	R25	322	S23	342	V25	387	V29	423	X20
198	N20	225-1	Q18	261	O26	296	R26	322	S24	342	V26	387	W24	423	X21
198	N21	225-1	R17	261	P26	296	S23	322	S25	342	W23	387	W25	423	X22
198	N20	225-1	R18	262	O26	296	S24	322	S26	342	W24	387	W26	424	X17
198	O20	225-2	Q16	262	P26	297	Q27	322	S27	343	U13	387	X22	425	X17
199	M23	225-2	R16	263	O26	297	R27	322	Y21	343	U14	387	X23	426	X17
199	M22	225	Q13	263	O27	297	R28	322	Y22	343	U15	387	X24	427	X17
199	N21	225	Q15	263	O28	297	S29	322	Y23	343	U16	388	V13	428	X17
199	N22	225	R13	263	P27	298	R13	322	Y24	343	V16	388	V14	429	X17
199	O21	225	R14	263	P28	298	R14	322	Y25	343	V17	388	V15	430	X17
199	O20	225	R15	264	O27	299	R14	323	S28	343	V18	388	V16	431	X17
199	P20	226	N21	264	O28	300	R14	323	S29	343	V19	389	V14	432	X17
199	P18	226	N22	264	O29	300	R15	324	S28	343	V20	389	V15	433	X17
199	P19	226	N23	264	P27	300	R16	324	S29	343	W20	389	V16	434	X17
199	Q18	226	O19	265	P14	301	R15	324	T25	343	W21	390	V18	435	X17
199	Q19	226	O20	265	Q13	302	R15	324	T26	344	U13	391	V19	436	X17
199	Q18	226	O21	265	Q14	303	R15	324	T27	344	U14	391	W18	437	X18
200	M25	226	P18	266	P14	303	S15	324	T28	344	U15	391	W19	438	X18
200	M26	226	P19	267	P15	304	R15	324	T29	344	V14	392	V19	439	X18
200	M27	226	P20	267	Q15	304	S15	324	T24	344	U16	392	V20	440	X18
														441	X18
														442	X18



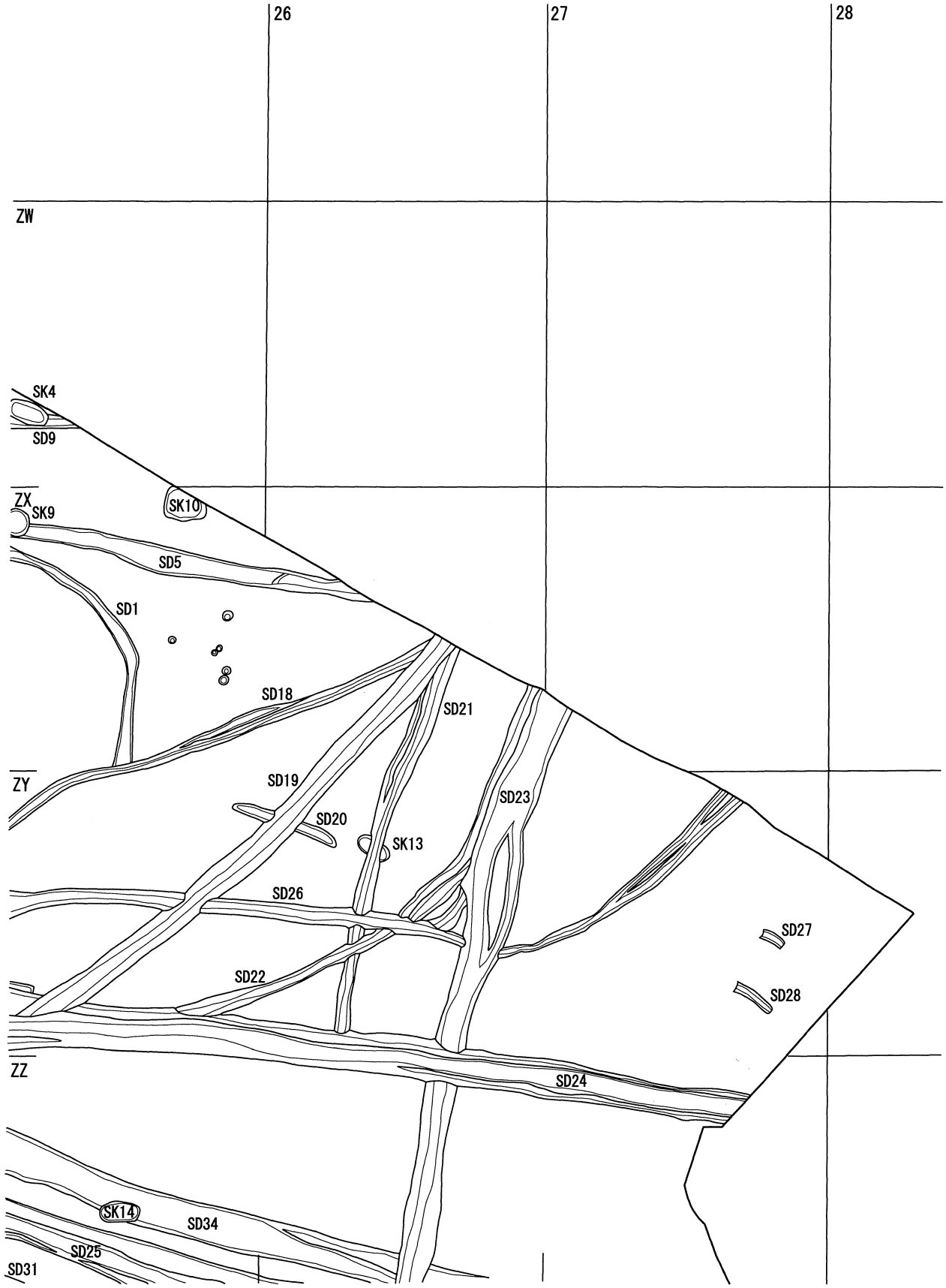
第９図　遺構全体図(1)


19
20
21
22
ZW
ZX
ZY
ZZ
SD9
SD5
SD3
SD7
SK5
SD17
SD11
SD4
SK6
SK7
SD6
SK11
SD16
SD24
SD25
SD31
SD33
SD32

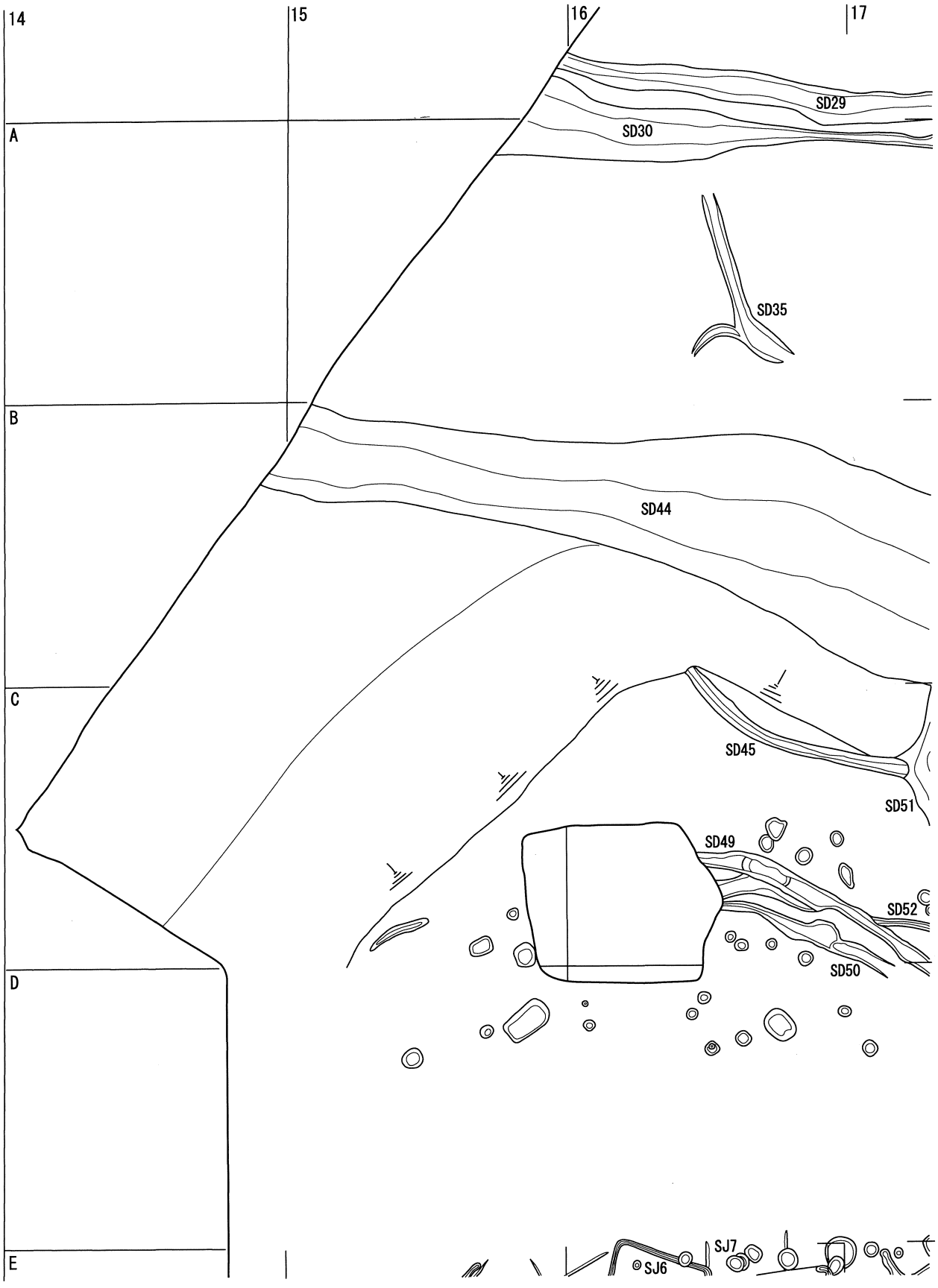
第10図　遺構全体図(2)


22
23
24
25
ZW
ZX
ZY
ZZ
SD2
SK1
SK2
SE1
SD1
SD8
SD5
SK3
SD13
SK4
SD5
SK9
SD11
SK8
SD10
SD12
SD16
SD18
SD26
SJ1
SD19
SK12
SD24
SE2
SD25
SD31
SD34
SD32

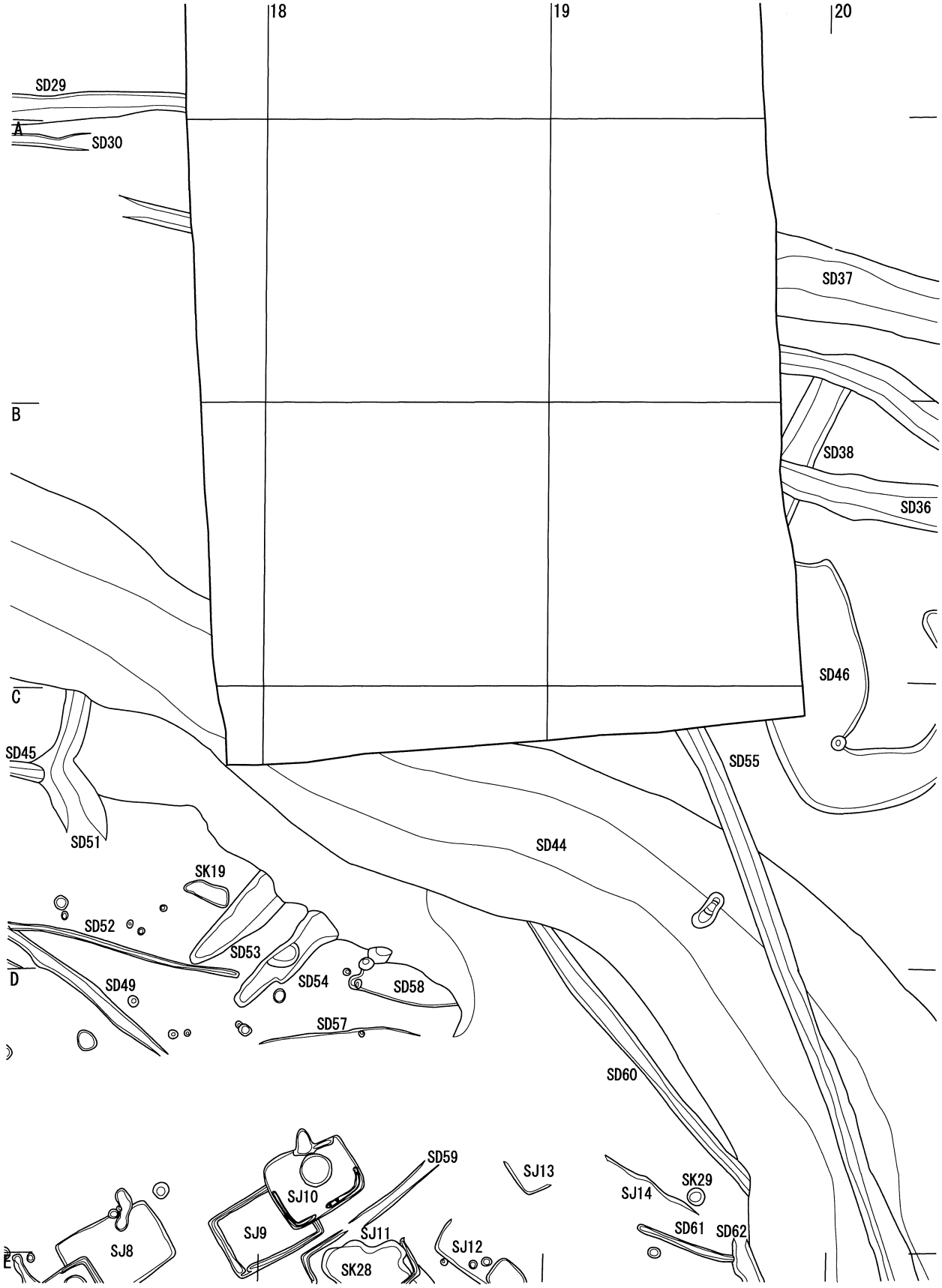
第11図　遺構全体図(3)


26
27
28
ZW
ZX
ZY
ZZ
SK4
SD9
SK9
SK10
SD5
SD1
SD18
SD21
SD19
SD23
SD20
SK13
SD26
SD27
SD22
SD28
SD24
SK14
SD34
SD25
SD31

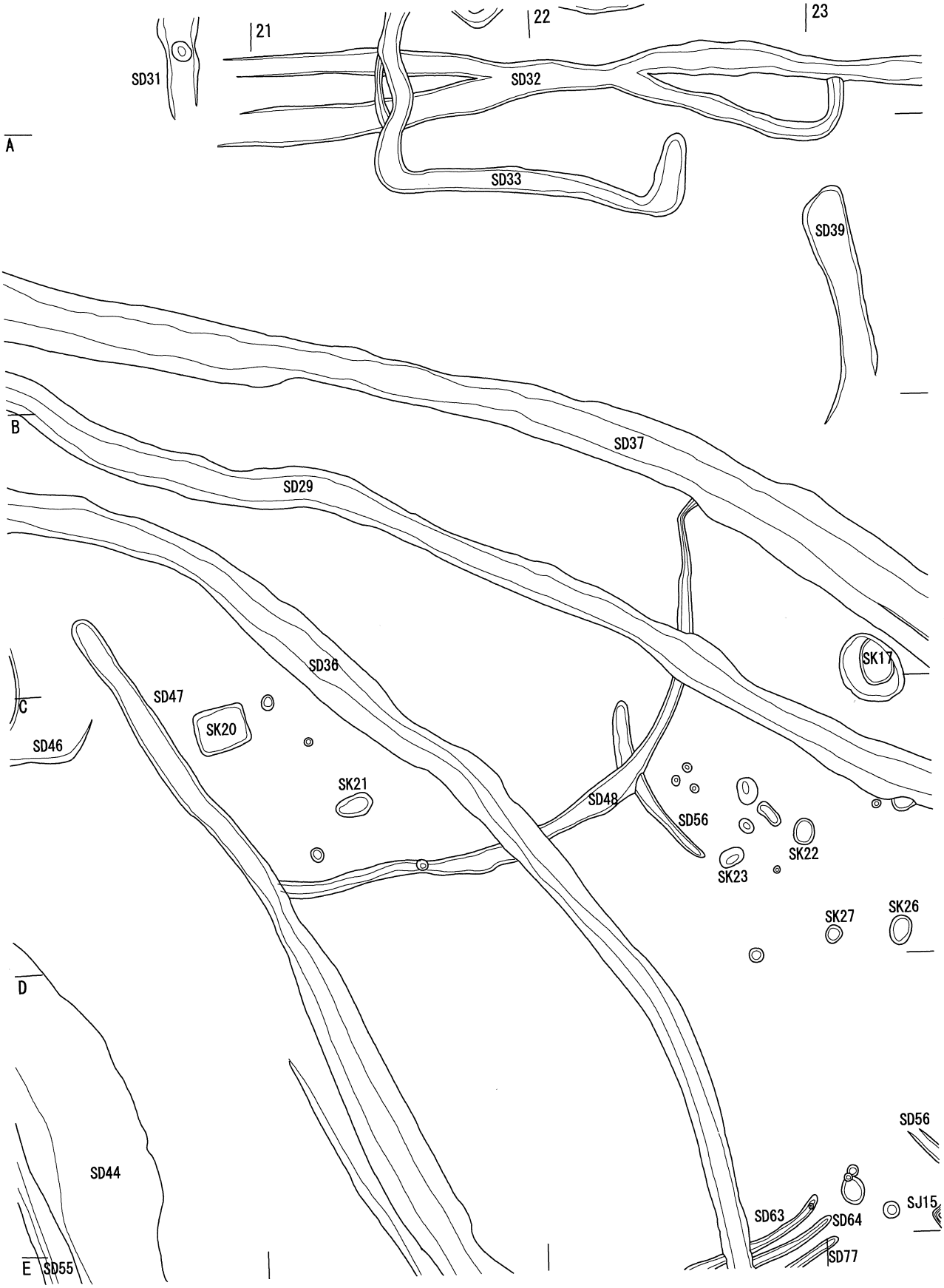
第12図　遺構全体図(4)


14
15
16
17
A
B
C
D
E
SD29
SD30
SD35
SD44
SD45
SD51
SD49
SD52
SD50
SJ7
SJ6

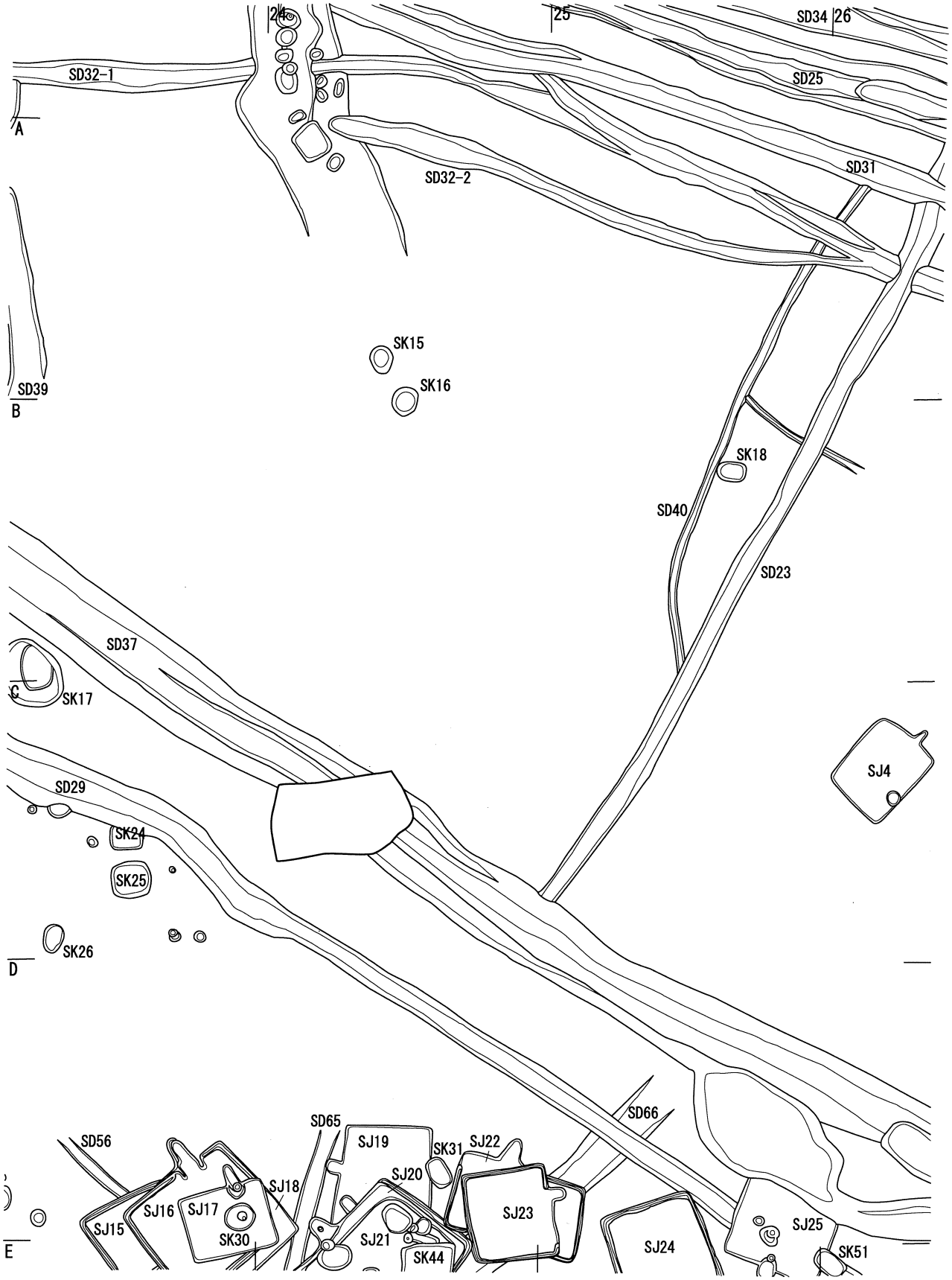
第13図　遺構全体図(5)


18
19
20
SD29
A
SD30
SD37
B
SD38
SD36
SD46
C
SD45
SD55
SD51
SD44
SK19
SD52
SD53
D
SD49
SD54
SD58
SD57
SD60
SD59
SJ13
SK29
SJ14
SJ10
SJ9
SJ11
SJ12
SD61
SD62
SJ8
SK28
E

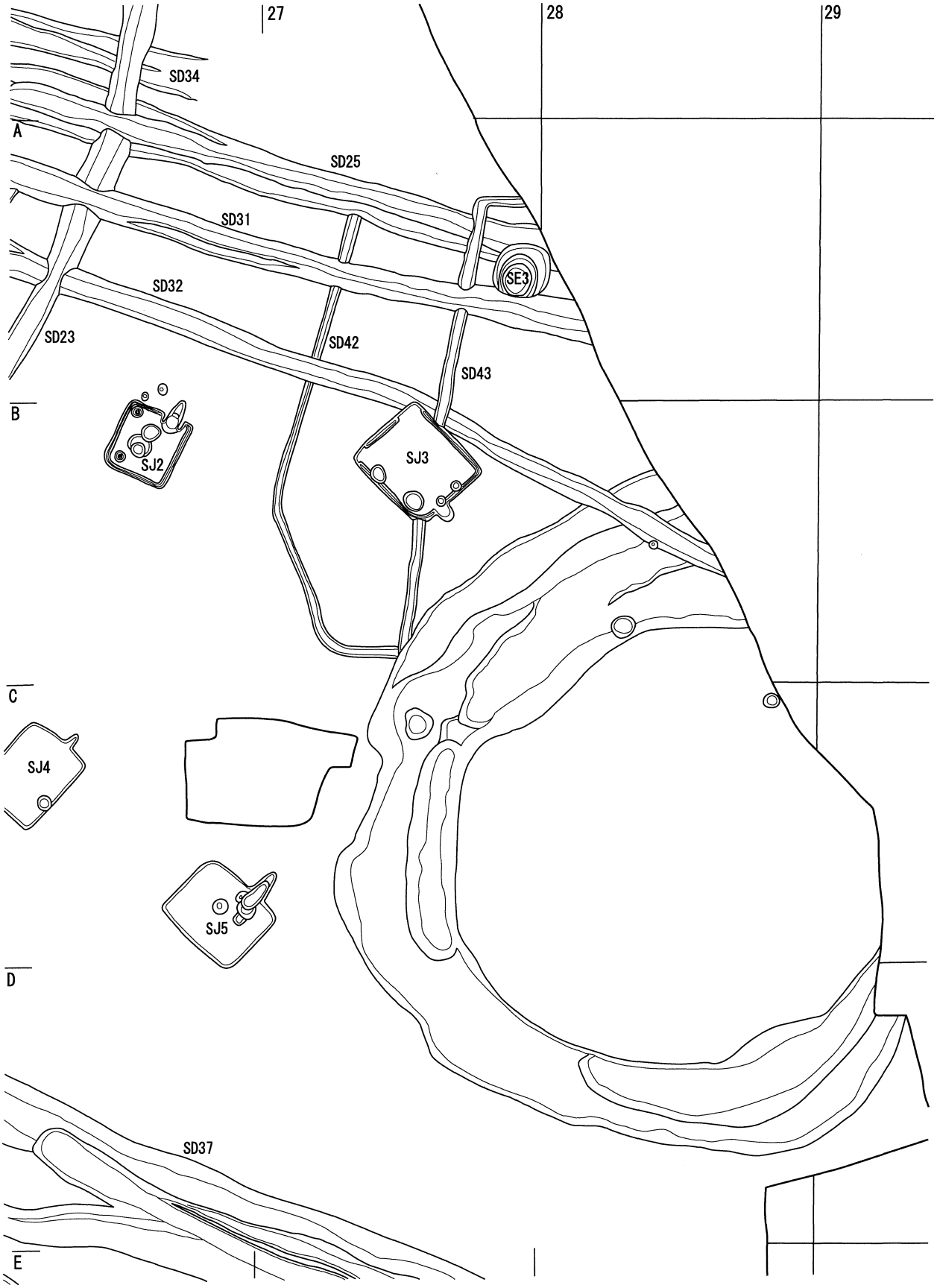
第14図　遺構全体図(6)


21
22
23
SD31
SD32
SD33
SD39
A
B
SD37
SD29
SD36
SK17
C
SD47
SK20
SD46
SK21
SD48
SD56
SK22
SK23
SK27
SK26
D
SD56
SD44
SD63
SD64
SJ15
SD77
E
SD55

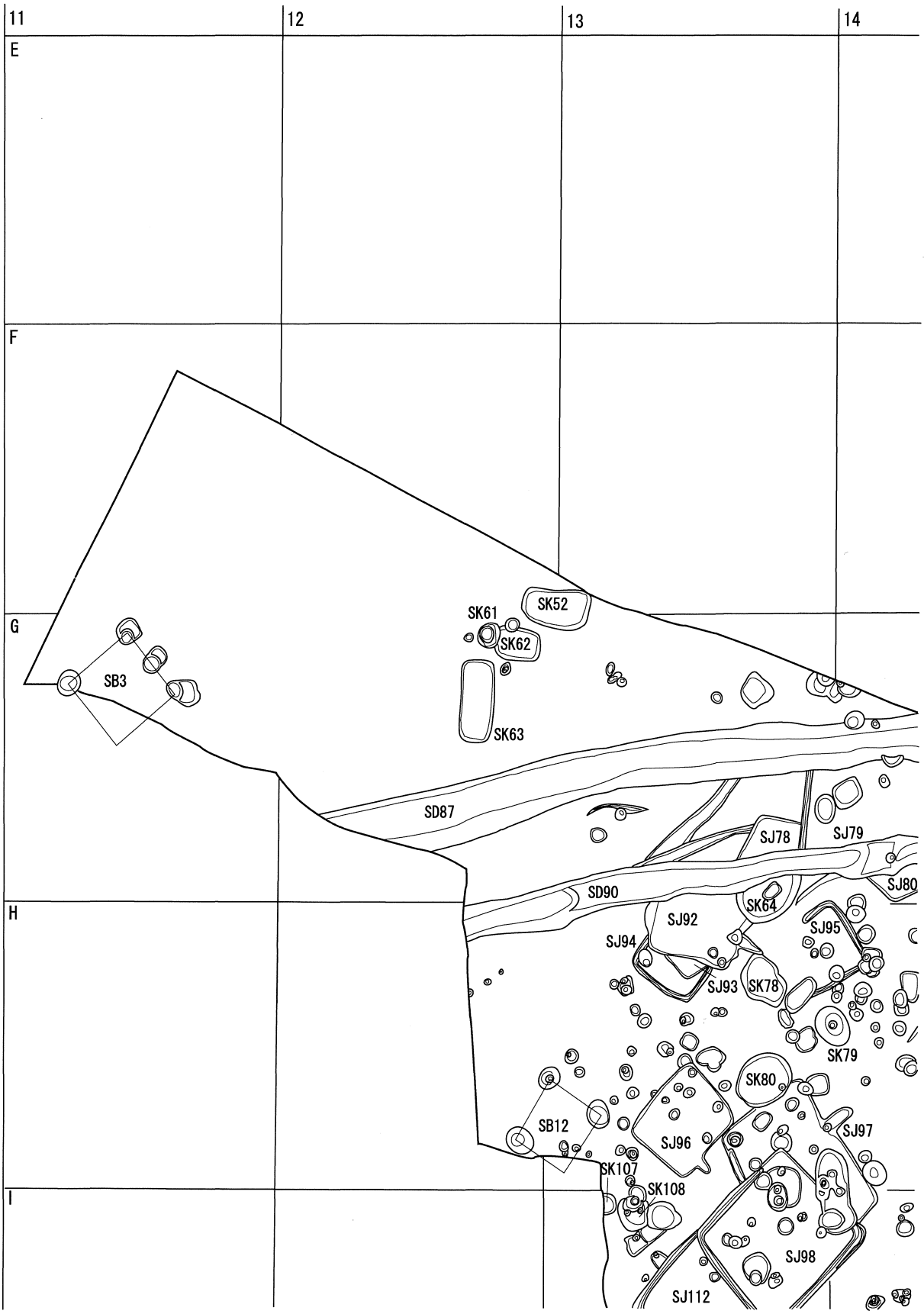
第15図　遺構全体図(7)


24
25
SD34
26
SD32-1
SD25
A
SD31
SD32-2
SK15
SK16
SD39
B
SK18
SD40
SD23
SD37
C
SK17
SJ4
SD29
SK24
SK25
SK26
D
SD66
SD65
SD56
SJ19
SK31
SJ22
SJ20
SJ18
SJ16
SJ17
SJ23
SJ15
SK30
SJ21
SJ25
SJ24
SK44
SK51
E

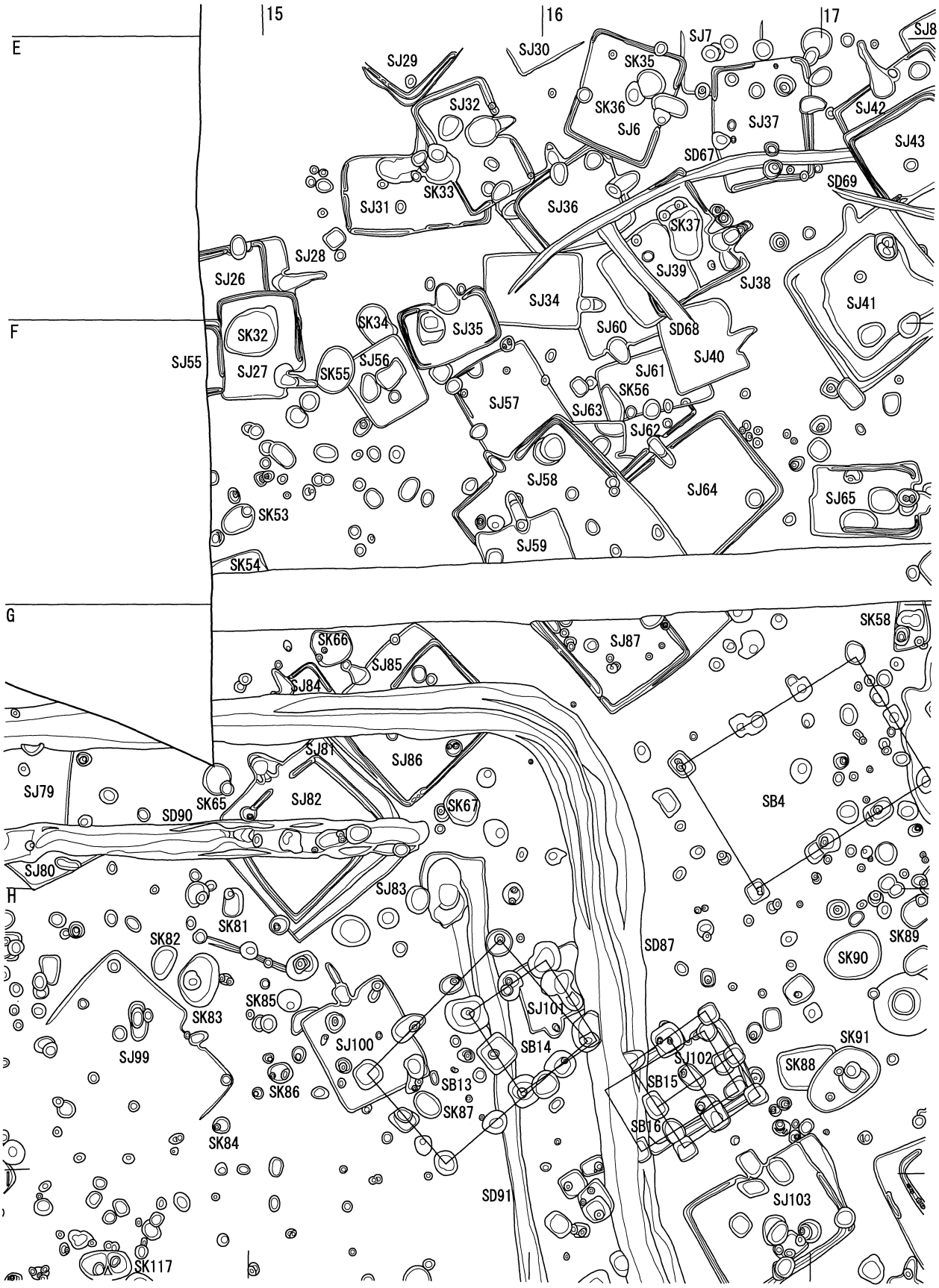
第16図　遺構全体図(8)


27
28
29
SD34
A
SD25
SD31
SE3
SD32
SD23
SD42
SD43
B
SJ2
SJ3
C
SJ4
SJ5
D
SD37
E

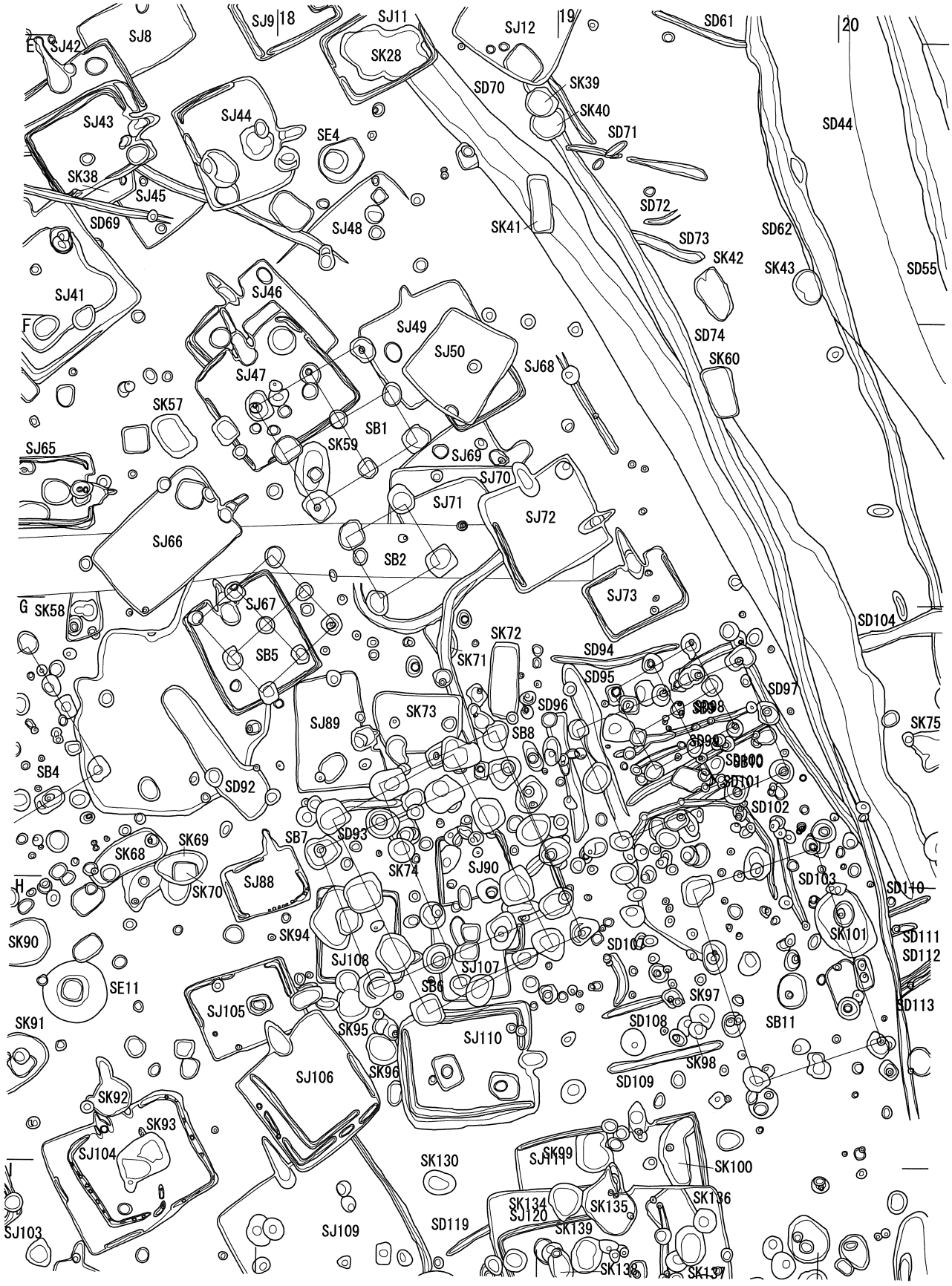
第17図　遺構全体図(9)



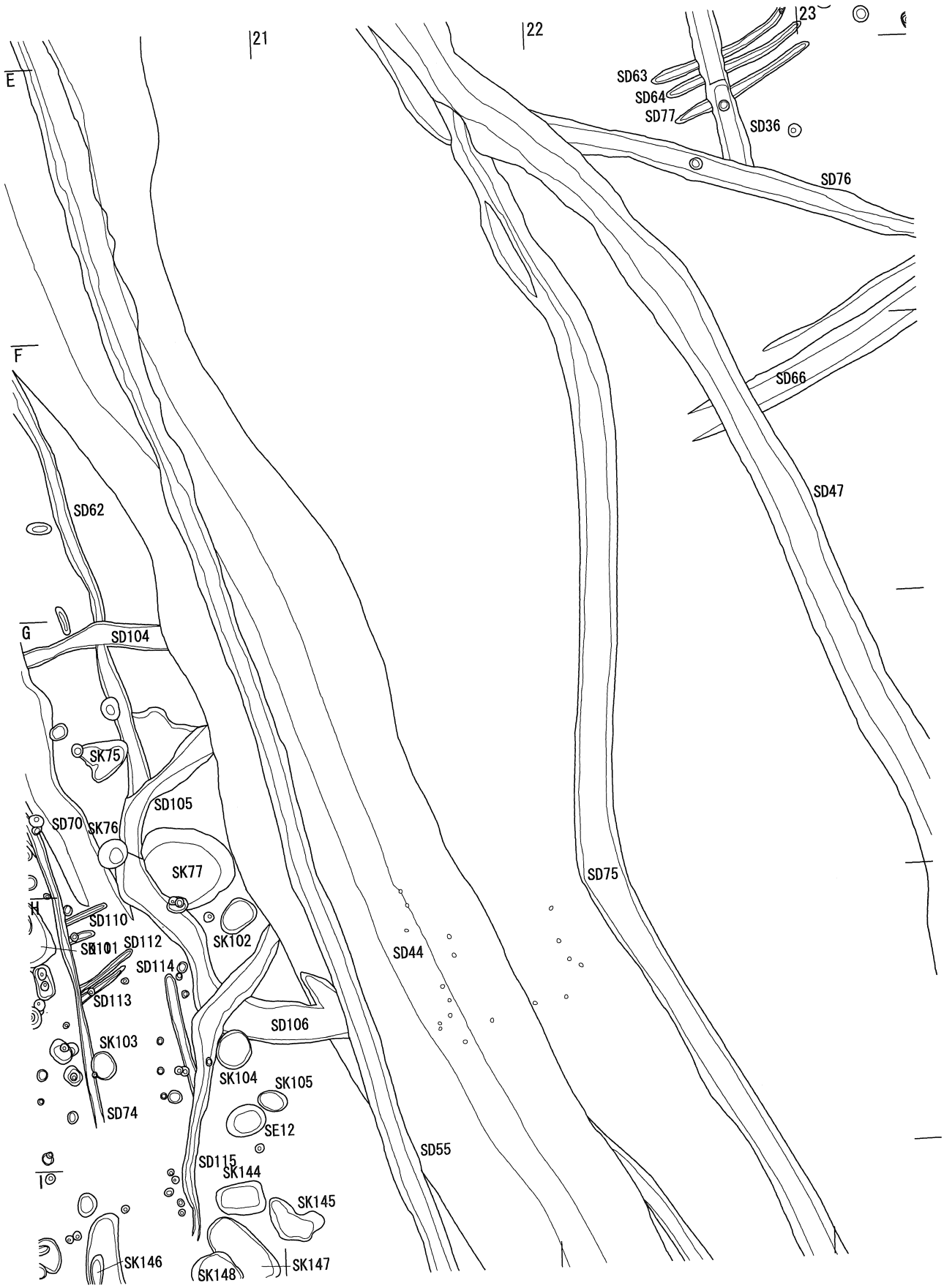
第18図　遺構全体図(10)



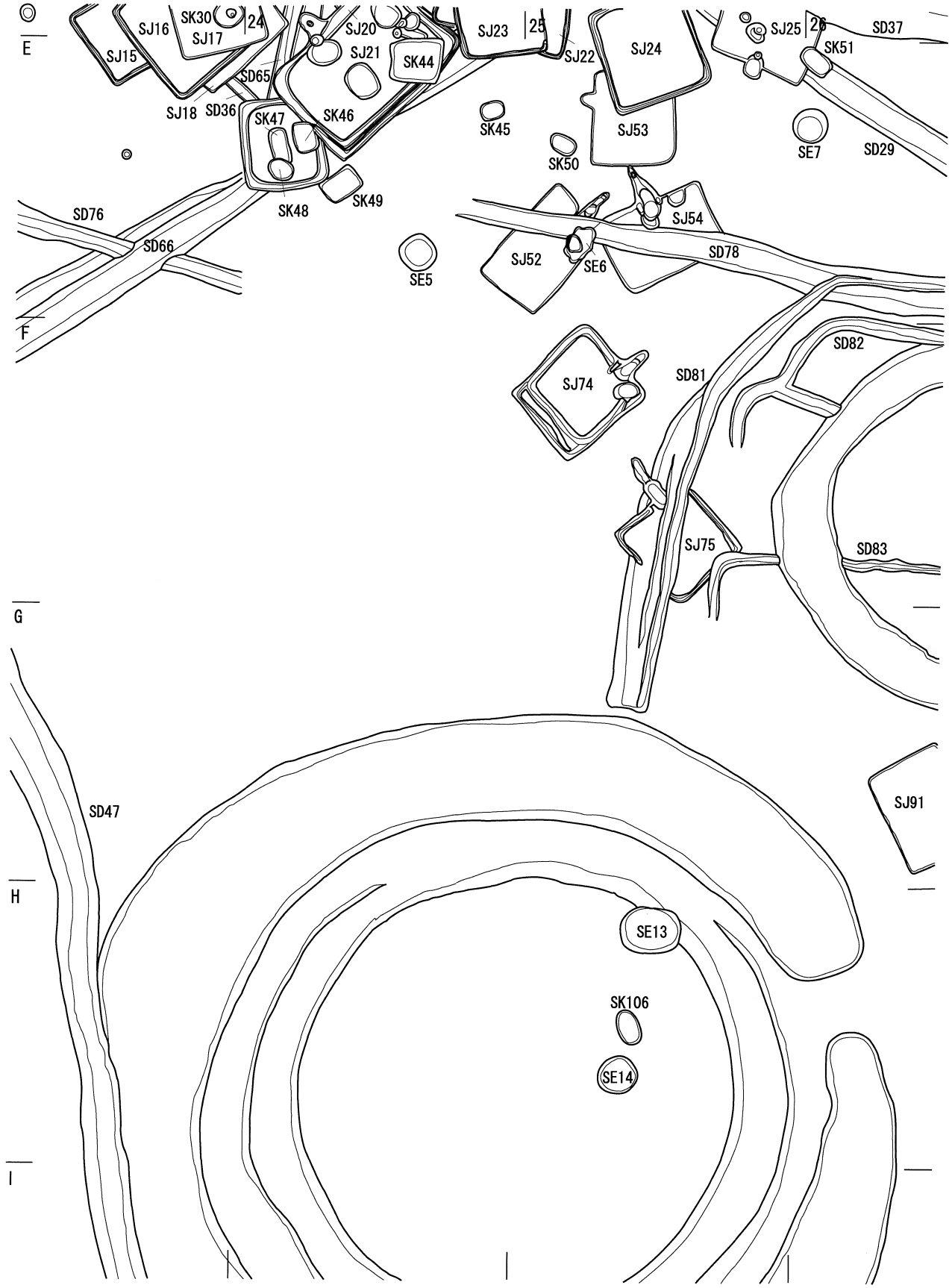
第19図　遺構全体図(II)



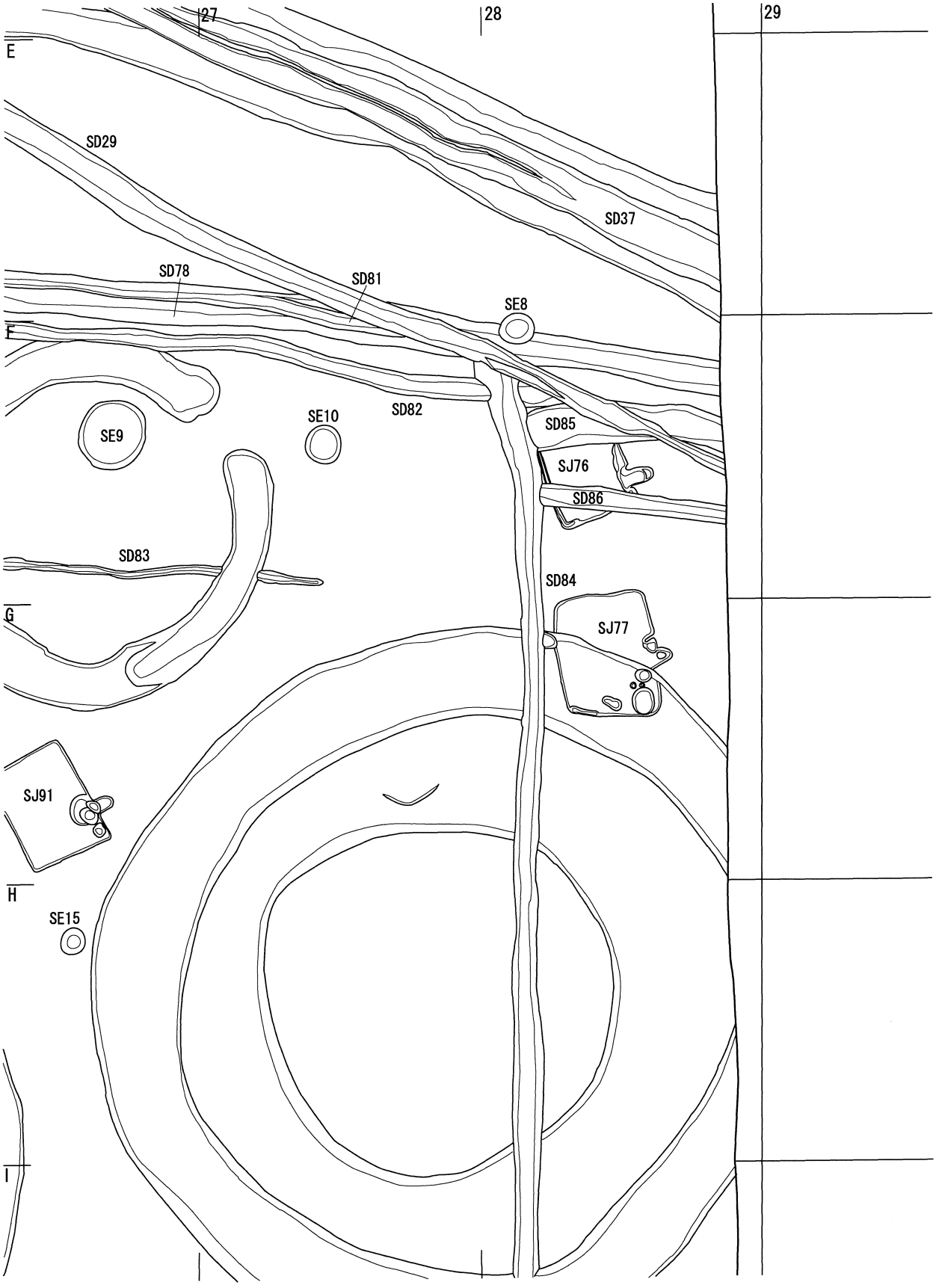
第20図　遺構全体図(12)



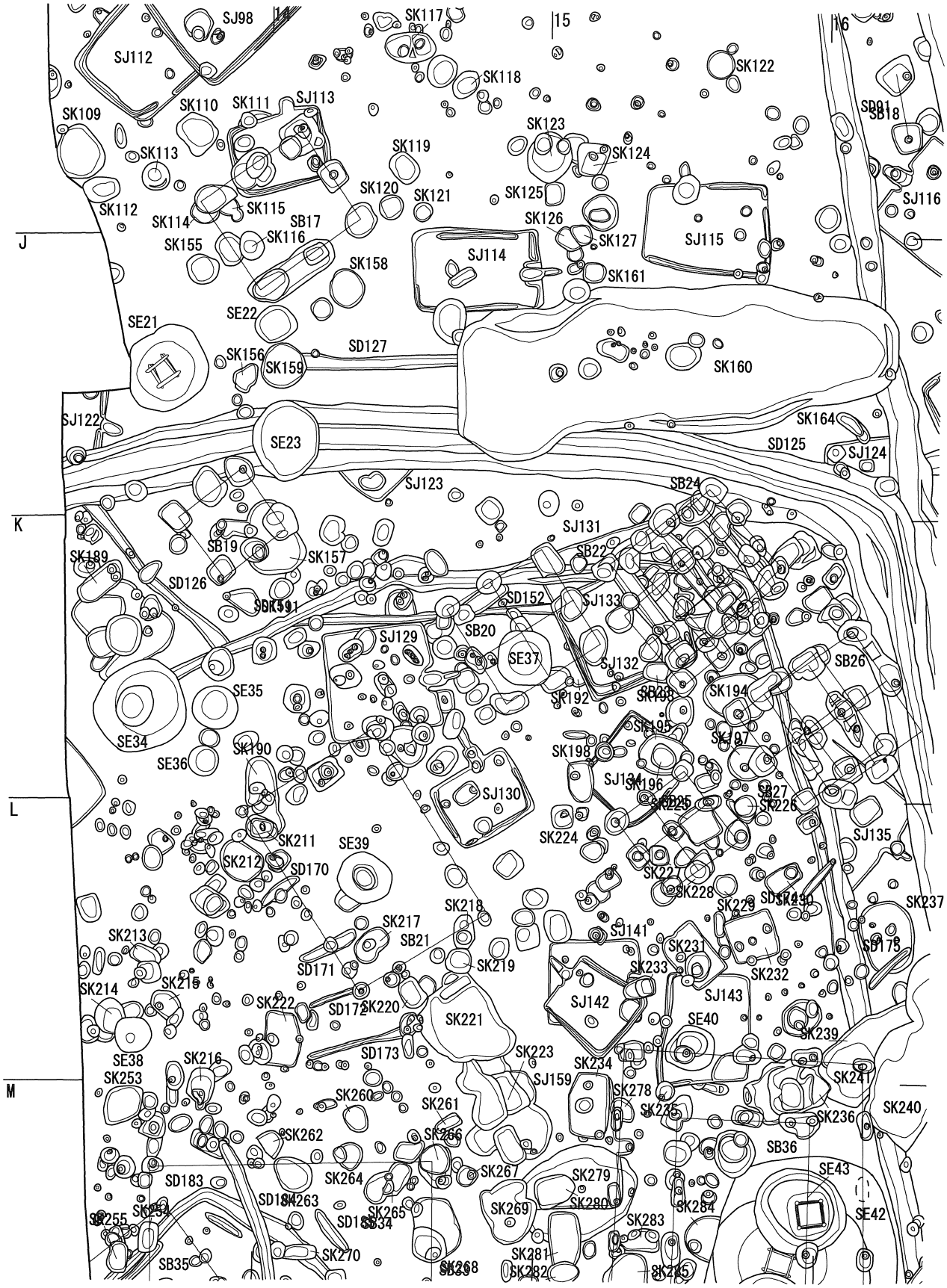
第21図　遺構全体図(13)



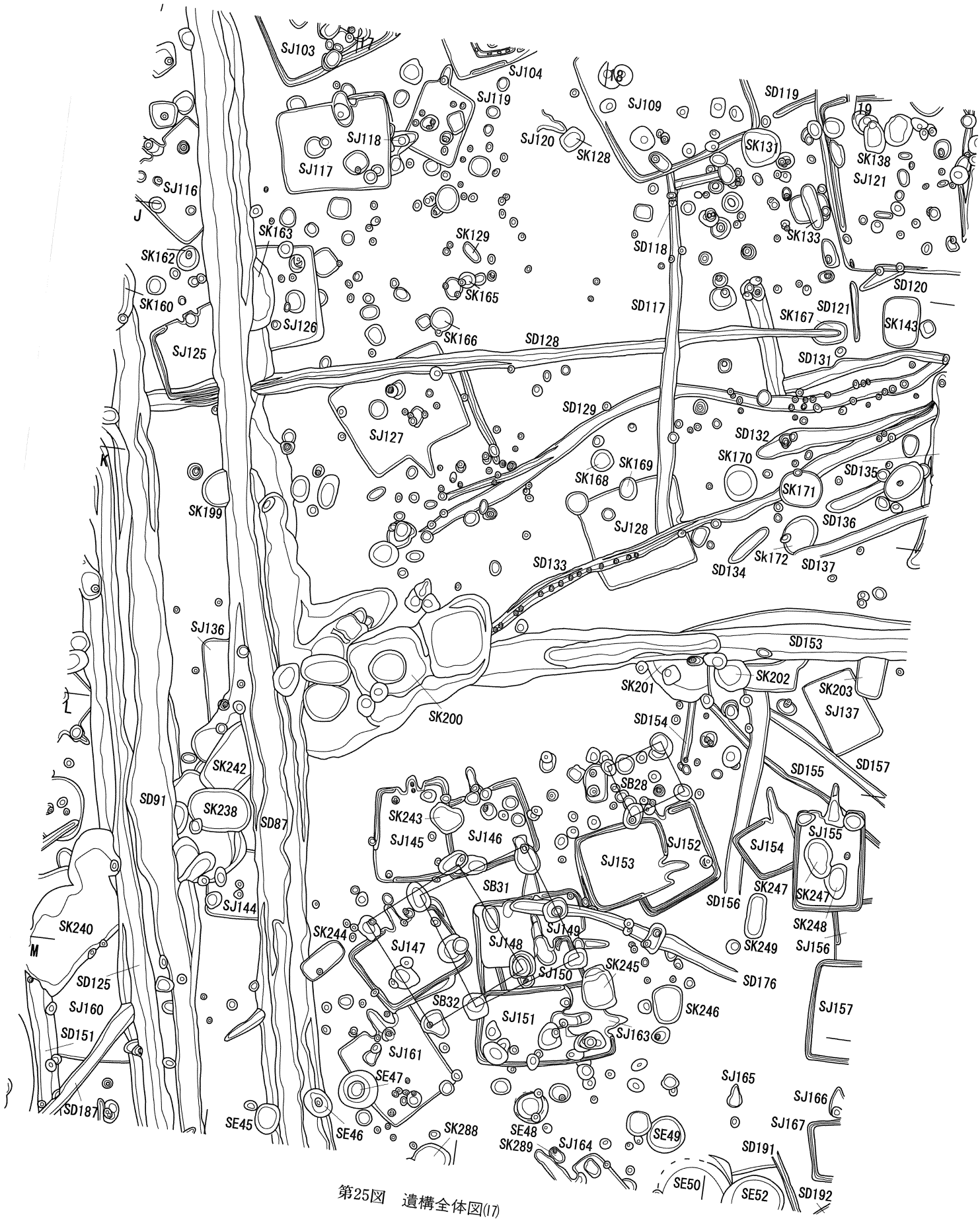
第22図　遺構全体図(14)



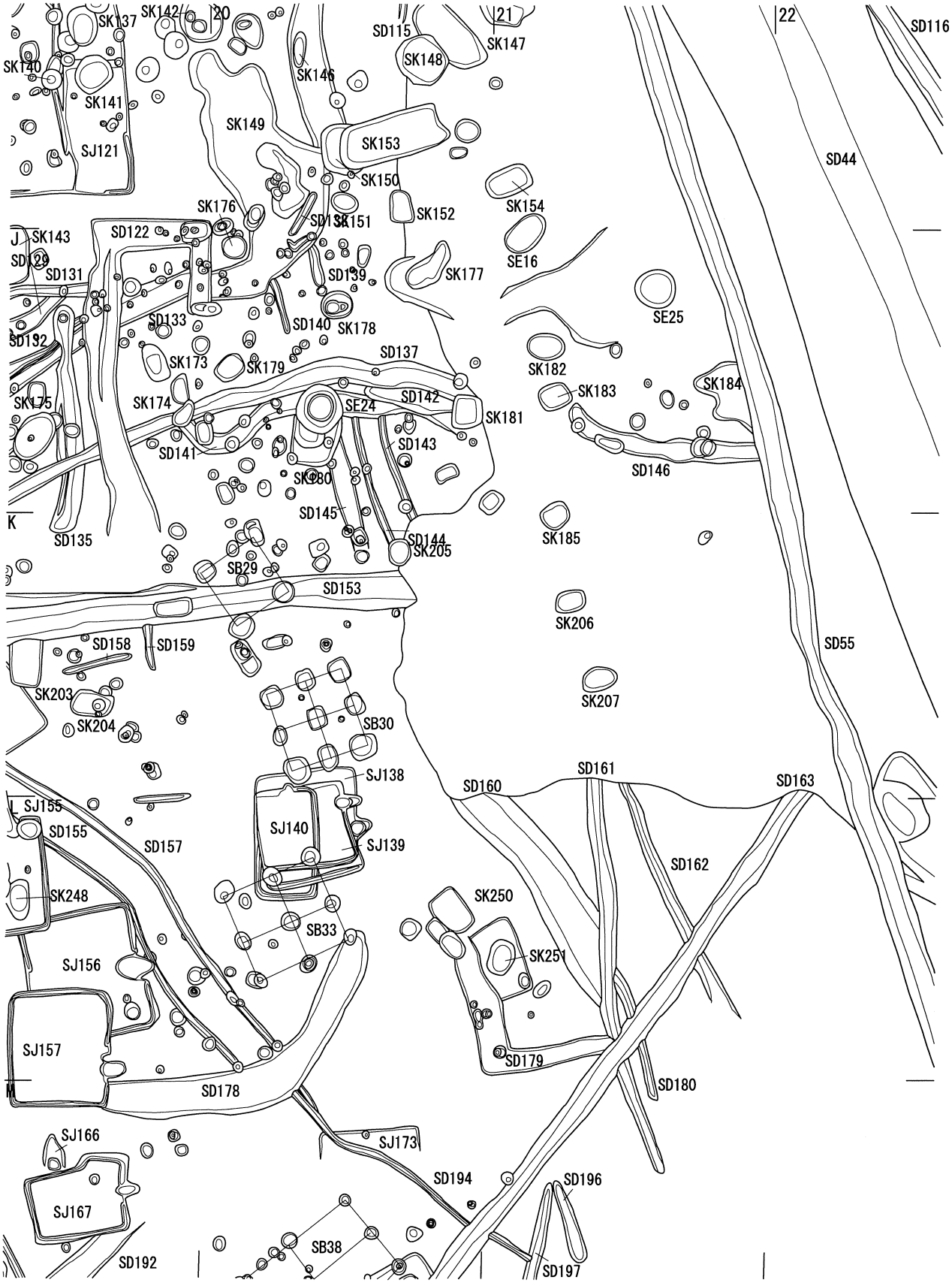
第23図　遺構全体図(15)



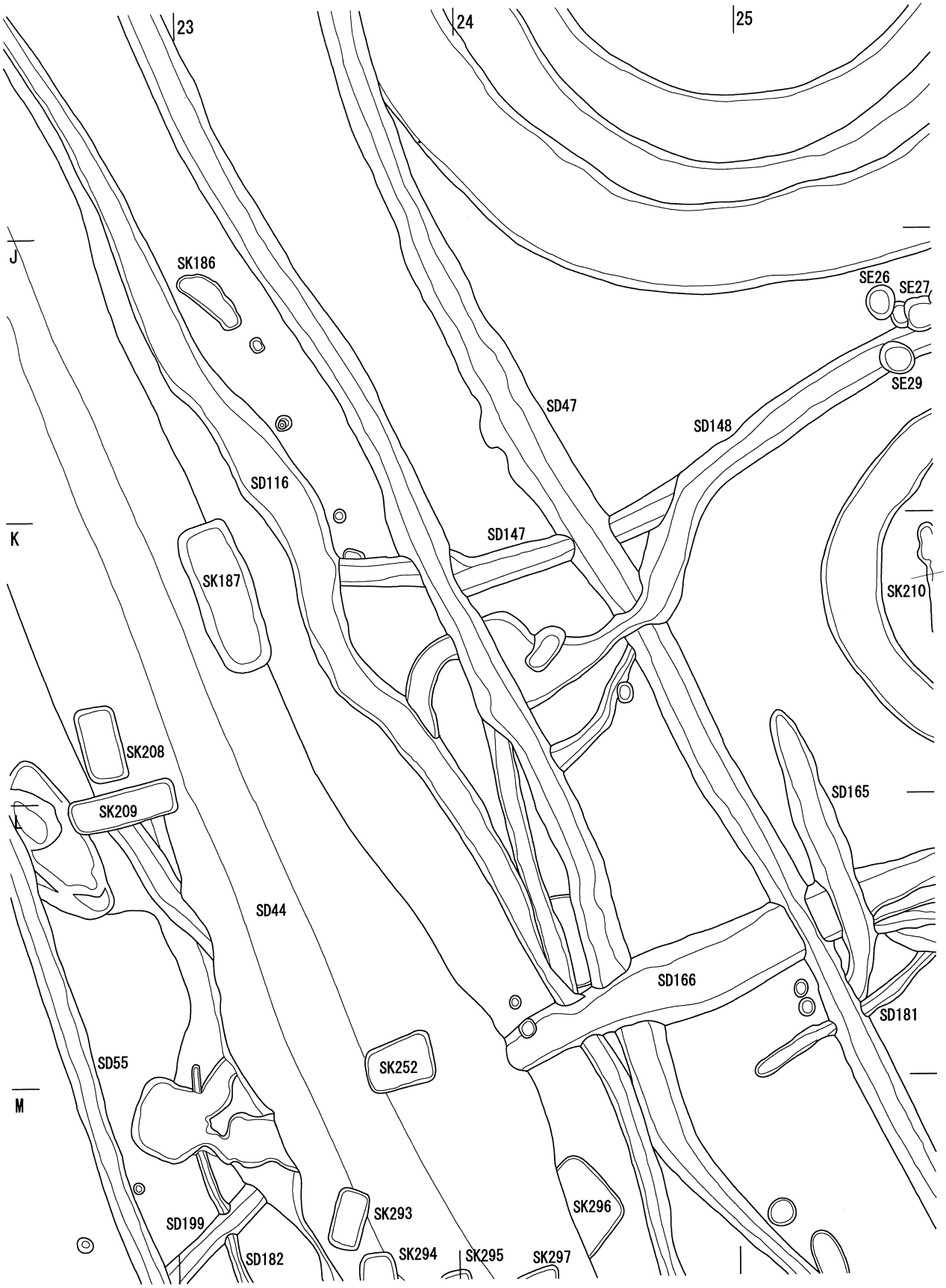
第24図　遺構全体図(16)



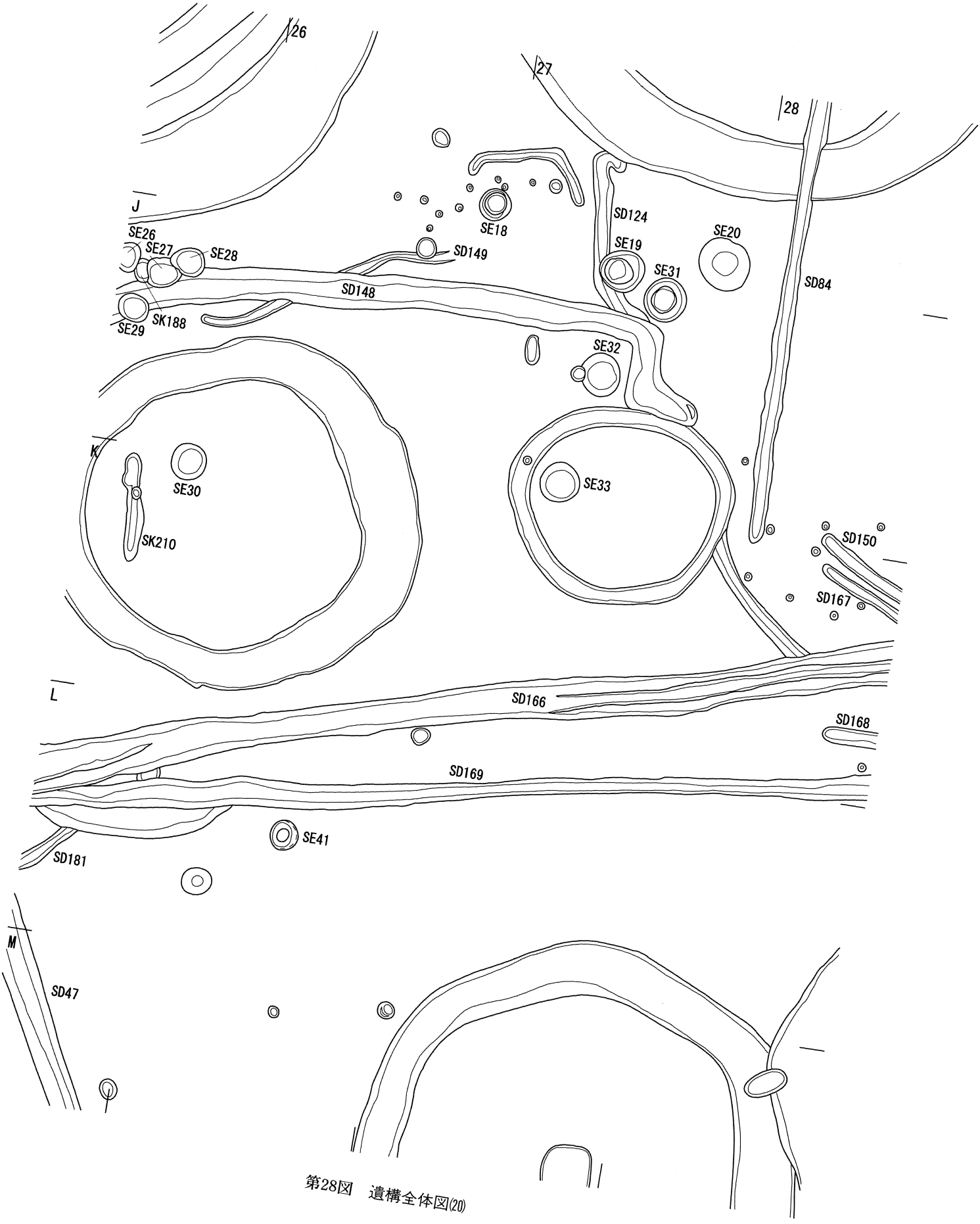
第25図　遺構全体図(17)



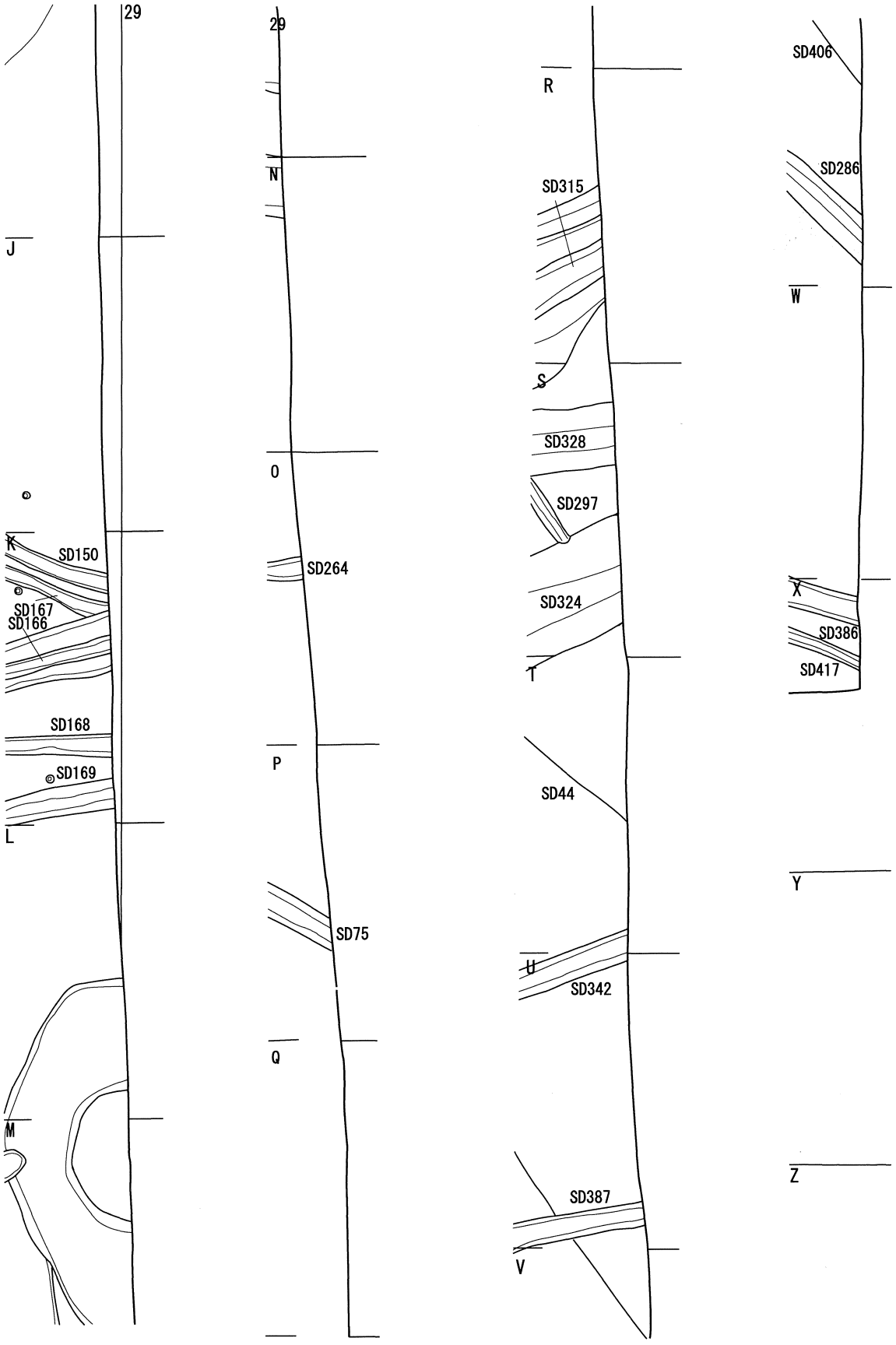
第26図　遺構全体図(18)



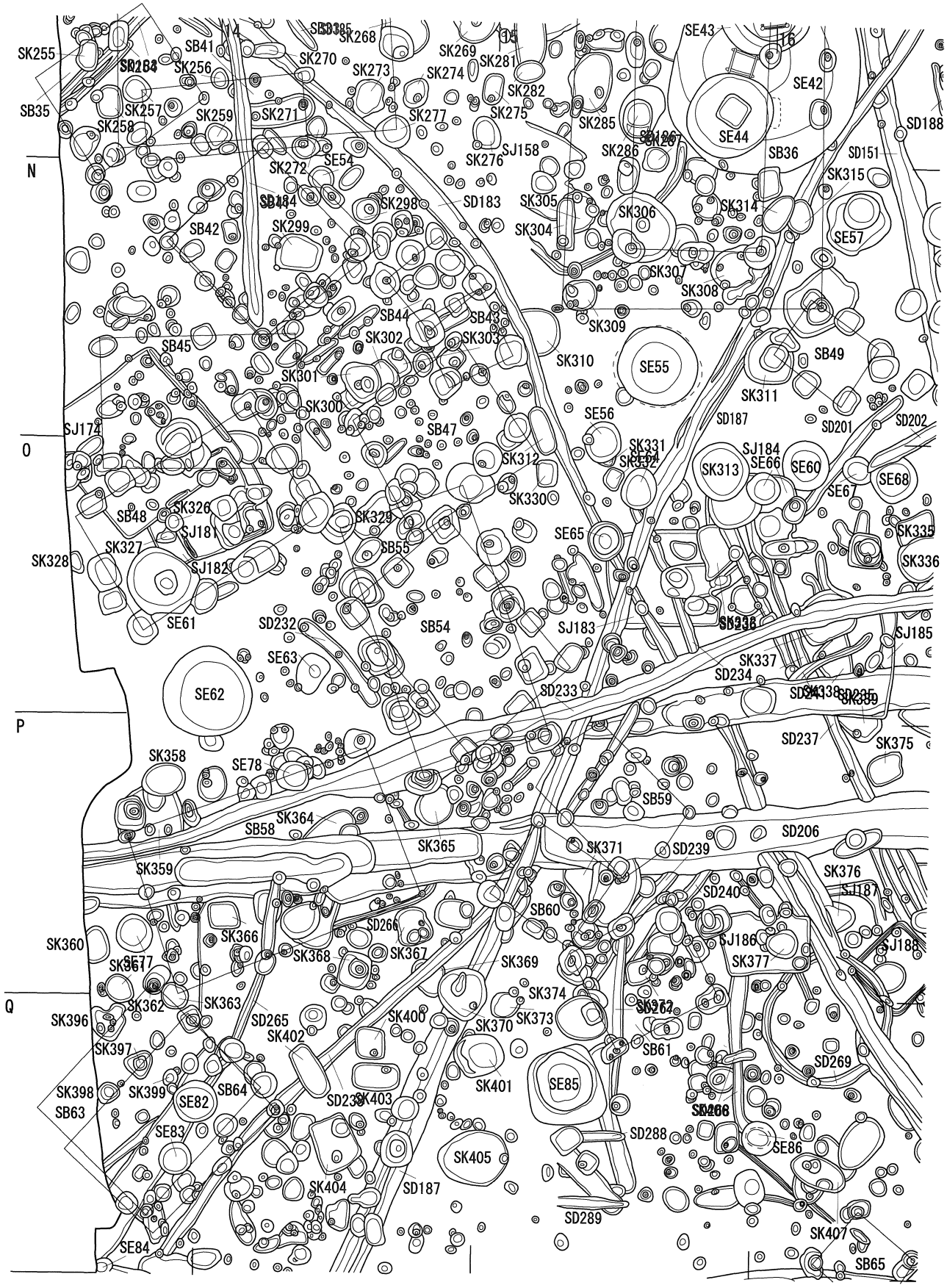
第27図　遺構全体図(19)



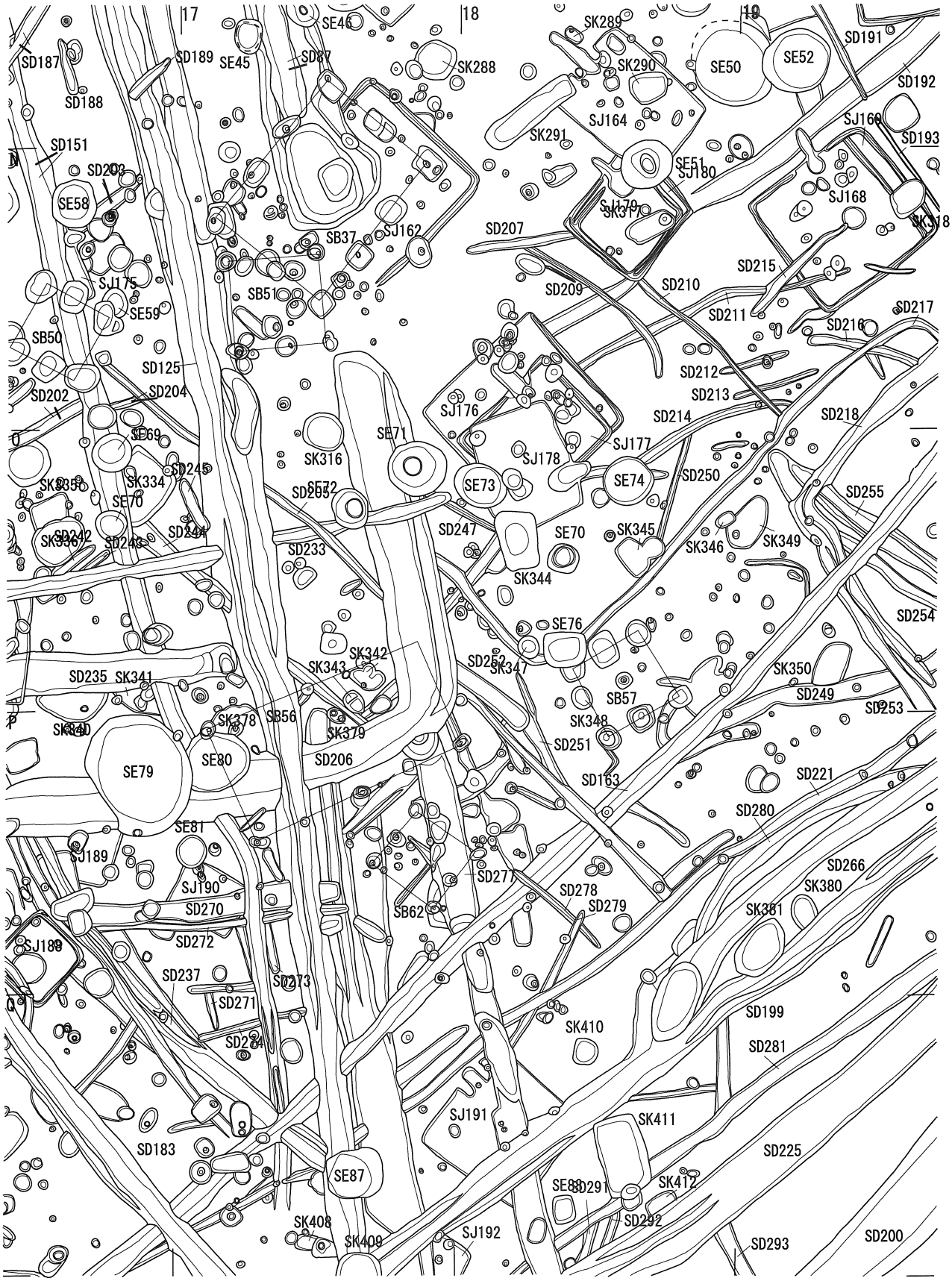
第28図　遺構全体図(20)



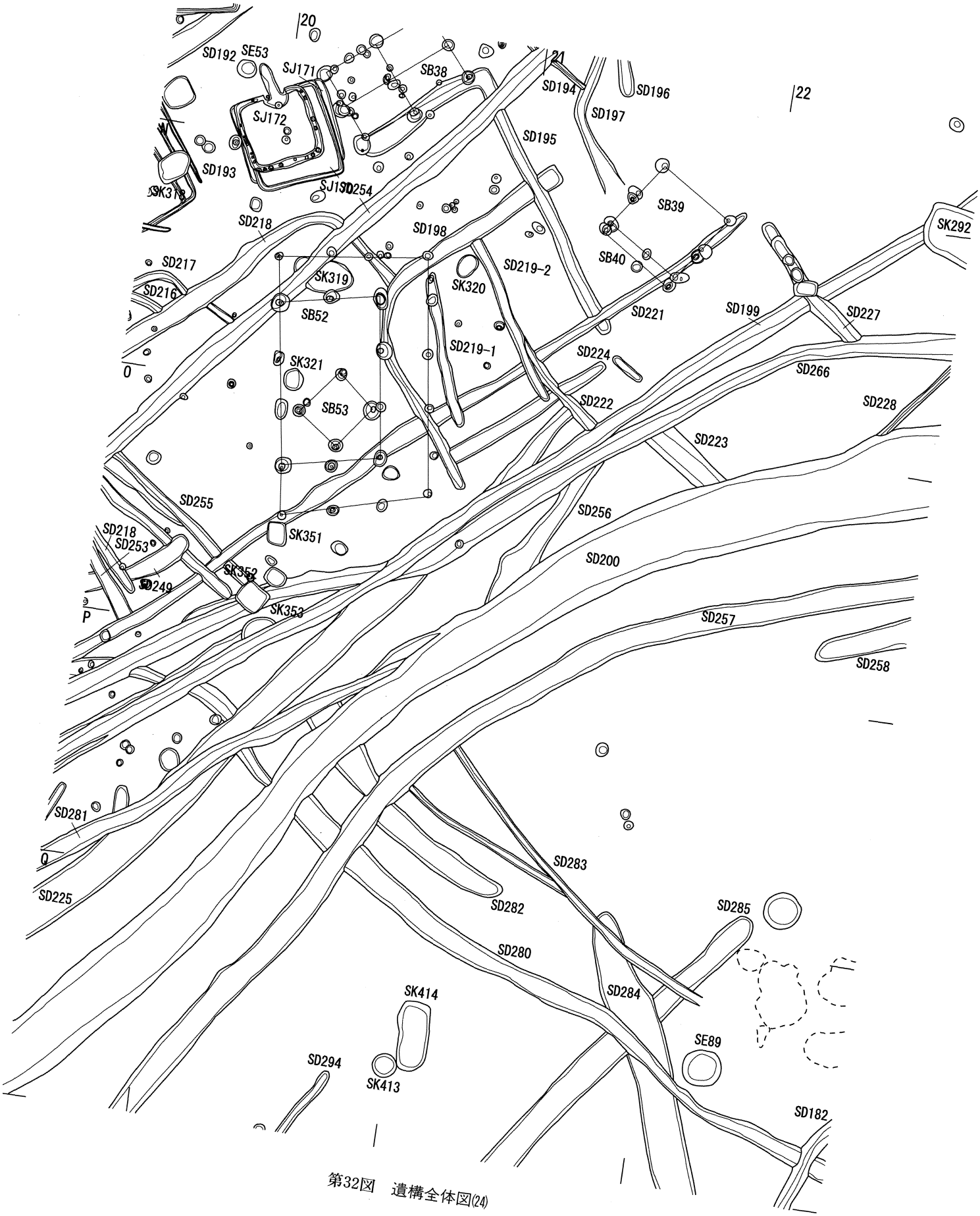
第29図　遺構全体図(21)



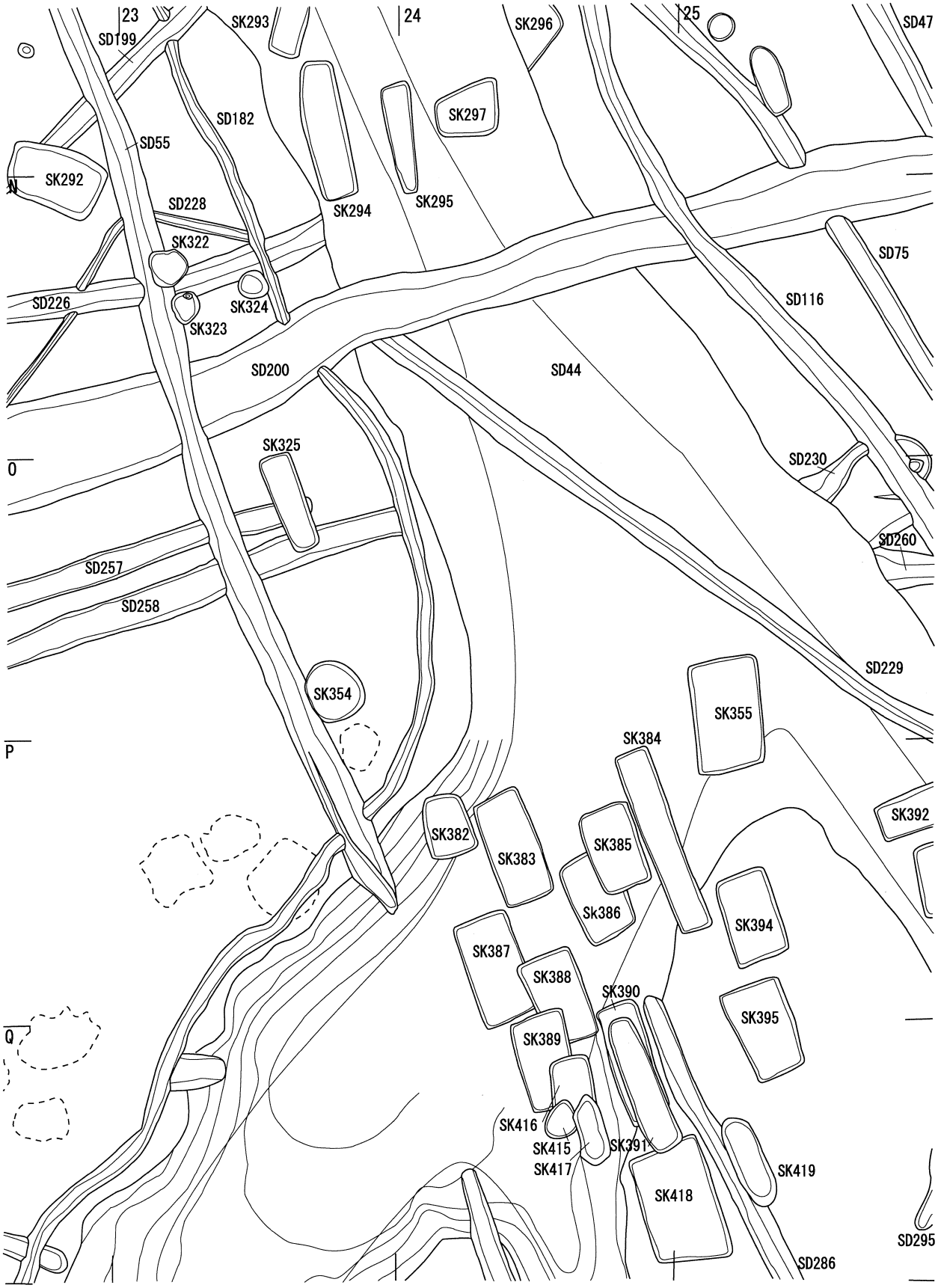
第30図　遺構全体図(22)



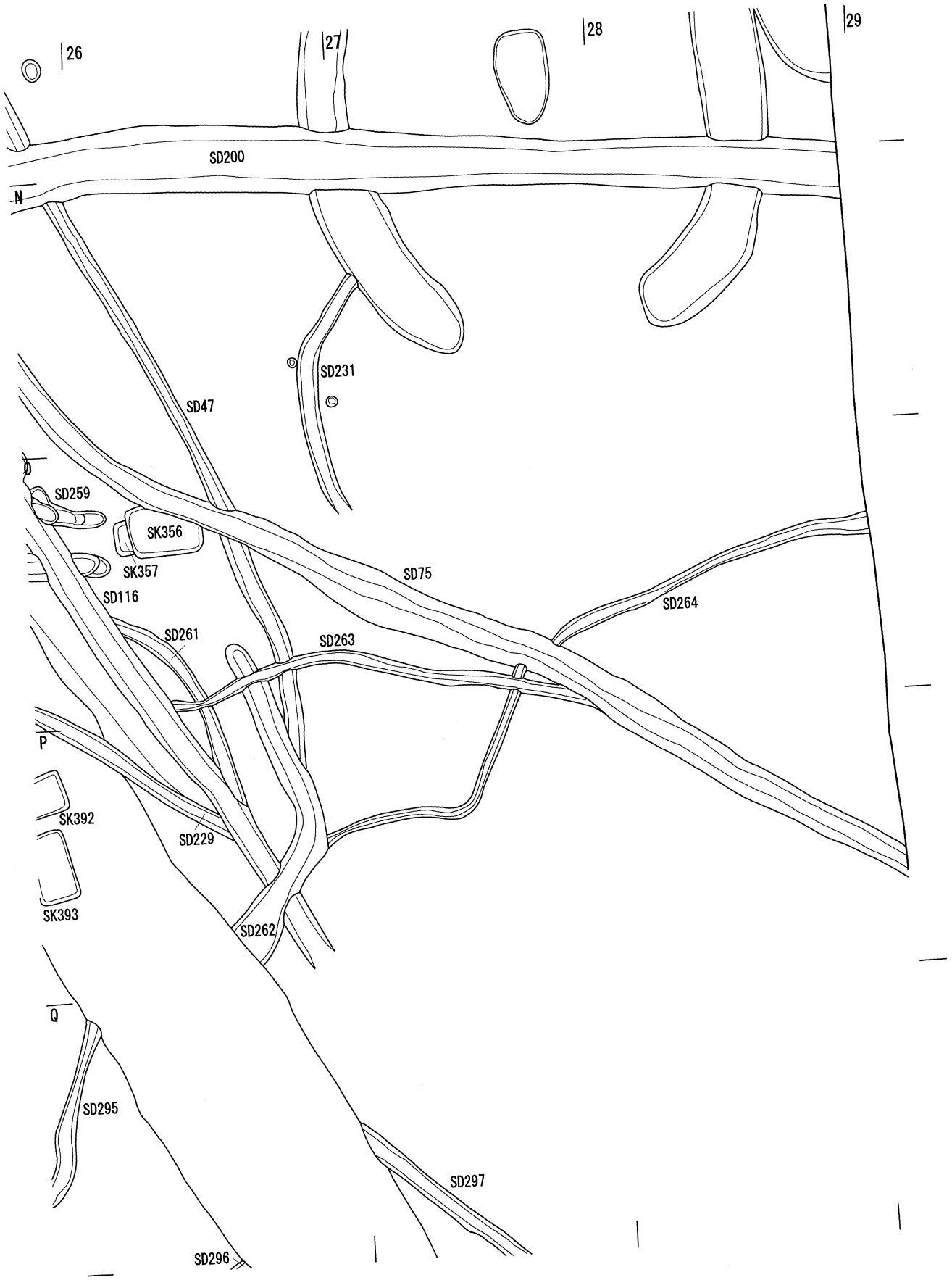
第31図　遺構全体図(23)



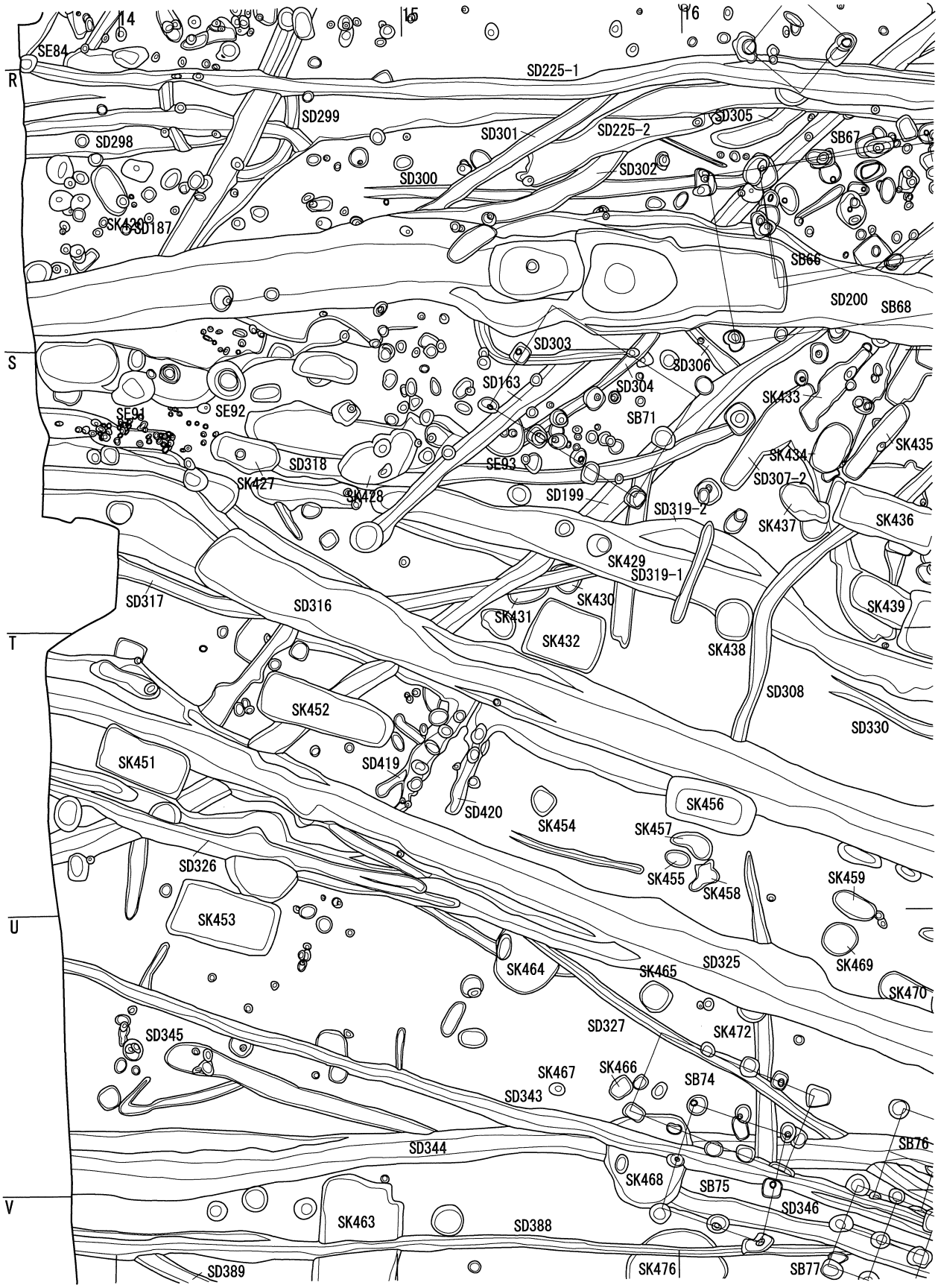
第32図　遺構全体図(24)



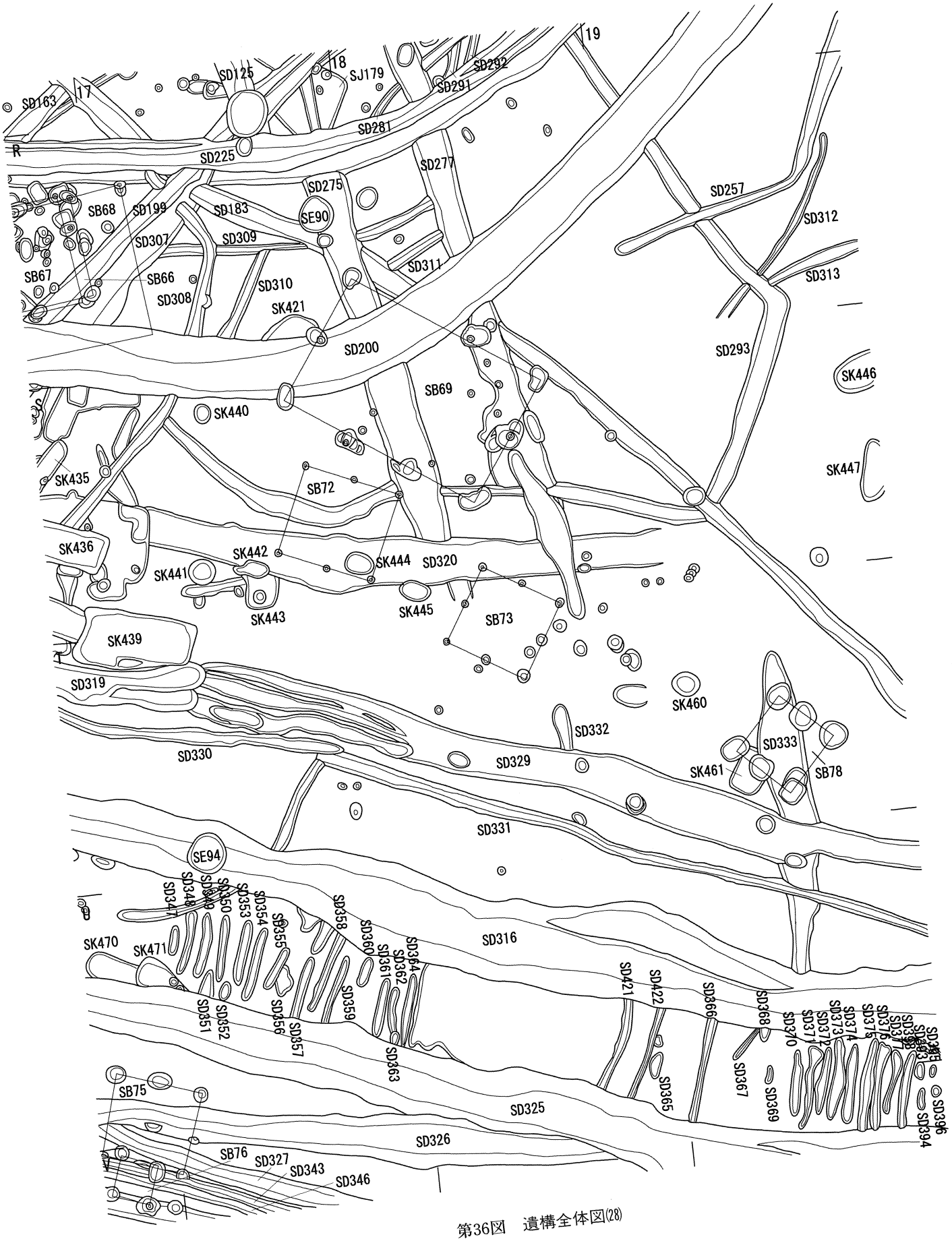
第33図　遺構全体図(25)



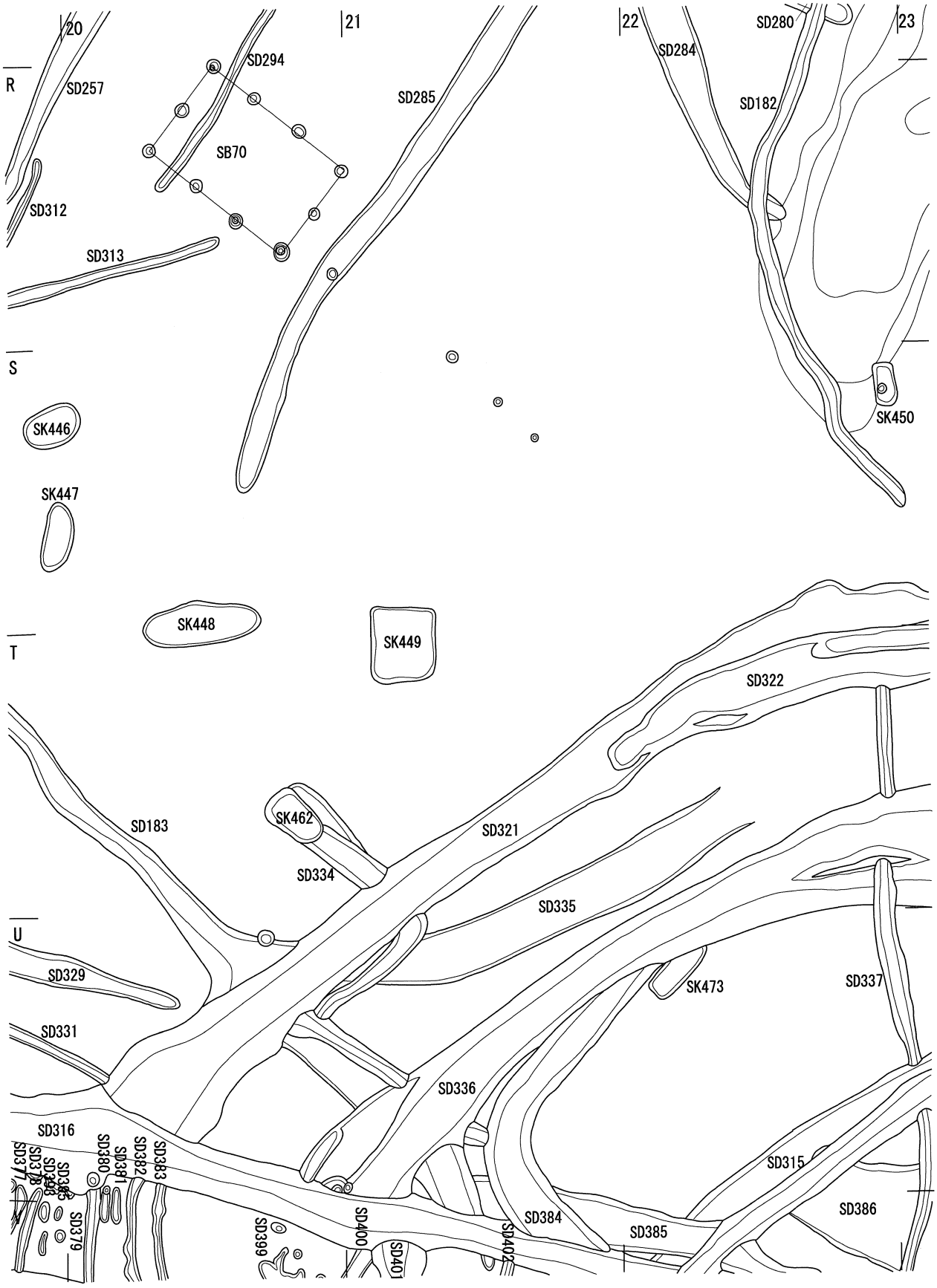
第34図　遺構全体図(26)



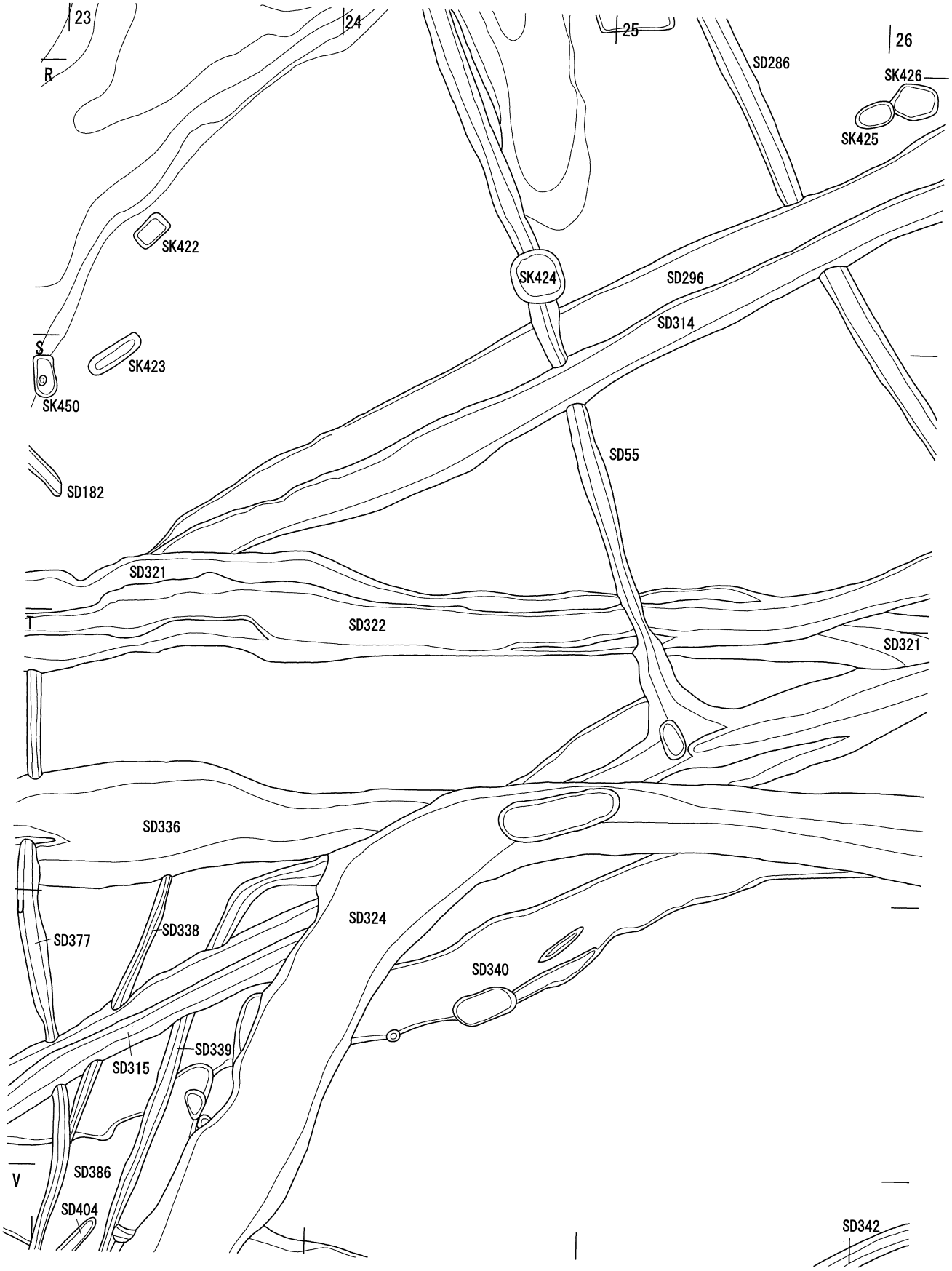
第35図　遺構全体図(27)



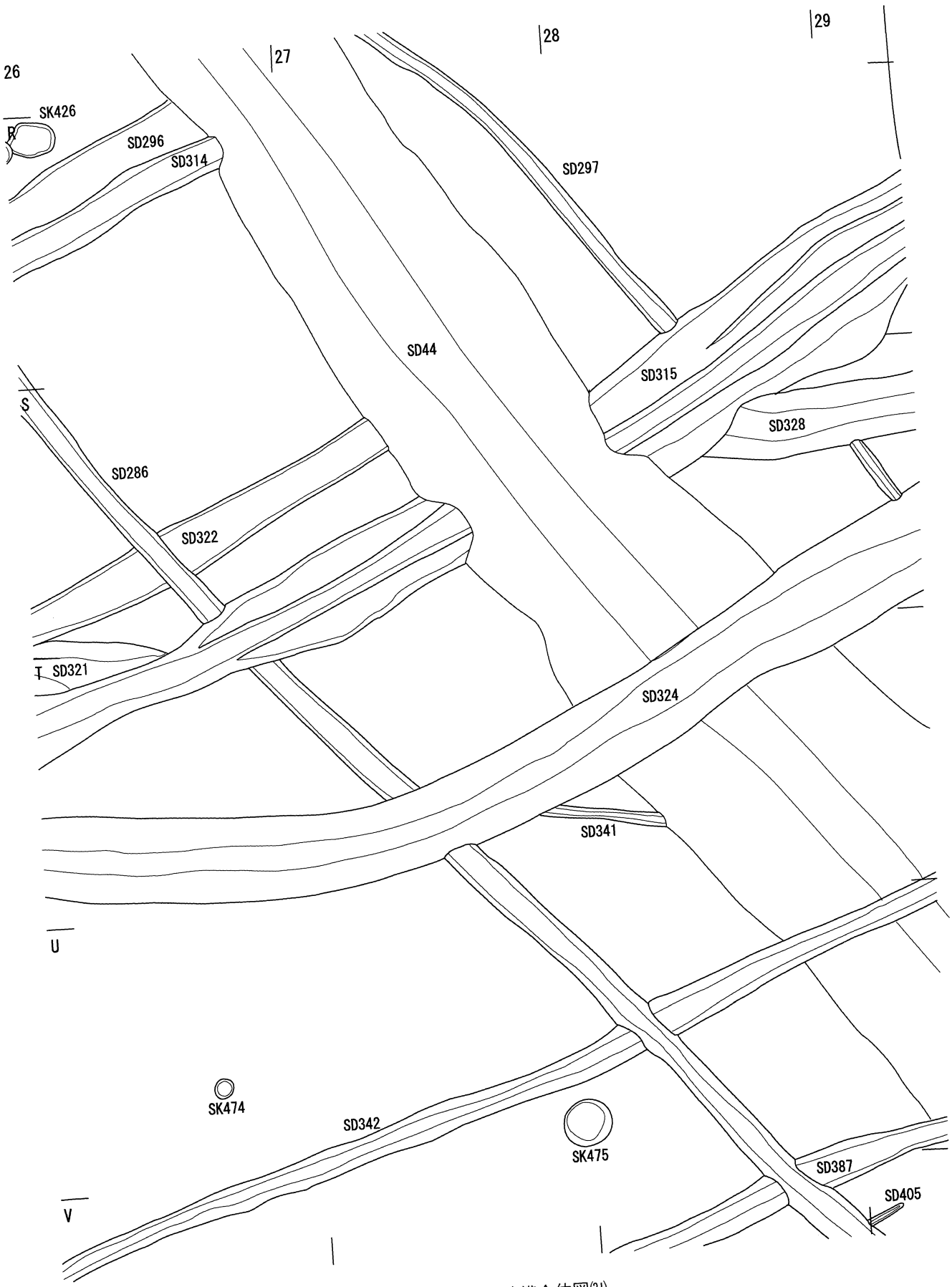
第36図　遺構全体図(28)



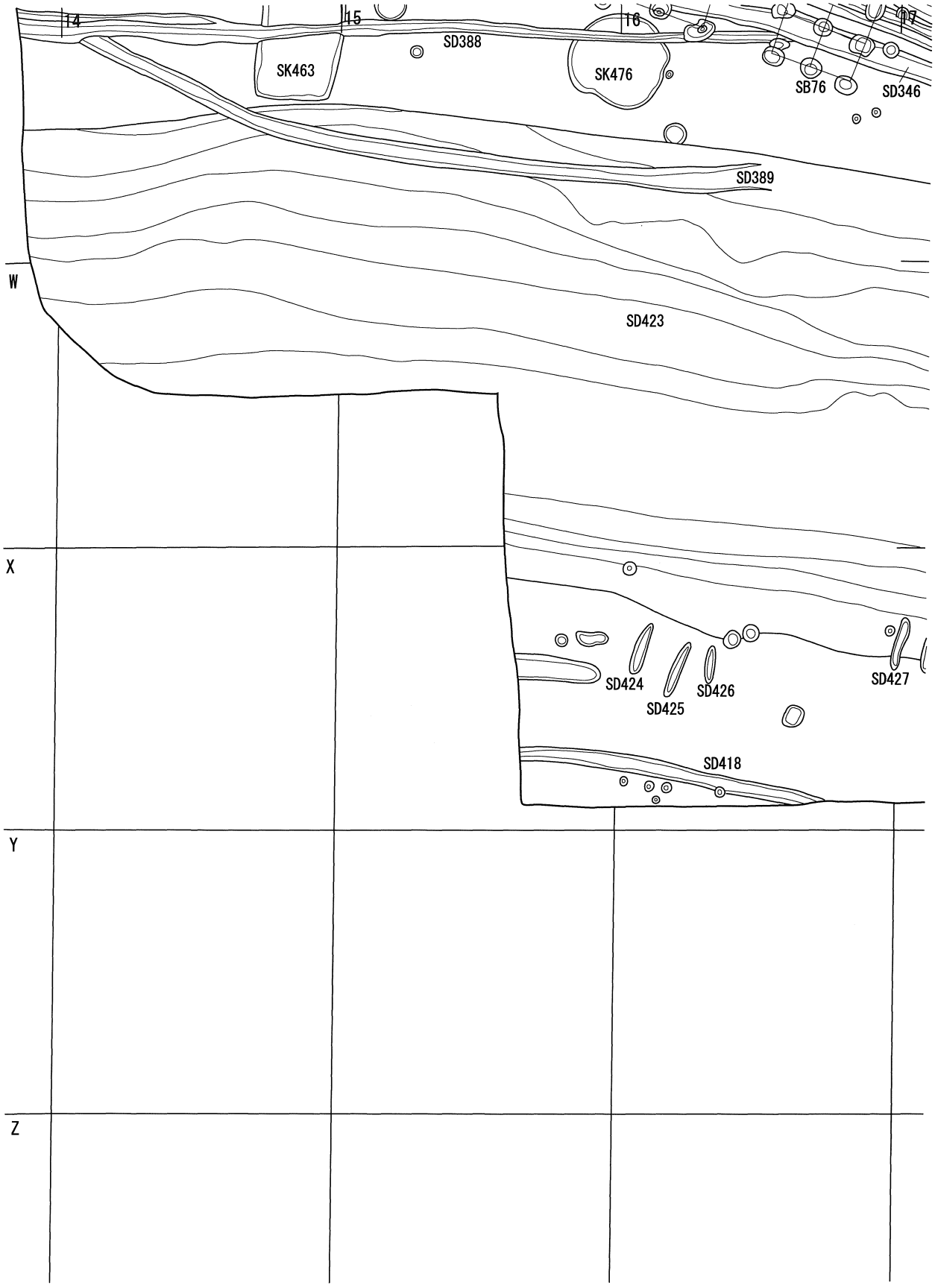
第37図　遺構全体図(29)



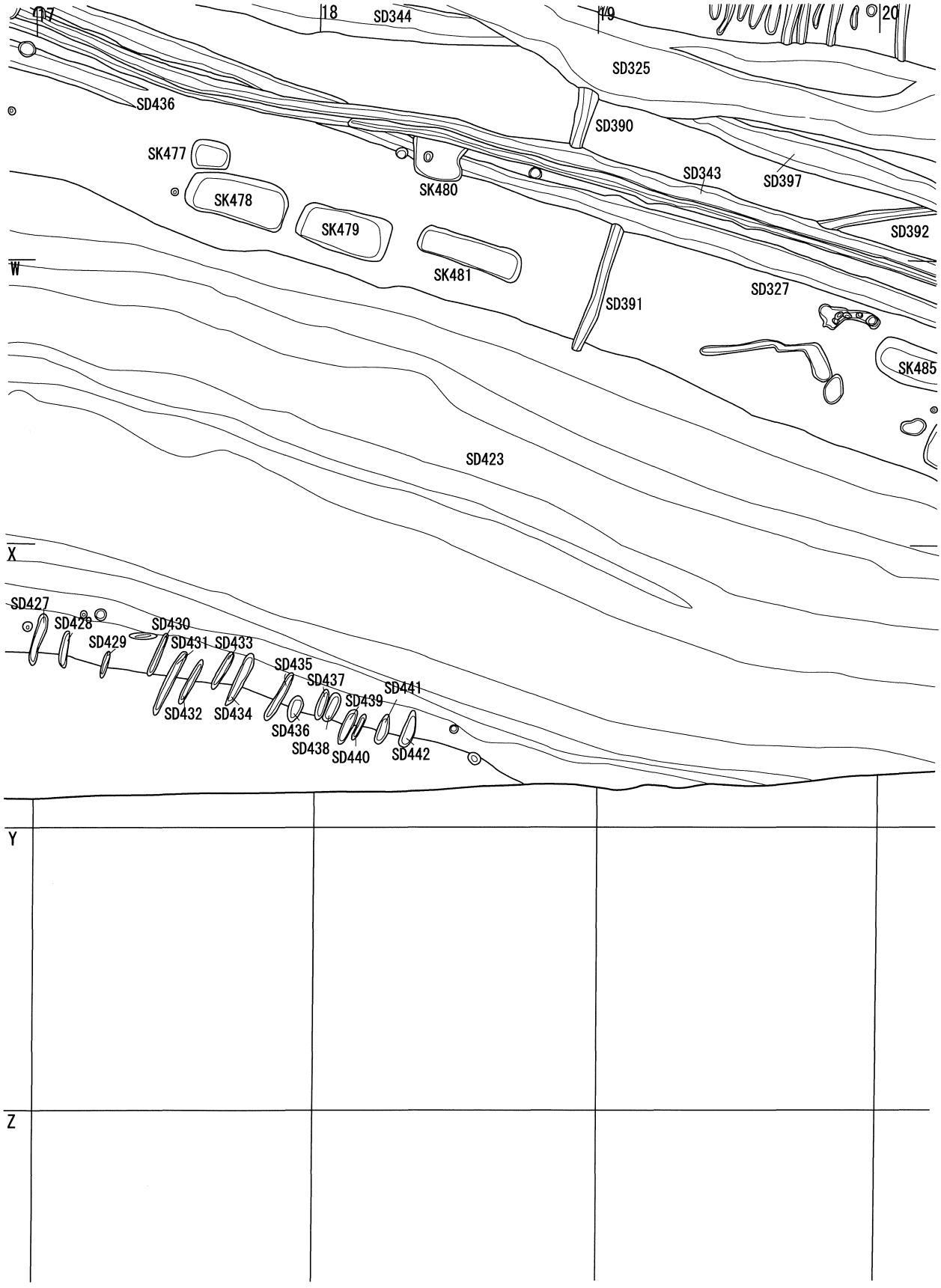
第38図　遺構全体図(30)



第39図　遺構全体図(31)

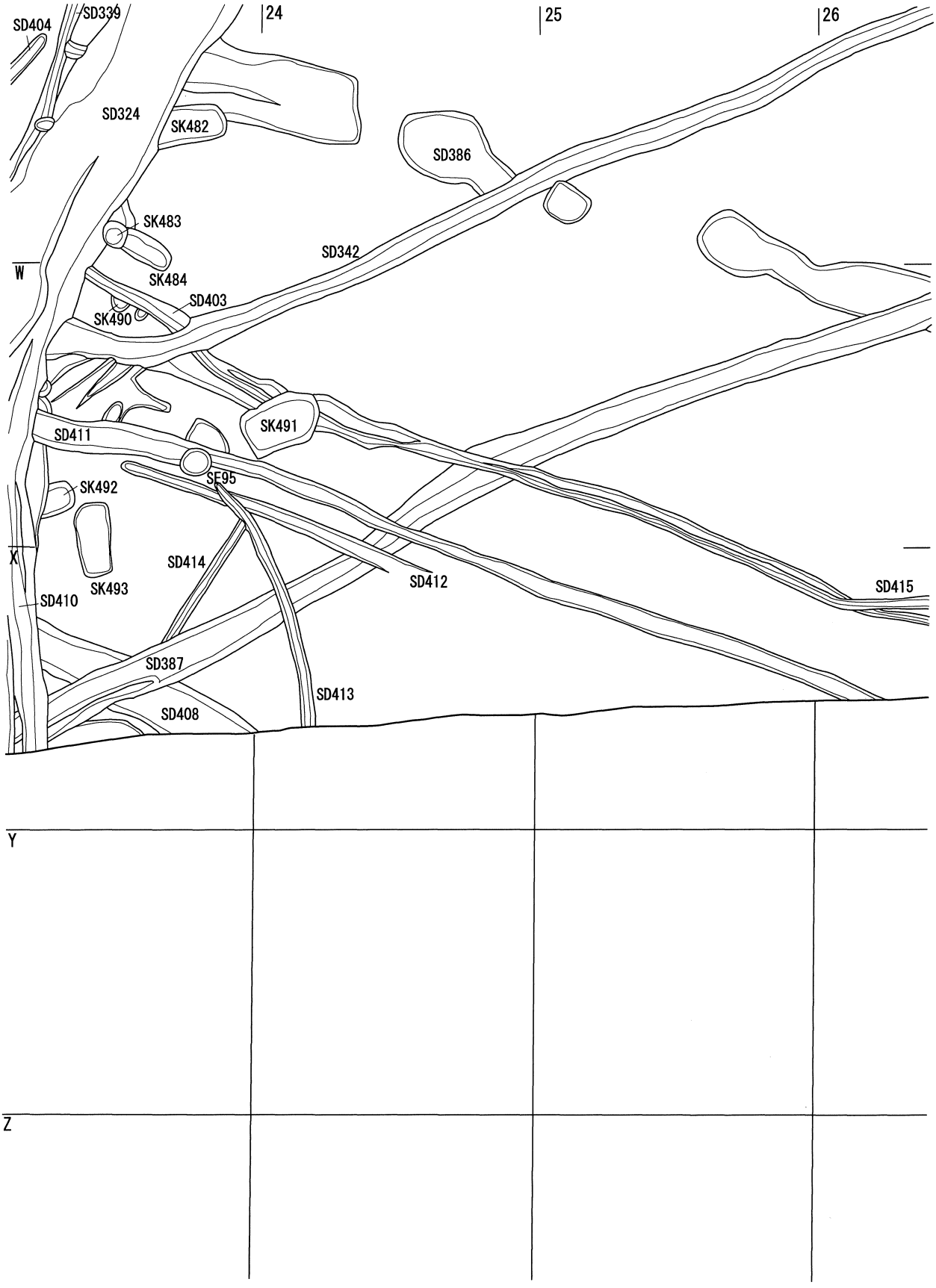


第40図　遺構全体図(32)

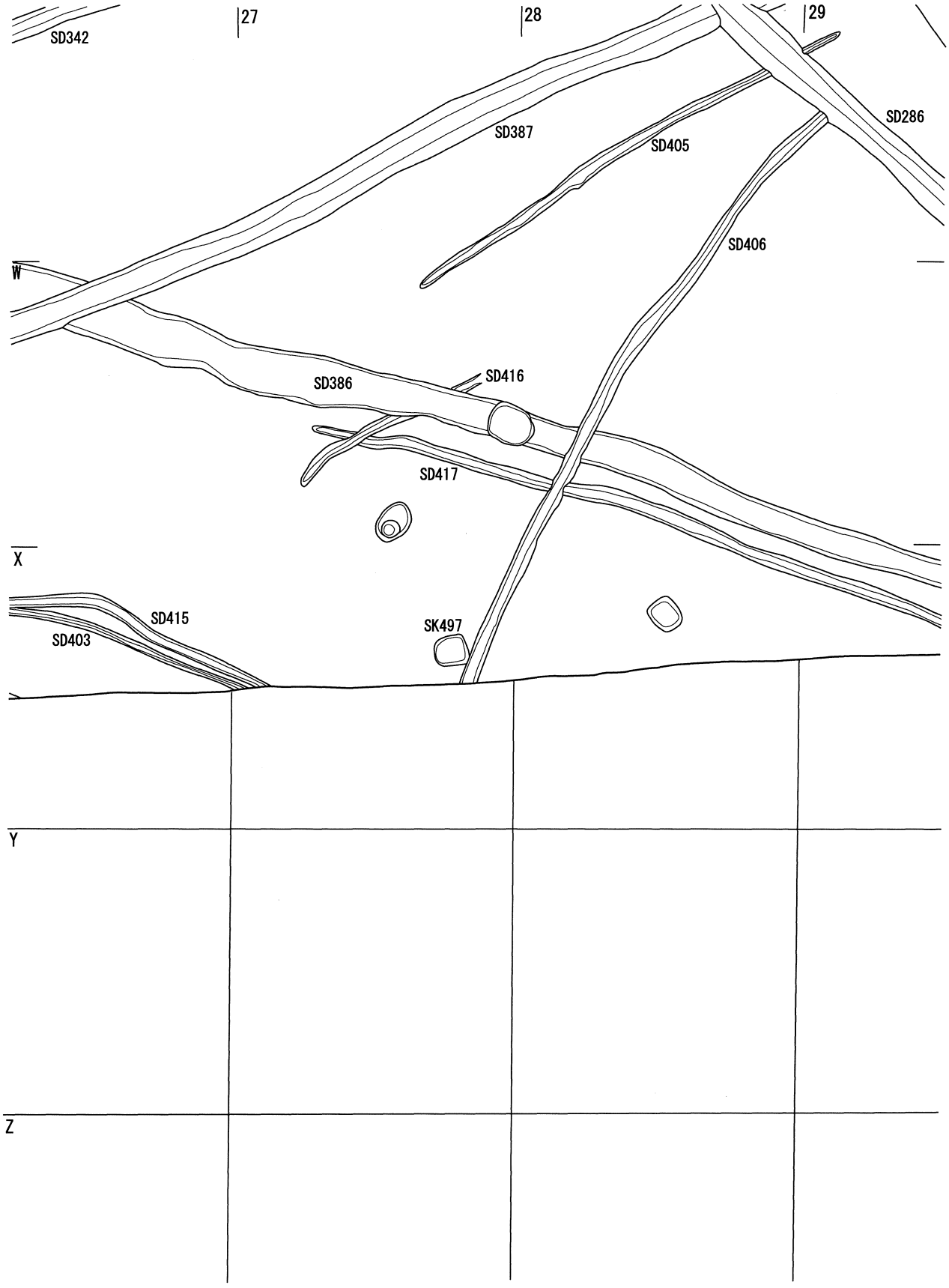


第41図　遺構全体図(33)

第42図　遺構全体図(34)

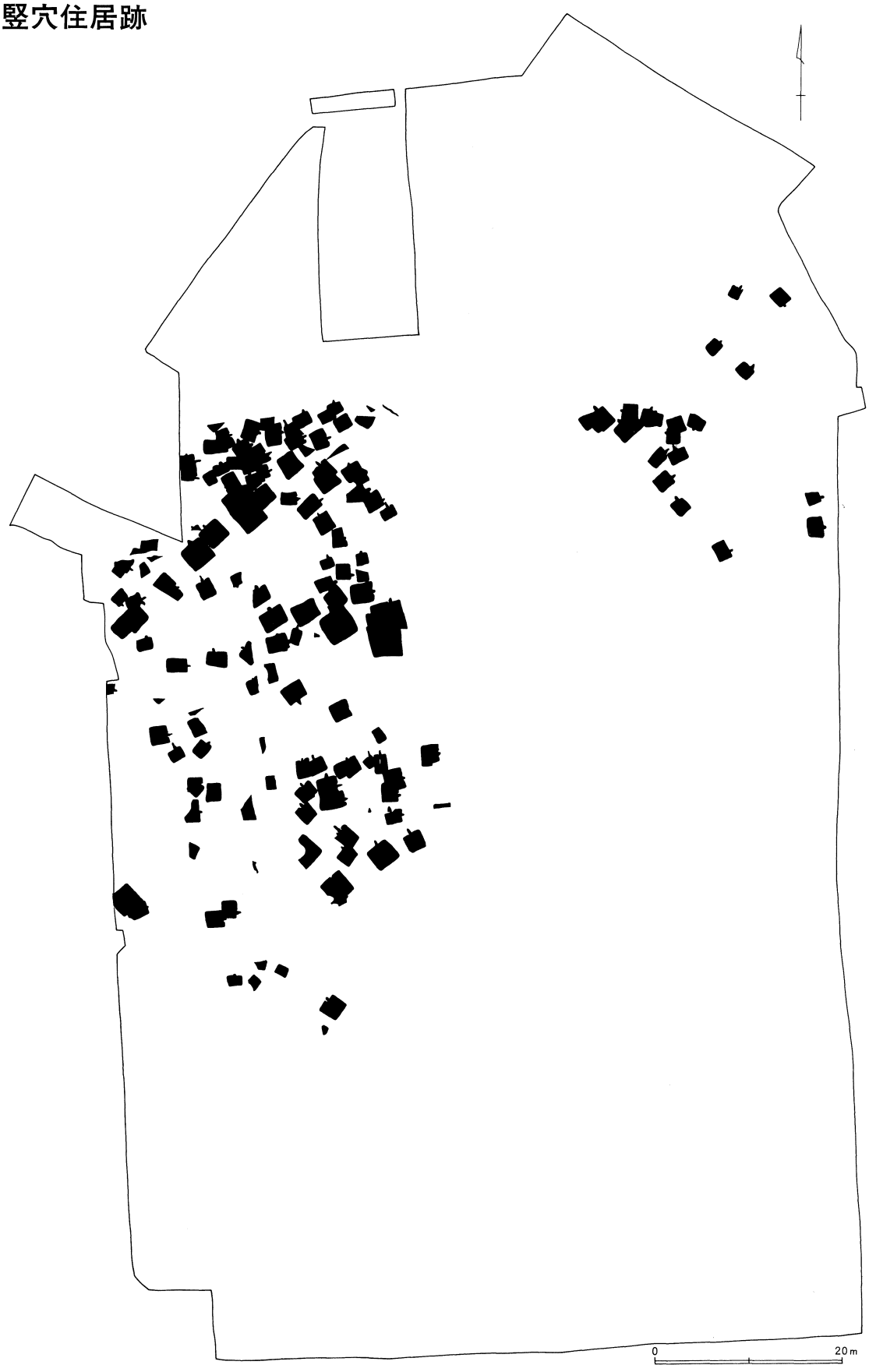


第43図　遺構全体図(35)



第44図　遺構全体図(36)

1．竪穴住居跡



第45図　竪穴住居跡全体図

概　　要

分布について

北島遺跡第19地点では、192軒の竪穴住居跡を検出した。竪穴住居跡の分布は、調査区西側と古墳群が広がる調査区東側で確認できた。水田域の広がる北側と南側、谷水田の広がる中央部に竪穴住居跡は見られなかった。

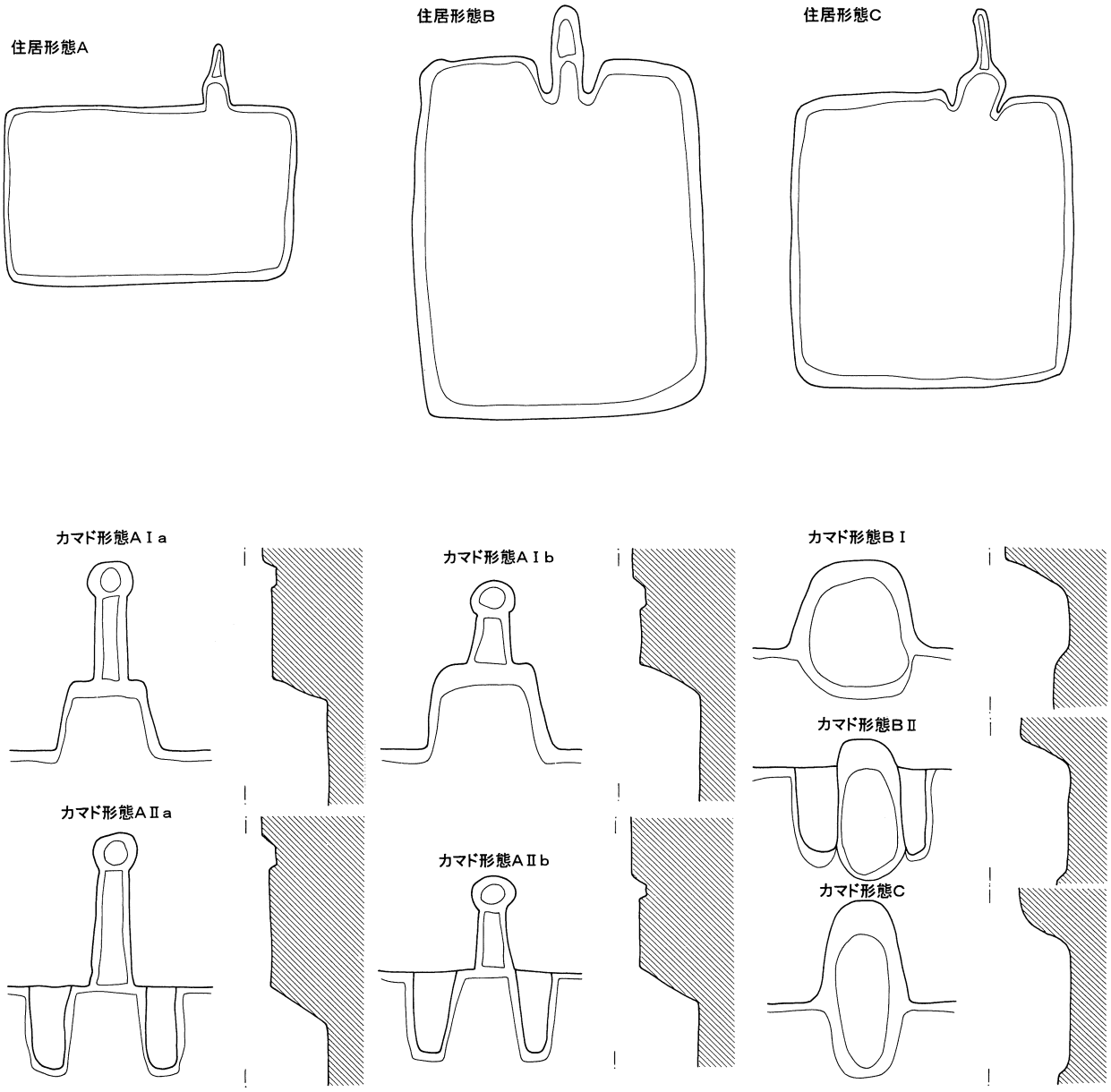
規　模

北島遺跡第19地点では、面積30㎡を超える竪穴住居跡が、4軒見られた。第58・82・109・121号住居跡である。とくに第58号住居跡と第121号住居跡は、50㎡を超える大形住居跡である。これらの竪穴住居跡は、調査区の西側に多く分布している。

構　造

主柱穴が確認できた竪穴住居跡は、10軒と少なかった。壁溝を検出した竪穴住居跡は、99軒である。第104・172号住居跡は、壁溝内に小穴が巡っていた。

竪穴住居跡の一覧表では、竪穴住居跡の形態を㈱



第46図　竪穴住居跡・カマド模式図

埼玉県埋蔵文化財調査事業団　第190集『中堀遺跡』に準拠して、以下のとおり分類した（第46図）。

A　住居跡の平面形が長方形で、長辺にカマドが付設される形態。

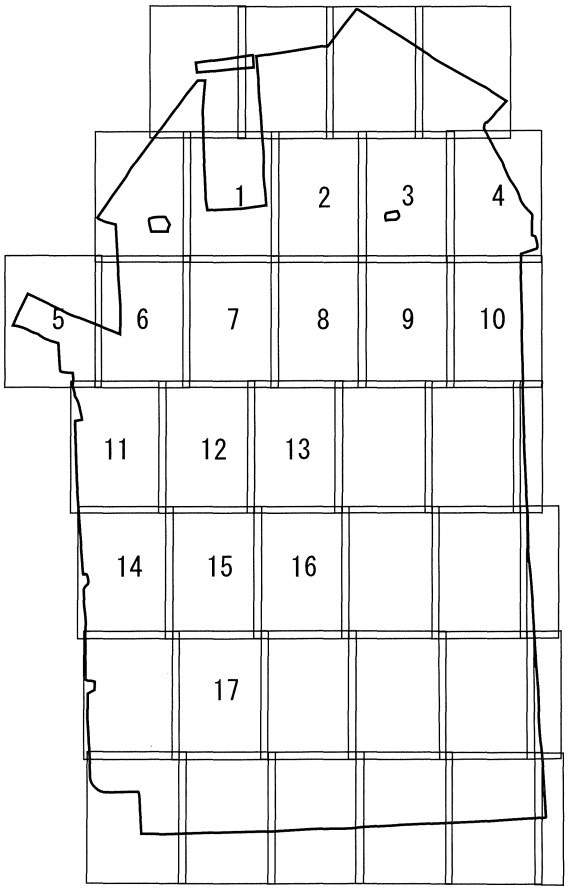
B　住居跡の平面形が長方形で、短辺にカマドが付設される形態。

C　住居跡の平面形が、正方形に近い形態。

カマド

竪穴住居跡の半分以上には、カマドが付設されていた。カマドは、135基である。

カマドは、地山の土で袖部および燃焼部を構築する工法が主体である。一部には、灰黄色粘土を使用して構築したカマドもあった。



第47図　竪穴住居跡全体図区割図

カマドの袖部先端には、補強材として土師器の甕や自然石を使用している例もみられた。支脚は、抜き取られている場合が多く、支脚が残存していたのは一例だけである。

煙道部は、長く竪穴外に延びる形態と、燃焼部奥壁から立ち上がる形態とに大別できる。

なお、竪穴住居跡の一覧表では、カマドの形態分類について、(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団　第190集『中堀遺跡』に準拠して、以下のとおり分類した（第46図）。

A　煙道が、壁外に細長く延びる形態。

B　煙道が細長く延びない形態。

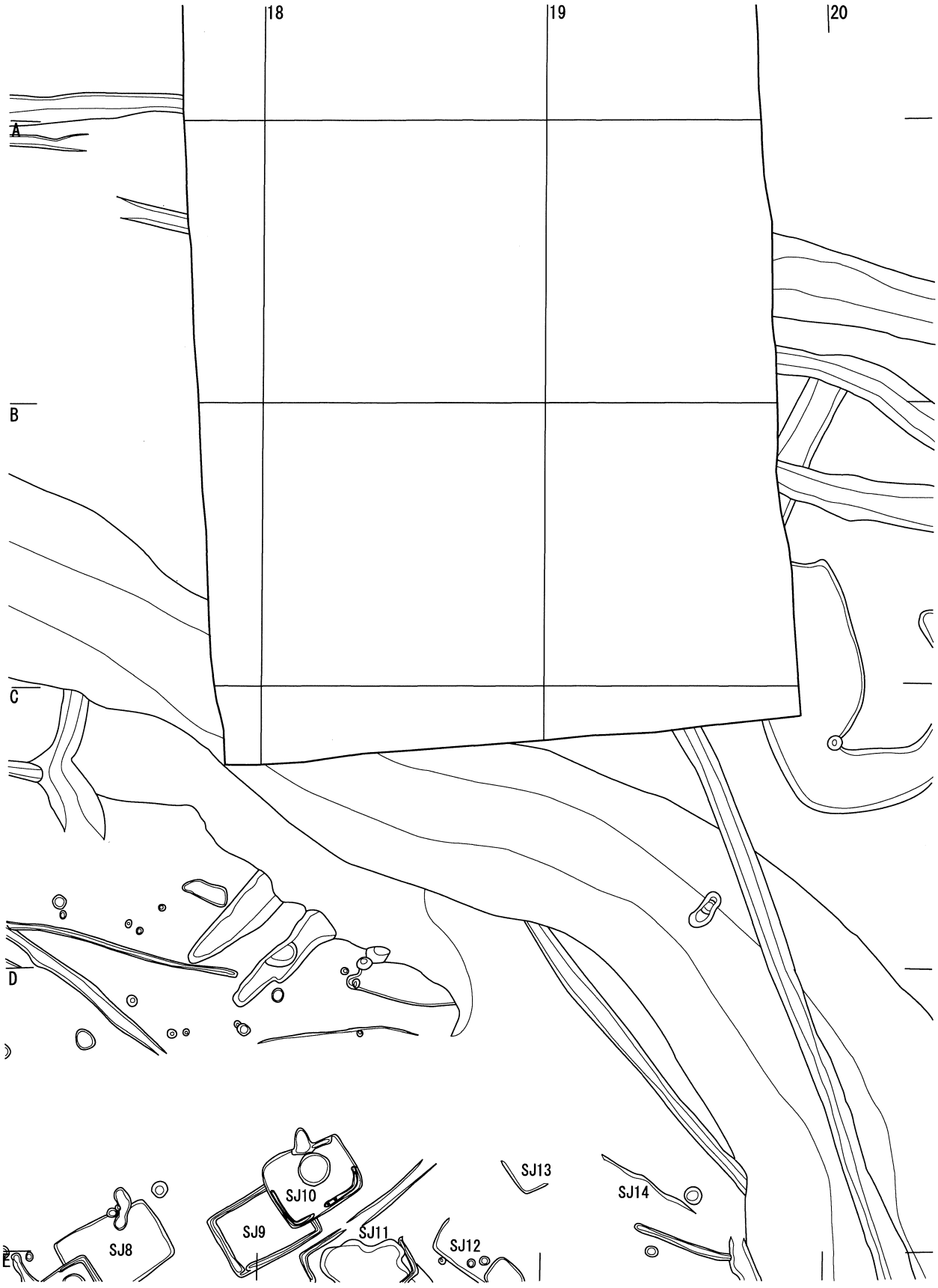
C　燃焼部から煙道部までが細長く、船底状の形態。

A・B類は、燃焼部の位置からさらに二つに細分できる。

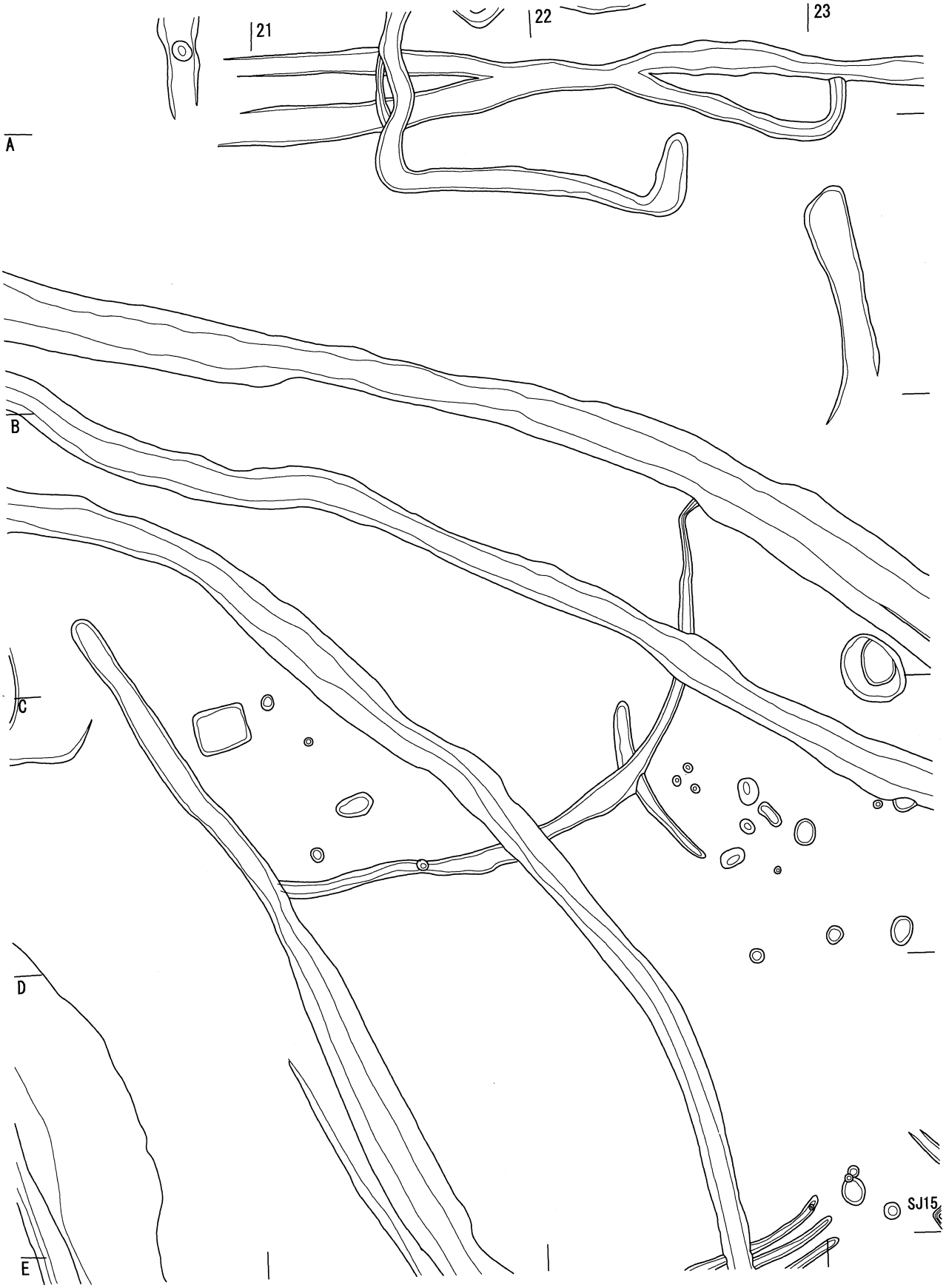
I　燃焼部を竪穴外に造る。

II　燃焼部を竪穴内に造る。

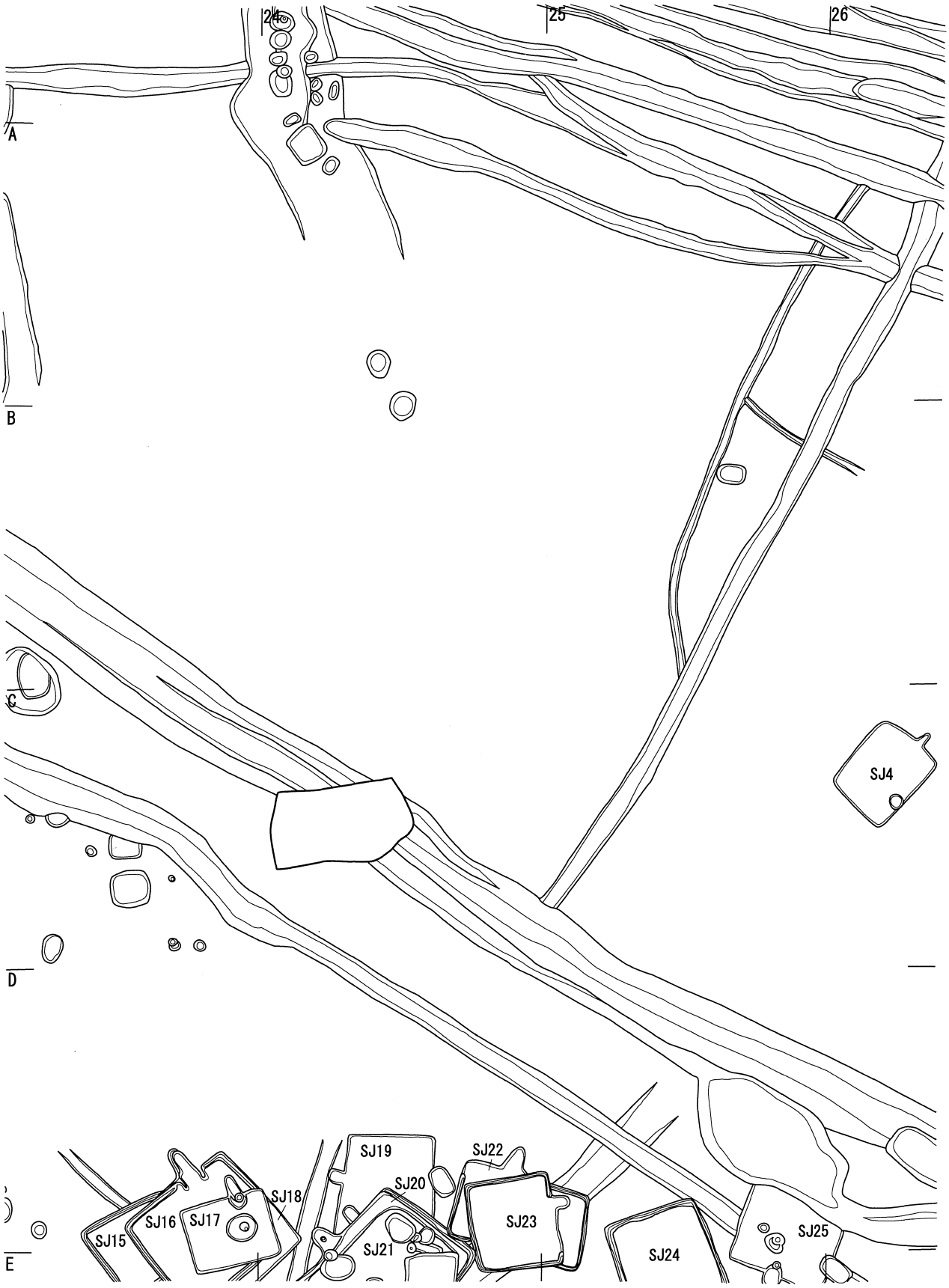
また、Aについては、煙道の長さにより、長い煙道をa、短い煙道をbとした。



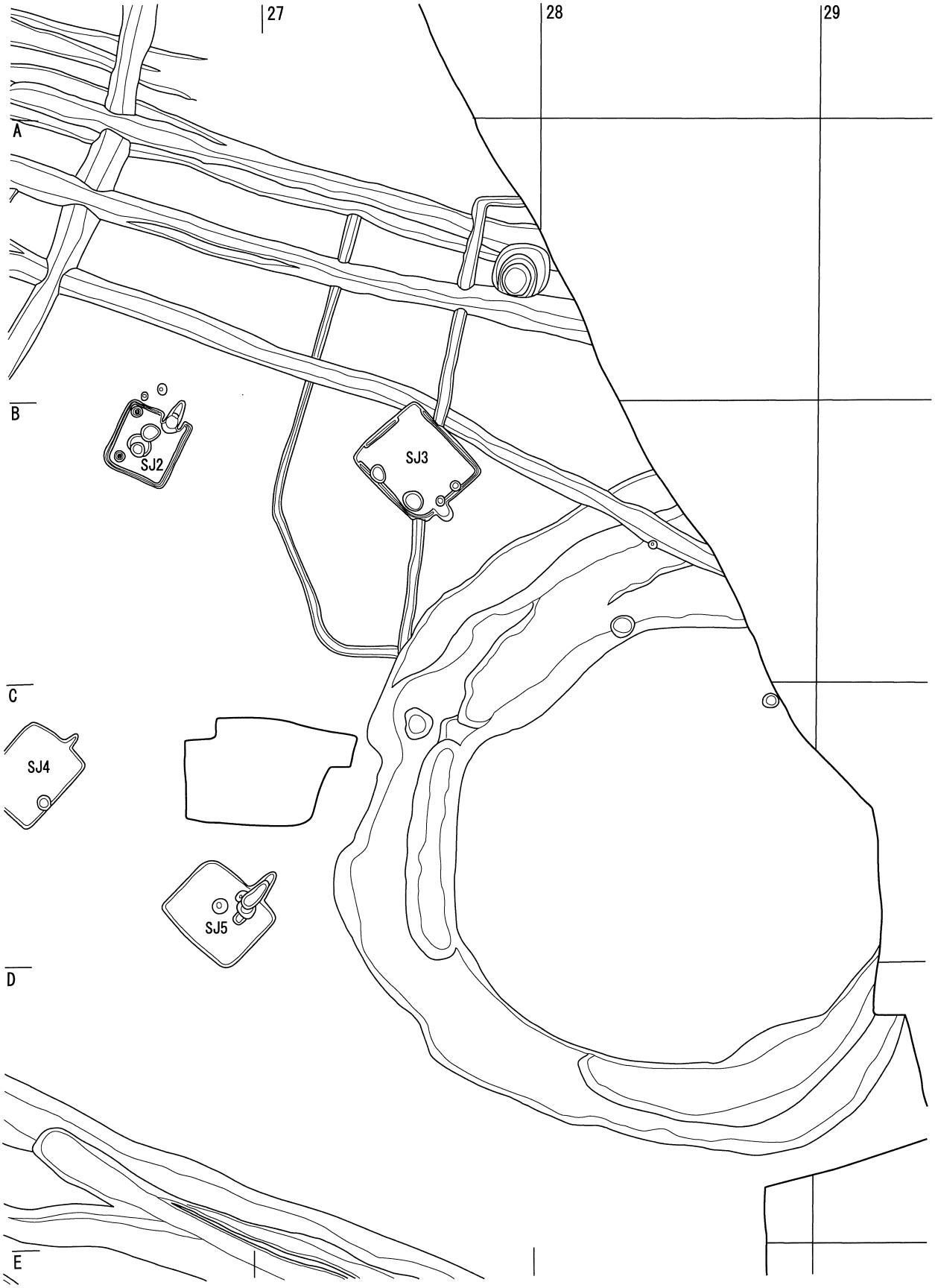
第48図　竪穴住居跡全体図(1)



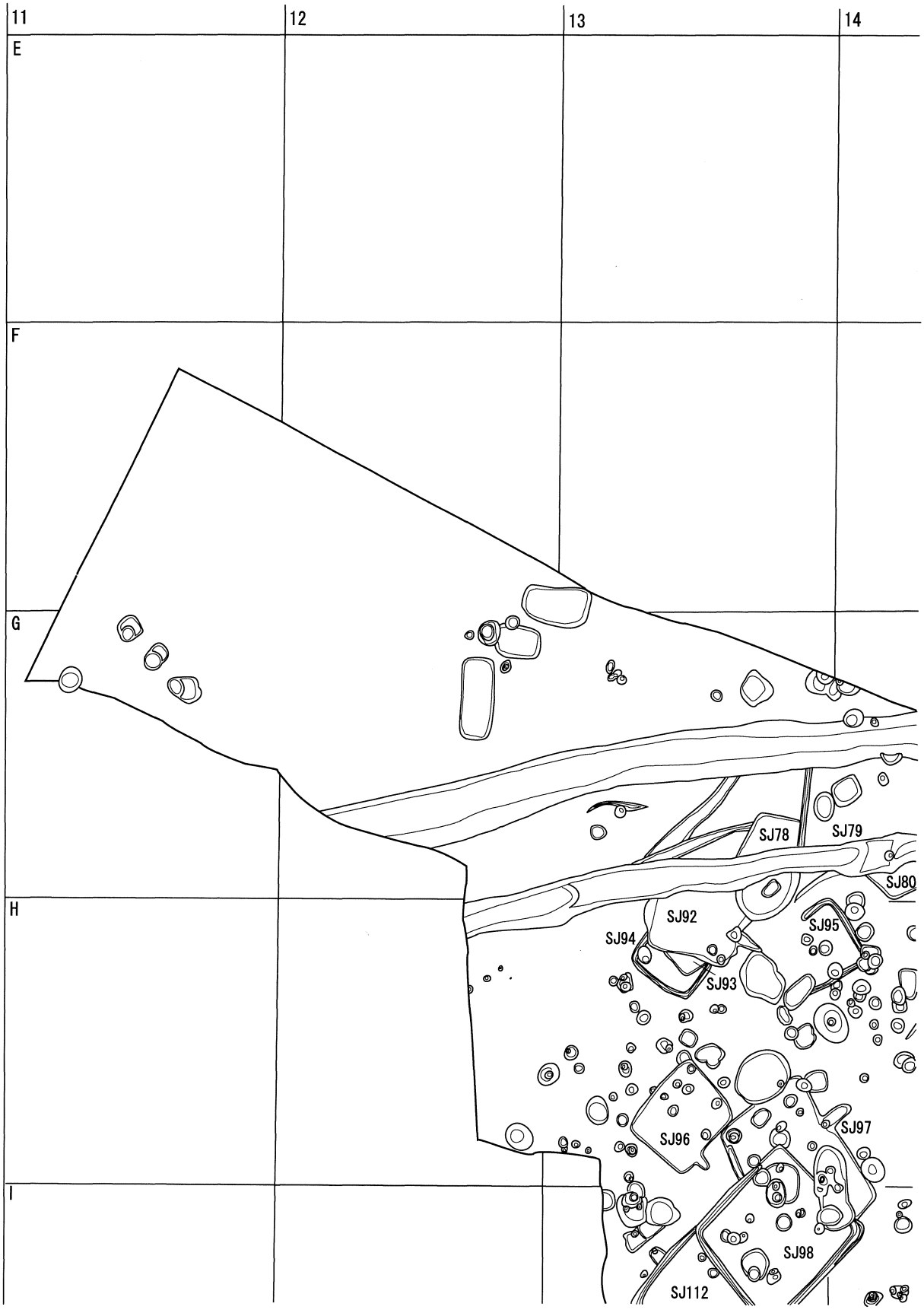
第49図　竪穴住居跡全体図(2)



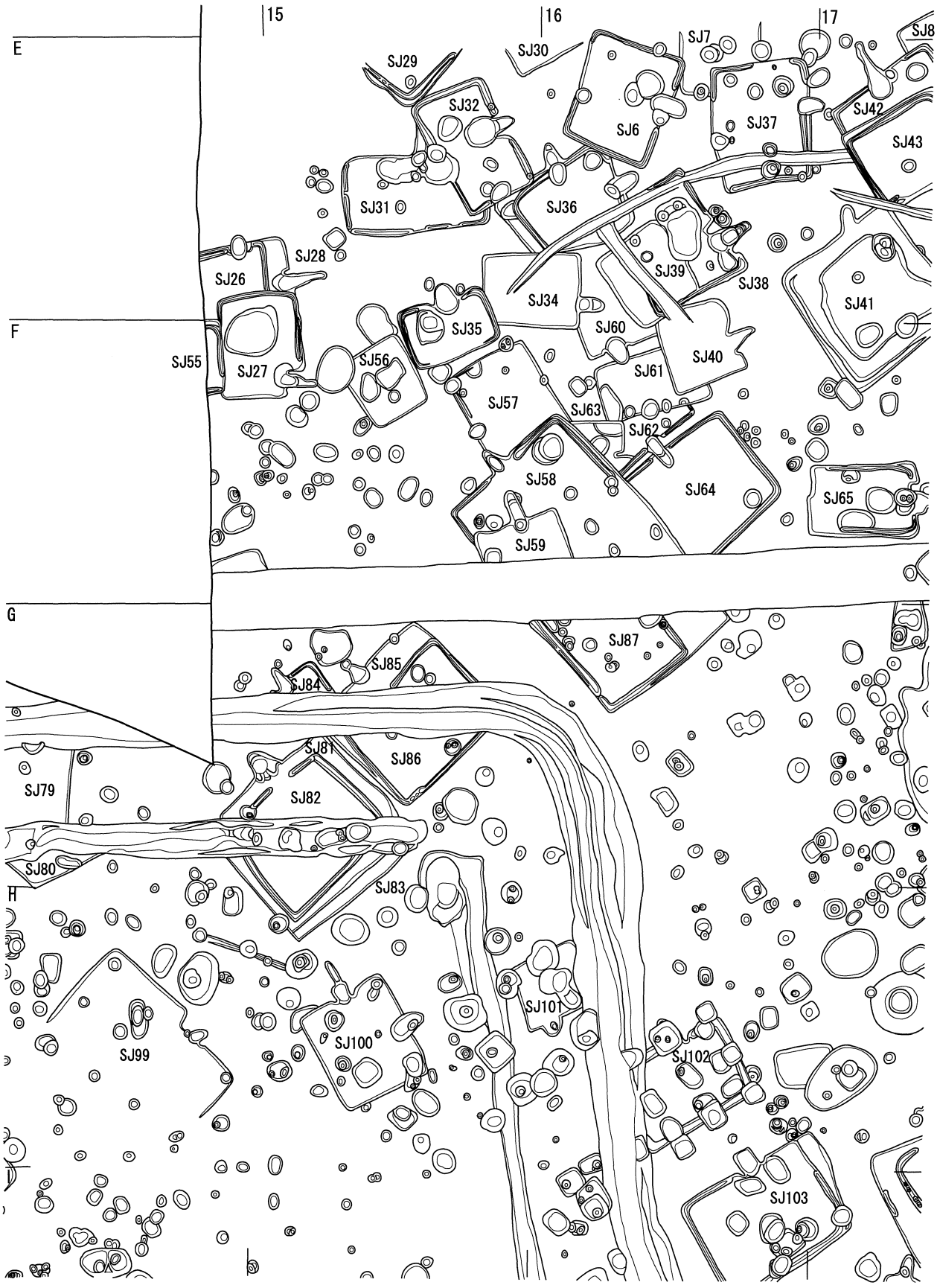
第50図　竪穴住居跡全体図(3)



第51図　竪穴住居跡全体図(4)



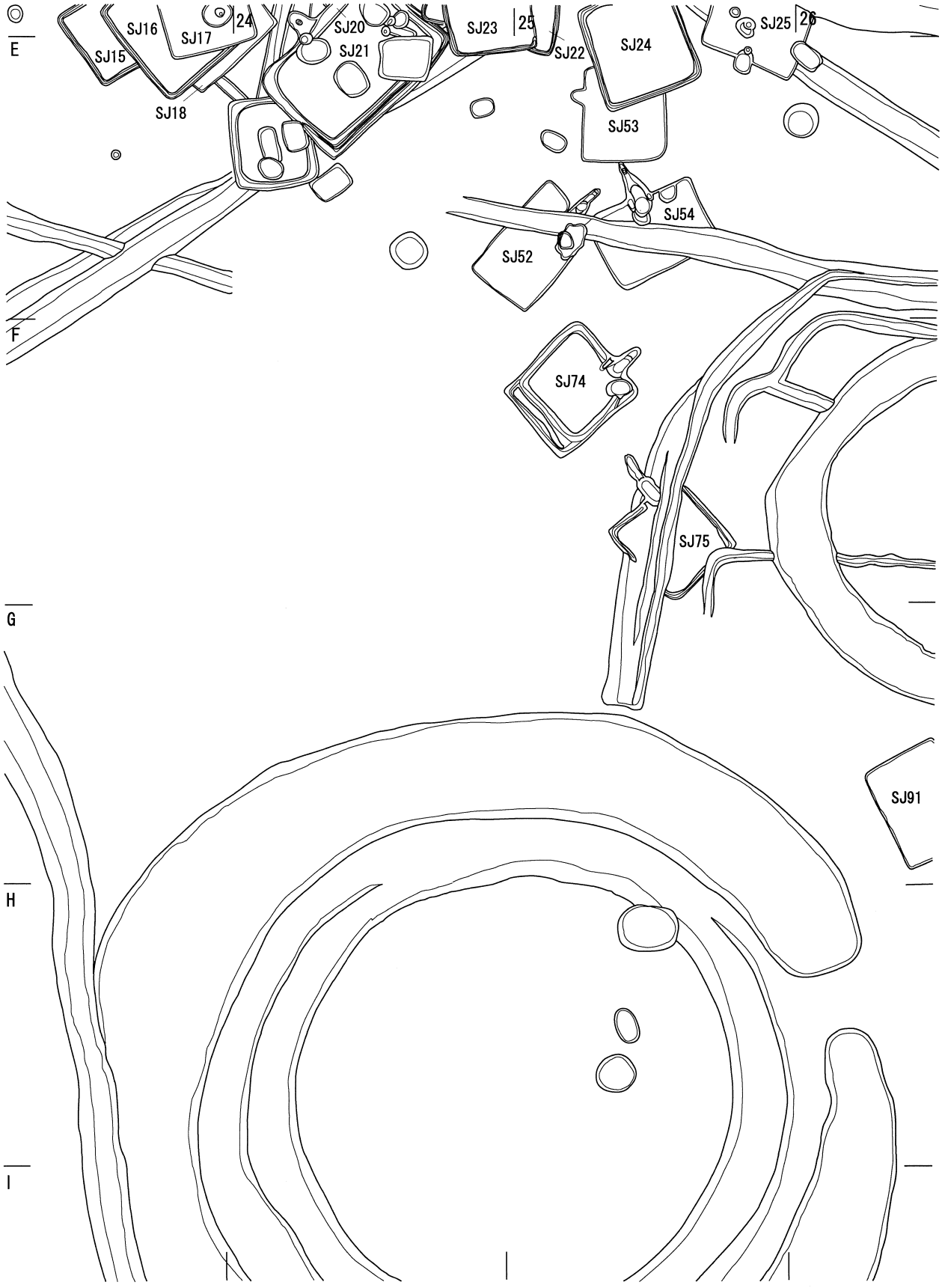
第52図　竪穴住居跡全体図(5)



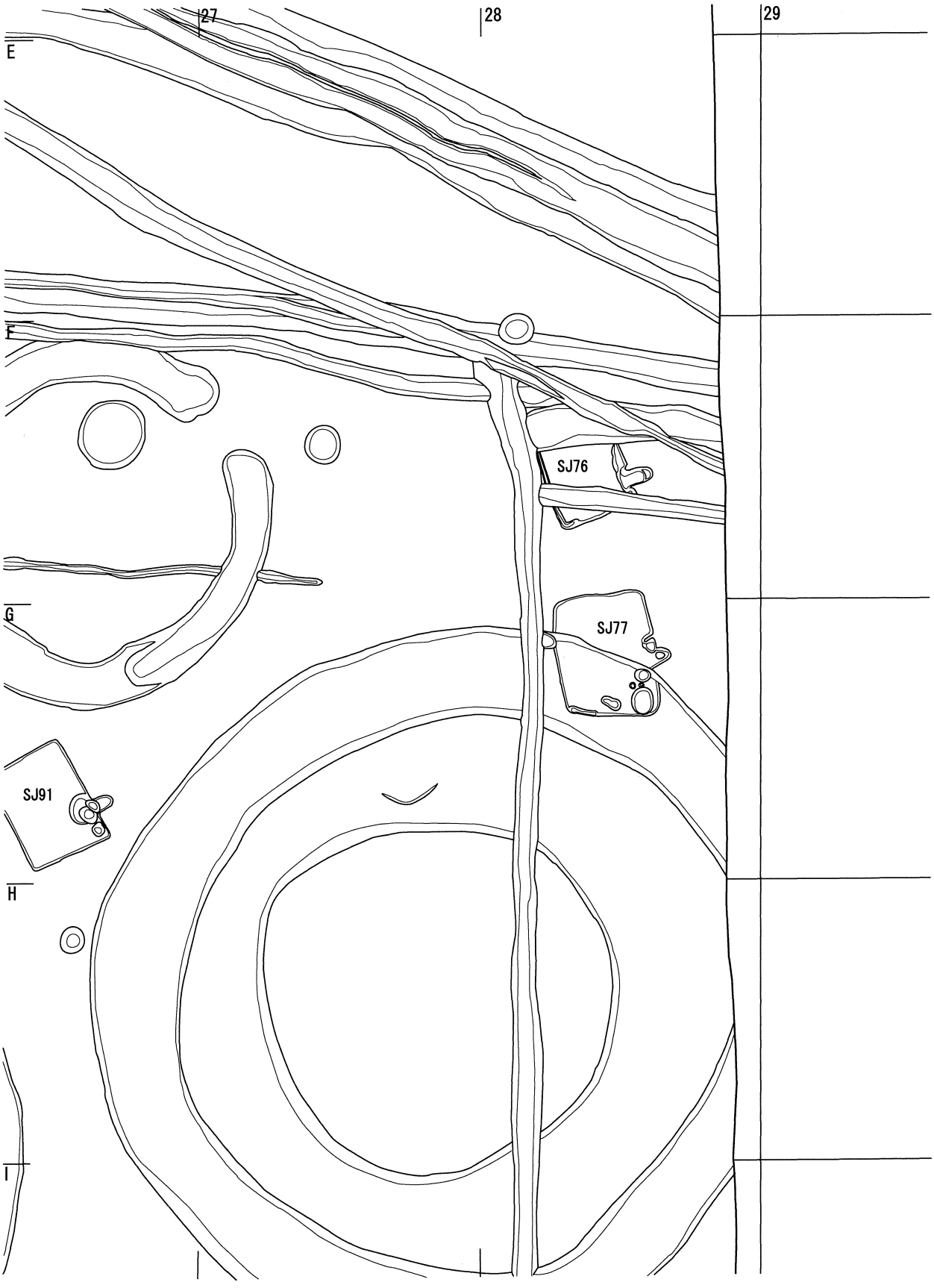
第53図　竪穴住居跡全体図(6)

第54図　竪穴住居跡全体図(7)

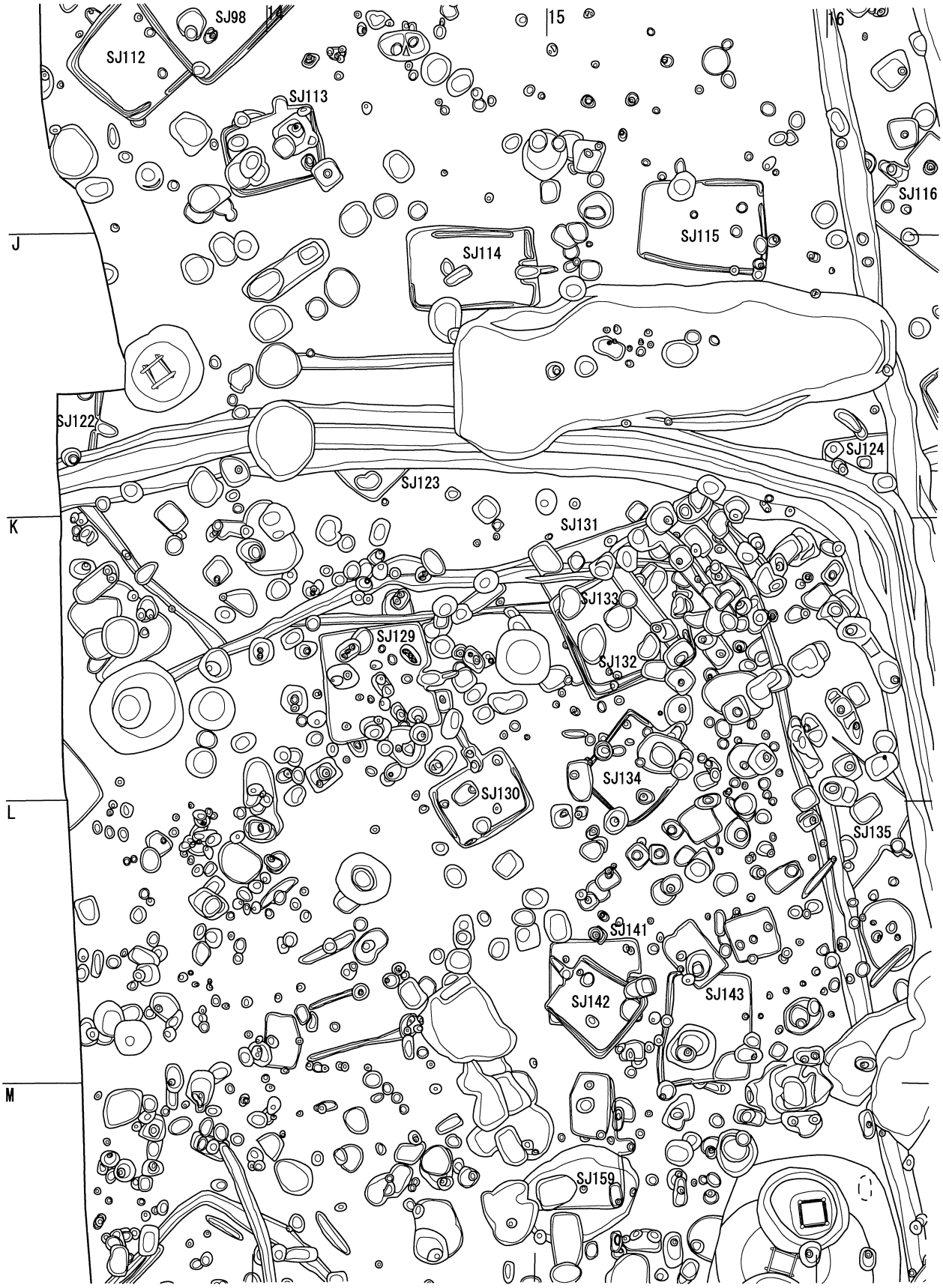
第55図　竪穴住居跡全体図(8)



第56図　竪穴住居跡全体図(9)



第57図　竪穴住居跡全体図(10)



第58図　竪穴住居跡全体図(II)

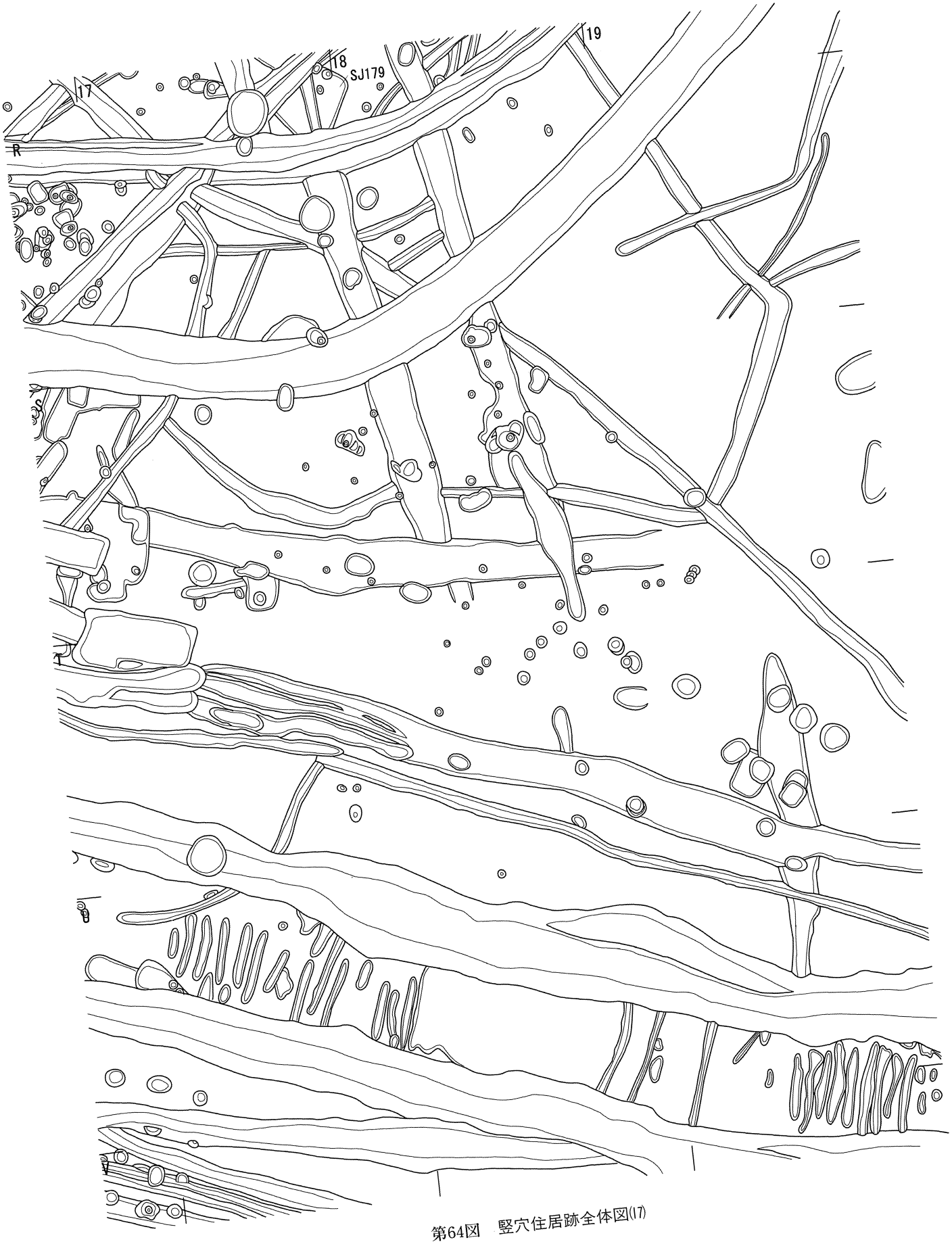
第59図　竪穴住居跡全体図(12)

第60図　竪穴住居跡全体図(13)

第61図　竪穴住居跡全体図(14)

第62図　竪穴住居跡全体図(15)

第63図　竪穴住居跡全体図(16)



第64図　竪穴住居跡全体図(17)

竪穴住居跡一覧

番号	時期	グリッド	住居形態	カマド形態	長軸長さ	短軸長さ	深さ	長軸方位	カマド方位	備考
1	8C後	Z・Y24・25	—	—	4.71	4.16	0.10	N—83°—W	—	
2	9C後	B26	C	AIIa	2.54	2.43	0.17	N—27°—E	N—30°—E	
3	10CII	B27	B	BI	3.56	3.10	0.21	N—42°—W	N—45°—W	
4	10C前	C26	B	C	3.15	2.53	0.05	N—42°—E	N—42°—E	
5	9CIII	C26・27	A	C	(3.37)	2.80	0.12	N—48°—W	N—38°—E	
6	9CIV	E16	C	C	4.00	3.22	0.10	N—23°—E	N—70°—W	
7	9C前	D・E16	—	—	2.90	(2.32)	0.37	N— 0	—	
8	8CIV	D・E17	—	—	3.70	2.60	0.15	N—58°—E	—	
9		D・E17・18	—	—	3.40	(2.06)	0.11	—	—	
10	8CIV	D18	C	BI	3.10	2.61	0.15	N—56°—E	N—27°—W	長軸は東西方向
11	8CIII	D・E18	—	—	3.55	2.76	0.20	N—60°—E	—	
12	7CIV	D・E18・19	—	—	3.90	3.50	0.15	N—55°—W	—	
13	8CI	D18・19	—	—	(2.55)	(0.50)	0.02	N—90°—EW	—	
14	8C後	D19	—	—	(6.77)	(2.88)	0.13	N—53°—W	—	
15	9CIII	D・E23	—	—	3.36	2.99	0.07	N—63°—E	—	
16	9C前	D・E23	C	C	4.57	4.06	0.14	N—49°—E	N—41°—W	
17	9CI	D・E23・24	A	C	3.06	2.37	0.15	N—70°—E	N—22°—W	
18	9CIV	D・E24	B	AIa	4.31	3.51	0.20	N—42°—W	N—41°—W	
19	10C後	D24	—	BI	3.09	—	0.12	N—88°—W	N—88°—W	長軸は東西方向
20	9CII	D・E24	A	C/BI	5.58	4.57	0.06	N—47°—E	N—43°—W	
21	9CII	D・E24	A	BI	5.58	3.97	0.21	N—45°—E	N—47°—W・N—43°—W	
22	8CIII(7CI・7CIV)9CIIV	D24・E25	A	BI	4.65	2.66	0.03	N—75°—W	N—13°—E	
23		D・E24・25	C	BI	3.26	3.10	0.05	N—12°—W	N—78°—E	
24	9CII	D・E25	—	—	3.75	3.52	0.05	N—20°—W	—	
25	8CIV	D・E25・26	—	BI	3.58	(3.20)	0.12	N—73°—W	N—16°—E	
26	8CII	E14・15	A	BI	(2.43)	2.26	0.10	N—84°—E	N— 5 °—E	長軸は東西方向
27	10CI	E・F14・15	A	C	3.78	2.80	0.21	N— 0	N—88°—E	
28	8CIII	E15	—	AIIa	(3.49)	(3.15)	0.21	N— 7 °—W	N—84°—E	長軸は南北方向
29		E15								
30	8CII	E15・16	—	—	(2.40)	—	0.07	N—68°—E	—	長軸は東西方向
31	10CIV	E15	A	AIb	5.33	2.80	0.17	N—85°—E	N— 4 °—W	
32	8CIII	E15	A	C	4.40	2.66	0.15	N—24°—W	N—64°—E	
33		E15・16								
34	9CIV	F15・16	—	—	3.41	(1.53)	0.21	N—89°—E	—	
35	8CIV	E・F15	A	BI	3.16	2.24	0.05	N—72°—E	N—18°—W	
36	8CIV	E15・16	A	BI/BI	4.20	3.20	0.37	N—55°—E	N—27°—W・N—57°—E	A カマド
37	8CI	E16・17	A	C	4.22	3.56	0.09	N— 0	N—88°—E	
38	9CI	E16	C	AIb	4.26	3.78	0.24	N—34°—W	N—65°—E	

番号	時期	グリッド	住居形態	カマド形態	長軸長さ	短軸長さ	深さ	長軸方位	カマド方位	備考
39	(9CI)	E・F16	—	—	(2.71)	2.63	0.15	N—32°—W	—	長軸は南北方向
40	8CIV	E・F16	C	C	2.85	2.72	0.06	N—76°—E	N—75°—E	長軸は東西方向
41		E・F16・17	C	BI	5.40	4.87	0.14	N—42°—W	N—37°—W	
42	7CIII	E17・18	—	AIIa	4.26	(1.67)	0.09	N—56°—E	N—30°—W	
43	8CIII	E17	B	BI	3.85	3.18	0.41	N—65°—E	N—61°—E	
44	8CIII	E17・18	A	c	4.20	3.27	0.25	N—24°—W	N—68°—E	
45	7CIII	E17	—	—	—	—	0.14	—	—	長軸は南北方向
46	(7C後)	E・F17・18	C	C	4.18	4.10	0.08	N—43°—E	N—46°—W	長軸は東西方向
47	7CII	F17・18	C	AIIa	4.44	4.20	0.22	N—52°—E	N—30°—W	
48	7CIII	E18	—	—	5.06	(2.60)	0.10	N—45°—E	—	
49	7CIV	E・F18	A	C	4.10	3.48	0.09	N—51°—E	N—39°—W	
50	8C中葉	E・F18	—	—	3.45	3.10	0.17	N—31°—E	—	
51	10C後(10C前)	E23・24	—	—	3.19	2.87	0.08	N—8°—W	—	
52	9C前	E24・25	B	AIb	4.16	2.57	0.04	N—44°—E	N—45°—E	
53	8CII	E25	A	BI	3.45	2.97	0.07	N—2°—W	N—89°—W	
54	8C後	E25	A	AIIa	3.96	2.69	0.23	N—65°—E	N—21°—W	
55	9C前	F14	—	—	2.63	(0.57)	0.15	N—3°—W	—	長軸は南北方向
56		F15	—	—	2.72	2.33	0.08	N—28°—W	—	
57	8CIII	F15・16	—	—	(3.60)	3.09	0.05	N—31°—W	—	長軸は南北方向
58	7C前(7CII)	F15・16	B	AIb	9.38	5.44	0.06	N—45°—W	N—43°—W	長軸は東西方向
59	7CIV	F15・16	—	C	(3.12)	(1.72)	0.20	N—69°—E	N—25°—W	長軸は東西方向
60	8CIII	F16	—	BI	(2.84)	(2.05)	0.13	N—75°—E	N—13°—W	長軸は東西方向
61	9CIV	F16	—	—	3.95	2.15	0.1	N—71°—E	—	
62	7CIII	F16	—	AIa	(3.50)	(1.50)	0.03	N—48°—E	N—42°—W	
63	9CIV(8CIV~9CI)	F16	A	BI	3.58	3.00	0.09	N—3°—W	N—83°—E	
64	7CIII	F16	—	—	3.90	—	0.15	N—41°—W	—	長軸は南北方向
65	8CII	F16・17	B	AIb	3.86	2.98	0.09	N—90°—EW	N—90°—EW	
66	7CI	F・G17	B	AIa	4.75	2.97	0.10	N—52°—E	N—52°—E	
67	7CIV	F・G17・18	B	AIIa	4.04	3.65	0.07	N—29°—W	N—24°—W	
68	7CIV	F18	—	—	2.86	—	0.05	N—50°—E	—	長軸は東西方向
69		F18	—	BI	4.19	(3.50)	0.12	N—40°—W	N—52°—E	
70	7CIV	F18	—	—	4.70	—	0.23	N—87°—E	—	
71	10CIII	F18	—	—	3.29	—	0.17	N—75°—E	—	
72	9CI	F18・19	C	C/AIIb	3.81	3.68	0.18	N—61°—E	N—21°—W・N—60°—E	A カマド
73	8CIV	F・G19	A	AIIa	3.25	3.12	0.38	N—61°—E	N—27°—W	
74	9CI	F24・25	B	C	3.70	3.40	0.11	N—51°—E	N—51°—E	
75	9C前	F25	C	AIa	3.42	3.19	0.25	N—42°—W	N—34°—W	
76	9CIV	F28	A	C	3.35	2.81	0.31	N—24°—W	N—78°—E	
77	11C前	F・G28	A	BI	4.41	3.47	0.02	N—9°—E	N—80°—E	

番号	時期	グリッド	住居形態	カマド形態	長軸長さ	短軸長さ	深さ	長軸方位	カマド方位	備考
78		G13	—	—	(2.02)	(1.35)	0.14	N—84°—E	—	長軸は東西方向
79		G13	—	—	4.50	—	0.10	N—86°—W	—	
80		G14	—	—	(4.29)	(3.09)	0.08	N—90°—EW	—	長軸は東西方向
81		G14・15	C	BI	—	—	—	—	—	
82	7CIV	G14・15	C	BI	5.56	5.43	0.21	N—49°—E	N—40°—W	
83		G15	B	BI	—	—	—	—	—	
84	(9C)	G15	—	AIIb	(1.84)	(1.12)	0.60	N—54°—E	N—42°—W	長軸は東西方向
85		G15	—	—	—	—	—	—	—	
86	8CI	G15	C	AIb	5.00	4.61	0.16	N—44°—E	N—51°—W	
87	8CIV	G16	—	—	(4.28)	3.58	0.07	N—38°—W	—	
88	9CII	G・H17・18	A	AIa	2.76	2.27	0.20	N—68°—E	N—21°—W	
89	10CIII	G18	A	BII	4.09	2.99	0.11	N—13°—W	N—73°—E	
90	10CIII	G・H18	A	C	4.57	2.72	0.04	N— 9 °—W	N—86°—E	
91		G26	A	C	3.88	2.96	0.06	N—25°—W	N—67°—E	
92	9CI	H13	—	AIIa	3.68	(2.97)	0.22	N—71°—W	N—61°—W	
93		H13	—	—	3.05	—	0.1	N—37°—W	—	
94	9CII(7CII)	H13	—	—	2.50	(0.94)	0.06	N—60°—W	—	
95	8CII	H13・14	—	—	3.15	2.65	0.01	N—53°—E	—	
96	7CIII	H13	A	AIIb	3.07	2.69	0.09	N—46°—E	N—50°—W	
97	8CIV	H13・14・I14	A	C	5.35	3.53	0.15	N—36°—W	N—60°—E	
98	7CIV	H13・I13・14	C	AIb	4.77	4.56	0.18	N—45°—E	—	
99	7CI	H14	—	BI	(6.47)	(3.50)	0.10	N—48°—W	N—69°—E	長軸は東西方向
100	6CIV	H15	B	AIa	3.79	3.33	0.05	N—31°—W	N—30°—W	
101	7CIV	H15・16	C	BI	2.40	2.40	0.15	N—18°—W	N—20°—W	
102	8CIV	H16	A	C	4.56	3.27	0.08	N—59°—E	N—27°—W	
103	9CI	H・I16・17	A	AIb	5.36	3.84	0.18	N—59°—E	N—35°—W	
104	8CIV	H・I17	B/A	AIIb/AIIa	5.30	4.40	0.12	N—62°—E	N—27°—W・N—29°—W	
105	8CIV	H17・18	B	C	3.55	2.74	0.17	N—68°—E	N—67°—E	
106	9CI	H17・18・I18	C	C	4.35	4.00	0.36	N—41°—W	N—39°—W	
107	10CIII	H18	B	C	3.60	2.60	0.08	N— 6 °—W	N— 9 °—W	
108	10CIII	H18	A	C	3.40	3.03	0.06	N— 0	N—88°—W	
109	8CII	H18・I17・18	C	C	6.12	5.92	0.13	N—31°—W	N—31°—W	
110	9CII	H18	B	C	4.81	4.20	0.30	N—80°—E	N—81°—E	
111	8CI	H・I18・19	—	C	6.49	(2.47)	0.02	N—78°—E	N—13°—W	
112	9CIV	I13	—	—	(3.80)	3.72	0.11	N—41°—E	—	
113	8CIV	I13・14	A	BI	3.42	2.64	0.20	N—74°—E	N— 5 °—W	
114	9CI	I・J14	B	AIIb	4.57	2.96	3.00	N—90°—EW	N—86°—E	
115	7C中葉(9CI)	I15・J15	A	A	4.50	3.14	0.07	N—90°—EW	N— 5 °—W	
116	7CI	I・J16	C	C	3.68	3.66	0.10	N—37°—E	N—57°—W	長軸は東西方向

番号	時期	グリッド	住居形態	カマド形態	長軸長さ	短軸長さ	深さ	長軸方位	カマド方位	備考
117	9CI	I16・17	A	C	4.34	3.72	0.13	N—72°—E	N—16°—W	
118	7CIV	I17	—	C	3.40	—	0.24	N—23°—W	N—64°—E	
119	7CIV	I17	B	C	2.95	2.23	0.07	N—18°—E	N—9°—E	
120	11C前	I17	—	—	—	—	—	—	N—78°—W	
121	9CII	I18・19	C	C	7.98	7.59	0.18	N—0	N—6°—W	
122		J13	—	B	—	—	—	—	N—72°—W	
123		J14	—	—	—	—	0.06	—	—	
124	7C後葉	J16	—	—	(2.35)	—	0.12	N—86°—E	—	長軸は東西方向
125	10C	J16	A	AIIb	4.13	(3.25)	0.26	N—69°—E	N—29°—W	長軸は南北方向
126	10C後	J16・17	—	—	3.92	(2.75)	0.10	N—14°—W	—	
127	9CII	J17	A	AIb	4.57	3.90	0.05	N—54°—E	N—35°—W	
128		J・K18	C	AIIa	(4.13)	3.83	0.1	N—65°—E	N—64°—E	長軸は東西方向
129	9CIII	K14	C	AIIa	3.94	3.84	0.24	N—90°—EW	N—88°—E	
130	8CIV	K・L14	A	AIa	3.16	2.56	0.23	N—58°—E	N—31°—W	
131	9CI(7C中)	K15	—	—	4.63	—	0.14	N—67°—E	—	
132	9CIV	K15	A	C	3.54	3.05	0.14	N—21°—W	N—90°—EW	
133		K15	C	BI	4.22	4.06	0.20	N—67°—E	N—90°—EW	長軸は東西方向
134	8CIII	K・L15	B	C	3.35	2.15	0.08	N—39°—E	N—41°—E	
135	9C前	K・L16	—	AIb	—	—	0.07	—	N—55°—W	
136	10CIV	K16・17	C	AIa	4.34	3.47	0.06	N—87°—E	N—8°—W	
137	7C後	K19	—	—	3.06	2.11	0.06	N—32°—W	—	
138		K・L20	C	BI	3.50	(1.86)	0.06	N—90°—EW	N—90°—EW	
139	8CIV	K・L20	C	BI	3.45	3.40	0.14	N—78°—E	N—88°—E	
140	9CII	L20	B	BII	3.87	2.22	0.12	N—0	N—0	
141	9CIII(9CI)	L15	B	BII	3.23	2.93	0.16	N—90°—EW	N—87°—W	
142	8CIII	L15	C	AIa	2.93	2.62	0.10	N—55°—W	N—55°—W	
143	10C後	L・M15	A	BI	3.97	3.26	0,04	N—0	N—84°—W	
144	10C後	L16・17	C	C	2.77	2.26	0.12	N—0	N—77°—W	
145	9CII	L17	B	BI	3.85	2.98	0.20	N—11°—W	N—6°—W	
146	8CI	L1718	A	AIIa	3.69	3.13	0.14	N—65°—E	N—26°—W	
147	8CI	L・M17	A	AIIb	4.06	3.23	0.18	N—47°—E	N—39°—W	
148	10C後	L17・18	C	BII	2.54	2.19	0.02	N—17°—W	N—9°—W	
149	8CIII	L18	A	C/AIIa	4.40	(3.54)	0.17	N—72°—E	N—15°—W・N—80°—E	A カマド
150	8CIV	L18	—	AIIa	3.25	(1.97)	0.24	N—67°—E	N—21°—W	長軸は東西方向
151	9CII	L・M18	B	C	5.35	3.90	0.13	N—83°—E	N—78°—E	
152	7CIV	L18	C	AIIb	4.18	3.15	0.16	N—57°—E	N—32°—W	
153	8CIV	L18	B	AIIb	3.63	3.10	0.13	N—68°—E	N—78°—E	
154	7CIII	L18・19	C	AIIa	2.17	2.04	0.04	N—50°—E	N—22°—W	
155	9CI	L19	B	AIb	4.08	2.80	0.13	N—0	N—5°—W	

番号	時期	グリッド	住居形態	カマド形態	長軸長さ	短軸長さ	深さ	長軸方位	カマド方位	備考
156	8CI	L19	A	C	4.50	4.04	0.15	N—17°—W	N—84°—E	
157	10CIII	L・M19	A	BI	4.12	3.61	0.13	N—0	N—88°—E	
158	10C後(9CIII)	M・N15	—	BI	(2.73)	(2.19)	0.10	N—24°—E	N—65°—W	長軸は東西方向
159	11C前(10C後)	L・M15		BI	(5.14)	(2.21)	0.08	N—5°—W	N—7°—W	長軸は南北方向
160		M16	—	—	—	—	0.08	—	—	
161	7CII	M17	B	C	3.87	3.40	0.10	N—40°—W	N—44°—W	長軸は南北方向
162	7CIV	M・N17・18	—	—	5.58	(5.00)	0.19	N—45°—W	—	長軸は東西方向
163	9CI	L・M18	B	AIb	3.61	3.10	0.08	N—74°—E	N—74°—E	
164	7CIV	M18	B	C	4.60	3.52	0.11	N—47°—W	N—45°—W	
165	10C後	M19	—	A	—	—	—	—	N—0	
166	9C前	M19	—	A	—	—	—	—	N—0	
167	9CI	M19	B	BI	3.33	2.53	0.02	N—79°—E	N—79°—E	
168	7CI	M・N19	C	C	5.11	4.88	0.11	N—52°—E	N—33°—W	
169		M・N19	C	C	—	—	—	—	—	
170	8CI(7C後)	N19・20	—	—	3.93	3.52	0.04	N—28°—W	—	
171	7C前半	M・N19・20	—	—	3.95	3.35	0.03	N—66°—E		
172		M・N19・20	C	AIIa	3.08	3.03	0.04	N—29°—W	N—33°—W	
173	9CI	M20	—	—	3.49	(0.75)	0.07	N—87°—E	—	
174	7CIV	N・O13・14	—	—	(5.22)	(5.14)	0.09	N—55°—E	—	長軸は東西方向
175		N16	—	BI	(2.68)	(0.70)	0.10	N—21°—W		
176		N・O17・18	C	BI	5.23	5.21	0.04	N—46°—E	N—45°—W	
177	7CIV	N・O18	A	C	4.22	3.76	0.05	N—47°—E	N—51°—W	
178	9CIV	N・O18	A	C	4.10	3.07	0.16	N—19°—W	N—72°—E	
179	7CI	N18	C	C	3.63	3.30	0.05	N—41°—E	N—54°—W	
181	9CII	O13・14	C	C	3.40	2.99	0.1	N—28°—W	N—67°—E	
182	8CIII	O13・14	—	—	4.44	(2.50)	0.1	N—57°—E	—	
183	9C中葉(10CIII)	O15	B	BI	3.92	3.45	0.16	N—90°—EW	N—87°—E	
184	9CIV	O15・16	A	C	3.62	3.17	0.15	N—0	N—86°—E	
185	6C後	O16	—	—	—	—	0.08	—	—	
186	10CIII(11C前)	P15・16	A	BI	3.16	2.24	0.05	N—83°—E	N—4°—W	
187	7CIV	P16	—	—	—	—	0.09	—	—	
188	9CIV	P・Q16	—	—	2.67	2.50	0.12	N—43°—E	—	
189	8C後	P16	—	—	2.97	(1.99)	0.11	N—78°—W	—	長軸は東西方向
190	8CII	P16・17	—	—	2.45	1.95	0.11	N—62°—W	—	
191		Q17・18	C	BII	4.34	4.25	0.11	N—55°—W	N—49°—W	長軸は東西方向
192		Q・R17・18	—	—	(2.85)	(1.82)	0.06	N—44°—E	—	長軸は南北方向

※時期の覧は、掲載遺物の時期を「9CIII」などと表記し、覆土中の遺物の時期は、「(9CIII)」と表記した。

(1) 遺　　構

第1号住居跡

形状は、東西にやや長い長方形であった。住居跡の中央が、第387号溝跡に切られていた。

カマドは、検出できなかった。

また第397号溝跡より古かった。

第2号住居跡

形状は、方形であった。幅約18cmの壁溝が、カマド部分を除いて巡る。北西隅と南西隅に2基の小穴を検出した。また中央に径80cm、深さ約22cmと径58cm、深さ7cmの円形の土壙を検出した。

北壁の東寄りにカマドを検出した。袖は地山を掘り残して構築され、住居跡内へと長く伸びていた。焚き口部から燃焼部にかけては、不整円形の浅い掘り込みがみられた。

遺構の切り合いはなかった。

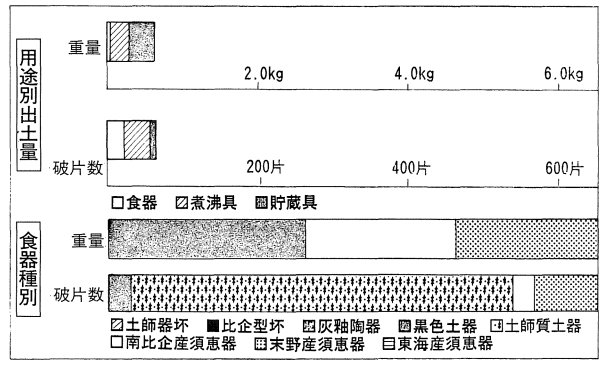
第3号住居跡

形状は、東西にやや長い長方形であった。カマド部分を除いて、幅約20cmの壁溝を検出した。小穴は、東壁に二基みられた。また南壁に接して径60cm、深さ10cmの円形土壙と、長径76cm、深さ30cmの楕円形土壙を検出した。

カマドは、東壁の南寄りに検出した。袖は、検出できなかった。焚き口部の左側には、径32cm、深さ12cmの円形の掘り込みを確認した。燃焼部の掘り込みはなかった。

カマドの燃焼部から土師器の甕（第324図―5）が出土した。

第43号溝跡より古く、第32号溝跡より新しい。



第66図　第3号住居跡覆土中遺物データ

第4号住居跡

形状は、南北に長い長方形であった。

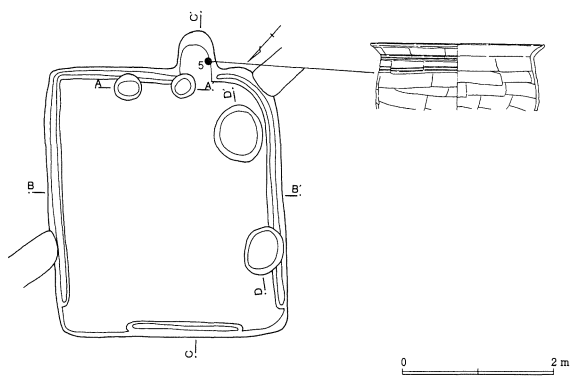
北壁のやや東寄りにカマドを、検出した。袖は、検出できなかった。燃焼部の掘り込みはみられなかった。

遺構の切り合いはなかった。

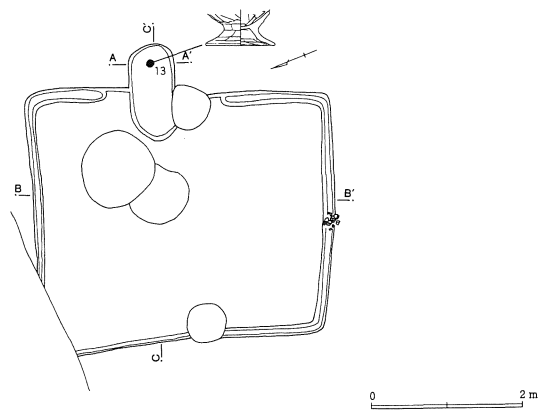
第5号住居跡

住居跡の南東部は、攪乱のため全容はわからなかった。しかし住居跡の形状は、東西にやや長い長方形と考えた。中央に小穴を一基検出した。

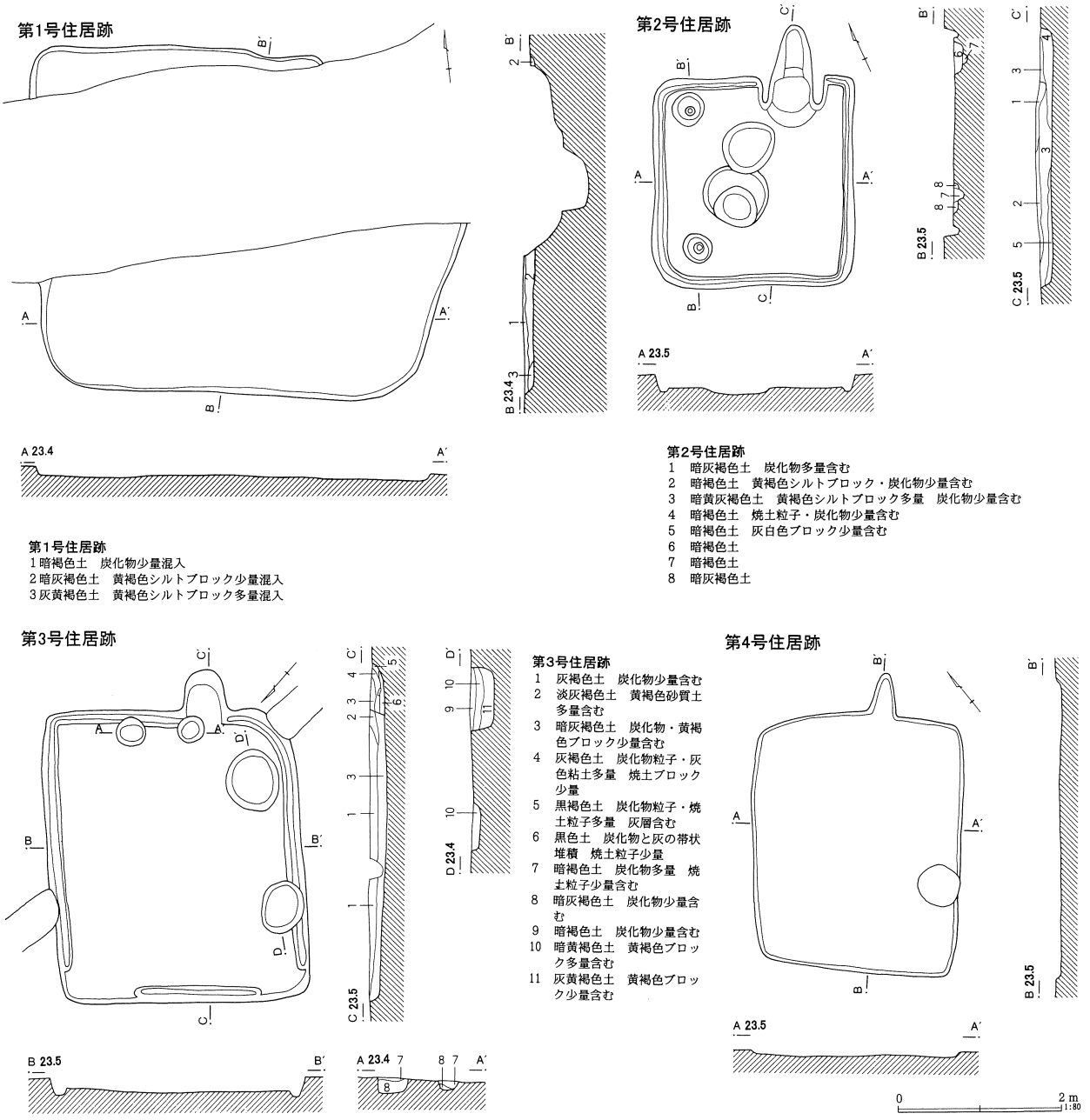
カマドは、北壁のやや東寄りに検出した。袖は、



第65図　第3号住居跡遺物出土位置



第67図　第6号住居跡遺物出土位置



第68図　竪穴住居跡(1)

検出できなかった。焚き口部の前面から燃焼部にかけては、不整形の浅い掘り込みがみられた。燃焼部から煙道部にかけては段があった。

遺構の切り合いはなかった。

第 6 号住居跡

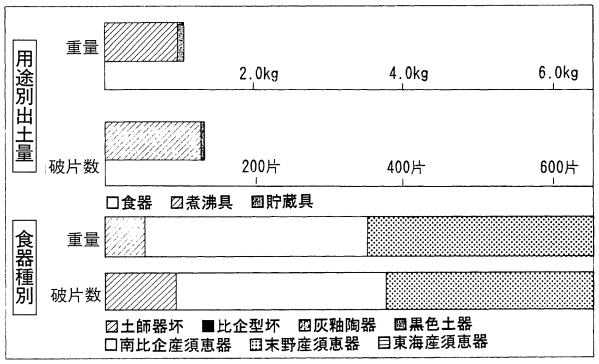
形状は、方形であった。幅約18cmの壁溝が、カマドを除いて検出できた。

カマドは、東壁のやや北寄りに検出した。袖は、検出できなかった。燃焼部には、楕円形の浅い掘り込みがあった。燃焼部の中央奥には、自然石を使用した支脚を検出した。

カマドの燃焼部から土師器の台付甕（第324図—13）が出土した。台部のみが正位におかれている

ことから支脚として使用されていたと考えた。

遺構の切り合い関係は、第35･36号土壙より古く、第36号住居跡より新しかった。



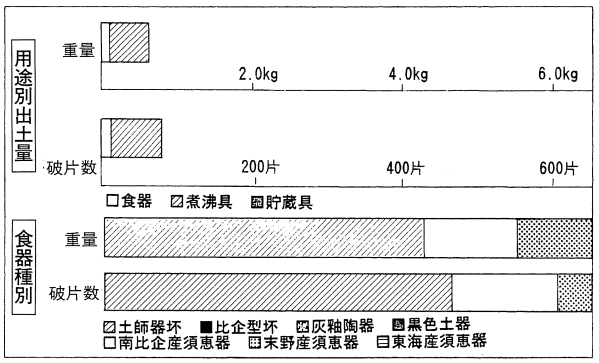
第69図　第６号住居跡覆土中遺物データ

第７号住居跡

住居跡の北側は、平成11年度の調査区外であったため、全容は解明できなかった。

カマドは、検出できなかった。

遺構の切り合い関係は、第37号住居跡より新しかった。



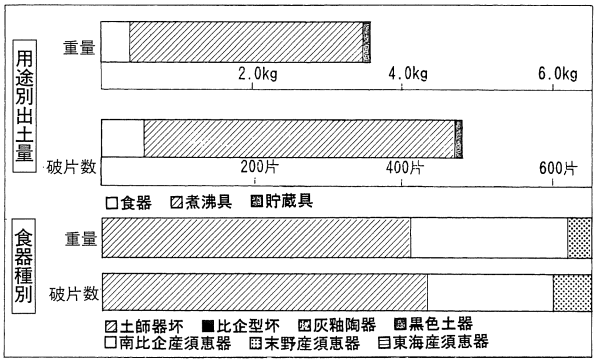
第70図　第７号住居跡覆土中遺物データ

第８号住居跡

住居跡の北東部は、平成11年度の調査区外であった。形状は、東西に長い長方形であった。

カマドは、検出できなかった。

遺構の切り合い関係は、第42号住居跡より新しかった。



第71図　第８号住居跡覆土中遺物データ

第９号住居跡

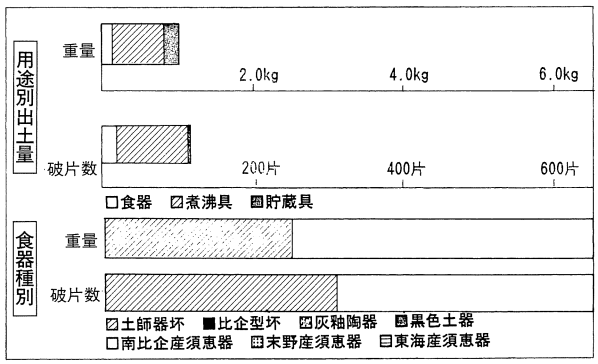
住居跡の大半は、平成11年度の調査区外のため、形状など全容は不明であった。南壁と西壁には、幅約24cmの壁溝を検出した。

カマドは、検出できなかった。

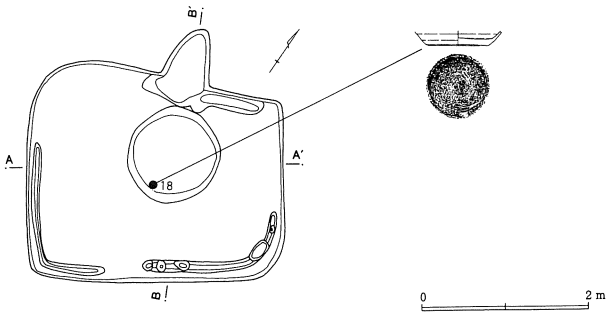
遺構の切り合いはなかった。

第10号住居跡

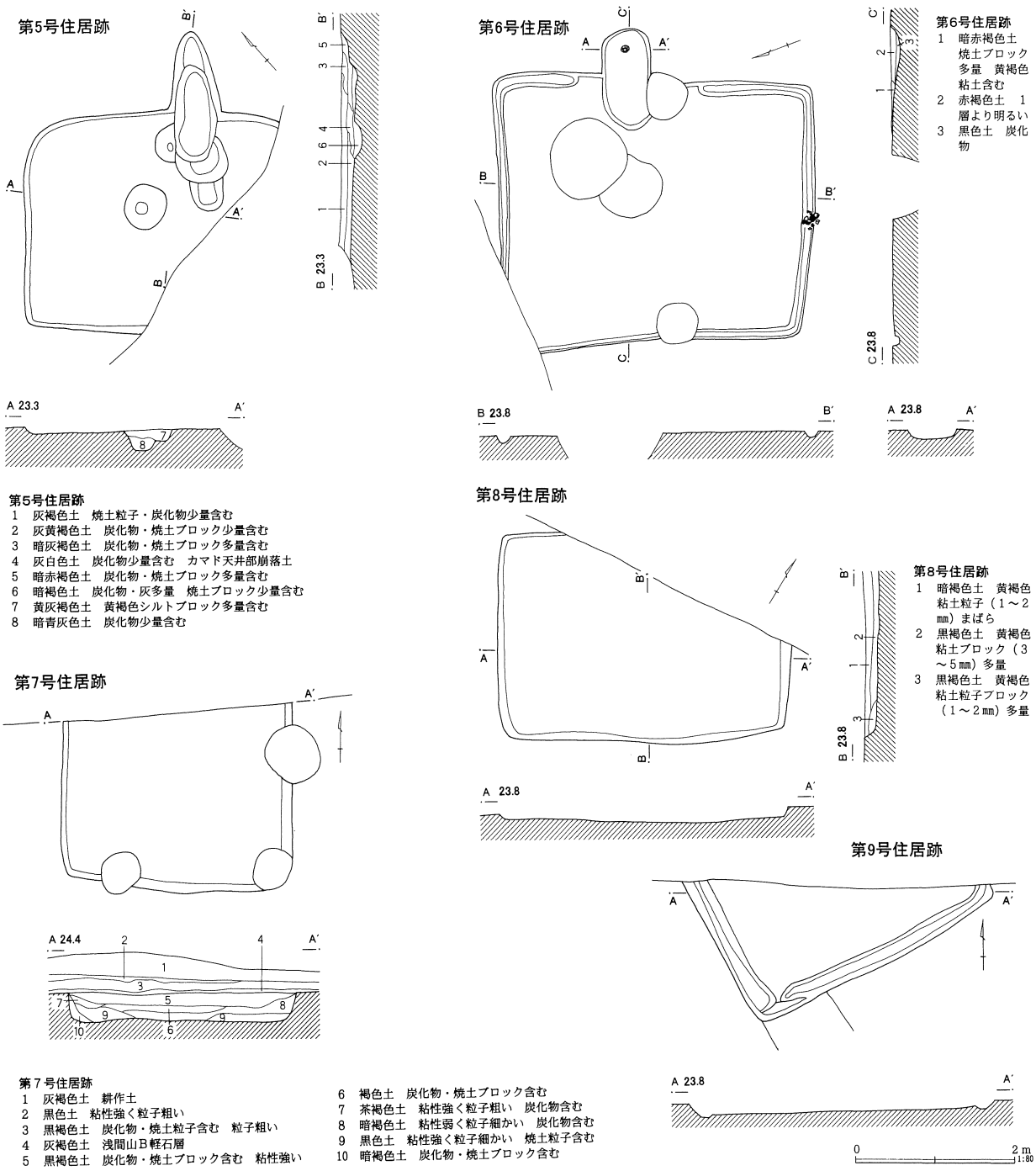
形状は、方形であった。北壁東寄りと南東隅・南西隅に幅約15cmの壁溝を検出した。南東隅の壁溝に



第72図　第10号住居跡覆土中遺物データ



第73図　第10号住居跡遺物出土位置



第74図　竪穴住居跡(2)

は、径28cm、深さ17cmの小穴が５基みられた。中央北寄りには、径112cm、深さ22cmの円形の土壙がみられた。

カマドは、北壁のやや東寄りに検出した。袖は、みられなかった。燃焼部は、浅い不整形の掘り込みであった。

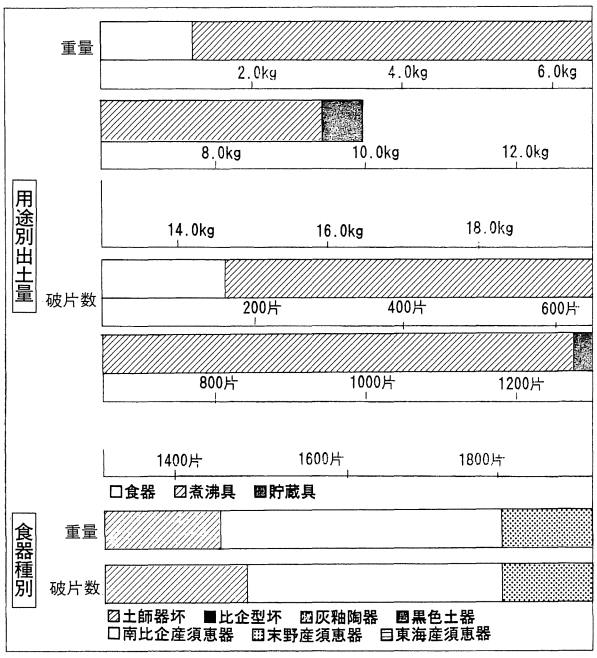
遺構の切り合いはなかった。

第11号住居跡

住居跡の北東は、平成11年度の調査区外であった。形状は、東西に長い長方形である。北東隅を除き、幅約20cmの壁溝が巡っていた。

カマドは、検出できなかった。

遺構の切り合い関係は、第70号溝跡より新しく、第28号土壙より古かった。



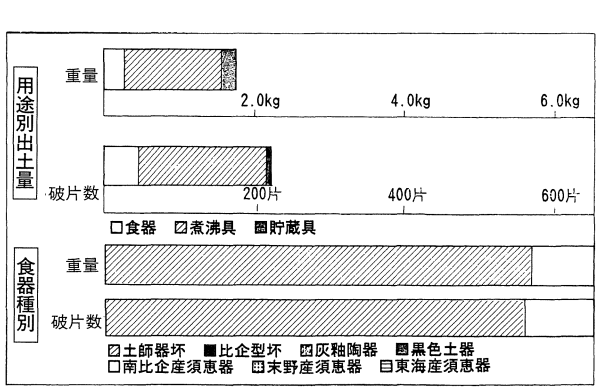
第75図　第11号住居跡覆土中遺物データ

第12号住居跡

住居跡の北側が、平成11年度の調査区外であるため全容は解明できなかった。形状は、方形と考えた。南西隅には、長径132cm、短径110cm、深さ３cmの長方形の土壙がみられた。また中央と南側中央には、小穴が３基あった。

カマドは、検出できなかった。

遺構の切り合い関係は、第70号溝跡より新しく、第14号住居跡より古かった。



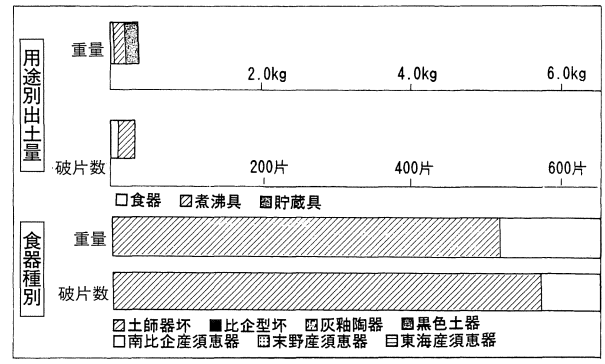
第76図　第12号住居跡覆土中遺物データ

第14号住居跡

北西隅のみを検出した。そのため形状など全容は、不明であった。西壁には、幅約26cmの壁溝が確認できた。小穴は、壁溝内に１基、南側に２基を検出した。

カマドは、検出できなかった。

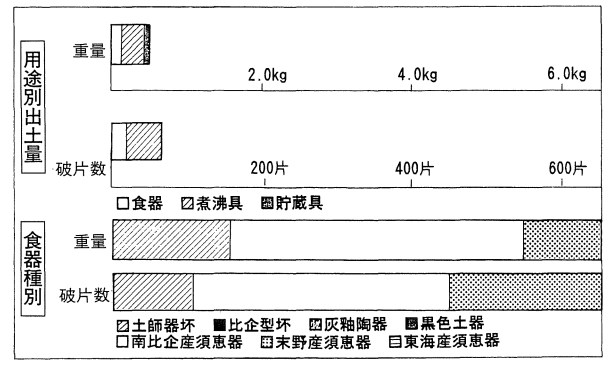
遺構の切り合い関係は、第12号住居跡より新しかった。



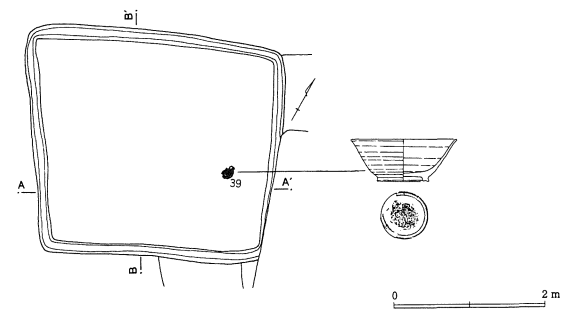
第77図　第14号住居跡覆土中遺物データ

第15号住居跡

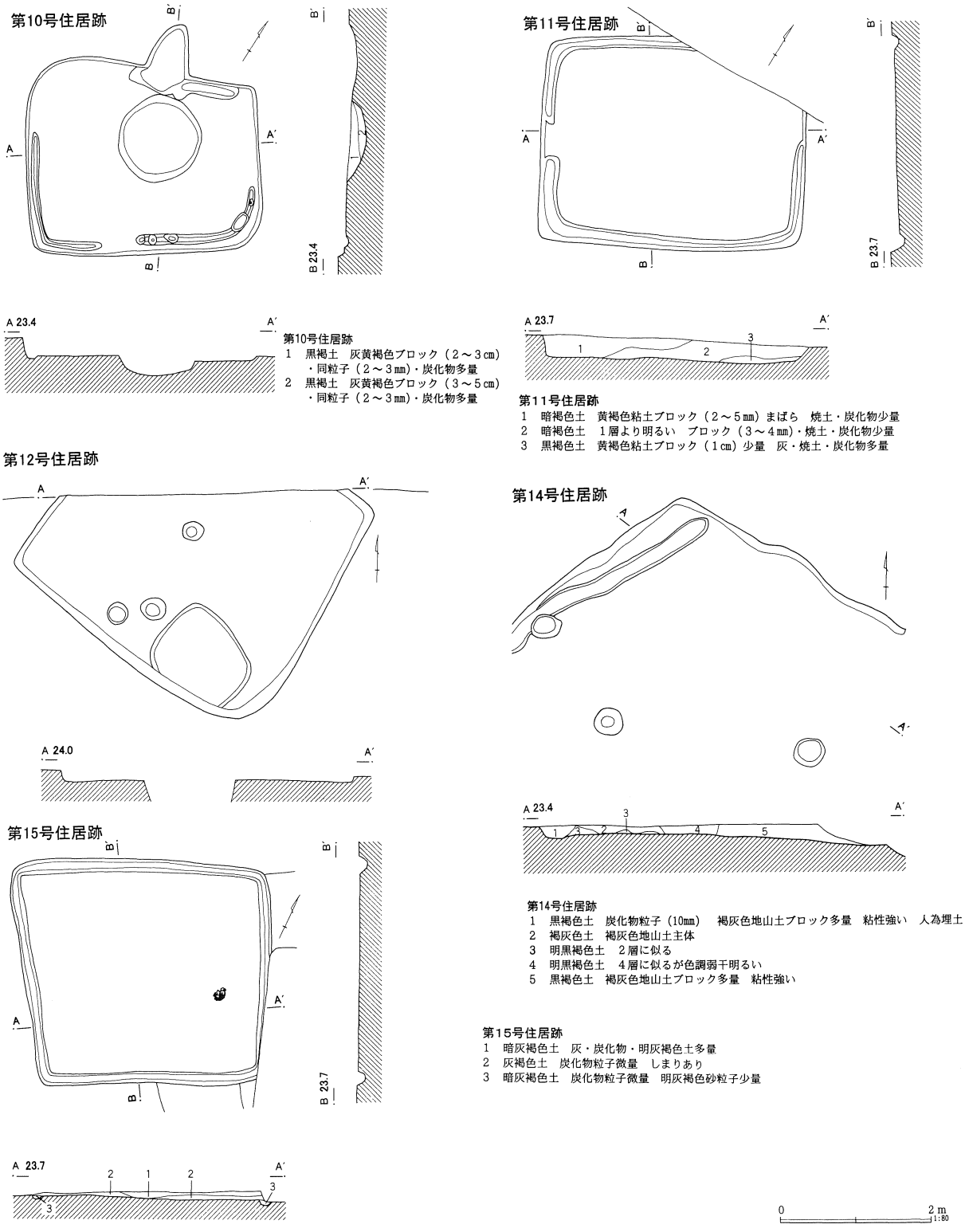
形状は、方形であった。幅約22cmの壁溝が、全周



第78図　第15号住居跡覆土中遺物データ



第79図　第15号住居跡遺物出土位置



第80図　竪穴住居跡(3)

していた。

カマドは、検出できなかった。

竪穴の壁面に貼り付くように須恵器の高台付埦（第324図—39）が出土した。

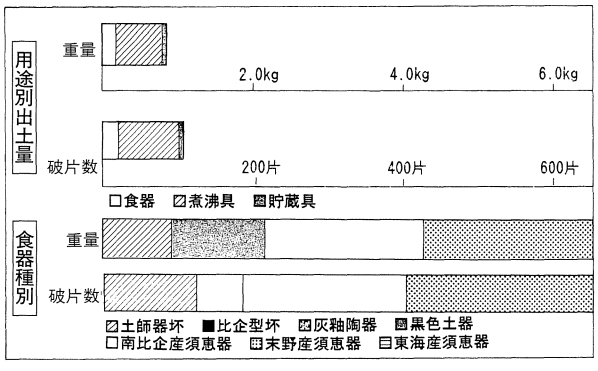
遺構の切り合い関係は、第18号住居跡より古く、第16・17号住居跡より新しかった。第56号溝跡より新しかった。

第16号住居跡

形状は、方形であった。カマド部分を除いて、幅約20cmの壁溝を検出した。

北壁の東寄りにカマドを、検出した。袖は、検出できなかった。燃焼部には、掘り込みはみられず、煙道部に向かって緩やかに立ち上がっていた。

遺構の切り合い関係は、第15・18号住居跡より古く、第17号住居跡・第56・65号溝跡より新しかった。



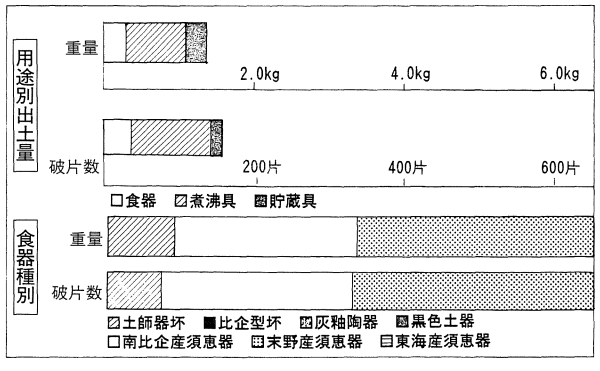
第81図　第16号住居跡覆土中遺物データ

第17号住居跡

形状は、東西にやや長い長方形であった。

北壁の東寄りにカマドを、検出した。袖は検出できなかった。燃焼部には、楕円形の浅い窪みがみられた。また、径28cm、深さ16cmの円形の掘り込みがみられた。燃焼部からは、炭化物・灰・焼土が、多量に出土した。燃焼部から煙道部へは、段を持たずに移行していた。

遺構の切り合い関係は、第15・16・18号住居跡より古かった。



第82図　第17号住居跡覆土中遺物データ

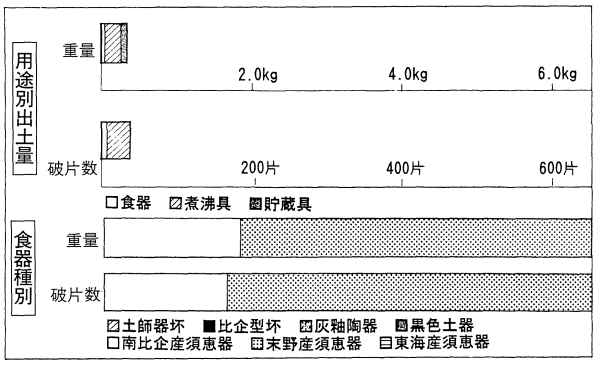
第18号住居跡

形状は、南北に長い長方形であった。

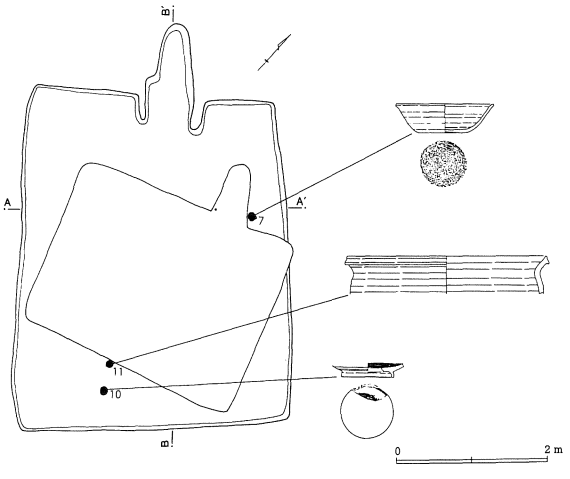
北壁のやや東寄りにカマドを、検出した。カマドは、地山を掘り残して袖を構築し、住居内に伸びていた。燃焼部に掘り込みはみられず、緩やかに煙道部へと移行していた。

竪穴床面、中央東よりに須恵器の坏(第325図－7)が出土した。また南壁よりの床面は、須恵器の鉢(第325図－11)の口縁部や、緑釉陶器の皿(第325図－10)が出土した。

遺構の切り合い関係は、第15・16・17号住居跡・第36・65号溝跡より新しかった。



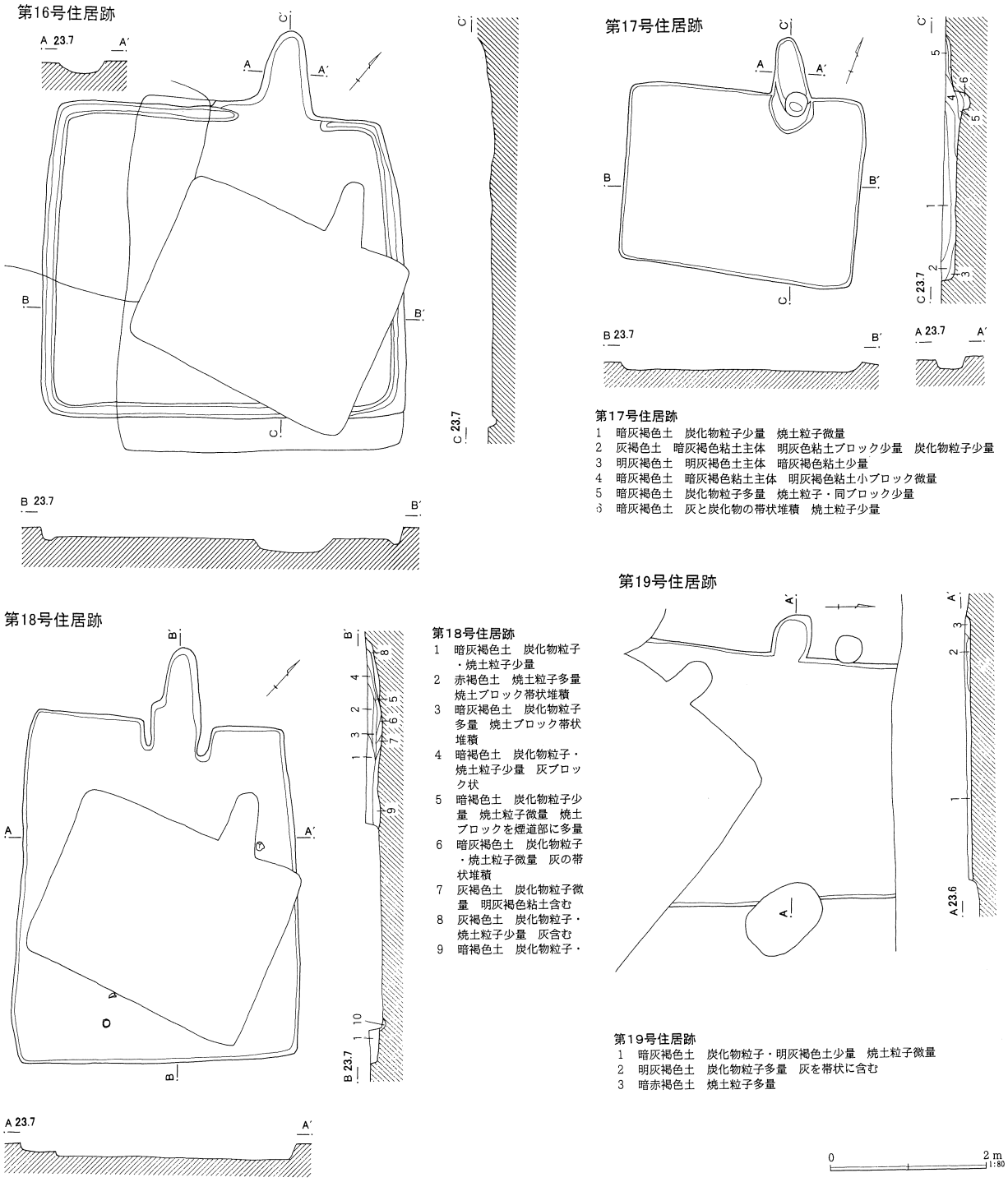
第83図　第18号住居跡覆土中遺物データ



第84図　第18号住居跡遺物出土位置

第19号住居跡

住居跡の南側は、第20・21号住居跡に壊され、東側は、第31号土壙に壊されていた。また北側は、平



第85図　竪穴住居跡(4)

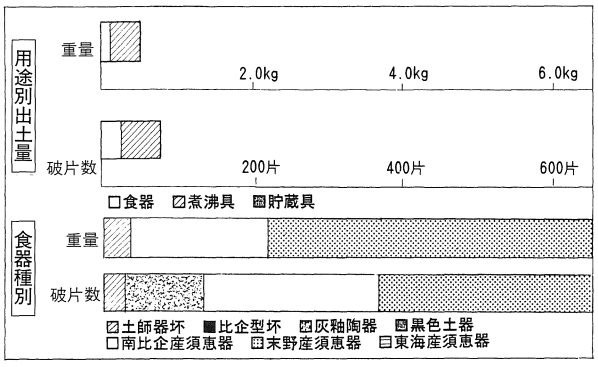
成11年度の調査区外であったため、全体を解明できなかった。

西壁にカマドを、検出した。袖は、検出できなかった。燃焼部の掘り込みはなかった。

遺構の切り合い関係は、第31号土壙より古く、第20・21号住居跡より新しかった。

第20号住居跡

住居跡の中央を第21号住居跡に壊され、西側を第51号住居跡・第46号土壙に壊され、さらに南東隅が第44号土壙に壊されていた。全容は不明である。形状は、東西に長い長方形であった。壁に沿って、幅約62cmの壁溝が、全周していた。



第86図　第19号住居跡覆土中遺物データ

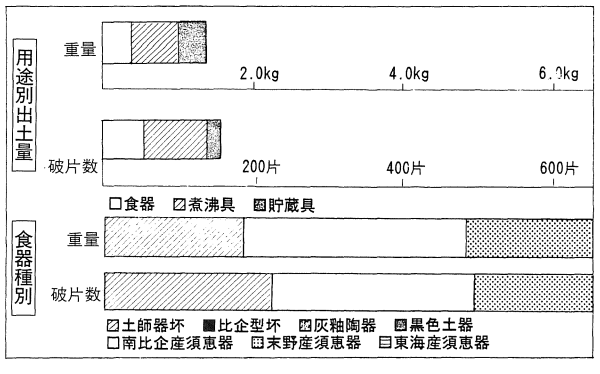
第20号住居跡は、第21号住居跡を拡張した住居跡である。

北壁の中央と東寄りには、カマドが２基並んでみられた。１号カマド（中央）・２号カマド（東）とも袖は、検出できなかった。

１号カマドは、燃焼部の掘り込みはなかった。しかし底面には、縦に並んだ径22cmの支脚の抜き取り痕跡が３ヶ所確認できた。

２号カマドも、燃焼部の掘り込みがみられなかった。

遺構の切り合いは、第19・51号住居跡・第46号土壙より古く、第21・22号住居跡・第44号土壙・第65・66号溝跡より新しかった。



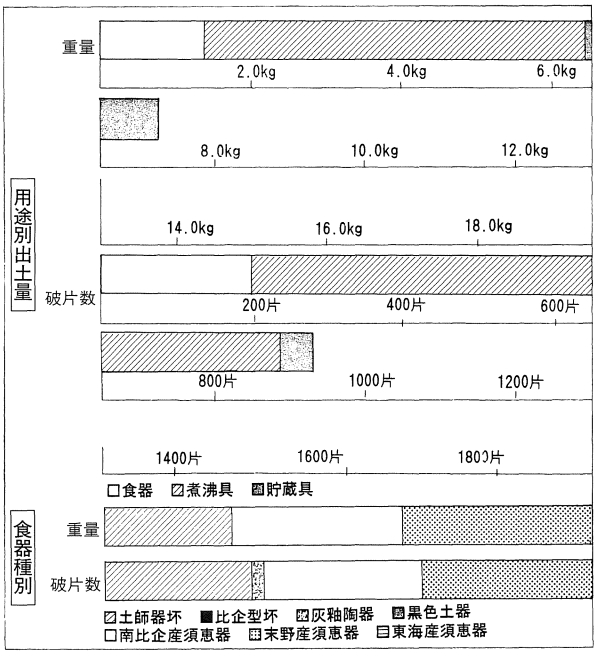
第87図　第20号住居跡覆土中遺物データ

第21号住居跡

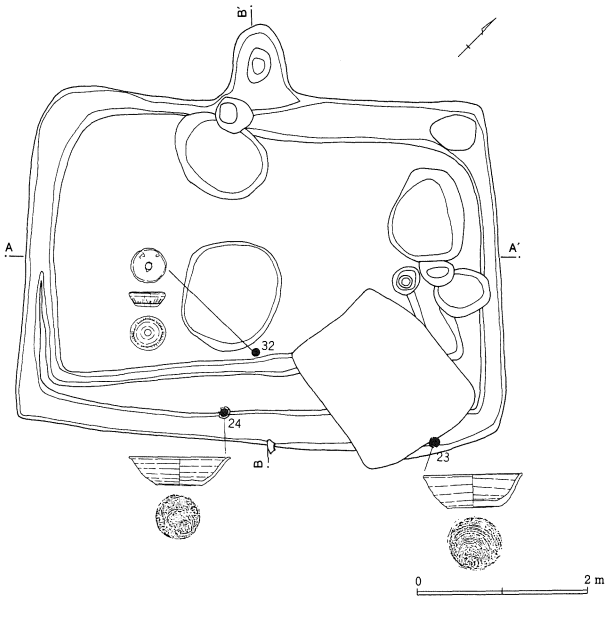
住居跡の南東隅は、第44号土壙に切られていた。形状は、東西に長い長方形であった。壁に沿って幅約40cmの壁溝が、全周していた。南半分は２条みられた。

カマドは、北壁のほぼ中央にみられた。袖は、確認できなかった。焚き口部の左側には、径45cm、深さ17cmの円形の掘り込みを確認した。燃焼部には、楕円形の掘り込みが確認できた。

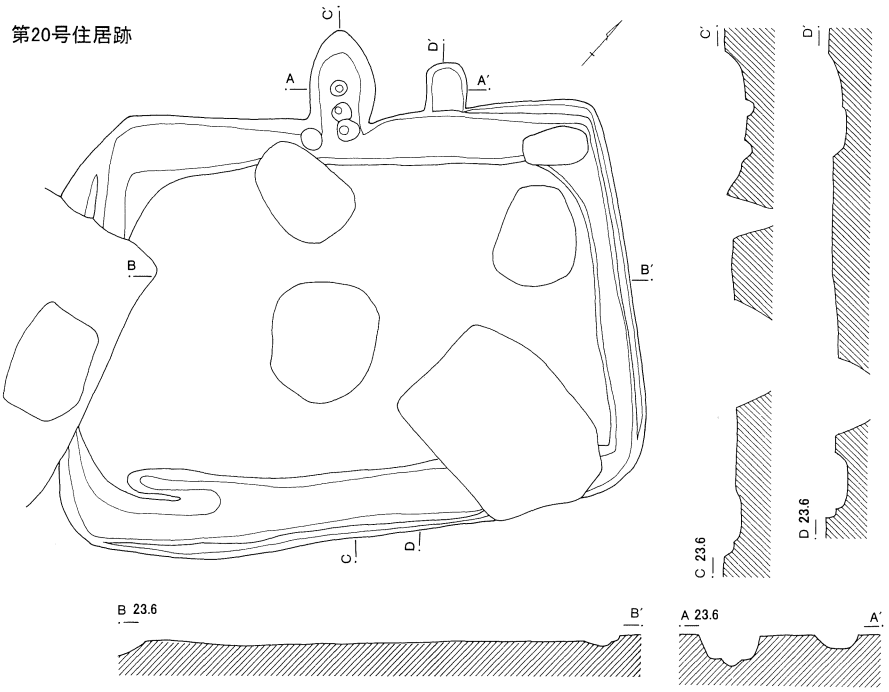
竪穴の南壁中央よりに須恵器の坏(第325図—24)、東南コーナーから須恵器坏（第325図—23）が出土した。また中央や南の床面から紡錘車が出土した。

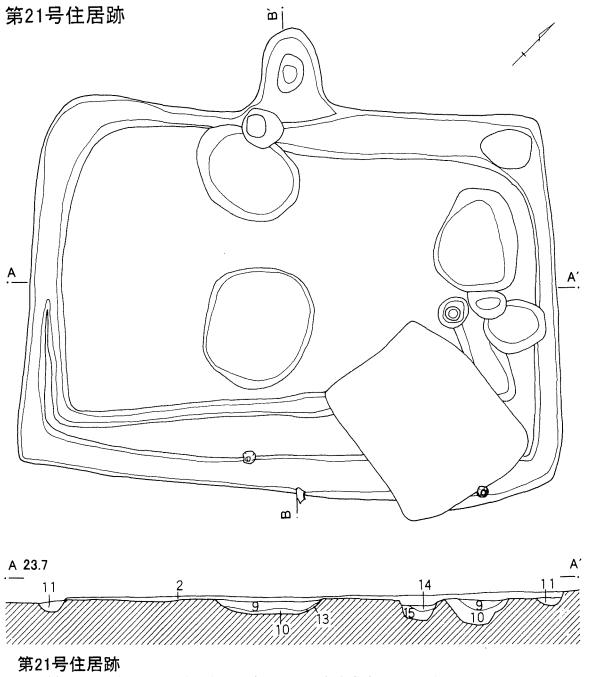


第88図　第21号住居跡覆土中遺物データ



第89図　第21号住居跡遺物出土位置





第21号住居跡

1　暗褐色土　焼土粒子・炭化物粒子多量　灰層帯状堆積　しまりあり
2　暗灰褐色土　焼土粒子・炭化物粒子多量
3　暗灰褐色土　焼土粒子・焼土ブロック・炭化物粒子多量　灰層含む
4　暗灰褐色土　焼土粒子・炭化物粒子少量　焼土ブロック多量　灰層含む
5　灰褐色土　焼土粒子・炭化物粒子少量　焼土ブロック微量
6　灰褐色土　焼土粒子・炭化物粒子少量
7　灰褐色土　焼土粒子・焼土ブロック少量　炭化物粒子多量　灰層含む
8　暗灰褐色土　焼土粒子・炭化物粒子多量　焼土ブロック少量　灰層含む
9　黒褐色土　炭化物・灰・焼土含む
10　暗灰褐色土　灰色粘土ブロック状に含む
11　黒褐色土　炭化物・灰・焼土含む
12　黒褐色土　炭化物・灰・焼土含む
13　灰褐色土　炭化物粒子少量焼土粒子微量
14　灰褐色土　炭化物・灰・灰褐色粘土含む
15　灰褐色土　炭化物粒子・灰褐色粘土少量

0　2 m　1:80

第90図　竪穴住居跡(5)

遺構の切り合い関係は、第19・20・51号住居跡より古く、第22号住居跡・第44号土壙より新しかった。

第22号住居跡

中央部が、第23号住居跡によって切られていた。形状は、東西に長い長方形であった。住居跡の壁に沿って、幅約15cmの壁溝がみられた。ただしカマド部分と北西隅には、みられなかった。

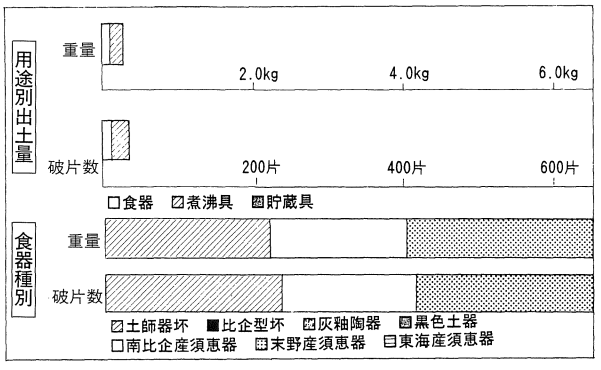
北壁の西寄りにカマドを検出した。袖は、検出できなかった。燃焼部の掘り込みは、みられなかった。

遺構の切り合い関係は、第20・21・23号住居跡より古く、第66号溝跡より新しい

第23号住居跡

形状は、方形であった。カマドと東壁の南半部を除き、幅約16cmの壁溝が巡っていた。

東壁の北寄りにカマドを、検出した。袖は、検出できなかった。カマドの前面には、幅30cm、深さ17cmの円形の掘り込みがみられた。燃焼部に掘り込みは、確認できな

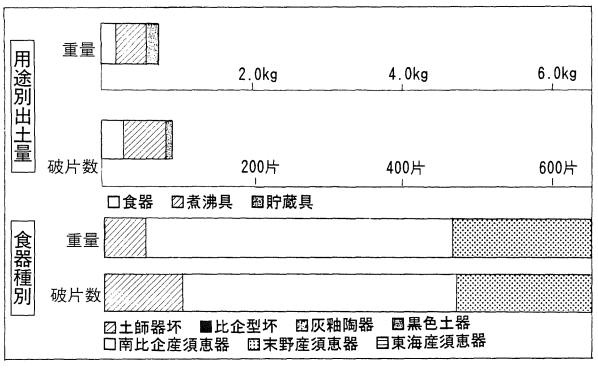


第91図　第22号住居跡覆土中遺物データ

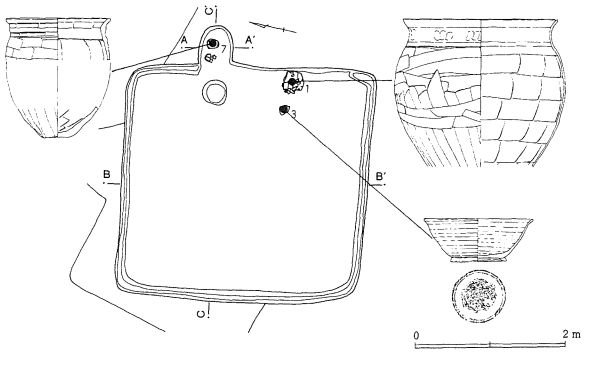
かった。燃焼部の奥には、自然石を使用した支脚が出土した。

カマドの燃焼部から土師器の小形甕（第326図－7）が出土した。また北壁中央に土師器の甕（第326図－1）がつぶれて出土し、やや南の床面に須恵器の高台付埦（第326図－3）が出土した。

遺構の切り合い関係は、第22号住居跡・第66号溝跡より新しかった。



第92図　第23号住居跡覆土中遺物データ



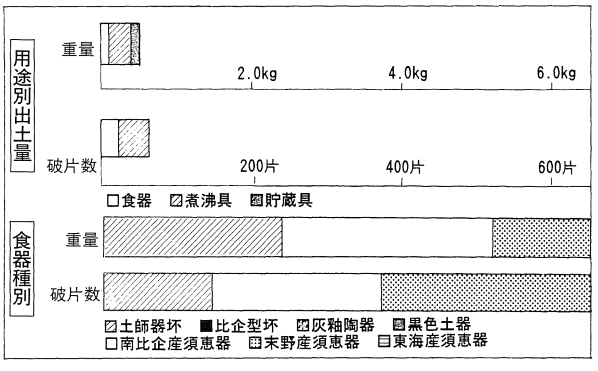
第93図　第23号住居跡遺物出土位置

第24号住居跡

形状は、方形であった。幅約18cmの壁溝が、全周していた。

カマドは、検出できなかった。

遺構の切り合い関係は、第53号住居跡・第29号溝跡より新しかった。



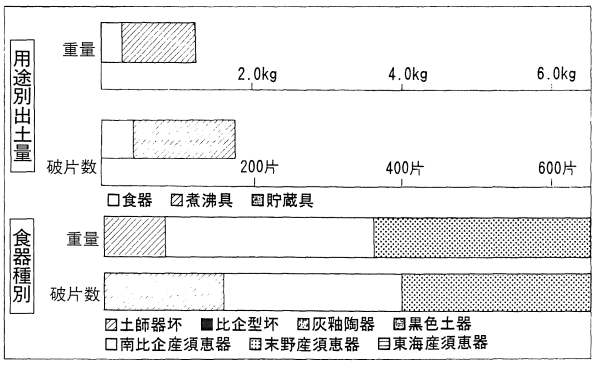
第94図　第24号住居跡覆土中遺物データ

第25号住居跡

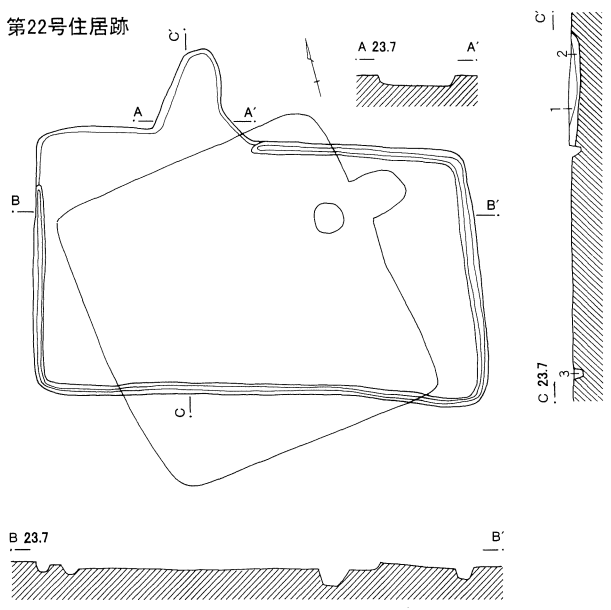
第80号溝に住居跡の北側が、第51号土壙に東壁中央がそれぞれ切られていた。南側に幅70cm、深さ19cmの不整形小穴と径38cm、深さ10cmの円形小穴を検出した。

カマドは、南壁の中央に検出した。袖は、検出できなかった。燃焼部には、楕円形の掘り込みがみられた。燃焼部の手前には、径26cm、深さ11cmの円形の掘り込みがみられた。

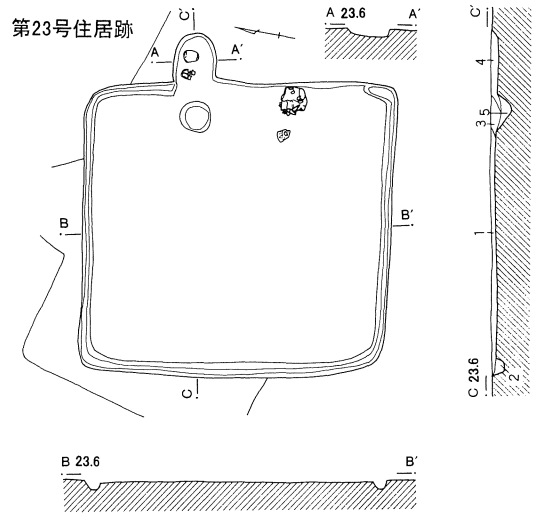
遺構の切り合い関係は、第51号土壙・第37・29号溝跡より古い。



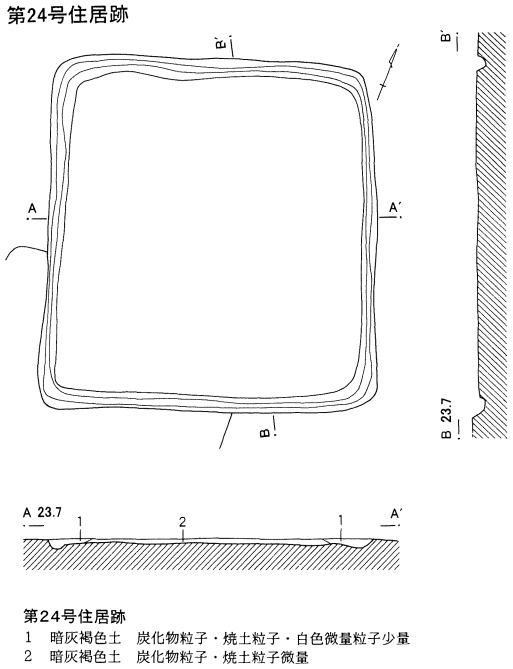
第95図　第25号住居跡覆土中遺物データ



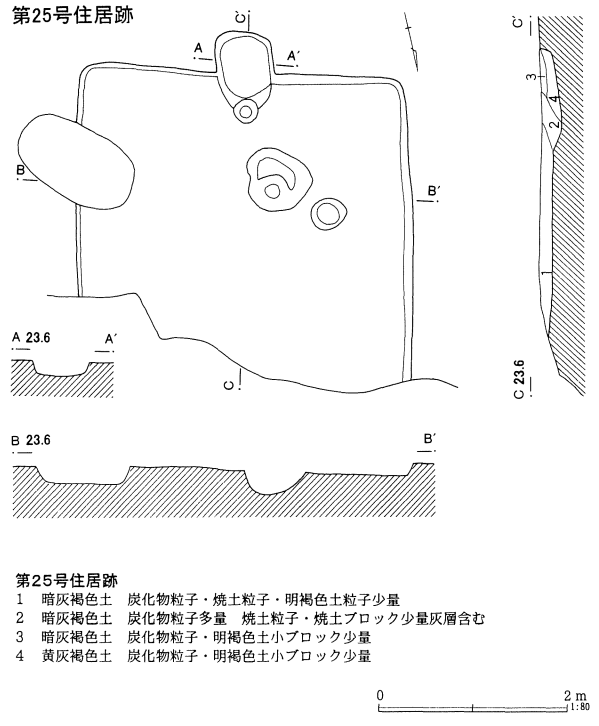
第22号住居跡
1　暗褐色土　炭化物粒子・焼土粒子・焼土ブロック多量　灰の帯状堆積
2　灰褐色土　炭化物粒子・明灰色粒子少量焼土粒子微量
3　暗灰褐色土　炭化物粒子微量粘質土



第23号住居跡
1　暗灰褐色土　焼土粒子・炭化物粒子・明灰褐色微量粒子少量
2　暗灰褐色土　炭化物粒子微量粘性強
3　暗灰褐色土　炭化物粒子・焼土ブロック少量しまりなし
4　暗灰褐色土　炭化物粒子・焼土ブロック多量底面に灰層帯状堆積
5　暗褐色土　炭化物粒子・灰色粘土・焼土粒子多量しまりなし



第24号住居跡
1　暗灰褐色土　炭化物粒子・焼土粒子・白色微量粒子少量
2　暗灰褐色土　炭化物粒子・焼土粒子微量



第25号住居跡
1　暗灰褐色土　炭化物粒子・焼土粒子・明褐色土粒子少量
2　暗灰褐色土　炭化物粒子多量　焼土粒子・焼土ブロック少量灰層含む
3　暗灰褐色土　炭化物粒子・明褐色土小ブロック少量
4　黄灰褐色土　炭化物粒子・明褐色土小ブロック少量

第96図　竪穴住居跡(6)

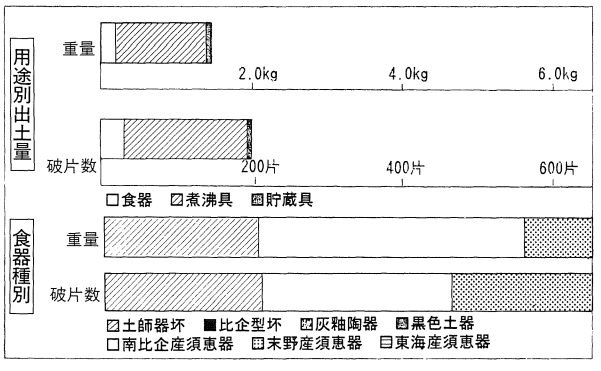
第26号住居跡

住居跡の西側は、調査区外であった。形状は、東西に長い長方形と思われる。カマド部分を除いて幅約15cmの壁溝が巡っていた。

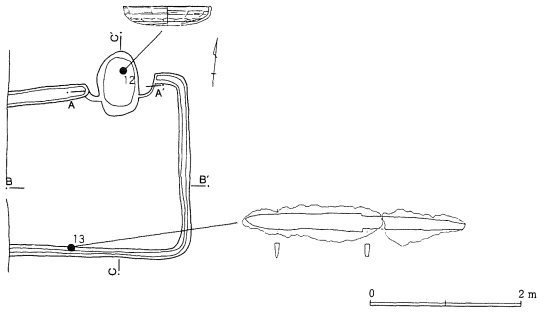
カマドは、北壁の北東隅に寄っていた。袖は、地山を掘り残してつくられ、住居内へ短く伸びていた。燃焼部は、楕円形に浅く窪み、奥に向かって低く緩やかに傾斜していた。

カマドの燃焼部から土師器の坏（第326図—12）が出土した。また南の壁周溝中から鉄製の刀子(第326図—13）が出土した。

遺構の切り合い関係は、第27・28号住居跡より古かった。



第97図　第26号住居跡覆土中遺物データ



第98図　第26号住居跡遺物出土位置

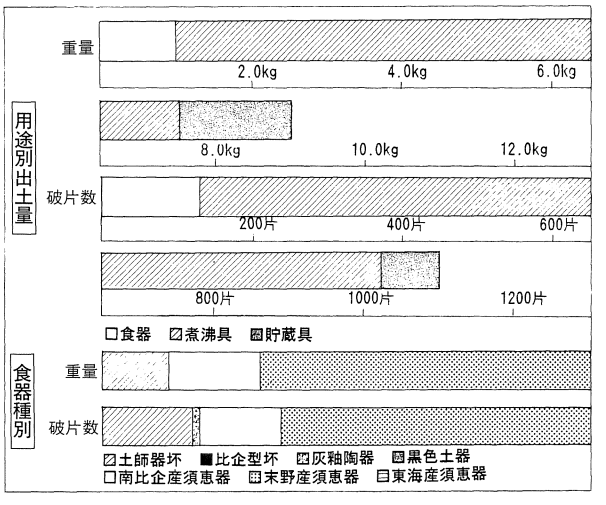
第27号住居跡

形状は、南北にやや長い長方形であった。南東隅を除き、幅約15cmの壁溝巡っていた。

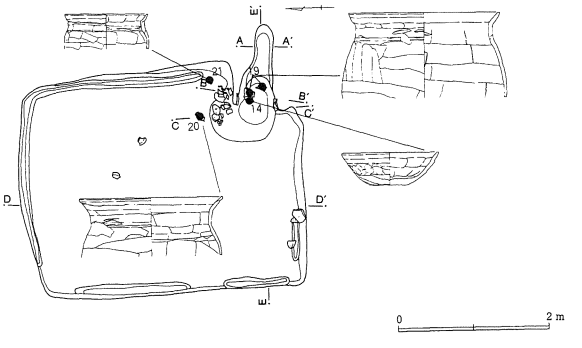
カマドは、東壁の南東隅寄りにつけられていた。左袖は、竪穴の壁を内側に曲げるようにつくられていた。いわゆる「片袖型」のカマドである。左袖の内側と焚き口部の右側には、補強材として土師器の甕が使われていた。焚き口部前面から燃焼部にかけては、不整楕円形の浅い掘り込みがあり、段をもって煙道部へ移行していた。

カマドの燃焼部やや奥から土師器の甕（第326図—19)の破片が出土し、やや手前から土師器の坏(第326図—14)が出土した。またカマド左袖に接して土師器の小形甕（第326図—21）が出土し、やや南から土師器の甕（第326図—20）が出土した。

遺構の切り合い関係は、第55号住居跡より古く、第26・28号住居跡・第32号土壙より新しかった。



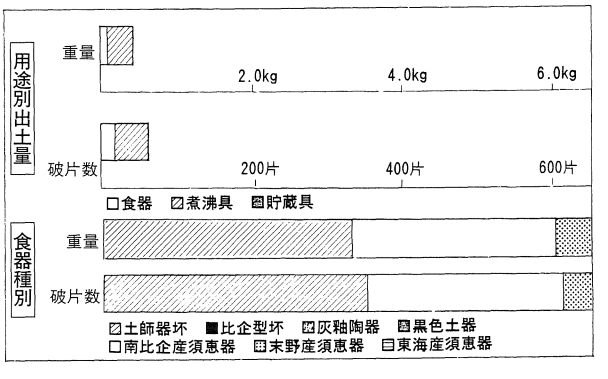
第99図　第27号住居跡覆土中遺物データ



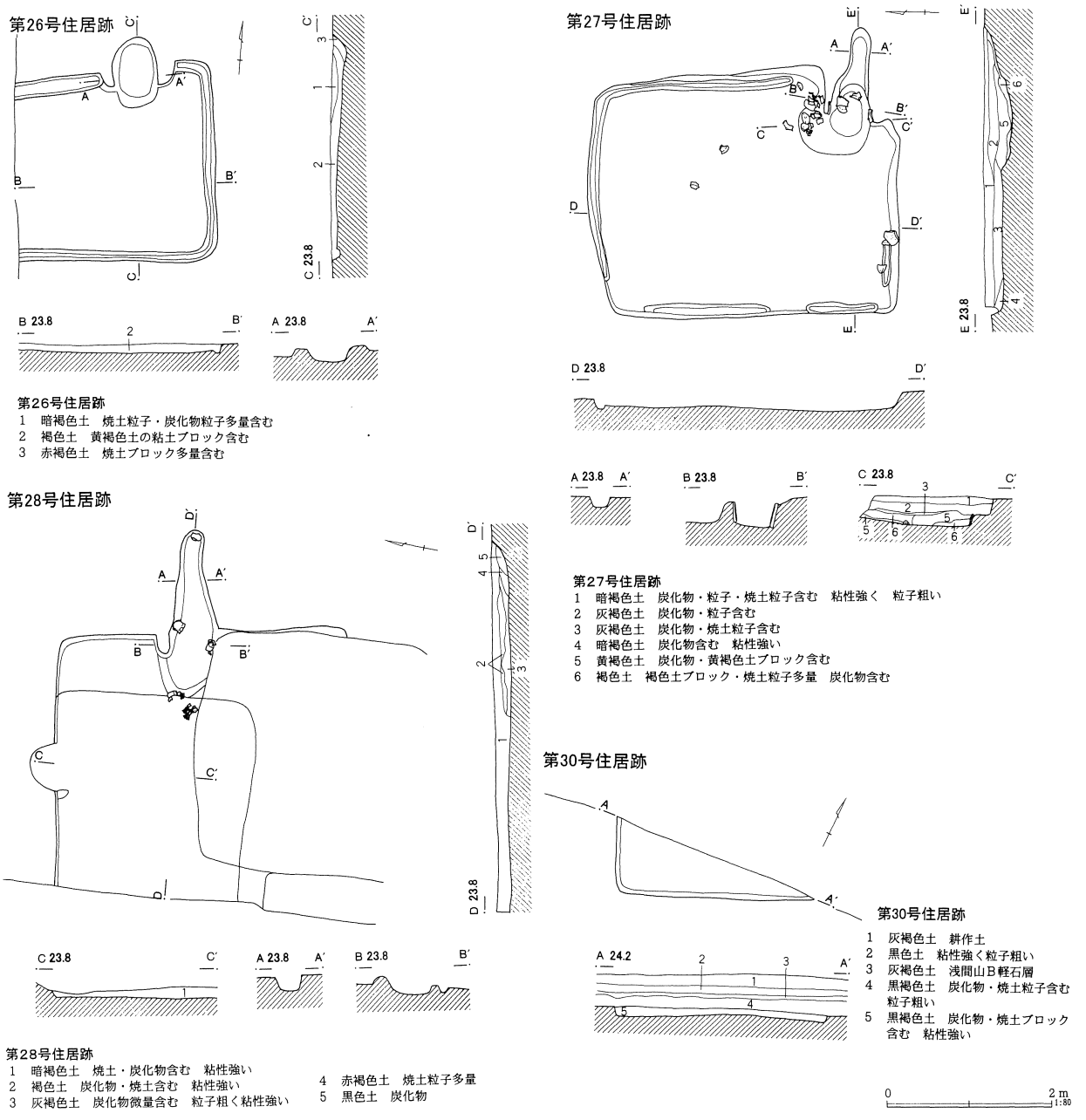
第100図　第27号住居跡遺物出土位置

第28号住居跡

住居跡の南半分は、第27・55号住居跡に切られていた。さらに西側は、調査区外のため形状など全容



第101図　第28号住居跡覆土中遺物データ



第102図　竪穴住居跡(7)

解明できなかった。

カマドは、西壁のほぼ中央につけられていた。袖は、地山を掘り残して構築され、竪穴内へ短く伸びていた。焚き口部前面から燃焼部にかけては、わずかに窪んでいた。

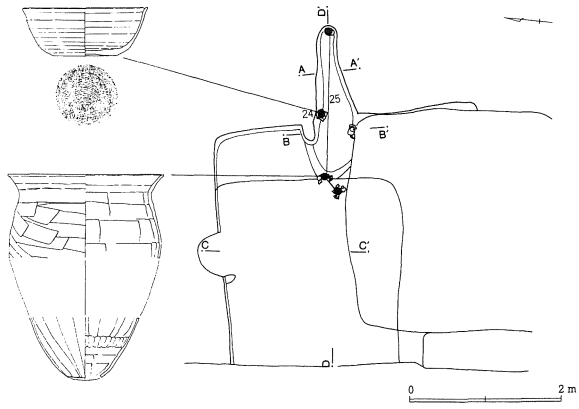
カマドの焚き口部や煙道最奥の煙出し付近から土師器の甕（第326図—25）が出土した。また燃焼部最奥のカマド左袖に接して須恵器の無台埦（第326図—24）が出土した。

遺構の切り合い関係は、第27・55号住居跡より古く、第26号住居跡より新しかった。

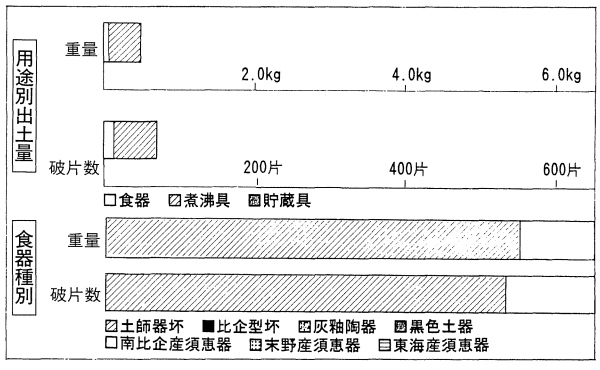
第30号住居跡

住居跡の大半が、調査区外のため形状などの全容が明らかにできなかった。

遺構の切り合いは、みられなかった。



第103図　第28号住居跡遺物出土位置

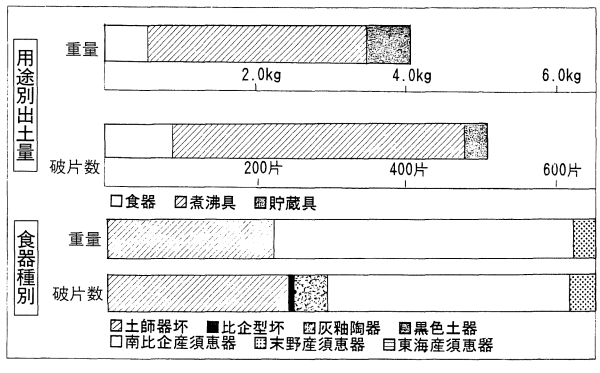


第104図　第30号住居跡覆土中遺物データ

第31号住居跡

形状は、東西に長い長方形であった。北壁を除く壁に接して、約16cmの壁溝が巡っていた。カマドの前面には、径60cm、深さ13cmの円形の小穴みられた。

カマドは、北壁のほぼ中央につけられていた。袖は、検出できなかった。焚き口部は不整形に浅く窪んでいた。燃焼部から煙道部へは、段をもって移行していた。燃焼部には、自然石が支脚として使われていた。



第105図　第31号住居跡覆土中遺物データ

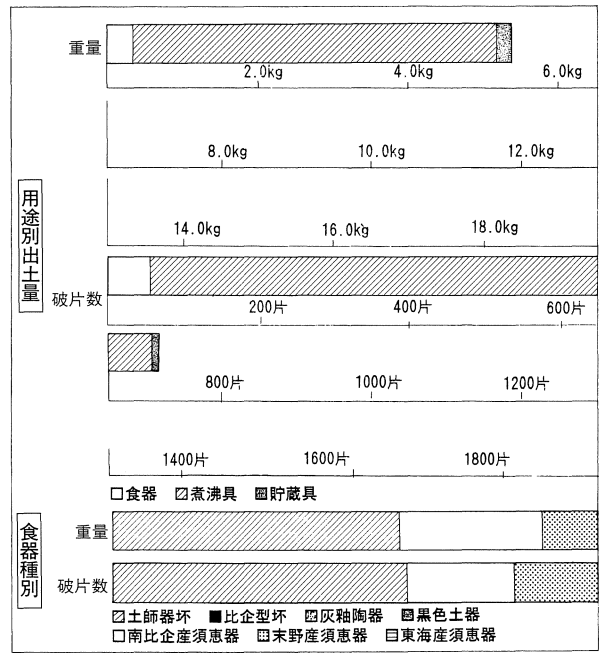
遺構の切り合い関係は、第32号住居跡より新しかった。

第32号住居跡

形状は、南北に長い長方形であった。カマド部分を除いて、幅約28cmの壁溝を巡らせていた。南壁の中央には、径76cm、深さ10cmの円形の土壙がみられた。また東壁の北寄りと南東隅寄りの壁溝内には、径18cm、深さ7cmの小穴が2基穿たれていた。

カマドは、東壁のやや北よりに付けられていた。袖は、地山を掘り残してつくられ、竪穴内へ伸びていた。焚き口部前面から燃焼部にかけては、楕円形に浅く窪んでいた。

遺構の切り合い関係は、第31・36号住居跡より古かった。



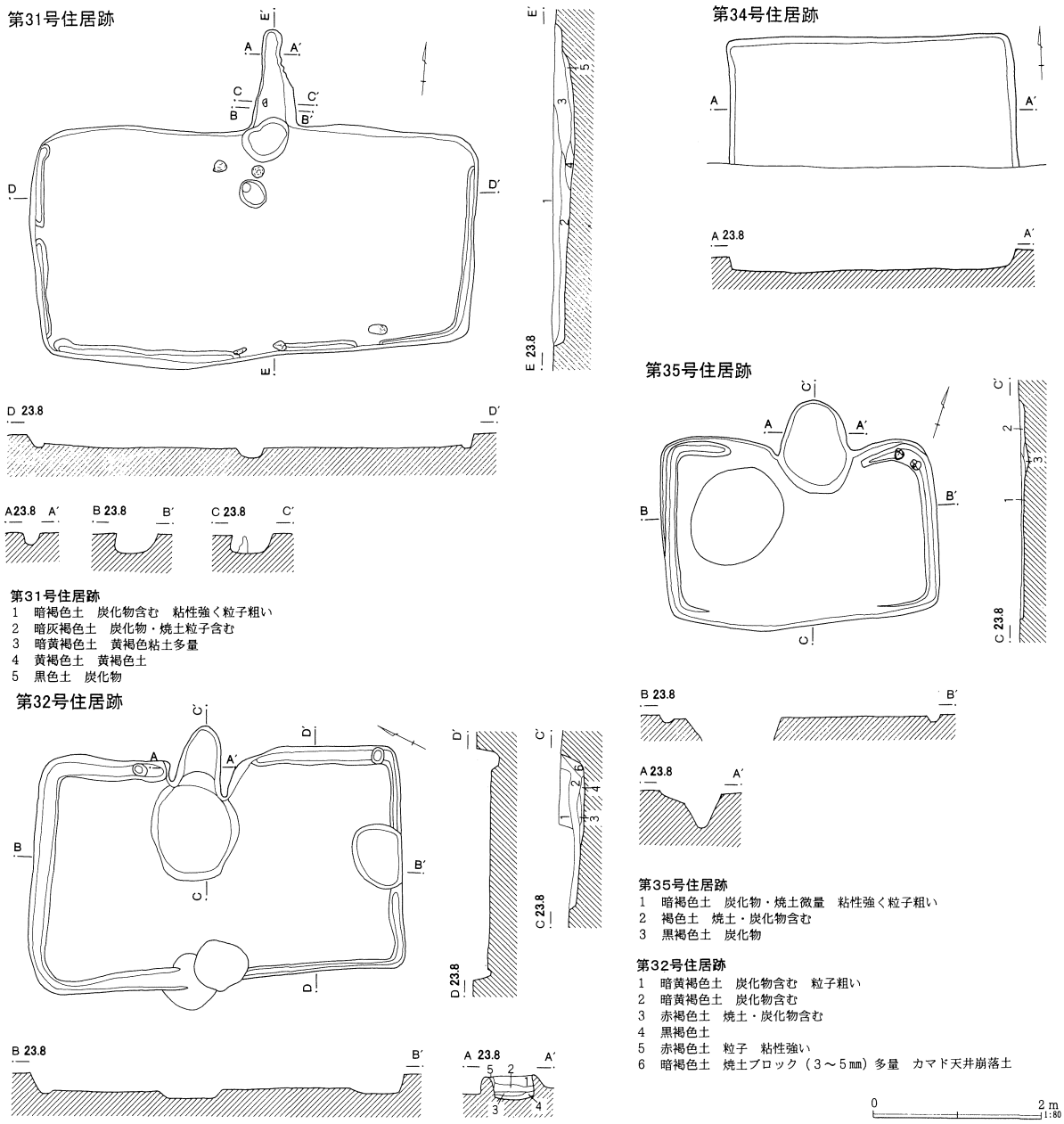
第106図　第32号住居跡覆土中遺物データ

第34号住居跡

住居跡の南側は、試掘のトレンチが入れられたため、形状などの全容は明らかにできなかった。

カマドは検出できなかった。

遺構の切り合い関係は、第35・36号住居跡より新



第107図　竪穴住居跡(8)

しく、第76号溝跡より古かった。

第35号住居跡

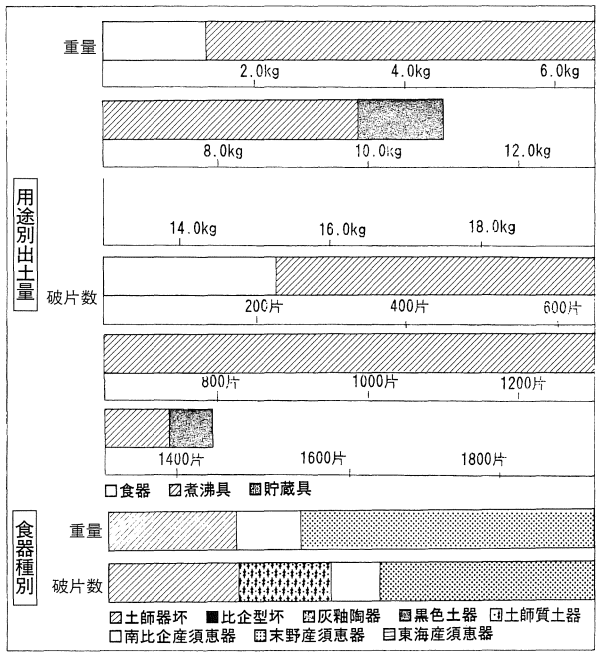
形状は、東西に長い長方形であった。カマド部分と南壁の中央を除き、幅約18cmの壁溝が巡っていた。

カマドは、北壁のやや東寄りにつけられていた。袖は地山を掘り残してつくられ、住居跡内にごく短く伸びていた。焚き口部から燃焼部にかけては、楕円形に浅く窪んでいた。

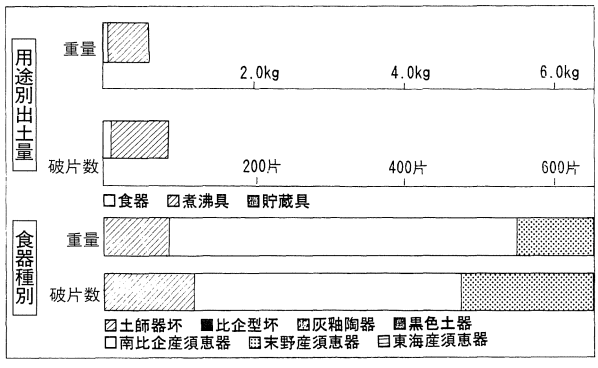
遺構の切り合い関係は、第34号住居跡より古かった。

第36号住居跡

形状は、東西に長い長方形であった。南側は、第67号溝跡に切られていた。北壁と西壁には、幅約18cmの壁溝が巡っていた。



第108図　第34号住居跡覆土中遺物データ



第109図　第35号住居跡覆土中遺物データ

カマドは、北壁のやや東寄り（１号カマド）と、東壁のやや南寄り（２号カマド）に付けられていた。土層の堆積状況は、２号カマドから１号カマドへの付け替えを示していた。

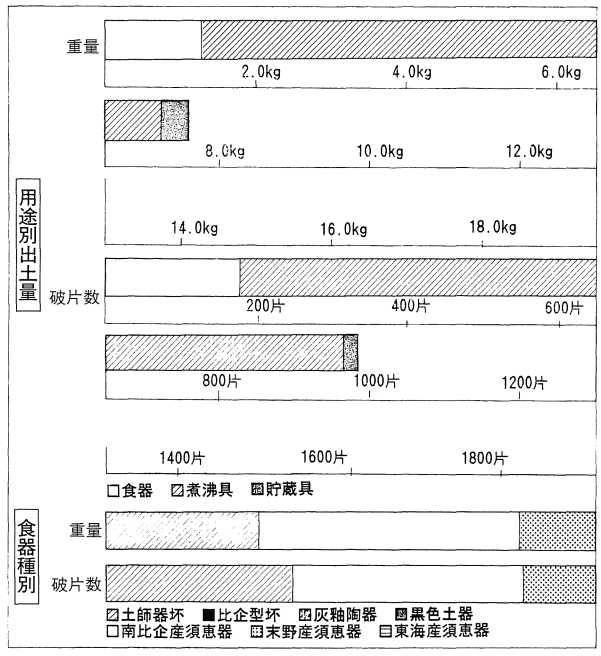
１号カマドの袖は、検出できなかった。焚き口部から燃焼部にかけては、楕円形の浅い窪みがみられ、燃焼部から段をもって煙道部へ移行していた。

２号カマドの袖も、検出できなかった。焚き口部には、楕円形の窪みがみられ、燃焼部から段をもって煙道部へ移行していた。

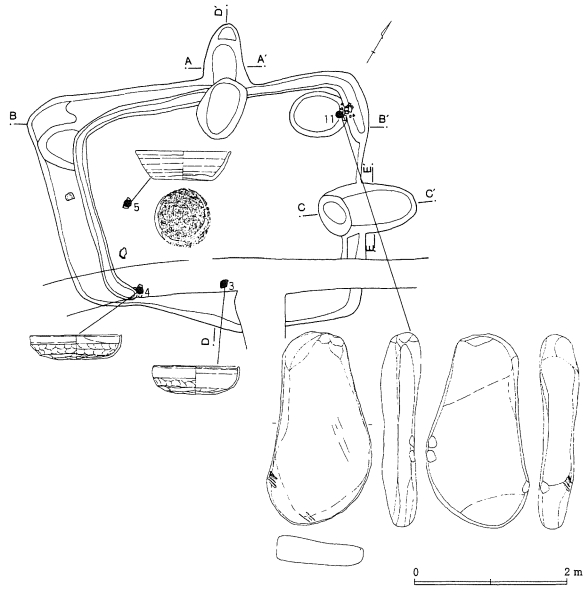
貯蔵穴を北東隅に検出した。形状は、楕円形で規模は、長径74cm、深さ11cmであった。

住居跡南側の壁周溝から土師器の坏（第328図―３・４）が出土した。竪穴西側の床面から須恵器の坏（第328図―５）が出土した。さらに貯蔵穴の東壁に接して砥石（第328図―11）が出土した。

遺構の切り合い関係は、第６・38号住居跡や第67・68号溝跡より古く、第32号住居跡より新しかった。



第110図　第36号住居跡覆土中遺物データ



第111図　第36号住居跡遺物出土位置

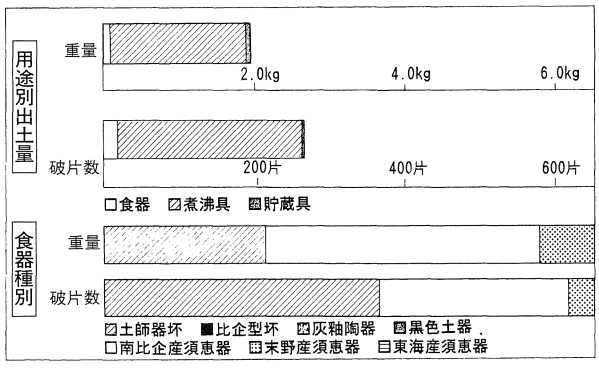
第37号住居跡

形状は、南北にやや長い長方形であった。住居跡の南側は、第67号溝に切られ、また壁の南寄りを小穴に切られていた。東壁中央から南壁と北東隅・北西隅に幅約20cmをはかる壁溝が巡っていた。

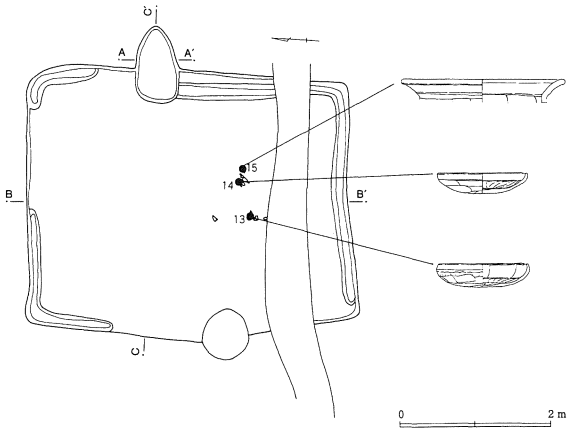
カマドは、東壁の北寄りにつけられていた。袖は、検出できなかった。燃焼部は、楕円形に浅く窪んでいた。

竪穴の床面中央から土師器の甕の口縁部（第328図—15）土師器の坏（第328図—13・14）が出土した。

遺構の切り合い関係は、第7号住居跡・第67号溝跡より古かった。



第112図　第37号住居跡覆土中遺物データ



第113図　第37号住居跡遺物出土位置

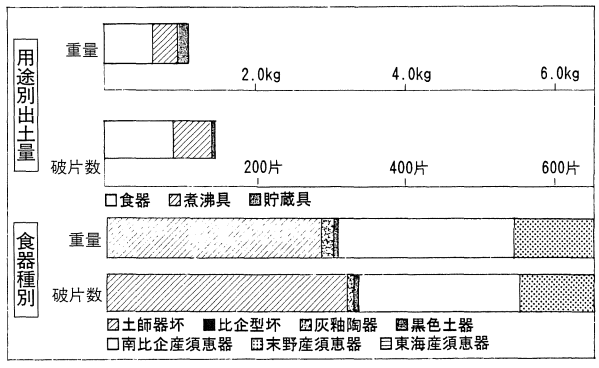
第38号住居跡

住居跡の北壁と西壁は、第67・68号溝に切られていたため、全容は不明であった。住居跡の形状は方形であった。カマド部分を除いて幅約20cmの壁溝が巡っていた。床面に3基の小穴が認められ、主柱穴と判断した。規模は、径30～38cm、深さ18～30cmであった。

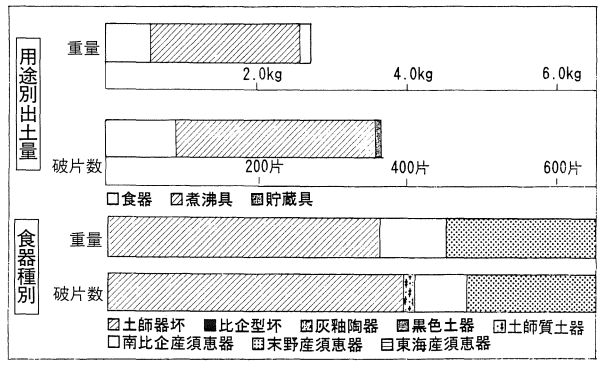
カマドは、東壁の南東隅寄りにつけられていた。袖は、地山を掘り残してつくられ、竪穴内へと伸びていた。左袖に比べ右袖は短い。焚き口部から燃焼部にかけては、楕円形に窪み、燃焼部から煙道部へは、段をもって移行していた。

竪穴の南東隅に貯蔵穴を検出した。長径70cm、短径58cm、深さ8cmの不整形であった。

遺構の切り合い関係は、第67・68号溝より古く、第36・39・40・60号住居跡より新しかった。



第114図　第38号住居跡覆土中遺物データ



第115図　第39号住居跡覆土中遺物データ

第40号住居跡

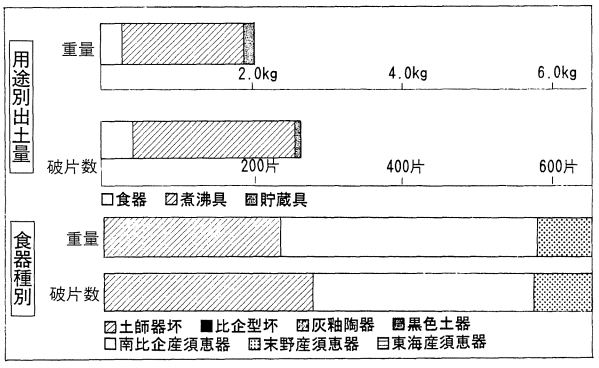
形状は、方形であった。

カマドは、東壁中央につけられていた。袖は、地山を掘り残してつくられ、ごく短く竪穴内へ伸びて

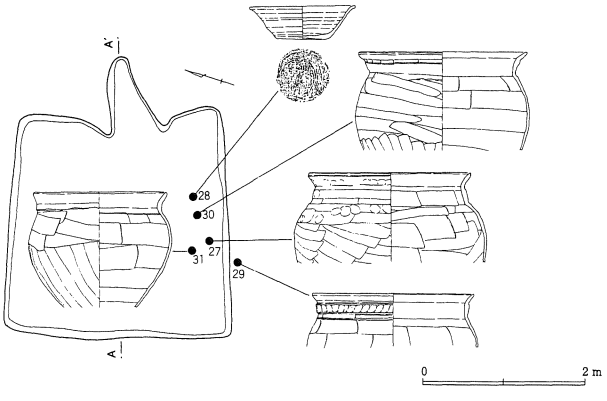
いた。燃焼部に窪みはなく、緩やかな段をもって煙道部へと移行していた。

南壁に接して土師器の甕が3点（第328図—28・30・31）と須恵器の坏が1点出土した。またここに須恵器の坏もいっしょに出土した。

遺構の切り合い関係は、第38・39・61号住居跡・第68号溝跡より古く、第60号住居跡より新しかった。



第116図　第40号住居跡覆土中遺物データ



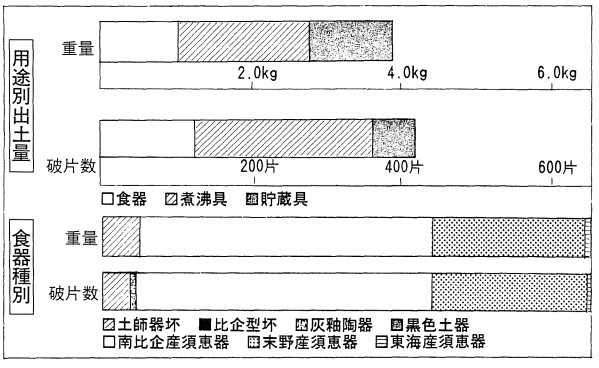
第117図　第40号住居跡遺物出土位置

第41号住居跡

形状は、方形であった。北東隅を第69号溝跡に切られていた。竪穴の壁に沿って80cmの壁溝が全周していた。

カマドは、北壁の北東隅寄りにつけられていた。袖は、みられなかった。また燃焼部の掘り込みもみられなかった。燃焼部から煙道部へは、緩やかな段をもって移行し、煙出し部は、垂直に立ち上がっていた。

遺構の切り合い関係は、第69号溝跡より古い。

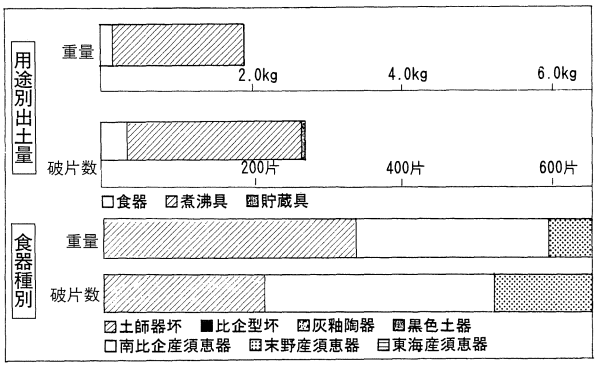


第118図　第41号住居跡覆土中遺物データ

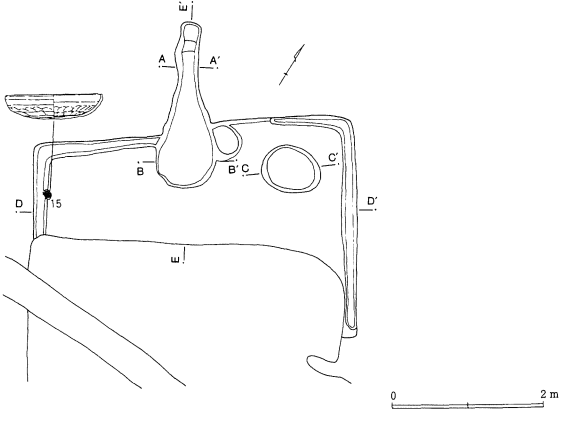
第42号住居跡

住居跡の南半分は、第43号住居跡に切られていたため、形状などの全容は解明できなかった。カマド部分を除き、竪穴の壁に沿って、壁溝が巡っていた。幅約20cmを測る。

カマドは、北壁の中央につけられていた。袖は、みられなかった。焚き口部から燃焼部にかけては、浅い不整形の掘り込みがみられ、燃焼部から煙道部

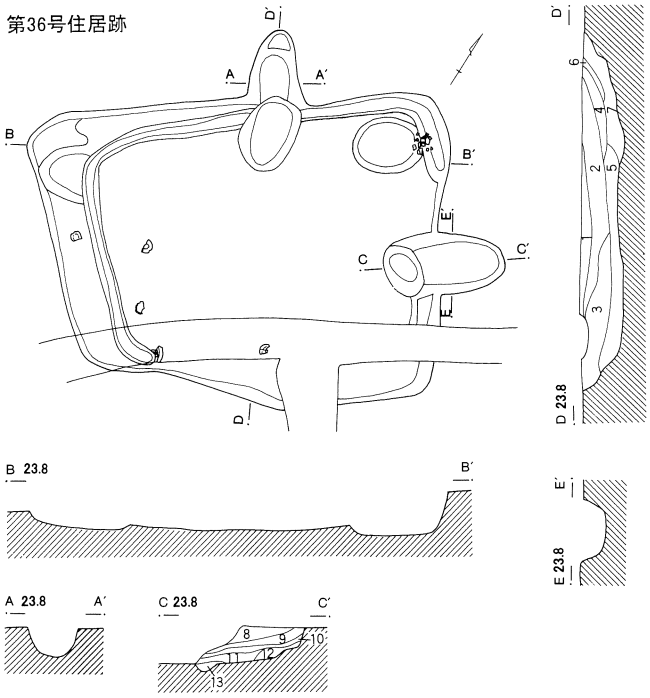


第119図　第42号住居跡覆土中遺物データ



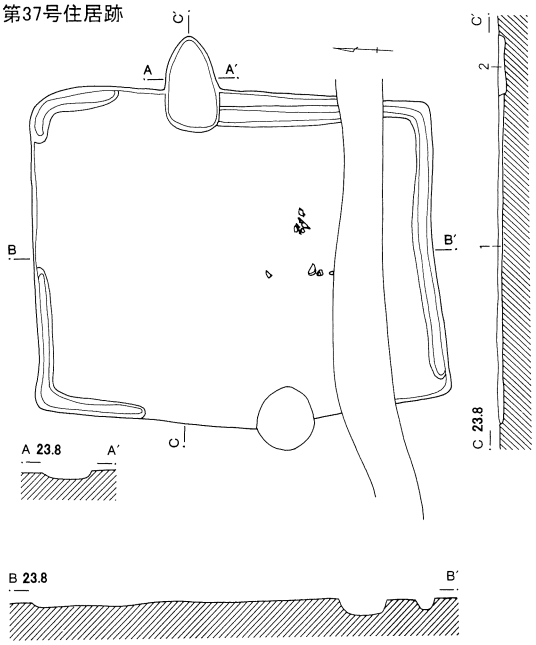
第120図　第42号住居跡遺物出土位置

第36号住居跡



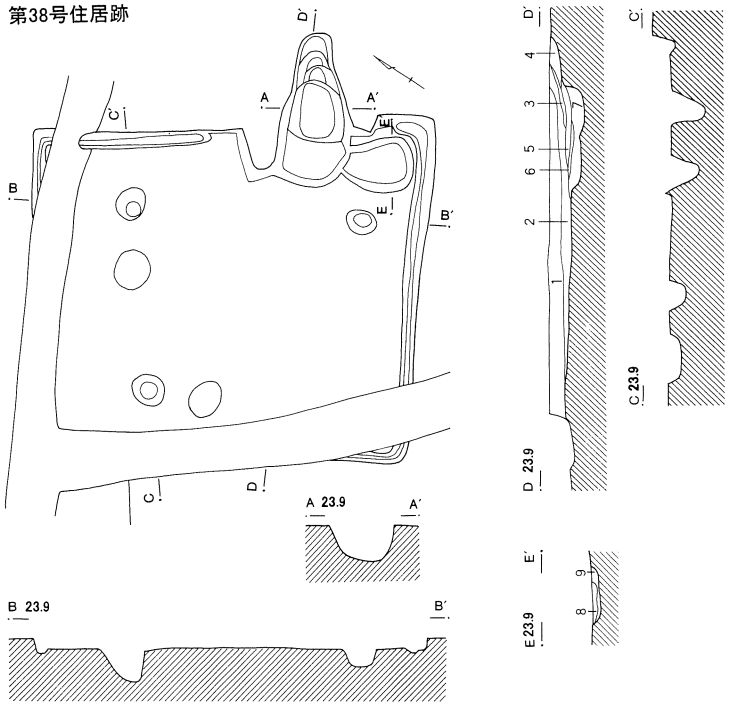
第36号住居跡
1　暗褐色土　黄褐色粒子（1㎜）・焼土粒子（1㎜）少量
2　暗褐色土　黄褐色粘土ブロック（1～2㎜）まばら
3　黒褐色土　黄灰色粘土ブロック（3～5㎜）まばら　焼土ブロック（3～5㎜）少量
4　暗褐色土　黄灰色粘土ブロック（2～3㎜）・焼土ブロック（5～8㎜）少量
5　黒色土　黄灰色粘土ブロック（3～5㎜）多量
6　暗褐色土　焼土ブロック（2～3㎜）多量　天井の崩落土
7　暗褐色土　焼土ブロック（2～3㎜）まばら　黄褐色粘土ブロック（3～5㎜）多量
8　暗褐色土　焼土・炭化物（2～5㎜）まばら
9　暗褐色土　黄褐色粘土ブロック（1㎝）多量　天井崩落土
10　黒灰色土　灰層　焼土・炭化物多量
11　暗褐色土　黄褐色粘土ブロック　焼土　炭化物（3～5㎜）まばら
12　暗褐色土　黄褐色粘土ブロック・焼土・炭化物（3～5㎜）まばら
13　黄褐色土　炭化物（1㎝）少量

第37号住居跡

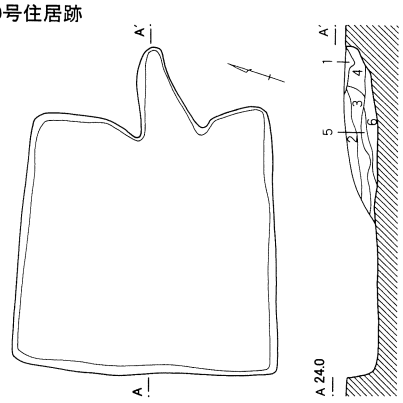


第37号住居跡
1　暗褐色土　黄褐色粘土ブロック（8～10㎜）多量
2　暗褐色土　焼土ブロック（2～3㎜）・黄褐色粘土ブロック（2～3㎜）少量

第38号住居跡



第40号住居跡



第40号住居跡
1　暗褐色土　焼土ブロック（3～5㎜）多量　天井部の残欠と考えられる
2　暗褐色土　焼土ブロック（3～5㎜）少量　炭化物少量　黄褐色粘土ブロック（2～3㎜）少量
3　暗褐色土　焼土ブロック（5～8㎜）・黄褐色粘土ブロック（5～8㎜）少量
4　暗褐色土　焼土ブロック（5～8㎜）・炭化物少量　3より明度落ちる
5　暗褐色土　炭化物・灰多量　黄褐色粘土ブロック（5～8㎜）少量　灰層
6　黒灰色土　灰多量　炭化物・黄褐色粘土ブロック（5～8㎜）少量　灰層

第38号住居跡
1　暗褐色土　黄灰褐色の粘土ブロック多量
2　暗褐色土　焼土・炭化物粒子含む　粘性強い
3　暗赤褐色土　焼土・カマド燃焼部堆積　天井崩落土
4　黒色土　炭化物
5　暗赤褐色土　焼土・炭化物多量
6　黒色土　炭化物
7　暗黄褐色土　黄褐色ブロック多量
8　黒色土　炭化物
9　暗黄褐色土　黄褐色ブロック多量

0　2m　1:80

第121図　竪穴住居跡(9)

へは、緩やかに移行していた。煙道部は、細長く伸び、煙出し部は垂直に立ち上がっていた。

北東隅に貯蔵穴を、検出した。楕円形の貯蔵穴で、長径80cm、深さ14cmの規模であった。

西側壁周溝の上がり口に土師器の坏（第329図—15）が出土した。

遺構の切り合い関係は、第８・43号住居跡・第67・69号溝跡より古かった。

第43号住居跡

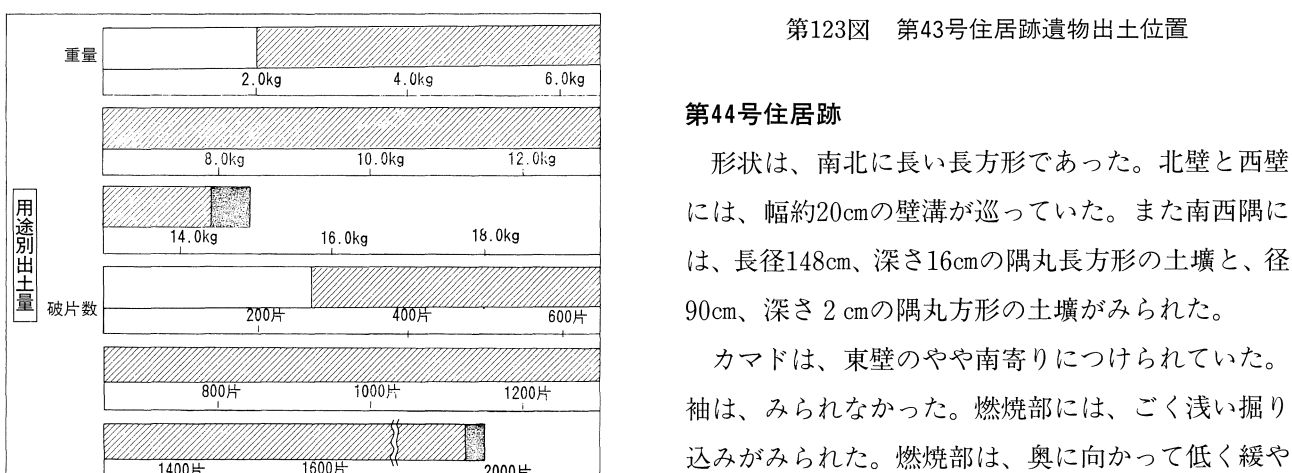
形状は、東西にやや長い長方形であった。住居跡の中央は、第67号溝跡に切られていた。カマドと貯蔵穴を除く竪穴の壁面に沿って幅約18cmの壁溝が巡っていた。中央やや南西寄りには、浅い掘り込みがみられた。またカマドの前面には、長径58cm、深さ17cm不整形の小穴がみられた。なお、カマド左側の東壁に沿って長さ120cm、幅32cm、高さ25cmの棚状の施設が、付設されていた。

カマドは、東壁のやや南寄りにつけられていた。袖は、地山を掘り残してつくられ、竪穴内へ伸びていた。焚き口部から燃焼部にかけては、楕円形の浅い掘り込みがみられた。燃焼部から煙道部にかけて、緩やかに移行していた。煙道部は、地山を掘り抜いて造られていた。煙出し部は、急な傾斜で立ち上がっていた。

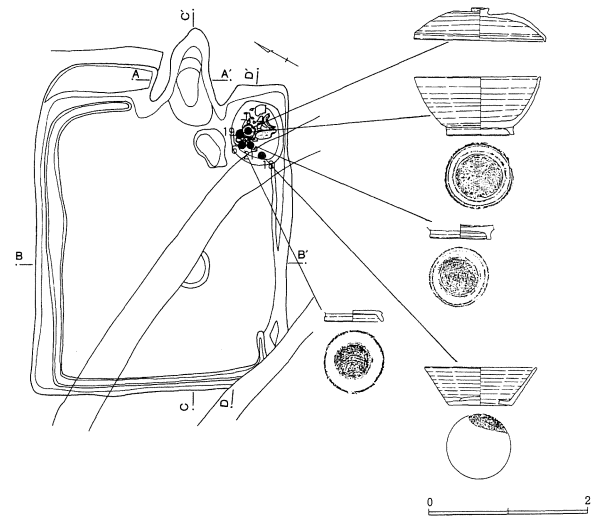
南東隅に貯蔵穴を、検出した。隅丸方形の貯蔵穴で、規模は、径80cm、深さ26cmであった。

貯蔵穴の上部、カマド右袖に接して、須恵器の蓋（第329図—７）、坏（第329図—13）、高台付埦（第329図—６・19・21）が出土した。

遺構の切り合い関係は、第67・69号溝跡より古く、第42・45号住居跡より新しかった。



第122図　第43号住居跡覆土中遺物データ



第123図　第43号住居跡遺物出土位置

第44号住居跡

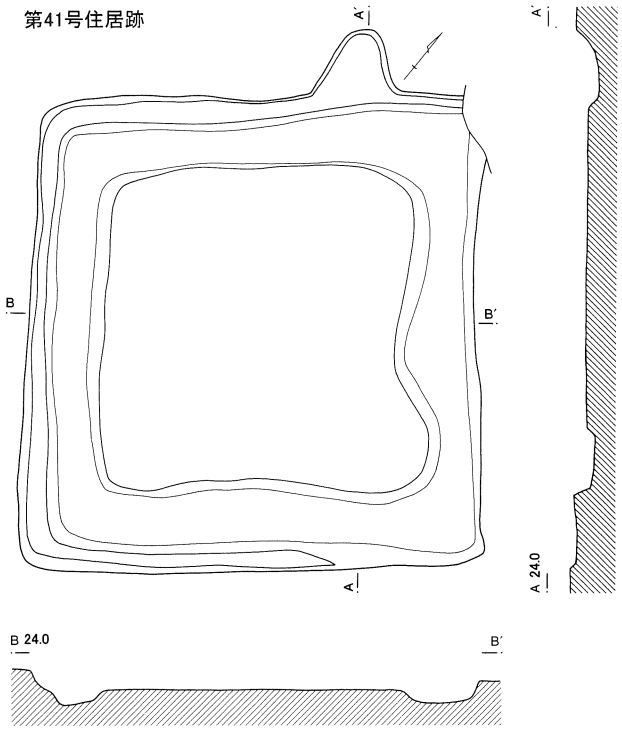
形状は、南北に長い長方形であった。北壁と西壁には、幅約20cmの壁溝が巡っていた。また南西隅には、長径148cm、深さ16cmの隅丸長方形の土壙と、径90cm、深さ２cmの隅丸方形の土壙がみられた。

カマドは、東壁のやや南寄りにつけられていた。袖は、みられなかった。燃焼部には、ごく浅い掘り込みがみられた。燃焼部は、奥に向かって低く緩やかに傾斜していた。

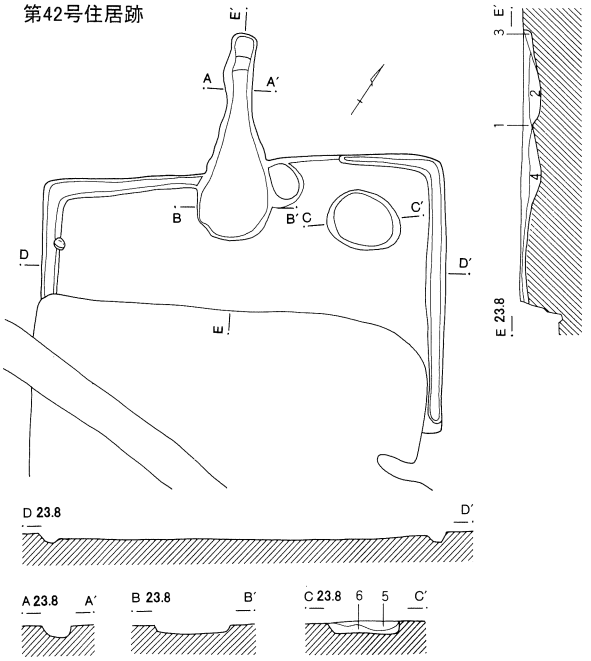
南東隅に貯蔵穴を検出した。貯蔵穴は、ピットに大半を切られたため形状や規模は、明らかにできなかった。

カマド燃焼部やや奥から土師器の甕（第330図

第41号住居跡



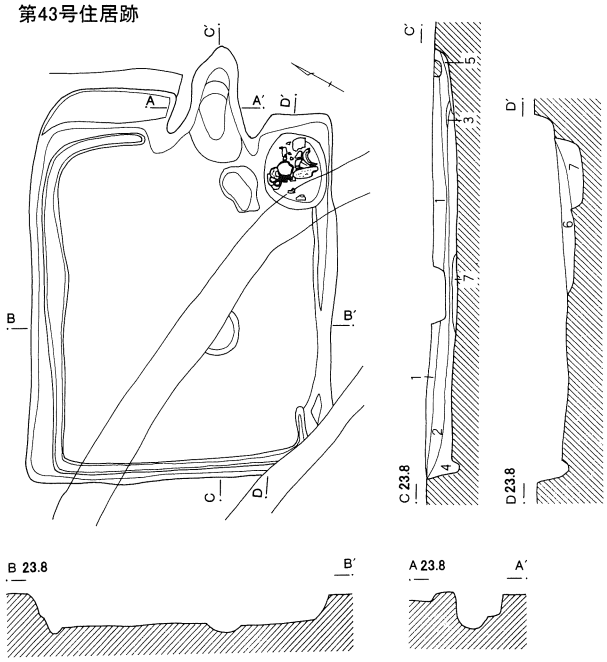
第42号住居跡



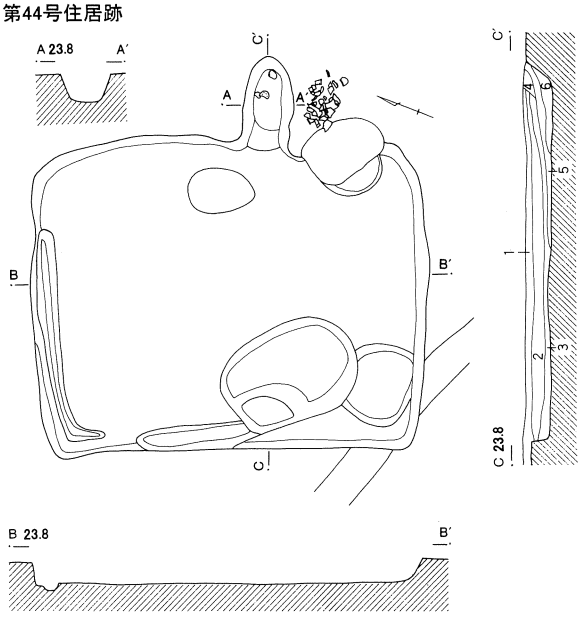
第42号住居跡

1　暗褐色土　焼土粒子（1㎝）まばら　焼土ブロック（1㎝）少量
2　暗褐色土　焼土ブロック（3～5㎜）・黄灰色粘土ブロック（1～2㎜）少　灰微量
3　暗褐色土　焼土ブロック（3～5㎜）やや多量　灰多量
4　暗褐色土　黄褐色粘土ブロック（3～5㎜）まばら
5　暗褐色土　黄灰色粘土ブロック（3～5㎜）・焼土・炭化物まばら
6　黄灰色土　黄灰色粘土・暗褐色土混じる

第43号住居跡



第44号住居跡



第43号住居跡

1　暗褐色土　粘性強く粒子粗い　炭化物含む
2　暗褐色土　2層より暗い
3　赤褐色土　焼土ブロック含む
4　暗褐色土　焼土・炭化物多量
5　黒色土　炭化物
6　黄褐色土　固くしまった粘質土
7　黒色土　炭化物

第44号住居跡

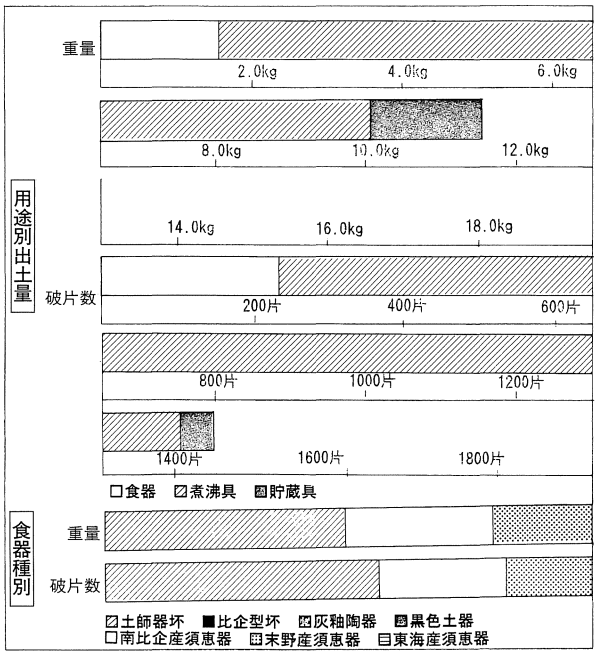
1　暗褐色土　炭化物・焼土含む　固くしまる
2　暗褐色土　炭化物・焼土含む　1層より暗い
3　褐色土　2層より粘性強く・粒子粗い
4　黄褐色土
5　黒色土　炭化物
6　黄褐色土　黄褐色ブロック多量

0　2 m
1:80

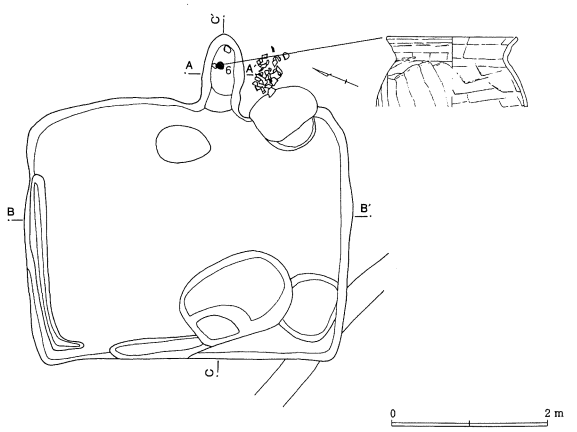
第124図　竪穴住居跡(10)

— 6 ）が出土した。

遺構の切り合い関係は、第45号住居跡より新しく、第67号溝跡より古かった。



第125図　第44号住居跡覆土中遺物データ



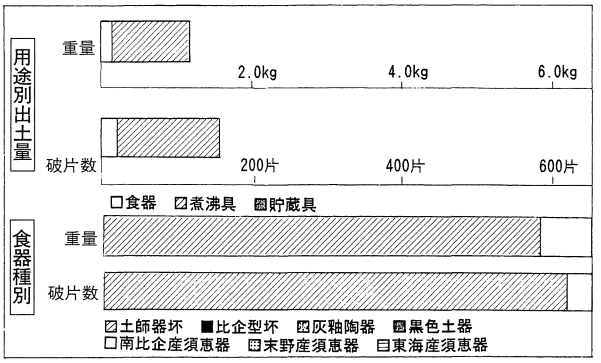
第126図　第44号住居跡遺物出土位置

第45号住居跡

北側を第43号住居跡に切られ、東側を第44号住居跡に切られたため全容は解明できなかった。

カマドは、検出できなかった。

遺構の切り合い関係は、第43・44号住居跡・第67・69号溝跡・第38号土壙より古かった。



第127図　第45号住居跡覆土中遺物データ

第46号住居跡

住居跡の大半を第47号住居跡に切られる。しかし残存部の状況から形状は、方形と判断した。北西隅には、幅約18cmの壁溝がみられた。

カマドは、北壁のやや東寄りにつけられていた。袖は、地山を掘り残してつくられ、住居内へ伸びていた。焚き口部から燃焼部にかけては、楕円形にごく浅く窪む。燃焼部から煙道部へは、緩やかに移行していた。

北東隅に貯蔵穴を検出した。形状は、隅丸長方形で規模は、長径66cm、深さ12cmであった。

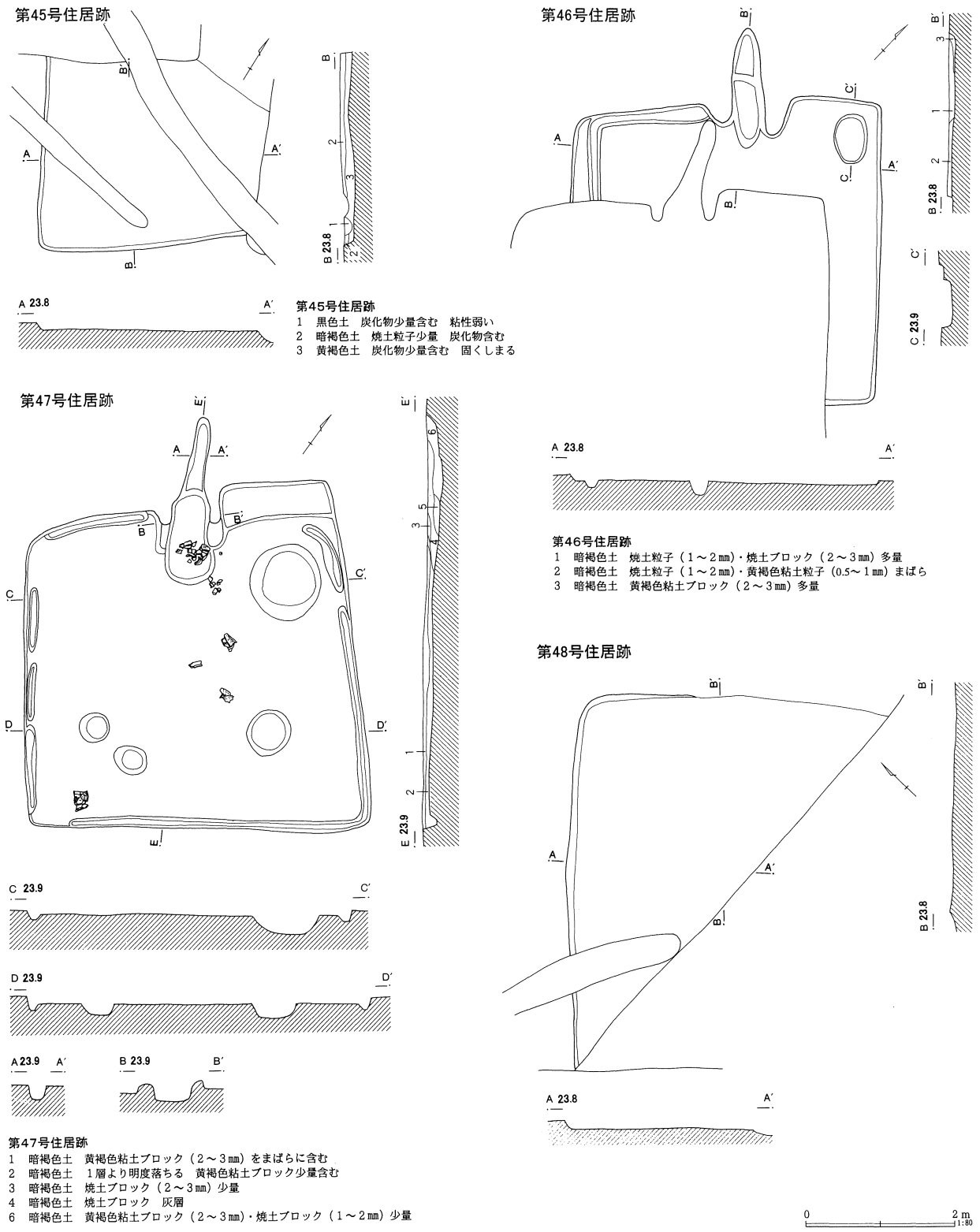
遺構の切り合い関係は、第47・48号住居跡より古かった。

第47号住居跡

形状は、不整方形であった。北壁の東半分を除き、幅約16cmの壁溝が巡っていた。南側には、径40～64cm、深さ16～22cmの円形の小穴が３基みられた。カマド右側の北壁に沿って、長さ140cm、幅40cm、高さ５cmの棚状の施設がみられた。

カマドは、北壁の中央につけられていた。袖は、地山を掘り残してつくられ、竪穴内へ伸びていた。焚き口部の前面から燃焼部にかけては、隅丸長方形の浅い掘り込みがみられた。煙道部へは、段をもって移行していた。

北東隅に貯蔵穴を検出した。形状は、円形で規模は、径100cm、深さ26cmであった。



第45号住居跡
1　黒色土　炭化物少量含む　粘性弱い
2　暗褐色土　焼土粒子少量　炭化物含む
3　黄褐色土　炭化物少量含む　固くしまる

第46号住居跡
1　暗褐色土　焼土粒子（1～2㎜）・焼土ブロック（2～3㎜）多量
2　暗褐色土　焼土粒子（1～2㎜）・黄褐色粘土粒子（0.5～1㎜）まばら
3　暗褐色土　黄褐色粘土ブロック（2～3㎜）多量

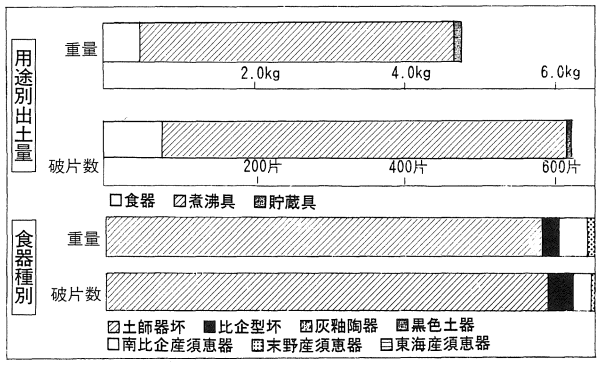
第47号住居跡
1　暗褐色土　黄褐色粘土ブロック（2～3㎜）をまばらに含む
2　暗褐色土　1層より明度落ちる　黄褐色粘土ブロック少量含む
3　暗褐色土　焼土ブロック（2～3㎜）少量
4　暗褐色土　焼土ブロック　灰層
6　暗褐色土　黄褐色粘土ブロック（2～3㎜）・焼土ブロック（1～2㎜）少量

第128図　竪穴住居跡(11)

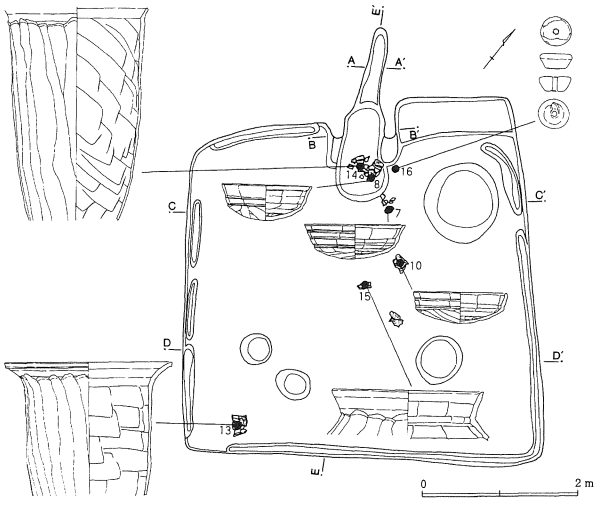
カマドの燃焼部から土師器の甕（第330図―14）、土師器の坏（第330図―８）が出土した。また燃焼部の右手前から土師器の坏（第330図―７）や石製紡錘車（第330図―16）が出土した。竪穴中央の住居床面とは、土師器の坏（第330図―10）や土師器の甕（第330図―15）が出土した。さらに竪穴の南西コーナー

から土師器の甕（第330図—13）が出土した。

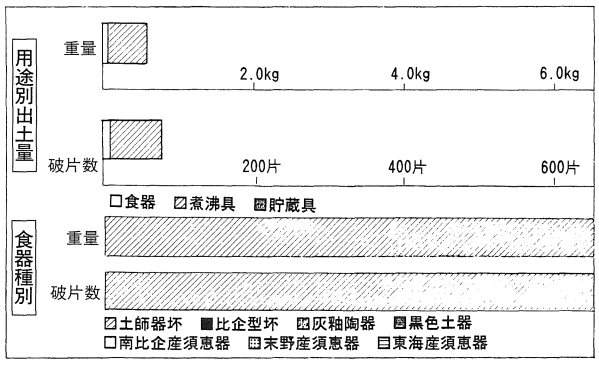
遺構の切り合い関係は、第46号住居跡・第１号掘立柱建物跡より新しかった。



第129図　第47号住居跡覆土中遺物データ



第130図　第47号住居跡遺物出土位置



第131図　第48号住居跡覆土中遺物データ

第48号住居跡

住居跡の大半が、試掘のトレンチで破壊されていたため、形状など全容を明らかにすることはできなかった。

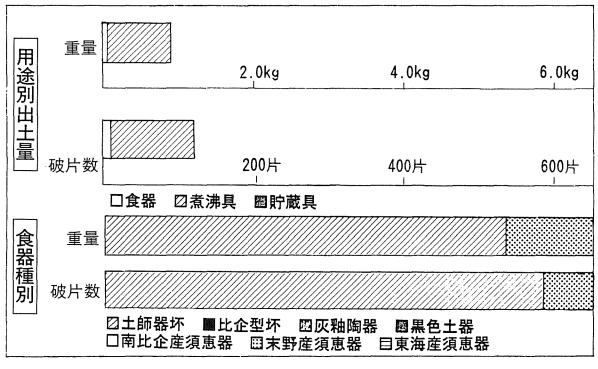
カマドは、検出できなかった。

遺構の切り合い関係は、第46号住居跡・第67号溝跡より古かった。

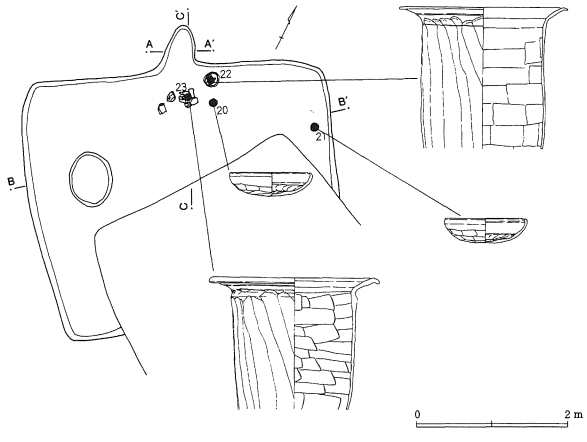
第49号住居跡

住居跡の南側は、第50号住居跡に切られるため全容は明らかにできなかった。しかし残存部の状況から、東西にやや長い長方形の竪穴と判断した。住居跡の中央西寄りには、長径74cm、深さ10cmの楕円形の土壙がみられた。

北壁の中央にカマドを検出した。袖は、みられなかった。燃焼部の掘り込みはみられず、平坦であった。

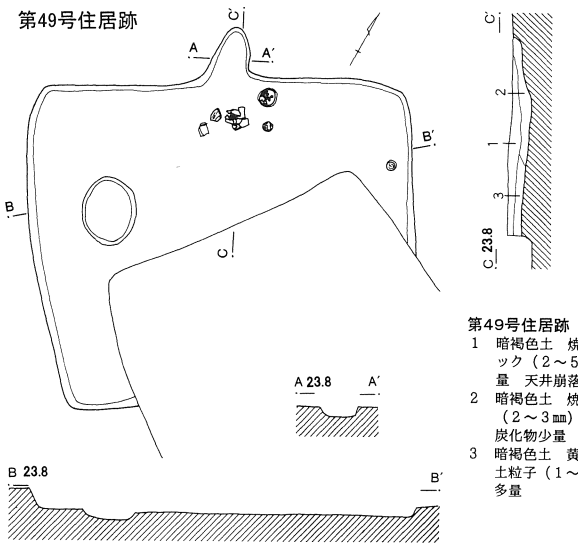


第132図　第49号住居跡覆土中遺物データ



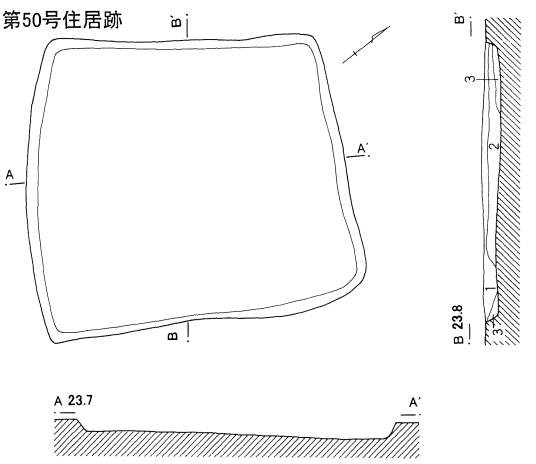
第133図　第49号住居跡遺物出土位置

第49号住居跡



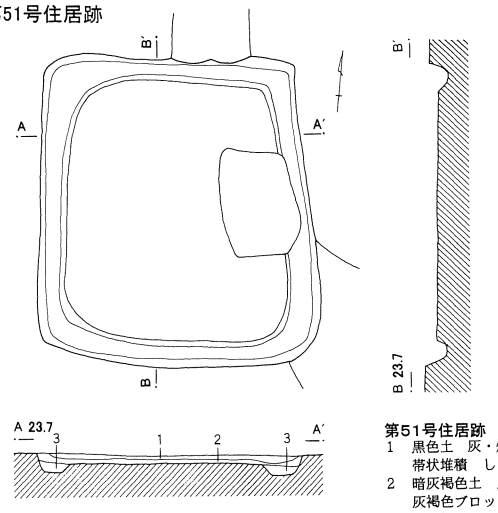
第49号住居跡
1　暗褐色土　焼土ブロック（2～5㎜）少量　天井崩落土
2　暗褐色土　焼土粒子（2～3㎜）まばら　炭化物少量
3　暗褐色土　黄灰色粘土粒子（1～2㎜）多量

第50号住居跡



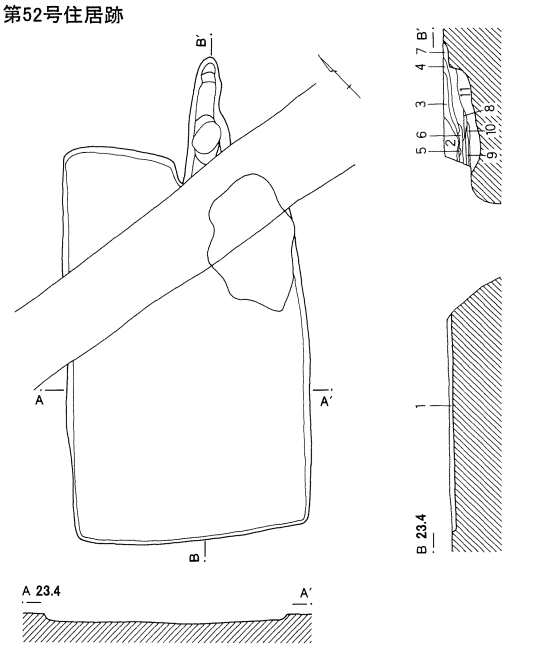
第50号住居跡
1　暗褐色土　黄褐色粘土粒子（1～2㎜）少量
2　暗褐色土　黄褐色粘土ブロック（3～5㎜）やや多量
3　暗褐色土　黄褐色粘土ブロック（2～3㎜）まばら

第51号住居跡



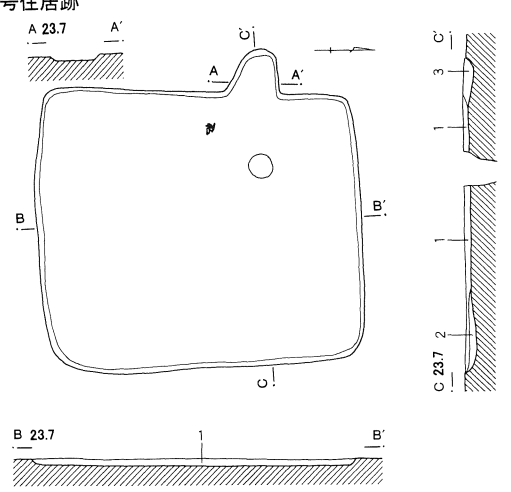
第51号住居跡
1　黒色土　灰・焼土・炭化物の帯状堆積　しまりなし
2　暗灰褐色土　炭化物粒子・明灰褐色ブロック少量
3　暗灰褐色土　炭化物粒子少量　粘性強い

第52号住居跡



第52号住居跡
1　灰黄色土　灰色土ブロック（10㎜）多量　炭化物（1～2㎜）少量
2　灰色土　砂・焼土ブロック（3～10㎜）少量　炭化物（1㎜）多量
3　黄灰色土　砂・焼土ブロック（10㎜）多量　炭化物（1㎜）多量
4　黄灰色土　焼土ブロック（3㎜）少量　炭化物（1㎜）多量
5　灰白色土　焼土ブロック（5㎜）少量　炭化物（1㎜）・灰多量
6　黄灰色土　焼土ブロック（1～2㎜）少量　炭化物（1㎜）
7　黄灰色土　砂・焼土ブロック（1～2㎜）・炭化物（1㎜）少量
8　灰白色土　灰・炭化物（1㎜）少量
9　橙灰色土　焼土ブロック（20㎜）炭化物（1㎜）多量　カマド天井崩落土
10　灰色土　灰・焼土ブロック（5㎜）多量　炭化物（1㎜）
11　灰色土　灰色粘土ブロックと炭化物ブロック少量

第53号住居跡



第53号住居跡
1　暗灰褐色土　炭化物粒子・　明灰色土粒子少量　焼土粒子微量
2　暗灰褐色土　炭化物粒子多量　焼土粒子微量
3　灰褐色土　炭化物粒子少量　明灰色粘土粒子多量

0　2 m
1:80

第134図　竪穴住居跡(12)

カマドの手前に、土師器の甕が2点（第330図—22・23）、土師器の坏が一点まとまって出土した。また東壁に接した床面から土師器の坏（第330図—21）が出土した。

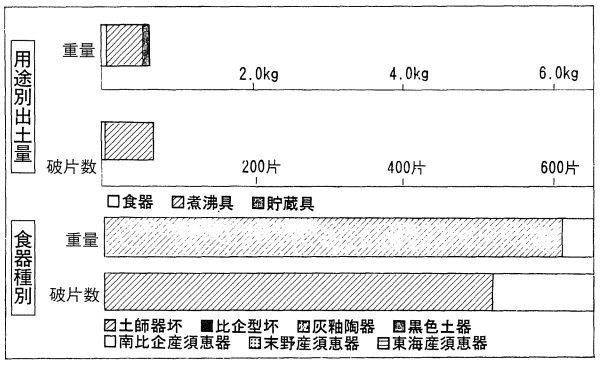
遺構の切り合い関係は、第1号掘立柱建物跡より新しく、第50号住居跡より古かった。

第50号住居跡

形状は、不整方形であった。

カマドは、検出できなかった。

遺構の切り合い関係は、第49・68号住居跡より新しかった。



第135図　第50号住居跡覆土中遺物データ

第51号住居跡

形状は、南北にやや長い長方形であった。中央の東寄りが、第46号土壙によって切られていた。竪穴の壁面に沿って、幅約30cmの壁溝が全周していた。

カマドは、検出できなかった。

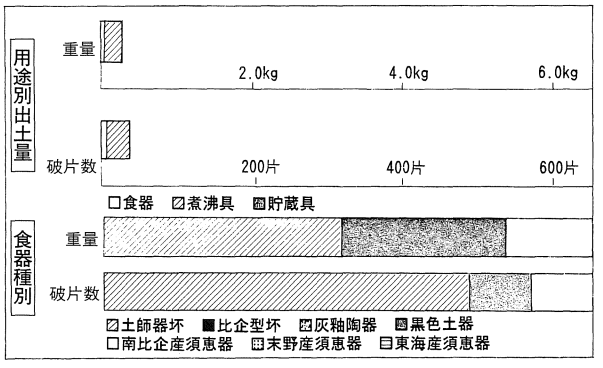
遺構の切り合い関係は、第20・21号住居跡・第46・47・49号土壙・第36・65・66号溝跡より新しかった。

第52号住居跡

形状は、南北に長い長方形であった。住居跡の北側を第6号井戸跡と第78号溝跡に切られていた。

北壁の北東隅寄りにカマドを検出した。袖は、地山を掘り残して構築し、竪穴内へ伸びていた。右袖は、第78号溝跡に切られていた。燃焼部には、楕円形の浅い掘り込みがみられた。煙道部へは、大きく段をもって移行していた。

遺構の切り合い関係は、第78号溝跡・第6号井戸跡より古かった。

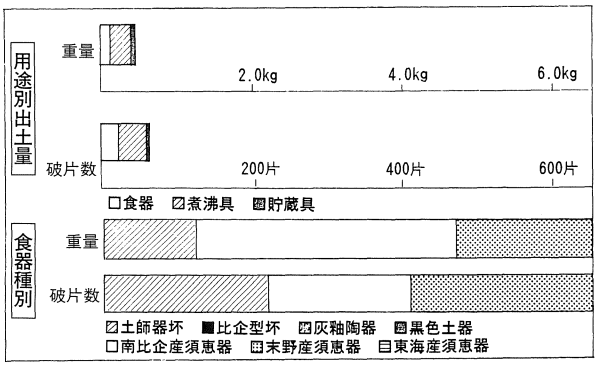


第136図　第52号住居跡覆土中遺物データ

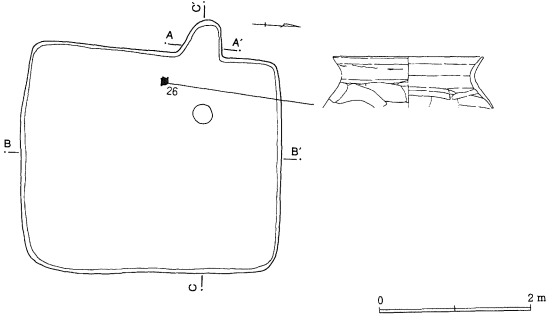
第53号住居跡

形状は、南北に長い長方形であった。

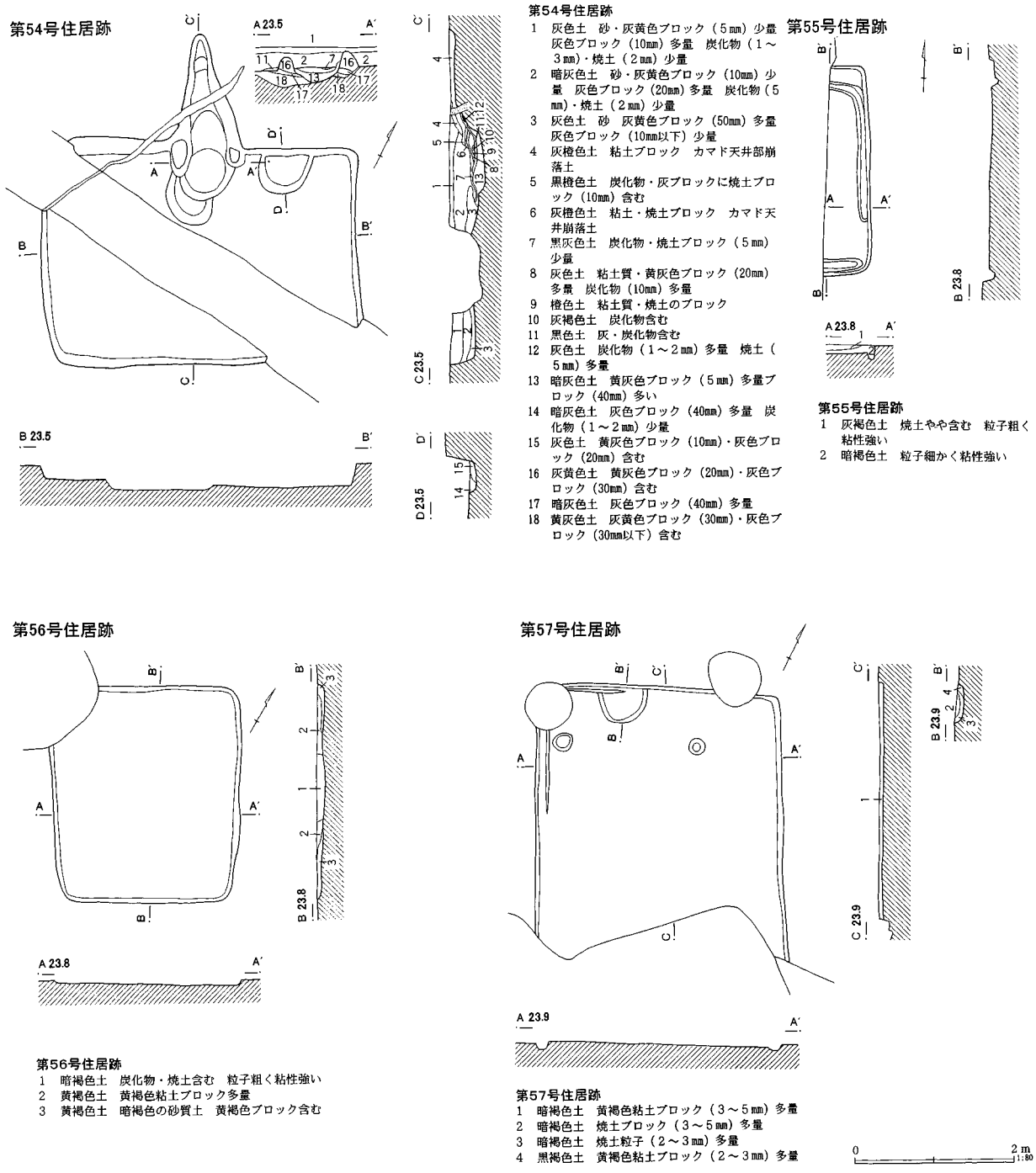
西壁の北寄りにカマドを、検出した。袖は、検出できなかった。燃焼部は、奥に向かって低く傾斜していた。



第137図　第53号住居跡覆土中遺物データ



第138図　第53号住居跡遺物出土位置



第139図　竪穴住居跡(13)

カマドの左手前から土師器の甕（第370図—26）が出土した。

遺構の切り合い関係は、第24号住居跡より古かった。

第54号住居跡

形状は、東西に長い長方形であった。第78号溝に住居の中央を切られていた。

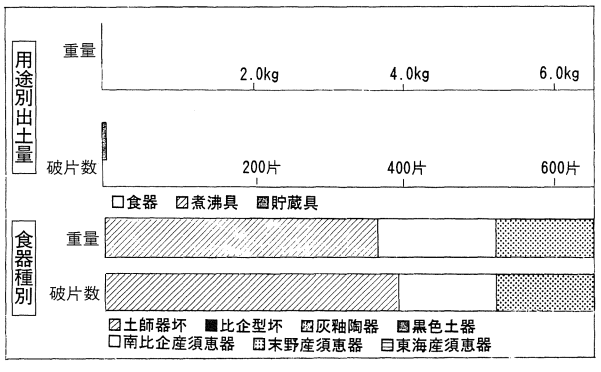
北壁の中央にカマドを、検出した。袖は、灰黄色土で造り付けられ、住居内へ短く伸びていた。焚き

口部前面から燃焼部にかけては、楕円形に窪んでいた。燃焼部から煙道部へは、緩やかな段をもって移行していた。煙道部は、細長く伸び、煙出し部は、急な傾斜で立ち上がっていた。

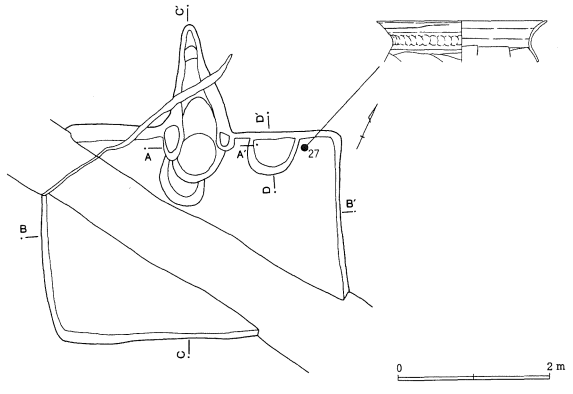
カマド右側の北壁沿いに貯蔵穴を、検出した。形状は不整形である。規模は径64cm、深さ10cmであった。

竪穴の東北コーナーから、貯蔵穴に接して土師器の甕（第330図—27）が出土した。

遺構の切り合い関係は、第78号溝より古かった。



第140図　第54号住居跡覆土中遺物データ



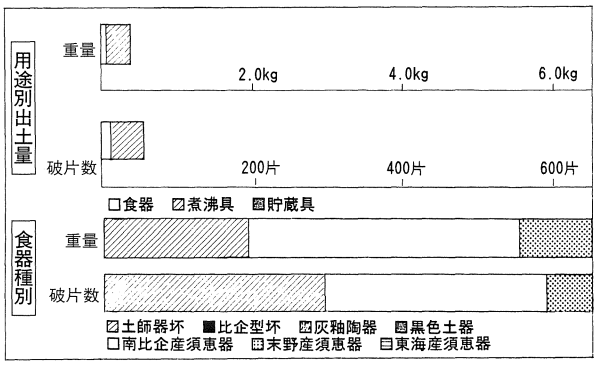
第141図　第54号住居跡遺物出土位置

第55号住居跡

住居跡の大半が調査区外のため、形状など全容は明らかにできなかった。壁溝が北壁から南壁にかけてみられた。幅約18cmを測る。

カマドは、検出できなかった。

遺構の切り合い関係は、第27・28号住居跡より新しかった。



第142図　第55号住居跡覆土中遺物データ

第56号住居跡

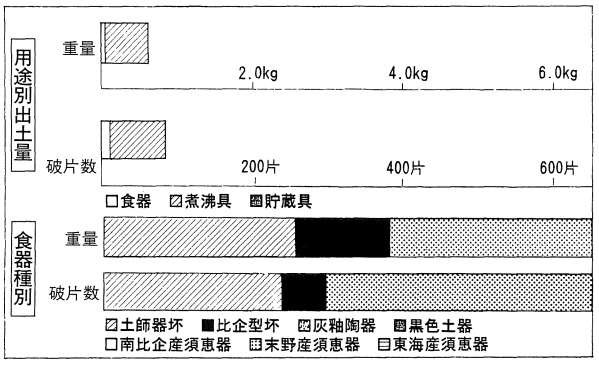
形状は、南北に長い長方形であった。北西隅を第55号土壙に切られていた。

カマドは、検出できなかった。

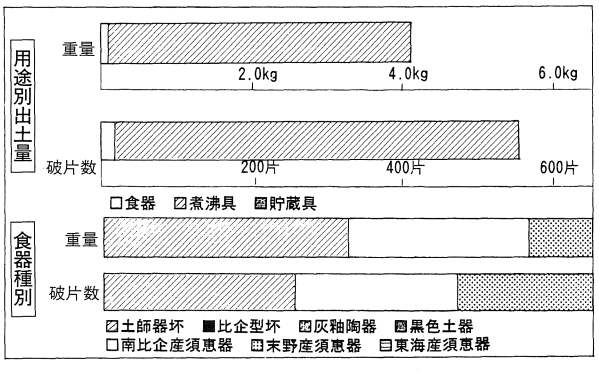
遺構の切り合い関係は、第55号土壙より新しい。

第57号住居跡

住居跡の南側は、第58号住居跡を先行して調査したため、形状など全容は明らかにできなかった。北



第143図　第56号住居跡覆土中遺物データ



第144図　第57号住居跡覆土中遺物データ

西隅には、幅約18cmの壁溝が巡っていた。北壁の西寄りには、幅60cm、深さ10cmの土壙がみられた。北側には、小穴が２基みられた。

カマドは、検出できなかった。

遺構の切り合い関係は、第63号住居跡より古く、第58号住居跡より新しかった。

第58号住居跡

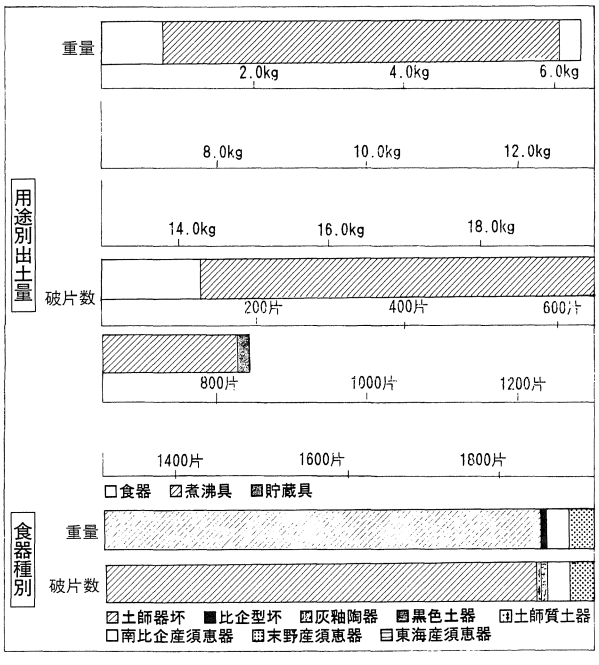
形状は、南北に長い長方形であった。中央は、試掘のトレンチで破壊されていた。北東隅と北西隅には、幅約18cmの壁溝が巡っていた。床面に８基の小穴を検出した。

北壁のやや西寄りには、カマドがみられた。袖は、みられなかった。燃焼部には、楕円形の掘り込みがみられた。

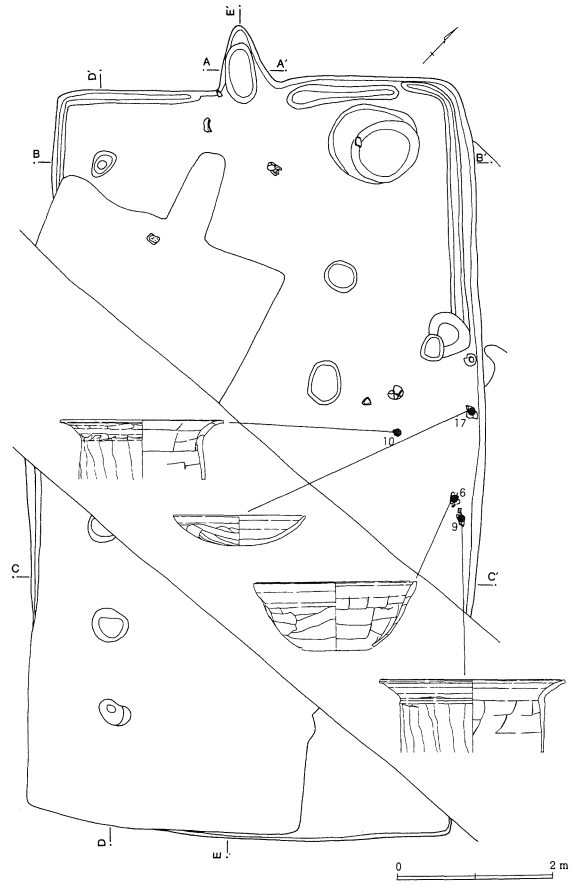
北東隅に貯蔵穴を検出した。形状は、隅丸長方形である。規模は、長径118cm、深さ16cmであった。

竪穴の東南壁際に接して土師器の皿（第331図—17)、鉢（第331図—６)、甕（第331図—９）が出土し、やや東に寄った場所から土師器の甕(第331図—10）が出土した。

遺構の切り合い関係は、第57・59・62・63・64・87号住居跡より古かった。



第145図　第58号住居跡覆土中遺物データ

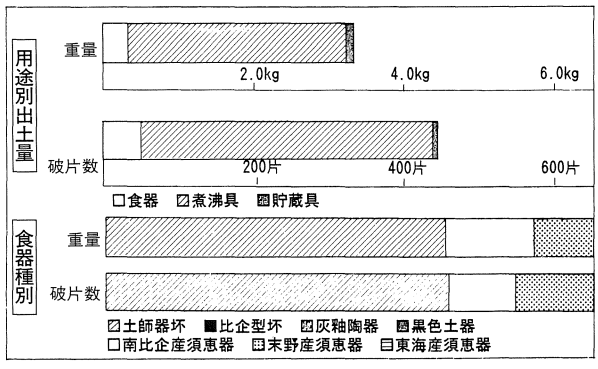


第146図　第58号住居跡遺物出土位置

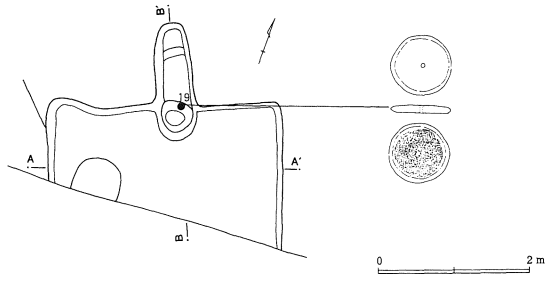
第59号住居跡

住居跡の南半分が、試掘のトレンチによって切られたため、形状など全容を明らかにできなかった。

北壁のやや東寄りにカマドを検出した。袖は、みられなかった。燃焼部には、楕円形の掘り込みがみられ、奥に向かって緩やかに傾斜していた。



第147図　第59号住居跡覆土中遺物データ



第148図　第59号住居跡遺物出土位置

カマド燃焼部底面に須恵器の坏の底部を利用した紡錘車（第331図—19）が出土した。

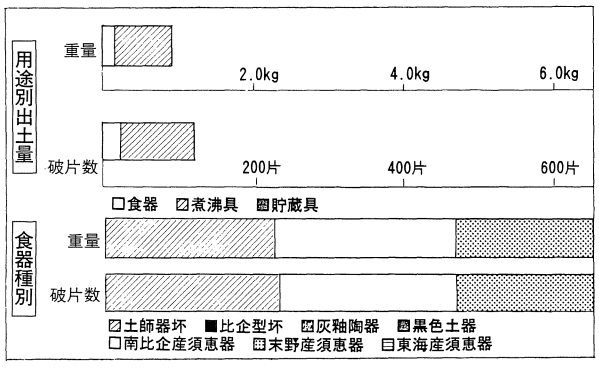
遺構の切り合い関係は、第58号住居跡より新しかった。

第60号住居跡

住居跡の東側は、第39・40号住居跡に切られていた。北西は、第34号住居跡に切られていた。竪穴の形状などは、明らかにできなかった。

南壁の南西隅寄りにカマドを検出した。袖は、地山を掘り残して構築しており、住居内へ短く伸びていた。燃焼部には、楕円形の浅い掘り込みがみられた。

遺構の切り合い関係は、第34・39・40・61号住居跡より古かった。



第149図　第60号住居跡覆土中遺物データ

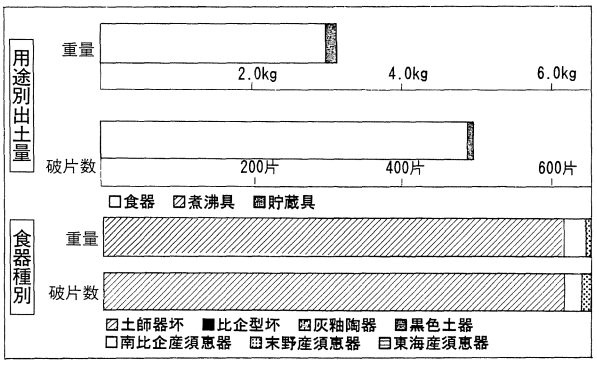
第61号住居跡

住居跡の東側が、第40号住居跡によって破壊されていた。また南西隅は、第63号住居跡を先行して調査してしまった。そのため全体を明らかにすることができなかった。形状は、東西に長い長方形と判断した。

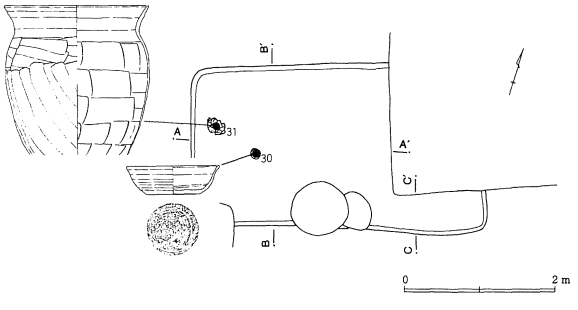
カマドは、検出できなかった。

東壁に接して土師器の甕（第331図—29）が出土した。また西壁よりには、土師器の甕（第331図—31）と須恵器の坏（第331図—30）が出土した。

遺構の切り合い関係は、第40・60・62・63号住居跡・第56号土壙より新しかった。



第150図　第61号住居跡覆土中遺物データ



第151図　第61号住居跡遺物出土位置

第62号住居跡

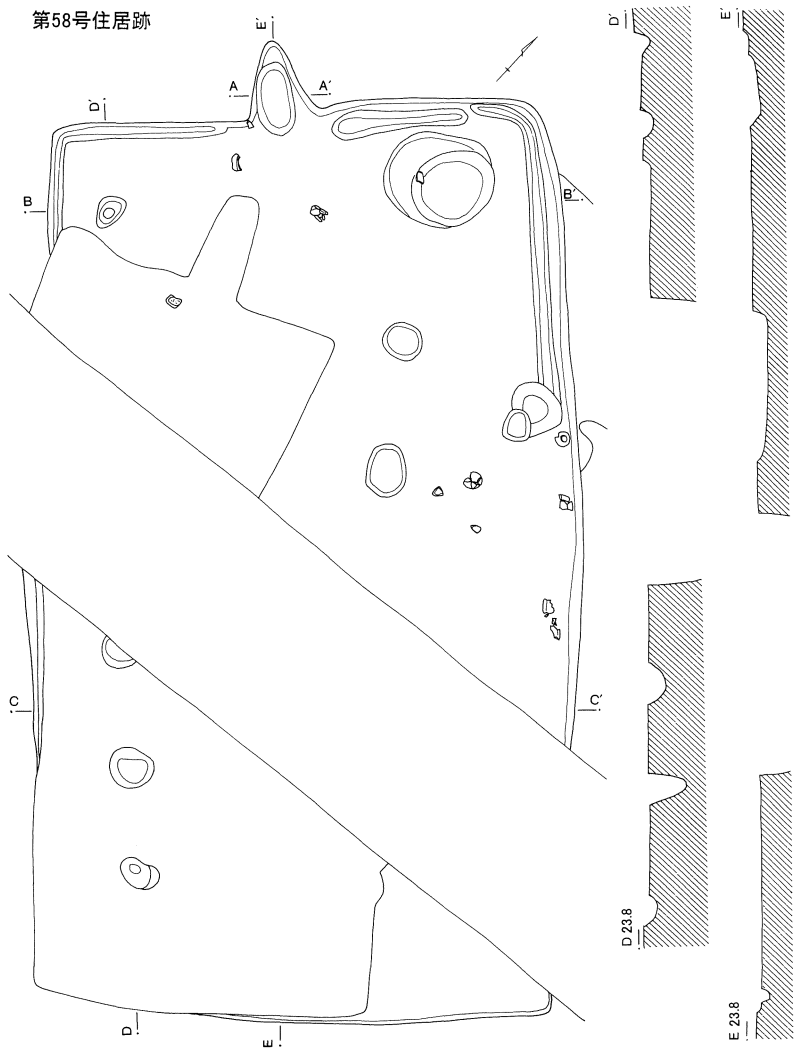
住居跡の大半が、第61・63号住居跡に破壊されたため、形状などは明らかにできなかった。南壁のカマド部分を除き、幅約14cmの壁溝が巡っていた。

南壁にカマドを、検出した。袖は、検出できなかった。燃焼部には、楕円形の掘り込みがみられ、段をもって煙道部へと移行していた。

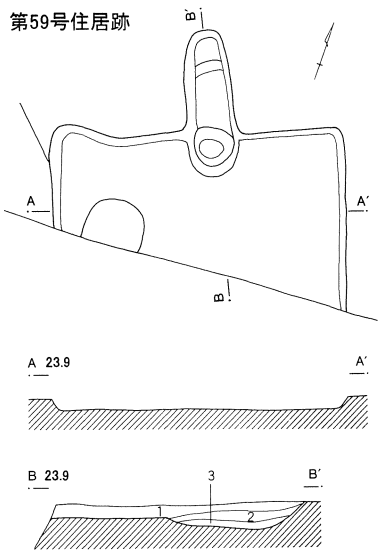
カマドの燃焼部から土師器の甕（第331図—32）が出土した。

遺構の切り合い関係は、第40・61・63号住居跡よ

第58号住居跡

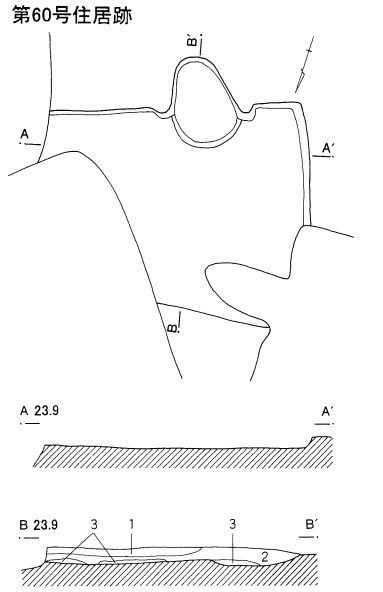


第59号住居跡



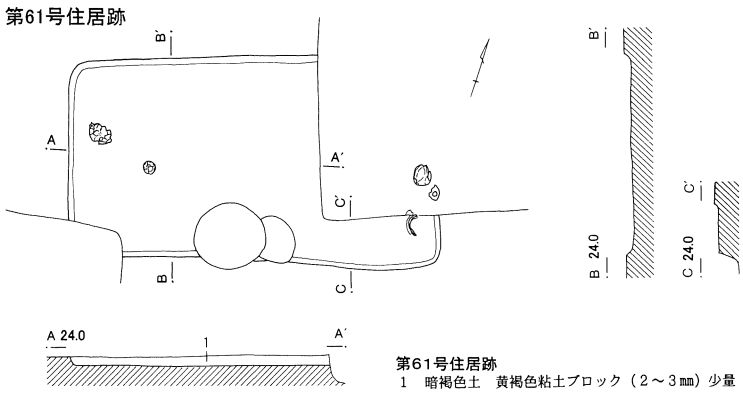
第59号住居跡
1　暗褐色土　焼土粒子（1～3㎜）少量　黄褐色粘土粒子（1～2㎜）まばら
2　暗褐色土　黄褐色粘土（8㎜）多量
3　黒灰色土　灰・焼土（2～3㎜）・炭化物多量

第60号住居跡



第60号住居跡
1　暗褐色土　粘性強く粒子粗い　炭化物含む
2　暗黒褐色土　粘性強く粒子細かい　焼土・炭化物含む
3　灰褐色土　粘性強く粒子粗い　炭化物含む

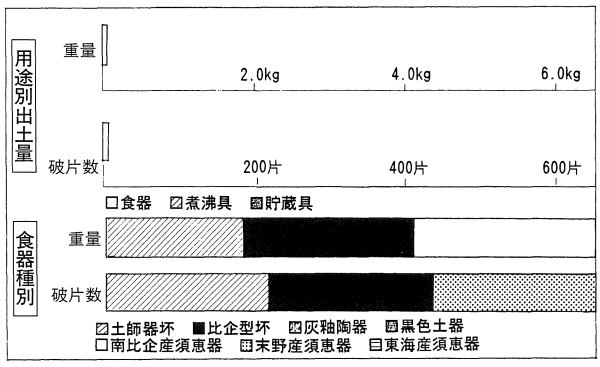
第61号住居跡



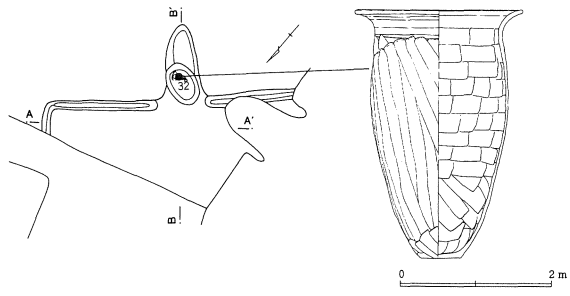
第61号住居跡
1　暗褐色土　黄褐色粘土ブロック（2～3㎜）少量

第152図　竪穴住居跡(14)

り古く、第64号住居跡より新しかった。



第153図　第62号住居跡覆土中遺物データ



第154図　第62号住居跡遺物出土位置

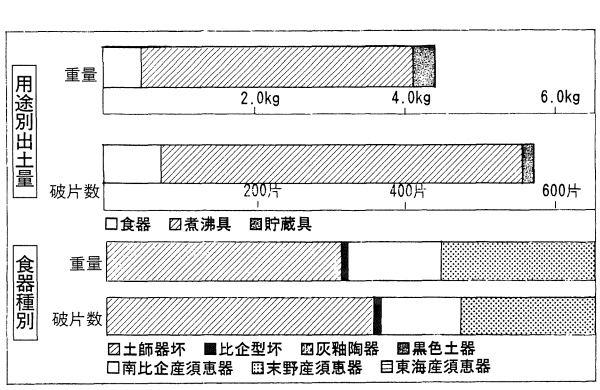
第63号住居跡

形状は、南北にやや長い長方形であった。

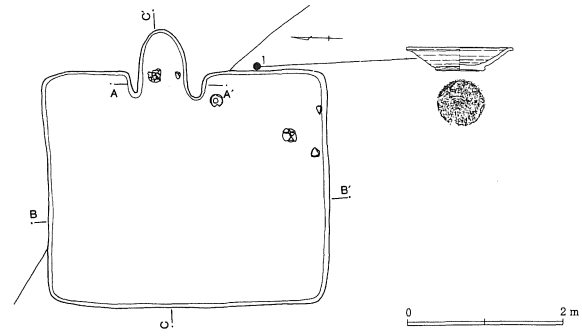
東壁の北寄りにカマドを検出した。袖は、地山を掘り残して構築し、住居跡内へ短く伸びていた。焚き口部から燃焼部にかけて、浅い窪みがみられた。

東壁中央の壁に接するように須恵器の皿(第332図－1）が出土した。

遺構の切り合い関係は、第57・58・62・64号住居跡より新しかった。



第155図　第63号住居跡覆土中遺物データ



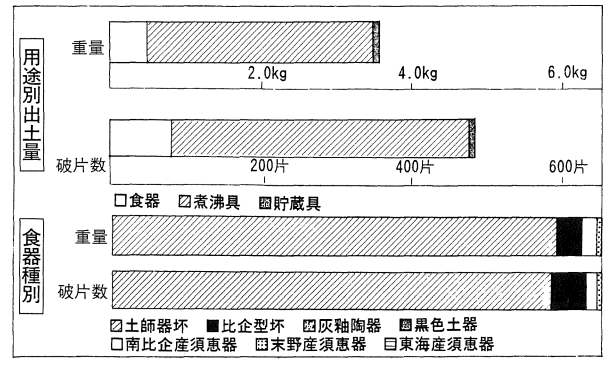
第156図　第63号住居跡遺物出土位置

第64号住居跡

住居跡の西側は、第58号住居跡を先行して調査してしまったため破壊してしまった。南西隅は、試掘のトレンチで破壊されていた。そのため形状など全容が明らかにできなかった。北壁から南壁にかけては、幅約20cmの壁溝が巡っていた。また、南東隅には、径66cm、深さ32cmの円形の土壙がみられた。

カマドは、検出できなかった。

遺構の切り合い関係は、第63号住居跡より古く、第58号住居跡より新しかった。



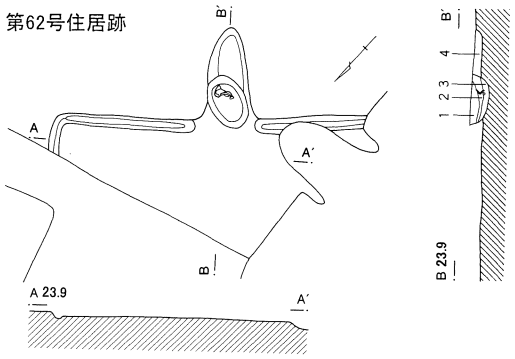
第157図　第64号住居跡覆土中遺物データ

第65号住居跡

形状は、東西に長い長方形であった。西壁の南半分が、外側に16cm張り出していた。壁溝は、西壁とカマド部分を除いて約14cmの幅で巡っていた。

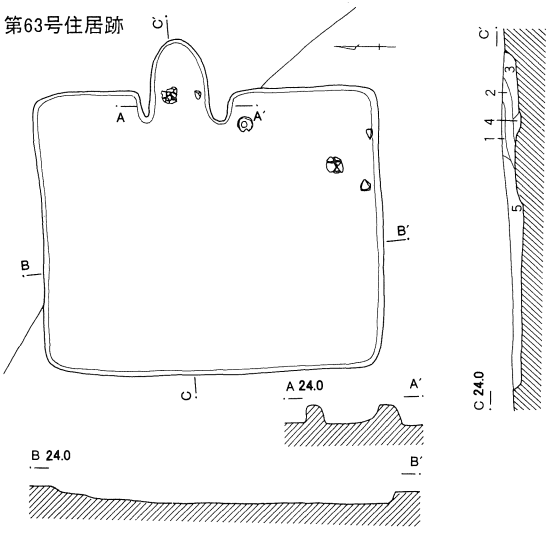
東壁の中央にカマドを検出した。袖は、左袖のみ

第62号住居跡



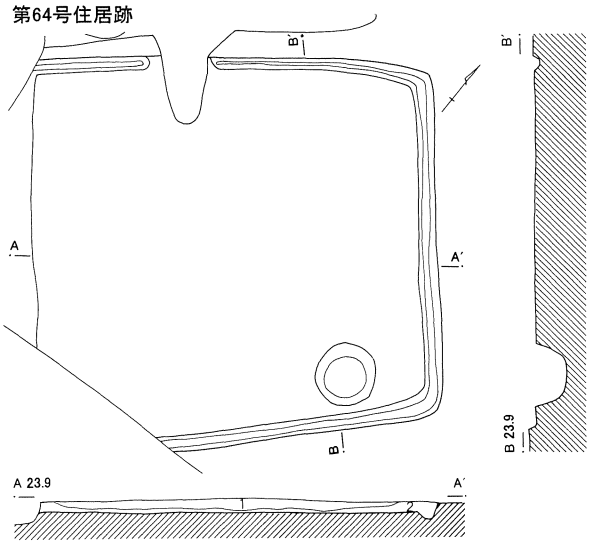
第62号住居跡
1　暗褐色土　粒子粗く粘性強い　炭化物・焼土まじり
2　淡褐色土　炭化物・焼土粒子多量
3　黒色土　炭化物・焼土粒子含む
4　暗褐色土　焼土・炭化物ブロック（5㎜）多量

第63号住居跡



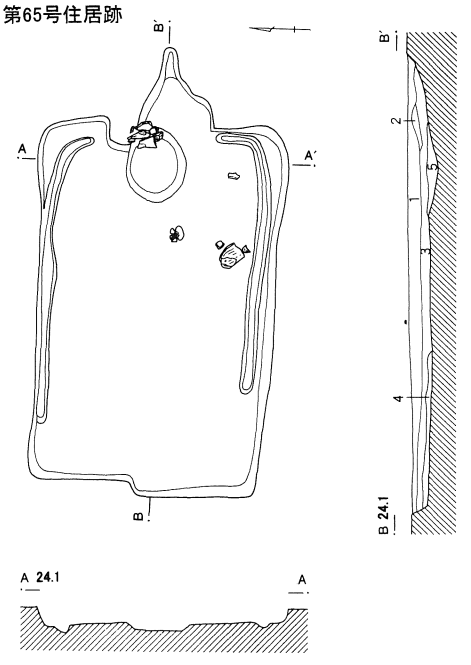
第63号住居跡
1　暗褐色土　焼土粒子（0.5㎜）微量
2　黒褐色土　焼土ブロック（2～3㎜）多量　天井の崩落土
3　黒褐色土　焼土ブロック（2～3㎜）まばら　煙道への流れ込み
4　黒灰色土　灰・炭化物多量　灰層
5　明褐色土　B軽石微量含む　焼土・炭化物粒子少量

第64号住居跡



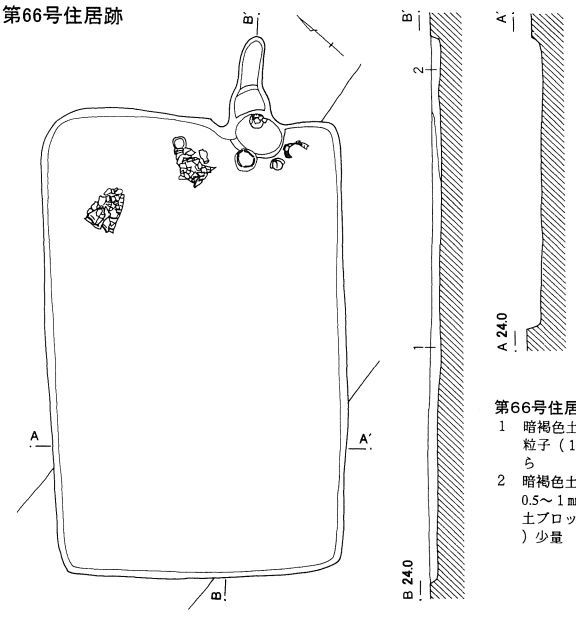
第64号住居跡
1　暗褐色土　粘性弱く粒子粗い　炭化物微量
2　褐色土　粘性強く粒子細かい　炭化物・焼土含む

第65号住居跡



第65号住居跡
1　暗褐色土　粘性強く粒子粗い　炭化物・焼土含む
2　赤褐色土　焼土ブロック多量
3　暗褐色土　粒子粗く粘性強い　炭化物含む
4　褐色土　粒子粗く粘性強い
5　褐色土　炭化物・焼土含む

第66号住居跡



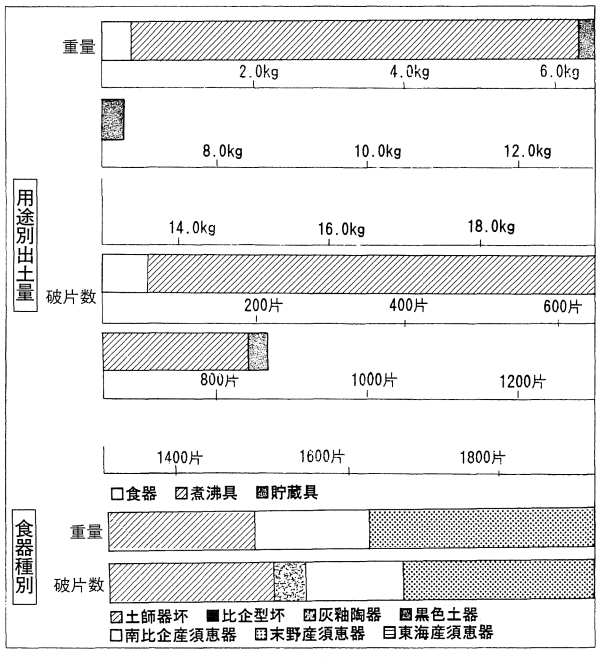
第66号住居跡
1　暗褐色土　黄褐色粘土粒子（1～2㎜）まばら
2　暗褐色土　焼土粒子（0.5～1㎜）・黄褐色粘土ブロック（2～3㎜）少量

0　2m
1:80

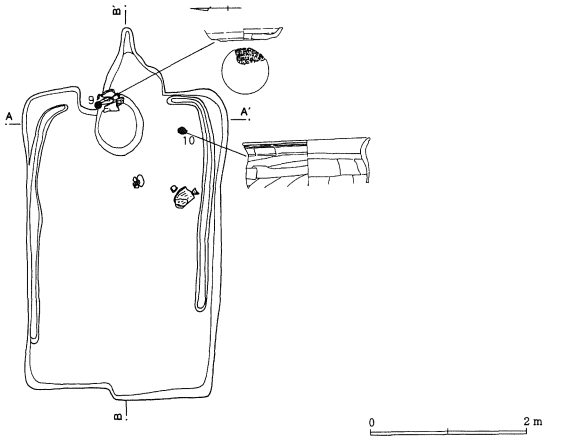
第158図　竪穴住居跡(15)

がみられた。袖は、地山を掘り残して構築しており、住居跡内へ伸びていた。焚き口部の左袖寄りには、楕円形の掘り込みがみられた。

東南のコーナーから土師器の甕（第332図—10）が出土した。またカマドの左袖に須恵器の坏(第332図—9）が塗り込められていた。遺構の切り合いは、みられなかった。



第159図　第65号住居跡覆土中遺物データ



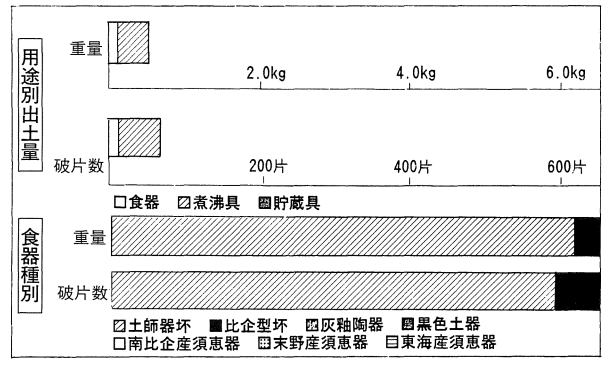
第160図　第65号住居跡遺物出土位置

第66号住居跡

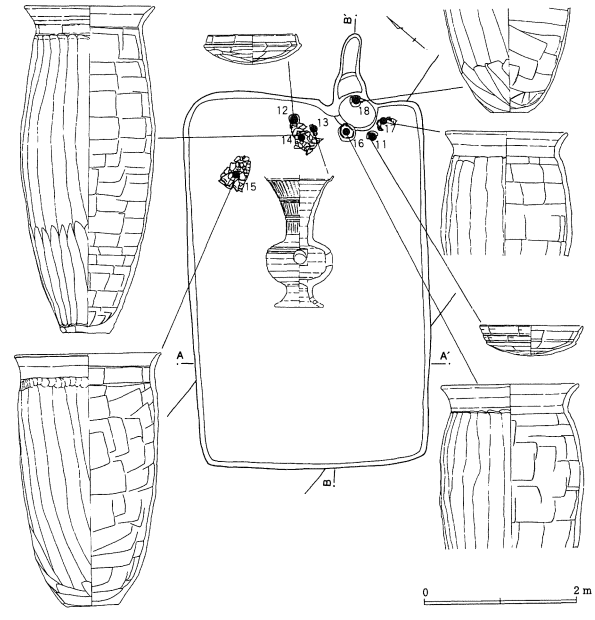
形状は、東西に長い長方形であった。

東壁の南東隅寄りにカマドはみられた。袖は、左袖のみみられた。袖は、地山を掘り残して構築し、ごく短く住居跡内へ伸びていた。焚き口部から燃焼部にかけては、楕円形に浅く窪み、煙道部へ緩やかに移行していた。煙道部は、奥に向かって低く傾斜していた。

カマドの燃焼部奥から土師器の甕（第332図—18）が出土した。カマド焚き口部手前には、東から土師器の甕（第332図—17)、土師器の坏（第332図—11)、土師器の甕（第332図—16）が並べられていた。カマ



第161図　第66号住居跡覆土中遺物データ



第162図　第66号住居跡遺物出土位置

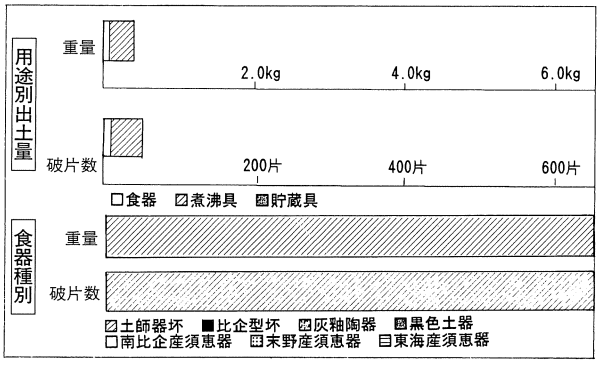
ド左袖の前方には、須恵器の脚付甕（第332図—13）と土師器の坏（第332図—12）、土師器の甕（第332図—14）が一括しておかれていた。さらに北西のコーナーには、土師器の甕（第332図—15）が横たわっていた。

遺構の切り合いは、みられなかった。

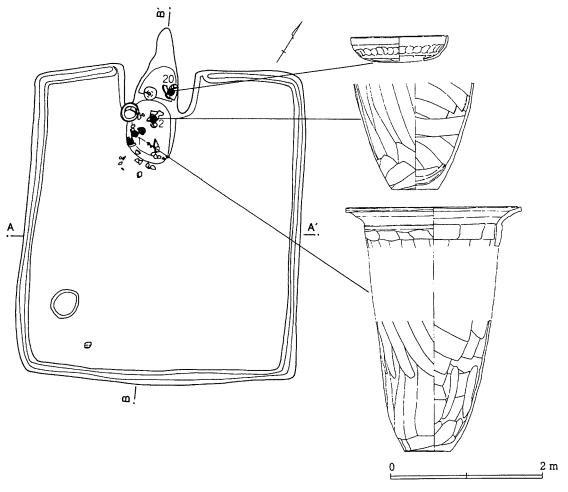
第67号住居跡

形状は、南北に長い長方形であった。カマド部分を除き、幅約16cmの壁溝が巡っていた。南西隅には、長径40cm、深さ５cmの小穴がみられた。

カマドは、北壁の西よりにみられた。袖は、地山を掘り残して構築され、住居内へ伸びていた。焚き口部前面から燃焼部にかけては、隅丸長方形の浅い掘り込みがみられ、緩やかな段をもって煙道部へ移



第163図　第67号住居跡覆土中遺物データ



第164図　第67号住居跡遺物出土位置

行していた。

カマドの燃焼部奥には、土師器の坏（第333図—20）が捉えられていた。また燃焼部内には、土師器の甕（第333図—２）、焚き口部のおり口には、土師器の甕（第333図—１）が横たわっていた。

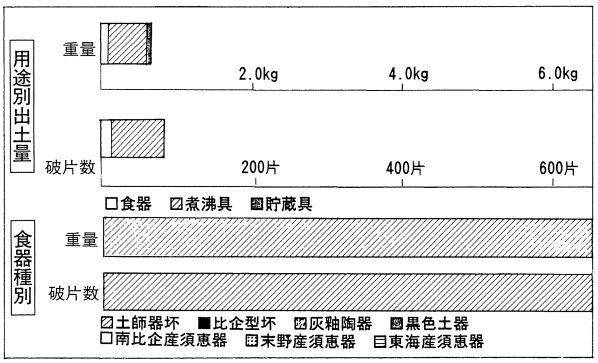
遺構の切り合いはみられなかった。

第68号住居跡

住居跡の大半は、第50号住居跡に切られるため、形状など全容が明らかにできなかった。東壁から西壁にかけては、幅約20cmの壁溝が巡っていた。

カマドは、検出できなかった。

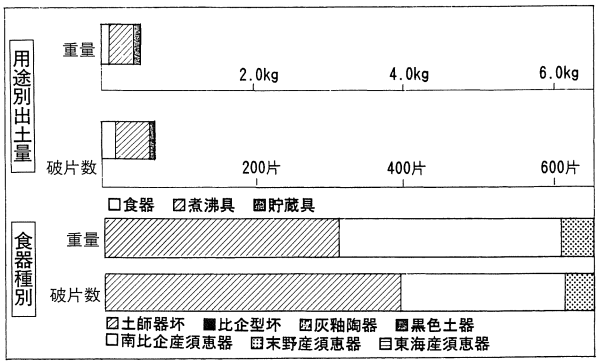
遺構の切り合い関係は、第50号住居跡より古く、第69号住居跡より新しかった。



第165図　第68号住居跡覆土中遺物データ

第69号住居跡

住居跡は、第70号住居跡に壊され、また試掘のトレンチが大半を壊していた。主柱穴と判断した小穴が、３基みられた。規模は、径36～46cm、深さ26～38



第166図　第69号住居跡覆土中遺物データ

cmであった。

東壁のほぼ中央にカマドを検出した。袖は、検出できなかった。燃焼部の掘り込みはみられなかった。

遺構の切り合い関係は、第50・70・71・72号住居跡より古かった。

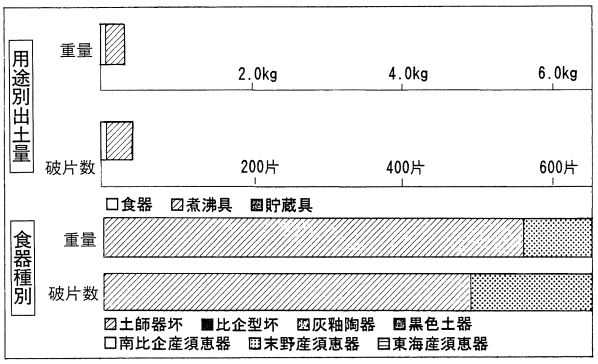
第70号住居跡

住居跡の大半が第70号住居跡とトレンチに切られるため、形状など全容は不明であった。

カマドは、検出できなかった。

北よりの床面から緑釉陶器の埦（第333図—10）が出土した。

遺構の切り合い関係は、第71・72号住居跡より古く、第69号住居跡・第２号掘立柱建物跡より新しかった。

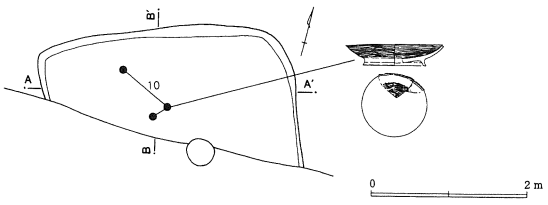


第167図　第70号住居跡覆土中遺物データ

第71号住居跡

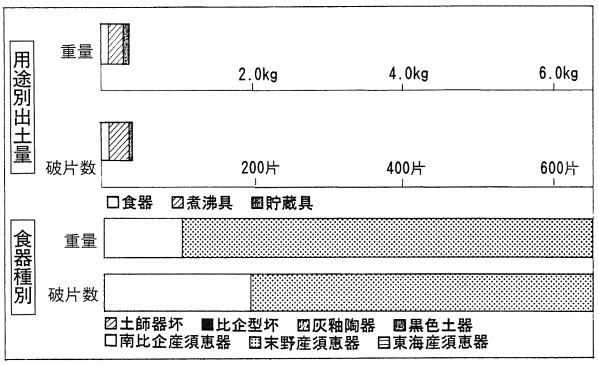
住居跡の大半が、試掘のトレンチに破壊されるため、形状など全容は不明であった。

カマドは、検出できなかった。



第168図　第71号住居跡遺物出土位置

遺構の切り合い関係は、第69・70・72号住居跡・第２号掘立柱建物跡より新しかった。



第169図　第71号住居跡覆土中遺物データ

第72号住居跡

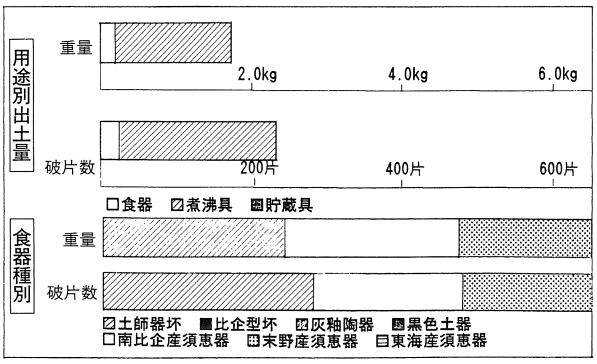
形状は、方形であった。西壁に幅約16cmの壁溝が巡っていた。

北壁中央（１号カマド）と東壁の南東隅寄り（２号カマド）に２基のカマドを検出した。覆土の堆積状況から、１号カマドから２号カマドへ付け替えたと判断した。

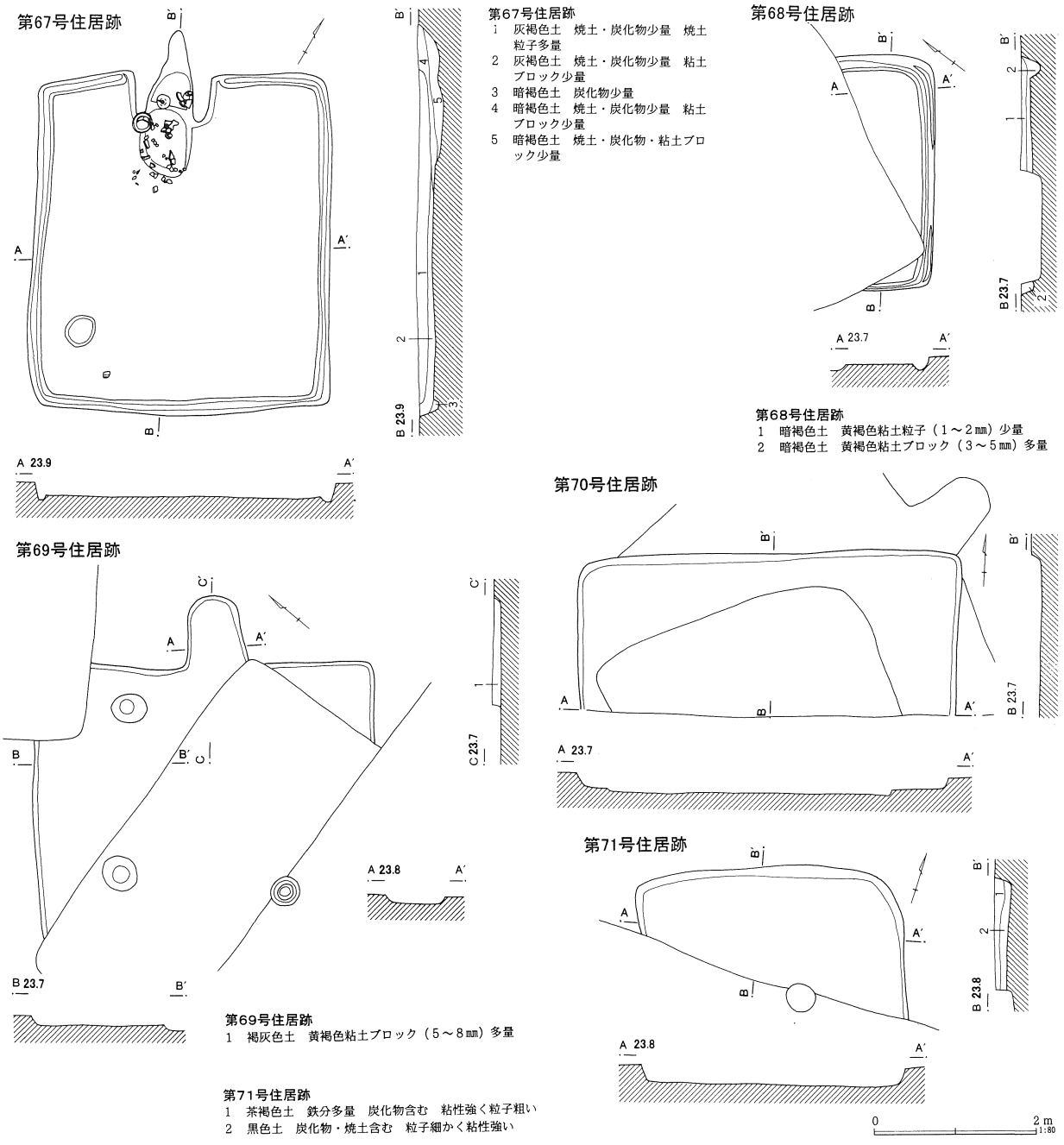
１号カマドの袖は、みられなかった。焚き口部から燃焼部は、楕円形に浅く窪んでいた。

また２号カマドの袖も、みられなかった。焚き口部から燃焼部にかけては、楕円形に窪み、燃焼部には、さらに円形の窪みがみられた。燃焼部から煙道部へは、緩やかに移行していた。

遺構の切り合い関係は、第71号住居跡より古く、第69・70号住居跡より新しかった。



第170図　第72号住居跡覆土中遺物データ



第171図　竪穴住居跡(16)

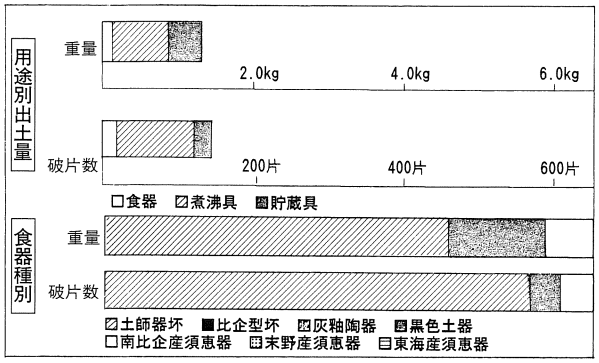
第73号住居跡

形状は、東西に長い長方形であった。カマド部分を除いて、幅約16cmの壁溝が巡っていた。小穴が3基みられた。

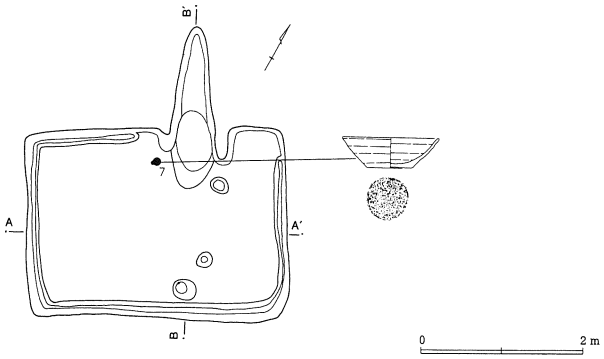
北壁の東寄りにカマドを、検出した。袖は、地山を掘り残して構築し、住居跡内へ伸びていた。焚き口部前面から燃焼部にかけては、楕円形の浅い窪みがみられ、煙道部へむかって緩やかに移行していた。煙道部は、細長く伸び、煙出し部は、垂直に立ち上がっていた。

カマド左袖手前から須恵器の坏（第333図－7）が出土した。

遺構の切り合いは、みられなかった。



第172図　第73号住居跡覆土中遺物データ



第173図　第73号住居跡遺物出土位置

第74号住居跡

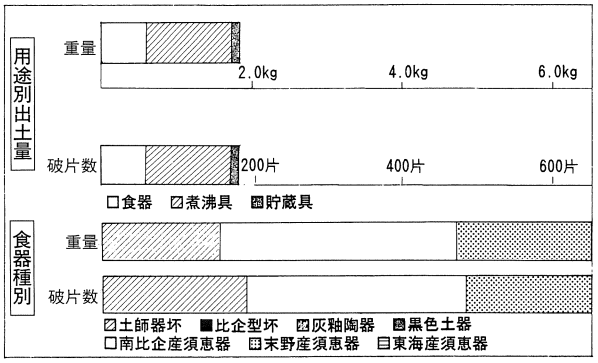
形状は、東西にやや長い長方形であった。住居跡内は、噴砂が多くみられた。カマドを除いて、幅約30cmの壁溝が巡っていた。西壁では、内側の壁溝が埋め戻されていたことから、住居の拡張があったことがわかる。

東壁の南寄りにカマドを検出した。袖は、黒灰色土で造り付けられ、住居内へ伸びていた。右袖は、ごく短かった。燃焼部は、楕円形の掘り込みがみられ、煙道部へ段をもって移行していた。

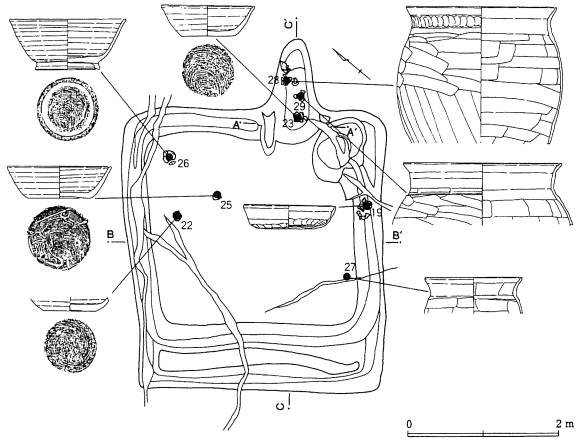
南東隅に貯蔵穴を検出した。形状は、噴砂に切られ不整形であった。規模は、長径94cm、深さ15cmであった。

カマドの燃焼部奥から土師器の甕2点（第333図—28・29）が出土し、その手前から須恵器の坏（第333図—23)が出土した。また北西の床面から須恵器の坏（第333図—22・25)、高台付埦（第333図—26）が出土した。さらに東側の壁周溝から土師器の坏(第333図—19）や土師器の甕（第333図—27）が出土した。

遺構の切り合いは、みられなかった。



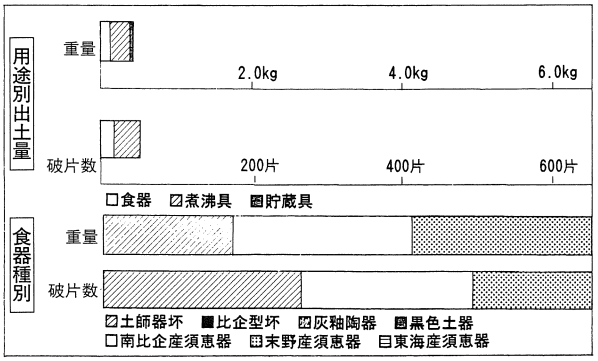
第174図　第74号住居跡覆土中遺物データ



第175図　第74号住居跡遺物出土位置

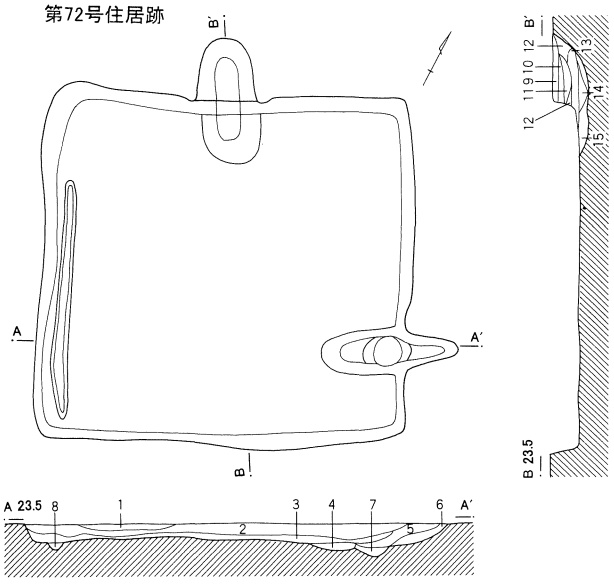
第75号住居跡

形状は、方形であった。中央を第276号溝跡に切られていた。カマド部分を除いて、幅約22cmの壁溝を検出した。



第176図　第75号住居跡覆土中遺物データ

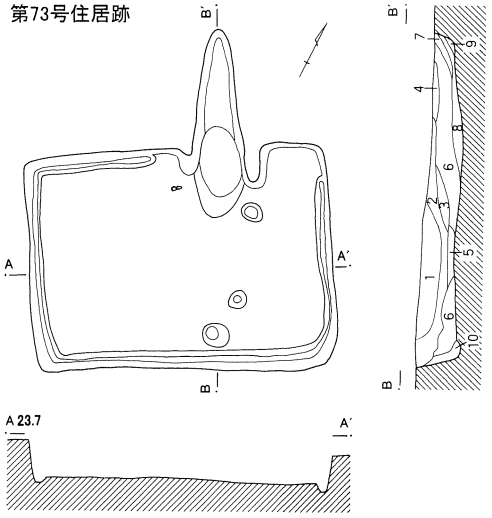
第72号住居跡



第72号住居跡

1 暗褐色土　焼土・粘土ブロック少量　炭化物多量　しまり弱い
2 暗褐色土　焼土少量　炭化物多量　粘土ブロック多量　しまり弱い
3 暗黄褐色土　焼土少量　粘土ブロック多量　粘性弱い
4 暗黄褐色土　焼土少量　粘土ブロック多量　粘性弱い
5 暗褐色土　焼土・炭化物中量　粘土ブロック
6 暗黄褐色土　炭化物少量　粘土ブロック
7 暗黄褐色土　ブロック状黒色土まばら
8 暗褐色土　炭化物・粘土ブロック少量
9 暗褐色土　焼土少量　粘性強い
10 暗褐色土　焼土少量　炭化物微量　粘性強い
11 暗褐色土　焼土・炭化物少量　粘性弱い
12 暗黒褐色土　焼土　炭化物少量　砂状　粘性弱い
13 暗黒褐色土　焼土・炭化物多量　灰含む　粘性弱い
14 暗褐色土　焼土・炭化物多量　砂層含む　粘性強い
15 暗褐色土　焼土・炭化物微量　粘性強い

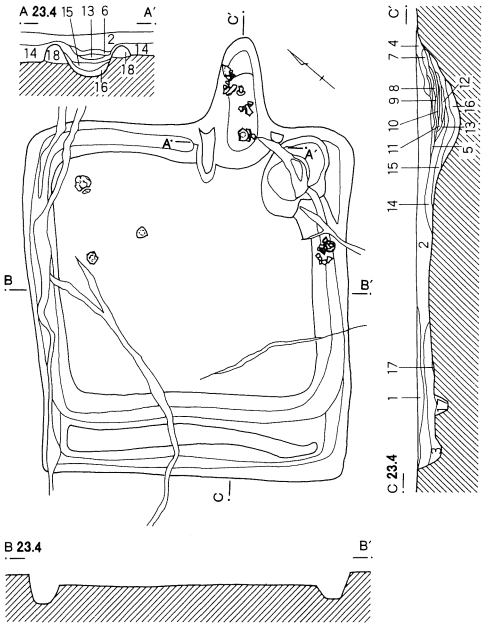
第73号住居跡



第73号住居跡

1 暗灰褐色土　焼土・炭化物・黄色土粒子少量　粘土ブロック多量
2 暗褐色土　焼土・炭化物・粘土ブロック少量　黄色土粒子少量
3 灰褐色土　焼土・炭化物少量　中・大の粘土ブロック少量
4 灰褐色土　焼土・炭化物・粘土ブロック少量
5 暗褐色土　焼土・炭化物・粘土ブロック少量
6 灰褐色土　焼土・炭化物少量　粘土ブロック少量
7 灰褐色土　焼土・炭化物少量　粘土ブロック少量
8 黒色土　細かい炭化物粒子・焼土含む
9 灰褐色土　粘土ブロック少量
10 暗褐色土　炭化物少量　粘土ブロック少量

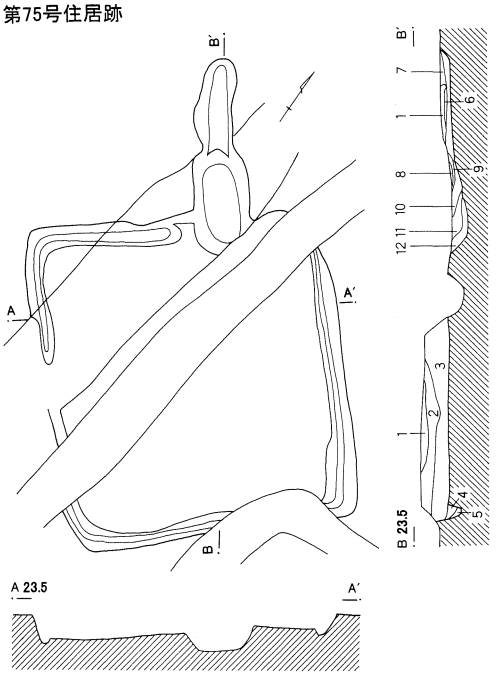
第74号住居跡



第74号住居跡

1 暗灰色土　砂・焼土ブロック（5㎜）・炭化物（1～2㎜）少量　灰色ブロック（5㎜以下）多量
2 暗灰色土　砂・焼土ブロック（10㎜）・炭化物（5㎜）少量　灰色ブロック（30㎜以下）多量
3 暗灰色土　焼土ブロック（1～2㎜）・炭化物（5㎜）少量
4 橙色土　焼土ブロック含む砂　焼土ブロック（50㎜）多量　炭化物（1～2㎜）少量
5 灰色土　炭化物（5㎜）多量
6 橙灰色土　焼土ブロック含む　焼土ブロック（30㎜）多量　炭化物（3㎜）少量　カマド天井崩落土
7 褐色土　砂・焼土ブロック（5㎜）・炭化物（1～2㎜）少量
8 灰色土　炭化物（1～2㎜）少量
9 褐色土　粘土・焼土ブロック（1～5㎜）少量　炭化物（1～2㎜）少量
10 灰色土　炭化物（10㎜以下）多量
11 灰褐色土　粘土・焼土ブロック（5㎜以下）多量　炭化物（5㎜以下）少量
12 灰褐色土　灰・焼土ブロック（3㎜）少量　炭化物（1～2㎜）多量
13 暗灰色土　粘土・焼土ブロック（5㎜）少量　炭化物（5㎜）多量
14 暗灰色土　粘土・焼土ブロック（20㎜）多量　炭化物（1～2㎜）少量
15 黒灰色土　灰含む粘土・焼土ブロック（5㎜）・炭化物（10㎜）少量
16 灰褐色土　粘土質細砂・焼土ブロック（5㎜）多量　炭化物（1～2㎜）少量
17 暗灰色土　粘土質細砂・灰色粘土と黄灰色粘土ブロック含む
18 黒灰色土　粘土質粘土・炭化物（5㎜以下）少量　黒灰色粘土

第75号住居跡



第75号住居跡

1 黄灰色土　炭化物（1㎜）少量
2 灰色土　灰色ブロック（30㎜以下）多量　炭化物（5㎜）少量
3 暗灰色土　シルト・暗灰色シルトに灰黄色シルトブロック（50㎜）少量　炭化物（3㎜）・焼土（1～2㎜）少量
4 灰色土　灰黄色シルトブロック含む
5 暗灰色土　灰黄色ブロック（5㎜）少量
6 暗黄色土　粘性強い
7 灰色土　灰黄色ブロック（5㎜）多量
8 灰白色土　灰・焼土（3㎜以下）少量
9 橙灰色土　灰色粘土・焼土ブロック（10㎜）含む　カマド天井部崩落土
10 灰白色土　灰含むシルト・灰黒色シルトに白色灰と黄灰色シルトブロック（10㎜以下）多量く含む灰層
11 灰黄色土　灰色ブロック（5㎜以下）少量含
12 暗灰色土　灰黄色ブロック（5～7㎜）少量含

0　2m　1:80

第177図　竪穴住居跡(17)

北壁の北東隅寄りにカマドを検出した。袖は、確認できなかった。燃焼部は、楕円形に窪み、緩やかな段をもって煙道部へ移行していた。煙道部は、細長く伸び、煙出し部は、急な傾斜をもって立ち上がっていた。

遺構の切り合い関係は、第81・83号溝跡より古かった。

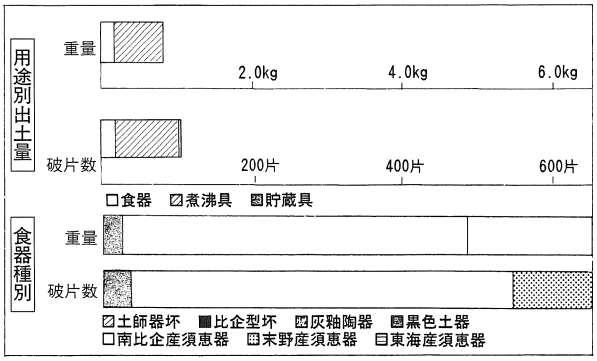
第76号住居跡

形状は、東西に長い長方形であった。カマドと南壁を除き、幅約16cmの壁溝が巡っていた。

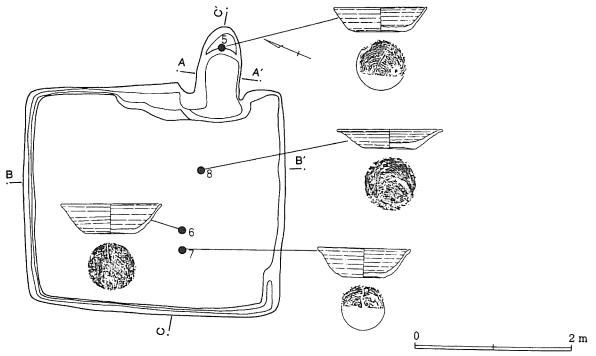
カマドは、東壁の南東隅に付設されていた。袖は、地山を掘り残しながら構築し、住居跡内へ短く伸びていた。焚き口部から燃焼部へは、浅い不整形の掘り込みがみられた。燃焼部から煙道部は、段をもって大きく移行していた。

カマドの煙道部と燃焼部の境から須恵器の坏（第334図―５）が出土した。床面中央には、須恵器の皿（第334図―８）とやや離れて須恵器の坏２点（第334図―６・７）が出土した。

遺構の切り合い関係は、第85・86号溝跡より古かった。



第178図　第76号住居跡覆土中遺物データ



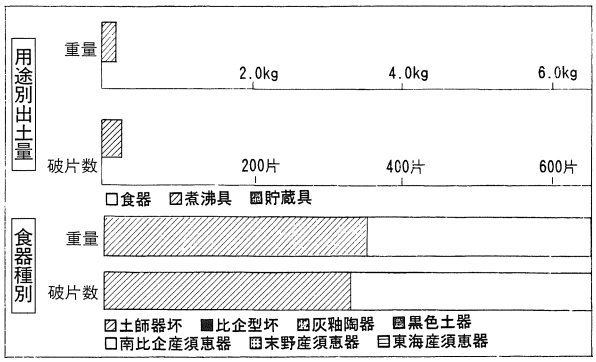
第179図　第76号住居跡遺物出土位置

第77号住居跡

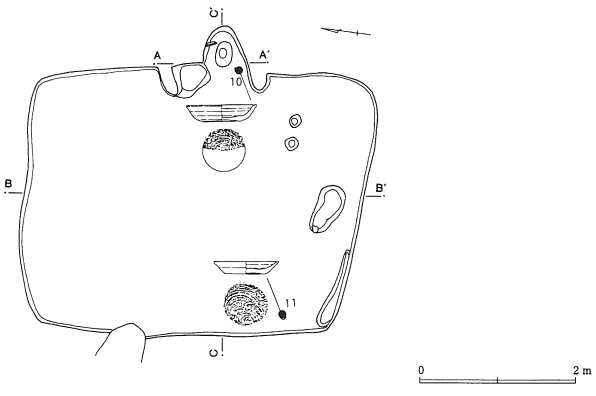
形状は、南北に長い長方形であった。南壁の南西隅寄りには、幅約18cmの壁溝が巡っていた。住居跡内の南側に３基の小穴を検出した。

東壁中央にカマドを検出した。袖は、地山を掘り残して構築し、住居内へ短く伸びていた。燃焼部は、左側が張る不整形であった。左袖の内側に浅い掘り込みを検出した。楕円形の掘り込みが燃焼部奥にみられた。

カマドの燃焼部から土師質土器の小皿（第334図―10）が出土した。また西壁に接してやはり土師質土器の小皿（第334図―11）が出土した。



第180図　第77号住居跡覆土中遺物データ



第181図　第77号住居跡遺物出土位置

遺構の切り合いは、みられなかった。

第78号住居跡

住居跡の大半が、第79号住居跡と第90号溝跡に切られたため全容を明らかにできなかった。

カマドは、検出できなかった。

遺構の切り合い関係は、第79号住居跡・第90号溝跡より古い。

第79号住居跡

住居跡の北側は、第87号溝跡に破壊され、南側は第90号溝跡に破壊されたため形状など全容は不明であった。西壁には、幅約18cmの壁溝が巡っていた。

カマドは、検出できなかった。

遺構の切り合い関係は、第78号住居跡・第87・90号溝跡より古い。

第80号住居跡

住居跡の大半は、第90号溝跡に切られたため、形状など全容は明らかにできなかった。

カマドは、検出できなかった。

遺構の切り合い関係は、第90号溝跡より古かった。

第81号住居跡

形状は、方形であった。住居の中央は第90号溝跡で切られ、北側を第87号溝跡で切られていた。第82号住居跡の拡張住居と判断した。

北壁のやや東寄りにカマドを検出した。袖は、地山を掘り残して構築し、住居跡内へごく短く伸びていた。燃焼部は、不整形で狭く、浅い掘り込みがみられた。カマド内は、燃焼部から煙道部へ、緩やかな段をもって移行していた。

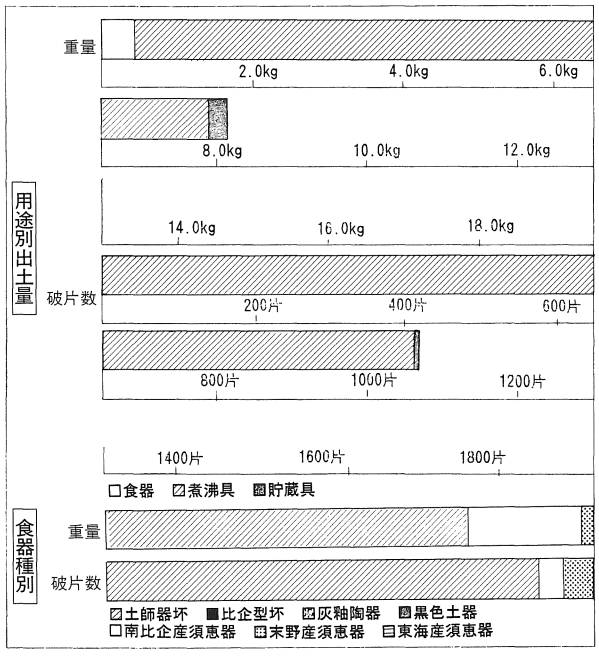
遺構の切り合い関係は、第82号住居跡より新しく、第83号住居跡・第87・90号溝跡より古い。

第82号住居跡

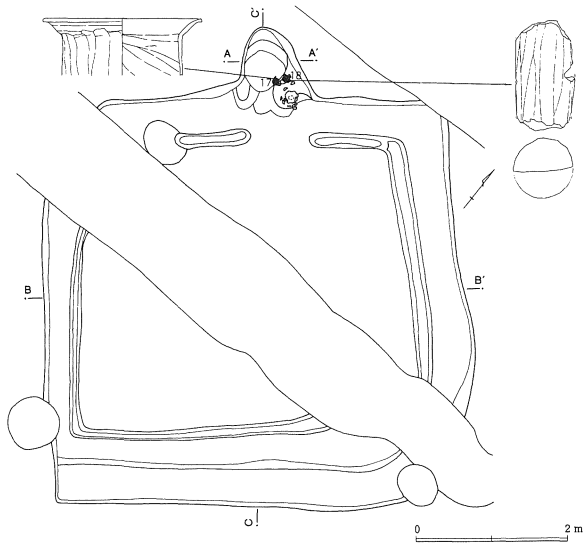
形状は、方形であった。住居の中央は第90号溝跡に切られていた。カマド部分を除き、幅約24cmの壁溝が巡っていた。

カマドの燃焼部から土師器の甕（第334図—17）と土製の支脚（第334図—18）が出土した。

遺構の切り合い関係は、第87・90号溝跡より古かった。



第182図　第82号住居跡覆土中遺物データ



第183図　第82号住居跡遺物出土位置

第83号住居跡

第81号住居跡の南壁を階段状に拡張した住居である。

新たにカマド、周溝などの付設はみられなかった。

遺構の切り合い関係は、第81号住居跡と同じである。

第84号住居跡

住居跡の大半が、第70号溝跡に切られるため、形状など全容は明らかにできなかった。壁溝は、カマド部分を除いて巡っていた。壁溝の幅は、約16cmであった。

北壁にカマドを検出した。袖は、左袖のみであった。カマドの袖は、地山を掘り残して構築し、住居跡内へごく短く伸びていた。焚き口部から燃焼部にかけては、不整形の浅い窪みがみられる。燃焼部から煙道部へは、緩やかな段をもって移行していた。

遺構の切り合い関係は、第87号溝跡より古かった。

第85号住居跡

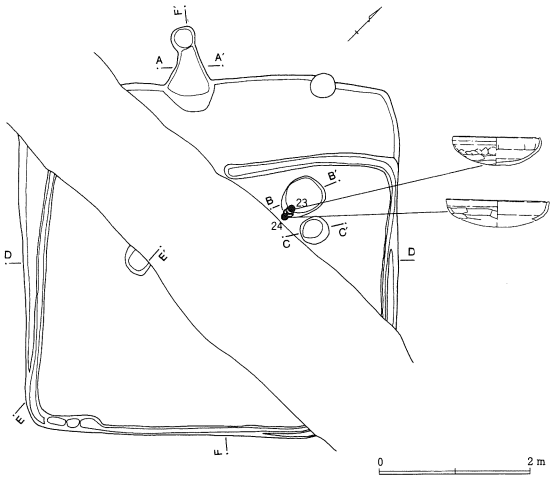
住居跡の南側が第87号溝跡によって破壊されたため、全体の形状を知ることはできなかった。また第86号住居跡よりも古く、全体を第86号住居跡によって破壊されていた。

カマドはみられなかった。

第86号住居跡

形状は、方形であった。住居跡の中央が、第70号溝に切られていた。壁溝が、カマドを除いて巡っていた。幅は、約16cmであった。カマドの右側には、長さ230cm、幅100cm、高さ120cmの棚状の施設がみられた。中央部に2基の小穴を検出した。

北壁に接してカマドを検出した。袖は、検出できなかった。燃焼部は、不整形に窪み、煙道部へ緩やかに傾斜していた。煙出し部は、煙道部より深く、円形に掘り込まれていた。

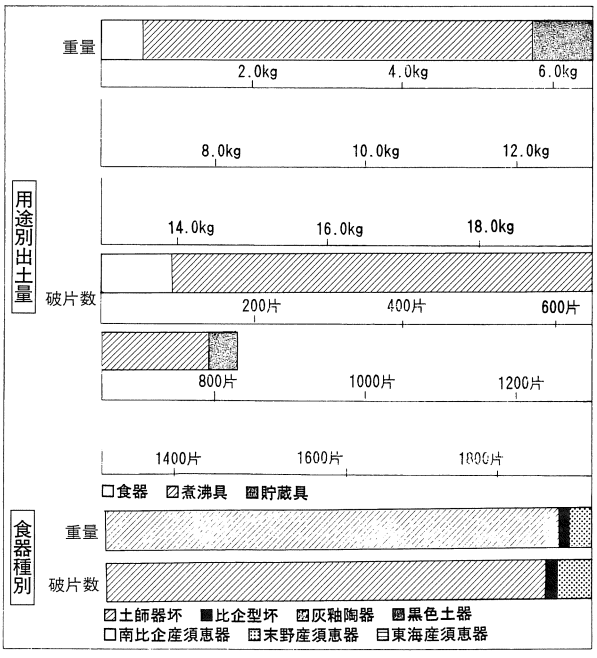


第184図　第86号住居跡遺物出土位置

中央東寄りに貯蔵穴を検出した。形状は、不整楕円形であった。規模は、長径60cm、深さ12cmであった。

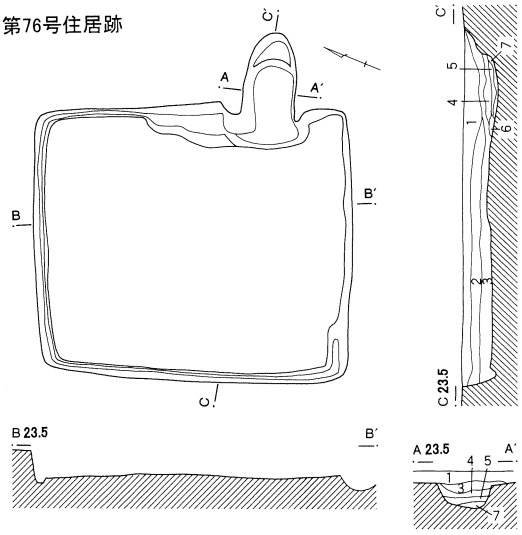
カマド右手前の貯蔵穴の落ち際から、土師器の坏2点（第334図—23・24）が重なった状態で出土した。

遺構の切り合い関係は、第87号溝跡より古かった。



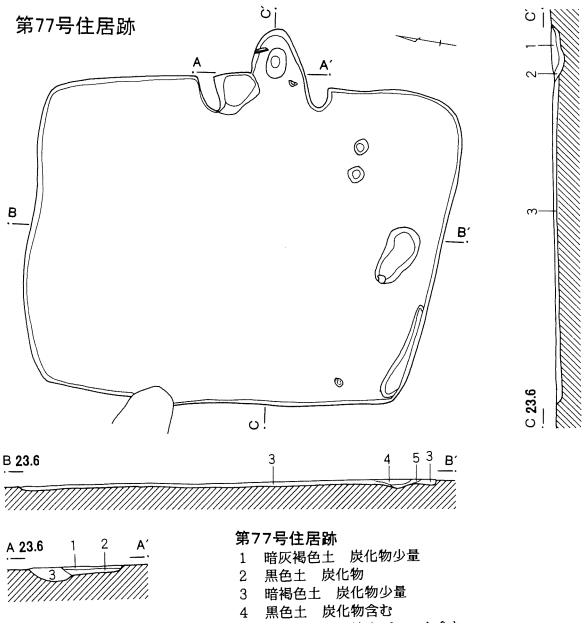
第185図　第86号住居跡覆土中遺物データ

第76号住居跡



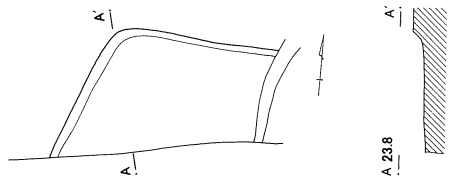
第76号住居跡
1　暗褐色土　炭化物微量　黄褐色土粒子少量
2　暗褐色土　炭化物少量　焼土粒子微量　灰黄色土ブロック多量
3　暗灰褐色土　灰黄色ブロック（30㎜）・炭化物多量　焼土少量
4　灰色土　シルト・炭化物（１㎜）多量　焼土（２㎜）少量
5　灰色土　灰・炭化物（20㎜）多量　焼土（５㎜）少量
6　灰色土　灰黄色ブロック（10㎜）含む
7　暗灰色土　粘性強い

第77号住居跡

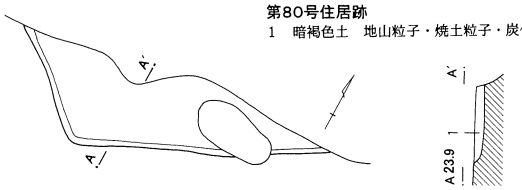


第77号住居跡
1　暗灰褐色土　炭化物少量
2　黒色土　炭化物
3　暗褐色土　炭化物少量
4　黒色土　炭化物含む
5　明赤褐色土　焼土ブロック含む

第78号住居跡

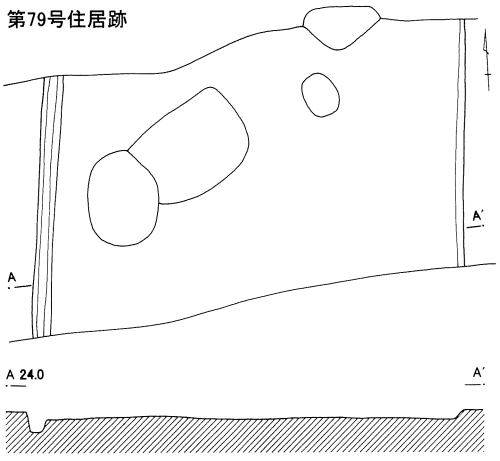


第80号住居跡

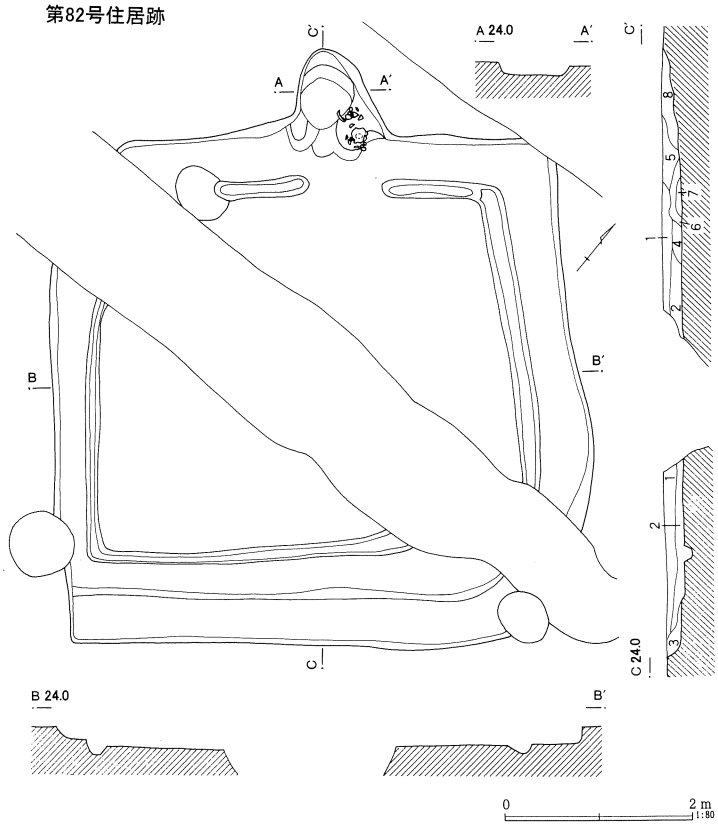


第80号住居跡
1　暗褐色土　地山粒子・焼土粒子・炭化粒子含む　しまり強い

第79号住居跡



第82号住居跡



第82号住居跡
1　暗褐色土　黄褐色土粒子（１～２㎜）まばら
2　黒褐色土　黄褐色粘土ブロック（３～５㎜）・炭化物（３～５㎜）まばら
3　黒褐色土　黄褐色粘土ブロック（３～５㎜）まばら
4　黒褐色土　黄褐色粘土ブロック（８～10㎜）多量
5　暗褐色土　黄褐色粘土ブロック（３～５㎜）・焼土（２～３㎜）まばら
6　暗褐色土　焼土ブロック・灰・炭化物多量
7　暗褐色土　灰・焼土ブロック多量
8　暗褐色土　焼土粒子少量　黄褐色粘土ブロック（２～３㎜）少量

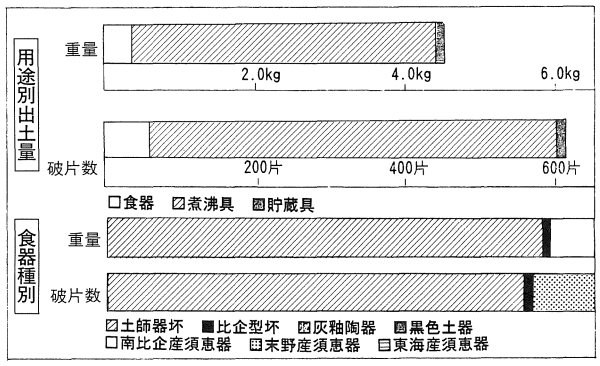
第186図　竪穴住居跡(18)

第87号住居跡

住居跡の北側は、試掘のトレンチで破壊されたため、形状など全容は明らかにできなかった。東壁から西壁にかけては、幅約20cmの壁溝が巡っていた。土壙が、東壁沿いにみられた。6基の小穴を検出した。

カマドは、検出できなかった。

遺構の切り合い関係は、第58号住居跡より新しかった。

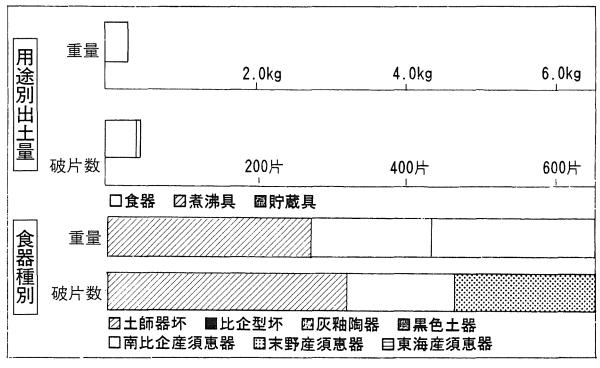


第187図　第87号住居跡覆土中遺物データ

第88号住居跡

形状は、東西に長い長方形であった。壁溝は、南壁と北東隅、北西隅、カマド部分を除いて巡っていた。幅は、約20cmのであった。径6～10cm、深さ3～6cmの小穴が、5基南壁にほぼ等間隔に並んでみられた。

北壁の北東隅寄りにカマドを検出した。袖は、確認できなかった。カマドの燃焼部は、掘り込みがみられず、煙道部へは、緩やかな段をもって移行していた。



第188図　第88号住居跡覆土中遺物データ

遺構の切り合いは、みられなかった。

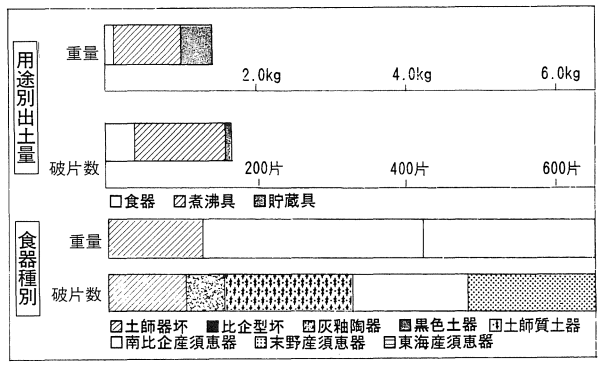
第89号住居跡

形状は、南北に長い不整長方形であった。

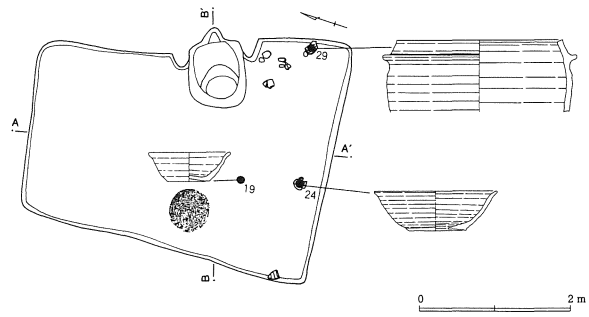
東壁の南よりにカマドを検出した。袖は、地山を掘り残し構築していた。袖は、住居内へ短く伸びていた。焚き口の前面から燃焼部にかけては、方形に窪み、奥に向かって傾斜していた。

東南隅の床面から土師器の羽釜（第335図—29）が出土した。また南壁中央から須恵器の坏（第335図—24）、やや北から土師質土器の坏（第335図—19）が出土した。

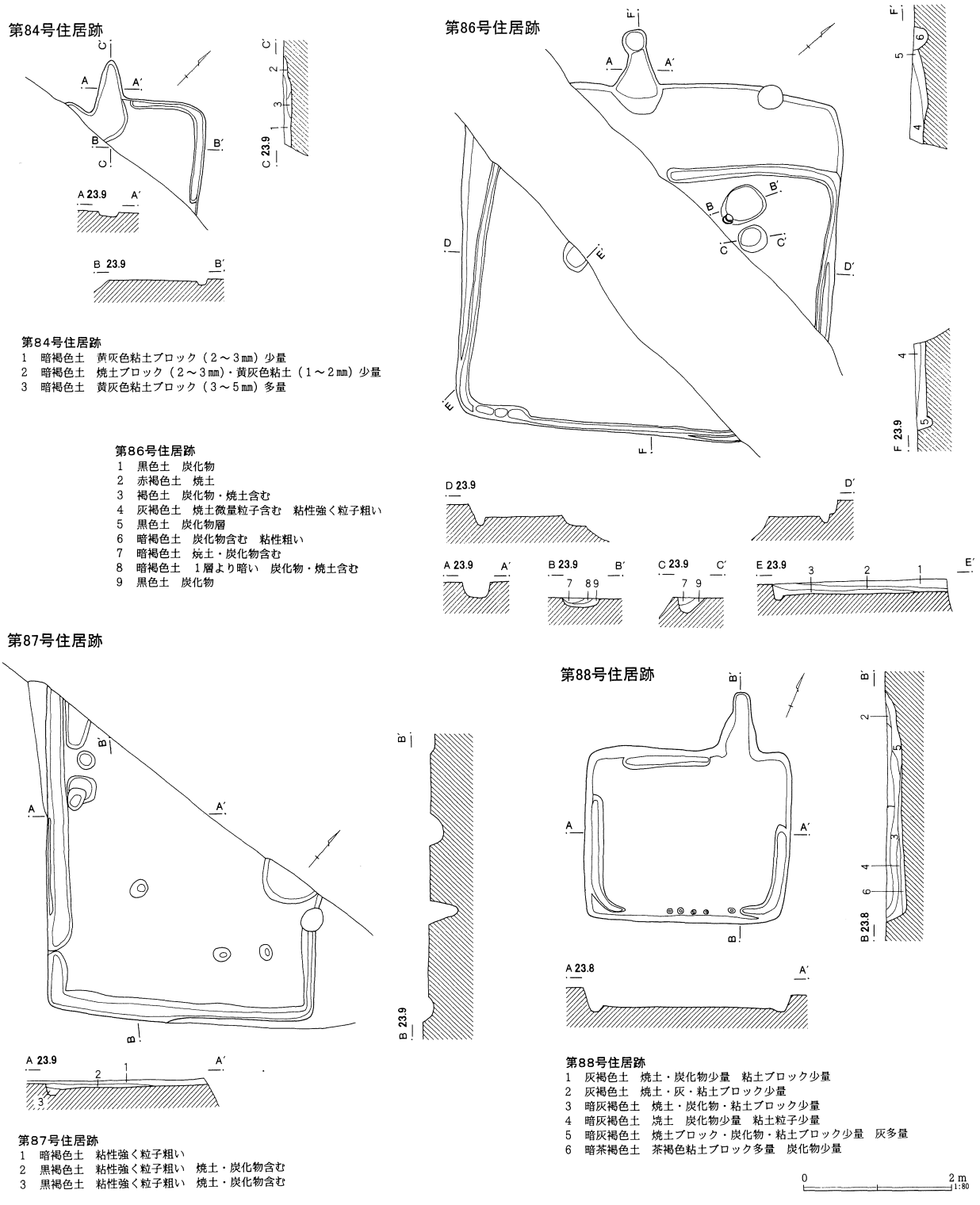
遺構の切り合いは、第8号掘立柱建物跡より新しかった。



第189図　第89号住居跡覆土中遺物データ



第190図　第89号住居跡遺物出土位置



第84号住居跡
1　暗褐色土　黄灰色粘土ブロック（2～3㎜）少量
2　暗褐色土　焼土ブロック（2～3㎜）・黄灰色粘土（1～2㎜）少量
3　暗褐色土　黄灰色粘土ブロック（3～5㎜）多量

第86号住居跡
1　黒色土　炭化物
2　赤褐色土　焼土
3　褐色土　炭化物・焼土含む
4　灰褐色土　焼土微量粒子含む　粘性強く粒子粗い
5　黒色土　炭化物層
6　暗褐色土　炭化物含む　粘性粗い
7　暗褐色土　焼土・炭化物含む
8　暗褐色土　1層より暗い　炭化物・焼土含む
9　黒色土　炭化物

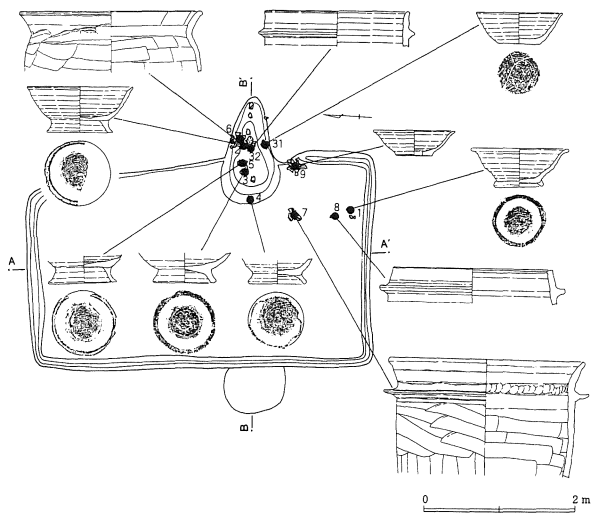
第87号住居跡
1　暗褐色土　粘性強く粒子粗い
2　黒褐色土　粘性強く粒子粗い　焼土・炭化物含む
3　黒褐色土　粘性強く粒子粗い　焼土・炭化物含む

第88号住居跡
1　灰褐色土　焼土・炭化物少量　粘土ブロック少量
2　灰褐色土　焼土・灰・粘土ブロック少量
3　暗灰褐色土　焼土・炭化物・粘土ブロック少量
4　暗灰褐色土　焼土　炭化物少量　粘土粒子少量
5　暗灰褐色土　焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック少量　灰多量
6　暗茶褐色土　茶褐色粘土ブロック多量　炭化物少量

第191図　竪穴住居跡(19)

第90号住居跡

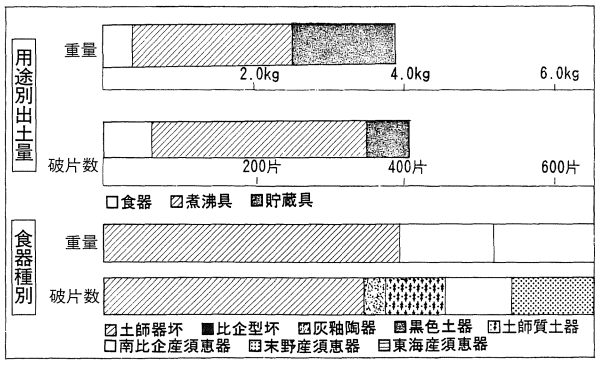
住居跡の形状は、南北に長い長方形であった。壁溝は、カマド部分を除いて巡っていた。幅は、約18cmであった。



第192図　第90号住居跡遺物出土位置

東壁の南よりにカマドを検出した。袖は、検出できなかった。燃焼部は、楕円形に浅く掘り込まれていた。燃焼部から煙道部へは、緩やかな段をもって移行していた。

カマドの燃焼部やや奥から土師器の甕（第336図－6）、燃焼部中央から土師質土器の高脚高台付椀4点（第336図－2・3・4・5）、やや奥から土師器の羽釜（第336図－32）、燃焼部右壁に接して須恵器坏（第336図－31）が出土した。またカマド右袖の付け根から須恵器の坏（第336図－9）が出土した。さらにカマド手前、南東コーナーの床面から須恵器の高台付椀（第336図－1）、土師器の羽釜（第336図－7・8）がそれぞれ出土した。



第193図　第90号住居跡覆土中遺物データ

遺構の切り合い関係は、第6・7・8号掘立柱建物跡より新しく、第107号住居跡より古かった。

第91号住居跡

形状は、南北に長い長方形であった。

東壁の南東隅寄りにカマドを検出した。袖は、検出できなかった。焚き口から燃焼部にかけては、隅丸長方形の浅い掘り込みがみられた。カマドの右側は、不整楕円形に掘り込まれていた。燃焼部は、楕円形に浅く掘り込まれ、緩やかな段をもって移行していた。

カマド右側の南東隅に貯蔵穴を検出した。形状は、正方形である。規模は、径40cm、深さ30cmであった。

遺構の切り合いは、みられなかった。

第92号住居跡

住居跡の北側は、第69号溝に切られていた。形状など全容を明らかにできなかった。小穴が、南東隅に2基みられた。

東壁の南寄りにカマドを検出した。袖は、検出できなかった。焚き口から燃焼部には、浅い不整形の掘り込みがみられた。燃焼部から煙道部へは、緩やかに傾斜して移行していた。

遺構の切り合い関係は、第94号住居跡・第64号土壙より新しく、第90号溝跡・第92号土壙より古かった。

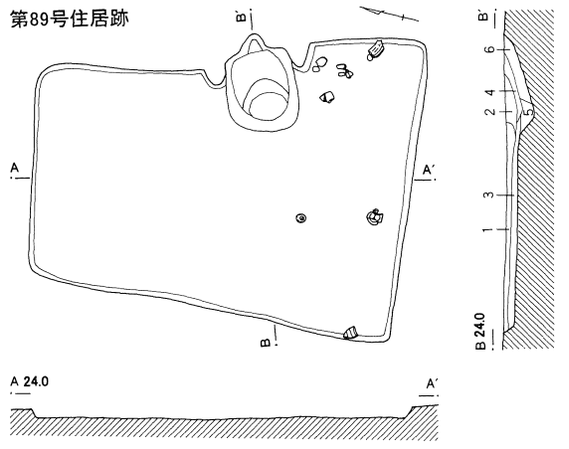
第93号住居跡

住居跡の大半が、第92号住居跡に破壊されたため形状など全容は解明できなかった。

カマドは、検出できなかった。

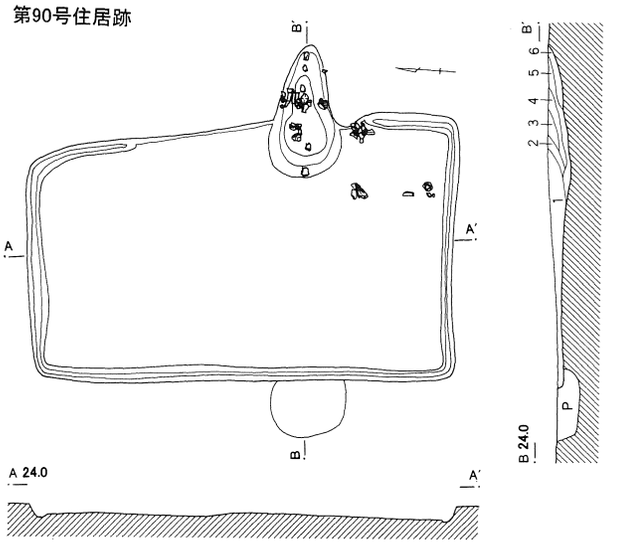
遺構の切り合い関係は、第94号住居跡より新しく、第92号住居跡より古かった。

第89号住居跡



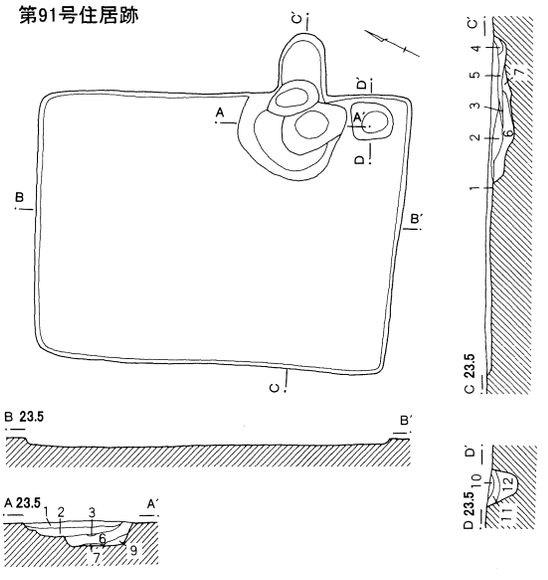
第89号住居跡
1　暗茶褐色土　焼土・炭化物少量
2　灰褐色土　焼土・炭化物少量
3　暗灰褐色土　焼土・炭化物　焼土粒子少量
4　暗灰褐色土　焼土・焼土粒子少量　炭化物多量
5　暗灰褐色土　焼土・粘土粒子少量　炭化物多量
6　暗茶褐色土　焼・炭化物少量　焼土粒子多量

第90号住居跡



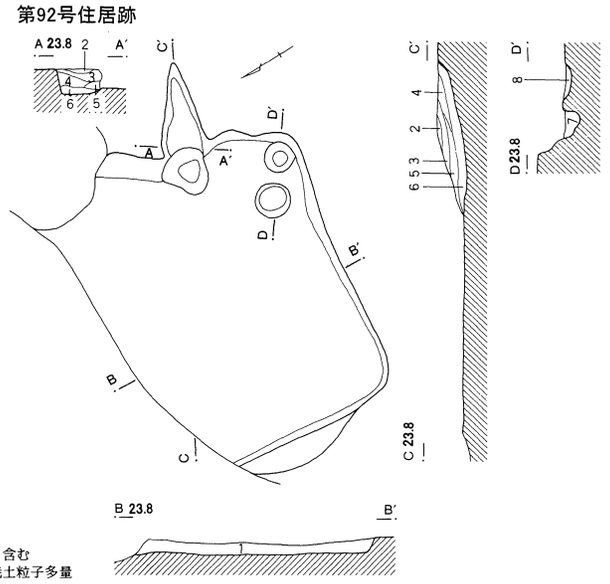
第90号住居跡
1　黒褐色土　焼土粒子・炭化粒子（2～5㎜）少量
2　暗褐色土　地山粒子（2～5㎜）多量
3　黒褐色土　地山粒子（2～8㎜）少量
4　暗褐色土　焼土ブロック（5～30㎜）多量 カマド天井崩落土
5　黒褐色土　灰多量　炭化物・焼土粒子少量
6　暗褐色土　黄褐色ブロック（5～8㎜）少量

第91号住居跡



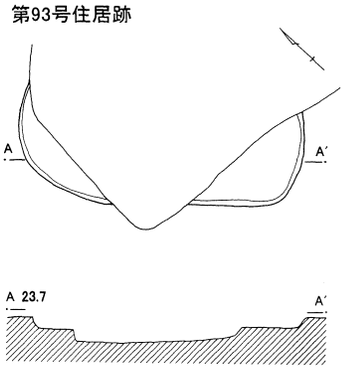
第91号住居跡
1　灰黄褐色土　炭化物微量
2　暗灰褐色土　炭化物・焼土粒子少量
3　暗灰褐色土　カマド天井部崩落土焼土ブロック含む
4　暗褐色土　焼土ブロック多量
5　黒色土　灰　焼土粒子少量
6　暗灰褐色土　焼土粒子・炭化物少量
7　黒色土　灰　焼土粒子少量
8　淡黄褐色土　黄褐色土ブロック含む
9　黒色土　灰・焼土ブロック・焼土粒子多量
10　暗褐色土　灰・炭化物多量
11　灰褐色土　灰黄色土ブロック含む
12　暗灰色土　灰黄色土ブロック少量

第92号住居跡

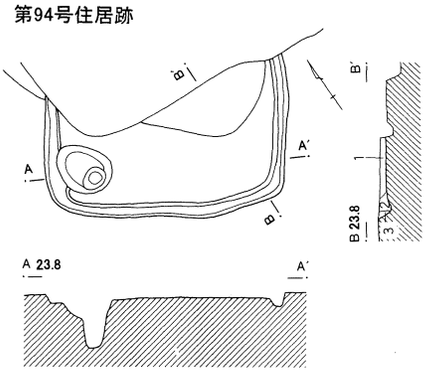


第92号住居跡
1　暗褐色土　黄褐色粒子・焼土粒子を含む　しまり強い
2　黄褐色土　黄褐色粒子含む　しまりあり
3　暗黄褐色土　焼土粒子・炭化物粒子含む
4　黄褐色土　黄褐色粘土多量　しまり・粘性強い
5　暗黄褐色土　焼土粒子・炭化物粒子・黄褐色粒子含む
6　黒褐色土　焼土粒子・炭化物粒子含む
7　暗灰褐色土　黄褐色粘土ブロック少量含む
8　黒褐色土　焼土ブロック・炭化物多量含む

第93号住居跡



第94号住居跡



第94号住居跡
1　褐色土　黄褐色粒子含む　しまり強い
2　暗褐色土　黄褐色粒子・焼土粒子・炭化粒子含む　しまり弱い
3　黄褐色土　黄褐色粒子・ブロック含む　しまり強い

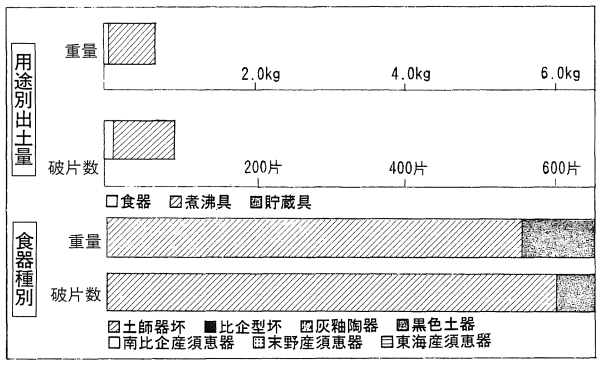
第194図　竪穴住居跡(20)

第94号住居跡

住居跡の大半は、第92・93号住居跡に切られていた。そのため形状など全容は明らかにできなかった。壁溝は、東壁から西壁にかけて巡っていた。幅は、約16cmであった。南西隅に、長径60cm、深さ50cmの楕円形の小穴を１基検出した。

カマドは、検出できなかった。

遺構の切り合い関係は、第92・93号住居跡より古かった。



第195図　第94号住居跡覆土中遺物データ

第95号住居跡

住居跡の上部が、削平を受けていたため、床面に近いところのみが残っていた。

住居跡の西側は、第78号土壙に切られるため、形状など全容は明らかにできなかった。北壁の東寄りから南壁にかけては、幅約20cmの壁溝が巡っていた。

カマドは、検出できなかった。

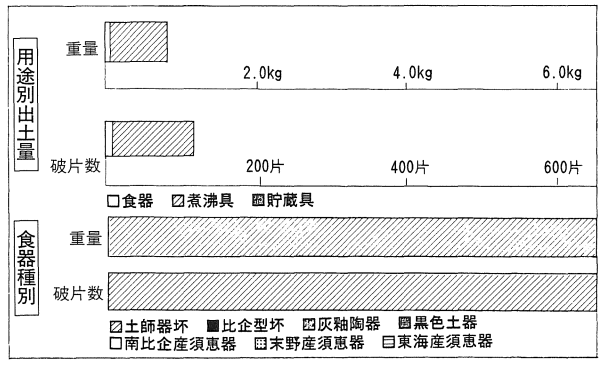
遺構の切り合い関係は、第78号土壙より古い。

第96号住居跡

形状は、南北に長い長方形であった。

カマドは、東壁の南寄りに検出した。袖は、検出できなかった。燃焼部は、浅く窪み、煙道部へ緩やかな段をもって移行していた。

遺構の切り合いは、みられなかった。



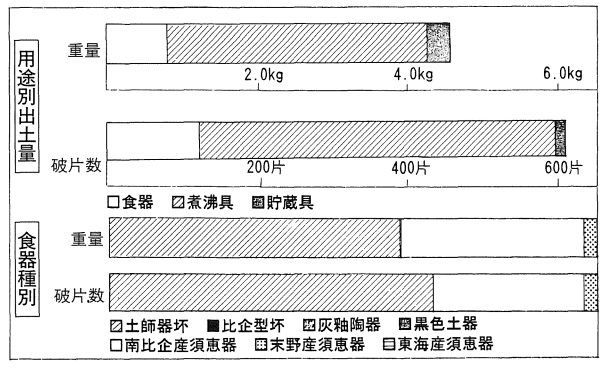
第196図　第96号住居跡覆土中遺物データ

第97号住居跡

形状は、南北に長い長方形であった。西壁には、幅約24cmの壁溝が巡っていた。

カマドは、東壁の北寄りに検出した。袖は検出できなかった。燃焼部には、楕円形の掘り込みがみられ、煙道部へは、段をもたずに緩やかに移行していた。

遺構の切り合い関係は、第80号土壙より古く、第98号住居跡より新しかった。



第197図　第97号住居跡覆土中遺物データ

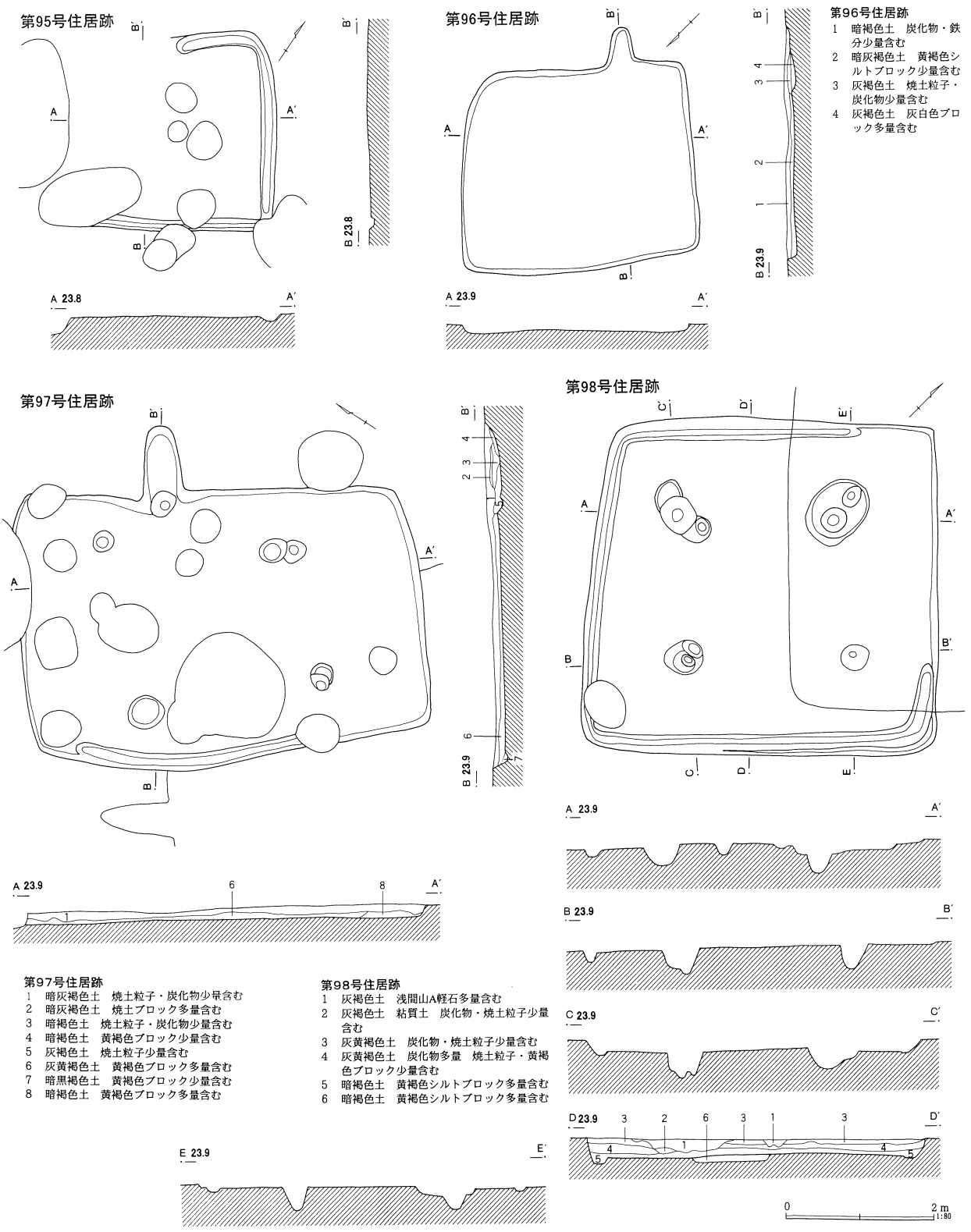
第98号住居跡

形状は、方形であった。東側は、第97号住居跡に切られていた。北東隅から東壁を除いて、幅約25cmの壁溝が巡っていた。

対角線上に４基の柱穴が整然と並んでいた。規模は、径40～95cm、深さ30～40cmであった。

カマドは、検出できなかった。

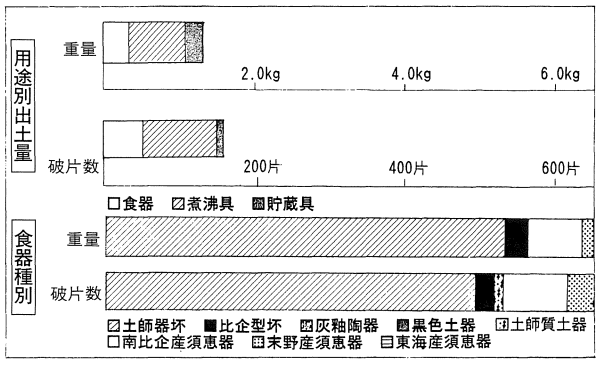
竪穴の中央部から土師器の甑（第337図―５）が出



第198図　竪穴住居跡(21)

土した。

遺構の切り合い関係は、第97・112号住居跡より古かった。



第199図　第98号住居跡覆土中遺物データ

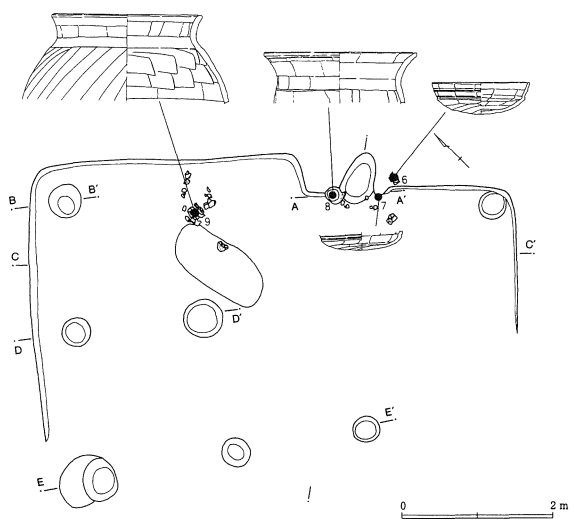
第99号住居跡

住居跡の上部が削平を受けていたため、床面に近い部分のみがみられた。

住居跡の南側は、確認できなかったため、形状など全容は、明らかにできなかった。小穴は、7基みられた。

北壁の東寄りにカマドを検出した。袖は、褐色粘土を貼って造りつけられ、住居跡内へ短く伸びていた。両袖とも先端には、補強のために土師器の甕を埋め込んでいた。燃焼部は、楕円形に浅く掘り込まれていた。

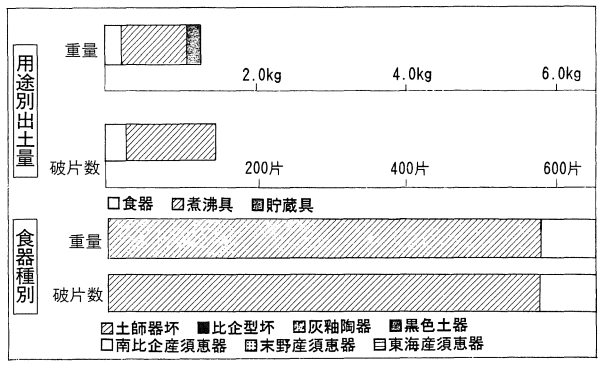
カマド右袖に接して土師器の坏(第337図—6・7)また左袖には、土師器の甕(第337図—8)が埋め込まれていた。さらに北壁よりの床面に土師器の甕が



第200図　第99号住居跡遺物出土位置

横たわっていた。

遺構の切り合いは、みられなかった。



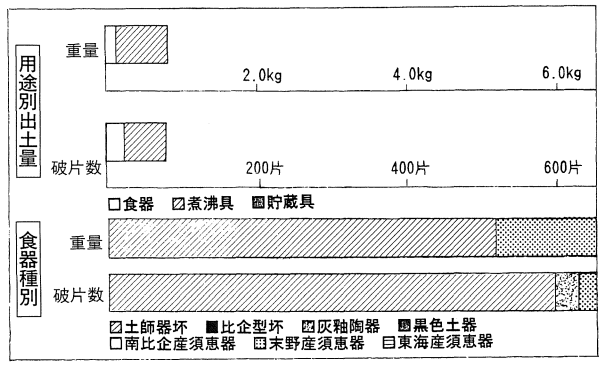
第201図　第99号住居跡覆土中遺物データ

第100号住居跡

形状は、南北に長い長方形であった。

北壁の東寄りにカマドを検出した。袖は、地山を掘り残して構築し、住居跡内へ短く伸びていた。焚き口部から燃焼部にかけては、楕円形の掘り込みがみられ、煙道部へは、段をもたずに緩やかに移行していた。煙道部は、奥に向かって低く傾斜し、煙出し部は垂直に立ち上がっていた。

遺構の切り合い関係は、第13号掘立柱建物跡より古い。



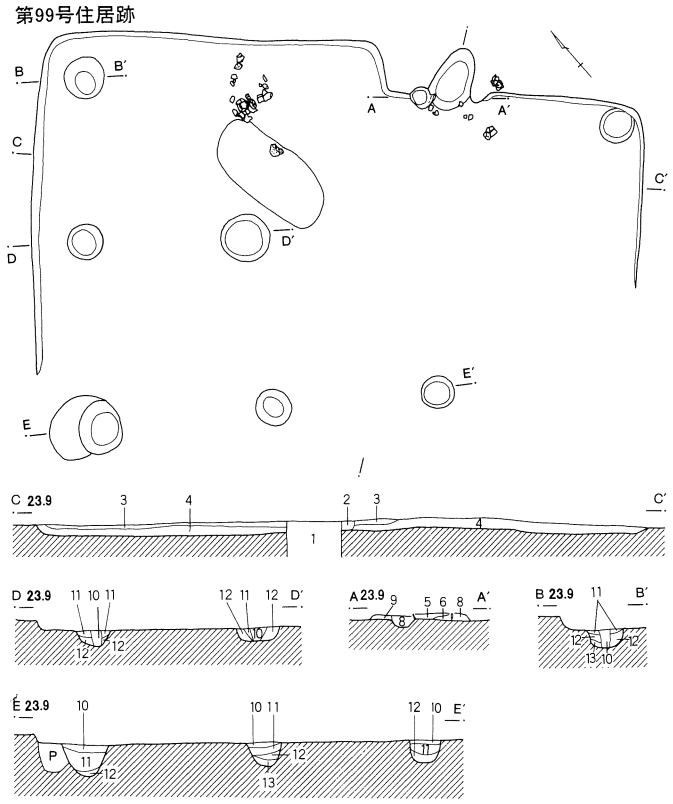
第202図　第100号住居跡覆土中遺物データ

第101号住居跡

形状は、方形であった。第87号溝跡に東側を切られるため、全容は明らかにできなかった。

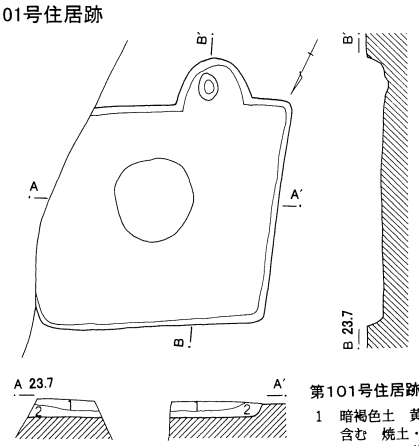
南壁の南西隅寄りにカマドを検出した。袖は、検出できなかった。燃焼部には、楕円形の掘り込みが

第99号住居跡



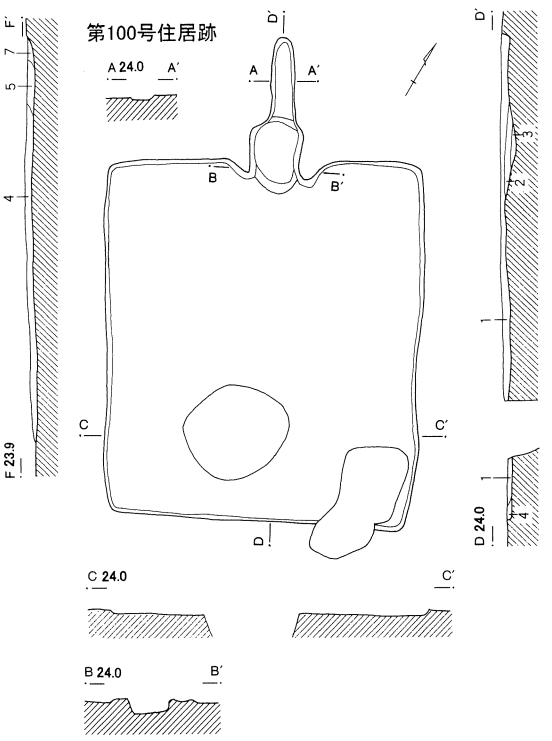
第99号住居跡
1　暗褐色土　地山粒子・焼土粒子含む　しまり強い
2　黄褐色土　地山粒子・砂質粒子含み　しまり強い
3　暗褐色土　地山粒子・炭化物粒子　焼土粒子含む
4　暗褐色土　地山粒子・黄褐色ブロック含む
5　赤灰褐色土　焼土粒子・焼土ブロック含む　しまり強い
6　灰褐色土　焼土粒子少量・炭化物粒子含む　しまり強い
7　黄褐色土　焼土粒子・炭化物粒子・粒子含む
8　褐色土　砂質粒子・炭化物粒子含む
9　褐色土　焼土粒子・炭化物粒子微量含む
10　暗褐色土　焼土粒子・炭化物粒子微量含む　しまり弱い
11　暗褐色土　1層よりしまり弱い
12　黄褐色土　地山粒子を混入　しまり強い
13　黄灰色土　粘質土多量

第101号住居跡



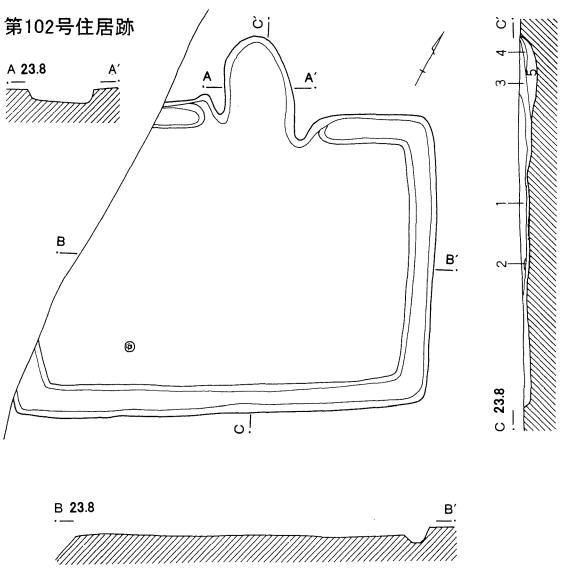
第101号住居跡
1　暗褐色土　黄褐色粘土粒子（1～2㎜）含む　焼土・炭化物少量
2　黄褐色土　黄褐色粘土ブロック（5～8㎜）多量

第100号住居跡



第100号住居跡
1　暗褐色土　黄褐色粘土ブロック（2～3㎜）まばら
2　暗褐色土　焼土ブロック（5～8㎜）まばら　カマド崩落土
3　暗褐色土　黄褐色粘土ブロック（3～5㎜）・焼土ブロック（5～8㎜）少量
4　黄褐色土　黄褐色粘土ブロック（2～3㎜）多量

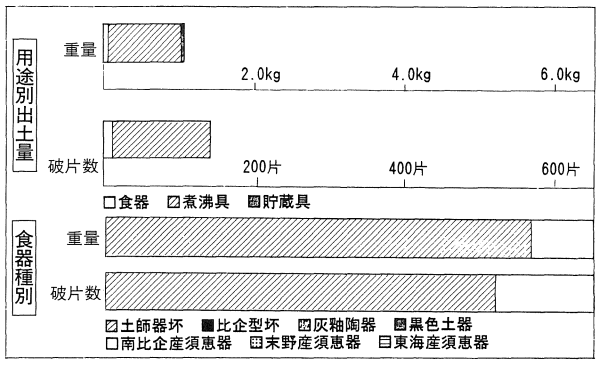
第102号住居跡



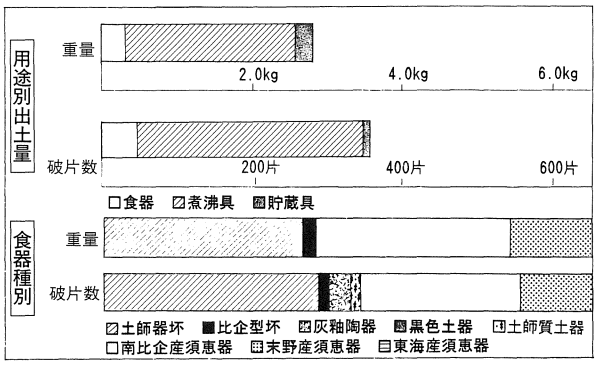
第102号住居跡
1　暗褐色土　炭化物　焼土含む　粘性強く粒子粗い
2　黒色土　炭化物
3　黄黒色土　固くしまる
4　黒色土　焼土・炭化物
5　赤褐色土　焼土含む

0　2 m　1:80

第203図　竪穴住居跡(22)



第204図　第101号住居跡覆土中遺物データ



第206図　第102号住居跡覆土中遺物データ

みられた。

遺構の切り合い関係は、第87号溝・第13・14号掘立柱建物より古かった。

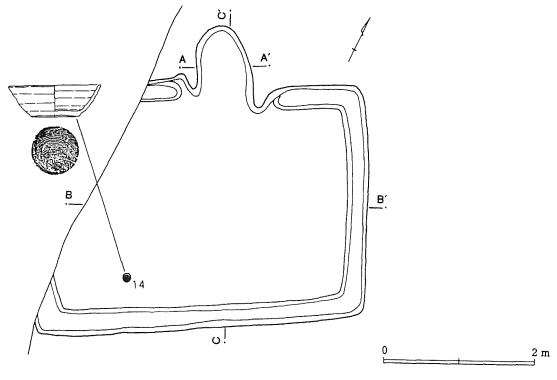
第102号住居跡

形状は、東西に長い長方形であった。第70号溝に西側を切られるため、全容を明らかにすることはできなかった。カマドを除いて、幅約30cmの壁溝が巡っていた。

北壁のやや東寄りにカマドを、検出した。袖は、地山を掘り残して構築していた。カマドの袖は、住居跡内へ短く伸びていた。燃焼部の掘り込みは、みられなかった。

竪穴の南壁よりには、須恵器の坏（第337図—14）が出土した。

遺構の切り合い関係は、第87号溝跡・第15・16号掘立柱建物跡より古かった。

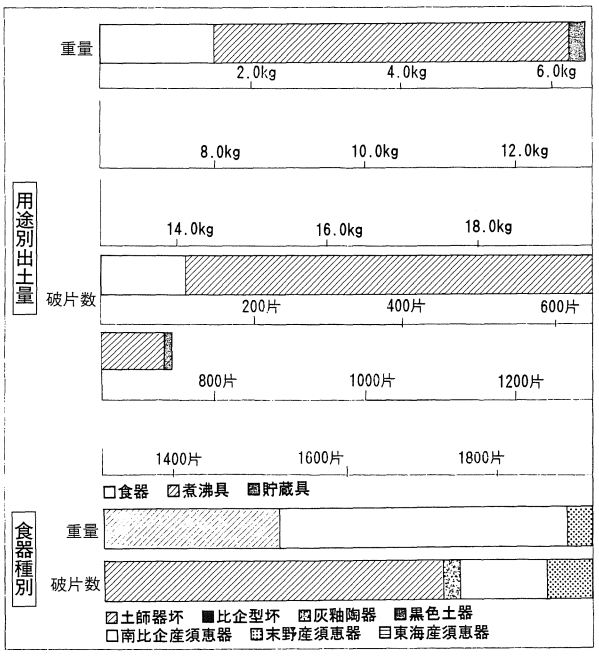


第205図　第102号住居跡遺物出土位置

第103号住居跡

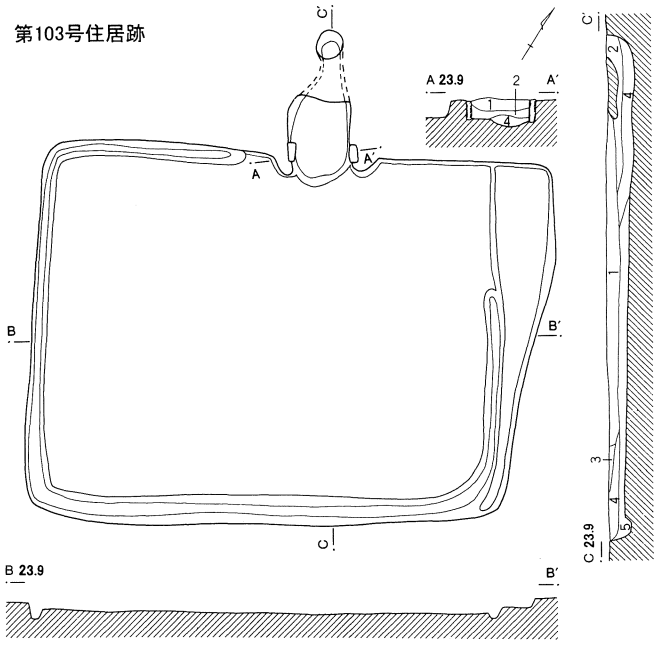
形状は、東西に長い長方形であった。カマドと住居跡の北東隅を除いて壁溝が巡っていた。壁溝の幅は、約20cmであった。東壁は、階段状に小さく高くなっていた。

北壁の東寄りにカマドを検出した。袖は、地山を掘り残して構築し、住居跡内へ短く伸びていた。両袖には、補強材として凝灰岩切石が埋設されていた。焚き口部から燃焼部にかけては、楕円形に浅く掘り込まれており、煙道部へは、段をもたずに移行していた。煙道部は、地山を掘り抜いて造られ、煙出し部は、垂直に立ち上がっていた。



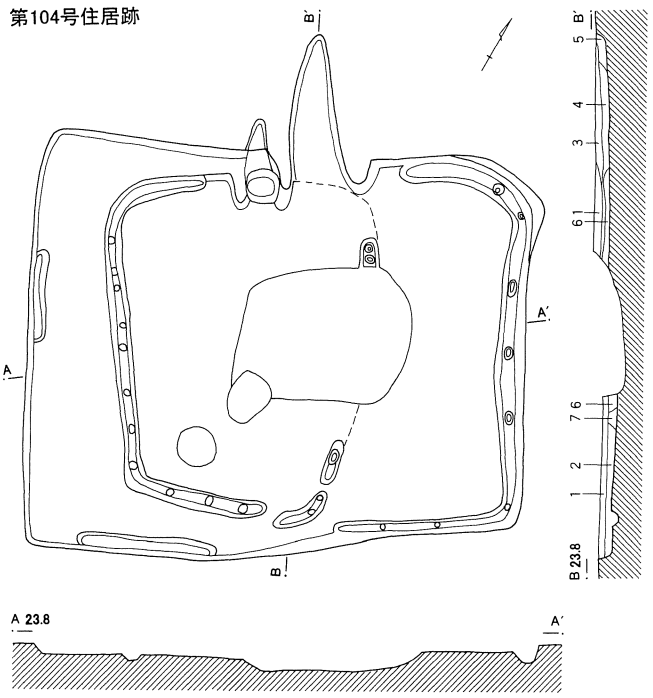
第207図　第103号住居跡覆土中遺物データ

第103号住居跡



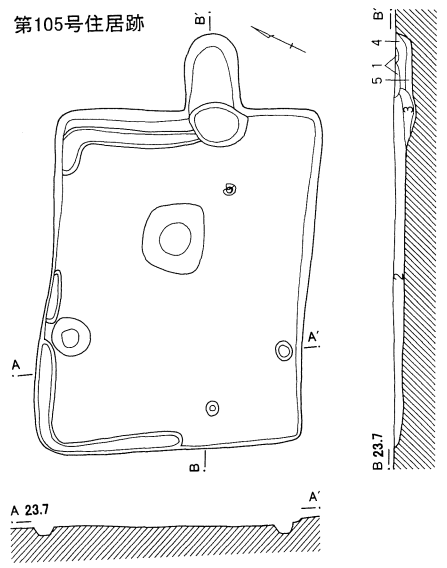
第103号住居跡
1　黒褐色土　焼土・炭化物多量
2　黒褐色土　焼土・炭化物含む
3　暗黒褐色土　焼土・炭化物多量　粒子粗い
4　淡褐色土　炭化物微量含む　粘性強い　粒子粗い
5　褐色土　粘性強く炭化物多量

第104号住居跡



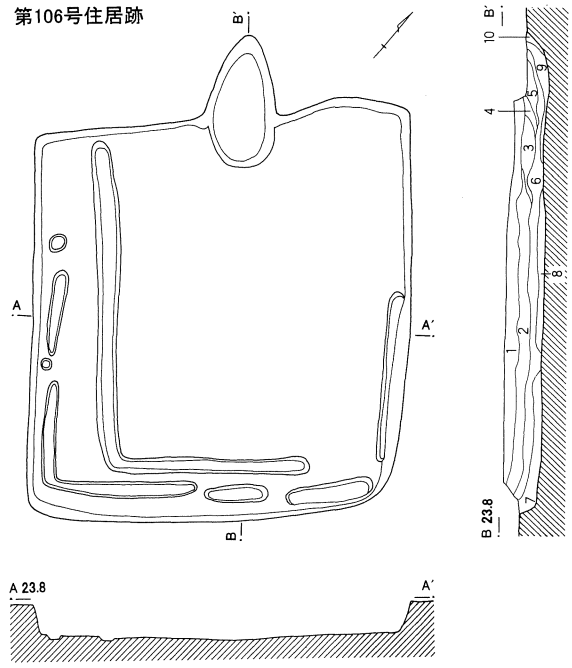
第104号住居跡
1　暗灰褐色土　焼土・炭化物・粘土ブロック少量
2　暗灰褐色土　焼土・炭化物中量　粘土ブロック多量　掘り方覆土
3　暗灰褐色土　焼土ブロック中量　炭化物・粘土粒子少量
4　暗灰褐色土　焼土ブロック中量　炭化物ブロック少量　粘土ブロック少量しまりなし
5　暗灰褐色土　焼土・炭化物・粘土ブロック少量
6　灰褐色土　焼土・炭化物・粘土ブロック少量
7　暗灰褐色土　粘土ブロック多量

第105号住居跡



第105号住居跡
1　暗褐色土　焼土ブロック（5㎜）多量　黄褐色粘土ブロック（3～5㎜）少量
2　暗褐色土　焼土・炭化物（5㎜）　黄褐色粘土ブロック（5～10㎜）少量
3　黒色土　炭化物・焼土ブロック・黄褐色粘土ブロック（5㎜）多量
4　褐灰色土　灰・炭化物多量
5　暗褐色土　焼土・灰・黄褐色粘土ブロック（5㎜）少量

第106号住居跡



第106号住居跡
1　暗褐色土　焼土・炭化物多量　粒子粗い
2　暗褐色土　焼土・炭化物・灰含む　粒子細かい
3　黄灰褐色土　焼土少量　黄色粘土小ブロック含む　粒子細かい
4　灰褐色土　灰含む　焼土少量　粒子細かい
5　茶褐色土　焼土多量含む　炭化物少量　粒子細かい
6　暗褐色土　焼土・炭化物含む　粒子細かい
7　暗褐色土　焼土含む　粒子細かい
8　暗灰褐色土　焼土含む　灰含む　粒子細かい
9　暗褐色土　焼土・炭化物含む　粒子細かい
10　黄褐色土　炭化物少量含む　黄色粘土含む　粒子細かい

第208図　竪穴住居跡(23)

遺構の切り合いは、みられなかった。

第104号住居跡

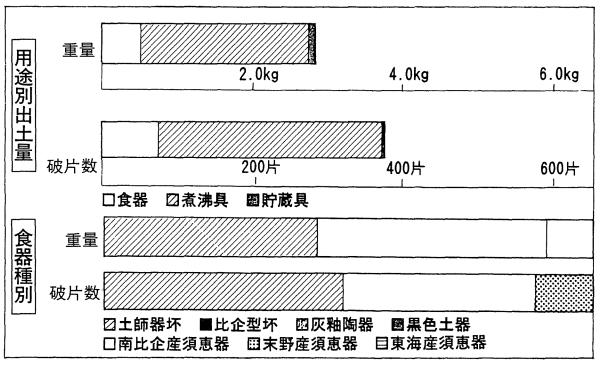
形状は、東西に長い不整長方形であった。住居跡の床面中央に壁溝を確認したことから、第104号住居跡は、拡張住居と判断した。拡張前の住居跡は、カマド部分を除いて、壁溝が巡っていた。壁溝の幅は、約20cmであった。壁溝内には、ほぼ等間隔に径6～10cm、深さ3～6cmの小穴が並んでいた。また北東隅から南壁にかけては、幅約25cmの壁溝が巡っていた。北東隅から南東隅の壁溝の中には、ほぼ等間隔に径8～20cm、深さ3～10cmの小穴が並んでいた。

北壁のほぼ中央にカマドが、2基並んでみられた。1号カマドは、拡張前のカマド、2号カマドは、拡張後のカマドと判断した。

1号カマドの右袖は、地山を掘り残して構築していた。また袖は、住居内へ短く伸びていた。左袖は、拡張時に破壊され、詳細は明らかにできなかった。燃焼部には、方形の浅い掘り込みがあった。

2号カマドの右袖は、地山を掘り残して構築していた。また袖が、住居内へ短く伸びていた。左袖は、1号カマドの右袖を利用していた。燃焼部の掘り込みはみられず、煙道部へは、段をもたずに緩やかに移行していた。煙道は、緩やかに傾斜し、煙出しは、急な傾斜で立ち上がっていた。

遺構の切り合い関係は、第93号土壙より古く、第92号土壙より新しかった。



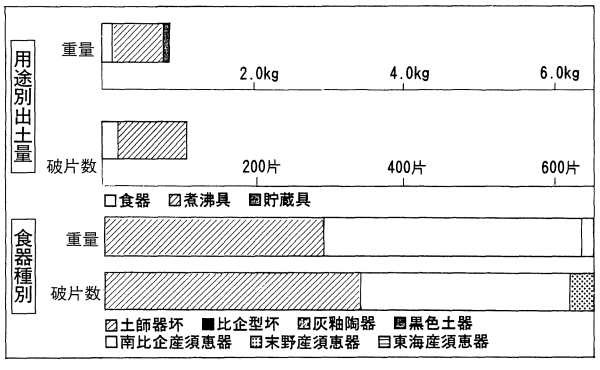
第209図　第104号住居跡覆土中遺物データ

第105号住居跡

形状は、東西に長い長方形であった。北東隅と北西隅には、幅約20cmの壁溝が巡っていた。住居跡の中央やや東寄りには、径70cm、深さ10cmの方形の土壙がみられた。住居の西側に3基の小穴がみられた。

東壁の南寄りにカマドを検出した。袖は、みられなかった。燃焼部は、楕円形に窪み、煙道へ緩やかな段をもって移行していた。

遺構の切り合い関係は、第106号住居跡より古かった。

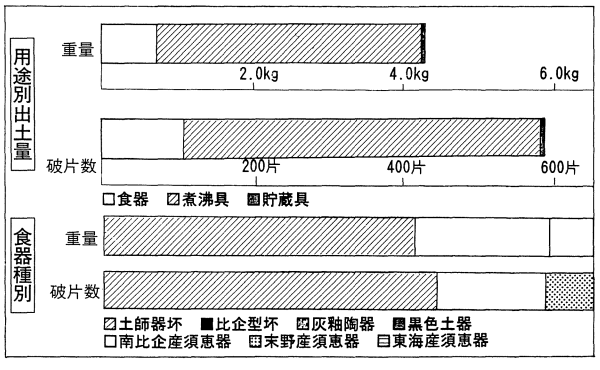


第210図　第105号住居跡覆土中遺物データ

第106号住居跡

形状は、方形であった。南東隅から西壁にかけて幅約20cmの壁溝が巡っていた。また南壁から西壁にかけては、やや内側に幅約25cmの溝がみられた。西壁中央に小穴が2基みられた。

北壁のやや東寄りにカマドを検出した。袖は、み



第211図　第106号住居跡覆土中遺物データ

られなかった。燃焼部は、楕円形に浅く掘り込まれていた。

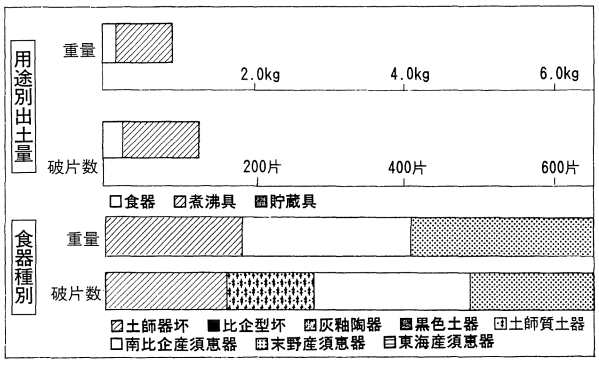
遺構の切り合い関係は、第105・109号住居跡より新しかった。

第107号住居跡

形状は、南北に長い長方形であった。

北壁の中央にカマドを、検出した。袖は、みられなかった。燃焼部は、楕円形に浅く掘り込まれていた。

遺構の切り合い関係は、第90号住居跡・第６・７・８号掘立柱建物跡より新しかった。



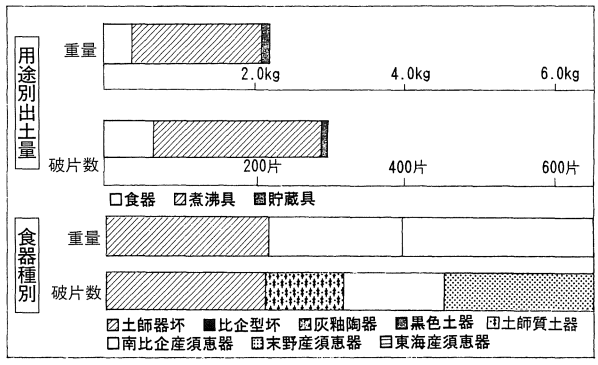
第212図　第107号住居跡覆土中遺物データ

第108号住居跡

形状は、南北にやや長い長方形であった。カマドを除いて、幅約20cmの壁溝が巡っていた。

東壁の南東隅寄りにカマドを、検出した。右袖は、地山を掘り残して構築し、住居跡内へ短く伸びていた。左袖は、住居跡の壁を利用していた。いわゆる「片袖型」であった。焚き口から燃焼部にかけては、楕円形の掘り込みがみられた。煙道部へは、段をもたずに緩やかに移行していた。

遺構の切り合い関係は、第94号土壙より古く、第７・８号掘立柱建物跡・第95号土壙より新しかった。



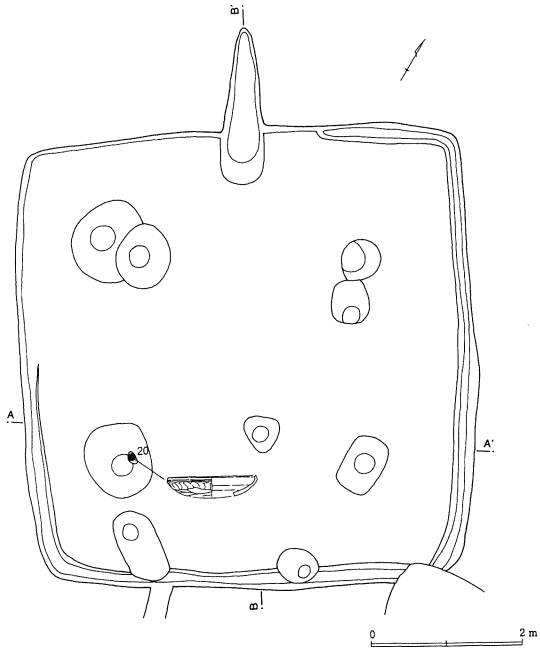
第213図　第108号住居跡覆土中遺物データ

第109号住居跡

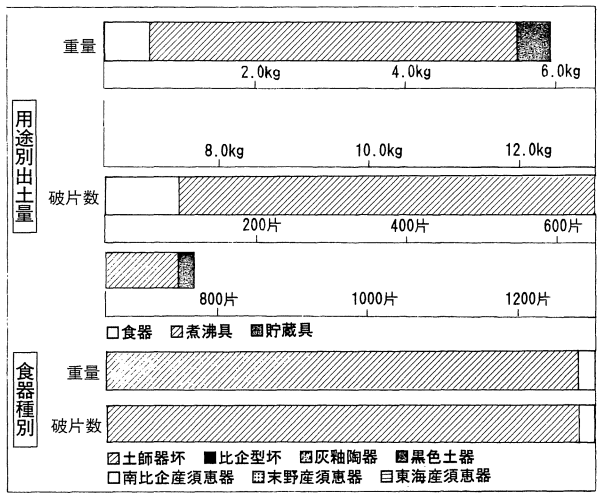
住居跡の形状は、方形であった。北西隅とカマド部分を除いて幅約30cmの壁溝ご巡っていた。床面には、９基の小穴がみられた。１号小穴から北壁の中央にカマドを、検出した。袖は、検出できなかった。燃焼部は、楕円形に浅く掘り込まれ、段をもたずに煙道部へ緩やかに移行していた。

主柱穴（Ｐ２）の埋土中（掘り方）内から土師器の坏（第338図—20）が出土した。

遺構の切り合い関係は、第106号住居跡より古く、



第214図　第109号住居跡遺物出土位置



第215図　第109号住居跡覆土中遺物データ

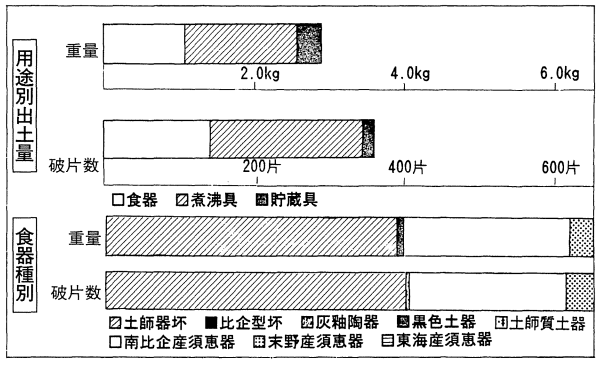
第131号土壙・第117号溝跡より新しかった。

第110号住居跡

住居跡の形状は、東西に長い長方形であった。カマドを除いて幅約25cmの壁溝が巡っていた。

東壁の中央にカマドを検出した。袖は、地山を掘り残して構築し、住居跡内へごく短く伸びていた。焚き口部から燃焼部にかけては、楕円形に浅く窪んでおり、段をもたずに緩やかに煙道部へ移行していた。煙道部は、地山を掘り抜いて造られ、煙出し部は、急な傾斜をもって立ち上がっていた。

遺構の切り合い関係は、第6号掘立柱建物跡・第96号土壙より新しかった。



第216図　第110号住居跡覆土中遺物データ

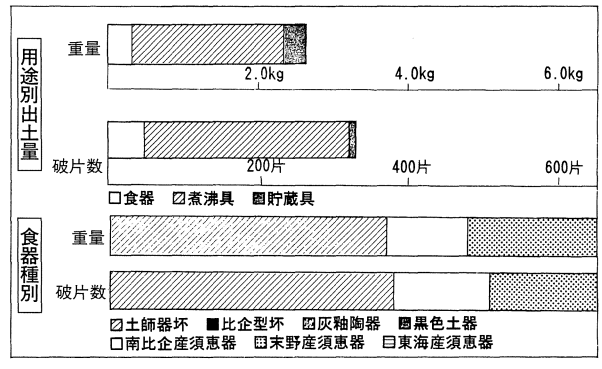
第111号住居跡

住居跡の南側が、第121号住居跡に切られるため、形状など全容を明らかにできなかった。カマドを除いて幅約20cmの壁溝が巡っていた。

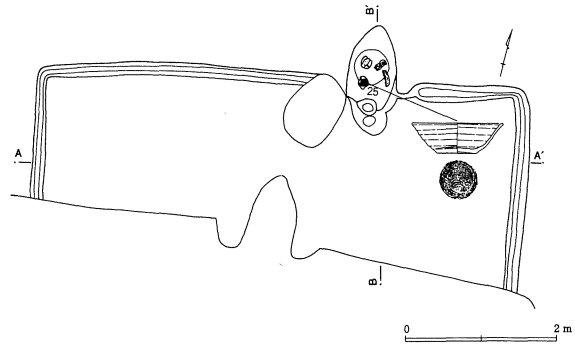
北壁の東寄りにカマドを検出した。袖は、地山を掘り残して構築し、ごく短く住居跡内へ伸びていた。焚き口は、不整形の掘り込みがみられた。燃焼部は、不整形に浅く掘り込まれ、段をもって煙道へ移行していた。燃焼部の奥には、自然石を使用した支脚がみられた。

カマドの燃焼部やや左寄りに須恵器の坏(第341図—25)が出土した。

遺構の切り合い関係は、第121号住居跡・第99・100・134・135・136号土壙より古かった。



第217図　第111号住居跡覆土中遺物データ

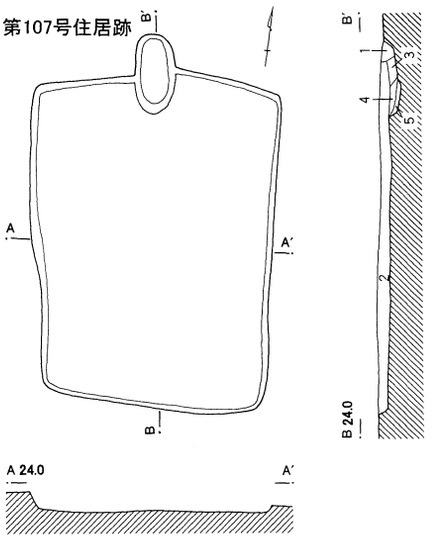


第218図　第111号住居跡遺物出土位置

第112号住居跡

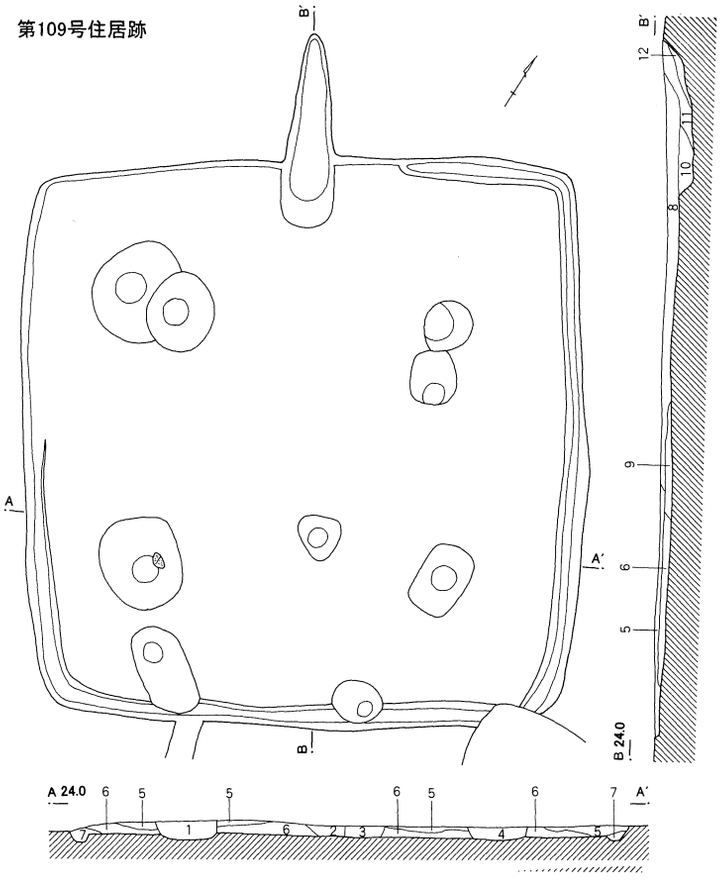
住居跡の東側は、第98号住居跡に切られたため、全容を明らかにできなかった。東西にやや長い長方形と判断した。北壁から南壁にかけては、幅約25cm

第107号住居跡



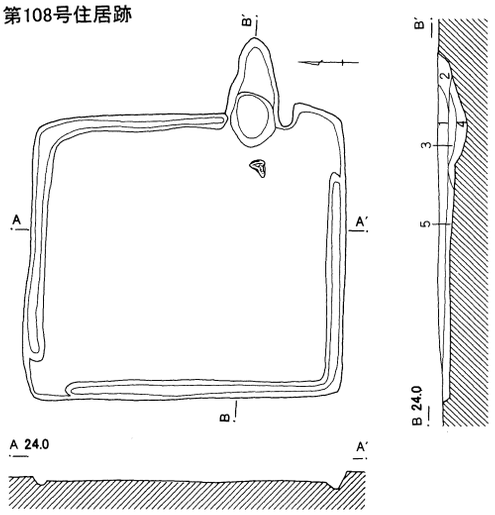
第107号住居跡
1　黒褐色土　微量の焼土混入
2　茶褐色土　微量の黄褐色土含む
3　黒色土　炭化物・灰・焼土多量
4　黄褐色土　黄褐色土少量・黒褐色土含む
5　黒褐色土　炭化物少量

第109号住居跡



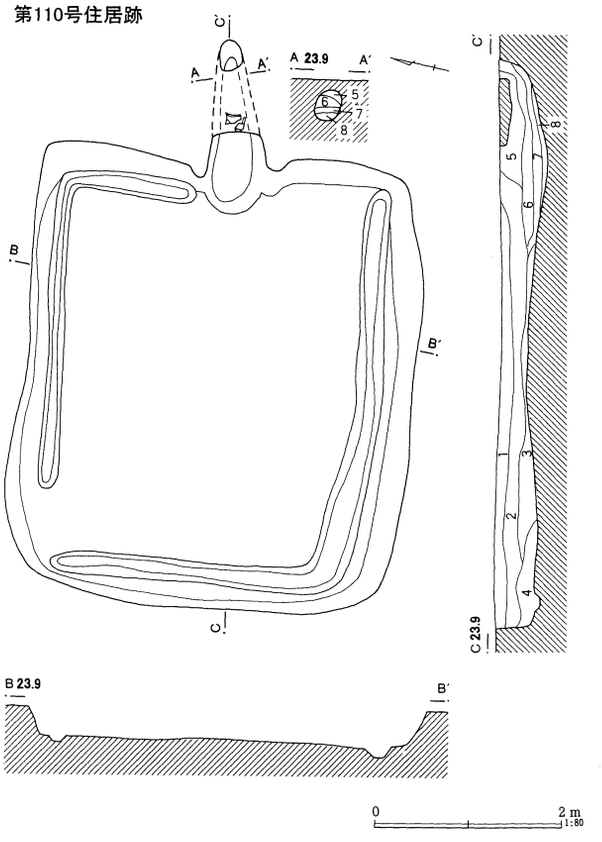
第109号住居跡
1　暗灰褐色土　焼土・炭化物少量　粘土ブロック少量
2　灰褐色土　粘土ブロック多量
3　暗灰褐色土　焼土・炭化物少量　黄色粘土ブロック少量
4　暗灰褐色土　焼土・炭化物・黄色粘土ブロック少量
5　暗灰褐色土　焼土・炭化物少量　黄色粘土粒子少量
6　灰褐色土　焼土少量　炭化物・黄色粘土粒子少量　粘土ブロック少量
7　暗褐色土　黄色粘土ブロック少量
8　暗褐色土　焼土・炭化物ブロック・焼土粒子少量
9　暗灰褐色土　焼土・炭化物少量　粘土ブロック少量
10　暗灰褐色土　焼土ブロック少量　炭化物・粘土粒子少量
11　暗灰褐色土　焼土ブロック少量　炭化物中　灰含む
12　暗褐色土　焼土・炭化物・粘土粒子少量

第108号住居跡



第108号住居跡
1　暗褐色土　焼土ブロック少量　炭化物微量　粘性強い
2　暗褐色土　焼土・炭化物微量　粘性強い
3　暗褐色土　焼土ブロック少量　粘性弱い
4　黒暗褐色土　焼土ブロック・炭化物ブロック少量　粘性弱い
5　暗褐色土　焼土粒子少量　炭化物微量　粘性弱い

第110号住居跡



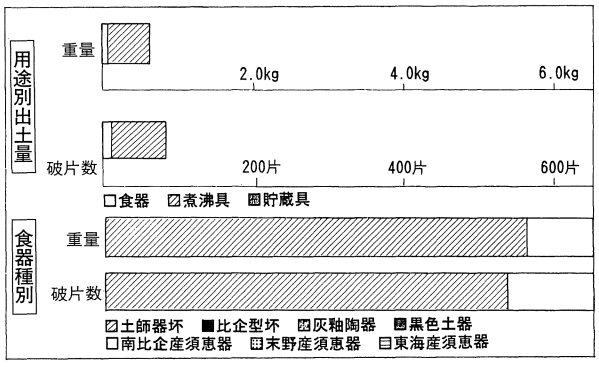
第110号住居跡
1　灰褐色土　焼土・炭化物少量　粘土ブロック少量
2　暗灰褐色土　焼土・炭化物中量　粘土ブロック多量
3　暗灰褐色土　焼土・炭化物・粘土ブロック少量
4　暗灰褐色土　焼土・炭化物少量　粘土ブロック多量
5　灰褐色土　焼土・炭化物・粘土粒子少量
6　暗灰褐色土　中・大の粘土ブロック多量　炭化物少量　焼土ブロック少量
7　暗灰褐色土　焼土・炭化物少量　粘土ブロック少量
8　灰褐色土　炭化物中量　焼土少量　粘土ブロック少量　粘性あり

第219図　竪穴住居跡(24)

の壁溝が巡っていた。北壁の中央には、幅50cm、高さ20cmの棚状（階段状）施設が、半円形につくられていた。この施設に小穴が１基みられた。

カマドは、検出できなかった。

遺構の切り合い関係は、第98号住居跡より新しかった。



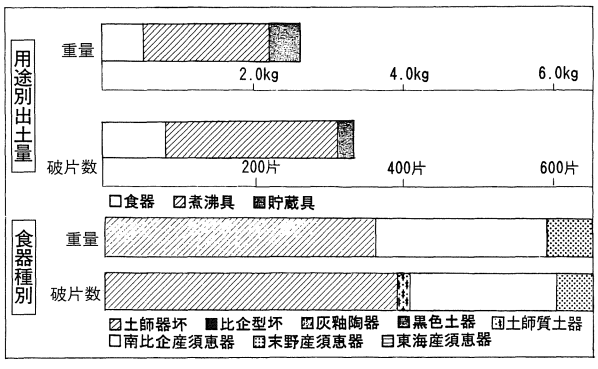
第220図　第112号住居跡覆土中遺物データ

第113号住居跡

形状は、東西に長い長方形であった。北壁を除き、幅約20cmの壁溝が巡っていた。中央やや東寄りには、径85cm、深さ25cmの隅丸方形の土壙がみられた。床面には、５基の小穴がみられた。

北壁の東寄りにカマドを検出した。袖は、検出できなかった。燃焼部の掘り込みは、みられなかった。焚き口の左側には、補強材として自然石を用いていた。

遺構の切り合い関係は、第111号土壙・第17号掘立柱建物跡より新しい。



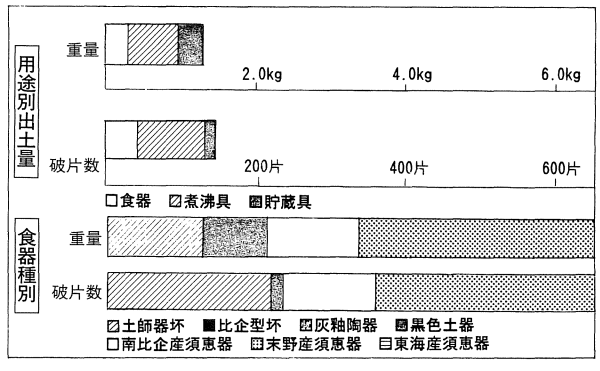
第221図　第113号住居跡覆土中遺物データ

第114号住居跡

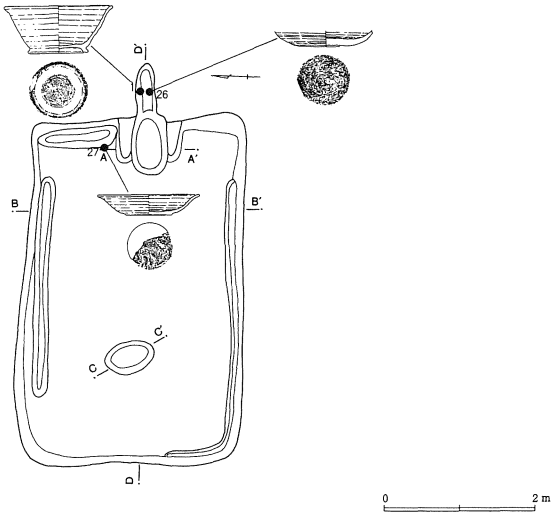
形状は、東西に長い長方形であった。カマドと北西隅・南東隅を除き、幅約20cmの壁溝が巡っていた。中央西側には、径70cm、深さ10cmの楕円形の土壙がみられた。この土壙は、鍛冶炉である。径50cmの被熱痕があり、屋内につくられた小鍛冶と判断した。

東壁のやや南寄りにカマドを、検出した。袖は、地山を掘り残して構築し、住居跡内へ伸びていた。焚き口から燃焼部にかけては、楕円形の浅い掘り込みがみられた。燃焼部から煙道部へは、段をもたず緩やかに移行し、煙出しは、急な傾斜で立ち上がっていた。

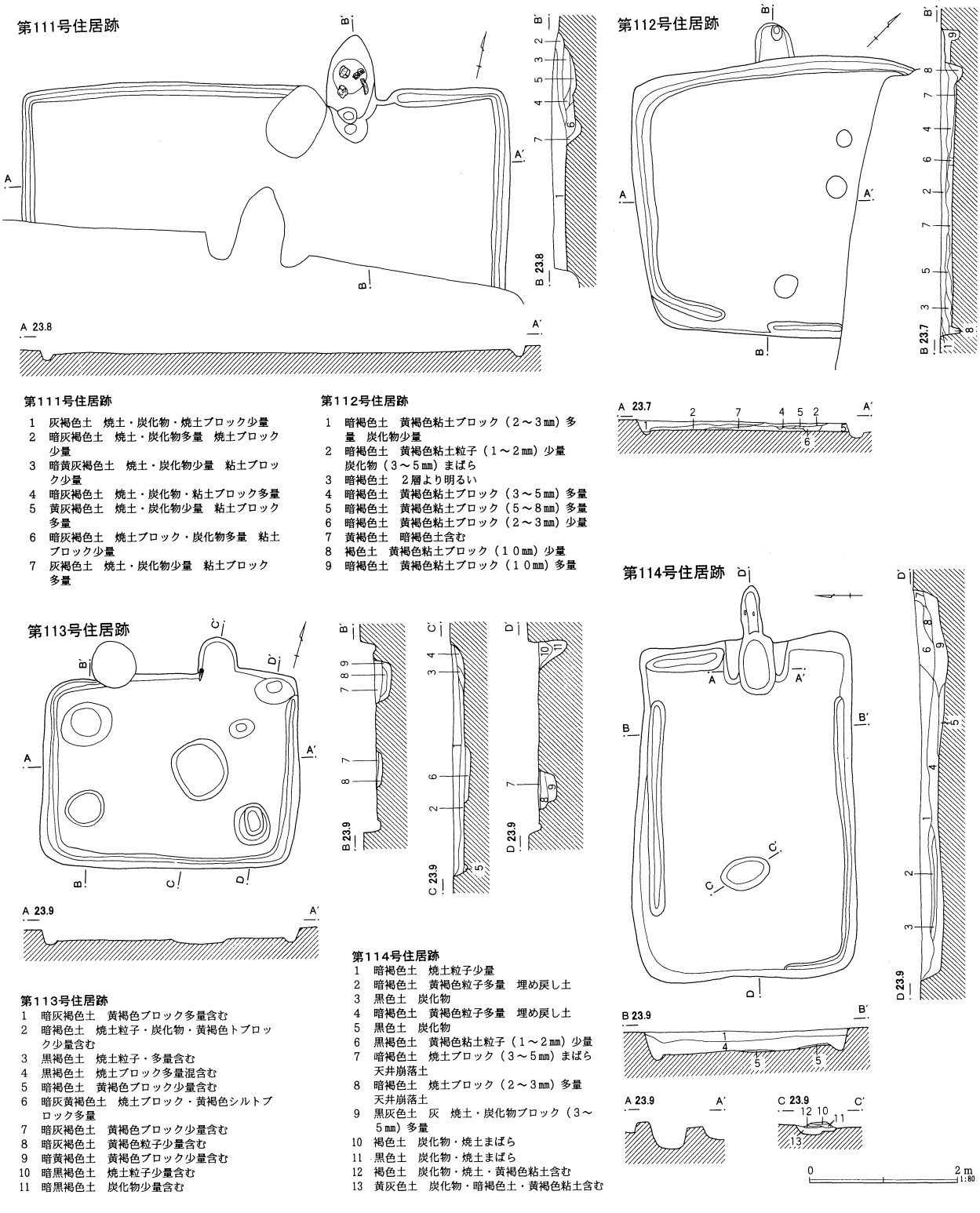
カマドの煙道部から須恵器の高台付埦（第340図



第222図　第114号住居跡覆土中遺物データ



第223図　第114号住居跡遺物出土位置



第111号住居跡

1 灰褐色土　焼土・炭化物・焼土ブロック少量
2 暗灰褐色土　焼土・炭化物多量　焼土ブロック少量
3 暗黄灰褐色土　焼土・炭化物少量　粘土ブロック少量
4 暗灰褐色土　焼土・炭化物・粘土ブロック多量
5 黄灰褐色土　焼土・炭化物少量　粘土ブロック多量
6 暗灰褐色土　焼土ブロック・炭化物多量　粘土ブロック少量
7 灰褐色土　焼土・炭化物少量　粘土ブロック多量

第112号住居跡

1 暗褐色土　黄褐色粘土ブロック（2～3㎜）多量　炭化物少量
2 暗褐色土　黄褐色粘土粒子（1～2㎜）少量　炭化物（3～5㎜）まばら
3 暗褐色土　2層より明るい
4 暗褐色土　黄褐色粘土ブロック（3～5㎜）多量
5 暗褐色土　黄褐色粘土ブロック（5～8㎜）多量
6 暗褐色土　黄褐色粘土ブロック（2～3㎜）少量
7 黄褐色土　暗褐色土含む
8 褐色土　黄褐色粘土ブロック（10㎜）少量
9 暗褐色土　黄褐色粘土ブロック（10㎜）多量

第113号住居跡

1 暗灰褐色土　黄褐色ブロック多量含む
2 暗褐色土　焼土粒子・炭化物・黄褐色トブロック少量含む
3 黒褐色土　焼土粒子・多量含む
4 黒褐色土　焼土ブロック多量混含む
5 暗褐色土　黄褐色ブロック少量含む
6 暗灰黄褐色土　焼土ブロック・黄褐色シルトブロック多量
7 暗灰褐色土　黄褐色ブロック少量含む
8 暗灰褐色土　黄褐色粒子少量含む
9 暗黄褐色土　黄褐色ブロック少量含む
10 暗黒褐色土　焼土粒子少量含む
11 暗黒褐色土　炭化物少量含む

第114号住居跡

1 暗褐色土　焼土粒子少量
2 暗褐色土　黄褐色粒子多量　埋め戻し土
3 黒色土　炭化物
4 暗褐色土　黄褐色粒子多量　埋め戻し土
5 黒色土　炭化物
6 黒褐色土　黄褐色粘土粒子（1～2㎜）少量
7 暗褐色土　焼土ブロック（3～5㎜）まばら　天井崩落土
8 暗褐色土　焼土ブロック（2～3㎜）多量　天井崩落土
9 黒灰色土　灰　焼土・炭化物ブロック（3～5㎜）多量
10 褐色土　炭化物・焼土まばら
11 黒色土　炭化物・焼土まばら
12 褐色土　炭化物・焼土・黄褐色粘土含む
13 黄灰色土　炭化物・暗褐色土・黄褐色粘土含む

第224図　竪穴住居跡(25)

—1）と須恵器の坏（第339図—26）が出土した。また東壁北側の壁周溝中から須恵器の皿（第339図—27）が出土した。

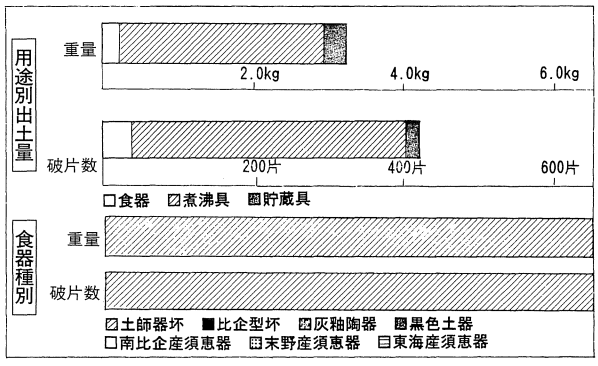
遺構の切り合い関係は、第160号土壙より古い。

第115号住居跡

形状は、東西に長く、西側がつぼまる不整長方形であった。西壁からカマドを除いて、幅約20cmの壁溝が巡っていた。住居跡の東側には、小穴が2基みられた。

北壁の北西隅にカマドを検出した。大半がピットに切られていたため、煙道部の一部のみが残っていた。

遺構の切り合いは、みられなかった。



第225図　第115号住居跡覆土中遺物データ

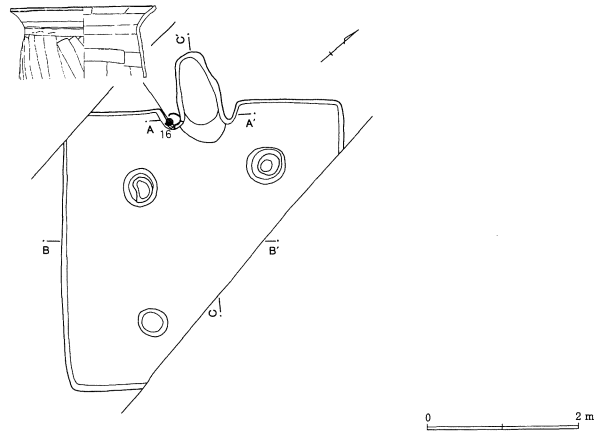
第116号住居跡

住居跡の東側は、第70号溝に切られていたため、全容は明らかにできなかった。形状は、方形と判断した。柱穴は、床面に3基みられた。規模は径40～50cm、深さ15～35cmであった。

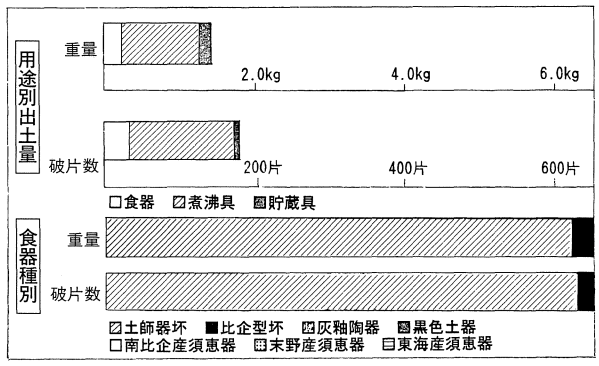
北壁のほぼ中央にカマドを検出した。右袖は、地山を掘り残して構築し、左袖は、土師器の甕を補強のために埋め込んでいた。袖は、住居跡内へ短く伸びていた。左袖の先端には、土師器の甕が、補強材として用いられていた。焚き口から燃焼部にかけては、楕円形の掘り込みがみられ、奥に向かって低く傾斜していた。

カマドの左袖から土師器の甕（第340図—16）が倒位で出土した。カマドに埋め込まれていた。

遺構の切り合い関係は、第87・91号溝跡より古かった。



第226図　第116号住居跡遺物出土位置



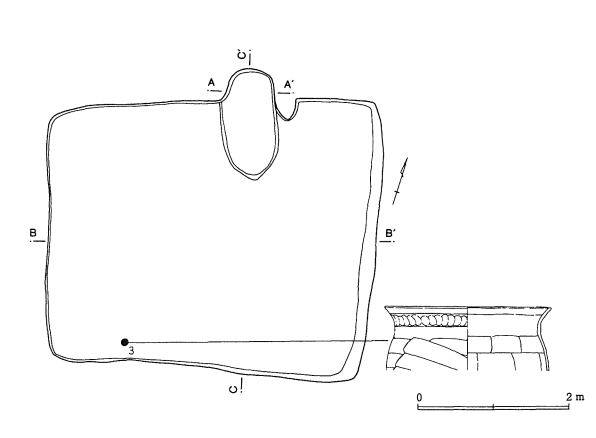
第227図　第116号住居跡覆土中遺物データ

第117号住居跡

形状は、東西に長い長方形であった。

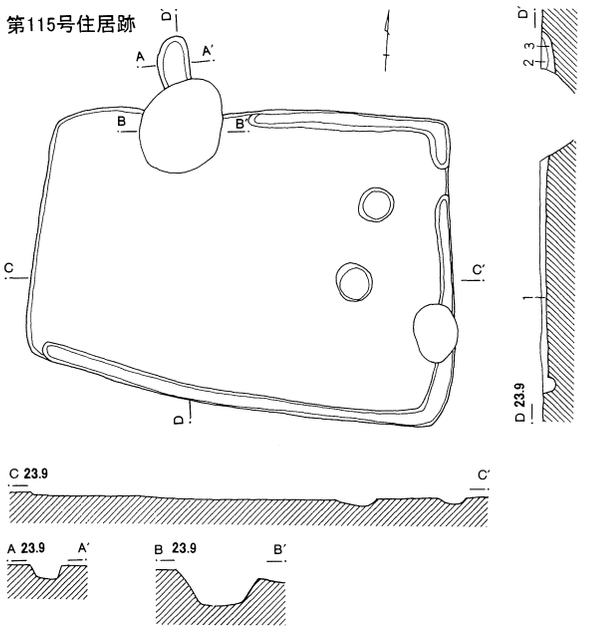
北壁の東寄りにカマドを検出した。左袖は、検出できなかった。右袖は、地山を掘り残して構築していた。袖は、住居跡内へ短く伸びていた。焚き口の前面から燃焼部にかけては、楕円形の深い掘り込みがみられた。

竪穴床面西南隅から土師器の甕（第341図—3）が



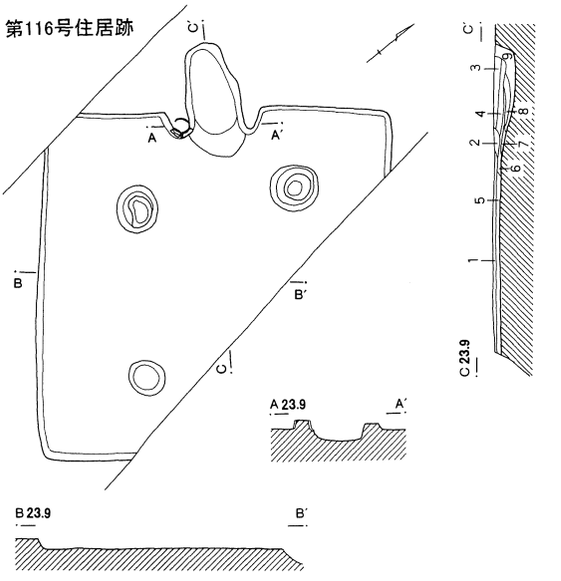
第228図　第117号住居跡遺物出土位置

第115号住居跡



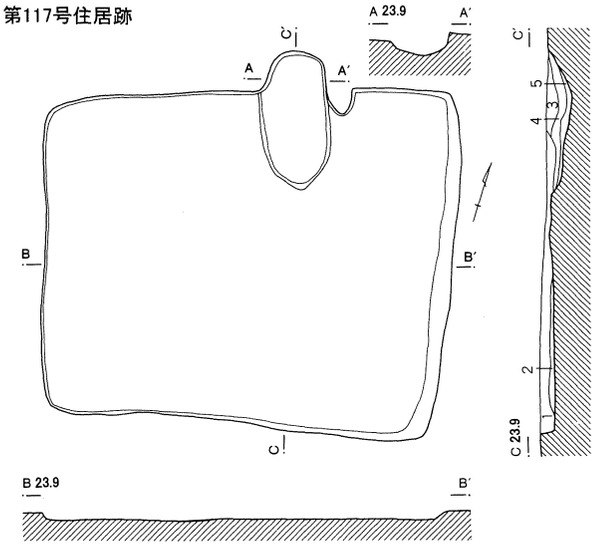
第115号住居跡
1　暗褐色土　焼土・炭化物粒子　黄褐色粘土粒子（0.5～1㎜）まばら
2　暗褐色土　焼土ブロック（3～5㎜）多量　天井崩落土
3　暗褐色土　焼土粒子（0.5～1㎜）少量　黄褐色粘土粒子多量

第116号住居跡



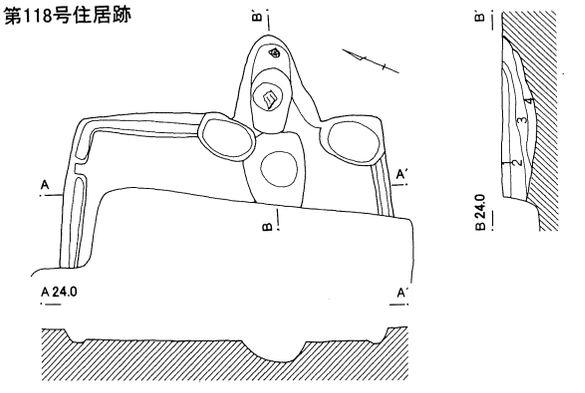
第116号住居跡
1　暗黒色土　粘性弱く粒子粗い　焼土含む
2　暗褐色土　粘性強い　炭化物微量
3　黒褐色土　粒子粗く炭化物含む　粘性弱い
4　暗黒色土　粒子粗く粘性強い　炭化物
5　暗褐色土　粘性強く粒子粗い　焼土含む
6　赤褐色土　焼土
7　黒色土　炭化物
8　褐色土　粘性強く粒子粗い　炭化物含む
9　赤褐色土　炭化物・焼土を多量含む

第117号住居跡



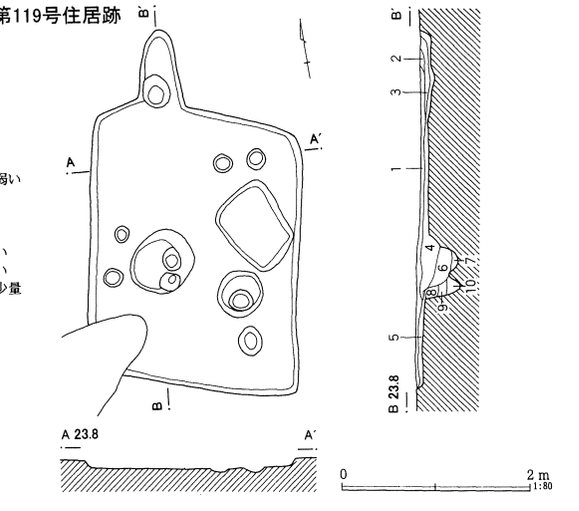
第117号住居跡
1　暗褐色土　黄褐色粘土ブロック（2～5㎜）まばら
2　暗褐色土　黄褐色粘土ブロック（3～5㎜）・炭化物（3～5㎜）多量
3　暗褐色土　黄褐色粘土ブロック（5～8㎜）・焼土ブロック（5～8㎜）少量　天井崩落土
4　暗褐色土　黄褐色粘土ブロック（8～10㎜）・焼土ブロック（8～10㎜）少量　灰多量
5　暗褐色土　黄褐色粘土ブロック（8～10㎜）少量

第118号住居跡



第118号住居跡
1　灰褐色土　浅間山B軽石微量　焼土・炭化物少量　固く粘性は強い
2　灰褐色土　焼土・炭化物少量　粘性強い
3　暗褐色土　焼土多量　炭化物少量　灰含む　粘性弱い
4　暗褐色土　焼土少量　粘性強い

第119号住居跡



第119号住居跡
1　暗褐色土　焼土・炭化物微量　粘性強い
2　暗褐色土　焼土少量　粘性強い
3　灰褐色土　焼土ブロック少量　粘性強い
4　灰褐色土　焼土少量　炭化物微量　粘性弱い
5　灰褐色土　粘性強く粒子細かい
6　灰褐色土　焼土微量　粘性強い
7　灰褐色土　炭化物微量　粘性強い
8　褐色土　黄褐色土ブロック多量　粘性弱い
9　褐色土　黄褐色土ブロック多量　粘性弱い
10　褐色土　炭化物微量　黄褐色土ブロック少量　粘性強い

第229図　竪穴住居跡(26)

出土した。

遺構の切り合い関係は、第118・119号住居跡より新しかった。

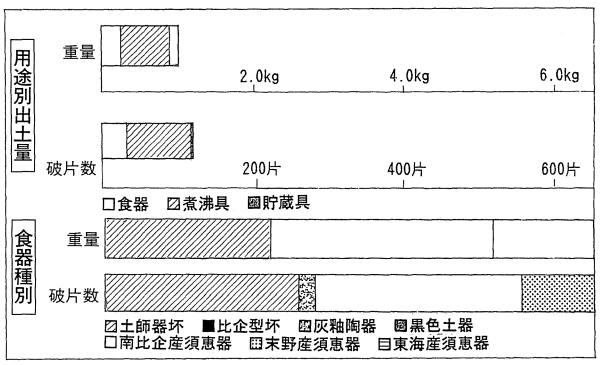
第118号住居跡

住居跡の大半は、破壊され、形状など全容を明らかにできなかった。カマドを除き、幅約25cmの壁溝が巡っていた。カマドの左側には、小穴がみられた。

東壁の南東隅寄りにカマドを検出した。袖は、検出できなかった。焚き口部の前面には、また方形の浅い掘り込みがみられた。燃焼部に楕円形の浅い掘り込みがみられた。緩やかな段をもって煙道へと移行していた。

住居跡の南東隅に貯蔵穴を検出した。楕円形の貯蔵穴で規模は、長径90cm、深さ10cmであった。

遺構の切り合い関係は、第117・119号住居跡より新しかった。



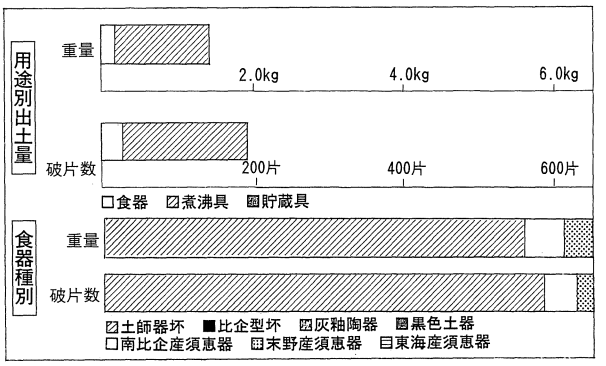
第230図　第118号住居跡覆土中遺物データ

第119号住居跡

形状は、南北に長い長方形であった。床面には、小穴が7基みられた。

北壁の西寄りにカマドを検出した。袖は、検出できなかった。燃焼部に円形の浅い掘り込みがみられた。燃焼部は、煙道部へ緩やかな段をもって移行していた。

遺構の切り合い関係は、第118号住居跡より古かった。



第231図　第119号住居跡覆土中遺物データ

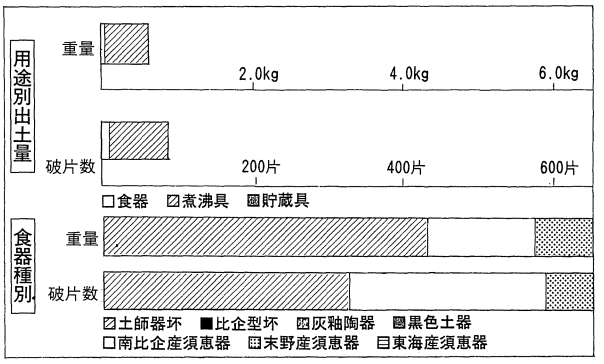
第120号住居跡

カマドのみ検出したため、住居跡の全容は明らかにできなかった。

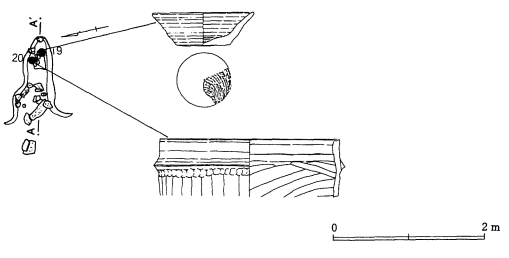
カマドの袖はみられなかった。燃焼部の掘り込みは、確認できなかった。煙道部へは、段をもたず緩やかに移行していた。燃焼部から煙道部にかけては、カマドの構築材である自然石が出土した。

カマドの煙道部奥に土師質土器の坏（第341図—19）と土師器の羽釜（第341図—20）が出土した。

遺構の切り合いはみられなかった。



第232図　第120号住居跡覆土中遺物データ



第233図　第120号住居跡遺物出土位置

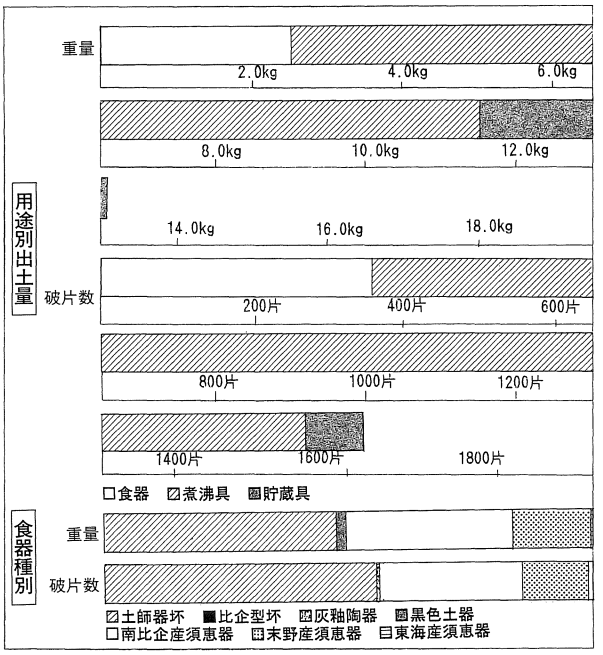
第121号住居跡

形状は、不整方形であった。住居跡の西半分と南東隅に幅約20cmの壁溝が巡っていた。また中央東寄りにも、幅約20cmの溝がみられた。床面には、小穴が８基みられた。

南側の東壁に沿って、長さ450cm、幅220cm、高さ５cmの棚状の施設がみられた。またカマド左側の北壁に沿っても、長さ370cm、幅130cm、高さ10cmの棚状の施設がみられた。

北壁のやや東寄りにカマドを検出した。袖は、地山を掘り残して構築し、住居跡内へ短く伸びていた。燃焼部は、楕円形に浅く掘り込まれていた。燃焼部から煙道へは、段をもたずに緩やかに移行していた。

遺構の切り合い関係は、第132・134・135・136・137・138・139・140・141号土壙より古く、第111号住居跡・第119・120号溝跡より新しい。



第234図　第121号住居跡覆土中遺物データ

第122号住居跡

住居跡の大半が、調査区外であるためと、南側が第125号溝跡に切られていたため形状など全容は、不明であった。カマドを除いて、幅約20cmの壁溝が巡っていた。

東壁にカマドを検出した。残存状態が悪く、詳細は明らかにできなかった。燃焼部は、楕円形に浅く掘り込まれていた。

遺構の切り合い関係は、第125号溝跡より古かった。

第123号住居跡

住居跡の大半は、第125号溝跡に切られていたため、形状など全容を明らかにできなかった。

カマドは、検出できなかった。

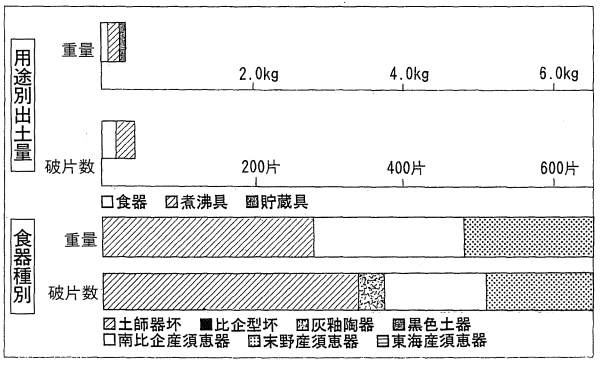
遺構の切り合い関係は、第125号溝跡より古かった。

第124号住居跡

住居跡の大半は、第91・125号溝跡に切られていた。そのため形状など全容を明らかにできなかった。

カマドは、検出できなかった。

遺構の切り合い関係は、第91号溝跡より古く、第164号土壙・第125号溝跡より新しかった。



第235図　第124号住居跡覆土中遺物データ

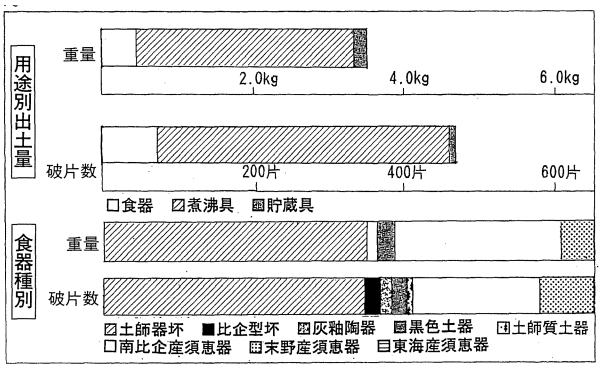
第125号住居跡

住居跡の形状は、東西に長い不整長方形であった。中央東側は、第87号溝跡に破壊され、北東隅は、第163号土壙に破壊されたため、全容は明らかにできなかった。西壁から南壁にかけては、幅約20cmの壁溝が巡っていた。

北壁の西寄りにカマドを検出した。袖は、地山を

掘り残して構築していた。袖は、住居跡内へ短く伸びていた。カマドの燃焼部の全体が、住居内に造られていた。焚き口から燃焼部にかけては、円形の浅い掘り込みがみられた。煙道へは、段をもって移行していた。煙道は、地山を掘り抜いて造られ、煙出しに向かい緩やかに傾斜していた。煙道には、土師器の甕が補強材として使用されていた。

遺構の切り合い関係は、第126号住居跡・第163号土壙・第87・128号溝跡より古かった。



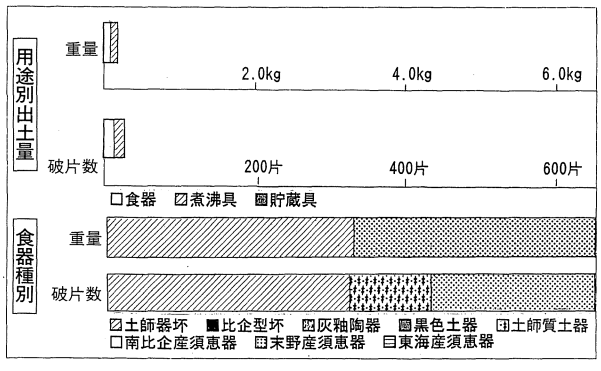
第236図　第125号住居跡覆土中遺物データ

第126号住居跡

住居跡の西側が、第163号土壙と第87号溝跡に切られるため、形状など全容が明らかにできなかった。中央東側には、隅丸長方形の土壙がみられた。規模は、90cm、深さ20cmである。床面に小穴が、4基みられた。

カマドは、検出できなかった。

住居跡中央の床面から須恵器の坏（第342図—21）が出土した。



第237図　第126号住居跡覆土中遺物データ

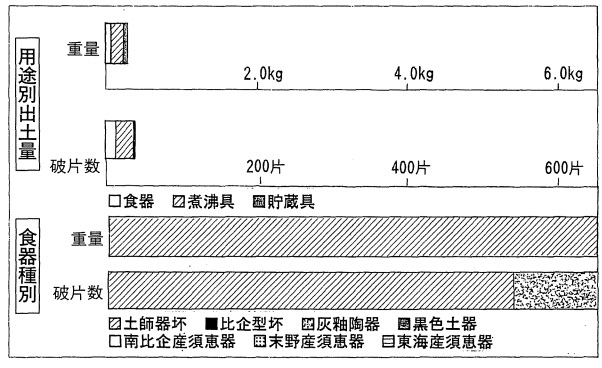
遺構の切り合い関係は、第163号土壙・第87号溝跡より古かった。

第127号住居跡

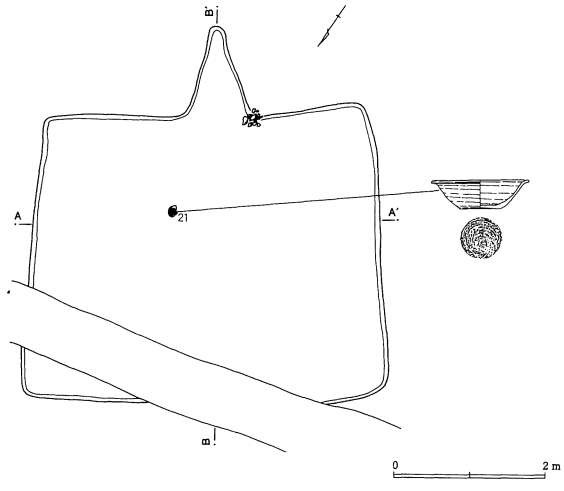
形状は、東西に長い長方形だった。住居跡の北側は、第128号溝跡に切られていた。

カマドは、南壁のやや西寄りに検出した。袖は、検出できなかった。燃焼部の掘り込みは、みられなかった。

遺構の切り合い関係は、第128号溝より古かった。



第238図　第127号住居跡覆土中遺物データ



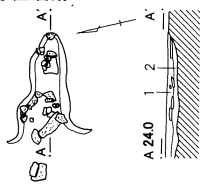
第239図　第127号住居跡遺物出土位置

第128号住居跡

形状は、方形であった。住居跡の中央は、第133号溝跡に破壊され、東側は、第117号溝跡に切られていたため、全容は明らかにできなかった。

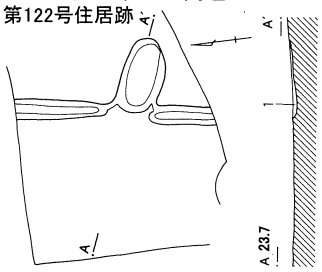
東壁のやや南寄りにカマドを検出した。右半分は、

第120号住居跡



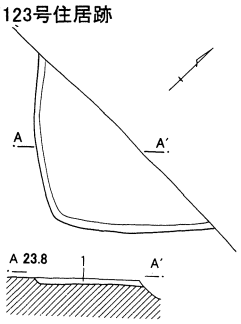
第120号住居跡
1　暗褐色土　焼土ブロック（2～3㎜）・炭化物（1～2㎜）少量
2　暗褐色土　焼土ブロック（3～5㎜）多量　灰・炭化物（2～3㎜）少量

第122号住居跡



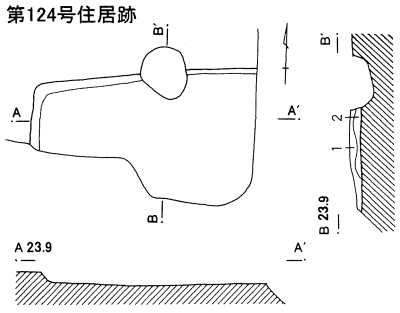
第122号住居跡
1　黒褐色土　炭化物・焼土粒子多量

第123号住居跡



第123号住居跡
1　黒褐色土　黄褐色土ブロック多量

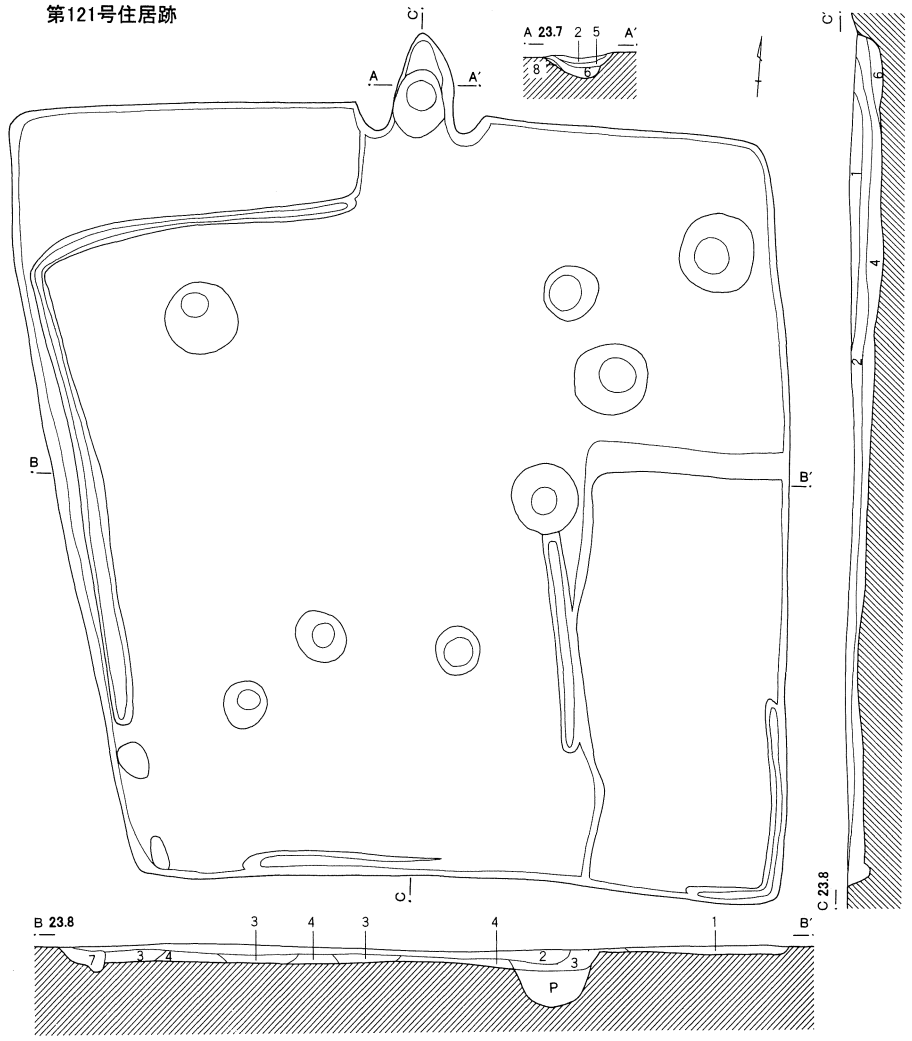
第124号住居跡



第124号住居跡
1　暗褐色土　黄褐色粘土粒子（1～2㎜）まばら　焼土微量
2　暗褐色土　黄褐色粘土ブロック（3～5㎜）多量

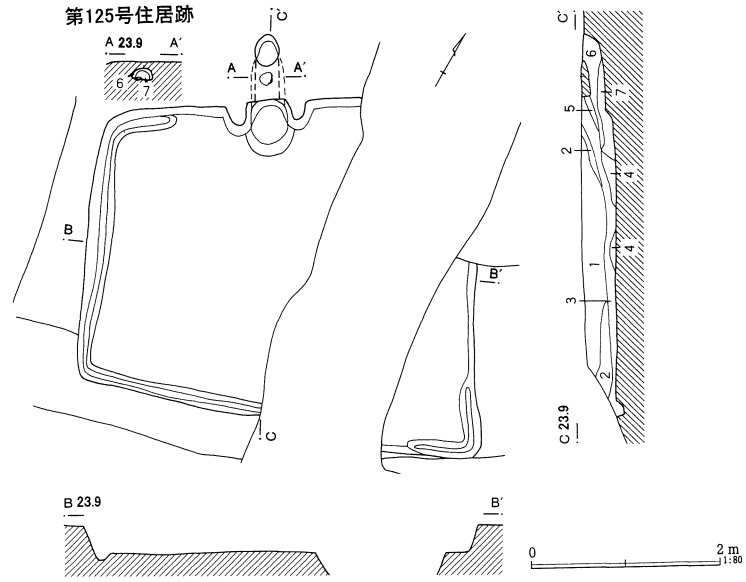
第125号住居跡
1　暗褐色土　黄灰色粘土ブロック（2～3㎜）少量　焼土炭化物（1～2㎜）まばら
2　暗褐色土　黄褐色粘土ブロック（3～5㎜）多量
3　黒褐色土　黄灰色粘土ブロック（3～5㎜）まばら
4　黒褐色土　黄褐色粘土ブロック（8～10㎜）多量
5　黒褐色土　焼土ブロック（3～5㎜）まばら　天井崩落土
6　黒褐色土　焼土ブロック（2～3㎜）まばら　灰多量
7　黒褐色土　炭化物・焼土（2～3㎜）まばら　黄褐色粘土ブロック少量

第121号住居跡



第121号住居跡
1　暗褐色土　黄褐色粘土ブロック（5～8㎜）・焼土・炭化物まばら
2　暗褐色土　黄褐色粘土ブロック（10㎜）少量　焼土（5㎜）・炭化物（5～8㎜）まばら
3　暗褐色土　2層より暗い
4　黄褐色土　黄褐色粘土ブロック（2～3㎜）暗褐色土含む
5　褐灰色土　黄灰色粘土ブロック（10㎜）まばら
6　褐色土　焼土・灰・炭化物多量
7　暗褐色土　黄褐色粘土ブロック（5～8㎜）まばら
8　褐色土　黄灰色粘土ブロック（10㎜）少量

第125号住居跡



0　2m　1:80

第240図　竪穴住居跡(27)

第133号溝跡に切られたため、詳細は明らかにできなかった。左袖は、地山を掘り残して構築し、住居跡内へ短く伸びていた。燃焼部の掘り込みは、みられなかった。

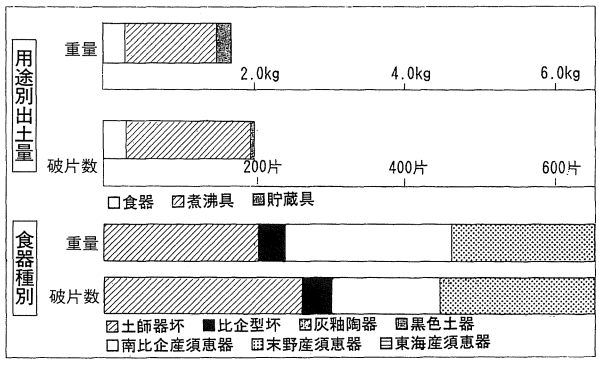
遺構の切り合い関係は、第169号土壙・第117・133号溝跡より古かった。

第129号住居跡

形状は、方形であった。カマド右側の東壁に沿って、方形に張り出した土壙状の施設を検出した。幅80cm、深さ12cmの大きさである。床面には、小穴が12基みられた。

東壁のやや南寄りにカマドを検出した。袖は、地山を掘り残して構築し、住居跡内へ伸びていた。焚き口から燃焼部にかけては、楕円形に浅い掘り込みがみられた。燃焼部から煙道へは、緩やかな段をもって移行していた。

遺構の切り合い関係は、第21号掘立柱建物跡より新しい。



第241図　第129号住居跡覆土中遺物データ

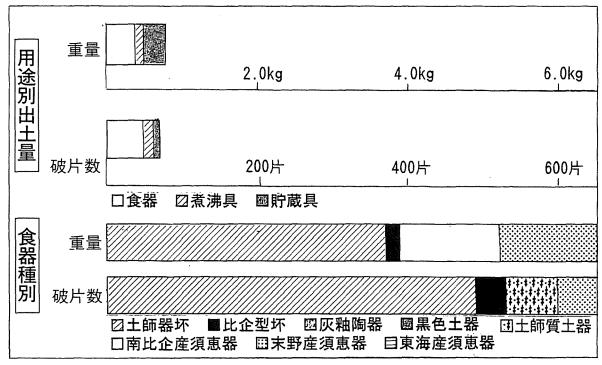
第130号住居跡

住居跡の形状は、東西に長い長方形であった。北壁を除いて、幅約25cmの壁溝が巡っていた。

北壁の東寄りにカマドを検出した。袖は、検出できなかった。焚き口の前面から燃焼部にかけては、隅丸長方形の掘込みがあった。また焚き口前面の左寄りにも、円形の掘込みがあった。燃焼部の奥は、円形に深く掘り込まれていた。燃焼部から煙道部へは、大きな段をもって移行していた。焚き口の両脇には、補強材として凝灰岩切石が使用されていた。

住居跡の北東隅に貯蔵穴を、検出した。貯蔵穴の形状は、円形であった。径30cm、深さ10cmであった。

遺構の切り合い関係は、みられなかった。



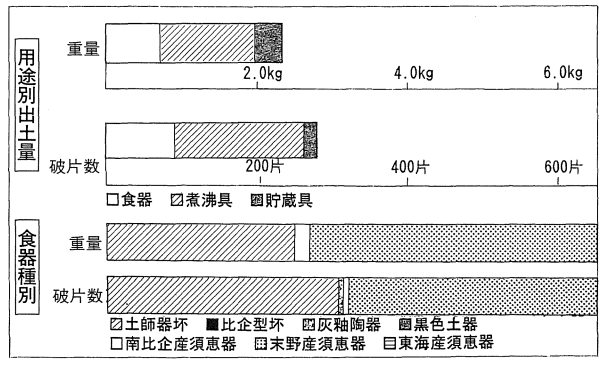
第242図　第130号住居跡覆土中遺物データ

第131号住居跡

住居跡の大半は、第133号住居跡と第151号溝跡に破壊されていたため、形状など全容は解明できなかった。床面には、小穴が3基みられた。

カマドは、検出できなかった。

遺構の切り合い関係は、第132・133号住居跡・第20・22・23・24号掘立柱建物跡より新しく、第151・152号溝跡より古い。



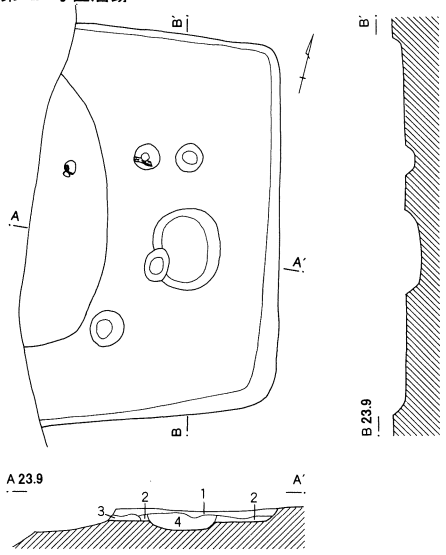
第243図　第131号住居跡覆土中遺物データ

第132号住居跡

形状は、南北に長い不整長方形であった。

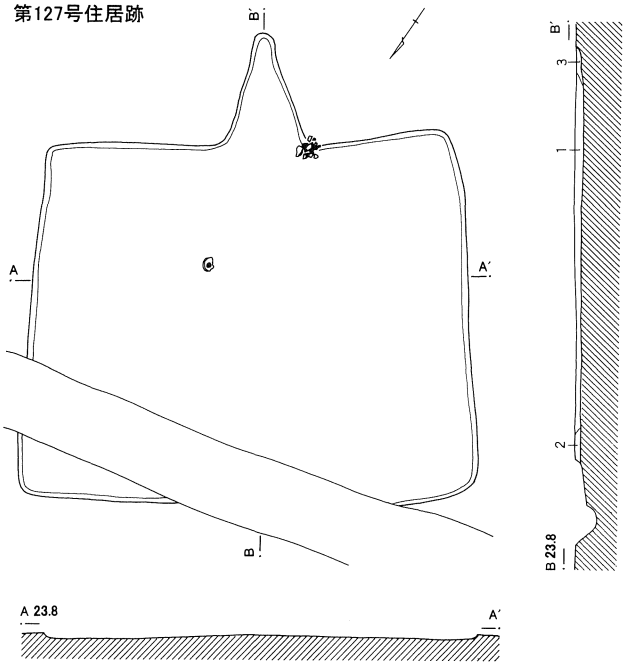
東壁の南寄りにカマドを検出した。袖は、検出で

第126号住居跡



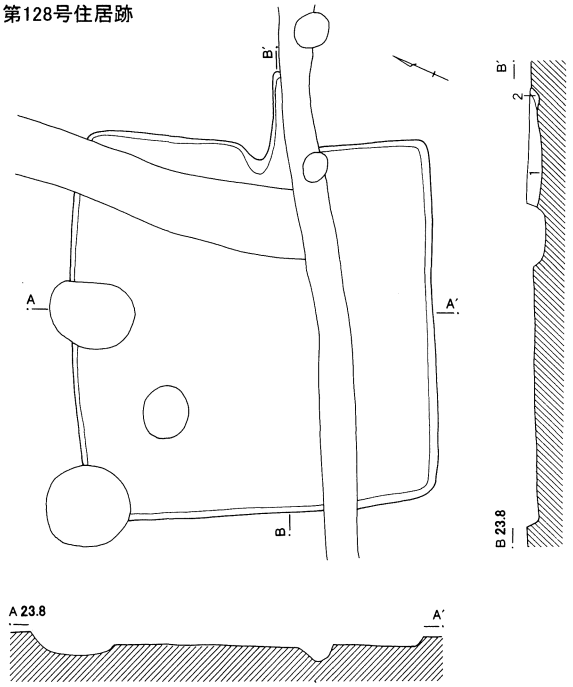
第126号住居跡
1　暗褐色土　黄褐色粘土ブロック（3～5㎜）・炭化物少量　浅間山B軽石含む
2　黄褐色土　黄褐色粘土ブロック（3～5㎜）多量
3　暗褐色土　黄褐色粘土ブロック（1～2㎜）少量
4　暗褐色土　黄灰色粘土ブロック（2～3㎜）多量

第127号住居跡



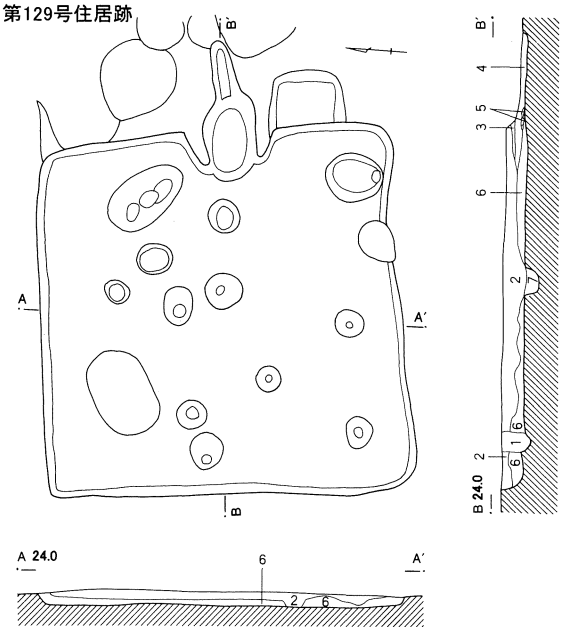
第127号住居跡
1　暗褐色土　粘性強く粒子弱い　炭化物含む
2　黄褐色土　粒子粗く粘性強い　炭化物含む
3　赤褐色土　焼土

第128号住居跡



第128号住居跡
1　暗褐色土　灰層帯状堆積　焼土多量　炭化物少量　粘性弱い
2　灰褐色土　焼土・炭化物微量　粘性弱い

第129号住居跡



第129号住居跡
1　黒褐色土　粘土ブロック（10mm）・粘土粒子少量　しまり・粘性強い
2　黒褐色土　粘土ブロック（10mm）・焼土粒子・炭化物多量　しまり・粘性強い
3　暗褐色土　粘土ブロック・焼土粒子・炭化物少量　しまり・粘性強い
4　黒色土　粘土ブロック（10mm）少量　炭化物多量　しまり弱い　粘性強い
5　黒色土　炭化物少量　しまり弱い　粘性強い
6　黒褐色土　粘土ブロック（20mm）・焼土粒子・炭化物多量　しまり・粘性強い
7　暗褐色土　粘土ブロック（20mm）少量　炭化物多量　しまり・粘性強い

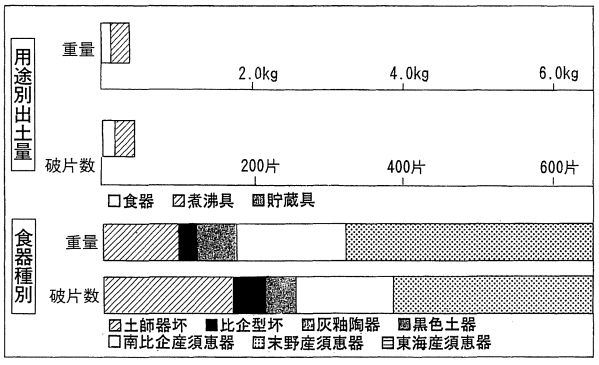
0　2 m
1:80

第244図　竪穴住居跡(28)

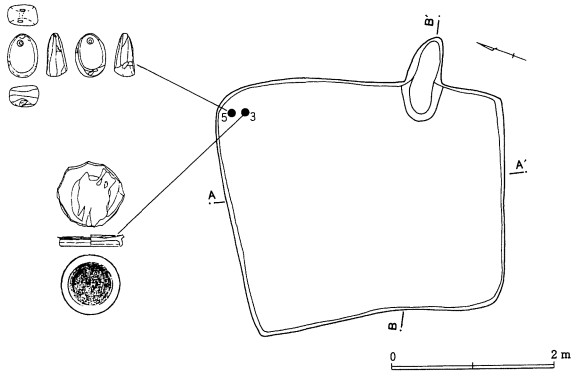
きなかった。燃焼部は、楕円形に浅く掘り込まれていた。

竪穴北西のコーナーから灰釉陶器の埦（第344図―３）と砥石（第344図―５）が出土した。

遺構の切り合い関係は、第133号住居跡・第193号土壙・第20・22・23・24号掘立柱建物跡より新しく、第151・152号溝跡・第131号住居跡より古い。



第245図　第132号住居跡覆土中遺物データ



第246図　第132号住居跡遺物出土位置

第133号住居跡

形状は、不整方形であった。カマドを除いて、幅20cmの壁溝が巡っていた。

東壁の北寄りにカマドを検出した。袖は、検出できなかった。燃焼部は、浅く楕円形に窪み、奥に向かって傾斜していた。

南東隅に貯蔵穴を、検出した。形状は不整形であった。規模は、長径90cm、深さ29cmであった。

遺構の切り合い関係は、第131・132号住居跡・第151・152号溝より古く、第192・193号土壙より新しい。

第134号住居跡

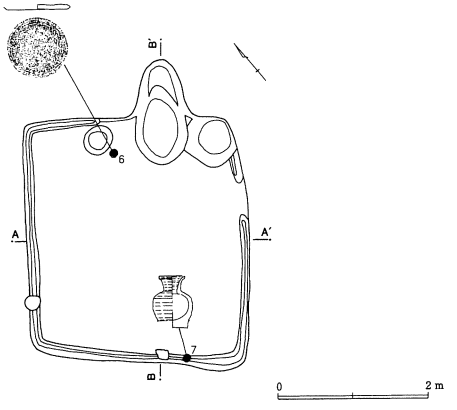
形状は、南北に長い長方形であった。カマドと貯蔵穴を除いて、幅約15cmの壁溝が巡っていた。カマド左側の北壁沿いには、小穴が１基みられた。

北壁の北東隅寄りにカマドを検出した。袖は、検出できなかった。焚き口から燃焼部にかけては、楕円形の掘り込みがみられ、煙道部へ段をもって移行していた。

北東隅に貯蔵穴を検出した。形状は、隅丸方形であった。規模は、径70cm、深さ４cmであった。

カマドの手前から須恵器の坏（第344図―６）の底部が出土した。また南壁の壁周溝内から須恵器の花瓶（第344図―７）が出土した。

遺構の切り合い関係は、第196号土壙より古く、第195・198号土壙・第25号掘立柱建物跡より新しい。



第247図　第134号住居跡遺物出土位置

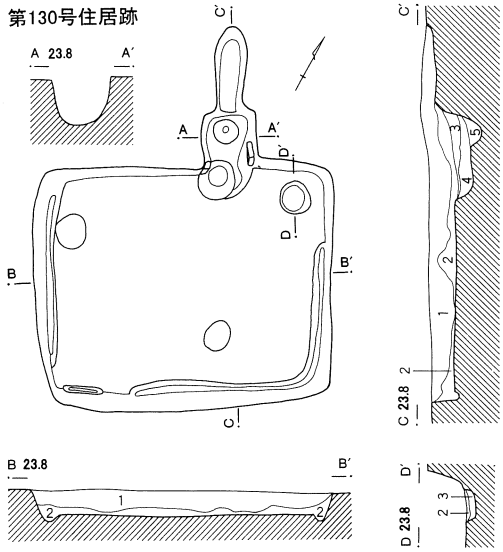
第135号住居跡

住居跡は、西側を第151号溝跡に切られたため、形状など全容を明らかにできなかった。

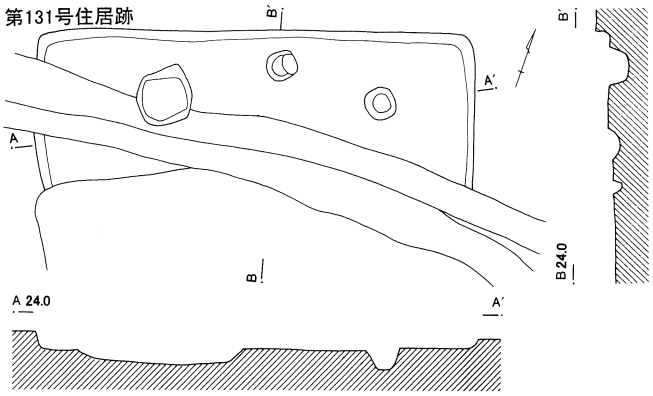
東壁の北寄りにカマドを検出した。袖は、みられなかった。燃焼部には、掘り込みはみられず、煙道部へは、段をもたずに移行していた。

遺構の切り合い関係は、第125・151号溝跡より古

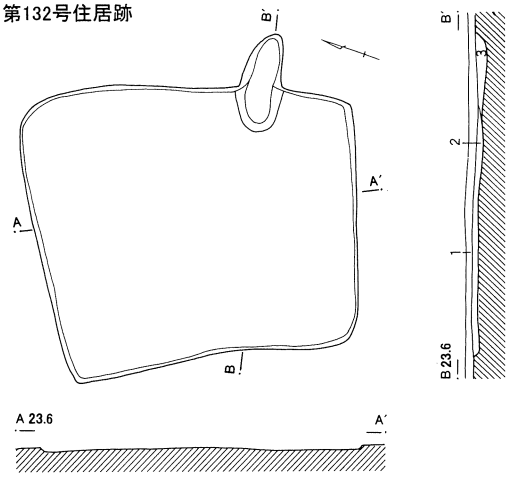
第130号住居跡



第131号住居跡

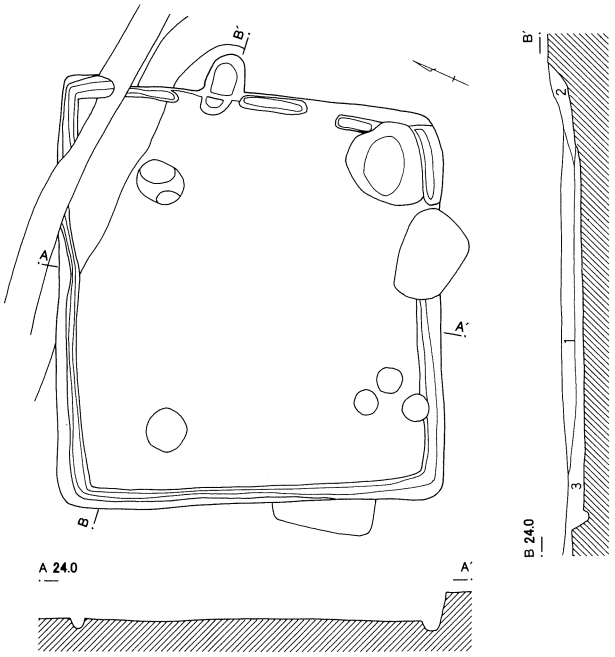


第132号住居跡



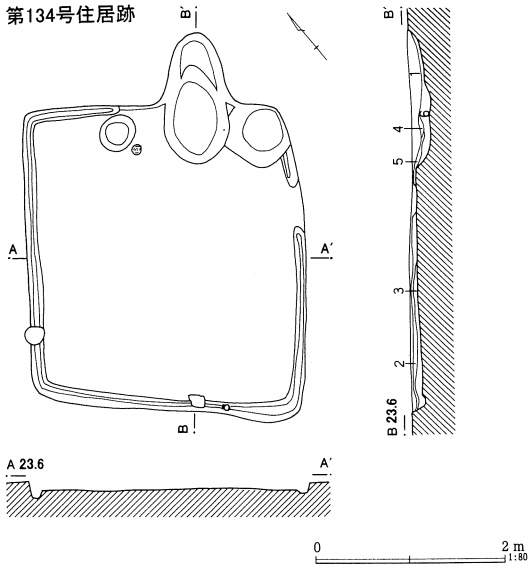
第130号住居跡
1　黒褐色土　粘土粒子・粘土ブロック（４０㎜）多量　炭化物少量　しまり強い　粘性弱い
2　暗黄褐色土　粘土粒子・粘土ブロック多量　炭化物少量　しまり弱い　粘性強い
3　黒色土　炭化物少量　しまり弱い　粘性強い
4　黒褐色土　粘土粒子・粘土ブロック（１０㎜）・炭化物少量　しまり・粘性強い
5　暗黄褐色土　粘土粒子・粘土ブロック（５０㎜）多量　しまり・粘性強い

第133号住居跡



第132号住居跡
1　暗褐色土　黄褐色ブロック少量
2　暗褐色土　粘性弱く粒子粗い　炭化物含む
3　黄褐色土　粘性強く粒子粗い

第134号住居跡



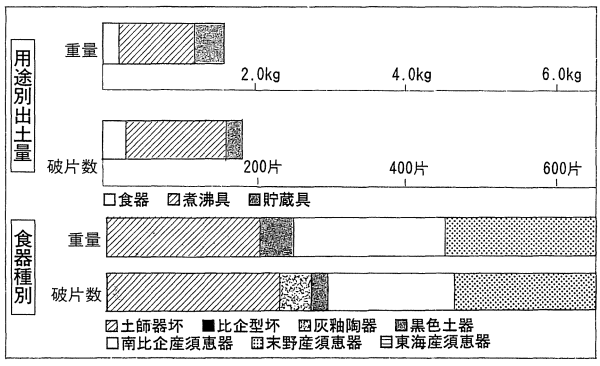
第133号住居跡
1　黒色土　焼土粒子微量含む
2　赤褐色土　焼土・炭化物層
3　黒色土　粒子粗く粘性弱い

第134号住居跡
1　暗褐色土　炭化物・焼土含む　粒子粗く粘性強い
2　暗黄褐色土　黄褐色ブロック多量
3　黒色土　粘性強く粒子粗い　炭化物
4　黒色土　炭化物
5　赤褐色土　焼土
6　暗褐色土　黄褐色粘土ブロック

0　2 m
1:80

第248図　竪穴住居跡(29)

く、第26・27号掘立柱建物跡より新しかった。



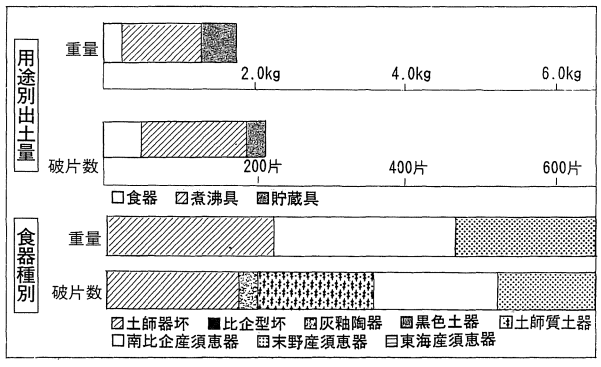
第249図　第135号住居跡覆土中遺物データ

第136号住居跡

住居跡の形状は、不整方形であった。

北壁の西寄りにカマドを検出した。袖は、地山を掘り残して構築し、ごく短く住居跡内へ伸びていた。焚き口の前面には、円形の掘り込みがみられた。燃焼部は、浅く掘り込まれており、煙道へ小さな段をもって移行していた。

遺構の切り合い関係は、第200号土壙・第87号溝跡より新しかった。



第250図　第136号住居跡覆土中遺物データ

第137号住居跡

住居跡の上部は、遺構確認の際に削平されたため、床面近くのみを検出した。

住居跡の形状は、南北に長い長方形であった。

カマドは、検出できなかった。

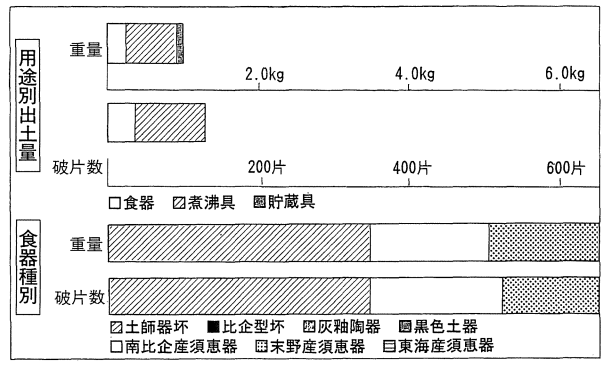
遺構の切り合い関係は、第203号土壙・第157号溝跡より古かった。

第138号住居跡

住居跡の形状は、方形であった。カマドを除き、幅約18cmの壁溝が巡っていた。

東壁の北東寄りにカマドを検出した。袖は、検出できなかった。燃焼部は、浅い円形の掘り込みがみられた。

遺構の切り合い関係は、第139・140号住居跡・第30号掘立柱建物跡より新しかった。



第251図　第138号住居跡覆土中遺物データ

第139号住居跡

住居跡の大半は、第138・140号住居跡に切られるため、全容は明らかにできなかった。形状は、方形と判断した。南壁には、幅約15cmの壁溝がみられた。

東壁の南寄りにカマドを検出した。袖は、みられなかった。燃焼部は、不整形に掘り込まれていた。

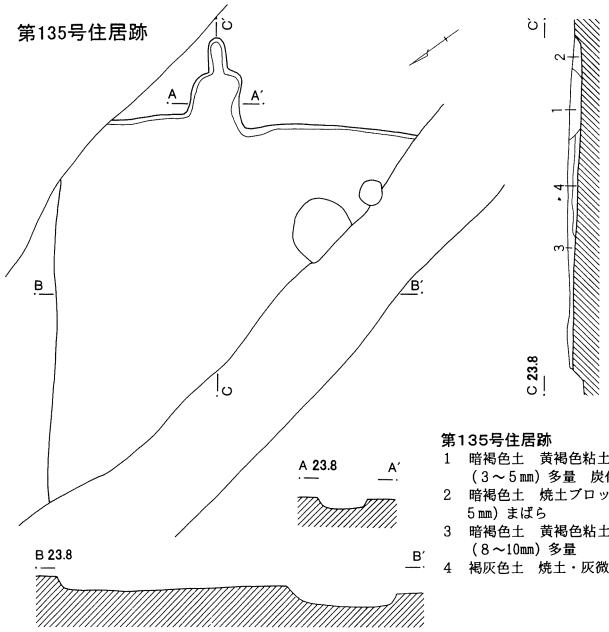
遺構の切り合い関係は、第138・第140号住居跡・第33号掘立柱建物跡より古かった。

第140号住居跡

住居跡の大半は、第138号住居跡に切られるため、全容は明らかにできなかった。住居跡の形状は、南北に長い長方形であった。カマドと西壁中央を除き、幅約20cmの壁溝が巡っていた。

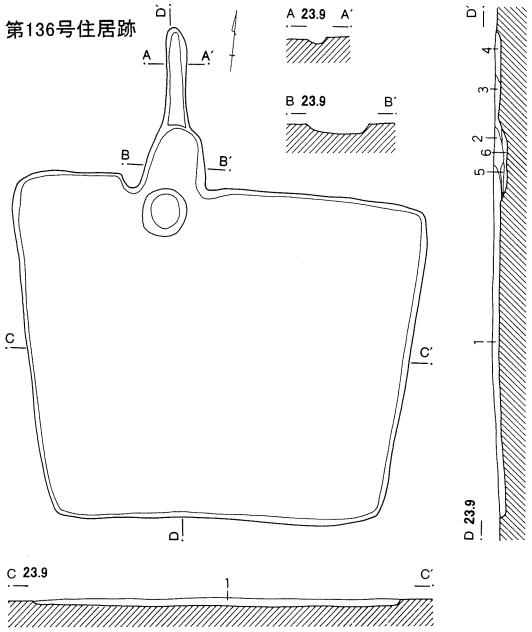
北壁のやや東寄りにカマドを検出した。袖は、検出できなかった。燃焼部には、掘り込みはみられな

第135号住居跡



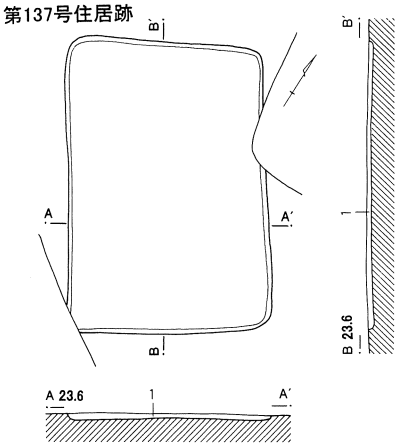
第135号住居跡
1　暗褐色土　黄褐色粘土ブロック（3～5㎜）多量　炭化物少量
2　暗褐色土　焼土ブロック（3～5㎜）まばら
3　暗褐色土　黄褐色粘土ブロック（8～10㎜）多量
4　褐灰色土　焼土・灰微量

第136号住居跡



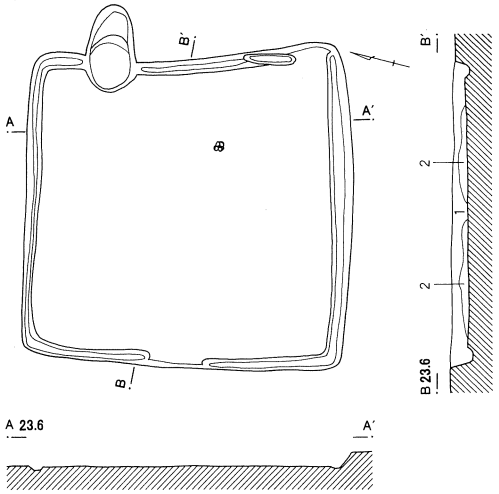
第136号住居跡
1　暗褐色土　黄灰色粘土ブロック（2～3㎜）まばら　焼土微量
2　暗褐色土　焼土粒子（2～3㎜）まばら
3　黒灰色土　焼土ブロック（2～3㎜）・灰多量
4　暗褐色土　焼土ブロック（2～3㎜）多量　灰少量
5　黒灰色土　灰多量
6　暗褐色土　焼土粒子（1～2㎜）・黄灰色粘土粒子（1～2㎜）少量

第137号住居跡



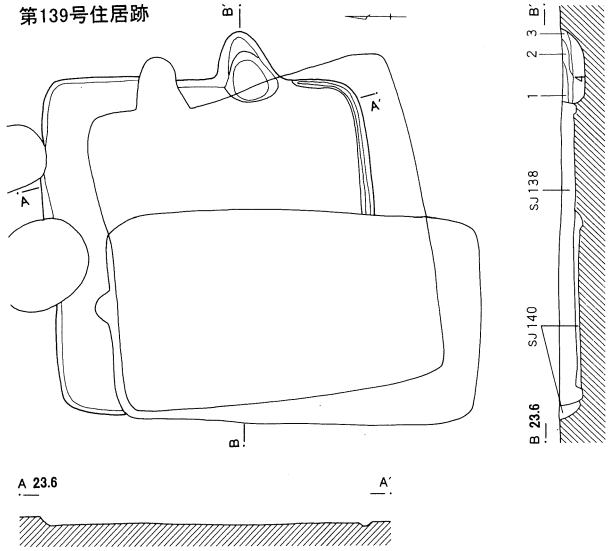
第137号住居跡
1　暗灰褐色土　焼土粒子少量　黄褐色土ブロック多量

第138号住居跡



第138号住居跡
1　黒褐色土　焼土粒子含む　黄褐色土ブロック微量　粘性あり
2　暗褐色土　焼土粒子微量　黄褐色土ブロック含む　粘性あり

第139号住居跡



第139号住居跡
1　褐色土　黄褐色土ブロック多量　粘性あり
2　黒褐色土　焼土粒子多量　焼土ブロック多量　黄褐色土ブロック微量　粘性あり
3　暗褐色土　焼土粒子含　焼土ブロック微量　粘性あり
4　暗褐色土　焼土ブロック微量　黄褐色土ブロック多量　粘性あり　カマド掘り方

0　2m
1:80

第252図　竪穴住居跡(30)

かった。

遺構の切り合い関係は、第138号住居跡・第33号掘立柱建物跡より古く、第139号住居跡より新しかった。

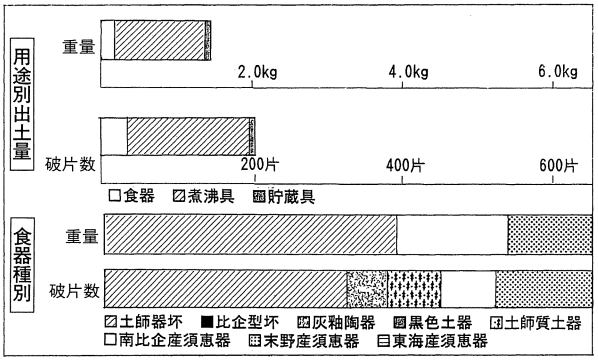
第141号住居跡

形状は、東西にやや長い長方形であった。南壁中央には、小穴が１基みられた。

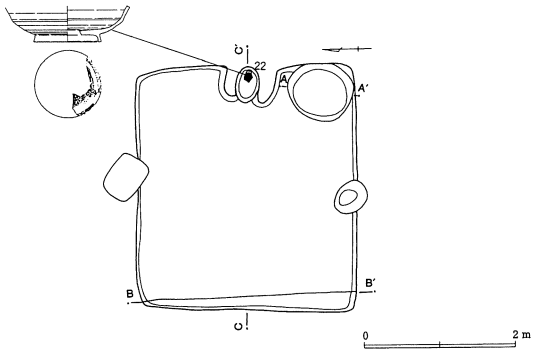
東壁の中央にカマドを検出した。袖は、地山を掘り残して構築し、住居跡内へ伸びていた。燃焼部は、楕円形に浅く掘り込まれ、奥に向かって傾斜していた。

住居跡の南東隅に貯蔵穴を検出した。隅丸方形の貯蔵穴であった。規模は径80cm、深さ34cmであった。

カマドの燃焼部内から緑釉陶器の稜埦（第344図—22）が出土した。



第253図　第141号住居跡覆土中遺物データ



第254図　第141号住居跡遺物出土位置

遺構の切り合い関係は、第142号住居跡より新しく、第233号土壙より古かった。

第142号住居跡

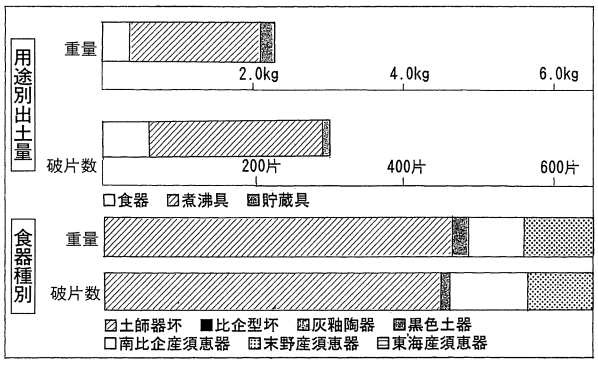
形状は、不整方形であった。西壁と南壁には、約幅20cmの壁溝が巡っていた。

北壁の東寄りにカマドを検出した。袖は、検出できなかった。燃焼部には、深い方形の掘り込みがみられ、煙道部へ段をもって移行していた。

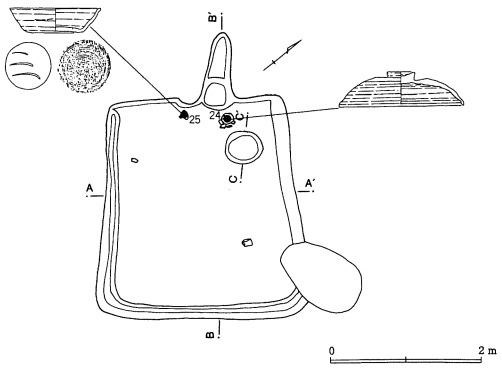
北東隅に貯蔵穴を検出した。規模は、径40cm、深さ12cmの円形の貯蔵穴であった。

カマドの手前から須恵器の蓋（第344図—24）が出土した。また左袖の手前から須恵器の坏（第344図—25）が出土した。

遺構の切り合い関係は、第141号住居跡・第233号土壙より古かった。

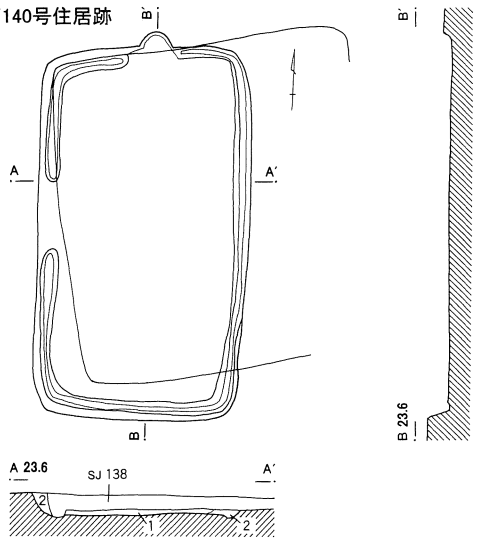


第255図　第142号住居跡覆土中遺物データ



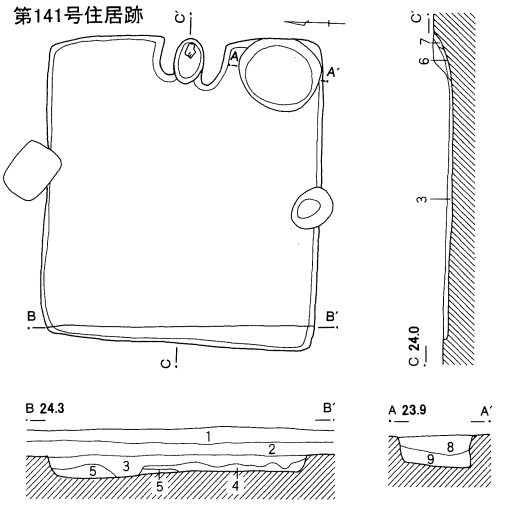
第256図　第142号住居跡遺物出土位置

第140号住居跡



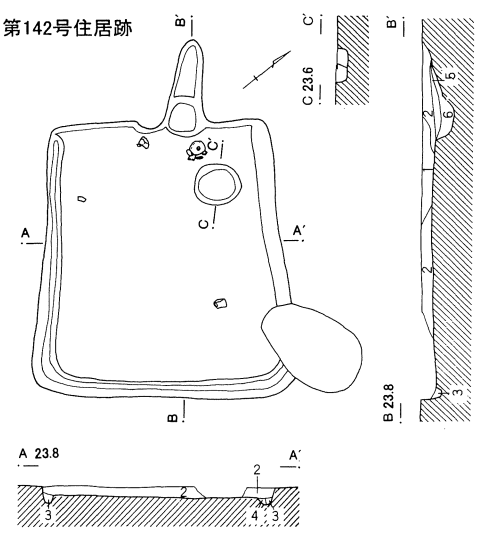
第140号住居跡
1　褐色土　焼土粒子微量　淡灰黄褐色土ブロック多量　粘性強い
2　黒褐色土　焼土粒子微量　粘性あり

第141号住居跡



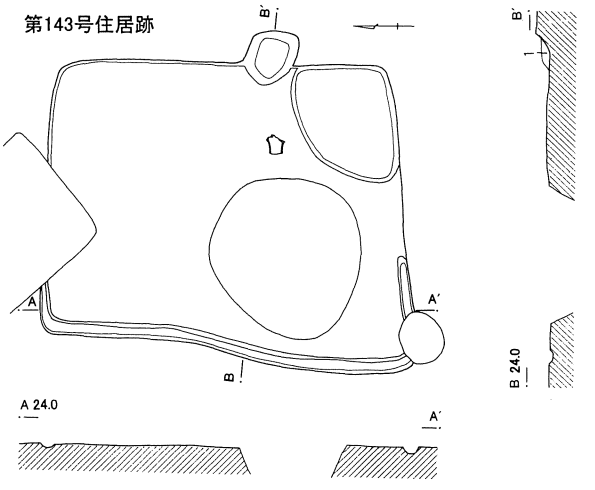
第141号住居跡
1　表土（耕作土）
2　黒色土　粒子粗く粘性強い　炭化物・焼土粒子含む
3　淡黒色土　粒子粗く粘性強い　焼土粒子含む
4　黄褐色土　黄褐色粘土を含む
5　黄褐色土　掘り方覆土
6　赤褐色土　焼土粒子含む
7　黒色土　焼土粒子多量　炭化物含む
8　暗褐色土　焼土・黄褐色粘土をまばらに含む　しまり強い
9　暗褐色土　黄褐色粘土ブロック（8～10mm）をまばらに含む　しまり強い

第142号住居跡



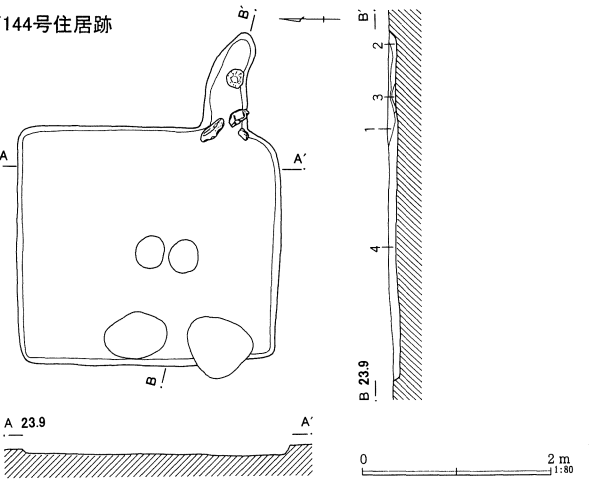
第142号住居跡
1　灰褐色土　黄褐色粘土ブロックまばら　焼土粒子微量　しまり・粘性あり
2　灰褐色土　黄褐色粘土ブロック・焼土ブロック少量　しまり・粘性あり
3　灰褐色土　黄褐色粘土ブロックまばら　しまり・粘性あり　焼土ブロック少量　炭化物含む
4　灰褐色土　黄褐色粘土ブロック多量　しまり・粘性あり
5　黄褐色土　炭化物微量含む　しまり・粘性あり
6　黒色土　炭化物・灰含む

第143号住居跡



第143号住居跡
1　暗褐色土　焼土ブロック（2～3㎜）多量

第144号住居跡



第144号住居跡
1　黒褐色土　焼土粒子・炭化物微量　粘土粒子含む　しまり強い　粘性弱い
2　黒褐色土　焼土粒子・炭化物少量　しまり強い　粘性弱い
3　赤褐色土　焼土層中に炭化物少量　しまり強い　粘性弱い
4　黒褐色土　焼土粒子・炭化物・粘土粒子少量　しまり強　粘性弱い

第257図　竪穴住居跡(31)

第143号住居跡

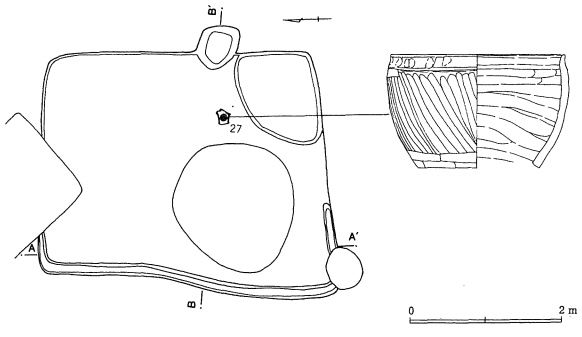
形状は、南北に長い不整長方形であった。北西隅から南西隅にかけて幅約18cmの壁溝が巡っていた。

東壁の南寄りにカマドを検出した。袖は、みられなかった。燃焼部は、不整方形の浅い掘り込みがあった。燃焼部から片岩が出土した。

南東隅に貯蔵穴を検出した。形状は、不整方形であった。規模は、径120cm、深さ15cmであった。

カマド焚き口の手前から土師器の土釜（第344図—27）が出土した。

遺構の切り合い関係は、第40号井戸跡・第36号掘立柱建物跡より古く、第231・235号土壙より新しかった。



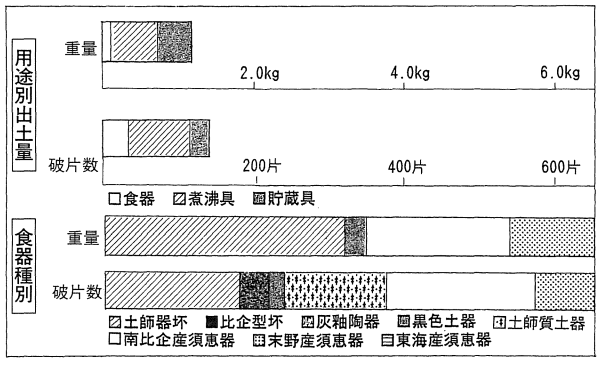
第258図　第143号住居跡遺物出土位置

第144号住居跡

形状は、方形であった。

カマドは、東壁の南東隅によってみられた。袖は、検出できなかった。燃焼部の掘り込みは、みられなかった。焚き口の両脇から自然石が出土した。カマドの補強材として使用したと判断した。燃焼部の奥からは、自然石が出土した。

遺構の切り合い関係は、第200号土壙・第87号溝跡より新しかった。



第259図　第144号住居跡覆土中遺物データ

第145号住居跡

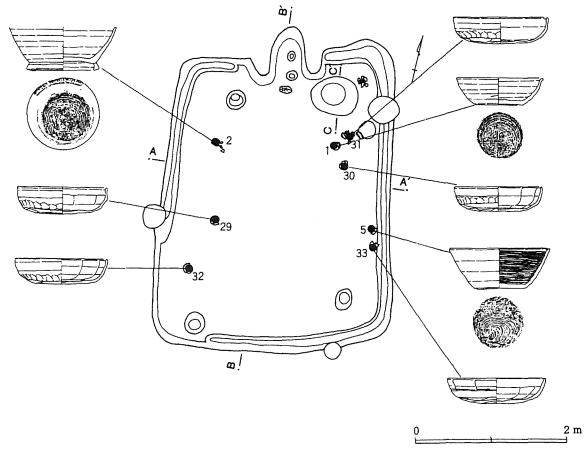
住居跡の形状は、南北に長い長方形であった。カマドと南西隅を除いて、幅約20cmの壁溝が巡っていた。柱穴は、床面に3基みられた。規模は、径20～30cm、深さ18～35cmであった。

北壁の中央にカマドを検出した。袖は、地山を掘り残して構築しており、住居跡内へ伸びていた。燃焼部の掘り込みは、みられなかった。燃焼部の底面には、縦に並んだ支脚の抜き取り痕がみられた。煮沸具を二つ掛けたカマドであろう。

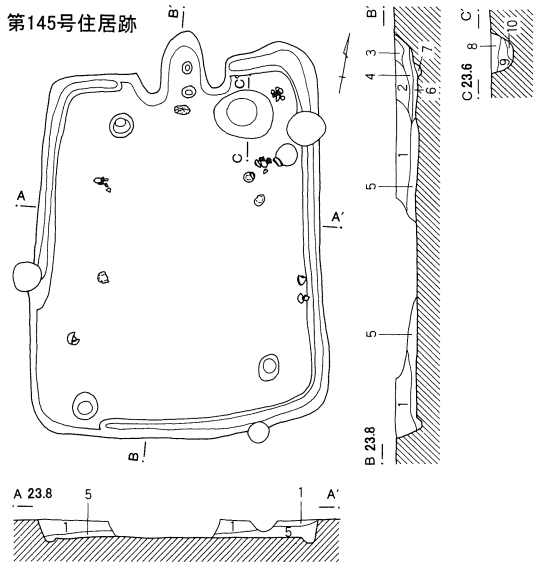
北東隅に貯蔵穴を、検出した。形状は、隅丸方形で、規模は、径50cm、深さ14cmであった。

貯蔵穴前に須恵器の坏（第345図—1）と土師器の坏（第344図—30・31）がまとまって出土した。また南壁に接して土師器の坏（第344図—33）と黒色土器の坏（第345図—5）が出土した。さらに北壁に沿って須恵器の高台付埦（第345図—2）や土師器の坏2点（第344図—29・32）が出土した。

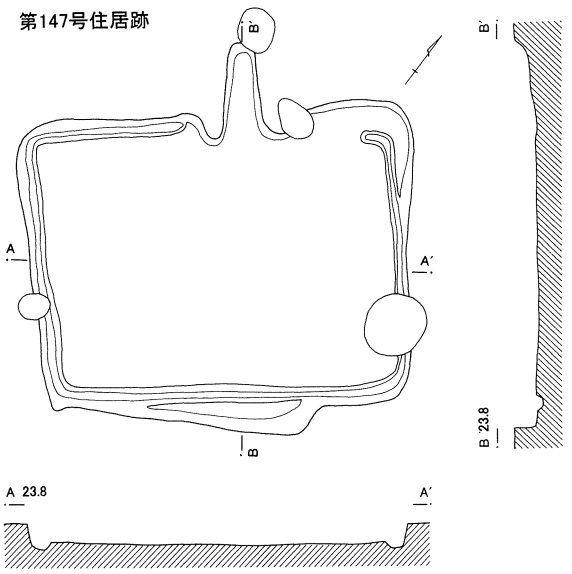
遺構の切り合い関係は、第146号住居跡・第243号土壙・第32号掘立柱建物跡より新しかった。

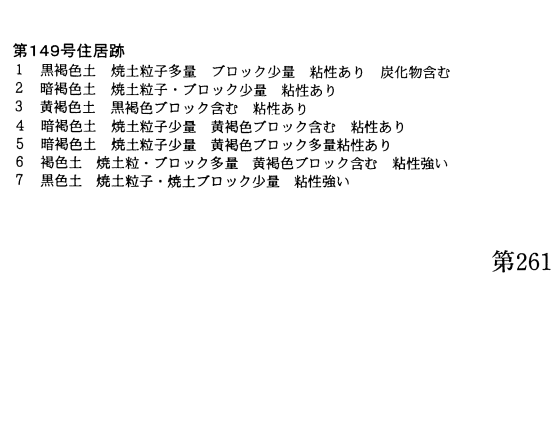


第260図　第145号住居跡遺物出土位置

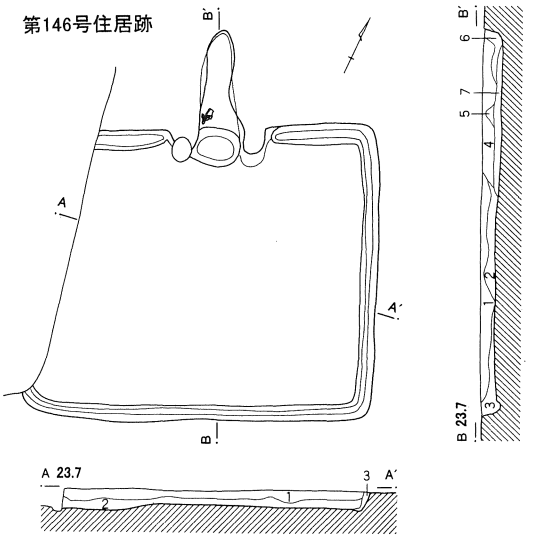


第145号住居跡
1 暗褐色土　炭化物微量　焼土粒子含む　粘性あり
2 褐色土　炭化物含む　焼土粒子多量　焼土ブロック多量　粘性強い　カマド天井部崩落土
3 暗褐色土　炭化物多量　焼土粒子多量　粘性あり
4 黒褐色土　炭化物多量　焼土粒子多量　粘性あり
5 褐色土　炭化物・焼土粒子少量　黄褐色ブロック含む　粘性あり
6 黒色土　灰・炭化物
7 黒褐色土　粘性多量　炭化物微量
8 暗褐色土　炭化物・黄褐色ブロック微量　焼土粒子含む　粘性あり
9 暗褐色土　炭化物　黄褐色ブロック多量　粘性あり
10 暗褐色土　炭化物・黄褐色ブロック微量　粘性あり

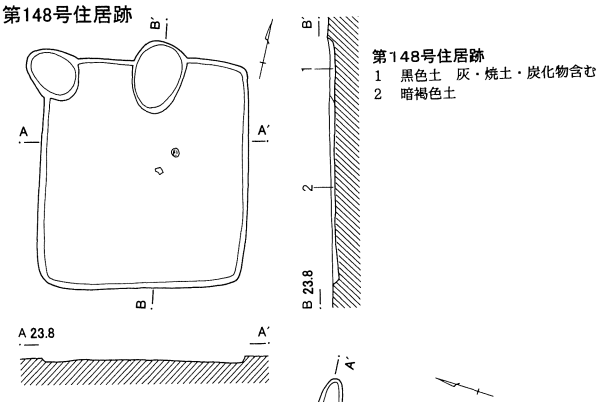




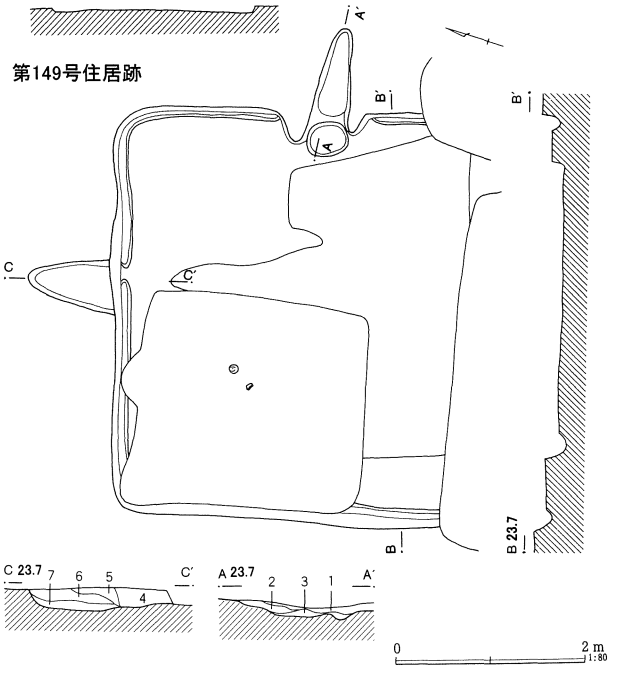
第149号住居跡
1 黒褐色土　焼土粒子多量　ブロック少量　粘性あり　炭化物含む
2 暗褐色土　焼土粒子・ブロック少量　粘性あり
3 黄褐色土　黒褐色ブロック含む　粘性あり
4 暗褐色土　焼土粒子少量　黄褐色ブロック含む　粘性あり
5 暗褐色土　焼土粒子少量　黄褐色ブロック多量粘性あり
6 褐色土　焼土粒・ブロック多量　黄褐色ブロック含む　粘性強い
7 黒色土　焼土粒子・焼土ブロック少量　粘性強い



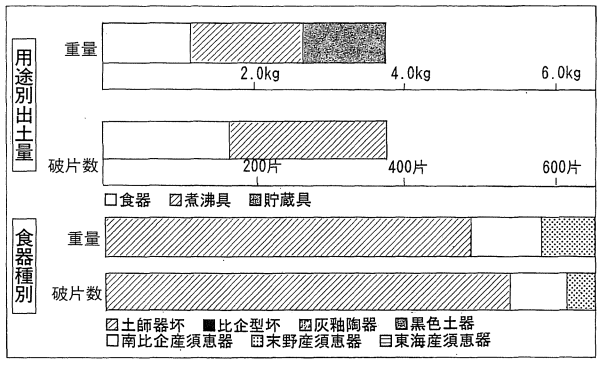
第146号住居跡
1 暗褐色土　焼土粒子・黄褐色土ブロック含む　粘性あり
2 暗褐色土　焼土粒子微量　黄褐色土ブロック多量　粘性あり
3 黒褐色土　粘性強い
4 褐色土　焼土ブロック下位に多量　焼土粒子多量　黄褐色土ブロック多量　粘性強い　カマド天井部崩落土
5 黒褐色土　焼土ブロック・焼土粒子微量　黄褐色土ブロック少量　粘性あり
6 暗褐色土　焼土ブロック微量　焼土粒子少量　粘性あり
7 黒色土　焼土ブロック微量　焼土粒子少量　粘性あり



第148号住居跡
1 黒色土　灰・焼土・炭化物含む
2 暗褐色土



第261図　竪穴住居跡(32)



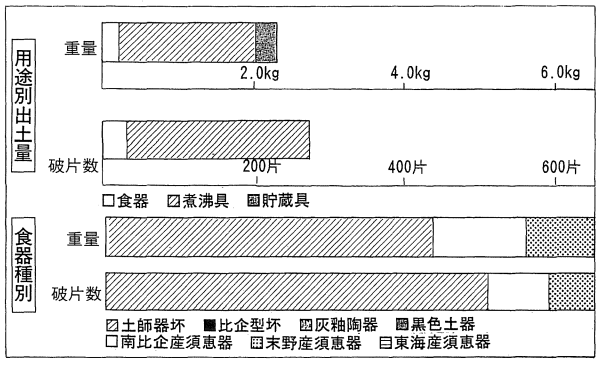
第262図　第145号住居跡覆土中遺物データ

第146号住居跡

住居跡の西側が、第145号住居跡に切られたため、全容を明らかにできなかった。住居跡の形状は、東西に長い長方形と判断した。カマドを除き、幅約20cmの壁溝が巡っていた。

北壁のやや東寄りにカマドを検出した。袖は、地山を掘り残して構築しており、住居跡内へ短く伸びていた。焚き口から燃焼部にかけては、楕円形の浅い掘り込みがみられた。燃焼部は、段をもたずに煙道へ移行していた。煙道は、奥に向かって低く傾斜し、煙出しは、垂直に立ち上がっていた。

遺構の切り合い関係は、第145号住居跡より古く、第243号土壙・第31・32号掘立柱建物跡より新しかった。



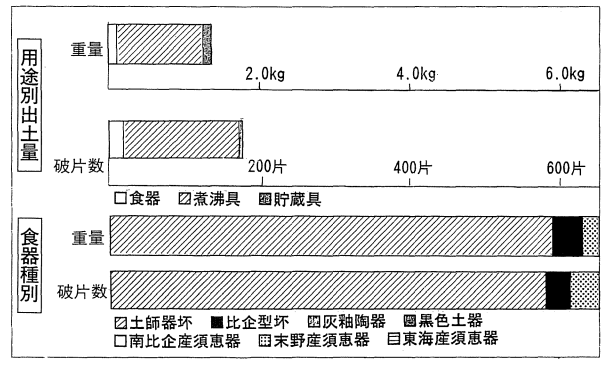
第263図　第146号住居跡覆土中遺物データ

第147号住居跡

形状は、東西に長い不整長方形であった。カマドを除いて、幅約20cmの壁溝が巡っていた。また南壁に、三角形の張り出しがみられた。

北壁の東寄りにカマドを検出した。袖は、地山を掘り残して構築しており、住居跡内へ短く伸びていた。燃焼部の掘り込みは、みられなかった。燃焼部から煙道へは、段をもたず緩やかに移行していた。

遺構の切り合い関係は、第161号住居跡・第31・32号掘立柱建物跡より新しかった。



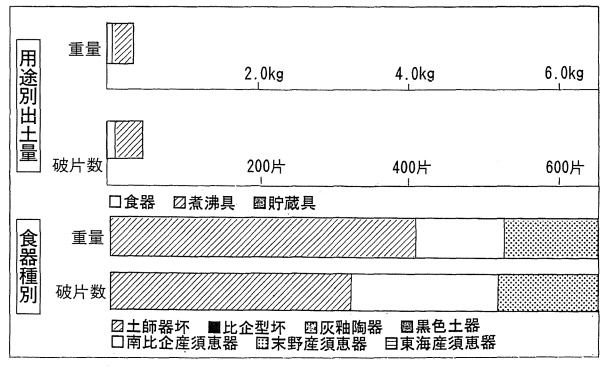
第264図　第147号住居跡覆土中遺物データ

第148号住居跡

上部は、遺構確認時に削平したため、床面近くが残った。住居跡の形状は、方形であった。

2ヶ所にカマドを確認した。カマドも底面のみのであったため詳細は明らかにできなかった。

北西隅に1号カマドを検出した。袖は、みられなかった。燃焼部は、浅く楕円形に掘り込まれていた。



第265図　第148号住居跡覆土中遺物データ

北壁のやや東寄りに2号カマドを、検出した。袖は、検出できなかった。燃焼部は、浅く楕円形に掘り込まれていた。

遺構の切り合い関係は、第149・150号住居跡・第31・32号掘立柱建物跡より新しく、第176号溝跡より古い。

第149号住居跡

住居跡の大半は、第148・150・151号住居跡に切られたため、形状など全容を明らかにすることはできなかった。東壁のカマドを除き、幅約18cmの壁溝が巡っていた。

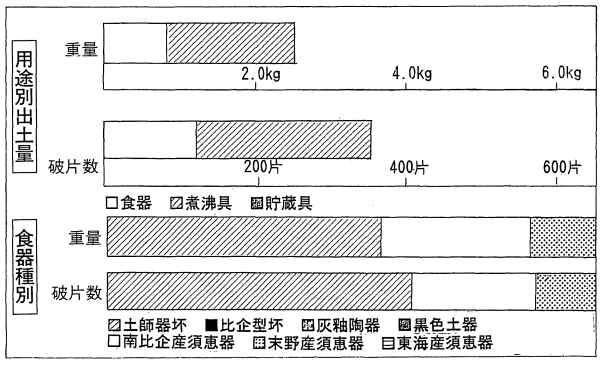
2ヶ所のカマドを検出した。二基のカマドは、1号カマドから2号カマドに付け替えられたと、覆土の堆積状況から判断した。

北壁の東寄りに1号カマドを検出した。袖は、みられなかった。浅い掘り込みが、燃焼部にみられた。

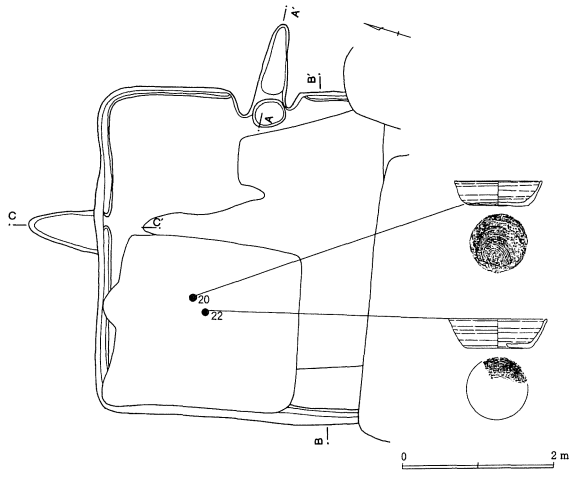
東壁に2号カマドを検出した。袖は、地山を掘り残して構築し、住居跡内へ短く伸びていた。焚き口には、楕円形の掘り込みがみられた。燃焼部は、浅く掘り込まれ、煙道へ小さな段をもって移行していた。

住居跡の中央やカマドよりの床面から須恵器の坏2点（第345図—20・21）が出土した。

遺構の切り合い関係は、第148・150・151・163号住居跡・第176号溝跡より古く、第245号土壙・第31・32号掘立柱建物跡より新しかった。



第266図　第149号住居跡覆土中遺物データ



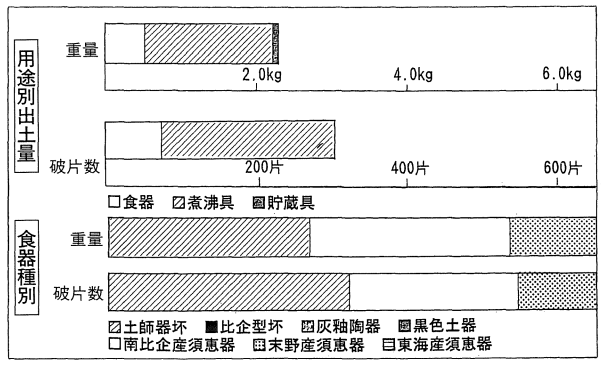
第267図　第149号住居跡遺物出土位置

第150号住居跡

住居跡の南側は、第151号住居跡に破壊されていた。北西隅は、第148号住居跡に切られるため、形状など全容は明らかにできなかった。カマドを除き、幅約20cmの壁溝が巡っていた。

北壁の東寄りにカマドがみられた。袖は、地山を掘り残して構築していた。袖は、住居跡内へ伸びていた。焚き口の前面から燃焼部にかけては、楕円形の浅い掘り込みがみられた。燃焼部から煙道部へ、段をもって緩やかに移行していた。また煙出しも段をもって移行していた。

遺構の切り合い関係は、第148・151・163号住居跡より古く、第149号住居跡・第245号土壙・第31・32号掘立柱建物跡より新しかった。



第268図　第150号住居跡覆土中遺物データ

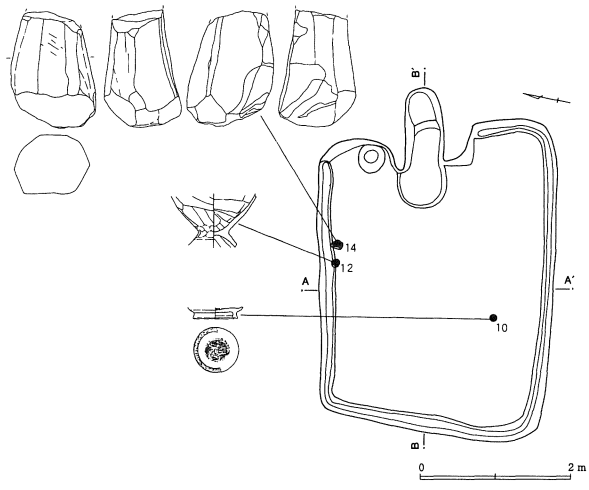
第151号住居跡

住居跡の形状は、東西に長い長方形であった。北東隅とカマドを除き、幅約20cmの壁溝が巡っていた。カマド左側には、小穴が１基みられた。

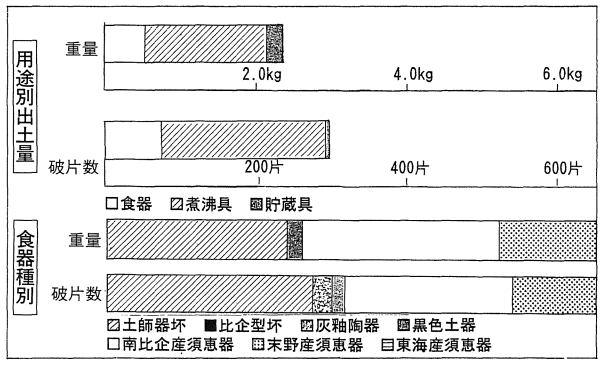
東壁の北寄りにカマドを検出した。袖は、地山を掘り残して構築していた。また袖は、住居跡内へ伸びていた。焚き口の前面から燃焼部にかけては、浅い楕円形の掘り込みがみられた。燃焼部から煙道へは、段をもたずに移行していた。

住居跡の北壁に接して砥石（第346図—14）と土師器の台付甕（第346図—12）が出土した。また中央南よりの床面から須恵器の高台付埦（第346図—10）が出土した。

遺構の切り合い関係は、第149・150・163号住居跡・第31・32号掘立柱建物跡より新しかった。



第269図　第151号住居跡遺物出土位置



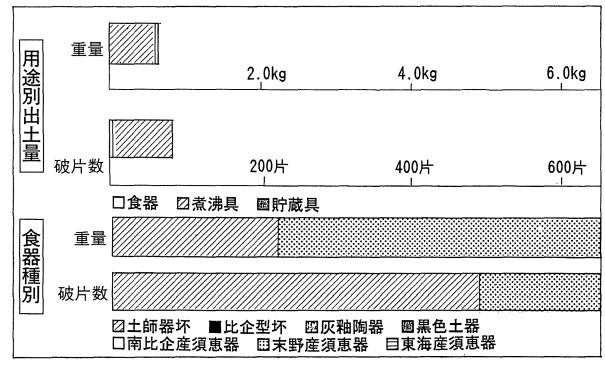
第270図　第151号住居跡覆土中遺物データ

第152号住居跡

住居跡の西側は、第153号住居跡に破壊されたため、全容は明らかにできなかった。住居跡の形状は、方形であった。カマドを除き、幅約18cmの壁溝が巡っていた。

北壁の東寄りにカマドを検出した。右袖は、地山を掘り残して構築しており、住居跡内へ短く伸びていた。左袖は、第153号住居跡に破壊されていた。燃焼部の掘り込みはみられなかった。

遺構の切り合い関係は、第28号掘立柱建物跡・第153号住居跡より古かった。



第271図　第152号住居跡覆土中遺物データ

第153号住居跡

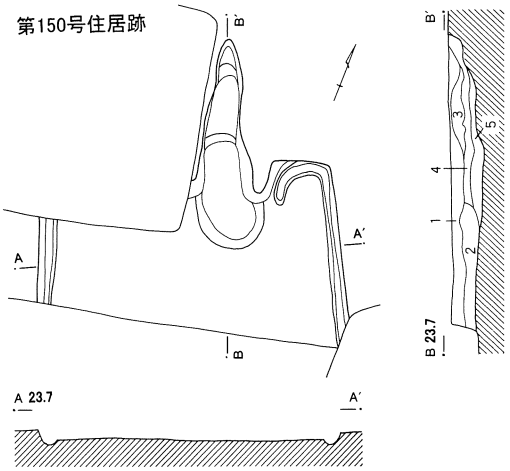
住居跡の形状は、東西に長い長方形であった。カマドと南東隅を除き、幅約20cmの壁溝が巡っていた。

東壁の南東隅寄りにカマドを、検出した。袖は、地山を掘り残して構築していた。袖は、住居跡内へ伸びていた。左袖の先端には、燃焼部には、掘り込みがみられなかった。

カマドの燃焼部中から土師器の坏（第346図—22）が出土した。またカマド左袖に土師器の甕３点（第347図—１・２・３）が埋め込まれていた。さらに北西隅の床面から須恵器の高台付埦（第346図—28）が出土した。

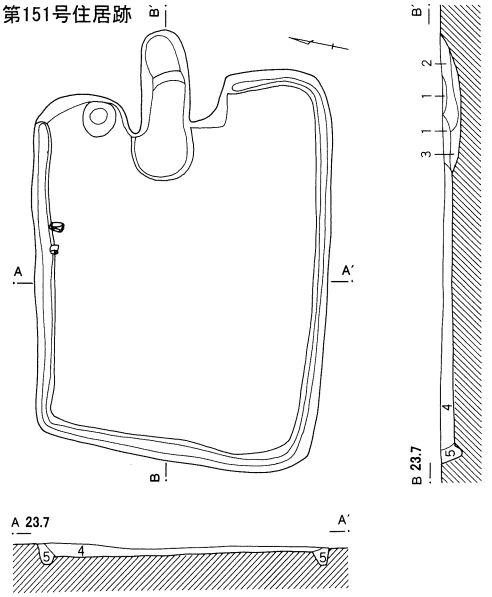
遺構の切り合い関係は、第152号住居跡・第28号掘立柱建物跡より新しかった。

第150号住居跡



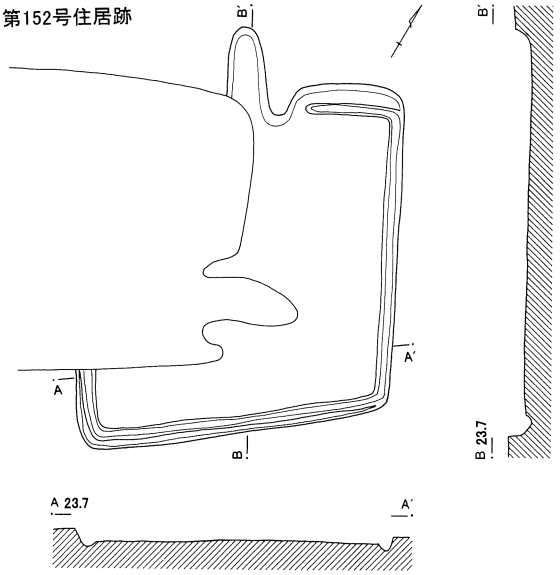
第150号住居跡
1　暗褐色土　焼土粒子含む　焼土ブロック・黄褐色土ブロック微量　粘性あり
2　暗褐色土　焼土粒子多量　焼土ブロック含む　　粘性あり
4　暗褐色土　焼土粒子・焼土ブロック多量　黄褐色土ブロック少量　粘性あり
5　黒褐色土　焼土粒子・焼土ブロック多量　粘性あり

第151号住居跡

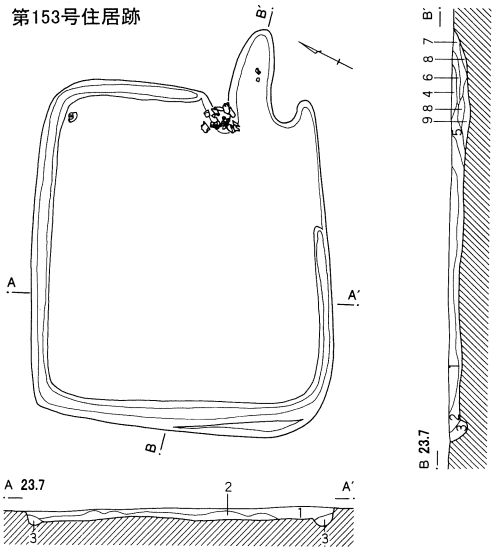


第151号住居跡
1　暗褐色土　焼土粒子・ブロック少量　黄褐色土ブロック多量
2　暗褐色土　焼土ブロック多量
3　黒色土　灰・焼土粒子含む
4　暗褐色土　焼土粒子少量
5　暗灰褐色土　焼土粒子含む

第152号住居跡

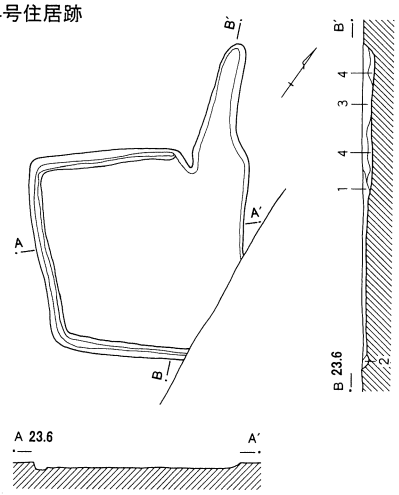


第153号住居跡



第153号住居跡
1　暗褐色土　焼土粒子含　粘性あり
2　暗褐色土　焼土粒子微量　黄褐色土ブロック含む　粘性あり
3　褐色土　黄褐色土ブロック多量　粘性あり
4　暗褐色土　焼土粒子多量　焼土ブロック微量　粘性あり
5　暗褐色土　焼土粒子・黄褐色土ブロック含む　焼土ブロック下層に含む　粘性あり
6　黄褐色土　焼土粒子・黄褐色土ブロック多量　焼土ブロック下層に多量　粘性あり
　カマド天井部崩落土
7　暗褐色土　焼土粒子・焼土ブロック含む　黄褐色土ブロック微量　粘性あり
8　黒褐色土　焼土粒子含む　焼土ブロック微量　粘性あり
9　褐色土　焼土粒子微量　黄褐色土ブロック多量　粘性あり

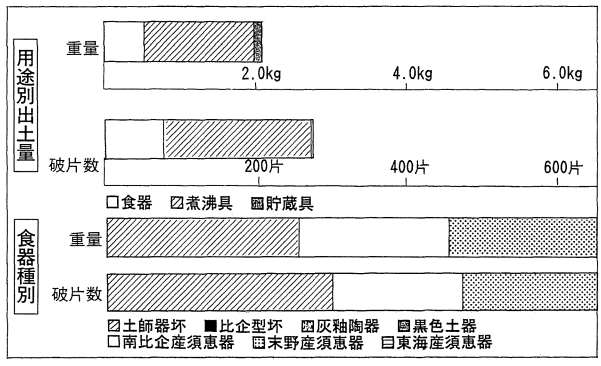
第154号住居跡



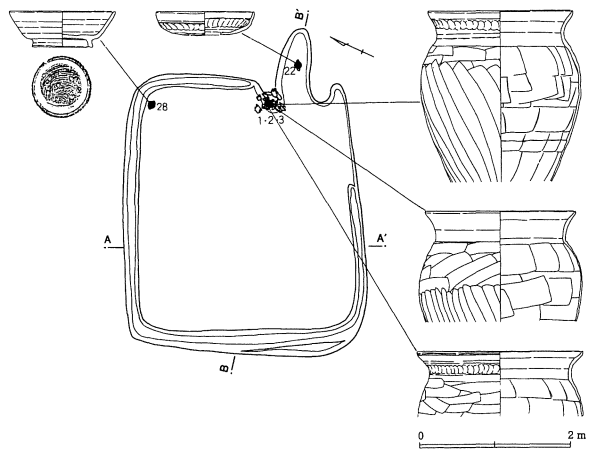
第154号住居跡
1　灰褐色土　焼土粒子・黄褐色土ブロック少量
2　暗褐色土
3　灰褐色土　焼土ブロック多量
4　黒灰色土　灰・焼土・炭化物多量

0　2 m　1:80

第272図　竪穴住居跡(33)



第273図　第153号住居跡覆土中遺物データ



第274図　第153号住居跡遺物出土位置

第154号住居跡

住居跡の形状は、方形であった。住居跡の南東隅を第155号住居跡に切られていた。カマドと東壁を除き、幅約15cmの壁溝が巡っていた。

北壁の北東隅にカマドを検出した。左袖は、地山を掘り残して構築しており、住居跡内へ短く伸びていた。右袖は、住居跡の壁をそのまま利用していた。いわゆる「片袖型」であった。燃焼部の掘り込みはみられなかった。煙道部へは、段をもたずに移行し、煙道部は奥に向かって僅かに低く傾斜していた。

遺構の切り合い関係は、第155号住居跡・第328号住居跡より古い。

第155号住居跡

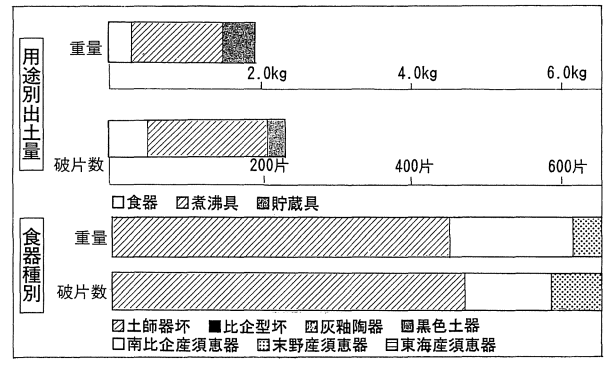
住居跡の形状は、南北に長い長方形であった。北壁を除き、幅約18cmの壁溝が巡っていた。小穴は、北西隅と中央東側の床面に2基みられた。

北壁の東寄りにカマドを検出した。袖は、地山を掘り残して構築しており、住居跡内へ短く伸びていた。焚き口の前面から燃焼部にかけては、不整形に掘り込まれ、煙道へ段をもって移行していた。燃焼部の奥には、補強材として自然石が見られた。

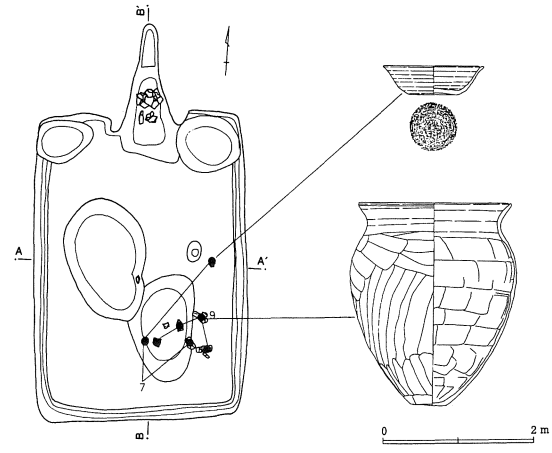
北東隅に貯蔵穴を検出した。形状は、隅丸方形であった。径90cm、深さ20cmの規模であった。

住居跡南半の中央の床面から須恵器の坏(第347図－7）と土師器の甕（第347図－9）が出土した。

遺構の切り合い関係は、第155号住居跡より古く、第156号溝跡より新しい。

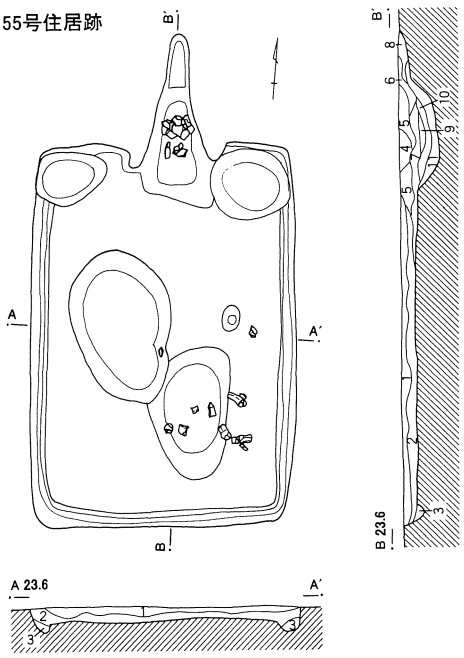


第275図　第155号住居跡覆土中遺物データ



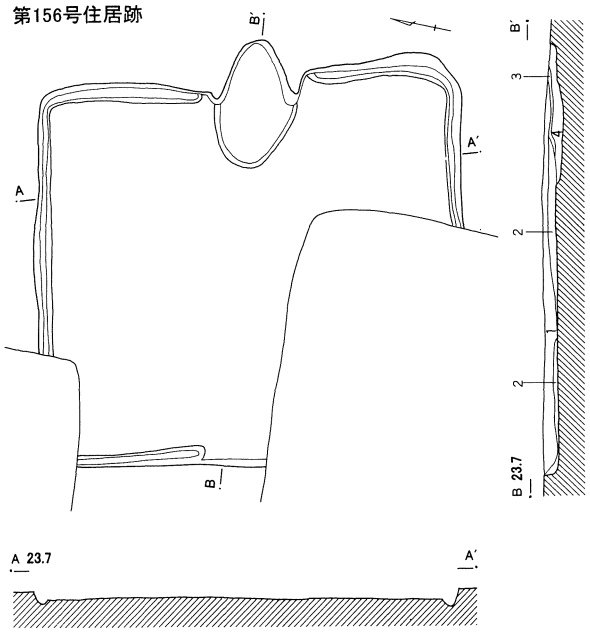
第276図　第155号住居跡遺物出土位置

第155号住居跡



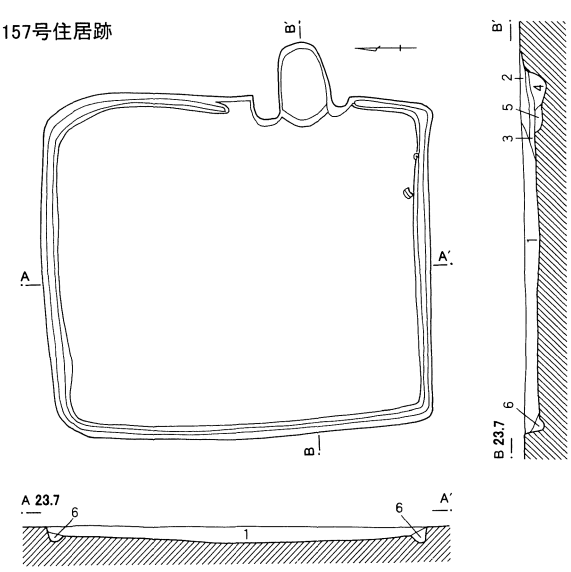
第155号住居跡
1　暗褐色土　焼土粒子含　黄褐色土ブロック含む　粘性あり
2　暗褐色土　焼土粒子含　黄褐色土ブロック多量　粘性あり
3　褐色土　焼土粒子微量　黄褐色土ブロック多量　粘性あり
4　暗褐色土　焼土粒子・黄褐色土ブロック微量　粘性あり　カマド器設部痕か？
5　褐色土　焼土粒子含　焼土ブロック微量　黄褐色土ブロック多量　粘性あり
6　暗褐色土　焼土粒子多量　焼土ブロック多量　粘性あり
7　黒褐色土　焼土粒子含　焼土ブロック少量　黄褐色土ブロック微量　粘性あり
8　暗褐色土　焼土粒子微量　粘性強い
9　淡橙褐色土　焼土粒子含　焼土ブロック微量　粘性強い
10　黒色土　焼土粒子含　焼土ブロック微量　粘性あり　カマド燃焼材炭化物層
11　暗褐色土　黄褐色土ブロック多量　粘性あり

第156号住居跡



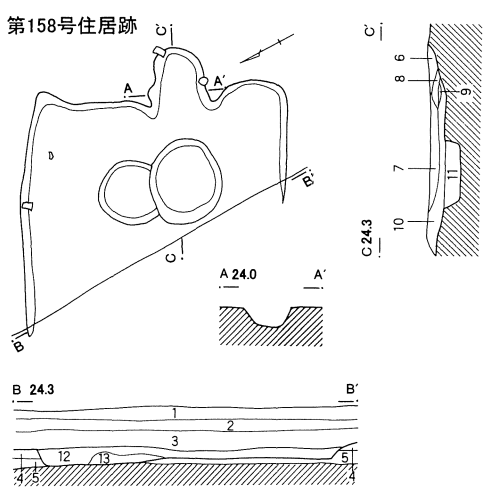
第156号住居跡
1　暗褐色土　焼土粒子含む　黄褐色土ブロック少量　粘性強い
2　暗褐色土　焼土粒子少量　黄褐色土ブロック含む　粘性強い
3　黒褐色土　焼土粒子多量　焼土ブロック含む　粘性強い　炭化物多量
4　褐色土　焼土粒子微量　黄褐色土ブロック多量　粘性強い

第157号住居跡



第157号住居跡
1　暗褐色土　焼土粒子少量　黄褐色土ブロック多量
2　暗褐色土　焼土粒子・焼土ブロック多量　カマド天井部崩落土
3　黒灰色土　灰・焼土・炭化物多量
4　灰褐色土　黄褐色土ブロック含む
5　暗灰褐色土
6　暗褐色土

第158号住居跡



第158号住居跡
1　灰色土　浅間山A軽石まばら
2　暗褐色土　焼土粒子・炭化粒子少量　しまり強い
3　暗褐色土　焼土粒子・炭化粒子少量　粘性強い
4　暗黄褐色土　焼土粒子・炭化物少量
5　黄褐色土　粘性弱い
6　暗褐色土　黄褐色粘土ブロック（2～3㎜）多量　焼土ブロック（5～8㎜）少量
7　暗褐色土　黄褐色粘土粒子（1～2㎜）まばら
8　黒褐色土　カマド天井の崩落土　焼土ブロック（2～3㎜）・黄褐色粘土粒子（1～2㎜）多量
9　黒褐色土　炭化物粒子（1～2㎜）多量
10　黒褐色土　黄褐色粘土粒子（1～2㎜）多量
11　暗褐色土　黄褐色粘土粒子（1～2㎜）少量
12　暗褐色土　焼土・炭化物（2～5㎜）多量
13　鈍い黄褐色土　黄褐色粘土ブロック多量

0　2m
1:80

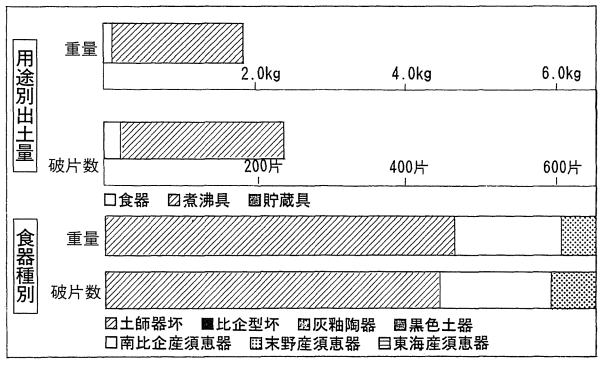
第277図　竪穴住居跡(34)

第156号住居跡

住居跡の南側は、第157号住居跡に切られたため全容は明らかにできなかった。住居跡の形状は、南北にやや長い長方形であった。カマドを除いて、幅約18cmの壁溝が巡っていた。

東壁の南寄りにカマドを検出した。袖は、地山を掘り残して構築し、住居跡内へごく短く伸びていた。焚き口の前面から燃焼部にかけては、浅く楕円形に掘り込まれていた。燃焼部から煙道部へかけては、小さな段をもって移行していた。

遺構の切り合い関係は、第155号溝跡より新しく、第155・157号住居跡より古かった。



第278図　第156号住居跡覆土中遺物データ

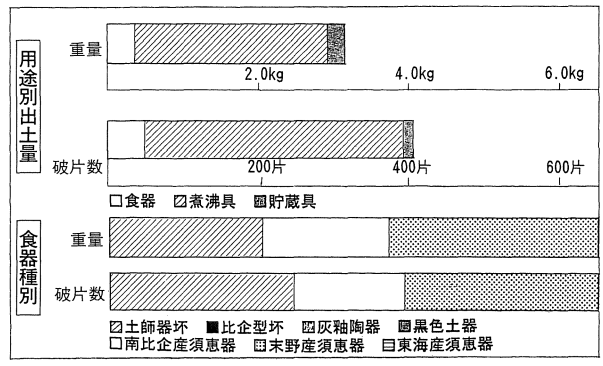
第157号住居跡

住居跡の形状は、南北に長い長方形であった。カマドを除いて、幅約18cmの壁溝が巡っていた。

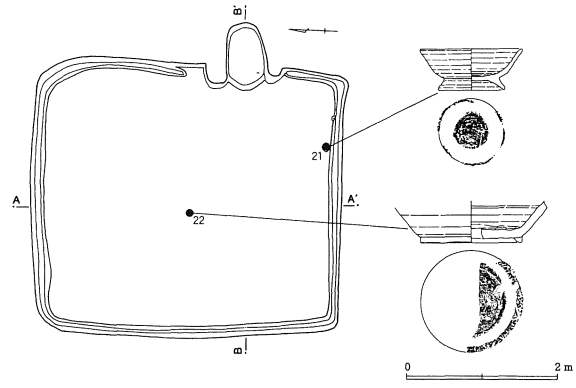
東壁の南寄りにカマドを検出した。袖は、地山を掘り残して構築していた。また袖は、住居跡内へごく短く伸びていた。焚き口から燃焼部にかけては、楕円形の掘り込みがみられた。燃焼部から煙道部へは、段をもって移行していた。

住居跡の中央から須恵器の長頸瓶の胴下半部（第347図—22)が出土した。また東壁周溝に接して高脚高台付埦が出土した。

遺構の切り合い関係は、第178号溝跡・第156号住居跡より新しかった。



第279図　第157号住居跡覆土中遺物データ



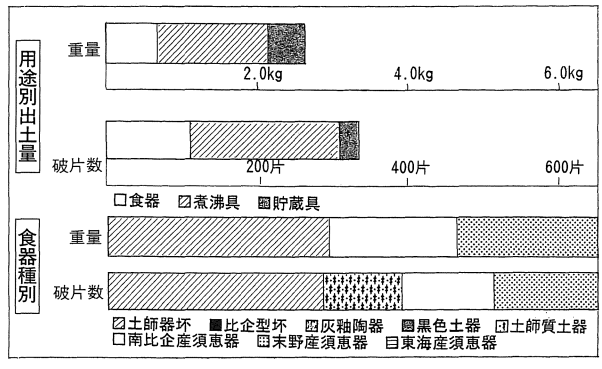
第280図　第157号住居跡遺物出土位置

第158号住居跡

住居跡の西側は、掘込みが浅く確認できなかった。そのため住居跡の全容は明らかにできなかった。

東壁の南寄りにカマドを検出した。袖は、地山を掘り残して構築しており、住居跡内へごく短く伸びていた。燃焼部の掘り込みは、みられなかった。

カマドの前面には、土壙が2基みられた。二基とも円形の土壙である。規模は、径70cm、深さ9cmと

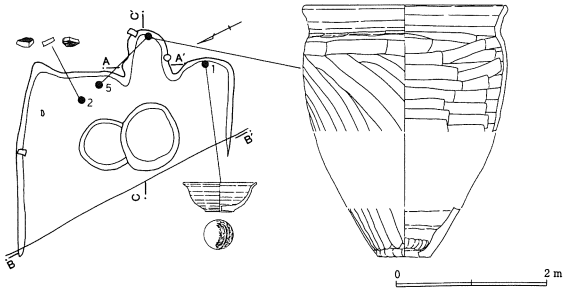


第281図　第158号住居跡覆土中遺物データ

径90cm、深さ17cmであった。

カマド燃焼部中から土師器の甕（第348図－５）が出土した。またカマド右袖脇から須恵器の坏(第348図－１）が出土した。さらにカマド左袖脇から緑釉陶器片（第348図－２）が出土した。

遺構の切り合い関係は、第304・305号土壙より新しかった。



第282図　第158号住居跡遺物出土位置

第159号住居跡

住居跡の西側は、掘込みが浅く確認できなかった。そのため住居跡の全容は解明できなかった。

東壁の中央にカマドを検出した。袖は、検出できなかった。燃焼部は、浅く不整形に掘り込まれていた。燃焼部内から、自然石が出土し、カマドの補強材と判断した。

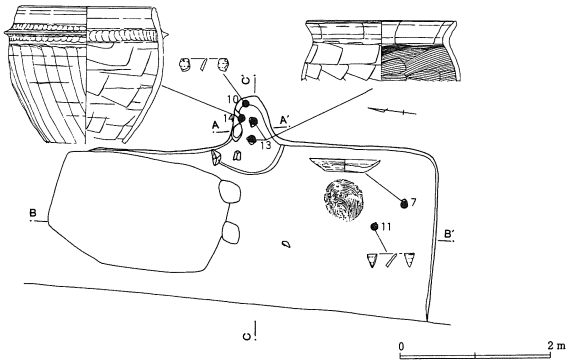
カマド燃焼部内から土師器の甕（第348図—13）と土師器の羽釜（第348図—14）、そして緑釉陶器の小片（第348図—10）が出土した。竪穴東南隅から土師質土器の小皿（第348図—10）が出土した。また近くから緑釉陶器の陶片（第348図—11）が出土した。

遺構の切り合い関係は、第279・280号住居跡・第234号土壙より新しく、第278号土壙・第36号掘立柱建物跡より古かった。

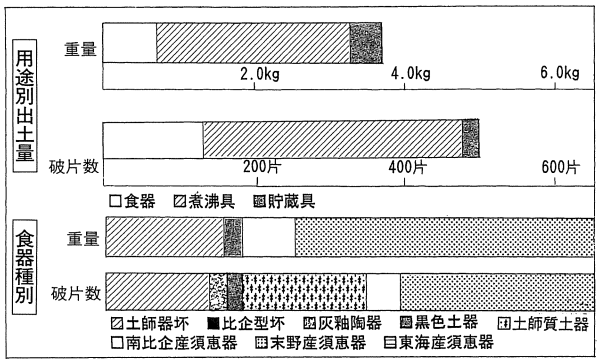
第160号住居跡

住居跡の北側は、掘込みが浅く検出できなかった。そのため住居跡の形状など全容は明らかにできなかった。

カマドは、検出できなかった。



第283図　第159号住居跡遺物出土位置



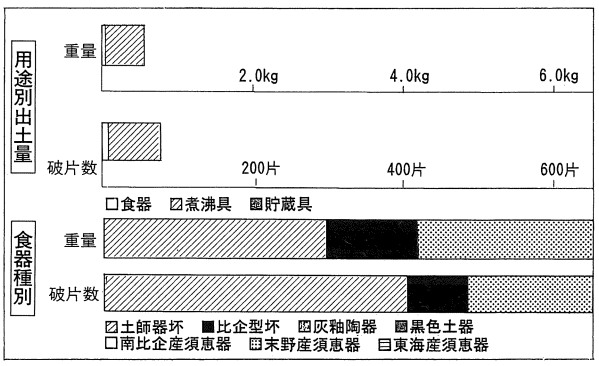
第284図　第159号住居跡覆土中遺物データ

遺構の切り合い関係は、第91・151・187号溝跡・第240号土壙より古い。

第161号住居跡

住居跡の形状は、南北に長い長方形であった。

北壁の東寄りにカマドを検出した。袖は、地山を掘り残して構築し、住居跡内へ伸びていた。右袖の



第285図　第161号住居跡覆土中遺物データ

上には、土師器の甕が倒置されていた。焚き口から燃焼部にかけては、浅い楕円形の窪みがみられた。

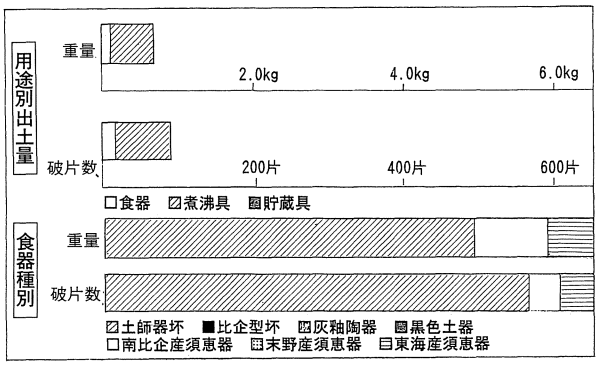
遺構の切り合い関係は、第147号住居跡・第47号井戸跡より古かった。

第162号住居跡

住居跡の北西は、第80号溝跡に破壊されていた。また南半は、遺構確認時に掘り下げたため形状など全容が明らかにできなかった。北壁から南壁にかけては、幅約25cmの壁溝が巡っていた。床面に10基の小穴がみられた。

カマドは、検出できなかった。

遺構の切り合い関係は、第80号溝跡・第17号掘立柱建物跡より古かった。



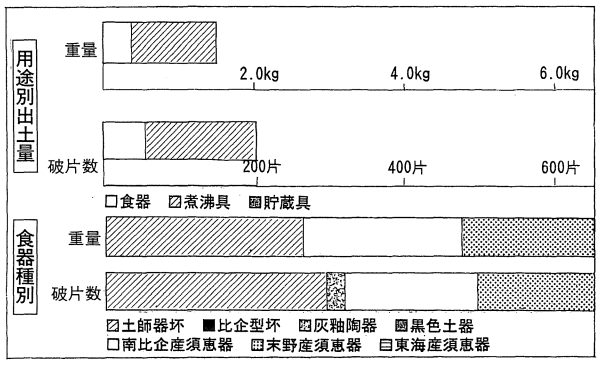
第286図　第162号住居跡覆土中遺物データ

第163号住居跡

住居跡の大半は、第151号住居跡に切られる。住居跡の形状は、東西に長い長方形であった。カマドを除いて、幅約18cmの壁溝が巡っていた。

東壁の南寄りにカマドを検出した。右袖は、地山を掘り残して構築し、住居跡内へ短く伸びていた。左袖は、第245号土壙に切られたため、検出できなかった。燃焼部は、浅く掘り込まれ、段をもたずに煙道部へ移行していた。

遺構の切り合い関係は、第151号住居跡より古く、第149・150号住居跡・第245号土壙より新しかった。



第287図　第163号住居跡覆土中遺物データ

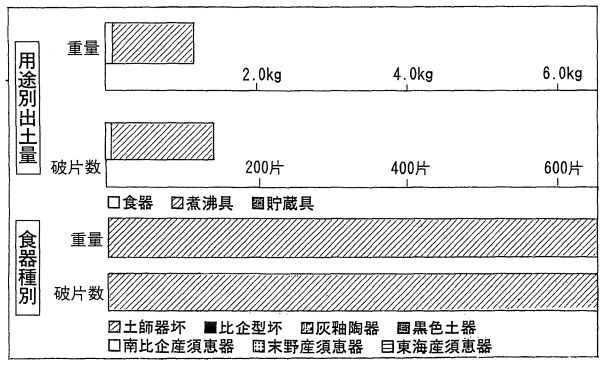
第164号住居跡

住居跡の形状は、南北に長い長方形であった。床面に6基の小穴を検出した。

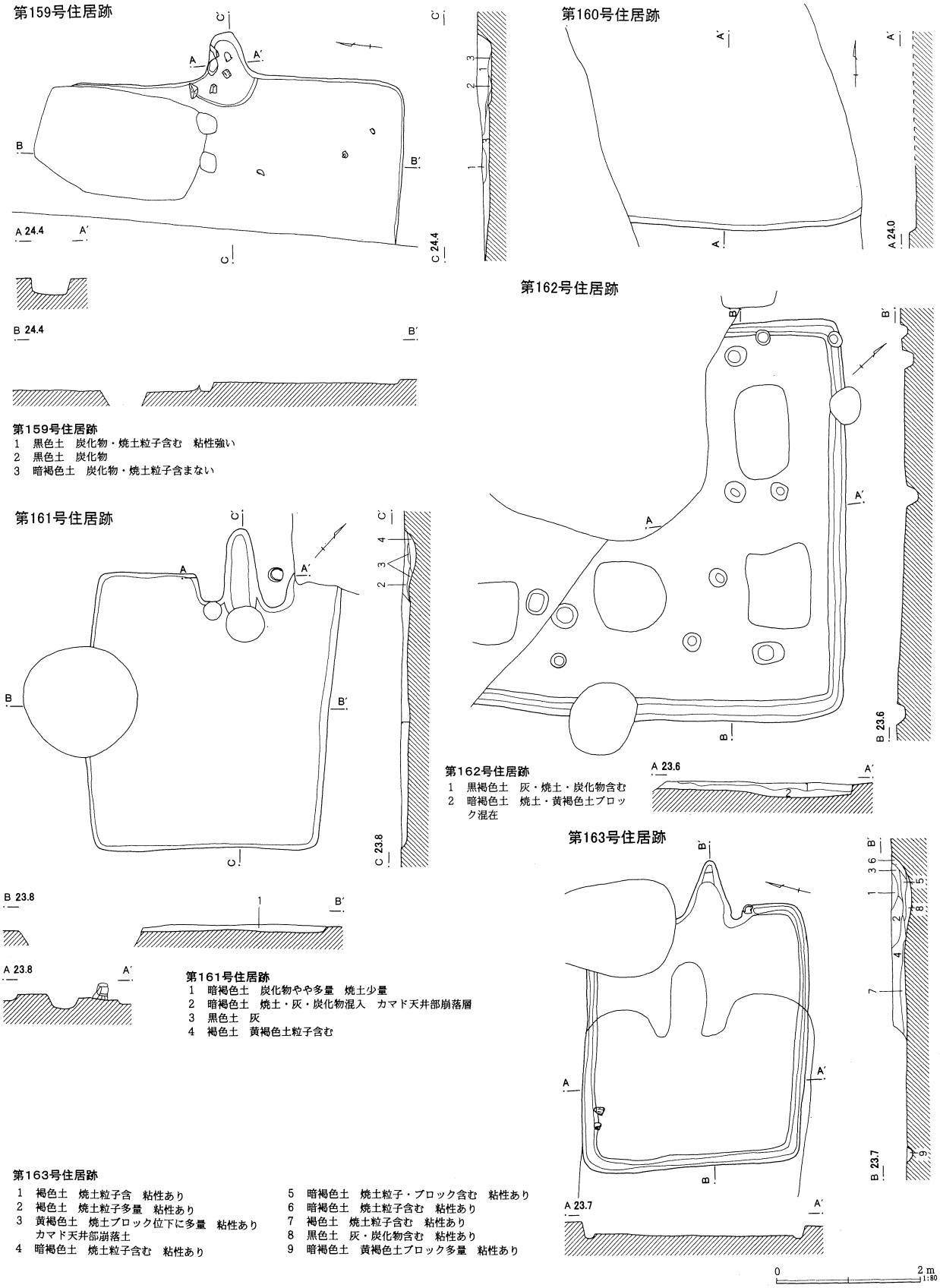
北壁の中央にカマドを検出した。袖は、地山を掘り残して構築し、住居跡内へ伸びていた。焚き口の前面から燃焼部にかけては、楕円形の浅い掘り込みがみられた。燃焼部から煙道部へは、段をもって移行していた。燃焼部の奥から自然石が出土し、支脚に用いられたと判断した。

北東隅に貯蔵穴を検出した。形状は、整楕円形であった。規模は、長径80cm、深さ10cmであった。貯蔵穴から土師器の甑（第349図—9）が出土した。またカマド燃焼部から煙道に変化する部分から土師器の甕（第349図—8）が出土した。

遺構の切り合い関係は、第179号住居跡より新しかった。第290・291号土壙・第51号井戸跡より古かった。



第288図　第164号住居跡覆土中遺物データ



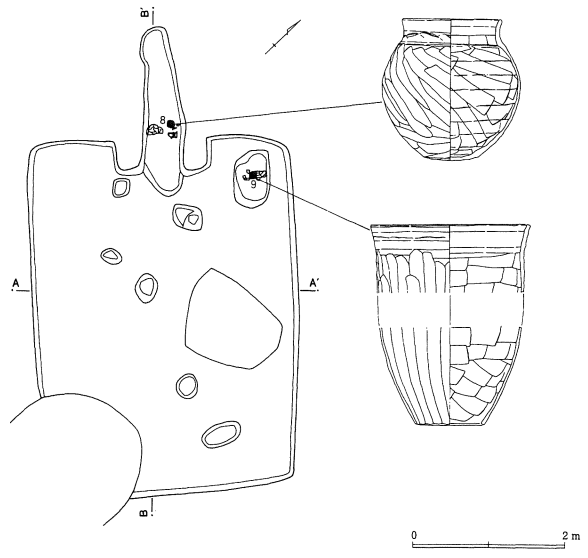
第159号住居跡
1　黒色土　炭化物・焼土粒子含む　粘性強い
2　黒色土　炭化物
3　暗褐色土　炭化物・焼土粒子含まない

第162号住居跡
1　黒褐色土　灰・焼土・炭化物含む
2　暗褐色土　焼土・黄褐色土ブロック混在

第161号住居跡
1　暗褐色土　炭化物やや多量　焼土少量
2　暗褐色土　焼土・灰・炭化物混入　カマド天井部崩落層
3　黒色土　灰
4　褐色土　黄褐色土粒子含む

第163号住居跡
1　褐色土　焼土粒子含　粘性あり
2　褐色土　焼土粒子多量　粘性あり
3　黄褐色土　焼土ブロック位下に多量　粘性あり
　カマド天井部崩落土
4　暗褐色土　焼土粒子含む　粘性あり
5　暗褐色土　焼土粒子・ブロック含む　粘性あり
6　暗褐色土　焼土粒子含む　粘性あり
7　褐色土　焼土粒子含む　粘性あり
8　黒色土　灰・炭化物含む　粘性あり
9　暗褐色土　黄褐色土ブロック多量　粘性あり

第289図　竪穴住居跡(35)



第290図　第164号住居跡遺物出土位置

第165号住居跡

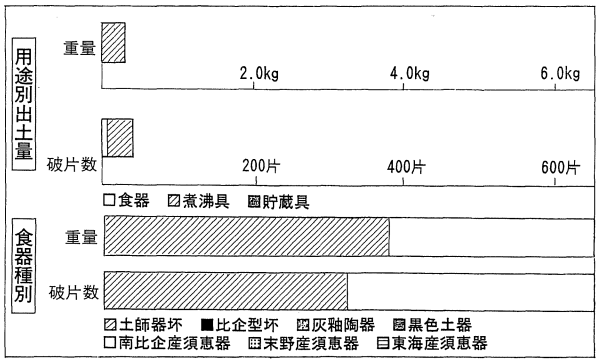
住居跡の大半が、試掘のトレンチによって破壊されたため、カマドのみの検出にとどまった。しかしカマドの袖や燃焼部の掘り込みは、確認できなかった。燃焼部から煙道に向かって底は、徐々に立ち上がっていた。

遺構の切り合いは、みられなかった。

第166号住居跡

住居跡の大半は、試掘のトレンチで破壊されたため、カマドのみの検出にとどまった。

しかしカマドの袖は、検出できなかった。燃焼部は、楕円形に掘り込まれ、段をもって煙道部へ移行していた。



第291図　第166号住居跡覆土中遺物データ

遺構の切り合い関係は、第167号住居跡より古いと判断した。

第167号住居跡

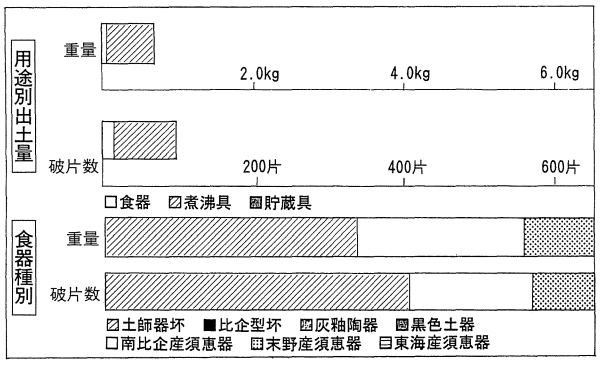
住居跡は、掘込みが浅かったため、床面近くのみを検出した。

住居跡の形状は、東西に長い不整長方形であった。カマド部分を除き、幅約20cmの壁溝を検出した。北壁の東半分には、長さ180cm、幅40cmの張り出し施設がみられた。中央北寄りの床面に小穴が１基みられた。

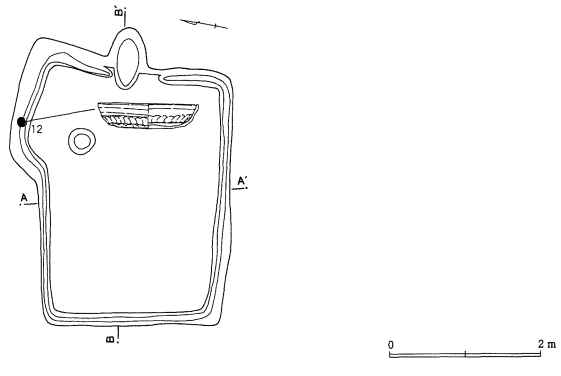
東壁中央にカマドを検出した。袖は、検出できなかった。燃焼部は、楕円形に掘り込まれていた。

北壁の張り出し部に巡る周溝中から土師器の坏（第349図—12）が出土した。

遺構の切り合い関係は、第166号住居跡より新しいと判断した。

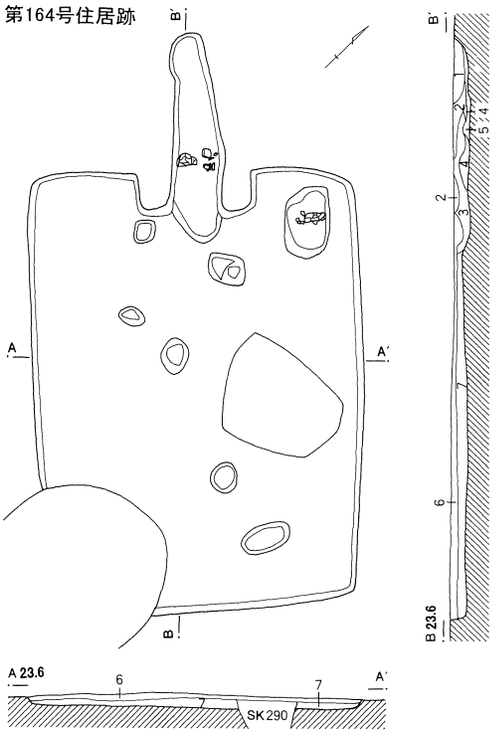


第292図　第167号住居跡覆土中遺物データ



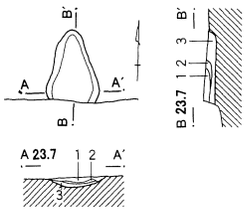
第293図　第167号住居跡遺物出土位置

第164号住居跡



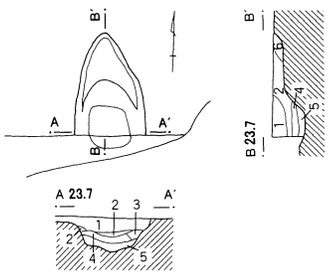
第164号住居跡
1　暗褐色土
2　暗褐色土　焼土粒子・焼土ブロック少量
3　暗褐色土　焼土ブロック多量　灰含む
4　黒色土　灰層の焼土・炭化物粒子含む
5　黒色土　炭化物含む
6　暗褐色土　焼土粒子微量含む
7　黄褐色土　黒色土混じる

第165号住居跡



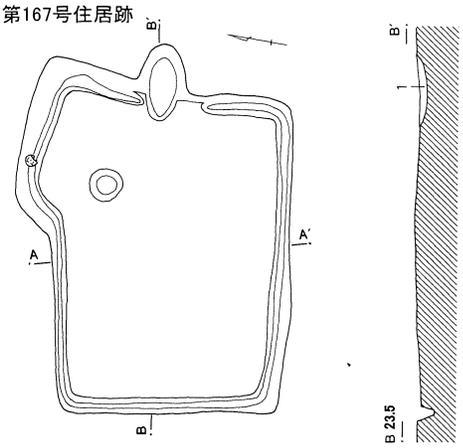
第165号住居跡
1　暗褐色土　焼土ブロック多量
2　黒灰色土　灰多量
3　暗褐色土　炭化物・焼土ブロック含む

第166号住居跡



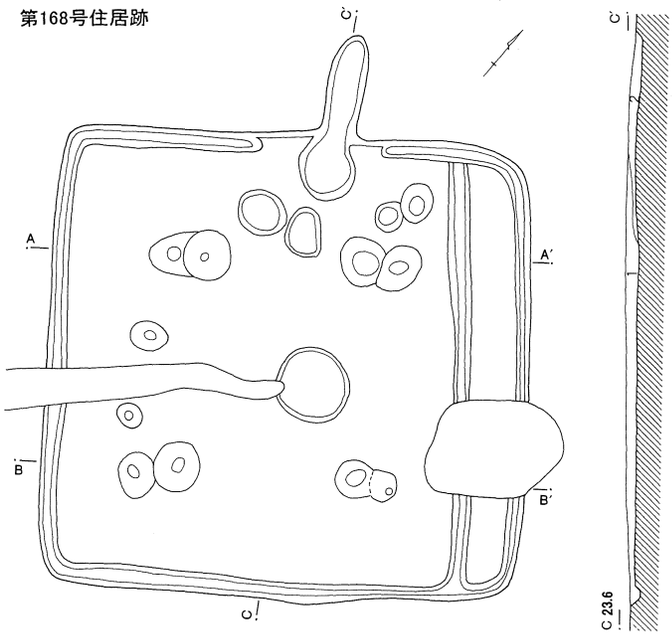
第166号住居跡
1　暗褐色土　粘土ブロック（20mm）多量　カマド天井崩落土
2　黒褐色土　焼土ブロック（30mm）・炭化物多量　粘性弱い
3　黒褐色土　焼土粒子・炭化物多量　粘性弱い
4　黒色土　炭化物・焼土粒子多量　粘性強い
5　暗黄褐色土　粘土ブロック（40mm）多量　粘性弱い
6　暗褐色土　炭化物少量　しまり強い　粘性弱い

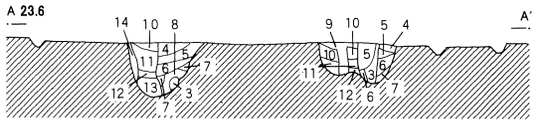
第167号住居跡

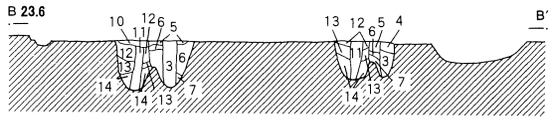


第167号住居跡
1　暗褐色土　焼土粒子・炭化物含む

第168号住居跡







第168号住居跡
1
2　暗褐色土　焼土粒子・灰・炭化物含む
3　黒褐色土　粘土粒子・炭化物少量　粘性強い
4　暗黄褐色土　粘土ブロック（３mm）多量　炭化物少量　粘性強い
5　暗褐色土　粘土ブロック（20mm）少量　炭化物少量　粘性強い
6　暗黄褐色土　粘土ブロック（30mm）多量　炭化物少量
7　暗褐色土　粘土ブロック（10mm）少量　炭化物少量
8　暗黄褐色土　粘土ブロック（20mm）多量　炭化物少量
9　黒褐色土　粘土ブロック（10mm）・炭化物少量　粘性強い
10　暗黄褐色土　粘土ブロック（20mm）多量　炭化物少量　粘性弱い
11　暗黄褐色土　粘土ブロック（20mm）多量　炭化物少量　粘性弱い
12　暗褐色土　粘土ブロック（30mm）・炭化物少量　粘性弱い
13　暗黄褐色土　粘土ブロック（20mm）多量　炭化物・焼土粒子含む
14　暗黄褐色土　粘土粒子・粘土ブロック（20mm）多量　炭化物含む

0　2 m
1:80

第294図　竪穴住居跡(36)

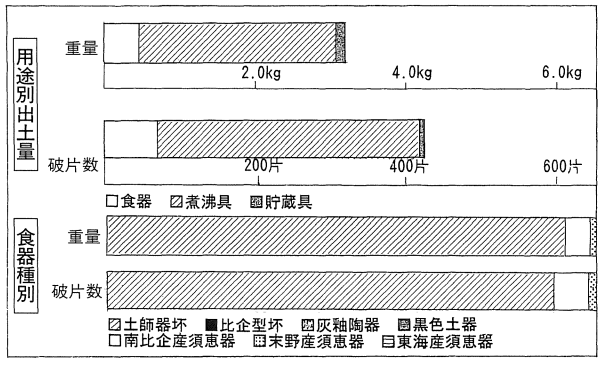
第168号住居跡

掘込みの浅い住居跡のため、床面近くが残っていた。

住居跡の形状は、方形であった。カマドを除き、幅約20cmの壁溝が巡っていた。東壁には、壁溝が二条みられたため、竪穴の拡張があったと判断した。小穴は床面に15基みられた。このうちＰ１～Ｐ４小穴は、主柱穴であると判断した。

北壁の東寄りにカマドを検出した。袖は、みられなかった。燃焼部は、浅く円形に掘り込まれ、煙道へは、段をもたずに緩やかに移行していた。

遺構の切り合い関係は、第207号溝跡より新しく、第169号住居跡・第318号土壙・第211・215号溝跡より古かった。



第295図　第168号住居跡覆土中遺物データ

第169号住居跡

第168号住居跡の東壁を東に拡張した竪穴住居跡である。

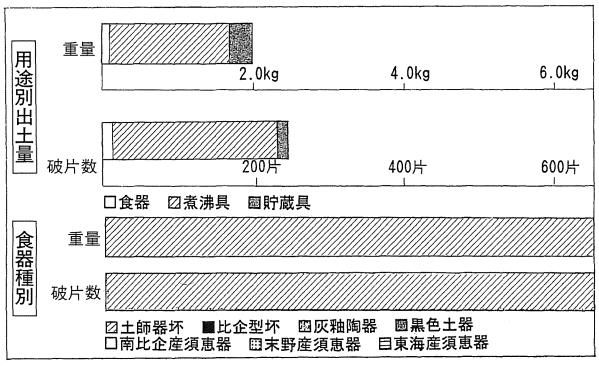
第170号住居跡

住居跡の大半は、第172号住居跡に破壊されたため、全容は明らかにできなかった。住居跡の形状は、南北にやや長い長方形であった。北壁から西壁にかけては、幅約15cmの壁溝が巡っていた。

カマドは、検出できなかった。

カマド左袖の付け根から土師器の甕（第349図—23）が出土した。袖に芯材として埋設した土器である。またカマド焚き口部から土師器の甕(第349図—22）が出土した。

遺構の切り合い関係は、第171号住居跡より新しく、第172号住居跡より古かった。



第296図　第170号住居跡覆土中遺物データ

第171号住居跡

住居跡の大半が、第170号住居跡に切られたため、全容を明らかにできなかった。住居跡は東西に長い長方形と判断した。

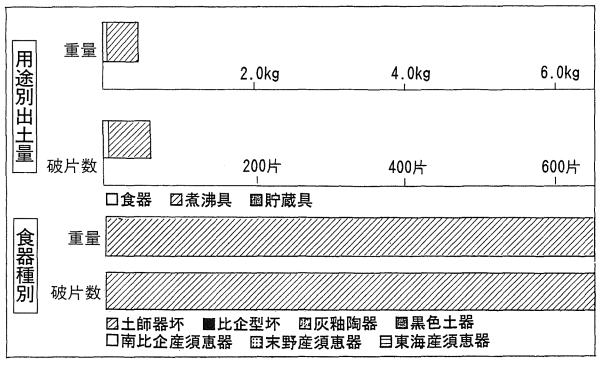
カマドは、検出できなかった。

遺構の切り合い関係は、第170・172号住居跡より古かった。

第172号住居跡

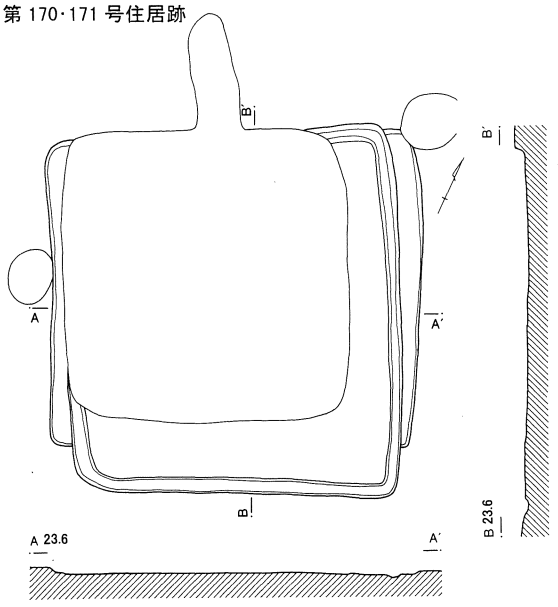
住居跡の形状は、方形であった。カマドを除き、幅約24cmの壁溝が巡っていた。壁溝内には、20基の小穴があけられていた。また住居跡の中央には、小穴が２基みられた。

北壁の東寄りにカマドを検出した。袖は、掘り残した地山に土師器の甕を埋め込んで構築し、住居跡

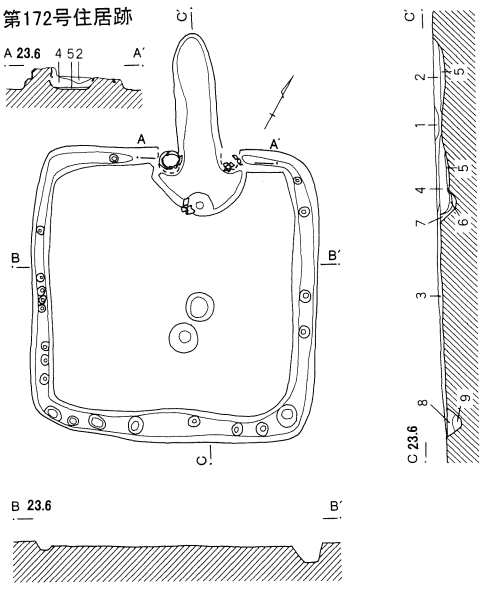


第297図　第172号住居跡覆土中遺物データ

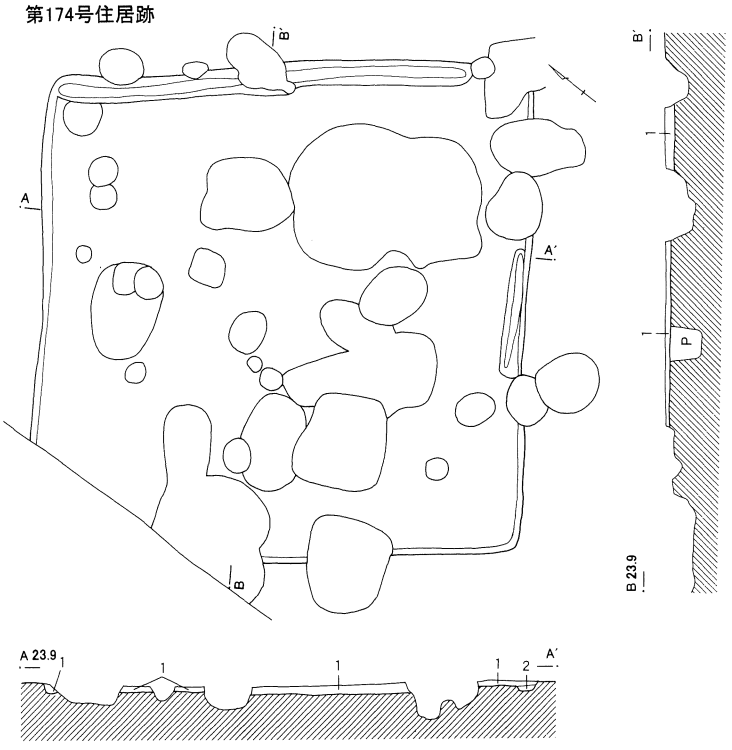
第 170・171 号住居跡



第172号住居跡



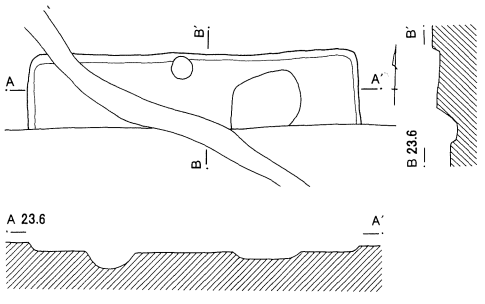
第174号住居跡



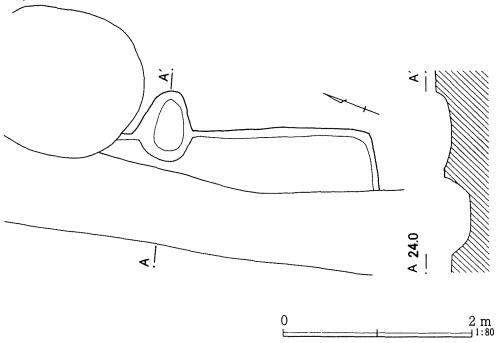
第174号住居跡
1　暗褐色土　焼土粒子・炭化粒子含む　しまり弱い
2　暗褐色土　黄褐色粒子・炭化粒子含む　しまり弱い

第172号住居跡
1　明褐色土
2　黒色土　灰　焼土・炭化物多量
3　暗褐色土
4　暗褐色土　黄褐色土・焼土混じる　灰層の帯状堆積
5　暗褐色土　炭化物・焼土少量
6　黒色土　炭化物
7　黒色土　炭化物・灰多量
8　暗褐色土　微量の炭化物含む
9　黄褐色土　黄褐色ブロックを主体に少量の暗褐色土

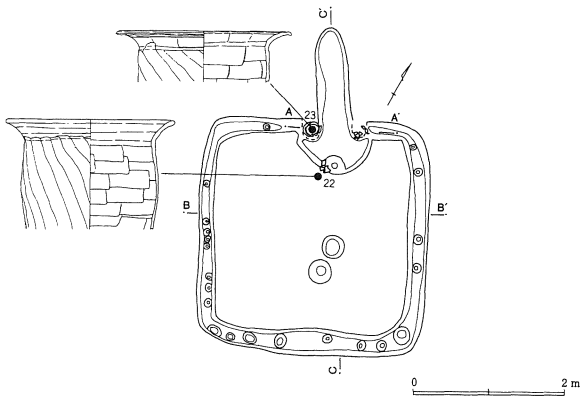
第173号住居跡



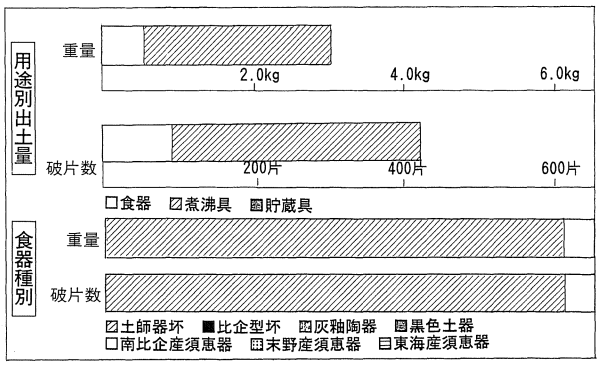
第175号住居跡



第298図　竪穴住居跡(37)



第299図　第172号住居跡遺物出土位置



第300図　第174号住居跡覆土中遺物データ

内へ伸びていた。土師器の甕は、補強材であろう。焚き口の前面から燃焼部にかけては、浅い円形の掘り込みがみられた。焚き口の前面には、円形の小穴が検出された。小穴内には、炭化物や灰が、多量に充塡されていた。燃焼部から煙道へは、段をもたず緩やかに移行していた。煙道部は、奥に向かって低く傾斜していた。

遺構の切り合い関係は、第170・171号住居跡より新しかった。

第173号住居跡

住居跡の大半は、試掘のトレンチによって破壊されたため、形状など全容を明らかにできなかった。

カマドは検出できなかった。

遺構の切り合い関係は、第194号溝跡より新しかった。

第174号住居跡

住居跡の上部は、掘込みが浅く、床面のみを検出した。

住居跡の形状は、方形であった。東壁と南壁中央には、幅約26cmの壁溝が巡っていた。

カマドは、検出できなかった。

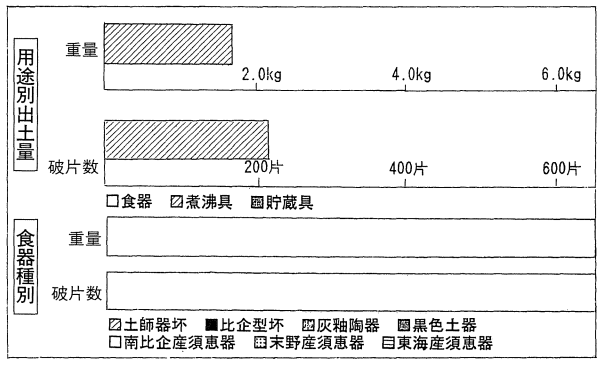
遺構の切り合い関係は、第181・182号住居跡・第45・61号掘立柱建物跡より古かった。

第175号住居跡

住居跡の大半は、第151号溝跡に破壊されているため、形状など全容は、明らかにできなかった。

東壁にカマドを、検出した。袖は、検出できなかった。燃焼部は、浅い楕円形の掘り込みがみられた。

遺構の切り合い関係は、第47号掘立柱建物跡・第58号井戸跡・第151・203号溝跡より古かった。



第301図　第175号住居跡覆土中遺物データ

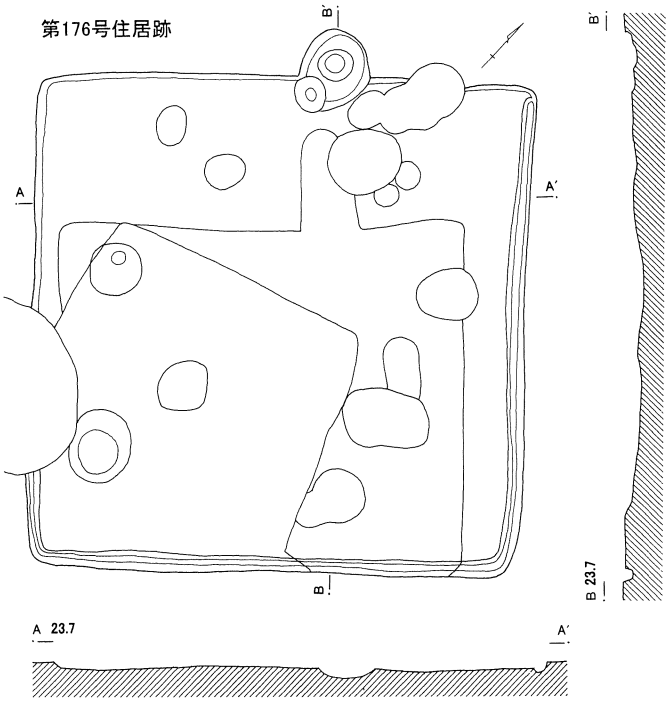
第176号住居跡

住居跡の大半は、第177・178号住居跡に切られていた。住居跡の形状は、方形であった。竪穴内の西側には、小穴が2基みられた。

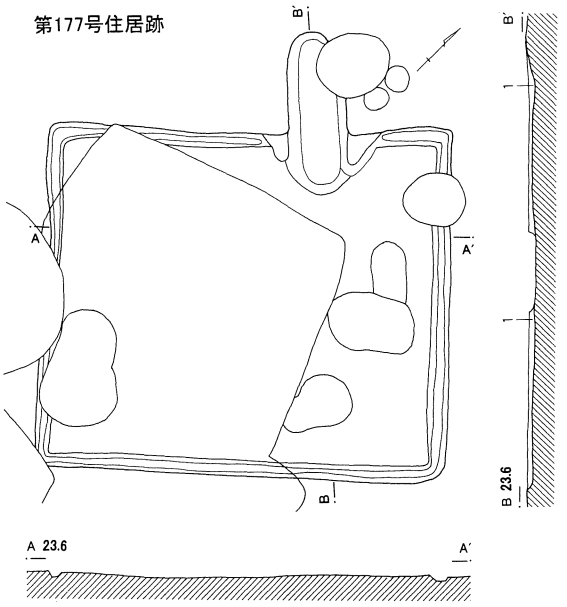
北壁の東寄りにカマドを検出した。袖は、検出できなかった。燃焼部は、円形に掘り込まれていた。燃焼部の左側には、円形の小穴がみられた。

遺構の切り合い関係は、第177・178号住居跡より古く、第73号井戸跡・第192・211号溝跡より新しかった。

第176号住居跡

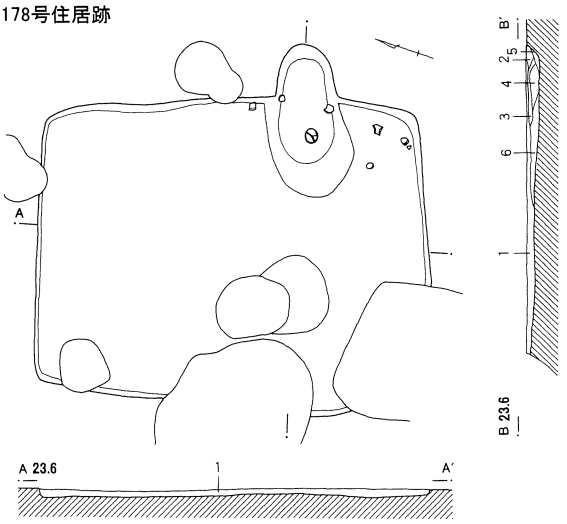


第177号住居跡

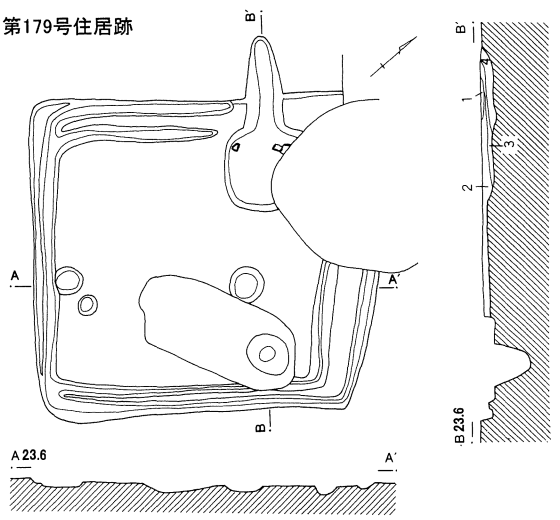


第177号住居跡
1　暗褐色土　焼土・灰・炭化物多量

第178号住居跡

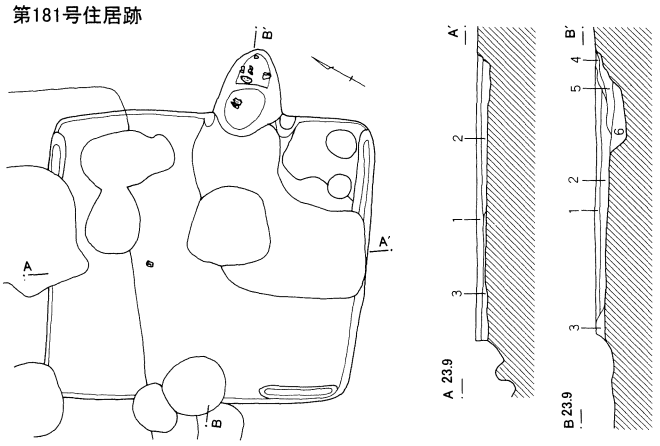


第179号住居跡



第179号住居跡
1　灰色土　灰・焼土混入
2　暗褐色土　焼土ブロック多量
3　黒灰色土　灰
4　暗褐色土　焼土粒子・黄褐色土ブロック混入

第181号住居跡



第178号住居跡
1　暗褐色土　黄褐色土ブロック多量
2　赤褐色土　焼土ブロック　カマド天井部崩落層
3　黒灰色土　灰層　焼土粒子含む
4　暗褐色土　焼土・灰少量含む
5　暗褐色土　焼土多量
6　褐色土

第181号住居跡
1　暗褐色土　黄褐色粒子・炭化粒子を含む　しまり強い
2　暗褐色土　炭化粒子・焼土粒子を含む　しまり強い
3　黄褐色土　黄褐色粒子・黄褐色ブロックを含む　しまり強い
4　黒褐色土　炭化物多量
5　赤褐色土　焼土粒子・ブロック・炭化粒子多量
6　暗褐色土　焼土粒子含む

0　2 m
1:80

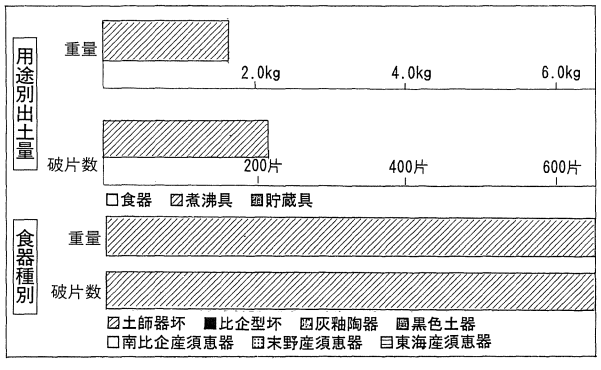
第302図　竪穴住居跡(38)

第177号住居跡

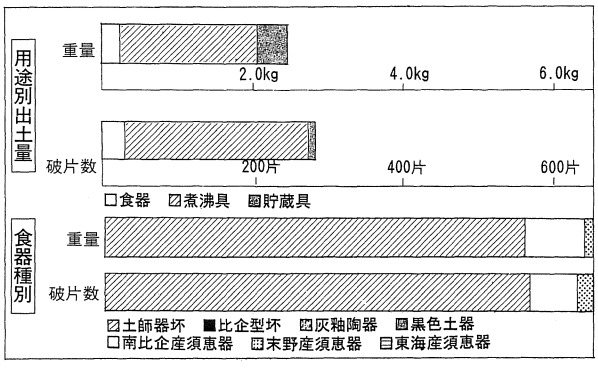
住居跡の大半は、第178号住居跡に切られたため全容を明らかにできなかった。住居跡の形状は、東西に長い長方形であった。カマドを除き、幅約19cmの壁溝が巡っていた。

北壁の東寄りにカマドを検出した。袖は、地山を掘り残して構築しており、住居跡内へ短く伸びていた。焚き口から燃焼部にかけては、浅く楕円形に窪み、煙道へは段をもたずに移行していた。

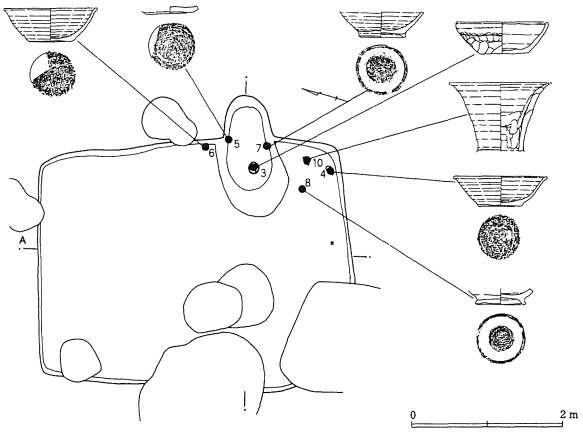
遺構の切り合い関係は、第178号住居跡・第73号井戸跡より古く、第176号住居跡より新しかった。



第303図　第177号住居跡覆土中遺物データ



第304図　第178号住居跡覆土中遺物データ



第305図　第178号住居跡遺物出土位置

第178号住居跡

住居跡の形状は、南北に長い長方形であった。

東壁の南寄りにカマドを検出した。袖は、検出できなかった。燃焼部には、浅い楕円形の窪みがみられた。

カマド燃焼部右脇から須恵器の高台付埦(第350図－7)、左脇から須恵器(第350図－5)、焚き口部から土師器坏(第350図－3)が出土した。またカマド左袖の外側には、須恵器坏(第350図－6)、右袖脇の住居跡東南隅には、須恵器の高台付埦(第350図－8)、須恵器の坏(第350図－4)、須恵器の長頸壺(第350図－10)が出土した。

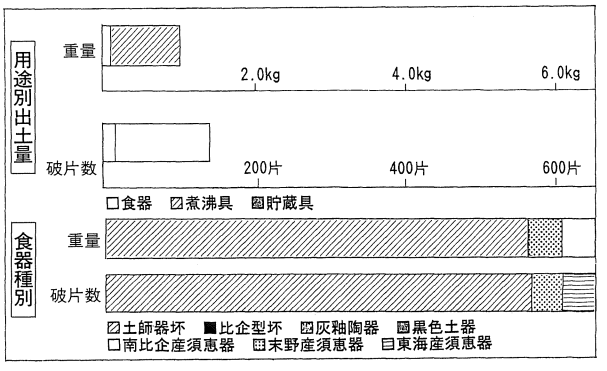
遺構の切り合い関係は、第344号土壙・第73号井戸跡より古く、第176・177号住居跡・第214号溝跡より新しかった。

第179号住居跡

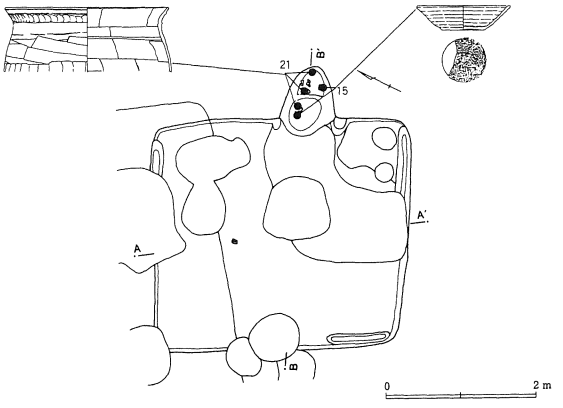
住居跡の形状は、方形であった。カマドを除き、幅約16cmの壁溝が巡っていた。さらに北壁・東壁・南壁の壁溝の内側には、一回り小さな壁溝が巡っていた。このため拡張住居と判断した。小穴は、床面の南側に4基みられた。

北壁の東寄りにカマドを検出した。袖は、みられなかった。燃焼部は、浅く方形に窪み、煙道へ下がる段をもって移行していた。煙道の半分が、竪穴内に造られていた。

遺構の切り合い関係は、第164号住居跡・第317号土壙・第51号井戸跡より古く、第319・321・323号溝跡より新しい。



第306図　第179号住居跡覆土中遺物データ



第308図　第181号住居跡遺物出土位置

第180号住居跡

第179号住居跡の拡張住居跡である。

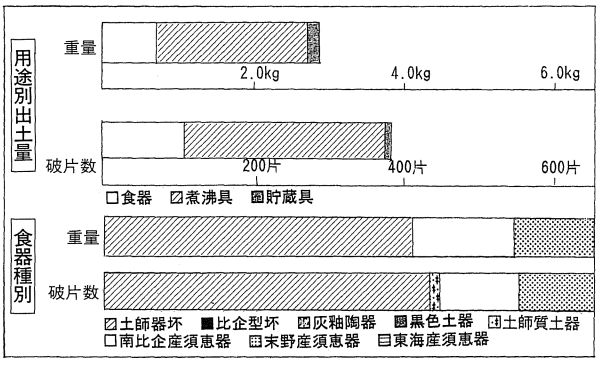
第181号住居跡

住居跡の形状は、方形であった。北壁の東側と南壁の東側、西壁の南側には、幅約17cmの壁溝が巡っていた。

東壁の南寄りにカマドを検出した。袖は、地山を掘り残して構築していた。住居跡内へは、ごく短く伸びていた。燃焼部は、円形に窪み、煙道へ大きな段をもって移行していた。

カマドの燃焼部から須恵器の坏（第350図—15）と土師器の甕（第350図—21）が出土した。

遺構の切り合い関係は、第174・182号住居跡・第326号土壙より新しく、第61号掘立柱建物跡・第327号土壙より古かった。



第307図　第181号住居跡覆土中遺物データ

第182号住居跡

住居跡の大半は、第181号住居跡に切られていたため、形状など全容を明らかにできなかった。

カマドは、検出できなかった。

遺構の切り合い関係は、第174号住居跡より新しく、第181号住居跡・第61号掘立柱建物跡・第326・327号土壙より古かった。

第183号住居跡

住居跡の形状は、東西に長い長方形であった。カマド前面には、径116cm、深さ25cmの不整方形の土壙がみられた。この土壙からは、焼土・炭化物が多量に出土した。南東隅には、小穴が1基みられた。

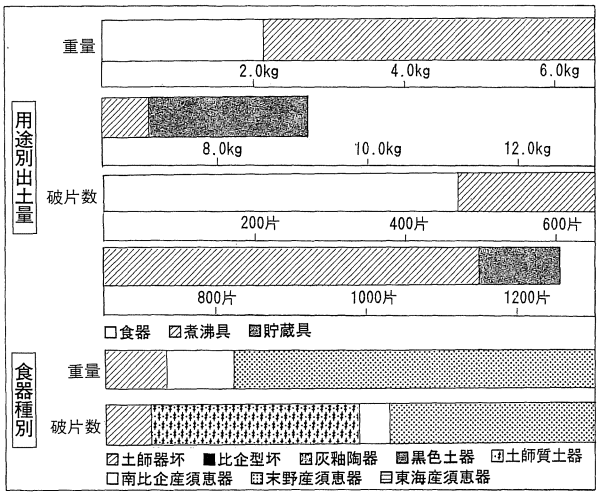
東壁の中央にカマドを検出した。右袖は、地山を掘り残して構築しており、住居跡内へ短く伸びていた。左袖は、第184号住居跡に切られるため、検出できなかった。焚き口から燃焼部にかけては、浅い楕円形の窪みがみられた。焚き口の前面から床下土壙にかけても浅く掘り込まれていた。

南東隅に貯蔵穴を検出した。不整方形の貯蔵穴で、規模は径68cm、深さ25cmであった。

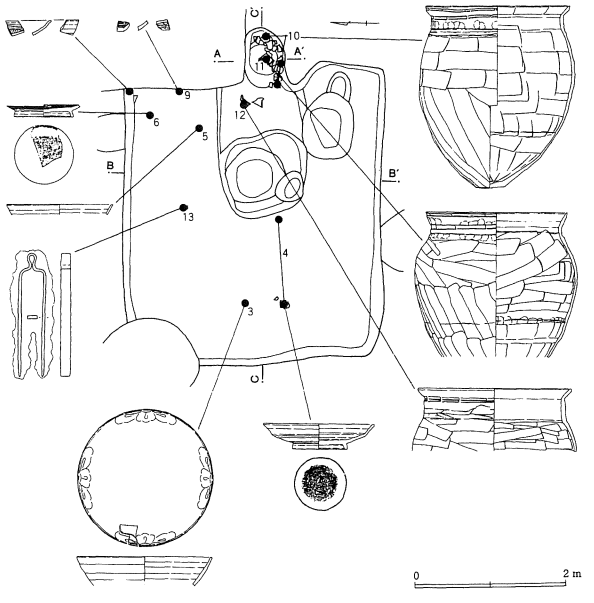
カマドの燃焼部から土師器の甕2点（第351図—10・11）が出土した。また焚き口の前面からも土師器の甕（第351図—12）が出土した。さらに東壁に沿って緑釉陶器片（第351図—3）や、緑釉陶器稜皿（第351図—4）が出土した。さらに住居跡の中央

付近から鉄製の鋏子が出土した。

遺構の切り合い関係は、第184号住居跡・第65号井戸跡より古く、第333号土壙・第183・187・234号溝跡より新しかった。



第309図　第183号住居跡覆土中遺物データ



第310図　第183号住居跡遺物出土位置

第184号住居跡

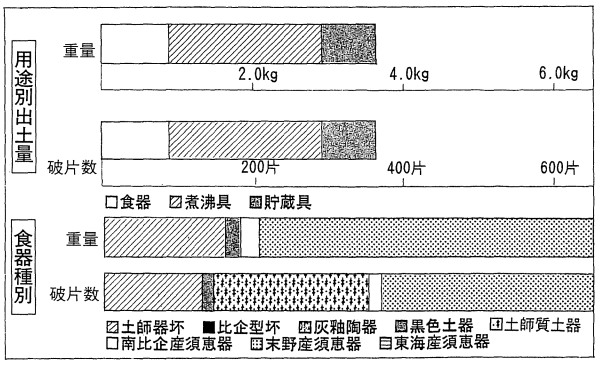
住居跡の形状は、南北にやや長い長方形であった。

東壁の南東よりにカマドを検出した。左袖は、地山を掘り残して構築しており、住居跡内へごく短く伸びていた。右袖は、住居跡の壁をそのまま利用していた。いわゆる「片袖型」であった。焚き口部の前面から燃焼部にかけては、浅く楕円形に窪んでいた。焚き口には、円形の小穴がみられた。燃焼部から煙道へは、段をもって緩やかに移行していた。煙道からは、土師器の甕が出土した。補強材として用いられたと判断した。

南東隅に貯蔵穴を、検出した。形状は方形である。径45cm、深さ10cmであった。

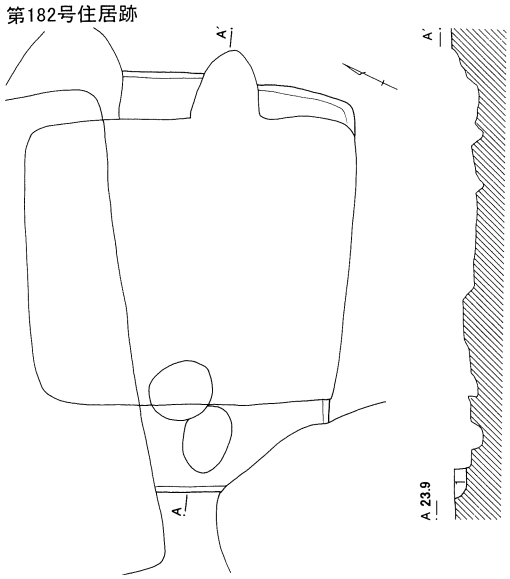
カマドの燃焼部から煙道にかけて須恵器の大甕（第351図－4・第352図－2）の破片が出土した。また燃焼部底面には、土師器の坏（第351図－15）が伏せられていた。さらに貯蔵穴からは、土師器の坏（第351図－14）や高台付埦（第351図－16）が出土した。また床面やや北よりから緑釉陶器片（第351図－22）が出土し、西壁に接して、緑釉陶器の輪花付大埦（第351図－19）が出土した。さらに西北隅には、鉄製の刀子が出土した。

遺構の切り合い関係は、第183号住居跡・第241号溝跡より新しく、第313・333号土壙・第60・66号井戸跡より古かった。



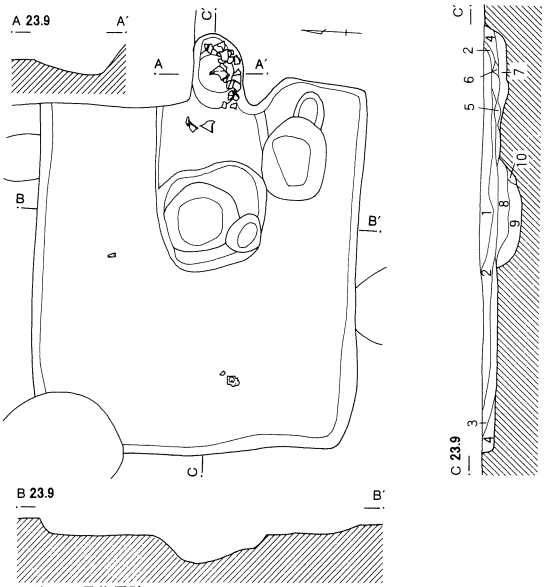
第311図　第184号住居跡覆土中遺物データ

第182号住居跡



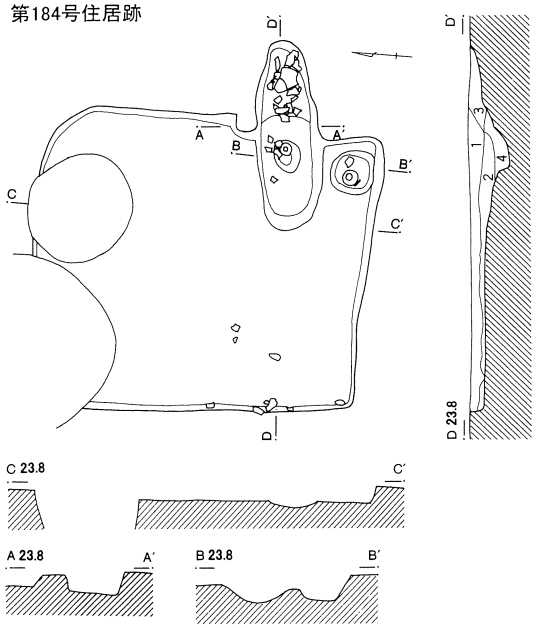
第182号住居跡
1　暗褐色土　炭化粒子・焼土粒子・黄褐色粒子を含む

第183号住居跡



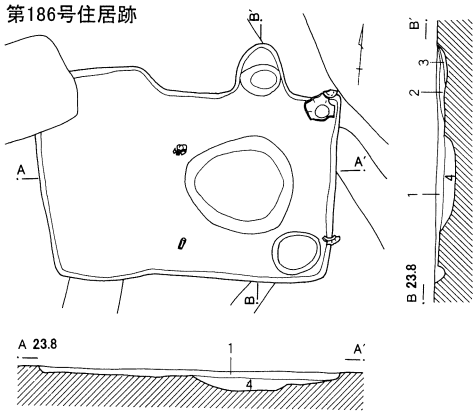
第183号住居跡
1　暗褐色土　焼土ブロック・炭化物ブロック・黄灰色粘土ブロック（3～5㎜）少量
2　暗褐色土　焼土ブロック・炭化物ブロック・黄灰色粘土ブロック（3～5㎜）多量
3　暗褐色土　炭化物（3～5㎜）・焼土ブロック（2～3㎜）多量　炭化物多量
4　灰黄褐色土　灰黄色粘土ブロック（3～5㎜）多量
5　暗褐色土　灰黄色粘土ブロック（3～5㎜）まばら　カマド天井崩落土
6　黒褐色土　焼土ブロック（10～20㎜）まばら
7　黒色土　炭化物・灰含む
8　暗褐色土　黄灰色粘土粒子（10～20㎜）多量　焼土・炭化物粒子（1～2㎜）多量
9　暗褐色土　黄灰色粘土ブロック（3～5㎜）多量　焼土・炭化物粒子（1～2㎜）少量
10　黒色土　7層と近似　炭化物（2～3㎜）多量

第184号住居跡



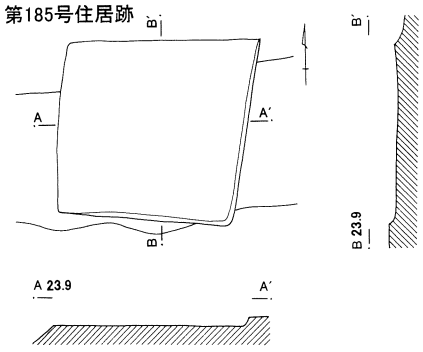
第184号住居跡
1　暗褐色土　粒子粗く粘性強い　焼土微量含む
2　暗褐色土　黄褐色のブロック含む　炭化物あり
3　黒色土　炭化物・焼土ブロック含む
4　赤褐色土　焼土粒子多量含む

第186号住居跡

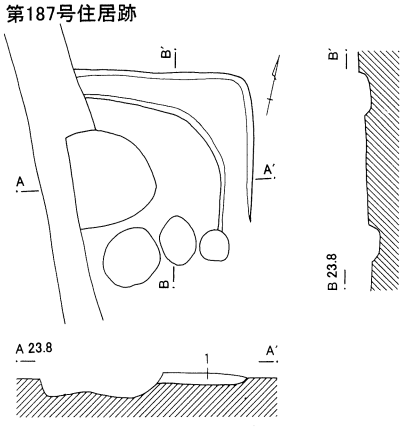


第186号住居跡
1　黒色土　粒子の粗い炭化物・焼土含む
2　黒色土　炭化物
3　赤褐色土　焼土　炭化物含む
4　黒色土　粘性強く粒子粗い

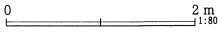
第185号住居跡



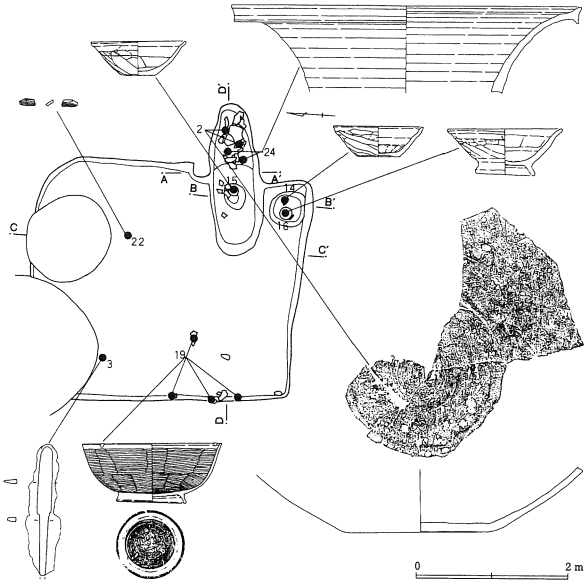
第187号住居跡



第187号住居跡
1　灰褐色土　焼土・炭化物・黄色土粒子含む　しまりあり



第312図　竪穴住居跡(39)



第313図　第184号住居跡遺物出土位置

第185号住居跡

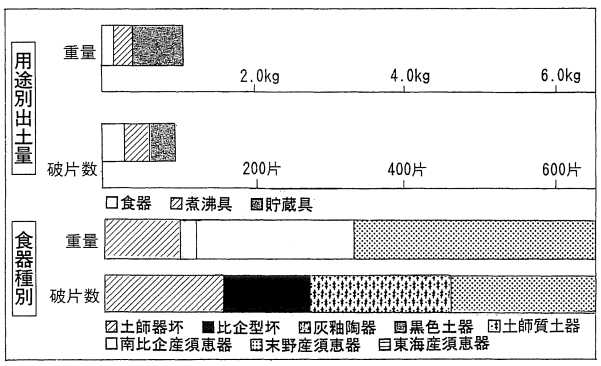
住居跡の大半は、掘込みが浅く検出できなかった。

カマドは、検出できなかった。

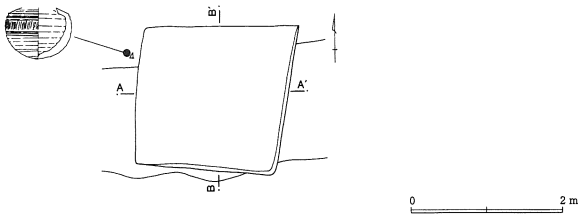
遺構の切り合い関係は、第338・339号土壙・第235号溝跡より古い。

第186号住居跡

住居跡の形状は、東西に長い長方形であった。中央東寄りには、径113cm、深さ11cmの不整円形の土壙を検出した。南東隅には、小穴が１基みられた。カマド左側の北壁沿いには、長さ73cm、幅28cmの張り出し施設がみられた。



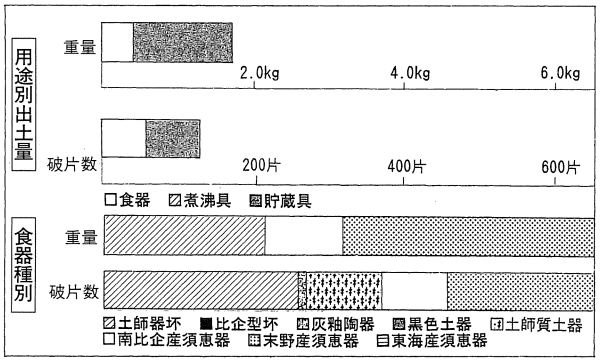
第314図　第185号住居跡覆土中遺物データ



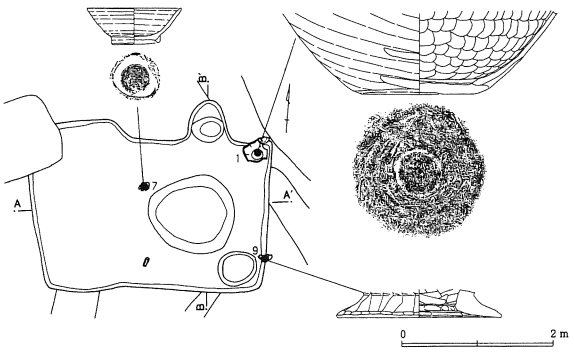
第315図　第185号住居跡遺物出土位置

北壁の北東隅よりにカマドを、検出した。袖は、検出できなかった。燃焼部には、浅い楕円形の掘り込みがみられた。

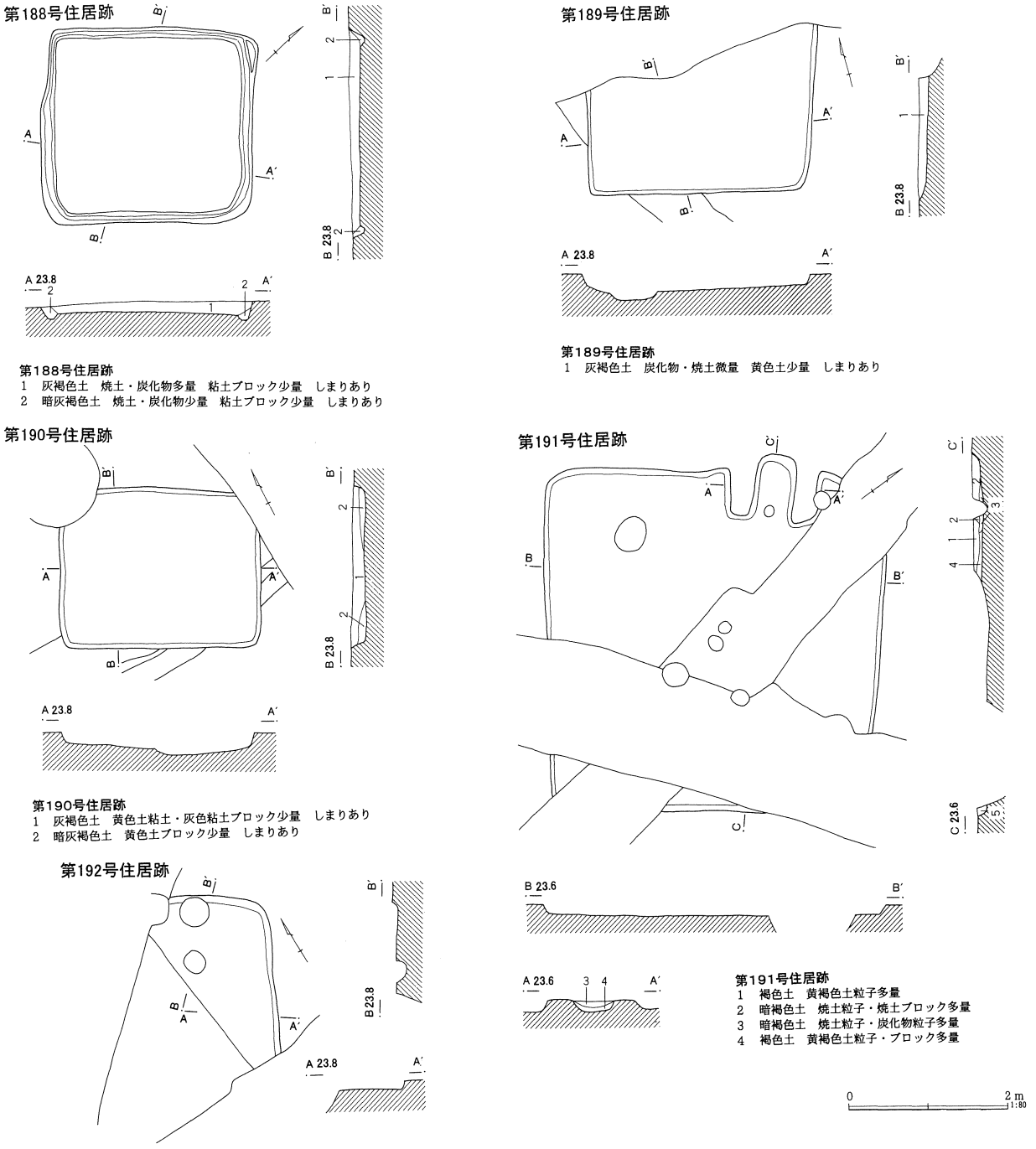
カマド右脇の住居跡東南隅に、須恵器の大甕の破片（第353図―１）が出土した。底部のみの破片で、据えられた状態で出土していることから台座と考えた。住居跡の西南隅からは、土師器の羽釜型甑（第



第316図　第186号住居跡覆土中遺物データ



第317図　第186号住居跡遺物出土位置



第318図　竪穴住居跡(40)

352図―９）の底部が出土した。また竪穴のほぼ中央から土師質土器の高台付埦（第352図―７）が出土した。

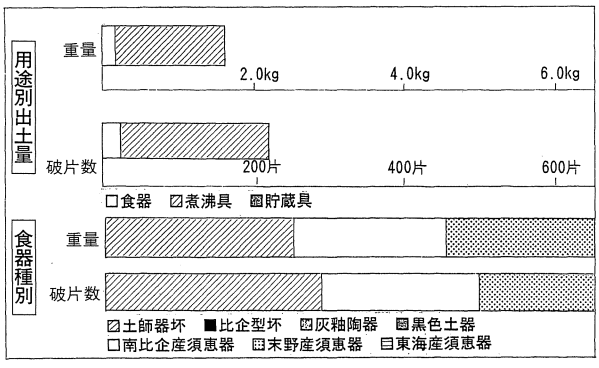
遺構の切り合い関係は、第377号土壙・第42・43・181号溝跡より新しい。

第187号住居跡

住居跡の大半は、第188号住居跡と第182号溝に切られたため、形状など全容は、明らかにできなかった。北壁と東壁には、幅約20㎝の壁溝が巡っていた。

カマドは、検出できなかった。

遺構の切り合い関係は、第188号住居跡より古く、第234・183号溝跡・第376号土壙より新しかった。



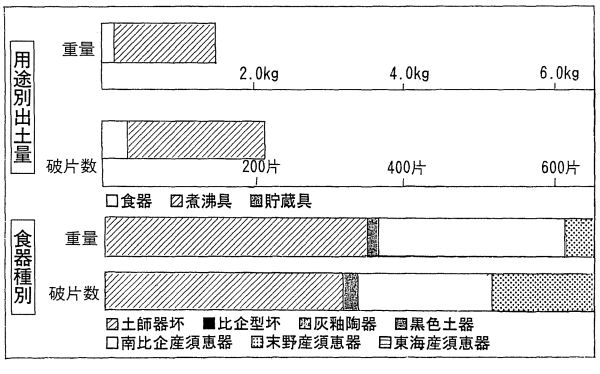
第319図　第187号住居跡覆土中遺物データ

第188号住居跡

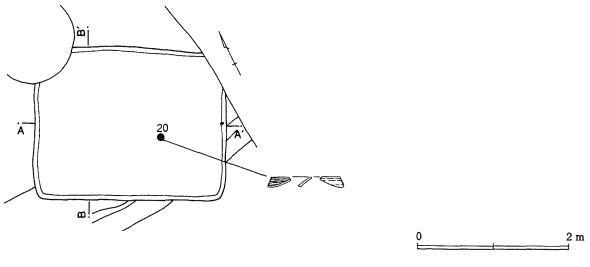
住居跡の形状は、方形であった。幅16cmの壁溝が、壁に沿って全周していた。

カマドは、検出できなかった。

遺構の切り合い関係は、第187号住居跡・第237・269号溝跡より新しかった。



第320図　第188号住居跡覆土中遺物データ



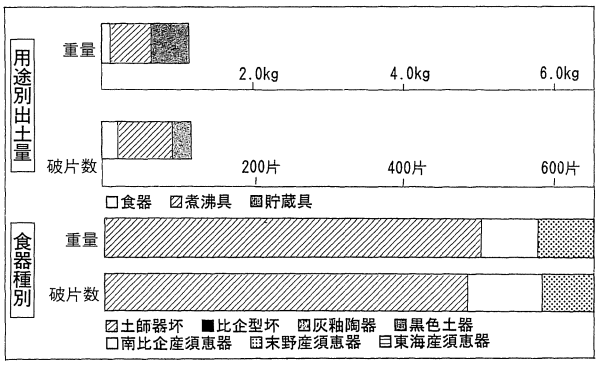
第321図　第188号住居跡遺物出土位置

第189号住居跡

住居跡の北側は、第24号溝に切られたため、形状など全容は明らかにできなかった。

カマドは、検出できなかった。

遺構の切り合い関係は、第237号より新しく、第79号井戸跡・第206号溝跡より古かった。



第322図　第189号住居跡覆土中遺物データ

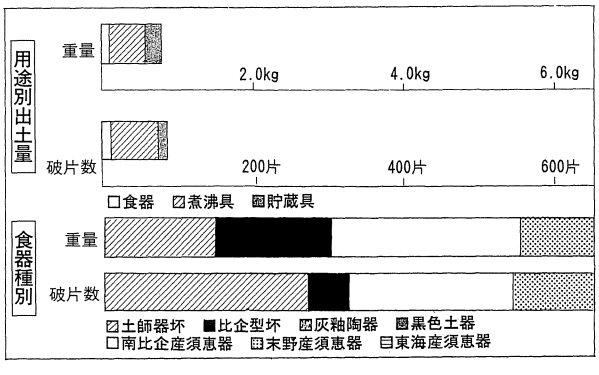
第190号住居跡

住居跡の形状は、東西に長い長方形であった。

カマドは、検出できなかった。

床面中央から緑釉陶器片（第353図—20）が出土した。

遺構の切り合い関係は、第81号井戸跡・第60・156・272号溝跡より古かった。



第323図　第190号住居跡覆土中遺物データ

第191号住居跡

住居跡の形状は、方形であった。住居跡の中央が、第266・277号溝跡に切られていた。

西壁の北西隅よりにカマドを検出した。袖は、地

山を掘り残して構築しており、住居跡内へ伸びていた。燃焼部の掘り込みはみられなかった。

遺構の切り合い関係は、第277・266号溝跡より古かった。

第192号住居跡

住居跡の大半は、第225・266・275号溝跡に切られるため、形状など全容は、明らかにできなかった。

カマドは、検出できなかった。

遺構の切り合い関係は、第225・266・275号溝跡より古かった。

(2) 竪穴住居跡出土遺物

第1号住居跡出土遺物

第324図1は、須恵器の坏である。還元化が進み硬質に仕上がっている。南比企窯跡群の製品である。

第1号住居跡から図化可能な土器は、1点だけであった。8世紀後半。

第2号住居跡出土遺物

第324図2は、須恵器の高台付埦か坏である。比較的還元化され、やや硬い。末野窯跡群の製品である。

第2号住居跡から図化可能な土器は、1点だけであった。9世紀後半。

第3号住居跡出土遺物

第324図3は、須恵器の高台付埦である。高台は台形状である。還元化が進まず黄橙色である。末野窯跡群の製品である。

4は、灰釉陶器の埦である。還元化がほとんど進んでおらず、黄橙色である。釉の発色も大変鈍く、黒ずんでいる。東濃地方の製品で大原2号窯式である。

5は、土師器の甕である。口径が大きく薄甕である。利根川水系の原土が用いられている。

須恵器の高台付埦や灰釉陶器の埦、土師器の甕から第3号住居跡は、10世紀の第II四半期と考えたい。

第4号住居跡出土遺物

第324図6は、土師質土器の坏である。焼成は大変悪く、手に粉が付く。利根川水系の原土が用いられている。

第4号住居跡から図化可能な土器は、1点だけであった。10世紀前半。

第5号住居跡出土遺物

第324図7は、須恵器の高台付埦である。高台は低い菱形である。内端接地である。還元化は比較的進まず、軟質である。末野窯跡群の製品である。

8は、土師器の甕である。口径の大きな甕で、薄甕である。利根川水系の原土が用いられている。

須恵器の高台付埦と土師器の甕から第5号住居跡は、9世紀第III四半期と考えたい。

第6号住居跡出土遺物

第324図9は、須恵器の坏である。砂質の須恵器で、還元化し灰色となるが、手に砂が付く。荒川流域の自然堤防上で作られたのであろうか。

10・11は、須恵器の高台付埦である。10は、高台が低い台形状で端部を「M」字状に成形している。外端接地の高台である。良く還元化された末野窯跡群の製品である。11は、やや崩れた台形状の高台を付ける。還元化が進まず橙色となるが、器表は、黒色が覆う。末野窯跡群の製品である。

12・13は、土師器の甕である。同一個体かもしれない。利根川水系の原土が用いられている。

須恵器高台付埦や、「コ」の字の崩れた土師器甕などから第6号住居跡は、9世紀第IV四半期（10世紀第I四半期）としておきたい。

第7号住居跡出土遺物

第324図14は、土師器の坏である。口縁部がやや内屈した内湾口縁の坏である。雑な調整の割には、極めて薄く作られている。角閃石・軽石を含む利根川水系の原土が用いられ、ざらついて手に砂が付く。

第７号住居跡から出土した遺物の中で図化できたのは、14のみであった。９世紀前半の土器である。

第８号住居跡出土遺物

第324図15は、土師器の坏である。扁平な内湾坏で全体に砂っぽい。外面に粘性の強い付着物がある。利根川水系の原土が用いられている。

16・17は、須恵器の坏である。16の底部は、周辺へラケズリが施されている。16・17とも良く還元化し、硬質である。南比企窯跡群の製品である。

土師器の坏や須恵器の坏から第８号住居跡は、８世紀第Ⅳ四半期と考えたい。

第10号住居跡出土遺物

第324図18･19は、須恵器の坏である。18は、底部の全面が回転へラケズリされている。両者は良く還元化されている。南比企窯跡群の製品である。

20は、須恵器の高台付埦である。高台は欠損する。底部周辺を回転へラケズリしてから高台を付ける。南比企窯跡群の製品である。

須恵器の高台付埦や坏から第10号住居跡は、８世紀第Ⅳ四半期と考えたい。

第11号住居跡出土遺物

第324図21は、須恵器の蓋である。天井部は丁寧にへラケズリされ、糸切りの痕跡は分かりにくくなっている。つまみはボタン状のつまみで、飲み込みも深く作られている。口唇部は、「マ」の字状に外へ踏ん張る。末野窯跡群の製品である。

22～26は、須恵器の坏である。22・23は、やや大振りな坏である。22は底部周辺に23は底部の全面に回転へラケズリが施されている。24～26に周辺部の二次調整はない。いずれも良く還元化しており、硬く仕上がっている。全て南比企窯跡群の製品である。

27は、須恵器の長頸壺である。口縁部破片で、全体は不明瞭である。

28は、須恵器の甕である。27･28とも良く還元化し硬質に仕上がっている。南比企窯跡群の製品である。

須恵器の蓋・坏から第11号住居跡は、８世紀第Ⅲ四半期と考えたい。

第12号住居跡出土遺物

第324図29は、土師器の坏である。北島型暗文土器で内面には、放射状の暗文が施される。間隔は、まばらで揃っていない。角閃石・軽石を含み、利根川水系の原土が用いられている。

30は、須恵器の蓋である。かえりは小さく突出するが、丁寧に作られている。還元化が進まず、橙色に仕上がっており、軟らかい。末野窯跡群の製品である。

31・32は、須恵器の坏である。31は、手持ちへラケズリで底部全体を調整するが、32は、回転へラケズリで調整している。また32は、底部から一端外反しつつ立ち上がり、強く屈曲した後、外反する口縁に続く。31は、還元化の進んだ南比企窯跡群の製品であるが、32は、石英や白色軽石を含み、群馬県東部（金山窯跡群）の製品であろう。還元化が進まず全体に軟らかい。

33は、須恵器のフラスコ形瓶である。口縁部の破片で、二段の屈曲がみられる。還元化が進み、硬質に仕上がっている。湖西窯跡群の製品である。

土師器の坏や須恵器の蓋・坏・フラスコ形瓶などから第12号住居跡は、７世紀第Ⅳ四半期と考えたい。

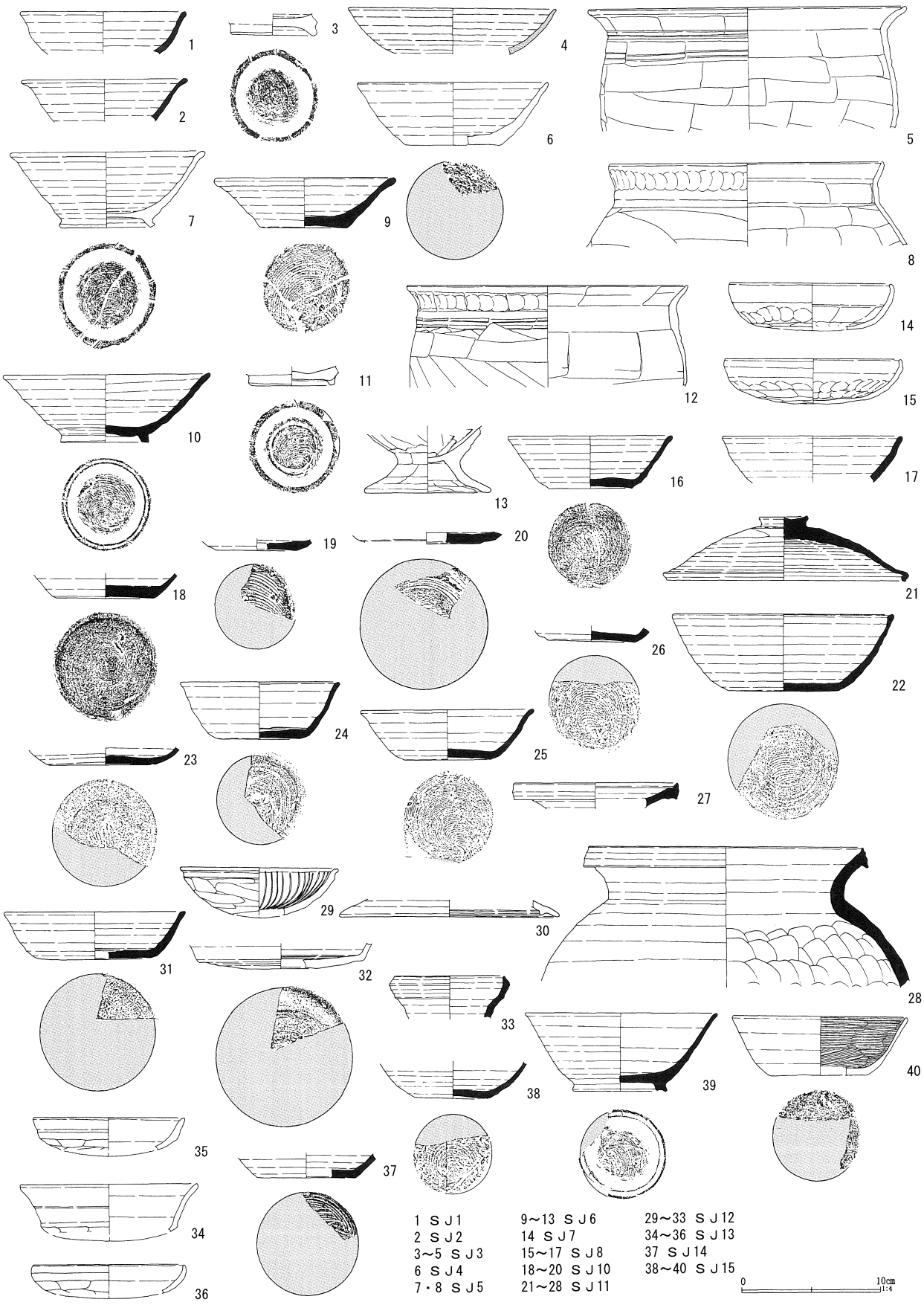
第13号住居跡出土遺物

第324図34～36は、土師器の坏である。34は有段口縁坏、35は扁平な坏、36は内屈口縁坏である。34は、器壁が大変薄く作られている。全て利根川水系の原土が用いられている。

土師器の坏から第13号住居跡は、８世紀第Ⅰ四半期と考えたい。

第14号住居跡出土遺物

第324図37は、須恵器の坏である。よく還元化し硬



第324図　竪穴住居跡出土遺物(1)

質である。底部周辺をヘラケズリしている。南比企窯跡群の製品である。

第14号住居跡から図化可能な土器は、１点だけであった。８世紀後半。

第15号住居跡出土遺物

第324図38は、須恵器坏である。焼きが甘いが、良く還元化されている。東金子窯跡群の製品である。

39は、須恵器高台付埦である。中央が明瞭に「M」字状となる外端接地の高台である。末野窯跡群の製品である。

40は、黒色土器の坏である。内面は細かく横位のミガキが施されている。器肉は薄く、丁寧に作られている。角閃石や輝石を含むことから利根川水系の原土が用いられている。

第325図１は、須恵器坏の底部を利用した紡錘車である。利根川水系の原土が用いられている。

須恵器坏や、高台付埦、黒色土器の存在から第15号住居跡は、９世紀第III四半期である。

第16号住居跡出土遺物

第325図２は、須恵器の甕である。良く還元化され、比較的硬質である。南比企窯跡群の製品である。

第16号住居跡から図化できた土器は１点のみである。９世紀前半であろうか。

第17号住居跡出土遺物

第325図３は、須恵器の坏である。焼きが甘く還元化が進まず、淡い色調となっている。南比企窯跡群の製品である。

４・５は、須恵器の高台付埦である。細かな粒子の原土で、比重が重い。４の高台は、厚手の台形状で外端接地であるが、５の高台は、「ハ」の字状に外に開く。大形の製品である。東金子窯跡群の製品である。

６は、須恵器長頸瓶の口縁部である。南比企窯跡群の製品である。

１～３の、口径：底径比から第17号住居跡は、９世紀第Ⅰ四半期と考えたい。

第18号住居跡出土遺物

第325図７は、須恵器の坏である。焼き斑がなく、非常に薄く作り上げられている。末野窯跡群の製品である。

８は、須恵器高台付埦である。焼成が甘く、高台が酸化し橙色となっている。器肌の劣化も激しい。高台は、粘土紐を貼り付けた程度で、鈍い内端接地となっている。これも末野窯跡群の製品である。

９は、内面を横位にヘラミガキをし、黒色処理した坏であろう。外面は、橙色となるが、劣化が激しい。土師器坏と似た胎土で、利根川流域の原土を使用している。

10は、緑釉陶器の埦である。猿投窯跡群の製品で黒笹90号窯式である。内面の素地には、細かなヘラミガキが施されている。

11は、須恵器の鉢である。末野窯跡群の製品である。

底径の小さな須恵器の存在や黒色土器・緑釉陶器などから第18号住居跡は、９世紀第Ⅳ四半期と考えたい。

第19号住居跡出土遺物

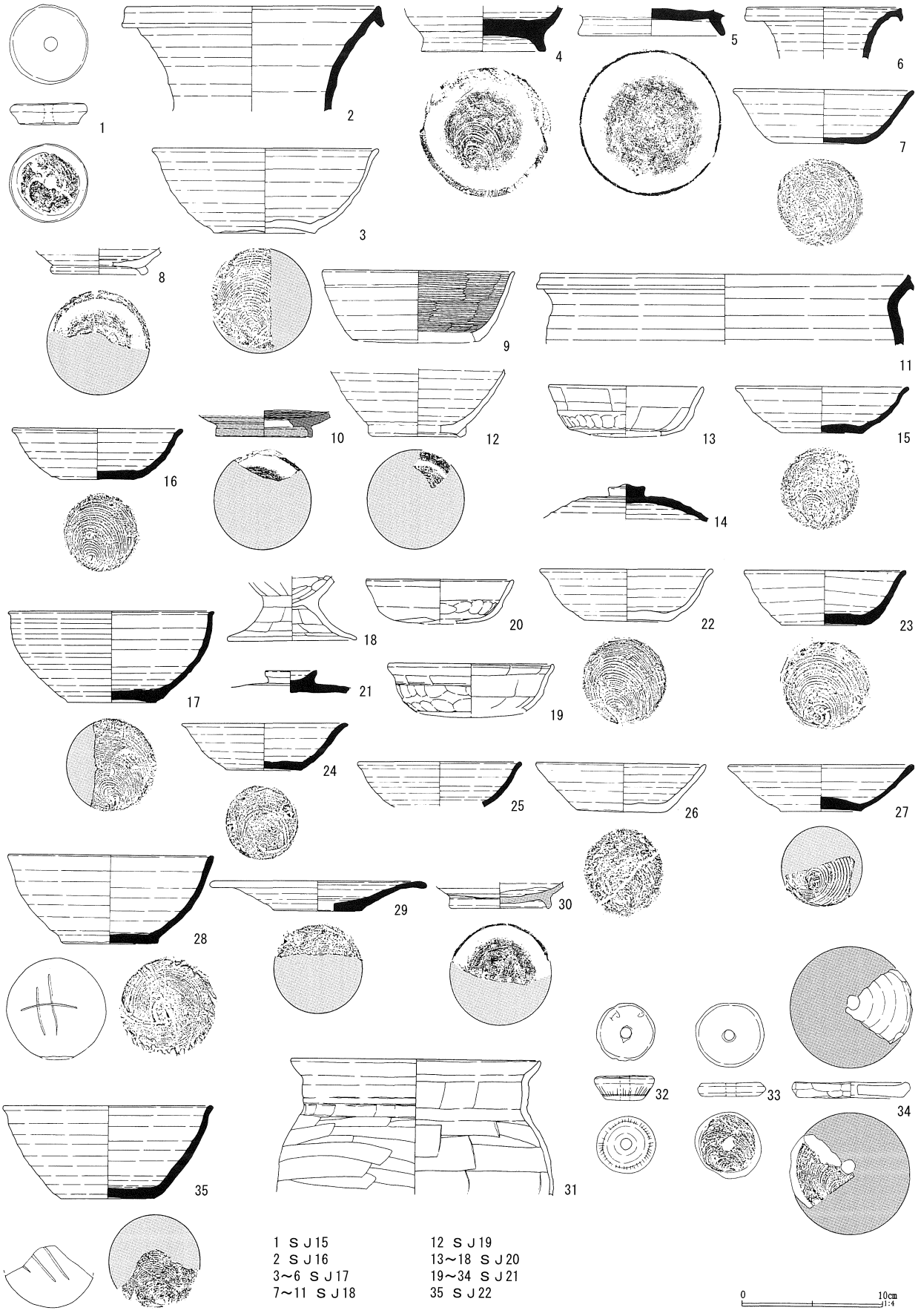
第325図12は、須恵器の高台付埦である。高台は、台形に甘く作られ内端接地である。焼成は大変甘く、胎土もざらついている。角閃石・軽石を含む利根川流域の原土で、近隣の自然堤防で焼成された製品であろう。

第19号住居跡から図化できた土器は、１点のみである。10世紀後半である。

第20号住居跡出土遺物

第325図13は、土師器の坏Ａである。焼成は、土師質土器に近く手に粉が付く。利根川水系の原土が用いられている。

14は、須恵器の蓋である。ボタン状のつまみは、小さく丁寧である。南比企窯跡群の製品である。



第325図　竪穴住居跡出土遺物(2)

15～17は、須恵器の坏である。14～17は、良く還元化されており、硬く焼き上がっている。17は、深めで埦に近い。15は、東金子窯跡群、16・17は、南比企窯跡群の製品である。

18は、土師器の台付甕である。褐色に焼き上がっており、ローム台地内の原土が用いられている。

第20号住居跡は、第21号住居跡の拡張住居跡であることや、土師器坏Aや須恵器坏・蓋などから9世紀第II四半期と考えたい。

第21号住居跡出土遺物

第325図19・20は、土師器坏である。19は、器表が荒れ粉っぽい。20の内面には、黒色の付着があり、油煙と考えられる。19は、角閃石を含み、利根川流域の原土であろうが、20は、頁岩を含む櫛引台地のロームを原土としていよう。

21は、須恵器蓋のつまみである。リング状で中央が凹む。末野窯跡群の製品である。

22～27は、須恵器坏である。22・26は、焼成が甘く還元化が進まず、軟質に焼き上がっている。他は良好に還元化し、硬質な焼き上がりである。22～26は、南比企窯跡群の製品である。27は、東金子窯跡群の製品である。

28は、須恵器の無台埦である。還元化が進まず浅黄色に焼き上がっているが、比較的硬質である。底部には、「キ」の箆書がみられる。あるいは二十であろうか。南比企窯跡群の製品である。

29は、須恵器の皿である。硬質に焼き上がり明瞭なロクロ目が残る。南比企窯跡群の製品である。

30は、灰釉陶器の皿である。浜北地方の製品で、黒笹90号窯式である。

31は、土師器「コ」の字状口縁甕である。屈曲度は低く、工具による押さえが強い。角閃石・軽石を含み利根川水系の原土である。

32は、石製紡錘車である。33・34は、須恵器坏の底部を加工した紡錘車である。南比企窯跡群の製品である。

須恵器坏や「コ」の字状口縁甕から第21号住居跡は、9世紀第II四半期と考えたい。

第22号住居跡出土遺物

第325図35は、須恵器の坏である。底部から口縁にかけて肉厚である。良く還元化し硬い。南比企窯跡群の製品である。

第326図1は、土師器の甕である。いわゆる薄甕で、外面を粗く削っている割には、器肉は非常に薄い。利根川水系の原土が用いられている。

須恵器の坏や土師器の甕から第22号住居跡は、8世紀第III四半期と考えたい。

第23号住居跡出土遺物

第326図2～4は、須恵器の高台付埦である。2・3の高台は、明瞭な台形状で緩い「M」字状となる。外端接地である。焼成は悪く、還元化が進んでいない。4は高台を欠く。全て末野窯跡群の製品である。

5～7は、土師器の甕である。3点とも表面の劣化が激しく、調整は不明瞭だが、「コ」の字状口縁甕といえよう。角閃石・軽石を含み、利根川流域の原土であろう。

第23号住居跡は、須恵器高台付埦や「コ」の字状口縁甕から9世紀第II四半期である。

第24号住居跡出土遺物

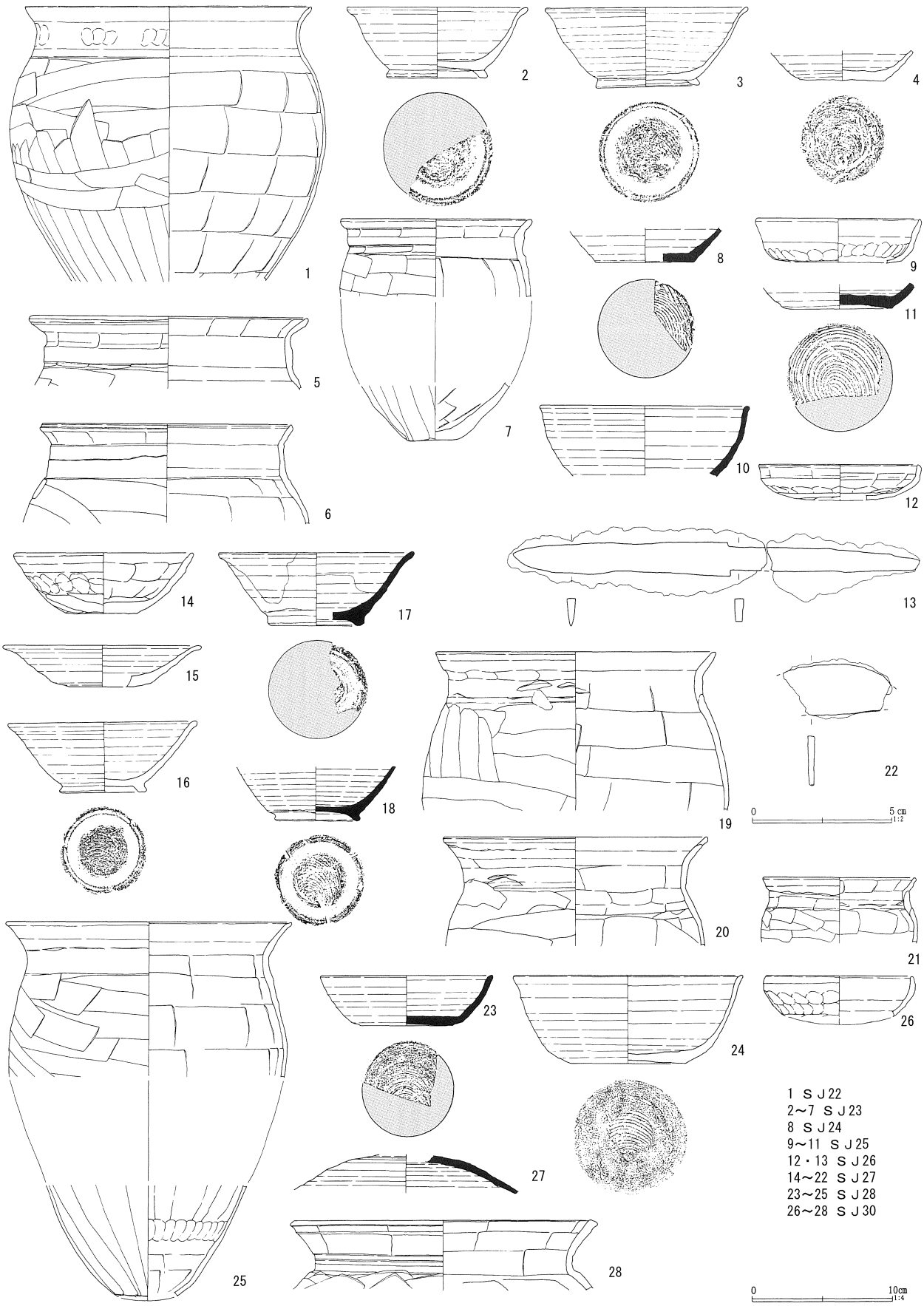
第326図8は、須恵器の坏である。底部内面は、爪先技法によって窪む。良く還元化しており硬質である。東金子窯跡群の製品である。

第24号住居跡から図化できた土器は、1点のみである。9世紀第2四半期である。

第25号住居跡出土遺物

第326図9は、土師器の坏Aである。器表の荒れが激しく、砂が手に付く。利根川水系の原土を用いている。

10・11は、須恵器の坏である。還元化が進み、硬



第326図　竪穴住居跡出土遺物(3)

質である。南比企窯跡群の製品である。

土師器坏Ａや須恵器の坏から第25号住居跡は、８世紀第Ⅳ四半期と考えたい。

第26号住居跡出土遺物

第326図12は、土師器坏である。硬質に焼き上がり、器表の荒れは少ない。角閃石や軽石を含み、利根川水系の原土である。

13は、鉄製の刀子である。

第26号住居跡から図化できた土器は、１点のみである。８世紀第Ⅱ四半期である。

第27号住居跡出土遺物

第326図14は、土師器の坏Ｂである。体部に粘土紐の不連続痕跡を残す。底部から比較的荒いヘラケズリで削り取られ、底部は小さくなる。底部はヘラケズリされている。酸化炎焼成だが、比較的硬質に焼かれている。利根川水系の原土である。

15は、須恵器皿である。還元化が進まず、軟らかい仕上がりである。末野窯跡群の製品である。

16～18は、須恵器高台付埦である。高台は、やや不明瞭な台形状であるが、「M」字状の名残りが一部にみられる。17・18ともやや還元化が低く、５は、器壁が発泡化している。17には、油煙が付着している。末野窯跡群の製品である。

19～21は、土師器甕である。19･20は、「コ」の字状口縁甕の退化形態の甕である。とくに19は、肉厚となっている。利根川水系の原土を使用している。

22は、不明鉄製品である。

土師器坏Ｂが存在することや、高台付埦の高台や「コ」の字状口縁甕が、退化形態にあることなどから第27号住居跡は、10世紀第Ⅰ四半期と考えられる。

第28号住居跡出土遺物

第326図23は、須恵器坏である。底部は、周辺ヘラケズリが施される。硬質に焼き上がり、還元化が進む。南比企窯跡群の製品である。

24は、須恵器の無台埦である。底部は２周に亘って周辺ヘラケズリが施される。還元化がほとんど進まず、酸化状態である。しかし比較的硬質に焼かれている。南比企窯跡群の製品である。

25は、土師器甕である。口縁部が、「く」の字状となる甕で、非常に薄くシャープに作られている。角閃石・軽石を多く含み、利根川水系の原土で作られている。

須恵器坏や土師器甕等から第28号住居跡は、８世紀第Ⅲ四半期と考えたい。

第30号住居跡出土遺物

第326図26は、土師器の坏である。内湾口縁の坏で底部をヘラケズリしている。利根川水系の原土が用いられている。

27は、須恵器の蓋である。あまり還元化が進まず、やや甘い仕上がりとなっている。末野窯跡群の製品である。

28は、土師器の甕である。伏せて焼かれたらしく、外面が黒褐色化しているが、内面は暗赤褐色である。利根川水系の原土が用いられている。

土師器の坏や甕、須恵器の蓋から第30号住居跡は、８世紀第Ⅱ四半期と考えたい。

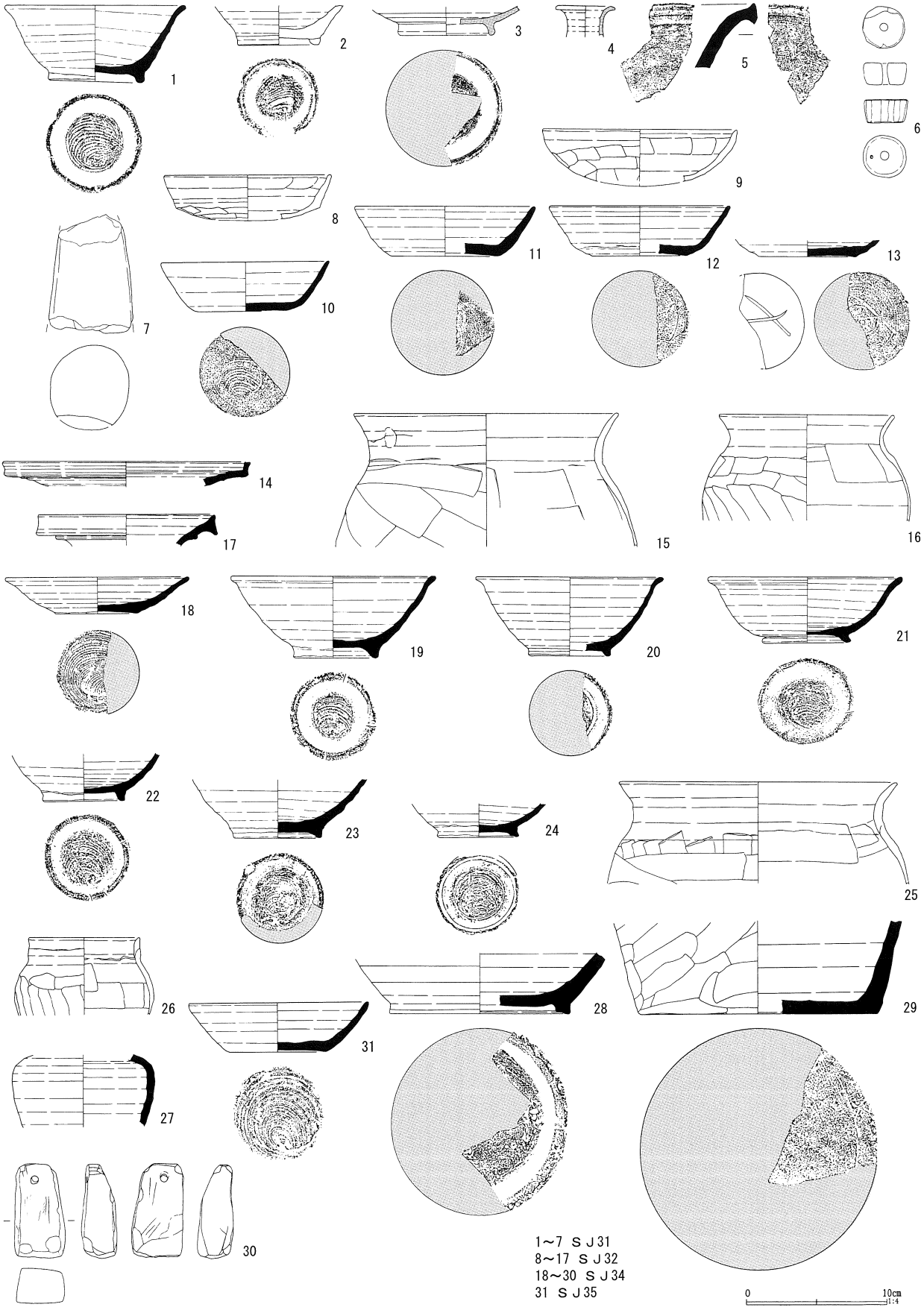
第31号住居跡出土遺物

第327図１・２は、須恵器高台付埦である。１は、結晶片岩粒を多量に含む胎土で大変粗い。高台も紐状の粘土を台形状になでつけただけである。２は、還元化が進まずやや白っぽく焼き上がっている。器肌もざらついている。高台は、台形状だが、一部「M」字状となる外端接地である。両者とも末野窯跡群の製品である。

３は、灰釉陶器の埦である。東濃地方の製品である。大原２号窯式である。

４は、灰釉陶器の手付き小瓶である。猿投窯跡群の製品で、黒笹14号窯式である。

５は、須恵器甕の口縁部破片である。末野窯跡群



第327図　竪穴住居跡出土遺物(4)

の製品である。

6は、石製紡錘車である。

7は、土製支脚である。表面の劣化が激しく、成形等は不明瞭である。

やや退化した高台の須恵器高台付埦や灰釉陶器から第31号住居跡は、10世紀第IV四半期と考えたい。

第32号住居跡出土遺物

第327図8は、土師器の坏である。退化の進んだ須恵器坏蓋模倣坏であろう。

9は、土師器の埦である。丁寧に薄く作られる。本来は、内面に暗文の施される器形であるが、暗文の施文はない。8・9とも利根川水系の原土が用いられざらついている。

10～13は、須恵器の坏である。全て底部周辺をヘラケズリしている。良く還元化されている。13の底部には、「×」または「〆」の箆書がみられる。南比企窯跡群の製品である。

14は、須恵器高盤の口縁部破片である。精選された胎土で、口唇部も沈線状に窪むなど丁寧な作りである。東海地方の製品であろうか。

15・16は、土師器の甕である。器肉が極めて薄い割には、外面が大胆に削られている。角閃石・軽石から利根川水系の原土である。器表は、砂質である。

17は、須恵器の長頸壺か、フラスコ形瓶の口縁部である。口縁直下に緩い段がみられる。精選された胎土で、良く還元化されており、良くしまっている。東海地方（湖西窯跡群）の製品である。

土師器の埦や坏、周辺ヘラケズリをした須恵器の坏、薄甕などから第32号住居跡は、8世紀第III四半期と考えたい。

第34号住居跡出土遺物

第327図18は、須恵器の皿である。やや発色が鈍い。末野窯跡群の製品である。

19～24は、須恵器の高台付埦である。全体に還元化が進まず発色が鈍いが、24のみは、良好な灰色となる。また高台も細い粘土紐を貼り付け、外に開く台形状となる製品が多いが、24のみは、丁寧な「M」字状の外端接地となる高台である。やや大きな結晶片岩の角礫を含み、器肌はざらついている。全て末野窯跡群の製品である。

25は、土師器の甕である。器肉がやや厚手であり、ケズリもやや雑である。淡い橙色に焼き上がる。角閃石・軽石を含み、利根川水系の原土を用いる。

26は、土師器の小形甕である。比較的丁寧に成形され、器肉も薄い。利根川水系の原土を用いる。

27は、須恵器の小形壺、いわゆる「壺G」である。肩部のみの破片であるが、丁寧にロクロ挽きされている。末野窯跡群の製品か。

28は、須恵器の長頸壺である。やや大形の長頸壺であるが、底部からロクロで引き上げている。高台は、丁寧な「M」字状となる。非常に緻密な胎土で比重の重い東金子窯跡群の製品である。

29は、須恵器の甕である。底部は、ヘラケズリされている。また底部付近の外面も斜めにヘラケズリされている。叩き成形された後、ロクロで挽かれたようである。末野窯跡群の製品である。

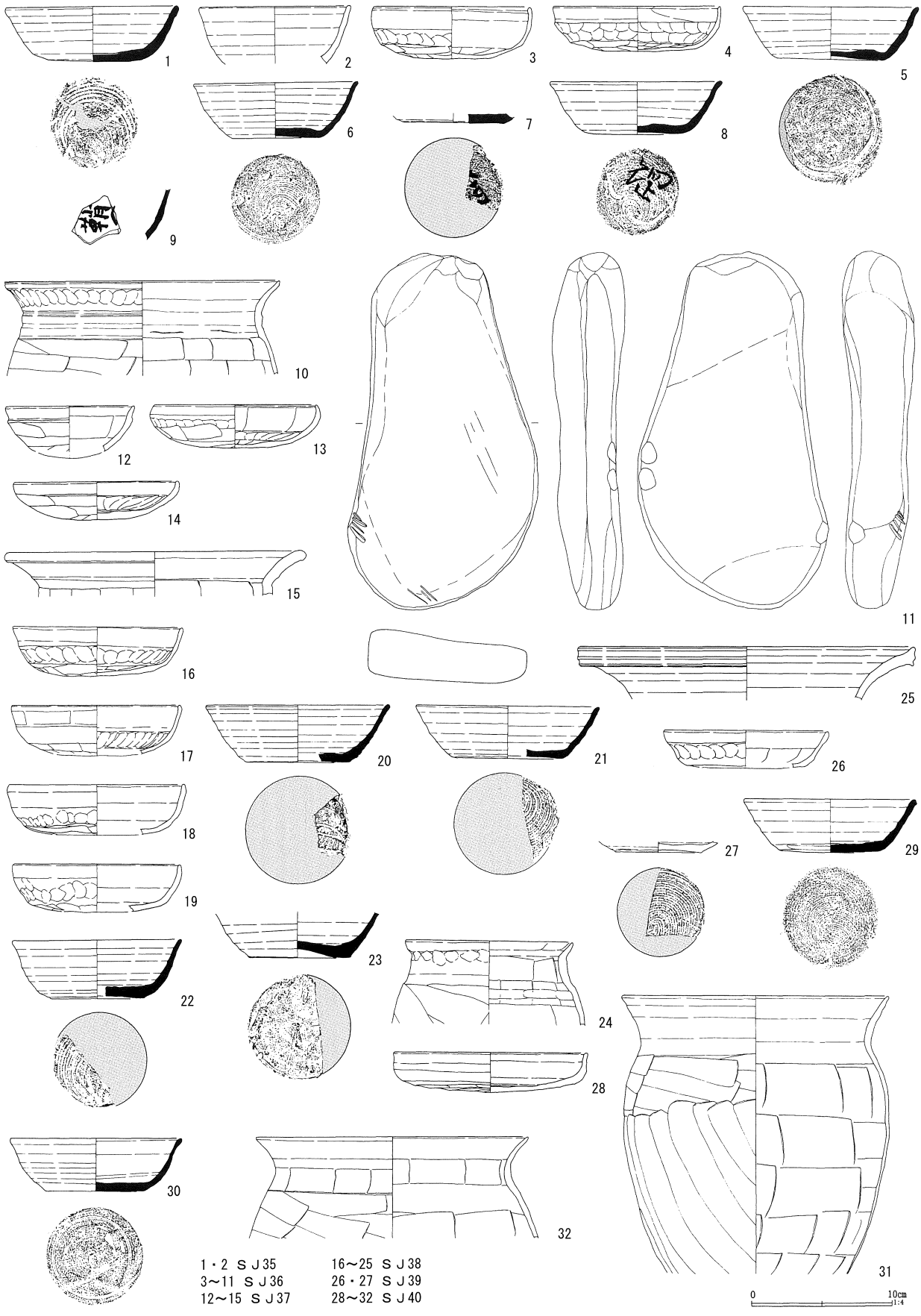
30は、砥石である。上部に円形の穿孔が見られる。提砥、あるいは権（錘）の可能性もある。

退化傾向にある高台の須恵器や土師器の甕から第34号住居跡は、9世紀第IV四半期（10世紀第I四半期）と考えたい。

第35号住居跡出土遺物

第327図31～第328図2は、須恵器坏である。第327図31・第328図1は、比較的還元化が進み、硬質に焼き上がっているが、2は、やや白っぽく焼き上がっている。第327図31・第328図1は、南比企窯跡群の製品であるが、2は、利根川水系の原土を使用している。

須恵器坏から第35号住居跡は、8世紀第IV四半期と考えたい。



1・2 ＳＪ35
3～11 ＳＪ36
12～15 ＳＪ37
16～25 ＳＪ38
26・27 ＳＪ39
28～32 ＳＪ40

第328図　竪穴住居跡出土遺物(5)

第36号住居跡出土遺物

第328図３・４は、土師器の坏である。扁平な土師器坏Ａで雑なヘラケズリの割には、極めて薄く仕上げられている。表面は、やや荒れている。３は、ローム台地の原土、４は利根川水系の原土を用いている。

５～９は、須恵器の坏である。５～７は、底部周辺を手持ちヘラケズリしている。７・８は、焼成が甘く、還元化が進んでいないが、他は良く還元化し硬質である。全て南比企窯跡群の製品である。７・８の底部には、「綱」、９の口縁部には、「鞘□(田)」と墨書がみられる。鞘に続く文字は、残画から「田」と判断した。なお北島遺跡の南方５㎞には、「熊谷市佐谷田」の地名があり、中世初頭まで「鞘田」は、「武州大里郡佐谷田郷」として地名を遡ることができる。

10は、土師器の甕である。胴部は雑な割には、大変薄くケズリ込まれている。「コ」の字状口縁甕に先行する薄甕である。利根川水系の原土が用いられている。

11は、砥石である。

土師器坏Ａや須恵器の坏、土師器の薄甕から第36号住居跡は、８世紀第Ⅳ四半期と考えたい。

第37号住居跡出土遺物

第328図12は、土師器の坏である。北島型暗文土器の埦と共通した形態であるが、内面には暗文が施されない。大変砂質である。13・14は、内屈口縁坏である。14は、やや内屈度が低く皿形となる。

15は、土師器の甕である。表面の劣化が激しく砂っぽい。12～15は、角閃石・軽石を含み、利根川水系の原土が用いられた。

土師器の坏や土師器の甕から第37号住居跡は、８世紀第Ⅰ四半期と考えたい。

第38号住居跡出土遺物

第328図16～19は、土師器の坏である。口縁部にユビ押さえの残る土師器坏Ａである。全体に砂質である。角閃石・軽石を含む利根川水系の原土を用いている。

20～23は、須恵器の坏である。４点とも良く還元化し硬質である。20の底部には、弓形のヘラ書がみられる。20～22は、南比企窯跡群の製品である。23は、ロクロから底部をヘラ切りによって切り離した下野南部の須恵器である。

24は、土師器の小形甕である。角閃石や軽石を含む利根川水系の原土が使われている。

25は、須恵器の甕である。末野窯跡群の製品である。

土師器坏Ａや須恵器坏から第38号住居跡は、９世紀第Ⅰ四半期としたい。

第39号住居跡出土遺物

26は、土師器の坏である。利根川水系の原土が使われている。

27は、須恵器の皿である。南比企窯跡群の製品である。

土師器の坏や須恵器の坏から第39号住居跡は、９世紀第Ⅱ四半期と考えたい。

第40号住居跡出土遺物

第328図28は、土師器の坏である。扁平な皿形に近い。ローム台地の原土が用いられたようで、手に粉が付く。

29・30は、須恵器の坏である。底部周辺部は、回転ヘラケズリをされている。両者とも還元化され、やや明るい灰褐色となっている。29には、底部に「万」と墨書が施されている。両者とも南比企窯跡群の製品である。

31・32は、土師器の甕である。いわゆる「く」の字状口縁の甕で、体部は極めて薄く作られている。焼成も良好である。角閃石・軽石粒を含み、利根川水系の原土が用いられている。

須恵器の坏や土師器の甕などから第40号住居跡は、８世紀第Ⅳ四半期と考えたい。

第42号住居跡出土遺物

第329図１は、土師器の有段口縁坏である。表面は、黒色処理によって黒ずんでいる。ざらつきが激しく、粒子の粗い器肌である。利根川流域の原土が用いられている。

２は、土師器の内屈口縁坏である。口唇部が内側に小さく折り込まれている。利根川流域の原土が用いられている。

３・４は、須恵器の蓋である。返りが、口唇部と平行するかやや出る。良く還元化されており灰色に発色する。３は、湖西窯跡群の製品、４は、秋間窯跡群の製品か。

有段口縁坏や、須恵器の蓋などから第42号住居跡は、７世紀第Ⅲ四半期と考えたい。

第43号住居跡出土遺物

第329図５は、土師器の坏である。器表は、ややかせていて、砂っぽい。利根川水系の原土である。

６は、土師器の高台付埦である。底部の切り離しには、静止糸切りが使われたようである。近隣のローム台地の原土が用いられている。

７～９は、須恵器の蓋である。７は、天井部に糸切の跡が残るが、周辺を二周にわたり回転ヘラケズリしている。ボタン状のつまみは大変小さい。窯詰めの際は、逆転して埦に被せたらしい。焼成が悪く、器表も大変荒れている。末野窯跡群の製品である。８・９は、比較的良質に焼き上がっている。外に開くボタン状のつまみを付ける。南比企窯跡群の製品である。

10～18は、須恵器の坏である。11と17は、還元化が進まず、淡い橙色の焼き上がりである。他は良く還元化されている。10・11は、底部の周辺部にヘラケズリがみられる。10は、手持ち、11は回転ヘラケズリである。10～13は南比企窯跡群、14～16は、末野窯跡群の製品である。17は、焼成は甘いが、東金子窯跡群の製品である。18は、底部をヘラ切りによってロクロから切り離し、底部縁辺を手持ちヘラケズリによって調整する三毳窯跡群の須恵器である。

19～22は、須恵器の高台付埦である。高台は比較的高く、内彎している。とくに19は、「M」字状の端面となり、外端接地である。21も同様である。また埦部の立ち上がりも直線的である。良く還元化が進み灰色となる。全て末野窯跡群の製品である。19と21には、「綱」と墨書されている。

23・24は、土師器の甕である。極めて薄い器肉の割には、雑なヘラケズリが施されている。いわゆる薄甕である。砂粒の少ない利根川水系の原土を使用している。

25は、須恵器の坏を転用した紡錘車である。末野窯跡群の製品である。

26は、鉄製の刀子で27は、鉄製の刀子の茎である。

土師器の坏や周辺ヘラケズリを残す須恵器坏、土師器薄甕などから第43号住居跡は、８世紀第Ⅲ四半期と考えたい。

第44号住居跡出土遺物

第329図28は、土師器坏である。粗く削られているが、器肉は非常に薄い。片岩粒を多く含み、また角閃石や軽石を含む。利根川水系の原土であろう。

29～36は、須恵器の坏である。29・34は、糸切り後、底部周辺をヘラケズリしている。とくに29は、手持ちによって小さな単位で削っている。全て良く還元化されており、胎土も比較的洗練されている。29～34は、南比企窯跡群の製品である。また35・36は、末野窯跡群の製品である。

37は、須恵器の高台付埦である。高台は、丁寧に面取りされている。還元化が進まず、白色に近い。末野窯跡群の製品である。

第330図１は、須恵器甕の底部破片である。平底で底部には、ゲタの痕跡はみられない。円形の当て具で内面を押さえ、平行線の叩き板で外面を叩いた後、ロクロで器表を平滑化している。南比企窯跡群の製品である。

扁平な土師器坏や周辺ヘラケズリの須恵器坏など

から第44号住居跡は、8世紀第Ⅲ四半期と考えたい。

第45号住居跡出土遺物

第330図2は、土師器の坏である。やや内側に内湾する。利根川水系の原土が用いられている。

3は、土師器の皿である。大変砂っぽく、手に砂が付く。利根川水系の原土が用いられている。

4は、須恵器の蓋である。返りは口縁より突出する形態である。天井部がヘラケズリされている。良く還元化し灰色となるが、全体に発泡し軽い。末野窯跡群の製品か。

5は、土師器の甑である。底部は欠損するが、おそらく筒抜けとなるであろう。

6は、土師器の甕である。口縁部は、有段口縁状となる。5・6とも器表の劣化が激しく、砂っぽい。5・6とも利根川水系の原土が用いられている。

土師器の坏や須恵器の蓋、土師器の甕などから第45号住居跡は、7世紀第Ⅲ四半期と考えたい。

第47号住居跡出土遺物

第330図7～11は、土師器の坏である。全て有段口縁坏である。9・11は、黒色処理を施されている。7～9は、「ハ」の字形に広がる口縁で他はやや直立気味である。全て角閃石・軽石を含み、利根川流域の原土を用いている。

12は、土師器の鉢である。大形の鉢で口縁部は有段口縁となっている。やはり利根川流域の原土が用いられている。

13～15は、土師器の長胴甕である。15は、やや下膨れとなる形態であろう。これも利根川流域の原土が用いられている。

16は、石製紡錘車である。

土師器の有段口縁坏や長胴甕から第47号住居跡は、7世紀第Ⅱ四半期と考えたい。

第48号住居跡出土遺物

第330図17は、土師器の有段口縁坏である。黒色処理が施される。口縁が短く伸びる。角閃石・軽石を含む利根川流域の原土である。

18は、土師器の須恵器坏蓋模倣坏である。器表の荒れは激しく、手に粉が付く。近隣のローム台地の原土が用いられている。

19は、土師器の把手付き甑である。利根川水系の原土が用いられている。

有段口縁坏や、須恵器坏蓋模倣坏から第48号住居跡は、7世紀第Ⅲ四半期である。

第49号住居跡出土遺物

第330図20・21は、土師器の坏である。内湾口縁の坏であり、口縁端部はやや丸い。器表のざらつきが激しく、表面がかせている。角閃石・軽石を含み、利根川水系の原土が使用されている。

22・23は、土師器の長胴甕である。22の口縁部は、有段口縁となっている。器壁は、縦に大きく粗く削られている。やはり利根川水系の原土が用いられている。

土師器の内湾口縁坏や長胴甕から第49号住居跡は、7世紀第Ⅳ四半期と考えたい。

第50号住居跡出土遺物

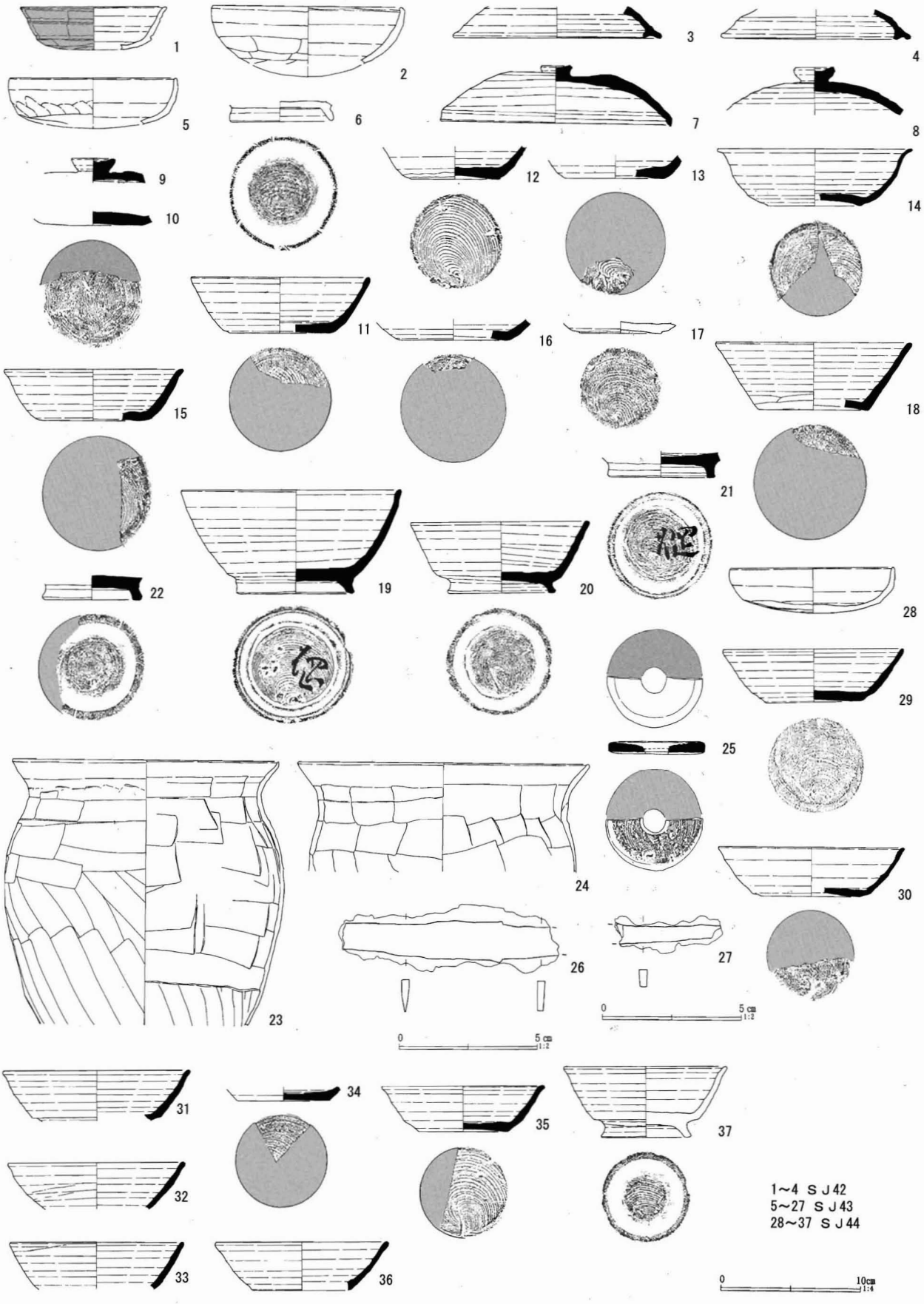
図化可能な出土遺物は、みられなかった。

竪穴住居跡の重複関係から8世紀中葉であろう。

第51号住居跡出土遺物

第330図24は、須恵器の高台付埦である。高台は、粘土紐をいびつに貼り付けた程度である。焼成も甘く、還元化されていない。末野窯跡群の製品である。

第51号住居跡から図化できた土器は、1点のみである。10世紀後半である。



第329図　竪穴住居跡出土遺物(6)

第52号住居跡出土遺物

第330図25は、須恵器の坏である。良く還元化し、硬く仕上がっている。南比企窯跡群の製品である。

第52号住居跡から図化可能な土器は、１点のみであった。９世紀前半である。

第53号住居跡出土遺物

第330図26は、土師器の甕である。やや球形の胴部で、粗いケズリの割には、大変薄くつくられている。角閃石・軽石を含み利根川水系の原土が用いられている。

第53号住居跡から図化できた土器は、１点のみである。８世紀第２四半期である。

第54号住居跡出土遺物

第330図27は、土師器の甕である。いわゆる薄甕で、胴部が大変薄く仕上げられている。角閃石・軽石を含み、利根川水系の原土が用いられている。

第54号住居跡から図化可能な土器は、１点のみであった。８世紀後半である。

第55号住居跡出土遺物

第331図１は、灰釉陶器の手付き瓶である。底部と胴部の境は、沈線状に窪む。肩部から胴部上半にかけては、ハケ塗りによる施釉がみられる。猿投窯跡群の製品である。黒笹14号窯式である。

第55号住居跡から図化可能な遺物は、１点のみであった。９世紀前半。

第57号住居跡出土遺物

第331図２は、土師器の坏である。扁平な坏で、器壁は粗いケズリながら薄くつくられている。角閃石や軽石を含む利根川水系の原土でつくられている。

３は、須恵器の坏である。底部周辺回転ヘラケズリが施される。南比企窯跡群の製品である。

土師器坏や須恵器坏から第57号住居跡は、８世紀第Ⅲ四半期と考えたい。

第58号住居跡出土遺物

第331図４は、土師器の有段口縁坏である。黒色処理はみられない。段はやや沈線状となる。

５は、土師器の須恵器坏身模倣坏である。黒色処理が施され、内外面黒ずんでいる。

６は、土師器の鉢である。口縁部が甕の口縁に近似し、「M」字状となる。

７・８は、土師器の甑である。口縁部破片のため明らかではないが、縦に粗く削られていたのであろう。

９・10は、土師器の甕である。外面を粗く削られている。

11は、土師器のカマド支脚である。土師器甕の底部状につくられ、天井中央に穿孔が見られる。４～11は、利根川水系の原土でつくられている。

有段口縁坏や長胴甕などから第58号住居跡は、７世紀前半（第Ⅱ四半期）と考えたい。

第59号住居跡出土遺物

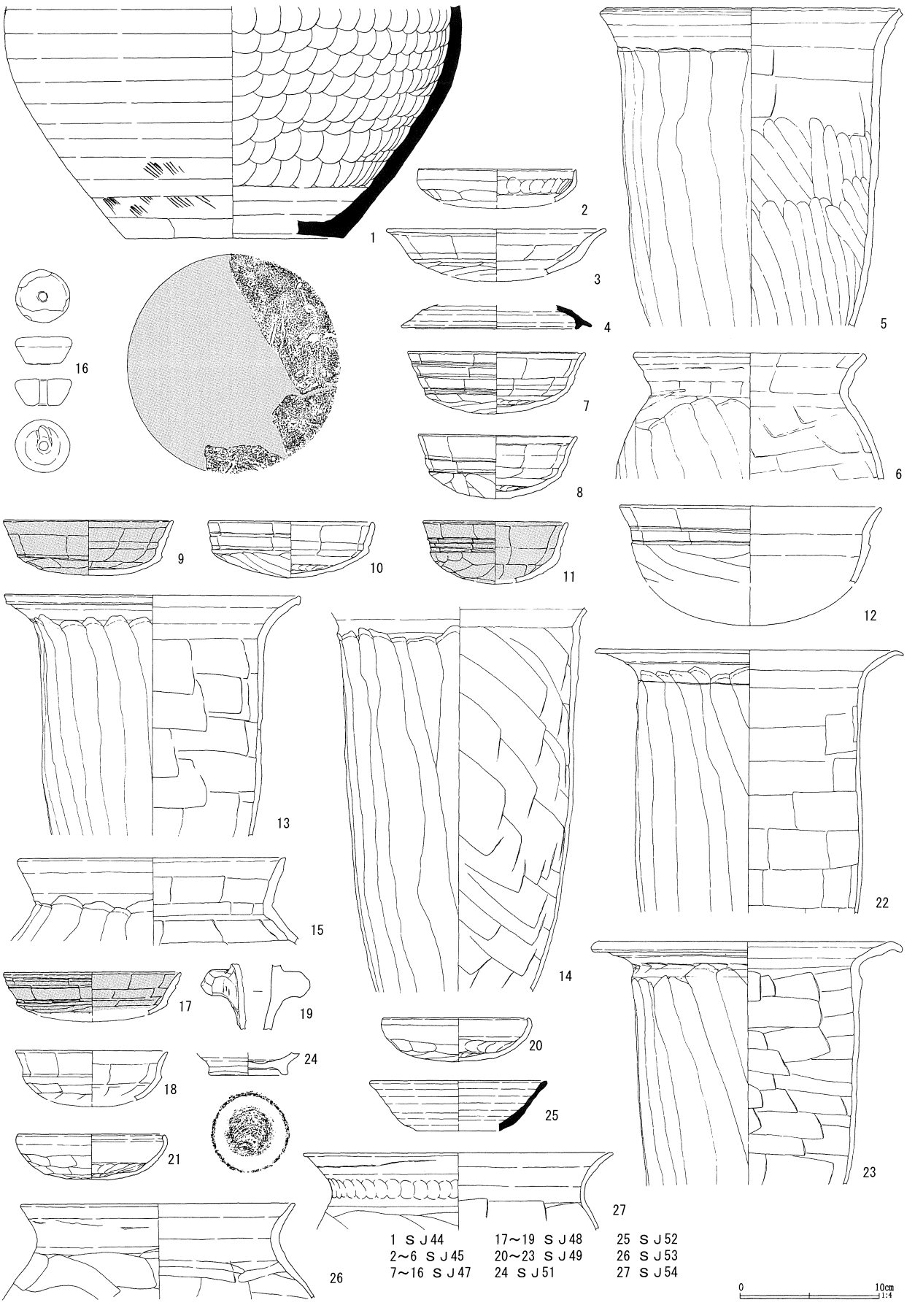
第331図12は、土師器の埦である。法量は、中型である。粗く削られている。利根川水系の原土が用いられている。

13・14は、土師器の比企型坏である。須恵器坏蓋模倣坏である。内面の全面、外面の口縁部に赤彩が施されている。13の素地は、淡い橙色で赤彩は薄い赤だが、14は、褐色の素地に濃い赤の彩色が施されている。13は、利根川水系の原土、14は、比企・入間地域の原土が用いられている。

15は、北島型暗文土器である。半球形の坏で内面には、３～５本を単位とした放射状の暗文が施されている。利根川水系の原土が用いられている。

16は、北島型暗文土器の盤である。本来ならば、内面に放射状の暗文が施されているはずであるが、器壁の劣化が激しく、調整は明らかではない。

17は、土師器の皿である。やや深めの皿で、口縁直下まで粗く削られている。16・17ともに利根川水系の原土が用いられている。



第330図　竪穴住居跡出土遺物(7)

18は、須恵器の坏である。底部には、雑な手持ちのヘラケズリがみられる。硬質に焼き上がっており、還元化も進んでいる。群馬県秋間窯跡群の製品か。

19は、紡錘車である。末野窯跡群の製品である。

土師器比企型坏や皿、須恵器坏などから第59号住居跡は、７世紀第Ⅳ四半期と考えたい。

第60号住居跡出土遺物

第331図20は、土師器の坏である。焼き上がりが鈍く、手に粉が付く。角閃石・輝石がみられ、利根川水系の原土が用いられている。

21～23は、須恵器の蓋である。21はつまみ部分、22は返り部分である。また23は、当住居跡とは時期が異なるが、須恵器蓋の天井部である。21・22とも還元化が進まず、小豆色・灰白色である。両者とも南比企窯跡群の製品である。23は、天井部までヘラ切りが及ぶ秋間窯跡群の製品である。

24・25は、須恵器の坏である。とくに24は、やや大振りの埦となるかもしれない。両者とも還元化が進み硬質である。25の底部は、周辺回転ヘラケズリが行われている。南比企窯跡群の製品である。

扁平な土師器坏や、返りの付く須恵器蓋、周辺ヘラケズリの須恵器坏などから第60号住居跡は、８世紀第Ⅲ四半期としたい。

第61号住居跡出土遺物

第331図26は、土師器の坏である。底部を丁寧にヘラケズリを行い大変薄く作っている。利根川水系の原土が用いられている。

27は、須恵器の坏である。焼きがやや甘く、還元化があまり進まず、明るい色調となっている。末野窯跡群の製品である。

28～31は、土師器の甕である。28～30は、いわゆる「コ」の字状口縁甕で、口縁の幅がやや狭い。口縁部の「コ」の字が、28・29は上が膨らみ、30は下が膨らむ。器壁は極めて薄く作られる。全て利根川水系の原土が用いられている。

土師器の坏や須恵器の坏、土師器の甕から第61号住居跡は、９世紀第Ⅳ四半期としたい。

第62号住居跡出土遺物

第331図32は、土師器の甕である。肩部から底部にかけて、粗くヘラケズリがみられる。長胴甕である。角閃石や片岩を含み砂っぽい。利根川水系の原土が用いられている。

第62号住居跡から図化できた土器は、１点のみである。７世紀第Ⅲ四半期である。

第63号住居跡出土遺物

第332図１は、須恵器の皿である。底部の糸切りが厚く、やや柱状のため高台のようにみられる。焼き斑が激しく、還元化がさほど進まない。

２は、須恵器の高台付埦である。高台は、細高くつくられ、端部は「M」字状となり外端接地である。１・２とも末野窯跡群の製品である。

３・４は、土師器の甕である。いわゆる「コ」の字状口縁甕である。両者とも器肉がやや厚めで、器表が荒れ、手に粉が付く。角閃石・軽石・輝石を含み、利根川水系の原土が用いられている。

５は、灰釉陶器の長頸壺である。東海西部の製品である。

須恵器の皿・高台付埦、土師器の甕から第63号住居跡は、９世紀第Ⅳ四半期と考えたい。

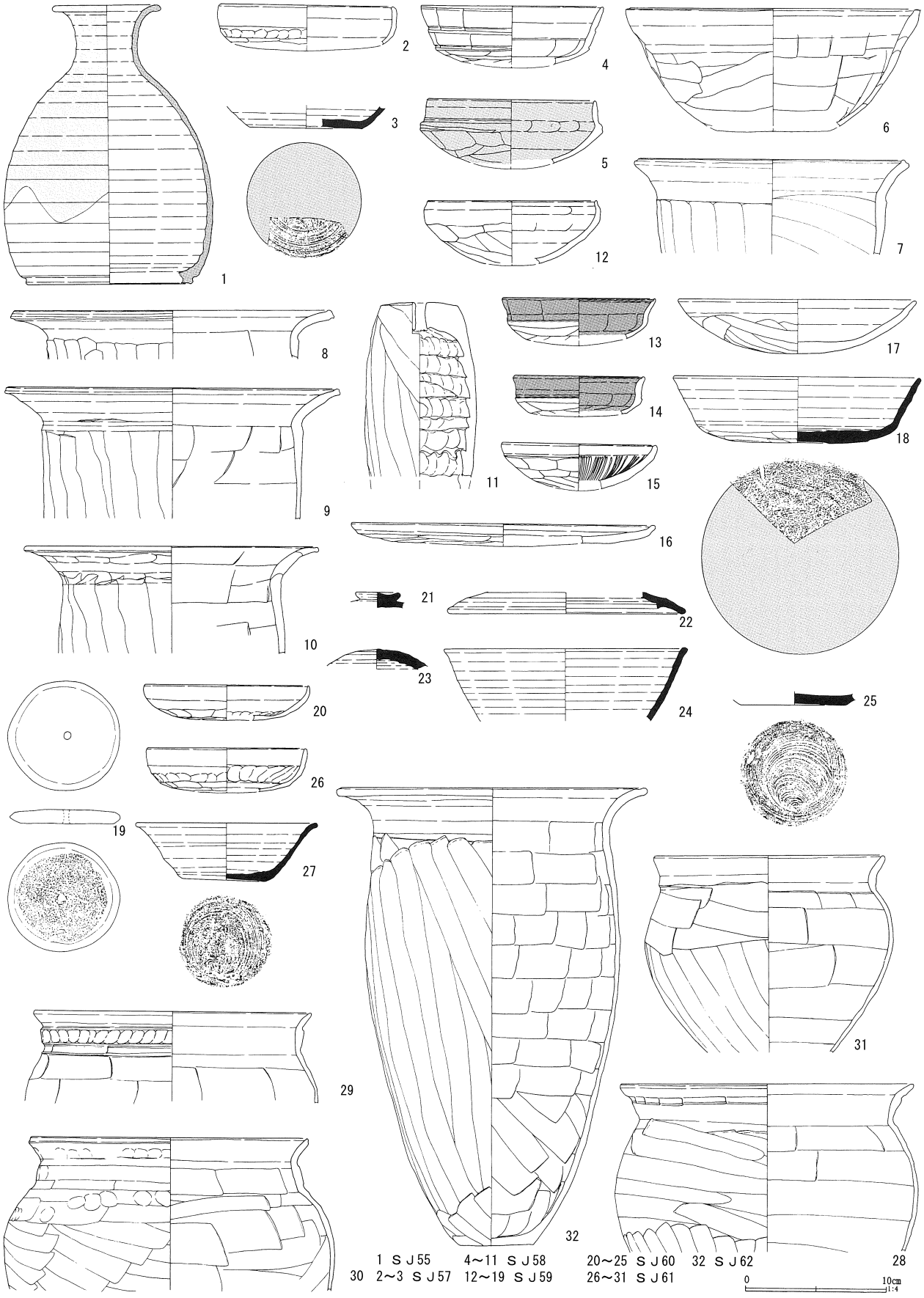
第64号住居跡出土遺物

第332図６は、土師器の坏である。淡い橙色に焼き上がっており、黒色処理はみられない。利根川水系の原土が用いられている。

第64号住居跡から図化できた土器は、１点のみである。７世紀第Ⅲ四半期である。

第65号住居跡出土遺物

第332図７・８は、土師器の坏である。７は、扁平な皿形の坏で、焼成が甘く、手に粉が付く。片岩を



第331図　竪穴住居跡出土遺物(8)

含み、荒川水系の原土が使われている。８は、北島型暗文土器である。内面には放射状の暗文が施される。粒子が粗く、角閃石・軽石を含む利根川水系の原土が用いられている。

９は、須恵器の坏である。底部周辺がヘラケズリされている。南比企窯跡群の製品である。

10は、土師器の甕である。器肉が、比較的薄く削られている。軽石・角閃石を含む利根川水系の原土が用いられている。

土師器の坏や甕、須恵器の坏などから第65号住居跡は、８世紀第Ⅱ四半期と考えたい。

第66号住居跡出土遺物

第332図11･12は、土師器の坏である。11は、有段口縁坏、12は、須恵器坏身模倣坏である。11・12とも角閃石・軽石を含む利根川水系の原土が用いられている。

13は、須恵器の脚付き碗である。脚部には、一方のみに円形の透かしが確認できる。一方または三方透かしであろう。

ラッパ状に長く開く頸部には、篦状工具によって二条を単位とした直線文が、沈線によって描かれている。直線文は、頸部から口唇部へ向かって篦状工具で放射状に描き出した沈線を三段に分ける。胴部の穿孔は、書き取られることなく、円形に底部に向かって開けられている。

口縁部と底部の欠損は、廃棄時の作為性が伺える。いわゆる「打ち欠き」であろうか。群馬県金山窯跡群の製品である。

14～18は、土師器の長胴甕である。とくに14の長胴甕は、長胴化が極めて進んだ形態といえよう。15･17は、片岩粒を多量に含み、荒川水系の原土が用いられたが、他は、角閃石・輝石・軽石を含むことから利根川水系の原土といえよう。

土師器の有段口縁坏や長胴甕、須恵器の碗から第66号住居跡は、７世紀第Ⅰ四半期と考えたい。

第67号住居跡出土遺物

第332図19は、土師器の坏である。内湾口縁の坏で器壁は、厚く作られている。

20～第333図２は、土師器の長胴甕である。胴上半の斜めヘラケズリが明瞭に伺え、硬質に作られる。三者とも底部もヘラケズリされている。

第332図19～第333図２は、角閃石・軽石を含む利根川水系の原土が用いられている。

土師器の坏や土師器の甕から第67号住居跡は、７世紀第Ⅳ四半期と考えたい。

第68号住居跡出土遺物

第333図３～５は、土師器の坏である。３は、内外面に黒色処理を施した有段口縁坏である。黒色化が鈍く、素地の色調である黄褐色が強い。４は、比企型坏である。内面の全面と外面の口縁部に鈍赤の赤彩が施されている。素地自身が、黒灰色の暗い色調であり、全体の仕上がりに斑がある。５は、北島型暗文土器である。内面に放射状の暗文を施し、外面は、粗いケズリがみられる。全体の依存状態は悪く、器表はぼろぼろである。

３・５は、角閃石や軽石を含み、利根川水系の原土であるが、４は、白色結晶岩や白色針状物質を含む比企・入間地域の原土で作られた製品である。

有段口縁坏・比企型坏・北島型暗文土器から第68号住居跡は、７世紀第Ⅳ四半期と考えたい。

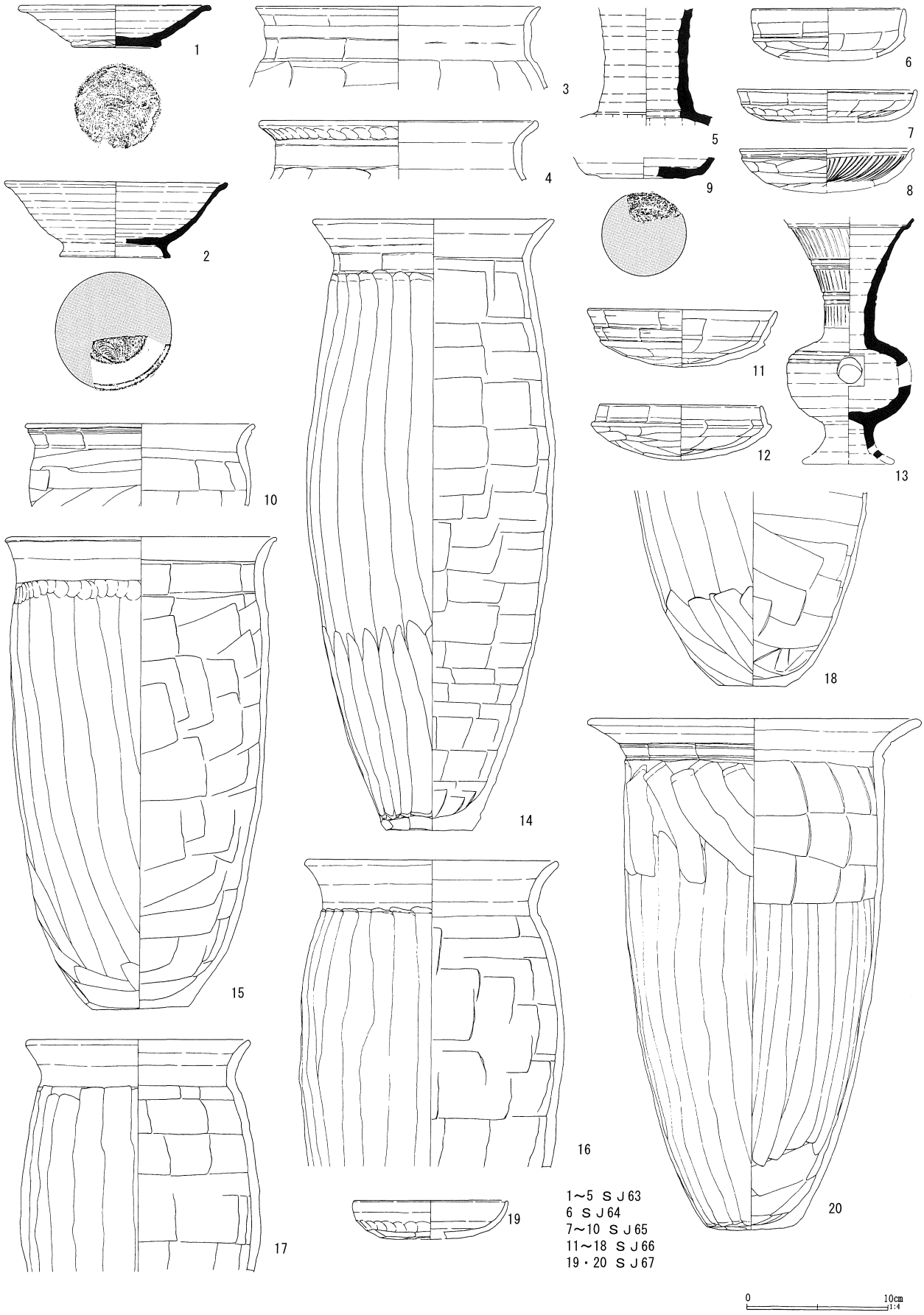
第70号住居跡出土遺物

第333図６は、土師器の坏である。有段口縁坏であり、黒色処理が施されている。素地は黄橡色である。角閃石・軽石を含み、利根川水系の原土が用いられている。

有段口縁坏から第70号住居跡は、７世紀第Ⅳ四半期と考えたい。

第71号住居跡出土遺物

第333図７は、須恵器の坏である。還元化が進まず、



第332図　竪穴住居跡出土遺物(9)

淡い黄褐色に仕上がっている。底部は手持ちヘラケズリされている。ロクロ目は見られる。器表が荒れ、砂が手に付く。近隣の自然堤防上の窯で焼成されたのであろう。

8・9は、須恵器高台付埦である。8は、ヘラ切りによって切り離した底部の周囲に、紐状の高台を貼り付けている。9は、高脚高台状の高台をヘラ切りの底部の周囲に貼り付けている。8・9とも、食膳具ながら北島遺跡から出土する土師器甕と共通した利根川水系の原土が、用いられている。

10は、緑釉陶器の皿である。尾北地方の製品である。黒笹90号窯式である。

須恵器の坏や高台付埦から第71号住居跡は、10世紀第Ⅲ四半期と考えたい。

第72号住居跡出土遺物

第333図11は、須恵器の蓋である。ボタン状のつまみで、扁平に作られている。良く還元化し、硬質に焼き上がっている。末野窯跡群の製品である。

12・13は、須恵器の坏である。末野窯跡群の製品である。

14は、土師器の甕である。いわゆる薄甕である。利根川水系の原土が用いられている。

15は、須恵器の長頸瓶である。高台は、外端がやや高めに作られ、灰釉陶器の特徴を模倣している。良く還元化しており、硬質である。南比企窯跡群の製品である。

須恵器の坏や土師器の甕から第72号住居跡は、9世紀第Ⅰ四半期と考えたい。

第73号住居跡出土遺物

第333図16は、須恵器の蓋である。天井部の作りは大変丁寧で、ケズリ込みが深く、極めて薄く作られている。還元化が進み、硬質に焼き上がっている。かえりは高い。つまみは欠損している。南比企窯跡群の製品である。

17は、須恵器の坏である。底部周辺が、回転ヘラケズリされている。南比企窯跡群の製品である。

18は、土師器の甕である。雑なヘラケズリの割には、極めて薄く仕上げられたいわゆる薄甕である。利根川水系の原土が用いられている。

須恵器の蓋や坏、土師器の甕から第73号住居跡は、8世紀第Ⅳ四半期と考えたい。

第74号住居跡出土遺物

第333図19・20は、土師器の坏Aである。器肉は大変薄く、底部は薄く削られている。両者とも角閃石・軽石があり、利根川水系の原土が用いられている。

21は、須恵器の蓋である。良く還元化され硬質に焼きしまっている。ボタン状のつまみの端部は、鋭利に尖る。薄く作られている割には、比重が重い。群馬県金山窯跡群の製品であろうか。

22～25は、須恵器の坏である。22の底部周辺には、手持ちヘラケズリが施される。22・25は、良く還元化し硬質である。23・24は、やや甘い仕上がりであるが、外面が還元化し淡い黒色となる。25は、21同様、比重が高い。24は、底部内面に「石」と墨書がある。22・24は南比企窯跡群、23は末野窯跡群、25は群馬県金山窯跡群の製品である。

26は、須恵器の高台付埦である。高台は、太い角形の高台で口縁部は、直線的に伸びる。末野窯跡群の製品である。

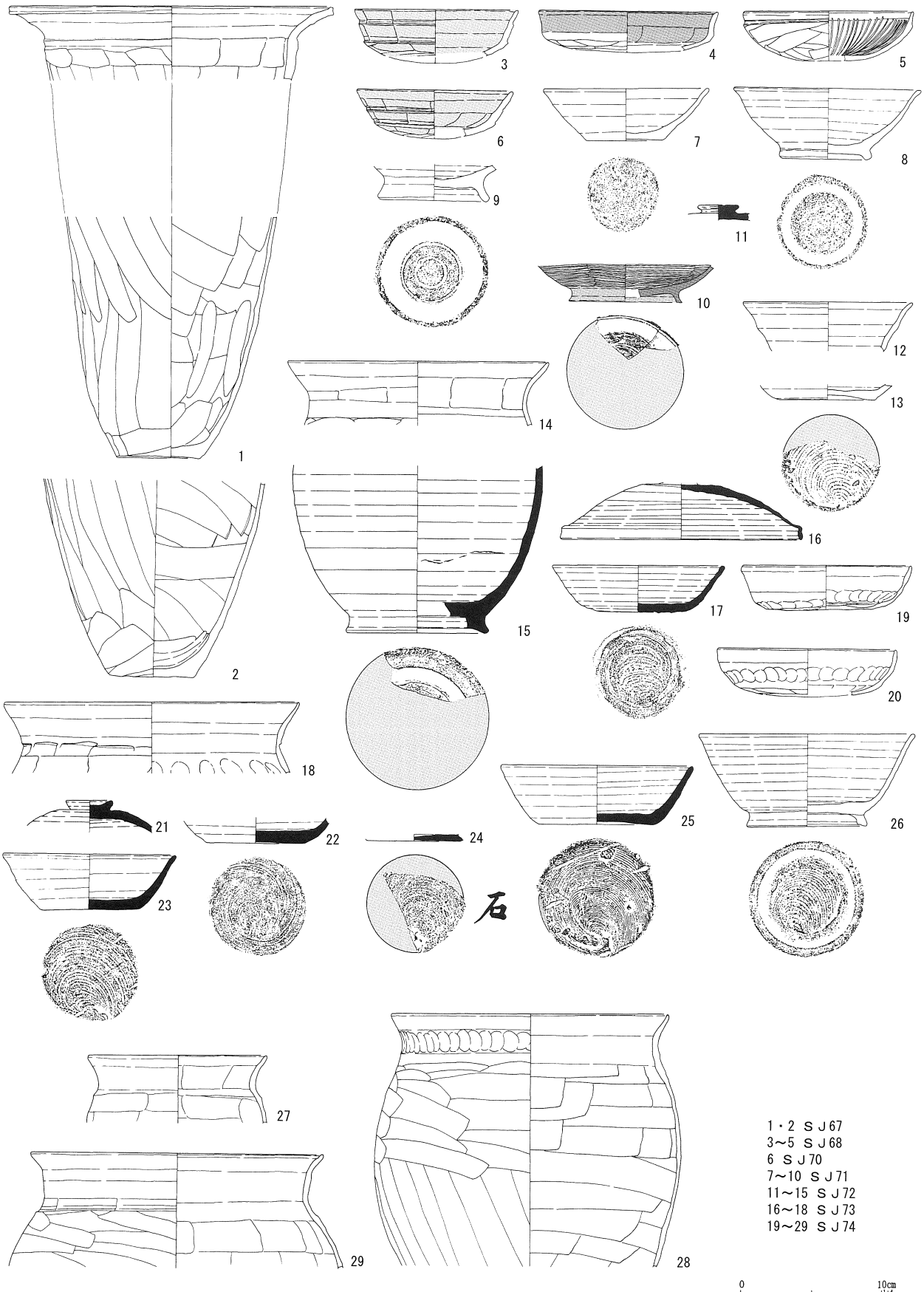
27～29は、土師器の甕である。いわゆる薄甕であり、口縁部の伸びは長い。利根川水系の原土が用いられている。

土師器の坏・甕、須恵器の蓋・坏・高台付埦から第74号住居跡は、9世紀第Ⅰ四半期と考えたい。

第75号住居跡出土遺物

第334図1・2は、須恵器の坏である。両者とも良く還元化されており、硬く焼き上がっている。1は末野窯跡群、2は南比企窯跡群の製品である。

3・4は、須恵器坏の底部を利用した紡錘車である。周辺部は丁寧に刷り込まれている。末野窯跡群



第333図　竪穴住居跡出土遺物(10)

の製品である。

須恵器の坏から第75号住居跡は、９世紀前半と考えたい。

第76号住居跡出土遺物

第334図５～７は、須恵器の坏である。全て還元化が進まず、軟質な焼き上がりとなっている。末野窯跡群の製品である。

８は、須恵器の皿である。底部が厚く仕上がっている。やはり還元化が進まず軟質である。末野窯跡群の製品である。

９は、須恵器坏の底部を加工した紡錘車である。縁辺部を擦って滑らかにしている。軸穴は石製と変わらないが、径は大きい。南比企窯跡群の製品である。

須恵器の坏・皿から第76号住居跡は、９世紀第Ⅳ四半期と考えたい。

第77号住居跡出土遺物

第334図10･11は、土師質土器の小皿である。10の口縁は、内湾気味に立ち上がるが、11は直線的である。粗く糸切りがみられる。10は、角閃石や軽石を含む利根川水系の原土であるが、11は、ローム台地の原土が用いられている。

土師質土器の小皿から第77号住居跡は、11世紀と考えたい。

第82号住居跡出土遺物

第334図12は、土師器の有段口縁坏である。黒色処理はされていないが、全体に黒色の付着物がみられる。利根川水系の原土で作られ、全体にざらついている。

13は、土師器内屈口縁坏である。全体に扁平化がやや進んだ形態である。角閃石。軽石を含み、利根川水系の原土で作られている。

14は、土師器皿である。口縁部に緩い沈線状の窪みをもつ。内面に暗文はない。利根川水系の原土である。

15・16は、須恵器蓋である。両者とも小さな返りが付く。15は、焼きが甘く、還元化が進んでいない。16は、小形の蓋で、硬質に焼きしまっている。両者とも末野窯跡群の製品である。

17は、土師器の甕である。長胴甕の口縁部で、比較的硬質に焼き上げられている。利根川水系の原土である。

18は、土製支脚である。二次焼成を受ける。利根川水系の原土である。

19・20は、鉄製品である。

第82号住居跡から出土した土器は、新古の二期に分けることが可能である。古は、12・17の土器から７世紀第１四半期、新は、13～16の土器から７世紀第Ⅳ四半期である。おそらく同一場所に構築された別の住居跡か、拡張された住居跡であったと考えたい。

第84号住居跡出土遺物

第334図21は、須恵器長頸壺である。外面には、連続した平行線の叩き板痕がみられ、内面には、円形の当て具痕が明瞭にみられる。東金子窯跡群の製品である。

第84号住居跡から図化できた土器は、１点のみである。９世紀代としかいえない。

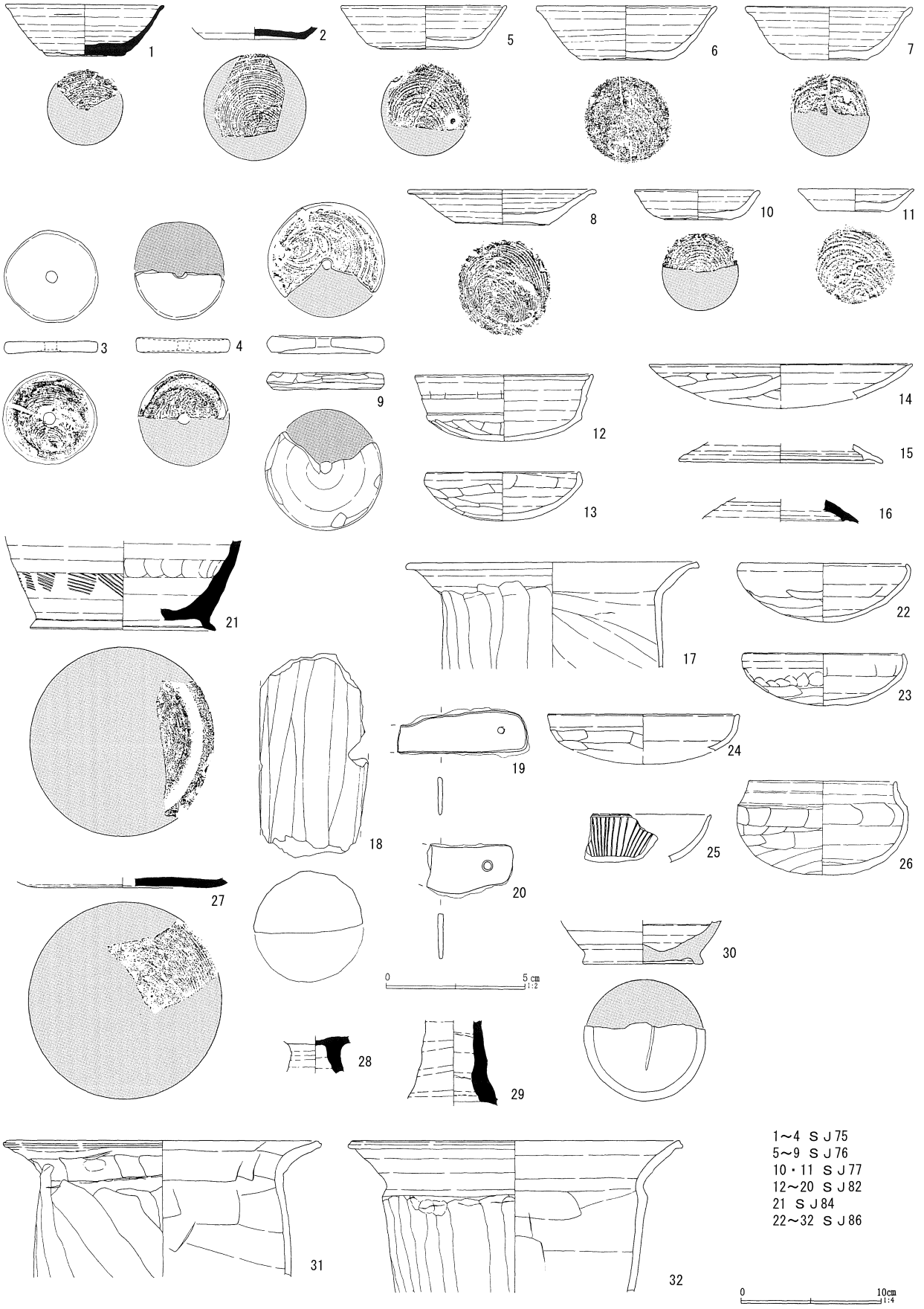
第86号住居跡出土遺物

第334図22･23は、土師器の内屈口縁坏である。22は、比較的硬質に焼き上がるが、黒色の付着物が多い。23は、22よりも砂質である。両者とも角閃石や軽石がみられ、利根川水系の原土である。

24は、土師器の坏である。黒色処理ではないが、やや黒ずんだ焼き上がりとなっている。

25は、土師器の北島型暗文土器である。内面に刻みに近い暗文が、放射状に施されている。

26は、土師器の小形鉢である。須恵器の小形短頸壺を模倣したらしく、口縁部は有段口縁となってい



第334図　竪穴住居跡出土遺物(11)

る。器表の荒れは激しく、砂質である。24～26は、利根川水系の原土で作られている。

27は、須恵器坏である。底部周辺は、回転ヘラケズリが施されている。還元化が進まず、白っぽい焼き上がりとなっている。末野窯跡群の製品である。

28は、須恵器高坏である。坏部は、盤状となる高盤であろう。良く還元化し、硬質な焼き上がりである。南比企窯跡群の製品である。

29は、須恵器の長頸瓶である。細口長頸瓶である。ロクロ目が残り、ややいびつな仕上がりであるが、湖西窯跡群の製品であろう。

30は、灰釉陶器の長頸瓶の底部である。浜北産の製品で、黒笹90号窯式である。底部に刻書がみられる。

31は、土師器の甕である。肩部は、斜めに粗くヘラケズリされている。原土は、角閃石や軽石を含み、利根川水系の砂質な原土である。

32は、土師器の甑である。肩部から大きく縦にケズリ込まれている。利根川水系の原土を用いている。

内屈口縁坏や、底径の大きな須恵器坏、さらには肩部を斜めに削る土師器甕の存在から第86号住居跡は、８世紀第Ⅰ四半期と考えたい。

第87号住居跡出土遺物

第335図１～３は、土師器の坏である。扁平な坏で、口唇部がやや内彎する。角閃石・軽石を含む利根川水系の原土である。４も土師器の坏であるが、内面に放射状の暗文が施されている。暗文の間隔は大変粗く、また不揃いである。原土は、前者と同様である。

５・６は、須恵器の蓋である。５は、返りの付く蓋で、６は、爪状の口縁となる蓋である。また６は天井部のケズリも小さく、小さなボタン状のつまみが付く。５は、末野窯跡群の製品、６は南比企窯跡群の製品である。

７は、須恵器の坏である。底部の中心から回転ヘラケズリを行っている。南比企窯跡群の製品である。５～７は良く還元化している。

８は、須恵器大甕の口縁部である。口縁部に３条以上の平行沈線が巡る。大変良好に還元化し、断面は小豆色である。群馬県金山窯跡群の製品か。

９は、鉄製の刀子である。

10は、鉄製の錐である。

土師器坏や須恵器蓋・坏などから第87号住居跡は、８世紀第Ⅳ四半期と考えたい。

第88号住居跡出土遺物

第335図11・12は、土師器の坏Ａである。角閃石・軽石を含み、利根川水系の原土が用いられている。

13～15は、須恵器の坏である。13は、底部周辺を回転ヘラケズリしている。15の底部外面には、ヘラで刻書がみられるが、判読できない。13・15は、南比企窯跡群、14は末野窯跡群の製品である。

16・17は、土師器の甕である。17は小形の甕である。両者とも薄甕である。利根川水系の原土が用いられている。

18は、須恵器の短頸壺蓋である。口縁部は厚く作られ、口唇は平たい。良く還元化し、硬質である。南比企窯跡群の製品である。

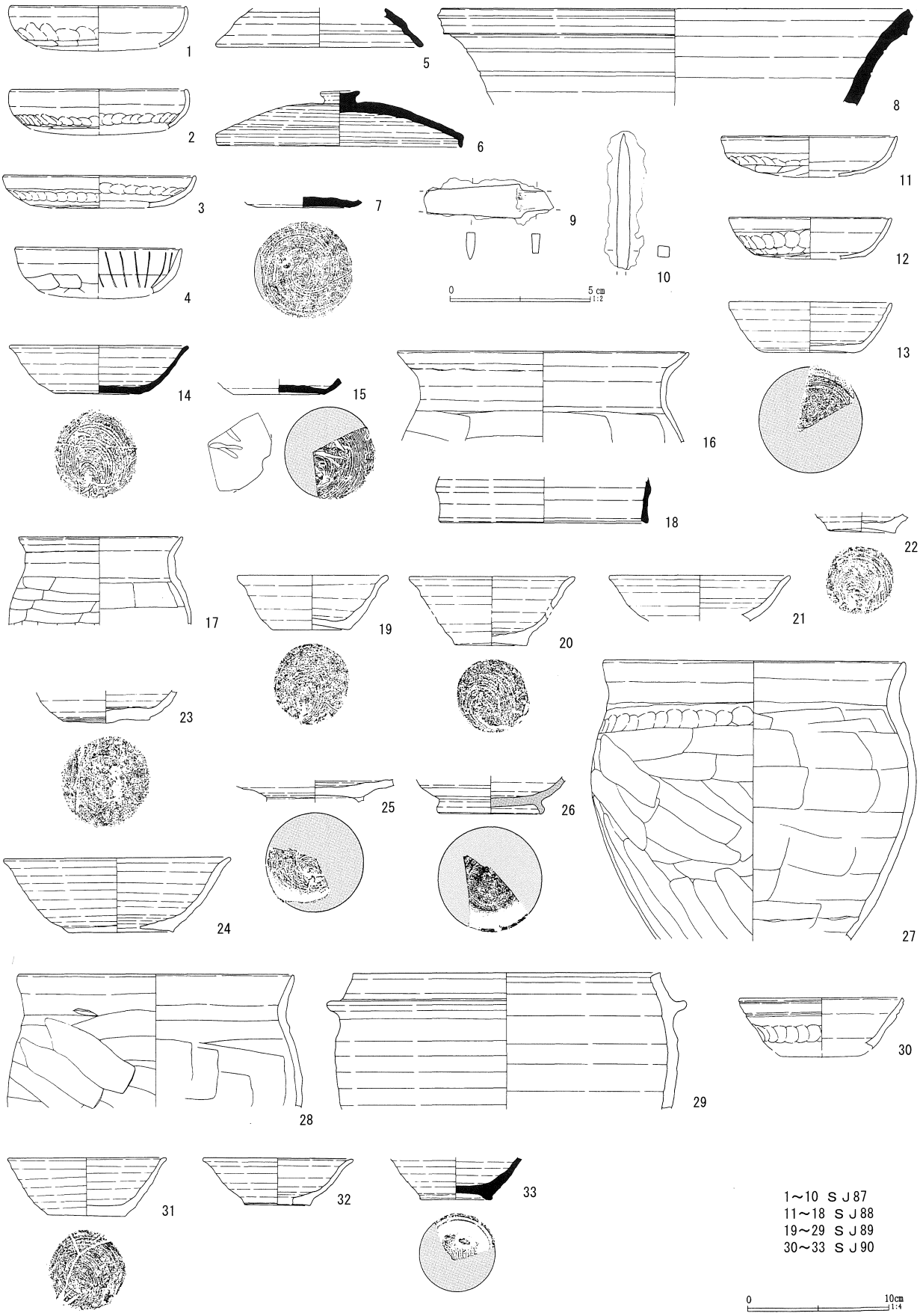
土師器の坏・甕や須恵器の坏から第88号住居跡は、９世紀第Ⅱ四半期と考えたい。

第89号住居跡出土遺物

第335図19～23は、土師質土器の坏である。焼きが甘く、淡い橙色に発色し大変軽い。23のみが、底部をヘラ切りによって切り離している。すべて角閃石・軽石を含み、利根川水系の原土が用いられている。

24は、土師質土器の高台付埦である。やや大振りの高台付埦で、焼成や色調など坏と同様である。やはり利根川産の原土が用いられている。

25は、須恵器の高台付皿である。やや焼きが甘く、軟質な須恵器で、還元化が進まず、淡い灰色となっている。末野窯跡群の製品である。



第335図　竪穴住居跡出土遺物(12)

26は、灰釉陶器の埦である。東濃地方の製品で大原２号窯式である。

27・28は、土師器の甕である。器肉の厚い甕で、口縁部がやや長く伸びる。外面は雑に削られている。27は、外面に多量の煤が付くが、28にはみられない。角閃石・軽石を含み、利根川水系の原土が用いられている。

29は、土師器の羽釜である。厚手に作られるが、鍔部や口縁部など丁寧にロクロ挽きされている。利根川水系の原土が用いられている。

土師質土器の坏や高台付埦、土師器の甕や羽釜などから第89号住居跡は、10世紀第Ⅲ四半期と考えたい。

第90号住居跡出土遺物

第335図30は、土師器の坏Ｂである。焼成が悪く大変軟質に仕上がっており、手に粉が付く。利根川水系の原土が用いられている。

31・32は、土師質土器の坏である。還元化が進まず、淡い灰白色や橙色に発色している。ロクロ目は明瞭で、器肉は厚い。角閃石、軽石を含み、利根川水系の原土が用いられている。

33は、須恵器の高台付埦である。比較的硬質な土器で、器肉は厚い。高台は、太い紐状であるが、「M」字状を保ち、内端接地である。末野窯跡群の製品である。

第336図１～５は、土師質土器の高台付埦である。２～５の高台は、高脚高台となっている。また２・５は、「M」字状を保ち、外端接地である。しかし３・４は、細長い紐状となっている。４の内面は、黒色化しているが、ヘラミガキはみられず、黒色処理を行ったのではないだろう。すべて利根川水系の原土が用いられている。

６は、土師器の甕である。器肉が厚く、口縁部の伸びも小さい。外面のヘラケズリも雑駁である。

７は、土師器の羽釜である。７は、口縁部の鍔が長く、また外開きであることから、口縁部に掛かる落とし蓋を載せたのであろうか。あるいは甑となるかもしれない。

８・９は、ロクロ引きが明瞭な須恵器の羽釜である。還元化が進まず、淡い橙色や灰白色となっている。吉井窯跡群の製品であろうか。

10は、土師器の羽釜の底部である。６・７・10は、利根川水系の原土が用いられている。

11は、砥石である。

土師器の坏・土師質土器の坏・高台付埦から第90号住居跡は、10世紀第Ⅲ四半期と考えたい。

第92号住居跡出土遺物

第336図12・13は、土師器の坏Ａである。底部は、薄くヘラケズリされている。利根川水系の原土が用いられている。

14は、須恵器の蓋である。比較的厚手の発泡した器壁で還元化は、さほど進んでいない。口縁部に判読不可能な墨書が、一字みられる。末野窯跡群の製品である。

15・16は、須恵器の坏である。底部周辺が、回転ヘラケズリされている。南比企窯跡群の製品である。

17・18は、須恵器の高台付埦である。高台は低い角高台である。端部は「M」字状となり、外端接地となる。末野窯跡群の製品である。

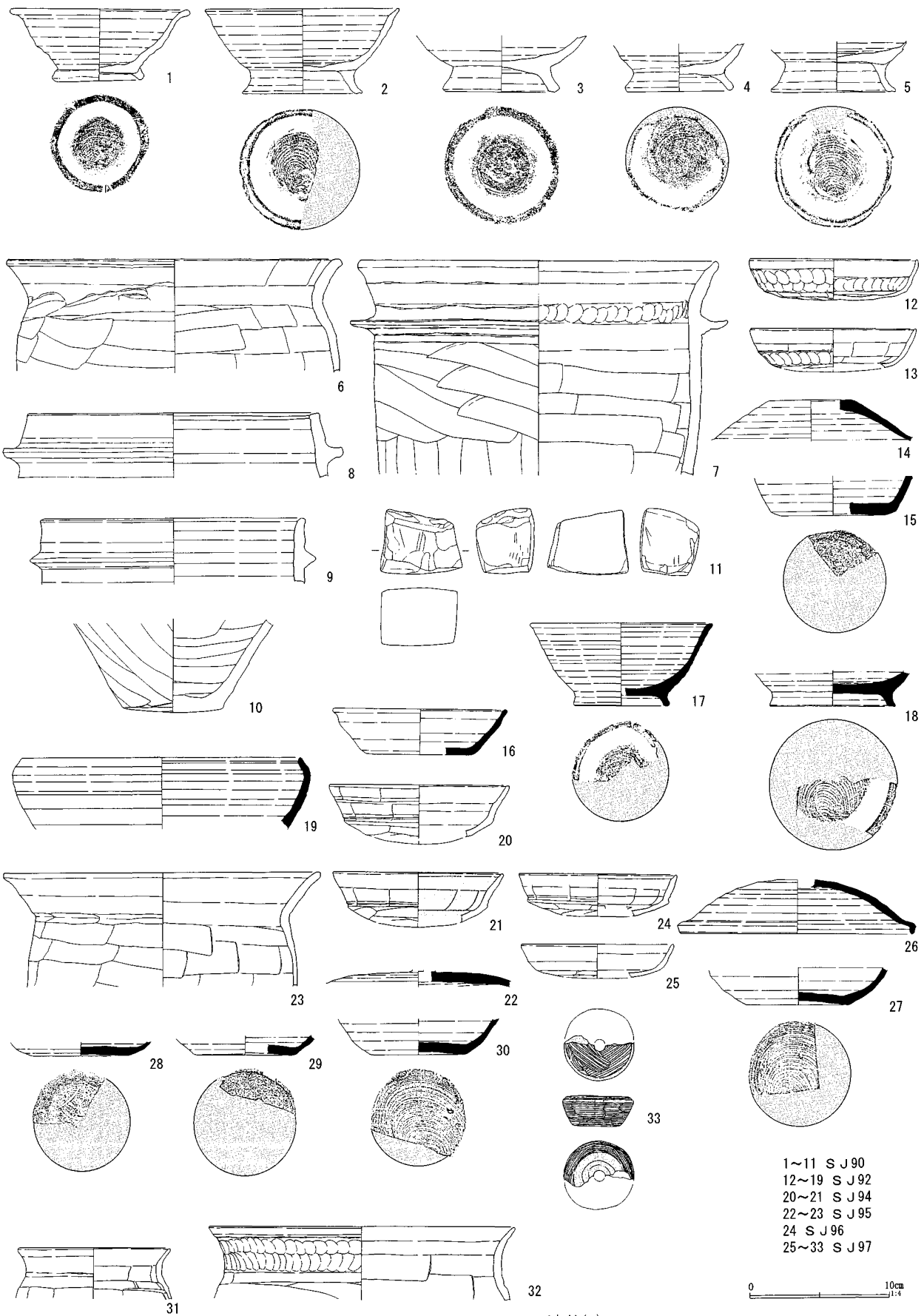
19は、須恵器の仏鉢模倣土器である。硬質に焼成されており、器壁も厚い。口唇部はやや上を向く。東金子窯跡群の製品である。

土師器の坏や須恵器の坏・高台付埦などから第92号住居跡は、９世紀第Ⅰ四半期と考えたい。

第94号住居跡出土遺物

第336図20･21は、土師器の坏である。有段口縁坏である。やや器肉が厚い。21の内面は、黒色処理され、やや黒色化している。利根川水系の原土が用いられている。

土師器の坏から第94号住居跡は、７世紀第Ⅱ四半期と考えたい。



第336図　竪穴住居跡出土遺物(13)

第95号住居跡出土遺物

第336図22は、須恵器の蓋である。天井部は丁寧に削られている。つまみは、欠損しているが小形の宝珠形であろう。極めて硬質に焼き上がり、硬くしまっている。良く還元化され、断面は小豆色である。東海地方東部か群馬県西部（秋間か乗附窯跡群）の製品であろう。

23は、土師器の甕である。口縁部の長く伸びた薄甕である。利根川水系の原土が用いられている。

須恵器の蓋や土師器の甕から第95号住居跡は、８世紀の第II四半期と考えたい。

第96号住居跡出土遺物

第336図24は、土師器の坏である。須恵器坏蓋模倣坏である。器表は大変荒れている。利根川水系の原土が用いられている。

第96号住居跡から図化可能な土器は、１点のみであった。７世紀第III四半期と考えたい。

第97号住居跡出土遺物

第336図25は、土師器の坏である。薄く丁寧に作られている。利根川水系の原土が用いられている。

26は、須恵器の蓋である。つまみを欠くが、小形のボタン状のつまみと思われる。比較的良く還元化しており、硬質である。南比企窯跡群の製品である。

27～30は、須恵器の坏である。30を除いて底部には、周辺へラケズリが施されている。28の底部には、「大□」または「犬□」と刻書がある。残画は、払い（ノ）の１画である。全て良く還元化が進んだ南比企窯跡群の製品である。

31・32は、土師器の甕である。比較的器壁の薄い甕である。利根川水系の原土が用いられている。

33は、黒色処理された紡錘車である。

土師器の坏・甕や須恵器の蓋・坏などから第97号住居跡は、８世紀第IV四半期と考えたい。

第98号住居跡出土遺物

第337図１・２は、土師器の坏である。内屈口縁坏で、薄く仕上がっている。１はローム層中の原土を用い、２は利根川水系の原土が用いられている。

３は、土師器の坏である。北島型暗文土器で、内面は黒色化している。内面に比較的細かく放射状の暗文が入っている。利根川水系の原土が用いられている。

４・５は、土師器の長胴甕である。５は、筒抜けの甑の可能性がある。器肉が厚く、外面は粗く削られている。利根川水系の原土が用いられている。

土師器の坏や皿・甕から第98号住居跡は、７世紀第IV四半期と考えたい。

第99号住居跡出土遺物

第337図６・７は、土師器の坏である。有段口縁坏である。６は、器表の劣化が激しく、手に粉が付く。７も器表がざらついている。利根川水系の原土が用いられている。

８は、土師器の甕である。長胴甕で外面を粗く削っている。

９は、土師器の壺である。厚手の壺で表面を粗く削っている。８・９は、利根川水系の原土が用いられている。

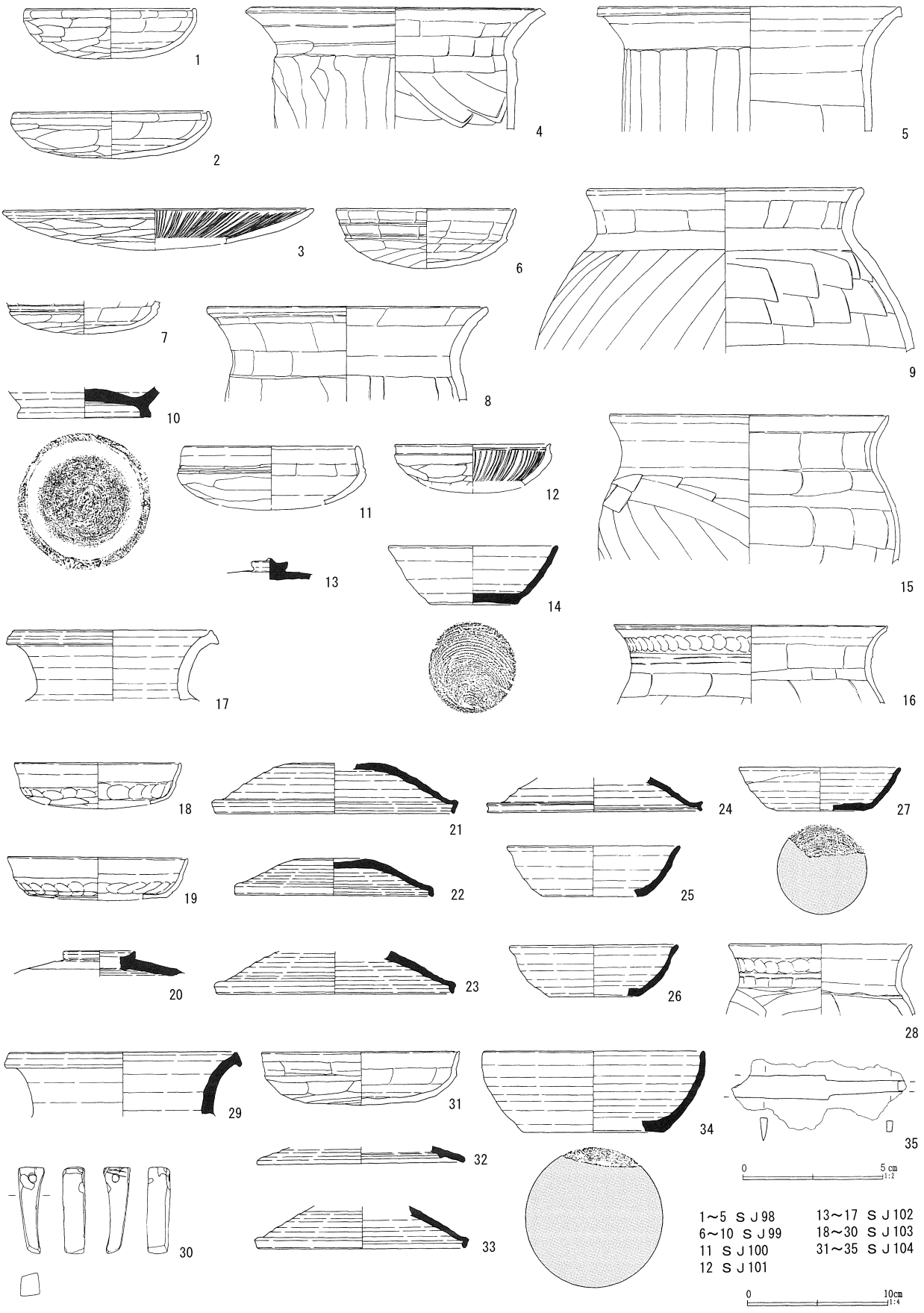
10は、須恵器の壺である。良く還元化し硬質に焼きしめられている。南比企窯跡群の製品である。

土師器の坏や甕から第99号住居跡は、７世紀第Ｉ四半期と考えたい。

第100号住居跡出土遺物

第337図11は土師器の坏である。須恵器坏身模倣坏である。合子形の須恵器坏身を模倣した土師器で、屈曲部に緩い段がある。外面は黒色処理ではないが、黒ずんだ焼き上がりとなっている。角閃石や軽石を含み、全体に器肌はざらついている。利根川水系の原土を使用したと考えられる。

第100号住居跡から図化できた土器は、１点のみで



第337図　竪穴住居跡出土遺物(14)

ある。６世紀第４四半期である。

第101号住居跡出土遺物

第337図12は、土師器の坏である。内面に放射状の暗文を施した北島型暗文土器である。施文の間隔は粗く、痕跡程度である。角閃石・軽石を含んだ利根川水系の原土が用いられている。

第101号住居跡からは、図化できる遺物は、１点のみであった。７世紀第Ⅳ四半期。

第102号住居跡出土遺物

第337図13は、須恵器の蓋である。硬質に焼き上がり、良く還元化されている。

14は、須恵器の坏である。やはり硬質に焼き上がり、還元化が進んでいる。13・14とも南比企窯跡群の製品である。

15・16は、土師器の甕である。体部外面を雑に削る割には、器壁を薄く作るいわゆる「薄甕」である。角閃石や軽石を含み、利根川水系の原土を用いている。

17は、須恵器の短頸壺である。器表は大変荒れ、口縁部の痛みが激しい。末野窯跡群の製品である。

須恵器の坏や、土師器「薄甕」から第102号住居跡は、８世紀第Ⅳ四半期と考えたい。

第103号住居跡出土遺物

第337図18･19は、土師器の坏Ａである。底部を欠くが、扁平に薄く作られている。角閃石・軽石を含み、利根川水系の原土が用いられている。

20～24は、須恵器の蓋である。20は、リング状のつまみが付く。22は、つまみが剝離した痕跡を残す。23を除き、天井部のケズリ込み（回転）が、確認できる。全て良く還元化し、比較的硬質に焼き上がっている。20・21は南比企窯跡群、22～24は末野窯跡群の製品である。

25～27は、須恵器の坏である。25は、底部の一部が残存し、糸切り未調整である。３点とも良く還元化し、硬質に焼き上がっている。全て南比企窯跡群の製品である。

28は、土師器の甕である。粗いケズリの割には、器壁が薄く仕上げられている。利根川水系の原土が用いられている。

29は、須恵器の甕である。良く還元化されており、硬く仕上がっている。末野窯跡群の製品である。

30は、石製の砥石である。上部に穿孔があることから、いわゆる提砥であろう。

土師器の坏や甕、須恵器の蓋･坏から第103号住居跡は、９世紀第Ⅰ四半期と考えたい。

第104号住居跡出土遺物

第337図31は、土師器の坏である。体部もヘラケズリされている。ローム台地の原土が用いられている。

32・33は、須恵器の蓋である。32は返りをもつ蓋で、良く還元化され硬質である。33は、「マ」字状の受けのある蓋である。焼成時に影となる部分は、比較的還元化が進まず、軟らかい。32・33は、末野窯跡群の製品である。

34は、須恵器の無台埦である。口唇端部は膨らみ、内側に内傾している。銅鋺模倣の可能性がある。底部はヘラケズリされている。南比企窯跡群の製品である。

35は、鉄製の刀子である。

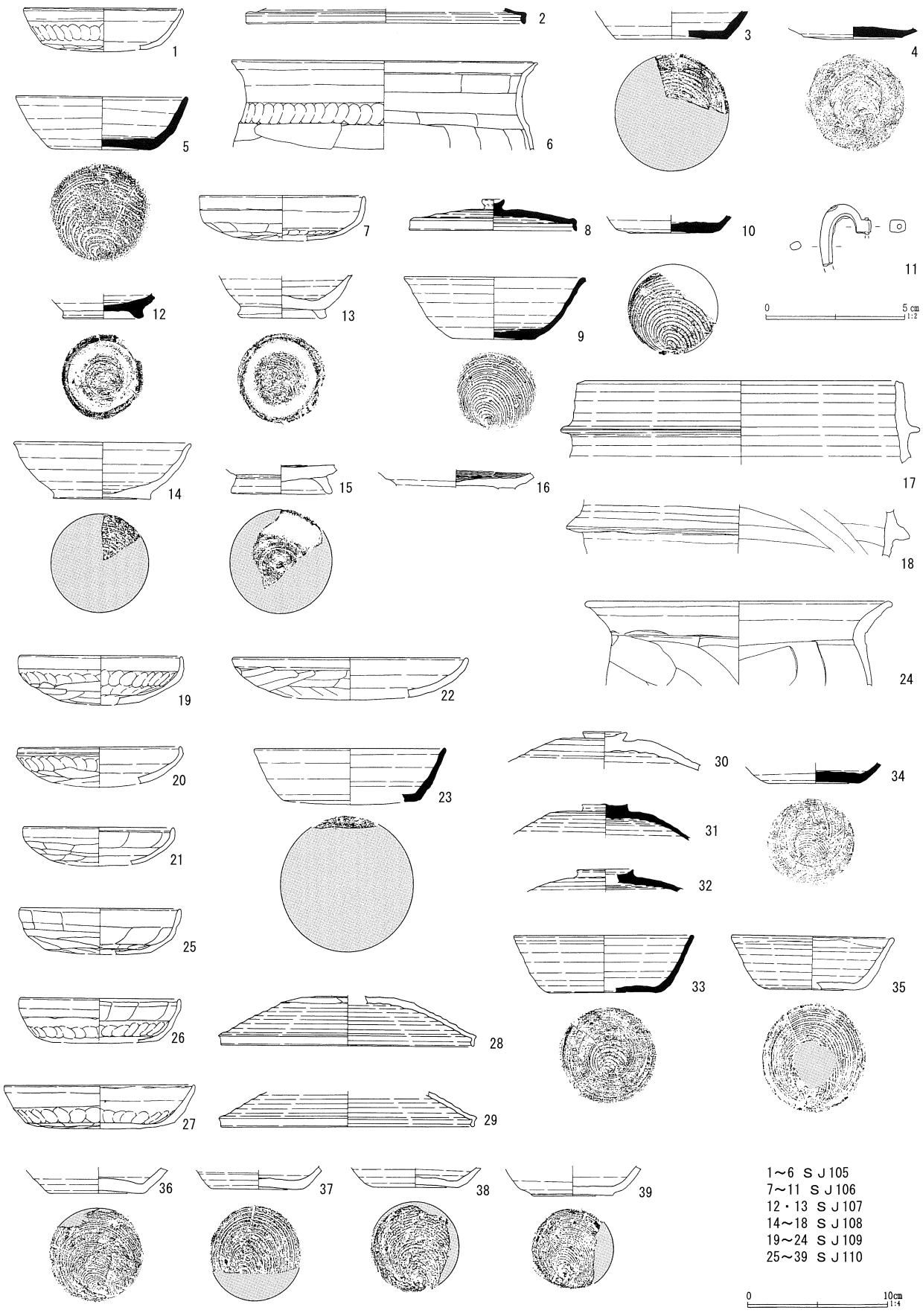
土師器の坏や須恵器の坏から第104号住居跡は、８世紀第Ⅳ四半期と考えたい。

第105号住居跡出土遺物

第338図１は、土師器の坏Ａである。口縁部は内彎し、大変薄く作られる。角閃石・軽石を含み、利根川水系の原土が用いられている。

２は、須恵器の蓋である。受け部は繊細に作られ、「マ」の字状となっている。器壁は大変薄い。良く還元化し極めて硬質である。南比企窯跡群の製品である。

３～５は、須恵器の坏である。３は底部周辺と縁辺に手持ちヘラケズリを施す。４は、底部周辺に手持ちヘラケズリを施す。良く還元化し硬質に焼き上がっている。末野窯跡群の製品である。



第338図　竪穴住居跡出土遺物(15)

6は、土師器の甕である。器表は大変荒れ、手に砂が付く。閃石・軽石を含み、利根川水系の原土が用いられている。

土師器坏・甕や須恵器坏から第105号住居跡は、8世紀第Ⅳ四半期と考えたい。

第106号住居跡出土遺物

第338図7は、土師器の坏である。器表は荒れ、ざらついている。利根川水系の原土が用いられている。

8は、須恵器の蓋である。還元化がさほど進まず、淡い橙色となっている。しかし硬質である。つまみは、小さなボタン状のつまみで、高く作られている。コップ形土器や長頸壺の蓋の可能性もある。南比企窯跡群の製品である。

9・10は、須恵器の坏である。良く還元化し、硬質である。9は南比企窯跡群、10は、末野窯跡群の製品である。

11は、銅製の鉸具である。弓金具の部分である。他は欠損している。

土師器の坏、須恵器の坏・蓋から第106号住居跡は、9世紀第Ⅰ四半期と考えたい。

第107号住居跡出土遺物

第338図12は、須恵器の高台付埦である。紐状の粘土を添付した高台は、紐状に作られ、台形状である。比較的良く還元化しており、硬質である。末野窯跡群の製品である。

13は、土師質土器の高台付埦である。高台は紐状に作られるが、台形を意識している。角閃石・軽石を含み、利根川水系の原土が用いられている。

須恵器の高台付埦や土師質土器の高台付埦から第107号住居跡は、10世紀第Ⅲ四半期と考えたい。

第108号住居跡出土遺物

第338図14は、土師質土器の坏である。ロクロ目がよく残り、底部はベタ高台状である。角閃石・軽石を含み、利根川水系の原土が用いられている。

15・16は、黒色土器の高台付埦である。15は、内面のヘラミガキが明瞭ではなく、また黒色化もあまり進んでいない。しかし16は、内面のヘラミガキも丁寧で、黒色化も大変進んでいる。外面はやや軟質である。15・16とも利根川水系の原土が用いられている。

17・18は、土師器の羽釜である。比較的丁寧にロクロ挽きが施され、鍔部の突出も力強い。やはり利根川水系の原土が用いられている。

土師質土器の坏や黒色土器の高台付埦・羽釜から第108号住居跡は、10世紀第Ⅲ四半期と考えたい。

第109号住居跡出土遺物

第338図19～21は、土師器の坏である。内湾口縁の坏で、器壁は大変薄く作られている。外面のヘラケズリは大変粗い。

22は、土師器の皿である。内彎する口縁で、やや厚く作られている。19～22は、角閃石・軽石を含む利根川水系の原土が用いられている。

23は、須恵器の坏である。底部周辺にヘラケズリがみられる。還元化が進み、硬質な仕上がりである。南比企窯跡群の製品である。

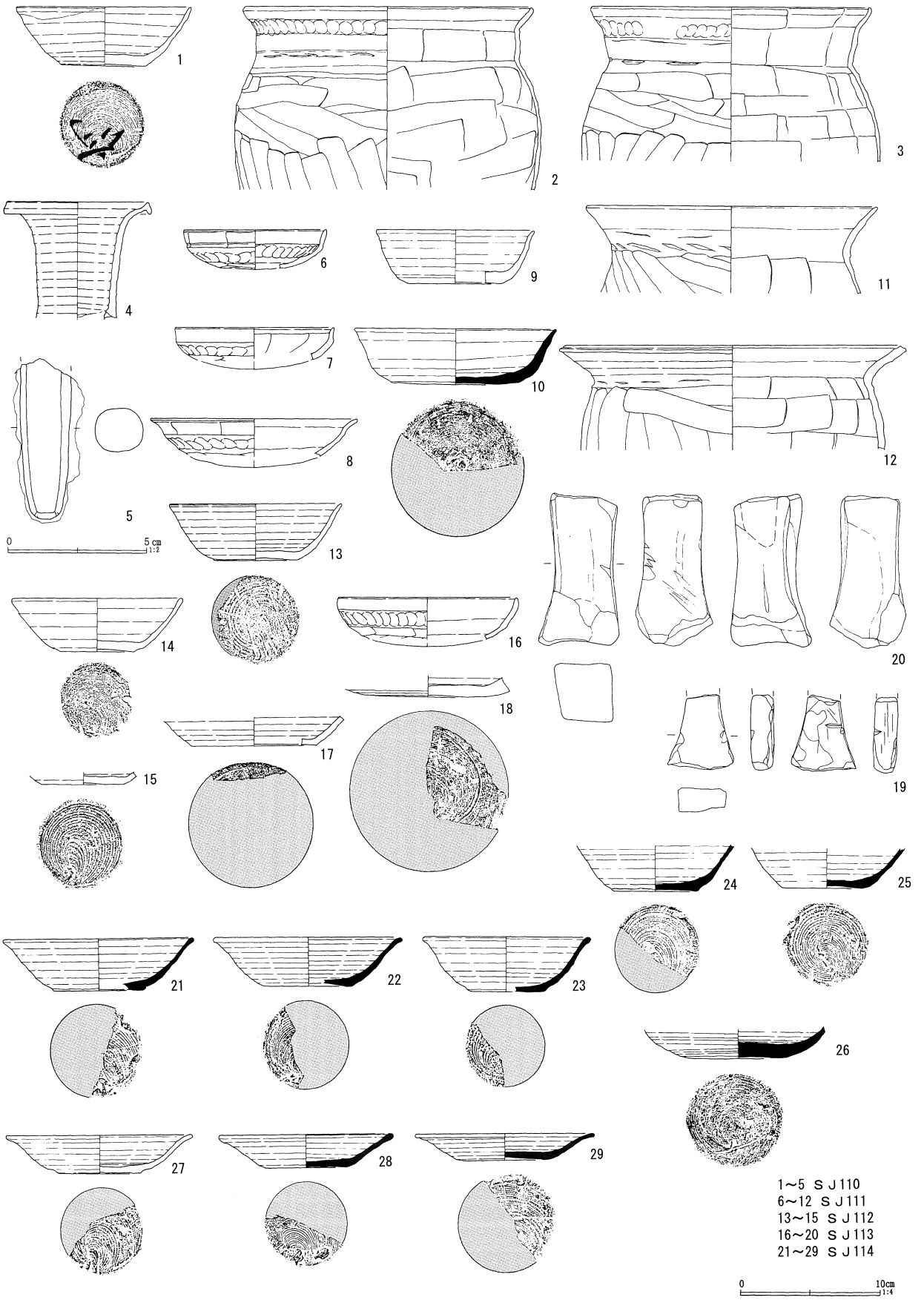
24は、土師器の甕である。雑なヘラケズリの割には、器壁が薄く作られる長胴甕である。利根川水系の原土が用いられている。

土師器の坏・皿・甕、須恵器の坏から第109号住居跡は、8世紀第Ⅱ四半期と考えたい。

第110号住居跡出土遺物

第338図25～27は、土師器の坏Aである。25は、底部周辺もケズリ込まれるが、26・27は、底部のみである。25・26は、器肉も薄く作られるが、27は、やや厚い。角閃石・軽石を含み、利根川流域の原土が用いられている。

28～32は、須恵器の蓋である。28・29は、つまみが欠失するが、30はボタン状、31・32は、リング状のつまみが付いている。31・32は、とくに良く還元



第339図　竪穴住居跡出土遺物(16)

化し、硬質に仕上がっている。他も良く還元化している。南比企窯跡群の製品である。

33～第339図１は、須恵器の坏である。第338図33・34は、周辺部に回転ヘラケズリがみられる。すべて良く還元化し硬質に仕上がっている。33～39は、南比企窯跡群、第339図１は、末野窯跡群の製品である。１の底部には、墨書が確認できるが、判読できない。

２・３は、土師器の甕である。「コ」の字口縁甕で、器壁は大変薄く作られている。角閃石・軽石を含み、利根川水系の原土が用いられている。

４は、須恵器の長頸瓶である。薄く丁寧に作られるが、内面のロクロ目が著しく残る。南比企窯跡群の製品である。

５は、不明鉄製品である。

土師器の坏や甕、須恵器の蓋や坏などから第110号住居跡は、９世紀第II四半期と考えたい。

第111号住居跡出土遺物

第339図６・７は、土師器の坏である。６は、口縁部の屈曲が、緩い須恵器坏蓋模倣坏である。７は、内湾口縁坏である。口縁部で小さく外反する。両者は、角閃石・軽石を含み、利根川水系の原土が用いられている。

８は、土師器の皿である。やや深めの皿で、口縁部が大きく開く。大変器肉が薄い。やはり利根川水系の原土が用いられている。

９・10は、須恵器の坏である。10は、底部中心からヘラ切りがみられ、腰の部分まで及ぶ。10は、底部の大半を欠くが、ヘラ切りは同様であろう。10は、還元化が進み硬質に仕上がっているが、９は、軟質である。両者は、末野窯跡群の製品である。

11・12は、土師器の甕である。11は、器壁を薄く仕上げた薄甕で、やや厚みをもった甕である。両者は、角閃石・軽石を含み、利根川水系の原土が用いられている。

土師器の坏・甕や須恵器の坏などから第111号住居跡は、８世紀第Ｉ四半期と考えたい。

第112号住居跡出土遺物

第339図13～15は、須恵器の坏である。15のみ還元化するが、他は還元化が進まず、淡い灰色である。13は、末野窯跡群、14・15は、南比企窯跡群の製品である。

須恵器の坏から第112号住居跡は、９世紀第IV四半期と考えたい。

第113号住居跡出土遺物

第339図16は、土師器の坏である。内湾口縁坏で、薄く作られている。利根川水系の原土が用いられている。

17は、須恵器の坏である。底部周辺が、ヘラケズリされている。南比企窯跡群の製品である。

18は、須恵器の甕の底部である。おそらく高台が付くであろう。末野窯跡群の製品である。

19・20は、砥石である。

土師器の坏・須恵器の坏から第113号住居跡は、８世紀第IV四半期と考えたい。

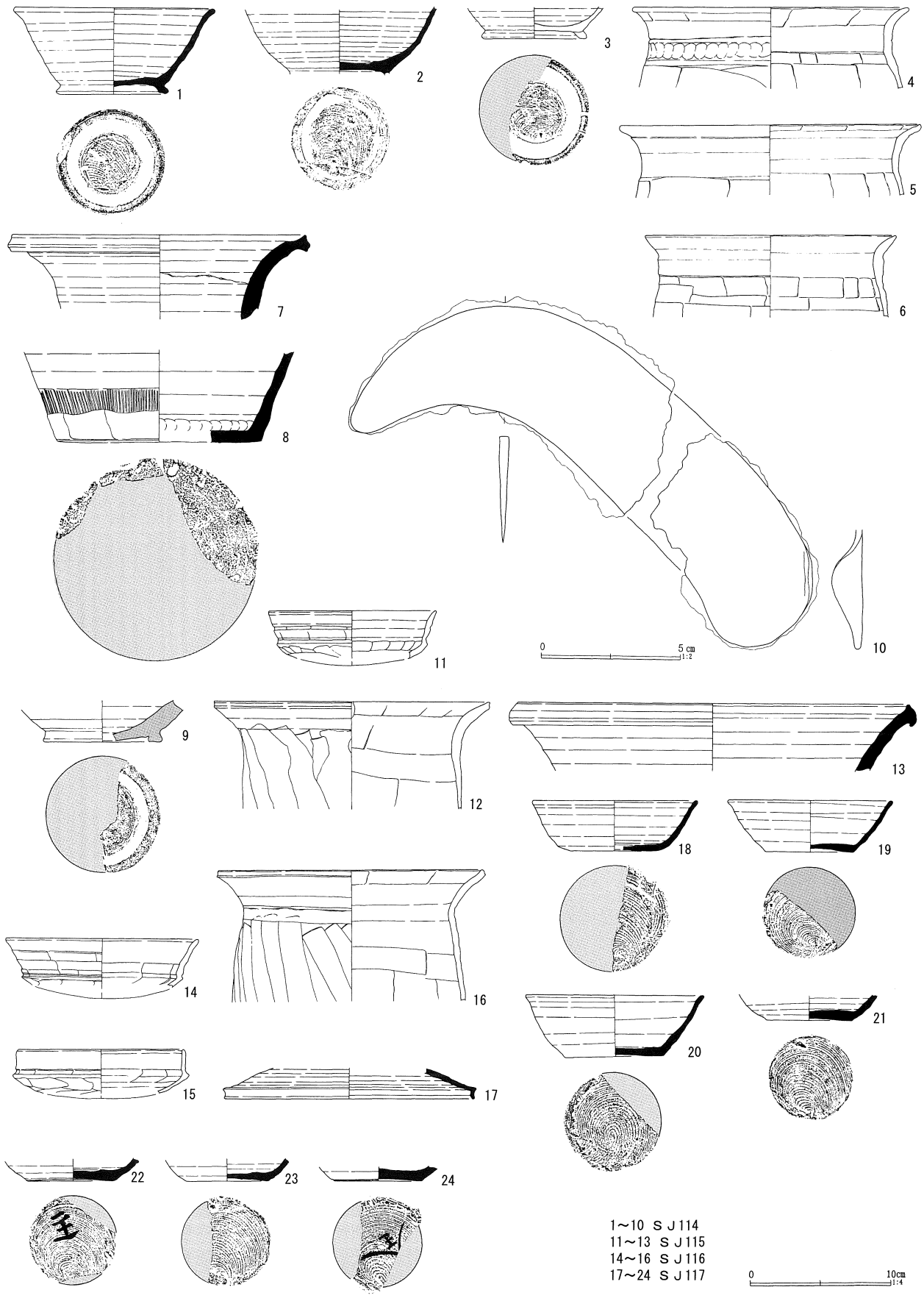
第114号住居跡出土遺物

第339図21～26は、須恵器の坏である。21・22・26は、口径がやや大振りである。他は小さい。26の口縁は、内彎しつつ延びるが、他の口縁部は直線的に延びる。

27～29は、須恵器の皿である。27は、酸化炎気味であるが、他は、還元化している。

第340図１～３は、須恵器高台付埦である。２は、高台部が欠損しているが、１・３同様、外端接地の高台が付いていたと考えられる。高台は、幅広に丁寧に作られている。３は、酸化炎気味であるが、他は還元化している。第339図21～第340図３は、末野窯跡群の製品である。

４～６は、土師器甕である。３点とも明瞭な「コ」の字状口縁甕とはなっていないが、６は、「コ」の字状口縁甕であろう。３点は、角閃石・軽石などを含み、利根川水系の原土であろう。ただし４・５は、



第340図　竪穴住居跡出土遺物(17)

黄白色系の焼きの甘い製品で、６は、橙色系のやや硬質な製品である。

７・８は、須恵器壺である。７は、南比企窯跡群の製品であり、８は、末野窯跡群の製品であり、同一個体ではない。両者とも良く還元化しており、硬質な焼き上がりである。

９は、灰釉陶器の長頸瓶である。浜北地方の製品で、折戸53号窯式である。

10は、鉄製の鎌である。柄への装着部は、錆化が激しく折れてしまっている。

須恵器の口径：底径比や土師器甕が「コ」の字状口縁甕に先行することから、第114号住居跡は、９世紀前葉（第Ⅰ四半期）と考えたい。

第115号住居跡出土遺物

第340図11は、土師器の有段口縁坏である。黒色処理は行われていないが、全体に暗い色調に焼き上がっている。角閃石・軽石を含み、利根川水系の原土である。

12は、土師器長胴甕である。器壁はやや厚く、外面は、雑に削っている。やはり、角閃石や輝石・軽石を含み、利根川水系の原土であろう。

13は、須恵器大甕の口縁部破片である。末野窯跡群産の製品である。

小形化した有段口縁坏や、縦ケズリのみの長胴甕から第115号住居跡は、７世紀中葉と考えたい。

第116号住居跡出土遺物

第340図14･15は、土師器の坏である。14は、有段口縁坏、15は須恵器坏身模倣坏である。両者とも器表がざらついて手に砂が付く。角閃石･軽石を含み、利根川水系の原土を用いている。

16は、土師器の甕である。いわゆる長胴甕で、口縁部は大きく伸びる。口唇は「M」字状となっている。これも利根川水系の原土が用いられている。

土師器の坏や甕から第116号住居跡は、６世紀末から７世紀第Ⅰ四半期と考えたい。

第117号住居跡出土遺物

第340図17は、須恵器の蓋である。口唇部が高く作られている。良く還元化され、硬く焼き上がっている。南比企窯跡群の製品である。

18～第341図１は、須恵器の坏である。底部周辺の二次調整はみられない。良く還元化されており、硬質である。第340図19のみ焼き斑がみられ、重なった部分が、小豆色となっている。20はやや大振りの器形で、埦となるかもしれない。22の底部には「主」、24の底部には「金」と墨書されていた。すべて南比企窯跡群の製品である。

２は、黒色土器の坏である。内面には、水平方向に細かなヘラミガキが施されており、その上が黒色化している。底部は糸切り未調整である。角閃石・軽石を含み、利根川水系の原土が用いられている。

３は、土師器の甕である。外面の雑なヘラケズリの割には、極めて薄く作られた甕である。やはり利根川水系の原土が用いられている。

４は、須恵器の甕である。底部の縁辺には、叩きによって生じたバリを取るためのヘラケズリが施されている。南比企窯跡群の製品である。

５は鉄製の刀子、６は棒状鉄製品である。

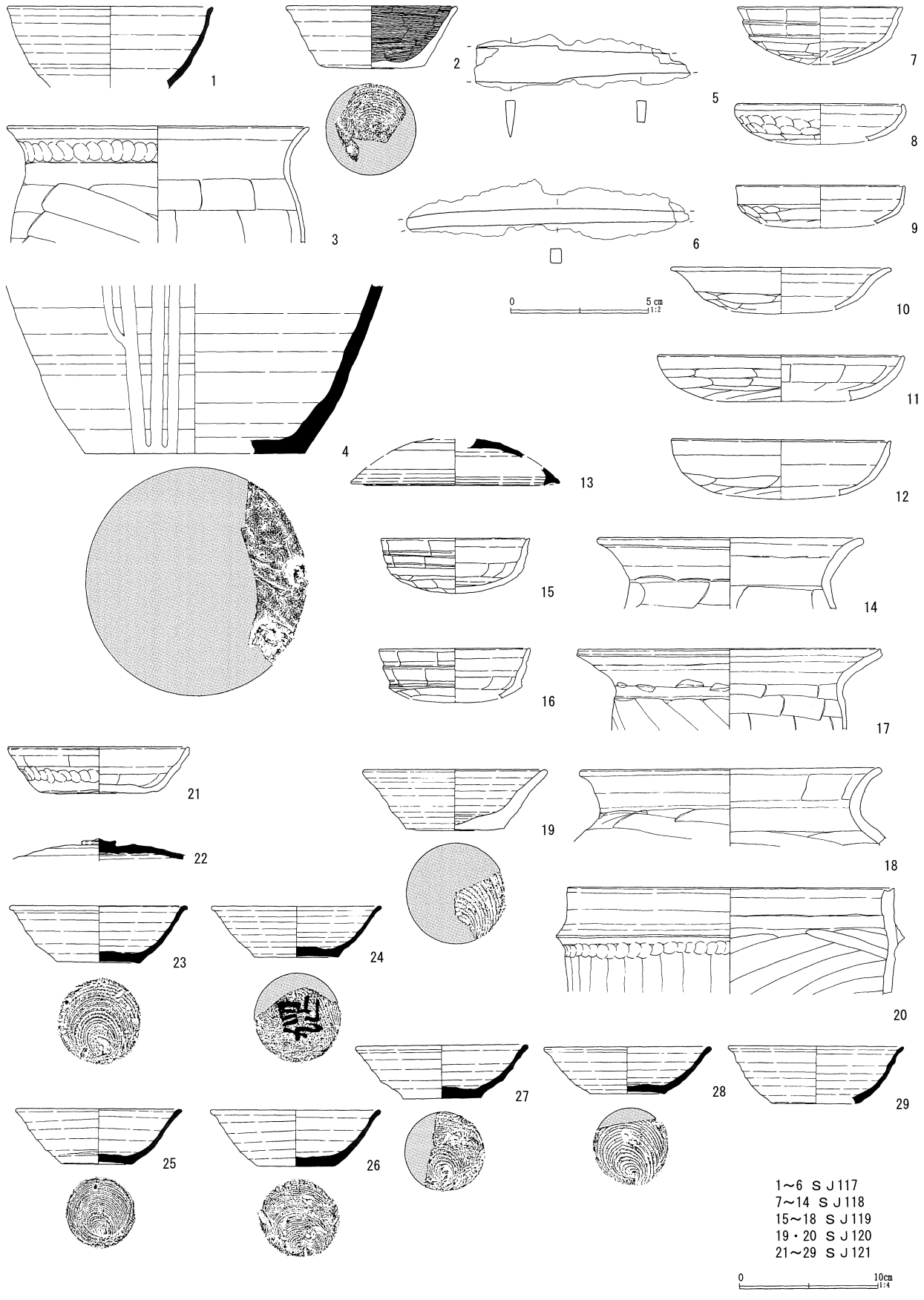
須恵器の蓋や坏、土師器の甕などから第117号住居跡は、９世紀第Ⅰ四半期と考えたい。

第118号住居跡出土遺物

第341図７～９は、土師器の坏である。７は、有段口縁坏である。段は比較的緩やかである。８は、内湾口縁坏である。口唇部でやや丸くなる。９は、扁平な坏である。３点とも角閃石・軽石を含む利根川水系の原土が用いられている。

10～12は、土師器の皿である。10の口縁は外反するが、11・12の口縁は、内彎して立ち上がる。これも利根川水系の原土が用いられている。

13は、須恵器の蓋である。非常に良好な洗練された原土が用いられており、還元化もよく進み、硬く焼きしまっている。東海地方（静岡県湖西窯跡群）



第341図　竪穴住居跡出土遺物(18)

の製品である。

14は、土師器の長胴甕である。やや下膨れとなる器形であろう。利根川水系の原土が用いられている。

土師器の坏・皿や甕、須恵器の蓋から第118号住居跡は、７世紀第Ⅳ四半期と考えたい。

第119号住居跡出土遺物

第341図15・16は、土師器の坏である。両者は、有段口縁坏で、明瞭な二つの段を作る。器壁は大変荒れ、手に粉が付くほどである。利根川水系の原土が用いられている。

17は、土師器の甕である。長胴甕で、口縁部の開きは強く長い。粗く外面をヘラケズリしている。利根川水系の原土が用いられている。

18は、土師器の壺である。比較的厚く器壁が作られている。金雲母を含む。荒川水系の原土が用いられている。

土師器の坏や甕から第119号住居跡は、７世紀第Ⅳ四半期と考えたい。

第120号住居跡出土遺物

第341図19は、須恵器の坏である。器壁は大変厚く、ロクロの扱いも無骨である。口縁部中央でやや腰が張る。全く還元化が進まず、暗い褐色に仕上がっている。末野窯跡群の製品である。

20は、土師器の羽釜である。鍔部の突出は小さく、やや波打っている。内外面は、大変粗く仕上げられている。しかし口唇は、「M」字状になっている。利根川水系の原土が用いられている。

須恵器の坏や土師器の羽釜から第120号住居跡は、11世紀前半と考えたい。

第121号住居跡出土遺物

第341図21は、土師器の坏Ａである。底部が小さく、大きく開く。器表の劣化が激しく、手に粉が付く。ローム台地の原土を用いている。

22は、須恵器の蓋である。つまみは、ボタン状の小さなつまみで、扁平に開く。器肉が、大変薄く、丁寧に仕上げられている。末野窯跡群の製品である。

23～29・第342図１は、須恵器の坏である。すべて糸切りのみである。24の底部には、「綱」と墨書がある。還元化による個体間の格差が激しく、26・第342図１は、還元化が進み灰色となるが、22・24・25・28・29は、灰白色に焼き上がる。ただし硬質である。また23・27は、暗い橙色である。硬質である。23～29は、南比企窯跡群、第342図１は、末野窯跡群の製品である。

２は、須恵器の皿である。胎土が大変粗く砂っぽい。器肉が厚い。還元化が進まず、橙色である。末野窯跡群の製品である。

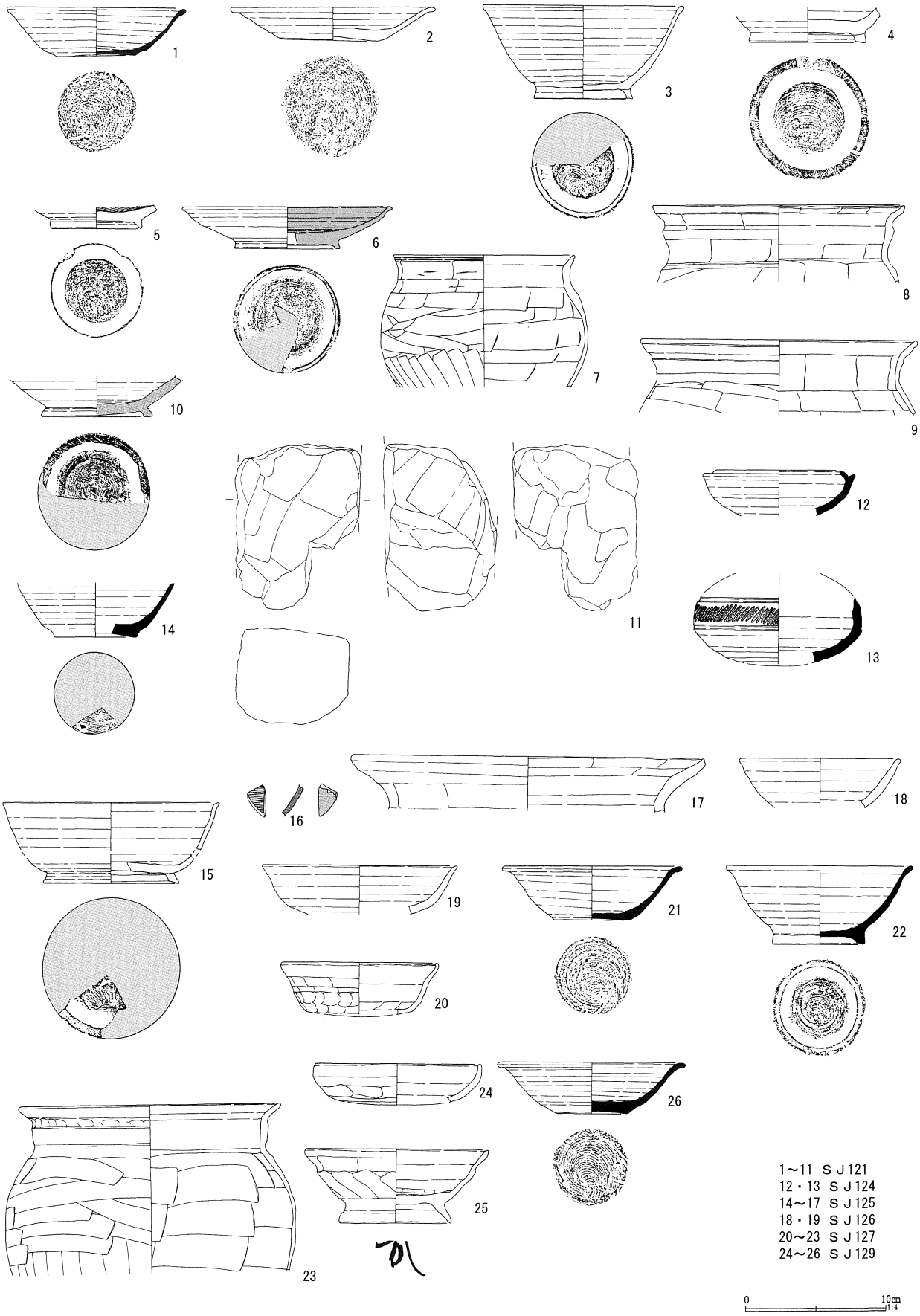
３・４は、須恵器の高台付埦である。３の高台は、丁寧に「M」字状に作られ、細く高い。外端接地の高台である。底部から胴部にかけても薄く作られている。末野窯跡群の製品である。４は、高台・底部とも厚く作られる。胎土は、砂質で比重も重い。東金子窯跡群の製品である。

５は、黒色土器の高台付皿である。高台は、接地面の尖った三角形状である。内面に僅かながらヘラミガキの痕跡がみられ、黒色処理が施されている。

６は、灰釉陶器の高台付皿である。高台は小さな角高台で、底部は分厚くヘラ切りされている。口縁部は、小さく折れ外反する。内面見込みと底部外面に三つ又トチンの跡が残る。内面見込みのみにハケ塗りが施されている。釉の発色はやや鈍く、明瞭な緑とはなっていない。二川窯跡群の製品で、黒笹14号窯式である。

７～９は、土師器の甕である。７は、小形の土師器甕で、口縁は小さく外反する。底部には、台が付くかもしれない。８・９は、「コ」の字状口縁甕である。粗いケズリの割には、薄く作られている。甕は、角閃石・軽石を含み、利根川水系の原土が用いられている。

10は、灰釉陶器の長頸壺である。底部破片のみである。二川窯跡群の製品で、折戸53号窯式である。



第342図　竪穴住居跡出土遺物(19)

11は、砥石である。

土師器の坏・甕や須恵器の坏・高台付埦などから第121号住居跡は、９世紀第Ⅱ四半期と考えたい。

第124号住居跡出土遺物

第342図12は、須恵器の坏身である。かえりは長く、内彎しつつ立ち上がる。また口唇部よりも突出する。良く還元化されており、非常に硬質である。湖西窯跡群の製品である。

13は、須恵器の甕である。底部と胴部が分離しているが、同一の個体であろう。底部から胴部の近くまでケズリ込まれており、胴部には、木口状工具による刻み状の平行刺突がみられる。12と同様、良く還元化され、非常に硬質である。湖西窯跡群の製品である。

須恵器の坏身、甕から第124号住居跡は、７世紀後葉と考えたい。

第125号住居跡出土遺物

第342図14は、須恵器の坏である。還元化が進み、硬質に焼き上がっている。南比企窯跡群の製品である。

15は、高台付埦である。高台は丁寧に作られ、外端が突出する台形状である。焼成はやや甘く、軟質の仕上がりである。東金子窯跡群の製品である。

16は、緑釉陶器の陶片である。埦の破片で、猿投窯跡群の製品である。

17は、土師器の甕である。厚手の甕である。整形は雑で、口縁部は内湾する。利根川水系の原土が用いられている。

須恵器の坏や高台付埦から第125号住居跡は、８世紀第Ⅳ四半期と考えたい。なお17は、第87号溝跡の遺物の可能性がある。10世紀代か。

第126号住居跡出土遺物

第342図18･19は、土師質土器の坏である。両者とも軟質で、焼成が悪く、手に粉が付く。角閃石や軽石を含み、利根川水系の原土が用いられている。

土師質土器の坏から第126号住居跡は、10世紀後半と考えたい。

第127号住居跡出土遺物

第342図20は、土師器の坏Ａである。口縁部には断続したナデの跡が残る。底部は薄くヘラケズリされている。ローム台地の原土が用いられている。

21は、須恵器の坏である。還元化はあまり進まず、焼き斑がみられる。末野窯跡群の製品である。

22は、須恵器の高台付埦である。高台は、外端接地の「Ｍ」字状となる。還元化がやや甘く、やや軟質である。末野窯跡群の製品である。

23は、土師器の甕である。いわゆる「コ」の字状縁甕で、口縁部は大きく二段に屈曲する。外面が薄い割には、雑にケズリ込まれている。角閃石や軽石を含み、利根川水系の原土が用いられている。

土師器の坏や須恵器の埦・坏から第127号住居跡は、９世紀第Ⅱ四半期と考えたい。

第129号住居跡出土遺物

第342図24は、土師器の坏である。内湾口縁坏である。利根川水系の原土が用いられている。

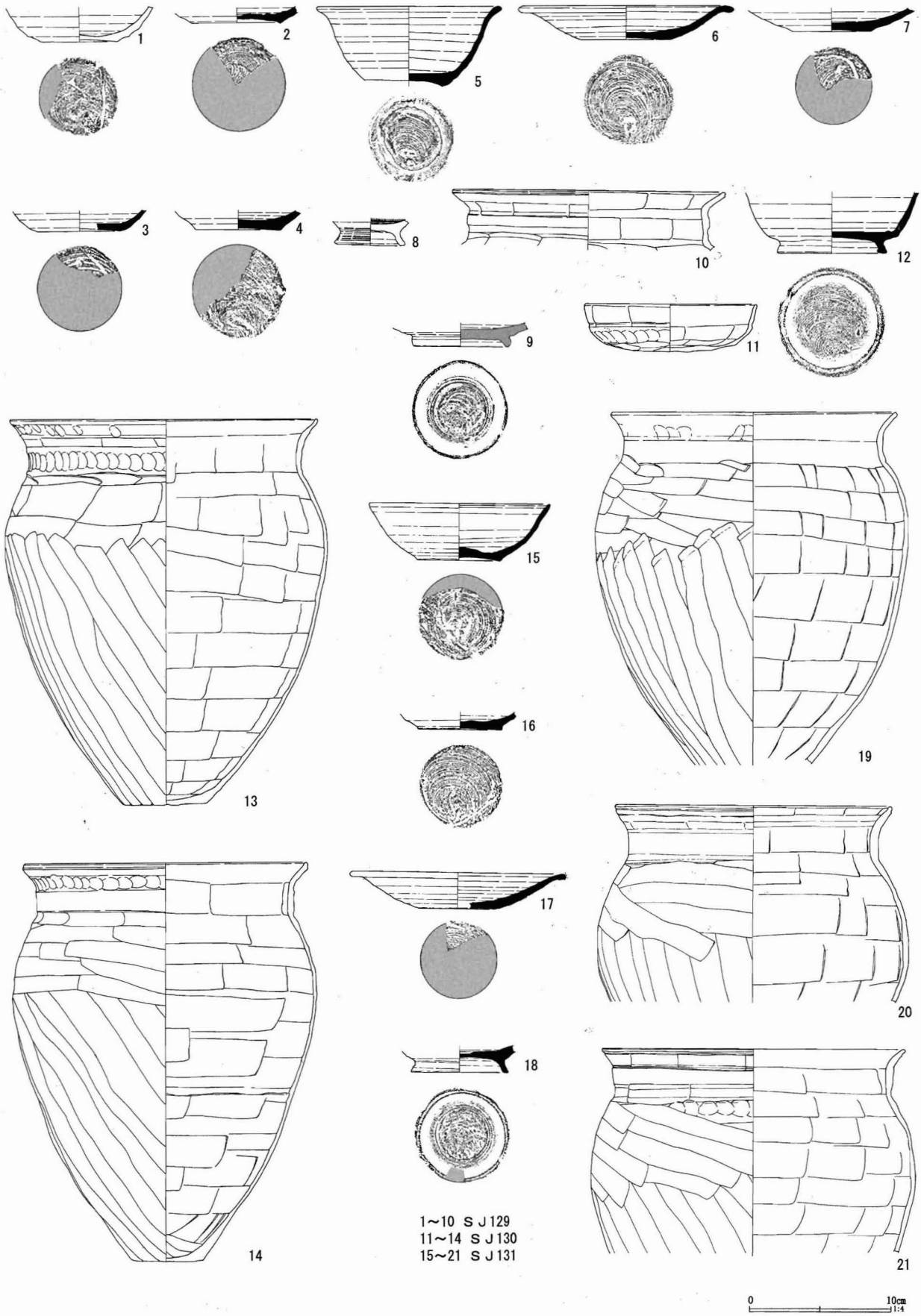
25は、土師器の高台付埦である。粗いヘラケズリがみられ、高台は高く作られている。やはり利根川水系の原土が用いられている。「龍」と墨書がある。

26～第343図４は、須恵器の坏である。底部は全て回転糸切りのみである。１は、還元化が進まず、軟質で橙色である。他は還元化が進み硬質である。末野窯跡群の製品である。

５は、須恵器の高台付埦である。高台部分は欠損する。硬質に焼き上がる。末野窯跡群の製品である。

６・７は、須恵器の皿である。６は還元化が進み、硬質であるが、７は橙色に焼き上がっている。末野窯跡群の製品である。

８は、黒色土器の高台付埦である。小形の高台付埦である。高台は、高い外端接地である。ローム層



第343図　竪穴住居跡出土遺物(20)

中の原土が用いられている。

9は、灰釉陶器の皿である。高台は低く三角形である。東濃地方の製品で、大原2号窯式である。

10は、土師器の甕であえる。いわゆる「コ」の字状口縁甕である。利根川水系の原土が用いられている。

土師器の坏や高台付埦・甕、須恵器の坏や高台付埦、灰釉陶器などから第129号住居跡は、9世紀第III四半期と考えたい。

第130号住居跡出土遺物

第343図11は、土師器の坏である。口縁部に沈線状の窪みがみられる。しかし全体に大変薄作りである。利根川水系の原土が用いられている。

12は、須恵器の高台付埦である。還元化がさほど進まずやや軟質である。高台端部の内側へのかえりがきつい。緩い「M」字状となっている。末野窯跡群の製品である。

13・14は、土師器の甕である。胴部が大変薄く削られるいわゆる薄甕である。底部は削られている。利根川水系の原土が用いられている。

土師器坏や甕、須恵器の坏から第130号住居跡は、8世紀第IV四半期と考えたい。

第131号住居跡出土遺物

第343図15・16は、須恵器の埦である。両者とも硬質に焼き上がり、還元化している。両者は、南比企窯跡群の製品である。

17は、須恵器の皿で、良好に焼き上がり還元化している。末野窯跡群の製品である。

18は、須恵器の高台付埦である。高台は、細く丁寧に作られ、外端接地である。硬質に焼き上げられ、良く還元化している。末野窯跡群の製品である。

19～第344図1は、土師器の甕である。全ていわゆる「コ」の字状口縁甕に先行した形態の甕である。ただし第343図21のみは、「コ」の字にやや近い。19～第344図1は、角閃石・輝石・軽石を含むことから、利根川水系の原土であろう。

第131号住居跡は、「コ」の字状口縁甕のみられないことや、周辺へラケズリを施す須恵器坏がみられないことなどから9世紀第I四半期の竪穴住居跡と考えたい。

第132号住居跡出土遺物

第344図2は、土師器の坏Bである。厚手の坏で底部と胴下半を粗いへラケズリで削り取る。口縁部も粗くユビナデされている。利根川水系の原土が用いられている。

3は、灰釉陶器の埦である。内面見込みに一筆のハケ塗りがある。外面の一部にハケ塗りの痕跡がみられる。高台は、三日月状でやや高い。底部は丁寧なへラケズリが施されている。尾北地方の製品で、黒笹90号窯式である。

4は、土師器の甕である。いわゆる「コ」の字状口縁甕だが、器壁が厚くやや退化傾向にある。利根川水系の原土を用いている。

5は、石製の錘（権）であろうか。上部中央に円形の穿孔が見られる。

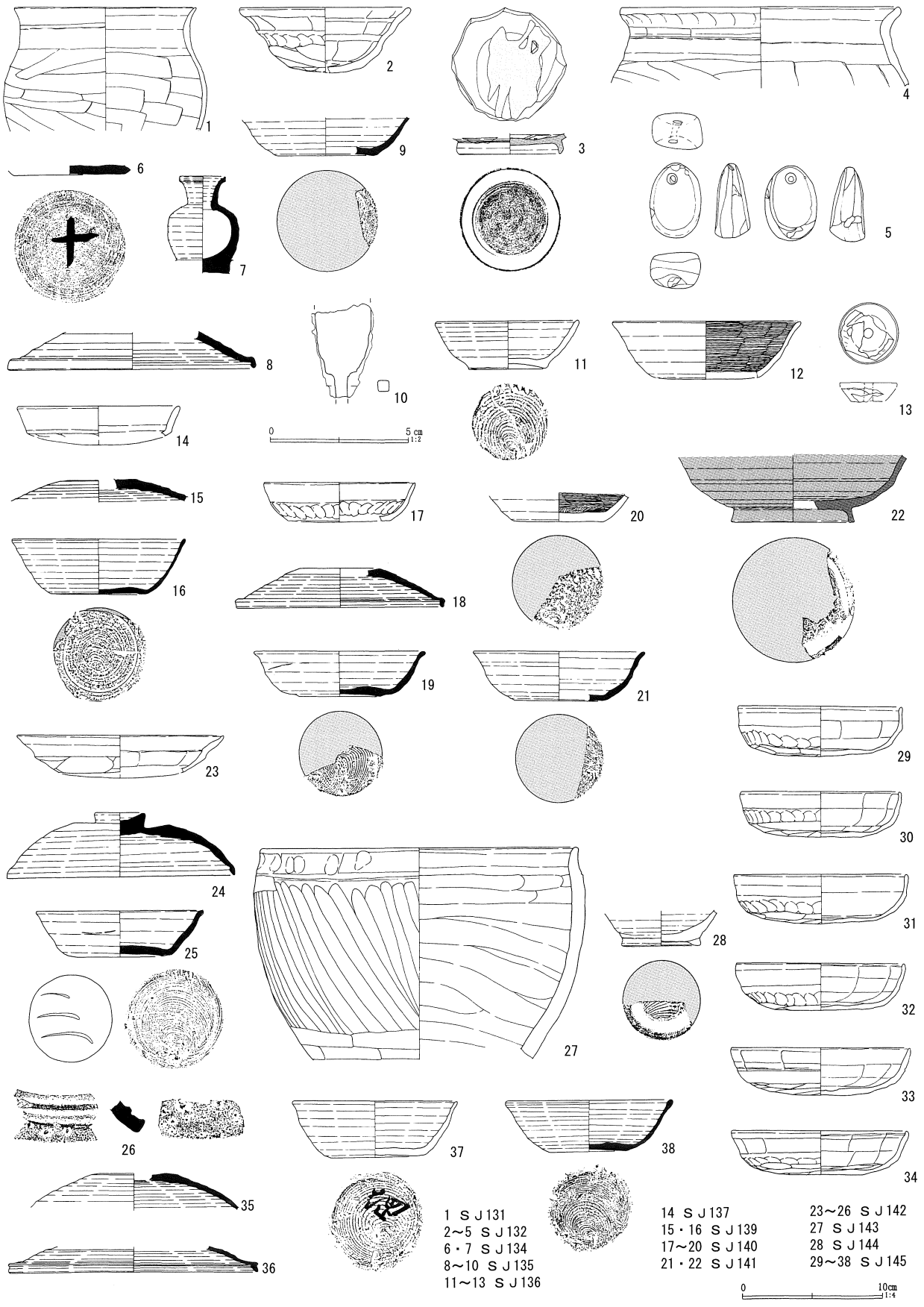
土師器の坏・甕、灰釉陶器の埦から第132号住居跡は、9世紀第IV四半期と考えたい。

第134号住居跡出土遺物

第344図6は、須恵器の坏である。底部周辺に回転へラケズリが施されている。良く還元化し、硬質に仕上がっている。南比企窯跡群の製品である。底部に「十」と墨書あり。

7は、須恵器の花瓶である。脚部は欠損しており、全体像は伺えないが、上部の長頸壺（水瓶）部分は完存している。丁寧なロクロ挽きがみられ、口縁部の作りは極めて丁寧である。産地は特定できないが、おそらく東海地方（猿投窯跡群）であろう。

第134号住居跡の時期を考えられる遺物は、6のみである。8世紀第III四半期。



第344図　竪穴住居跡出土遺物(21)

第135号住居跡出土遺物

第344図８は、須恵器の蓋である。口唇部はやや太く屈曲する。天井部のヘラケズリが一部残る。

９は、須恵器の坏である。口縁部・底部とも欠損する。８・９とも良く還元化されており、硬質である。両者は、末野窯跡群の製品である。

10は、不明鉄製品である。

須恵器の蓋･坏から第135号住居跡は、９世紀前半と考えたい。

第136号住居跡出土遺物

第344図11は、土師質土器の坏である。口縁が、緩く内彎しつつ立ち上がる。軟質に仕上がっており、明るい灰白色である。角閃石や軽石を含むことから利根川水系の原土が用いられている。

12は、黒色土器の坏、あるいは高台付埦である。内面には細かなヘラミガキが施されている。外面は、黄褐色である。白色針状物質を含むことから比企・入間地域の窯で焼成された製品である。

13は、石製の紡錘車である。

土師質土器の坏や黒色土器の坏から第136号住居跡は、10世紀第Ⅳ四半期と考えたい。

第137号住居跡出土遺物

第344図14は、土師器の坏である。口縁部の小破片である。須恵器坏蓋模倣坏である。利根川水系の原土が用いられている。

第137号住居跡の図化可能な遺物は、１点のみであった。７世紀後半。

第139号住居跡出土遺物

第344図15は、須恵器の蓋である。還元化が進み、硬質な焼き上がりである。

16は、須恵器の坏である。底部周辺に回転ヘラケズリを施している。やや還元化が甘く、淡い白色に発色している。15･16は南比企窯跡群の製品である。

須恵器の蓋や坏から第139号住居跡は、８世紀第Ⅳ四半期と考えたい。

第140号住居跡出土遺物

第344図17は、土師器の坏Ａである。底部は削られている。利根川水系の原土が用いられている。

18は、須恵器の蓋である。かえりの部分は、「マ」の字状となるが、あまりきつくない。南比企窯跡群の製品である。

19は、須恵器の坏である。良く還元化し大変硬質である。南比企窯跡群の製品である。

20は、黒色土器の坏である。内面に細かなヘラミガキがみられ、体部は水平方向のミガキとなっている。内面の黒色はやや鈍く、軟質な焼き上がりである。利根川水系の原土が用いられている。

土師器の坏や須恵器の坏･蓋、黒色土器から第140号住居跡は、９世紀第Ⅱ四半期と考えたい。

第141号住居跡出土遺物

第344図21は、須恵器の坏である。良好に還元化されており、硬質に焼き上がっている。南比企窯跡群産の須恵器である。

22は、緑釉陶器の稜埦である。猿投窯跡群の製品で。黒笹90号窯式の内でも新しい段階の製品である。

21は、９世紀中葉、22は、９世紀第Ⅲ四半期であることから、第141号住居跡は、９世紀第Ⅲ四半期の竪穴式住居跡である。

第142号住居跡出土遺物

第344図23は、土師器の皿である。ヘラケズリは雑だが、薄く仕上げられている。利根川水系の原土が用いられている。

24は、須恵器の蓋である。天井部は糸切りの周辺をヘラケズリするが、糸切りは窪んで残る。つまみは、厚いボタン状である。銀雲母を多く含んだ新治窯跡群の製品である。

25は、須恵器の坏である。底部にジグザグのヘラ書がみられる。南比企窯跡群の製品である。

26は、須恵器の円面硯である。脚部の破片で、透穴の形状などは分からない。金山窯跡群の製品であろう。

土師器の皿や須恵器坏・蓋などから第142号住居跡は、８世紀第Ⅲ四半期と考えたい。

第143号住居跡出土遺物

第344図27は、土師器の土釜である。器肉は厚く、口縁部の作りやケズリの単位など羽釜と共通する。角閃石や軽石を多量に含み、全体にざらついた胎土で、利根川流域の原土を使用している。

第143号住居跡から図化できた土器は、１点のみである。10世紀後半である。

第144号住居跡出土遺物

第344図28は、須恵器の高台付埦である。高台は、紐状で低く台形状である。還元化が全く進まず、淡い灰白色に焼き上がり、軟質である。近隣の自然堤防上の窯で生産されたのであろう。

第144号住居跡から出土した遺物で図化できた遺物は、１点のみであった。10世紀後半である。

第145号住居跡出土遺物

第344図29～34は、土師器の坏Ａである。29～31は体部下端までヘラケズリが及ぶ。口唇部で内側へやや折り返される。全て角閃石・軽石を含み、利根川水系の原土が用いられている。

35・36は、須恵器の蓋である。35は受け部を欠くが、36には、「マ」字状の受けが付く。非常に薄く丁寧に作られている。良く還元化されており硬質である。南比企窯跡群の製品である。

37～第345図１は、須恵器の坏である。第344図37はやや還元化が進まず軟質であるが、38・第345図１は、大変良く還元化しており、硬質である。口唇部は内側に膨らむ。３点とも南比企窯跡群の製品である。37には、判読できないが、墨書がみられる。

２～４は、須恵器の高台付埦である。２は、やや高めの角高台となっており、内側に大きく窪み、爪状となる。内端接地の高台となる。３・４は、やや細長い「ハ」の字に開いた高台であるが、丁寧に作られており、外端接地となっている。２は末野窯跡群、他は南比企窯跡群の製品である。

５は、黒色土器の坏である。底部には、糸切りがあり、ロクロ成形である。内面には平行する細かなヘラミガキがある。まず底部から口縁部へかけて垂直にヘラミガキを行い、後に水平にヘラミガキを行っている。その後底部を平行に磨いている。下総台地で生産された土器であろう。

６は、土師器の甕である。薄く丁寧に作られている。角閃石・軽石を含み、利根川水系の原土が用いられている。

土師器の坏や甕、須恵器の坏・高台付埦、黒色土器から第145号住居跡は、９世紀第Ⅱ四半期と考えたい。

第146号住居跡出土遺物

第345図７・８は、土師器の坏である。７は、須恵器坏蓋模倣坏から系譜を引く形骸化した坏である。８は、内湾口縁坏である。両者とも表面の残りが悪く砂っぽい。７の表面は、黒色処理を意識したか、暗褐色に焼かれている。角閃石・軽石を含み、利根川水系の原土が用いられている。

９・10は、土師器の甕である。９は、小形の甕で器壁が極めて薄く作られている。10は、大形の球胴甕（壺）となるのであろうか。甘い焼きである。やはり利根川水系の原土が用いられている。

11は、須恵器のフラスコ形瓶である。口縁部に折り返しがみられる。良く還元化し硬く焼きしまっている。湖西窯跡群の製品である。

土師器の坏・甕から第146号住居跡は、８世紀第Ⅰ四半期と考えたい。

第147号住居跡出土遺物

第345図12は、土師器の坏である。やや厚手の内湾口縁坏である。

13は、土師器の甕である。口縁は直線的に伸び、口唇部は、「M」字状となる。12・13とも角閃石・軽石を含み、利根川水系の原土が用いられている。

土師器の坏と甕から第147号住居跡は、8世紀第Ⅰ四半期と考えたい。

第148号住居跡出土遺物

第345図14・15は、土師器の甕である。器肉の厚い甕で、ロクロ挽きの痕跡はない。外面を極めて大雑把に削っている。利根川水系の原土が用いられている。

第148号住居跡の出土遺物の中で図化できたのは、土師器の甕のみであった。10世紀後半。

第149号住居跡出土遺物

第345図16～18は、土師器の坏である。16は、北島型暗文土器である。器肉が厚く、扁平化し、口縁部は直線的である。17は、扁平な坏で、内面に放射状の暗文がみられる。一般的な北島型暗文土器の暗文と異なり、工具による器肉のえぐり込みが少ない。18は、内湾口縁坏である。16は、利根川水系の原土が用いられ、17・18は、ローム土を用いられている。

19は、須恵器の蓋である。立ち上がりの低いリング状のつまみがある。還元化が進まず、内面は、橙色である。南比企窯跡群の製品である。

20～24は、須恵器の坏である。全てに底部周辺のヘラケズリがみられる。20・23は手持ちケズリ、他は回転ケズリである。24は、側辺部もヘラケズリされている。21の底部には、「×」または「〆」の焼成前に施された刻書がみられる。全て還元化が良く進み、硬質である。20のみが末野窯跡群、他は南比企窯跡群の製品である。

25・26は、土師器の甕である。粗いヘラケズリの割には、薄く作られた甕である。角閃石・軽石を含み、利根川水系の原土が用いられた。

土師器の坏・甕、須恵器の坏から第149号住居跡は、8世紀第Ⅲ四半期と考えたい。

第150号住居跡出土遺物

第345図27～29は、土師器の坏である。27・28は、扁平な坏で、底部がヘラケズリされている。29は、底部・側面をヘラケズリする坏で、内面には、放射状の暗文と螺旋状の暗文が施される。すべて利根川水系の原土が用いられている。

30～第346図2は、須恵器の坏である。第345図30～32には回転ヘラケズリがみられる。31・34・第346図2は、還元化が進まず、淡い褐色の焼き上がりである。他は良く還元化している。30～32は、南比企窯跡群、33・34・第346図2は、末野窯跡群、第346図1は新治窯跡群の製品である。

3は、土師器の甕である。原土にはローム土が用いられている。

4は、砥石である。

土師器の坏・甕、須恵器の坏から第150号住居跡は、8世紀第Ⅳ四半期と考えたい。

第151号住居跡出土遺物

第346図5・6は、土師器の坏である。5は、内面に放射状の暗文を施す扁平な坏である。6は、扁平な坏である。角閃石・軽石を含み、利根川水系の原土が用いられている。

7は、須恵器の蓋である。天井部外面は、還元化が進まず淡い灰色である。末野窯跡群の製品である。

8・9は、須恵器の坏である。両者とも良く還元化が進み、硬質に仕上がっている。8は南比企窯跡群、9は東金子窯跡群の製品である。

10は、須恵器の高台付埦である。高台は「M」字状の角高台で、外端接地となっている。端部は鋭利である。良く還元化した南比企窯跡群の製品である。

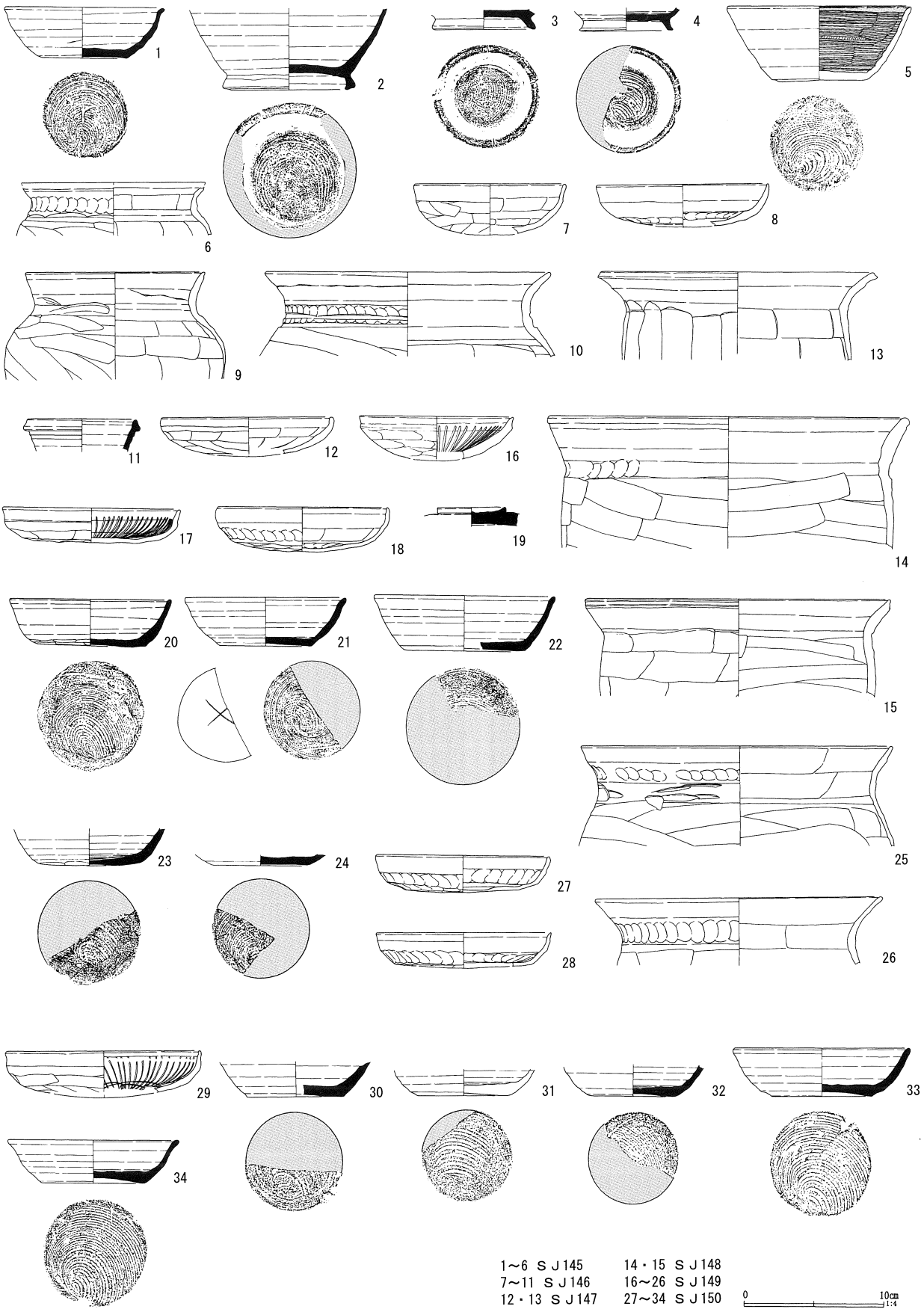
11は、土師器の甕である。

12は、土師器の台付甕である。

13は、土師器の甕である。いわゆる薄甕である。

11～13は角閃石・軽石を含み、利根川水系の原土が用いられている。

14は、砥石である。



1～6 ＳＪ145　　14・15 ＳＪ148
7～11 ＳＪ146　　16～26 ＳＪ149
12・13 ＳＪ147　　27～34 ＳＪ150

第345図　竪穴住居跡出土遺物(22)

15は棒状鉄製品である。

土師器の坏・甕、須恵器の坏・高台付埦から第151号住居跡は、９世紀第Ⅰ四半期と考えたい。

第152号住居跡出土遺物

第346図16～20は、土師器の坏である。16は、須恵器坏身模倣坏である。口縁部の立ち上がりが高い。17は、扁平な皿形の坏である。18は、内湾口縁坏である。19は、北島型暗文土器である。暗文の目が大変細かく、また底部が平底に削られている。20は、土師器の大形の坏である。全て利根川水系の原土が用いられている。

21は、土師器の甕である。長胴甕で、器壁はやや厚い。利根川水系の原土が用いられている。

土師器の坏や甕から第152号住居跡は、７世紀第Ⅳ四半期と考えたい。

第153号住居跡出土遺物

第346図22～24は、土師器の坏である。22は、内湾口縁坏である。23・24は、扁平な坏である。23の内面には、粗い放射状の暗文がみられる。いずれも利根川水系の原土が用いられている。

25は、須恵器の蓋である。比較的還元化が進み、硬質である。末野窯跡群の製品である。

26・27は、須恵器の坏である。26は、底部を周辺回転ヘラケズリしている。27は、底部の側面を手持ちヘラケズリしているが、底部はロクロ切り離しのみである。両者とも良く還元化が進み、硬質に仕上がっている。また底部には、「川」あるいは「卅（三〇）」とも取れる刻書が記されている。文字（記号）は、ヘラによって大雑把に書き殴ったように書かれている。26は南比企窯跡群、27は、東金子窯跡群の製品である。

28は、須恵器の高台付埦である。口縁部が、強く折れた腰から直線的に伸びる。やや還元化が進まず、焼き斑がみられる。末野窯跡群の製品である。

第347図１～３は、土師器の甕である。３点とも口縁部が長く伸びた甕である。雑なヘラケズリの割に器壁が、とても薄く仕上げられている。利根川水系の原土が用いられている。

土師器の坏や甕、須恵器の坏や高台付埦から第153号住居跡は、８世紀第Ⅳ四半期と考えたい。

第154号住居跡出土遺物

第347図４は、土師器の坏である。内面に放射状の暗文を施す北島型暗文土器である。暗文の間隔は幅広で、口唇部付近はやや消える。器壁は、大変薄く作られている。角閃石・軽石を含む利根川水系の原土が用いられている。

第155号住居跡出土遺物

第347図５・６は、土師器の坏Ａである。５は、底部から体部にかけてもヘラケズリが施される。器壁は大変薄い。角閃石・軽石を含む利根川水系の原土が用いられている。

７は、須恵器の坏である。還元化が進まず、やや軟質である。ざらついて手に粉が付く。末野窯跡群の製品である。

８～10は、土師器の甕である。胴の大変張った薄甕である。８の外面には、粘土が多量に付着する。角閃石・軽石を含む利根川水系の原土が用いられている。

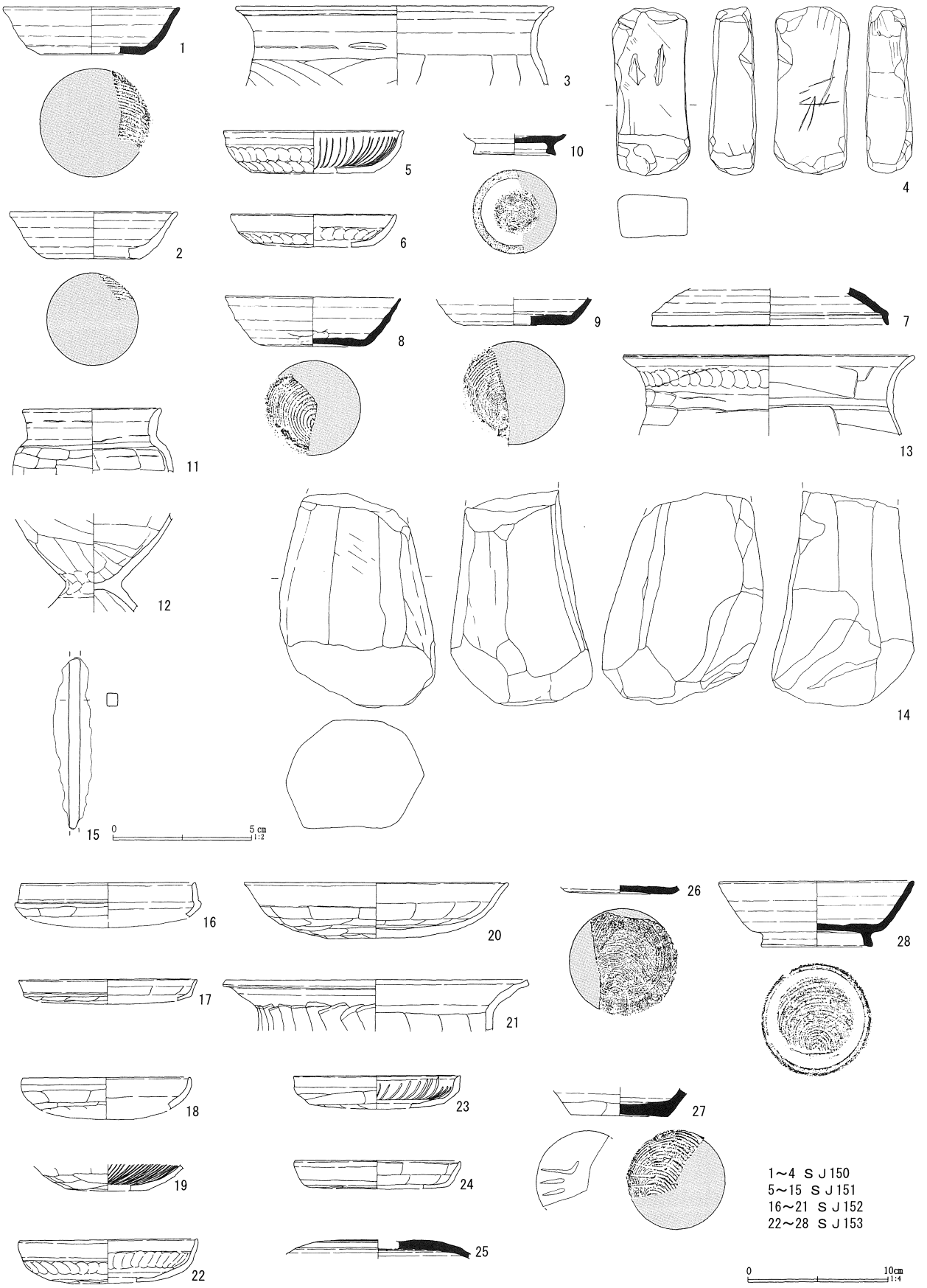
土師器の坏や甕、須恵器の坏などから第155号住居跡は、９世紀第Ⅰ四半期と考えたい。

第156号住居跡出土遺物

第347図11～13は、土師器の坏である。11は、口縁部が小さく内側に屈曲する坏である。12は内湾口縁坏、13は、長い口縁部が大きく外傾する坏である。全て利根川水系の原土が用いられている。

14は、須恵器の蓋である。小さな返りが付く蓋で、良く還元化している。末野窯跡群の製品である。

15は、須恵器の坏である。底部周辺の回転ヘラケズリが伺える。南比企窯跡群の製品である。



第346図　竪穴住居跡出土遺物(23)

16は、土師器の甕である。長胴甕で、口縁が長く伸びる。角閃石・軽石を含み、利根川水系の原土が用いられている。

土師器の坏・甕、須恵器の坏・蓋などから第156号住居跡は、８世紀第Ⅰ四半期と考えたい。

第157号住居跡出土遺物

第347図17は、須恵器の坏である。還元化はあまり進まず発泡している。角閃石・軽石を含み、利根川水系の原土が用いられている。

18・19は、須恵器の高台付埦である。18は、角高台状であるが、19は、低い蛇の目状の高台である。18は、還元化しやや硬質であるが、19は、還元化せず橙色である。末野窯跡群の製品である。

20は、黒色土器の高台付埦である。内面の劣化が激しく、黒色が剝がれ、ミガキも確認できない。高台は、丁寧な角高台である。利根川水系の原土が用いられている。

21は、土師質土器の高台付埦である。高台は、高脚高台で内彎する。淡い黄橙色の焼き上がりで軟質である。利根川水系の原土が用いられている。

22は、須恵器の長頸壺である。良く還元化し、硬くしまっている。末野窯跡群の製品である。

須恵器の坏・高台付埦、黒色土器・土師質土器の高台付埦などから第157号住居跡は、10世紀第Ⅲ四半期と考えたい。

第158号住居跡出土遺物

第348図１は、須恵器の坏である。還元化が進まず、浅黄色に焼き上がっている。ただし比較的硬質であることから土師質土器とはしない。ロクロ目が顕著で、底部がやや台状となる。角閃石・輝石・軽石を含み、利根川水系の原土であろう。

２～４は、緑釉陶器の陶片である。２は、埦の片であろう。全て猿投窯跡群産の製品である。

５は、土師器の甕である。口径が大きく、口縁部が「く」の字に曲がる。外面のヘラケズリは大変大胆で、単位も大きく、器肉も厚い。金雲母や頁岩粒子を含み、常陸（南部）・下総（北部）地域の原土を使用している可能性がある。

６は、須恵器の鉢である。還元化された良質な焼き上がりで、片岩粒を含む末野窯跡群産の製品である。

１・５が、10世紀後半にみられることから第158号住居跡は、10世紀後半の竪穴住居跡である。なお６は、混入の可能性がある。

第159号住居跡出土遺物

第348図７・８は、酸化炎焼成の須恵器小皿である。７は、ロクロ目が良く通り、比較的硬質な焼き上りである。８は、１よりもやや大きな小皿であろう。

９～12は、緑釉陶器の陶片である。９・12は稜皿片である。９は尾北地方、10～12は猿投窯跡群の製品である。

13は、土師器の甕である。全体に肉厚である。口唇部が、小さく窪み丁寧に作られている。

14は、土師器の羽釜である。鍔部をユビ押さえで貼り付けた後、緩くヨコナデされている。角閃石や軽石を多量に含み、砂質が強い。胴下半で横に擦痕がみられ、土器を二つに分割しようとした跡であろうか。あるいは羽釜を甑に転用しようとしていたのかもしれない。

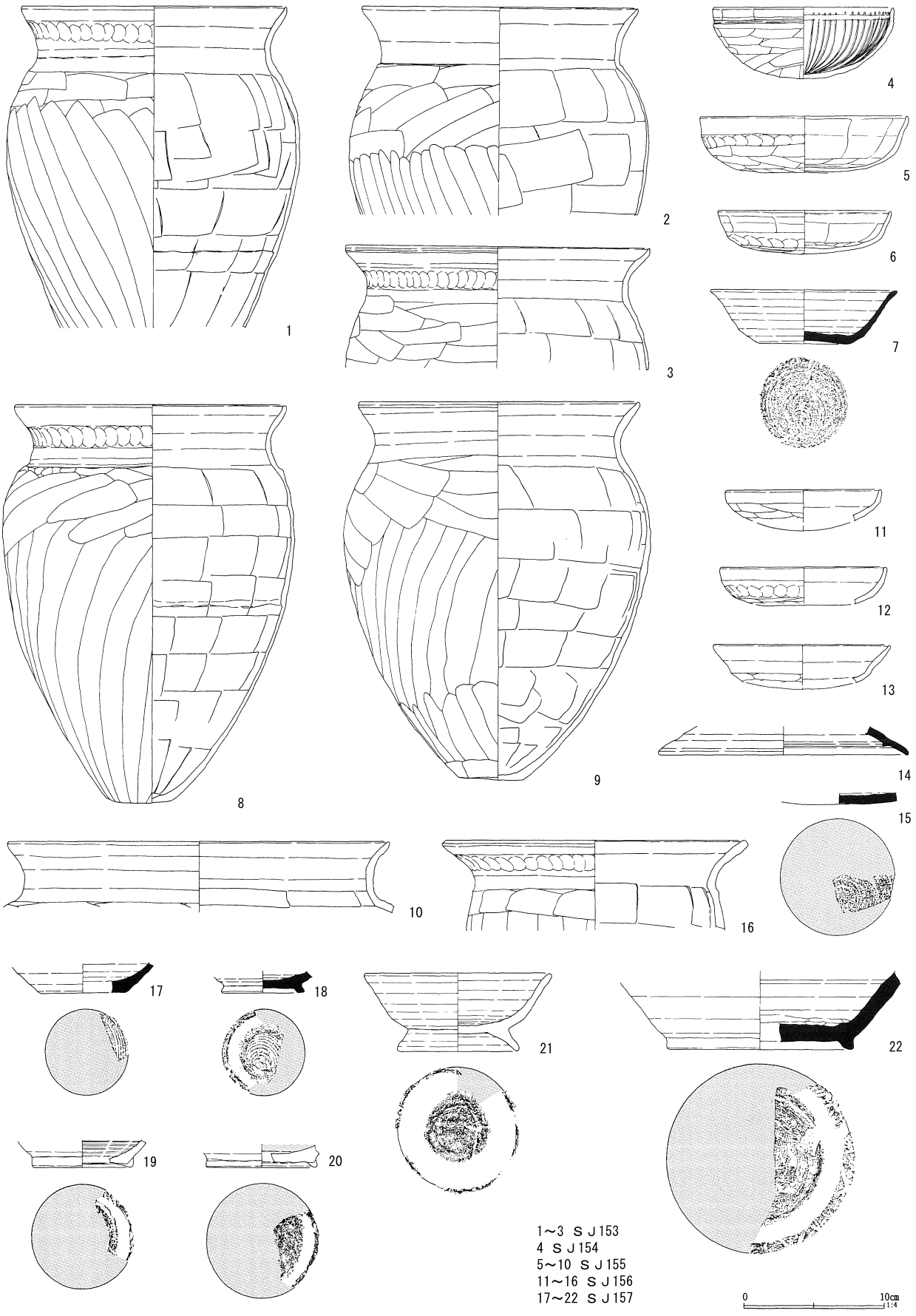
15は、不明鉄製品、16は鉄鏃である。

７・８・13・14は、角閃石や白色の軽石を含むことから、利根川水系の原土が使用されていた。しかし14は、13と比較すると、砂粒の精粗は歴然として粗い。

７・８の出現が、11世紀を遡らないとすると、第159号住居跡は、11世紀前半の竪穴住居跡といえよう。

第161号住居跡出土遺物

第348図17は、土師器の有段口縁坏である。口縁は三段に作られ、口唇部内面に沈線が巡らされる。黒色処理は施されないが、比較的硬質に仕上がって



第347図　竪穴住居跡出土遺物(24)

いる。

18は、長胴甕である。長く伸びた口縁部は、焼き歪みがみられる。外面は粗く削られている。17・18とも角閃石・軽石を含み、利根川水系の原土が用いられている。

土師器の坏・甕から第161号住居跡は、7世紀第II四半期と考えたい。

第162号住居跡出土遺物

第348図19～21は、土師器の坏である。19は、須恵器坏蓋模倣坏である。外稜はあまり明瞭ではない。20・21は、内屈口縁坏である。比較的硬質に丁寧に作られている。内屈口縁坏のなかでも20は小、21は中の法量である。20・21は、金属音がするほど硬質である。

22は、土師器の甕である。長胴甕で、縦に粗く削られている。19～22は、角閃石・軽石を含み、利根川水系の原土が用いられている。

23は、土師器の鉢である。口唇部が、内側にやや折れる鉢である。外面は粗くヘラケズリされている。比企・入間地域の原土が用いられている。

第163号住居跡出土遺物

第348図24は、土師器の坏Aである。口縁部と底部の境は、不明瞭である。ローム台地の原土が用いられている。

25～28は、須恵器の坏である。比較的還元化が進み、硬質に焼き上がっている。26の底部には、「綱」と墨書されている。全て南比企窯跡群の製品である。

29は、黒色土器の蓋である。内面は黒色化されているが、外面は黄褐色である。利根川水系の原土が用いられている。

30は、土師器の甕である。いわゆる「コ」の字状口縁甕で、器壁は大変薄く作られている。利根川水系の原土が用いられている。

土師器の坏・甕、須恵器の坏などから第163号住居跡は、9世紀第II四半期と考えたい。

第164号住居跡出土遺物

第349図1～5は、土師器の坏である。1は、須恵器坏蓋模倣坏で、口縁が大きく外に開く。口唇部内側に沈線状の窪みができる。2は、内屈口縁坏である。口唇部が、内側に小さく屈曲する。3は、やや大振りな内屈口縁坏である。4・5は、北島型暗文土器である。内面に粗い放射状の暗文が描かれる。器壁は大変薄く作られ、器高もまた高い。全てに角閃石や軽石があることから、利根川水系の原土が用いられている。

6・7は、須恵器の蓋である。6の口縁は、やや外開きであるが、7は内屈する。両者とも良く還元化し、硬質に焼き上がっている。6は、南比企窯跡群、7は、湖西窯跡群の製品である。

8は、土師器の甕である。やや焼成が甘く、軟質に仕上がっている。底部に被熱痕跡がある。利根川水系の原土が用いられている。

9は、土師器の甑である。厚手に作られ、外面は粗く削られている。利根川水系の原土が用いられている。

土師器の坏・甕、須恵器の蓋、などから第164号住居跡は、7世紀第IV四半期と考えたい。

第165号住居跡出土遺物

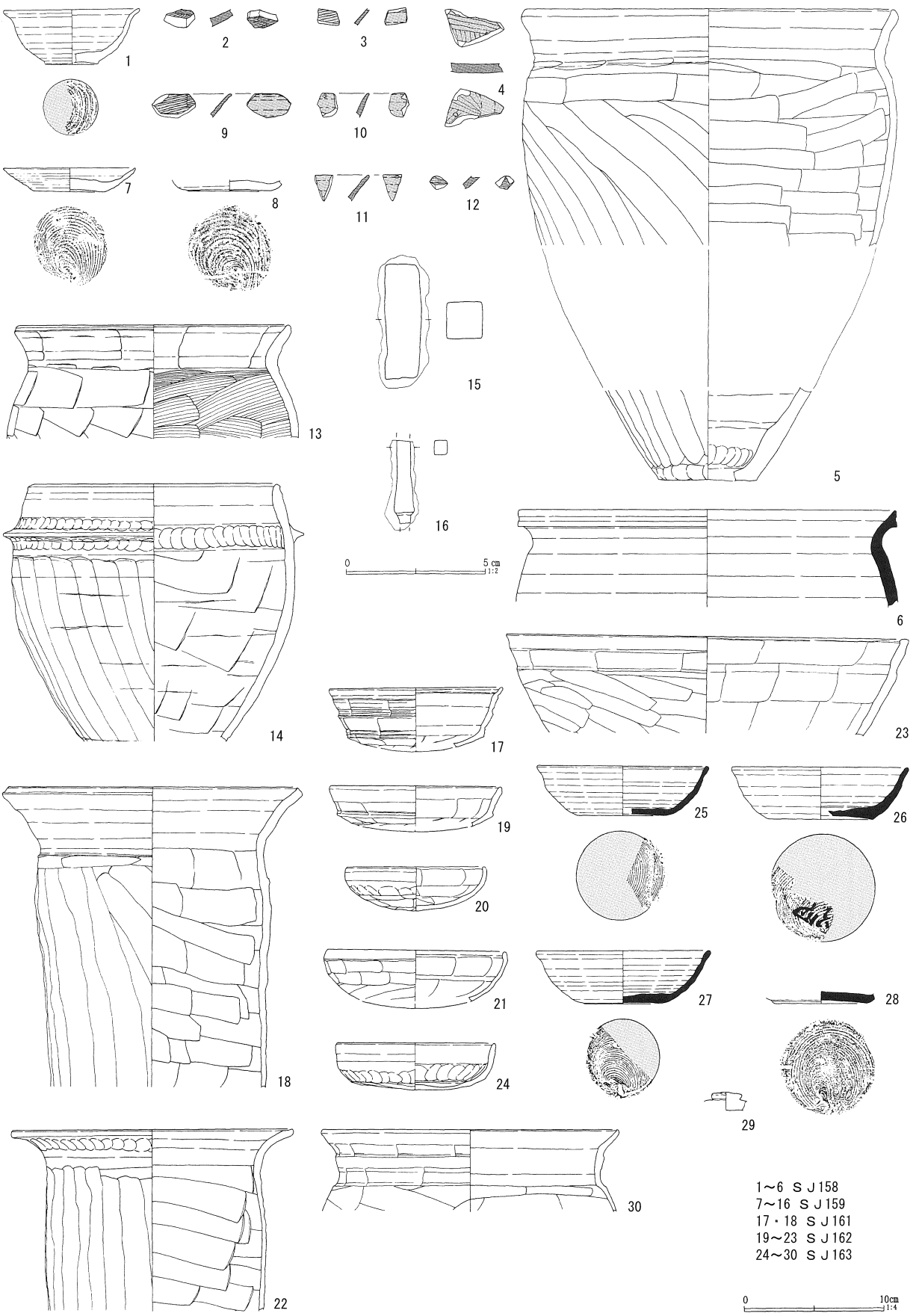
第349図10は、土師器の羽釜である。口縁部のみにロクロ成形がみられる。鍔は三角形状に尖る。砂っぽい胎土で、粒子が粗く手に粉が付く。角閃石・軽石を含み、利根川水系の原土が用いられている。

第165号住居跡の出土遺物で図化できたのは、土師器の羽釜のみであった。10世紀後半。

第166号住居跡出土遺物

第349図11は、須恵器の蓋である。天井部のみの破片で、つまみ等は不明である。還元化が進み、比較的硬質に仕上がっている。南比企窯跡群の製品である。

第166号住居跡で図化可能な遺物は、1点のみであ



第348図　竪穴住居跡出土遺物(25)

る。9世紀前半。

第167号住居跡出土遺物

第349図12は、土師器の坏Aである。口縁部がやや内彎する。底部のみがヘラケズリされるが、大変薄く作られている。角閃石・軽石を含む利根川水系の原土が用いられている。

13は、須恵器の蓋である。つまみの部分は、欠損する。やや厚手に作られるが、良く還元化し、硬質である。南比企窯跡群の製品である。

土師器の坏と須恵器の蓋から第167号住居跡は、9世紀第Ⅰ四半期と考えたい。

第168号住居跡出土遺物

第349図14・15は、土師器の坏である。14は有段口縁坏、15は須恵器坏身模倣坏である。14は、表面が薄く黒色化しており、暗褐色となっている。15は、やや焼き斑がある。両者とも器表がざらついており、砂っぽい。角閃石・軽石を含み、利根川水系の原土が用いられている。

16・17は、土師器の甕である。両者とも長胴甕であるが、17は口縁が長いことから、筒抜けの甑となるかもしれない。やはり利根川水系の原土が用いられている。

18は、須恵器の壺である。口縁のみのため判断が難しいが、フラスコ形瓶となるであろう。東海地方（湖西窯跡群）の製品である。

土師器の坏や長胴甕から第168号住居跡は、7世紀第Ⅰ四半期と考えたい。

第170号住居跡出土遺物

第349図19～21は、土師器の坏である。19・20は、内湾口縁の坏で、21は、口縁が外反する扁平な坏である。薄く良質に仕上がっており、手に粉が付かない。角閃石や軽石を含み、利根川水系の原土が用いられている。

22・23は、土師器の甕である。粗いケズリの割には、薄く削られた土師器の甕である。利根川水系の原土が用いられている。

土師器の坏や土師器の甕から第170号住居跡は、8世紀第Ⅰ四半期と考えたい。

第171号住居跡出土遺物

第349図24は土師器の甕である。利根川水系の原土が用いられている。

第171号住居跡は、7世紀前半と考えたい。

第173号住居跡出土遺物

第349図25・26は、土師器の坏Aである。25は口縁部が外反するが、262は内彎する。やや器高は高い。利根川水系の原土が用いられている。

土師器の坏Aから第173号住居跡は、9世紀第Ⅰ四半期と考えたい。

第174号住居跡出土遺物

第349図27・28は、土師器の坏である。27は、内屈口縁坏で比較的硬質に焼き上がっている。ローム台地の原土を用いている。28は、北島型暗文坏である。内面の暗文は、きめの細かな放射状の暗文である。器壁も大変薄く作られ、口縁部・口唇部に沈線状の窪みをもつ。利根川水系の原土が用いられている。

29は、須恵器の蓋である。小さな返りが付く。小形の蓋である。末野窯跡群の製品である。

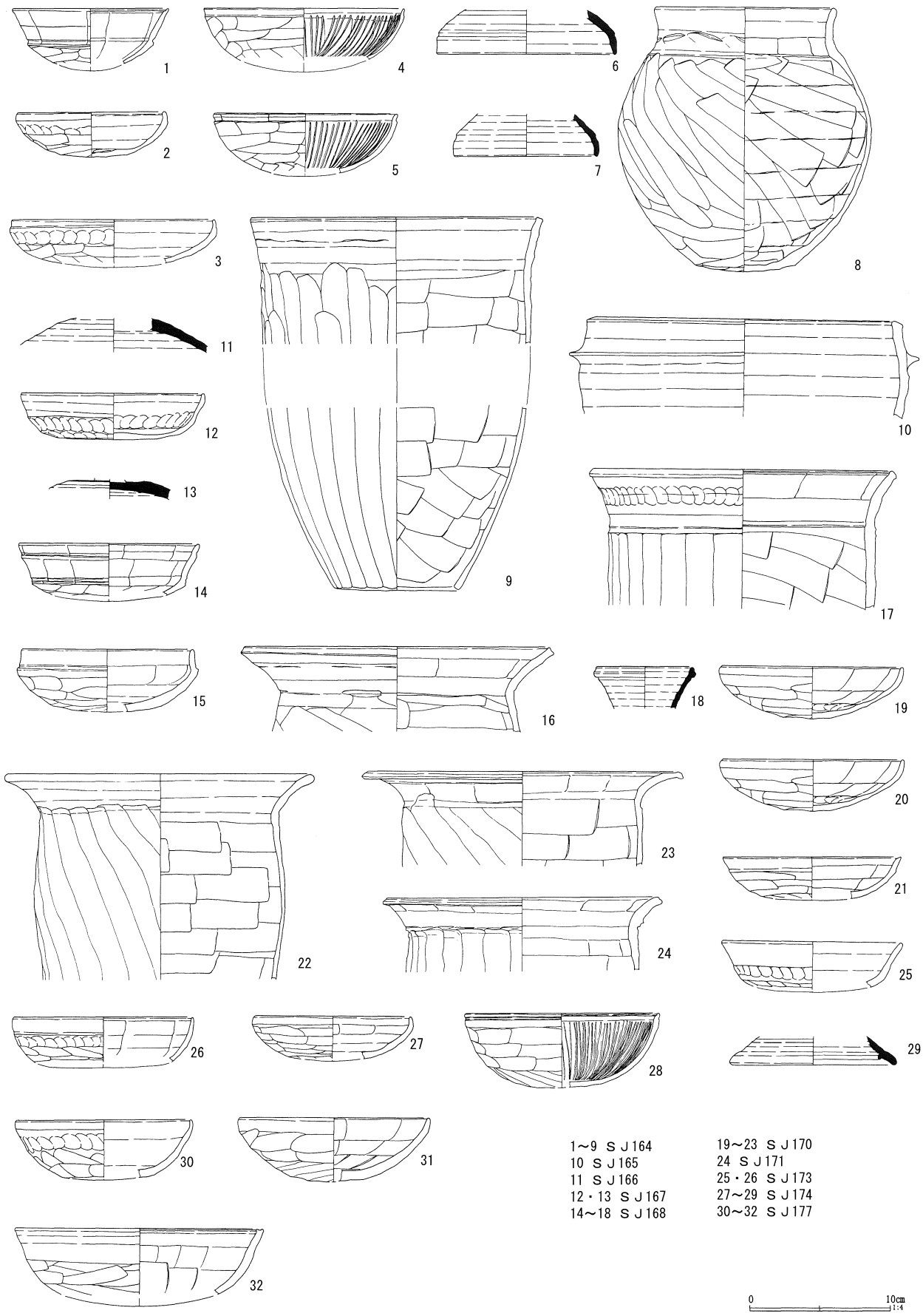
土師器の坏と須恵器の蓋から第174号住居跡は、7世紀第Ⅳ四半期と考えたい。

第177号住居跡出土遺物

第349図30・31は、土師器の坏である。いわゆる内湾口縁坏で、比較的器高は高い。器表は荒れ、手に粉が付く。角閃石・軽石を含む利根川水系の原土が用いられている。

32は、土師器の鉢である。口唇端部が、甕の口唇のように「M」字状となる平坦面をもつ。

第350図1・2は、土師器の甕である。長胴甕で、



第349図　竪穴住居跡出土遺物(26)

体部のケズリも厚い。第349図32～第350図２、利根川水系の原土が用いられている。

土師器の坏・甕から第177号住居跡は、７世紀第IV四半期と考えたい。

第178号住居跡出土遺物

第350図３は、土師器の坏Ｂである。厚手の坏で口縁部が、内屈している。外面下半・底部をヘラケズリしている。利根川水系の原土が用いられている。

４～６は、須恵器の坏である。４は、還元化が進み、比較的硬質に焼き上がっているが、５・６は、焼成が甘い。末野窯跡群の製品である。

７・８は、須恵器の高台付埦である。７は還元化が進むが、８は還元化せず軟質である。末野窯跡群の製品である。

９は、緑釉陶器の皿である。内面見込みに圏線が伺え、内外面に三又トチンの目が見える。猿投窯跡群の製品で、黒笹90号窯式ある。

10は、須恵器の長頸壺である。良く還元化しており、硬質に焼き上がっている。末野窯跡群の製品である。

11は、不明鉄製品である。

土師器坏や須恵器坏・高台付埦から第178号住居跡は、９世紀第IV四半期と考えたい。

第179号住居跡出土遺物

第350図12は、土師器の坏である。有段口縁坏で段は明瞭である。比較的硬くしまっている。

13は、土師器の皿である。大きく外反する坏で口縁と体部の境は、不明瞭である。

14は、土師器の甕である。口縁部が大きく外反する。12～14は、角閃石・軽石を含み、利根川水系の原土が用いられている。

土師器の有段口縁坏や皿・甕などから第179号住居跡は、７世紀第Ｉ四半期と考えたい。

第181号住居跡出土遺物

第350図15～17は、須恵器の坏である。還元化が進まない。15は、南比企窯跡群、16・17は、末野窯跡群の製品である。17の底部に墨書「土」がある。

18は、須恵器の高台付埦である。高台は細く高い。外端接地である。やはり還元化が進まず軟質である。末野窯跡群の製品である。

19は、須恵器の高台付皿である。高台は、細高く作られている。高台の端部は、「M」字状で外端接地である。末野窯跡群の製品である。

20は、黒色土器の坏である。内面が細かくヘラミガキされ、黒色化している。

21・22は、土師器の甕である。薄甕で、とくに22は、「コ」の字状口縁甕である。利根川水系の原土が用いられている。

23は、須恵器坏の底部を加工した紡錘車である。

須恵器の坏・高台付埦・高台付皿・黒色土器から第181号住居跡は、９世紀第II四半期と考えたい。

第182号住居跡出土遺物

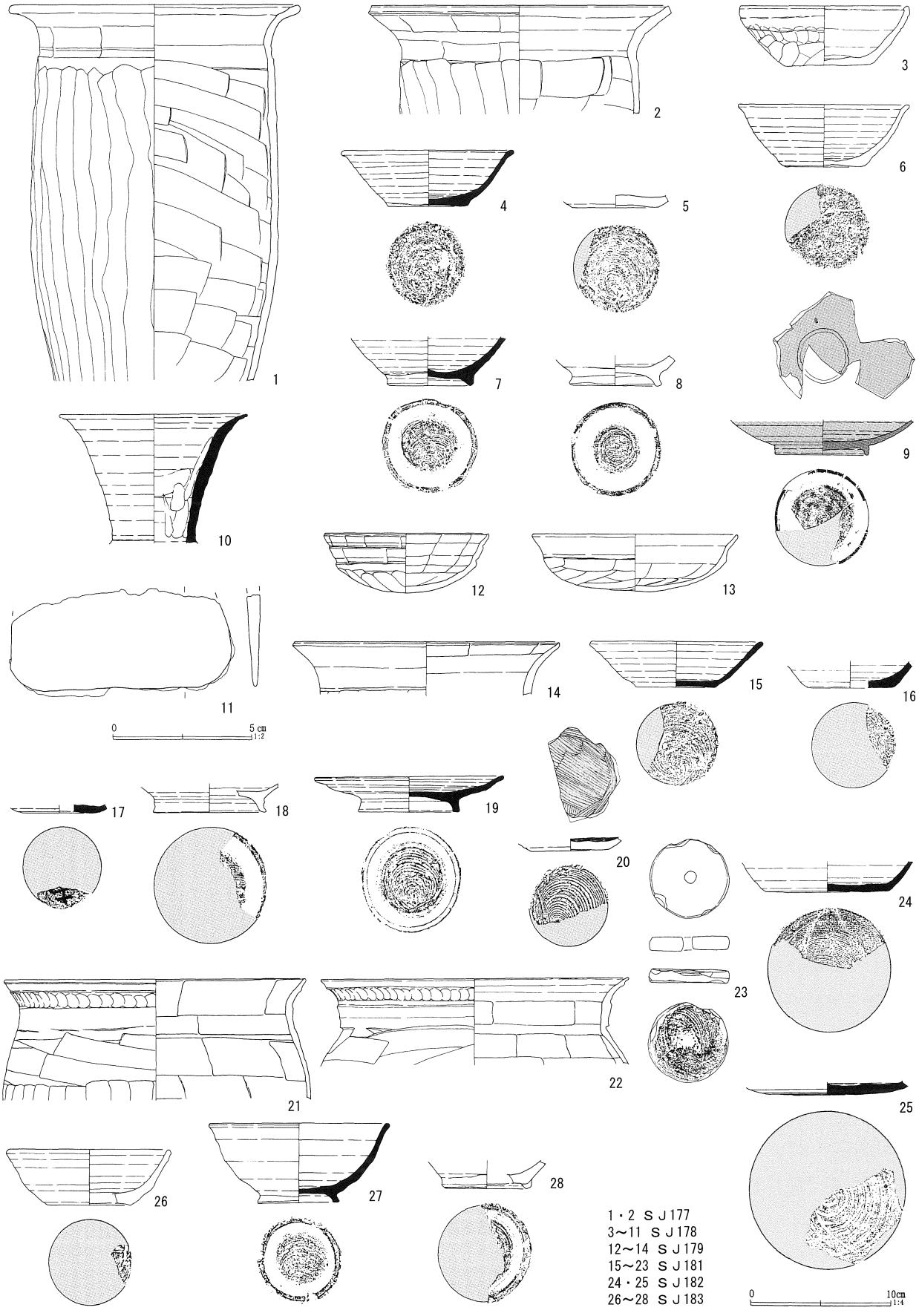
第350図24・25は、須恵器の坏である。24は、底部周辺部を回転ヘラケズリしており、25は、底部の全面を回転ヘラケズリしている。両者とも比較的還元化が進み、硬質に焼き上がる。南比企窯跡群の製品である。

須恵器の坏から第182号住居跡は、８世紀第III四半期と考えたい。

第183号住居跡出土遺物

第350図26は、土師質土器の埦である。酸化炎焼成で、焼き斑がみられる。角閃石や輝石を含むことから利根川水系の原土を使用したと考えられる。

第350図27～第351図１は、須恵器の高台付埦である。高台端部は、外端接地となっている。第350図27は良好に還元化した製品だが、第351図１は、焼き斑が多く、黒色化した部分がみられる。両者とも末野窯跡群の製品である。



第350図　竪穴住居跡出土遺物(27)

第350図28は、須恵器の高台付埦であるが、第350図26の土師質土器と同様な胎土である。焼成も甘く、還元化した部分は認められない。高台も甘い台形状で、内端接地である。おそらく利根川水系の原土であろう。第350図26・28は、近隣の沖積地で生産された製品であろう。

第351図２は、灰釉陶器の埦である。高台は低く厚みのある浜北地方の製品で折戸53号窯式である。

３～９は、緑釉陶器である。３は埦、４・５は稜皿、６は皿である。３の破片には、陰刻で描いた花文の一部がみられる。おそらく図示したような花文（４単位）の一部であろう。６の内外面には、口縁に併行した細かな磨きが、素地に施されている。緑釉陶器は、高台の形状などから黒笹90号窯式である。３は猿投窯跡群、４・５は尾北地方の製品である。

７～９は、緑釉陶器の陶片である。７は、皿、８は埦、９は皿の破片である。猿投窯跡群の製品である。

10～12は、土師器の甕である。３点とも口縁部が「コ」の字状となるいわゆる「コ」の字状口縁甕である。11・12は、胴下半を欠落するが、10は、完形となる。11は、口縁の伸びが短く、他の２者に先行する形態である。しかし三者とも胴部の張りは強い。また三者は、角閃石や白色軽石などを含むことから、利根川系の河川によって運ばれた原土を使用している。

13は、毛抜形鉄製品である。

以上から第183号住居跡は、９世紀中葉（第Ⅲ四半期）の竪穴住居跡と考えたい。

第184号住居跡出土遺物

第351図14・15は、土師器坏Ｂである。両者とも不明瞭な輪積みで積み上げた後、口縁部を緩くヨコナデしている。胴下半は、斜めにケズリ上げているのが特徴である。14は、底部未調整で、砂粒の痕跡を残すが、15は、細かなヘラケズリがみられる。

16は、土師器高台付埦である。土師器坏Ｂにやや不明瞭ながら高い高台を付けている。胴部中央やや上に粘土紐の不連続痕跡がみられる。

14～16は、胎土に角閃石や白色軽石などを含むことから、利根川系の河川によって運ばれた原土を使用している。９世紀後葉から10世紀第Ⅰ四半期にみられる土器である。

17は、外端接地の高台が付く須恵器の高台付埦である。比較的硬質に焼き上がった末野の製品である。

18は、灰釉陶器の皿である。高台が、やや崩れた三日月状となるが、内面にハケ塗りによる施釉のみられることから黒笹90号窯式と考えられる。東遠江地方産の製品である。

19は、緑釉陶器の輪花埦である。口縁部の四カ所に小さな輪花がある。深めの埦で腰が低い。内外面とも細かなヘラミガキが施され、その後、明るい緑釉が掛けられる。底部の内外面には、トチンの目が明瞭に残る。猿投窯跡群の製品である。黒笹90号窯式の新しい段階である。

20～22は、緑釉の陶片である。稜皿の破片である。尾北地方の製品である。

23は、須恵器の長頸瓶である。やや厚手ながら高台は丁寧な作りとなっている。末野窯跡群の製品である。

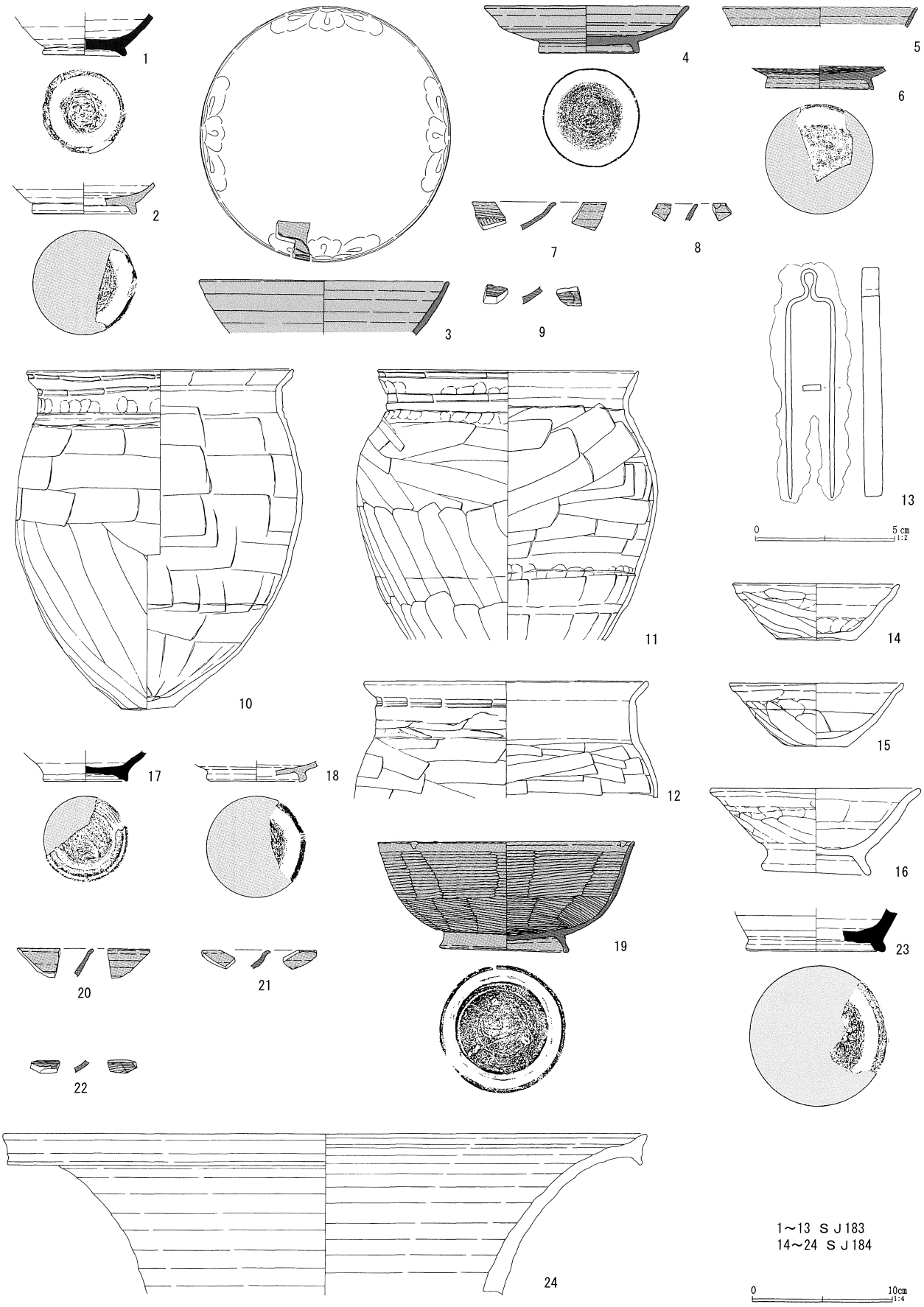
24～第352図２は、須恵器の大甕の破片である。24は、口縁部、第352図１は、胴部破片、２は底部破片である。２は、底部円盤の内面に細かな敲打痕が残る。外面は、ロクロによって削られている。１・２は、同一個体である。末野窯跡群の製品である。

３は、鉄製の刀子である。

以上から第184号住居跡は、９世紀第Ⅳ四半期の竪穴住居跡と考えたい。

第185号住居跡出土遺物

第352図４は、須恵器の甕である。胴部の中位まで回転ヘラケズリがみられる。胴上部には、二本の平行沈線によって区画された中に、木口状工具による連続刺突が施されている。良く還元化し、極めて硬



第351図　竪穴住居跡出土遺物(28)

質に焼成されている。内面の底部中央が凹む。秋間窯跡群の製品である。

5は、砥石である。

第185号住居跡では、図化の可能な土器は、1点であった。6世紀後半。

第186号住居跡出土遺物

第352図6は、須恵器の坏である。還元化が進まず、浅黄色に焼き上がっている。ただし比較的硬質であることから土師質土器とはしない。角閃石・輝石・軽石を含むことから、利根川水系の原土が使用されている。

7は、6と同様の原土・焼成である。須恵器の高台付埦である。灰白色に発色するが、底部付近に黒斑がみられる。高台は欠損し明瞭ではないが、紐状の内端接地の高台が付く。6・7とも近隣の沖積地で生産された製品であろう。

8は、土師器の甕である。全体に肉厚で口縁部には輪積痕も残る。角閃石や白色粒子がみられ、利根川水系の原土を用いている。外面のケズリは、不明瞭でナデに近い。

9は、土師器の甑である。肉厚の底部で、輪積痕を明瞭に残すなど作りは、大変雑である。これも利根川水系の原土を用いている。

第353図1は、須恵器の壺である。この時期には稀な硬質な須恵器である。底部付近のみが、カマド脇から出土した。内面に煤が残ることもあり、あるいは伝世品であろうか。底部の円盤と一段目の輪積みの状況が明瞭で、外面は、上げ底状に作られている。末野窯跡群の製品である。

第352図6～9の出現が、10世紀中葉であることから第186号住居跡は、10世紀第Ⅲ四半期の竪穴住居跡と考えたい。

第187号住居跡出土遺物

第353図2は、土師器の坏である。内湾口縁の坏で、やや厚手に作られている。

3は、土師器の皿である。内面に放射状の暗文を施した北島型暗文土器である。内面は、黒色処理が施され漆黒となっているが、外面は、淡い焦げ茶色となっている。2・3とも角閃石・軽石を含み、利根川水系の原土が用いられている。

土師器の坏や皿から第187号住居跡は、7世紀第4四半期と考えたい。

第188号住居跡出土遺物

第353図4は、土師器の皿である。ユビ押さえの跡が明瞭である。利根川水系の原土が用いられている。

5～8は、須恵器の坏である。全て良く還元化し、硬質となっている。全て末野窯跡群の製品である。

9は、須恵器の皿である。硬質に焼成され、内面に多量の降灰が付く。あるいは焼台であろうか。南比企窯跡群の製品である。

10・11は、高台を欠損するが、須恵器の高台付埦である。10の器表は、ざらついた砂質である。両者とも還元化し硬い。10は南比企窯跡群、11は末野窯跡群の製品である。

12～14は、土師器の甕である。やや厚手の甕である。角閃石・軽石を含み、利根川流域の原土が用いられている。

15は、砥石である。

16は、棒状鉄製品である。

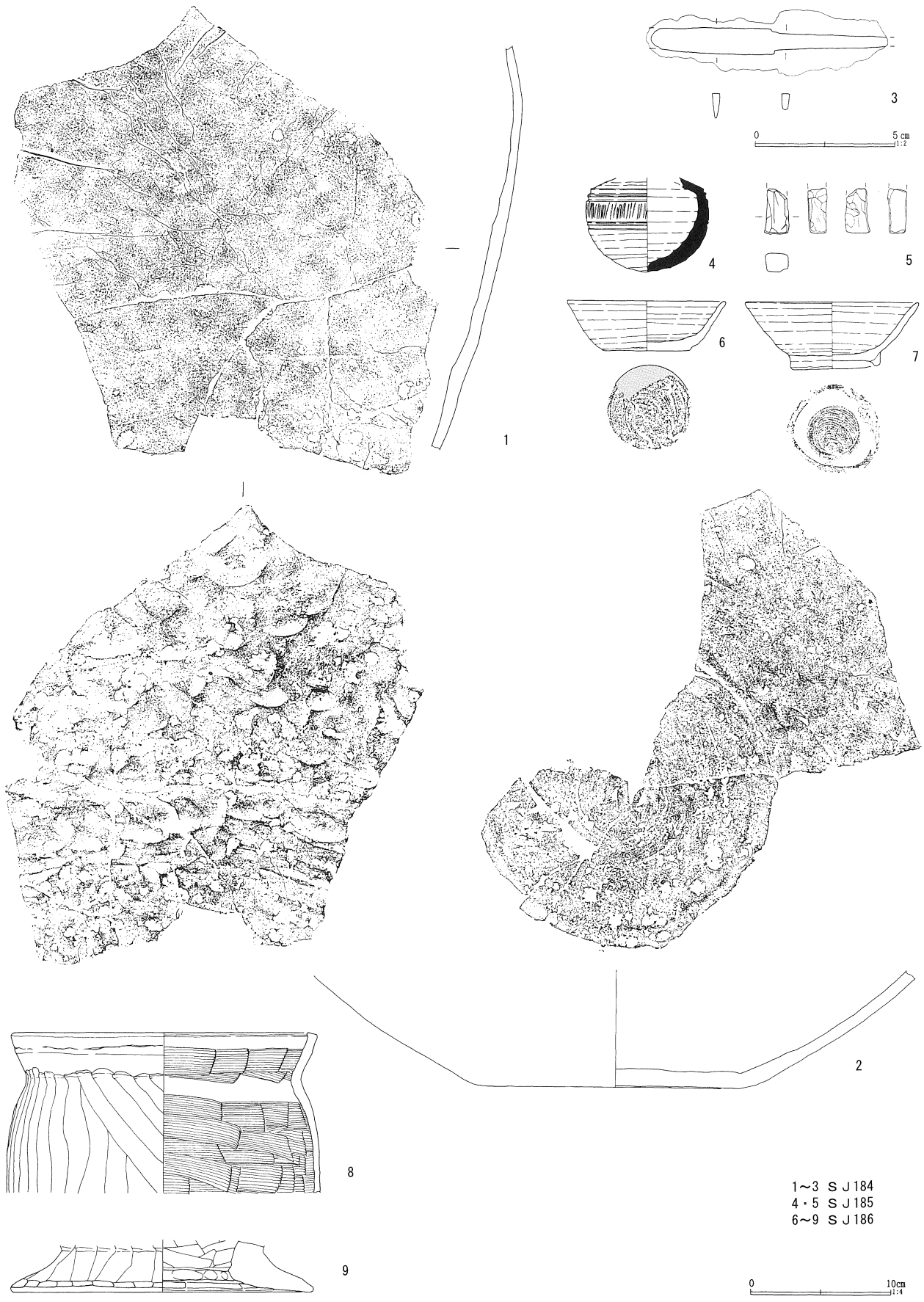
土師器の皿・甕、須恵器の坏・高台付埦、などから第188号住居跡は、9世紀第Ⅳ四半期と考えたい。

第189号住居跡出土遺物

第353図17は、土師器の坏である。内湾口縁の坏で、口唇部が丸くなる。角閃石・軽石を含み、利根川水系の原土が用いられている。

18は、須恵器の坏である。還元化が進み、硬く仕上がっている。末野窯跡群の製品である。底部に墨痕がみられるが、判読できない。

土師器坏は、8世紀中葉、須恵器の坏は、8世紀



第352図　竪穴住居跡出土遺物(29)

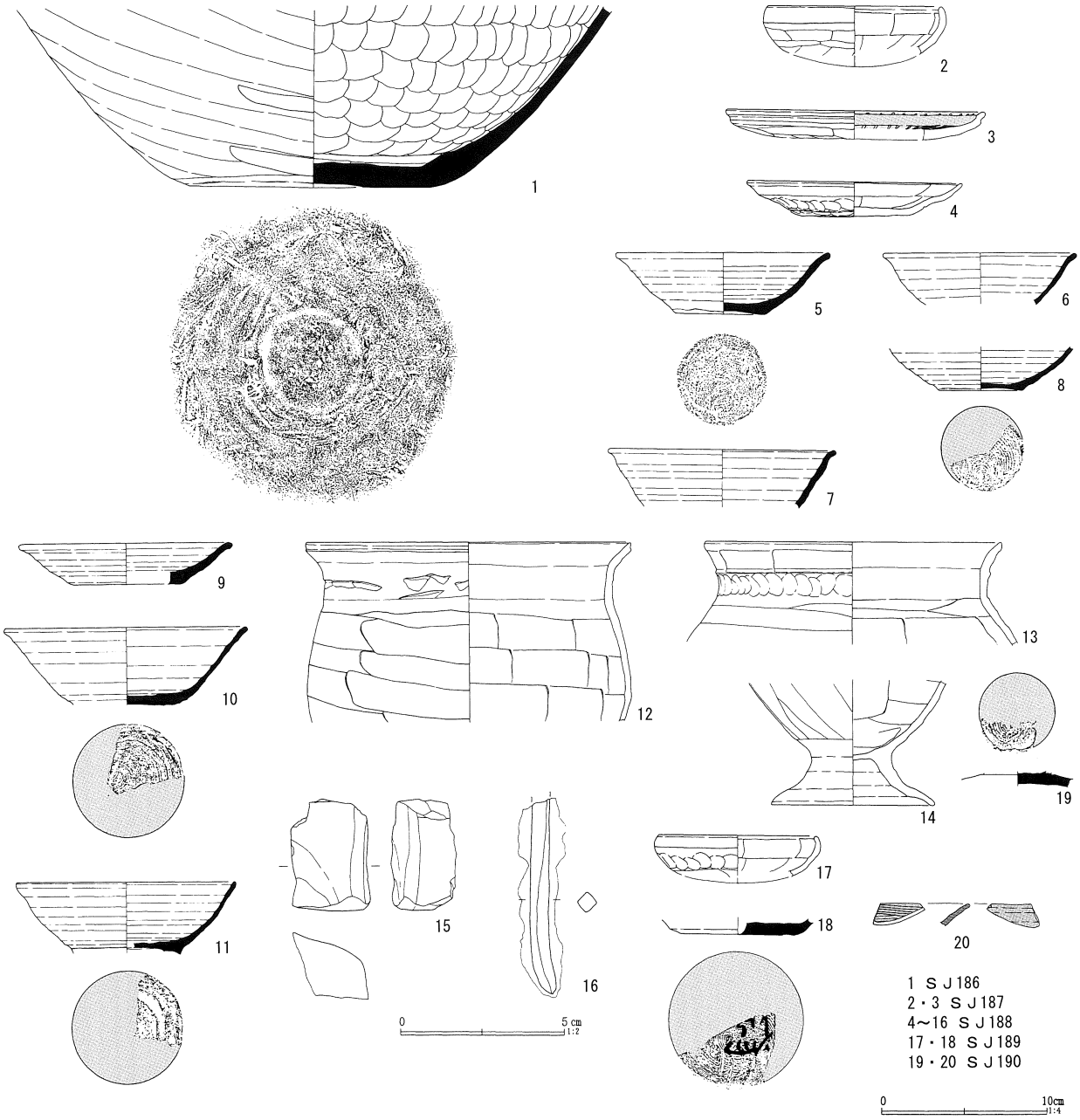
後半である。第189号住居跡は、8世紀後半と考えたい。

第190号住居跡出土遺物

第353図19は、須恵器の蓋である。リング状のつまみが付く。欠損が激しく、鍔部はやや不明瞭である。良く還元化し硬く仕上がっている。南比企窯跡群の製品である。

20は、緑釉陶器の陶片である。稜皿の破片である。尾北地方の製品である。

19が、8世紀第II四半期である。



第353図　竪穴住居跡出土遺物(30)

竪穴住居跡出土遺物一覧

挿図番号	図の番号	遺構番号	種別	器種	口径	底径	器高	最大径	残存率	色調	産地	備考
第324図	1	1	須恵器	坏	120	—	(30)		5	灰白	南比企	
第324図	2	2	須恵器	高台付埦か坏	120	—	(30)		5	黄灰	末野	
第324図	3	3	須恵器	高台付埦	—	53	(15)		10	橙	末野	
第324図	4	3	灰釉陶器	埦	151	—	(32)		10	にぶい橙	東濃・大原2	
第324図	5	3	土師器	甕	230	—	(87)		20	浅黄橙	利根川水系	
第324図	6	4	土師質土器	坏	138	68	(45)		10	橙	利根川水系	
第324図	7	5	須恵器	高台付埦	140	69	54		50	灰	末野	
第324図	8	5	土師器	甕	199	—	(59)		20	にぶい橙	利根川水系	
第324図	9	6	須恵器	坏	131	64	35		40	灰	荒川流域	
第324図	10	6	須恵器	高台付埦	147	64	47		40	灰	末野	
第324図	11	6	須恵器	高台付埦	—	62	(14)		10	褐	末野	
第324図	12	6	土師器	甕	204	—	(73)		5	橙	利根川水系	
第324図	13	6	土師器	甕	—	92	(48)		10	橙	利根川水系	
第324図	14	7	土師器	内湾口縁坏	119	60	34		15	にぶい黄橙	利根川水系	
第324図	15	8	土師器	内湾口縁坏	130	—	(32)		98	橙	利根川水系	
第324図	16	8	須恵器	坏	120	60	36		5	明褐灰	南比企	
第324図	17	8	須恵器	坏	130	—	(33)		5	褐灰	南比企	
第324図	18	10	須恵器	坏	—	77	(18)		20	暗灰	南比企	
第324図	19	10	須恵器	坏	—	59	(9)		10	灰	南比企	
第324図	20	10	須恵器	高台付埦	—	—	(9)		5	灰白	南比企	
第324図	21	11	須恵器	蓋	176	83	45		80	灰白	末野	
第324図	22	11	須恵器	坏	160	80	55		30	灰白	南比企	
第324図	23	11	須恵器	坏	—	77	(12)		20	灰	南比企	
第324図	24	11	須恵器	坏	115	60	41		25	灰白	南比企	
第324図	25	11	須恵器	坏	125	63	36		30	灰白	南比企	
第324図	26	11	須恵器	坏	—	63	(11)		20	灰	南比企	
第324図	27	11	須恵器	長頸壺	120	—	18		5	灰	南比企	
第324図	28	11	須恵器	甕	199	—	(98)	(165)	15	灰白	南比企	
第324図	29	12	土師器	北島型暗文土器	115	—	36		10	橙	利根川水系	
第324図	30	12	須恵器	蓋	160	—	(12)		5	橙	末野	
第324図	31	12	須恵器	坏	130	80	33		25	灰	南比企	
第324図	32	12	須恵器	坏	—	90	18		10	灰	金山	
第324図	33	12	須恵器	フラスコ形瓶	79	—	(30)		5	灰白	湖西	
第324図	34	13	土師器	有段口縁坏	129	—	(35)		10	にぶい黄橙	利根川水系	
第324図	35	13	土師器	坏	110	—	(23)		10	橙	利根川水系	
第324図	36	13	土師器	内屈口縁坏	110	—	(21)		10	にぶい橙	利根川水系	
第324図	37	14	須恵器	坏	—	71	(18)		10	灰褐	南比企	
第324図	38	15	須恵器	坏	—	56	(27)		20	灰白	東金子	
第324図	39	15	須恵器	高台付埦	140	69	(55)		70	灰白	末野	
第324図	40	15	黒色土器	坏	128	72	41		15	にぶい橙	利根川水系	
第325図	1	15	須恵器	紡錘車	上52	下43	中56	高15孔径9	100	灰黄褐	利根川水系	
第325図	2	16	須恵器	甕	183	—	(74)		10	褐灰	南比企	
第325図	3	17	須恵器	坏	162	74	59		30	灰白	南比企	
第325図	4	17	須恵器	高台付埦	—	90	33		20	灰黄	東金子	
第325図	5	17	須恵器	高台付埦	—	104	(19)		10	灰	東金子	
第325図	6	17	須恵器	長頸瓶	110	—	(36)		5	灰白	南比企	

挿図番号	図の番号	遺構番号	種別	器種	口径	底径	器高	最大径	残存率	色調	産地	備考
第325図	7	18	須恵器	坏	130	65	38		60	灰	末野	
第325図	8	18	須恵器	高台付埦	—	70	(19)		10	明褐灰	末野	
第325図	9	18	黒色土器	坏	139	92	49		15	橙	利根川水系	
第325図	10	18	緑釉陶器	埦	—	80	(180)		5	オリーブ灰	猿投・K90	
第325図	11	18	須恵器	鉢	265	—	(50)		10	灰	末野	
第325図	12	19	須恵器	高台付埦	—	70	(48)		40	灰白	利根川水系	
第325図	13	20	土師器	坏A	111	—	(34)		15	浅黄橙	利根川水系	
第325図	14	20	須恵器	蓋	—	76	(27)		10	灰白	南比企	
第325図	15	20	須恵器	坏	125	58	33		55	灰	東金子	
第325図	16	20	須恵器	坏	122	54	36		30	灰白	南比企	
第325図	17	20	須恵器	坏	145	63	64		30	灰白	南比企	
第325図	18	20	土師器	台付甕	—	93	(45)		15	明赤褐	ローム台地の粘土	
第325図	19	21	土師器	坏	120	—	(35)		10	にぶい黄橙	利根川水系	
第325図	20	21	土師器	坏	106	63	(31)		25	黄橙	ローム台地の粘土	
第325図	21	21	須恵器	蓋	—	—	(16)		10	明褐灰	末野	
第325図	22	21	須恵器	坏	123	60	37		70	灰白	南比企	
第325図	23	21	須恵器	坏	115	61	38		100	褐灰	南比企	
第325図	24	21	須恵器	坏	119	53	33		90	灰白	南比企	
第325図	25	21	須恵器	坏	118	—	(32)		20	灰白	南比企	
第325図	26	21	須恵器	坏	121	64	34		65	灰白	南比企	
第325図	27	21	須恵器	坏	133	58	33		30	灰白	東金子	
第325図	28	21	須恵器	無台埦	148	69	62		50	浅黄	南比企	刻書「キ」
第325図	29	21	須恵器	皿	156	62	21		50	灰	南比企	
第325図	30	21	灰釉陶器	皿	—	73	(27)		10	橙	浜北・K90	
第325図	31	21	土師器	甕	179	—	(95)		5	赤褐	利根川水系	
第325図	32	21	石製品	紡錘車	上42	下26		高17孔径8	100	—	—	
第325図	33	21	須恵器	紡錘車	上43	下40	中49	高9孔径7	100	灰白	南比企	
第325図	34	21	須恵器	紡錘車	上81	下76	高10		25	灰白	南比企	
第325図	35	22	須恵器	坏	149	—	49		15	褐灰	南比企	
第326図	1	22	土師器	甕	206	—	(145)		80	浅黄橙	利根川水系	
第326図	2	23	須恵器	高台付埦	130	73	50		40	橙	末野	
第326図	3	23	須恵器	高台付埦	144	74	56		40	灰白	末野	
第326図	4	23	須恵器	高台付埦	—	61	22		20	橙	末野	
第326図	5	23	土師器	甕	201	—	(51)		5	橙	利根川水系	
第326図	6	23	土師器	甕	180	—	(70)		20	淡橙	利根川水系	
第326図	7	23	土師器	甕	138	35	156		40	橙	利根川水系	
第326図	8	24	須恵器	坏	—	70	25		10	褐灰	東金子	
第326図	9	25	土師器	坏A	120	—	(31)		20	橙	利根川水系	
第326図	10	25	須恵器	坏	144	—	(50)		10	にぶい黄橙	南比企	
第326図	11	25	須恵器	坏	—	77	18		10	灰白	南比企	
第326図	12	26	土師器	坏	116	70	25		20	橙	利根川水系	
第326図	13	26	鉄製品	刀子	—	—	—		—	—	—	
第326図	14	27	土師器	坏B	129	52	43		60	浅黄橙	利根川水系	
第326図	15	27	須恵器	皿	142	50	29		25	にぶい橙	末野	
第326図	16	27	須恵器	高台付埦	135	63	50		50	褐灰	末野	
第326図	17	27	須恵器	高台付埦	141	69	51		30	褐灰	末野	
第326図	18	27	須恵器	高台付埦	—	62	(39)		60	明褐灰	末野	

挿図番号	図の番号	遺構番号	種別	器種	口径	底径	器高	最大径	残存率	色調	産地	備考
第326図	19	27	土師器	甕	201	—	(112)		10	にぶい橙	利根川水系	
第326図	20	27	土師器	甕	191	—	(77)		5	にぶい橙	利根川水系	
第326図	21	27	土師器	甕	110	—	(47)		10	にぶい橙	利根川水系	
第326図	22	27	鉄製品	不明鉄製品	—	—	—		—	—	—	
第326図	23	28	須恵器	坏	124	66	35		30	灰	南比企	
第326図	24	28	須恵器	無台埦	165	83	62		60	橙	南比企	
第326図	25	28	土師器	甕	206	45	—		40	橙	利根川水系	
第326図	26	30	土師器	内湾口縁坏	104	—	(29)		5	にぶい橙	利根川水系	
第326図	27	30	須恵器	蓋	—	115	(26)		10	灰白	末野	
第326図	28	30	土師器	甕	120	—	50		10	黒褐	利根川水系	
第327図	1	31	須恵器	高台付埦	130	69	54		100	灰	末野	
第327図	2	31	須恵器	高台付埦	—	58	(28)		35	灰白	末野	
第327図	3	31	灰釉陶器	埦	—	70	(20)		10	灰白	東濃・大原2	
第327図	4	31	灰釉陶器	手付き小瓶	44	—	(22)		5	灰白	猿投・K14	
第327図	5	31	須恵器	甕	—	—	—		5	灰	末野	
第327図	6	31	石製品	紡錘車	上31	下21	高15	孔径6	100	—	—	
第327図	7	31	土製品	支脚	—	—	—		20	灰白	—	
第327図	8	32	土師器	須恵器坏蓋模倣坏	121	—	31		10	橙	利根川水系	
第327図	9	32	土師器	埦	140	—	(37)		10	橙	利根川水系	
第327図	10	32	須恵器	坏	121	65	35		50	灰	南比企	
第327図	11	32	須恵器	坏	130	75	35		10	灰	南比企	
第327図	12	32	須恵器	坏	129	68	35		20	灰	南比企	
第327図	13	32	須恵器	坏	—	68	(12)		10	灰	南比企	刻書「×」又は「〆」
第327図	14	32	須恵器	高盤	180	—	(17)		5	灰	東海地方西部	
第327図	15	32	土師器	甕	191	—	(94)	116	5	にぶい橙	利根川水系	
第327図	16	32	土師器	甕	126	—	(75)	154	20	にぶい橙	利根川水系	
第327図	17	32	須恵器	長頸壺	128	—	(22)		20	灰	湖西	
第327図	18	34	須恵器	皿	132	60	26		30	にぶい黄橙	末野	
第327図	19	34	須恵器	高台付埦	148	61	57		30	灰黄褐	末野	
第327図	20	34	須恵器	高台付埦	134	59	55		25	褐灰	末野	
第327図	21	34	須恵器	高台付埦	139	64	46		60	にぶい黄橙	末野	
第327図	22	34	須恵器	高台付埦	—	59	(33)		30	灰	末野	
第327図	23	34	須恵器	高台付埦	—	64	(41)		55	にぶい黄橙	末野	
第327図	24	34	須恵器	高台付埦	—	59	24		40	灰	末野	
第327図	25	34	土師器	甕	200	—	(72)	216	10	にぶい橙	利根川水系	
第327図	26	34	土師器	小形甕	80	—	(55)	100	10	橙	利根川水系	
第327図	27	34	須恵器	壺G	—	—	(51)		5	灰白	末野	
第327図	28	34	須恵器	長頸壺	—	130	(43)		10	にぶい橙	東金子	
第327図	29	34	須恵器	甕	—	170	(66)		10	灰	末野	
第327図	30	34	石製品	砥石	—	—	—		100	—	—	
第327図	31	35	須恵器	坏	130	69	35		30	灰黄	南比企	
第328図	1	35	須恵器	坏	124	68	38		90	灰白	南比企	
第328図	2	35	須恵器	坏	110	—	(41)		30	灰白	利根川水系	
第328図	3	36	土師器	坏A	112	—	37		30	橙	ローム台地粘土	
第328図	4	36	土師器	坏A	120	—	(32)		50	明黄褐	利根川水系	
第328図	5	36	須恵器	坏	125	74	37		70	灰	南比企	
第328図	6	36	須恵器	坏	117	63	39		80	灰	南比企	

挿図番号	図の番号	遺構番号	種別	器種	口径	底径	器高	最大径	残存率	色調	産地	備考
第328図	7	36	須恵器	坏	—	69	(7)		5	灰白	南比企	墨書「綱」
第328図	8	36	須恵器	坏	123	60	36		55	灰	南比企	墨書「綱」
第328図	9	36	須恵器	坏	—	—	—		5	灰白	南比企	墨書「鞘□(田)」
第328図	10	36	土師器	甕	197	—	(66)		10	橙	利根川水系	
第328図	11	36	石製品	砥石	—	—	—		100	—	—	
第328図	12	37	土師器	坏	118	63	39		10	明黄褐	利根川水系	
第328図	13	37	土師器	内屈口縁坏	117	—	30		50	橙	利根川水系	
第328図	14	37	土師器	内屈口縁坏	119	—	27		30	橙	利根川水系	
第328図	15	37	土師器	甕	216	—	(31)		10	にぶい赤褐	利根川水系	
第328図	16	38	土師器	坏A	123	—	35		10	橙	利根川水系	
第328図	17	38	土師器	坏A	122	—	(34)		10	にぶい黄橙	利根川水系	
第328図	18	38	土師器	坏A	126	—	(36)		15	にぶい橙	利根川水系	
第328図	19	38	土師器	坏A	121	—	(33)		15	にぶい橙	利根川水系	
第328図	20	38	須恵器	坏	131	76	40		10	褐灰	南比企	弓形のヘラ書
第328図	21	38	須恵器	坏	131	80	37		20	灰	南比企	
第328図	22	38	須恵器	坏	120	66	41		35	灰	南比企	
第328図	23	38	須恵器	坏	—	73	32		40	灰白	下野南部	
第328図	24	38	土師器	小形甕	120	—	(59)		5	にぶい橙	利根川水系	
第328図	25	38	須恵器	甕	241	—	(37)		5	灰	末野	
第328図	26	39	土師器	坏	118	85	26		5	橙	利根川水系	
第328図	27	39	須恵器	皿	—	63	(8)		5	灰	南比企	
第328図	28	40	土師器	坏	139	—	28		20	にぶい橙	ローム台地の粘土	
第328図	29	40	須恵器	坏	122	76	37		60	灰白	南比企	墨書「万」
第328図	30	40	須恵器	坏	123	70	37		100	明褐灰	南比企	
第328図	31	40	土師器	甕	91	—	(196)		20	にぶい橙	利根川水系	
第328図	32	40	土師器	甕	195	—	(71)		10	にぶい黄橙	利根川水系	
第329図	1	42	土師器	有段口縁坏	106	45	31		10	橙	利根川水系	黒色処理
第329図	2	42	土師器	内屈口縁坏	139	—	(41)		5	橙	利根川水系	
第329図	3	42	須恵器	蓋	150	—	(23)		5	灰白	湖西	
第329図	4	42	須恵器	蓋	147	—	(21)		15	灰白	秋間	
第329図	5	43	土師器	坏	121	—	(33)		15	橙	利根川水系	
第329図	6	43	土師器	高台付埦	—	75	14		20	にぶい橙	ローム台地の粘土	
第329図	7	43	須恵器	蓋	166	118	41		95	にぶい橙	末野	
第329図	8	43	須恵器	蓋	—	71	(34)		15	褐	南比企	
第329図	9	43	須恵器	蓋	—	—	(17)		10	灰白	南比企	
第329図	10	43	須恵器	坏	—	70	(10)		15	灰	南比企	
第329図	11	43	須恵器	坏	129	73	39		20	にぶい黄褐	南比企	
第329図	12	43	須恵器	坏	—	65	(23)		25	灰	南比企	
第329図	13	43	須恵器	坏	—	72	(17)		5	灰白	南比企	
第329図	14	43	須恵器	坏	140	67	40		30	灰白	末野	
第329図	15	43	須恵器	坏	128	83	36		20	灰白	末野	
第329図	16	43	須恵器	坏	—	75	(15)		5	灰白	末野	
第329図	17	43	須恵器	坏	—	59	(9)		20	にぶい橙	東金子	
第329図	18	43	須恵器	坏	141	79	48		20	灰	三毳	
第329図	19	43	須恵器	高台付埦	158	85	72		65	灰	末野	墨書「綱」
第329図	20	43	須恵器	高台付埦	128	77	50		55	灰	末野	
第329図	21	43	須恵器	高台付埦	—	77	18		20	灰白	末野	墨書「綱」

挿図番号	図の番号	遺構番号	種別	器種	口径	底径	器高	最大径	残存率	色調	産地	備考
第329図	22	43	須恵器	高台付埦	—	71	(17)		15	灰	末野	
第329図	23	43	土師器	甕	193	—	188		50	にぶい褐	利根川水系	
第329図	24	43	土師器	甕	210	—	(77)		10	にぶい橙	利根川水系	
第329図	25	43	須恵器	紡錘車	上69	下69	高9	孔径12	50	灰	末野	坏転用
第329図	26	43	鉄製品	刀子	—	—	—		—	—	—	
第329図	27	43	鉄製品	刀子の茎	—	—	—		—	—	—	
第329図	28	44	土師器	坏	119	—	30		95	黄橙	利根川水系	
第329図	29	44	須恵器	坏	130	68	37		50	灰	南比企	
第329図	30	44	須恵器	坏	134	71	35		30	灰	南比企	
第329図	31	44	須恵器	坏	135	—	36		10	灰白	南比企	
第329図	32	44	須恵器	坏	128	—	35		40	灰白	南比企	
第329図	33	44	須恵器	坏	125	—	(33)		5	灰	南比企	
第329図	34	44	須恵器	坏	—	66	(10)		5	灰	南比企	
第329図	35	44	須恵器	坏	116	64	33		50	灰白	末野	
第329図	36	44	須恵器	坏	125	72	34		20	灰	末野	
第329図	37	44	須恵器	高台付埦	118	65	50		40	灰白	末野	
第330図	1	44	須恵器	甕	—	158	(163)		10	灰	南比企	
第330図	2	45	土師器	坏	115	—	(23)		10	黄橙	利根川水系	
第330図	3	45	土師器	皿	160	—	(32)		10	橙	利根川水系	
第330図	4	45	須恵器	蓋	139	110	(17)		5	灰	末野	
第330図	5	45	土師器	甑	213	—	(225)		40	橙	利根川水系	
第330図	6	45	土師器	甕	168	—	(90)		5	浅黄	利根川水系	
第330図	7	47	土師器	有段口縁坏	129	—	43		80	橙	利根川水系	
第330図	8	47	土師器	有段口縁坏	116	—	45		100	にぶい黄橙	利根川水系	
第330図	9	47	土師器	有段口縁坏	123	—	38		90	にぶい黄橙	利根川水系	黒色処理
第330図	10	47	土師器	有段口縁坏	121	—	40		90	橙	利根川水系	
第330図	11	47	土師器	有段口縁坏	105	—	(42)		40	黒	利根川水系	
第330図	12	47	土師器	鉢	190	—	(55)		10	橙	利根川水系	
第330図	13	47	土師器	長胴甕	215	—	170		30	にぶい橙	利根川水系	
第330図	14	47	土師器	長胴甕	—	—	(275)		60	にぶい橙	利根川水系	
第330図	15	47	土師器	長胴甕	195	—	(63)		20	にぶい橙	利根川水系	
第330図	16	47	石製品	紡錘車	上40	下25	高19	孔径6	100	—	—	
第330図	17	48	土師器	有段口縁坏	129	—	(30)		20	褐灰	利根川水系	黒色処理
第330図	18	48	土師器	須恵器坏蓋模倣坏	110	—	(36)		30	橙	ローム台地の粘土	
第330図	19	48	土師器	把手付き甑	—	—	—		5	にぶい黄橙	利根川水系	
第330図	20	49	土師器	内湾口縁坏	107	—	31		100	橙	利根川水系	
第330図	21	49	土師器	内湾口縁坏	108	—	32		100	橙	利根川水系	
第330図	22	49	土師器	長胴甕	223	—	(176)		60	橙	利根川水系	
第330図	23	49	土師器	長胴甕	225	—	172		40	橙	利根川水系	
第330図	24	51	須恵器	高台付埦	—	56	(16)		20	浅黄	末野	
第330図	25	52	須恵器	坏	129	62	35		10	灰白	南比企	
第330図	26	53	土師器	甕	199	—	(68)	(224)	10	橙	利根川水系	
第330図	27	54	土師器	甕	224	—	55		10	にぶい黄橙	利根川水系	
第331図	1	55	灰釉陶器	手付き瓶	78	118	198		40	灰白	猿投・K14	
第331図	2	57	土師器	坏	128	—	(27)		10	にぶい橙	利根川水系	
第331図	3	57	須恵器	坏	—	79	(16)		10	灰白	南比企	
第331図	4	58	土師器	有段口縁坏	130	—	(41)		20	灰白	利根川水系	

挿図番号	図の番号	遺構番号	種別	器種	口径	底径	器高	最大径	残存率	色調	産地	備考
第331図	5	58	土師器	須恵器坏身模倣坏	121	—	(45)	130	20	褐灰	利根川水系	黒色処理
第331図	6	58	土師器	鉢	210	—	83		20	にぶい黄橙	利根川水系	
第331図	7	58	土師器	甑	196	—	(67)		10	浅黄褐	利根川水系	
第331図	8	58	土師器	甑	227	—	(35)		5	にぶい橙	利根川水系	
第331図	9	58	土師器	甕	240	—	(93)		5	にぶい橙	利根川水系	
第331図	10	58	土師器	甕	110	—	(76)		10	橙	利根川水系	
第331図	11	58	土師器	カマド支脚	57	—	(125)		60	明黄褐	利根川水系	
第331図	12	59	土師器	埦	121	—	(46)	127	20	橙	利根川水系	
第331図	13	59	土師器	比企型坏	110	—	(28)		10	にぶい橙	利根川水系	
第331図	14	59	土師器	比企型坏	94	—	(27)		10	にぶい赤褐	比企・入間	
第331図	15	59	土師器	北島型暗文土器	111	—	(31)		10	橙	利根川水系	
第331図	16	59	土師器	北島型暗文土器	217	—	(14)		10	橙	利根川水系	
第331図	17	59	土師器	皿	170	—	38		50	橙	利根川水系	
第331図	18	59	須恵器	坏	175	100	47		25	灰白	秋間	
第331図	19	59	須恵器	紡錘車	上71	下71	中80	高10孔径5	100	灰	末野	
第331図	20	60	土師器	坏	118	60	25		10	にぶい黄橙	利根川水系	
第331図	21	60	須恵器	蓋	—	—	(11)			にぶい赤褐	南比企	
第331図	22	60	須恵器	蓋	170	143	(15)		5	灰白	南比企	
第331図	23	60	須恵器	蓋	—	45	(14)		5	灰	秋間	
第331図	24	60	須恵器	坏	173	—	52		10	灰	南比企	
第331図	25	60	須恵器	坏	—	75	10		40	灰	南比企	
第331図	26	61	土師器	坏	115	—	31		30	橙	利根川水系	
第331図	27	61	須恵器	坏	130	57	41		80	明褐灰	末野	
第331図	28	61	土師器	甕	208	—	(120)		20	浅黄橙	利根川水系	
第331図	29	61	土師器	甕	200	—	(65)		10	にぶい橙	利根川水系	
第331図	30	61	土師器	甕	200	—	(110)		20	にぶい橙	利根川水系	
第331図	31	61	土師器	甕	165	—	(40)		50	橙	利根川水系	
第331図	32	62	土師器	長胴甕	224	53	335		50	にぶい黄橙	利根川水系	
第332図	1	63	須恵器	皿	137	64	30		95	浅黄	末野	
第332図	2	63	須恵器	高台付埦	159	80	53		15	明褐灰	末野	
第332図	3	63	土師器	甕	205	—	(59)		10	黄褐	利根川水系	
第332図	4	63	土師器	甕	200	—	(43)		10	にぶい橙	利根川水系	
第332図	5	63	灰釉陶器	長頸壺	—	—	—		30	灰白	東海地方西部	
第332図	6	64	土師器	坏	110	—	(34)		20	にぶい橙	利根川水系	
第332図	7	65	土師器	坏	128	80	24		10	橙	荒川水系	
第332図	8	65	土師器	北島型暗文土器	124	—	27		10	橙	利根川水系	
第332図	9	65	須恵器	坏	—	59	(16)		5	灰	南比企	
第332図	10	65	土師器	甕	164	—	(60)		10	浅黄橙	利根川水系	
第332図	11	66	土師器	有段口縁坏	136	—	40		70	橙	利根川水系	
第332図	12	66	土師器	須恵器坏身模倣坏	116	—	39	130	100	橙	利根川水系	
第332図	13	66	須恵器	甕	—	—	(171)	胴径9	80	灰白	金山	
第332図	14	66	土師器	長胴甕	173	63	427		70	橙	利根川水系	
第332図	15	66	土師器	長胴甕	196	70	331		100	淡橙	荒川水系	
第332図	16	66	土師器	長胴甕	82	—	(217)		60	橙	利根川水系	
第332図	17	66	土師器	長胴甕	161	—	(163)		30	にぶい橙	荒川水系	
第332図	18	66	土師器	長胴甕	—	49	(37)		20	橙	利根川水系	
第332図	19	67	土師器	内湾口縁坏	111	—	28		20	橙	利根川水系	

挿図番号	図の番号	遺構番号	種別	器種	口径	底径	器高	最大径	残存率	色調	産地	備考
第332図	20	67	土師器	長胴甕	239	61	357		60	にぶい橙	利根川水系	
第333図	1	67	土師器	長胴甕	230	60	—		40	にぶい橙	利根川水系	
第333図	2	67	土師器	長胴甕	—	60	(140)		20	にぶい橙	利根川水系	
第333図	3	68	土師器	有段口縁坏	117	—	(32)		10	にぶい黄橙	利根川水系	黒色処理
第333図	4	68	土師器	比企型坏	130	—	(27)		20	赤	比企・入間	
第333図	5	68	土師器	北島型暗文土器	122	44	35		80	赤	利根川水系	
第333図	6	70	土師器	有段口縁坏	112	—	(33)		10	灰褐	利根川水系	黒色処理
第333図	7	71	須恵器	坏	119	54	(37)		40	明黄褐	利根川水系	
第333図	8	71	須恵器	高台付埦	134	66	50		55	橙	利根川水系	
第333図	9	71	須恵器	高台付埦	—	79	(27)		20	橙	利根川水系	
第333図	10	71	緑釉陶器	皿					10	オリーブ灰	尾北・K90	
第333図	11	72	須恵器	蓋	—	—	(11)		5	灰	末野	
第333図	12	72	須恵器	坏	121	—	(35)		10	灰白	末野	
第333図	13	72	須恵器	坏	—	70	(11)		15	灰黄褐	末野	
第333図	14	72	土師器	甕	187	—	(46)			橙	利根川水系	
第333図	15	72	須恵器	長頸瓶	—	102	(119)		10	褐灰	南比企	
第333図	16	73	須恵器	蓋	173	111	(40)		60	褐灰	南比企	
第333図	17	73	須恵器	坏	124	61	33		60	褐灰	南比企	
第333図	18	73	土師器	甕	212	—	(51)		10	にぶい橙	利根川水系	
第333図	19	74	土師器	坏A	122	92	32		100	にぶい橙	利根川水系	
第333図	20	74	土師器	坏A	128	—	(35)		10	にぶい橙	利根川水系	
第333図	21	74	須恵器	蓋	—	70	(23)		15	灰	金山	
第333図	22	74	須恵器	坏	—	71	(19)		20	灰	南比企	
第333図	23	74	須恵器	坏	124	71	40		80	灰白	末野	
第333図	24	74	須恵器	坏	—	67	(5)		5	灰	南比企	墨書「石」
第333図	25	74	須恵器	坏	138	83	42		55	灰	金山	
第333図	26	74	須恵器	高台付埦	154	86	65		90	青灰	末野	
第333図	27	74	土師器	甕	127	—	(48)		10	橙	利根川水系	
第333図	28	74	土師器	甕	199	—	(180)	219	30	橙	利根川水系	
第333図	29	74	土師器	甕	210	—	(82)		10	にぶい橙	利根川水系	
第334図	1	75	須恵器	坏	115	54	36		20	灰	末野	
第334図	2	75	須恵器	坏	—	73	(9)		10	灰	南比企	
第334図	3	75	須恵器	紡錘車	上66	下63	高7	孔径9	100	灰白	末野	
第334図	4	75	須恵器	紡錘車	上66	下63	高10	孔径8	50	灰	末野	
第334図	5	76	須恵器	坏	119	61	31		50	にぶい黄橙	末野	
第334図	6	76	須恵器	坏	130	63	38		55	淡赤橙	末野	
第334図	7	76	須恵器	坏	120	53	37		40	灰白	末野	
第334図	8	76	須恵器	皿	137	67	24		100	灰白	末野	
第334図	9	76	須恵器	紡錘車	幅84	高12	孔8		75	灰	南比企	
第334図	10	77	土師質土器	小皿	90	51	20		50	にぶい黄橙	利根川水系	
第334図	11	77	土師質土器	小皿	88	50	11		80	橙	ローム台地の粘土	
第334図	12	82	土師器	有段口縁坏	129	—	47		50	橙	利根川水系	
第334図	13	82	土師器	内屈口縁坏	111	—	35	114	50	にぶい橙	利根川水系	
第334図	14	82	土師器	皿	190	—	(25)		10	にぶい橙	利根川水系	
第334図	15	82	須恵器	蓋	148	—	(14)		5	灰白	末野	
第334図	16	82	須恵器	蓋	—	—	(17)		5	灰	末野	
第334図	17	82	土師器	長胴甕	110	—	76		5	浅黄橙	利根川水系	

挿図番号	図の番号	遺構番号	種別	器種	口径	底径	器高	最大径	残存率	色調	産地	備考
第334図	18	82	土	支脚	長(140)	直径78	—			にぶい黄橙	利根川水系	
第334図	19	82	鉄製品	用途不明品	—	—	—		—	—	—	
第334図	20	82	鉄製品	用途不明品	—	—	—		—	—	—	
第334図	21	84	須恵器	長頸壺	—	135	(65)		5	灰白	東金子	
第334図	22	86	土師器	内屈口縁坏	121	—	71		90	にぶい橙	利根川水系	
第334図	23	86	土師器	内屈口縁坏	117	—	37		95	橙	利根川水系	
第334図	24	86	土師器	坏	138	—	(26)		5	橙	利根川水系	
第334図	25	86	土師器	北島型暗文土器	—	—	(34)		10	橙	利根川水系	
第334図	26	86	土師器	小形鉢	106	—	67	122	60	橙	利根川水系	
第334図	27	86	須恵器	坏	—	136	(8)		10	にぶい黄橙	末野	
第334図	28	86	須恵器	高坏	—	—	(27)		5	灰白	南比企	
第334図	29	86	須恵器	長頸瓶	—	—	(60)		5	灰白	湖西	
第334図	30	86	灰釉陶器	長頸瓶	—	87	(30)		5	灰白	浜北・K90	刻書「□」
第334図	31	86	土師器	甕	230	—	(96)		10	にぶい橙	利根川水系	
第334図	32	86	土師器	甑	241	—	(107)		5	橙	利根川水系	
第335図	1	87	土師器	坏	127	—	(28)		10	褐灰	利根川水系	
第335図	2	87	土師器	坏	129	—	(27)		10	にぶい黄橙	利根川水系	
第335図	3	87	土師器	坏	139	—	(22)		15	橙	利根川水系	
第335図	4	87	土師器	坏	120	—	(32)		15	にぶい黄橙	利根川水系	
第335図	5	87	須恵器	蓋	150	105	(27)		5	明褐灰	末野	
第335図	6	87	須恵器	蓋	177	79	39		90	灰白	南比企	
第335図	7	87	須恵器	坏	—	68	(7)		20	灰	南比企	
第335図	8	87	須恵器	大甕	333	—	(68)		5	黄灰	金山	
第335図	9	87	鉄製品	刀子	—	—	—		—	—	—	
第335図	10	87	鉄製品	錐	—	—	—		—	—	—	
第335図	11	88	土師器	坏A	126	—	(29)		10	にぶい黄橙	利根川水系	
第335図	12	88	土師器	坏A	116	78	(30)		10	にぶい黄橙	利根川水系	
第335図	13	88	須恵器	坏	116	64	35		10	黒褐	南比企	
第335図	14	88	須恵器	坏	128	62	33		60	灰黄	末野	
第335図	15	88	須恵器	坏	—	65	(11)		10	黄灰	南比企	刻書「□」
第335図	16	88	土師器	甕	209	—	(63)		10	橙	利根川水系	
第335図	17	88	土師器	小形甕	118	—	(64)		20	にぶい明褐	利根川水系	
第335図	18	88	須恵器	短頸壺蓋	151	—	(32)		5	灰	南比企	
第335図	19	89	土師質土器	坏	108	56	38		100	浅黄橙	利根川水系	
第335図	20	89	土師質土器	坏	118	52	48		25	浅黄橙	利根川水系	
第335図	21	89	土師質土器	坏	128	—	33		10	橙	利根川水系	
第335図	22	89	土師質土器	坏	—	49	14		20	灰白	利根川水系	
第335図	23	89	土師質土器	坏	—	62	(23)		20	浅黄橙	利根川水系	
第335図	24	89	土師質土器	高台付埦	162	76	(52)		90	橙	利根川水系	
第335図	25	89	須恵器	高台付皿	—	—	(16)		10	灰	末野	
第335図	26	89	灰釉陶器	埦	—	78	(27)		10	灰白	東濃・光ヶ丘1	
第335図	27	89	土師器	甕	215	—	(196)		30	にぶい橙	利根川水系	
第335図	28	89	土師器	甕	198	—	(95)		10	にぶい褐	利根川水系	
第335図	29	89	土師器	羽釜	—	—	(95)	258	5	淡黄	利根川水系	
第335図	30	90	土師器	坏B	118	—	(36)		10	浅黄橙	利根川水系	
第335図	31	90	土師質土器	坏	114	57	41		90	灰白	利根川水系	
第335図	32	90	土師質土器	坏	108	42	33		50	にぶい橙	利根川水系	

挿図番号	図の番号	遺構番号	種別	器種	口径	底径	器高	最大径	残存率	色調	産地	備考
第335図	33	90	須恵器	高台付埦	—	52	(30)		20	灰	末野	
第336図	1	90	土師質土器	高台付埦	126	61	51		50	灰白	利根川水系	
第336図	2	90	土師質土器	高台付埦	140	86	60		25	橙	利根川水系	
第336図	3	90	土師質土器	高台付埦	—	79	40		30	灰	利根川水系	
第336図	4	90	土師質土器	高台付埦	—	75	34		25	にぶい赤褐	利根川水系	
第336図	5	90	土師質土器	高台付埦	—	88	(36)		20	にぶい橙	利根川水系	
第336図	6	90	土師器	甕	240	—	(79)		10	にぶい橙	利根川水系	
第336図	7	90	土師器	羽釜	256	—	(151)		20	淡橙	利根川水系	
第336図	8	90	須恵器	羽釜	110	—	(45)	146	5	にぶい黄橙	吉井	
第336図	9	90	須恵器	羽釜	191	—	(47)		5	灰白	吉井	
第336図	10	90	土師器	羽釜	—	72	(65)		10	にぶい橙	利根川水系	
第336図	11	90	石製品	砥石	—	—	—		100	—	—	
第336図	12	92	土師器	坏A	122	55	29		80	にぶい橙	利根川水系	
第336図	13	92	土師器	坏A	120	—	(27)		20	にぶい橙	利根川水系	
第336図	14	92	須恵器	蓋	—	59	(30)		20	灰白	末野	墨書「□」
第336図	15	92	須恵器	坏	—	75	(28)		5	灰	南比企	
第336図	16	92	須恵器	坏	125	75	32		50	灰	南比企	
第336図	17	92	須恵器	高台付埦	131	68	58		45	暗赤褐	末野	
第336図	18	92	須恵器	高台付埦	—	91	(26)		15	灰白	末野	
第336図	19	92	須恵器	仏鉢模倣土器	202	—	(51)	215	5	灰	東金子	
第336図	20	94	土師器	有段口縁坏	130	—	(38)		20	にぶい褐	利根川水系	
第336図	21	94	土師器	有段口縁坏	122	—	(36)		20	橙	利根川水系	黒色処理
第336図	22	95	須恵器	蓋	—	126	(12)		35	灰白	東海地方東部か群馬県西部(秋間か乗附)	
第336図	23	95	土師器	甕	227	—	(80)		30	橙	利根川水系	
第336図	24	96	土師器	須恵器坏蓋模倣坏	113	46	30		10	浅黄橙	利根川水系	
第336図	25	97	土師器	坏	110	—	(24)		10	にぶい橙	利根川水系	
第336図	26	97	須恵器	蓋	165	89	(38)		40	灰	南比企	
第336図	27	97	須恵器	坏	—	73	27		20	緑灰	南比企	
第336図	28	97	須恵器	坏	—	69	(10)		5	灰	南比企	刻書「大□」又は「犬□」
第336図	29	97	須恵器	坏	—	74	(14)		10	灰	南比企	
第336図	30	97	須恵器	坏	—	68	(26)		20	緑灰	南比企	
第336図	31	97	土師器	甕	110	—	(34)		10	灰褐	利根川水系	
第336図	32	97	土師器	甕	220	—	(50)		10	にぶい橙	利根川水系	
第336図	33	97	黒色土器	紡錘車	上48	下34	高31	孔径9	50	赤黒	末野	
第337図	1	98	土師器	内屈口縁坏	122	—	35		30	にぶい橙	ローム台地の粘土	
第337図	2	98	土師器	内屈口縁坏	140	—	33		30	にぶい黄橙	利根川水系	
第337図	3	98	土師器	北島型暗文土器	224	—	(24)		25	灰黄褐	利根川水系	
第337図	4	98	土師器	長胴甕	215	—	(81)		10	橙	利根川水系	
第337図	5	98	土師器	長胴甕	217	—	(88)		10	浅黄	利根川水系	
第337図	6	99	土師器	有段口縁坏	129	—	(42)		60	橙	利根川水系	
第337図	7	99	土師器	有段口縁坏	—	—	(23)		20	にぶい黄橙	利根川水系	
第337図	8	99	土師器	長胴甕	203	—	(67)		10	橙	利根川水系	
第337図	9	99	土師器	壺	199	—	(116)		10	にぶい橙	利根川水系	
第337図	10	99	須恵器	壺	—	91	(22)		20	青黒	南比企	
第337図	11	100	土師器	須恵器坏身模倣坏	125	—	41	134	25	橙	利根川水系	
第337図	12	101	土師器	北島型暗文土器	112	—	(29)		5	橙	利根川水系	
第337図	13	102	須恵器	蓋	—	—	(15)		5	灰	南比企	

挿図番号	図の番号	遺構番号	種別	器種	口径	底径	器高	最大径	残存率	色調	産地	備考
第337図	14	102	須恵器	坏	122	61	(41)		100	灰	南比企	
第337図	15	102	土師器	甕	200	—	(105)		20	にぶい橙	利根川水系	
第337図	16	102	土師器	甕	196	—	56		20	橙	利根川水系	
第337図	17	102	須恵器	短頸壺	142	—	(50)		5	明褐灰	末野	
第337図	18	103	土師器	坏A	120	—	(29)		10	橙	利根川水系	
第337図	19	103	土師器	坏A	130	—	(29)		10	橙	利根川水系	
第337図	20	103	須恵器	蓋	—	—	(18)		5	褐灰	南比企	
第337図	21	103	須恵器	蓋	171	88	(35)		25	灰白	南比企	
第337図	22	103	須恵器	蓋	143	81	26		75	灰白	末野	
第337図	23	103	須恵器	蓋	171	—	(30)		40	灰白	末野	
第337図	24	103	須恵器	蓋	155	110	(24)		30	灰白	末野	
第337図	25	103	須恵器	坏	123	76	35		25	灰	南比企	
第337図	26	103	須恵器	坏	121	63	36		10	灰	南比企	
第337図	27	103	須恵器	坏	116	62	30		20	灰	南比企	
第337図	28	103	土師器	甕	131	—	(50)		10	橙	利根川水系	
第337図	29	103	須恵器	甕	162	—	45		5	明褐灰	末野	
第337図	30	103	石製品	砥石	—	—	—		—	—	—	
第337図	31	104	土師器	坏	142	—	38		25	橙	ローム台地の原土	
第337図	32	104	須恵器	蓋	150	—	(12)		5	灰	末野	
第337図	33	104	須恵器	蓋	150	85	(30)		10	灰白	末野	
第337図	34	104	須恵器	無台埦	159	100	56		20	灰	南比企	
第337図	35	104	鉄製品	刀子	—	—	—		—	—	—	
第338図	1	105	土師器	坏A	115	86	(27)		10	橙	利根川水系	
第338図	2	105	須恵器	蓋	201	—	(11)		5	灰	南比企	
第338図	3	105	須恵器	坏	—	79	20		5	灰	末野	
第338図	4	105	須恵器	坏	0	72	9		40	灰	末野	
第338図	5	105	須恵器	坏	124	70	37		95	灰	末野	
第338図	6	105	土師器	甕	220	—	(62)		10	灰黄	利根川水系	
第338図	7	106	土師器	坏	119	—	(32)		10	にぶい橙	利根川水系	
第338図	8	106	須恵器	蓋	120	61	22		35	にぶい橙	南比企	
第338図	9	106	須恵器	坏	130	60	43		30	灰	南比企	
第338図	10	106	須恵器	坏	—	60	13		20	灰	末野	
第338図	11	106	銅製品	カコ(弓金具)	—	—	—		—	—	—	
第338図	12	107	須恵器	高台付埦	—	58	(18)		30	灰	末野	
第338図	13	107	土師質土器	高台付埦	—	51	(30)		60	にぶい黄橙	利根川水系	
第338図	14	108	土師質土器	坏	127	70	40		15	橙	利根川水系	
第338図	15	108	黒色土器	高台付埦	—	73	21		5	灰褐	利根川水系	
第338図	16	108	黒色土器	高台付埦	—	—	(13)		15	浅黄橙	利根川水系	
第338図	17	108	土師器	羽釜	124	—	(59)	258	5	にぶい褐	利根川水系	
第338図	18	108	土師器	羽釜	—	—	(35)		5	淡橙	利根川水系	
第338図	19	109	土師器	内湾口縁坏	116	—	(35)		40	にぶい黄橙	利根川水系	
第338図	20	109	土師器	内湾口縁坏	117	—	(27)		10	にぶい橙	利根川水系	
第338図	21	109	土師器	内湾口縁坏	109	—	(26)		10	橙	利根川水系	
第338図	22	109	土師器	皿	170	—	(28)		10	橙	利根川水系	
第338図	23	109	須恵器	坏	138	—	(38)		20	灰	南比企	
第338図	24	109	土師器	長胴甕	215	—	(60)		10	にぶい橙	利根川水系	
第338図	25	110	土師器	坏A	117	76	33		20	褐灰	利根川水系	

挿図番号	図の番号	遺構番号	種別	器種	口径	底径	器高	最大径	残存率	色調	産地	備考
第338図	26	110	土師器	坏A	116	—	(31)		10	にぶい橙	利根川水系	
第338図	27	110	土師器	坏A	137	106	31		40	橙	利根川水系	
第338図	28	110	須恵器	蓋	183	96	(35)		30	明褐灰	南比企	
第338図	29	110	須恵器	蓋	183	—	(26)		5	灰白	南比企	
第338図	30	110	須恵器	蓋	—	107	(26)		10	灰	南比企	
第338図	31	110	須恵器	蓋	—	80	(26)		30	灰	南比企	
第338図	32	110	須恵器	蓋	—	100	(16)		5	灰	南比企	
第338図	33	110	須恵器	坏	129	83	40		20	灰	南比企	
第338図	34	110	須恵器	坏	—	76	(15)		20	灰白	南比企	
第338図	35	110	須恵器	坏	116	68	38		20	灰	南比企	
第338図	36	110	須恵器	坏	—	68	(19)		20	灰	南比企	
第338図	37	110	須恵器	坏	—	65	(14)		15	オリーブ灰	南比企	
第338図	38	110	須恵器	坏	—	61	(13)		20	灰	南比企	
第338図	39	110	須恵器	坏	—	57	(21)		20	オリーブ灰	南比企	
第339図	1	110	須恵器	坏	126	113	41		70	灰白	末野	墨書「□」
第339図	2	110	土師器	甕	210	—	(129)		10	橙	利根川水系	
第339図	3	110	土師器	甕	200	—	(109)		20	橙	利根川水系	
第339図	4	110	須恵器	長頸瓶	103	—	83		10	灰	南比企	
第339図	5	110	鉄製品	不明鉄製品	—	—	—		20	—	—	
第339図	6	111	土師器	須恵器坏蓋模倣坏	104	—	(28)		10	にぶい橙	利根川水系	
第339図	7	111	土師器	内湾口縁坏	116	—	(23)		10	橙	利根川水系	
第339図	8	111	土師器	皿	150	—	(26)		10	にぶい黄橙	利根川水系	
第339図	9	111	須恵器	坏	114	68	38		10	暗青灰	末野	
第339図	10	111	須恵器	坏	146	93	39		45	灰白	末野	
第339図	11	111	土師器	甕	210	—	(61)		10	橙	利根川水系	
第339図	12	111	土師器	甕	250	—	(74)		10	にぶい赤褐	利根川水系	
第339図	13	112	須恵器	坏	125	61	40		50	灰白	末野	
第339図	14	112	須恵器	坏	123	54	38		30	灰白	南比企	
第339図	15	112	須恵器	坏	—	59	(9)		20	灰	南比企	
第339図	16	113	土師器	内湾口縁坏	131	—	(30)		10	にぶい褐	利根川水系	
第339図	17	113	須恵器	坏	—	91	(21)		5	灰	南比企	
第339図	18	113	須恵器	甕	—	85	(16)		15	灰白	末野	
第339図	19	113	石製品	砥石	—	—	—		—	—	—	
第339図	20	113	石製品	砥石	—	—	—		—	—	—	
第339図	21	114	須恵器	坏	137	65	38		20	灰	末野	
第339図	22	114	須恵器	坏	137	63	35		20	灰	末野	
第339図	23	114	須恵器	坏	121	57	39		30	灰	末野	
第339図	24	114	須恵器	坏	—	60	(33)		30	灰	末野	
第339図	25	114	須恵器	坏	—	58	29		40	灰	末野	
第339図	26	114	須恵器	坏	—	63	(21)		40	にぶい褐	末野	
第339図	27	114	須恵器	皿	135	60	27		25	にぶい褐	末野	
第339図	28	114	須恵器	皿	126	59	24		25	にぶい褐	末野	
第339図	29	114	須恵器	皿	130	58	19		40	灰	末野	
第340図	1	114	須恵器	高台付埦	145	80	60		50	灰	末野	
第340図	2	114	須恵器	高台付埦	—	—	47		30	灰	末野	
第340図	3	114	須恵器	高台付埦	—	75	(22)		10	灰白	末野	
第340図	4	114	土師器	甕	199	—	(58)		10	浅黄橙	利根川水系	

挿図番号	図の番号	遺構番号	種別	器種	口径	底径	器高	最大径	残存率	色調	産地	備考
第340図	5	114	土師器	甕	216	—	(52)		10	橙	利根川水系	
第340図	6	114	土師器	甕	180	—	(58)		10	橙	利根川水系	
第340図	7	114	須恵器	壺	113	—	(61)		5	灰	南比企	
第340図	8	114	須恵器	壺	—	146	66		5	灰	末野	
第340図	9	114	灰釉陶器	長頸瓶	—	86	(30)		10	灰白	浜北・O53	
第340図	10	114	鉄製品	鎌	—	—	—		—	—	—	
第340図	11	115	土師器	有段口縁坏	121	—	(34)		10	褐	利根川水系	
第340図	12	115	土師器	長胴甕	200	—	(77)		5	橙	利根川水系	
第340図	13	115	須恵器	大甕	280	—	(49)		10	褐灰	末野	
第340図	14	116	土師器	有段口縁坏	138	—	(35)		100	にぶい褐	利根川水系	
第340図	15	116	土師器	坏身模倣坏	120	—	(32)	121	10	にぶい褐	利根川水系	
第340図	16	116	土師器	長胴甕	193	—	(95)		30	にぶい黄橙	利根川水系	
第340図	17	117	須恵器	蓋	181	—	(22)		20	褐灰	南比企	
第340図	18	117	須恵器	坏	119	62	36		25	灰	南比企	
第340図	19	117	須恵器	坏	118	64	37		40	灰	南比企	
第340図	20	117	須恵器	坏	128	71	44		20	灰	南比企	
第340図	21	117	須恵器	坏	—	62	(18)		25	灰	南比企	
第340図	22	117	須恵器	坏	—	62	(16)		30	灰	南比企	墨書「主」
第340図	23	117	須恵器	坏	—	59	(16)		10	にぶい橙	南比企	
第340図	24	117	須恵器	坏	—	63	(10)		20	灰	南比企	墨書「金」
第341図	1	117	須恵器	坏	150	—	58		20	褐灰	南比企	
第341図	2	117	黒色土器	坏	126	73	44		30	にぶい黄褐	利根川水系	
第341図	3	117	土師器	甕	220	—	(82)		10	橙	利根川水系	
第341図	4	117	須恵器	甕	—	160	(120)		15	灰黄	南比企	
第341図	5	117	鉄製品	刀子	—	—	—		—	—	—	
第341図	6	117	鉄製品	棒状鉄製品	—	—	—		—	—	—	
第341図	7	118	土師器	有段口縁坏	120	—	41		20	にぶい黄橙	利根川水系	
第341図	8	118	土師器	内湾口縁坏	124	—	(26)		20	にぶい黄橙	利根川水系	
第341図	9	118	土師器	坏	123	—	(27)		10	にぶい黄橙	利根川水系	
第341図	10	118	土師器	皿	160	—	(30)		10	黄橙	利根川水系	
第341図	11	118	土師器	皿	180	—	(32)		10	橙	利根川水系	
第341図	12	118	土師器	皿	160	—	(38)		10	橙	利根川水系	
第341図	13	118	須恵器	蓋	152	—	(33)		5	褐灰	湖西	
第341図	14	118	土師器	長胴甕	195	—	(50)		5	にぶい橙	利根川水系	
第341図	15	119	土師器	有段口縁坏	108	—	39		50	淡赤橙	利根川水系	
第341図	16	119	土師器	有段口縁坏	110	—	35		10	にぶい橙	利根川水系	
第341図	17	119	土師器	長胴甕	219	—	(58)		20	浅黄橙	利根川水系	
第341図	18	119	土師器	壺	220	—	(55)		10	にぶい褐	荒川水系	
第341図	19	120	須恵器	坏	135	72	44		30	暗褐	末野	
第341図	20	120	土師器	羽釜	238	—	(76)		10	にぶい黄褐	利根川水系	
第341図	21	121	土師器	坏A	132	86	33		40	淡橙	ローム台地の粘土	
第341図	22	121	須恵器	蓋	—	117	(16)		5	灰白	末野	
第341図	23	121	須恵器	坏	128	60	40		40	にぶい橙	南比企	
第341図	24	121	須恵器	坏	123	61	36		20	灰白	南比企	墨書「綱」
第341図	25	121	須恵器	坏	121	51	39		90	灰白	南比企	
第341図	26	121	須恵器	坏	124	57	40		90	灰	南比企	
第341図	27	121	須恵器	坏	121	57	38		30	にぶい橙	南比企	

挿図番号	図の番号	遺構番号	種別	器種	口径	底径	器高	最大径	残存率	色調	産地	備考
第341図	28	121	須恵器	坏	121	55	33		40	灰白	南比企	
第341図	29	121	須恵器	坏	127	66	41		10	灰白	南比企	
第342図	1	121	須恵器	坏	122	57	33		70	褐灰	末野	
第342図	2	121	須恵器	皿	147	74	23		60	にぶい黄橙	末野	
第342図	3	121	須恵器	高台付埦	143	71	65		20	灰	末野	
第342図	4	121	須恵器	高台付埦	—	84	(25)		40	灰	東金子	
第342図	5	121	黒色土器	高台付皿	—	65	(15)		15	橙	利根川水系	
第342図	6	121	灰釉陶器	高台付皿	151	77	(29)		30	灰白	二川・K14	
第342図	7	121	土師器	小形甕	130	—	(93)		10	にぶい橙	利根川水系	
第342図	8	121	土師器	甕	180	—	(54)		10	にぶい橙	利根川水系	
第342図	9	121	土師器	甕	197	—	(52)		10	橙	利根川水系	
第342図	10	121	灰釉陶器	長頸壺	—	81	(28)		10	灰白	二川・O53	
第342図	11	121	石製品	砥石	—	—	—		—	—	—	切石
第342図	12	124	須恵器	坏身	90	—	(32)	109	10	灰白	湖西	
第342図	13	124	須恵器	甕	—	98	(25)		5	灰白	湖西	
第342図	14	125	須恵器	坏	—	59	(37)		10	灰	南比企	
第342図	15	125	須恵器	高台付埦	155	98	(56)		10	灰白	東金子	
第342図	16	125	緑釉陶器	陶片	—	—	—		5	灰オリーブ	猿投	
第342図	17	125	土師器	甕	254	—	(38)		10	浅黄橙	利根川水系	
第342図	18	126	土師質土器	坏	116	—	(35)		10	にぶい黄橙	利根川水系	
第342図	19	126	土師質土器	坏	140	—	34		10	にぶい黄橙	利根川水系	
第342図	20	127	土師器	坏A	113	—	(36)		20	にぶい橙	ローム台地の粘土	
第342図	21	127	須恵器	坏	130	55	37		75	灰	末野	
第342図	22	127	須恵器	高台付埦	133	66	55		50	褐灰	末野	
第342図	23	127	土師器	甕	189	—	118		20	にぶい褐	利根川水系	
第342図	24	129	土師器	内湾口縁坏	118	—	(28)		10	にぶい橙	利根川水系	
第342図	25	129	土師器	高台付埦	131	—	(34)		20	浅黄橙	利根川水系	墨書「龍」
第342図	26	129	須恵器	坏	135	52	36		100	灰	末野	
第343図	1	129	須恵器	坏	—	55	(25)		20	暗青灰	末野	
第343図	2	129	須恵器	坏	—	65	(11)		5	暗青灰	末野	
第343図	3	129	須恵器	坏	—	60	(14)		10	暗青灰	末野	
第343図	4	129	須恵器	坏	—	60	(19)		20	にぶい褐	末野	
第343図	5	129	須恵器	高台付埦	132	—	(56)		60	青灰	末野	
第343図	6	129	須恵器	皿	153	63	24		60	暗青灰	末野	
第343図	7	129	須恵器	皿	—	56	(17)		15	にぶい褐	末野	
第343図	8	129	黒色土器	高台付埦	—	50	(19)		5	橙	ローム台地の粘土	
第343図	9	129	灰釉陶器	皿	—	68	(17)		20	灰白	東濃・大原2	
第343図	10	129	土師器	甕	195	—	42		5	にぶい橙	利根川水系	
第343図	11	130	土師器	坏	122	57	34		40	にぶい黄橙	利根川水系	
第343図	12	130	須恵器	高台付埦	—	78	(43)		45	灰白	末野	
第343図	13	130	土師器	甕	221	61	269		60	橙	利根川水系	
第343図	14	130	土師器	甕	204	51	280		40	浅黄橙	利根川水系	
第343図	15	131	須恵器	埦	129	59	40		40	灰	南比企	
第343図	16	131	須恵器	埦	—	60	(13)		20	灰白	南比企	
第343図	17	131	須恵器	皿	153	54	25		25	褐灰	末野	
第343図	18	131	須恵器	高台付埦	—	69	(19)		20	灰	末野	
第343図	19	131	土師器	甕	203	—	(247)		70	にぶい橙	利根川水系	

挿図番号	図の番号	遺構番号	種別	器種	口径	底径	器高	最大径	残存率	色調	産地	備考
第343図	20	131	土師器	甕	197	—	(148)		20	褐	利根川水系	
第343図	21	131	土師器	甕	216	—	145		10	にぶい褐	利根川水系	
第344図	1	131	土師器	甕	131	—	(87)		10	灰褐	利根川水系	
第344図	2	132	土師器	坏B	124	—	(46)		30	灰白	利根川水系	
第344図	3	132	灰釉陶器	埦	—	75	(14)		15	灰白	尾北・K90	
第344図	4	132	土師器	甕	200	—	(57)		5	にぶい橙	利根川水系	
第344図	5	132	石製品	錘	—	—	—		100	—	—	
第344図	6	134	須恵器	坏	—	80	(7)		20		南比企	墨書「十」
第344図	7	134	須恵器	花瓶	34	—	(69)		80	灰	不明	
第344図	8	135	須恵器	蓋	179	128	(26)		5	灰白	末野	
第344図	9	135	須恵器	坏	—	69	28		10	灰白	末野	
第344図	10	135	鉄製品	不明鉄製品	—	—	—		—	—	—	
第344図	11	136	土師質土器	坏	103	56	34		40	灰白	利根川水系	
第344図	12	136	黒色土器	坏か高台付埦	136	73	41		10	にぶい黄橙	比企・入間	
第344図	13	136	石製品	紡錘車	上41	下24	高13		80	—	—	
第344図	14	137	土師器	須恵器坏蓋模倣坏	118	—	(22)		10	橙	利根川水系	
第344図	15	139	須恵器	蓋	—	100	(11)		5	灰	南比企	
第344図	16	139	須恵器	坏	125	70	39		40	灰白	南比企	
第344図	17	140	土師器	坏A	110	—	(28)		5	橙	利根川水系	
第344図	18	140	須恵器	蓋	149	80	(28)		20	灰白	南比企	
第344図	19	140	須恵器	坏	124	60	32		60	灰	南比企	
第344図	20	140	黒色土器	坏	—	65	(21)		10	にぶい黄橙	利根川水系	
第344図	21	141	須恵器	坏	125	64	(35)		20	灰白	南比企	
第344図	22	141	緑釉陶器	稜埦	—	99	(48)		10	オリーブ黄	猿投・K90	
第344図	23	142	土師器	皿	150	—	(27)		10	橙	利根川水系	
第344図	24	142	須恵器	蓋	166	97	45		95	灰白	新治	
第344図	25	142	須恵器	坏	120	66	32		80	灰	南比企	刻書「□」
第344図	26	142	須恵器	円面硯	—	—	—		5	オリーブ黒	金山	
第344図	27	143	土師器	土釜	229	—	(150)		5	褐灰	利根川水系	
第344図	28	144	須恵器	高台付埦	—	57	25		10	灰白	利根川水系	
第344図	29	145	土師器	坏A	119	—	35		80	にぶい橙	利根川水系	
第344図	30	145	土師器	坏A	116	—	32		100	浅黄橙	利根川水系	
第344図	31	145	土師器	坏A	126	—	35		100	黄橙	利根川水系	
第344図	32	145	土師器	坏A	122	64	33		80	黄橙	利根川水系	
第344図	33	145	土師器	坏A	130	—	33		50	にぶい橙	利根川水系	
第344図	34	145	土師器	坏A	127	64	31		40	にぶい橙	利根川水系	
第344図	35	145	須恵器	蓋	—	80	(26)		25	黄灰	南比企	
第344図	36	145	須恵器	蓋	181	129	(19)		25	黄灰	南比企	
第344図	37	145	須恵器	坏	119	64	40		50	にぶい橙	南比企	墨書「□」
第344図	38	145	須恵器	坏	121	56	36		75	青灰	南比企	
第345図	1	145	須恵器	坏	115	62	35		100	青灰	南比企	
第345図	2	145	須恵器	高台付埦	—	96	(56)		50	明褐灰	末野	
第345図	3	145	須恵器	高台付埦	—	75	(13)		20	青灰	南比企	
第345図	4	145	須恵器	高台付埦	—	67	(16)		15	灰	南比企	
第345図	5	145	黒色土器	坏	133	63	52		60	橙	下総台地	
第345図	6	145	土師器	甕	132	—	(36)		20	にぶい橙	利根川水系	
第345図	7	146	土師器	坏	110	—	(34)		10	赤灰	利根川水系	

挿図番号	図の番号	遺構番号	種別	器種	口径	底径	器高	最大径	残存率	色調	産地	備考
第345図	8	146	土師器	内湾口縁坏	124	—	(30)		10	にぶい橙	利根川水系	
第345図	9	146	土師器	小形甕	129	—	(75)		30	にぶい赤	利根川水系	
第345図	10	146	土師器	甕	205	—	(59)		10	淡橙	利根川水系	
第345図	11	146	須恵器	フラスコ形瓶	78	—	(22)		5	灰	湖西	
第345図	12	147	土師器	内湾口縁坏	124	—	(26)		20	にぶい黄橙	利根川水系	
第345図	13	147	土師器	甕	195	—	(62)		10	にぶい橙	利根川水系	
第345図	14	148	土師器	甕	260	—	(92)		10	にぶい橙	利根川水系	
第345図	15	148	土師器	甕	219	—	(70)		10	淡橙	利根川水系	
第345図	16	149	土師質土器	北島型暗文土器	111	—	(30)		10	橙	利根川水系	
第345図	17	149	土師器	坏	128	72	24		20	黄橙	ローム台地の粘土	
第345図	18	149	土師器	内湾口縁坏	124	—	31		20	橙	ローム台地の粘土	
第345図	19	149	須恵器	蓋	—	—	(14)		10	灰黄褐	南比企	
第345図	20	149	須恵器	坏	116	77	32		95	灰白	末野	
第345図	21	149	須恵器	坏	116	67	(34)		30	褐灰	南比企	刻書「×」又は「〆」
第345図	22	149	須恵器	坏	130	85	39		25	オリーブ灰	南比企	
第345図	23	149	須恵器	坏	—	72	26		40	にぶい赤褐	南比企	
第345図	24	149	須恵器	坏	—	68	(8)		15	灰白	南比企	
第345図	25	149	土師器	甕	124	—	(70)		20	にぶい橙	利根川水系	
第345図	26	149	土師器	甕	207	—	48		20	にぶい褐	利根川水系	
第345図	27	150	土師器	坏	126	82	(26)		10	橙	利根川水系	
第345図	28	150	土師器	坏	126	96	(25)		20	にぶい橙	利根川水系	
第345図	29	150	土師器	坏	140	—	(30)		20	にぶい赤褐	利根川水系	
第345図	30	150	須恵器	坏	—	70	(25)		15	灰白	南比企	
第345図	31	150	須恵器	坏	—	65	(19)		20	灰	南比企	
第345図	32	150	須恵器	坏	—	60	(22)		10	灰	南比企	
第345図	33	150	須恵器	坏	128	73	34		20	灰白	末野	
第345図	34	150	須恵器	坏	123	74	30		25	灰白	末野	
第346図	1	150	須恵器	坏	127	78	34		15	にぶい黄橙	新治	
第346図	2	150	須恵器	坏	121	66	33		10	灰白	末野	
第346図	3	150	土師器	甕	124	—	(57)		10	にぶい橙	ローム台地の粘土	
第346図	4	150	石製品	砥石	—	—	—		100	—	—	
第346図	5	151	土師器	坏	130	188	(31)		20	明黄褐	利根川水系	
第346図	6	151	土師器	坏	120	87	(23)		10	にぶい橙	利根川水系	
第346図	7	151	須恵器	蓋	170	—	(26)		5	灰白	末野	
第346図	8	151	須恵器	坏	127	73	35		20	青灰	南比企	
第346図	9	151	須恵器	坏	—	74	(20)		10	灰	東金子	
第346図	10	151	須恵器	高台付埦	—	60	(15)		10	灰	南比企	
第346図	11	151	土師器	甕	100	—	(50)		10	にぶい橙	利根川水系	
第346図	12	151	土師器	台付甕	—	—	(91)		20	にぶい橙	利根川水系	
第346図	13	151	土師器	甕	209	—	(58)		10	明褐灰	利根川水系	
第346図	14	151	石製品	砥石	—	—	—		—	—	—	
第346図	15	151	鉄製品	棒状鉄製品	—	—	—		—	—	—	
第346図	16	152	土師器	須恵器坏身模倣坏	125	—	(26)	134	10	橙	利根川水系	
第346図	17	152	土師器	坏	128	—	(18)		10	橙	利根川水系	
第346図	18	152	土師器	内湾口縁坏	122	—	(23)		10	橙	利根川水系	
第346図	19	152	土師器	北島型暗文土器	—	60	(19)		10	橙	利根川水系	
第346図	20	152	土師器	坏	190	64	40		20	橙	利根川水系	

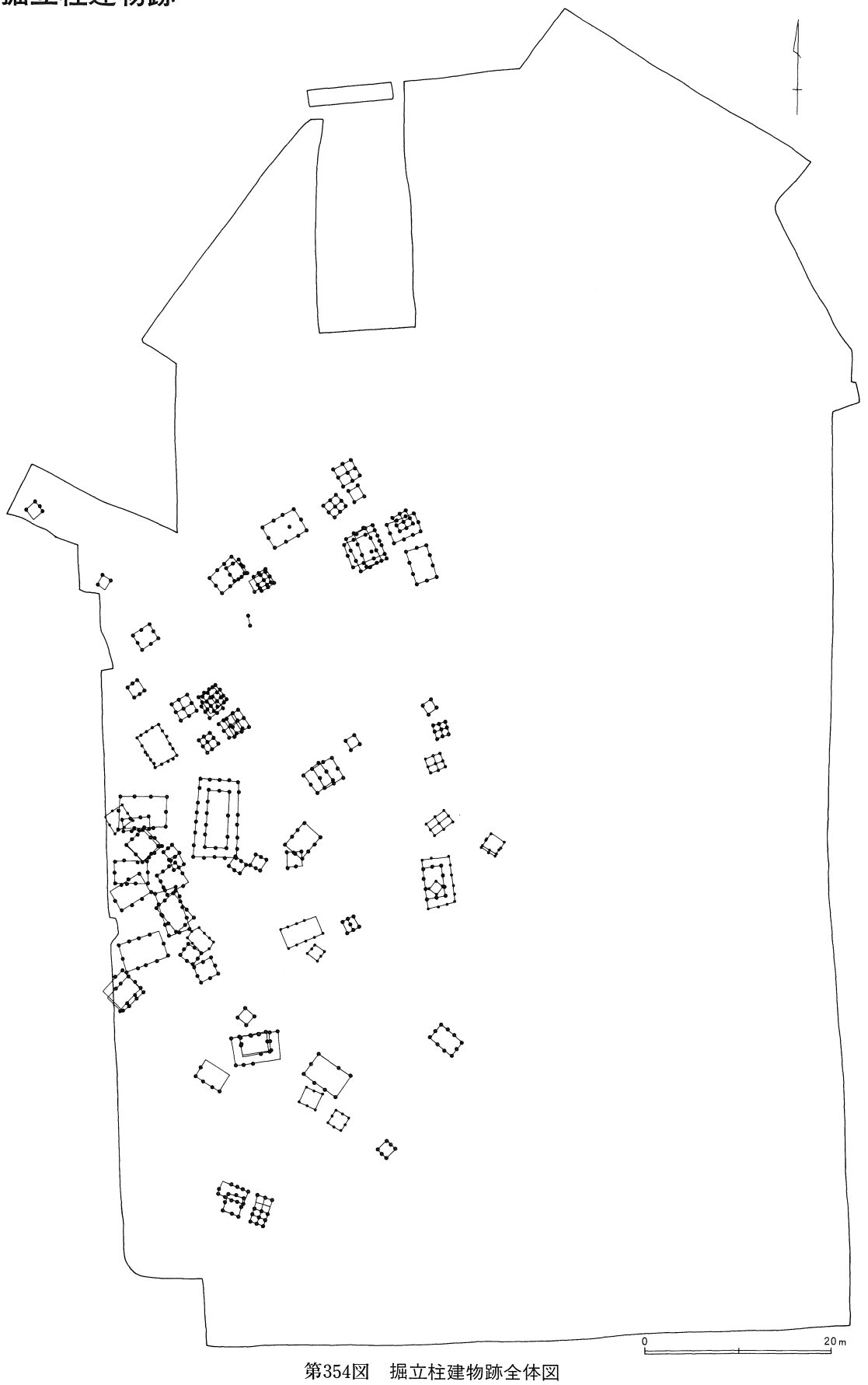
挿図番号	図の番号	遺構番号	種別	器種	口径	底径	器高	最大径	残存率	色調	産地	備考
第346図	21	152	土師器	長胴甕	240	—	(37)		10	浅黄橙	利根川水系	
第346図	22	153	土師器	内湾口縁坏	130	61	31		10	橙	利根川水系	
第346図	23	153	土師器	坏	120	73	24		10	にぶい黄橙	利根川水系	
第346図	24	153	土師器	坏	120	100	20		10	橙	利根川水系	
第346図	25	153	須恵器	蓋	—	118	(13)		5	灰	末野	
第346図	26	153	須恵器	坏	—	76	(6)		20	灰	南比企	
第346図	27	153	須恵器	坏	—	69	(21)		10	灰	東金子	刻書「川」あるいは「卅(三〇)」
第346図	28	153	須恵器	高台付埦	140	80	47		60	灰白	末野	
第347図	1	153	土師器	甕	191	—	225		30	にぶい橙	利根川水系	
第347図	2	153	土師器	甕	199	—	150		20	にぶい橙	利根川水系	
第347図	3	153	土師器	甕	219	—	(87)		10	にぶい橙	利根川水系	
第347図	4	154	土師器	北島型暗文土器	130	—	50		50	橙	利根川水系	
第347図	5	155	土師器	坏A	149	64	40		50	にぶい橙	利根川水系	
第347図	6	155	土師器	坏A	126	—	31		60	にぶい橙	利根川水系	
第347図	7	155	須恵器	坏	133	64	37		50	褐灰	末野	
第347図	8	155	土師器	甕	197	42	280		90	にぶい橙	利根川水系	
第347図	9	155	土師器	甕	202	45	266		90	橙	利根川水系	
第347図	10	155	土師器	甕	275	—	(50)		10	橙	利根川水系	
第347図	11	156	土師器	坏	111	—	(22)		10	橙	利根川水系	
第347図	12	156	土師器	内湾口縁坏	120	75	(36)		10	にぶい黄橙	利根川水系	
第347図	13	156	土師器	坏	127	—	(27)		10	にぶい橙	利根川水系	
第347図	14	156	須恵器	蓋	180	—	(20)		5	灰白	末野	
第347図	15	156	須恵器	坏	—	—	(8)		5	灰白	南比企	
第347図	16	156	土師器	長胴甕	220	—	(61)		10	灰	利根川水系	
第347図	17	157	須恵器	坏	—	60	(21)		5	褐灰	利根川水系	
第347図	18	157	須恵器	高台付埦	—	60	(16)		15	明褐灰	末野	
第347図	19	157	須恵器	高台付埦	—	73	(19)		15	にぶい褐	末野	
第347図	20	157	黒色土器	高台付埦	—	80	(17)		5	橙	利根川水系	
第347図	21	157	土師質土器	高台付埦	135	88	54		25	浅黄橙	利根川水系	
第347図	22	157	須恵器	長頸壺	—	134	(55)		30	灰	末野	
第348図	1	158	須恵器	坏	98	39	39		30	浅黄橙	利根川水系	
第348図	2	158	緑釉陶器	埦の片	—	—	—		5	灰白	猿投	
第348図	3	158	緑釉陶器	陶片	—	—	—		5	灰オリーブ	猿投	
第348図	4	158	緑釉陶器	陶片	—	—	—		5	灰オリーブ	猿投	
第348図	5	158	土師器	甕	133	—	(44)		20	にぶい褐	常陸南部・下総北部地域	
第348図	6	158	須恵器	鉢	272	—	(69)		5	灰	末野	
第348図	7	159	須恵器	小皿	93	50	17		20	橙	利根川水系	
第348図	8	159	須恵器	小皿	—	60	(8)		15	にぶい橙	利根川水系	
第348図	9	159	緑釉陶器	稜四片	—	—	—		5	オリーブ灰	尾北	
第348図	10	159	緑釉陶器	陶片	—	—	—		5	緑灰	猿投	
第348図	11	159	緑釉陶器	陶片	—	—	—		5	緑灰	猿投	
第348図	12	159	緑釉陶器	稜四片	—	—	—		5	緑灰	猿投	
第348図	13	159	土師器	甕	199	—	(80)		10	黄橙	利根川水系	
第348図	14	159	土師器	羽釜	175	—	81	216	20	にぶい黄褐	利根川水系	
第348図	15	159	鉄製品	不明鉄製品	—	—	—		—	—	—	
第348図	16	159	鉄製品	鉄鏃	—	—	—		—	—	—	
第348図	17	161	土師器	有段口縁坏	125	—	(42)		30	橙	利根川水系	

挿図番号	図の番号	遺構番号	種別	器種	口径	底径	器高	最大径	残存率	色調	産地	備考
第348図	18	161	土師器	長胴甕	210	—	210		40	にぶい橙	利根川水系	
第348図	19	162	土師器	須恵器坏蓋模倣坏	123	—	(28)		10	橙	利根川水系	
第348図	20	162	土師器	内屈口縁坏	100	—	(31)		40	橙	利根川水系	
第348図	21	162	土師器	内屈口縁坏	130	—	(35)		20	橙	利根川水系	
第348図	22	162	土師器	長胴甕	223	—	(126)		30	にぶい橙	利根川水系	
第348図	23	162	土師器	鉢	290	—	(68)		10	褐灰	比企・入間	
第348図	24	163	土師器	坏A	115	—	(33)		60	にぶい橙	ローム台地の粘土	
第348図	25	163	須恵器	坏	124	63	35		60	灰	利根川水系	
第348図	26	163	須恵器	坏	127	76	37		10	灰	南比企	墨書「綱」
第348図	27	163	須恵器	坏	126	56	37		30	暗青灰	南比企	
第348図	28	163	須恵器	坏	—	70	(8)		30	灰	南比企	
第348図	29	163	黒色土器	蓋	—	—	(13)		5	にぶい橙	利根川水系	
第348図	30	163	土師器	甕	214	—	(59)		5	にぶい赤褐	利根川水系	
第349図	1	164	土師器	須恵器坏蓋模倣坏	113	—	(39)		10	浅橙	利根川水系	
第349図	2	164	土師器	内屈口縁坏	102	—	(32)		100	橙	利根川水系	
第349図	3	164	土師器	内屈口縁坏	147	—	(31)		20	橙	利根川水系	
第349図	4	164	土師器	北島型暗文土器	145	—	(36)		20	橙	利根川水系	
第349図	5	164	土師器	北島型暗文土器	133	—	(43)		10	にぶい橙	利根川水系	
第349図	6	164	須恵器	蓋	130	102	(31)		5	暗緑灰	南比企	
第349図	7	164	須恵器	蓋	104	—	(30)		5	明褐灰	湖西	
第349図	8	164	土師器	甕	130	—	185	182	50	明褐灰	利根川水系	
第349図	9	164	土師器	甑	120	63	(42)		30	にぶい橙	利根川水系	
第349図	10	165	土師器	羽釜	213	—	(69)	251	20	明褐灰	利根川水系	
第349図	11	166	須恵器	蓋	—	81	(24)		5	灰白	南比企	
第349図	12	167	土師器	坏A	132	92	33		80	にぶい橙	利根川水系	
第349図	13	167	須恵器	蓋	—	76	(13)		10	灰白	南比企	
第349図	14	168	土師器	有段口縁坏	130	—	(37)		10	にぶい茶	利根川水系	
第349図	15	168	土師器	須恵器坏身模倣坏	123	—	(54)	130	30	灰黄褐	利根川水系	
第349図	16	168	土師器	長胴甕	220	—	(59)		20	橙	利根川水系	
第349図	17	168	土師器	長胴甕	214	—	(96)		10	浅黄橙	利根川水系	
第349図	18	168	須恵器	壺	118	119	(30)		5	灰	湖西	
第349図	19	170	土師器	内湾口縁坏	142	—	34		60	橙	利根川水系	
第349図	20	170	土師器	内湾口縁坏	133	—	36		60	橙	利根川水系	
第349図	21	170	土師器	坏	128	—	29		10	黄橙	利根川水系	
第349図	22	170	土師器	甕	222	—	(144)		10	橙	利根川水系	
第349図	23	170	土師器	甕	230	—	(67)		20	にぶい褐	利根川水系	
第349図	24	171	土師器	甕	200	—	(52)		10	にぶい赤褐	利根川水系	
第349図	25	173	土師器	坏A	130	—	(33)		10	橙	利根川水系	
第349図	26	173	土師器	坏A	130	—	(31)		10	明褐	利根川水系	
第349図	27	174	土師器	内屈口縁坏	114	—	(30)		20	橙	ローム台地の粘土	
第349図	28	174	土師器	北島型暗文土器	141	—	52		20	灰黄褐	利根川水系	
第349図	29	174	須恵器	蓋	120	83	(20)		5	灰	末野	
第349図	30	177	土師器	内湾口縁坏	125	—	(43)		20	橙	利根川水系	
第349図	31	177	土師器	内湾口縁坏	137	—	(45)		20	橙	利根川水系	
第349図	32	177	土師器	鉢	178	—	(47)		20	にぶい橙	利根川水系	
第350図	1	177	土師器	長胴甕	206	—	263		20	橙	利根川水系	
第350図	2	177	土師器	長胴甕	214	—	(75)		10	橙	利根川水系	

挿図番号	図の番号	遺構番号	種別	器種	口径	底径	器高	最大径	残存率	色調	産地	備考
第350図	3	178	土師器	坏B	122	63	42		100	にぶい橙	利根川水系	
第350図	4	178	須恵器	坏	125	58	39		90	灰	末野	
第350図	5	178	須恵器	坏	119	62	(9)		20	明褐灰	末野	
第350図	6	178	須恵器	坏	123	59	44		50	灰褐	末野	
第350図	7	178	須恵器	高台付埦	119	62	(35)		50	灰白	末野	
第350図	8	178	須恵器	高台付埦	119	67	(21)		25	にぶい橙	末野	
第350図	9	178	緑釉陶器	皿	—	67	(25)		10	緑灰	猿投・K90	
第350図	10	178	須恵器	長頸壺	—	—	(90)		10	暗青灰	末野	
第350図	11	178	鉄製品	不明鉄製品	—	—	—		—	—	—	
第350図	12	179	土師器	有段口縁坏	120	—	42		40	橙	利根川水系	
第350図	13	179	土師器	皿	147	—	40		100	浅黄橙	利根川水系	
第350図	14	179	土師器	甕	191	—	(37)		10	にぶい橙	利根川水系	
第350図	15	181	須恵器	坏	124	57	32		40	灰黄	南比企	
第350図	16	181	須恵器	坏	—	62	(19)		10	灰	末野	
第350図	17	181	須恵器	坏	—	60	(6)		5	灰	末野	墨書「土」
第350図	18	181	須恵器	高台付埦	—	82	(20)		10	灰白	末野	
第350図	19	181	須恵器	高台付皿	136	73	25		55	灰	末野	
第350図	20	181	黒色土器	坏	—	56	(9)		10	にぶい黄橙	末野	
第350図	21	181	土師器	甕	217	—	(85)		10	橙	利根川水系	
第350図	22	181	土師器	甕	220	—	(61)		10	橙	利根川水系	
第350図	23	181	須恵器	紡錘車	上56	下55	高9	孔径8	95	オリーブ灰	南比企	
第350図	24	182	須恵器	坏	—	88	(22)		20	灰	南比企	
第350図	25	182	須恵器	坏	—	111	(9)		20	灰白	南比企	
第350図	26	183	土師質土器	埦	118	59	39		15	にぶい黄橙	利根川水系	
第350図	27	183	須恵器	高台付埦	130	59	56		30	灰	末野	
第350図	28	183	須恵器	高台付埦	—	65	(20)		10	灰白	利根川水系	
第351図	1	183	須恵器	高台付埦	—	60	30		30	浅黄	末野	
第351図	2	183	灰釉陶器	埦	—	75	(23)		10	灰白	浜北・O53	
第351図	3	183	緑釉陶器	埦	181	—	(38)		5	明緑灰	猿投・K90	
第351図	4	183	緑釉陶器	稜皿	147	73	33		60	オリーブ灰	猿投・K90	
第351図	5	183	緑釉陶器	稜皿	141	—	(14)		5	オリーブ灰	猿投・K90	
第351図	6	183	緑釉陶器	皿	—	79	(16)		5	灰オリーブ	猿投・K90	
第351図	7	183	緑釉陶器	皿片	—	—	—		5	灰オリーブ	猿投	
第351図	8	183	緑釉陶器	埦片	—	—	—		5	灰白	猿投	
第351図	9	183	緑釉陶器	陶片	—	—	—		5	灰白	猿投	
第351図	10	183	土師器	甕	192	40	238		80	浅黄橙	利根川水系	
第351図	11	183	土師器	甕	188	—	(90)		40	橙	利根川水系	
第351図	12	183	土師器	甕	24	—	(83)		10	浅黄橙	利根川水系	
第351図	13	183	鉄製品	毛抜形鉄製品	—	—	—		—	—	—	
第351図	14	184	土師器	坏B	119	58	40		30	にぶい橙	利根川水系	
第351図	15	184	土師器	坏B	125	44	45		100	にぶい黄橙	利根川水系	
第351図	16	184	土師器	高台付埦	151	78	(60)		100	浅黄橙	利根川水系	
第351図	17	184	須恵器	高台付埦	—	61	(22)		20	灰	末野	
第351図	18	184	灰釉陶器	皿	—	71	(15)		5	灰	東遠江・K90	
第351図	19	184	緑釉陶器	輪花	185	94	77		90	オリーブ灰	猿投・K91	
第351図	20	184	緑釉陶器	稜皿	—	—	—		5	オリーブ灰	尾北	
第351図	21	184	緑釉陶器	稜皿	—	—	—		5	灰オリーブ	尾北	

挿図番号	図の番号	遺構番号	種別	器種	口径	底径	器高	最大径	残存率	色調	産地	備考
第351図	22	184	緑釉陶器	稜皿	—	—	—		5	オリーブ灰	尾北	
第351図	23	184	須恵器	長頸瓶	—	100	(31)		5	黄灰	末野	
第351図	24	184	須恵器	大甕	457	—	(114)		5	灰	末野	
第352図	1	184	須恵器	大甕	—	—	—		5	外→灰 中→橙	末野	
第352図	2	184	須恵器	大甕	—	186	(84)		5	灰	末野	
第352図	3	184	鉄製品	刀子	—	—	—		—	—	—	
第352図	4	185	須恵器	甕	—	—	(67)		25	灰白	秋間	
第352図	5	185	石製品	砥石	—	—	—		—	—	—	
第352図	6	186	須恵器	坏	114	63	35		50	浅黄	利根川水系	
第352図	7	186	須恵器	高台付埦	125	64	47		70	灰白	利根川水系	
第352図	8	186	土師器	甕	220	—	(115)		5	にぶい黄橙	利根川水系	
第352図	9	186	土師器	甑	—	128	38		5	にぶい黄橙	利根川水系	
第353図	1	186	須恵器	壺	—	147	(105)		5	灰白	末野	
第353図	2	187	土師器	内湾口縁坏	105	—	(30)		5	橙	利根川水系	
第353図	3	187	土師器	北島型暗文土器	158	—	(17)		10	明褐灰	利根川水系	黒色処理
第353図	4	188	土師器	皿	132	65	(21)		90	にぶい橙	利根川水系	
第353図	5	188	須恵器	坏	130	55	36		70	灰	末野	
第353図	6	188	須恵器	坏	117	—	(31)		50	明褐灰	末野	
第353図	7	188	須恵器	坏	139	—	(34)		10	暗灰	末野	
第353図	8	188	須恵器	坏	—	50	(27)		20	灰	末野	
第353図	9	188	須恵器	皿	130	63	25		10	灰	南比企	
第353図	10	188	須恵器	高台付埦	148	—	46		20	黒	南比企	
第353図	11	188	須恵器	高台付埦	134	—	43		50	灰	末野	
第353図	12	188	土師器	甕	199	—	(108)		20	にぶい褐	利根川水系	
第353図	13	188	土師器	甕	182	—	(61)		20	にぶい橙	利根川水系	
第353図	14	188	土師器	台付甕	—	100	(72)		10	にぶい橙	利根川水系	
第353図	15	188	石製品	砥石	—	—	—		—	—	—	
第353図	16	188	鉄製品	棒状鉄製品	—	—	—		—	—	—	
第353図	17	189	土師器	内湾口縁坏	100	—	(24)		10	にぶい黄橙	利根川水系	
第353図	18	189	須恵器	坏	—	69	(11)		5	灰白	末野	墨書「□」
第353図	19	190	須恵器	蓋	—	—	(9)		5	灰	南比企	
第353図	20	190	緑釉陶器	稜皿	—	—	—		5	灰オリーブ	尾北	

2．掘立柱建物跡



第354図　掘立柱建物跡全体図

概　　要

北島遺跡第19地点では、77棟の掘立柱建物跡を検出した。掘立柱建物跡の分布は、調査区中央の谷部より西側に限られる。とくに調査区西側の区画溝によって区切られたブロックで集中的に建てられていた。

検出した建物は、規模や形態に基づいて、以下のように分類することが可能である。

(1)　5間×2間の身舎に四面庇が付く
　　第36号掘立柱建物跡

(2)　3間×2間の身舎に三面庇が付く
　　第52・68号掘立柱建物跡

(3)　5間×4間の身舎のみ
　　第21号掘立柱建物跡

(4)　4間×2間の身舎のみ
　　第55・56・58・74号掘立柱建物跡

(5)　3間×3間の身舎のみ
　　第46・47・63号掘立柱建物跡

(6)　3間×2間の身舎のみ
　　第4・6・7・8・10・11・13・16・24・34・37・42・45・48・54・59・66・67・69・70・71号掘立柱建物跡

(7)　2間×2間の身舎のみ
　　第14・15・17・23・31・32・35・38・39・40・41・43・60・61・73・75号掘立柱建物跡

(8)　2間×1間の身舎のみ
　　第3・19・44・49・50・57・62・72・78号掘立柱建物跡

(9)　1間×1間の身舎のみ
　　第2・12・28・29・53・65号掘立柱建物跡

(10)　3間×2間の総柱建物
　　第22・24号掘立柱建物跡

(11)　2間×2間の総柱建物
　　第1・5・9・20・25・26・27・30・33・38・76・77号掘立柱建物跡

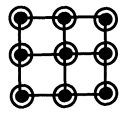
(12)　門跡
　　第18・51号掘立柱建物跡

ただし各建物は、柱間寸法も疎らであるため、間面記載法によって分類された建物群であっても建物の床面積は一定しない。

北島遺跡19地点の掘立柱建物跡は、概して遺構確認が困難で、また重複も激しかった。ただし調査終了後、図上復元した掘立柱建物跡は、極めて少ない。なお図上復元を行った掘立柱建物跡は、その旨記しておいた。

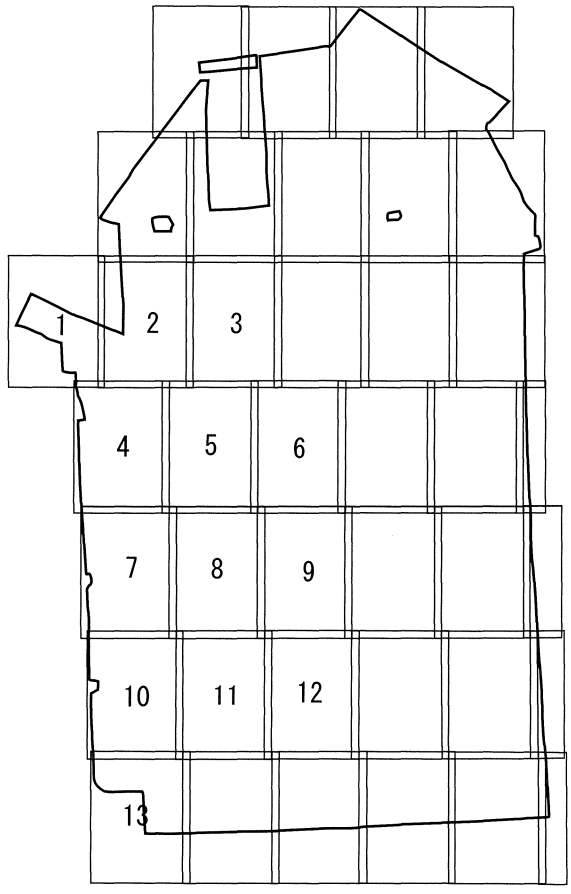
(1)　遺　　構

第1号掘立柱建物跡

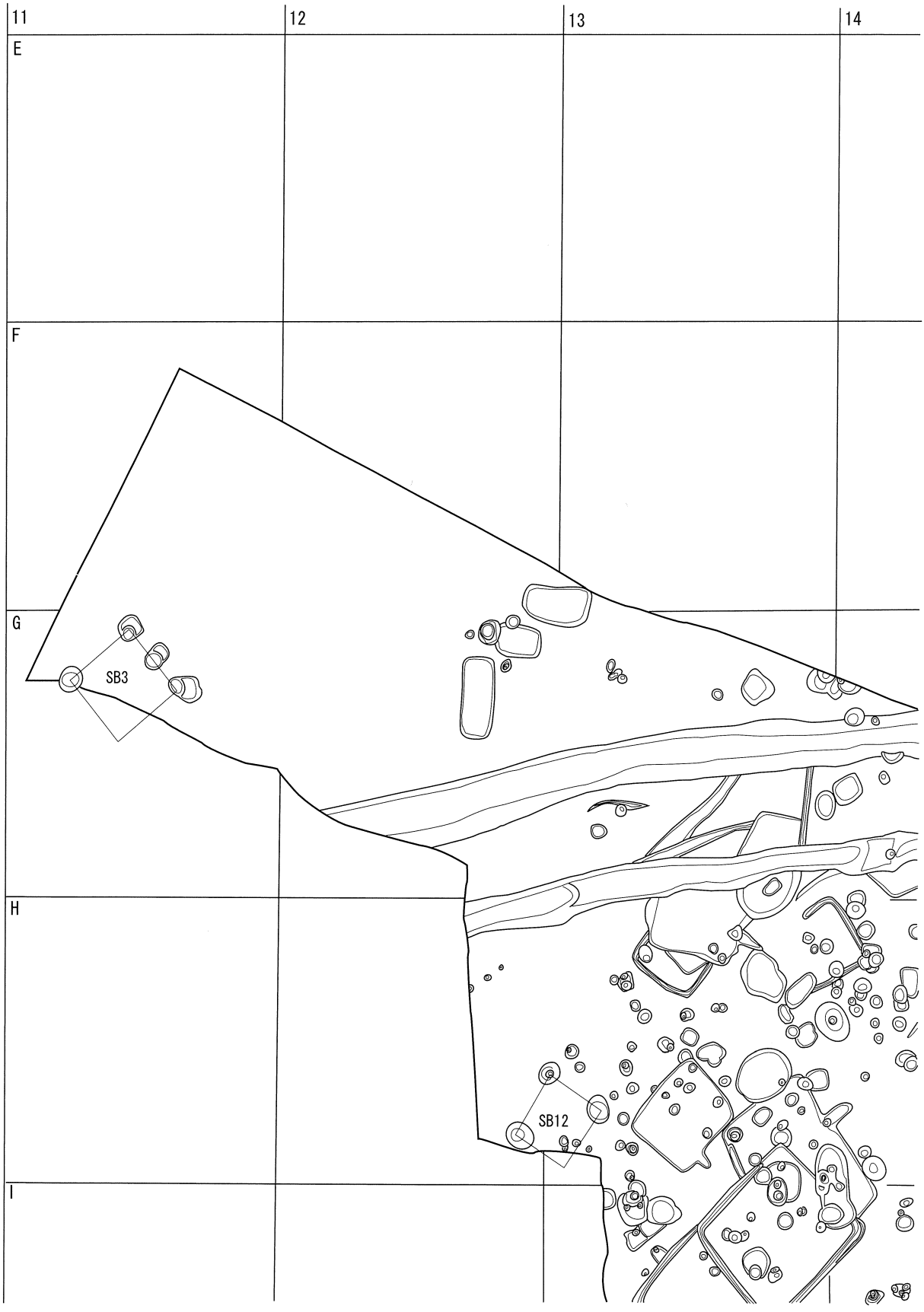


桁行2間×梁間2間の総柱の建物である。

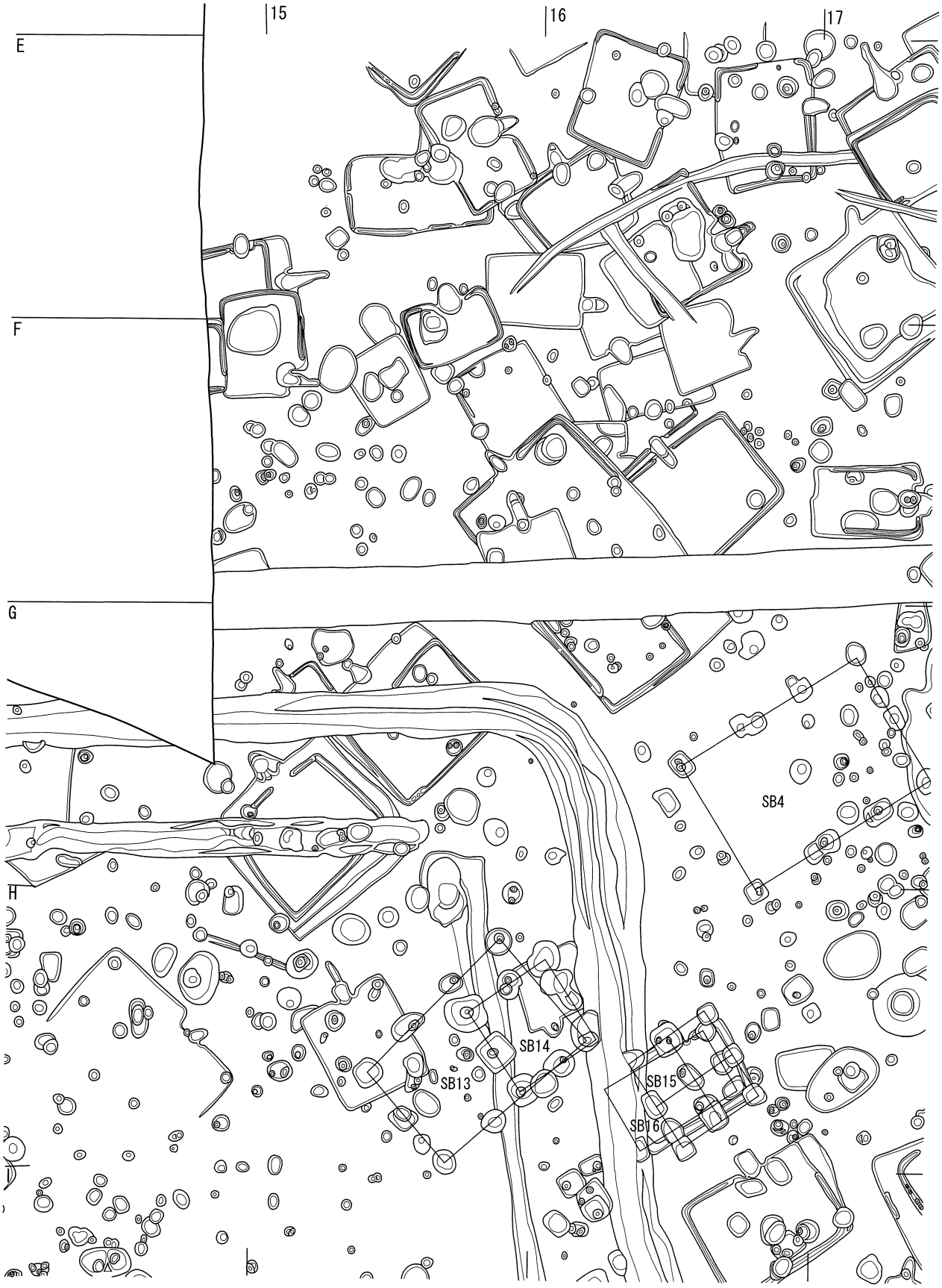
側柱の柱穴は、隅丸方形の掘り方で底面を揃えていた。中央の柱穴は、やや小さく、柱痕跡も深くまでみられない。このことから床束の可能性も考慮すべきであろう。



第355図　掘立柱建物跡全体区割図

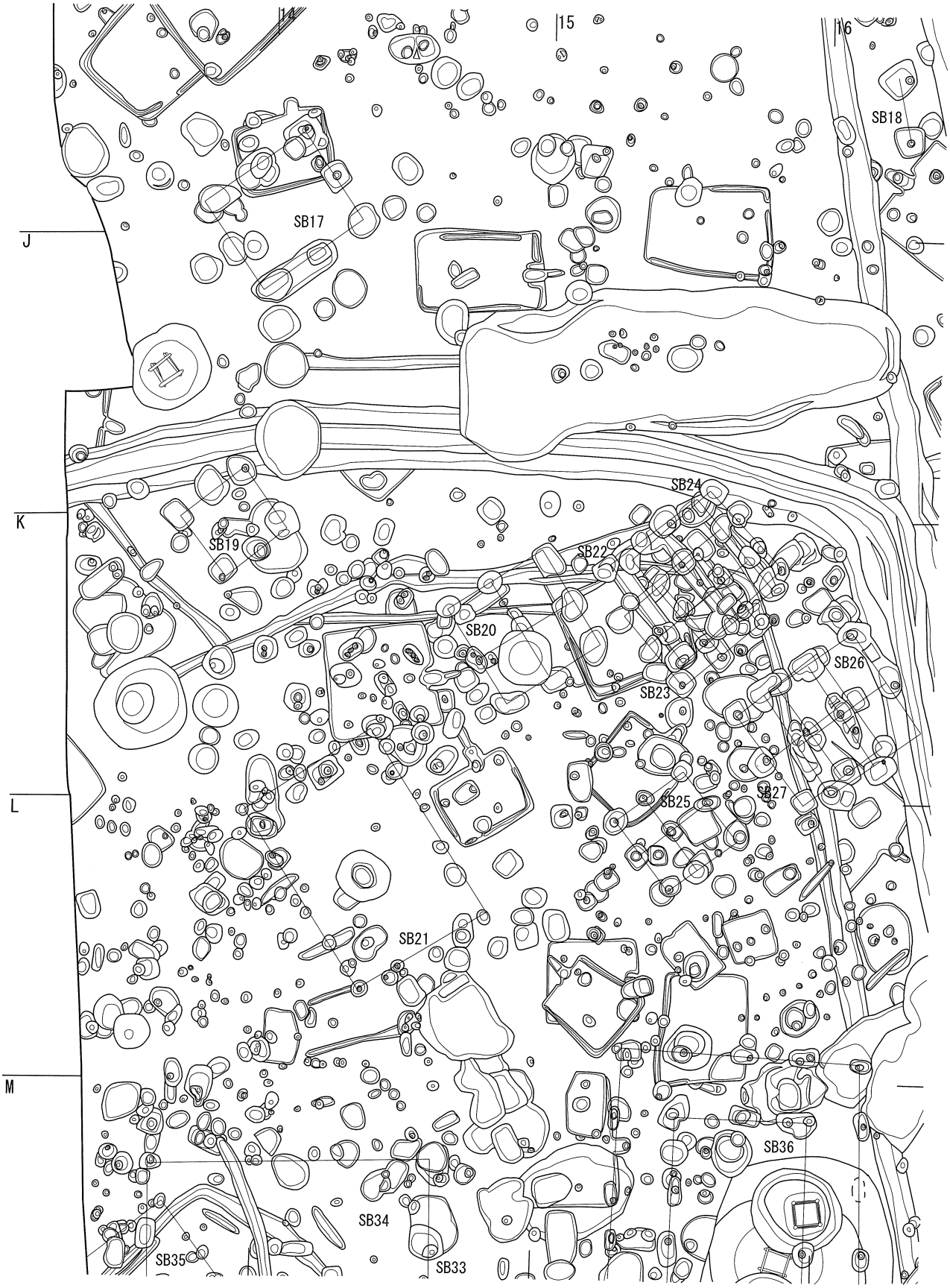


第356図　掘立柱建物跡全体図(1)



第357図　掘立柱建物跡全体図(2)

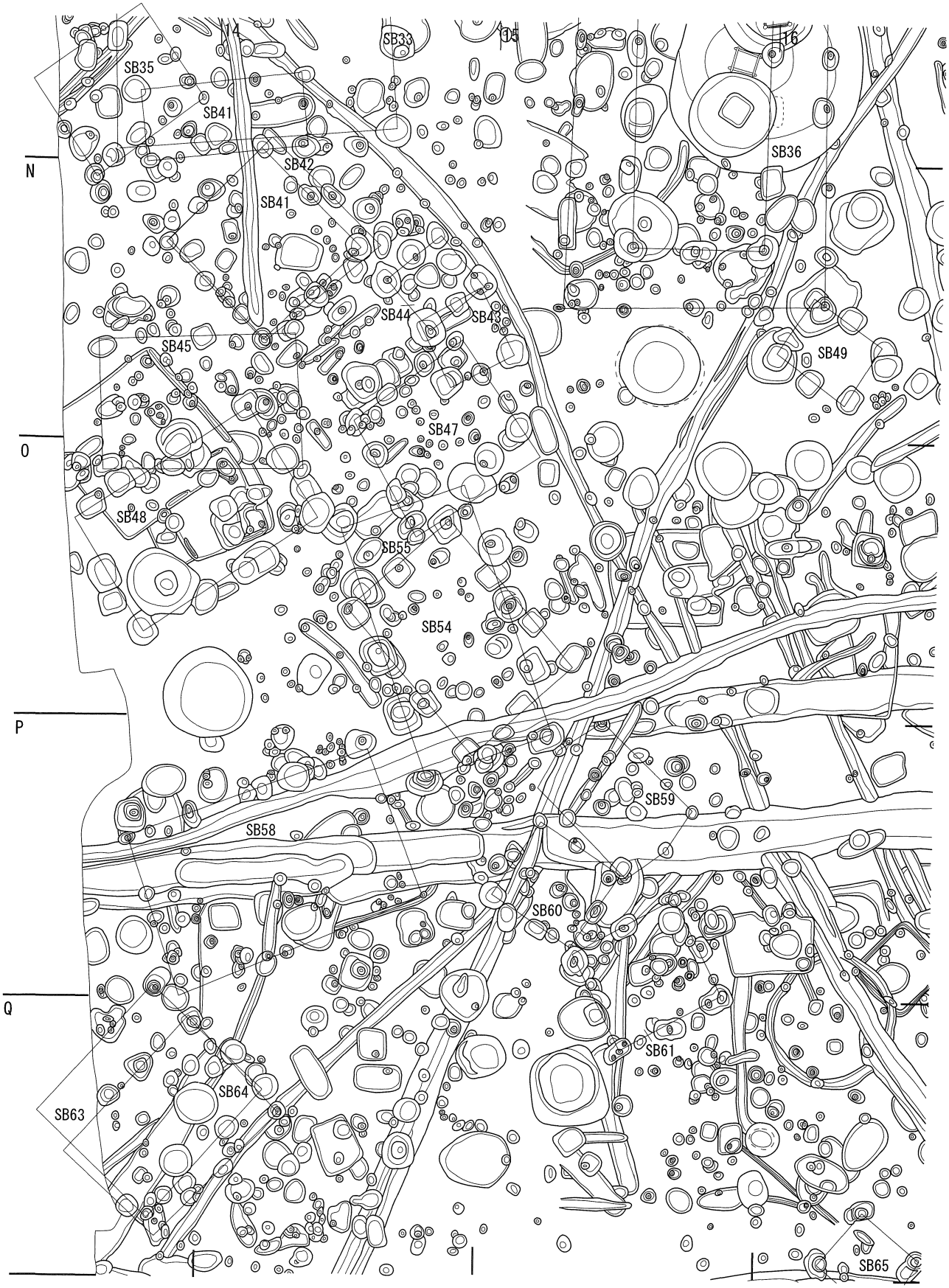
第358図　掘立柱建物跡全体図(3)



第359図　掘立柱建物跡全体図(4)

第360図　掘立柱建物跡全体図(5)

第361図　掘立柱建物跡全体図(6)

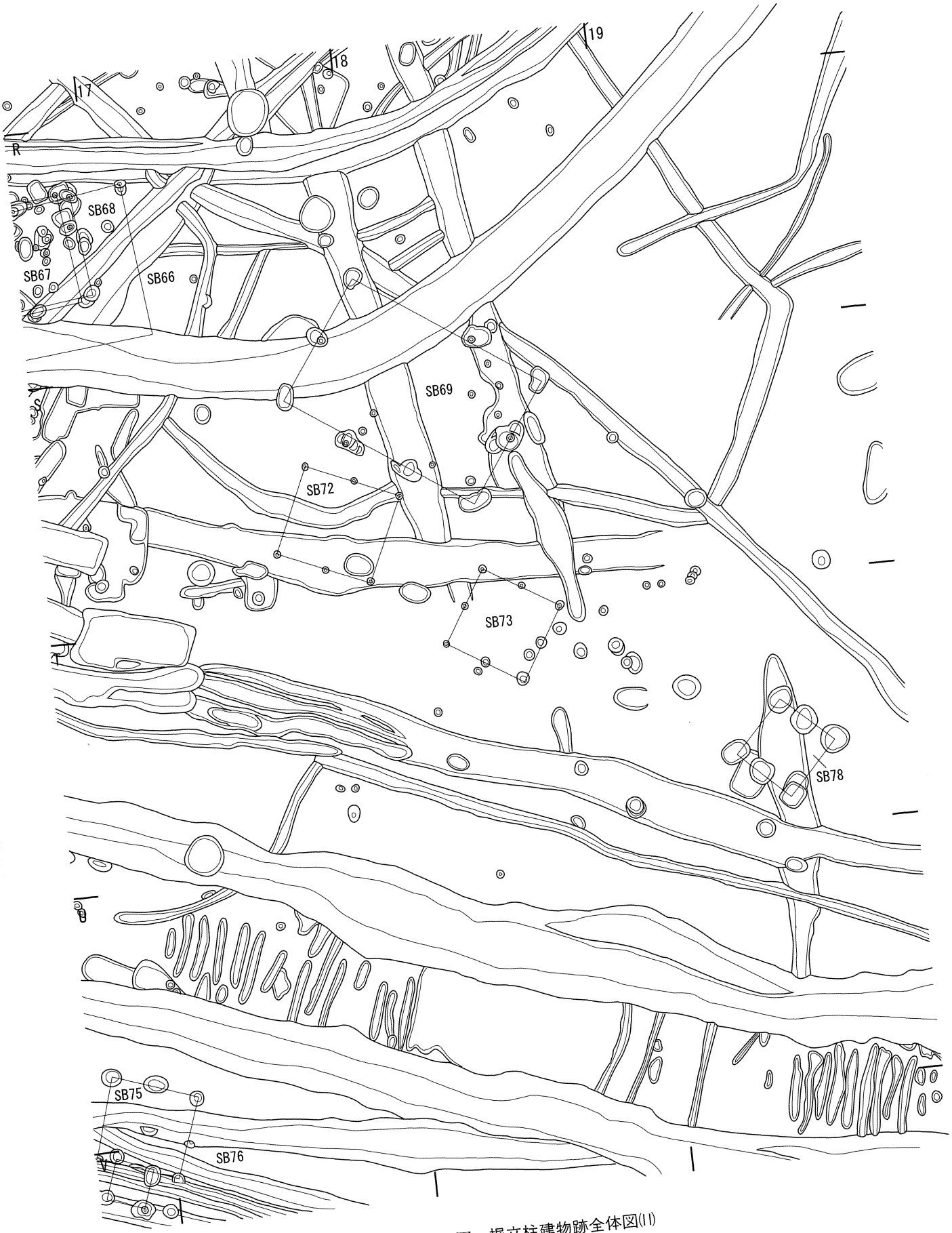


第362図　掘立柱建物跡全体図(7)

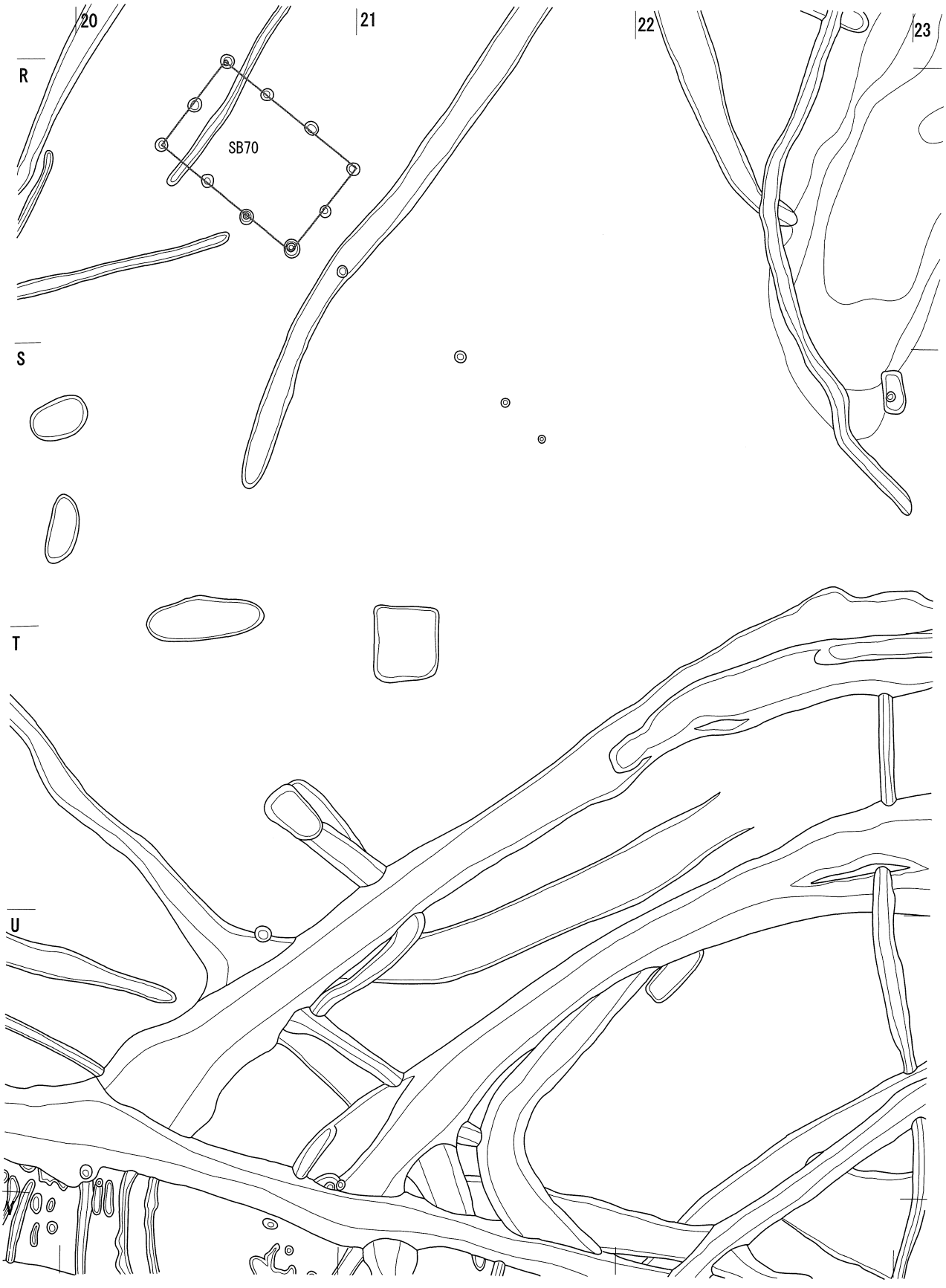
第363図　掘立柱建物跡全体図(8)

第364図　掘立柱建物跡全体図(9)

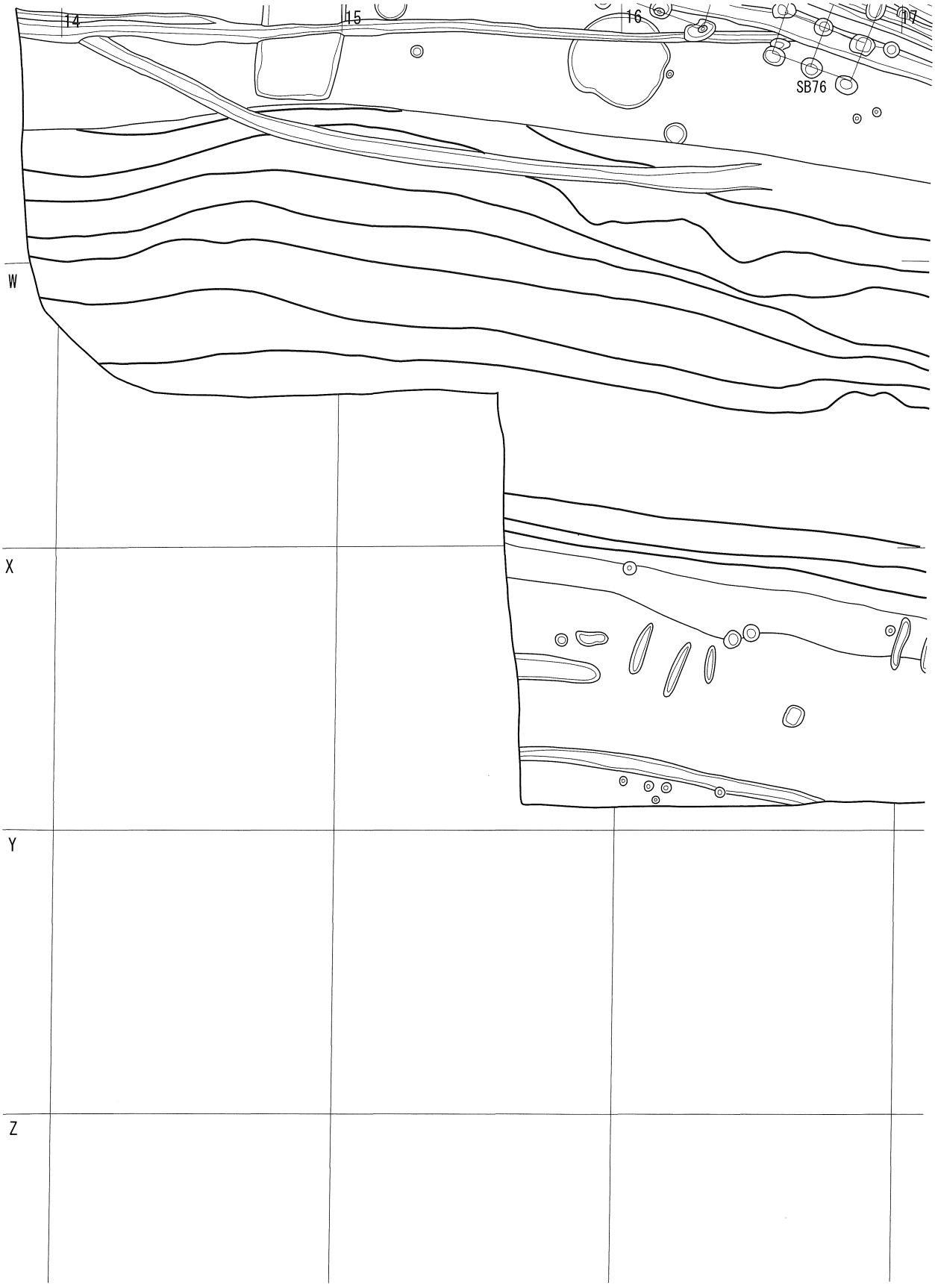
第365図　掘立柱建物跡全体図(10)



第366図　掘立柱建物跡全体図(11)



第367図　掘立柱建物跡全体図(12)



第368図　掘立柱建物跡全体図(13)

掘立柱建物跡一覧

番号	グリッド	棟方向	間面	梁間数	梁間距離(m)	桁行数	桁行距離(m)	時期
1	F17・18	N－30°－W	2間倉	2	1.9＋2.14	2	2.04＋2.3	8C前
2	FG18	N－32°－W	1間	1	2.46	1	2.5	7C後
3	G11	N－42°－W	2間	1	2.68	2	1.34＋1.26	7C後
4	G16・17・H16	N－58°－E	3間	2	2.7＋2.36	3	2.2＋2.24＋2.82	8C前
5	F・G17・18	N－44°－W	2間倉	2	1.72＋1.74	2	1.8＋1.8	8C後
6	G18・H18・19	N－30°－W	3間	2	2.44＋2.44	3	2.5＋2.5＋2.4	8C前
7	G・H18・19	N－67°－E	3間	2	2.46＋2.56	3	2.5＋2.42＋2.44	7C後
8	G・H18・19	N－26°－W	3間	2	2.26＋2.3	3	2.46＋2.46＋2.66	8C後
9	G19	N－29°－W	2間倉	2	1.78＋1.4	2	1.54＋1.7	8C前
10	G19	N－68°－E	3間	2	2.08＋2.22	3	1.9＋2.2＋2.26	7C後
11	G19・H19・20	N－19°－W	3間	2	2.36＋2.2	3	2.5＋2.34＋2.4	9C後
12	H12・13	N－32°－E	1間	1	2.18	1	2.4	7C後
13	H15・16	N－45°－E	3間	2	2.4＋2.4	3	2.1＋2.24＋2.3	8C後
14	H15・16	N－35°－W	2間	2	1.56＋1.7	2	1.74＋1.6	8C前~8C後
15	H16	N－35°－W	2間	2	1.7＋1.56	2	1.76＋1.78	7C後
16	H16	N－65°－E	3間	2	1.3＋1.12	3	1.38＋1.22＋1.4	不詳
17	I・J13・14	N－38°－W	2間	2	1.9＋1.84	2	2.0＋1.9	8C前
18	I16	N－5°－W	1間	1	2.24			9C後
19	J・K13・14	N－53°－E	2間	1	2.7	2	1.3＋1.5	8C前
20	J・K14・15	N－33°－W	2間倉	2	1.8＋2.16	2	2.1＋1.9	8C前
21	K14L13・14	N－34°－W	5間	4	1.1＋1.34＋1.54＋1.44	5	1.76＋1.64＋1.5＋1.1＋1.74	8C前
22	J・K15	N－39°－W	3間倉	2	1.34＋2.46	3	1.42＋1.46＋1.36	8C前
23	J・K15	N－49°－E	2間	2	1.3＋2.1	2	1.8＋1.66	7C後
24	J・K15	N－42°－W	3間倉	2	1.86＋1.8	3	1.48＋1.3＋1.1	不詳
25	K・L15	N－50°－E	2間倉	2	1.53＋1.62	2	1.53＋1.69	8C前
26	L15・16	N－33°－W	2間倉	2	1.9＋1.94	2	2.2＋2.8	8C前
27	L15・16	N－37°－W	2間倉	2	1.76＋1.86	2	2.1＋2.0	不詳
28	K・L18	N－36°－W	1間	1	2.24	1	2.28	8C前
29	K19・20	N－34°－W	1間	1	2.2	1	2.3	8C前
30	K20	N－20°－W	2間倉	2	1.44＋1.36	2	1.34＋1.5	7C後
31	L・M17・18	N－34°－W	2間	2	2.7＋1.9	2	2.96＋2.0	7C後
32	L・M17・18	N－41°－W	2間	2	2.3＋2.0	2	2.6＋2.4	不詳
33	L20	N－63°－E	2間倉	2	1.76＋1.44	2	1.6＋1.88	8C前
34	K・L15	N－86°－E	3間	2	3.6＋3.0	3	3.66＋3.6＋3.2	9C後
35	M・N13	N－52°－E	2間	2	1.8＋2.44	2	2.2＋2.5	7C後
36	L・M・N15・16	N－2°－E	5間4面	2	2.4＋2.4 (北)2.24＋2.34＋2.2＋1.8 (南)2.16＋2.74＋2.32＋2.2 (西)2.38＋2.66＋2.3＋2.3＋1.38＋3.06＋2.36 (東)2.24＋(2.26)＋(2.34)＋1.96＋2.78＋2.48＋1.8	5	2.64＋1.8＋2.6＋2.2＋2.66 2.36	9C前~9C後
37	M・N17	N－40°－E	3間	2	2.4＋2.34	3	2.12＋1.94＋2.2	8C後
38	M・N20	N－52°－E	2間倉	2	1.5＋1.6	2	2.6＋2.2	7C後
39	M・N21	N－34°－E	2間	2	1.88＋1.54	2	1.58＋1.64	7C後
40	M・N21	N－34°－E	2間	2	1.94＋1.5	2	1.96＋1.76	7C後

番号	グリッド	棟方向	間面	梁間数	梁間距離(m)	桁行数	桁行距離(m)	時期
41	M14・N13・14	N—45°—W	2間	2	2.5+2.3	2	2.9+2.0	8C前
42	M14・N13・14	N—46°—E	3間	2	2.94+2.5	3	1.6+1.4+2.08	不詳
43	N14・15	N—60°—E	2間	1	2.6	2	1.5+1.0	8C後
44	N14・15	N—50°—E	2間	1	2.4	2	1.2+1.2	8C前
45	N・O13・14	N—85°—E	3間	2	2.5+2.5	3	2.76+1.7+2.3	9C後
46	N・O14・15	N—47°—E	3間	3	2.7+2.3+2.14	3	2.46+2.5+2.2	不詳
47	P・Q14・15	N—38°—W	3間	3	1.4+1.66+1.54	3	1.5+1.6+1.8	8C前
48	N・O13・14	N—57°—E	3間	2	2.42+2.4	3	3.2+1.72+2.46	8C後
49	N15・16	N—55°—E	2間	1	2.4	2	1.48+1.54	7C後
50	N16	N—60°—W	2間	1	2.6	2	1.2+1.44	不詳
51	N17	N—84°—E	1間	2	3.26	1	1.32+1.94	9C前~9C後
52	N・O20	N—10°—W	3間3面	2	2.04+1.98 (北)2.1+1.94+1.9 (南)1.82+2.0+2.0 (東)(西)1.84+2.16+2.14+1.96+1.8	3	2.22+2.3+2.1	9C後
53	N・O20	N—41°—E	1間	1	2	1	2.19	7C後
54	P・Q14・15	N—41°—W	3間	2	2.36+2.42	3	1.8+2.6+2.4	8C後
55	O・P14・15	N—21°—W	4間	2	2.6+2.2	4	2.36+2.34+2.3+2.6	7C後
56	O・P17・18	N—65°—E	4間	2	(2.1)+(2.3)	4	1.9+2.3+1.9+2.0	8C前
57	O・P18	N—31°—W	2間	1	2.9	2	1.3+1.44	7C後
58	P13・14・Q13	N—67°—E	4間	2	3.04+2.98	4	2.7+2.52+1.9+2.3	7C後
59	P15	N—45°—W	3間	2	1.6+1.8	3	1.7+1.5+1.36	8C前
60	P14・15	N—60°—W	2間倉	2	1.7+1.78	2	1.82+1.74	不詳
61	P・Q15	N—62°—E	2間	2	1.86+2.06	2	2.24+1.94	8C後
62	P17・18	N—41°—E	2間	1	2.56	2	1.26+1.24	7C後
63	P13・Q13・14	N—42°—E	3間	3	2.02+2.0+1.58	3	2.06+2.32+1.78	8C後
64	Q13・14	N—47°—E	3間	2	1.96+2.56	3	2.26+1.9+1.8	8C前
65	Q・R16	N—39°—E	1間	1	2.56	1	2.26	7C後
66	R16	N—81°—E	3間	2	1.96+2.0	3	2.44+2.02+2.28	9C前~9C後
67	R16	N—80°—E	3間	2	2.0+2.3	3	2.2+1.6+2.32	9C前~9C後
68	R16・17	N—10°—W	3間3面	2	2.02+1.96 (東)(2.08)+(2.04)+(1.76) (南)(2.44)+(2.0)+(2.2)+2.08+1.74 (西)(1.94)+(1.66)+2.3	3	2.2+2.04+2.24	9C後
69	R・S17・18	N—55°—W	3間	2	2.84+2.82	3	2.9+2.66+2.9	8C前
70	Q20・R20・21	N—51°—W	3間	2	1.9+1.86	3	1.8+2.0+2.08	8C前
71	R15・S15・16	N—58°—W	3間	2	1.9+(2.3)	3	2.16+2.0+1.9	8C前
72	S17・18	N—67°—W	2間	1	3.6	2	2.0+1.84	8C後
73	S・T18	N—60°—W	2間	2	1.68+1.58	2	1.7+1.66	8C後
74	U15・16	N—66°—W	4間	2	1.16+1.74	4	1.76+1.6+1.1+1.5	8C後
75	U・V15・16	N—18°—E	2間	2	1.7+1.82	2	1.9+2.1	8C前~8C後
76	U・V16・17	N—70°—W	2間倉	2	(1.7)+(1.5)	2	1.76+1.5	不詳
77	U・V・16	N—69°—W	2間倉	2	1.52+1.52	2	1.5+1.6	8C前
78	T19	N—45°—W	2間	1	2.5	2	1.24+1.44	8C前

掘り方内には、粘性の強い暗褐色土と黄褐色土が、交互に充塡され、圧密で硬質であった。柱穴の大きさは、平均すると長径0.91ｍ×短径0.81ｍ×深さ0.42ｍであり、比較的大形であった。柱痕跡は、遺構確認で明瞭に確認できた。Ｐ６・８には、柱材が残存していた。

建物は、60°東に傾いた南北棟と判断した。規模は、桁行4.34ｍ×梁間4.04ｍ（15尺×14尺：天平尺）となる。床面積は、17.5㎡である。柱間寸法は、桁行が2.04ｍ（７尺）＋2.3ｍ（８尺）、梁間は1.9ｍ（７尺）＋2.14ｍ（７尺）である。

遺構の切り合いは、第47・49号住居跡・第59号土壙より新しい。

第２号掘立柱建物跡

桁行１間×梁間１間の建物である。

柱穴は、隅丸方形の掘り方であった。遺構確認では、柱痕跡を確認できず、断面観察でも確認できなかった。抜き取り痕跡もみられなかった。覆土は、軟質な粘土で構成されていた。

柱穴の大きさは、平均すると長径0.98ｍ×短径0.87ｍ×深さ0.37ｍであり、比較的大形だが、やや浅く、建物の柱穴としては貧弱である。古代の早い段階に削平を受けていたためであろう。

建物は、32°西に傾いた南北棟である。規模は、桁行2.5ｍ×梁間2.46ｍ（７尺×７尺：高麗尺）となる。床面積は、6.15㎡である。

遺構の切り合いは、第70・71号住居跡より古い。

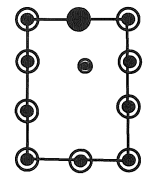
第３号掘立柱建物跡

桁行２間×梁間１間の建物と判断した。なおＰ１・Ｐ２は、検出できなかった。

柱穴は、当初、方形の掘り方と判断し、柱痕跡を探すが、確認できなかった。断面観察でも確認できなかった。柱穴の大きさは、平均すると長径0.96ｍ×短径0.79ｍ×深さ0.31ｍを測り、比較的大形であった。

建物は、42°西に傾いた南北棟と判断した。規模は、桁行2.6ｍ×梁間2.68ｍ（９尺×９尺：天平尺）となる。床面積は、6.99㎡である。柱間寸法は、桁行が1.34ｍ（５尺）＋1.26ｍ（４尺）、梁間は2.68ｍ（９尺）である。

第４号掘立柱建物跡



桁行３間×梁間２間の側柱建物である。

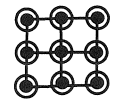
柱穴は、長方形と方形の掘り方で床面は揃っていた。掘り方内には、粘性の強い暗褐色土と黄褐色土が交互に充塡されていた。柱穴の大きさは、平均すると長径0.96ｍ×短径0.77ｍ×深さ0.56ｍを測り、比較的大形であった。柱痕跡は、遺構確認で明瞭に確認でき、断面観察でも底面まで達していた。

側柱にかこまれた中央のＰ11は、円形の掘り方で長径0.59ｍ×短径0.52ｍ×深さ0.23ｍと、側柱の柱穴より小さく浅いため、床束または間仕切りの柱と判断した。

建物は、58°東に傾いた東西棟である。規模は、桁行7.26ｍ×梁間5.06ｍ（21尺×14尺：高麗尺）となる。床面積は、36.74㎡である。柱間寸法は、桁行が2.2ｍ（６尺）＋2.24ｍ（７尺）＋2.82ｍ（８尺）、梁間は2.7ｍ（８尺）＋2.36ｍ（６尺）である。

遺構の切り合いは、Ｇ－７グリッドの凹地より新しい。

第５号掘立柱建物跡



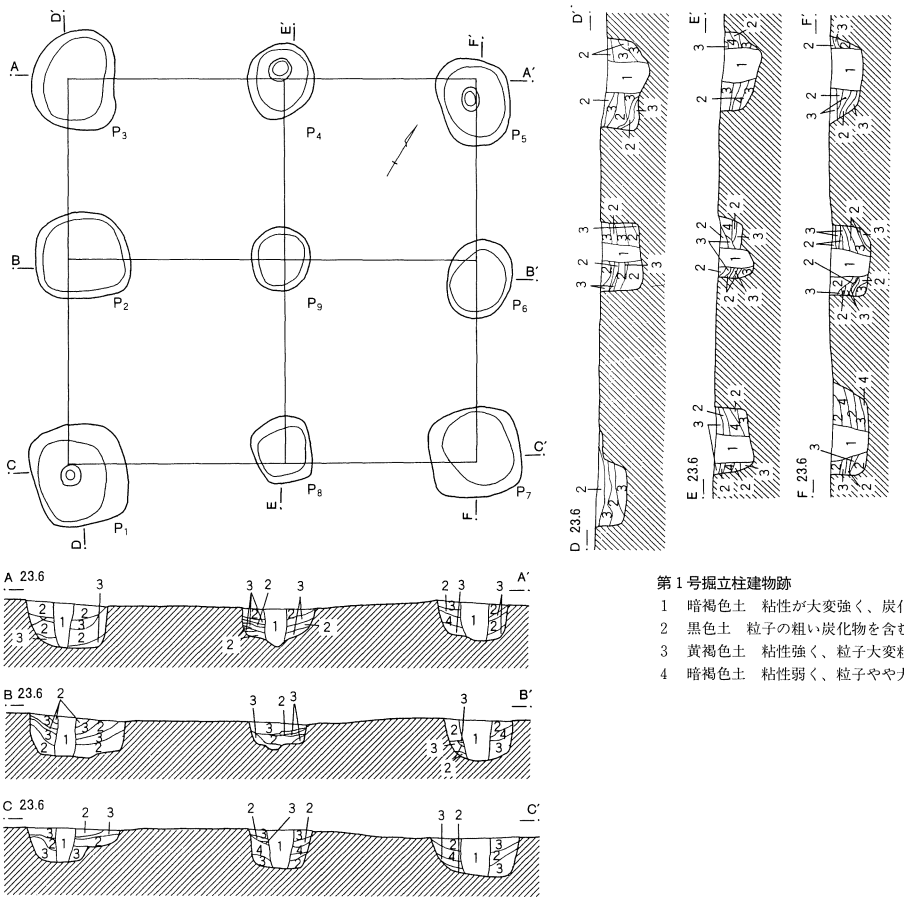
桁行２間×梁間２間の総柱の建物である。

第67号住居跡の床面をはがした下に柱穴を確認した。

柱穴は、隅丸方形の掘り方であった。掘り方内には、粘性の強い褐色土が、堅く充塡されていた。

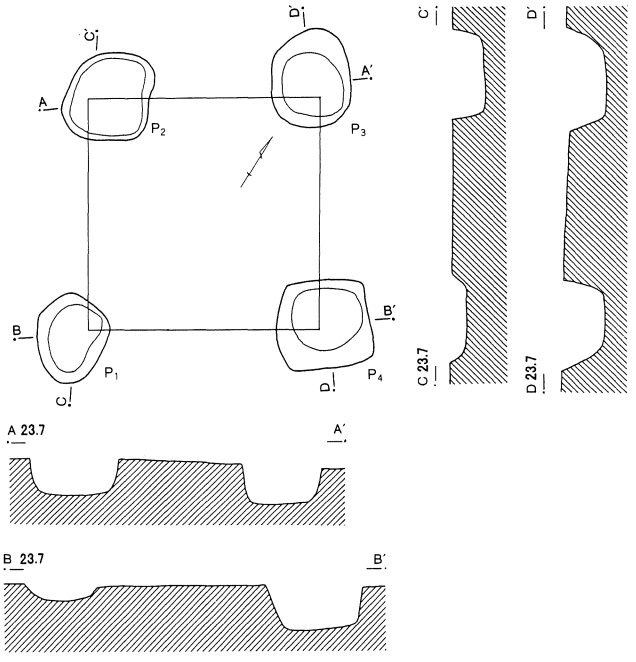
柱穴の大きさは、平均すると長径0.68ｍ×短径0.

第 1 号掘立柱建物跡

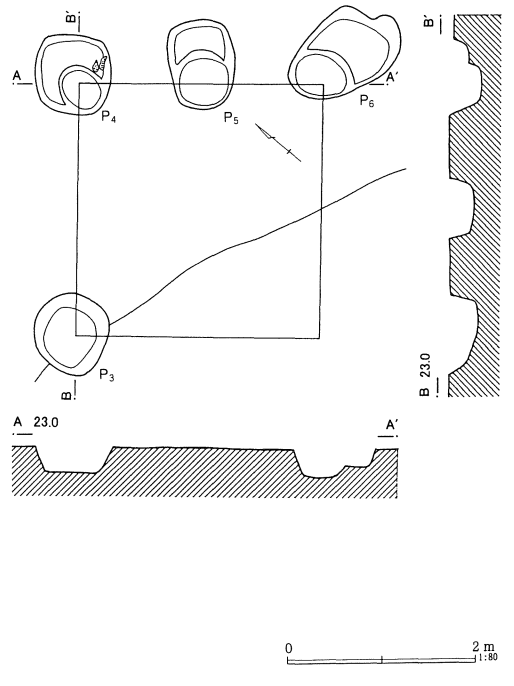


第 1 号掘立柱建物跡
1　暗褐色土　粘性が大変強く、炭化物を含む
2　黒色土　粒子の粗い炭化物を含む
3　黄褐色土　粘性強く、粒子大変粗い
4　暗褐色土　粘性弱く、粒子やや大きい

第 2 号掘立柱建物跡



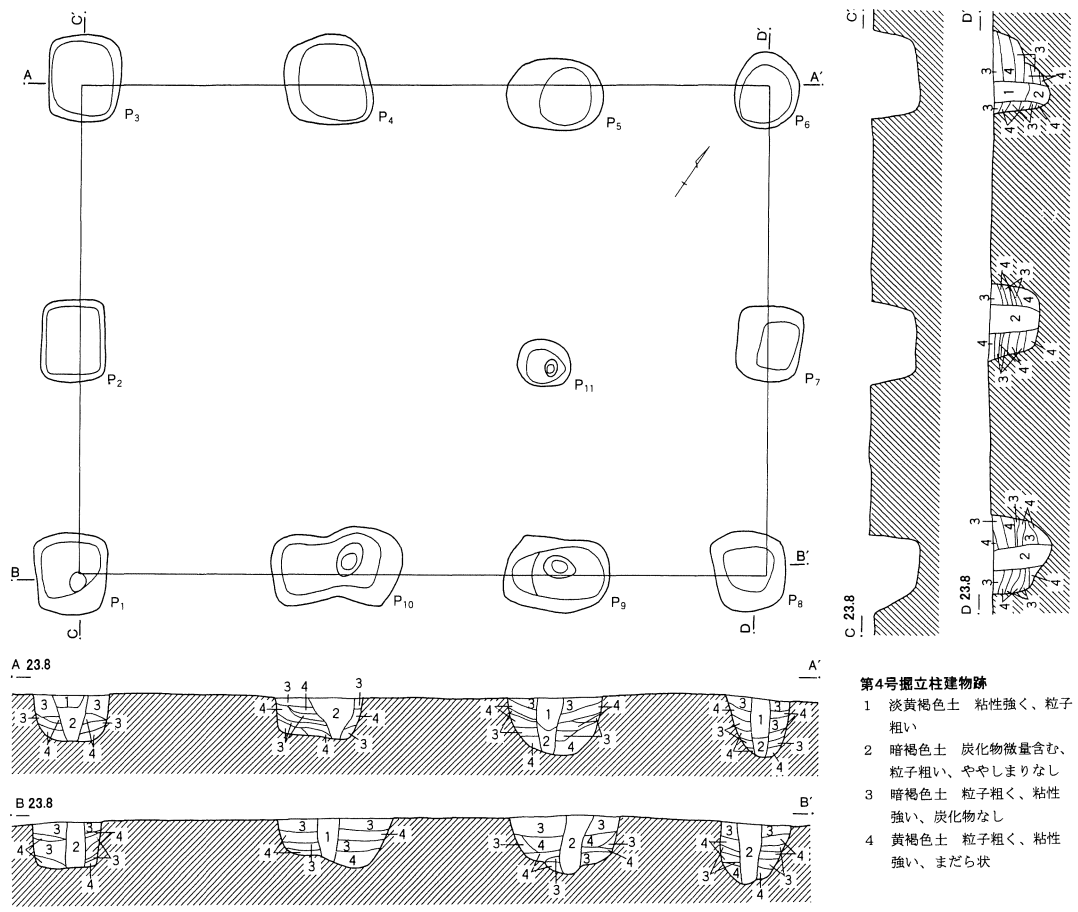
第 3 号掘立柱建物跡



0　2 m　1:80

第369図　掘立柱建物跡(1)

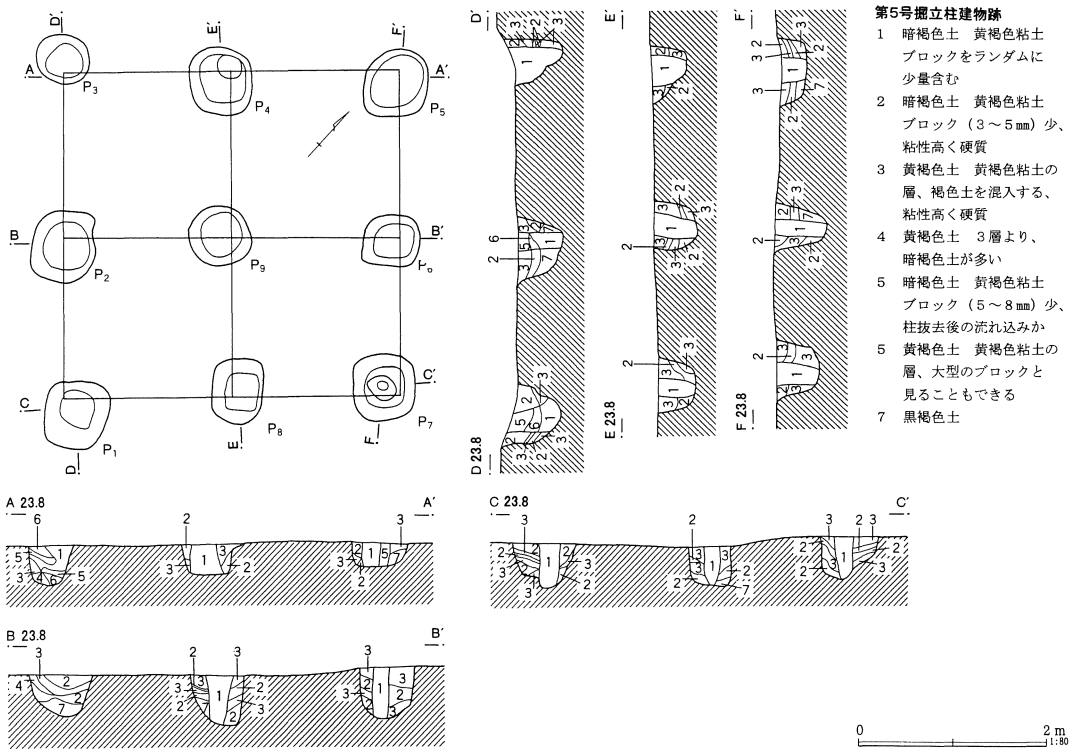
第４号掘立柱建物跡



第4号掘立柱建物跡

1　淡黄褐色土　粘性強く、粒子粗い
2　暗褐色土　炭化物微量含む、粒子粗い、ややしまりなし
3　暗褐色土　粒子粗く、粘性強い、炭化物なし
4　黄褐色土　粒子粗く、粘性強い、まだら状

第５号掘立柱建物跡

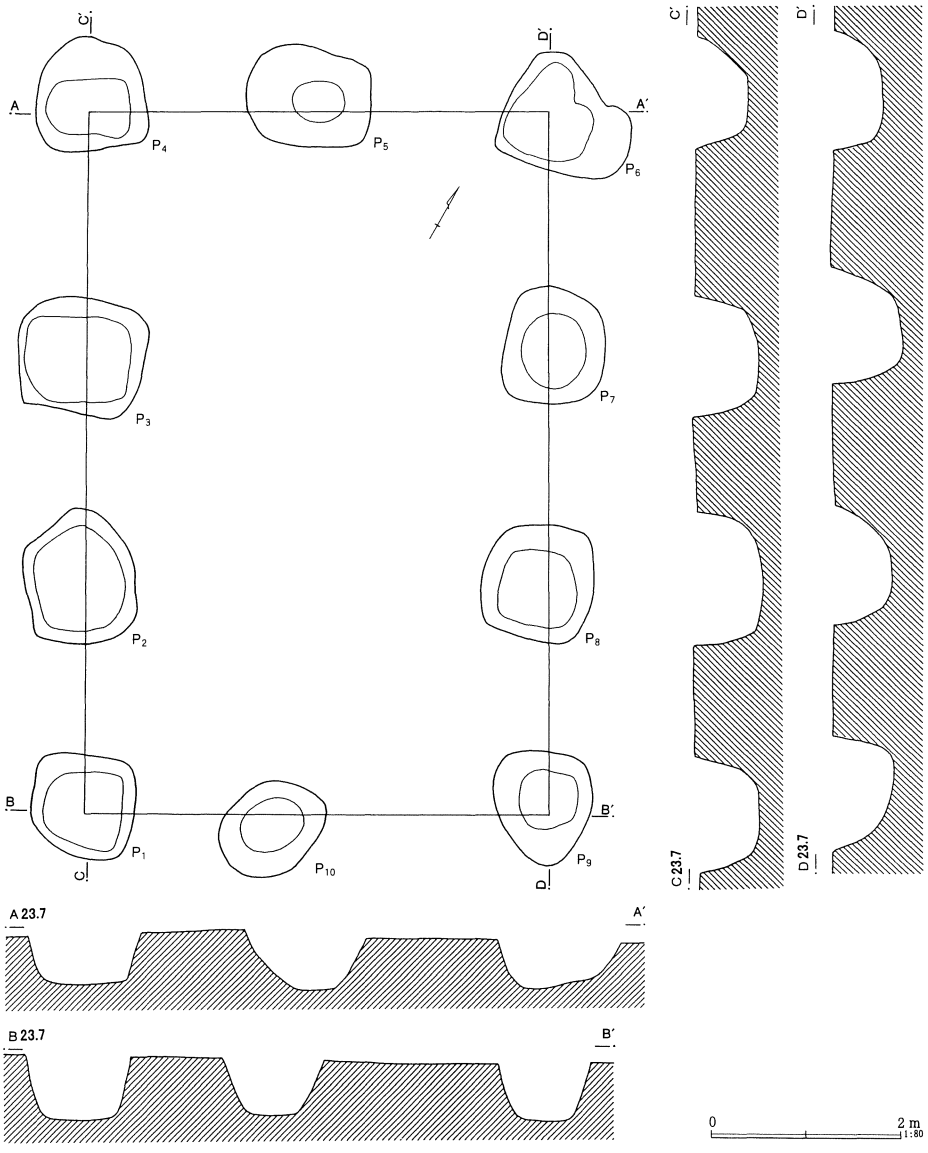


第5号掘立柱建物跡

1　暗褐色土　黄褐色粘土ブロックをランダムに少量含む
2　暗褐色土　黄褐色粘土ブロック（３～５㎜）少、粘性高く硬質
3　黄褐色土　黄褐色粘土の層、褐色土を混入する、粘性高く硬質
4　黄褐色土　３層より、暗褐色土が多い
5　暗褐色土　黄褐色粘土ブロック（５～８㎜）少、柱抜去後の流れ込みか
5　黄褐色土　黄褐色粘土の層、大型のブロックと見ることもできる
7　黒褐色土

第370図　掘立柱建物跡(2)

第6号掘立柱建物跡



第371図　掘立柱建物跡(3)

63ｍ×深さ0.44ｍを測る。柱痕跡は、遺構確認で明瞭に確認できた。底面まで柱痕跡は到達し、Ｐ10・Ｐ９・Ｐ６の柱痕跡は、地山にめり込んでいた。

建物は、44°西に傾いた南北棟である。規模は、桁行3.6ｍ×梁間3.46ｍ(10尺×10尺：高麗尺)となる。床面積は、12.46㎡である。柱間寸法は、桁行が1.8ｍ（５尺)＋1.8ｍ（５尺)、梁間は1.72ｍ（５尺)＋1.74ｍ（５尺）である。

遺構の切り合いは、第67号住居跡より古い。

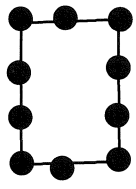
第6号掘立柱建物跡

桁行３間×梁間２間の側柱建物である。

柱穴確認は、きわめて困難で、土の分別が難しかった。また平面では、柱痕跡は確認できず、断面調査も行ったが確認できなかった。

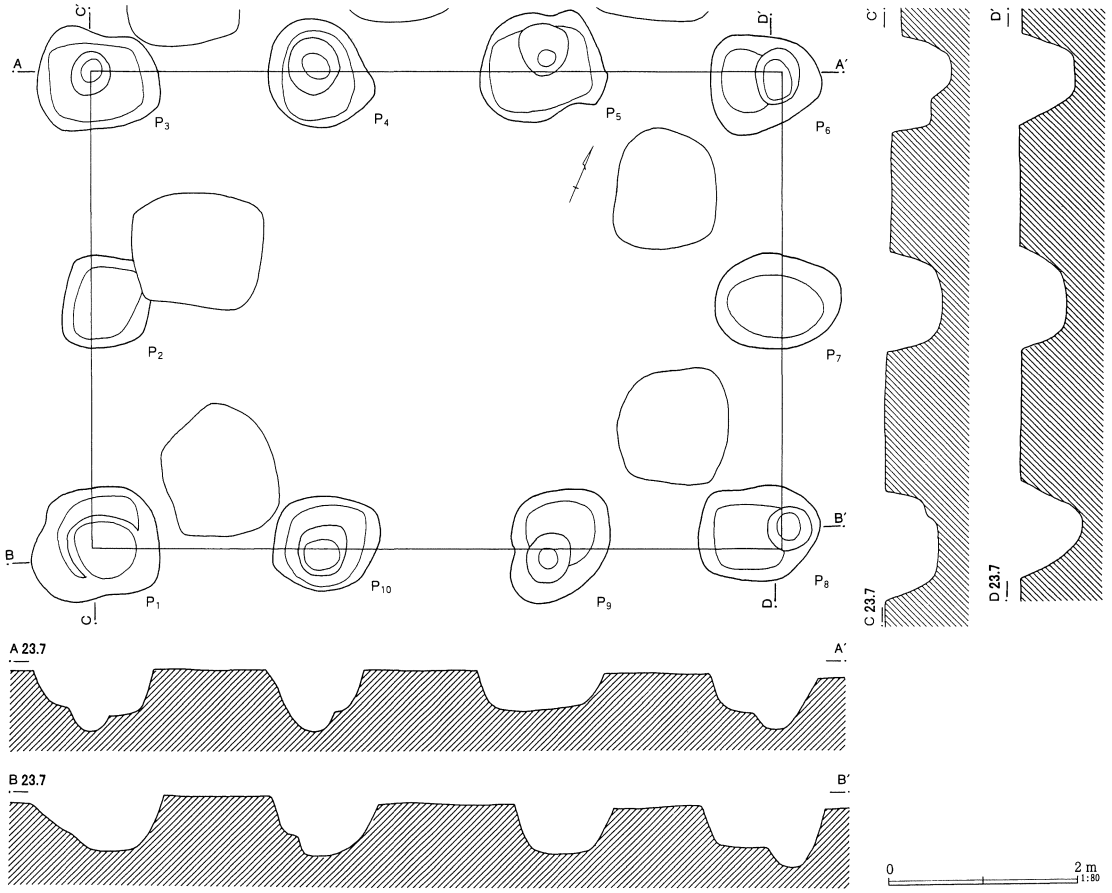
柱穴は、やや歪な方形の掘り方であった。柱穴の大きさは、平均すると長径1.19ｍ×短径1.14ｍ×深さ0.67ｍを測り、比較的大形であった。柱穴内の埋土は、ブロック状のまだらな土層であったことから、柱は抜き取られた可能性がある。

建物は、30°西に傾いた南北棟である。規模は、桁行7.4ｍ×梁間4.88ｍ（21尺×14尺：高麗尺)となる。床面積は、36.11㎡である。柱間寸法は、桁行が2.5ｍ（７尺)＋2.5ｍ(７尺)＋2.4ｍ(７尺)、梁間は2.44ｍ（７尺)＋2.44ｍ（７尺）である。



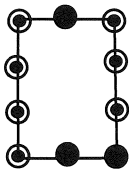
遺構の切り合いは、第７・８号掘立柱建物跡より新しく、第89・90・107・108・110号住居跡・第73号土壙より古い。

第７号掘立柱建物跡



第372図　掘立柱建物跡(4)

第７号掘立柱建物跡



桁行３間×梁間２間の側柱建物である。

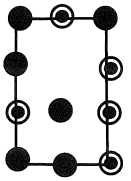
柱穴の平面確認は、きわめて困難で、土の分層が難しかった。また平面では、柱痕跡も確認することはできなかった。さらに半載したが柱穴は確認できなかった。しかし、幸いにも柱穴底面に柱が沈降した部分が確認できたため、ここが柱位置であると判断した。

柱穴は、やや長方形の掘り方であった。掘り方の底面は揃い、斜めに立ち上がっている。柱穴の大きさは、平均すると長径1.22ｍ×短径1.17ｍ×深さ0.58ｍを測り、比較的大形であった。

建物は、67°東に傾いた東西棟である。規模は、桁行7.63ｍ×梁間5.05ｍ（21尺×14尺：高麗尺）となる。床面積は、38.53㎡と比較的大形である。柱間寸法は、桁行が2.5ｍ（７尺）＋2.42ｍ（７尺）＋2.44ｍ（７尺）、梁間は2.46ｍ（７尺）＋2.56ｍ（７尺）である。

遺構の切り合いは、第６号掘立柱建物跡・第90・107・108号住居跡より古い。

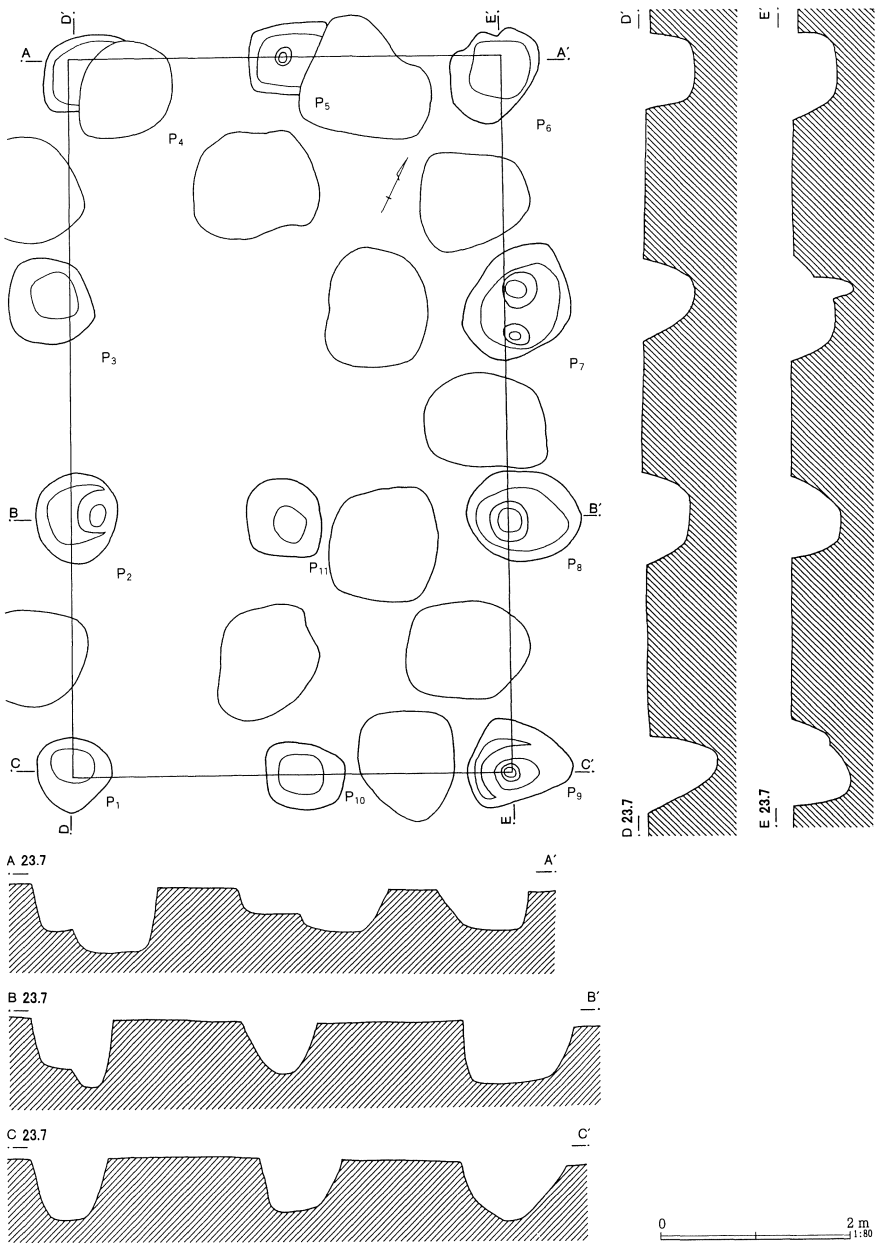
第８号掘立柱建物跡



桁行３間×梁間２間の側柱建物である。

柱穴の平面確認は、困難をきわめ、また重複関係が激しく、一連の掘立群の最初に造営された建物であったため、調査は難行した。柱痕跡は平面では確認することはできなかった。また断面観察でも確認できなかった。柱穴

第8号掘立柱建物跡



第373図　掘立柱建物跡(5)

の埋土は、ブロック状の粘質土が充填されていた。

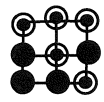
柱穴は、方形の掘り方であった。掘り方の底面は揃い、斜めに立ち上がっていた。また掘り方底面に沈降した部分があったため、柱位置と判断した。

柱穴の大きさは、平均すると長径1.04m×短径0.87m×深さ0.53mを測り、比較的大形であった。P11は方形の掘り方で長径0.84m×短径0.83m×深さ0.56mを測り、側柱の柱穴より小さいため床束と判断した。

建物は、26°西に傾いた南北棟である。規模は、桁行7.58m×梁間5.06m（21尺×16尺：高麗尺）となる。床面積は、38.36m²である。柱間寸法は、桁行が2.46m（7尺）+2.46m（7尺）+2.66m（7尺）、梁間は2.26m（6尺）+2.3m（7尺）である。

遺構の切り合いは、第6号掘立柱建物跡・第89・107号住居跡・第73号土壙より新しい。

第9号掘立柱建物跡



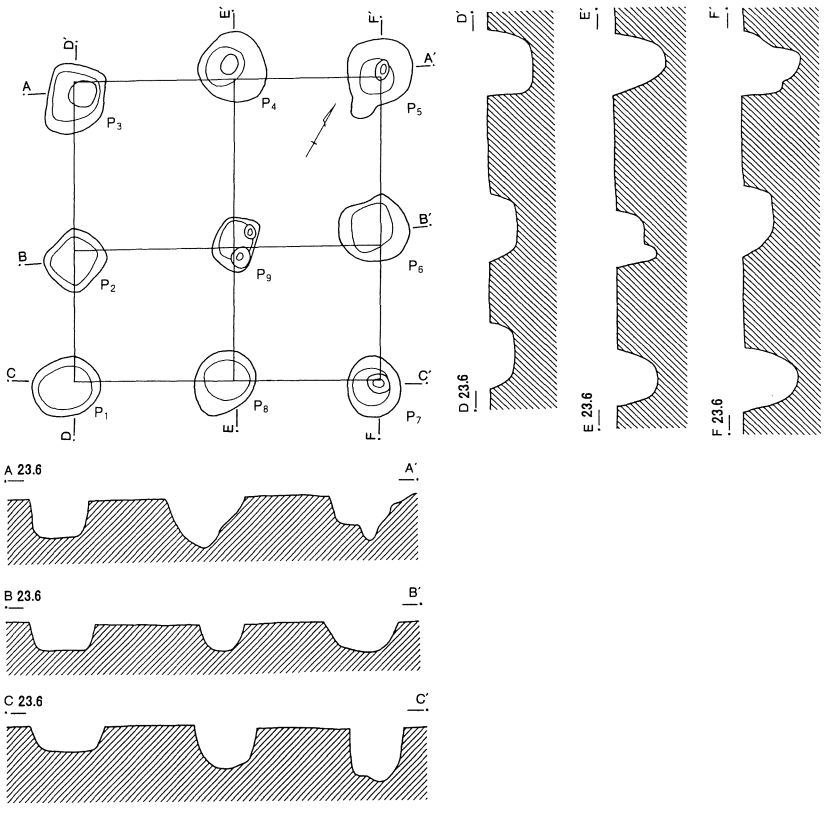
桁行2間×梁間2間の総柱の建物である。

柱穴の確認は、きわめて困難で、土層の分層は難しかった。柱痕跡は、平面で確認することはできなかった。また断面でも確認することはできなかったが、掘り方底面に凹みが確認できた。柱の沈降した部分と判断した。

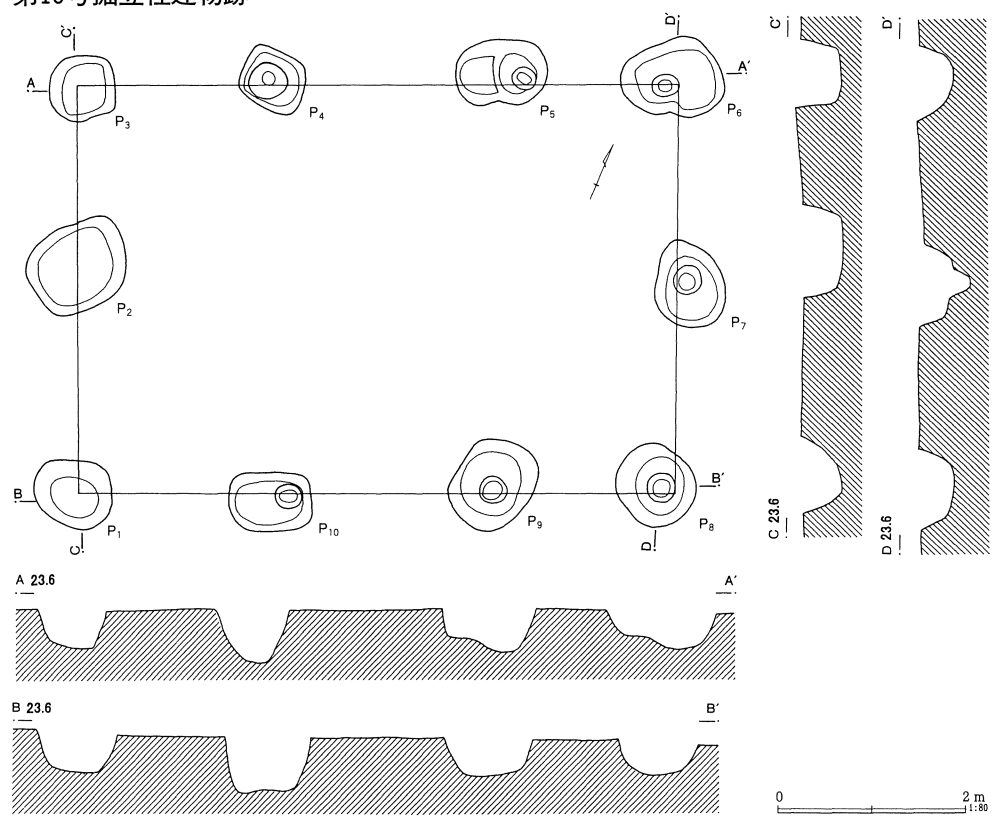
柱穴は、円形の掘り方であった。柱穴の大きさは、平均すると長径0.7m×短径0.63m×深さ0.4mを測る。

建物は、29°西に傾いた南北棟と判断した。規模は、桁行3.24m×梁間3.18m（9尺×9尺：高麗尺）となる。床面積は、10.30m²である。柱間寸法は、桁行が1.54m（4尺）+1.7m（5尺）、梁間は1.78m（5

第9号掘立柱建物跡



第10号掘立柱建物跡



第374図　掘立柱建物跡(6)

尺)＋1.4m（4尺）である。

遺構の切り合いは、第94・98号溝跡より新しく、第10号掘立柱建物跡より古い。

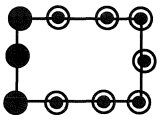
第10号掘立柱建物跡

桁行3間×梁間2間の側柱建物である。

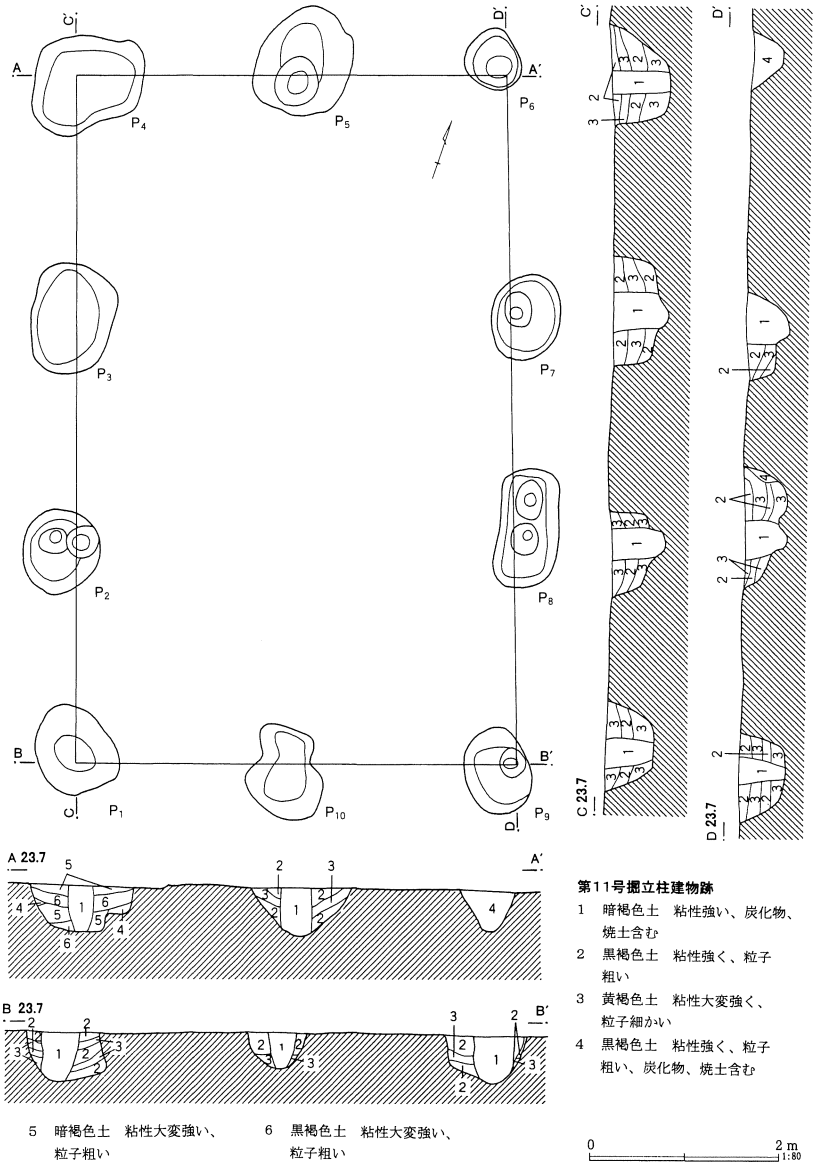
柱穴の確認は困難で、土層の分層はできなかった。柱痕跡は、平面で確認することはできなかったが、柱穴底面に凹みを確認した。柱の沈降に伴いできたと判断した。柱痕跡は、断面でも確認できなかった。

柱穴は、やや方形の掘り方であった。柱穴の大きさは、平均すると長径0.92m×短径0.76m×深さ0.47mを測り、比較的大形であった。

建物は、68°東に傾いた東西棟である。規模は、桁行6.36m×梁間4.3m（18



第11号掘立柱建物跡



第375図　掘立柱建物跡(7)

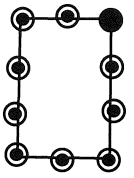
尺×12尺：高麗尺)となる。床面積は、27.35㎡である。柱間寸法は、桁行が1.9m(5尺)+2.2m(6尺)+2.26m（7尺)、梁間は2.08m（6尺)+2.22m（6尺）である。

遺構の切り合いは、第9号掘立柱建物跡・第95・97・102号溝跡より新しい。

第11号掘立柱建物跡

桁行3間×梁間2間の建物である。

柱穴は、平面で明瞭に確認でき、柱痕跡も確認できた。柱穴底部には、柱の沈降した痕跡がみられた。



柱穴は、やや長方形の掘り方であった。掘り方内には、粘性の強い褐色土が充填されていた。柱穴の大きさは、平均すると長径0.92m×短径0.81m×深さ0.52mを測り、比較的大形であった。

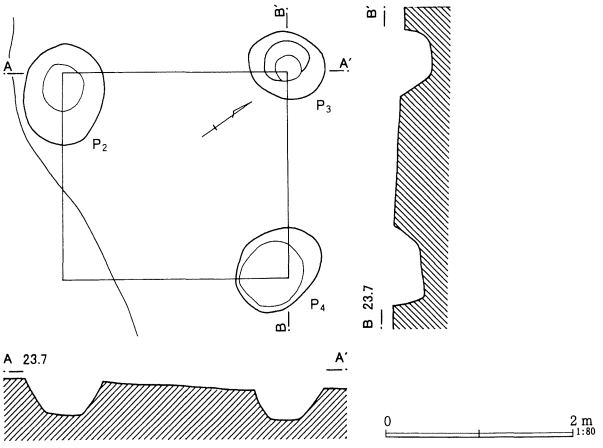
建物は、19°西に傾いた南北棟である。規模は、桁行7.24m×梁間4.56m（25尺×15尺：天平尺）となる。床面積は、40.25㎡である。柱間寸法は、桁行が2.5m(9尺)+2.34m（8尺)+2.4m（8尺)、梁間は2.36m（8尺)+2.2m（7尺)である。

遺構の切り合いは、第101号土壙より新しい。

第12号掘立柱建物跡

桁行1間×梁間1間の建物である。P1に相当する南の柱穴は、調査区外のため検出できなかった。

第12号掘立柱建物跡



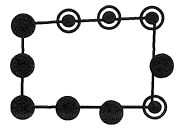
第376図　掘立柱建物跡(8)

覆土は、分かりにくく、地山との分層が難しかった。また柱痕跡は確認できなかった。掘り込みが浅いのは、遺構確認面が低かったためである。

柱穴は、円形の掘り方であった。柱穴の大きさは、平均すると長径0.97ｍ×短径0.79ｍ×深さ0.35ｍを測り、比較的大形であった。

建物は、32°東に傾いた南北棟である。規模は、桁行2.4ｍ×梁間2.18ｍ(７尺×６尺：高麗尺)となる。床面積は、5.23㎡である。

第13号掘立柱建物跡



桁行３間×梁間２間の側柱建物である。

遺構確認では、柱穴の覆土がわかりにくく、柱痕跡は判明しなかった。しかし、柱穴中央に凹みがあり、柱材が沈降した跡と考えた。

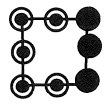
柱穴は、やや方形の掘り方であった。柱穴の大きさは、平均すると長径1.02ｍ×短径0.83ｍ×深さ0.51ｍを測り、比較的大形であった。

建物は、45°東に傾いた南北棟である。規模は、桁行6.96ｍ×梁間4.8ｍ(24尺×16尺：天平尺)となる。床面積は、4.70㎡である。

柱間寸法は、桁行が2.1ｍ(７尺)＋2.24ｍ(８尺)＋2.3ｍ（８尺)、梁間は2.4ｍ（８尺)＋2.4ｍ（８尺)である。

遺構の切り合いは、第14号掘立柱建物跡・第100・101号住居跡より新しく、第87・91号溝跡より古い。

第14号掘立柱建物跡



桁行２間×梁間２間の側柱建物である。

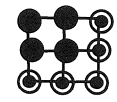
柱穴の覆土がわかりにくく、柱痕跡は判明しなかった。しかし、柱穴のほぼ中央に凹みがあり、柱材の沈降した跡と考えた。

柱穴は、隅丸方形の掘り方であった。柱穴の大きさは、平均すると長径1.22ｍ×短径1.14ｍ×深さ0.42ｍを測り、比較的大形であった。

建物は、35°西に傾いた南北棟である。規模は、桁行3.34ｍ×梁間3.26ｍ（10尺×10尺：高麗尺）となる。床面積は、10.89㎡である。柱間寸法は、桁行が1.74ｍ(５尺)＋1.6ｍ(５尺)、梁間は1.56ｍ(４尺)＋1.7ｍ（６尺）である。

遺構の切り合いは、第101号住居跡より新しく、第13号掘立柱建物跡・第91・87号溝跡より古い。

第15号掘立柱建物跡



桁行２間×梁間２間の側柱建物である。

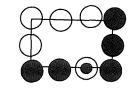
柱穴は、方形の掘り方であった。掘り方内には、粘性の強い黄褐色粘土と暗褐色土が、交互に堅く充　填されていた。柱穴の大きさは、平均すると長径0.88㎝×短径0.77㎝×深さ0.49㎝を測り、比較的大形であった。柱痕跡は、遺構確認で明瞭に確認できた。柱穴底面を出る柱痕跡はみられなかった。断面でも柱痕跡は明瞭であった。

Ｐ９は、長方形の掘り方で、規模が長径1.0ｍ×短径0.68ｍ×深さ0.18ｍと、側柱の柱穴より浅いことから、床束と判断した。

建物は、55°東に傾いた東西棟である。規模は、桁行3.2ｍ×梁間3.54ｍ(11尺×12尺：天平尺)となる。床面積は、11.33㎡である。柱間寸法は、桁行が1.62ｍ（６尺)＋1.58ｍ（５尺)、梁間は1.76ｍ（６尺)＋1.78ｍ（６尺）である。

遺構の切り合いは、第102号住居跡・第87号溝跡より古く、第16号掘立柱建物跡より新しい。

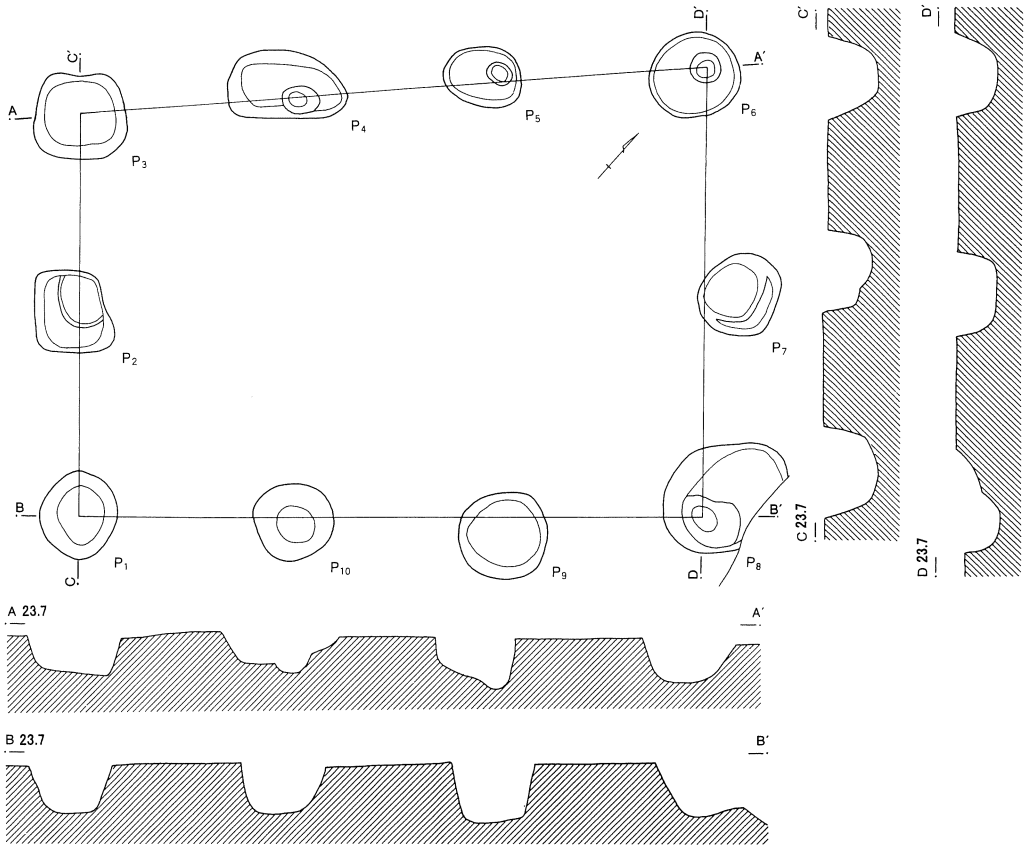
第16号掘立柱建物跡



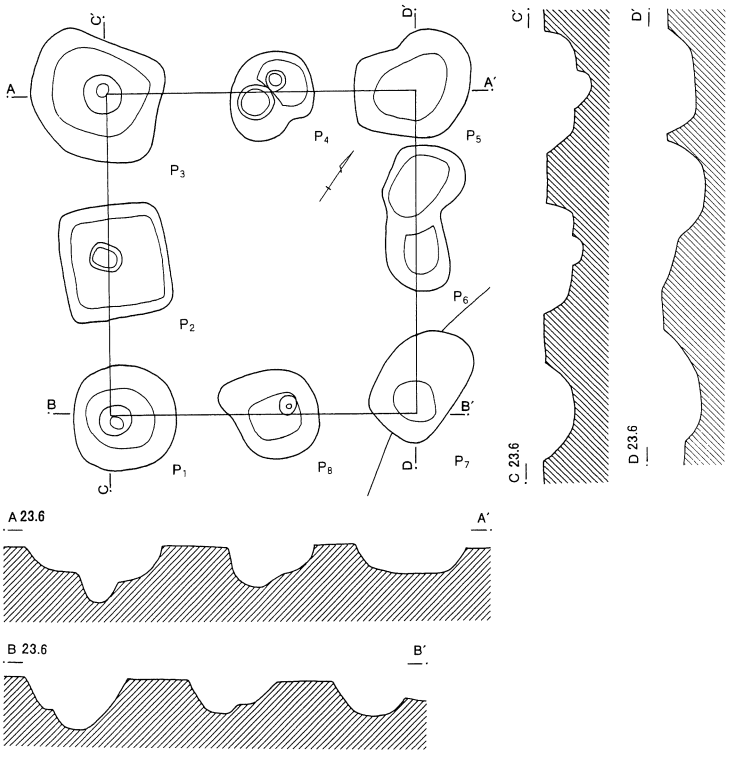
桁行３間×梁間２間の側柱建物である。北と西の柱穴４基は、第15号掘建柱建物跡によって破壊され検出できなかった。

柱穴は、方形の掘り方であった。柱穴の大きさは、平均すると長径0.78ｍ×短径0.71ｍ×深さ1.16ｍを測り、比較的大形であった。

第13号掘立柱建物跡



第14号掘立柱建物跡



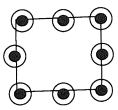
第377図　掘立柱建物跡(9)

建物は、65°東に傾いた東西棟である。規模は、桁行4.0m×梁間1.42m（14尺×8尺：天平尺）となる。床面積は、5.68m²である。

柱間寸法は、桁行が1.38m（5尺）＋1.22m（4尺）＋1.4m（5尺）、梁間は1.3m（4尺）＋1.12m（4尺）である。

遺構の切り合いは、第15号掘立柱建物跡・第102号住居跡・第87号溝跡より古い。

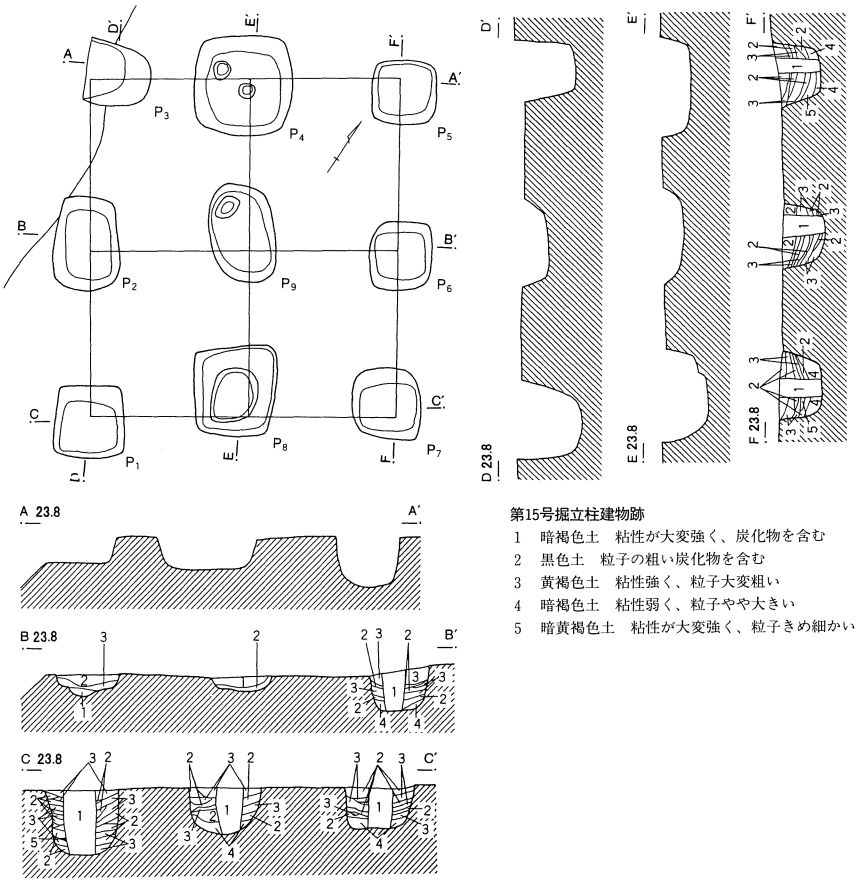
第17号掘立柱建物跡



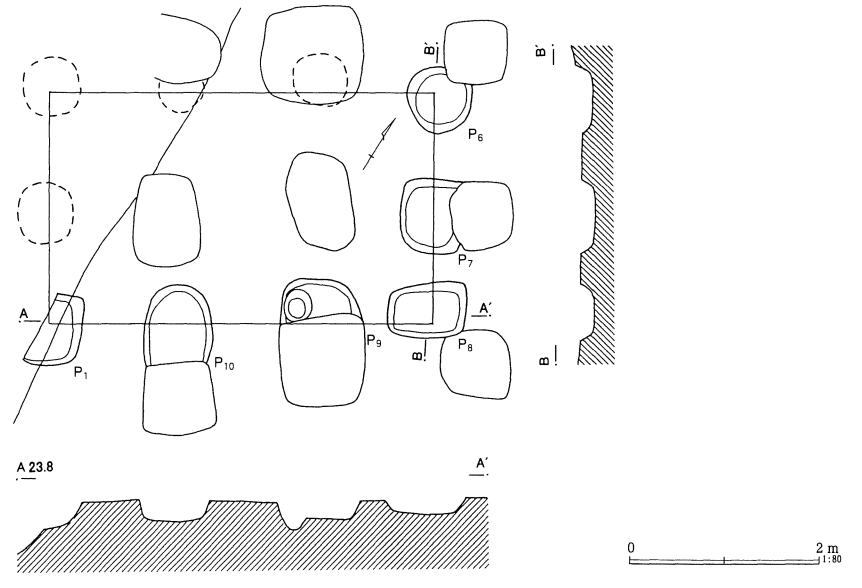
桁行2間×梁間2間の側柱建物である。

柱穴は、方形の掘り方であった。掘り方内には粘土を含んだ褐色土が充填されていた。遺構確認は困難をきわめたが、いわゆる「溝持ち」（布

第15号掘立柱建物跡



第16号掘立柱建物跡



第378図　掘立柱建物跡(10)

堀り）の柱穴と判断した。

柱穴の大きさは、平均すると長径1.26m×短径1.03m×深さ0.8mであり、比較的大形であった。P4・5・2は柱抜き取り痕が確認され、その他の柱穴は柱痕跡を明瞭に確認できた。またP1とP8は、溝で連結されていた。

建物は、38°東に傾いた南北棟であった。規模は、桁行3.9m×梁間3.74m（12尺×10尺：高麗尺）となる。床面積は14.59㎡である。柱間寸法は、桁行が2.0m（6尺）+1.9m（6尺）、梁間は1.9m（5尺）+1.84m（5尺）である。

遺構の切り合いは、第113号住居跡・第116号土壙より古い。

第18号掘立柱建物跡

間口1間の建物　◉—◉　である。

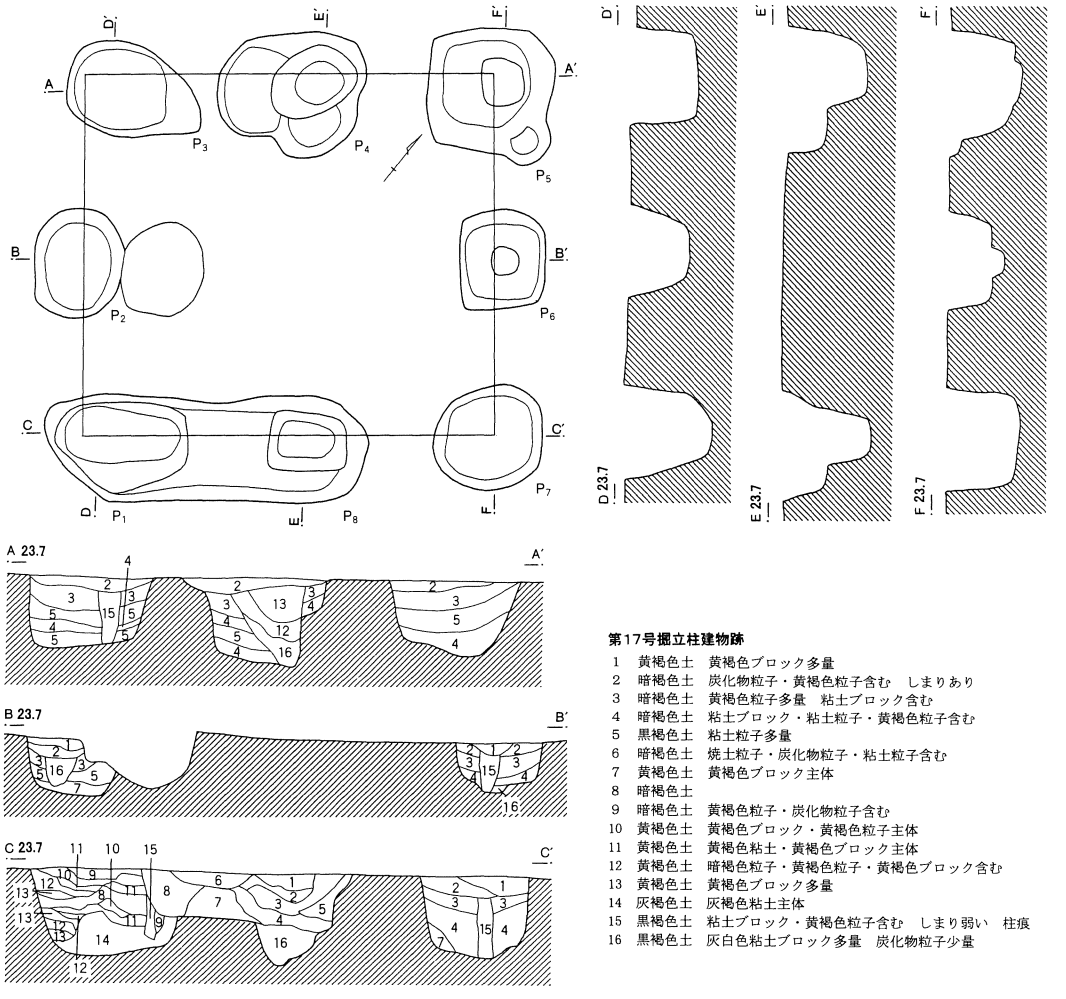
棟門か冠木門と判断した。

柱穴は、方形の掘り方であった。掘り方内には黄褐色土が非常に堅く充塡されていた。しかし互層の突き固めはみられなかった。柱痕跡は、遺構確認の段階で確認できた。柱穴の大きさは、平均すると長径1.31m×短径1.15m×深さ0.55mであり、比較的大形であった。

柱の並びは、5°西に傾いている。柱間寸法は、2.24m（8尺：天平尺）である。

遺構の切り合いは、確認できない。

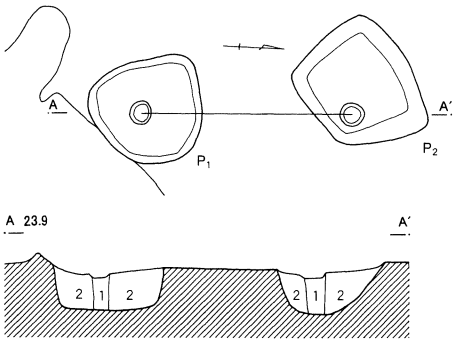
第17号掘立柱建物跡



第17号掘立柱建物跡

1　黄褐色土　黄褐色ブロック多量
2　暗褐色土　炭化物粒子・黄褐色粒子含む　しまりあり
3　暗褐色土　黄褐色粒子多量　粘土ブロック含む
4　暗褐色土　粘土ブロック・粘土粒子・黄褐色粒子含む
5　黒褐色土　粘土粒子多量
6　暗褐色土　焼土粒子・炭化物粒子・粘土粒子含む
7　黄褐色土　黄褐色ブロック主体
8　暗褐色土
9　暗褐色土　黄褐色粒子・炭化物粒子含む
10　黄褐色土　黄褐色ブロック・黄褐色粒子主体
11　黄褐色土　黄褐色粘土・黄褐色ブロック主体
12　黄褐色土　暗褐色粒子・黄褐色粒子・黄褐色ブロック含む
13　黄褐色土　黄褐色ブロック多量
14　灰褐色土　灰褐色粘土主体
15　黒褐色土　粘土ブロック・黄褐色粒子含む　しまり弱い　柱痕
16　黒褐色土　灰白色粘土ブロック多量　炭化物粒子少量

第18号掘立柱建物跡



第18号掘立柱建物跡

1　暗褐色土　炭化物粒子少量　黄褐色土粒子ブロック含む　しまりなし
2　褐色土　炭化物粒子なし　大変堅くしまっている。

0　2 m　1:80

第379図　掘立柱建物跡(11)

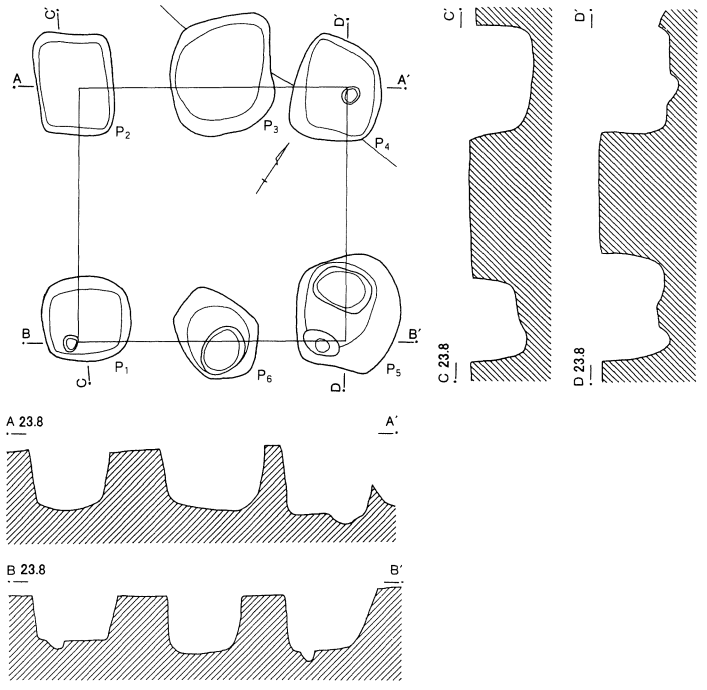
第19号掘立柱建物跡

桁行２間×梁間２間の建物である。

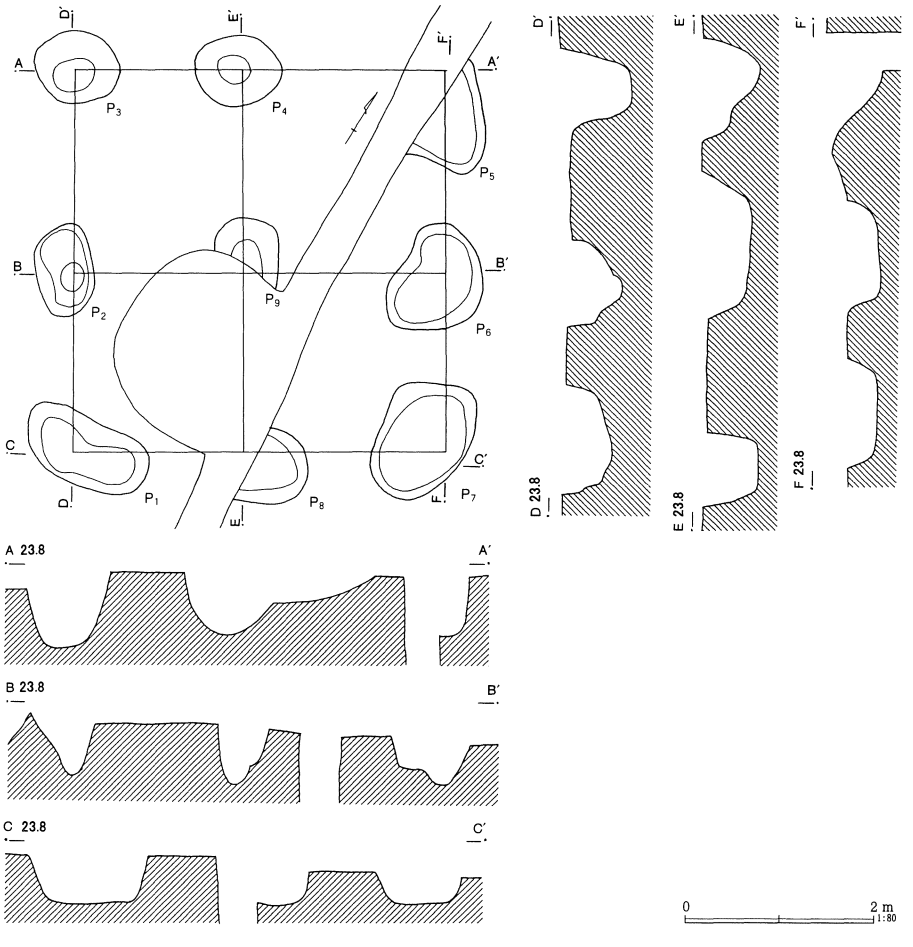
遺構確認は、困難をきわめ柱痕跡を確認できなかった。また断面観察でも確認できなかった。しかしＰ４・Ｐ５・Ｐ６の柱穴底面には、柱の沈降した痕跡が確認できた。

柱穴は、方形の掘り方であった。柱穴の大きさは、平均すると長径1.1ｍ×短径0.95ｍ×深さ0.6ｍであり、比較的大形であった。なおＰ５からは、柱材の一部が出土した。

第19号掘立柱建物跡



第20号掘立柱建物跡

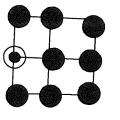


第380図　掘立柱建物跡(12)

建物は、53°東に傾いた東西棟である。規模は、桁行2.8m×梁間2.7m（9尺×9尺：天平尺）となる。床面積は、7.56㎡である。柱間寸法は、桁行が1.3m(4尺)+1.5m(5尺)、梁間は2.7m（9尺）である。

遺構の切り合いは、第125号溝跡・第157号土壙より古い。

第20号掘立柱建物跡



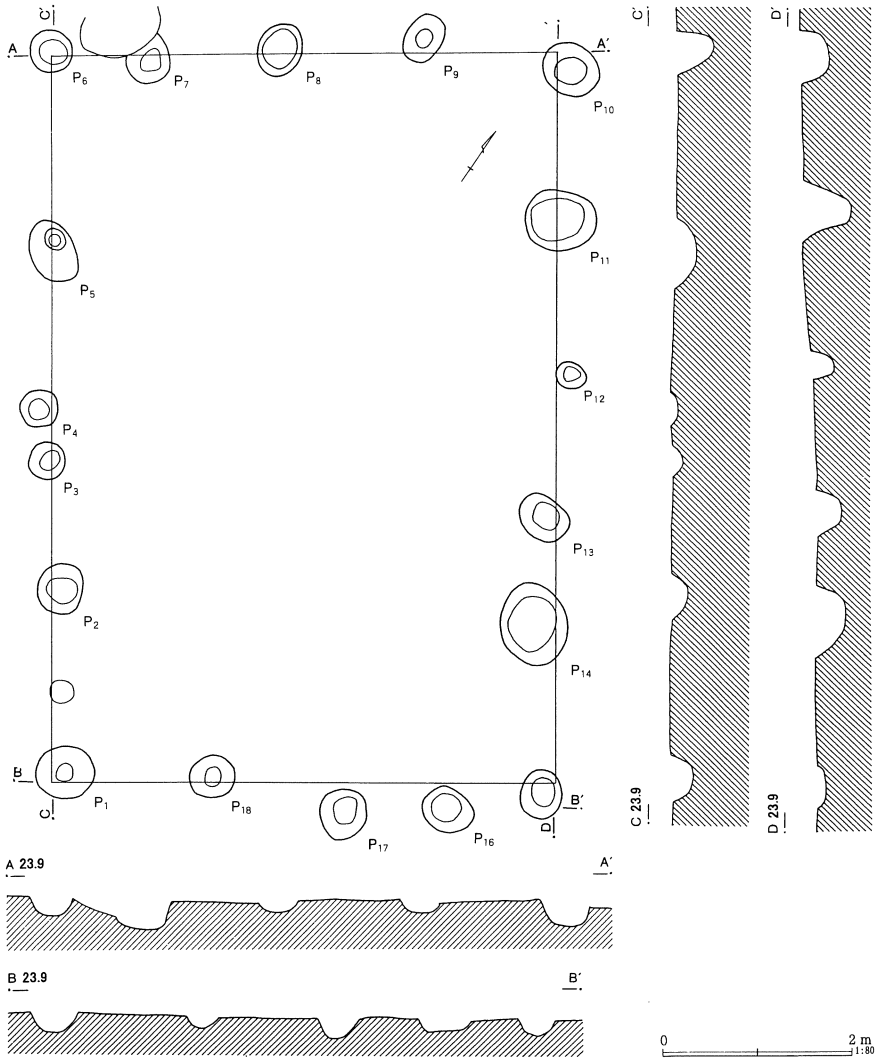
桁行2間×梁間2間の総柱建物である。

柱穴内の覆土が、地山とかわらず、柱痕跡も確認できなかった。しかし、掘り方中央に円形の凹みがみられたため、柱位置と判断した。また調査区が2年次にまたがったため、斜めに断続してしまった。

柱穴は、楕円形の掘り方であった。柱穴の大きさは、平均すると長径1.31m×短径0.79m×深さ0.56mを測り、比較的大形であった。中央のP9も他と掘り込み深さが、同一であったため総柱と判断した。

建物は、33°西に傾いた南北棟である。規模は、桁行4.0m×梁間3.96m(14尺×14尺：天平尺）となる。床

第21号掘立柱建物跡

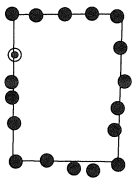


第381図　掘立柱建物跡(13)

面積は、15.84㎡である。柱間寸法は、桁行が2.1m（7尺）＋1.9m（7尺）、梁間は1.8m（6尺）＋2.16m（8尺）である。

遺構の切り合いは、第131・133号住居跡より新しく、第159・152号溝跡・第37号井戸より古い。

第21号掘立柱建物跡



桁行5間×梁間4間の側柱建物である。

遺構確認では、柱穴の大きさが不揃いであったため、柱並びを確認できなかった。柱痕についても確認できなかった。

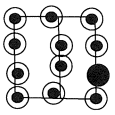
柱穴は、円形の掘り方であった。柱穴の大きさは、平均すると長径0.56cm×短径0.48cm×深さ0.24cmを測る。

建物は、34°西に傾いた南北棟である。規模は、桁行7.74m×梁間5.42m（27尺×18尺：天平尺）となる。床面積は、41.95㎡である。

柱間寸法は、桁行が1.76m（6尺）＋1.64m（6尺）＋1.5m（5尺）＋1.1m（4尺）＋1.74m（6尺）、梁間は1.1m（3尺）＋1.34m（5尺）＋1.54m（5尺）＋1.44m（5尺）である。

遺構の切り合いは、第129号住居跡・第190号土壙より古く、第171号溝跡より新しい。

第22号掘立柱建物跡



桁行3間×梁間2間の総柱の建物である。

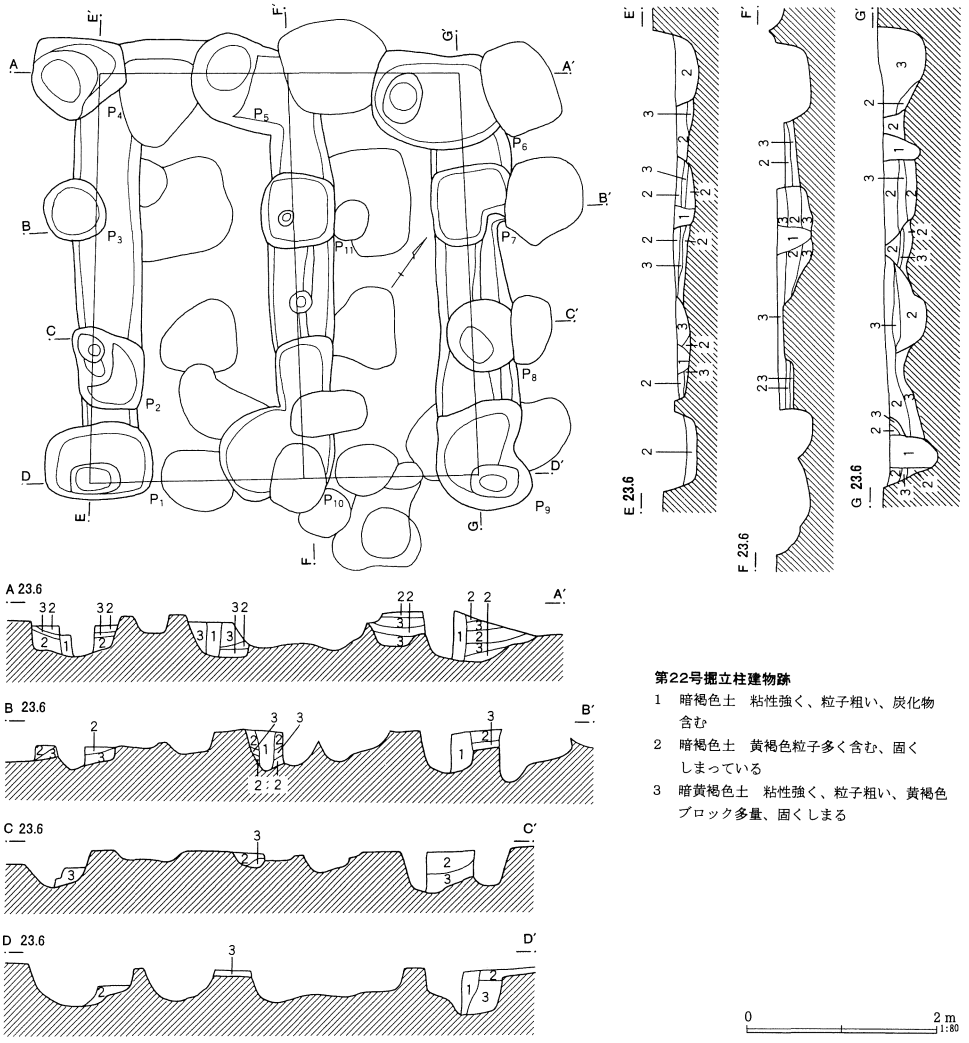
3棟の掘立柱建物が、ほぼ同一位置、同一規格で重複していたため確認に手間どった。柱痕が、確認面から確認することができた。

柱穴は、方形の掘り方であった。掘り方内には、粘性の強い暗褐色土が、堅く充填されていた。

柱穴の大きさは、平均すると長径0.98m×短径0.77m×深さ0.41mであり、比較的大形であった。しかし掘り込みは浅い。柱痕跡は、遺構確認で明瞭に確認できた。柱穴は、浅い溝で桁行方向に連結され布掘りとなっていた。

建物は、39°西に傾いた南北棟である。規模は、桁行4.24m×梁間3.8m(14尺×14尺：天平尺)である。

第22号掘立柱建物跡



第382図　掘立柱建物跡(14)

柱穴は、方形の掘り方であった。柱穴の大きさは、平均すると長径1.0ｍ×短径0.71ｍ×深さ0.36ｍを測り、比較的大形であった。Ｐ９は、やや方形の掘り方で長径0.86ｍ×短径0.76ｍ×深さ0.14ｍと、側柱の柱穴より小さく浅いため、床束と判断した。

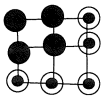
建物は、49°東に傾いた東西棟である。規模は、桁行3.46ｍ×梁間3.4ｍ（10尺×10尺：高麗尺）となる。床面積は、11.76㎡である。柱間寸法は、桁行が1.8ｍ（５尺）＋1.66ｍ（５尺）、梁間は1.3ｍ（４尺）＋2.1ｍ（６尺）である。

遺構の切り合いは、第22・24号掘立柱建物跡・第132・133号住居跡・第125・151・152号溝跡より古い。

床面積は、16.11㎡である。柱間寸法は、桁行が1.42ｍ（５尺）＋1.46ｍ（５尺）＋1.36ｍ（４尺）、梁間は1.34ｍ（５尺）＋2.46ｍ（９尺）である。

遺構の切り合いは、第23掘立柱建物跡より新しく、第24掘立柱建物跡・第132・133号住居跡・第125・151・152号溝跡より古い。

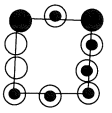
第23号掘立柱建物跡



桁行２間×梁間２間の床束を伴う側柱建物である。

第22・24号掘立柱建物跡と重複し、確認は困難であったが、柱位置は確認できた。また柱の凹みも確認できた。

第24号掘立柱建物跡

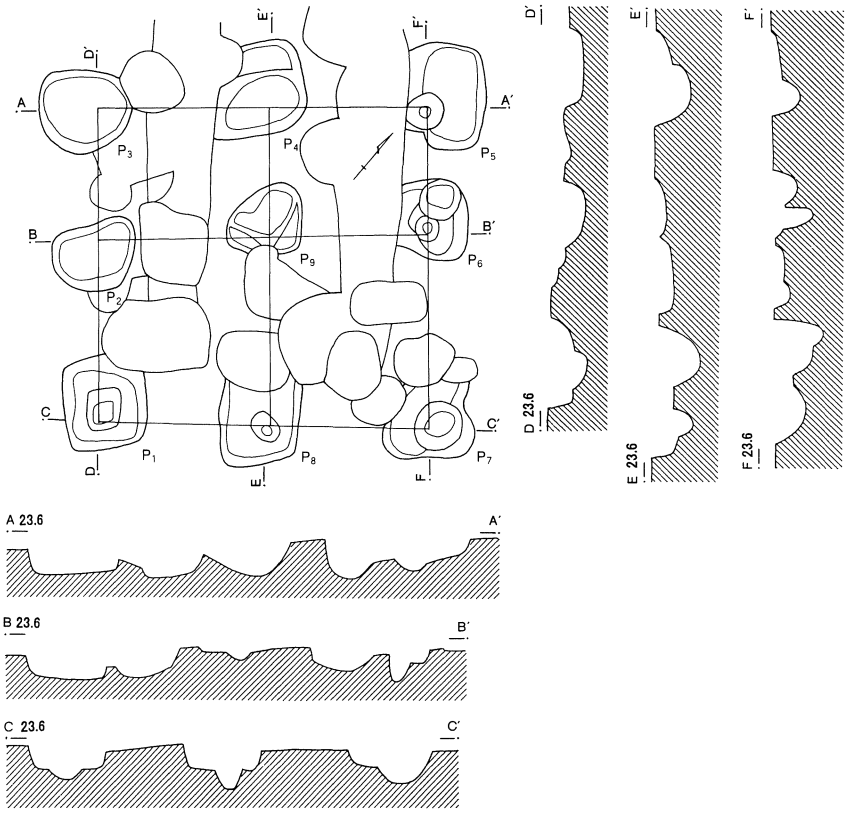


桁行３間×梁間２間の総柱建物である。

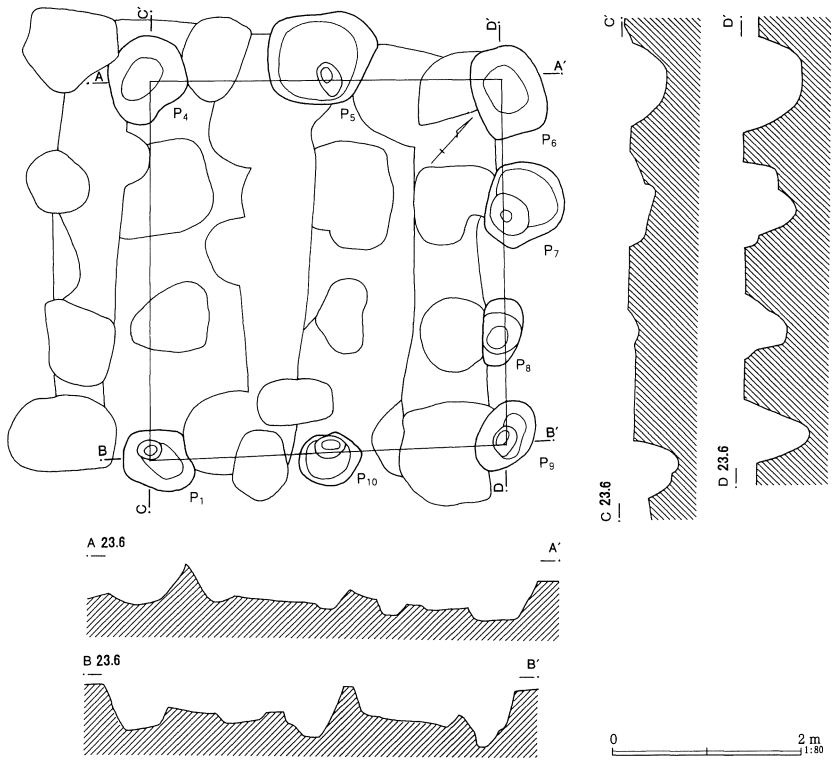
掘立柱建物の重複が激しく確認に手間取った。

柱穴は、長方形の掘り方であった。柱穴の大きさは、平均すると長径0.87ｍ×短径0.71ｍ×深さ0.54ｍを測る。柱痕跡は平面で確認でき、さらに掘り方底面に柱の凹みも確認できた。

第23号掘立柱建物跡



第24号掘立柱建物跡

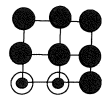


第383図　掘立柱建物跡(15)

建物は、42°西に傾いた南北棟である。規模は、桁行3.88ｍ×梁間3.66ｍ（13尺×13尺：天平尺）となる。床面積は、14.20㎡である。柱間寸法は、桁行が1.48ｍ(５尺)＋1.3ｍ（４尺)＋1.1ｍ（４尺)、梁間は1.86ｍ（７尺)＋1.8ｍ（６尺）である。

遺構の切り合いは、第22・23号掘立柱建物跡より新しく、第132・133号住居跡。第125・132・133号溝跡より古い。

第25号掘立柱建物跡



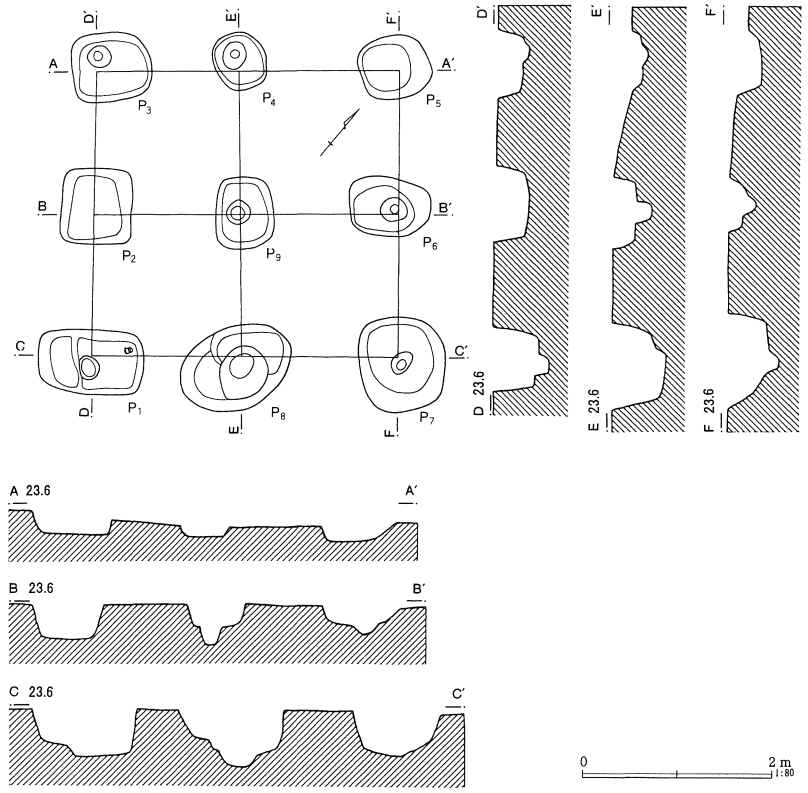
桁行２間×梁間２間の総柱建物である。

遺構確認・断面観察では、柱痕跡を探すことはできなかったが、わずかに掘り方底面に柱痕跡を確認した。柱穴内には、砂質の黒色土が充塡されていた。

柱穴は、長方形の掘り方であった。柱穴の大きさは、平均すると長径0.91ｍ×短径0.72ｍ×深さ0.37ｍを測る。

建物は、50°東に傾いた南北棟である。規模は、桁行3.22ｍ×梁間3.15ｍ（11尺×11尺：天平尺）となる。床面積は、9.79㎡である。柱間寸法は、桁行が1.53ｍ(５尺)＋1.69ｍ(６尺)、梁間は1.53ｍ(５尺)＋1.62ｍ（６尺）である。

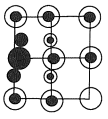
第25号掘立柱建物跡



第384図　掘立柱建物跡(16)

遺構の切り合いは、第225号土壙より新しく、第134号住居跡より古い。

第26号掘立柱建物跡



桁行２間×梁間２間の総柱建物である。南東隅の柱穴は、区画溝で破壊されていた。

柱穴は確認に手間どったが、確認面から柱痕跡を確認することができた。

柱穴掘り方は、長方形を主体としてＬ字形または布掘りであった。掘り方内には、粘土を含んだ褐色土と黒色土が充塡されていた。

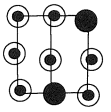
柱穴の大きさは、平均すると長径1.27ｍ×短径0.92ｍ×深さ0.55ｍであり、比較的大形であった。Ｐ１・９からは、柱材が検出された。Ｐ１・Ｐ９・Ｐ８・Ｐ３は掘り方より柱が沈降したため、掘り方の二倍ほどになった。Ｐ５とＰ６は溝で連結されて布掘りであった。

Ｐ９・Ｐ２では、柱に付帯して、棟筋に沿う２つの小穴が検出した。柱穴の大きさは、平均すると長径0.79ｍ×短径0.54×深さ0.32ｍを測り楕円形であった。側柱の柱穴に比べ小形の床束と判断した。

建物は、33°西に傾いた南北棟である。規模は、桁行4.3ｍ×梁間3.84ｍ(15尺×13尺：天平尺)となる。床面積は、16.51㎡である。柱間寸法は、桁行が2.2ｍ(８尺)＋2.1ｍ（７尺)、梁間は1.9ｍ（６尺)＋1.94ｍ（７尺）である。

遺構の切り合いは、第27号掘立柱建物跡より新しく、第135号住居跡・第125・151号溝跡より古い。

第27号掘立柱建物跡



桁行２間×梁間２間の総柱建物である。

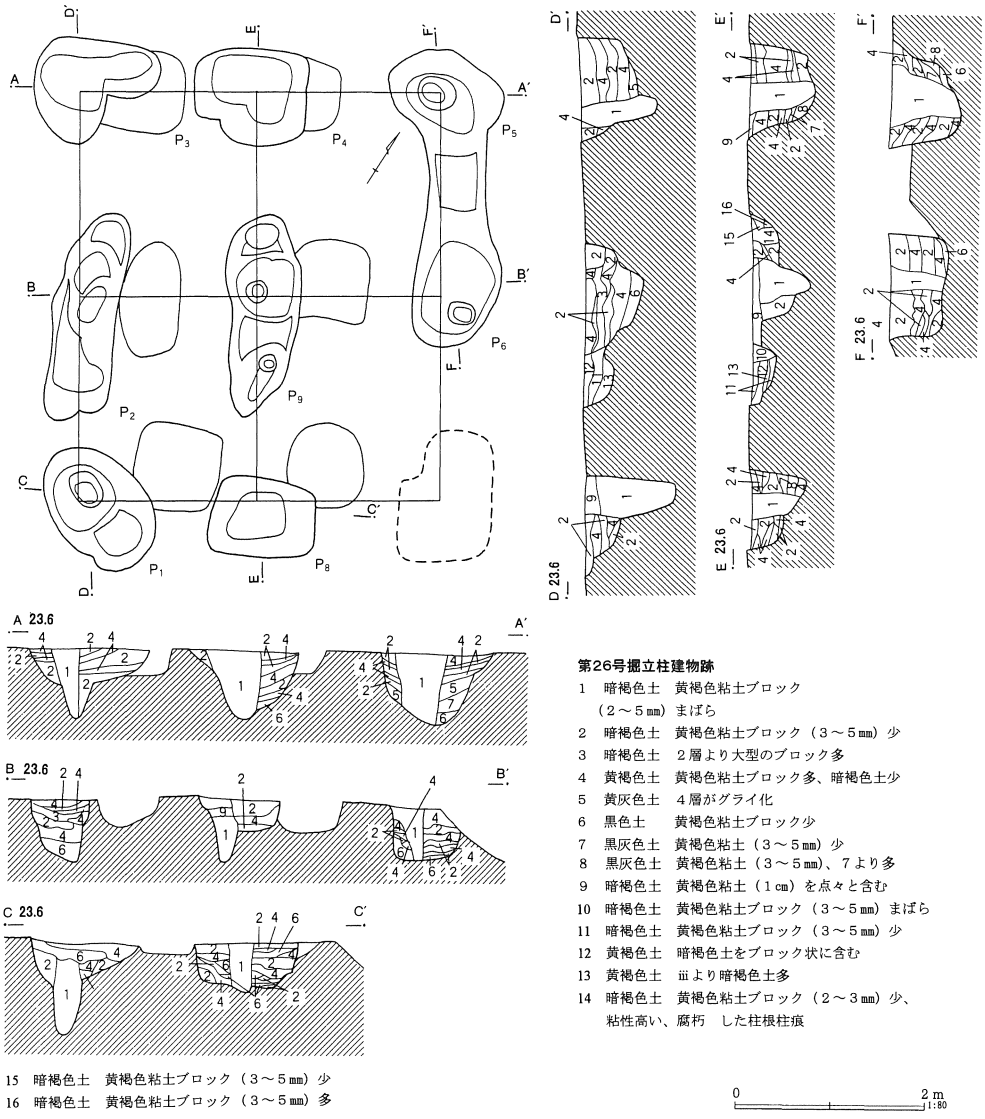
遺構確認は、困難であったが、確認面から柱痕跡が確認できた。また断面観察でも確認できた。

柱穴は、隅丸方形の掘り方であった。掘り方内には、粘土を含んだ黄褐色土と暗褐色土が堅く充塡されていた。柱穴の大きさは、平均すると長径0.96ｍ×短径0.84ｍ×深さ0.32ｍを測り、比較的大形であった。Ｐ６からは柱材が出土した。Ｐ９は、側柱と同程度の掘り込みであったので、柱と判断した。

建物は、37°西に傾いた南北棟であった。規模は、桁行4.1ｍ×梁間3.62ｍ(14尺×12尺：天平尺)である。床面積は、14.84㎡である。

柱間寸法は、桁行が2.1ｍ(７尺)＋2.0ｍ(７尺)、梁間は1.76ｍ（６尺)＋1.86ｍ（６尺）である。

第26号掘立柱建物跡



第26号掘立柱建物跡
1 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック（2～5㎜）まばら
2 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック（3～5㎜）少
3 暗褐色土 2層より大型のブロック多
4 黄褐色土 黄褐色粘土ブロック多、暗褐色土少
5 黄灰色土 4層がグライ化
6 黒色土 黄褐色粘土ブロック少
7 黒灰色土 黄褐色粘土（3～5㎜）少
8 黒灰色土 黄褐色粘土（3～5㎜）、7より多
9 暗褐色土 黄褐色粘土（1㎝）を点々と含む
10 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック（3～5㎜）まばら
11 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック（3～5㎜）少
12 黄褐色土 暗褐色土をブロック状に含む
13 黄褐色土 ⅲより暗褐色土多
14 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック（2～3㎜）少、粘性高い、腐朽 した柱根柱痕
15 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック（3～5㎜）少
16 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック（3～5㎜）多

0 2m 1:80

第385図 掘立柱建物跡(17)

柱穴は、楕円形の掘り方であった。柱穴の大きさは、平均すると長径1.3m×短径0.82m×深さ0.63mを測り、比較的大形であった。

建物は、36°西に傾いた南北棟である。規模は、桁行2.28m×梁間2.24m（8尺×8尺：天平尺）となる。床面積は、5.11㎡である。

遺構の切り合いは、第152・153号住居跡より古い。

第29号掘立柱建物跡

桁行1間×梁間1間の建物である。

遺構の切り合いは、第194・197号土壙より新しく、第26号掘立柱建物跡・第135号住居跡・第125・151号溝跡より古い。

第28号掘立柱建物跡

桁行1間×梁間1間の建物である。

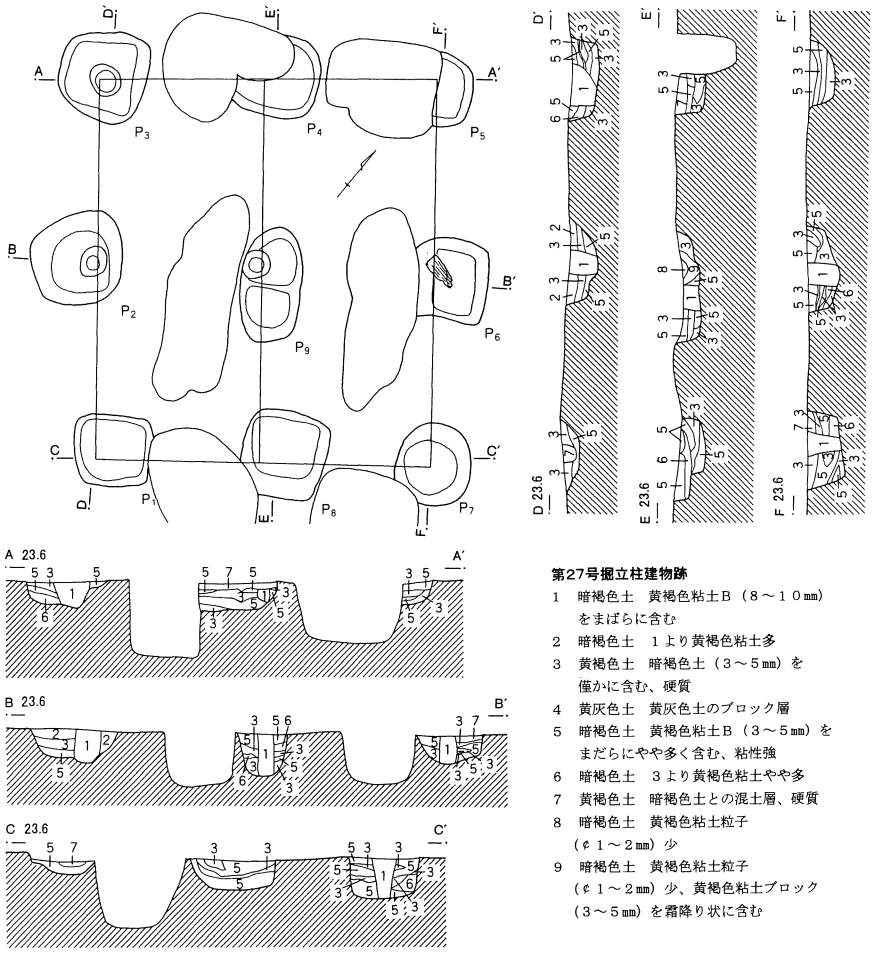
柱穴の確認は大変難しく、地山と遜色のない埋土であった。そのため柱痕跡は、確認できなかった。また断面観察でも確認することはできなかったが、底面に大形の凹みが確認できたため、柱材の沈降した部分と判断した。

柱穴の確認は大変難しく、地山との違いは確認しにくかった。また柱痕跡も確認できなかった。掘り方底面には、柱の沈降部がみられないため、柱位置は判断できなかった。

柱穴は、隅丸方形の掘り方であった。柱穴の大きさは、平均すると長径0.87m×短径0.73m×深さ0.46mを測る。

建物は、34°西に傾いた南北棟である。規模は、桁行2.3m×梁間2.2m（6尺×6尺：高麗尺）となる。床面積は、5.06㎡である。

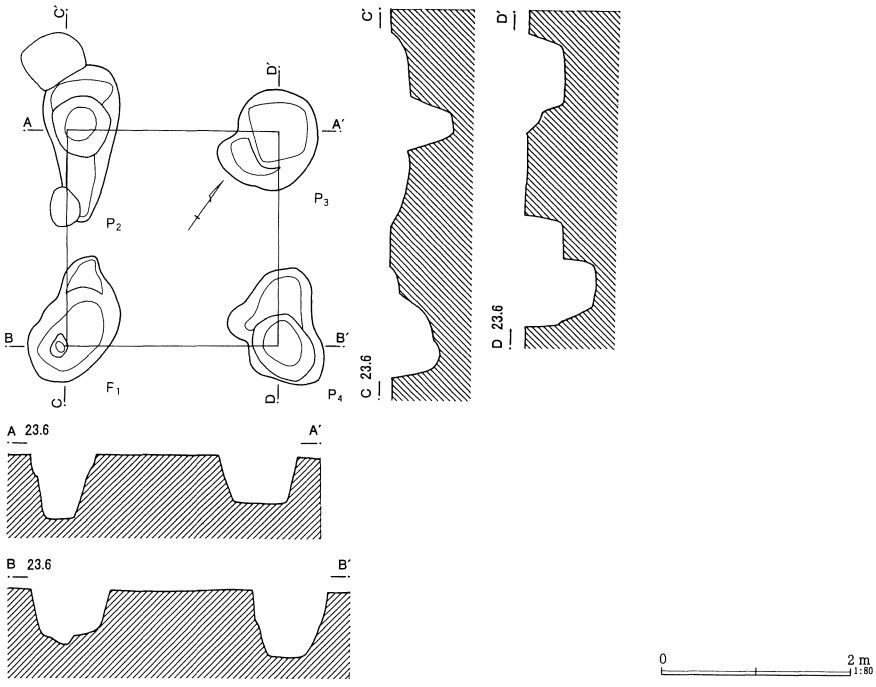
第27号掘立柱建物跡



第27号掘立柱建物跡

1　暗褐色土　黄褐色粘土B（8～10㎜）をまばらに含む
2　暗褐色土　1より黄褐色粘土多
3　黄褐色土　暗褐色土（3～5㎜）を僅かに含む、硬質
4　黄灰色土　黄灰色土のブロック層
5　暗褐色土　黄褐色粘土B（3～5㎜）をまだらにやや多く含む、粘性強
6　暗褐色土　3より黄褐色粘土やや多
7　黄褐色土　暗褐色土との混土層、硬質
8　暗褐色土　黄褐色粘土粒子（φ1～2㎜）少
9　暗褐色土　黄褐色粘土粒子（φ1～2㎜）少、黄褐色粘土ブロック（3～5㎜）を霜降り状に含む

第28号掘立柱建物跡



第386図　掘立柱建物跡(18)

遺構の切り合いは、第153号溝跡よりも古い。

第30号掘立柱建物跡

桁行2間×梁間2間の総柱建物である。

柱穴の確認は明瞭に行えたが、柱痕跡は確認できなかった。断面観察では覆土がレンズ状に堆積していたことから、P1・2・3・5・8・9は抜き取られたと判断した。

柱穴は、方形の掘り方であった。掘り方内には、褐色土が充填されていた。柱穴の大きさは、平均すると長径1.59m×短径0.71m×深さ0.42mを測り、比較的大形であった。P4・6から柱材を検出した。

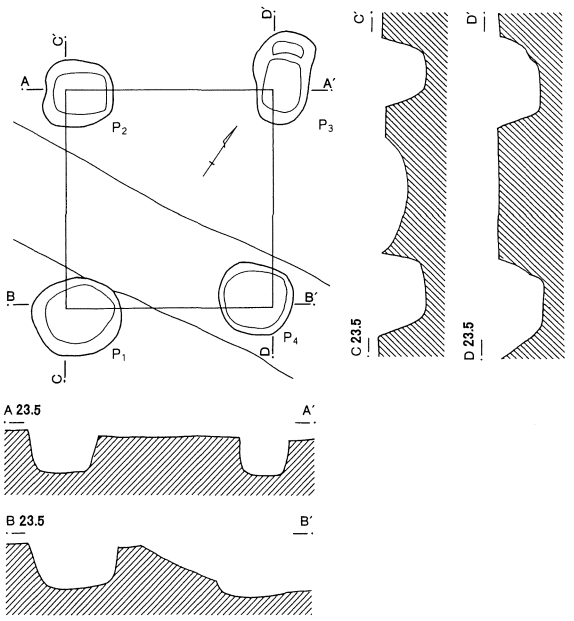
建物は、20°西に傾いた南北棟である。規模は、桁行2.84m×梁間2.8m（8尺×8尺：高麗尺）となる。床面積は、7.95㎡である。柱間寸法は、桁行が1.34m（4尺）＋1.5m（4尺）、梁間は1.44m（4尺）＋1.36m（4尺）である。

遺構の切り合いは、第138号住居跡よりも新しい。

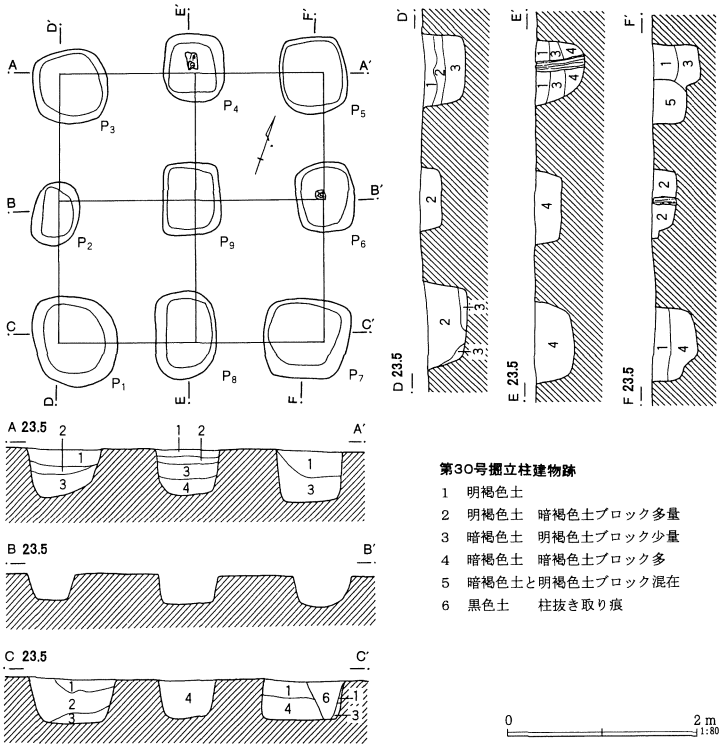
第31号掘立柱建物跡

桁行2間×梁間2間の側柱建物である。

第29号掘立柱建物跡

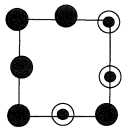


第30号掘立柱建物跡



第387図 掘立柱建物跡(19)

確認が大変難しく、柱痕跡を確認することはできなかった。断面観察でも分層することはできなかった。しかし、掘り方底面に凹みがみられ、柱の沈降した部分と判断した。

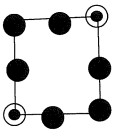


柱穴は、やや長い楕円形の掘り方であった。柱穴の大きさは、平均すると長径1.04m×短径0.7m×深さ0.51mを測り、比較的大形であった。

建物は、34°西に傾いた南北棟である。規模は、桁行4.96m×梁間4.6m(17尺×15尺：天平尺)となる。床面積は、21.16m²である。柱間寸法は、桁行が2.96m(10尺)＋2.0m（7尺)、梁間は2.7m（9尺)＋1.9m（6尺）である。

遺構の切り合いは、第148・150・151・146号住居跡・第176号溝跡よりも古い。

第32号掘立柱建物跡



桁行2間×梁間2間の側柱建物である。

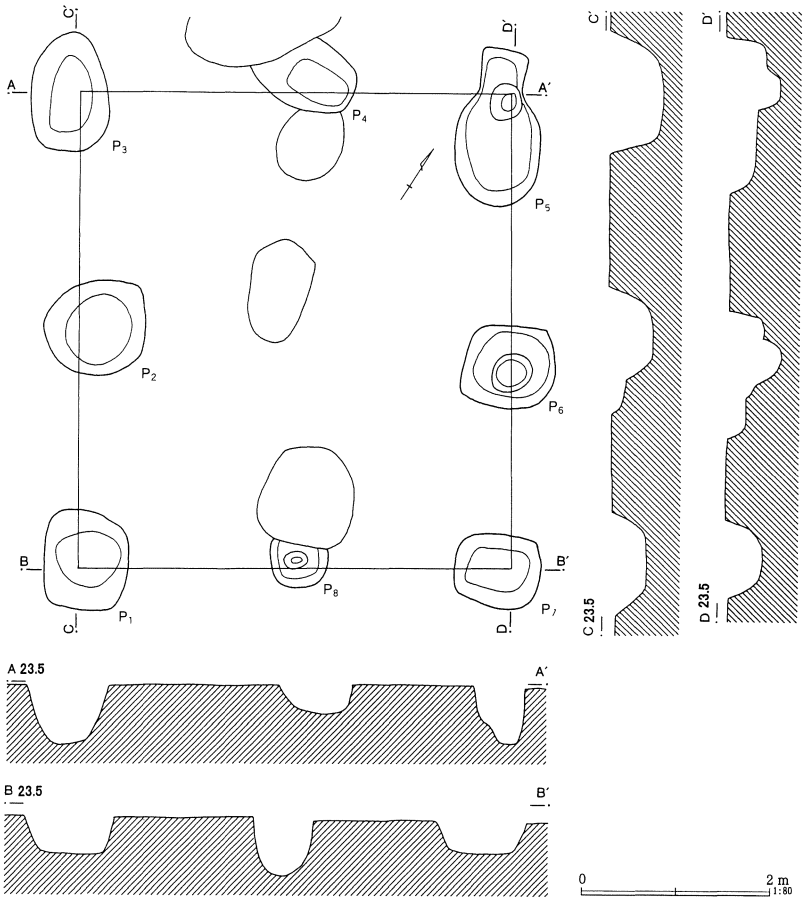
柱穴の確認は大変難しく、柱痕跡も確認することはできなかった。掘り方の底面は一定し、凹みはP5・7にわずかにみられるだけであった。断面観察でも柱痕跡は確認できなかった。

柱穴は、長方形の掘り方であった。柱穴の大きさは、平均すると長径1.1m×短径0.86m×深さ0.48mを測り比較的大形であった。

建物は、41°西に傾いた南北棟である。規模は、桁行5.0m×梁間4.3m(14尺×12尺：高麗尺)となる。床面積は、21.5m²である。柱間寸法は、桁行が2.6m（7尺)＋2.4m（7尺)、梁間は2.3m（6尺)＋2.0m（6尺）である。

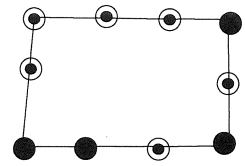
遺構の切り合いは、第31号掘立柱建物跡より新しく、第145・146・147・148・151号住居跡よりも古い。

第31号掘立柱建物跡



第388図　掘立柱建物跡(20)

第34号掘立柱建物跡



桁行３間×梁間２間の建物である。

柱穴は、柱痕も含め、よく確認できた。またＰ９・Ｐ１・Ｐ５・Ｐ３を除き柱材の沈降した痕跡を確認した。

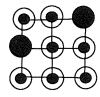
柱穴は、円形と方形の掘り方であった。柱穴の大きさは、平均すると長径0.93ｍ×短径0.87ｍ×深さ0.43ｍを測る。

建物は、86°東に傾いた東西棟である。規模は、桁行10.46ｍ×梁間6.6ｍ（35尺×22尺：天平尺）となる。床面積は、69.04㎡である。

柱間寸法は、桁行が3.66ｍ（12尺）＋3.6ｍ(12尺)＋3.2ｍ(11尺)、梁間は3.6ｍ(12尺)＋3.0ｍ(10尺)である。

遺構の切り合いは、第183号溝跡よりも新しい。

第33号掘立柱建物跡



桁行２間×梁間２間の総柱建物である。

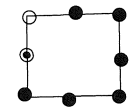
柱穴の確認は難しく、柱痕跡も確認できなかった。掘り方は一定し、柱の沈降は、確認できなかった。

柱穴は、方形の掘り方であった。柱穴の大きさは、平均すると長径0.7ｍ×短径0.58ｍ×深さ0.5ｍを測り、比較的大形であった。

建物は、40°西に傾いた南北棟である。規模は、桁行3.28ｍ×梁間3.02ｍ（９尺×９尺：高麗尺）となる。床面積は、9.91㎡である。柱間寸法は、桁行が1.68ｍ(５尺)＋1.6ｍ(４尺)、梁間は1.52ｍ(５尺)＋1.5ｍ（４尺）である。

遺構の切り合いは、第139・140号住居跡・第178号溝跡よりも新しい。

第35号掘立柱建物跡



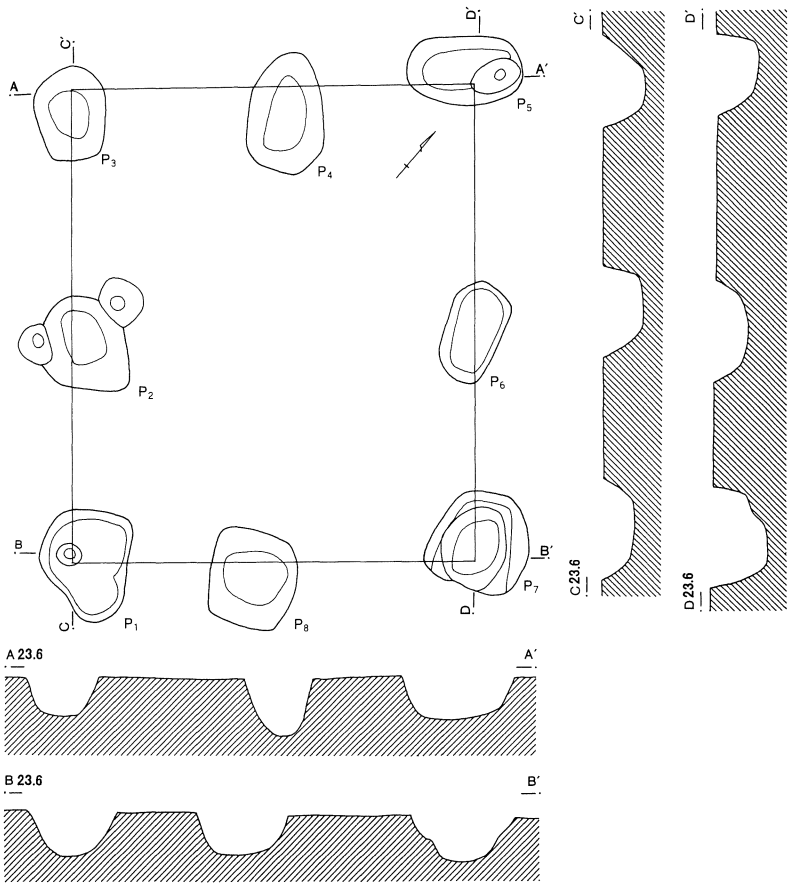
桁行２間×梁間２間の側柱建物である。

柱穴は小さく、遺構確認では柱痕跡を確認できなかった。覆土も浅く、底面も不揃いだった。

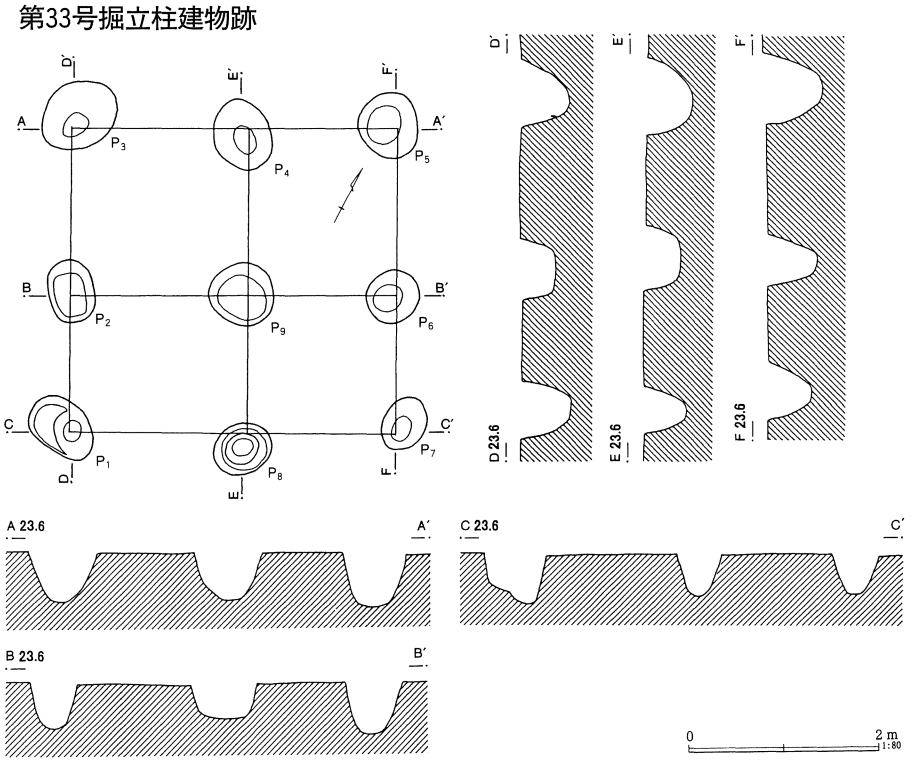
柱穴は、円形の掘り方であった。柱穴の大きさは、平均すると長径0.51ｍ×短径0.42ｍ×深さ0.29ｍを測る。

建物は、52°東に傾いた東西棟である。規模は、桁行4.7ｍ×梁間4.24ｍ(16尺×14尺：天平尺)となる。床面積は、19.93㎡である。

第32号掘立柱建物跡



第33号掘立柱建物跡

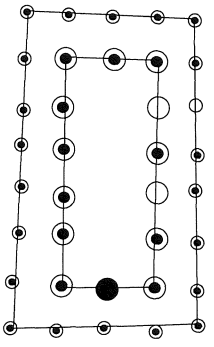


第389図　掘立柱建物跡(21)

柱間寸法は、桁行が2.2m（8尺）+2.5m（8尺）、梁間は1.8m（6尺）+2.44m（8尺）である。

遺構の切り合いは、第183号溝跡よりも新しい。

第36号掘立柱建物跡



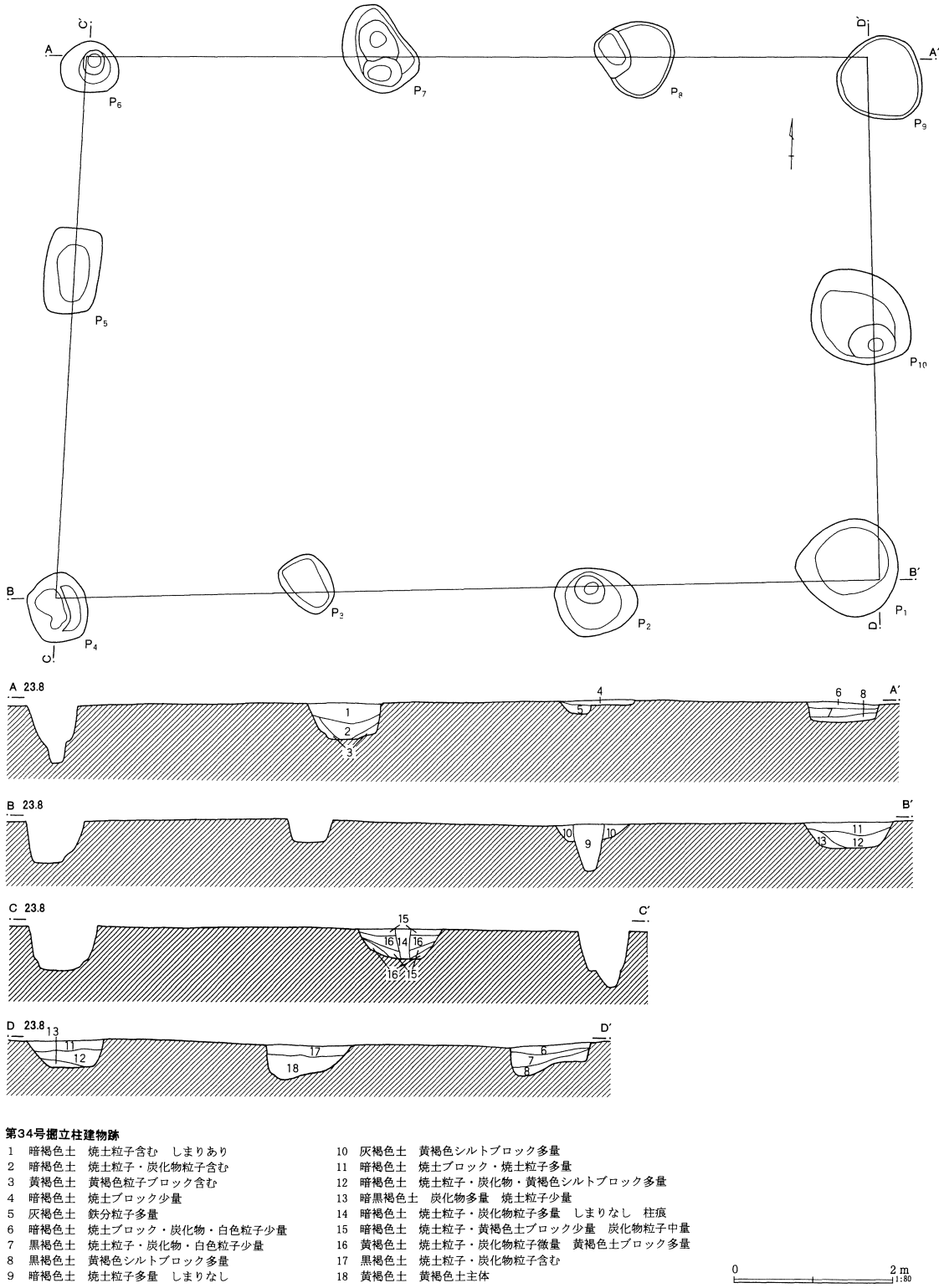
桁行5間×梁間2間の身舎に四面の庇が、付く建物である。

第42号井戸跡を埋土した後、広範囲に亘って整地を行いその上に構築していた。柱痕跡は、明瞭に確認できた。東側の柱穴（P11・13・32）は検出できなかった。

身舎の柱穴は、長方形の掘り方であった。柱穴は柱通りに沿って長手方向がとられ、隅の柱穴は、L字形となっていた。

P7・P10・P2には、添え柱と考えた小柱穴がみられた。柱穴の大きさは、平均すると長径1.23m×短径0.86m×深さ0.57mであり、比較的大形であった。

第34号掘立柱建物跡



第34号掘立柱建物跡

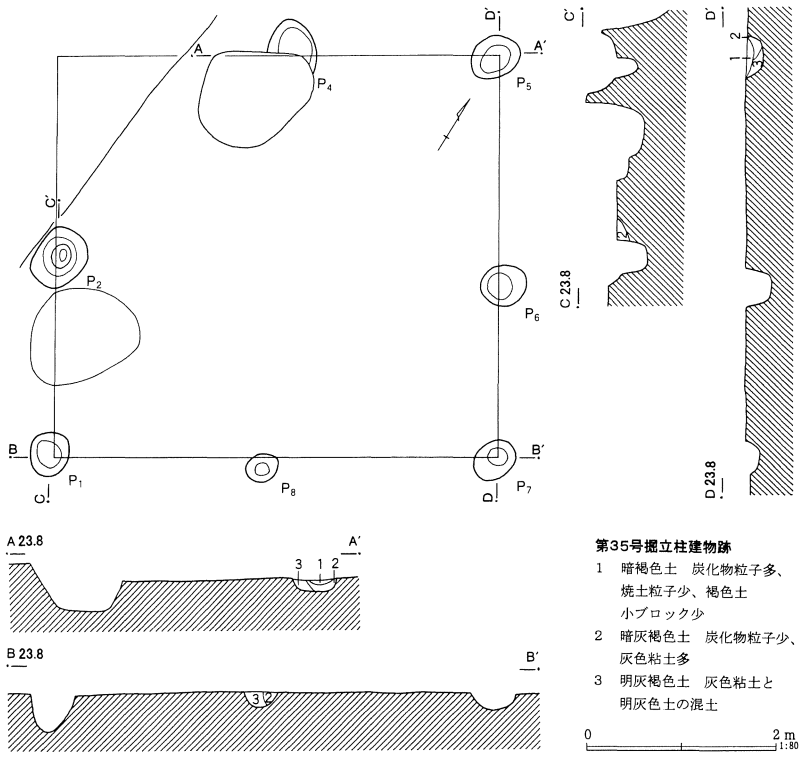
1 暗褐色土 焼土粒子含む しまりあり
2 暗褐色土 焼土粒子・炭化物粒子含む
3 黄褐色土 黄褐色粒子ブロック含む
4 暗褐色土 焼土ブロック少量
5 灰褐色土 鉄分粒子多量
6 暗褐色土 焼土ブロック・炭化物・白色粒子少量
7 黒褐色土 焼土粒子・炭化物・白色粒子少量
8 黒褐色土 黄褐色シルトブロック多量
9 暗褐色土 焼土粒子多量 しまりなし
10 灰褐色土 黄褐色シルトブロック多量
11 暗褐色土 焼土ブロック・焼土粒子多量
12 暗褐色土 焼土粒子・炭化物・黄褐色シルトブロック多量
13 暗黒褐色土 炭化物多量 焼土粒子少量
14 暗褐色土 焼土粒子・炭化物粒子多量 しまりなし 柱痕
15 暗褐色土 焼土粒子・黄褐色土ブロック少量 炭化物粒子中量
16 黄褐色土 焼土粒子・炭化物粒子微量 黄褐色土ブロック多量
17 黒褐色土 焼土粒子・炭化物粒子含む
18 黄褐色土 黄褐色土主体

0 2m 1:80

第390図 掘立柱建物跡(22)

庇の柱穴は測柱に沿って並び、やはり柱通りに従って長手方向をとる柱穴であった。長径0.79m×深さ0.56m×深さ0.26mを測り、身舎の柱穴より小形であった。

第35号掘立柱建物跡



第391図 掘立柱建物跡(23)

庇の柱は、身舎の柱と対になるように掘られていた。身舎・庇とも掘り方内には、粘土を含む暗褐色土が、互層に充塡され圧密化していた。P12・13から柱材を検出した。P12の底面には、礎板と思われる緑泥片岩が埋められていた。

建物は、2°東に傾いた南北棟である。規模は、身舎だけでも桁行11.9m×梁間4.8m(40尺×16尺：天平尺)を測り、庇を含めると桁行16.26m×梁間9.16m（55尺×30尺）となる。床面積は、148.94㎡である。

柱間寸法は、身舎の桁行が2.64m（9尺)+1.8m（6尺)+2.6m（9尺)+2.2m（7尺)+2.66m（9尺)、梁間は2.4m（8尺)+2.4m（8尺）である。

北面の庇は、2.24m（8尺)+2.34m（7尺)+2.2m（8尺)+1.8m（6尺）である。

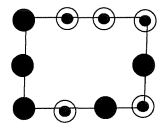
東面の庇は、2.24m（7尺)+(2.26)m（8尺)+(2.34)m（8尺)+1.96m（7尺)+2.78m（9尺)+2.48m（8尺)+1.8m（6尺）である。

南面の庇は、2.16m（7尺)+2.74m（9尺)+2.32m（8尺)+2.2m（7尺）である。

西面の庇は、2.38m（8尺)+2.66m（9尺)+2.3m（8尺)+2.3m（8尺)+1.38m（4尺)+3.06m（10尺)+2.36m（8尺）である。

遺構の切り合いは、第40・42号井戸跡・第240・241・278・279・286・305・306・307・309号土壙・第143号住居跡より新しく、第43・44号井戸跡・第151号溝跡より古い。

第37号掘立柱建物跡



桁行3間×梁間2間の側柱建物である。

柱穴は確認しにくかったが、P10には柱痕跡を確認した。柱穴は、方形の掘り方であった。掘り方内には、褐色土と黒色土が充塡されていた。

柱穴の大きさは、平均すると長径1.32m×短径0.85m×深さ0.46mを測り、比較的大形であった。P2・6・7・8・9は、抜き取り痕と判断した。

建物は、40°東に傾いた南北棟である。規模は、桁行6.26m×梁間4.74m（21尺×16尺：天平尺）となる。床面積は、29.67㎡である。

柱間寸法は、桁行が2.12m（7尺)+1.94m（7尺)+2.2m(7尺)、梁間は2.4m(8尺)+2.34m(8尺）である。

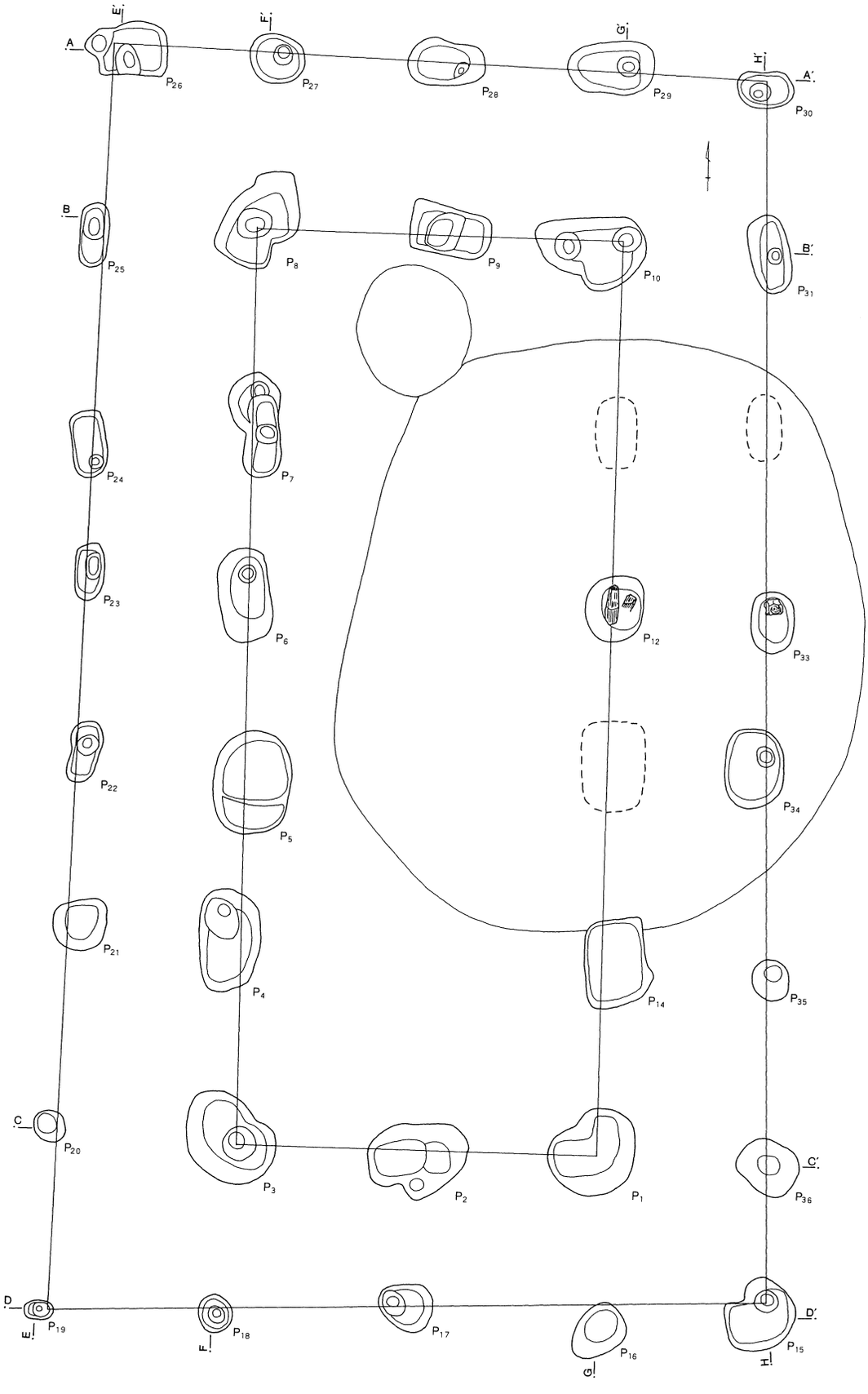
遺構の切り合いは、第87・125号溝跡・第162号住居跡・第51号掘立柱建物跡より古い。

第38号掘立柱建物跡

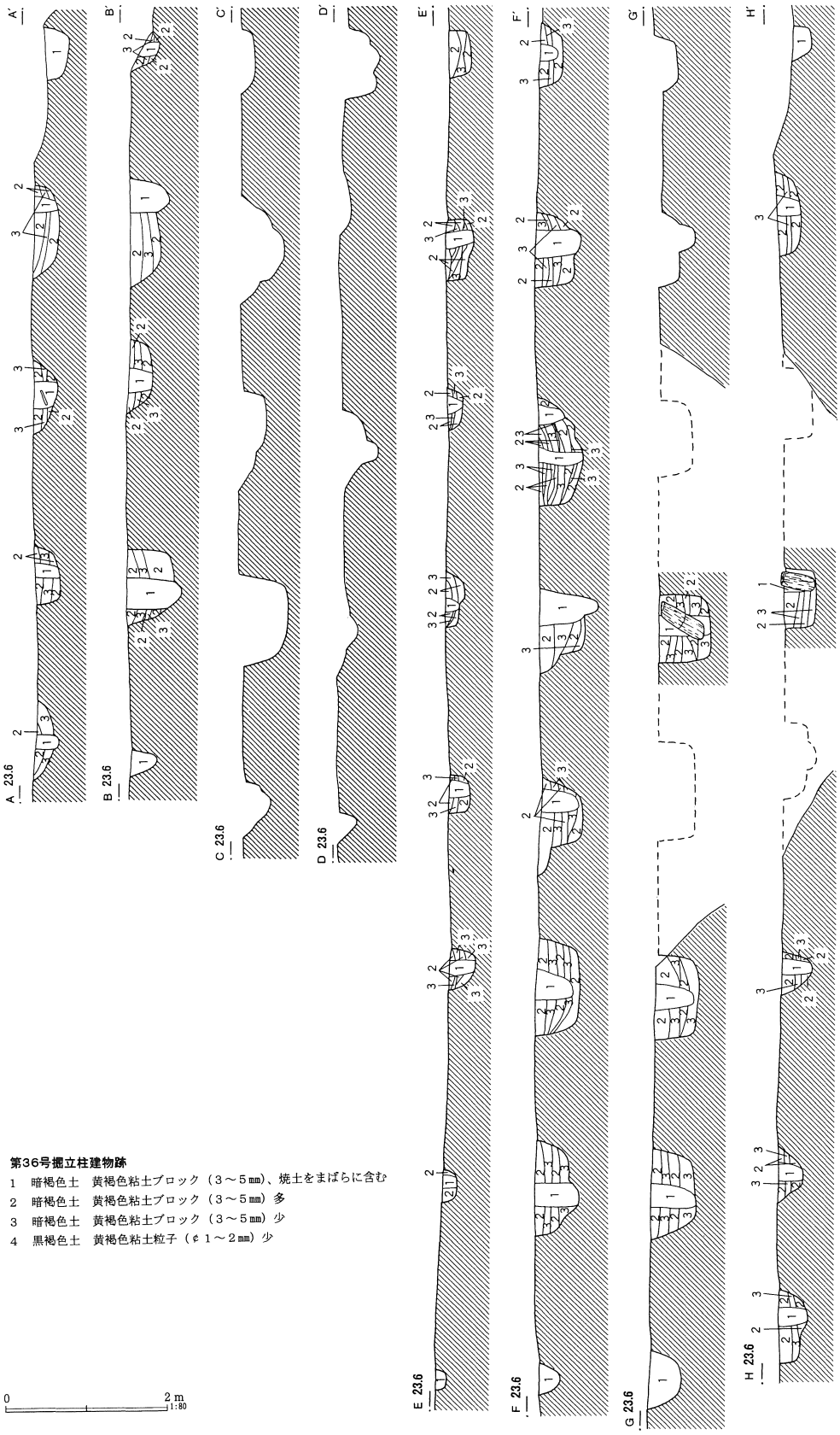
桁行2間×梁間2間の総柱建物である。

柱穴は遺構確認で明瞭に確認できたが、柱痕跡は

第36号掘立柱建物跡

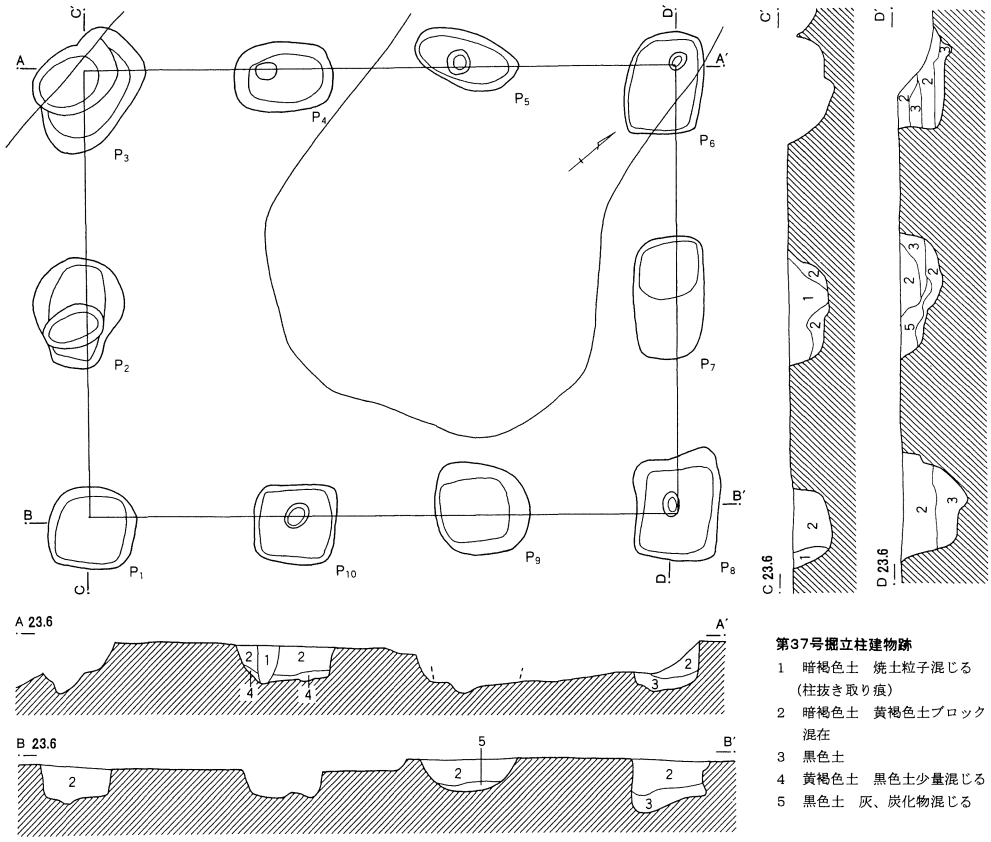


第392図　掘立柱建物跡(24)

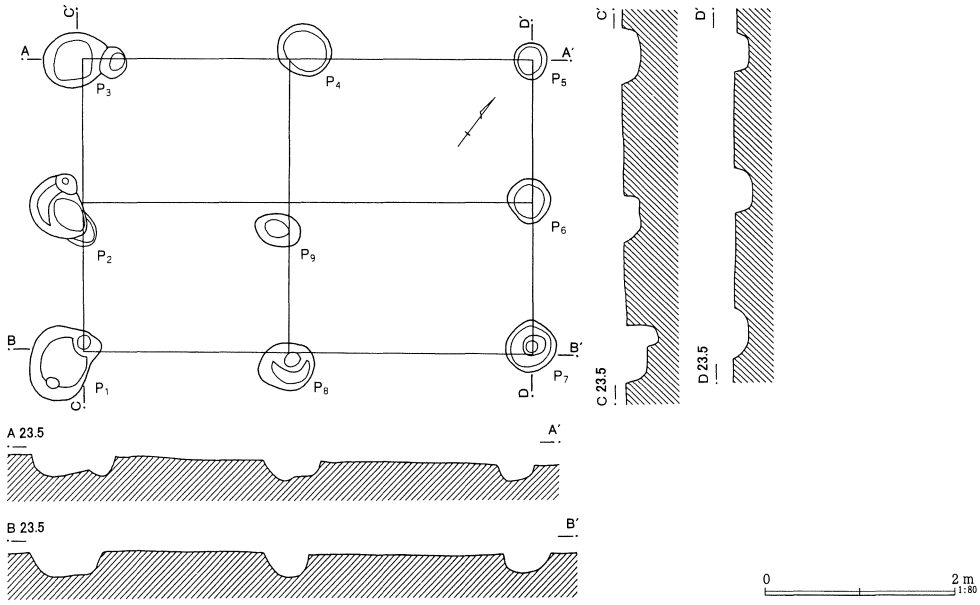


第393図　掘立柱建物跡(25)

第37号掘立柱建物跡

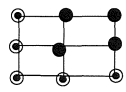


第38号掘立柱建物跡



第394図　掘立柱建物跡(26)

確認できなかった。断面観察でも確認できなかった。



しかし柱穴底面が凹んでいる部分があり、柱の沈降した場所と判断した。

柱穴は、円形の掘り方であった。柱穴の大きさは、平均すると長径0.58m×短径0.5m×深さ0.22mを測る。

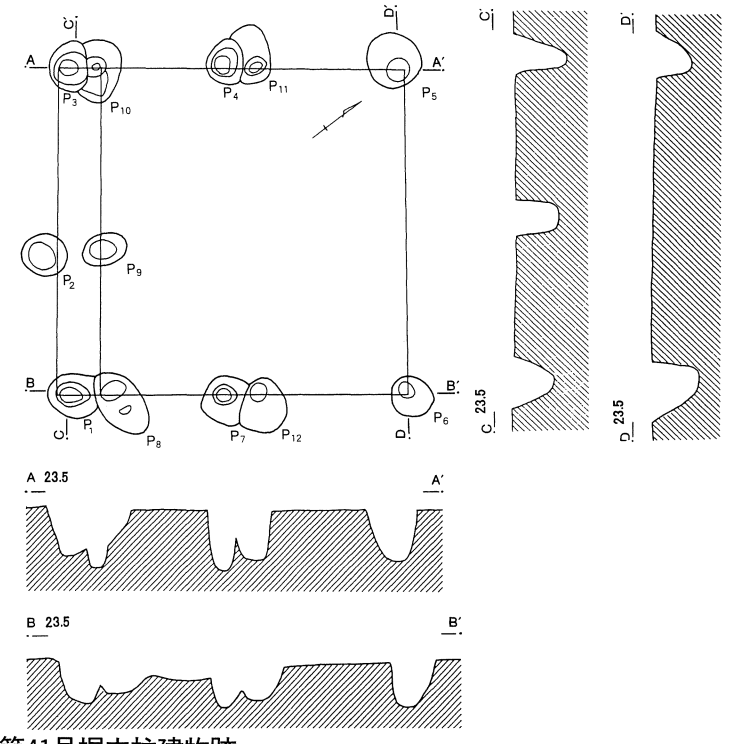
建物は、63°東に傾いた東西棟である。規模は、桁行3.48m×梁間3.2m（10尺×9尺：高麗尺）となる。床面積は11.14m²である。

柱間寸法は、桁行が1.6m（5尺）+1.88m（5尺）、梁間は1.76m（5尺）+1.44m（4尺）である。

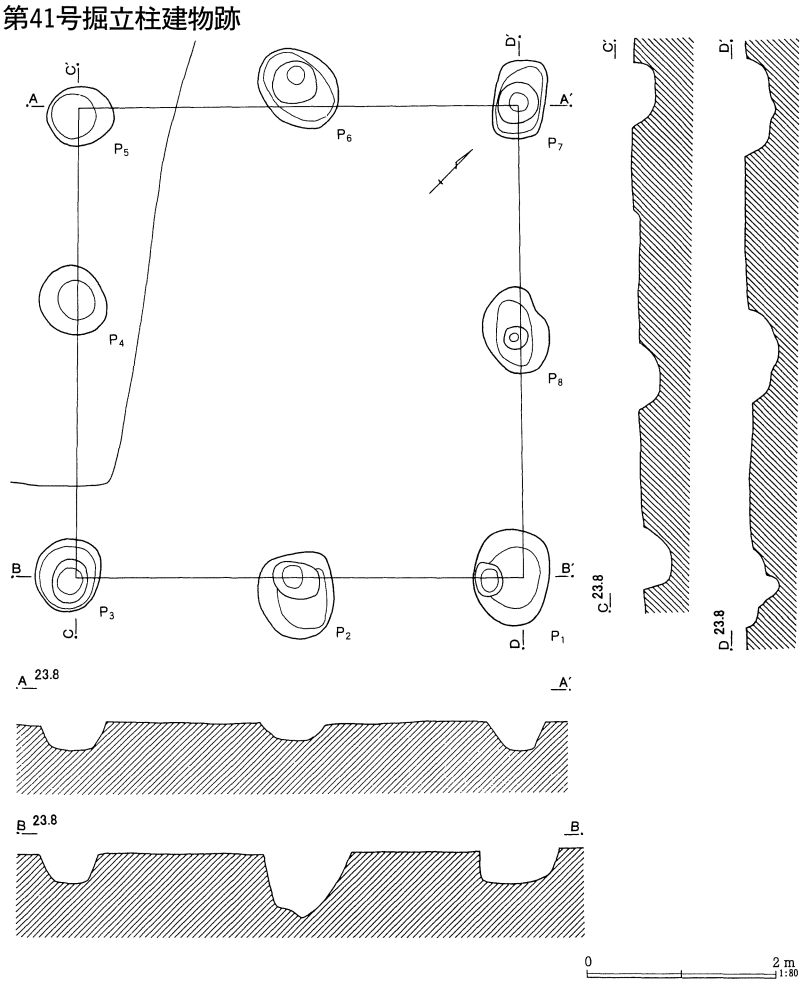
梁間が短く、桁行の長い柱間となっており、やや小形である。

遺構の切り合いは、第195号溝跡より新しく、第171号住居跡より古い。

第39・40号掘立柱建物跡

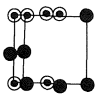


第41号掘立柱建物跡



第395図　掘立柱建物跡(27)

第39号掘立柱建物跡



桁行２間×梁間２間の床束を伴う側柱建物である。

遺構確認時に柱穴は確認できなかったが、掘り方底面に凹みを確認した。

柱穴は、円形の掘り方であった。柱穴の大きさは、平均すると長径0.6ｍ×短径0.44ｍ×深さ0.49ｍを測る。建物は、52°東に傾いた東西棟である。

規模は、桁行4.8ｍ×梁間3.1ｍ（16尺×10尺：天平尺）となる。床面積は、14.88㎡である。柱間寸法は、桁行が2.6ｍ（９尺）＋2.2ｍ（７尺）、梁間は1.5ｍ（５尺）＋1.6ｍ（５尺）である。

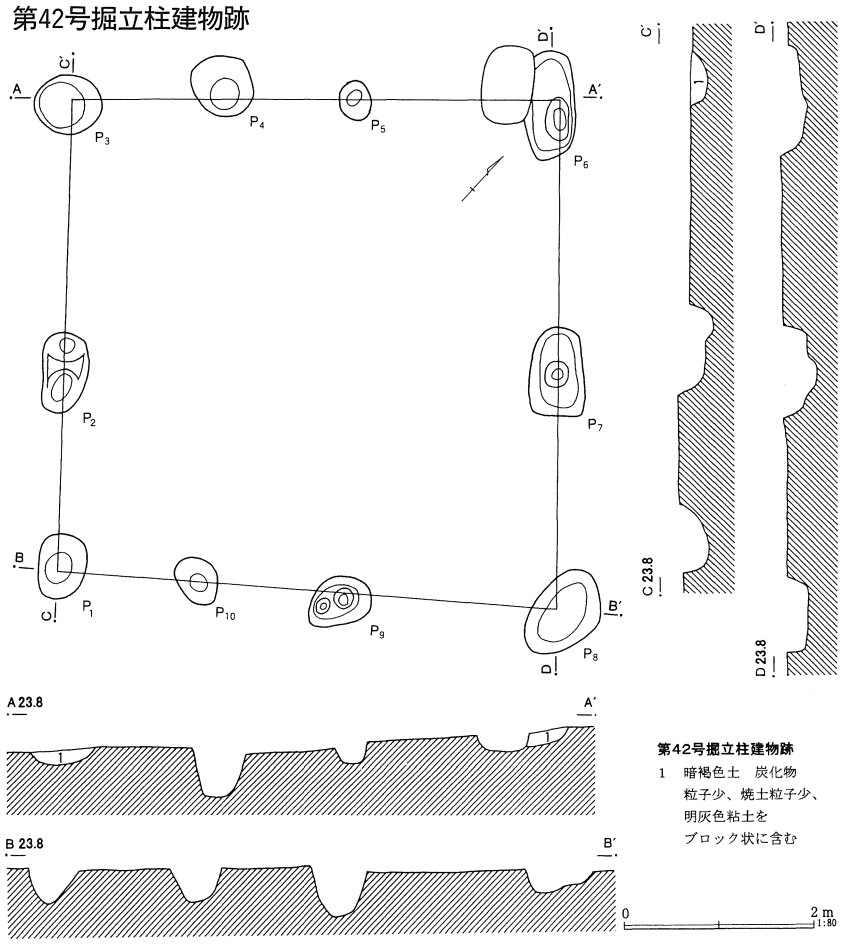
遺構の切り合いは、第40号掘立柱建物跡・第221号溝跡より古い。

第40号掘立柱建物跡

桁行２間×梁間２間の側柱建物である。北側中央の柱穴は、みあたらなかった。

遺構確認時に柱痕は、確認できなかった。また断面観察でもみあたらなかった。柱穴は、円形の掘り方であった。柱穴の大きさは、平均すると長径0.52ｍ×短径0.46ｍ×深さ0.51ｍを測る。

建物は、34°東に傾いた南北

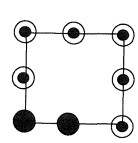


第396図　掘立柱建物跡(28)

棟である。規模は、桁行3.22m×梁間3.42m(11尺×12尺：高麗尺)となる。床面積は、11.01㎡である。柱間寸法は、桁行が1.58m(5尺)+1.64m(6尺)、梁間は1.88m(7尺)+1.54m(5尺)である。

遺構の切り合いは、第39号掘立柱建物跡より新しく、第221号溝跡より古い。

第41号掘立柱建物跡



桁行2間×梁間2間の側柱建物である。

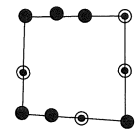
遺構確認時に柱痕跡は、確認できなかった。断面観察でも確認できなかったが、幸い、柱材の沈降によって、掘り方の底面に凹みがみられた。

柱穴は、円形の掘り方であった。柱穴の大きさは、平均すると長径0.87m×短径0.71m×深さ0.34mを測る。

建物は、34°東に傾いた南北棟である。規模は、桁行3.72m×梁間3.44m(12尺×12尺：天平尺)となる。床面積は、12.80㎡である。柱間寸法は、桁行が1.96m(7尺)+1.76m(5尺)、梁間は1.94(7尺)m+1.5m(5尺)である。

遺構の切り合いは、第198・221・254号溝跡より新しい。

第42号掘立柱建物跡



桁行3間×梁間2間の側柱建物である。

柱穴の確認面が低く、遺構の掘込みは浅かった。平面調査では、柱痕跡は確認できなかったが、掘り方内に円形の掘込みがあることで柱位置を判断した。

柱穴は、楕円形の掘り方であった。柱穴の大きさは、平均すると長径0.79m×短径0.54m×深さ0.35mを測る。柱穴は、形状や大きさが不揃いであった。

建物は、46°東に傾いた東西棟である。規模は、桁行5.08m×梁間5.44m(15尺×15尺：高麗尺)となる。床面積は27.64㎡である。

柱間寸法は、桁行が2.08m(6尺)+1.4m(4尺)+1.6m(5尺)、梁間は2.94m(8尺)+2.5m(7尺)である。

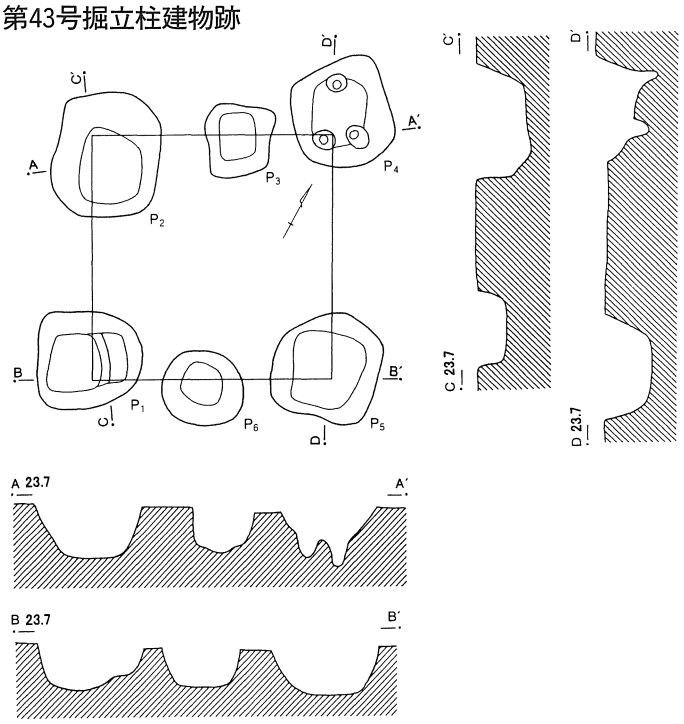
遺構の切り合いは、第54号井戸跡より古い。

第43号掘立柱建物跡

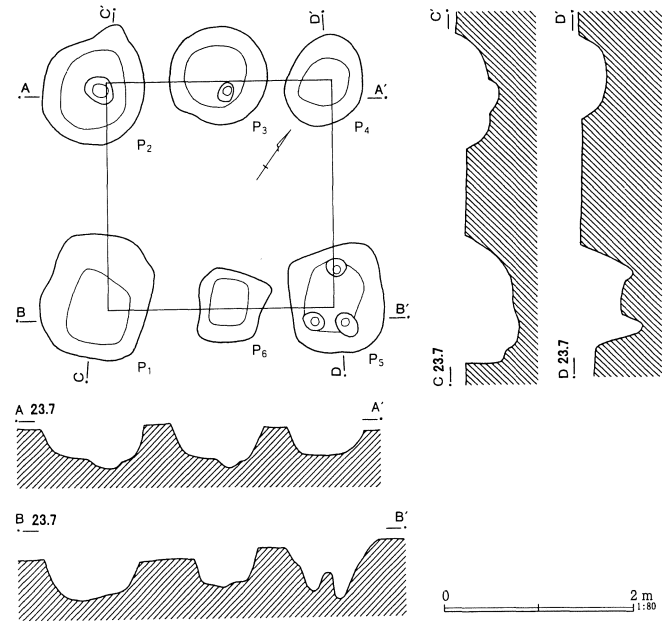
桁行2間×梁間1間の建物である。

遺構確認は困難をきわめ、柱痕跡も確

第43号掘立柱建物跡



第44号掘立柱建物跡



第397図　掘立柱建物跡(29)

認できなかった。覆土は粗い黄褐色粒子の均一な堆積であったため、埋め戻したと判断した。

柱穴は、方形の掘り方であった。柱穴の大きさは、平均すると長径1.08ｍ×短径0.99ｍ×深さ0.53ｍを測り、比較的大形であった。桁行の中央の柱は小さく、補助的な役割の柱と考えた。

建物は、60°東に傾いた東西棟である。規模は、桁行2.5ｍ×梁間2.6ｍ（９尺×９尺：天平尺）となる。床面積は、6.5㎡である。柱間寸法は、桁行が1.0ｍ（４尺）＋1.5ｍ（５尺）、梁間は2.6ｍ（９尺）である。

遺構の切り合いは、第44号掘立柱建物跡より古い。

第44号掘立柱建物跡

桁行２間×梁間１間の建物である。

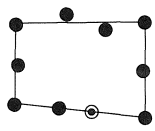
遺構確認が難しく、柱痕跡を確認することはできなかった。しかし覆土は均一で黄褐色粒子が堆積していたため、埋戻したと判断した。

柱穴は、方形の掘り方であった。柱穴の大きさは、平均すると長径1.08ｍ×短径0.98ｍ×深さ0.46ｍを測り、比較的大形であった。桁行中央の柱がやや小さく、補助柱穴であろう。

建物は、50°東に傾いた東西棟である。規模は、桁行2.4ｍ×梁間2.4ｍ（８尺×８尺：天平尺）となる。床面積は5.76㎡である。柱間寸法は、桁行が1.2ｍ（４尺）＋1.2ｍ（４尺）、梁間は2.4ｍ（８尺）である。

遺構の切り合いは、第43号掘立柱建物跡より新しい。

第45号掘立柱建物跡

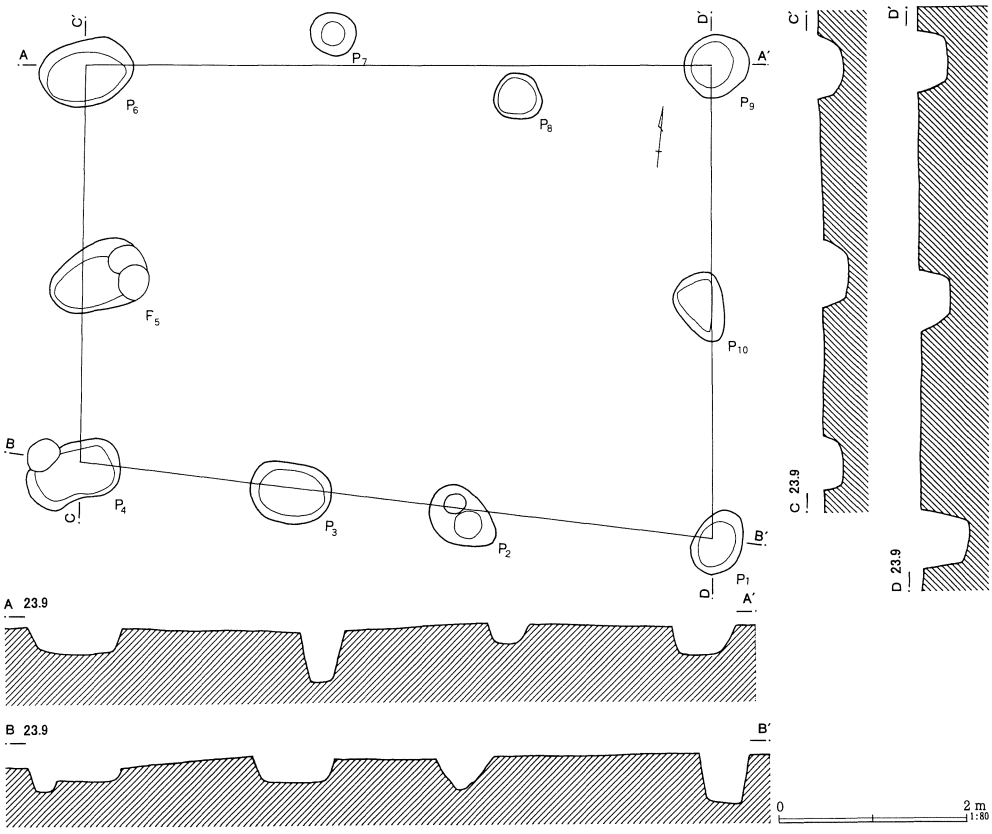


桁行３間×梁間２間の側柱建物である。

遺構確認や断面観察では、柱痕跡を確認できなかった。柱穴の配置も不揃いで、南側の桁行は、北側と平行していない。柱穴の深さも一定していない。

柱穴は、楕円形の掘り方であった。柱穴の大きさ

第45号掘立柱建物跡



第398図　掘立柱建物跡(30)

した。あるいは柱は抜き取られたのかもしれない。

柱穴は、やや長方形の掘り方であった。柱穴の大きさは、平均すると長径1.17m×短径0.91m×深さ0.57mを測り、比較的大形であった。

建物は、47°東に傾いた東西棟である。規模は、桁行7.16m×梁間7.14m（20尺×20尺：高麗尺）となる。床面積は51.12m²である。

柱間寸法は、桁行が2.2m（6尺）+2.5m（7尺）+2.46m（7尺）、梁間は2.5m（7尺）+2.3m（7尺）+2.14m（6尺）である。

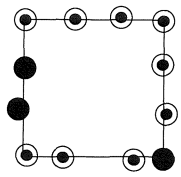
遺構の切り合いは、第48号掘立柱建物跡・第61号井戸跡・第181号住居跡より古い。

は、平均すると長径0.8m×短径0.59m×深さ0.35mを測る。

建物は、85°東に傾いた東西棟である。規模は、桁行6.76m×梁間5.0m(19尺×14尺：高麗尺)となる。床面積は、33.8m²である。柱間寸法は、桁行が2.76m（8尺）+1.7m（5尺）+2.3m（6尺）、梁間は2.5m（7尺）+2.5m（7尺）である。

遺構の切り合いは、第174・181号住居跡・第48号掘立柱建物跡より新しい。

第46号掘立柱建物跡

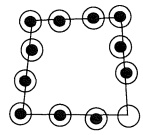


桁行3間×梁間3間の側柱建物である。

遺構確認は大変難しく、柱痕跡を確認することはできなかった。また断面観察でも柱痕はみられなかった。しかし掘り方底面に凹みを確認し、柱の沈降した痕跡と判断した。柱穴は、遺構確認で明瞭に確認できた。また柱痕跡も明らかに確認することができた。

柱穴は、やや方形の掘り方であった。掘り方内には、褐色土が充填されていた。柱穴の大きさは、平均すると長径0.81m×短径0.67m×深さ0.37mを測る。柱穴は比較的浅かった。

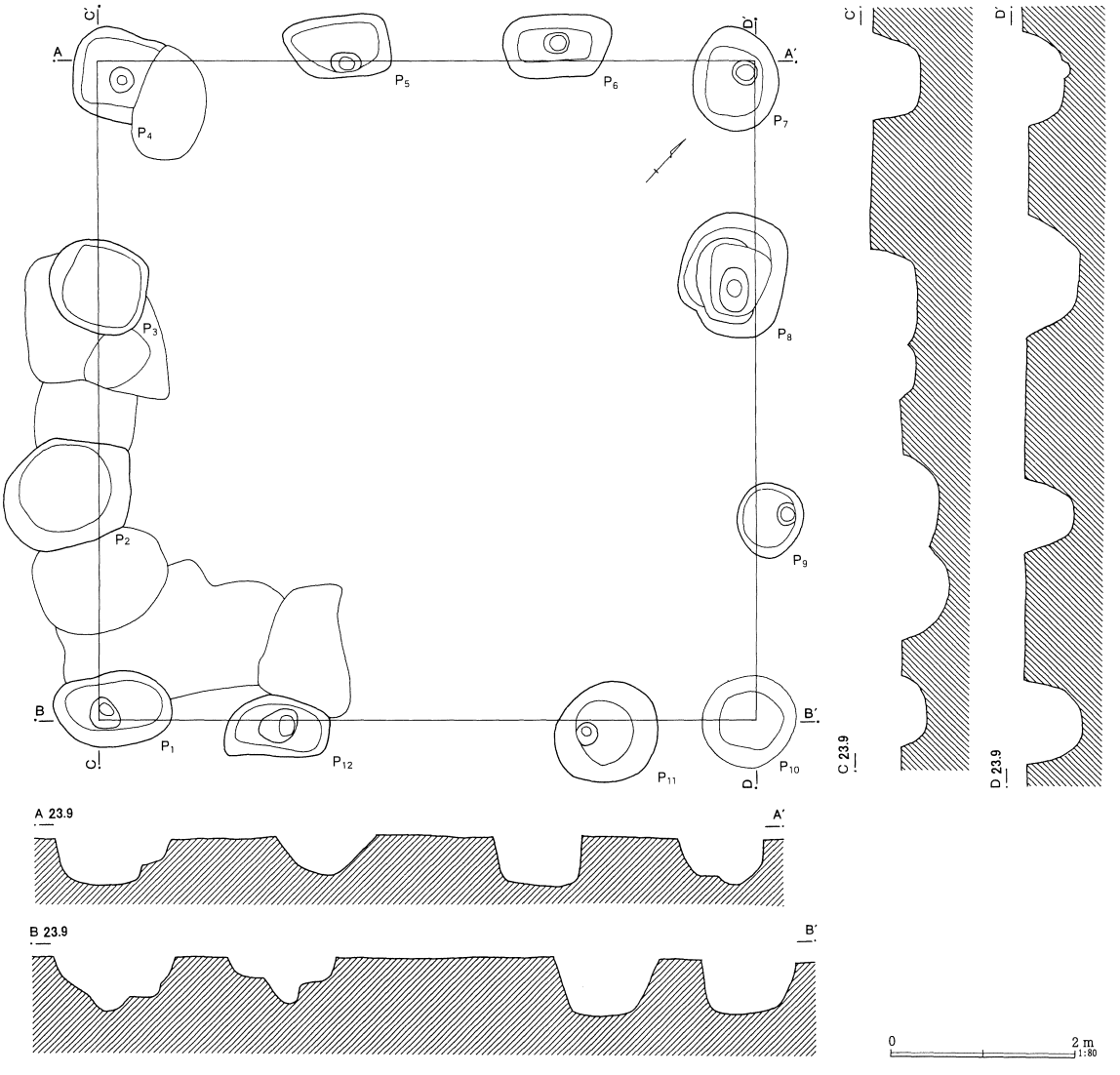
第47号掘立柱建物跡



桁行3間×梁間3間の建物である。南東隅の柱穴は調査区外であったため、検出できなかった。

建物は、38°西に傾いた南北棟である。全体に短形

第46号掘立柱建物跡



第399図　掘立柱建物跡(31)

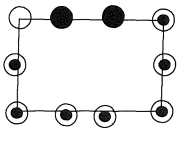
の建物である。規模は、桁行4.9m×梁間4.6m（16尺×16尺：天平尺）となる。床面積は22.54㎡である。柱間寸法は、桁行が1.5m（5尺）+1.6m（5尺）+1.8m（6尺）、梁間は1.4m（5尺）+1.66m（6尺）+1.54m（5尺）である。

遺構の切り合いは、第55号掘立柱建物跡より新しい。

第48号掘立柱建物跡

桁行3間×梁間2間の建物である。

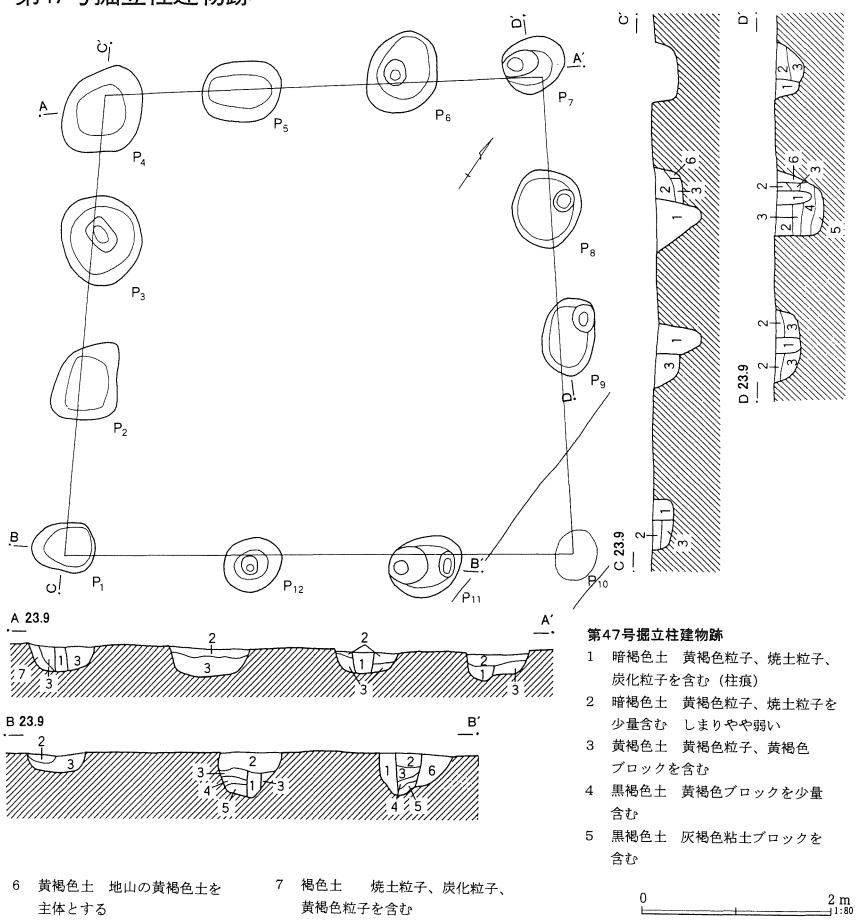
遺構確認は明瞭に行うことができた。柱痕跡も比較的明瞭にわかった。しかし、柱穴の断面観察の位置がややずれてしまったため、南側の柱列に柱痕を確認できなかった。



柱穴は、方形または、やや長方形の掘り方であった。掘り方内には、黄褐色土と暗褐色土が堅く充填されていた。柱穴の大きさは、平均すると長径1.27m×短径1.08m×深さ0.55mを測り、比較的大形であった。P3は中世の遺構に破壊され確認できなかった。

建物は、57°東に傾いた東西棟である。規模は、桁

第47号掘立柱建物跡

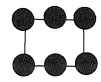


第400図 掘立柱建物跡(32)

行7.38m×梁間4.82m（21尺×14尺：高麗尺）となる。床面積は35.57m²である。柱間寸法は、桁行が3.2m（9尺）+1.72m（5尺）+2.46m（7尺）、梁間は2.42m（7尺）+2.4m（7尺）である。

遺構の切り合いは、第45号掘立柱建物跡・第174号住居跡・第61号井戸跡よりも古い。

第49号掘立柱建物跡



桁行2間×梁間1間の建物である。

遺構確認は大変難しく、柱痕跡を確認することはできなかった。また断面観察でも柱痕跡は確認できなかった。さらに掘込みが浅いため、柱の抜き取り痕跡もみられなかった。

柱穴は、方形の掘り方であった。柱穴の大きさは、平均すると長径0.97m×短径0.89m×深さ0.34mを測る。

建物は、55°西に傾いた東西棟である。規模は、桁行3.02m×梁間2.4m（9尺×7尺：高麗尺）となる。床面積は7.25m²である。柱間寸法は、桁行が1.48m（4尺）+1.54m（5尺）、梁間は2.4m（7尺）である。

遺構の切り合いは、第311号土壙より新しく、第36号掘立柱建物跡より古い。

第50号掘立柱建物跡

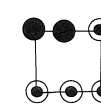
桁行2間×梁間1間の建物である遺構確認は大変難しく、柱痕跡はみられなかった。また断面観察でも確認できなかった。ただしP1には柱材が残されていた。

柱穴は、やや方形の掘り方であった。柱穴の大きさは、平均すると長径1.28m×短径1.0m×深さ0.6mを測り、比較的大形であった。P1から柱材を検出した。

建物は、60°西に傾いた東西棟である。規模は、桁行2.64m×梁間2.6m（9尺×9尺：天平尺）となる。床面積は6.86m²である。柱間寸法は、桁行が1.2m（4尺）+1.44m（5尺）、梁間は2.6m（9尺）である。

遺構の切り合いは、第49号掘立柱建物跡より新しく、第151号溝跡・第59号井戸跡より古い。

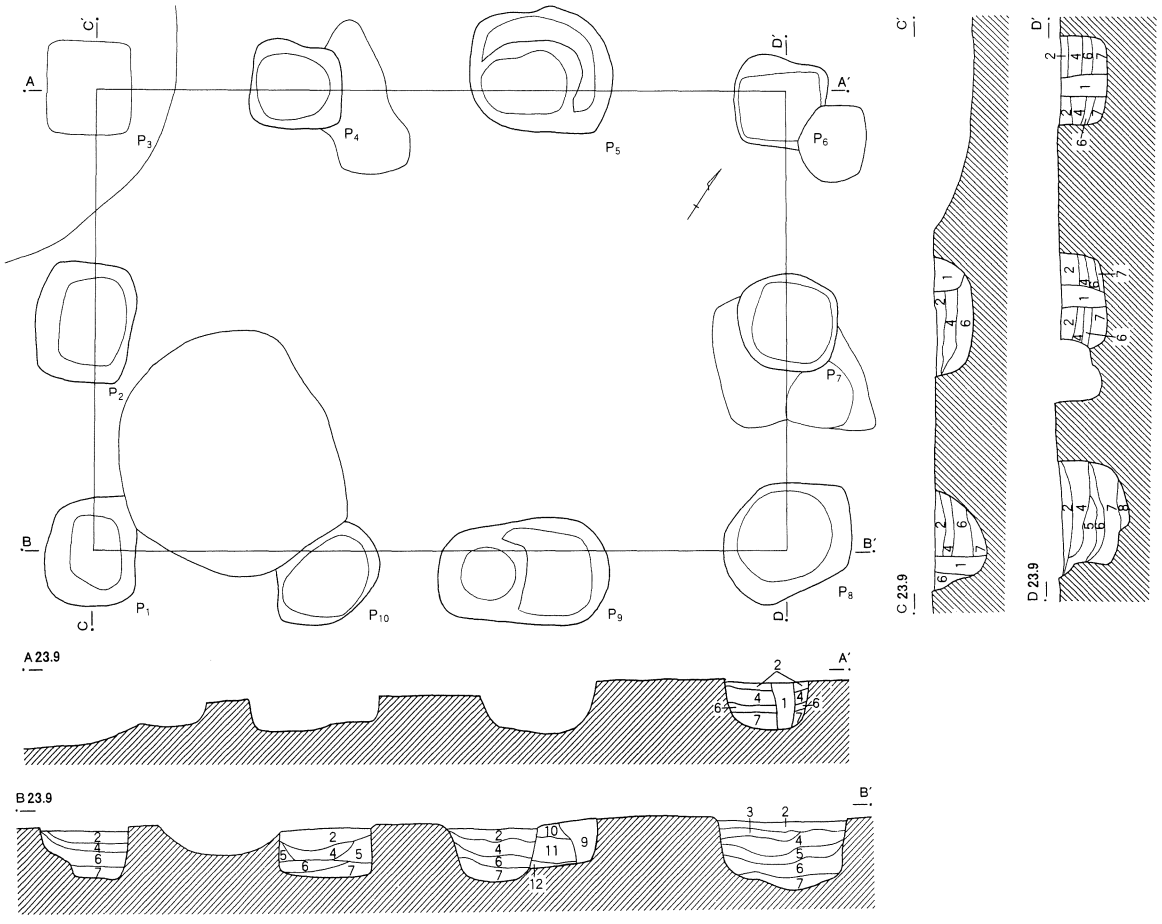
第51号掘立柱建物跡



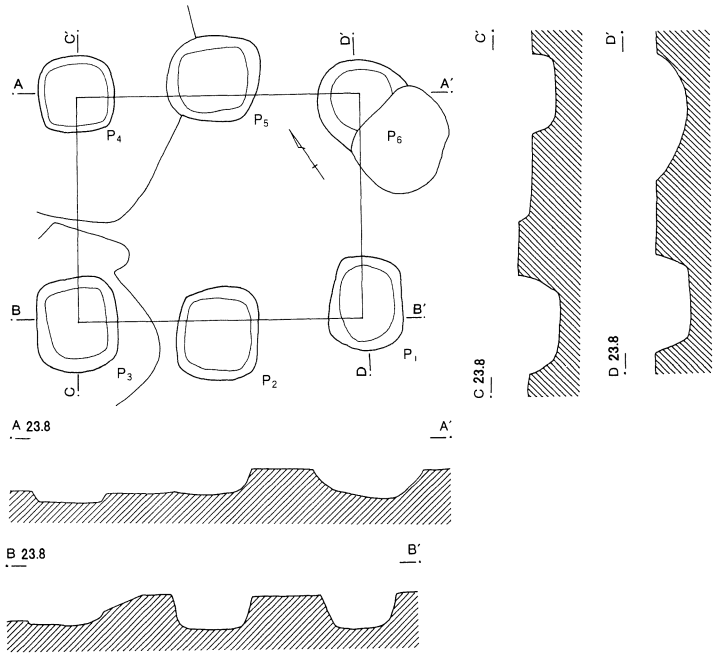
桁行1間×梁間2間の建物である。四脚門と考えた。

遺構確認は大変難しく、構築面からの確認ができなかった。確認面を10cmほど下げたところ、柱材そのものが出土し、建物の存在が明らかとなった。

第48号掘立柱建物跡



第49号掘立柱建物跡



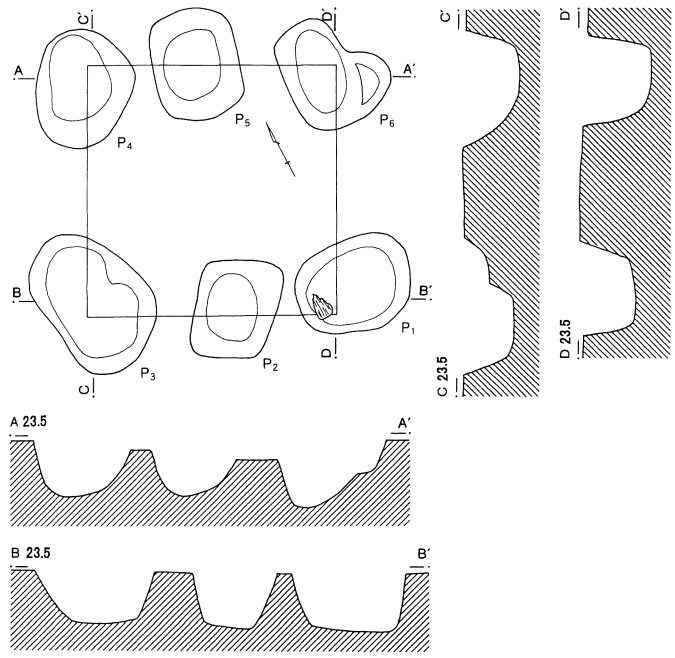
第48号掘立柱建物跡

1　黒褐色土　地山粒子、炭化粒子を含み、しまりやや弱い（柱痕）
2　暗褐色土　地山粒子、地山ブロックを多く含み、しまりもつ
3　暗褐色土　2層より粒子細かい
4　暗褐色土　地山粒子、炭化粒子を含み、若干の焼土粒子を混入
5　暗褐色土　地山ブロックをやや多く含む
6　黄褐色土　地山ブロック多く、粘土ブロック、地山粒子を含む
7　黄褐色土　粘土ブロックを多く含むしまりもつ　粘性弱い
8　灰褐色土　灰褐粘土を含む　しまり、粘性もつ
9　黒褐色土　炭化粒子、焼土粒子を含み、しまりやや弱い
10　暗褐色土　地山粒子、地山ブロックを含み、しまりもつ
11　暗褐色土　地山粒子、炭化粒子を含むややしまりもつ
12　黄褐色土　粘土ブロック、地山ブロックを含む

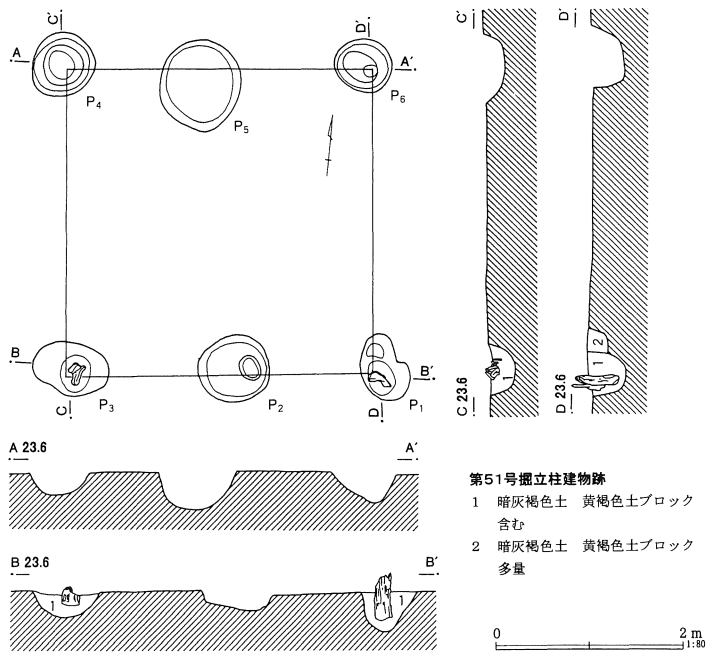
0　2 m　1:80

第401図　掘立柱建物跡(33)

第50号掘立柱建物跡



第51号掘立柱建物跡



第402図 掘立柱建物跡(34)

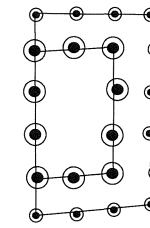
柱穴は、円形の掘り方であった。掘り方内には黄褐色土ブロックが充塡されていた。親柱の柱穴の大きさは、平均すると長径0.9m×短径0.72m×深さ0.37mであり、比較的大形であった。

四隅の控柱の柱穴は、長径0.7m×短径0.54m×深さ0.34mを測り、親柱の柱穴より若干小さかった。P1・P3から柱痕跡を検出した。

親柱の並びは、84°東に傾いている。規模は、桁行3.26m×梁間3.26m(9尺×9尺：高麗尺)となる。建築面積は、10.63m²である。柱間寸法は、桁行が3.26m(9尺)、梁間は1.32m (4尺)+1.94m (5尺) である。

遺構の切り合いは、第37号掘立柱建物跡より新しく、第125号溝跡より古い。

第52号掘立柱建物跡



桁行3間×梁間2間の身舎に三面庇のつく側柱建物である。

柱穴の確認は、比較的明瞭に行えた。柱痕跡も明瞭であった。遺構確認面が低かったため、柱穴の掘込みは浅かった。

身舎の柱穴は、円形の掘り方であった。柱穴の大きさは、平均すると長径0.67m×短径0.53m×深さ0.39mを測る。庇の柱穴は、長径0.38m×短径0.35m×深さ0.28mであり、比較的小形であった。

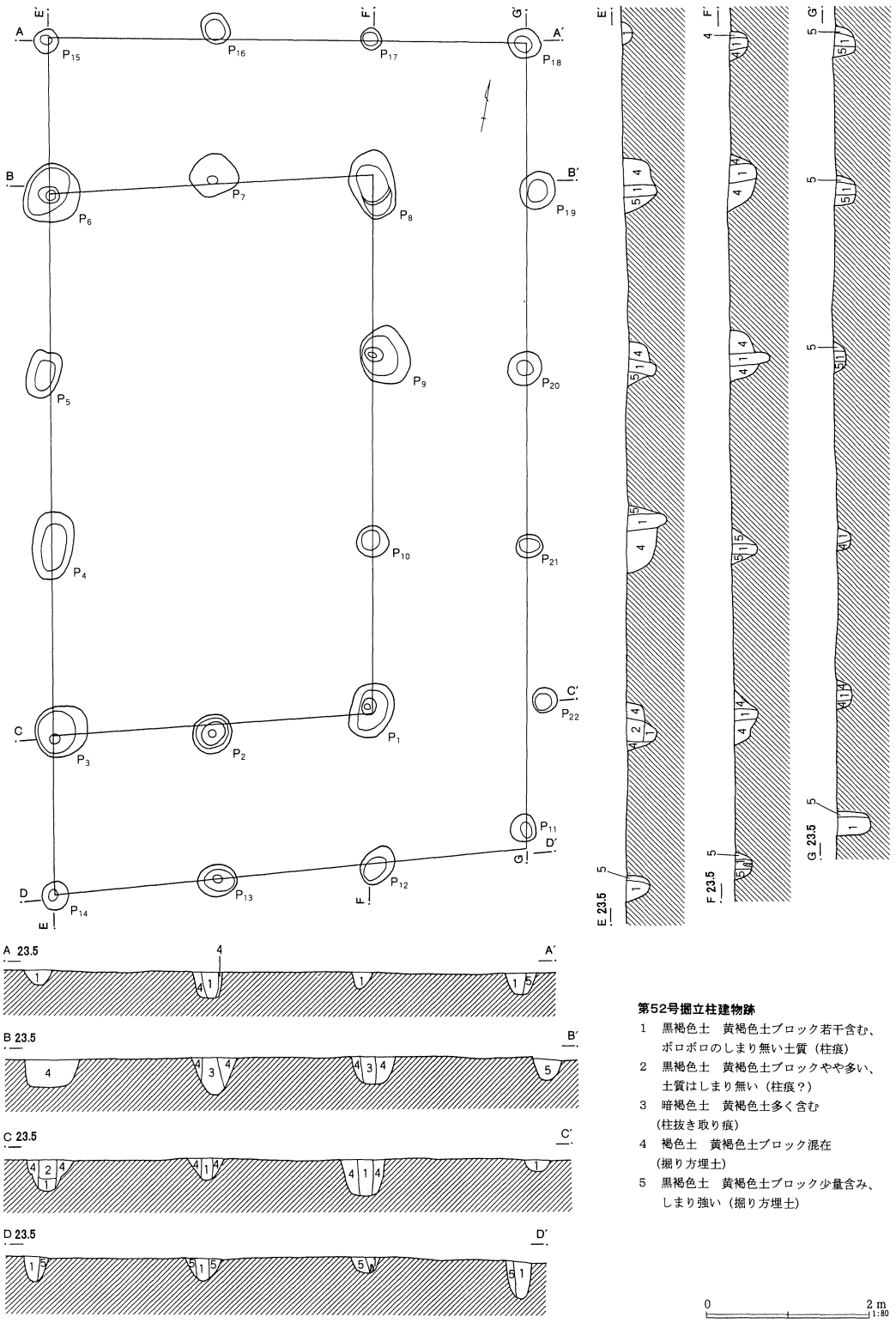
庇の柱は、身舎の柱と対になるように柱通りを揃えていた。身舎・庇の柱穴には、掘り方内に褐色土が、堅く充塡されていた。P12には、柱材が残存していた。

建物は、10°西に傾いた南北棟である。規模は、身舎だけでも桁行6.52m×梁間4.02m (22尺×14尺：天平尺) を測り、三面の庇を含めると桁行10.16m×梁間5.92m(35尺×20尺) となる。床面積は60.15m²である。

柱間寸法は、身舎の桁行が2.12m (7尺)+2.3m (8尺)+2.1m (7尺)、梁間は2.04m (7尺)+1.98m (7尺) である。

庇は、北面が2.1m (7尺)+1.94m (7尺)+1.9

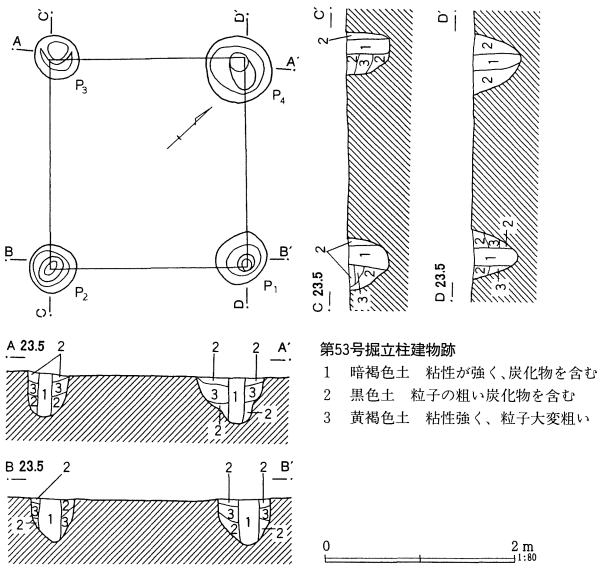
第52号掘立柱建物跡



第403図　掘立柱建物跡(35)

m（6尺)、東面は1.84m（6尺)＋2.16m（7尺)＋2.14m（7尺)＋1.96m（7尺)＋1.8m（6尺)、南面は1.82m（6尺)＋2.0m（7尺)＋2.0m（7尺)である。

第53号掘立柱建物跡



第404図 掘立柱建物跡(36)

遺構の切り合いは、第198・218・221・254号溝跡・第53号掘立柱建物跡より新しい。

第53号掘立柱建物跡

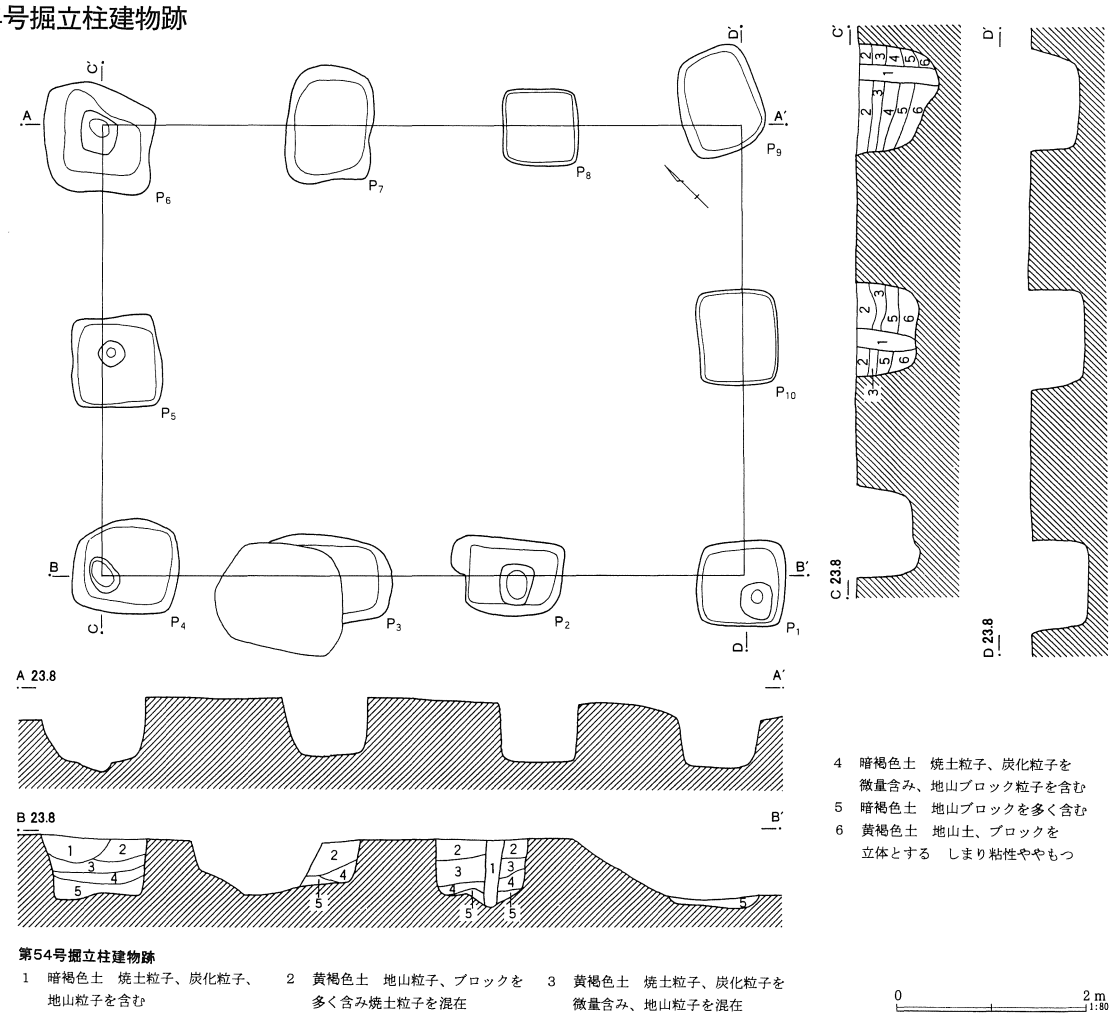
桁行１間×梁間１間の建物である。

柱穴は、円形の掘り方であった。掘り方内には、黄褐色土が充填されていた。柱穴の大きさは、平均すると長径0.61ｍ×短径0.53ｍ×深さ0.5ｍを測る。柱痕跡は、遺構確認や断面観察で、明瞭に確認できた。

建物は、41°東に傾いた南北棟である。規模は、桁行2.19ｍ×梁間2.0ｍ(７尺×７尺：天平尺)となる。床面積は、4.38㎡である。

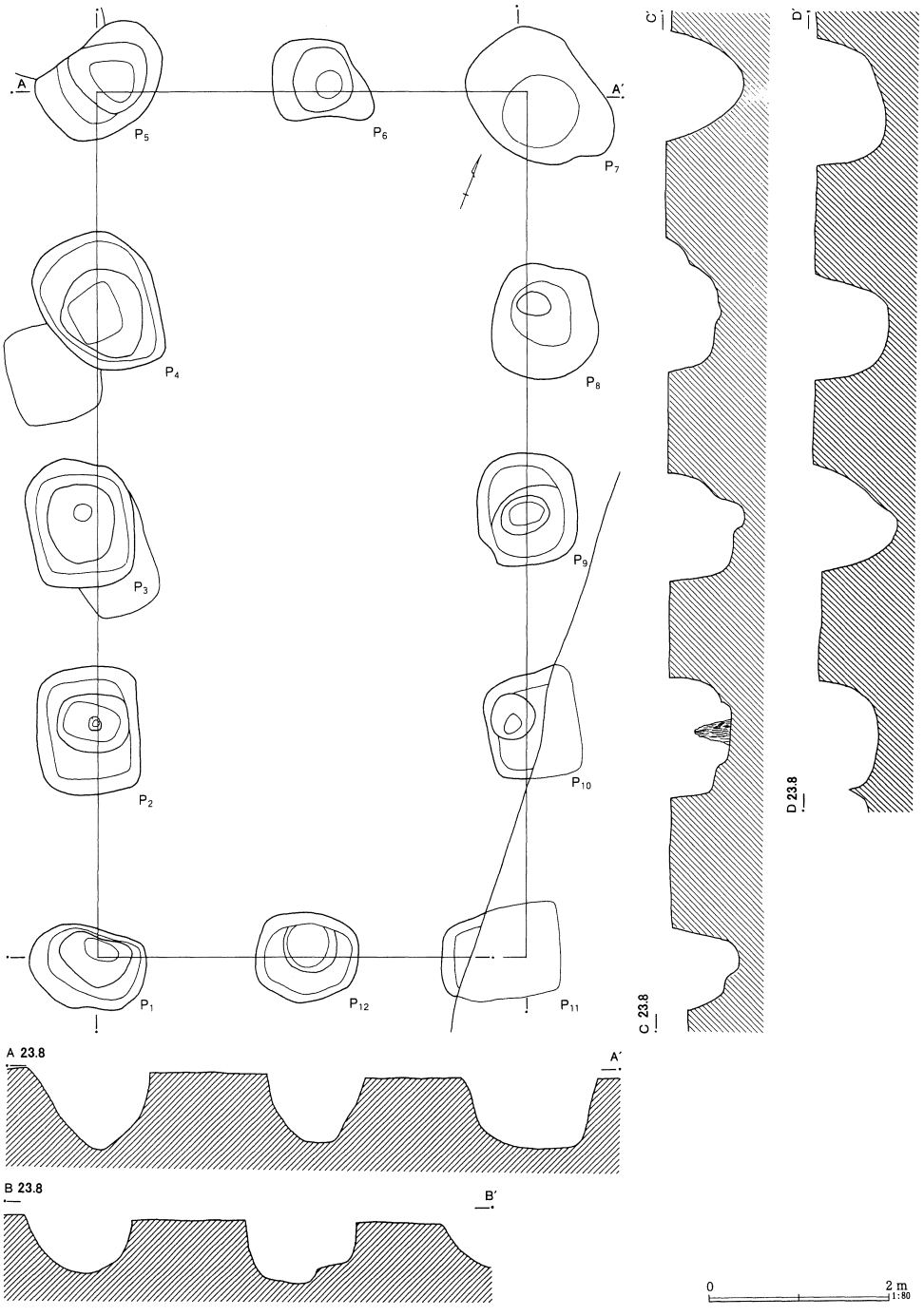
遺構の切り合いは、第52号掘立柱建物跡より古い。

第54号掘立柱建物跡



第405図 掘立柱建物跡(37)

第55号掘立柱建物跡



第406図　掘立柱建物跡(38)

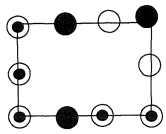
柱穴は、方形の掘り方であった。掘り方内には、黄褐色土が充填されていた。柱穴の大きさは、平均すると長径1.08m×短径0.92m×深さ0.68mを測り、比較的大形であった。

建物は、41°西に傾いた南北棟である。規模は、桁行6.8m×梁間4.87m（24尺×16尺：天平尺）となる。床面積は33.12m²である。

柱間寸法は、桁行が1.8m（6尺）＋2.6m（9尺）＋2.4m（9尺）、梁間は2.36m（8尺）＋2.42m（8尺）である。

遺構の切り合いは、第55号掘立柱建物跡・第233号溝跡より古い。

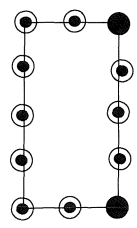
第54号掘立柱建物跡



桁行3間×梁間2間の建物である。

柱穴は、遺構確認で明瞭に確認できた。しかしP7・8・9・10は、柱穴と認識せず調査したため、柱痕跡を確認できなかった。

第55号掘立柱建物跡



桁行4間×梁間2間の建物である。

柱穴の埋土と地山に変化が乏しく遺構確認に困難をきわめた。そのため、柱痕跡も明瞭にとらえることが

できなかった。しかし、柱穴の底部に凹みが確認でき、柱材の沈降した跡と判断できた。

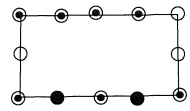
柱穴は、方形の掘り方であった。柱穴の大きさは、平均すると長径1.28ｍ×短径1.01ｍ×深さ0.72ｍを測り、比較的大形であった。Ｐ２からは、柱材を検出した。

建物は、21°西に傾いた南北棟である。規模は、桁行9.6ｍ×梁間4.8ｍ（32尺×16尺：天平尺）となる。床面積は46.08㎡である。

柱間寸法は、桁行が2.36ｍ（８尺）＋2.34ｍ（８尺）＋2.3ｍ（８尺）＋2.6ｍ（８尺）、梁間は2.6ｍ（９尺）＋2.2ｍ（７尺）である。

遺構の切り合いは、第54号掘立柱建物跡より新しく、第233号溝跡より古い。

第56号掘立柱建物跡



桁行４間×梁間２間の側柱建物である。東側柱列と西側柱列の柱穴Ｐ２・７・８は重複遺構に破壊され、検出できなかった。

遺構は比較的明瞭に確認できたが、柱痕跡は確認することができず、断面観察でも確認できなかった。しかし、Ｐ１・３・４・９・11の底面がやや凹むため、柱材の沈降したところと判断した。

柱穴は、円形の掘り方であった。柱穴の大きさは、平均すると長径0.6ｍ×短径0.46ｍ×深さ0.46ｍを測る。

建物は、65°東に傾いた東西棟である。規模は、桁行6.2ｍ×梁間4.4ｍ（27尺×15尺：天平尺）となる。床面積は、27.28㎡である。柱間寸法は、桁行が1.9ｍ（７尺）＋2.3ｍ（８尺）＋1.9ｍ（６尺）＋2.0ｍ（６尺）、梁間は（2.1）ｍ（７尺）＋（2.3）ｍ（８尺）である。

遺構の切り合いは、第244号溝跡より新しく、第125・206・277号溝跡・第80号井戸跡よりも古い。

第57号掘立柱建物跡

桁行２間×梁間１間の床束を伴う側柱建物である。

遺構は明瞭に確認することができたが、柱痕跡は、10㎝ほど掘り込んで確認した。断面観察でも明瞭に確認できた。

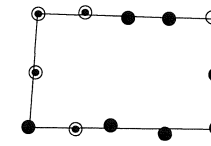
柱穴は、方形の掘り方であった。掘り方内には、灰色粘土が充塡されていた。柱穴の大きさは、平均すると長径1.0ｍ×短径0.86ｍ×深さ0.66ｍを測り、比較的大形であった。柱穴の底には、木の皮が敷かれていた。あるいは礎板の痕跡かもしれない。

Ｐ７は、方形の掘り方で長径0.6ｍ×短径0.56ｍ×深さ0.37ｍと、側柱の柱穴よりも小さく浅いため床束と判断した。

建物は、31°西に傾いた南北棟である。規模は、桁行2.74ｍ×梁間2.9ｍ（９尺×10尺：天平尺）となる。床面積は7.95㎡である。柱間寸法は、桁行が1.3ｍ（４尺）＋1.44ｍ（５尺）、梁間は2.9ｍ（10尺）である。

遺構の切り合いは、第76号井戸跡より古い。

第58号掘立柱建物跡



桁行４間×梁間２間の建物である。北東の柱穴（Ｐ７）は、検出できなかった。

遺構確認が明瞭に行えず、柱痕跡は確認できなかった。しかし、底面に凹みがみられたため、柱材の沈降したところと判断した。

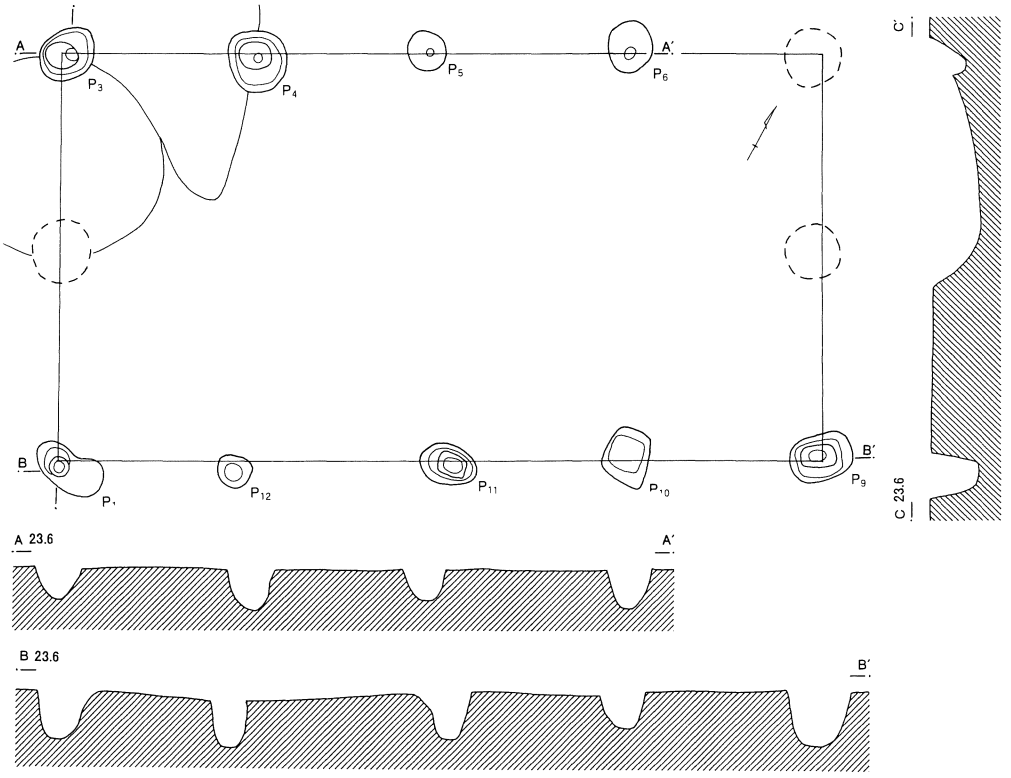
柱穴は、円形の掘り方であった。柱穴の大きさは、平均すると長径0.53ｍ×短径0.45ｍ×深さ0.38ｍであり、比較的小形であった。

建物は、67°東に傾いた東西棟である。規模は、桁行9.42ｍ×梁間6.02ｍ（32尺×20尺：天平尺）となる。床面積は、153.11㎡である。

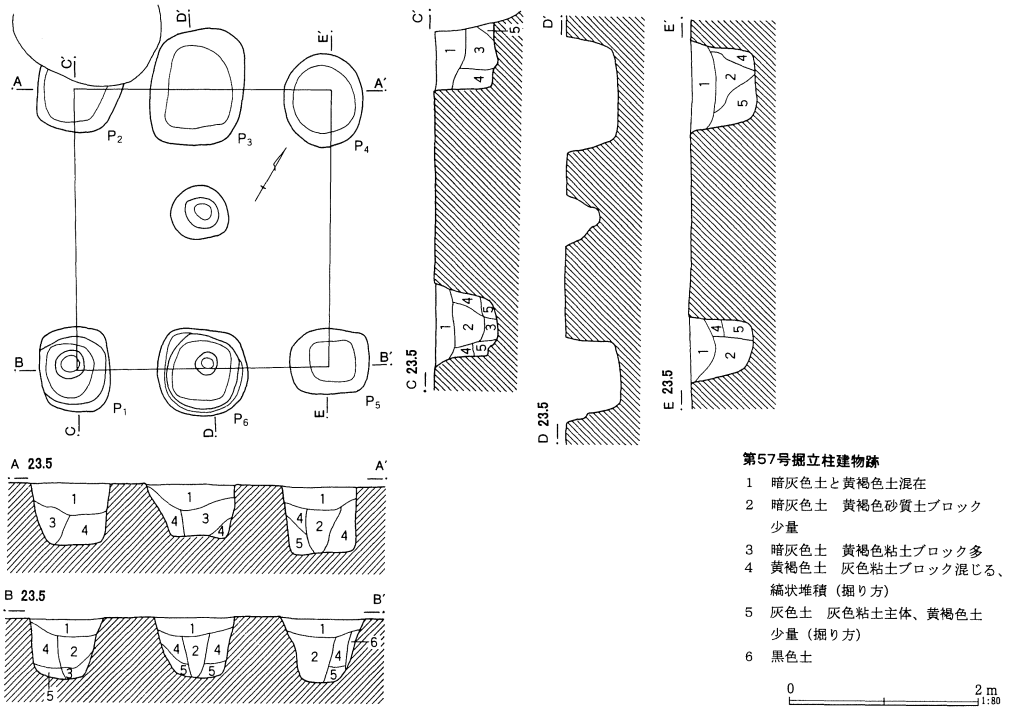
柱間寸法は、桁行が2.7ｍ（９尺）＋2.52ｍ（９尺）＋1.9ｍ（６尺）＋2.3ｍ（８尺）、梁間は3.04ｍ（10尺）＋2.98ｍ（10尺）である。

遺構の切り合いは、第265号溝跡より新しい。

第56号掘立柱建物跡

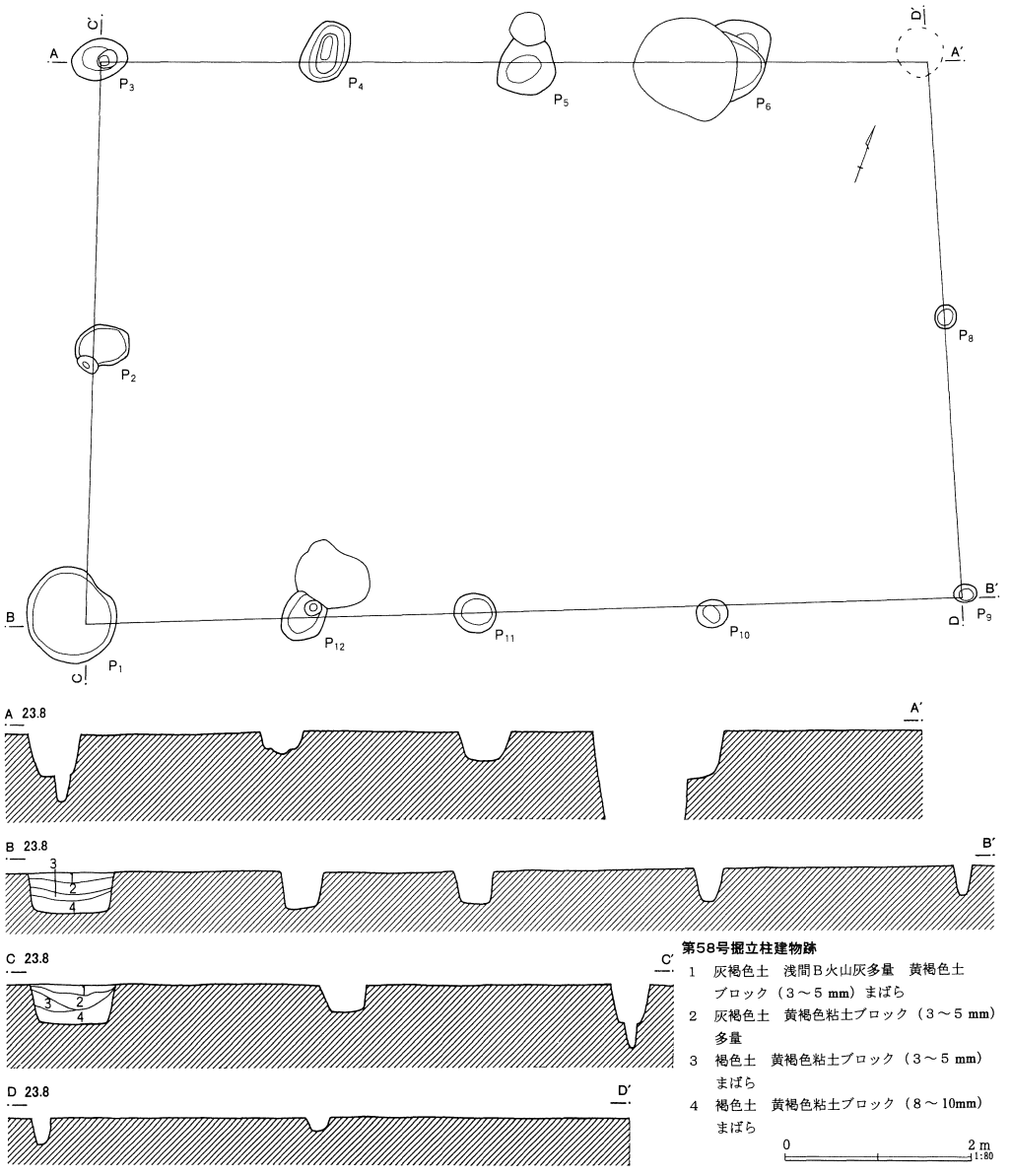


第57号掘立柱建物跡



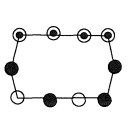
第407図　掘立柱建物跡(39)

第58号掘立柱建物跡



第408図　掘立柱建物跡(40)

第59号掘立柱建物跡



桁行３間×梁間２間の側柱建物である。Ｐ２は検出できなかった。Ｐ５とＰ10は外側に張り出していた。棟持ち柱であろう。

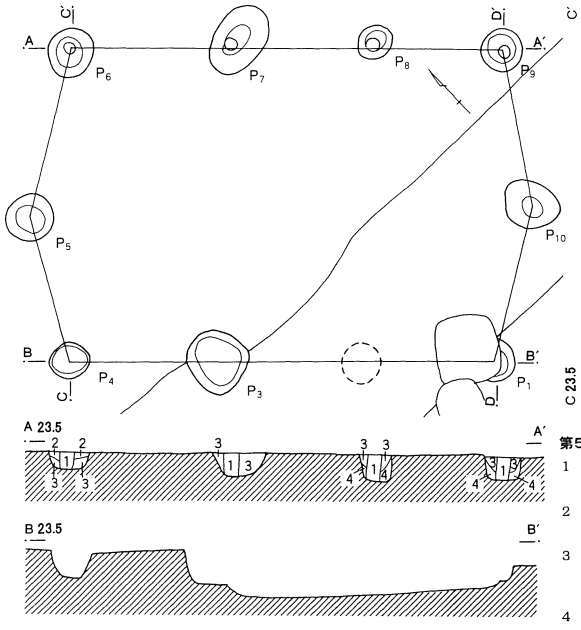
南側柱列の遺構確認は明瞭に行うことができなかったが、北側柱列の柱痕跡は明瞭に確認できた。柱穴は、円形の掘り方であった。掘り方内には、粘土を含んだ灰褐色土が、堅く充塡されていた。柱穴の大きさは、平均すると長径0.54ｍ×短径0.48ｍ×深さ0.24ｍを測る。

建物は、45°西に傾いた南北棟である。規模は、桁行5.3ｍ×梁間3.4ｍ（15尺×９尺：高麗尺）となる。床面積は18.02㎡である。

柱間寸法は、桁行が1.7ｍ（５尺）＋1.5ｍ（４尺）＋1.36ｍ（５尺）、梁間は1.6ｍ（４尺）＋1.8ｍ（５尺）である。

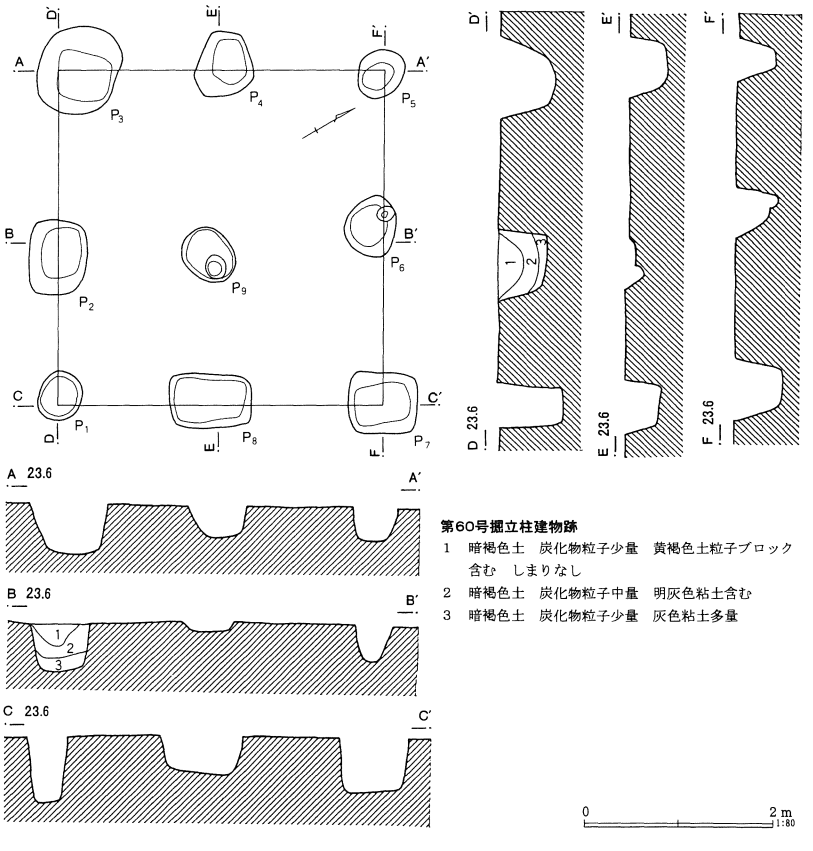
遺構の切り合いは、第206･235号溝跡よりも古い。

第59号掘立柱建物跡



第59号掘立柱建物跡
1 暗褐色土　焼土、炭化物少、小の粘土ブロック少、しまり弱
2 灰褐色土　小の粘土ブロック少、しまりやや有り
3 暗灰褐色土　小・中の粘土ブロック中量、しまりやや有り
4 灰褐色土　黒色土をブロック状に少量含む、しまり有り、粘性やや有り

第60号掘立柱建物跡



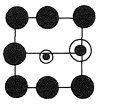
第60号掘立柱建物跡
1 暗褐色土　炭化物粒子少量　黄褐色土粒子ブロック含む　しまりなし
2 暗褐色土　炭化物粒子中量　明灰色粘土含む
3 暗褐色土　炭化物粒子少量　灰色粘土多量

第409図　掘立柱建物跡(41)

第60号掘立柱建物跡

桁行２間×梁間２間の床束を伴う側柱建物である。

遺構確認は困難をきわめ、柱痕跡は、平面・断面観察とも確認できなかった。



柱穴は、方形の掘り方であった。柱穴の大きさは、平均すると長径0.73ｍ×短径0.6ｍ×深さ0.57ｍを測る。Ｐ９は、長径0.62ｍ×短径0.51ｍ×深さ0.2ｍと、側柱の柱穴より小さく浅いため床束と判断した。

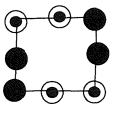
建物は、60°西に傾いた東西棟である。規模は、桁行3.52ｍ×梁間3.48ｍ（10尺×10尺：高麗尺）となる。床面積は、12.25㎡である。

柱間寸法は、桁行が1.82ｍ（５尺）＋1.74ｍ（５尺）、梁間は1.7ｍ（５尺）＋1.78ｍ（５尺）である。

遺構の切り合いは、第206・238号溝跡より古い。

第61号掘立柱建物跡

桁行２間×梁間２間の側柱建物である。

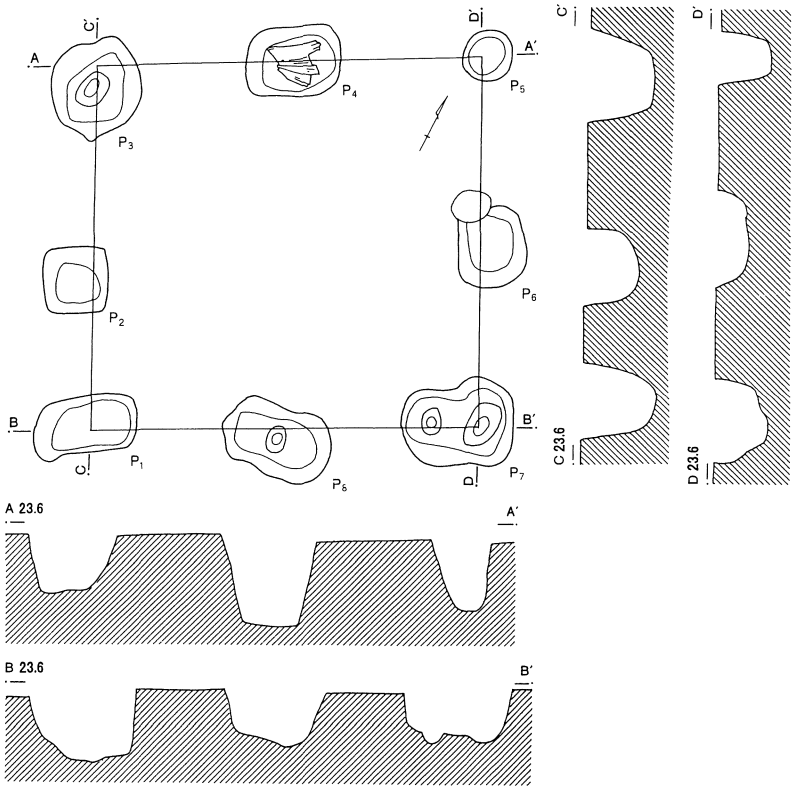


遺構確認は困難をきわめ、柱痕跡は確認できなかった。しかし、Ｐ４の掘り方底面には、礎板が据えられていたことや底面に柱材が沈降した部分を確認した。

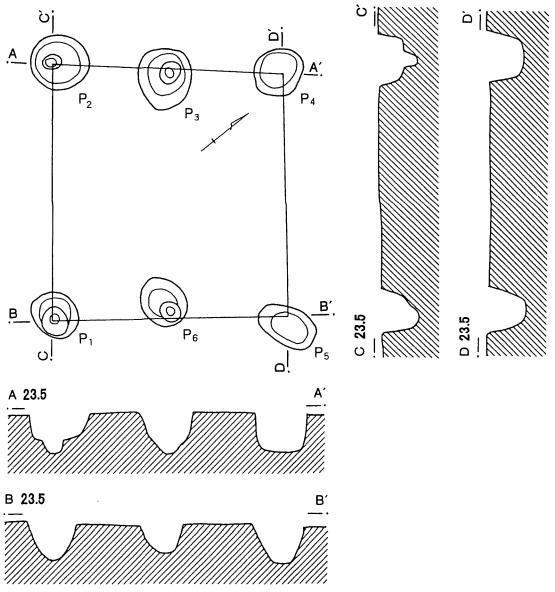
柱穴は、長方形の掘り方であった。柱穴の大きさは、平均すると長径0.94ｍ×短径0.74ｍ×深さ0.65ｍを測り、比較的大形であった。

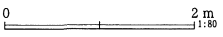
建物は、62°東に傾いた東西棟である。規模は、桁

第61号掘立柱建物跡



第62号掘立柱建物跡





第410図　掘立柱建物跡(42)

行4.18m×梁間3.92m（12尺×10尺：高麗尺）となる。床面積は16.39㎡である。柱間寸法は、桁行が2.24m（6尺）＋1.94m（6尺）、梁間は1.86m（5尺）＋2.06m（5尺）である。

遺構の切り合いは、第60号掘立柱建物跡・第239・240・267号溝跡より新しい。

第62号掘立柱建物跡

桁行2間×梁間1間の側柱建物である。

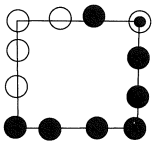
遺構確認は、困難をきわめ、柱痕跡は、平面・断面観察でも確認できなかった。柱穴の掘り方内には、凹みを確認でき、柱材の沈降した跡と判断した。P4・P5には、凹みもみられなかった。

柱穴は、円形の掘り方であった。柱穴の大きさは、平均すると長径0.59m×短径0.5m×深さ0.41mを測る。

建物は、41°東に傾いた南北棟である。規模は、桁行2.5m×梁間2.56m（7尺×7尺：高麗尺）となる。床面積は6.4㎡である。柱間寸法は、桁行が1.26m（3.5尺）＋1.24m（3.5尺）、梁間は2.56m（7尺）である。

遺構の切り合いは、第56・277号溝跡より古い。

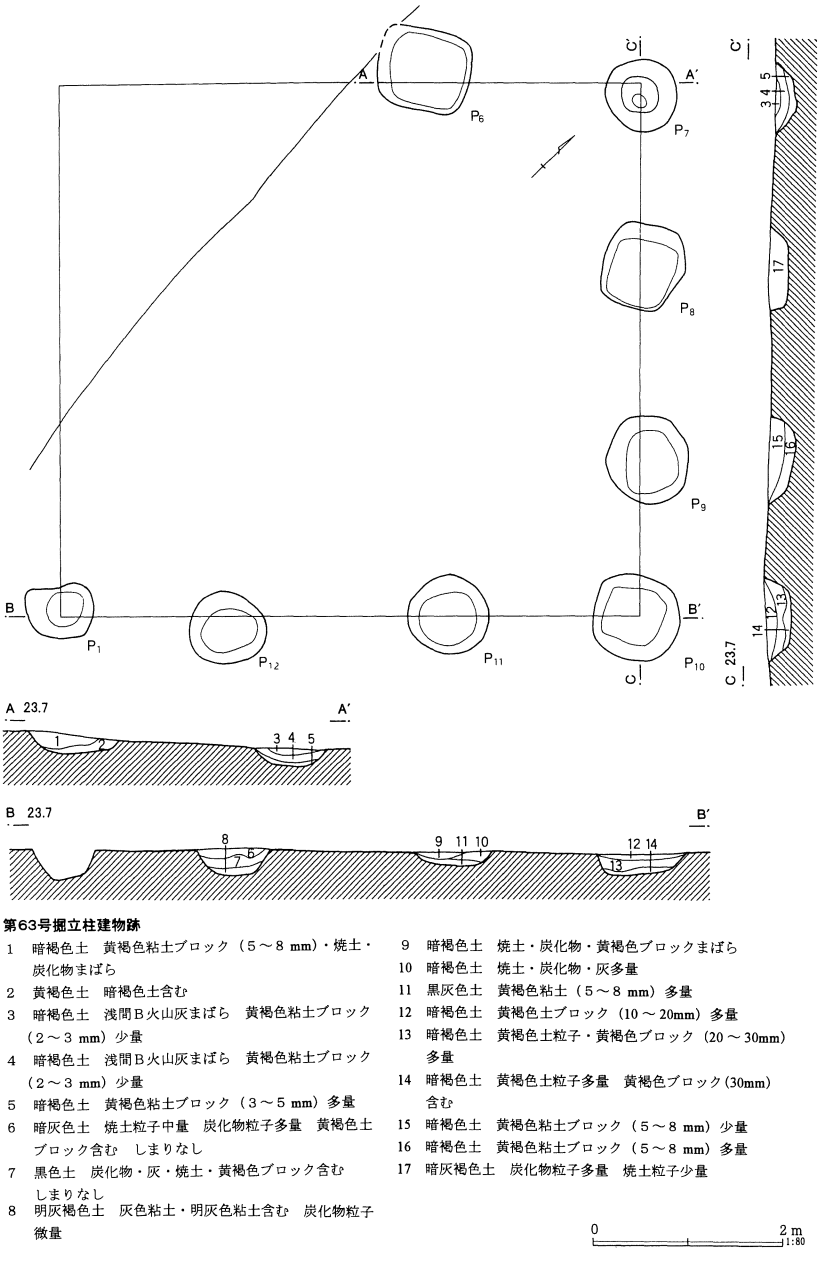
第63号掘立柱建物跡



桁行3間×梁間3間の側柱建物である。西側柱列と南側柱列の柱穴は調査区外のため検出できなかった。

柱穴は明瞭に確認できたが、柱痕跡は、平面・断面ともに確認できなかった。おそらく抜き取られたのであろう。

第63号掘立柱建物跡



第63号掘立柱建物跡

1 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック（5～8 mm）・焼土・炭化物まばら
2 黄褐色土 暗褐色土含む
3 暗褐色土 浅間B火山灰まばら 黄褐色粘土ブロック（2～3 mm）少量
4 暗褐色土 浅間B火山灰まばら 黄褐色粘土ブロック（2～3 mm）少量
5 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック（3～5 mm）多量
6 暗灰色土 焼土粒子中量 炭化物粒子多量 黄褐色土ブロック含む しまりなし
7 黒色土 炭化物・灰・焼土・黄褐色ブロック含む しまりなし
8 明灰褐色土 灰色粘土・明灰色粘土含む 炭化物粒子微量
9 暗褐色土 焼土・炭化物・黄褐色ブロックまばら
10 暗褐色土 焼土・炭化物・灰多量
11 黒灰色土 黄褐色粘土（5～8 mm）多量
12 暗褐色土 黄褐色土ブロック（10～20mm）多量
13 暗褐色土 黄褐色土粒子・黄褐色ブロック（20～30mm）多量
14 暗褐色土 黄褐色土粒子多量 黄褐色ブロック(30mm)含む
15 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック（5～8 mm）少量
16 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック（5～8 mm）多量
17 暗灰褐色土 炭化物粒子多量 焼土粒子少量

0 2 m 1:80

第411図 掘立柱建物跡(43)

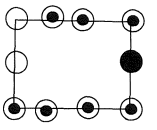
柱穴は、やや方形の掘り方であった。柱穴の大きさは、平均すると長径0.85m×短径0.81m×深さ0.26mを測り、比較的大形であった。

建物は、42°東に傾いた南北棟である。規模は、桁行6.16m×梁間5.6m(18尺×15尺：高麗尺)となる。床面積は34.50m²である。

柱間寸法は、桁行が2.06m（6尺)＋2.32m（7尺)＋1.78m（5尺)、梁間は、2.02m（5尺)＋2.0m（6尺)＋1.58m（4尺）である。

遺構の切り合いは、第64号掘立柱建物跡より新しい。

第64号掘立柱建物跡



桁行3間×梁間2間の側柱建物である。西側の柱穴列の二基は、調査区外のため検出できなかった。

柱穴は明瞭に確認できたが、柱痕跡は確認できなかった。断面観察でも確認できなかった。しかし掘り方の内側に、凹みがみられた。柱は抜き取られたのであろう。

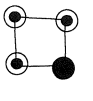
柱穴は、円形の掘り方であった。柱穴の大きさは、平均すると長径0.9m×短径0.74m×深さ0.3mを測り、比較的大形であった。

建物は、47°東に傾いた東西棟である。規模は、桁行5.96m×梁間4.52m（20尺×15尺：天平尺)となる。床面積は、26.94m²である。

柱間寸法は、桁行が2.26m(7尺)＋1.9m（7尺)＋1.8m（6尺)、梁間は1.96m（6尺)＋2.56m（9尺）である。

遺構の切り合いは、第233号溝跡より新しく、第63号掘立柱建物跡より古い。

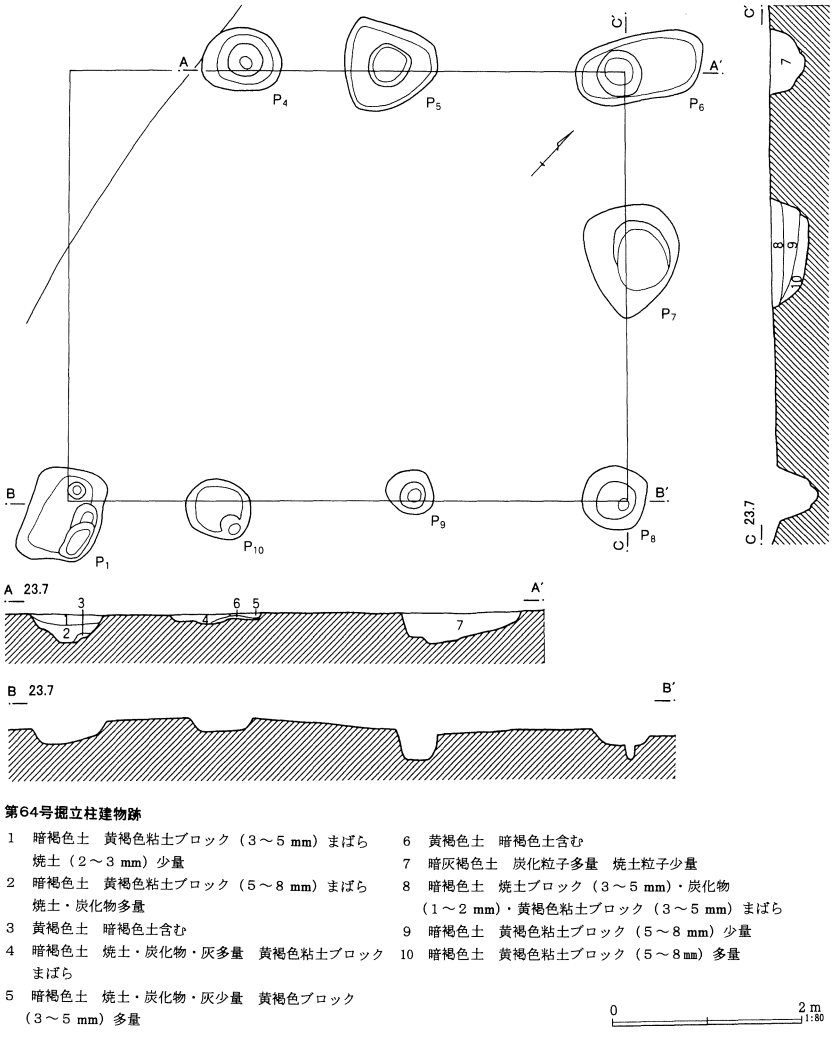
第65号掘立柱建物跡



桁行1間×梁間1間の建物である。

遺構確認は、大変困難をきわめ、柱痕跡は確認できなかった。断面観察でも柱痕跡は明ら

第64号掘立柱建物跡



第64号掘立柱建物跡

1 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック（3～5 mm）まばら 焼土（2～3 mm）少量
2 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック（5～8 mm）まばら 焼土・炭化物多量
3 黄褐色土 暗褐色土含む
4 暗褐色土 焼土・炭化物・灰多量 黄褐色粘土ブロックまばら
5 暗褐色土 焼土・炭化物・灰少量 黄褐色ブロック（3～5 mm）多量
6 黄褐色土 暗褐色土含む
7 暗灰褐色土 炭化粒子多量 焼土粒子少量
8 暗褐色土 焼土ブロック（3～5 mm）・炭化物（1～2 mm）・黄褐色粘土ブロック（3～5 mm）まばら
9 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック（5～8 mm）少量
10 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック（5～8㎜）多量

第412図 掘立柱建物跡(44)

かにできなかった。幸いにも柱掘り方底面に凹みが確認でき、柱の沈降した跡と判断した。

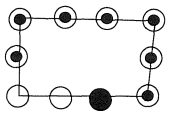
柱穴は、楕円形の掘り方であった。柱穴の大きさは、平均すると長径1.13ｍ×短径0.56ｍ×深さ0.47ｍを測り、比較的大形であった。

建物は、39°東に傾いた東西棟である。規模は、桁行2.62ｍ×梁間2.56ｍ（9尺×9尺：天平尺）となる。床面積は6.71㎡である。

遺構の切り合いは、第225―1号溝跡より古い。

第66号掘立柱建物跡

桁行3間×梁間2間の側柱建物である。南側柱列の柱穴2つは、検出できなかった。



柱穴の確認は困難であったが、柱痕跡は、明瞭に確認できた。

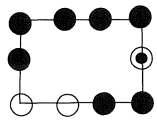
柱穴は、楕円形の掘り方であった。掘り方内には、粘土を含む褐色土が堅く充填されていた。柱穴の大きさは、平均すると長径0.73ｍ×短径0.55ｍ×深さ0.42ｍを測り、比較的大形であった。柱痕跡は、遺構確認で明瞭に確認できた。P8には、柱材が残存していた。

建物は、81°東に傾いた東西棟である。規模は、桁行6.74ｍ×梁間3.96ｍ（23尺×13尺：天平尺）となる。床面積は、26.69㎡である。柱間寸法は、桁行が2.44ｍ（8尺）＋2.02ｍ（7尺）＋2.28ｍ（8尺）、梁間は1.96ｍ（7尺）＋2.0ｍ（6尺）である。

遺構の切り合いは、第67号掘立柱建物跡・第199・304号溝跡より新しく、第68号掘立柱建物跡・第200号溝跡より古い。

第67号掘立柱建物跡

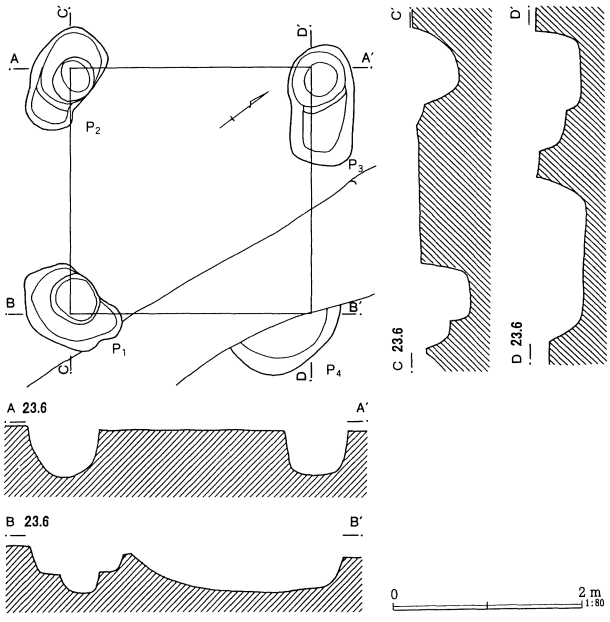
桁行3間×梁間2間の側柱建物である。南西の柱穴2つは検出できなかった。



遺構は、明瞭に確認することができたが、第66号掘立柱建物跡によって柱穴が破壊されているため、全体は確認できなかった。

柱穴は、やや方形の掘り方であった。柱穴の大き

第65号掘立柱建物跡



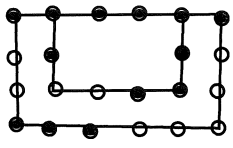
第413図　掘立柱建物跡(45)

さは、平均すると長径0.78m×短径0.69m×深さ0.44mを測り、比較的大形であった。柱痕跡はP10で明瞭に確認できた。

建物は、80°東に傾いた東西棟である。規模は、桁行6.12m×梁間4.3m(21尺×14尺：天平尺)となる。床面積は26.32m²である。柱間寸法は、桁行が2.2m（7尺)＋1.6m（6尺)＋2.32m（8尺)、梁間は2.0m（7尺)＋2.3m（7尺）である。

遺構の切り合いは、第199･304号溝跡より新しく、第66・68号掘立柱建物跡・第200号溝跡より古い。

第68号掘立柱建物跡



桁行3間×梁間2間の身舎に三面の庇が付く側柱建物である。身舎の南側柱列の柱穴二基と庇の柱穴列7基は、検出できなかった。

柱穴は明瞭に確認でき、柱痕跡も明瞭に確認できた。

身舎の柱穴は、柱通りに長い楕円形の掘り方であった。柱穴の大きさは、平均すると長径0.79m×短径0.54m×深さ0.43mを測る。庇の柱穴は、長径0.78m×短径0.61m×深さ0.3mを測る。

庇の柱は、身舎の柱と対になるように掘られていた。身舎の柱穴の掘り方内には、粘土を含む褐色土と暗黄色土が堅く充塡されていた。P8には、柱材が残存していた。

建物は、81°東に傾いた東西棟である。規模は、桁行身舎だけでも桁行6.48m×梁間3.98m（22尺×13尺：天平尺)を測り、庇を含めると桁行10.05m×梁間5.9m（36尺×20尺）となる。床面積は、59.30m²である。

柱間寸法は、身舎の桁行が2.2m（8尺)＋2.04m（7尺)＋2.24m（7尺)、梁間は2.02m（7尺)＋1.96m（6尺）である。

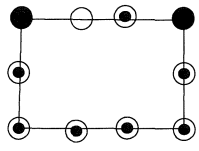
東面の庇は、(2.08) m（7尺)＋(2.04) m（7尺)＋(1.76) m（6尺）である。

南面の庇は、(2.44) m (8尺)＋(2.0) m (7尺)＋(2.2) m（8尺)＋2.08m（7尺)＋1.74m（6尺）である。

西面の庇は、(1.94) m（6尺)＋(1.66) m（6尺)＋2.3m（8尺）である。

遺構の切り合いは、第66・67号掘立柱建物跡・第199・304号溝跡よりも新しく、第200・225号溝跡より古い。

第69号掘立柱建物跡



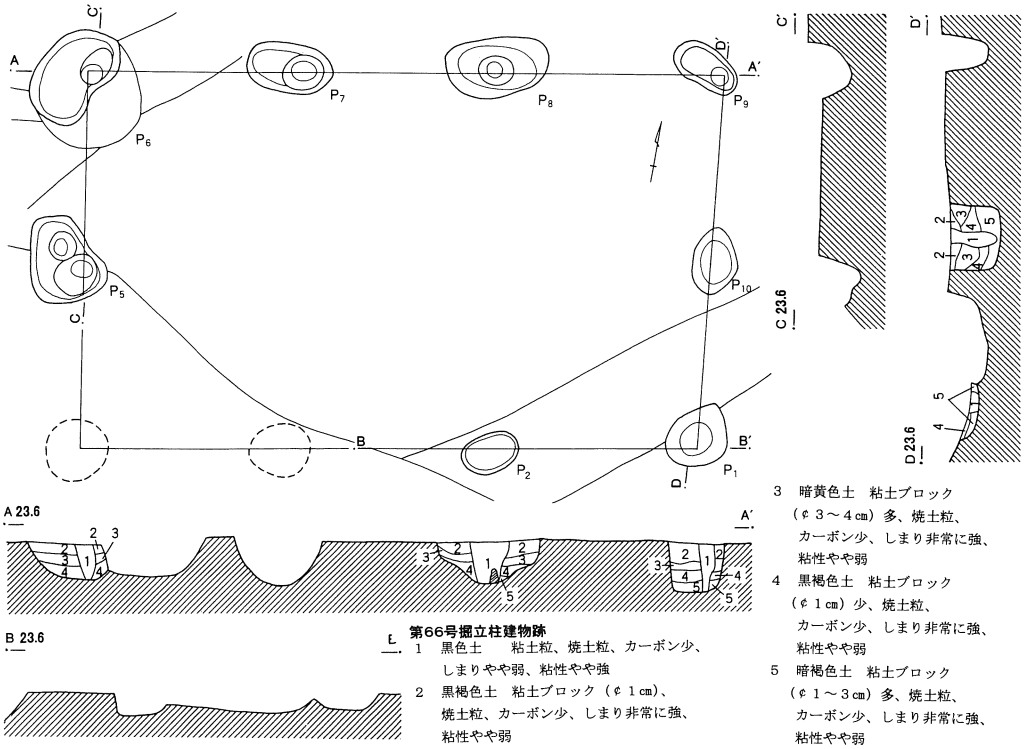
桁行3間×梁間2間の建物である。北側の柱穴のうち1基は、検出できなかった。

遺構確認は、明瞭に行え、柱痕跡も平面・断面ともにとらえられた。

柱穴は、楕円形の掘り方であった。四隅の柱は、L字形の掘り方であった。掘り方内には、粘性の強い黄褐色土が充塡されていた。柱穴の大きさは、平均すると長径1.06m×短径0.75m×深さ0.47mを測り、比較的大形であった。

建物は、55°西に傾いた東西棟である。規模は、桁

第66号掘立柱建物跡



第66号掘立柱建物跡

1　黒色土　粘土粒、焼土粒、カーボン少、しまりやや弱、粘性やや強

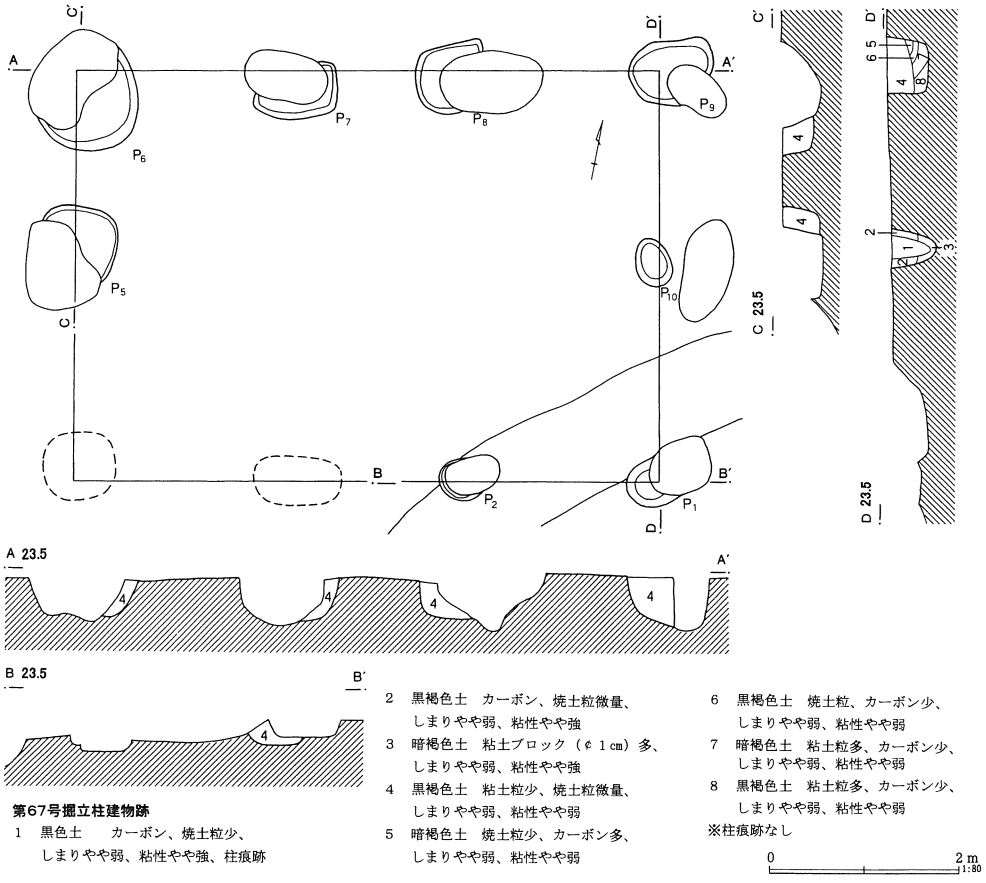
2　黒褐色土　粘土ブロック（φ1cm）、焼土粒、カーボン少、しまり非常に強、粘性やや弱

3　暗黄色土　粘土ブロック（φ3～4cm）多、焼土粒、カーボン少、しまり非常に強、粘性やや弱

4　黒褐色土　粘土ブロック（φ1cm）少、焼土粒、カーボン少、しまり非常に強、粘性やや弱

5　暗褐色土　粘土ブロック（φ1～3cm）多、焼土粒、カーボン少、しまり非常に強、粘性やや弱

第67号掘立柱建物跡



第67号掘立柱建物跡

1　黒色土　カーボン、焼土粒少、しまりやや弱、粘性やや強、柱痕跡

2　黒褐色土　カーボン、焼土粒微量、しまりやや弱、粘性やや強

3　暗褐色土　粘土ブロック（φ1cm）多、しまりやや弱、粘性やや強

4　黒褐色土　粘土粒少、焼土粒微量、しまりやや弱、粘性やや弱

5　暗褐色土　焼土粒少、カーボン多、しまりやや弱、粘性やや弱

6　黒褐色土　焼土粒、カーボン少、しまりやや弱、粘性やや弱

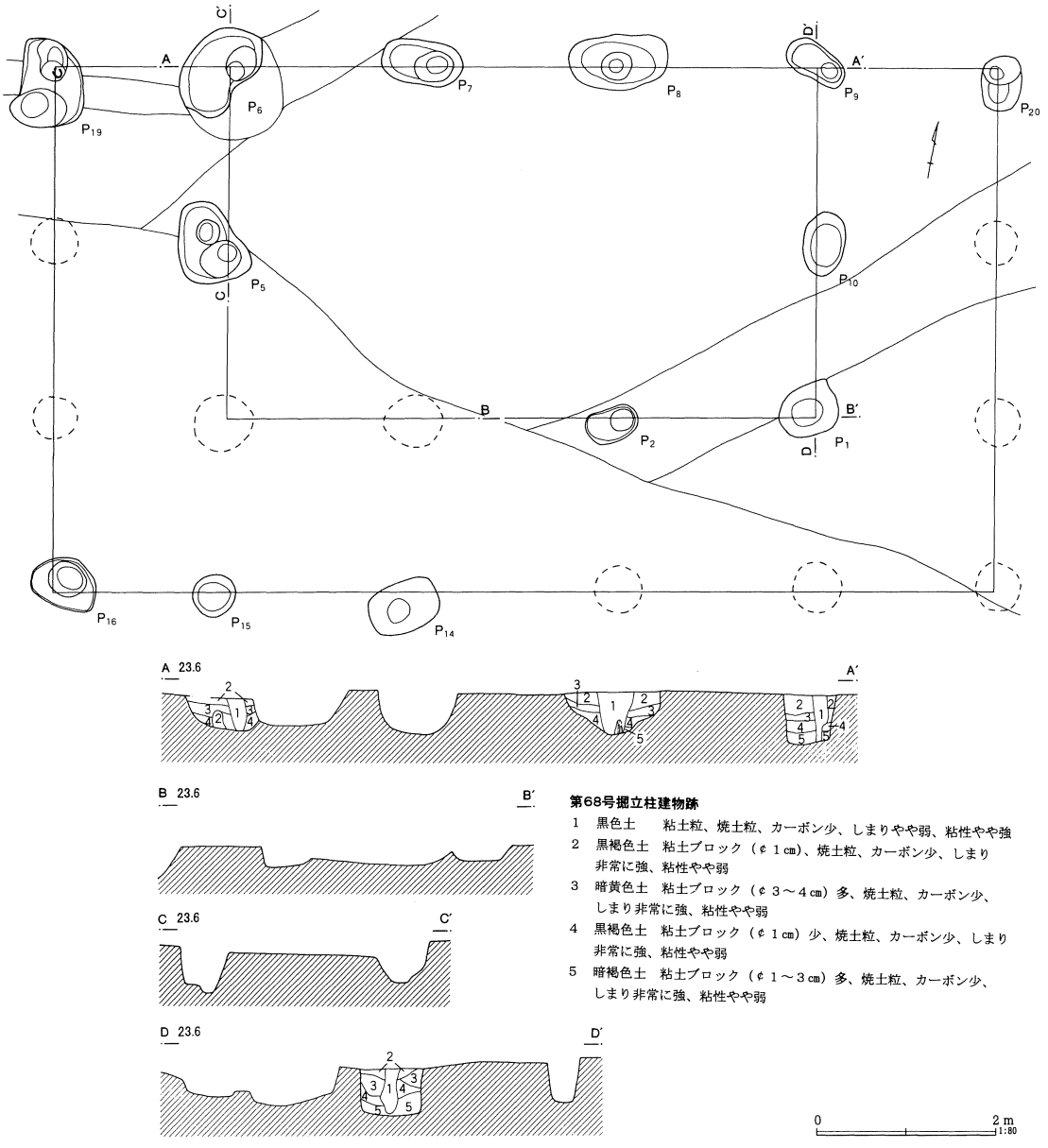
7　暗褐色土　粘土粒多、カーボン少、しまりやや弱、粘性やや弱

8　黒褐色土　粘土粒多、カーボン少、しまりやや弱、粘性やや弱

※柱痕跡なし

第414図　掘立柱建物跡(46)

第68号掘立柱建物跡



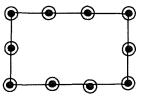
第415図　掘立柱建物跡(47)

行8.46m×梁間5.66m（24尺×16尺：高麗尺）となる。床面積は、47.89m²である。

柱間寸法は、桁行が2.9m（8尺）+2.66m（8尺）+2.9m（8尺）、梁間は2.84m（8尺）+2.82m（8尺）である。

遺構の切り合いは、第183・293号溝跡より新しく、第200・275・277号溝跡より古い。

第70号掘立柱建物跡

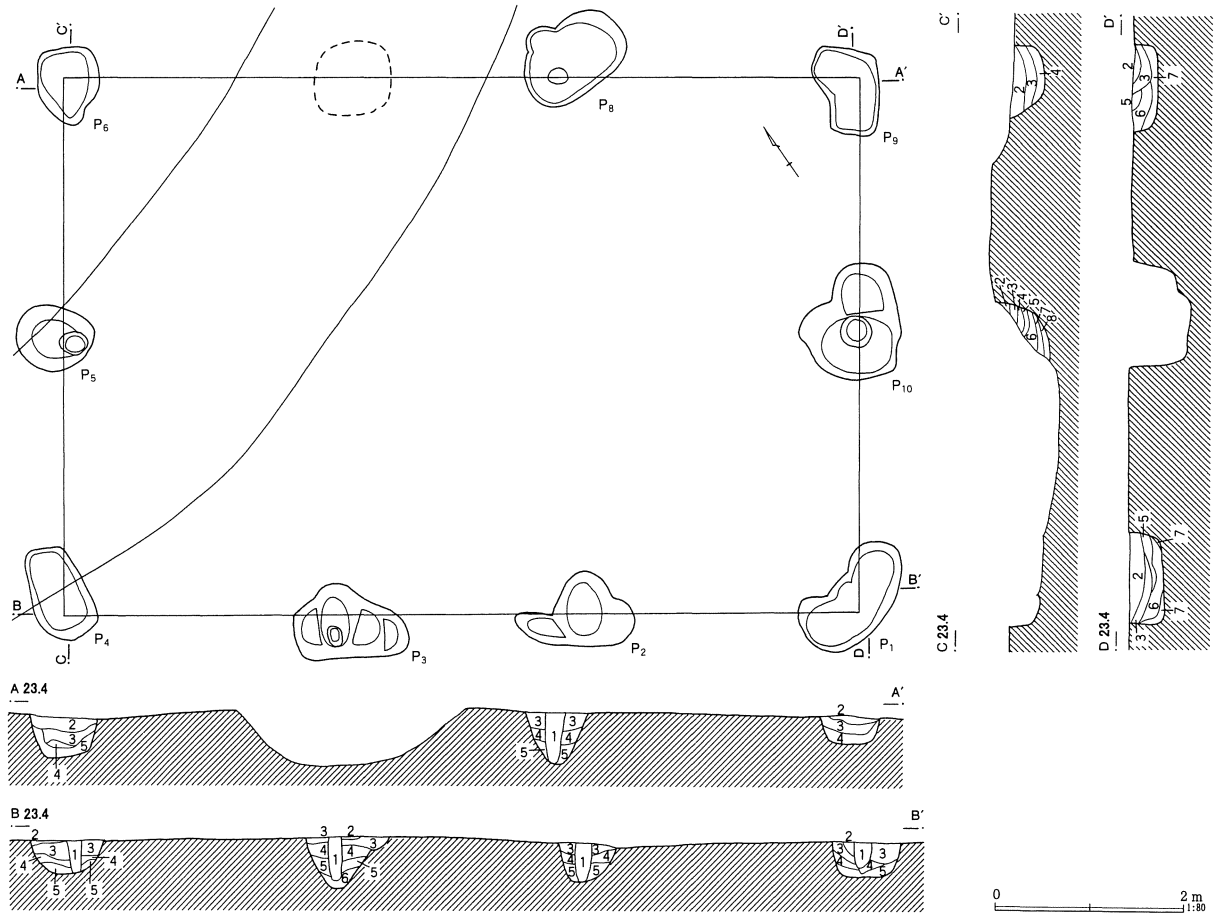


桁行3間×梁間2間の建物である。

遺構確認で、柱穴・柱痕跡は、明瞭に確認できた。しかし、確認面が低かったため、掘込み深さは浅くなってしまった。

柱穴は、円形の掘り方であった。掘り方内には、黄灰色土が堅く充填されていた。柱穴の大きさは、平均すると長径0.46m×短径0.43m×深さ0.18mを

第69号掘立柱建物跡



第69号掘立柱建物跡
1　暗褐色土　粘性が強く、炭化物を含む
2　黒色土　粒子の粗い炭化物を含む
3　黄褐色土　粘性強く、粒子大変粗い
4　暗褐色土　粘性弱く、粒子やや大きい
5　暗黄褐色土　粘性大変強く、粒子きめ細かい
6　茶褐色土　粘性強く、粒子細かい
7　黒色土　粘性弱く、粒子きめ細かい
8　灰褐色土　粘性強く粒子きめ細かい

第416図　掘立柱建物跡(48)

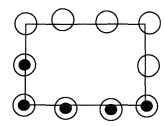
測る。

建物は、51°西に傾いた東西棟である。規模は、桁行5.88m×梁間3.76m（20尺×12尺：天平尺）となる。床面積は、22.11m²である。

柱間寸法は、桁行が1.8m（6尺）+2.0m（7尺）+2.08m（7尺）、梁間は1.9m（6尺）+1.86m（6尺）である。

第71号掘立柱建物跡

桁行3間×梁間2間の建物である。北側柱穴列と東側柱穴列は、確認できなかった。



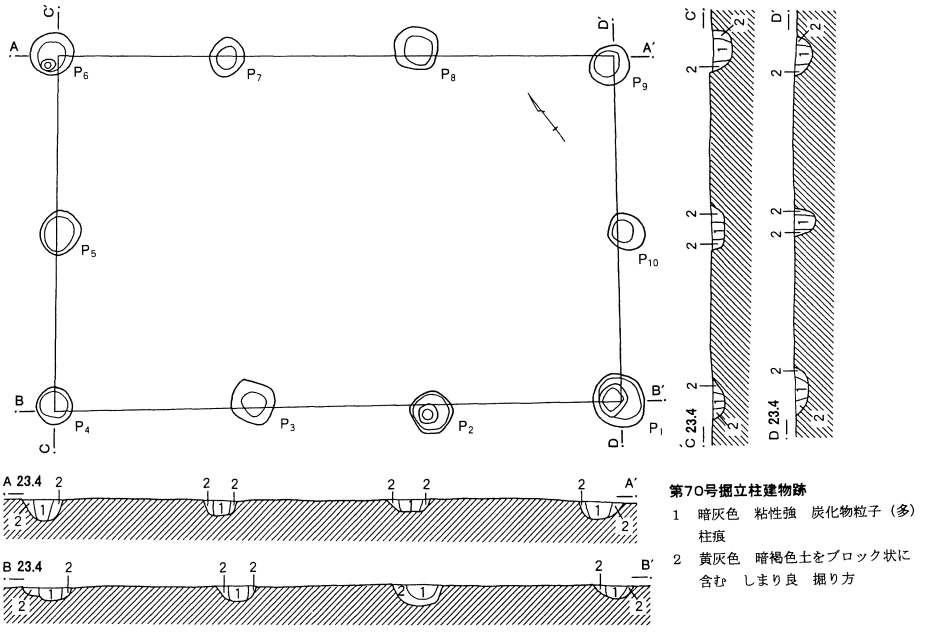
柱穴と柱痕跡は、遺構確認が明瞭に確認でき、断面観察も明瞭に確認できた。なお確認面が低かったため、掘込み深さが浅くなってしまった。

柱穴は、やや方形の掘り方であった。掘り方内には、粘性の強い褐色土が充填されていた。柱穴の大きさは、平均すると長径0.75cm×短径0.64cm×深さ0.27cmを測り、比較的大形であった。柱痕跡は、遺構確認で明瞭に確認できた。

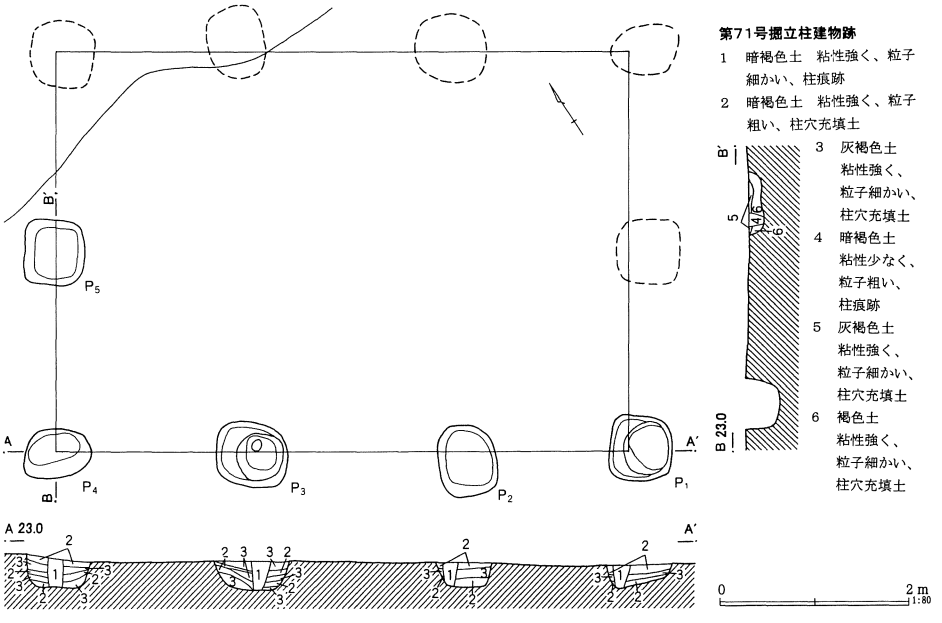
建物は、58°西に傾いた東西棟である。規模は、桁行6.06m×梁間（4.2）m（21尺×14尺：天平尺）となる。床面積は、（25.45）m²である。

柱間寸法は、桁行が2.16m（7尺）+2.0m（7尺）+

第70号掘立柱建物跡



第71号掘立柱建物跡



第417図　掘立柱建物跡(49)

1.9m（7尺）、梁間は1.9m（7尺）＋（2.3）m（7尺）である。

遺構の切り合いは、第163・199・304号溝跡より新しく、第303・200号溝跡より古い。

第72号掘立柱建物跡

桁行2間×梁間1間の建物である。

柱穴は明瞭に確認できたが、柱痕跡は明らかにできなかった。

柱穴は、円形の掘り方であった。柱穴の大きさは、平均すると長径0.33m×短径0.3m×深さ0.19mを測り、小形の柱穴であった。

建物は、60°西に傾いた東西棟である。規模は、桁行3.36m×梁間3.26m（11尺×11尺：天平尺）とな

柱穴は明瞭に確認できたが、柱痕跡は明らかにできなかった。

柱穴は、円形の掘り方であった。柱穴の大きさは、平均すると長径0.25m×短径0.24m×深さ0.19mを測り、小形であった。

建物は、67°西に傾いた東西棟である。規模は、桁行3.84m×梁間3.6m（11尺×梁間10尺：高麗尺）となる。床面積は、13.82㎡である。

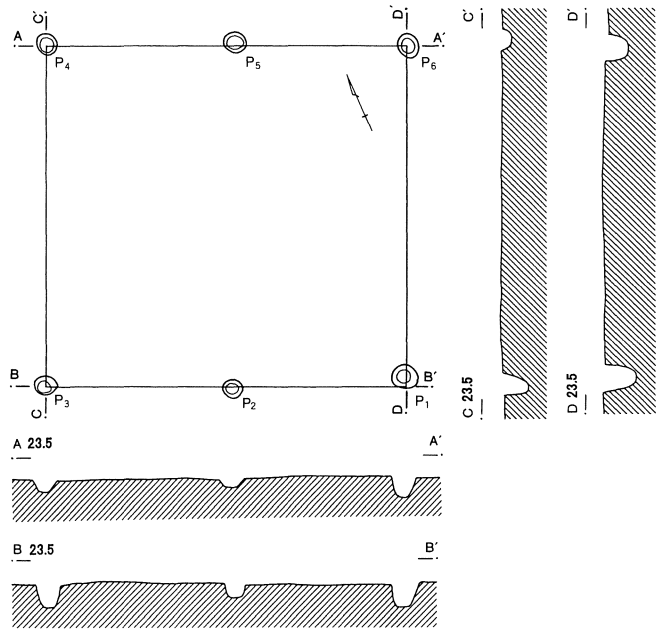
柱間寸法は、桁行が2.0m（6尺）＋1.84m（5尺）、梁間は3.6m（10尺）である。

遺構の切り合いは、第275・320号溝跡より古い。

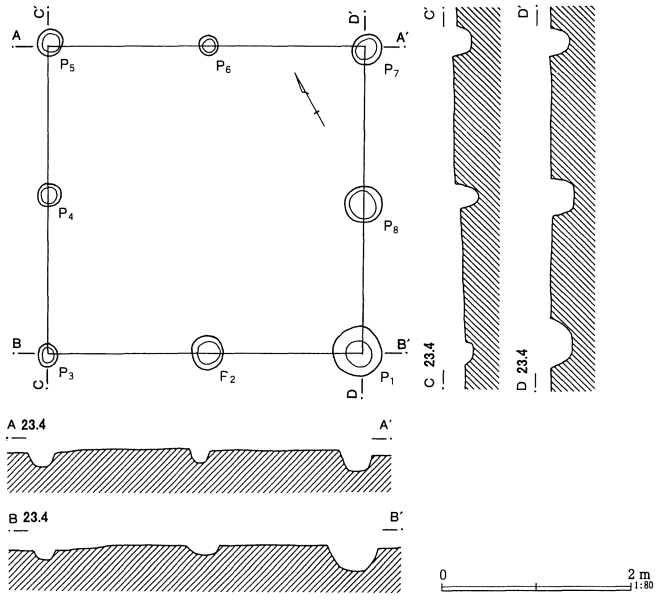
第73号掘立柱建物跡

桁行2間×梁間2間の側柱建物である。

第72号掘立柱建物跡



第73号掘立柱建物跡



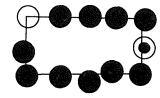
第418図　掘立柱建物跡(50)

る。床面積は10.95㎡である。柱間寸法は、桁行が1.7m（6尺）＋1.66m（5尺）、梁間は1.68m（6尺）＋1.58m（5尺）である。

遺構の切り合いは、第320号溝跡より古い。

第74号掘立柱建物跡

桁行4間、梁間2間の側柱建物である。北西隅の柱穴は、検出できなかった。



柱穴は明瞭に確認できたが、柱痕跡は、平面・断面観察ともに確認できなかった。

柱穴は、方形の掘り方であった。柱穴の大きさは、平均すると長径0.72cm×短径0.5cm×深さ0.26cmを測り、比較的大形であった。

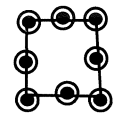
建物は、66°西に傾いた東西棟である。規模は、桁行5.96m×梁間2.8m(20尺×10尺：天平尺）となる。床面積は16.69㎡である。

柱間寸法は、桁行が1.76m（6尺）＋1.6m（5尺）＋1.1m（4尺）＋1.5m（5尺）、梁間は1.16m（4尺）＋1.74m（6尺）である。

遺構の切り合いは、第327号溝跡より新しく、第75号掘立柱建物跡・第343号溝跡より古い。

第75号掘立柱建物跡

桁行2間×梁間2間の側柱建物である。



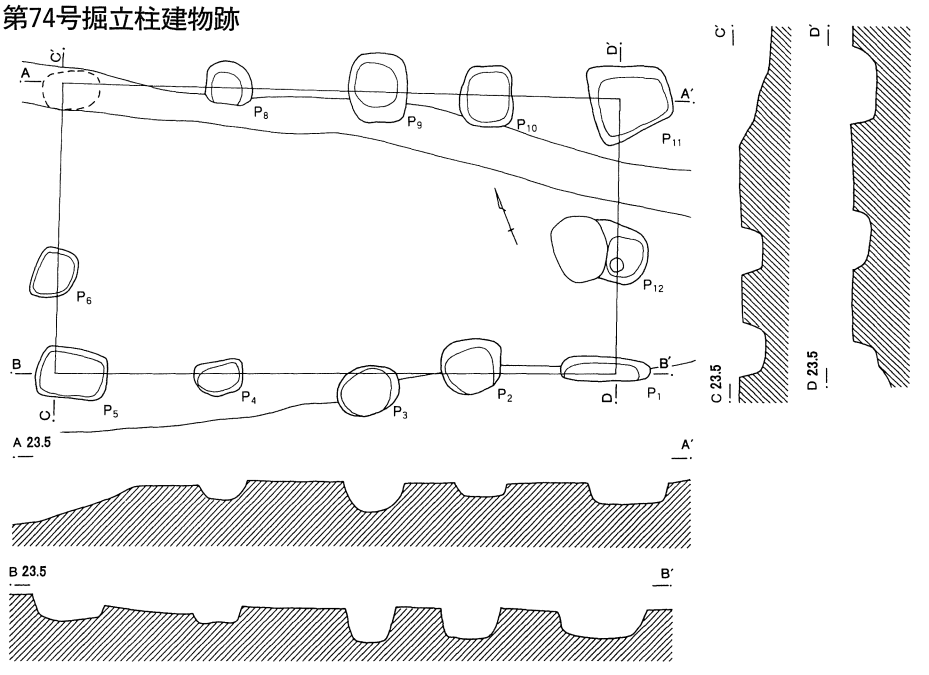
柱穴・柱痕跡とも明瞭に確認できた。

柱穴は、やや方形の掘り方であった。東南隅柱の掘り方は、L字形であった。掘り方内には、粘性の強い暗褐色土が充填されていた。柱穴の大きさは、平均すると長径0.78m×短径0.61m×深さ0.42mを測る。P1には、柱材が残っていた。

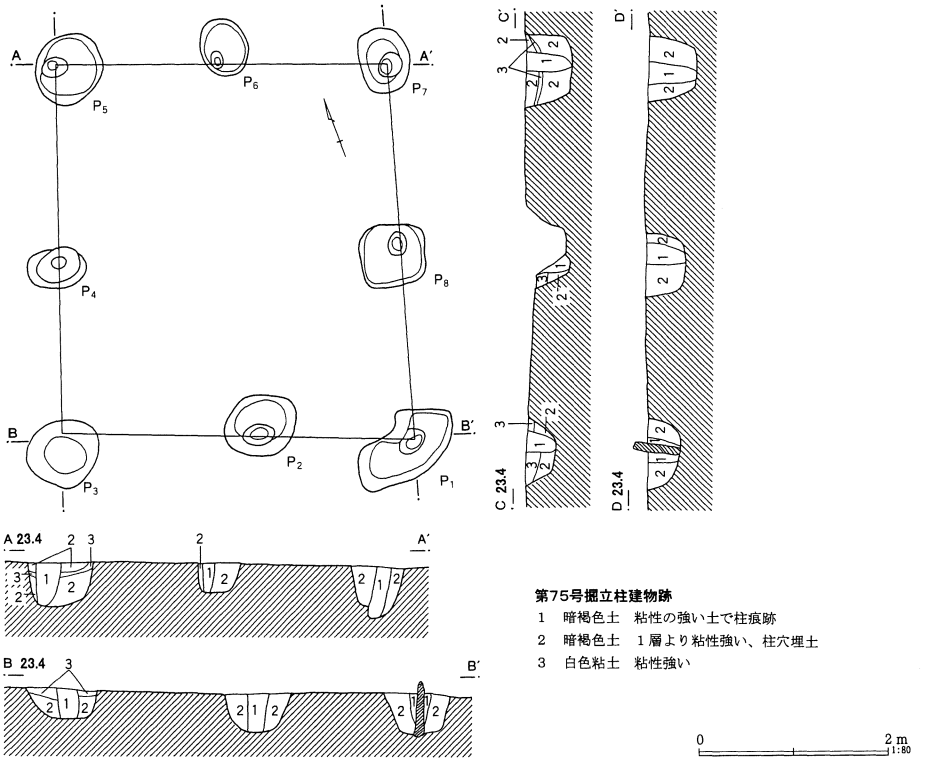
建物は、18°東に傾いた南北棟である。規模は、桁行4.0m×梁間3.52m(14尺×12尺：天平尺)となる。床面積は14.08㎡である。柱間寸法は、桁行が1.9m（7尺）＋2.1m（7尺）、梁間は1.7m（6尺）＋1.82m（6尺）である。

遺構の切り合いは、第74号掘立柱建物跡より新しく、第343・346号溝跡よりも古い。

第74号掘立柱建物跡



第75号掘立柱建物跡



第419図 掘立柱建物跡(5)

柱穴は確認面から明瞭に確認できたが、柱痕跡は、平面・断面観察でも確認できなかった。おそらく抜き取られたのであろう。

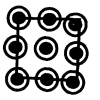
柱穴は、円形の掘り方であった。柱穴の大きさは、平均すると長径0.79ｍ×短径0.63ｍ×深さ0.28ｍを測り、比較的大形であった。

建物は、70°西に傾いた東西棟である。規模は、桁行3.26ｍ×梁間3.2ｍ(９尺×９尺：高麗尺）となる。床面積は、10.43㎡である。

柱間寸法は、桁行が1.76ｍ(５尺)＋1.5(４尺）ｍ、梁間は（1.7）ｍ（５尺)＋（1.5）ｍ（４尺）である。

遺構の切り合いは、第343号溝跡より古い。

第77号掘立柱建物跡



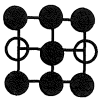
桁行２間×梁間２間の総柱建物である。

柱穴・柱痕跡は、平面・断面ともよく観察することができた。

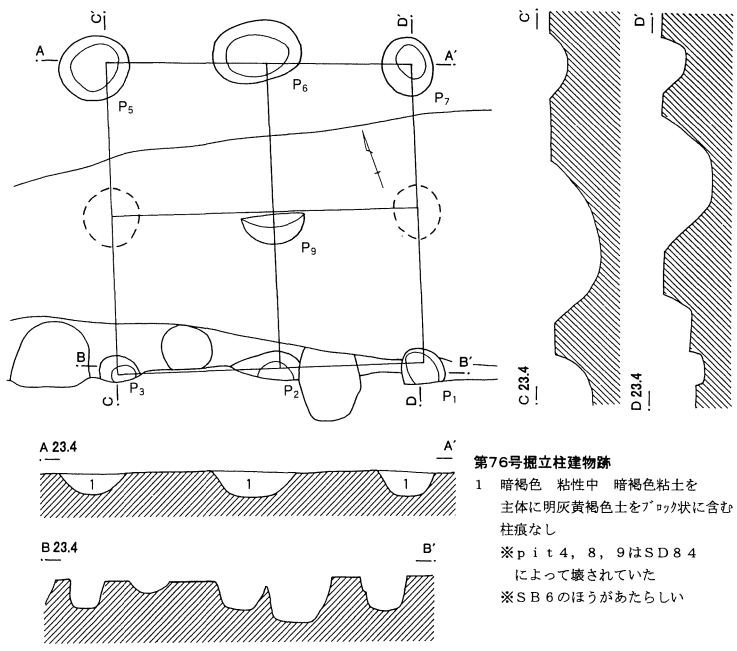
柱穴は、やや方形の掘り方であった。掘り方内には、粘質土が堅く充填されていた。柱穴の大きさは、平均すると長径0.78cm×短径0.57cm×深さ0.45cmを

第76号掘立柱建物跡

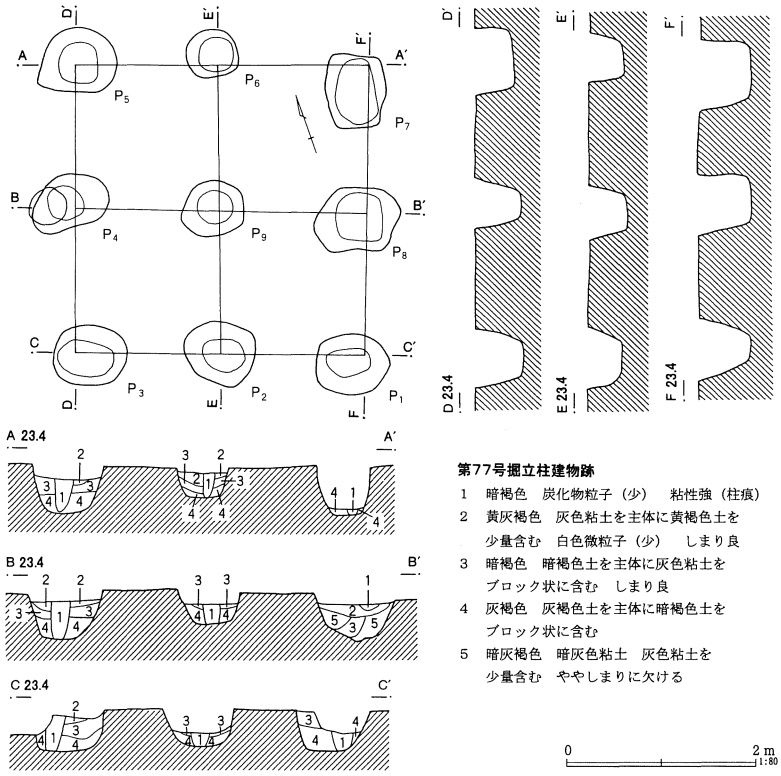
桁行２間、梁間２間の総柱建物と推定した。東西の柱穴２つは確認面が低く、検出できなかった。



第76号掘立柱建物跡



第77号掘立柱建物跡



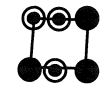
第420図　掘立柱建物跡(52)

建物は、69°西に傾いた東西棟である。規模は、桁行3.1ｍ×梁間3.04ｍ（10尺×10尺：天平尺）となる。床面積は、9.42㎡である。

柱間寸法は、桁行が1.5ｍ（５尺）＋1.6ｍ（５尺）、梁間は1.52ｍ（５尺）＋1.52ｍ（５尺）である。

遺構の切り合い関係は、第343・346号溝跡より古い。

第78号掘立柱建物跡



桁行２間×梁間１間の建物である。

柱穴・柱痕跡とも確認が困難であった。しかしＰ４・Ｐ２では、柱痕跡を確認でき、Ｐ５には、柱材が残存していた。

柱穴は、やや方形の掘り方であった。掘り方内には、褐色土が充填されていた。

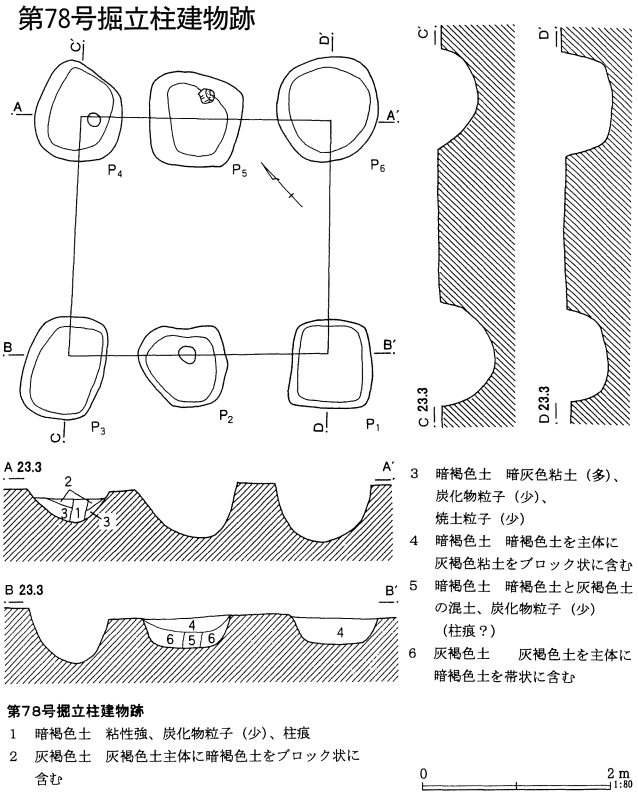
柱穴の大きさは、平均すると長径1.03ｍ×短径0.95ｍ×深さ0.48ｍを測り、比較的大形であった。柱痕跡は、遺構確認で明瞭に確認できた。

建物は、45°西に傾いた南北棟である。規模は、桁行2.86ｍ×梁間2.5ｍ（９尺×９尺：天平尺）となる。床面積は7.15㎡である。柱間寸法は、桁行が1.24ｍ（４尺）＋1.44ｍ（５尺）、梁間は2.5ｍ（９尺）である。

遺構の切り合いは、第461号土壙より新しく、第333号溝跡より古い。

測り、比較的大形であった。

柱痕跡は、遺構確認で明瞭に確認できた。Ｐ８は、柱抜き取り痕を確認した。



第421図　掘立柱建物跡(53)

(2)　掘立柱建物跡出土遺物

第 1 号掘立柱建物跡出土遺物

第422図 1 は、土師器の比企型坏である。器壁は大変薄く作られている。利根川水系の原土が用いられている。 7 世紀後半である。

2 は、須恵器の高台付埦である。底部周辺を回転ヘラケズリしている。やや軟質な仕上がりである。南比企窯跡群の製品である。

8 世紀後半である。

第 3 号掘立柱建物跡出土遺物

第422図 3 は、土師器の甕である。肩部は横位にヘラケズリされている。利根川水系の原土が用いられている。 7 世紀後半。

第 4 号掘立柱建物跡出土遺物

第422図 4・5 は、土師器の坏である。 4 は、内湾口縁坏、 5 は、扁平な坏である。利根川水系の原土が用いられている。 8 世紀前半。

6 ・ 8 は須恵器の坏である。底部周辺を回転ヘラケズリしている。 7 は、須恵器の蓋である。ボタン状のつまみである。良く還元化し、硬質である。6・7 ・ 8 は、南比企窯跡群の製品である。 8 世紀第Ⅲ四半期。

9 は、土師器の高坏である。利根川水系の原土が用いられている。 7 世紀前半。

10は、土師器の長胴甕である。器壁を丁寧に細かく削る。利根川水系の原土が用いられている。

11は、須恵器の甕である。良く還元化し硬質である。南比企窯跡群の製品である。

第 5 号掘立柱建物跡出土遺物

第422図12・13は、土師器の坏である。12は、須恵器坏蓋模倣坏である。13は、北島型暗文土器である。内面に粗い放射状の暗文が施されている。両者とも利根川水系の原土が用いられている。 7 世紀第Ⅳ四半期。

第 6 号掘立柱建物跡出土遺物

第422図14～16は、土師器の坏である。14は、内湾口縁坏でやや扁平である。15・16は、須恵器坏蓋模倣坏である。口縁の伸びが小さい。利根川水系の原土が用いられている。 7 世紀第Ⅳ四半期。

17は、砥石である。上部に垂孔が開けられている。

第 7 号掘立柱建物跡出土遺物

第422図18～21は、土師器の坏である。18・19は、有段口縁坏である。19は、内外面黒色処理されている。20・21は、坏身模倣坏である。全て利根川水系の原土が用いられている。6 世紀末から 7 世紀前半。

第 8 号掘立柱建物跡出土遺物

第422図22～24は、土師器の内湾口縁坏である。器肉が薄く、丁寧に削られる。全て利根川水系の原土が用いられている。 8 世紀第Ⅱ四半期。

第 9 号掘立柱建物跡出土遺物

第422図27は、土師器の壺である。口縁部が、有段口縁となる。やや大形の壺か。利根川水系の原土が用いられている。 6 世紀後半。

第11号掘立柱建物跡出土遺物

第422図25･26は、土師器の坏である。25は、須恵器坏蓋模倣坏である。底部は細かくヘラケズリされている。26は内湾口縁の坏である。両者は、利根川水系の原土が用いられている。

28・29は、須恵器の蓋である。28は、小さなボタン状のつまみである。29は、器肉が極めて薄い。28は、南比企窯跡群、29は、末野窯跡群の製品である。

30は、須恵器の坏である。良く還元化し、硬質である。南比企窯跡群の製品である。 8 世紀後半。

31は、須恵器の高台付埦である。底径はやや大きく、高台は角形である。末野窯跡群の製品である。

25・26は、 8 世紀前半、28～31は、 8 世紀後半である。

第13号掘立柱建物跡出土遺物

第422図32は、土師器の坏。扁平な坏で大変薄く作られている。利根川水系の原土が用いられている。

33は、須恵器の坏である。底部糸切り未調整。良く還元化し硬質である。南比企窯跡群の製品である。底部に「綱」と墨書されている。ただし図化をできなかった。

34は、須恵器の高台付埦である。高台は角高台に近く、端部は「M」字状となっている。底部周辺をヘラケズリ後、高台を貼り付けている。良く還元化し硬質。南比企窯跡群の製品である。

第13号掘立柱建物跡から出土した32～34は、 8 世紀第Ⅳ四半期である。

第14号掘立柱建物跡出土遺物

第423図 1 ～ 3 は、土師器の坏である。 1 は、有段口縁坏である。口径10㎝ほどに復元できようか。 2 は、内湾口縁坏である。器肉は薄い。 3 は、有段口縁坏かもしれない。調整不明瞭。全て利根川水系の原土が用いられている。

第14号掘立柱建物跡は、出土した土師器坏から 7 世紀末から 8 世紀初頭と考えたい。

第15号掘立柱建物跡出土遺物

第423図 4 は、須恵器の蓋である。つまみを欠く。ボタン状の小さなつまみが付いていたのであろう。かえりは小さく口縁部内に納まる。末野窯跡群の製品である。 7 世紀第Ⅳ四半期。

第17号掘立柱建物跡出土遺物

第423図 5 は、土師器の甕である。利根川水系の原土が用いられている。 7 世紀前半。

第19号掘立柱建物跡出土遺物

第423図 6 は、比企型坏である。内外面に赤彩を施す。 7 世紀前半。

第20号掘立柱建物跡出土遺物

第423図 7 は、土師器の甑である。器肉が厚い。利根川水系の原土が用いられている。 7 世紀。

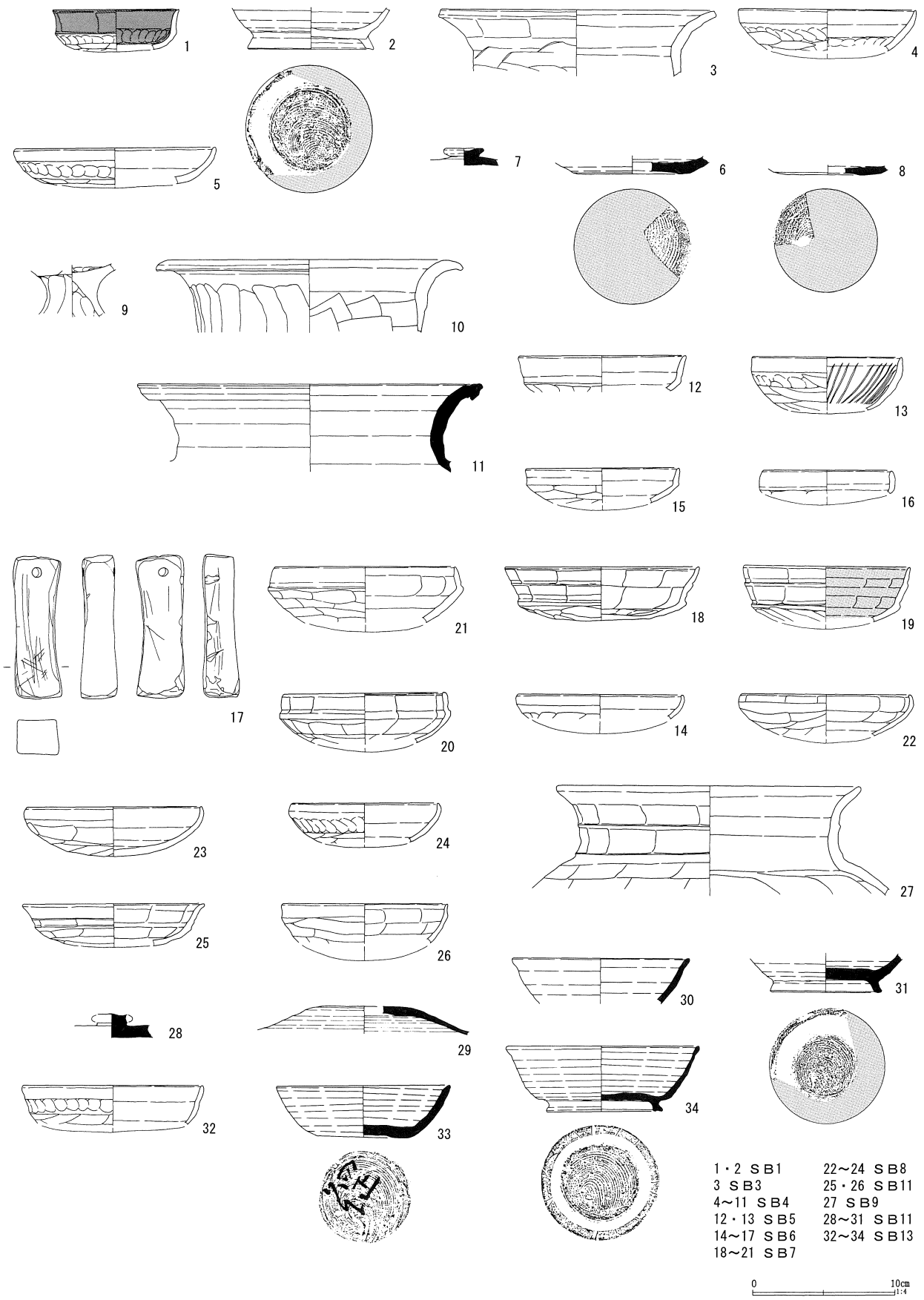
第22号掘立柱建物跡出土遺物

第423図 8 ～15は、土師器の坏である。 8 ～13は、有段口縁坏である。 8 のみ黒色処理が、施されている。利根川水系の原土が用いられている。14･15は、須恵器坏蓋模倣坏である。ローム台地の粘土を原土としている。

16は、土師器の皿形の有段口縁坏である。利根川水系の原土が用いられている。

17は、須恵器の蓋である。口縁部と天井部の境に沈線が巡る。天井部は、丁寧に回転ヘラケズリされている。良く還元化され比較的硬質である。南比企窯跡群の製品である。

18は、土師器の鉢である。口縁部は有段口縁状と



第422図　掘立柱建物跡出土遺物(1)

なる。比較的器肉の厚い鉢である。利根川水系の原土が用いられている。

19は、須恵器の平瓶である。頸部の破片で外面には、厚く自然釉が付着している。湖西窯跡群の製品である。

第22号掘立柱建物跡の柱穴から出土した土器は、6世紀後半が、10･17、7世紀前半が、8・9・14～16･18・19、7世紀後半が、11～13である。

第23号掘立柱建物跡出土遺物

第423図20は、須恵器の蓋。宝珠状のつまみとなる。良く還元化し、大変硬質である。

21・22は、須恵器の坏である。21は、口唇部内側が、膨らむために埦となるかもしれない。22は、底部周辺をヘラケズリしている。

20・21は、南比企窯跡群の製品である。22は、末野窯跡群の製品である。20～22は、8世紀後半である。

第24号掘立柱建物跡出土遺物

第423図23は、土師器の坏Aである。器肉が大変薄く、底部はやや雑に削られている。利根川水系の原土が用いられている。

24は、須恵器の坏である。良く還元化する。南比企窯跡群の製品である。

25は、須恵器の皿である。良く還元化する。末野窯跡群の製品である。

26は、砥石である。

23～25は、9世紀前半である。

第26号掘立柱建物跡出土遺物

第423図27は、土師器の坏である。須恵器坏蓋模倣坏である。利根川水系の原土が用いられている。7世紀第Ⅲ四半期。

28は、須恵器の蓋である。ボタン状のつまみである。良く還元化し、硬質である。末野窯跡群の製品である。8世紀。

第31号掘立柱建物跡出土遺物

第423図29･30は、土師器の坏である。29は、有段口縁坏、30は、内屈口縁坏である。利根川水系の原土が用いられている。7世紀後半。

第32号掘立柱建物跡出土遺物

第423図31は、須恵器の蓋である。ボタン状のつまみで、中央部が大きく凹む。末野窯跡群の製品である。

32～34は、須恵器の坏である。32は、底部周辺を回転ヘラケズリ、33は手持ちヘラケズリしている。良く還元化し硬質である。

31・33は、末野窯跡群の製品、他は、南比企窯跡群の製品である。32の底部には、墨書が見られる。「綱」カ。8世紀後半から9世紀前半。

第36号掘立柱建物跡出土遺物

第423図35～39は、土師器の坏である。35は、有段口縁坏である。36・37は、内湾口縁坏である。38・39は、内面に暗文を描く坏である。38は、内面にやや細かな放射状暗文、39は、放射状文と螺旋文を描く。35・39は、利根川水系の原土、他は、ローム台地の粘土を原土としている。

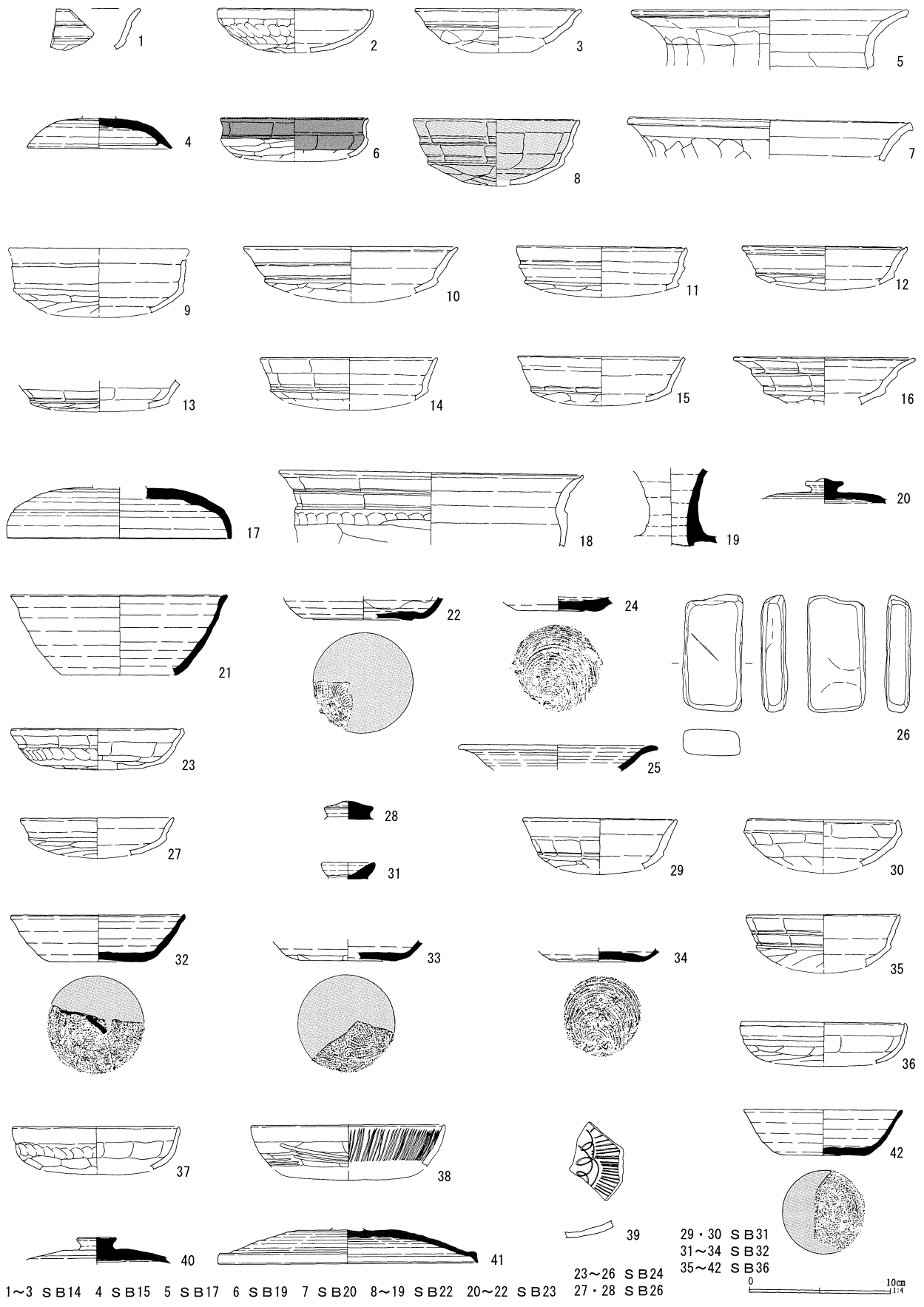
35は、7世紀前半、36～39は、8世紀前半である。

40・41は、須恵器の蓋である。40は、ボタン状つまみを付けている。41はつまみを欠損する。両者とも良く還元化されている。40は末野窯跡群、41は、南比企窯跡群の製品である。8世紀後半。

42～第424図7は、須恵器の坏である。42～第424図4は、底部周辺を回転ヘラケズリしている。6は、底部に墨書が見られるが、判読は難しい。「君」カ「書」カ。7を除きよく還元化し、硬質に仕上がっている。6・7は、末野窯跡群、他は、南比企窯跡群の製品である。

1～4は、8世紀後半。6・7は、9世紀前半である。

8は、須恵器の皿である。還元化の進んだ硬質な



1～3 ＳＢ14　4 ＳＢ15　5 ＳＢ17　6 ＳＢ19　7 ＳＢ20　8～19 ＳＢ22　20～22 ＳＢ23　23～26 ＳＢ24　27・28 ＳＢ26　29・30 ＳＢ31　31～34 ＳＢ32　35～42 ＳＢ36

第423図　掘立柱建物跡出土遺物(2)

仕上がりで、末野窯跡群の製品である。9世紀前半。

9～17は、須恵器の高台付埦である。9～13は、やや還元化の進まない軟質の仕上がりとなっている。14～17は、酸化炎焼成である。高台はいずれもやや歪んでいる。末野窯跡群の製品である。9世紀後半から10世紀前半。11は、「藤」カ「薀」カの墨書あり。

18は、土師質土器の坏である。軟質で手に粉が付く。利根川水系の原土が用いられている。10世紀後半。

19は、須恵器の高台付埦である。南比企窯跡群の製品である。軟質。10世紀前半。

20・21は、緑釉陶器である。20は、埦である。内面に圏線を描き、陰刻花文を施す。猿投窯跡群の製品である。黒笹90号窯式である。21は、陶片である。20は、猿投窯跡群の製品である。9世紀前半。

22は、須恵器の高坏である。長脚の高坏で、二方に透かしが見られる。良く還元化され、大変硬質である。末野窯跡群の製品である。7世紀前半。

23は、土師器の甕である。口縁部の長く伸びる薄甕である。利根川水系の原土が用いられている。8世紀後半。

24は、須恵器の長頸瓶である。やや軟質な仕上がりである。末野窯跡群の製品である。9世紀。

25は、須恵器のフラスコ形瓶である。あるいは平瓶か、提瓶の口縁部である。口唇部直下に一条の突帯が巡る。良く還元化し、自然釉が付着する。東海地方西部の製品。7世紀後半。

26は、須恵器の円面硯である。脚部には、隅丸長方形の透かしが、十二方開いている。海は、大変良く使い込まれている。脚部には、突線が二条巡る。硯面の外には、突帯が巡る。硯の内面には、厚く自然釉が付着している。良く還元化し大変硬質である。南比企窯跡群の製品である。

27は、砥石である。上部に穿孔が見られることから、提砥かもしれない。

第37号掘立柱建物跡出土遺物

第425図1～3は、土師器の坏である。1・2は、内屈口縁坏、3は、やや大振りの内屈口縁坏である。利根川水系の原土が用いられている。8世紀第Ⅰ四半期。

4・5は、須恵器の蓋である。4は、小さな宝珠状のつまみが付く。5は、強いかえりが付く。良く還元化され硬質である。湖西窯跡群の製品である。7世紀第Ⅲ四半期。

第38号掘立柱建物跡出土遺物

第425図6は、土師器の鉢である。外面を粗くヘラケズリしている。利根川水系の原土が用いられている。8世紀。

第41号掘立柱建物跡出土遺物

第425図7は、土師器の有段口縁坏である。利根川水系の原土が用いられている。7世紀第Ⅱ四半期。

第46号掘立柱建物跡出土遺物

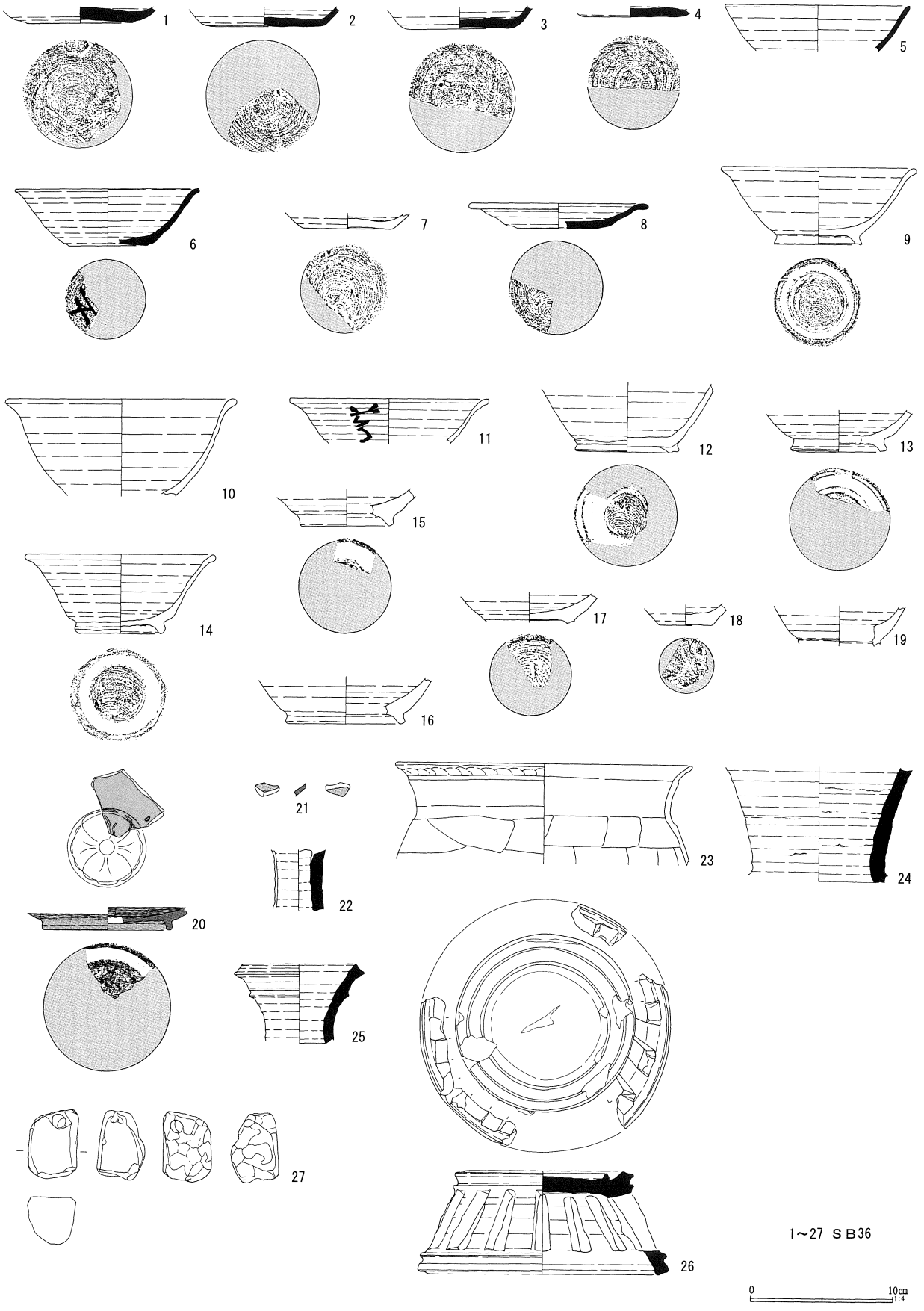
第425図8～12は、土師器の坏である。8・9は、有段口縁坏、10は、内屈口縁坏、11は、北島型暗文土器、12は、比企型坏である。11は、内面にやや粗い放射状の暗文を施す。12は、内面全体と口縁部に赤彩を施す。利根川水系の原土が用いられている。

13は、須恵器の坏である。「ハ」の字に大きく開く坏で内面に漆が付着している。良く還元化し、硬質な焼き上がりである。南比企窯跡群の製品である。

8～13は、7世紀第Ⅳ四半期である。

第47号掘立柱建物跡出土遺物

第425図14～19は、土師器の坏である。14は、有段口縁坏、15・16は、内屈口縁坏である。17は、大振りの埦形であり、18・19は、坏身形の有段口縁坏である。19は、黒色処理されている。全て利根川水系の原土が用いられている。14～17は、7世紀第Ⅲ四半期、18・19は、7世紀第Ⅱ四半期である。



第424図　掘立柱建物跡出土遺物(3)

第48号掘立柱建物跡出土遺物

第425図20～22は、土師器の坏である。20は、須恵器坏蓋模倣坏である。ローム台地の粘土を原土とし、硬質に焼き上がっている。21・22は、有段口縁坏である。利根川水系の原土が用いられている。

23は、緑釉陶器の陶片である。埦の破片であろう。猿投窯跡群の製品である。

24は、須恵器の提瓶である。カキ目が渦巻状に巡っている。良く還元化し、大変硬質である。湖西窯跡群の製品である。

25は、砥石である。

20～22は、７世紀前半。

第52号掘立柱建物跡出土遺物

第425図26・27は、須恵器の坏である。26は、底部の全面を回転ヘラケズリしている。還元化が進み、硬質に焼き上がっている。南比企窯跡群の製品である。８世紀前半。27は、底部未調整である。やや軟質な仕上がりである。末野窯跡群の製品である。９世紀前半。

第54号掘立柱建物跡出土遺物

第425図28～31は、土師器の坏である。28は、有段口縁坏である。黒色処理が施されている。29は、須恵器坏蓋模倣坏である。30は、内湾口縁坏である。31は、北島型暗文土器である。内面には細かな放射状暗文が施されている。全て利根川水系の原土が用いられている。内外面とも黒色処理が施されている。

32は、土師器の皿である。口縁部が小さく外反している。利根川水系の原土が用いられている。

33は、土師質土器の坏である。比較的硬質に仕上がっている。ローム台地の粘土を原土としている。

34・35は、土師器の甕である。34の器肉は、薄く、35は、厚い。利根川水系の原土が用いられている。

36は、石製紡錘車である。側面と上部に鋸歯状文が刻書されている。鋸歯状文は、三角の内面を網目状に細かく線刻している。

35は、６世紀後半、28・29は、７世紀中葉、30～32・34は、７世紀末から８世紀初頭、33は、10世紀後半である。

第55号掘立柱建物跡出土遺物

第425図37～第426図２は、土師器の坏である。第425図37は、有段口縁坏である。黒色処理が内外面に行われている。38は、内湾口縁坏である。39は、坏Ａである。40は、小形の扁平な坏である。第426図１・２は、北島型暗文土器である。内面には細かな放射状暗文が施されている。器肉は大変薄い。全て利根川水系の原土が用いられている。

３～５は、須恵器の坏である。全て底部未調整。比較的硬質に仕上がる。４の底部には、箆書きで「十」とある。５は底部に墨書で「綱」とある。４は末野窯跡群、他は南比企窯跡群の製品である。

６は、須恵器の高台付埦である。比較的硬質に仕上がる。末野窯跡群の製品である。

７は、須恵器の長頸壺である。高台は小さく角高台となる。内面のタタキ目は明瞭。良く還元化され硬質である。南比企窯跡群の製品である。

第425図39は、９世紀前半。第426図１・２は、７世紀第Ⅳ四半期。第426図３～６は、９世紀後半である。

第57号掘立柱建物跡出土遺物

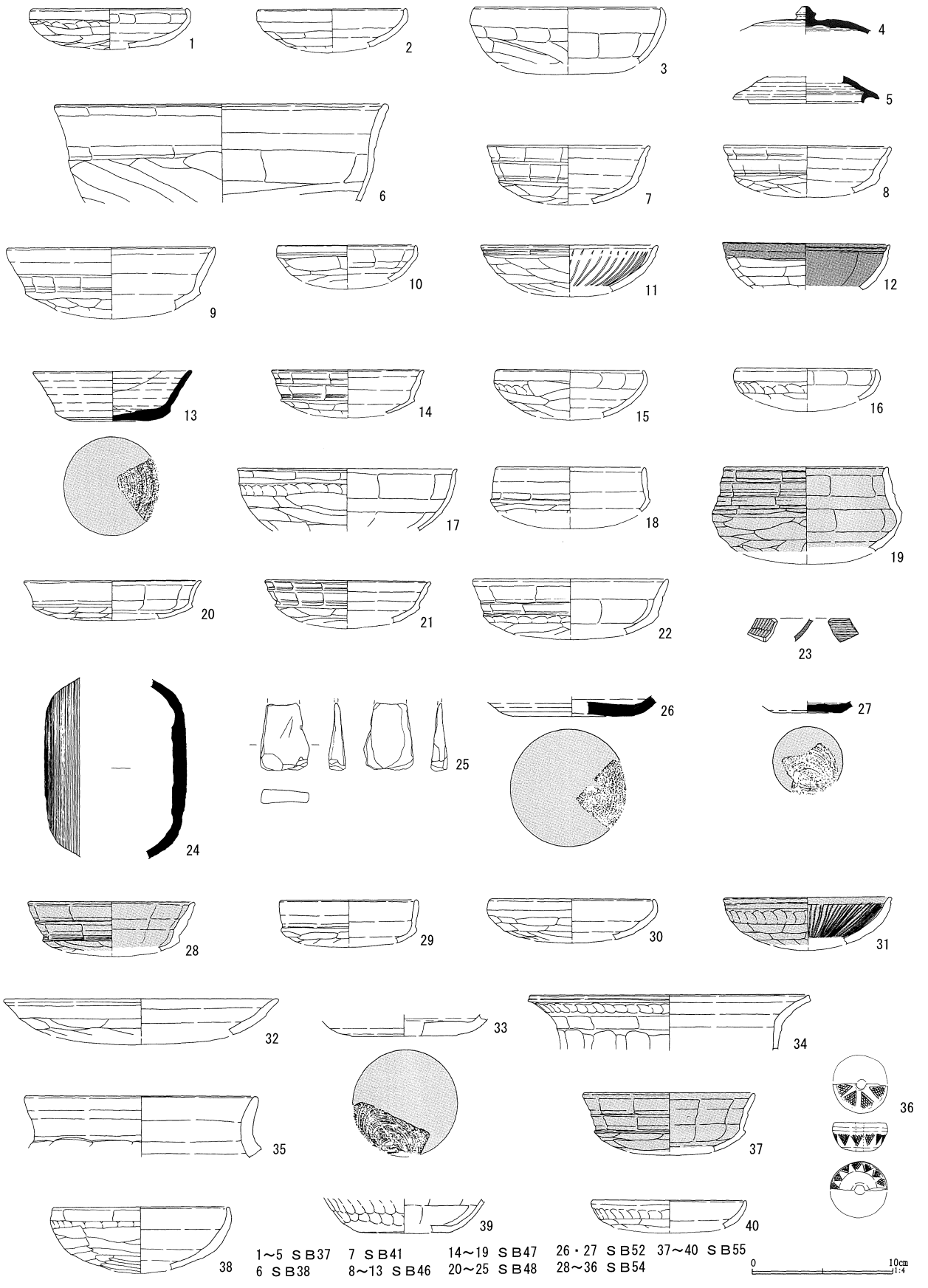
第426図８は、土師器の坏である。口縁部が、小さく内彎する。利根川水系の原土が用いられている。７世紀第Ⅳ四半期。

第59号掘立柱建物跡出土遺物

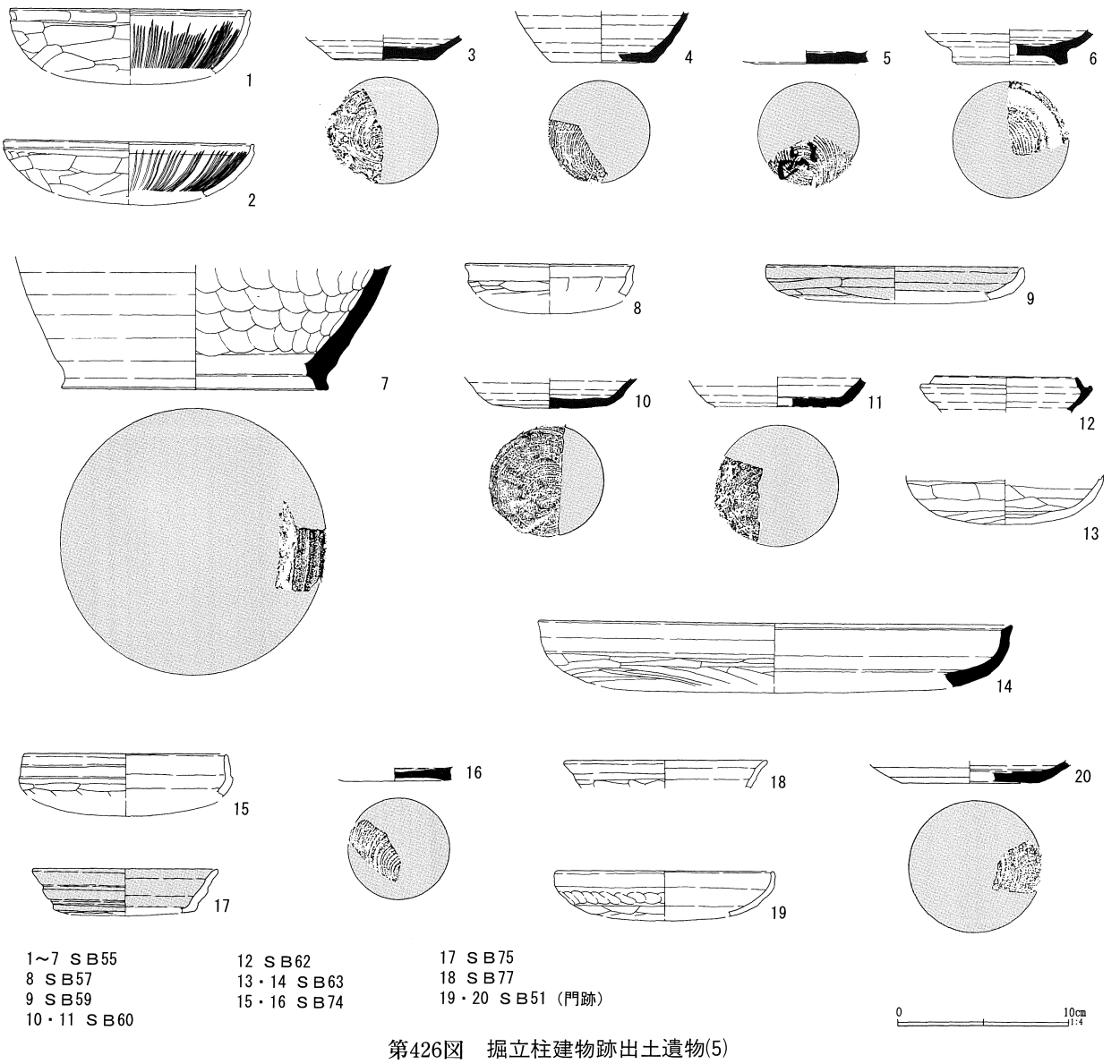
第426図９は、土師器の皿である。内面に暗文は見られない。内外面黒色処理が施されている。利根川水系の原土が用いられている。７世紀第Ⅳ四半期。

第60号掘立柱建物跡出土遺物

第426図10は、須恵器の坏である。底部の周辺を回



第425図　掘立柱建物跡出土遺物(4)



第426図　掘立柱建物跡出土遺物(5)

転ヘラケズリしている。還元化が進み、硬質に焼き上がっている。南比企窯跡群の製品である。８世紀第Ⅳ四半期。

11は、須恵器の高台付埦である。やや軟質な仕上がりである。末野窯跡群の製品である。９世紀前半。

第62号掘立柱建物跡出土遺物

第426図12は、須恵器の坏である。かえりは強く、半球形となる。大変良く還元化し硬質である。湖西窯跡群の製品である。７世紀第Ⅲ四半期。

第63号掘立柱建物跡出土遺物

第426図13は、土師器の内湾口縁坏である。器肉が薄く仕上がっている。利根川水系の原土が用いられている。

14は、須恵器の盤である。やや大形の盤で底部は、ヘラケズリされている。器肉は、厚くタタキによって延ばした後、口縁部をロクロ調整し、底部を手持ちヘラケズリしたようである。良く還元化され硬質である。末野窯跡群の製品である。

13・14は、７世紀第Ⅳ四半期である。

第74号掘立柱建物跡出土遺物

15は、土師器の須恵器坏身模倣坏である。小片のため、口径は小さいかもしれない。利根川水系の原土が用いられている。

16は、須恵器の坏である。底部糸切りのみである。南比企窯跡群の製品である。

15は、7世紀前半。16は、9世紀前半である。

第75号掘立柱建物跡出土遺物

17は、土師器の有段口縁坏である。内外面を黒色処理している。器肉は厚い。利根川水系の原土が用いられている。7世紀第Ⅳ四半期。

第77号掘立柱建物跡出土遺物

18は、土師器の有段口縁坏である。利根川水系の原土が用いられている。7世紀後半。

1号門跡

19は、土師器の坏である。利根川水系の原土が用いられている。8世紀後半。

20は、須恵器の坏である。南比企窯跡群の製品である。8世紀後半。

掘立柱建物跡出土遺物一覧

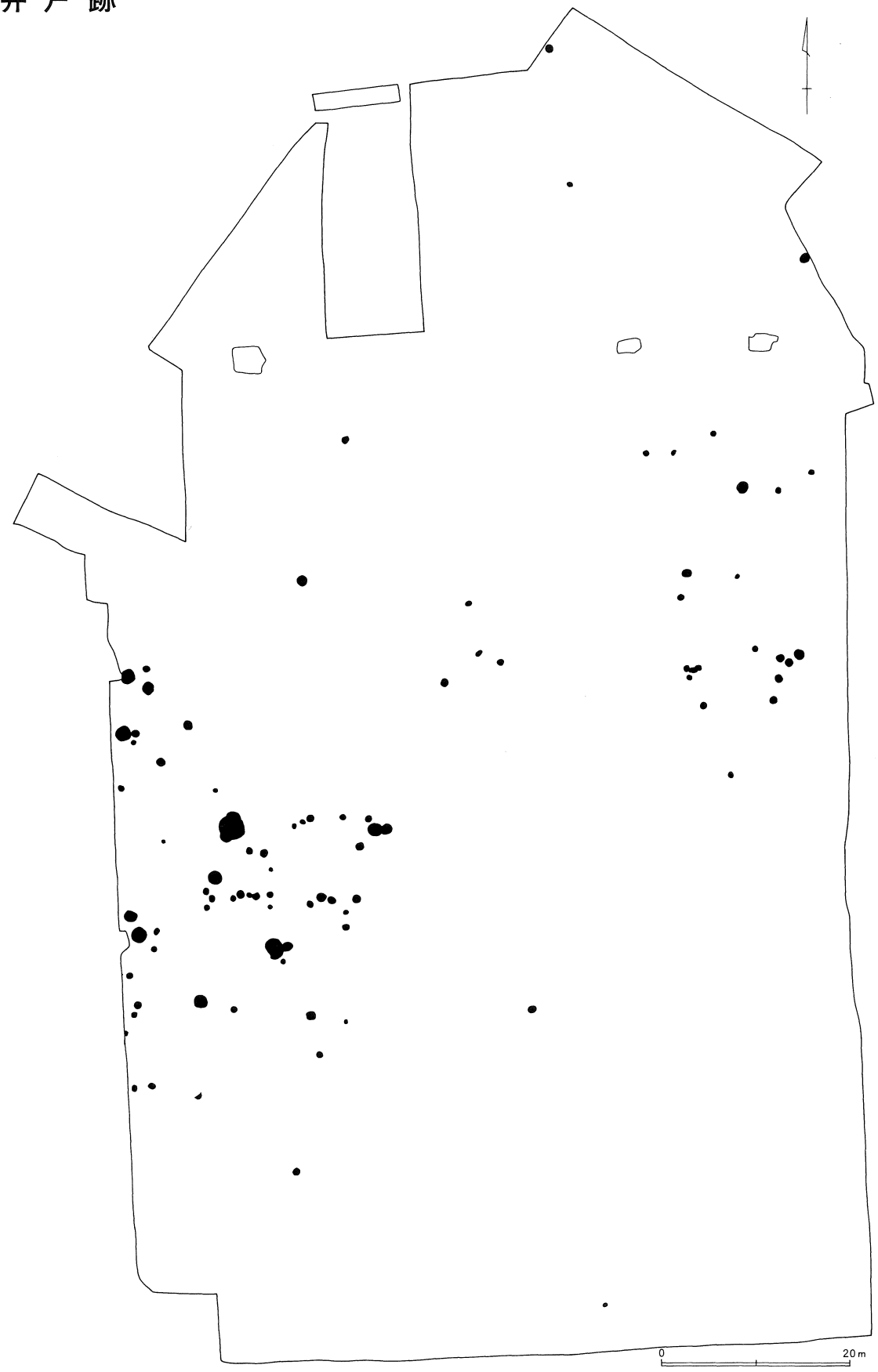
挿図番号	図の番号	遺構番号	出土位置	種別	器種	口径	底径	器高	最大径	残存率	色調	産地	備考
第422図	1	1	P 2	土師器	比企型坏	89	—	(28)		10	明赤褐	利根川水系	
第422図	2	1		須恵器	高台付埦	—	91	(30)		25	灰	南比企	
第422図	3	3	P 1	土師器	甕	195	—	(43)		20	灰黄	利根川水系	
第422図	4	4	P12	土師器	内湾口縁坏	126	—	(30)		10	橙	利根川水系	
第422図	5	4	P12	土師器	坏	143	—	(28)		10	橙	利根川水系	
第422図	6	4	P 6	須恵器	坏	—	75	(13)		5	褐灰	南比企	
第422図	7	4	P 8	須恵器	蓋	—	—		(12)	5	灰	南比企	
第422図	8	4	P 1	須恵器	坏	—	77	(7)		5	灰	南比企	
第422図	9	4	P 8	土師器	高坏	—	—	(36)		20	橙	利根川水系	
第422図	10	4	P14	土師器	長胴甕	200	—	(52)		10	橙	利根川水系	
第422図	11	4	P 3	須恵器	甕	245	—	(62)		10	灰白	南比企	
第422図	12	5	P 9	土師器	須恵器坏蓋模倣坏	106	—	(38)		10	明黄褐	利根川水系	
第422図	13	5	P 4	土師器	北島型暗文土器	119	112	(26)		10	橙	利根川水系	
第422図	14	6	P 8	土師器	内湾口縁坏	118	—	(16)		10	橙	利根川水系	
第422図	15	6	P 1	土師器	須恵器坏蓋模倣坏	109	109	(24)		10	橙	利根川水系	
第422図	16	6	P 2	土師器	須恵器坏蓋模倣坏	91	—	(16)		10	橙	利根川水系	
第422図	17	6	P 2	石製品	砥石	—	—	—		100	—	—	
第422図	18	7	住居跡	土師器	有段口縁坏	138	—	(38)		40	淡橙	利根川水系	
第422図	19	7	P 5	土師器	有段口縁坏	118	107	(40)		10	黒褐	利根川水系	黒色処理
第422図	20	7	住居跡	土師器	須恵器坏身模倣坏	117	—	(36)		20	橙	利根川水系	122
第422図	21	7	P 7	土師器	須恵器坏身模倣坏	128	140	(40)		10	橙	利根川水系	
第422図	22	8		土師器	内湾口縁坏	122	—	(29)		20	明赤褐	利根川水系	
第422図	23	8	P 5	土師器	内湾口縁坏	124	—	(35)		20	橙	利根川水系	
第422図	24	8	P 1	土師器	内湾口縁坏	104	—	(28)		5	橙	利根川水系	
第422図	25	11	P 1	土師器	須恵器坏蓋模倣坏	128	74	(30)		10	明褐灰	利根川水系	
第422図	26	11	P 2	土師器	内湾口縁坏	117	—	(28)		10	橙	利根川水系	
第422図	27	9		土師器	壺	216	—	(73)		20	にぶい橙	利根川水系	
第422図	28	11	P10	須恵器	蓋	—	—	(17)		5	灰	南比企	
第422図	29	11	P 9	須恵器	蓋	—	55	(19)		20	灰白	末野	

挿図番号	図の番号	遺構番号	出土位置	種別	器種	口径	底径	器高	最大径	残存率	色調	産地	備考
第422図	30	11	P 5	須恵器	坏	127	—	(32)		15	灰	南比企	
第422図	31	11	P 7	須恵器	高台付埦	—	80	(28)		40	灰	末野	
第422図	32	13	P 7	土師器	坏	127	—	(29)		10	にぶい橙	利根川水系	
第422図	33	13	P 8	須恵器	坏	123	65	36		95	灰	南比企	墨書「綱」
第422図	34	13		須恵器	高台付埦	137	82	46		70	灰	南比企	
第423図	1	14	P 6	土師器	有段口縁坏	—	—	—		10	黄橙	利根川水系	
第423図	2	14	P 8	土師器	内湾口縁坏	110	75	31		20	明褐	利根川水系	
第423図	3	14	P 2	土師器	有段口縁坏	119	80	(26)		10	淡黄	利根川水系	
第423図	4	15	P 1	須恵器	蓋	104	67	21		25	灰	末野	
第423図	5	17		土師器	甕	198	—	41		5	橙	利根川水系	
第423図	6	19	P 4	土師器	比企型坏	104	—	(29)	106	10	橙	利根川水系	
第423図	7	20		土師器	甑	200	—	(30)		10	にぶい黄橙	利根川水系	
第423図	8	22	P63	土師器	有段口縁坏	118	98	(48)		20	黒褐	利根川水系	黒色処理
第423図	9	22	P 6	土師器	有段口縁坏	—	122	(39)		10	にぶい褐	利根川水系	
第423図	10	22	P30	土師器	有段口縁坏	153	126	(34)		10	橙	利根川水系	
第423図	11	22	P55	土師器	有段口縁坏	121	110	(33)		15	灰白	利根川水系	
第423図	12	22	P 7	土師器	有段口縁坏	118	98	(29)		10	浅黄橙	利根川水系	
第423図	13	22	P28	土師器	有段口縁坏	—	100	(19)		10	橙	利根川水系	
第423図	14	22	P59	土師器	須恵器坏蓋模倣坏	125	113	(31)		20	橙	ローム台地の粘土	
第423図	15	22	P52	土師器	須恵器坏蓋模倣坏	119	100	(32)		10	橙	ローム台地の粘土	
第423図	16	22	P39	土師器	有段口縁坏	128	84	(34)		10	橙	利根川水系	
第423図	17	22	P14	須恵器	蓋	160	124	(36)		25	灰白	南比企	
第423図	18	22	P76	土師器	鉢	118	—	(50)		10	橙	利根川水系	
第423図	19	22	P122	須恵器	平瓶	—	—	(55)		5	明褐灰	湖西	
第423図	20	23	P132	須恵器	蓋	—	68	(18)		10	灰白	南比企	
第423図	21	23	P13	須恵器	坏	156	—	(58)		40	灰	南比企	
第423図	22	23	P15	須恵器	坏	—	70	—		10	灰	末野	
第423図	23	24	P111	土師器	坏A	121	87	(38)		20	にぶい橙	利根川水系	
第423図	24	24	P13	須恵器	坏	—	61	(11)		20	灰	南比企	
第423図	25	24	P103	須恵器	皿	142	—	—		10	青灰	末野	
第423図	26	24	P29	石製品	砥石	—	—	—		—	—	—	
第423図	27	26	P 9	土師器	須恵器坏蓋模倣坏	108	—	(27)		10	灰黄褐	利根川水系	
第423図	28	26	P 2	須恵器	蓋	—	—	(12)		5	黄灰	末野	
第423図	29	31	P 5	土師器	有段口縁坏	110	90	(36)		10	灰白	利根川水系	
第423図	30	31	P 4・3	土師器	内屈口縁坏	107	—	(33)		10	にぶい黄橙	利根川水系	
第423図	31	32	P 8	須恵器	蓋	—	—	(10)		5	灰白	末野	
第423図	32	32	P 8	須恵器	坏	125	70	31		30	灰	南比企	墨書「綱」カ
第423図	33	32	P 8	須恵器	坏	—	89	(16)		5	黄灰	末野	
第423図	34	32	P 6	須恵器	坏	—	62	(10)		20	青灰	南比企	
第423図	35	36	P 7	土師器	有段口縁坏	109	96	(38)		10	にぶい黄橙	利根川水系	
第423図	36	36	P2・SK87	土師器	内湾口縁坏	116	—	(29)		5	橙	ローム台地の粘土	
第423図	37	36	P 4	土師器	内湾口縁坏	114	—	(32)		5	浅黄橙	ローム台地の粘土	
第423図	38	36	P 4	土師器	坏	138	—	(32)		5	橙	ローム台地の粘土	
第423図	39	36	P2・SK87	土師器	坏	—	—	—		5	橙	利根川水系	
第423図	40	36	P 4	須恵器	蓋	—	81	(25)		35	灰	末野	

挿図番号	図の番号	遺構番号	出土位置	種別	器種	口径	底径	器高	最大径	残存率	色調	産地	備考
第423図	41	36	P 4	須恵器	蓋	186	84	(24)		30	灰	南比企	
第423図	42	36	P12	須恵器	坏	113	60	32		30	灰	南比企	
第424図	1	36	P 4	須恵器	坏	—	75	(11)		30	明褐灰	南比企	
第424図	2	36	P 9	須恵器	坏	—	80	(14)		15	オリーブ灰	南比企	
第424図	3	36	P21	須恵器	坏	—	73	(15)		35	灰	南比企	
第424図	4	36	P 4	須恵器	坏	—	66	(8)		100	灰	南比企	
第424図	5	36	P 4	須恵器	坏	131	—	(33)		10	灰	南比企	
第424図	6	36	P21	須恵器	坏	131	55	40		20	灰	末野	墨書「君」カ「書」カ
第424図	7	36	P21	須恵器	坏	—	64	(11)		30	灰白	末野	
第424図	8	36		須恵器	皿	125	60	18		20	灰	末野	
第424図	9	36	P10	須恵器	高台付埦	139	62	54		60	灰	末野	
第424図	10	36	P 4	須恵器	高台付埦	163	—	69		10	明褐灰	末野	
第424図	11	36	P10	須恵器	高台付埦	139	—	(32)		5	にぶい橙	末野	墨書「藤」カ「薀」カ
第424図	12	36		須恵器	高台付埦	—	73	(49)		30	灰黄褐	末野	
第424図	13	36	P29	須恵器	高台付埦	—	68	(29)		10	灰	末野	
第424図	14	36	P10	須恵器	高台付埦	136	64	56		50	にぶい褐	末野	
第424図	15	36	P 1	須恵器	高台付埦	—	67	(26)		10	橙	末野	
第424図	16	36	P 4	須恵器	高台付埦	—	86	(33)		10	浅黄橙	末野	
第424図	17	36	P10	須恵器	高台付埦	—	—	(21)		15	浅黄橙	末野	
第424図	18	36	P2・SK87	土師質土器	坏	—	38	(16)		5	灰白	利根川水系	
第424図	19	36	P21	須恵器	高台付埦	—	—	28		10	灰	南比企	
第424図	20	36		緑釉陶器	埦	—	—	—		5	オリーブ黒	猿投・K90号	
第424図	21	36	P19	緑釉陶器	陶片	—	—	—		5	オリーブ黄	猿投	
第424図	22	36		須恵器	高坏	—	—	(46)		5	褐灰	末野	
第424図	23	36	P26	土師器	甕	208	—	(71)		10	にぶい橙	利根川水系	
第424図	24	36	P12	須恵器	長頸瓶	—	—	(81)		5	灰	末野	
第424図	25	36		須恵器	フラスコ形瓶	92	—	(56)		5	灰	東海地方西部	
第424図	26	36		須恵器	円面硯	上(148)	下(178)	高 72		30	青黒	南比企	
第424図	27	36		石製品	砥石（提げ砥）	—	—	—		—	—	—	
第425図	1	37	P 8	土師器	内屈口縁坏	111	—	(29)		20	にぶい橙	利根川水系	
第425図	2	37	P 8	土師器	内屈口縁坏	109	—	(28)		20	橙	利根川水系	
第425図	3	37	P 4	土師器	内屈口縁坏	133	—	(40)	140	10	橙	利根川水系	
第425図	4	37	P 8	須恵器	蓋	—	94	(20)		5	褐灰	湖西	
第425図	5	37	P 8	須恵器	蓋	81	—	(19)	100	5	灰	湖西	
第425図	6	38	P 2	土師器	鉢	237	—	(70)		10	にぶい橙	利根川水系	
第425図	7	41		土師器	有段口縁坏	117	—	(42)		10	内 灰黄 外 灰白	利根川水系	
第425図	8	46		土師器	有段口縁坏	120	—	(32)		10	橙	利根川水系	
第425図	9	46	P 1	土師器	有段口縁坏	149	126	(46)		10	橙	利根川水系	
第425図	10	46	P 8	土師器	内屈口縁坏	99	—	(26)		10	にぶい橙	利根川水系	
第425図	11	46	P 8	土師器	北島暗文土器	126	—	(35)		10	灰	利根川水系	
第425図	12	46	P 8	土師器	比企型坏	120	—	(33)		20	にぶい黄橙	利根川水系	
第425図	13	46	P 7	須恵器	坏	113	75	35		10	灰	南比企	
第425図	14	47	P 9	土師器	有段口縁坏	108	97	(32)		10	橙	利根川水系	
第425図	15	47	P 1	土師器	内屈口縁坏	106	—	(34)		10	にぶい橙	利根川水系	
第425図	16	47	P 4	土師器	内屈口縁坏	100	—	(23)	105	10	橙	利根川水系	

挿図番号	図の番号	遺構番号	出土位置	種別	器種	口径	底径	器高	最大径	残存率	色調	産地	備考
第425図	17	47	P 1	土師器	坏	157	—	(45)		10	橙	利根川水系	
第425図	18	47	P 9	土師器	有段口縁坏	106	114	(33)		10	浅黄橙	利根川水系	
第425図	19	47	P 8	土師器	有段口縁坏	118	—	(61)	135	30	褐灰	利根川水系	黒色処理
第425図	20	48	P 6	土師器	須恵器坏蓋模倣坏	128	116	(28)		10	にぶい橙	ローム台地の粘土	
第425図	21	48	P 3	土師器	有段口縁坏	118	105	(30)		10	橙	利根川水系	
第425図	22	48	P 9	土師器	有段口縁坏	138	118	(40)		10	橙	利根川水系	
第425図	23	48		緑釉陶器	埦片	—	—	—		5	オリーヴ灰	猿投	
第425図	24	48	P 8	須恵器	提瓶	—	—	(128)		10	灰白	湖西	
第425図	25	48	P 7	石製品	砥石	—	—	—		100	—	—	
第425図	26	52	P 1	須恵器	坏	—	87	(14)		5	明褐灰	南比企	
第425図	27	52	P 9	須恵器	坏	—	48	(8)		10	灰	末野	
第425図	28	54	P 4	土師器	有段口縁坏	118	98	(35)		10	黄灰	利根川水系	黒色処理
第425図	29	54	P 3	土師器	須恵器坏蓋模倣坏	98	97	(32)		10	にぶい黄橙	利根川水系	
第425図	30	54	P 7	土師器	内湾口縁坏	116	—	(29)		20	にぶい黄橙	利根川水系	
第425図	31	54	P 5	土師器	北島型暗文土器	118	—	(35)		10	褐灰	利根川水系	黒色処理
第425図	32	54	P 3	土師器	皿	197	—	(26)		10	橙	利根川水系	
第425図	33	54	P 7	土師質土器	坏	—	74	(16)		10	にぶい橙	ローム台地の粘土	
第425図	34	54	P 4	土師器	甕	200	—	(39)		10	褐灰	利根川水系	
第425図	35	54	P 4	土師器	甕	166	—	(44)		10	明褐灰	利根川水系	
第425図	36	54	P 4	石製	紡錘車	上37	下25	高さ(20)	孔径 7	50	—	利根川水系	
第425図	37	55	P10	土師器	有段口縁坏	122	108	(47)		10	黒褐	利根川水系	黒色処理
第425図	38	55	P10	土師器	内湾口縁坏	126	—	(47)		20	橙	利根川水系	
第425図	39	55	P 7	土師器	坏A	—	61	(25)		20	にぶい橙	利根川水系	
第425図	40	55	P 8	土師器	坏	108	—	(21)		10	にぶい橙	利根川水系	
第426図	1	55	P 1	土師器	北島型暗文土器	140	—	(39)		30	橙	利根川水系	
第426図	2	55	P 7	土師器	北島型暗文土器	147	—	(33)		20	橙	利根川水系	
第426図	3	55	P 7	須恵器	坏	—	60	(15)		15	褐灰	南比企	
第426図	4	55	P 3	須恵器	坏	—	60	(30)		15	灰白	末野	刻書「十」
第426図	5	55	P 5	須恵器	坏	—	60	(8)		10	灰	南比企	墨書「綱」
第426図	6	55	P 5	須恵器	高台付埦	—	67	(21)		10	褐灰	末野	
第426図	7	55		須恵器	長頸壺	—	158	(74)		5	暗青灰	南比企	
第426図	8	57	P 3	土師器	坏	98	—	(19)		10	橙	利根川水系	
第426図	9	59	P 2	土師器	皿	151	—	(19)		10	にぶい橙	利根川水系	黒色処理
第426図	10	60	P 5	須恵器	坏	—	68	(18)		25	灰白	南比企	
第426図	11	60	P 4	須恵器	高台付埦	—	74	(18)		10	灰	末野	
第426図	12	62	P 3	須恵器	坏	82	—	21		5	灰黄	湖西	
第426図	13	63		土師器	内湾口縁坏	—	—	(26)		10	橙	利根川水系	
第426図	14	63		須恵器	盤	280	—	(36)		5	灰	末野	
第426図	15	74	P10	土師器	須恵器坏蓋模倣坏	90	—	(19)		5	橙	利根川水系	
第426図	16	74	P11	須恵器	坏	—	60	(8)		5	灰	南比企	
第426図	17	75	P 2	土師器	有段口縁坏	109	84	(26)		10	にぶい黄橙	利根川水系	黒色処理
第426図	18	77	P 3	土師器	有段口縁坏	119	—	(14)		10	橙	利根川水系	
第426図	19	51	P 2	土師器	坏	127	—	(28)		5	にぶい橙	利根川水系	
第426図	20	51		須恵器	坏	—	80	(14)		5	灰	南比企	

3．井 戸 跡



第427図　井戸跡全体図

概　　要

北島遺跡第19地点では、95井の井戸跡を検出した。井戸跡の分布は、調査区全体にわたって認められるが、とくに調査区西側と古墳群の広がる調査区東側で集中的に確認された。

調査区北側と南側では、井戸跡の分布は希薄である。古代の井戸跡の分布は、調査区西側に限られていた。とくにＪ・Ｋ―13グリッド付近に集中していた。

中世の井戸跡は、調査区西側と古墳群の広がる調査区東側の２ヵ所に多く分布していた。

古代の井戸は、第21・22・23・24・34・35・36・37・42・54・58・85・91・92・93号井戸跡である。

また中世の井戸と判断した井戸は、第１・２・３・４・５・８・９・10・13・15・18・19・20・26・27・28・29・32・33・38・40・41・43・44・45・46・47・48・49・50・51・52・55・56・57・59・60・61・62・63・64・65・66・67・68・69・70・71・72・73・74・75・76・77・78・79・80・81・82・83・84・86・87・88・89・90・94・95号井戸跡である。

井戸枠を検出したのは、第６・12・18・20・21・42・43・44・51・55・60・62・69・79・85号井戸跡である。

井戸枠や井筒、井戸内から出土した木製遺物は、第２編で詳細を報告したい。また井戸跡から出土した中世・近世の遺物についても同様である。

(1)　遺　　構

第１号井戸跡

掘り方の形状は、円形であった。底面はやや丸みを帯び、断面の形状は漏斗状であった。

確認面から0.9ｍ下に曲げ物を検出した。

方形周溝状遺構より新しい。中世の井戸と判断した。

第２号井戸跡

掘り方の形状は、不整円形であった。井戸の深さは0.76ｍまで確認できたが、湧水が激しく、底面の検出は行えなかった。

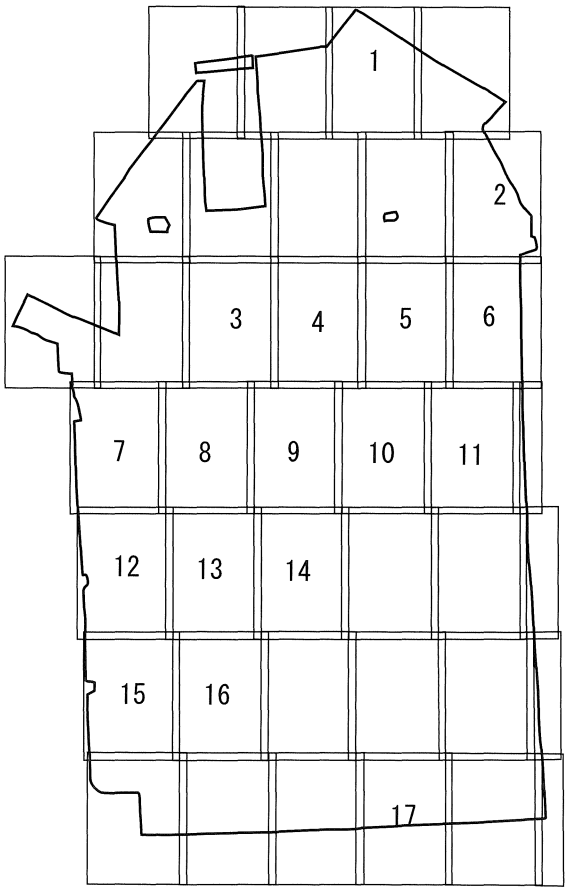
第25号溝跡の覆土掘削中に井戸を確認したので、前後関係は明確にできなかった。おそらく中世の井戸であろう。

第３号井戸跡

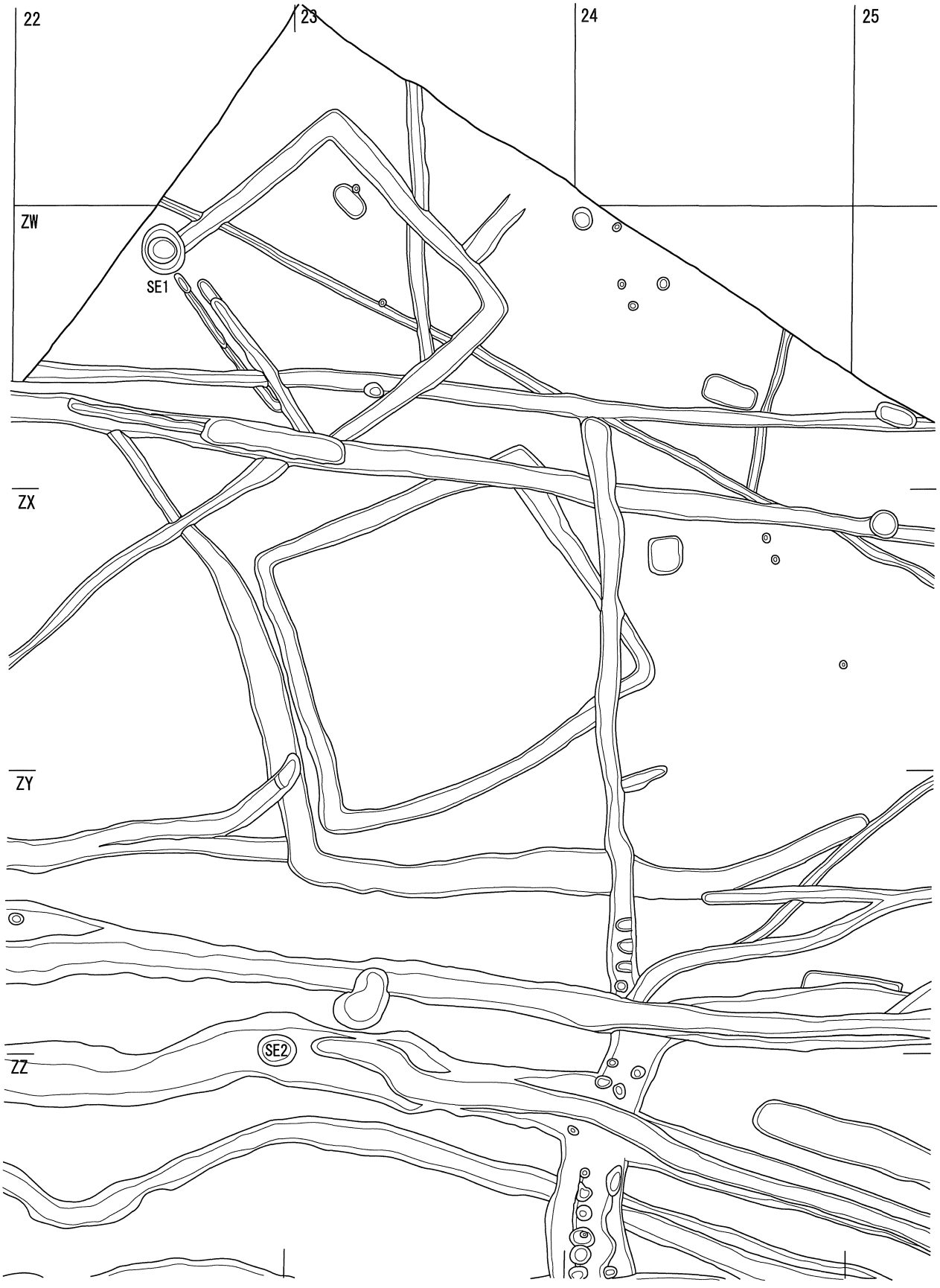
掘り方は、北側と南側を第395・396号溝跡に切られていた。井戸の深さは1.12ｍまで確認できたが、湧水が激しく、底面の検出は行えなかった。

覆土は、炭化物を多く含む黒褐色土が堆積していた。

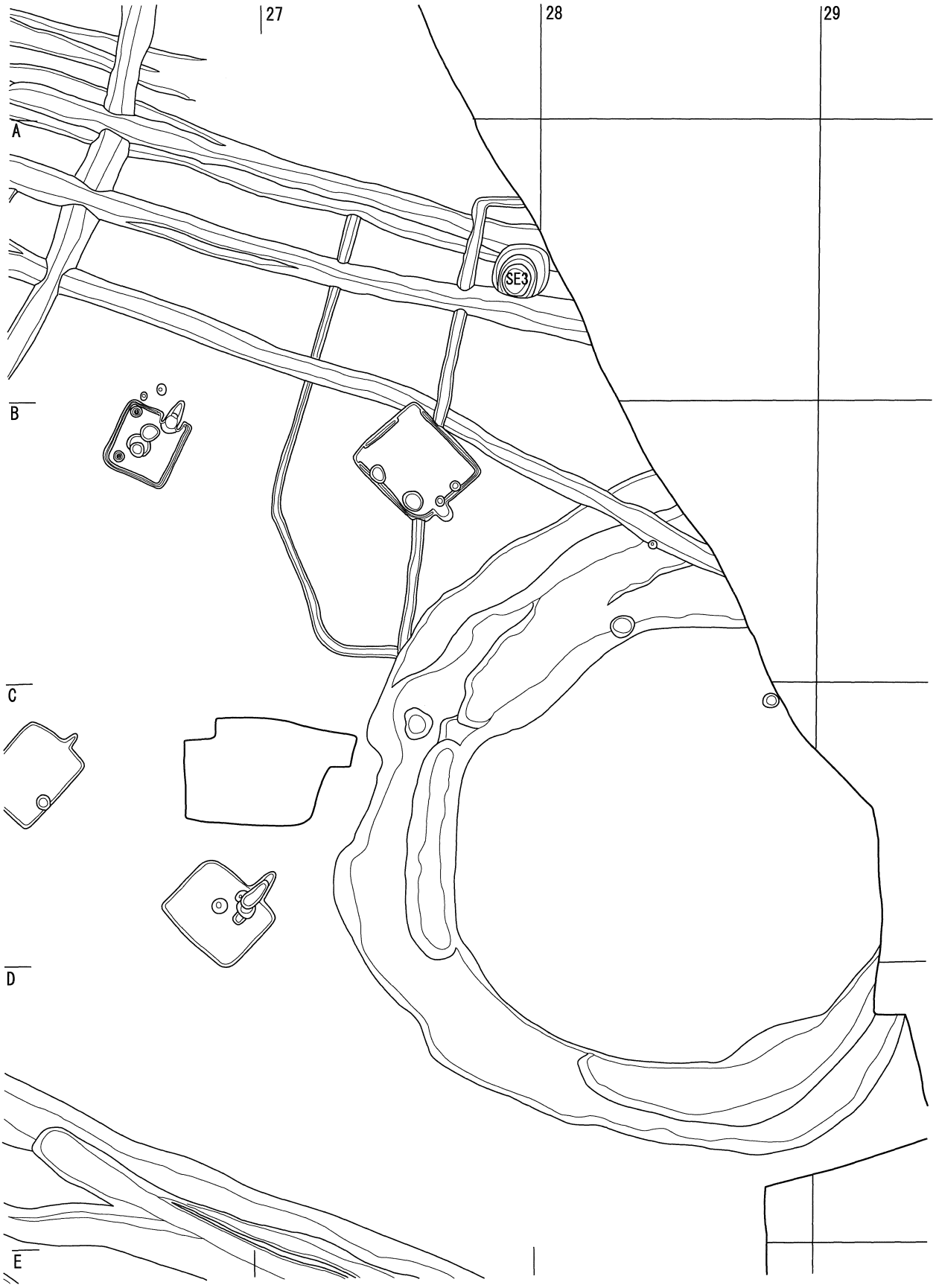
第25・31号溝跡よりも新しい。おそらくＬ字に曲がる第43号溝跡によって囲まれていたことから一連の中世の遺構と判断した。



第428図　井戸跡全体区割図



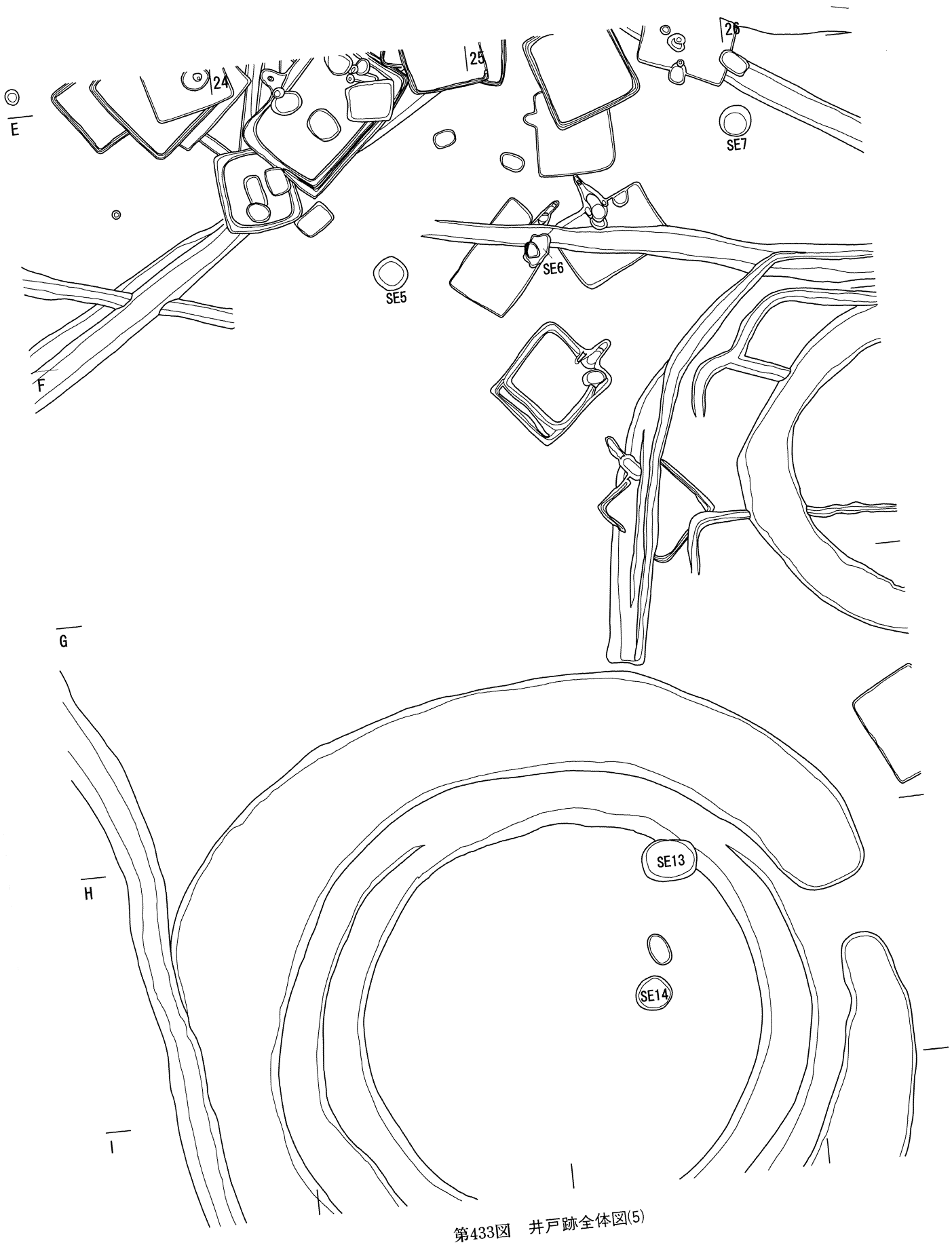
第429図　井戸跡全体図(1)



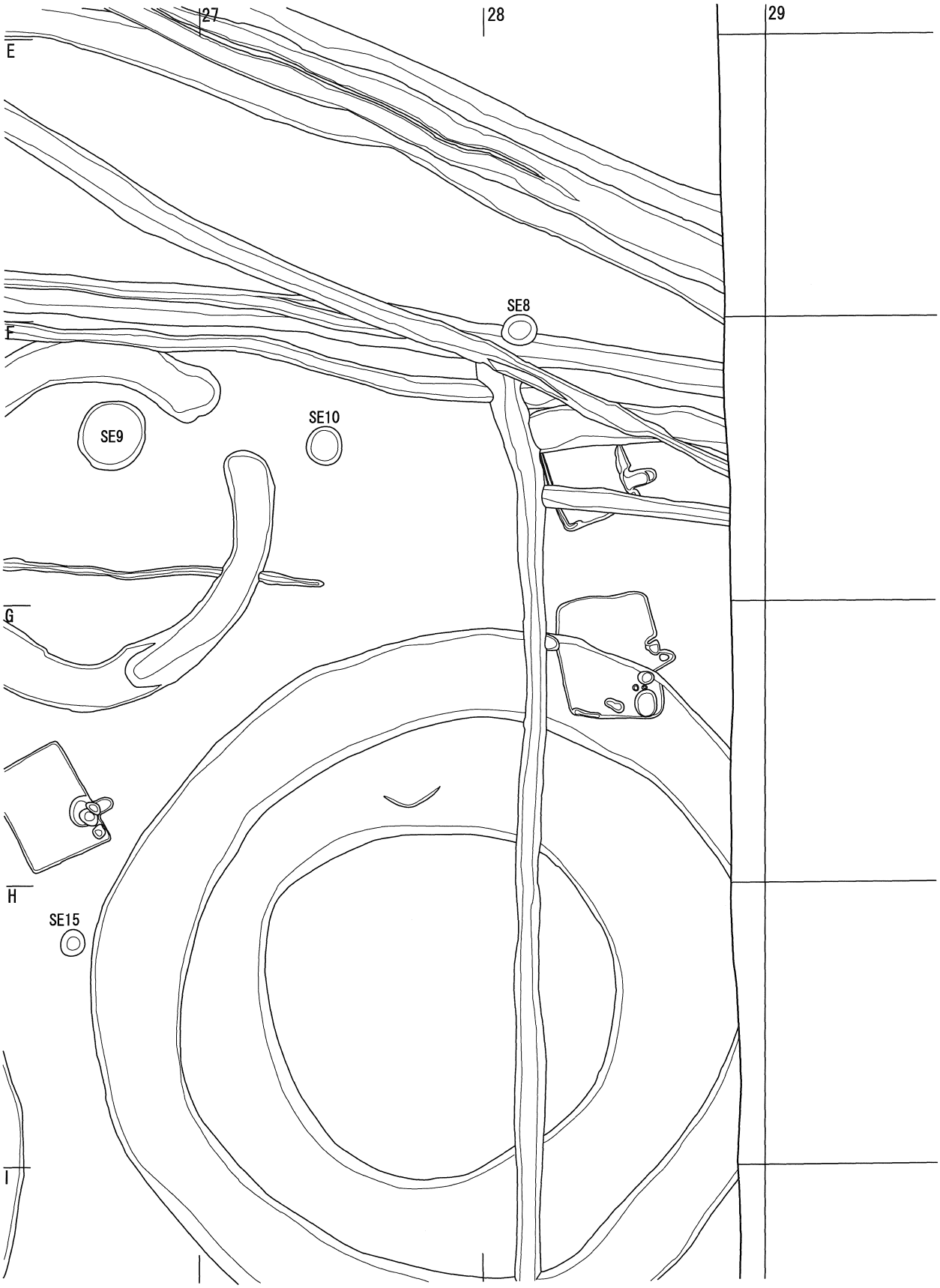
第430図　井戸跡全体図(2)

第431図　井戸跡全体図(3)

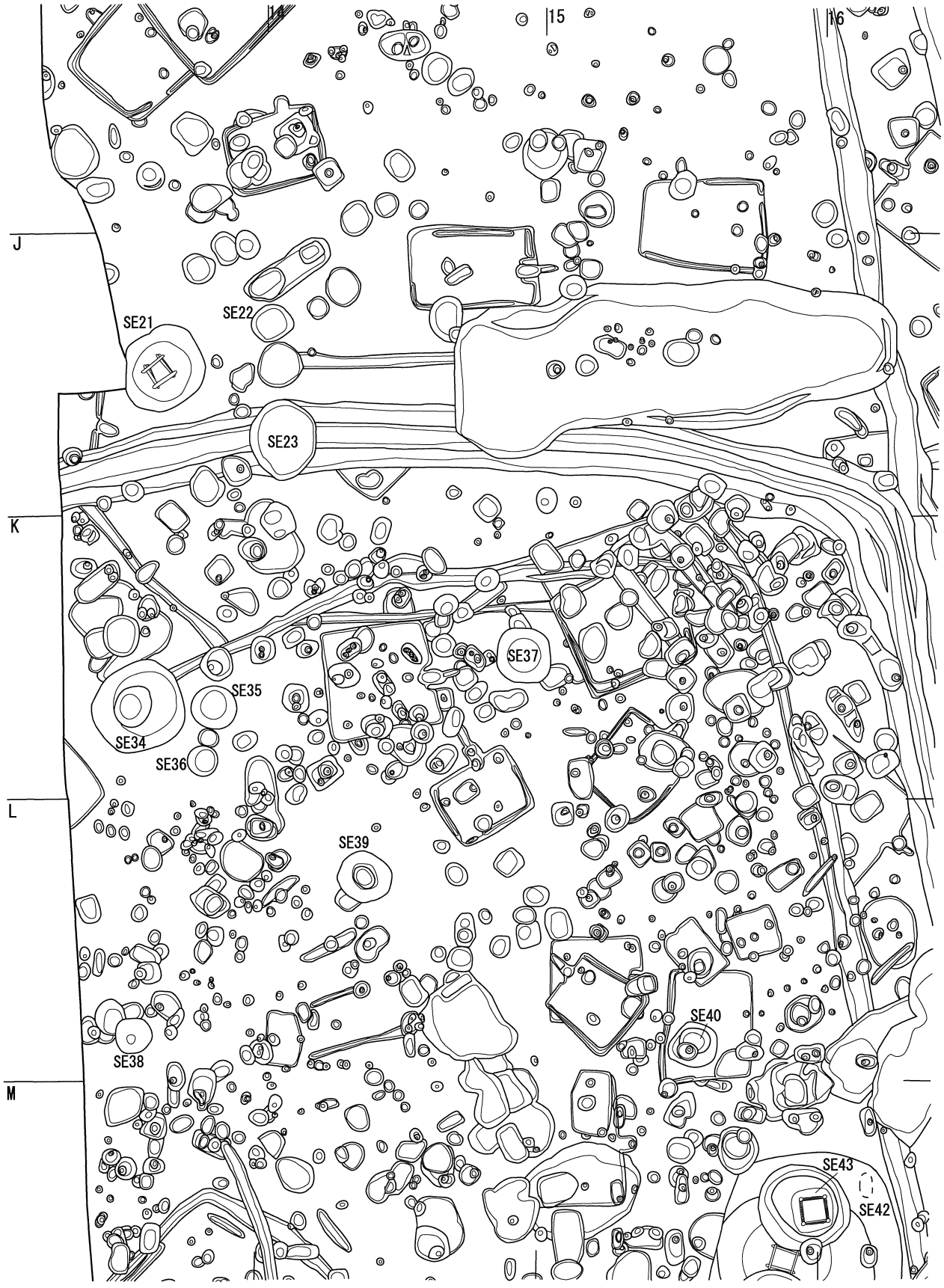
第432図　井戸跡全体図(4)



第433図　井戸跡全体図(5)



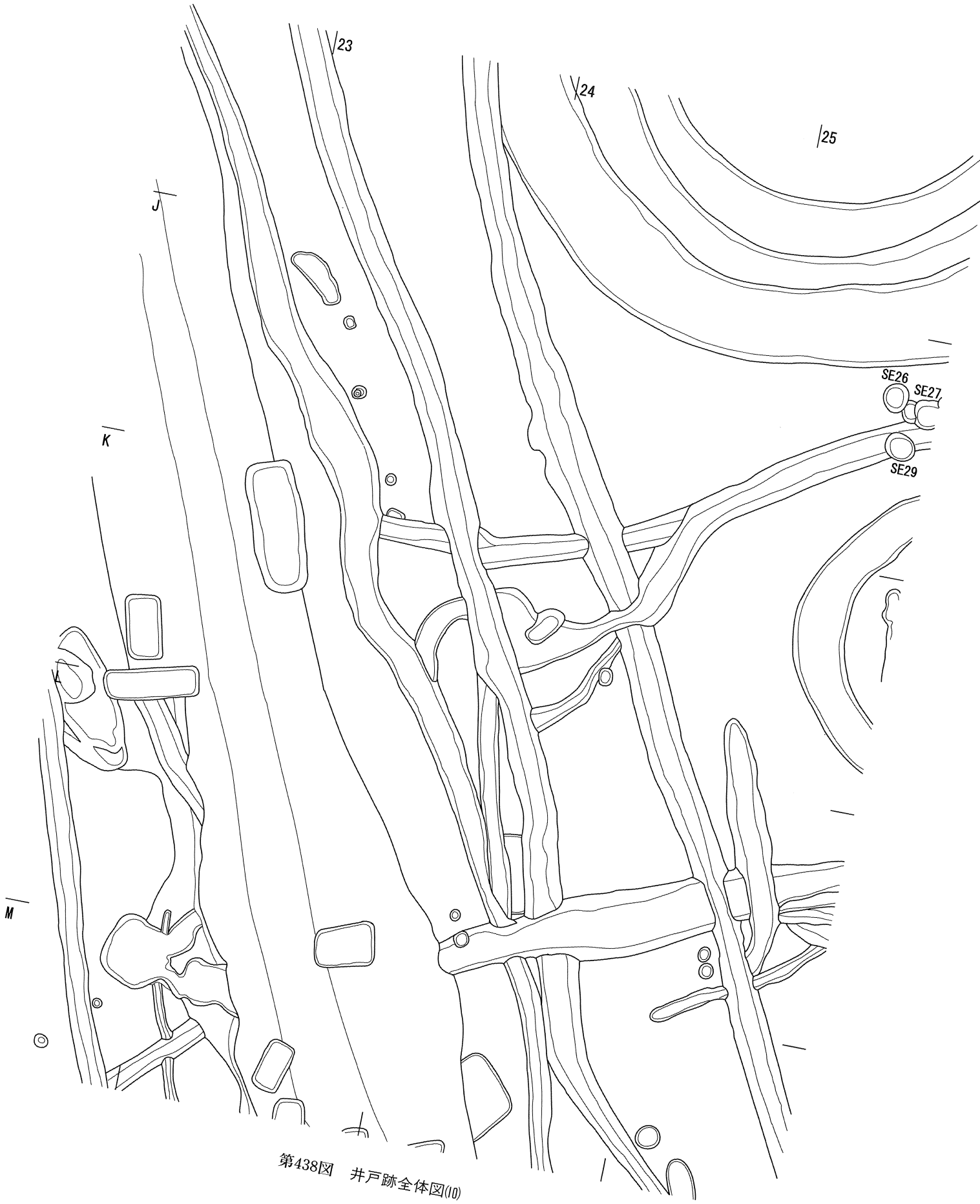
第434図　井戸跡全体図(6)



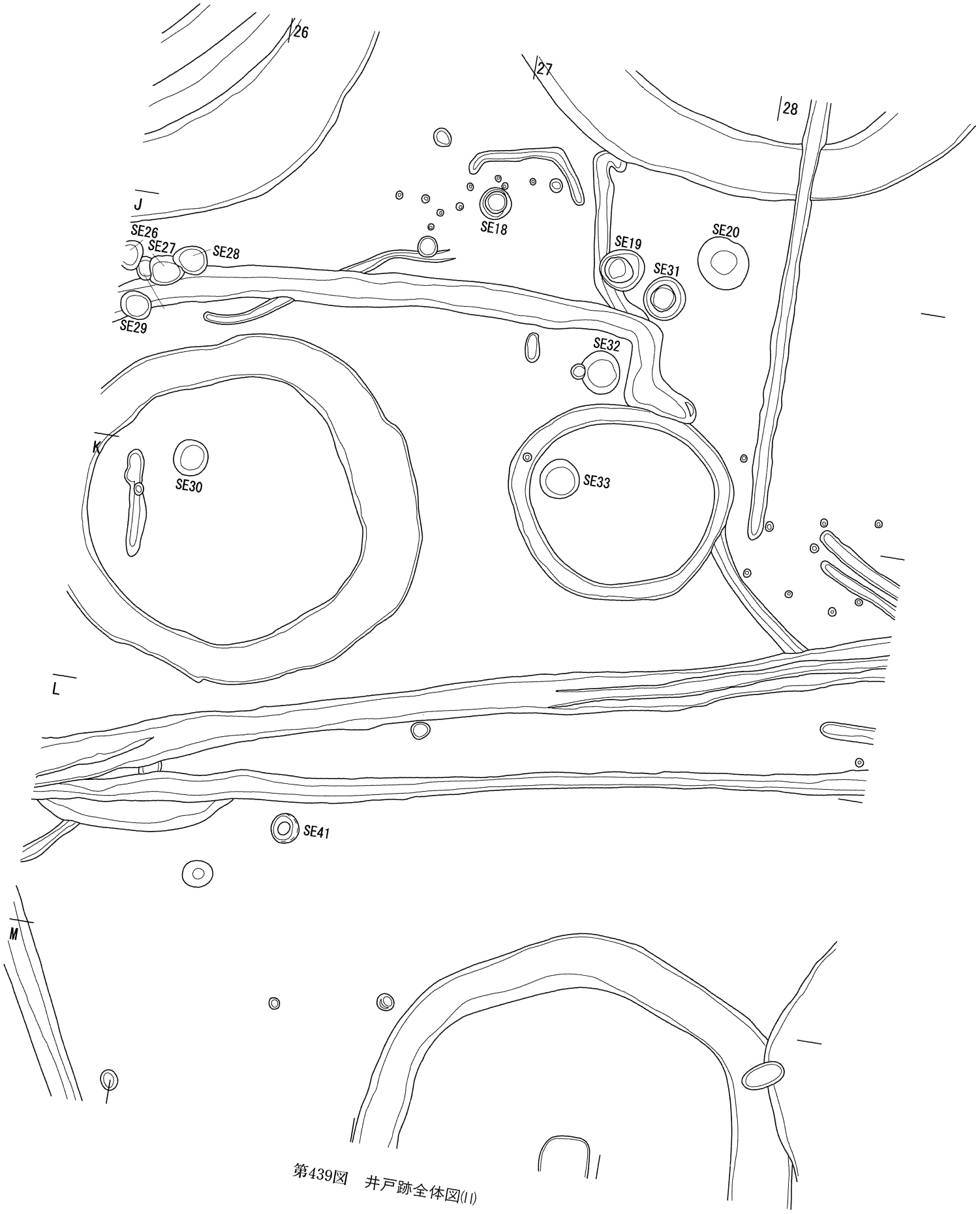
第435図　井戸跡全体図(7)

第436図　井戸跡全体図(8)

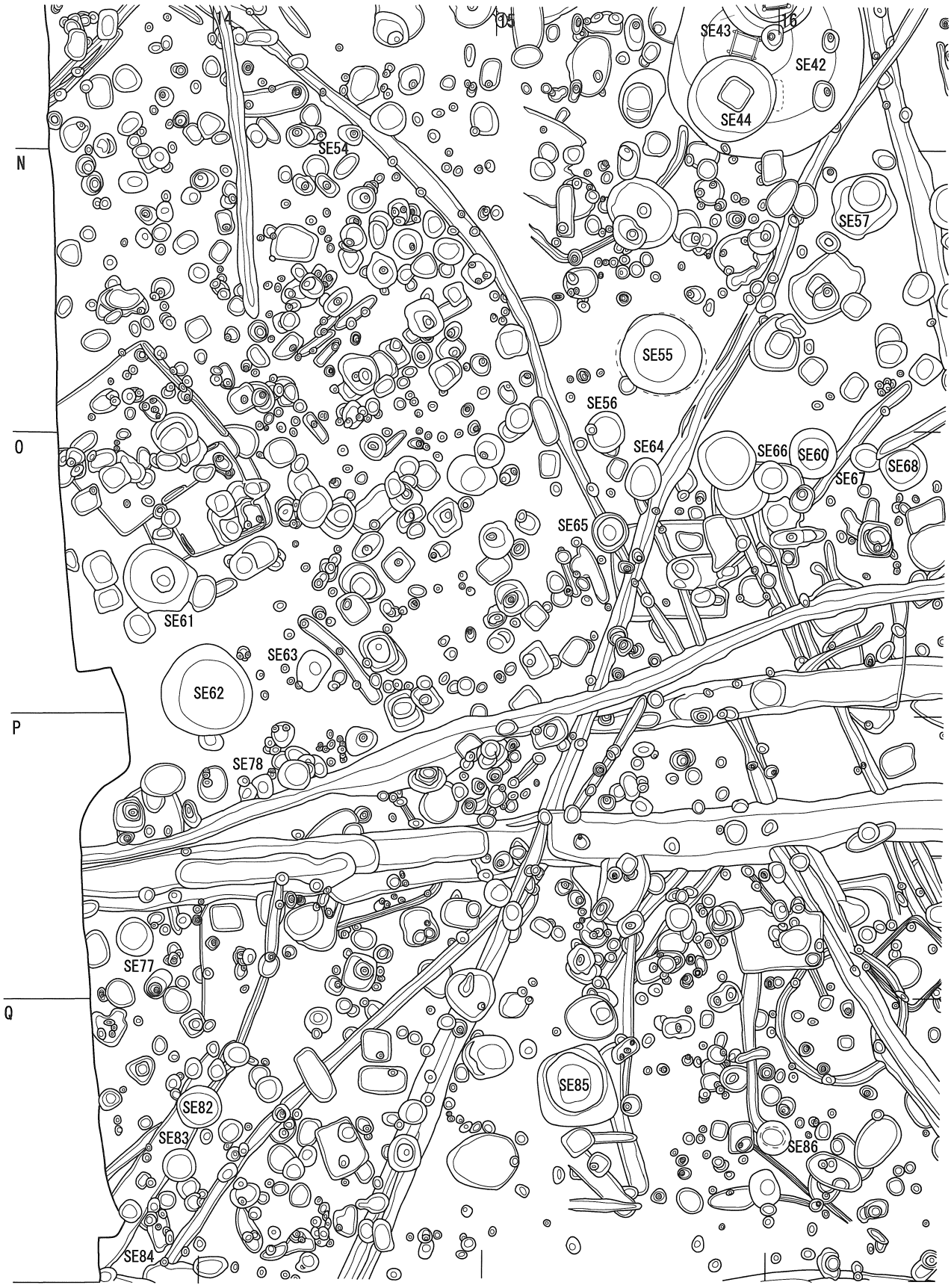
第437図　井戸跡全体図(9)



第438図　井戸跡全体図(10)



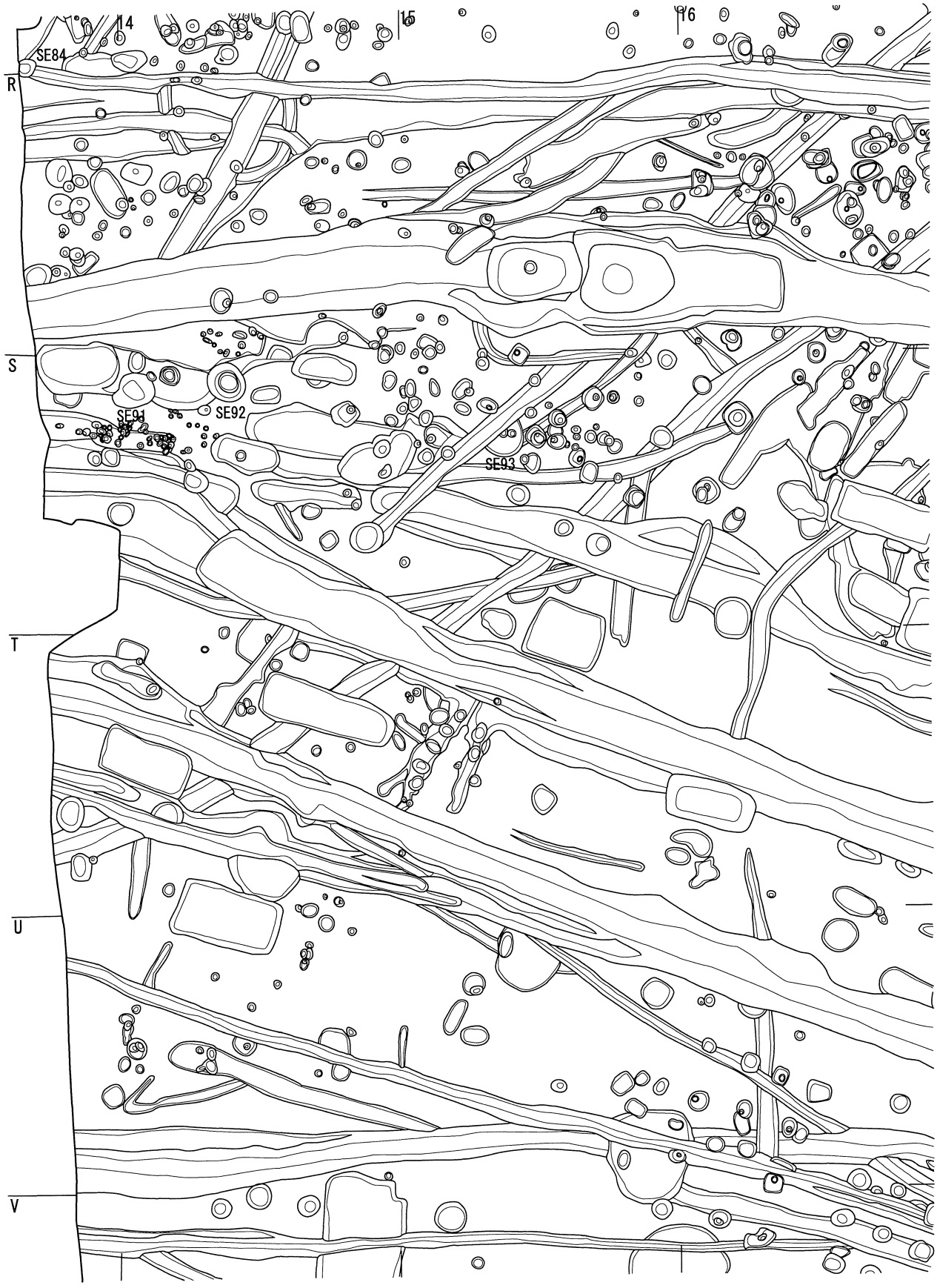
第439図　井戸跡全体図(11)



第440図　井戸跡全体図(12)

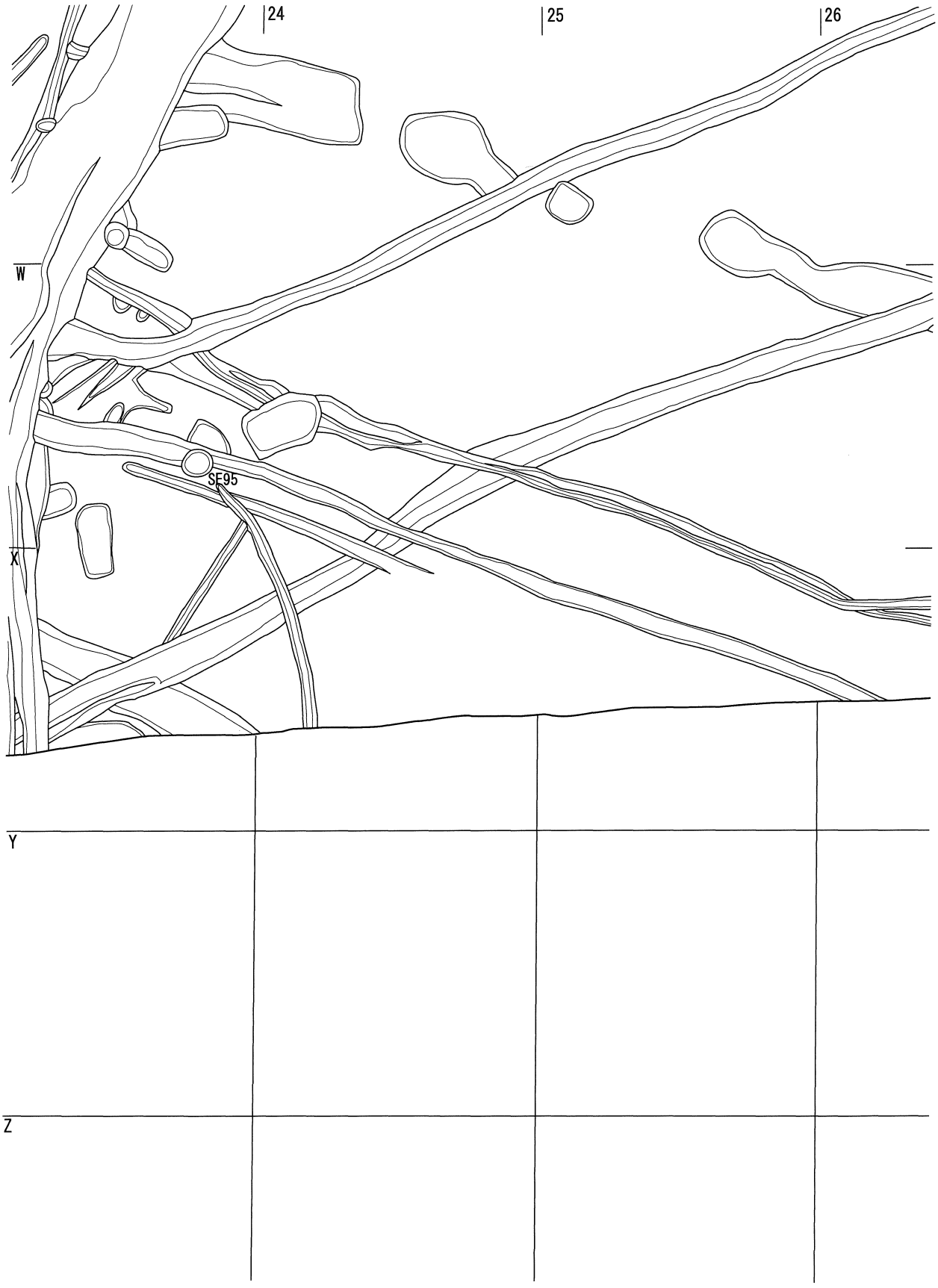
第441図　井戸跡全体図(13)

第442図　井戸跡全体図(14)



第443図　井戸跡全体図(15)

第444図　井戸跡全体図(16)



第445図　井戸跡全体図(17)

井戸跡一覧

番号	グリッド	形態	長軸長さ	短軸長さ	深さ	長軸方位	時期
1	W・Z22	楕円形	1.75	1.58	1.18	N－0°	中世
2	ZY・ZZ22・23	不整円形	1.34	1.18	(0.76)	N－82°－W	中世
3	A27	－	(1.60)	1.56	(1.12)	N－8°－E	中世
4	E18	不整円形	1.74	1.57	(0.85)	N－62°－E	中世
5	E24	円形	1.36	1.24	(1.82)	N－88°－E	中世
6	E25	不整形	1.40	0.96	(1.68)	N－25°－E	
7	E26	円形	1.20	1.16	(1.90)	N－90°－EW	
8	F28	円形	1.28	1.09	(1.00)	N－55°－E	中世
9	F26	円形	2.56	2.28	(0.8)	N－27°－E	中世
10	F27	不整形	1.46	1.00	1.80	N－25°－W	中世
11	H17	円形	2.22	2.20	1.53	N－39°－E	
12	H20	楕円形	1.42	1.15	0.79	N－90°－EW	
13	H25	楕円形	2.19	1.55	(1.00)	N－90°－EW	中世
14	H25	円形	1.36	1.32	1.36	N－90°－EW	
15	H26	円形	0.90	0.81	1.86	N－0°	中世
16	I・J21	楕円形	1.30	1.00	1.18	N－76°－E	
17	I26	円形	1.30	1.24	0.95	N－43°－E	
18	I26	円形	1.30	1.23	1.16	N－0°	中世
19	SK234・I・J27	楕円形	(1.87)	1.65	0.83	N－80°－E	中世
20	I27	円形	2.26	2.20	(2.72)	N－0°	中世
21	I・J13	円形	3.05	2.79	(1.26)	N－0°	平安
22	J13・14	円形	1.44	1.27	1.30	N－90°－EW	古代
23	J13・14	楕円形	2.83	2.43	2.26	N－0°	平安
24	J20	円形	1.74	1.55	1.44	N－0°	古代
25	J21	不整円形	1.74	1.55	(0.78)	N－79°－W	
26	J25	円形	1.16	1.00	1.31	N－0°	中世
27	J25	－	－	－	0.85	－	中世
28	J25	不整円形	1.32	1.11	1.24	N－54°－W	中世
29	J25	楕円形	1.30	1.03	1.22	N－55°－W	中世
30	K25	円形	1.53	1.38	(0.88)	N－0°	
31	J27	円形	1.75	1.70	(1.10)	N－0°	
32	J27	円形	1.74	1.45	1.26	N－0°	中世
33	J27	円形	1.57	1.57	0.89	N－90°－EW	中世
34	K13	円形	3.27	3.12	1.67	N－90°－EW	古代
35	K13	円形	1.59	1.45	1.55	N－90°－EW	古代
36	K13	円形	1.15	1.07	(1.21)	N－90°－EW	古代
37	K14	円形	1.71	1.70	(0.85)	N－0°	古代
38	L13	円形	1.30	1.29	(1.90)	N－90°－EW	中世
39	L14	円形	1.98	1.85	1.29	N－90°－EW	
40	L15	不整円形	1.82	1.55	(0.76)	N－62°－E	中世
41	L26	円形	1.22	1.15	1.22	N－0°	中世
42	M・N15・16	－	－	－	－	－	
43	M15・16	楕円形	3.05	3.02	1.98	N－0°	中世
44	N15	円形	3.16	2.88	(2.42)	N－90°－EW	中世
45	M17	楕円形	1.25	0.93	(0.98)	N－10°－W	中世
46	M17	楕円形	1.25	0.98	0.92	N－41°－W	中世
47	M17	円形	1.57	1.47	(1.29)	N－90°－EW	中世

番号	グリッド	形態	長軸長さ	短軸長さ	深さ	長軸方位	時期
48	M18	円形	1.36	1.23	(1.46)	N−90°−EW	中世
49	M18	円形	1.46	1.44	(1.30)	N−90°−EW	中世
50	M18・19	円形	3.12	3.00	1.56	N−28°−W	中世
51	N18	円形	1.93	1.84	1.59	N−64°−E	中世
52	M19	円形	2.44	2.24	(1.46)	N−79°−E	中世
53	M19	円形	0.79	0.77	(0.76)	N−90°−EW	不詳
54	N14	円形	0.95	0.94	1.15	N−58°−W	古代
55	N15	円形	(2.99)	(2.98)	(2.38)	N−62°−E	中世
56	N15	円形	1.45	1.34	1.21	N−0°	中世
57	N16	円形	1.35	1.33	1.67	N−0°	中世
58	N16	円形	1.72	1.61	1.46	N−25°−W	古代
59	N16	楕円形	1.10	0.92	1.54	N−0°	中世
60	O16	円形	1.84	1.67	1.68	N−0°	中世
61	O13	不整形	2.66	2.27	0.99	N−40°−W	中世
62	O・P13・14	円形	3.27	3.20	(0.72)	N−0°	中世
63	O14	楕円形	1.50	1.09	1.41	N−26°−E	中世
64	O15	楕円形	1.39	1.29	1.48	N−0°	中世
65	O15	円形	1.34	1.24	1.28	N−0°	中世
66	O16・17	円形	1.12	1.10	1.58	N−68°−W	中世
67	O16	楕円形	(1.16)	0.95	(1.38)	N−75°−W	中世
68	O16	円形	1.80	1.70	(1.38)	N−75°−W	中世
69	O16	円形	1.43	1.39	(1.52)	N−67°−E	中世
70	O16	円形	1.12	1.05	(0.90)	N−90°−EW	中世
71	O17	円形	2.02	1.90	1.72	N−90°−EW	中世
72	O17	楕円形	1.47	1.23	(1.68)	N−25°−W	中世
73	O17・18	不整形	1.39	1.49	(1.63)	N−75°−W	中世
74	O18	円形	1.77	1.76	(1.50)	N−0°	中世
75	O18	円形	1.11	1.02	(0.74)	N−90°−EW	中世
76	O18	長方形	1.62	1.29	(0.99)	N−90°−EW	中世
77	P13	円形	1.37	1.27	(1.64)	N−42°−W	中世
78	P14	楕円形	1.43	1.10	1.22	N−62°−E	中世
79	P16・17	不整楕円形	4.52	3.37	(1.44)	N−25°−W	中世
80	P17	楕円形	2.48	2.20	(0.14)	N−50°−E	中世
81	P17	円形	1.16	1.06	(0.66)	N−0°	中世
82	Q1314	円形	1.55	1.43	1.41	N−90°−EW	中世
83	Q13	円形	1.17	1.12	1.26	N−90°−EW	中世
84	Q13	円形	0.80	0.77	0.88	N−0°	中世
85	Q15	—	(2.45)	(2.32)	(3.34)	N−65°−E	8C前
86	Q15・16	楕円形	1.25	1.10	(0.72)	N−0°	中世
87	Q17	不整形	(2.03)	(1.74)	1.32	N−90°−EW	中世
88	Q18	方形	1.00	0.84	1.34	N−6°−W	中世
89	Q22	円形	1.56	1.42	(1.40)	N−90°−EW	中世
90	R17	円形	1.36	1.36	(1.02)	N−90°−EW	中世
91	S14	不整形	(1.38)	1.20	0.44	N−90°−EW	古代
92	S14	円形	1.35	1.33	1.22	N−0°	古代
93	S15	円形	(1.64)	(1.52)	(0.90)	N−0°	古代
94	T17	方形	1.52	1.44	(1.10)	N−17°−E	中世
95	W23	楕円形	1.14	0.93	(0.80)	N−89°−E	中世

第 4 号井戸跡

掘り方の形状は不整円形であった。井戸の深さは0.85ｍまで確認できたが、湧水が激しく、底面の検出は行えなかった。

覆土は、黄褐色土を含む土が堆積していた。

遺構の切り合い関係は無く、単独で確認した。中世の井戸と判断した。

第 5 号井戸跡

掘り方の形状は円形であった。井戸の深さは1.82ｍまで確認できたが、湧水が激しく、底面の検出は行えなかった。

周辺に切り合う遺構を確認できなかった。中世の井戸と判断した。

第 6 号井戸跡

掘り方の形状は不整形であった。井戸の深さは1.68ｍまで確認できたが、壁面の崩落の恐れから、底面の検出は行えなかった。

構築方法は、確認面から0.14ｍまで漏斗状に掘り下げ、さらに垂直に掘り下げた穴の中に井戸枠を設置した。その後、粘質土主体の黒褐色土などで、井戸枠と掘り方との隙間を埋めていた。

井戸枠は、丸太を刳り貫いて使用していた。刳り貫く際についた切れ目は、別の板と角材で塞いでいた。規模は、径0.52ｍであった。

切り合い関係は、第78号溝跡・第52号住居跡より新しかった。

第 7 号井戸跡

掘り方の形状は円形であった。井戸の深さは1.9ｍまで確認できたが、壁面の崩落の恐れから、底面の検出は行えなかった。

周辺に遺構はなく単独であった。

第 8 号井戸跡

掘り方の形状は円形であった。井戸の深さは1.0ｍまで確認できたが、湧水が激しく、底面の確認は行えなかった。

第２層は杭材・板材を多量に含んでいた。

第78号溝跡よりも新しかった。おそらく中世の井戸であろう。

第 9 号井戸跡

掘り方の形状は円形であった。井戸の深さは0.8ｍまで確認できたが、湧水が激しく、底面の確認は行えなかった。

遺構の重複関係は把握できなかったが、古墳の墳丘内に構築された遺構である。第９号井戸跡の構築時には、低い墳丘が残存していたと考えられる。中世の井戸である。

第10号井戸跡

掘り方の形状は、不整形であった。底面は平坦で断面の形状は、漏斗状であった。

遺構の重複関係は全くみられない。おそらく中世の井戸であろう。

第11号井戸跡

掘り方の形状は、円形であった。底面は平坦で断面の形状は漏斗状であった。

切り合いはなかった。覆土は単純な黒色土層であった。

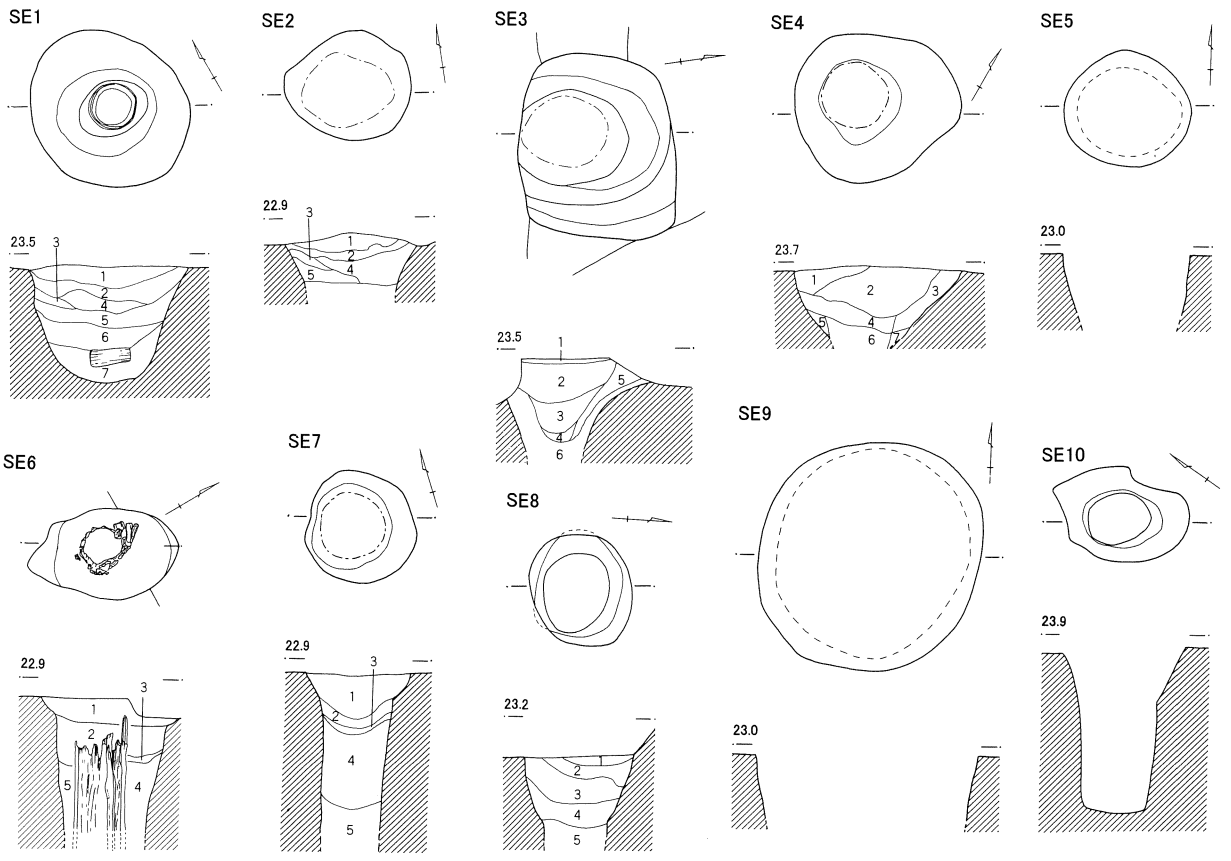
第12号井戸跡

掘り方の形状は、楕円形であった。底面はやや丸みを帯び、断面の形状は、いびつな漏斗状であった。

構築方法は、確認面下0.79ｍまで掘り下げ、井戸枠を設置し、黒色土で掘り方との隙間を埋めていた。

井筒は、曲物を使用していた。

周辺に切り合う遺構は確認できなかった。



第1号井戸跡
1　灰褐色土　黄褐色シルトブロック少量
2　暗褐色土　黄褐色シルトブロック・炭化物少量
3　暗灰褐色土　黄褐色シルトブロック・砂質土少量
4　暗黄褐色　砂質土
5　暗灰褐色土　黄褐色シルトブロック多量
6　灰黄褐色土　灰褐色シルトブロック多量
7　暗灰褐色土　黄褐色シルトブロック少量

第2号井戸跡
1　明黒色土　木片多量　炭化物粒子（10mm）微量　粘性・しまり強い
2　暗青灰色　砂質　木片・炭化物粒子（10mm）含む　しまりなし
3　明青灰色　黄褐色土ブロック多量
4　暗青灰色　1層と似る　炭化物粒子含む　粘性・しまり強い
5　暗青灰色　4層と似るが粘性弱い

第3号井戸跡
1　灰褐色土　粘質土
2　黒褐色土　炭化物粒子・灰褐色土粒子含む
3　黒褐色土　炭化物含む
4　炭化物層
5　黒褐色土　炭化物・灰黄褐色土ブロック多量
6　黒褐色土　炭化物粒子微量

第4号井戸跡
1　暗褐色土　黄灰色粘土ブロック（3～5mm）・炭化物少量
2　暗褐色土　黄褐色粘土ブロック（5～8mm）多量
3　暗褐色土　黄褐色粘土ブロック（3～5mm）含む
4　黒褐色土　黄灰色粘土（2～3mm）少量
5　暗褐色土　黄灰色粘土（2～3mm）含む
6　黒褐色土　黄灰色粘土（1～3cm）まばら
7　黒褐色土　黄灰色粘土（5～8mm）多量

第6号井戸跡
1　灰色土　砂質土　黄灰色シルトブロック（50 mm）灰色シルトブロック（30 mm）少量
2　黒灰色土　粘質土　黄灰色シルトブロック（30 mm）多量
3　暗灰色土　粘質土　黒色粘土ブロック（50 mm）・黄灰色シルトブロック（20 mm）含む
4　黒灰色土　粘質土　炭化物少量　黄灰色シルトブロック（80 mm）含む
5　黄灰色土　粘質土　黒色粘土ブロック（10 mm）少量

第7号井戸跡
1　暗灰褐色　炭化物・灰褐色土多量　鉄少量
2　暗褐色　粘質土　灰白色土・鉄少量
3　灰褐色　粘質土　青灰褐色土・鉄少量
4　黒褐色　粘質土　灰褐色土・鉄少量
5　青灰色褐色　粘質土　黒褐色土・鉄少量

第8号井戸跡
1　暗灰褐色　焼土・炭化物多量　灰色土少量
2　灰褐色　灰黒色土・抗材・板材多量　焼土・炭化物少量
3　黒褐色　焼土・炭化物・青灰色土・木片少量
4　暗青灰褐色　粘質土　黒色土多量　青色土含む　炭化物少量
5　暗青黒色　粘質土　黒色土・炭化物少量

第11号井戸跡
1　暗褐色土　焼土ブロック（1mm）含む
2　暗褐色土　1層より暗い　黄灰色粘土ブロック（3～5mm）多量　炭酸カルシウム粒子（1mm）まばら
3　黒褐色土　炭化物（3～5mm）・灰白色粘土粒子（1～2mm）少量
4　黒褐色土　焼土・炭化物含む
5　黒灰色土　黄灰色粘土ブロック（3～5mm）まばら

第12号井戸跡
1　暗灰色土　焼土・炭化物含む　粘性強い
2　暗灰色土　焼土・炭化物含む　粘性弱い
3　灰白色土　粘土　粒子細かい　粘性強い
4　暗灰色土　焼土・炭化物含む
5　灰色土　炭化物多量　粒子粗い　粘性強い
7　暗黒色土　粒子粗い　粘性強い
6　淡灰白色土　褐色粘土　井戸の埋没土
8　淡青灰色土　砂質土　粘性強い

第13号井戸跡
1　暗赤灰色土　炭化物多量　しまりなし
2　暗灰色土　粘質土　鉄分ブロック含む
3　青灰色土　粘質土　鉄分多量　赤褐色粘土ブロック（60mm）含む　しまりあり

0　2m
1:80

第446図　井戸跡(1)

第13号住居跡

掘り方の形状は、楕円形であった。井戸の深さは1.0ｍまで確認できたが、壁面の崩落の恐れから底面の検出は行えなかった。

古墳の墳丘を削って構築されていた。おそらく中世の井戸であろう。

第14号井戸跡

掘り方の形状は、円形であった。底面は丸みを帯び、断面の形状は筒形であった。

古墳の墳丘を削って構築されていた。この井戸を構築した時点では、墳丘はまだ相当残っていたと考えられる。

第15号井戸跡

掘り方の形状は、円形であった。底面は平坦で断面の形状は、やや上に開いた筒形であった。

遺構の重複関係は確認できなかった。２号墳と５号墳の狭間に築かれており、中世の井戸と判断した。

第16号井戸跡

掘り方の形状は、楕円形であった。底面は丸みを帯び断面の形状は、漏斗状であった。

低地部につくられた井戸である。周囲に遺構はなく、単独であった。

第17号井戸跡

掘り方の形状は、円形であった。底面は平坦で、断面の形状は筒形であった。

第18号井戸跡

掘り方の形状は、円形であった。底面は平坦で、断面の形状は筒形であった。

構築方法は、確認面下から1.16ｍまで垂直に掘り下げ、井戸枠を設置していた。井戸枠と掘り方との隙間は、暗灰褐色土を主体とした第３～５層で埋めていた。

井戸枠は、竹を編んで筒状にしていた。規模は径0.88ｍであった。

底面には、曲物が置かれた状態で出土した。

遺構の重複関係は確認できないが、中世の井戸と判断した。

第19号井戸跡

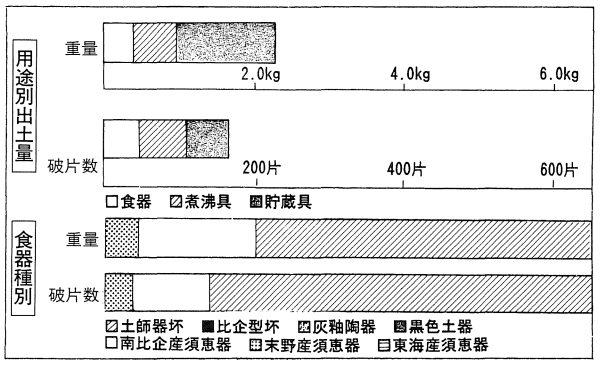
掘り方の形状は楕円形であった。断面の形状は擂り鉢状であった。

遺構の切り合い関係は、第124号溝跡より新しい。中世の井戸と判断した。

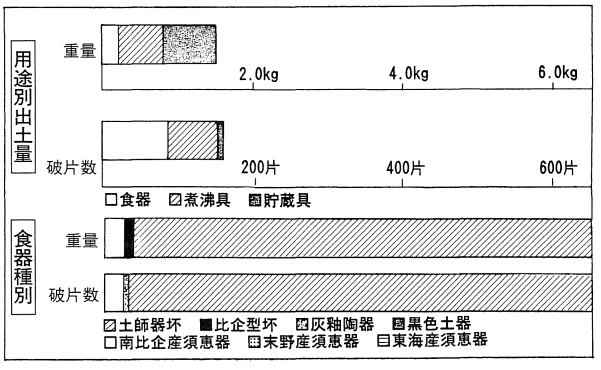
第20号井戸跡

掘り方の形状は円形であった。底面は平坦で断面の形状は、漏斗状であった。

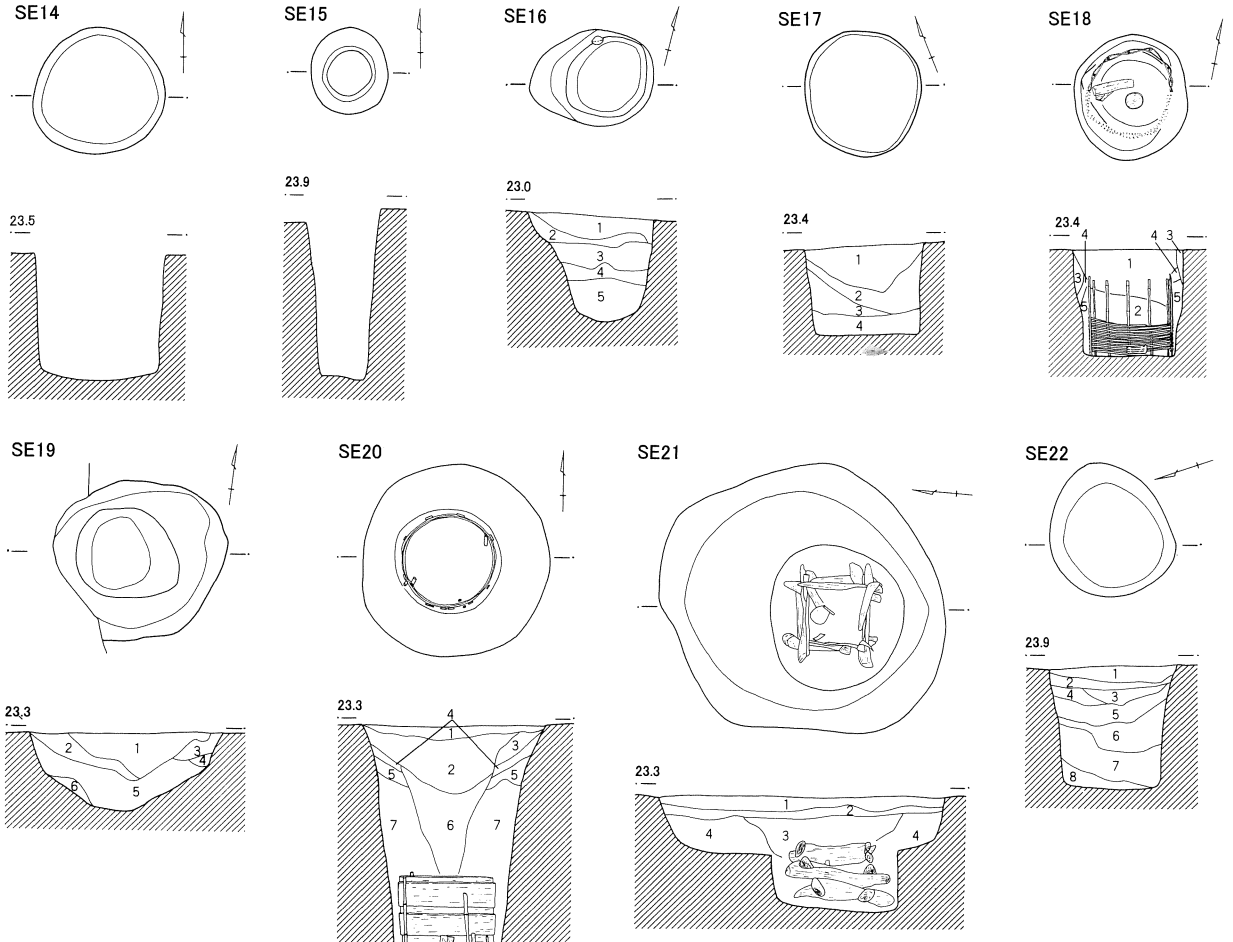
構築方法は、確認面下2.72ｍまで漏斗状に掘り下げていた。井戸枠は底面から確認面下1.6ｍまで設置していた。井戸枠と掘り方との隙間は、粘土質で充塡していた。



第447図　第12号井戸跡覆土中遺物データ



第448図　第16号井戸跡覆土中遺物データ



第16号井戸跡
1　褐色土　白色粒子少量
2　暗褐色土　黒色ブロック　白色粒子多量
3　暗褐色土　白色粒子ブロック含む
4　暗青灰色土　黒色ブロック含む
5　暗青灰色土　黒色ブロック少量

第17号井戸跡
1　緑灰色シルトブロックが集積する層　暗褐色土含む　埋め戻し
2　暗褐色土　粘質土　緑灰色粘土ブロック（10 ㎜）含む　炭化物含む
3　青灰色粘土ブロック・暗灰褐色粘土ブロック含む
4　3に同じ　暗灰褐色粘土微量

第18号井戸跡
1　暗灰褐色土　黄色粒子多量　粒子粗い　埋土
2　青灰色土　粘質土　上部では1層含む　粘性強い　投棄された礫混入
3　淡褐色土　地山の崩落土
4　暗灰褐色土　黄色粒子多量　1層よりも灰色　粘性強い
5　青灰色土　2層と近似するが　黄色粒子多量　2層より粘性弱い

第19号井戸跡
1　暗褐色土　砂質土・粗砂含む　炭化物・灰色粘土ブロック（10㎜以下）多量
2　暗褐色土　粗砂・炭化物含む
3　暗灰褐色土　炭化物微量　粘性あり
4　暗灰褐色土　灰色粘土ブロック（5㎜）多量　粘性あり
5　暗灰褐色土　灰色粘土ブロック（50 ㎜）・炭化物・粗砂含む
6　暗灰褐色土　灰色粘土ブロック含む　壁崩落土

第20号井戸跡
1　暗灰褐色土　炭化物少量
2　暗褐色土　灰・炭化物多量　灰白色ブロック含む　埋め戻し
3　暗褐色土　灰白色細砂ブロック含む　埋め戻し
4　暗灰褐色土　灰白色細砂粒子少量　埋め戻し
5　暗黄褐色土　6層より粒子粗い砂粒子主体　埋め戻し
6　青灰色土　粘質土　有機物含む　粘性強い
7　暗灰褐色土　青灰色粘土・暗黄褐色土含む　埋め戻し

第21号井戸跡
1　黒色土　焼土粒子少量
2　黒色土　鉄分多量
3　黒色土　黄褐色粒子少量
4　黒褐色土　黄褐色ブロック多量

第22号井戸跡
1　暗灰褐色土　黄褐色シルトブロック・炭化物少量
2　暗灰褐色土　炭化物粒子少量
3　灰褐色土　黄褐色シルトブロック少量
4　灰褐色土　炭化物・黄褐色シルトブロック少量
5　暗灰褐色土　黄褐色シルトブロック少量
6　黒褐色土　黄褐色シルトブロック多量
7　灰褐色土　黄褐色シルトブロック多量
8　明褐色土　黄褐色シルトブロック少量

第23号井戸跡
1　黒色土　青灰色粘土ブロック少量　しまり弱い　粘性強い
2　暗青灰色土　黒色土ブロック（10 ㎜）少量　しまり弱い　粘性強い
3　暗青灰色土　青灰色粘土ブロック（50 ㎜）多量　しまり弱い　粘性強い
4　暗灰褐灰色　青灰色粘土ブロック（10 ㎜）少量　しまり弱い　粘性強い
5　青灰色　黒色ブロック（10㎜）・炭化物少量　しまり弱い　粘性強い
6　黒灰色　粘質土・青灰色シルト多量　しまり弱い　粘性強い
7　暗青灰色　粘質土・青灰色シルト少量　しまり弱い　粘性強い
8　暗青灰色　粘質土・青灰色シルト少量　炭化物多量　しまり弱い　粘性強い

0　2 m
1:80

第449図　井戸跡(2)

井戸枠は、曲物を使用していた。井戸枠の３ヶ所を、外側と内側から竹で支えていた。規模は径1.0ｍであった。

遺構の重複はみられないが、中世の井戸と判断した。

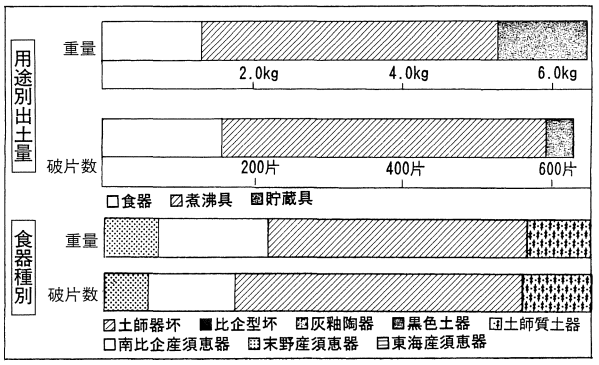
第21号井戸跡

掘り方の形状は円形であった。底面は平坦で断面の形状は、漏斗状であった。

構築方法は、確認面下0.6ｍまで地山を漏斗状に掘り下げ平坦面を造った後、井戸枠より一回り大きく垂直に掘り下げていた。井戸枠は底面から平坦面まで設置していた。井戸枠と掘り方との隙間は、黄褐色土を含む黒褐色土主体の第４層で埋めていた。

井戸枠は、丸太を方形に組んで、樹皮の紐で結び止めていた。規模は径0.6ｍであった。

遺構の切り合い関係はみられなかった。覆土中から多量の９世紀代の土器が出土しており、平安時代の井戸と判断した。



第450図　第21号井戸跡覆土中遺物データ

第22号井戸跡

掘り方の形状は円形であった。底面は平坦で断面の形状は、筒形であった。

遺構の切り合い関係はなかった。古代の井戸と判断した。

第23号井戸跡

井戸跡の上部は、第125号溝跡に破壊されていた。掘り方の形状は楕円形であった。

構築方法は、確認面下1.14ｍまで漏斗状に掘り下げ平坦面を造った後、さらに一回り小さく漏斗状に掘り下げていた。

遺構の切り合い関係は、第125号溝跡より古い。平安時代の井戸と判断した。

第24号井戸跡

掘り方の形状は円形であった。底面は平坦で、断面の形状は漏斗状であった。

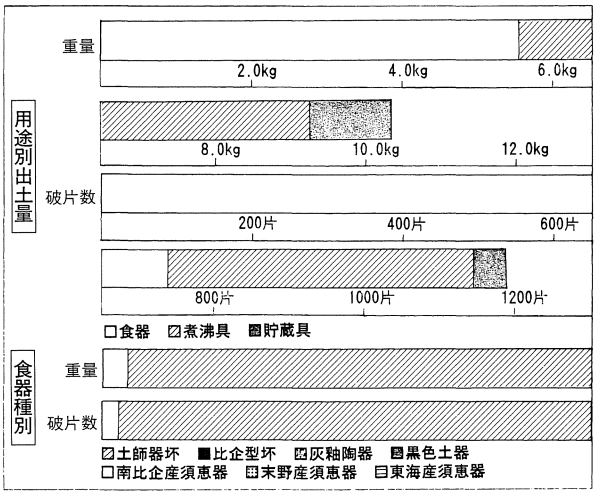
覆土は、第１～３層の間にそれぞれ炭化物が堆積していた。

第108号土壙・第142号溝跡よりも新しい。古代の井戸と判断した。

第25号井戸跡

掘り方の形状は、不整円形であった。井戸の深さは0.87ｍまで確認できたが、湧水が激しく、底面の検出は行えなかった。

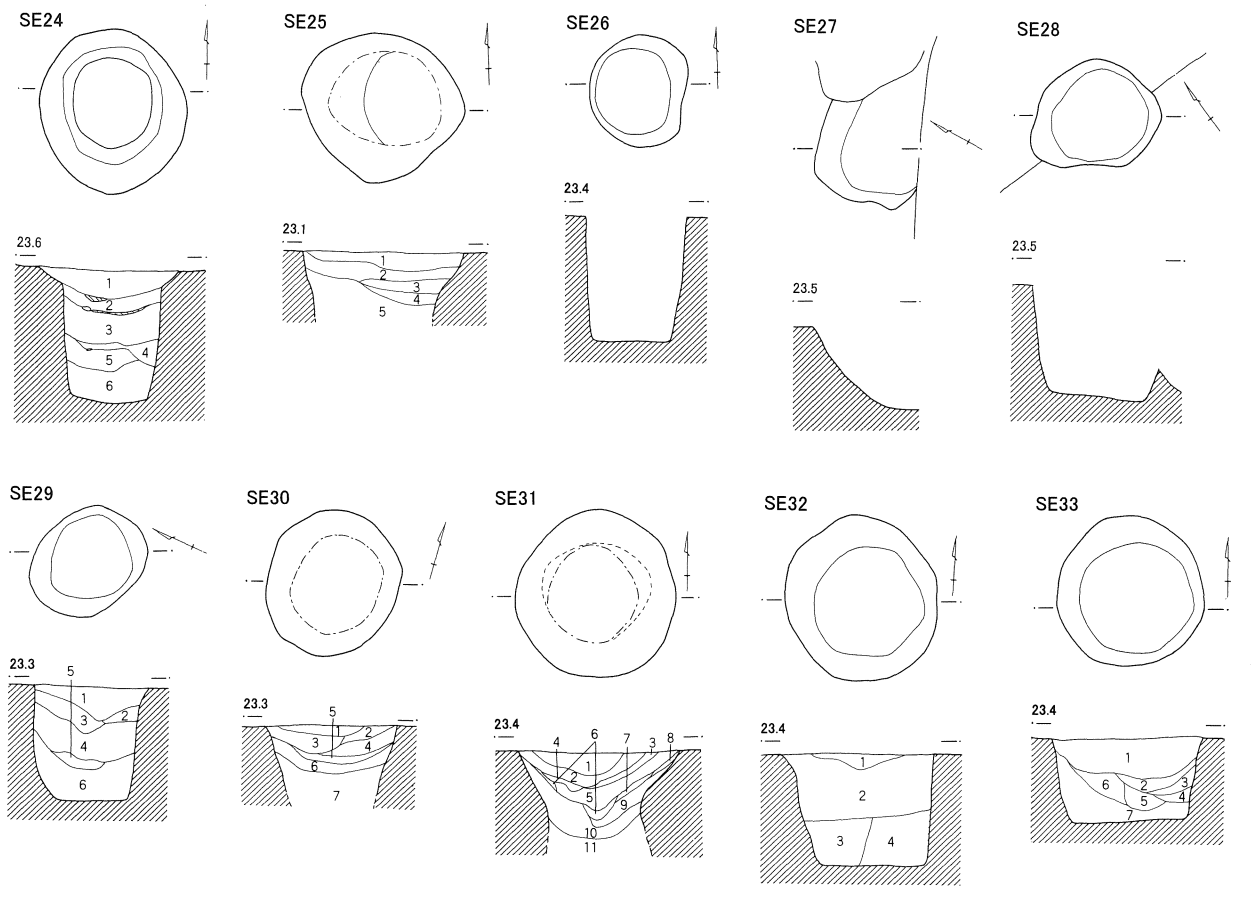
低地部につくられた井戸で、周囲に関連する遺構がみられない。



第451図　第25号井戸跡覆土中遺物データ

第26号井戸跡

掘り方の形状は、円形であった。底面は平坦で、断面の形状は、筒形であった。



第24号井戸跡
1　暗褐色土　黄灰色粒子（1～2㎜）少量　炭化物含む
2　暗褐色土　黄灰色ブロック（3～5㎜）・焼土・炭化物含む
3　暗褐色土　黄灰色ブロック（10㎜）含む　粘性強い
4　暗褐色土　黄灰色ブロック（10㎜）・有機物含む　粘性弱い
5　褐灰色土　青灰色粘土ブロック（5㎜）含む　粘性強い
6　黒灰色土　青灰色粘土ブロック（20～30㎜）多量

第25号井戸跡
1　灰褐色土　粘質土　砂質ブロック多量　炭化物含む
2　暗灰褐色土　細砂含む　炭化物微量
3　暗灰褐色土　細砂ブロック含む
4　暗褐色土　粘土・細砂ブロック含む　炭化物多量

第29号井戸跡
1　淡褐色土　砂質土　暗褐色ブロック含む
2　淡灰褐色土　暗褐色ブロック含む
3　淡黄褐色土　暗褐色ブロック含む
4　灰青色粘土　粘質土
5　青灰色粘土　粘質土
6　暗青灰色土　粘質土

第30号井戸跡
1　暗褐色土　浅間Ｂ火山灰・炭化物多量
2　暗灰褐色土　炭化物微量
3　暗褐色土　炭化物微量　灰褐色粘土ブロック（10㎜）微量
4　灰色粘土ブロック（50～100㎜）・暗灰褐色粘土ブロック（50～100㎜）含む　炭化物多量
5　炭・灰層　焼土粒子微量
6　暗灰褐色土　炭化物・焼土粒子・粘質土灰色粘土ブロック（30㎜）微量　粗砂含む
7　暗灰褐色土　粘質土　6に比べやや青味が強い　粗砂・炭化物含む

第31号井戸跡
1　炭化物・灰層　焼土粒子微量
2　炭化物・灰・暗灰褐色粘土
3　2に同じ　焼土粒子多量
4　暗灰色土　粘質土　灰多量　焼土粒子　炭化物微量
5　灰・炭化物・焼土の互層
6　暗灰色土　粘質土・粗砂含む
7　暗灰色土　粘質土　灰・炭化物微量
8　暗灰褐色土　焼土ブロック含む
9　暗灰褐色土　粘質土　粗砂微量
10　暗灰褐色土　灰色粘土ブロック（50㎜）微量
11　暗灰褐色土　粘質土　青灰色粘質土ブロック（10㎜）微量

第32号井戸跡
1　暗褐色砂質土　粗砂・炭化物・灰色粘土ブロック（5㎜）含む
2　暗灰褐色土　鉄多量　粗砂・炭化物微量
3　暗灰褐色　粘質土　炭化物微量
4　青灰色粘土　炭化物・暗褐色ブロック含む

第33号井戸跡
1　暗褐色土　浅間Ｂ火山灰多量　炭化物・焼土粒子・黄褐色土粒子（10㎜）含む
2　暗灰褐色土　炭化物微量
3　灰黄褐色土　灰色粘土ブロック（30㎜）含む
4　灰黄褐色土　粗砂多量　灰色粘土ブロック微量
5　暗灰褐色土　灰色粘土ブロック（50㎜）・炭化物含む
6　灰褐色粘土ブロック　暗褐色粘土微量
7　暗灰褐色粘土　灰褐色粘土ブロック含む

第34号井戸跡
1　暗褐色土　黄褐色粘土粒子（0.5～1㎜）まばら　炭化物少量
2　暗褐色土　黄褐色粘土粒子（0.5～1㎜）・黄褐色粘土ブロック（10㎜）少量
3　暗褐色土　黄灰色粘土ブロック（3～5㎜）含む
4　暗褐色土　黄灰色粘土粒子（2～3㎜）少量
5　暗褐色土　黄褐色粘土ブロック（30㎜）含む
6　褐色土　青灰色粘土粒子（1～2㎜）少量
7　褐色土　黄褐色粘土ブロック（10～30㎝）多量
8　暗褐灰色土　青灰色粘土ブロック（2～3㎜）含む
9　褐灰色土　灰白色粘土ブロック（10㎜）多量
10　暗緑灰色土　明青灰色粘土ブロック（5～8㎜）まばら
11　暗褐色土　明青灰色粘土ブロック（2～5㎜）多量
12　緑灰色土　暗褐色土含む
13　黒灰色土　緑灰色シルトブロック（10㎜）少量
14　暗褐色土　10より暗い　明青灰色砂ブロック含む
15　暗褐色土　14より暗い　明青灰色砂ブロック含む

第452図　井戸跡(3)

第27・28・29号井戸跡と、まとまって井戸が掘られており、恒常的な水場であったと考えられる。中世の井戸と判断した。

第27号井戸跡

井戸跡の大半を第28号井戸跡と第148号溝跡に切られるため、形状など全容は不明であった。

素掘りの井戸である。中世の井戸と判断した。

第28号井戸跡

井戸跡の南側を第148号溝跡に切られていた。掘り方の形状は、不整円形であった。底面は平坦で断面の形状は、やや上に開いた筒形であった。

遺構の切り合い関係は、第148号溝跡より古く、第27号井戸跡より新しかった。

中世の井戸と判断した。

第29号井戸跡

掘り方の形状は、楕円形であった。底面は平坦で、断面の形状は、筒形であった。

第148号溝跡より古かった。中世の井戸と判断した。

第30号井戸跡

掘り方の形状は、円形であった。井戸の深さは0.88ｍまで確認できたが、湧水が激しく底面の検出は、行えなかった。

古墳の墳丘上につくられた井戸である。小形の古墳のため、井戸を構築した段階には、削平されていた可能性がある。

第31号井戸跡

掘り方の形状は、円形であった。井戸の深さは1.10ｍまで確認できたが、湧水が激しく、底面の検出は行えなかった。

第１～５層は、炭化物・灰・焼土を主体としていた。

遺構の重複は、確認できなかった。

第32号井戸跡

掘り方の形状は、円形であった。底面は、平坦で断面の形状は、やや上に開く筒形であった。

遺構の重複は確認できなかった。ただし第148号跡が、井戸の北側でクランク状に曲がるため、第148号溝跡と同時期と判断した。中世の井戸である。

第33号井戸跡

掘り方の形状は、円形であった。底面は、平坦で断面の形状は、筒形であった。

古墳の墳丘上につくられた井戸である。小形の古墳のため、井戸を構築した段階には削平されていたと考えられる。中世の井戸である。

第34号井戸跡

掘り方の形状は、円形であった。底面はやや丸みを帯びていた。

構築方法は、確認面下1.32ｍまで漏斗状に掘り下げた後、さらに一回り小さく漏斗状に掘り下げていた。

遺構の明確な切り合い関係は、明らかにできなかった。古代の井戸である。

第35号井戸跡

掘り方の形状は、円形であった。底面は、平坦で断面の形状は、漏斗状であった。

遺構の切り合い関係は、みられなかった。古代の井戸である。

第36号井戸跡

掘り方の形状は、円形であった。井戸の深さは1.21ｍまで確認できたが、湧水が激しく、底面の検出は行えなかった。

遺構の切り合い関係は、みられなかった。古代の井戸である。

第37号井戸跡

掘り方の形状は、円形であった。井戸の深さは、0.85ｍまで確認できたが、湧水が激しく、底面の検出は行えなかった。

第20号掘立柱建物跡よりも新しい。古代の井戸と判断した。

第38号井戸跡

掘り方の形状は、円形であった。底面は、平坦で断面の形状は、漏斗状であった。

底面に曲げ物を検出した。

第214号土壙よりも新しい。小形の井戸である。中世の井戸である。

第39号井戸跡

掘り方の形状は、円形であった。底面は、平坦で断面の形状は、漏斗状であった。

周辺には、柱穴群がみられず、あるいは、第21号掘立柱建物跡が、覆い屋であった可能性もある。

第40号井戸跡

掘り方の形状は、不整円形であった。井戸の深さは、0.76ｍまで確認できたが、湧水が激しく、底面の検出は行えなかった。

第２～４層からは、火葬骨と思われる骨片が出土した。

第143号住居跡・第36号掘立柱建物跡よりも新しい。覆土にしまりがなく軟質であった。中世の井戸と判断した。

第41号井戸跡

掘り方の形状は、円形であった。底面は、丸く断面の形状は、筒形であった。

底面から曲げ物が出土した。

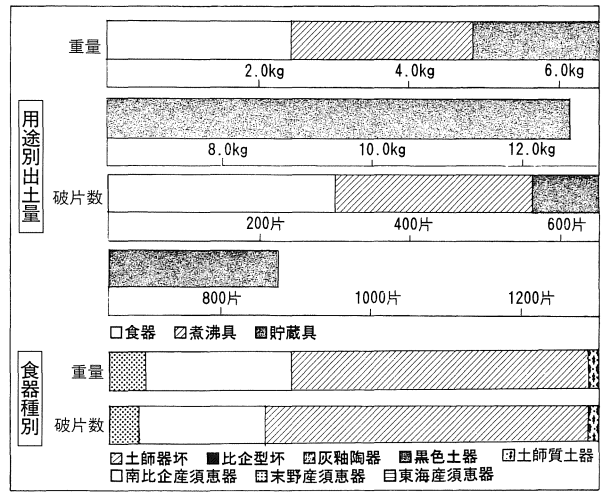
遺構の重複は、みられない。中世の井戸と判断した。

第42号井戸跡

掘り方の形状は、円形であった。掘り方の底面は丸く断面は漏斗状となる。当初は、第36号掘立柱建物跡の基盤を堅緻にするために行われた地業（整地層）と判断し、覆土をはがしてしまった。その後、第42号井戸跡を人為的に埋没させた後に、第36号掘立柱建物の基礎を堅緻にするために行った地業とわかった。井戸枠には、丸太材の二辺を削り、桁材とした粗々しい部材を、井桁としていた。

なお中世の井戸跡と判断した第43・44号井戸跡が第42号井戸跡の大半を破壊していたため、大変調査に手間取った。

遺構の重複は、第43・44号井戸跡・第36号掘立柱建物跡よりも古い。



第453図　第42号井戸跡覆土中遺物データ

第43号井戸跡

掘り方の形状は楕円形であった。底面は、平坦であった。

構築方法は、確認面から1.26ｍまで漏斗状に掘り下げ平坦面を造った後、さらに垂直に掘り下げていた。

内部に井戸枠を残していた。四隅に材を立て、四壁に竹を立て壁面とし、横桟をわたしていた。中世の井戸である。

第44号井戸跡

掘り方の形状は、円形であった。

構築方法は、確認面から1.18ｍまで掘り下げ平坦面を造り、もう一段掘り下げて小さい平坦面を造っていた。さらに一回り小さく垂直に掘り下げていた。底面から２段目の平坦面にかけては、井戸枠と思われる束ねた竹の一部が出土した。

第43号井戸よりも新しい。覆土は、粘性の大変強い黒色土であった。中世の井戸である。

第45号井戸跡

掘り方の形状は楕円形であった。井戸の深さは0.98ｍまで確認できたが、湧水が激しく、底面の検出は行えなかった。

第87号溝跡よりも新しい。覆土は、黒色土の単純な層であった。中世の井戸である。

第46号井戸跡

掘り方の形状は、楕円形であった。底面は、丸みを帯び断面の形状は、漏斗状であった。

第87号溝跡よりも新しい。覆土は黒色土の単純な層であった。中世の井戸である。

第47号井戸跡

掘り方の形状は、円形であった。井戸の深さは、1.29ｍまで確認できたが、湧水が激しく底面の検出は行えなかった。

第161号住居跡よりも新しい。覆土は、黒色土に黄褐色ブロックが混じっていた。中世の井戸である。

第48号井戸跡

掘り方の形状は、円形であった。井戸の深さは1.46ｍまで確認できたが、湧水が激しく底面の検出は行えなかった。

周囲に遺構を確認することができなかった。中世の井戸と判断した。

第49号井戸跡

掘り方の形状は、円形であった。井戸の深さは1.30ｍまで確認できたが、湧水が激しく底面の検出は行えなかった。

重複関係のある遺構は認められなかった。中世の井戸と判断した。

第50号井戸跡

掘り方の形状は、円形であった。底面は、弱いＶ字で断面の形状は、いびつな筒形であった。

遺構の切り合い関係は、第52号井戸跡より新しかった。中世の井戸と判断した。

第51号井戸跡

掘り方の形状は、円形であった。

構築方法は、確認面から1.28ｍまで垂直に掘り込み、小さな平坦面を造った後、さらに漏斗状に掘りさげていた。底面から平坦面まで井戸枠を設置し、青灰色土を主体とした第３～５層で掘り方との隙間を埋めていた。

井戸枠は、竹を筒状に編んだものを使用していた。縦棒の４ヶ所は、竹ではなく木の棒を使用していた。規模は径1.04ｍであった。井戸枠の底には、曲物が置かれていた。

平坦面に杭の痕跡（第２層）を確認した。

第164・180号住居跡よりも新しい。中世の井戸である。

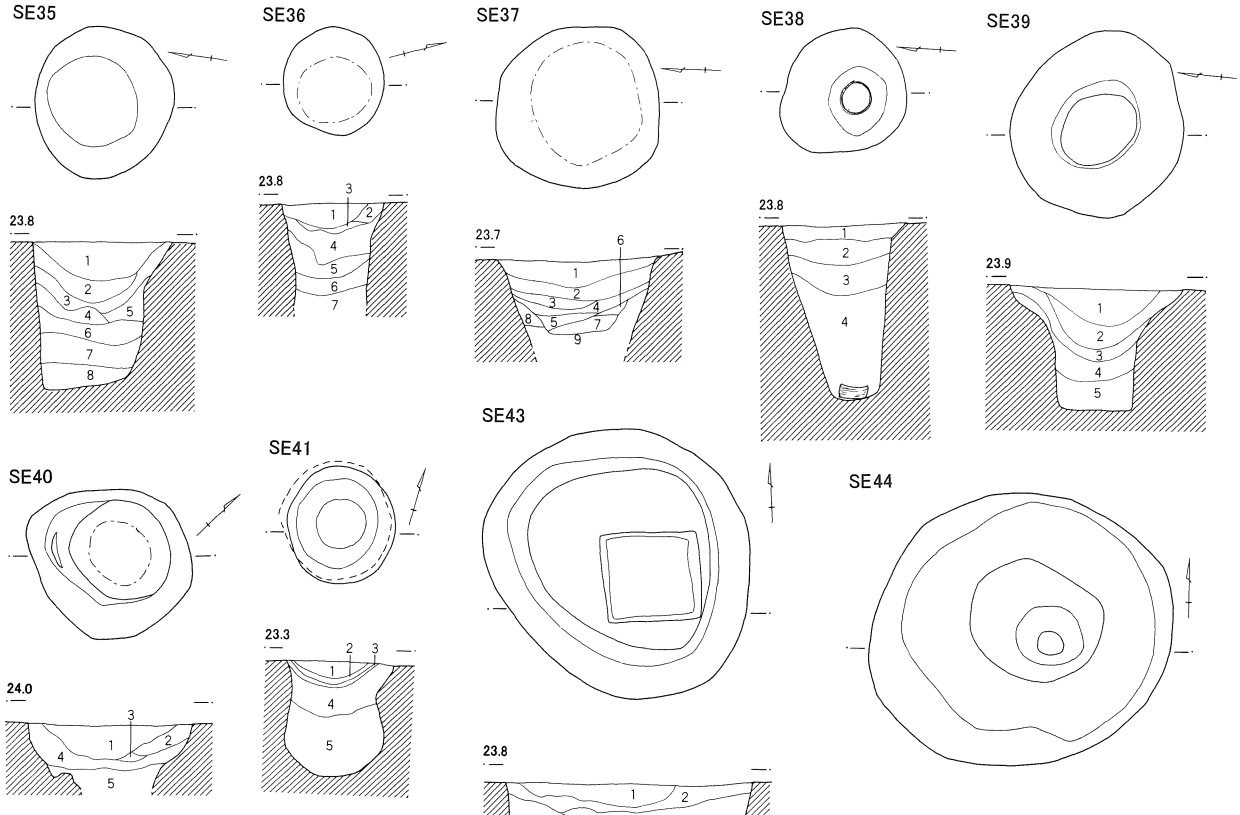
第52号井戸跡

掘り方の形状は、円形であった。井戸の深さは、1.46ｍまで確認できた。しかし湧水が激しく、底面の検出は行えなかった。

遺構の切り合い関係は、第50号井戸跡より古かった。中世の井戸と判断した。

第53号井戸跡

掘り方の形状は、円形であった。井戸の深さは、



第35号井戸跡
1　暗褐色土　黄褐色粘土ブロック（2～3㎜）少量
2　暗褐色土　黄褐色粘土ブロック（5～8㎜）多量
3　黒褐色土　黄褐色粘土ブロック（5～8㎜）・炭化物（5～8㎜）少量
4　褐色土　青灰色粘土ブロック・褐色土含む
5　黒褐色土　黄褐色粘土ブロック（3～5㎜）・炭化物（5～8㎜）多量
6　暗褐色土　青灰色粘土ブロック・炭化物多量
7　黒灰色土　青灰色シルトブロック（10㎜）多量
8　褐灰色土　青灰色シルトブロック（50㎜）多量

第36号井戸跡
1　暗褐色土　焼土・炭化物粒子・黄褐色粘土ブロック（2～3㎜）少量
2　暗褐色土　焼土・炭化物粒子少量　黄褐色粘土ブロック（5～8㎜）含む
3　黒色土　炭化物多量　黄褐色粘土ブロック（3～5㎜）少量
4　暗褐色土　黄褐色粘土ブロック（30～50㎜）多量　埋め戻し
5　暗褐色土　灰白色粘土ブロック（30～50㎜）多量　埋め戻し
6　褐灰色土　灰白色粘土ブロック（5～8㎜）・炭化物まばら
7　淡緑灰色土　粘質土　腐殖土・黒色土含む　粘性強い

第37号井戸跡
1　黒褐色土　炭化物・粘土粒子少量　粘土ブロック（40㎜）多量　しまり・粘性強い
2　暗褐色土　炭化物・粘土粒子少量　粘土ブロック（100㎜）多量　しまり・粘性強い
3　暗褐色土　炭化物・粘土粒子少量　粘土ブロック（100㎜）多量　しまり・粘性強い
4　黒褐色土　炭化物・粘土粒子少量　粘土ブロック（30㎜）多量　しまり・粘性強い
5　暗褐色土　炭化物少量　粘土粒子多量　粘土ブロック（10㎜）多量　しまり・粘性強い
6　黒褐色土　炭化物少量　粘土粒子多量　粘土ブロック（5㎜）少量　しまり・粘性強い
7　黒褐色土　炭化物少量　粘土粒子多量　粘土ブロック（20㎜）多量　しまり・粘性強い
8　暗褐色土　炭化物・粘土粒子少量　しまり・粘性強い
9　青灰色土　粘土粒子・粘土ブロック（10㎜）少量　しまり・粘性強い

第38号井戸跡
1　黒褐色土　焼土粒子・炭化粒子含む　しまり弱い
2　黒色土　粘土粒子・粘土ブロック含む
3　黒灰色土　粘土粒子・粘土ブロック多量
4　黒褐色土　炭化粒子多量　しまり・粘性あり

第39号井戸跡
1　黒褐色土　黄褐色粘土粒子（1～2㎜）まばら　焼土炭化物（2～3㎜）含む　しまりなし
2　黒色土　黄褐色粘土粒子（2～3㎜）まばら　炭化物多量　粘性強い
3　黒灰色土　黄灰色粘土ブロック（5～8㎜）多量　粘性強い
4　黒褐色土　黄褐色粘土ブロック（3～5㎜）まばら　しまりなし　粘性あり
5　暗褐灰色土　炭化物（3～5㎜）多量　しまりなし　粘性あり

第40号井戸跡
1　暗褐色土　黄灰色粘土粒子（1㎜）・焼土ブロック（2～3㎜）・炭化物（2～3㎜）少量
2　暗褐色土　黄灰色粘土ブロック（3～5㎜）多量　炭化物（2～3㎜）少量
3　暗褐色土　黄灰色粘土ブロック（30～50㎜）・炭化物多量
4　暗褐色土　黄灰色粘土ブロック（2～3㎜）多量　炭化物（3～5㎜）少量
5　暗褐色土　黄灰色粘土ブロック（3～5㎜）まばら　種子多量

第41号井戸跡
1　暗褐色土　灰黄褐色粘土粒子（10㎜）多量
2　炭化物・灰・灰褐色粘土含む
3　灰褐色土　粘質土
4　暗灰褐色　粘質土　灰黄褐色土ブロック（10㎜）微量
5　暗灰褐色　粘質土　4層より明るい　礫含む

第43号井戸跡
1　黒褐色土　黄褐色粘土ブロック（2～10㎜）多量
2　黒褐色土　暗褐色土含む　黄褐色粘土ブロック（30～50㎜）多量
3　暗褐色土　黄褐色粘土ブロック（10～30㎜）多量
4　黄褐色土　黄褐色粘土多量　黒色土含む
5　黒褐色土　黄褐色粘土ブロック（1～3㎜）多量
6　褐灰色土　青灰色粘土ブロック（3～10㎜）多量
7　暗褐色土　青灰色粘土ブロック（3～5㎜）少量
8　暗褐色土　青灰色粘土ブロック（3～10㎜）少量
9　黒色土　緑灰色粘土ブロック少量
10　黒色土　緑灰色粘土ブロック（10㎜）多量　しまりなし

第44号井戸跡
1　暗褐色土　浅間Ｂ火山灰含む　黄褐色粘土ブロック（3～50㎜）まばら
2　暗褐色土　黄褐色粘土ブロック（3～5㎜）含む
3　暗褐色土　黄褐色粘土ブロック（3～50㎜）多量
4　暗褐色土　黄褐色粘土粒子（2～3㎜）・黄褐色ブロック（3～5㎜）多量
5　暗褐色土　炭化物含む　黄褐色粘土粒子（2～3㎜）・黄褐色粘土ブロック（3～5㎜）多量
6　暗褐色土　黄褐色粒子（2～3㎜）まばら　焼土（2～3㎜）少量
7　黒褐色土　黄灰色粘土ブロック（5～8㎜）まばら
8　黒褐色土　黄褐色粘土ブロック（3～30㎜）多量　埋め戻し
9　黒褐色土　黄褐色粘土ブロック（10～20㎜）まばら埋め戻し
10　黒灰色土　灰白色シルトブロック（10～20㎜）多量
11　暗緑灰色土　青灰色シルトブロック（3～5㎜）少量
12　暗緑灰色土　黄褐色粘土ブロックまばら　しまり強い
13　黒灰色土　緑灰色シルトブロック（8～10㎜）少量
14　暗緑灰色土　青灰色シルトブロックまばら

0　2m
1:80

第454図　井戸跡(4)

0.76ｍまで確認できたが、湧水が激しく底面の確認は行えなかった。

第54号井戸跡

掘り方の形状は、円形であった。底面は、平坦で断面の形状は筒形であった。

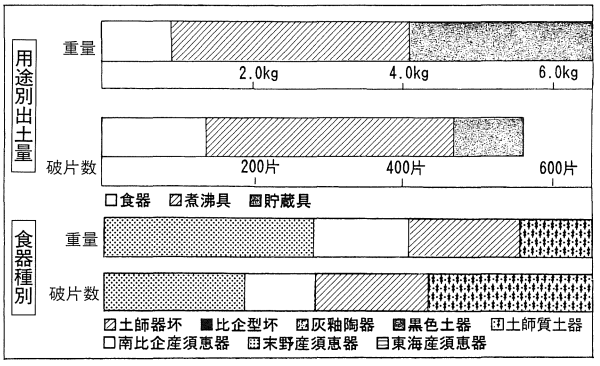
第42号掘立柱建物跡よりも古い。古代の井戸か。

第55号井戸跡

掘り方の形状は、円形であった。井戸の深さは、2.38ｍまで確認できたが、壁面崩落の恐れから底面の検出は、行えなかった。

構築方法は、確認面から1.4ｍまで垂直に掘り下げて平坦面を造った後、さらに垂直に掘り下げて井戸枠を設置した。井戸枠の一部と思われる木材が出土した。

周辺に重複遺構は、みられなかった。中世の井戸と判断した。



第455図　第55号井戸跡覆土中遺物データ

第56号井戸跡

掘り方の形状は、円形であった。底面は、平坦で断面の形状は、筒形であった。

周辺に重複遺構はみられなかった。中世の井戸と判断した。

第57号井戸跡

掘り方の形状は、円形であった。底面は丸みを帯びていた。

構築方法は、確認面から1.28ｍまで漏斗状に掘り下げ、小さな平坦面を造り、さらに一回り小さく掘り下げていた。底面近くには、井筒と思われる曲物？を検出した。

周辺に重複遺構はみられなかった。中世の井戸と判断した。

第58号井戸跡

掘り方の形状は、円形であった。底面は、平坦で断面の形状は、やや上が開いた筒形であった。

篦？が出土した。

遺構の切り合い関係は、第60号溝より古かった。古代の井戸と判断した。

第59号井戸跡

掘り方の形状は、楕円形であった。底面は、平坦で断面の形状は、筒形であった。

第50号掘立柱建物跡より新しかった。中世の井戸と判断した。

第60号井戸跡

掘り方の形状は、円形であった。底面は、平坦で断面の形状は、筒形であった。

底面近くから井戸枠の一部である竹が出土した。

第184号住居跡よりも新しい。中世の井戸と判断した。

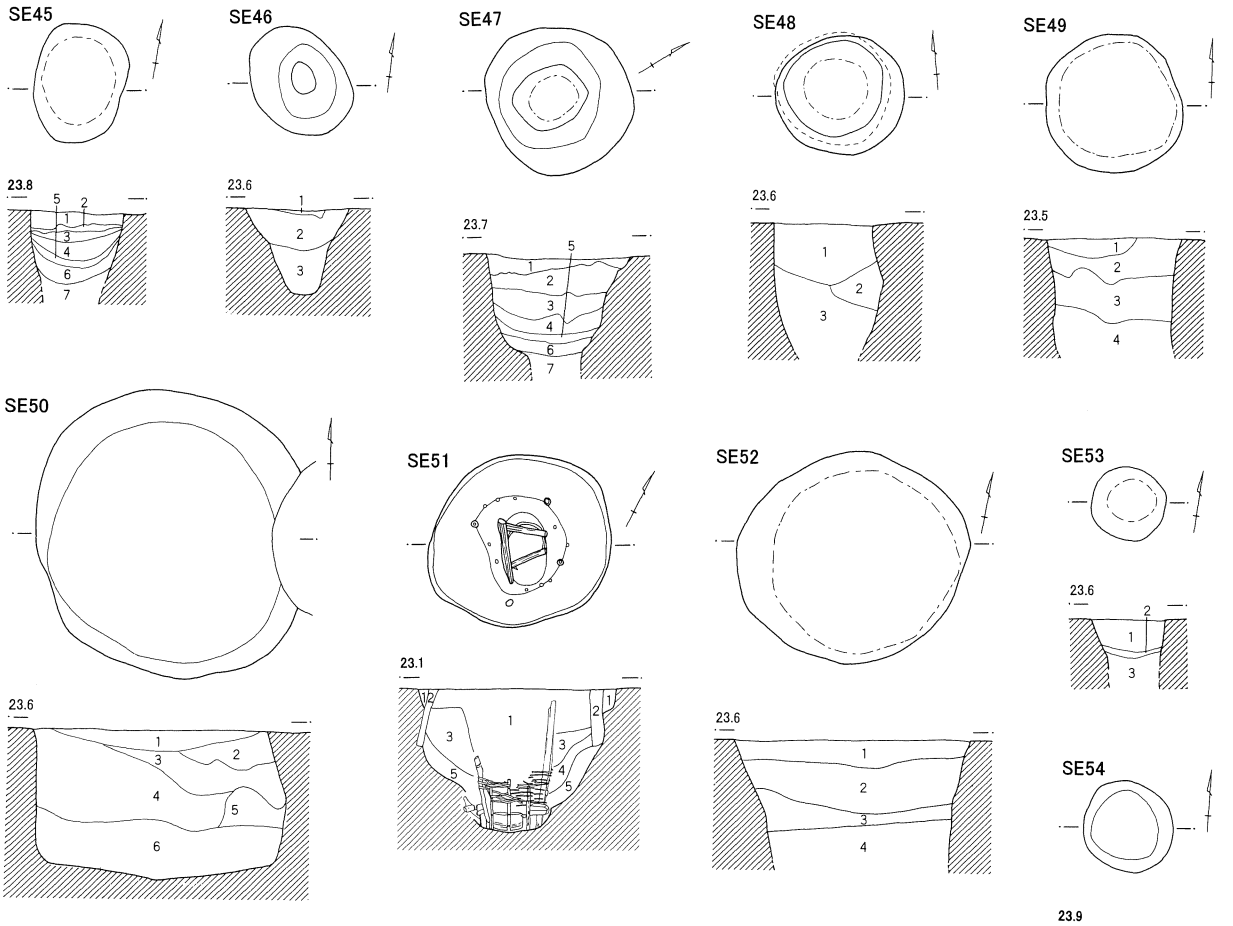
第61号井戸跡

掘り方の形状は、不整形であった。底面は丸みを帯び、断面の形状は、いびつな漏斗状であった。

第48号掘立柱建物跡よりも新しい。中世の井戸と判断した。

第62号井戸跡

掘り方の形状は、円形であった。井戸の深さは、0.72ｍまで確認できたが、湧水が激しく底部の検出は行えなかった。



第45号井戸跡
1　赤色土　黄褐色粒子微量　焼土多量　火山灰・炭化物含む　粒子粗い　粘性弱い
2　赤褐色土　黄褐色粒子微量　炭化物含む　粒子粗い　粘性弱い　しまりあり
3　灰白色土　黄褐色粒子・炭化物含む　粒子粗い
4　灰色土　黄褐色粒子・炭化物含む　粘性強い
5　灰白色土　黄褐色粒子・炭化物含む　粘性・しまり強い
6　灰色土　赤褐色粒子・炭化物含む　粘性・しまり強い
7　灰白色土　黄褐色粒子・茶褐色粒子含む　粘性強い

第46号井戸跡
1　黒灰色土　粒子細かい　灰黄色ブロック・　灰黄色粒子多量　焼土・火山灰・炭化粒子含む　粘性弱い
2　灰白色土　粒子細かい　黄褐色粒子少量　灰黄色ブロック・灰黄色粒子・焼土・炭化物粒子含む　粘性強い
3　灰白色土　粒子細かい　焼土・炭化物粒子・灰黄色粒子少量　しまり・粘性強い

第47号井戸跡
1　暗褐色土　黄褐色ブロック多量　火山灰・焼土微量　粘性弱い
2　暗褐色土　火山灰微量　粘性あり
3　暗灰褐色土　黄褐色ブロック含む　焼土微量　粘性強い
4　暗灰褐色土　黄褐色ブロック含む　青色粘土ブロック多量　粘性強い
5　灰褐色土　青色粘土ブロック多量　粘性強い
6　青色土　粘質土　砂含む　粘性強い
7　青色土　粘質土　砂含む　粘性強い

第48号井戸跡
1　暗褐色土　黄褐色土含む
2　灰褐色土　茨褐色砂質土含む
3　暗灰褐色土

第49号井戸跡
1　明灰褐色土　黄褐色ブロック多量
2　黄褐色土　砂質土　灰色粘土ブロック微量
3　灰褐色土　黄褐色土・黒色土ブロック含む
4　暗青灰色土　黒色ブロック含む

第50号井戸跡
1　暗褐色土　黄褐色土粒子含む
2　黄褐色土　黒色ブロックまばら
3　暗褐色土　黄褐色土含む
4　黄褐色土　砂質土　暗褐色土含む
5　黄褐色土
6　青灰色　砂質土　黒色ブロック含む

第51号井戸跡
1　暗褐色土　粘土ブロック（10㎜）・炭化物少量　しまり強い　粘性弱い
2　褐色土　杭痕
3　青灰色土　黒色ブロック含む
4　青灰色土　黒色ブロック少量
5　暗青灰色土　暗褐色土含む
6　黒褐色土　粘土ブロック（10㎜）少量　しまり強い　粘性強い
7　茶褐色土　鉄分多量　粘性強い
8　暗黄褐色土　砂粒子多量
9　暗褐色土　粘土ブロック（10㎜）少量　しまり強い　粘性強い
10　暗青灰色土　青灰色粘土ブロック（30㎜）多量　しまり強い　粘性強い

第52号井戸跡
1　暗褐色土　焼土粒子含む
2　黄褐色土・暗褐色土含む
3　暗褐色土　灰層　焼土含む
4　青灰色　砂質土　黒色土ブロック含む

第53号井戸跡
1　暗褐色土　浅間Ｂ火山灰まばら
2　黄褐色土
3　黒色土　黄褐色土ブロック少量

第54号井戸跡
1　黒褐色土　黄褐色粒子・焼土粒子含む　しまり弱い
2　黒褐色土　焼土粒子・黄褐色粒子含む
3　暗褐色土　黄褐色ブロック多量
4　暗褐色土　黄褐色ブロック含む　しまり弱い
5　黒褐色土　粘土粒子・焼土粒子含む　しまり弱い

0　2 m
1:80

第456図　井戸跡(5)

構築方法は、確認面から0.6ｍに径1.8ｍの円形に石を積み、掘り方との隙間を第１・２・６・８・９層で埋めていた。

遺構の重複は、みられなかった。中世の石組み井戸と判断した。

第63号井戸跡

掘り方の形状は、楕円形であった。底面は、平坦で断面の形状は、漏斗状であった。

遺構の重複は、みられなかった。中世の井戸と判断した。

第64号井戸跡

掘り方の形状は、楕円形であった。底面は、平坦で断面の形状は、筒形であった。

第187号溝跡よりも新しい。覆土は、黒色土の単純な土層であった。中世の井戸と判断した。

第65号井戸跡

掘り方の形状は、円形であった。底面は、丸みを帯び断面の形状は、漏斗状であった。

第183号溝跡よりも新しい。覆土は、黒色土の単純な土層であった。中世の井戸と判断した。

第66号井戸跡

掘り方の形状は、円形であった。底面は、平坦で断面の形状は、筒形であった。

第184号溝跡よりも新しい。覆土は、上部に黄褐色を含むが、黒色土の単純な土層であった。中世の井戸と判断した。

第67号井戸跡

掘り方の形状は、楕円形であった。井戸の深さは、1.38ｍまで確認できたが、湧水が激しく底面の検出は行えなかった。

遺構の切り合い関係は、第68号井戸跡より古かった。黒色土の単純な土層が埋めていた。中世の井戸と判断した。

第68号井戸跡

掘り方の形状は、円形であった。井戸の深さは、1.38ｍまで確認できたが、湧水が激しく底面の検出は、行えなかった。

遺構の切り合い関係は、第67号井戸跡より新しかった。黒色土の単純な土層が埋めていた。中世の井戸と判断した。

第69号井戸跡

掘り方の形状は、円形であった。井戸の深さは、1.52ｍまで確認できたが、湧水が激しく底面の検出は行えなかった。

井戸枠は、確認面から0.4ｍ下に確認した。竹と木材を方形に組んで使用していた。規模は、径0.8ｍであった。

第151号溝跡よりも新しかった。中世の井戸と判断した。

第70号井戸跡

掘り方の形状は円形であった。井戸の深さは、0.9ｍまで確認できたが、湧水が激しく、底面の検出は行えなかった。

第151号溝跡よりも新しかった。中世の井戸と判断した。

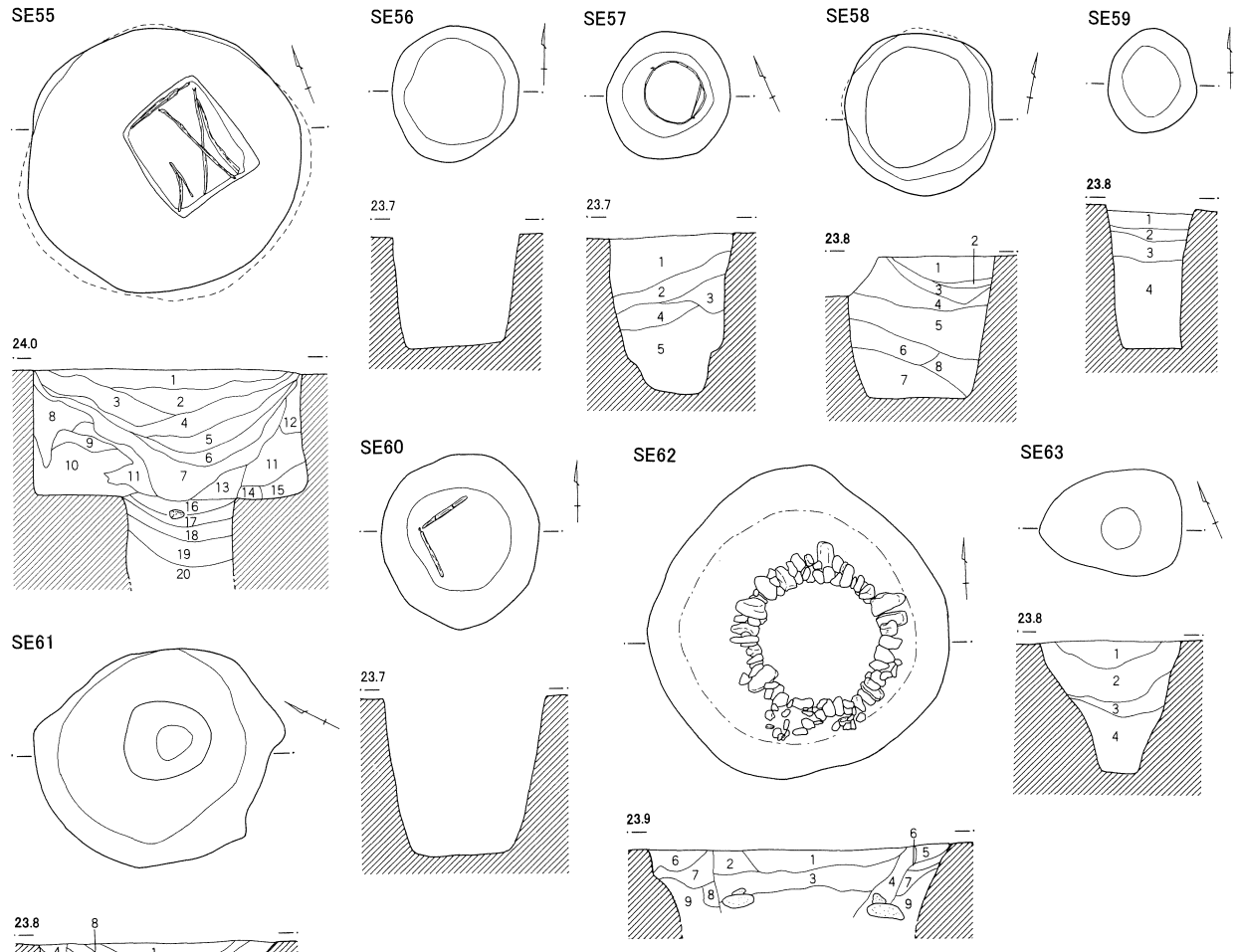
第71号井戸跡

掘り方の形状は、円形であった。底面は、丸く断面の形状は、漏斗状であった。

第206号溝跡よりも新しかった。中世の井戸と判断した。

第72号井戸跡

掘り方の形状は、楕円形であった。井戸の深さは、1.68ｍまで確認できたが、壁面の崩落の恐れから底面の検出は行えなかった。



第55号井戸跡
1　暗褐色土　黄褐色ブロック含む
2　暗褐色土　黄褐色ブロック含む
3　暗褐色土　黄褐色ブロック多量
4　暗褐色土　黄褐色ブロック多量
5　暗褐色土　黄褐色ブロック含む
6　暗褐色土　黄褐色粒子含む
7　暗褐色土
8　褐色土　炭化物含む　粘性強い
9　黒色土　粘性強い
10　黄褐色ブロック
11　黒色土　粘性強い
12　暗茶褐色土　炭化物粒子含む
13　黒色土　炭化物含む
14　黒色土　炭化物層
15　黄褐色ブロック
16　黒褐色土　緑灰色粘土ブロック（2～3㎜）まばら
17　暗緑灰色土　緑灰色粘土ブロック（8～10㎜）多量　粘土質
18　褐灰色土　緑灰色粘土ブロック（8～10㎜）まばら
19　暗緑灰色土　緑灰色粘土ブロック（10～20㎜）まばら　有機質多量
20　褐灰色土　緑灰色粘土ブロック（2～3㎜）

第57号井戸跡
1　暗褐色土　黄灰色粘土ブロック（10～50㎜）多量
2　暗褐色土　黄灰色粘土ブロック（30～10㎜）多量
3　暗褐色土　黄灰色粘土ブロック（80～100㎜）まばら
4　黒灰色土　緑灰色シルトブロック（3～5㎜）まばら
5　黒灰色土　緑灰色粘土ブロック（30㎜）多量　粘性強い　有機物多量

第58号井戸跡
1　暗褐色土　黄灰色粘土粒子（1～2㎜）・炭化物（2～3㎜）微量　浅間B火山灰含む
2　暗褐色土　黄灰色粘土ブロック（2～3㎜）微量
3　暗褐色土　黄褐色粘土ブロック（3～8㎜）多量
4　黒褐色土　黄灰色粘土ブロック（2～3㎜）まばら
5　黒褐色土　黄灰色粘土ブロック（5㎜～30㎜）多量　埋め戻し土
6　暗褐灰色土　緑灰色粘土ブロック（5～8㎜）まばら
7　暗褐灰色土　緑灰色粘土ブロック（1～3㎜）多量

第59号井戸跡
1　暗褐色土　黄灰色粘土ブロック（3～5㎜）まばら
2　暗褐色土　黄灰色粘土ブロック（3～5㎜）多量
3　暗褐色土　黄灰色粘土ブロック（10～30㎜）多量
4　褐灰色土　黄灰色粘土ブロック（10～30㎜）多量

第61号井戸跡
1　黒褐色土　焼土粒子微量
2　黒色土　有機物・炭化物含む
3　暗褐色土　黄褐色粒子・黄褐色ブロック含む　炭化粒子・焼土粒子含む
4　褐色土　焼土粒子微量
5　黄褐色土　粘土ブロック多量
6　黄褐色土
7　黄褐色土　粘土ブロック含む　焼土ブロック微量
8　黒色土　黄褐色ブロック少量　粘性強い

第62号井戸跡
1　暗褐色土　粘土ブロック（10㎜）多量
2　暗褐色土　粘土ブロック（20～30㎜）多量
3　黒褐色土　粘土ブロック（10㎜）少量　粘性強い
4　暗褐色土　粘土ブロック（30～50㎜）多量
5　暗黄褐色土　粘土ブロック（50㎜）多量　しまり強い
6　暗黄褐色土　粘質土（50㎜）黒色土少量　しまり強い
7　暗褐色土　粘土ブロック（30㎜）多量　炭化物少量　しまり強い
8　暗灰褐色土　粘質土　黒色土　しまり強い
9　暗灰褐色土　粘土ブロック（100㎜）含む　しまり強い

第63号井戸跡
1　褐色土　黄褐色粘土ブロック（3～5㎜）まばら　焼土少量
2　暗褐色土　黄褐色粘土ブロック（5～8㎜）まばら
3　褐色土　黄褐色粘土ブロック（30～50㎜）多量
4　褐色土　黄褐色粘土ブロック（10㎝）まばら

第64号井戸跡
1　暗褐色土　黄灰色粘土ブロック（2～3㎜）含む
2　黒褐色土　黄灰色粘土ブロック（10㎜）含む
3　黒褐色土　黄灰色粘土ブロック（50㎜）含む
4　黒灰色土　黄灰色粘土ブロック（3～10㎜）まばら

0　2m　1:80

第457図　井戸跡(6)

第206・233号溝跡よりも新しかった。中世の井戸と判断した。

第73号井戸跡

掘り方の形状は、不整形であった。井戸の深さは1.63ｍまで検出できたが、壁面の崩落の恐れから底面の検出は行えなかった。

第176・178号住居跡よりも新しかった。中世の井戸と判断した。

第74号井戸跡

掘り方の形状は、円形であった。井戸の深さは、1.5ｍまで確認できたが、湧水が激しく底面の検出は行えなかった。

第214号溝跡よりも新しかった。中世の井戸と判断した。

第75号井戸跡

掘り方の形状は、円形であった。井戸の深さは、0.74ｍまで確認できたが、湧水が激しく底面の検出は行えなかった。

遺構の重複は、確認できなかった。中世の井戸と判断した。

第76号井戸跡

掘り方の形状は、隅丸長方形であった。井戸の深さは、0.99ｍまで確認できたが、湧水が激しく、底面の確認は行えなかった。

第217号溝跡よりも新しかった。中世の井戸と判断した。

第77号井戸跡

掘り方の形状は、円形であった。井戸の深さは、1.64ｍまで検出できたが、壁面の崩落の恐れから底面の検出は行えなかった。

遺構の重複はみられなかった。中世の井戸と判断した。

第78号井戸跡

掘り方の形状は楕円形であった。底面は、平坦で断面の形状は、漏斗状であった。

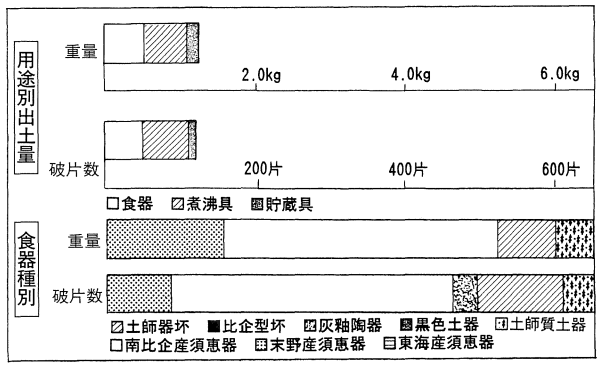
第233号溝跡よりも新しかった。中世の井戸と判断した。

第79号井戸跡

掘り方の形状は、不整楕円形であった。井戸の深さは、1.44ｍまで確認できたが、湧水が激しく、底面の検出は行えなかった。

井戸枠は、確認面から0.66ｍ下に確認した。竹と木の棒を組んで使用していた。井戸枠と掘り方の隙間は、第６～12層で埋めていた。

遺構の切り合い関係は、第80号井戸跡より古く、第206号溝跡よりも新しかった。中世の井戸と判断した。



第458図　第79号井戸跡覆土中遺物データ

第80号井戸跡

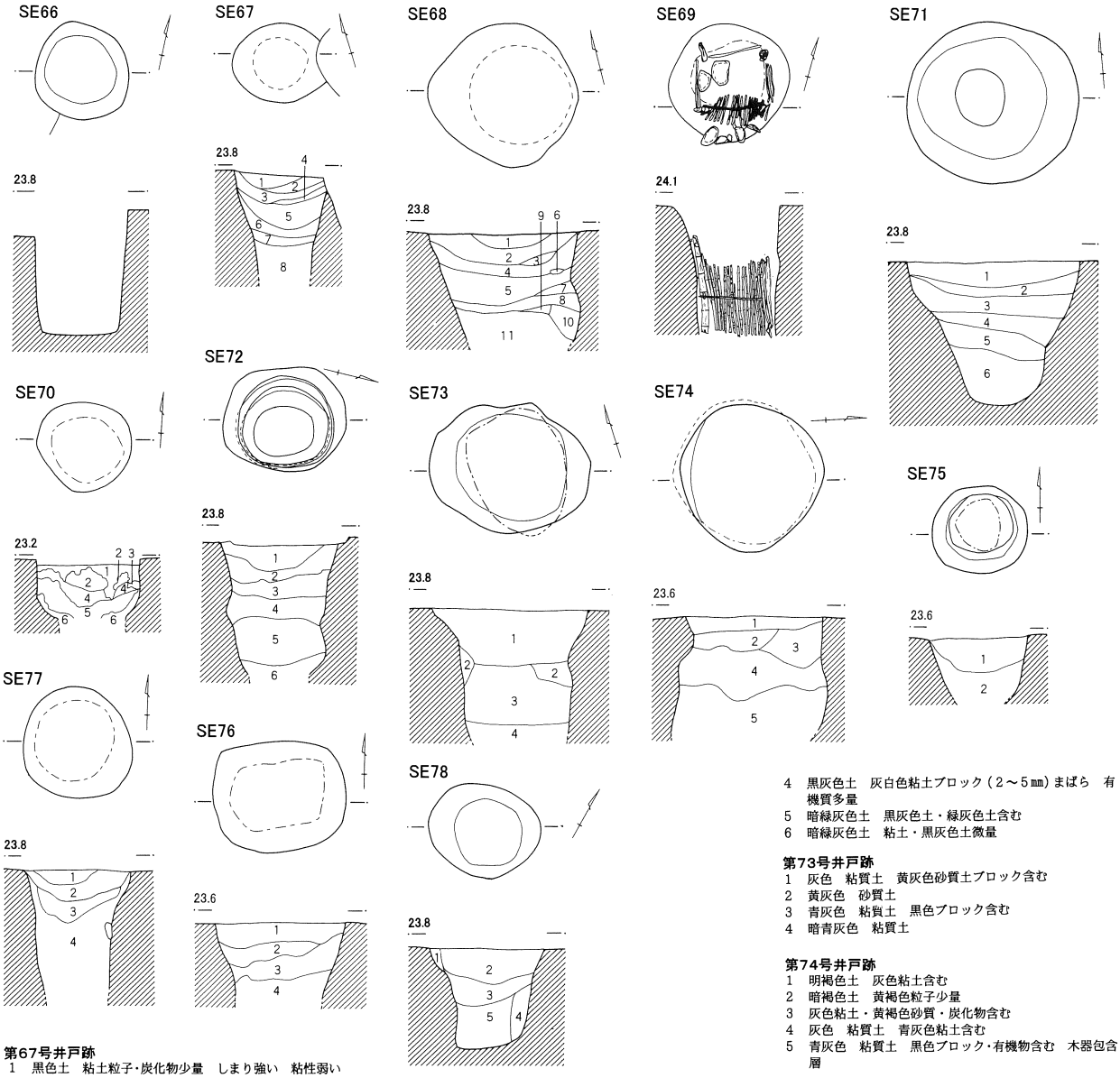
掘り方の形状は、楕円形であった。井戸の深さは、1.14ｍまで確認できたが、湧水が激しく底面の検出は行えなかった。

第１層中に曲物を出土した。

遺構の切り合い関係は、第79号井戸跡より新しかった。第206号溝跡よりも新しかった。中世の井戸と判断した。

第81号井戸跡

掘り方の形状は、円形であった。井戸の深さは、



第67号井戸跡
1　黒色土　粘土粒子・炭化物少量　しまり強い　粘性弱い
2　暗黄色土　粘土ブロック（50mm）・粘土粒子多量　炭化物少量　しまり・粘性強い
3　暗黄色土　粘土ブロック（30㎜）・粘土粒子多量　炭化物少量　しまり・粘性強い
4　黒褐色　粘土粒子少量　炭化物微量　しまり・粘性強い
5　黒色土　粘土ブロック（50mm）少量　炭化物微量　しまり・粘性強い
6　黒色土　粘土粒子・炭化物少量　しまり非常に強い　粘性弱い
7　黒褐色土　粘土粒子・炭化物微量　しまり非常に強い　粘性弱い
8　黒褐色土　粘土粒子・粘土ブロック（10mm）少量　しまり非常に強い　粘性弱い

第68号井戸跡
1　黒褐色土　粘土粒子・焼土粒子・炭化物多量　しまり・粘性強い
2　暗褐色土　粘土ブロック（50mm）・粘土粒子・焼土粒子多量　しまり・粘性強い
3　暗灰色土　粘土粒子・焼土粒子・炭化物多量　しまり・粘性強い
4　黒褐色土　粘土ブロック（10mm）多量　炭化物少量　しまり・粘性強い
5　暗灰色土　粘土ブロック（５mm）・粘土粒子多量　炭化物少量　しまり・粘性強い
6　暗黄色土　粘土ブロック（50mm）多量　しまり・粘性強い　壁面崩落土
7　黒色土　炭化物少量　しまり弱い　粘性強い
8　黒色土　粘土ブロック（30mm）多量　炭化物少量　しまり・粘性強い　壁面崩落土
9　暗黄色土　粘土ブロック　しまり・粘性強い　壁面崩落土
10　暗黄褐色土　６層に共通　しまり・粘性強い
11　黒褐色土　青灰色粘土ブロック多量　しまり・粘性強い

第70号井戸跡
1　暗赤褐色土　粘質土　鉄分多量　炭化物少量
2　暗青灰色土　粘質土　鉄分ブロック（50㎜）少量
3　明黄褐色土　粘質土　砂質ブロック（30㎜）少量
4　暗青灰色土　粘質土　青灰色粘土ブロック（20㎜）鉄分少量
5　青灰色土　粘質土　暗青灰色粘土ブロック含む
6　暗青灰色土　粘質土　明黄褐色粘土ブロック（30㎜）含む

第71号井戸跡
1　暗褐色土　黄褐色粘土ブロック（２～３㎜）まばら
2　暗褐色土　黄褐色粘土ブロック（２～５㎜）多量
3　暗褐色土　黄褐色粘土粒子（１～２㎜）まばら
4　黒灰色土　黄褐色粘土ブロック（２～３㎜）まばら
5　黒灰色土　４層より明度落ちる
6　黒灰色シルト　有機物含む　粘性強い

第72号井戸跡
1　暗褐色土　黄灰色粘土ブロック（３～５㎜）多量
2　暗褐色土　黄灰色粘土ブロック（２～３㎜）少量
3　暗褐色土　黄灰色粘土ブロック（３～８㎜）多量
4　黒灰色土　灰白色粘土ブロック（２～５㎜）まばら　有機質多量
5　暗緑灰色土　黒灰色土・緑灰色土含む
6　暗緑灰色土　粘土・黒灰色土微量

第73号井戸跡
1　灰色　粘質土　黄灰色砂質土ブロック含む
2　黄灰色　砂質土
3　青灰色　粘質土　黒色ブロック含む
4　暗青灰色　粘質土

第74号井戸跡
1　明褐色土　灰色粘土含む
2　暗褐色土　黄褐色粒子少量
3　灰色粘土・黄褐色砂質・炭化物含む
4　灰色　粘質土　青灰色粘土含む
5　青灰色　粘質土　黒色ブロック・有機物含む　木器包含層

第75号井戸跡
1　灰色粘質土・黄褐色砂質土含む
2　淡灰色　砂質土　灰色粘土ブロック含む

第76号井戸跡
1　灰色粘土
2　灰色粘土・黄褐色砂質土含む
3　灰色粘土・黄褐色砂質土２層よりも多量
4　青灰色　粘土

第77号井戸跡
1　褐灰色土　黄褐色粘土ブロック（５～８㎜）まばら
2　褐灰色土　黄褐色粘土ブロック（10～20mm）含む
3　褐灰色土　黄褐色粘土ブロック（30～50mm）多量
4　暗褐色土　黄褐色粘土ブロック（10～20mm）まばら　しまりなし　粘性強い

第78号井戸跡
1　黒褐色土　焼土・炭化物粒子・黄褐色粒子含む
2　黒褐色土　粘質土・焼土粒子・炭化物粒子含む
3　黒褐色土　焼土粒子・炭化物粒子含む
4　黒褐色土　黄褐色粒子含む
5　黒褐色土　焼土粒子含む

0　2m　1:80

第459図　井戸跡(7)

0.61ｍまで確認できたが、湧水が激しく、底面の検出は行えなかった。

覆土中から曲物が出土した。

第190号住居跡よりも新しかった。中世の井戸と判断した。

第82号井戸跡

掘り方の形状は、円形であった。底面は、ほぼ平坦で断面の形状は、筒形であった。

第265号溝跡よりも新しかった。中世の井戸と判断した。

第83号井戸跡

掘り方の形状は、円形であった。底面は、平坦で断面の形状は、上にやや開いた筒形であった。

第206号溝跡よりも新しかった。中世の井戸と判断した。

第84号井戸跡

掘り方の形状は、円形であった。底面は、平坦で断面の形状は、筒形であった。

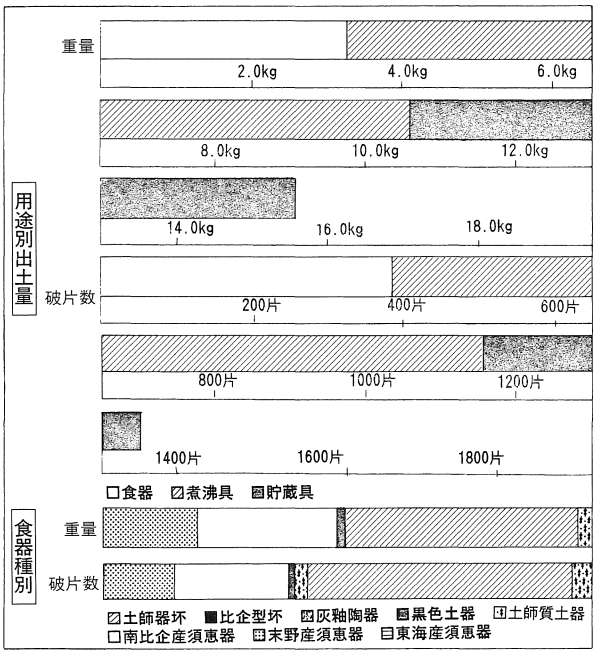
第206号溝跡よりも新しかった。中世の井戸と判断した。

第85号井戸跡

掘り方の形状は、楕円形であった。底面は、平坦で断面は、上部に開く筒形であった。

構築方法は、確認面から0.56ｍまで漏斗状に掘り下げ段を造って、さらに確認面から2.2ｍまで漏斗状に掘り下げていた。その後、一回り小さく掘り下げていた。一段目から二段目にかけて、木材を井桁に組んだ井戸枠を設置し、その下に桶のような容器を設置していた。井戸枠の上には、石が置かれていた。

遺構の重複関係は、明らかではなかった。８世紀前半の井戸と判断した。



第460図　第85号井戸跡覆土中遺物データ

第86号井戸跡

掘り方の形状は、円形であった。井戸の深さは、0.72ｍまで確認できたが、湧水が激しく底面の検出はできなかった。

第266号溝跡よりも新しかった。中世の井戸と判断した。

第87号井戸跡

掘り方の形状は、不整形であった。底面は、平坦で断面の形状は、漏斗状であった。

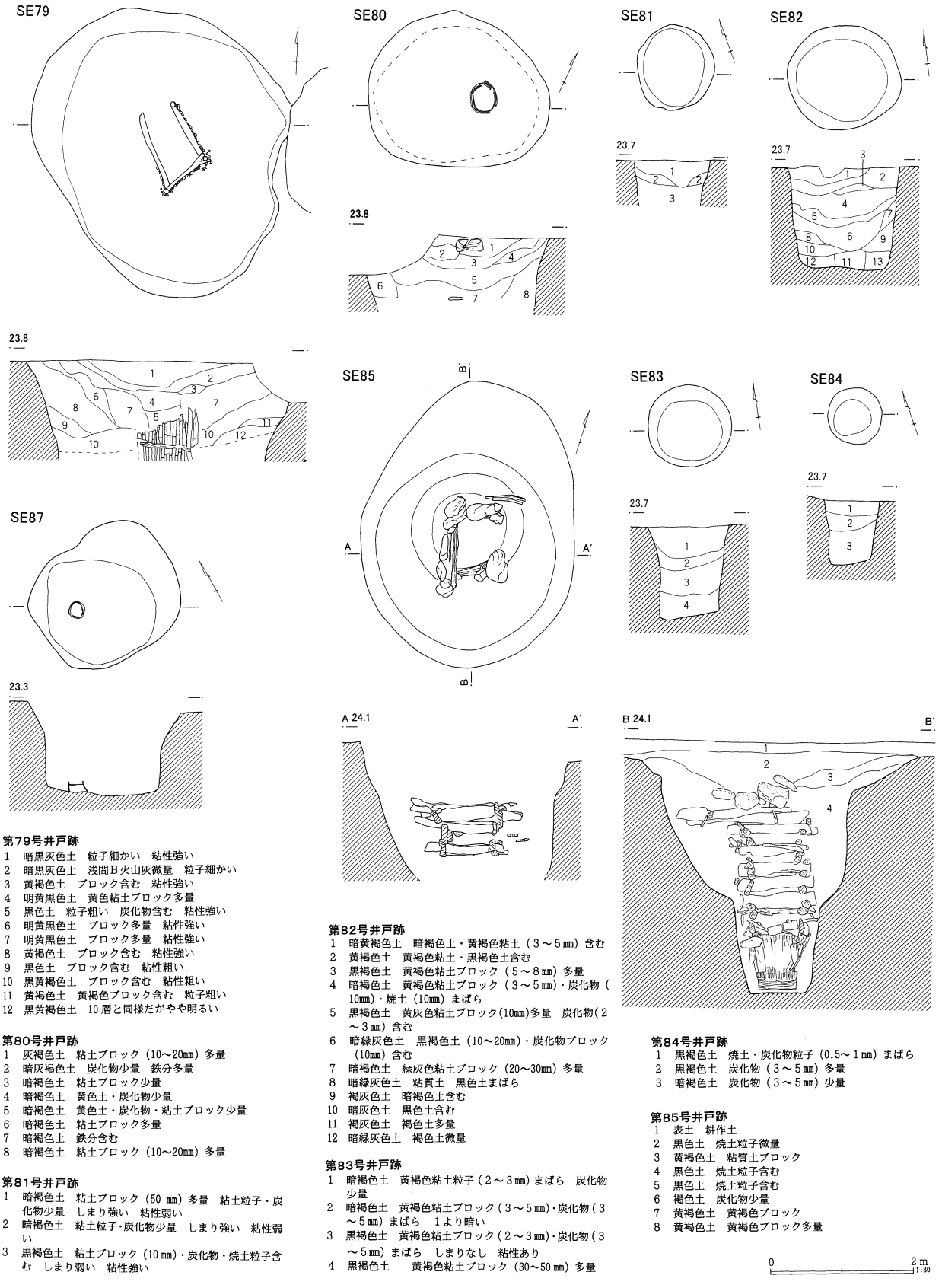
底面から曲物が出土した。

第125号溝跡よりも新しかった。中世の井戸と判断した。

第88号井戸跡

掘り方の形状は、方形であった。底面は、平坦で断面の形状は、筒形であった。

遺構の重複はみられなかった。中世の井戸と判断した。



第79号井戸跡
1　暗黒灰色土　粒子細かい　粘性強い
2　暗黒灰色土　浅間Ｂ火山灰微量　粒子細かい
3　黄褐色土　ブロック含む　粘性強い
4　明黄黒色土　黄色粘土ブロック多量
5　黒色土　粒子粗い　炭化物含む　粘性強い
6　明黄黒色土　ブロック多量　粘性強い
7　明黄黒色土　ブロック多量　粘性強い
8　黄褐色土　ブロック含む　粘性強い
9　黒色土　ブロック含む　粘性粗い
10　黒黄褐色土　ブロック含む　粘性粗い
11　黄褐色土　黄褐色ブロック含む　粒子粗い
12　黒黄褐色土　10層と同様だがやや明るい

第80号井戸跡
1　灰褐色土　粘土ブロック（10～20mm）多量
2　暗灰褐色土　炭化物少量　鉄分多量
3　暗褐色土　粘土ブロック少量
4　暗褐色土　黄色土・炭化物少量
5　暗褐色土　黄色土・炭化物・粘土ブロック少量
6　暗褐色土　粘土ブロック多量
7　暗褐色土　鉄分含む
8　暗褐色土　粘土ブロック（10～20mm）多量

第81号井戸跡
1　暗褐色土　粘土ブロック（50 mm）多量　粘土粒子・炭化物少量　しまり強い　粘性弱い
2　暗褐色土　粘土粒子・炭化物少量　しまり強い　粘性弱い
3　黒褐色土　粘土ブロック（10 mm）・炭化物・焼土粒子含む　しまり弱い　粘性強い

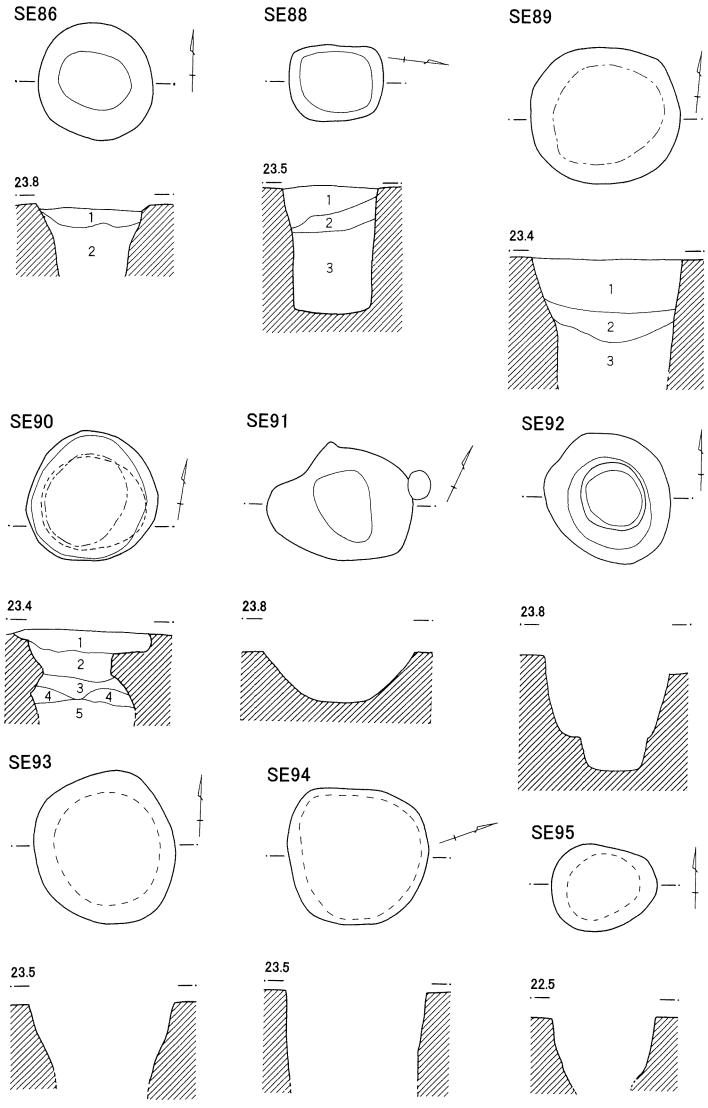
第82号井戸跡
1　暗黄褐色土　暗褐色土・黄褐色粘土（３～５mm）含む
2　黄褐色土　黄褐色粘土・黒褐色土含む
3　黒褐色土　黄褐色粘土ブロック（５～８mm）多量
4　暗褐色土　黄褐色粘土ブロック（３～５mm）・炭化物（10mm）・焼土（10mm）まばら
5　黒褐色土　黄灰色粘土ブロック(10mm)多量　炭化物(２～３mm）含む
6　暗緑灰色土　黒褐色土（10～20mm）・炭化物ブロック（10mm）含む
7　暗褐色土　緑灰色粘土ブロック（20～30mm）多量
8　暗緑灰色土　粘質土　黒色土まばら
9　褐灰色土　暗褐色土含む
10　暗灰色土　黒色土含む
11　褐灰色土　褐色土多量
12　暗緑灰色土　褐色土微量

第83号井戸跡
1　暗褐色土　黄褐色粘土粒子（２～３mm）まばら　炭化物少量
2　暗褐色土　黄褐色粘土ブロック（３～５mm）・炭化物（３～５mm）まばら　１より暗い
3　黒褐色土　黄褐色粘土ブロック（２～３mm）・炭化物（３～５mm）まばら　しまりなし　粘性あり
4　黒褐色土　黄褐色粘土ブロック（30～50 mm）多量

第84号井戸跡
1　黒褐色土　焼土・炭化物粒子（0.5～１mm）まばら
2　黒褐色土　炭化物（３～５mm）多量
3　暗褐色土　炭化物（３～５mm）少量

第85号井戸跡
1　表土　耕作土
2　黒色土　焼土粒子微量
3　黄褐色土　粘質土ブロック
4　黒色土　焼土粒子含む
5　黒色土　焼土粒子含む
6　褐色土　炭化物少量
7　黄褐色土　黄褐色ブロック
8　黄褐色土　黄褐色ブロック多量

第461図　井戸跡(8)



第86号井戸跡
1　淡褐色土　砂質　粒子細かい　焼土含む
2　暗褐色土　焼土含む　粒子粗く粘性あり

第88号井戸跡
1　灰色粘質土・緑灰色砂質土含む
2　灰色粘質土・黄褐色砂質土含む
3　青灰色土・粘質土

第89号井戸跡
1　暗灰褐色　暗灰褐色土ブロック・灰褐色粘土ブロック・　黄褐色土粒子含む　しまりあり
2　暗緑灰色　緑灰色粘土ブロック・暗灰色粘土ブロック含む
3　暗緑灰色　緑灰色粘土多量　灰色粘土含むしまりあり

第90号井戸跡
1　黒褐色土　粘土粒子・炭化物・鉄分少量　しまり・　粘性強い
2　黒褐色土　粘土粒子・粘土ブロック（30㎜）・鉄分少量　しまり・粘性強い
3　暗褐色土　粘土粒子・粘土ブロック（20㎜）多量　炭化物少量
4　暗黄褐色土　粘土粒子・粘土ブロック（20㎜）多量　しまり・粘性強い
5　暗青灰色　粘土ブロック（50㎜）多量　鉄分・炭化物少量　しまり・粘性強い

第462図　井戸跡(9)

第89号井戸跡

掘り方の形状は、円形であった。井戸の深さは、1.4ｍまで確認できたが、壁面の崩落の恐れから底面の検出は行えなかった。

遺構の重複はみられなかった。中世の井戸と判断した。

第90号井戸跡

掘り方の形状は、円形であった。井戸の深さは、1.02ｍまで確認できたが、湧水が激しく底面の検出は行えなかった。

第275号溝跡よりも新しかった。中世の井戸と判断した。

第91号井戸跡

掘り方の形状は、不整楕円形であった。底面は、平坦で断面の形状は、漏斗状であった。

遺構の重複関係は、確認できなかった。古代の井戸と判断した。

第92号井戸跡

掘り方の形状は、円形であった。底面は、平坦で断面の形状は、漏斗状であった。

遺構の重複関係は、確認できなかった。古代の井戸と判断した。

第93号井戸跡

掘り方の形状は、円形であった。井戸の深さは、0.9ｍまで確認できたが、湧水が激しく底面の検出は行えなかった。

第163号溝跡よりも新しかった。古代の井戸と判断した。

第94号井戸跡

掘り方の形状は、方形であった。井戸の深さは、1.1ｍまで確認できたが、湧水が激しく、底面の検出は行えなかった。

第316号溝跡よりも新しかった。中世の井戸と判断した。

第95号井戸跡

掘り方の形状は、楕円形であった。井戸の深さは0.8mまで確認できたが、湧水が激しく、底面の検出は行えなかった。

第411号溝跡よりも新しかった。中世の井戸と判断した。

(2) 井戸跡出土遺物

第2号井戸跡出土遺物

第463図1は、土師器の坏である。口唇部がS字状となる。口縁部上半には、ユビ押さえの痕跡が残るが、下半は、横位にヘラケズリされている。底部も大雑把にヘラケズリされている。ローム台地の粘土を原土としている。9世紀第II四半期。

第3号井戸跡出土遺物

第463図2は、須恵器の坏である。良く還元化され、比較的硬質である。東金子窯跡群の製品である。

3・4は、須恵器の高台付埦である。3の高台は、角高台に近く外端接地である。また還元化が進み、硬質である。4の高台は、紐状である。また酸化炎焼成である。3は末野窯跡群、4は、利根川水系の原土が用いられている。

2・3は、9世紀第I四半期、4は、10世紀前半である。第3号井戸跡は、前者の時期の構築と考えたい。

第4号井戸跡出土遺物

第463図5は、土師器の坏である。「綱」と墨書がある。利根川水系の原土が用いられている。

6～11は、須恵器の坏である。底部周辺を6は、手持ちヘラケズリし、7は、回転ヘラケズリしている。8は、底部の全面を回転ヘラケズリしている。9～11は、糸切りのみである。7の底部には、「土」の墨書の残画がある。おそらく「土万」であろう。10の底部には、ヘラ書がみられる。「二井」か。四本の平行線に交わるように二本の平行線が書かれている。南比企窯跡群の製品である。

6～8は、8世紀第III四半期、9～11は、9世紀第I四半期であることから第4号井戸跡は、9世紀第I四半期には、構築していたと考えたい。

第5号井戸跡出土遺物

第463図12は、黒色土器の高台付埦である。底部は、全面回転ヘラケズリを行った後、やや高い高台を付けている。内面は、細かなヘラミガキを施した後、黒色処理を行っている。利根川水系の原土が用いられている。

13は、須恵器の羽釜である。酸化炎焼成のためやや軟質である。ロクロ挽きが顕著で、鍔部も均一である。末野窯跡群の製品である。

黒色土器の高台付埦や須恵器の羽釜から第5号井戸跡は、10世紀前半と考えたい。

第6号井戸跡出土遺物

第463図14は、須恵器の蓋である。天井部とその周囲をヘラケズリしている。南比企窯跡群の製品である。

15は、須恵器の坏である。底部全面を手持ちヘラケズリしている。秋間窯跡群の製品か。

16は、須恵器の高台付埦である。高台は、小さくまとまる角高台で外端接地である。外面に「十」あるいは「×」「＋」のヘラ書きがみられる。南比企窯跡群の製品である。

17は、須恵器の長頸壺である。高台は太く低い。南比企窯跡群の製品である。全て良く還元化され硬質である。

第6号井戸跡は、須恵器の坏や蓋・高台付埦から8世紀第IV四半期と考えたい。

第11号井戸跡出土遺物

第463図18は、土師器の坏である。底部のヘラケズリを行っていないため、粘土塊が残っている。利根川水系の原土が用いられている。

19～22は、須恵器の坏である。酸化炎焼成の坏で軟質である。22は南比企窯跡群、他は利根川水系の原土が用いられている。19の内弯には、「人」と墨書がみられる。

23は、土師器の羽釜である。口縁部と鍔部をロクロナデしている。外面は粗く削られている。利根川水系の原土が用いられている。

須恵器の坏や羽釜から第11号井戸跡は、10世紀第Ⅳ四半期と考えたい。

第12号井戸跡出土遺物

第463図24は、土師器の内屈口縁坏である。硬質に仕上がっている。利根川水系の原土が用いられている。７世紀第Ⅳ四半期。

25は、須恵器の蓋である。高いリング状のつまみである。比較的良く還元化が進み、硬質である。８世紀後半。南比企窯跡群の製品である。

第12号井戸跡は、24を混入とし、８世紀後半と考えたい。

第16号井戸跡出土遺物

第463図26～28は、土師器の坏である。26は、内屈口縁坏、27・28は、内湾口縁坏である。26・27は、利根川水系の原土、28はローム台地の粘土を原土としている。

29・30は、須恵器の坏である。29は、底部周辺を回転ヘラケズリしており、「土万」の墨書が残る。両者は、南比企窯跡群の製品である。

31は、須恵器のコップ形土器である。薄い器壁である。末野窯跡群の製品である。

26は、７世紀第Ⅳ四半期、27･28は、８世紀前半、４は、８世紀第Ⅲ四半期である。第16号井戸跡の構築は、８世紀前半と考えたい。

第18号井戸跡出土遺物

第464図１は、土師質土器の坏である。比較的硬質な焼きで灰黄色である。ローム台地の粘土を原土としている。10世紀後半。

２は、砥石である。

第18号井戸跡は、中世の井戸である。

第21号井戸跡出土遺物

第464図３～５は、須恵器の坏である。３は、底部全面を回転ヘラケズリ、４・５は、底部周辺を回転ヘラケズリしている。５は、酸化炎焼成のため褐色で軟らかいが、他は良く還元化している。南比企窯跡群の製品である。

第464図６～第465図16は、土師質土器の坏である。焼成が極めて悪く、手に粉が付く。広めの底部から口縁部が、緩やかに内彎して立ち上がる。底部には、径５cm前後の第465図10～15と径6.5cm前後の第464図６～第465図９の二種類がある。

底部の糸切りは、極めて雑でほとんどがバリを残したり上げ底状である。底部の二次調整は、全くない。利根川水系の原土が用いられている。個体差のない均一な製品であることから、おそらく近隣で一括生産された製品の一部であろう。

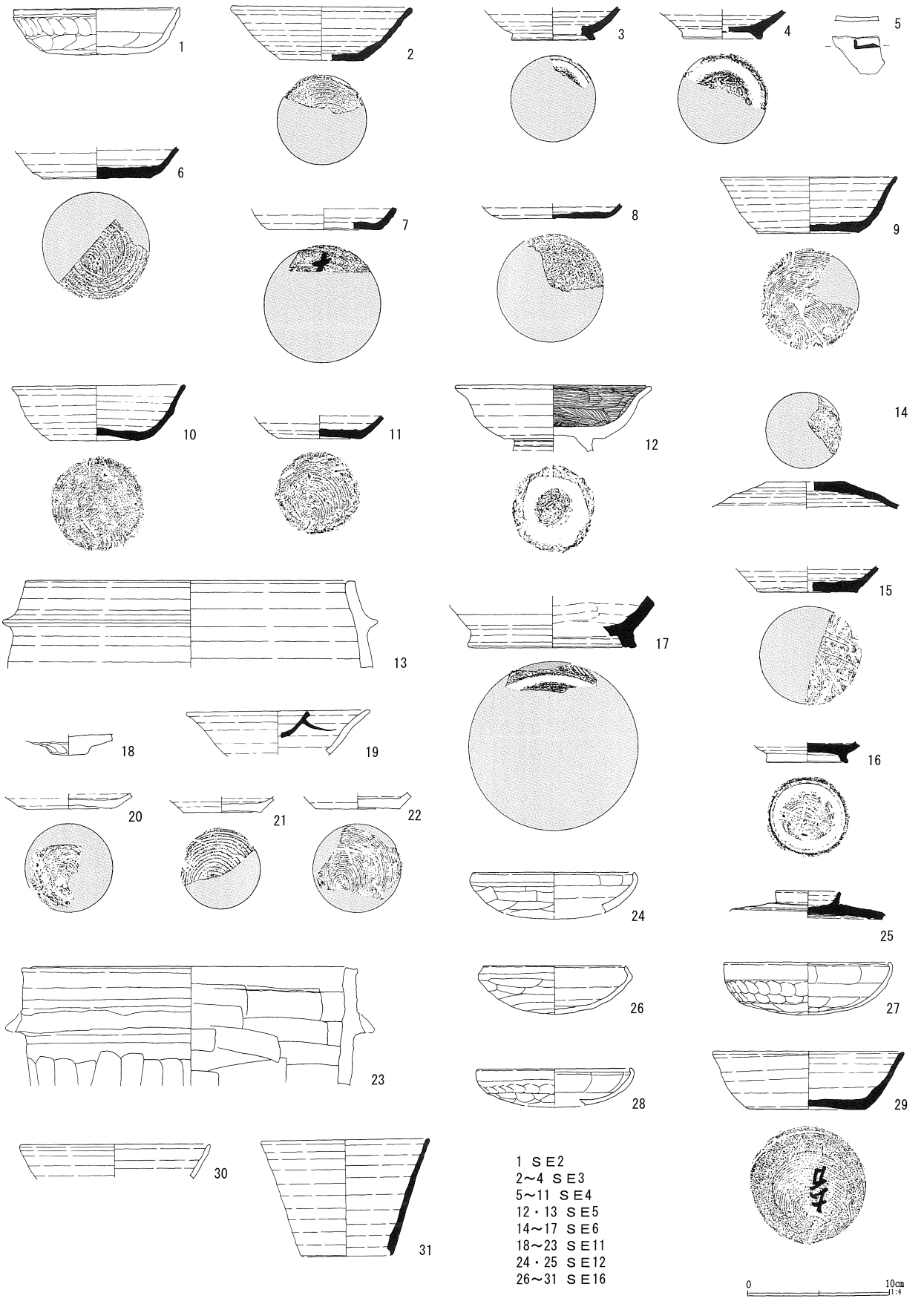
第465図17～20は、須恵器の高台付埦である。第465図17･18の高台は、内端接地の台形状の高台である。第465図19は、低い高台であるが、比較的丁寧に作られ、外端接地となっている。やや還元化が進まず軟質である。末野窯跡群の製品である。

第465図21は、須恵器の甕である。良く還元化し硬質である。南比企窯跡群の製品である。

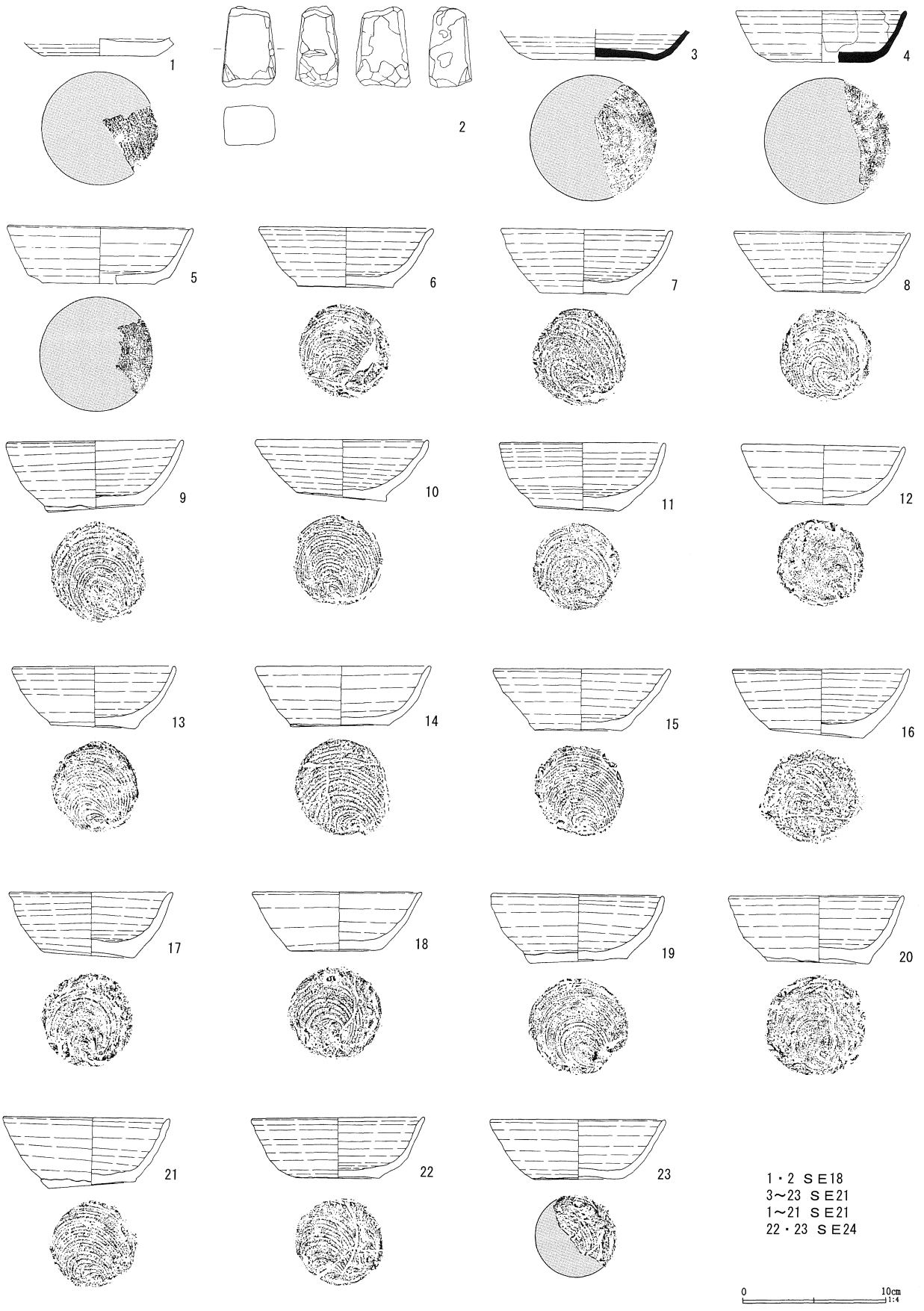
大量に出土した土師質土器の坏は、９世紀第Ⅳ四半期の須恵器の高台付埦と共伴したことから第21号井戸跡は、この時点に廃棄されたと考えたい。そして８世紀第Ⅱ～Ⅲ四半期の須恵器坏が、井戸枠外から出土していることから、少なくとも９世紀後半までにこの井戸は、構築されたと考えたい。

第24号井戸跡出土遺物

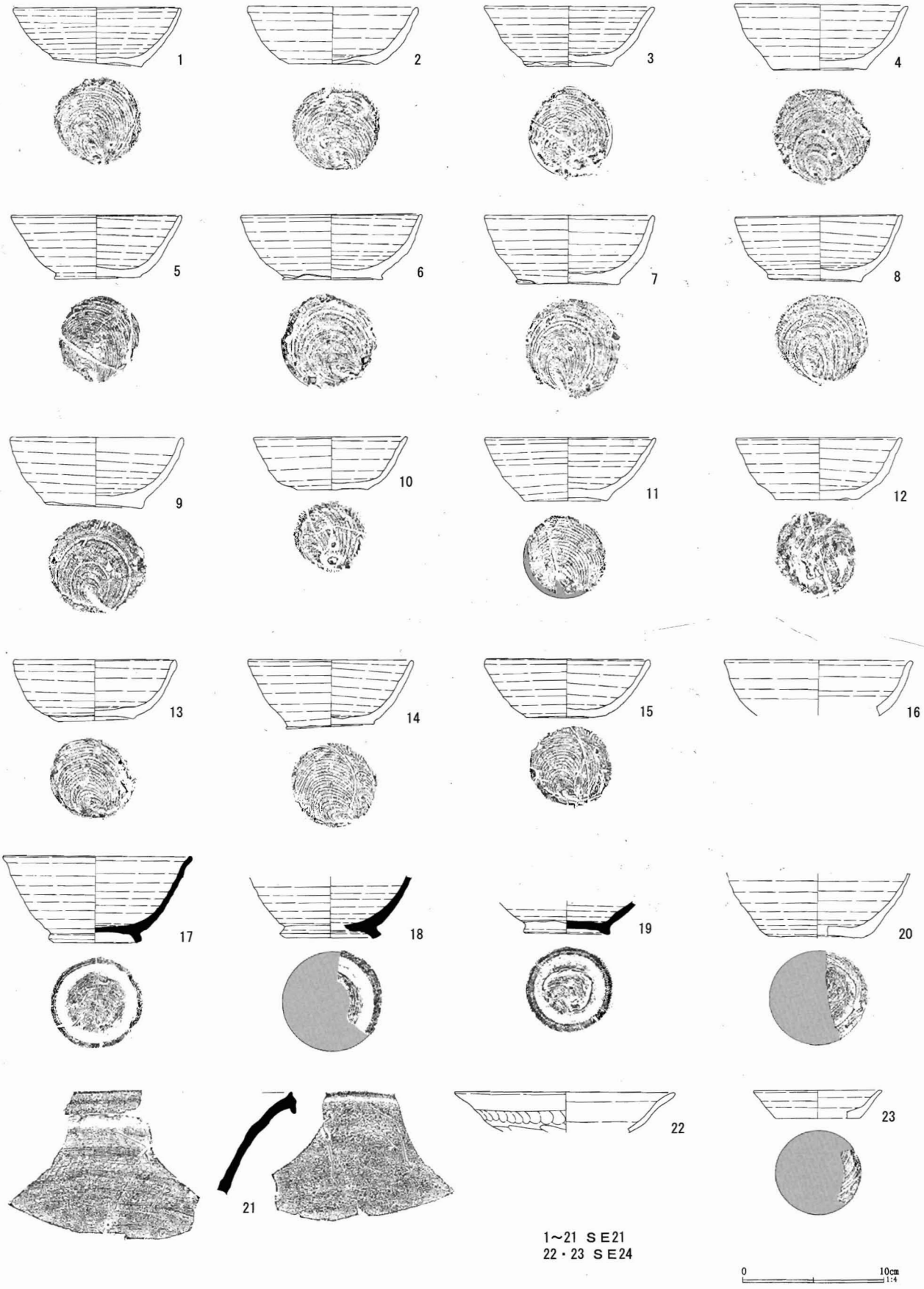
第465図22は、土師器の坏である。皿形の坏で、薄く作られている。利根川水系の原土が用いられてい



第463図　井戸跡出土遺物(1)



第464図　井戸跡出土遺物(2)



第465図　井戸跡出土遺物(3)

る。８世紀前半。

23は、土師質土器の坏である。比較的硬質に焼成されている。ローム台地の粘土を原土としている。11世紀か。

第466図１は、須恵器の紡錘車である。南比企窯跡群の製品である。

第24号井戸跡は、第465図23の土器から古代末に作られたと考えたい。

第35号井戸跡出土遺物

第466図２・３は、須恵器の高台付埦である。２は、高台が欠損するが、３には、やや丸みを帯びた高台が付く。両者は、酸化炎焼成である。末野窯跡群の製品である。

４は、土師器の甑である。大形の甑で底部は、底抜けとなるのであろう。利根川水系の原土が用いられている。

５は、土師器の甕である。器肉の厚い甕で口縁部は、緩く内彎する。外面にユビ押さえの跡を残す。利根川水系の原土が用いられている。

４は、７世紀前半だが、他は、10世紀後半である。第35号井戸跡の構築時期は、後者と考えたい。

第37号井戸跡出土遺物

第466図６・７は、須恵器の坏である。小形の坏で、内彎しつつ立ち上がる。７は、酸化炎焼成である。６は、還元化されやや硬い。６は、末野窯跡群の製品である。７は、利根川水系の原土が用いられている。

８は、土師質土器の高台付皿である。高台は、欠損する。ロクロ回転ヘラ切りである。やや硬質である。利根川水系の原土が用いられている。

須恵器の坏や土師質土器の高台付皿などから第37号井戸跡は、11世紀前半と考えたい。

第40号井戸跡出土遺物

第466図９・10は、土師質土器の坏である。軟質な土器で手に粉が付く。９は、利根川水系の原土、10はローム台地の粘土を原土としている。

11は、土師質土器の皿である。小形の皿で立ち上がりが短い。雲母を含むことから下総北部の原土を用いているのであろうか。

12・13は、土師質土器の高台付埦である。12の高台は、「ハ」の字に開く。13は、高脚高台かもしれない。12は、末野窯跡群の製品である。13は、ローム台地の粘土を原土としている。

14は、灰釉陶器の埦である。東濃地方の製品で虎渓山１号窯式である。

15・16は、緑釉陶器の陶片である。15は埦、16は稜皿の破片と思われる。15は猿投窯跡群、16は尾北地方の製品である。

17は、土師器の土釜である。口縁部が、Ｓ字状に屈曲する。器肉は大変厚く、ケズリも雑駁である。利根川水系の原土が用いられている。

18は、土師器の羽釜である。鍔部は、三角形状だが、歪んでいる。鍔部を縦に穿孔した跡がみられる。利根川水系の原土が用いられている。

19は、棒状鉄製品である。

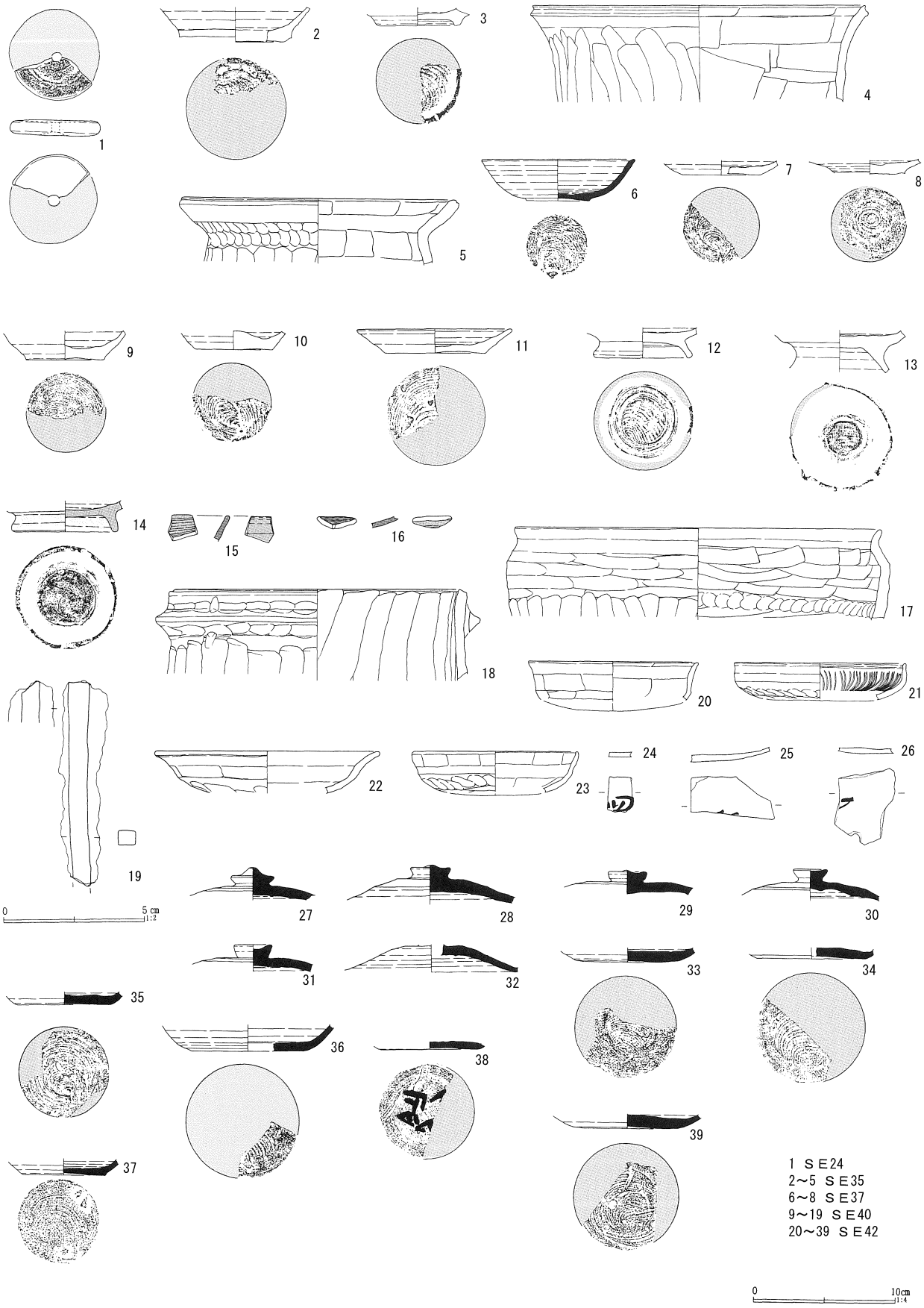
土師質土器の坏・皿・高台付埦、灰釉陶器の埦、土師器の羽釜・土釜から第40号井戸跡は、11世紀前半と考えたい。

第42号井戸跡出土遺物

第466図20～26は、土師器の坏である。20は、須恵器坏蓋模倣坏である。小形の器形で、硬質である。21は、内面に放射状の暗文を施した扁平な坏である。残存部位では、螺旋状の暗文はみられない。22は、皿形の坏である。23～26は、坏Ａである。

24・25には墨書がみられる。「綱」と書かれる。26は墨痕のみである。21・24・26は利根川水系の原土、他はローム台地の粘土を原土としている。

27～32は、須恵器の蓋である。27・28は、つまみの中心が高くなる宝珠形のつまみである。29～31は、中心の凹むボタン状のつまみである。全て良く還元化され硬質である。29は、南比企窯跡群の製品だが、



第466図　井戸跡出土遺物(4)

他は、末野窯跡群の製品である。

第466図33～第467図５は、須恵器の坏である。33～39までは、底部周辺をヘラケズリしている。なお33～36までは、比較的大形の底部、37～39は、小形の底部である。33・36は、手持ちヘラケズリ、他は、回転ヘラケズリである。第467図１は、底部の全面を回転ヘラケズリしている。２～４は、糸切りのみである。４は、小さな底部である。

第466図38・第467図４・５に墨書が確認できる。第466図38は、底部外面に「綱」、第467図４は、内面見込みと口縁部外面にそれぞれ「全」、第467図５は、口縁部外面に「綱」とそれぞれ書かれている。還元化が良く進むが、第466図35・第467図４のみ、やや軟質な仕上がりである。第466図33・第466図35・第467図２・３・５は、末野窯跡群、他は南比企窯跡群の製品である。

第467図６・７は、高台付埦である。良く還元化している。７の高台は、台形状で内端接地である。６は、底部を欠損するが、口径や器肉の厚さから高台付埦とした。６は、南比企窯跡群、７は、末野窯跡群の製品である。

８は、須恵器の皿である。硬質に仕上がる。末野窯跡群の製品である。

９は、須恵器の高台付皿である。高台を欠損する。南比企窯跡群の製品である。

10は、緑釉陶器の埦である。猿投窯跡群の製品である。黒笹14号窯式である。

11は、須恵器の仏鉢模倣土器である。小破片であるが、同種の口縁部と良く近似する。良く還元化し、南比企窯跡群の製品である。

12は、須恵器の長頸瓶である。硬質に良く焼き上がっている。南比企窯跡群の製品である。

13は、須恵器の水瓶である。口縁部を欠くが、肩の高い均整のとれた水瓶である。頸部にリング状の沈線が巡る。高台はやや高い。東海地方西部の製品であろう。

14・15は、須恵器の無台長頸壺である。胴下半部に回転ヘラケズリを行う。両者は、良く還元化し硬質である。14の内面には、自然釉が付着する。14は秋間窯跡群、15は末野窯跡群の製品である。

16は、土師器の長胴甕である。外面を雑駁にケズリ、器肉もやや厚い。利根川水系の原土が用いられている。

17・18は、須恵器の捏鉢である。厚底の底部位の破片で、17は、底部周辺をヘラケズリするが、18は、未調整である。南比企窯跡群の製品である。

19～21は、須恵器の大甕である。19の口縁には、下から上に向かって沈線で平行したキザミが二段に亘って施文された後、二本一対の沈線が引かれている。20は、文様がない。南比企窯跡群の製品である。

22は、砥石である。

井戸枠の外側から出土したのは、第466図20・21・22・23・24・25・33・34・35・36・第467図６・11・16である。第466図20・第467図16は７世紀後半、第466図21・22は、８世紀前半であることから、第42号井戸跡を構築の際に、周辺の住居跡などを破壊し、混入した遺物と考えたい。また第466図23～26、29・32・33～36、第467図６・11は、８世紀後半である。

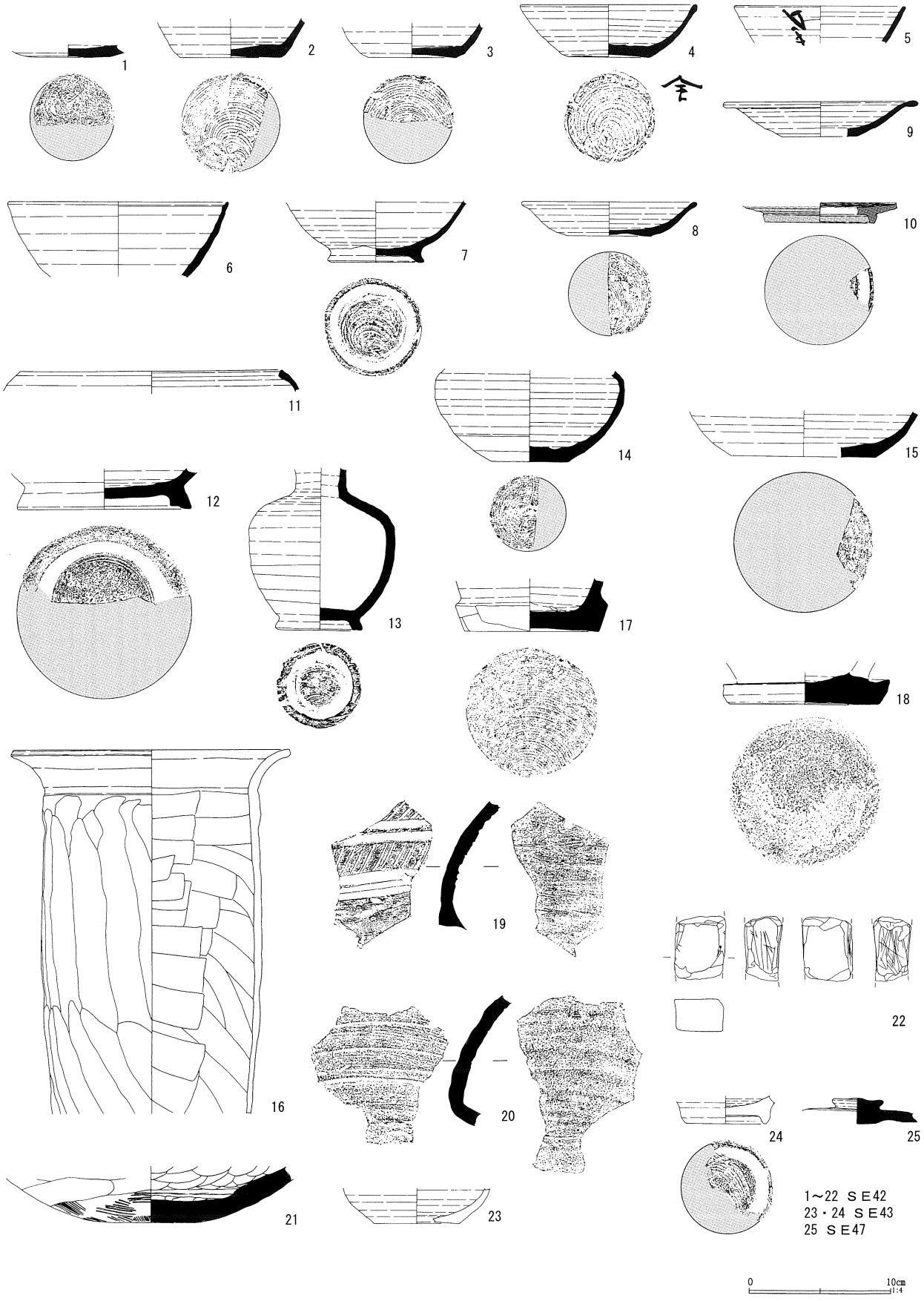
井戸枠内から出土した第466図27～31、第466図37～第467図３、第467図８・９・13は、９世紀前半であり、井戸の使用から廃棄時までの遺物と考えたい。さらに第467図４・７は、９世紀後半であることから、井戸埋没後の第36号掘立柱建物跡に伴っていた可能性もある。

以上から第42号井戸跡は、８世紀後半から９世紀初頭にかけて構築され、第36号掘立柱建物跡の構築される９世紀第Ⅱ四半期までには、埋没していたと考えたい。

第43号井戸跡出土遺物

第467図23は、土師質土器の坏である。比較的硬質である。

24は、土師質土器の高台付埦である。小さな三角形状の高台が付く。23・24とも利根川水系の原土が



第467図　井戸跡出土遺物(5)

用いられている。

土師質土器の坏や高台付埦から第43号井戸跡は、11世紀前半と考えたい。

第47号井戸跡出土遺物

第467図25は、須恵器の蓋である。ボタン状のつまみをもち、中心部はやや高まる。良く還元化し、硬質である。末野窯跡群の製品である。８世紀後半。

第50号井戸跡出土遺物

第468図１・２は、土師器の内湾口縁坏である。２はやや扁平である。利根川水系の原土が用いられている。

３・４は、須恵器の坏である。３は、底部周辺を回転ヘラケズリしている。４は、糸切りのままである。良く還元化し、硬質である。３は、南比企窯跡群、４は末野窯跡群の製品である。

第50号井戸跡は、中世の井戸である。なお１～３は、８世紀第III四半期、４は、第IV四半期である。

第52号井戸跡出土遺物

第468図５は、土師器の坏である。大振りの内湾口縁坏である。利根川水系の原土が用いられている。

６・７は、須恵器の坏である。６は、底部を回転ヘラケズリしている。７は、底部縁辺をヘラケズリしている。両者は良く還元化し、硬質である。６は、秋間窯跡群、７は栃木県南部の製品である。

５・７は、８世紀後半、６は、８世紀第Ｉ四半期であることから第52号井戸跡は、８世紀前半には成立していたと考えたい。

第55号井戸跡出土遺物

第468図８は、土師器の坏Ｂである。底部周辺をヘラケズリし、底部もヘラケズリしている。やや厚手の底部である。ローム台地の粘土を原土としている。

９～12は、須恵器の高台付埦である。９・10とも高台は、「M」字状で外端接地である。淡い灰色に還元化するが、９はやや軟らかく、10は比較的硬質である。11・12は酸化炎焼成である。とくに12は、酸化炎焼成ながら硬質であるが、11は全体に焼き斑がある。９・10・12は末野窯跡群、11は利根川水系の原土が用いられている。

13は、土師質土器の坏である。硬質に焼き上がった坏で、ロクロ目も良く残る。

14は、土師質土器の高台付埦である。やはり硬質に焼き上がっている。13・14は、ローム台地の粘土を原土としている。

15は、灰釉陶器の埦である。底部に糸切りが残る。浜北地方の製品で、黒笹90号の窯式である。

16は、緑釉陶器の埦片である。

17・18は、緑釉陶器の陶片である。16～19は、猿投窯跡群の製品である。19は埦の破片である。

20は、土師器の甕である。厚手の甕で、外面を大雑把にヘラケズリしている。内面は、横位の木口状工具によるナデがみられる。ロクロによる成形はみられない。利根川水系の原土が用いられている。

21は、土師器の羽釜である。器肉が厚い。鍔部は高く三角形状である。残存部は全てロクロ挽きである。ローム台地の粘土を原土としている。

22は、石製紡錘車である。

23は、棒状鉄製品である。

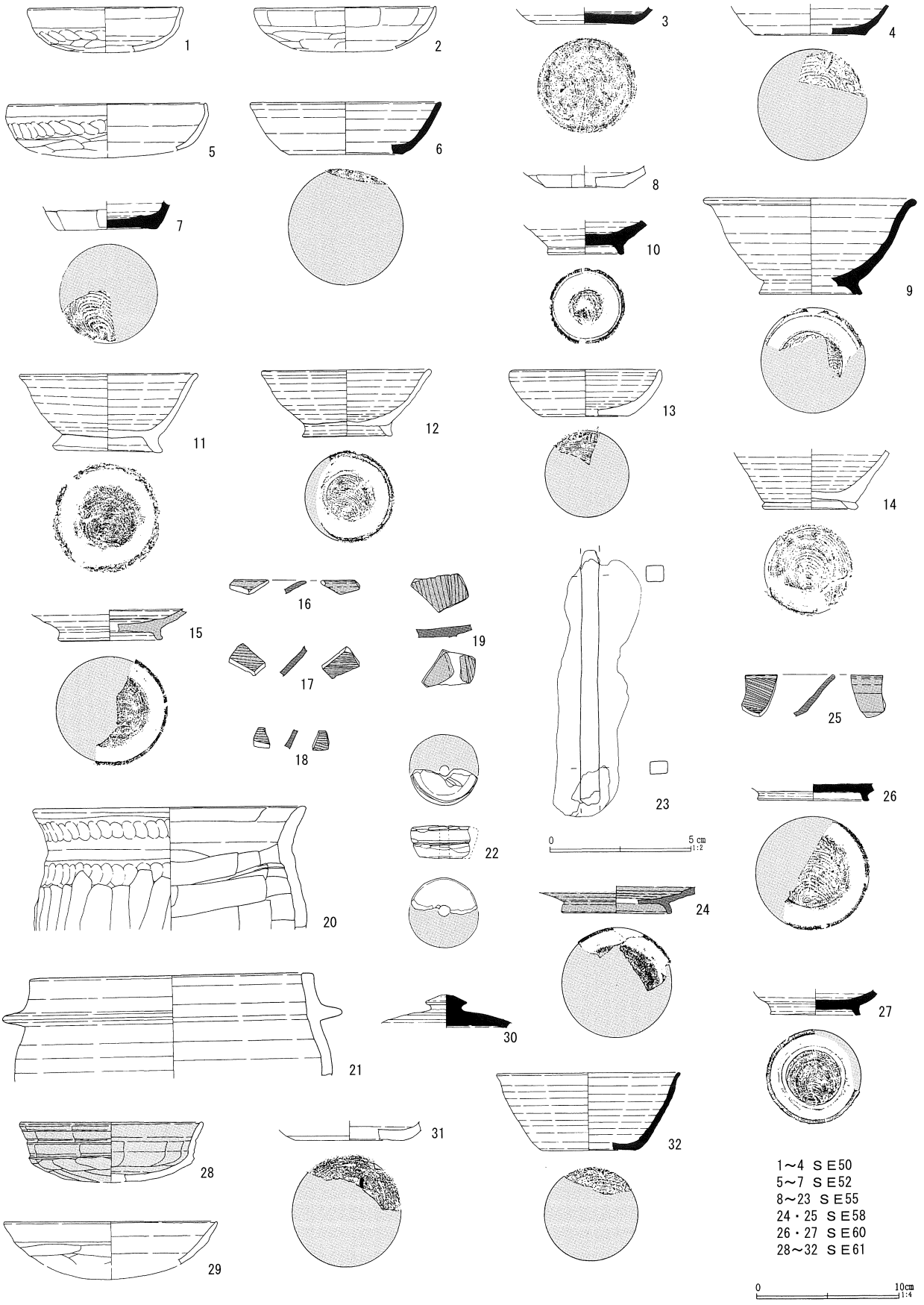
土師器の坏や甕・羽釜、須恵器の高台付埦、土師質土器の坏や高台付埦などは、10世紀第III四半期であるが、緑釉陶器や灰釉陶器は、９世紀後半から10世紀前半である。第55号井戸跡は、10世紀第III四半期と考えたい。

第58号井戸跡出土遺物

第468図24は、緑釉陶器の段皿である。長めの高台をもつ。25は、埦の破片である。尾北地方の製品である。24は、黒笹90号窯式である。９世紀後半。

第60号井戸跡出土遺物

第468図26・27は、須恵器の高台付埦である。26は、



第468図　井戸跡出土遺物(6)

底部周辺をヘラケズリした後、細い高台を貼り付けている。27は、台形状の高台を貼り付けている。26・27は、良く還元化され、硬質である。南比企窯跡群の製品である。

第60号井戸跡は、中世の井戸である。なお26は、８世紀後半、27は、９世紀第Ⅱ四半期である。

第61号井戸跡出土遺物

第468図28は、土師器の有段口縁坏である。段は、きつく深い。内外面を黒色処理している。利根川水系の原土が用いられている。

29は、土師器の皿である。軟質な皿である。ローム台地の粘土を原土としている。

30は、須恵器の蓋である。つまみは、笠形である。比重が重い。良く還元化し、硬質である。秋間窯跡群の製品である。

第468図31～第469図１は、須恵器の坏である。第468図31のみ底部周辺をヘラケズリする。第468図32は、深めの器形で無台の埦とも呼べよう。第468図31は、やや還元化が進まず軟質であるが、他は還元化が進み、硬質である。第468図31の底部外面には、墨書で「土」の残画がみられる。おそらく「土万」か。第468図31は南比企窯跡群、他は末野窯跡群の製品である。

第469図２は、土師質土器の坏、または高台付皿である。大変硬質な焼き上がりで、ロクロ目が良く通る。ローム台地の粘土を原土としている。

３は、須恵器の高台付埦である。高台は、台形状でやや歪んでいる。末野窯跡群の製品である。

４は、緑釉陶器の皿である。内面に細かなヘラミガキの跡が残る。底部には、ヘラケズリの跡が残る。尾北地方の製品である。黒笹90号窯式である。

５は、須恵器の風字硯である。堤の部分が高く作られている。海の部分は、平滑である。末野窯跡群の製品である。

出土した遺物は、第468図28が、７世紀第Ⅰ四半期、第468図29・31が、８世紀第Ⅲ四半期、第468図30・32が、８世紀第Ⅳ四半期、第469図１・２・４が、９世紀前半、第469図３、10世紀前半である。第61号井戸跡は、第48号掘立柱建物跡の廃絶以降であることから、８世紀後半以降に構築され、９世紀前半には埋没したと考えたい。

第62号井戸跡出土遺物

第469図６は、緑釉陶器の埦である。胴部の破片である。猿投窯跡群の製品である。

７は、須恵器の平瓶である。頸部の破片である。円形に穿孔した胴部に貼り付けている。良く還元化され硬質である。湖西窯跡群の製品である。

第62号井戸跡は、中世の井戸である。なお６は、９世紀後半、７は、７世紀前半である。

第65号井戸跡出土遺物

第469図８は、かわらけ皿である。軟質の白色かわらけである。糸切りが残る。利根川水系の原土が用いられている。中世。

第66号井戸跡出土遺物

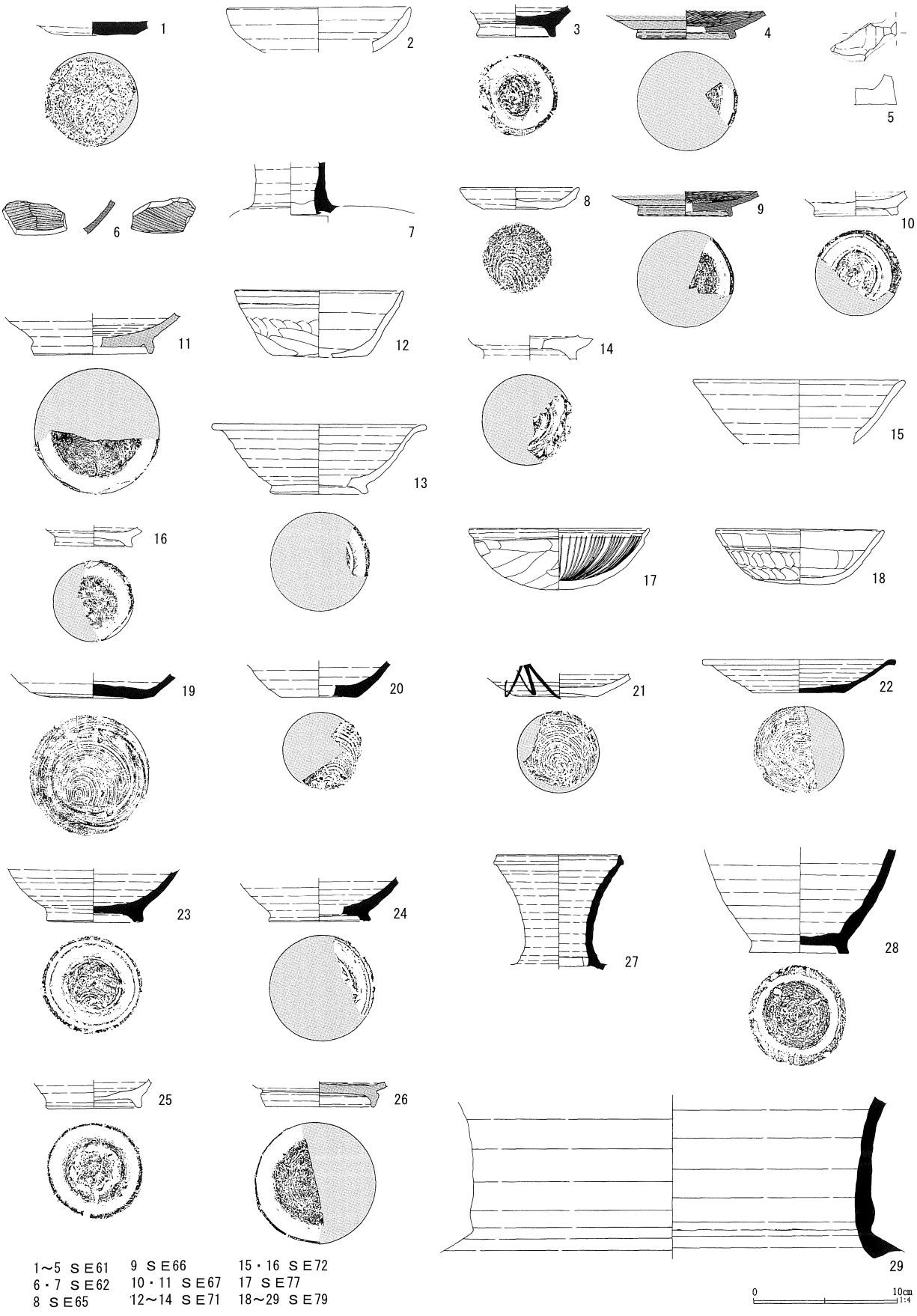
第469図９は、緑釉陶器の皿である。高台は、やや長い角高台で、内面には細かなヘラミガキがみられる。底部はヘラケズリされている。尾北地方の製品で黒笹90号窯式である。９世紀後半。

第67号井戸跡出土遺物

第469図10は、須恵器の高台付埦である。酸化炎焼成の須恵器で比較的硬質である。高台は、「M」字状の高台を作る。外端接地。末野窯跡群の製品である。

11は、灰釉陶器の埦である。高台は三日月状である。底部に糸切りを残す。東濃地方の製品で大原２号窯式である。

第67号井戸跡は、須恵器の高台付埦や、灰釉陶器の埦から10世紀前半と考えたい。



1～5 ＳＥ61
6・7 ＳＥ62
8 ＳＥ65
9 ＳＥ66
10・11 ＳＥ67
12～14 ＳＥ71
15・16 ＳＥ72
17 ＳＥ77
18～29 ＳＥ79

第469図　井戸跡出土遺物(7)

第71号井戸跡出土遺物

第469図12は、土師器の坏Ｂである。口縁部下半と底部はヘラケズリされている。利根川水系の原土が用いられている。

13は、須恵器の高台付埦である。還元化の進まない須恵器で非常に軟質である。手に粉が付く。ローム台地の粘土を原土としている。

14は、土師質土器の高台付埦である。やや硬質である。ローム台地の粘土を原土としている。

土師器の坏や軟質の須恵器の高台付埦、土師質土器の高台付埦などから第71号井戸跡は、10世紀第Ⅳ四半期と考えたい。

第72号井戸跡出土遺物

第469図15･16は、須恵器の高台付埦である。15は、高台は欠損するが、法量から判断した。15・16とも酸化炎焼成の須恵器である。15は、胎土に雲母を大量に含む新治窯跡群の製品、16は、利根川水系の原土が用いられている。15･16とも10世紀前半である。

第77号井戸跡出土遺物

第469図17は、土師器の北島型暗文土器である。口縁部は、Ｓ字状に立ち上がり、全体は、半球形となる。底部は、粗くヘラケズリが施される。内面には、粗い間隔で放射状の暗文が施文される。ただし暗文は、極めて薄くデリケートである。利根川水系の原土が用いられている。７世紀第Ⅳ四半期。

第79号井戸跡出土遺物

第469図18は、土師器の坏Ａである。底部外面は、ヘラケズリで削られている。外面には、ユビ押さえの跡が明瞭に残る。利根川水系の原土が用いられている。

19～21は、須恵器の坏である。19は、底部周辺を回転ヘラケズリしている。21のみ還元化が進まず軟らかい。外面体部に「木」と墨書あり。19は、南比企窯跡群、他は末野窯跡群の製品である。

22は、須恵器の皿である。良く還元化し硬質である。末野窯跡群の製品である。

23～25は、須恵器の高台付埦である。23・24は、高台端部が、「M」字状となる。外端接地である。25は、還元化が進まず褐色である。末野窯跡群の製品である。

26は、灰釉陶器の埦である。高台は爪形の高台で、底部に糸切りを残す。施釉は不明。東遠江地方の製品で折戸53号窯式である。

27・28は、須恵器の長頸壺である。27の口縁部は硬質で自然釉が付着する。東金子窯跡群の製品である。28は、台形状の高台を作る。末野窯跡群の製品である。

29は、須恵器の大甕である。末野窯跡群の製品である。

第79号井戸跡は、中世の井戸であるが、構築時に古代の遺構である第206号溝の遺物を多量に巻き込んだと思われる。そのためここに図示した19を除くほとんどが、第206号溝の遺物といえよう。なお19は、８世紀第Ⅲ四半期、他は９世紀後半の遺物である。

第80号井戸跡出土遺物

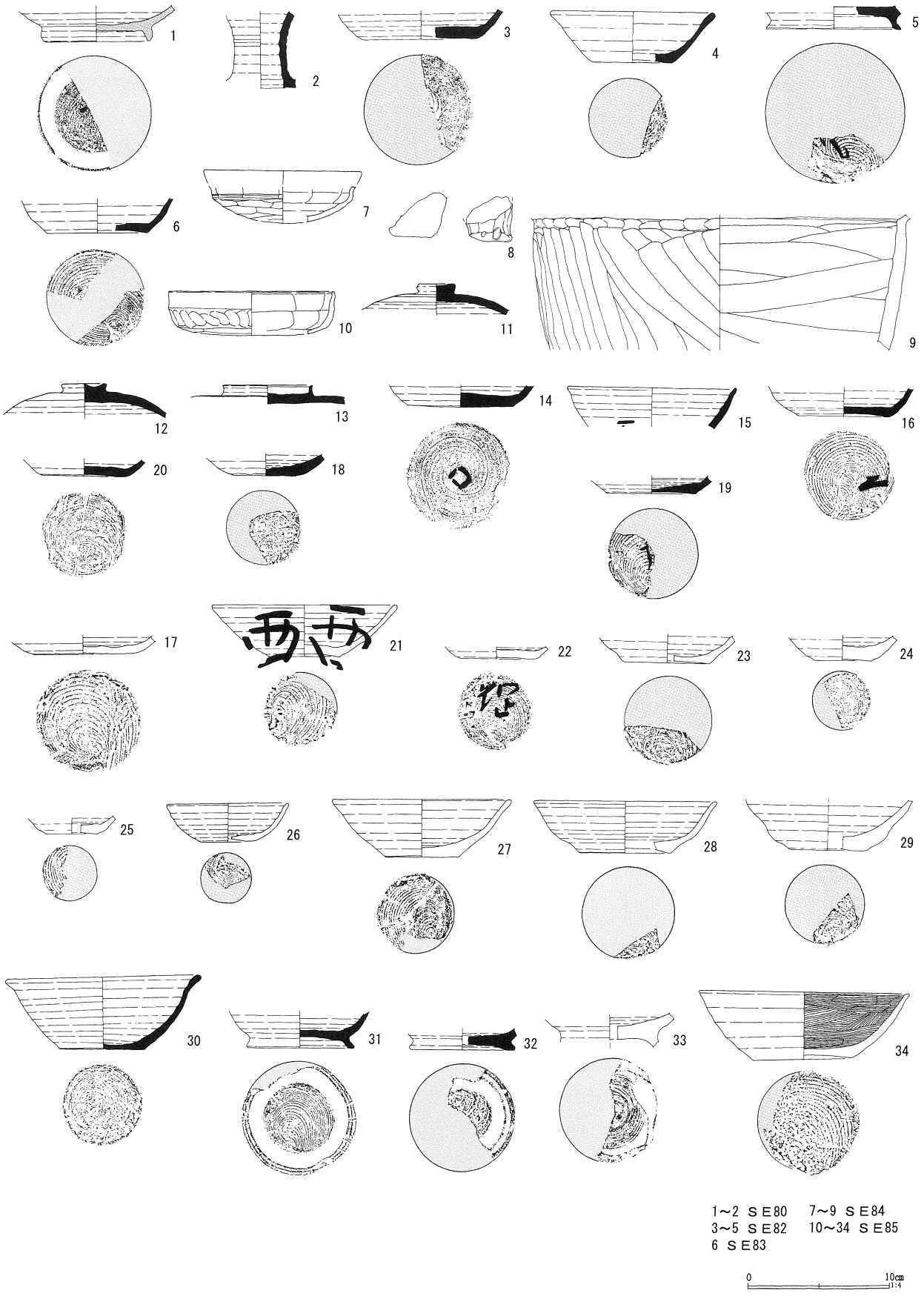
第470図１は、灰釉陶器の埦である。高台は三日月状である。底部に糸切りを残す。墨痕が残る。東濃地方の製品で、大原２号窯式。

２は、須恵器のフラスコ形土器である。口縁部に二条の沈線を施文する。湖西窯跡群の製品である。

第80号井戸跡は、中世の井戸であるが、第79号井戸跡同様、構築時に古代の遺構である第206号溝の遺物を混入させたと思われる。そのため図示した遺物は、第206号溝の遺物といえよう。なお１は、10世紀前半、２は、７世紀前半である。

第82号井戸跡出土遺物

第470図３・４は、須恵器の坏である。３は、底部周辺を回転ヘラケズリしている。２点とも還元化が進まず、淡い灰白色となっている。３は南比企窯跡



第470図　井戸跡出土遺物(8)

群、4は末野窯跡群の製品である。

5は、須恵器の高台付埦である。高台は細く高い。やはり還元化が進まず、やや軟質である。底部外面に「綱」の墨書がみられる。末野窯跡群の製品である。

第82号井戸跡は、中世の井戸である。なお3・5は、8世紀後半、4は、9世紀前半である。

第83号井戸跡出土遺物

第470図6は、須恵器の坏である。硬質に良く焼き上がっている。東金子窯跡群の製品である。9世紀前半。

第84号井戸跡出土遺物

第470図7は、土師器の坏である。おそらく有段口縁となるであろう。利根川水系の原土が用いられている。

8は、土師器の三足鍋である。鍋本体は、欠損し獣脚部のみであった。脚の先端には、ヘラで小さなキザミを加えている。足爪を表現したのであろうか。利根川水系の原土が用いられている。

9は、土師器の土釜である。口縁部は、小さく外反すると考えられる。末野窯跡群の製品である。

7は、7世紀中葉であるが、8・9は、11世紀である。第84号井戸跡は、後者と考えたい。

第85号井戸跡出土遺物

第470図10は、土師器の坏である。比較的硬質な焼き上がりである。ローム台地の粘土を原土としている。

11～13は、須恵器の蓋である。11・12は、ボタン状のつまみ、13は、リング状のつまみを付けている。13のつまみは、高台状に細長い。3点とも比較的硬質に還元化している。11・13は、南比企窯跡群、12は、末野窯跡群の製品である。

14～26は、須恵器の坏である。14は、底部の全面を回転ヘラケズリした坏である。還元化が進み、硬質な焼き上がりである。南比企窯跡群の製品である。15～19も還元化の進んだ硬質な焼き上がりとなっている。15は、南比企窯跡群の製品である。16～19は、末野窯跡群の製品である。20～26は、還元化の進まない軟質な焼き上がりである。20・21は、末野窯跡群の製品である。22は、新治窯跡群の製品である。23は、ローム台地の粘土を原土としている。24～26は、小形の坏で利根川水系の原土が用いられている。

14は、底部に「口」カ、15は、口縁部外面に墨痕、16・19・22は、底部に「綱」カ、21は、口縁部内外側面に「西」のそれぞれ墨書が確認された。なお15は墨痕のみであった。

27～29は、土師質土器の坏である。比較的軟質な土器である。ローム台地の粘土を原土としている。

30～32は、須恵器の高台付埦である。31・32は、外端接地の高台を付ける。末野窯跡群の製品である。

33は、土師質土器の高台付埦である。比較的硬質な土器である。ローム台地の粘土を原土としている。高脚高台を付ける。

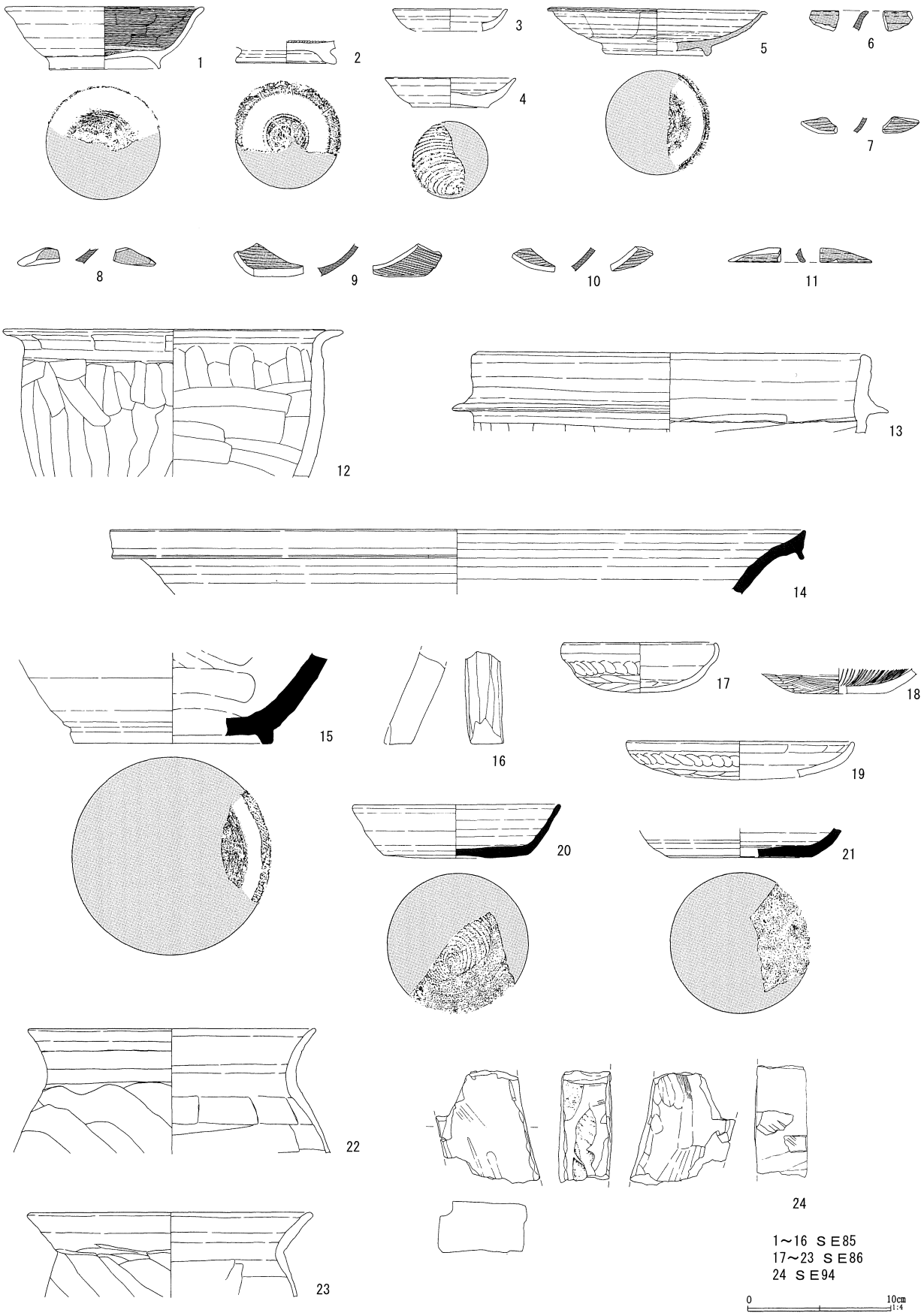
34は、黒色土器の埦である。内面には、細かなヘラミガキが加えられた後、黒色処理が施される。利根川水系の原土が用いられている。

第471図1・2は、黒色土器の高台付埦である。内面は、第470図34と同様である。第471図1は細い高台、第471図2は、菱形の高台が付く。2の内面は、黒色処理が施されていない。底部外面に「×」のヘラ書きがみられる。井戸内にあったために再還元化したのであろうか。1は、利根川水系の原土が用いられている。2は、末野窯跡群の製品である。

3・4は、かわらけ皿である。3は耳皿、4は皿である。ローム台地の粘土を原土としている。硬質な焼き上がりである。

5は、灰釉陶器の皿である。内外面にハケ塗りによる施釉がみられる。高台は、三角高台である。内面にはヘラケズリがみられる。浜北地方の製品で、黒笹90号窯式である。

6～11は、緑釉陶器の陶片である。6は埦の口縁部、7は稜皿、9、10は埦、11は皿の高台である。



第471図　井戸跡出土遺物(9)

6、8、10、11猿投窯跡群、7、9は尾北地方の製品である。

12は、土師器の鍋である。比較的硬質な鍋で内外面を粗く削っている。産地は判断できない。

13は、土師器の羽釜である。鍔部が細長い。末野窯跡群の製品である。

14は、須恵器の大甕である。末野窯跡群の製品である。

15は、須恵器の長頸壺である。高台は、台形状である。末野窯跡群の製品である。

16は、土師器の獣脚の破片である。利根川水系の原土が用いられている。

井戸の最下層から出土した5は、8世紀後半のため、他遺構からの流入と考えたい。

井戸枠の外側から出土した第470図17・23・29・30・34は、9世紀後半、井戸枠内から出土した第470図20・32・第471図2は、10世紀前半、第470図33・第471図3は、10世紀後半、また第471図3は、中世と考えられる。この点を踏まえると、9世紀の後半(末)に井戸の構築を行い、10世紀前半まで井戸として機能していたが、埋没は、10世紀後半までかかり、その後中世の遺物が、覆土中に入ったと考えたい。

なお第470図10～14・15は、8世紀後半、第470図16・17・19・23・29～31・34・第471図5は、9世紀後半、第470図18・20～22・27・32・第471図1・2は、10世紀前半、第470図28・29・33・第471図3・12・13は、10世紀後半、第470図24・25・26は、11世紀、第471図3・4は、中世である。

第86号井戸跡出土遺物

第471図17・18は、土師器の坏である。17は、内屈口縁坏で、やや深めの土器である。18は、暗文土器で、内面に細かな放射状の暗文が施される。外面も細かなヘラミガキが行われている。胎土は精選されていてきめが細かい。また比重が高い。産地は明らかにできなかった。

19は、土師器の皿である。硬質な焼き上がりである。ローム台地の粘土を原土として用いている。

20・21は、須恵器の坏である。17は、底部周辺を二周回転ヘラケズリを行い、19は、底部の全面をヘラケズリする。南比企窯跡群の製品である。

22・23は、土師器の甕である。いわゆる薄甕で口縁部は、長く伸びる。利根川水系の原土が用いられている。

土師器の坏や皿・甕、須恵器の坏などから第86号井戸跡は、8世紀第II四半期と考えたい。

第94号井戸跡出土遺物

第471図24は、砥石である。

井戸跡出土遺物一覧

挿図番号	図の番号	遺構番号	出土位置	種別	器種	口径	底径	器高	最大径	残存率	色調	産地	備考
第463図	1	2		土師器	坏	119	70	33		100	橙	ローム台地の粘土	
第463図	2	3		須恵器	坏	130	60	(38)		20	灰	東金子	
第463図	3	3		須恵器	高台付埦	—	59	(24)		5	灰	末野	
第463図	4	3		須恵器	高台付埦	—	57	(21)		15	灰黄	利根川水系	
第463図	5	4		土師器	坏	—	—	—		10	灰	利根川水系	墨書「綱」
第463図	6	4		須恵器	坏	—	76	(22)		10	灰黄	南比企	
第463図	7	4		須恵器	坏	—	80	(16)		5	灰	南比企	墨書「土万」
第463図	8	4		須恵器	坏	—	73	(11)		5	灰白	南比企	
第463図	9	4		須恵器	坏	123	72	40		90	灰	南比企	
第463図	10	4		須恵器	坏	120	66	39		80	灰	南比企	刻書「二井」

挿図番号	図の番号	遺構番号	出土位置	種別	器種	口径	底径	器高	最大径	残存率	色調	産地	備考
第463図	11	4		須恵器	坏	—	58	(17)		25	灰	南比企	
第463図	12	5		黒色土器	高台付埦	140	—	(42)		40	内面黒・外面灰黄	利根川水系	
第463図	13	5		須恵器(黒色)	羽釜	224	—	(62)	267	5	にぶい黄褐	末野	
第463図	14	6		須恵器	蓋	—	54	(20)		20	灰	南比企	
第463図	15	6		須恵器	坏	—	70	(19)		15	灰	秋間	
第463図	16	6		須恵器	高台付埦	—	58	(15)		20	灰	南比企	刻書「十」
第463図	17	6		須恵器	長頸壺	—	120	(37)		5	灰	南比企	
第463図	18	11		土師器	坏	—	26	(15)		5	橙	利根川水系	
第463図	19	11		須恵器	坏	130	—	(31)		10	灰白	利根川水系	墨書「人」
第463図	20	11		須恵器	坏	—	60	(11)		15	にぶい褐	利根川水系	
第463図	21	11		須恵器	坏	—	56	(12)		15	橙	利根川水系	
第463図	22	11		須恵器	坏	—	60	(12)		15	灰白	南比企	
第463図	23	11		土師器	羽釜	141	—	(84)		5	灰白	利根川水系	
第463図	24	12		土師器	内屈口縁坏	115	—	(29)		10	橙	利根川水系	
第463図	25	12		須恵器	蓋	—	87	(19)		10	灰	南比企	
第463図	26	16		土師器	内屈口縁坏	102	—	34	110	30	にぶい橙	利根川水系	
第463図	27	16		土師器	内湾口縁坏	118	—	38		100	にぶい橙	利根川水系	
第463図	28	16		土師器	内湾口縁坏	110	—	(27)		10	橙	ローム台地の粘土	
第463図	29	16		須恵器	坏	—	81	41		95	にぶい黄橙	南比企	墨書「土万」
第463図	30	16		須恵器	坏	135	—	25		10	浅黄	南比企	
第463図	31	16		須恵器	コップ形土器	118	66	(82)		10	灰	末野	
第464図	1	18		土師質土器	坏	—	80	(13)		5	灰黄	ローム台地の粘土	
第464図	2	18		石製品	砥石	砥石	—	—		—	—	—	
第464図	3	21		須恵器	坏	—	87	(22)		35	灰	南比企	
第464図	4	21		須恵器	坏	118	67	36		35	灰	南比企	
第464図	5	21		須恵器	坏	130	80	40		35	灰黄	南比企	
第464図	6	21		土師質土器	坏	122	68	42		70	浅黄橙	利根川水系	
第464図	7	21		土師質土器	坏	121	63	46		60	浅黄	利根川水系	
第464図	8	21		土師質土器	坏	123	64	42		100	浅黄橙	利根川水系	
第464図	9	21		土師質土器	坏	123	69	48		100	にぶい黄橙	利根川水系	
第464図	10	21		土師質土器	坏	121	64	41		95	にぶい黄橙	利根川水系	
第464図	11	21		土師質土器	坏	116	61	47		95	にぶい黄橙	利根川水系	
第464図	12	21		土師質土器	坏	112	64	42		95	浅黄橙	利根川水系	
第464図	13	21		土師質土器	坏	114	60	43		100	浅黄橙	利根川水系	
第464図	14	21		土師質土器	坏	126	76	43		40	灰白	利根川水系	
第464図	15	21		土師質土器	坏	124	65	43		30	浅黄	利根川水系	
第464図	16	21		土師質土器	坏	123	77	47		85	浅黄	利根川水系	
第464図	17	21		土師質土器	坏	115	69	44		95	浅黄	利根川水系	
第464図	18	21		土師質土器	坏	119	64	41		90	にぶい黄橙	利根川水系	
第464図	19	21		土師質土器	坏	121	69	47		95	浅黄橙	利根川水系	
第464図	20	21		土師質土器	坏	122	72	47		50	浅黄橙	利根川水系	
第464図	21	21		土師質土器	坏	118	61	48		90	浅黄橙	利根川水系	

挿図番号	図の番号	遺構番号	出土位置	種別	器種	口径	底径	器高	最大径	残存率	色調	産地	備考
第464図	22	21		土師質土器	坏	121	60	43		55	浅黄橙	利根川水系	
第464図	23	21		土師質土器	坏	122	64	42		15	にぶい黄橙	利根川水系	
第465図	1	21		土師質土器	坏	119	63	40		99	浅黄橙	利根川水系	
第465図	2	21		土師質土器	坏	120	62	41		100	浅黄橙	利根川水系	
第465図	3	21		土師質土器	坏	121	60	43		40	灰黄	利根川水系	
第465図	4	21		土師質土器	坏	122	67	47		100	灰黄	利根川水系	
第465図	5	21		土師質土器	坏	122	61	45		60	にぶい黄橙	利根川水系	
第465図	6	21		土師質土器	坏	130	72	46		95	にぶい黄橙	利根川水系	
第465図	7	21		土師質土器	坏	120	71	48		90	にぶい黄橙	利根川水系	
第465図	8	21		土師質土器	坏	118	77	46		95	浅黄橙	利根川水系	
第465図	9	21		土師質土器	坏	123	70	50		100	淡黄	利根川水系	
第465図	10	21		土師質土器	坏	110	53	38		100	淡黄	利根川水系	
第465図	11	21		土師質土器	坏	122	59	45		60	淡黄	利根川水系	
第465図	12	21		土師質土器	坏	117	58	45		50	淡黄	利根川水系	
第465図	13	21		土師質土器	坏	116	57	44		95	浅黄橙	利根川水系	
第465図	14	21		土師質土器	坏	117	63	48		100	にぶい黄橙	利根川水系	
第465図	15	21		土師質土器	坏	116	59	42		85	にぶい黄橙	利根川水系	
第465図	16	21		土師質土器	坏	132	—	(40)		25	にぶい黄橙	利根川水系	
第465図	17	21		須恵器	高台付埦	136	62	61		65	灰	末野	
第465図	18	21		須恵器	高台付埦	—	72	(44)		20	灰	末野	
第465図	19	21		須恵器	高台付埦	—	62	(24)		35	灰	末野	
第465図	20	21		須恵器	高台付埦	—	74	(53)		30	灰	末野	
第465図	21	21		須恵器	甕	—	—	—		10	灰	南比企	
第465図	22	24		土師器	坏	157	—	(29)		10	橙	利根川水系	
第465図	23	24		土師質土器	坏	92	60	20		15	橙	ローム台地の粘土	
第466図	1	24		須恵器	紡錘車	上60	下60	中64	孔径6	30	灰	南比企	
第466図	2	35		須恵器	高台付埦	—	—	(25)		10	灰黄	末野	
第466図	3	35		須恵器	高台付埦	—	60	(12)		10	にぶい黄橙	末野	
第466図	4	35		土師器	甑	235	—	(69)		5	にぶい橙	利根川水系	
第466図	5	35		土師器	甕	95	—	(45)		5	灰褐	利根川水系	
第466図	6	37		須恵器	坏	108	45	29		55	灰	末野	
第466図	7	37		須恵器	坏	—	55	(11)		20	橙	利根川水系	
第466図	8	37		土師質土器	高台付皿	—	53	(17)		20	にぶい黄橙	利根川水系	
第466図	9	40		土師質土器	坏	—	56	(20)		15	灰白	利根川水系	
第466図	10	40		土師質土器	坏	—	55	(13)		10	浅黄橙	ローム台地の粘土	
第466図	11	40		土師質土器	皿	107	70	18		25	にぶい黄橙	下総北部	
第466図	12	40		土師質土器	高台付埦	—	66	22		15	にぶい橙	末野	
第466図	13	40		土師質土器	高台付埦	—	—	(31)		20	にぶい橙	ローム台地の粘土	
第466図	14	40		灰釉陶器	埦	—	76	—		20	灰白	東濃・虎渓山1	
第466図	15	40		緑釉陶器	埦片	—	—	—		5	灰オリーブ	猿投	
第466図	16	40		緑釉陶器	稜皿片	—	—	—		5	灰オリーブ	尾北	
第466図	17	40		土師器	土釜	254	—	(65)		10	橙	利根川水系	

挿図番号	図の番号	遺構番号	出土位置	種別	器種	口径	底径	器高	最大径	残存率	色調	産地	備考
第466図	18	40		土師器	羽釜	212	—	(65)	230	10	浅黄橙	利根川水系	
第466図	19	40		鉄製品	棒状鉄製品	—	—	—	—	—	—	—	
第466図	20	42		土師器	須恵器坏蓋模倣坏	120	—	(27)		10	橙	ローム台地の粘土	
第466図	21	42		土師器	坏	123	—	(25)		10	暗赤褐	利根川水系	
第466図	22	42		土師器	坏	160	—	(29)		20	にぶい黄橙	ローム台地の粘土	
第466図	23	42		土師器	坏A	118	—	(28)		10	にぶい橙	ローム台地の粘土	
第466図	24	42		土師器	坏A	—	—	—		10	にぶい橙	利根川水系	墨書「綱」
第466図	25	42		土師器	坏A	—	—	—		10	にぶい橙	ローム台地の粘土	墨書「綱」
第466図	26	42		土師器	坏A	—	—	0		10	灰	利根川水系	墨書「□」
第466図	27	42		須恵器	蓋	—	88	(23)		5	灰	末野	
第466図	28	42		須恵器	蓋	—	80	(27)		55	灰	末野	
第466図	29	42		須恵器	蓋	—	(54)	(16)		5	灰	南比企	
第466図	30	42		須恵器	蓋	—	82	(21)		10	灰	末野	
第466図	31	42		須恵器	蓋	—	86	(19)		10	灰	末野	
第466図	32	42		須恵器	蓋	—	—	(20)		10	灰	末野	
第466図	33	42		須恵器	坏	—	72	(11)		10	にぶい赤褐	末野	
第466図	34	42		須恵器	坏	—	(76)	(8)		10	灰白	南比企	
第466図	35	42	最下段	須恵器	坏	—	64	(9)		15	灰黄	末野	
第466図	36	42		須恵器	坏	—	80	(19)		5	灰	南比企	
第466図	37	42		須恵器	坏	—	58	(11)		10	灰	南比企	
第466図	38	42		須恵器	坏	—	68	(6)		10	灰	南比企	墨書「綱」
第466図	39	42		須恵器	坏	—	74	(11)		5	灰	南比企	
第467図	1	42		須恵器	坏	—	60	(9)		5	灰	南比企	
第467図	2	42		須恵器	坏	—	72	(28)		45	灰白	末野	
第467図	3	42		須恵器	坏	—	63	(25)		35	灰	末野	
第467図	4	42		須恵器	坏	125	60	(37)		80	灰	南比企	墨書「全」
第467図	5	42		須恵器	坏	120	—	(26)		10	灰	末野	墨書「綱」
第467図	6	42		須恵器	高台付埦	156	—	(53)		5	暗オリーブ灰	南比企	
第467図	7	42		須恵器	高台付埦	—	69	(43)		40	灰	末野	
第467図	8	42		須恵器	皿	124	60	24		30	灰	末野	
第467図	9	42		須恵器	高台付皿	139	(53)	(30)		5	灰	南比企	
第467図	10	42		緑釉陶器	埦	—	77	(16)		5	灰	猿投・K14	
第467図	11	42		須恵器	仏鉢模倣土器	—	—	(15)		30	灰	南比企	
第467図	12	42		須恵器	長頸瓶	—	124	(29)		70	灰黄	南比企	
第467図	13	42		須恵器	水瓶	—	63	(115)		20	灰	東海地方西部	
第467図	14	42		須恵器	無台長頸壺	—	55	(65)		30	灰	秋間	
第467図	15	42		須恵器	無台長頸壺	—	102	(33)		50	灰	末野	
第467図	16	42		土師器	長胴甕	200	—	(262)		20	浅黄色	利根川水系	
第467図	17	42		須恵器	捏鉢	—	95	(38)		20	灰	南比企	
第467図	18	42		須恵器	捏鉢	—	105	(23)		10	暗灰	南比企	
第467図	19	42		須恵器	瓶	—	—	—		10	灰	南比企	
第467図	20	42		須恵器	大甕	—	—	—		10	内面オリーブ灰・外面緑黒	南比企	

挿図番号	図の番号	遺構番号	出土位置	種別	器種	口径	底径	器高	最大径	残存率	色調	産地	備考
第467図	21	42		須恵器	大甕	—	70	(40)		5	灰	南比企	
第467図	22	42		石製品	砥石	—	—	—		—	—	—	
第467図	23	43		土師質土器	坏	—	—	(18)		5	浅黄橙	利根川水系	
第467図	24	43		土師質土器	高台付埦	—	56	(20)		10	浅黄色	利根川水系	
第467図	25	47		須恵器	蓋	—	—	(18)		10	灰	末野	
第468図	1	50		土師器	内湾口縁坏	110	—	(32)		20	橙	利根川水系	
第468図	2	50		土師器	内湾口縁坏	129	—	(30)		20	橙	利根川水系	
第468図	3	50		須恵器	坏	—	71	(12)		40	灰	南比企	
第468図	4	50		須恵器	坏	—	78	(22)		15	灰	末野	
第468図	5	52		土師器	坏	140	—	(33)		5	にぶい黄褐	利根川水系	
第468図	6	52		須恵器	坏	134	80	(36)		5	灰	秋間	
第468図	7	52	下層	須恵器	坏	—	70	(20)		5	灰	栃木県南部	
第468図	8	55		土師器	坏B	—	56	(16)		5	にぶい橙	ローム台地の粘土	
第468図	9	55		須恵器	高台付埦	148	74	68		25	灰白	末野	
第468図	10	55		須恵器	高台付埦	—	54	(24)		25	黄灰	末野	
第468図	11	55		須恵器	高台付埦	126	78	55		50	灰黄	利根川水系	
第468図	12	55	下層	須恵器	高台付埦	119	65	47		50	橙	末野	
第468図	13	55		土師質土器	坏	140	60	33		5	にぶい橙	ローム台地の粘土	
第468図	14	55		土師質土器	高台付埦	—	68	(43)		30	橙	ローム台地の粘土	
第468図	15	55		灰釉陶器	埦	—	75	(44)		20	灰	浜北・K90	
第468図	16	55		緑釉陶器	埦片	—	—	—		5	オリーブ灰	猿投	
第468図	17	55		緑釉陶器	陶片	—	—	—		5	オリーブ灰	猿投	
第468図	18	55		緑釉陶器	陶片	—	—	—		5	オリーブ灰	猿投	
第468図	19	55		緑釉陶器	埦片	—	—	—		5	オリーブ灰	猿投	
第468図	20	55		土師器	甕	194	—	(87)		5	淡赤橙	利根川水系	
第468図	21	55		土師器	羽釜	200	—	(73)	241	5	にぶい橙	ローム台地の粘土	
第468図	22	55		石製品	紡錘車	上(40)	下(29)	高23	孔径7	40	—	—	
第468図	23	55		鉄製品	棒状鉄製品	—	—	—		—	—	—	
第468図	24	58		緑釉陶器	段皿	—	78	(19)		5	オリーブ灰	尾北・K90	
第468図	25	58		緑釉陶器	埦片	—	—	—		5	オリーブ灰	尾北・K90	
第468図	26	60		須恵器	高台付埦	—	80	(12)		15	灰	南比企	
第468図	27	60		須恵器	高台付埦	—	64	18		20	灰	南比企	
第468図	28	61		土師器	有段口縁坏	130	—	(43)		20	にぶい褐	利根川水系	黒色処理
第468図	29	61		土師器	皿	151	—	(30)		10	橙	ローム台地の粘土	
第468図	30	61		須恵器	蓋	—	81	(24)		55	灰	秋間	
第468図	31	61		須恵器	坏	—	91	(14)		5	灰	南比企	墨書「土万」
第468図	32	61		須恵器	坏	130	70	(55)		25	灰	末野	
第469図	1	61		須恵器	坏	—	63	(10)		30	灰	末野	
第469図	2	61		土師質土器	坏	128	—	(32)		15	にぶい橙	ローム台地の粘土	
第469図	3	61		須恵器	高台付埦	—	57	(23)		10	灰	末野	
第469図	4	61		緑釉陶器	皿	—	—	—		5	オリーブ灰	尾北・K90	
第469図	5	61		須恵器	風字硯	—	—	20		5	内面にぶい橙・外面褐灰	末野	

挿図番号	図の番号	遺構番号	出土位置	種別	器種	口径	底径	器高	最大径	残存率	色調	産地	備考
第469図	6	62		緑釉陶器	皿	—	—	—		5	オリーブ灰	猿投	
第469図	7	62	住居跡	須恵器	平瓶	—	—	(42)		5	灰白	湖西	
第469図	8	65		かわらけ	皿	85	50	15		60	にぶい黄橙	利根川水系	
第469図	9	66		緑釉陶器	皿	—	68	(14)		5	オリーブ灰	尾北・K90	
第469図	10	67		須恵器	高台付埦	—	60	(11)		10	明赤褐	末野	
第469図	11	67		灰釉陶器	埦	—	85	(29)		10	灰	東濃大原2	
第469図	12	71		土師器	坏B	120	64	(47)		20	にぶい黄橙	利根川水系	
第469図	13	71		須恵器	高台付埦	151	67	49		25	灰白	ローム台地の粘土	
第469図	14	71		土師質土器	高台付埦	—	—	(17)		5	橙	ローム台地の粘土	
第469図	15	72		須恵器	高台付埦	144	—	(46)		5	にぶい黄	新治	
第469図	16	72		須恵器	高台付埦	—	54	(15)		15	橙	利根川水系	
第469図	17	77		土師器	北島型暗文土器	127	—	43		50	橙	利根川水系	
第469図	18	79		土師器	坏A	120	—	38		70	にぶい黄橙	利根川水系	
第469図	19	79		須恵器	坏	—	82	(18)		20	灰	南比企	
第469図	20	79		須恵器	坏	—	54	(26)		25	灰白	末野	
第469図	21	79		須恵器	坏	—	56	(17)		30	灰	末野	墨書「木」
第469図	22	79		須恵器	皿	135	65	24		35	灰	末野	
第469図	23	79		須恵器	高台付埦	—	68	(38)		50	灰白	末野	
第469図	24	79		須恵器	高台付埦	—	70	(31)		10	灰白	末野	
第469図	25	79		須恵器	高台付埦	—	65	(20)		20	褐	末野	
第469図	26	79		灰釉陶器	埦	—	78	(15)		10	灰	東遠江・O53	
第469図	27	79		須恵器	長頸壺	87	—	(81)		5	灰	東金子	
第469図	28	79		須恵器	長頸壺	—	71	(74)		60	内面灰褐・外面灰	末野	
第469図	29	79		須恵器	大甕	—	—	(114)		10	灰	末野	
第470図	1	80		灰釉陶器	埦	—	76	(27)		10	灰白	東濃・大原2	墨書「□」
第470図	2	80		須恵器	フラスコ形瓶	—	—	(55)		5	灰白	湖西	
第470図	3	82		須恵器	坏	—	80	(21)		30	灰白	南比企	
第470図	4	82		須恵器	坏	115	51	31		20	灰	末野	
第470図	5	82		須恵器	高台付埦	—	95	(17)		5	灰	末野	墨書「綱」
第470図	6	83		須恵器	坏	—	70	(24)		5	灰	東金子	
第470図	7	84		土師器	坏	—	—	(25)		20	内面橙・外面浅黄	利根川水系	
第470図	8	84		土師器	三足鍋	—	—	—		10	にぶい黄橙	利根川水系	
第470図	9	84	井戸外側	土師器	土釜	—	—	(98)		5	にぶい橙	末野	
第470図	10	85		土師器	坏	119	—	(31)		10	にぶい褐	ローム台地の粘土	
第470図	11	85		須恵器	蓋	—	85	(21)		20	灰	南比企	
第470図	12	85		須恵器	蓋	—	87	(25)		10	灰白	末野	
第470図	13	85	最下層	須恵器	蓋	—	103	(13)		15	灰白	南比企	
第470図	14	85		須恵器	坏	—	77	(16)		40	褐灰	南比企	墨書「口」
第470図	15	85		須恵器	坏	119	—	(28)		5	褐灰	南比企	墨書「□」
第470図	16	85	外側下層	須恵器	坏	—	65	(21)		35	灰	末野	墨書「綱」
第470図	17	85	最下層中側	須恵器	坏	—	65	(13)		35	灰	末野	
第470図	18	85		須恵器	坏	—	41	(16)		15	褐灰	末野	

挿図番号	図の番号	遺構番号	出土位置	種別	器種	口径	底径	器高	最大径	残存率	色調	産地	備考
第470図	19	85	最下層中側	須恵器	坏	—	64	(13)		15	褐灰	末野	墨書「綱」
第470図	20	85		須恵器	坏	—	75	(13)		40	にぶい黄橙	末野	
第470図	21	85		須恵器	坏	131	49	37		70	にぶい橙	末野	墨書「西」
第470図	22	85	井戸外側	須恵器	坏	—	52	(9)		30	にぶい橙	新治	墨書「綱」
第470図	23	85		須恵器	坏	—	61	(20)		15	灰黄	ローム台地の粘土	
第470図	24	85		須恵器	坏	—	42	(18)		25	灰白	利根川水系	
第470図	25	85		須恵器	坏	—	37	(13)		20	灰黄	利根川水系	
第470図	26	85		須恵器	坏	86	28	27		20	暗灰黄	利根川水系	
第470図	27	85	最下層中側	土師質土器	坏	128	52	40		45	浅黄橙	ローム台地の粘土	
第470図	28	85	外側下層	土師質土器	坏	130	66	36		20	明褐灰	ローム台地の粘土	
第470図	29	85	井戸外側	土師質土器	坏	—	55	(37)		20	灰白	ローム台地の粘土	
第470図	30	85		須恵器	高台付埦	135	62	51		70	灰白	末野	
第470図	31	85	中側	須恵器	高台付埦	—	77	(26)		45	灰	末野	
第470図	32	85	中側	須恵器	高台付埦	—	76	(16)		15	灰	末野	
第470図	33	85		土師質土器	高台付埦	—	—	—		10	橙	ローム台地の粘土	
第470図	34	85	中側	黒色土器	埦	150	70	48		50	にぶい橙	利根川水系	
第471図	1	85	中側	黒色土器	高台付埦	140	79	(44)		30	浅黄	利根川水系	
第471図	2	85	中側	黒色土器	高台付埦	—	71	(16)		15	灰白	末野	刻書「×」
第471図	3	85	中側	かわらけ	耳皿	80	—	(15)		5	浅黄橙	ローム台地の粘土	
第471図	4	85		かわらけ	皿	91	54	(20)		45	橙	ローム台地の粘土	
第471図	5	85		灰釉陶器	皿	156	74	(33)		5	灰	浜北・K90	
第471図	6	85		緑釉陶器	埦片	—	—	—		5	オリーブ灰	猿投	
第471図	7	85		緑釉陶器	稜皿片	—	—	—		5	オリーブ灰	尾北	
第471図	8	85		緑釉陶器	陶片	—	—	—		5	オリーブ灰	猿投	
第471図	9	85		緑釉陶器	埦片	—	—	—		5	オリーブ灰	尾北	
第471図	10	85		緑釉陶器	埦片	—	—	—		5	オリーブ灰	猿投	
第471図	11	85	最下層中側	緑釉陶器	皿片	—	—	—		5	オリーブ灰	猿投	
第471図	12	85	中側	土師器	鍋	240	—	(104)		10	黒褐	不明	
第471図	13	85		土師器	羽釜	271	—	(55)	306	10	黒褐	末野	
第471図	14	85		須恵器	大甕	488	—	—		10	黒	末野	
第471図	15	85		須恵器	長頸壺	—	144	(64)		10	赤黒	末野	
第471図	16	85		土師器	獣脚	巾20	高115	0		5	にぶい橙	利根川水系	
第471図	17	86		土師器	内屈口縁坏	107	—	35		20	橙	不明	
第471図	18	86		土師器	坏	—	63	(18)		20	淡黄	不明	
第471図	19	86		土師器	皿	160	—	(25)		10	淡赤橙	ローム台地の粘土	
第471図	20	86		須恵器	坏	146	100	37		25	黄灰	南比企	
第471図	21	86		須恵器	坏	—	99	(20)		10	灰	南比企	
第471図	22	86		土師器	甕	203	—	(88)		30	橙	利根川水系	
第471図	23	86		土師器	甕	197	—	(60)		10	橙	利根川水系	
第471図	24	94	ピット2	石製品	砥石	—	—	—		—	—		

報告書抄録

ふりがな	きたじまいせき
書名	北島遺跡Ⅴ
副書名	熊谷スポーツ文化公園建設事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	Ⅰ（第1分冊）
シリーズ名	埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書
シリーズ番号	第278集
編著者名	田中広明
編集機関	財団法人　埼玉県埋蔵文化財調査事業団
所在地	〒369—0108　埼玉県大里郡大里村大字船木台4—4—1　　TEL　0493—39—3955
発行年月日	西暦2002（平成14）年3月22日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 (m²)	調査原因
北島遺跡 （きたじまいせき）	埼玉県熊谷市大字上川上天神森上（さいたまけんくまがやしおおあざかみかわかみてんじんもりかみ）317番地61他（ばんちほか）	11202	168	36°09′31″	139°24′39″	19990408 ～ 20000324 20000408 ～ 20001228	10,000	屋内競技場建設

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
北島遺跡 第19地点	集落跡	奈良・平安時代	竪穴住居跡　192軒 掘立柱建物跡　78棟 井戸跡　95基 土壙　497基 溝跡　442条 小穴 地鎮跡　1基	土師器 須恵器 土師質土器 灰釉陶器 緑釉陶器 土製品 石製品 鉄製品	溝によって区画された建物群と、その南を走る道路跡が存在。刻書「篁」の緑釉陶器・墨書土器等出土。

埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第278集

熊 谷 市

北島遺跡Ⅴ

（第19地点）
熊谷スポーツ文化公園建設事業関係
埋蔵文化財発掘調査報告書
―Ⅰ―
第１分冊

平成14年３月１日　印刷
平成14年３月22日　刊行

発行／埼　　玉　　県
財団法人　埼玉県埋蔵文化財調査事業団
〒369-0108　大里郡大里村船木台４丁目４番地１
電話　0493（39）3955

印刷／朝日印刷工業株式会社